

1 年次開設科目

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職に関する基礎知識の習得 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを習得

授業の計画(全体) 教職に関する知識を身につけ、意欲を育むために、大学教員による講義・演習、グループ・ディスカッション、現職教員との座談会など、さまざまな形態で授業を展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業計画の説明
- 第2回 項目 今、教師に求められていること 内容 教員の資質、教師になるための4年間(教育学部のカリキュラム)について
- 第3回 項目 現代の子どもと学校・家庭・地域社会 内容 子どもをめぐる現代の状況
- 第4回 項目 教師の実際(1)
- 第5回 項目 教師の実際(2)
- 第6回 項目 教師の実際(3)
- 第7回 項目 グループ・ディスカッション 内容 教師の仕事と私たちの課題
- 第8回 項目 座談会(1) 内容 学校教師と語る教職の魅力(1)
- 第9回 項目 座談会(2) 内容 学校教師と語る教職の魅力(2)
- 第10回 項目 座談会のまとめ 内容 グループ発表
- 第11回 項目 教育実習の仕組みと実際 内容 教育実習のあらまし
- 第12回 項目 教員になるための計画・準備 内容 教員採用試験等について
- 第13回 項目 教育学部における臨床的体験プログラム
- 第14回 項目 総括とまとめ1
- 第15回 項目 総括とまとめ2

成績評価方法(総合) 課題・レポートの提出、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 適宜、紹介する。

メッセージ 教職に関する意欲・知識を育む授業です。積極的かつ真摯にのぞんでください。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職の意義や基礎的知識について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを持つことが出来る。

授業の計画(全体) 学校教員を目指す学生に、教職とは何か、その魅力ややりがいなどを現職教員の体験などもまじえて理解し、教職への希望、意欲指向性などを育む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 今、教職に求められていること
- 第3回 項目 公教育と教員養成の歴史 1
- 第4回 項目 公教育と教員養成の歴史 2
- 第5回 項目 学校の運営および経営 1
- 第6回 項目 学校の運営および経営 2
- 第7回 項目 教育課程と教科指導
- 第8回 項目 教科外指導(道徳、生徒指導)
- 第9回 項目 教員採用への道
- 第10回 項目 教師の職務
- 第11回 項目 学校と家庭
- 第12回 項目 学校と地域社会
- 第13回 項目 総括とまとめ 1
- 第14回 項目 総括とまとめ 2
- 第15回 項目 総括とまとめ 3

成績評価方法(総合) 毎回の授業内のレポート等により評価する。

教科書・参考書 教科書: 適宜紹介する。 / 参考書: 適宜紹介する。

メッセージ 授業には遅刻・欠席をしないこと。意欲的に参加すること。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育哲学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。 / 検索キーワード 教育哲学、シュプランガー、シュタイナー、ドイツ、改革教育運動

授業の一般目標 (1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。(3) シュプランガーの生涯と教育哲学について理解する。(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。3. シュプランガーの生涯と教育哲学について説明できる。4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の学問的性格や明治以後の日本の教育哲学研究の変遷や課題について学んだ後、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について考察し、教育の本質的意味や現代的課題について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格 内容 1. 教育哲学を学ぶ意義 2. 教育哲学の学問的性格
- 第 2 回 項目 明治以後の日本の教育哲学研究の動向 内容 1. 明治初期～中期 2. 大正新教育運動 3. 戦前と戦中 4. 戦後
- 第 3 回 項目 日本の教育哲学研究の現状と課題 内容 1. 日本の教育哲学研究の現状 2. 日本の教育哲学研究の課題
- 第 4 回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 1. ドイツ公教育の現状 2. ドイツ公教育の課題
- 第 5 回 項目 ドイツの改革教育運動 内容 1. 改革教育運動の歴史 2. 改革教育運動の特色
- 第 6 回 項目 シュタイナー学校の教育 内容 1. シュタイナー学校の誕生と発展 2. シュタイナー学校の教育の特色
- 第 7 回 項目 シュタイナーの教育哲学(1) 内容 シュタイナーの教育目的論
- 第 8 回 項目 シュタイナーの教育哲学(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第 9 回 項目 シュタイナー学校の授業 内容 生活科、社会科、理科 数学、音楽、オイリュトミーの授業
- 第 10 回 項目 シュタイナー学校の評価 内容 公立学校とシュタイナー学校の評価の相違
- 第 11 回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～ライプツヒ時代
- 第 12 回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学教授期～チュービンゲン時代
- 第 13 回 項目 シュプランガーの教育哲学(1) 内容 教育の3つの概念
- 第 14 回 項目 シュプランガーの教育哲学(2) 内容 1. 6つの個性類型 2. 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 求められる教師像と教員養成, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年; 求められる教師像と教員養成 / 参考書: 使用しない。

メッセージ シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を、彼らが生きた時代背景や生涯を通して生き生きと把握するようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育哲学研究室：教育学部 A 棟 3 階

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上で、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画(全体) 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒の発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法(総合) 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された2回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書： 発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30~12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑓幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	国文学基礎講読	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代日本の主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解を深めようとするため、多くの小説を読んでレポートを提出することを要求するので、かなりハードな授業になる。

授業の一般目標 芸術作品を概念的に把握するための基本的契機である内容、素材、形式の相互関連を把握し、その歴史的 position と特性を理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 芸術作品を把握するための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点： 文学作品を、内容、素材、形式の相互関連において分析できる。 技能・表現の観点： 文学作品を分析的に把握し、レポートで表現することができる。

授業の計画（全体） 作品分析の前提となる基本的知識を説明し、その事例を具体的な作品分析を通じて例示、検証する。レポートを課し、理解状況を確認、評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小説読解の基礎
- 第 2 回 項目 本居宣長
- 第 3 回 項目 明治 20 年代 1
- 第 4 回 項目 明治 20 年代 2
- 第 5 回 項目 自然主義 1
- 第 6 回 項目 自然主義 2
- 第 7 回 項目 夏目漱石
- 第 8 回 項目 森 鷗外
- 第 9 回 項目 白樺派 1
- 第 10 回 項目 白樺派 2
- 第 11 回 項目 プロレタリア文学 1
- 第 12 回 項目 プロレタリア文学 2
- 第 13 回 項目 新感覚派 1
- 第 14 回 項目 新感覚派 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポート = 50 % 期末レポート = 50 %

開設科目	書道 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書について学習する。(用筆法、基本点画、結体) 楷書を習うことによって技術の修得を計
る。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 楷書の技術を高める。書写の指導力を身につける。

授業の計画(全体) 用筆法、基本点画、結体について 実技指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楷書について
- 第 2 回 項目 姿勢、執筆、用筆法 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 3 回 項目 結体法、配字 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 4 回 項目 横画、縦画 内容 半紙に練習
- 第 5 回 項目 転折、はね 内容 半紙に練習
- 第 6 回 項目 点法、はらい 内容 半紙に練習
- 第 7 回 項目 「空雲」を書く 内容 半紙に練習
- 第 8 回 項目 「風光」を書く 内容 半紙に練習
- 第 9 回 項目 「遠近」を書く 内容 半紙に練習
- 第 10 回 項目 筆順について 内容 ミニテスト、半紙練習
- 第 11 回 項目 「天地和同」を書く 内容 半紙に練習
- 第 12 回 項目 「竹聲松影」を書く 内容 半紙に練習
- 第 13 回 項目 「登山臨水」を書く 内容 半紙に練習
- 第 14 回 項目 「玉雪開花」を書く 内容 半紙に練習
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 提出作品を評価する。

開設科目	国語実習	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育に関連した課題を設定して、実地調査を行う。調査計画立案・調査票作成など、調査に関するすべての必要事項を受講生全員の話し合いにより計画する。その後、実際に現地に調査に出かけ、報告書をまとめる。日程は、おおよそ2泊3日。11月下旬に実施されることが多いが、詳細は話し合いで決定する。 / 検索キーワード 実地調査

授業の一般目標 研究課題を設定し、実地調査を体験することによって、研究の仕方を身につけ、研究への関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題に関する基礎知識を得る。 思考・判断の観点：課題に関して得た基礎知識と実際に行った調査の比較検討をする。 関心・意欲の観点：調査を行おうとする関心・意欲を示す。 態度の観点：進んで調査地で資料収集や聞き取りをすることができる。 技能・表現の観点：調査結果を口頭や文章にまとめることができる。

授業の計画（全体） 受講者全員の話し合いにより具体的計画を立て、実地調査を実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 調査方法の解説
- 第 3 回 項目 課題設定
- 第 4 回 項目 調査内容の検討
- 第 5 回 項目 現地調査準備 (1)
- 第 6 回 項目 現地調査準備 (2)
- 第 7 回 項目 現地調査準備 (3)
- 第 8 回 項目 現地調査準備 (4)
- 第 9 回 項目 現地調査等 (1)
- 第 10 回 項目 現地調査等 (2)
- 第 11 回 項目 現地調査等 (3)
- 第 12 回 項目 調査報告 (1)
- 第 13 回 項目 調査報告 (2)
- 第 14 回 項目 調査報告 (3)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 報告書及び調査活動への参加状況により評価する。

メッセージ 事前に周到な計画を立て、主体的に実地調査を実施してください。

連絡先・オフィスアワー hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	漢文学講読	区分	演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史に関わる古典をいくつか選択して、漢文訓読法を講じつつ、出席者全員で丁寧に読解する。 / 検索キーワード 漢文訓読法、説話

授業の一般目標 (1) 精確な漢文訓読・現代日本語訳を行うための知識・技術を養う。そのために、まずは漢和辞典を何遍も引く習慣を身につけるようにする。(2) 中国古代の物の考え方や価値観についての関心・教養を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 適度な訓読の力を備え、文章を精確に理解しているか。 思考・判断の観点： 文章に説かれる内容を、その内容に即しつつ、自分なりの批判・評価ができるか。

授業の計画(全体) 1 ガイダンス 2～3 テキスト読解の仕方の解説 4～15 テキストの読解テキストの読解に当たっては、予習の段階で、書き下し文とその現代日本語訳とを用意してもらうが、レジメを提出してもらうか口頭発表によるかは、受講者の人数を勘案して決めたい。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキストの読解の 仕方の解説
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 テキストの読解・解説
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。

教科書・参考書 教科書： テキスト用のプリントを授業中に配布する。 / 参考書： 授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を有効に使えるよう、訓練する習慣をつけたい。

連絡先・オフィスアワー hidekiko@yamaguchi-u.ac.jp 4階・漢文学研究室 11:50 より 12:50 まで、及び課外の時間。

開設科目	書道 II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書のいろいろな字を練習。字配り、大きさに気をつけて5～6字を一紙にまとめることに習熟する。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 正しく整った楷書が美しく書けることと、いろいろな字面の言葉を紙面に調和よく収めることができる力を身につける。

授業の計画(全体) 実技を主として毎回楷書5～字を手本によって半紙に練習する。清書一枚を提出。

開設科目	社会科基礎演習 B	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩崎・岩本・吉川・松原				

授業の概要 現代社会の諸問題を多角的に検討する。自らテーマを選び、文献等を読み、発表・討議する。
 / 検索キーワード 現代社会、研究方法、レポート作成、議論の技術

授業の一般目標 現代社会の具体的な問題を研究する場合の、デスクワーク的側面の技量を養う。自ら研究問題を選択し、レポートを作成し、発表・検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献選択の方法や講読の仕方を理解できる。 思考・判断の観点：社会の諸問題を考察する際の視角を吟味できる。 関心・意欲の観点：現代社会の諸問題に関心をもつ。
 態度の観点：積極的に討議に参加できる。 技能・表現の観点：レポートを作成し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 各自の研究テーマ、指導担当教員の確定、発表スケジュール作り
- 第 3 回 項目 発表準備
- 第 4 回 項目 発表と討議
- 第 5 回 項目 同
- 第 6 回 項目 同
- 第 7 回 項目 同
- 第 8 回 項目 同
- 第 9 回 項目 同
- 第 10 回 項目 同
- 第 11 回 項目 同
- 第 12 回 項目 同
- 第 13 回 項目 同
- 第 14 回 項目 レポート集約
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） テーマ選択から研究発表・討議、レポート作成提出に至る全過程を総合評価する。欠席・遅刻の多い者は評価対象としない。

メッセージ 遅刻者の入室を禁ずることがある

開設科目	哲学倫理学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

授業の概要 プラトンの名著『国家』を、魂の転換術としての哲学を中核とする教育論として読解する。/
 検索キーワード 魂の転換術

授業の一般目標 1. プラトンの哲学がどのようなものかを理解する。 2. 教育することに関心を持ち、また教育の本質を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 西洋の哲学とは何かを説明できる。 2. 教育の本質とは何であるかを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業で学んだことを自分で取り纏め、批判的に解説することができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育に関する関心を高め、問題意識を広げることができる。 態度の観点： 大学生生活を通して教育の在り方を自主的に反省することができる。

授業の計画(全体) プラトンの『国家』における教育論の概要を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受胎としての教育
- 第 2 回 項目 エロ-ス論
- 第 3 回 項目 『国家』の主題
- 第 4 回 項目 正義論
- 第 5 回 項目 魂の三 魂の三分説
- 第 6 回 項目 階級の三分説
- 第 7 回 項目 教育プログラム
- 第 8 回 項目 魂の転換術
- 第 9 回 項目 初等教育
- 第 10 回 項目 高等教育 - 数学的諸学
- 第 11 回 項目 高等教育 - 哲学
- 第 12 回 項目 プラトンの教育学の特徴
- 第 13 回 項目 プラトンの教育学の長短
- 第 14 回 項目 プラトンの教育学の プラトンの教育学 プラトンとイソクラテス
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1. 授業中の何回かの小テスト、および最後の試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。 / 参考書：『プラトン入門』, R.S. ブラック, 岩波文庫, 1992 年; 『国家』, プラトン, 岩波文庫, 1979 年; プリントを配付する。

メッセージ 授業の出席を重視します。

開設科目	社会科基礎演習 A	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森下・荒木・山本・外山・貞方				

授業の概要 山口大学周辺地域や山口市を対象としながら、フィールドワークに基づく地域学習の基本的方法を学ぶ。地理学・歴史学・社会学・教育学などを主たる方法とするグループに分かれ、グループ単位で地域調査を進めてゆく。 / 検索キーワード 地域調査 フィールドワーク

授業の一般目標 山口大学周辺や山口市で実際にフィールドワークを行い、その企画や手法についての実践的な能力を身につける。

授業の到達目標 / その他の観点： フィールドワークに対する実践的能力の体得

授業の計画（全体） グループに分かれて地域調査を進める。12月に中間報告会、1月に最終報告会を予定している。また調査の成果を文章化する作業も行う。

成績評価方法（総合） 地域調査の企画、実践、調査結果の口頭発表、報告書の作成など一連の作業を総合的に評価する。

開設科目	初等科社会	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇・岩崎好成・山本薫子				

授業の概要 初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会科各領域の基礎的な知識を修得し、理解する。 思考・判断の観点：社会科各領域の基礎的な内容について自ら考察を深める力を養う。 関心・意欲の観点：社会科各領域の内容の理解のもとに、自ら学習する意欲を持てるようにする。 技能・表現の観点：社会科各領域の基礎的内容を初等科教育の教案作成に応用できる力を養う。

授業の計画（全体）各領域を担当する社会科教育教室7名の教員が2グループに分かれ、週2回の授業を開設する。受講者は、教室別割当に基づき、いずれかの授業を受ける。

成績評価方法（総合）原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

開設科目	初等科社会	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岩本光悦・松原幸恵・森下徹・荒木一視				

授業の概要 初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会科各領域の基礎的な知識を修得し、理解する。 思考・判断の観点：社会科各領域の基礎的な内容について自ら考察を深める力を養う。 関心・意欲の観点：社会科各領域の内容の理解のもとに、自ら学習する意欲を持てるようにする。 技能・表現の観点：社会科各領域の基礎的内容を初等科教育の教案作成に応用できる力を養う。

授業の計画（全体） 各領域を担当する社会科教育教室7名の教員が2グループに分かれ、週2回の授業を開設する。受講者は、教室別割当に基づき、いずれかの授業を受ける。

成績評価方法（総合） 原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

メッセージ 講義初回に内容・評価法等をあらためて指示するので、出席すること。

開設科目	集合論 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 現代数学での基本概念である集合論・離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標 数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係・関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト・授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論理や集合についての基本的事項、写像、(同値)関係などの概念を正しく理解している。思考・判断の観点：論理や抽象的な概念を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画(全体) 授業は、論理や集合の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、小テストや授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論理
- 第 2 回 項目 集合と包含関係(その 1)
- 第 3 回 項目 集合と包含関係(その 2)
- 第 4 回 項目 和集合と共通部分(その 1)
- 第 5 回 項目 和集合と共通部分(その 2)
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 集合系
- 第 8 回 項目 対応と写像(その 1)
- 第 9 回 項目 対応と写像(その 2)
- 第 10 回 項目 対応と写像(その 3)
- 第 11 回 項目 直積集合と選出公理
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 同値関係と商集合(その 1)
- 第 14 回 項目 同値関係と商集合(その 2) 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：最初の授業のときに通知する。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	計算機概論 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志・林川基治				

授業の概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。さらに、BASIC 言語を用いてプログラミングの基礎的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード ノートパソコン、WORD、Excel、E-mail、インターネット、BASIC

授業の一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。さらに、BASIC 言語を用いて簡単なプログラムを作成することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算ソフトの利用法：特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。さらに、BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解すること。 思考・判断の観点：表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。 関心・意欲の観点：コンピュータの利用法に興味を持って取り組むことができること。 技能・表現の観点：表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

授業の計画（全体） ノートパソコンを実際に用いて、基本操作を学び、ブラウザ、ワープロ、表計算ソフト、BASIC 言語の使い方を学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 ノートパソコンの基本操作
- 第 3 回 項目 WORD の使い方（基本編）
- 第 4 回 項目 WORD の使い方（応用編）
- 第 5 回 項目 Excel の使い方（基本編）
- 第 6 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 7 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 8 回 項目 BASIC 言語：基礎的事項
- 第 9 回 項目 BASIC 言語：プログラミングの基本
- 第 10 回 項目 BASIC 言語：for 文
- 第 11 回 項目 BASIC 言語：if 文
- 第 12 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 13 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席と課題、期末試験により行う。

教科書・参考書 教科書：WEB 上のテキストを用いる。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	数学講究 I	区分	その他	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学周辺のテキストを用いてセミナー形式で授業を行う。

授業の一般目標 代数学に関連するテキストを用いて、輪講形式で授業を行い、数学的な考え方を育成する。発表を担当する学生自らが、テキストの内容に対する考察を、他の学生なり教官の目にさらすことにより、またそれを受講者が批判することにより、理解や考えを深める。併せて、小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の到達目標 / 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。授業における意見発言等による参加。
技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体） 輪講による発表

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度、発表力、表現力。出席 = 欠格条件

メッセージ 受講希望者が多いときは、必修の者を優先し、残りは1年前期の数学の単位を取得した者を優先して その中から抽選で選びます。

開設科目	集合論 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄 信保				

授業の概要 離散数学 I・集合論 I の履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標 離散数学 I・集合論 I で学んだことをもとに、離散数学のいくつかの話題を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：離散数学的思考法を学ぶ。

授業の計画（全体） 離散数学 I で学んだことをもとに、離散数学の中から話題を選び授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明、集合論 I、離散数学 I の理解度確認試験
- 第 2 回 項目 離散数学 I，集合論 I の復習
- 第 3 回 項目 基礎的事項（ 1 ）
- 第 4 回 項目 基礎的事項（ 2 ）
- 第 5 回 項目 基礎的事項（ 3 ）
- 第 6 回 項目 基礎的事項（ 4 ）
- 第 7 回 項目 基礎的事項（ 5 ）
- 第 8 回 項目 基礎的事項（ 6 ）
- 第 9 回 項目 発展的事項（ 1 ）
- 第 10 回 項目 発展的事項（ 2 ）
- 第 11 回 項目 発展的事項（ 3 ）
- 第 12 回 項目 発展的事項（ 4 ）
- 第 13 回 項目 発展的事項（ 5 ）
- 第 14 回 項目 発展的事項（ 6 ）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 授業中演習、レポート、出席状況、期末試験と合わせて総合的に成績を評価する。

メッセージ 数学を学ぶ上での基礎をやりますので、きちんと理解してください。

開設科目	計算機概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： UNIX の利用法を理解すること。 思考・判断の観点： C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点： UNIX の利用法について興味を持つこと。

授業の計画（全体） UNIX の基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX 上でのツールを紹介します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに / UNIX の起動と停止
- 第 2 回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第 3 回 項目 UNIX C Shell
- 第 4 回 項目 Vi と Emacs エディタ, UNIX の環境設定
- 第 5 回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第 6 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (1)
- 第 7 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (2)
- 第 8 回 項目 C Shell プログラミングの基礎
- 第 9 回 項目 C Shell 変数の利用と演算
- 第 10 回 項目 C Shell プログラミング (1)
- 第 11 回 項目 C Shell プログラミング (2)
- 第 12 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (1)
- 第 13 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987 年； UNIX プログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985 年； たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1990 年； 続・たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1993 年； プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンに UNIX がインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13 時 ~ 15 時

開設科目	計算機概論 III	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： UNIX の利用法を理解すること。 思考・判断の観点： C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点： UNIX の利用法について興味を持つこと。

授業の計画（全体） UNIX の基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX 上でのツールを紹介します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに / UNIX の起動と停止
- 第 2 回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第 3 回 項目 UNIX C Shell
- 第 4 回 項目 Vi と Emacs エディタ, UNIX の環境設定
- 第 5 回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第 6 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (1)
- 第 7 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (2)
- 第 8 回 項目 C Shell プログラミングの基礎
- 第 9 回 項目 C Shell 変数の利用と演算
- 第 10 回 項目 C Shell プログラミング (1)
- 第 11 回 項目 C Shell プログラミング (2)
- 第 12 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (1)
- 第 13 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987 年； UNIX プログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985 年； たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1990 年； 続・たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1993 年； プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンに UNIX がインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13 時 ~ 15 時

開設科目	物理学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学の基本ともいえる力学分野を学ぶ。 / 検索キーワード 力学

授業の一般目標 簡単な力学現象(放物運動、円運動、振り子、単振動など)が運動方程式で取り扱えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 速度、力、エネルギーなど日常的に使われている言葉を物理学ではどのように定義するか学ぶ。運動方程式を理解する。 思考・判断の観点: 数式を使って自然を記述する方法があることを理解する。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。学期の前半は物理的な概念の形成を主題にして授業を行う。後半は数式を用いながら簡単な微分積分を使い質点系の力学の学習をする。復習を怠ると、後半の授業に困難を感じることもあるので十分注意すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 物理量と単位
- 第 2 回 項目 座標・位置・速度
- 第 3 回 項目 ベクトル
- 第 4 回 項目 力・力の釣り合い
- 第 5 回 項目 運動・加速度
- 第 6 回 項目 運動の法則
- 第 7 回 項目 微分積分
- 第 8 回 項目 運動方程式
- 第 9 回 項目 運動量と運動量 保存則
- 第 10 回 項目 仕事・位置エネルギー
- 第 11 回 項目 エネルギー保存則
- 第 12 回 項目 円運動
- 第 13 回 項目 単振動
- 第 14 回 項目 角運動量
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 毎回の小テストと期末テスト及びレポートによって判断する。小テストは出席も兼ねる。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 必要に応じて授業で指定。

連絡先・オフィスアワー 電話 5343 研究室 222 番

開設科目	化学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村上清文・和泉研二・源田智子				

授業の概要 無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標 無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点：物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。 関心・意欲の観点：化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

授業の計画（全体） 無機化学、有機化学および物理化学の各領域で5週づつ講義を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに - 化学の領域 -
- 第2回 項目 原子の構造と元素の周期表
- 第3回 項目 化学変化と原子・分子
- 第4回 項目 水溶液とその性質
- 第5回 項目 化学平衡
- 第6回 項目 無機物質の種類とその性質
- 第7回 項目 有機化合物の種類とその性質
- 第8回 項目 天然の化合物と合成品
- 第9回 項目 新素材の化学とその利用
- 第10回 項目 地球環境と化学
- 第11回 項目 物質の状態
- 第12回 項目 エネルギー、仕事、熱
- 第13回 項目 熱力学第一法則と状態関数
- 第14回 項目 化学現象を熱的・エネルギー的にとらえることの意義
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992年；岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』, 桜井秀樹, 岩波書店, 2001年

開設科目	生物学基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標 生物を構成する物質(糖質,脂質,タンパク質,核酸)の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能,脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生物学の基礎知識を身につける。 思考・判断の観点: 生物の構造と機能の関係を理解する。

授業の計画(全体) 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第一章 序論-生物とは何か?- 内容 生物学の考え方、生物の定義。
- 第2回 項目 第一章 生物とは何か? 内容 生物学の歴史、生物の分類。
- 第3回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。
- 第4回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。酵素について。
- 第5回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞の研究法、細胞小器官について。
- 第6回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。遺伝子について。
- 第7回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。蛋白質合成について。
- 第8回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生体膜について。
- 第9回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生物のエネルギーについて。
- 第10回 項目 中間テスト
- 第11回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞骨格について。筋肉の収縮について。
- 第12回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 単細胞生物と多細胞生物について。
- 第13回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 細胞分裂について。
- 第14回 項目 第五章 動物の反応と調節 内容 興奮の伝導と伝達について。
- 第15回 項目 期末テスト

成績評価方法(総合) レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書・参考書 教科書: ダイナミックワイド図説生物総合版, 東京書籍, 2005年 / 参考書: 細胞の世界, ベッカー、クレインスミス、ハーディン, 西村書店, 2005年; 目で見える生物学, 石原勝敏ら, 培風館, 2004年; 随時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	地学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武田賢治				

授業の概要 中学校理科天文分野の基礎的事項とともに、新しい宇宙観・惑星像、人間活動が及ぼす地球環境問題について解説する。

授業の一般目標 天文分野で必須の空間概念を修得する。宇宙、恒星、太陽系天体に関する基礎事項を理解する。地球温暖化・オゾン層破壊などの地球環境問題を理解し、主体的に考え、行動することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 天体の位置の表し方や運動を説明できる。 2. 宇宙、恒星、太陽系天体の形成過程や様子などを説明できる。 3. 地球温暖化・オゾン層破壊について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 天体の位置を予測できる。 2. 自然現象を分析的に考えることができる。

関心・意欲の観点： 日常生活の中で、天文現象や地球環境問題に関心をもつ。 態度の観点： 地球環境問題を主体的に考え、行動することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業内容と授業 目標の説明
- 第 2 回 項目 天球と座標 内容 天体の位置の表し方 授業外指示 小課題提示
- 第 3 回 項目 時と暦 内容 時と暦の定義
- 第 4 回 項目 惑星の運動 内容 地球自転による 見かけの惑星運 動、惑星現象、 会合周期、惑星 の運動法則
- 第 5 回 項目 宇宙の誕生と進 化 内容 膨張する宇宙、 ビッグバン、元 素・銀河の形成
- 第 6 回 項目 恒星（ 1 ） 内容 星の距離、明る さ、分類 授業外指示 小課題提示
- 第 7 回 項目 恒星（ 2 ） 内容 星の誕生と一 生の過ごし方
- 第 8 回 項目 太陽系天体各論（ 1 ） 内容 惑星探査衛星等 による最新の惑 星像の紹介
- 第 9 回 項目 太陽系天体各論（ 2 ） 内容 惑星探査衛星等 による最新の惑 星像の紹介、太 陽系の果て
- 第 10 回 項目 太陽系の形成 内容 太陽系惑星の形 成過程 授業外指示 小課題提示
- 第 11 回 項目 地球 内容 地球の誕生過程 と原始地球の様 子
- 第 12 回 項目 太陽放射エネルギー 内容 太陽放射エネル ギーの流れ、そ れに由来する地 球表層現象
- 第 13 回 項目 人間活動と地球（ 1 内容 地球温暖化・オ ゾン層破壊の説 明
- 第 14 回 項目 人間活動と地球（ 2 ） 内容 地球温暖化対策
- 第 15 回 項目 期末試験

教科書・参考書 参考書： 宇宙の科学 天文学入門, 坪田幸政(訳), 丸善, 2003 年 ; 図解雑学 宇宙 137 億年の謎, 二間瀬敏史, ナツメ社, 2003 年

連絡先・オフィスアワー takeda@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー金曜日 16:00-17:00

開設科目	独唱 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 発声・呼吸・姿勢など歌うための基本を学ぶ。歌うことに慣れ、自分の声を知る。

授業の一般目標 イタリア古典歌曲を歌うことができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： イタリア古典歌曲集, ,

開設科目	ピアノ I	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノの基礎的な技能を習得させるために、練習曲や古典派のピアノ作品を教材として用いて個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された技術トレーニングの課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体）音階、分散和音の演奏等、ピアノの基本技法の習得。 J . S . バッハの作品を中心に多声部奏法の習得 古典派の作品を教材として形式や表現法の習得。

成績評価方法（総合）公開による実技試験を行う。 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5 3 6 3

開設科目	ピアノ I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 ピアノの基礎的な技能の習得の為に、練習曲、J.S. バッハの作品に代表されるバロック期のポリフォニックな作品、及び古典派のピアノ作品を教材として用いて、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週の、技術トレーニングの課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 1. 音階、分散和音等、ピアノの基本技能の習得。 2. 多声部音楽の奏法の習得。 3. 古典派の作品を教材として、主に形式感と基礎的な表現の習得。

成績評価方法（総合） 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	音楽通論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力を育成する。 / 検索キーワード 楽典、音楽の仕組、説明能力の獲得

授業の一般目標 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力の育成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音楽の概念の獲得、音楽の理論的な仕組みの理解、五線記譜法の基本的な仕組みの知識の獲得、及びその理解 思考・判断の観点：音楽を理論的に考察する能力の獲得 関心・意欲の観点：音楽に対する広い関心の獲得と、積極的に音楽と接する意欲の獲得 態度の観点：音楽、及び芸術全般に対しての畏敬の念、及び尊厳を認める態度の育成 技能・表現の観点：音楽の仕組みを解りやすく説明できる能力の獲得、それに必要な表現手段の獲得

授業の計画(全体) 音楽を理論的に説明する基本的な理由を理解することや、音楽は理論的な体系でもある、という観念を獲得するのは正直なかなかたいへんである。が、およそ一千年以上にも亘って続けられてきたこの営みを理解する事なしには21世紀の音楽を語る事はできないだろう。受講生各位がこの授業内容に多少なりともショックを受けてくれることを期待する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、音の様々な様相の理解
- 第2回 項目 音の物理的な性質と音楽的要素の関連
- 第3回 項目 音と時間との関係・拍、拍子、リズムについて
- 第4回 項目 音律論その1、三分損益とピタゴラス音律
- 第5回 項目 音律論その2、純正律と平均律
- 第6回 項目 五線記譜法と音程 五線記譜法と音程
- 第7回 項目 音階と調性
- 第8回 項目 和音とは何か
- 第9回 項目 和音の機能
- 第10回 項目 コードネームとその命名法のしくみ
- 第11回 項目 旋律と和音の関係
- 第12回 項目 非和声音について
- 第13回 項目 音楽における形式について
- 第14回 項目 音楽のスタイルについて
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験の結果を重視。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎, 芥川也寸志, 岩波書店, 1968年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 中学校までの音楽科の授業内容を完全に理解していること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定

開設科目	ソルフェージュ	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 聴音、新曲視唱、リズム叩き、八音記号の読みとり、移調奏を演習する。

授業の一般目標 聴音：基本的な単旋律の書き取り、2声のメロディーの書き取り、和声的な課題の書き取りを習得する。新曲視唱及び八音記号の読みとり：歌唱教材程度の難易度の旋律を正しいリズムと音程で新曲視唱することを習得する。リズム叩き：基礎的なリズム譜を、片手及び両手を用いて、正しくリズム打ちをすることを習得する。移調奏：最終的には、歌唱教材の移調奏による弾き歌いを習得する。

授業の計画（全体） 基礎的な課題から応用力を求められる課題まで、順次演習を発展させる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 新曲視唱、移調奏、八音記号の歌唱、リズム叩き、（聴音） 内容 簡易伴奏による童謡曲の、全調移調、他。
- 第 2 回 項目（同上） 内容 簡易伴奏による童謡曲の、全調移調、他。
- 第 3 回 項目（同上） 内容 イタリア歌曲の移調、他。
- 第 4 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 5 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 6 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 7 回 項目（同上） 内容 ドイツ歌曲の移調、他。
- 第 8 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 9 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 10 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 11 回 項目（同上） 内容 歌唱教材の移調弾き歌い、他。
- 第 12 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 13 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 14 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 各項目の技能が、一定レベルまで習得できている事を評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	独唱 II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 独唱 I に引き続き、歌唱における発声の基本を学ぶ。イタリア古典歌曲に加え、日本歌曲、トスティの歌曲などの教材を通して、安定した音楽表現を習得する。

授業の一般目標 レガート、スタッカート、アクセントなどの歌唱表現方法が実践できる。また、言葉に想いを込めて歌う事が出来る。

成績評価方法 (総合) 授業への参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	合唱 I(日本の伝統的な歌唱を含む。)	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 小、中、高等学校の合唱教材、コンクール課題曲、宗教曲、古典から現代の作品まで、さまざまなジャンルの作品に触れて合唱経験を積む。

授業の一般目標 様々な合唱曲を歌唱することができる。自らの歌唱力を合唱の形態の中で生かすことができる。

成績評価方法 (総合) 授業への参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	ピアノ II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノ I を履修後の学生を対象に行う授業である。ピアノ I に引き続き、練習曲とバッハのピアノ作品に加えて、ロマン派のピアノ作品を学習する。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

授業の計画（全体）ピアノの基本技法、多声部奏法に加えてロマン派のピアノ作品の演奏表現法の習得。

成績評価方法（総合）（1）公開による実技試験を行う。（2）出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun-n@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5363

開設科目	ピアノ II	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 本授業は、ピアノ I からの展開としてロマン派のピアノ作品を教材に用い、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲の表現を探究することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された技術トレーニングの課題を実行し、表現の工夫に取り組む事が出来る。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 1. ピアノ I から引き続いて、基本技能の更なる習熟。 2. ロマン派ピアノ作品の演奏表現の習得。

成績評価方法（総合） 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	作・編曲法 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を修得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作から始めて、少し規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などを学習する。

授業の一般目標 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を獲得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作が出来るようになること。多少規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などをマスターすることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実用的和声法の知識の獲得、和声に対する基本的な理解。 思考・判断の観点： 音楽的な思考、及び音楽的な優劣、という価値判断が自分で出来るようになること。 関心・意欲の観点： 様々な音楽作成方法への広汎な関心、様々な作曲手法獲得への意欲。 技能・表現の観点： 音楽的な思考を、楽曲作成という手段で表現できる技能の獲得

授業の計画（全体） 曲がりなりにも作曲という行為が可能になること。作曲は手順さえ踏めば、初歩的なものならば確実に出来るようになります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 和音、和声の復習
- 第 2 回 項目 コードネームの復習
- 第 3 回 項目 旋律の作り方その 1
- 第 4 回 項目 同上その 2
- 第 5 回 項目 伴奏音型とその役割
- 第 6 回 項目 基礎的な音楽形式の復習と理解
- 第 7 回 項目 複合三部形式による器楽曲の作曲その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 変奏曲形式による器楽曲の作曲 その 1
- 第 10 回 項目 同上その 2
- 第 11 回 項目 編曲を行う際に必要な各種楽器に対する基礎知識
- 第 12 回 項目 編曲実践その 1、合唱曲・声楽曲
- 第 13 回 項目 同上その 2、合奏曲・吹奏楽曲 など
- 第 14 回 項目 まとめと発表その 1
- 第 15 回 項目 同上その 2

成績評価方法（総合） 作曲能力の獲得具合、受講態度、興味関心等を総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎、芥川也寸志、岩波書店、1968 年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 音楽は感性のみで出来ている訳ではない。頭腦的、論理的な音楽の見方も身に付けて欲しい。音楽通論の単位取得者、及び相応の力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟 109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	平面造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。石膏像の面取りから始め、形と明暗の初歩をまず体得し、個人の進度に応じて頭部、胸部、立像へと進む。

授業の一般目標 美術一般の基礎的な表現を学習し、各自のデッサン力の向上を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自のデッサン力を把握し、絵画史上に残る巨匠たちのデッサンの特徴を説明できる。 思考・判断の観点：各自のデッサン力を把握し、絵画史におけるデッサンの特徴を論理に、また、わかりやすく説明できる。 関心・意欲の観点：様々な問題について主体的に考え、好奇心をもって実技を行うことができる。 態度の観点：様々な問題について主体的に考え、実技を行うことができる。 技能・表現の観点：デッサンにおけるそれぞれの表現の仕方を理解し、それに見合う技術を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 描画（ 1 ）
- 第 2 回 項目 "
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 描画（ 2 ）
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 描画（ 3 ）
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 描画（ 4 ）
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法 (総合) デッサンの実技過程、および、デッサンの完成度により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：西洋美術史, 高階秀爾, 美術出版社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp tel: 090-9003-6944

開設科目	美術理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 とくに西洋における過去の美や芸術の理論を概観し、美術史学の成立までを概説することによって、作品を観ること、創ること、まねることを考察する。

授業の一般目標 (1) 美や芸術の思想の歴史的流れを理解する。(2) それぞれの時代における美や芸術の考え方の基本やその形成のされ方を把握する。(3) 現代における美や芸術の考え方を理解する上での基礎づくりをめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：過去の美や芸術に関する思想のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点：美や芸術という概念について、考察し、それらに対する自らの認識を形成していく。 関心・意欲の観点：美や芸術に対する基本的な考え方に関心をもつ。

授業の計画(全体) 古代の美や芸術に関する思想の紹介からはじまり、中世、ルネッサンス以降、19世紀までの美や芸術の思想を概観し、近代へとつなげながら、美学や美術史学の成立などについても言及する。最後はそれらの知識、考察をもとに実作品の分析を行なってみる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 アイデア論
- 第 3 回 項目 ミメーシスについて
- 第 4 回 項目 中世の美意識
- 第 5 回 項目 精神と自然
- 第 6 回 項目 大陸合理論とイギリス経験論
- 第 7 回 項目 主観主義と反主観主義
- 第 8 回 項目 カントの趣味判断
- 第 9 回 項目 追体験と追創造
- 第 10 回 項目 純粹可視性
- 第 11 回 項目 図像解釈学
- 第 12 回 項目 美術史学の成立
- 第 13 回 項目 芸術観照と大衆文化
- 第 14 回 項目 美術作品実地研修
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 授業の最後に実作品の実地研修をし、これまでの授業内容をふまえた上で作品分析を行なってもらう。(1200字×3枚以上) 出席については、所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回レジュメを配布する。参考図書はその都度紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	絵画 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。

授業の一般目標 平面に於ける造形を対象として描画における基礎的な技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代の西洋美術の概略を説明できる。デッサンおよび、油彩画における素材や用具の特性や、使用法を的確に説明できる。 関心・意欲の観点：西洋美術や、日本美術における美について感受し、生活の中に美を見出すことができる。 態度の観点：普段から自主的に身の回りのものをデッサンする習慣をつける。 技能・表現の観点：デッサンおよび、油彩画における技術の多様さを理解し習得しようとする。

授業の計画（全体）石膏像を中心とした木炭デッサンを行うことによりデッサン力を養う。静物をモチーフとした油画を描く。構図のとりかたや、キャンパス、油絵の具、描画油の使い方などの知識を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 木炭デッサン（ 1 ）

第 2 回 項目 "

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 油画基礎（ 1 ）

第 6 回 項目 "

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 油画基礎（ 2 ）

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 "

第 12 回 項目 油画基礎（ 3 ）

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 講評

成績評価方法（総合）(1) 出席による評価。(2) 授業態度。(3) 授業での作品制作。

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp 090-9003-6944

開設科目	立体造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原一明				

授業の概要 様々な立体造形の基礎として、量感、フォルム、テクスチャー、空間感、動きなどを基礎的材料経験と立体制作を通して、感覚的理論的に学ぶ。

授業の一般目標 (1) 立体の制作を通して、量感、テクスチャーなどの造形要素について体験を通して理解できる。(2) 幾何形体や有機的形態の対比のおもしろさに気づき美しい構成ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な造形要素について説明ができる。 関心・意欲の観点：身近にある造形物に興味や関心をもち鑑賞ができる。 技能・表現の観点：物と空間との関係を考え、立体的に表現することができる。 その他の観点：各課題ごとに作品のプレゼンテーションを行うことにより、自己表現を磨く。

授業の計画(全体) (1) 前半は木材(爪楊枝)を使って線の要素の幾何形体の分割、再構成を行う。(2) 後半はケント紙を使って面的要素の構成を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 スケッチ

第3回 項目 制作

第4回 項目 同上

第5回 項目 同上

第6回 項目 同上

第7回 項目 作品仕上げ

第8回 項目 発表会

第9回 項目 スライド講義

第10回 項目 スケッチ

第11回 項目 同上

第12回 項目 同上

第13回 項目 同上

第14回 項目 作品仕上げ

第15回 項目 発表会

成績評価方法(総合) (1) 課題作品2点の提出。

教科書・参考書 教科書：適時プリント配布 / 参考書：適時プリント配布

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	陸上競技	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目の中から1、2種目を選択し、実技能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能・技術獲得の方法を追求する力を高めます。/検索キーワード 陸上競技、短距離走、走り幅跳び、グループ学習

授業の一般目標 中学校体育科における陸上競技の走・跳の実技能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。また、それぞれの種目の自己の技術獲得を迫るうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能・技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。思考・判断の観点：運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。関心・意欲の観点：短距離走、走り幅跳びの技能・技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。技能・表現の観点：自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

授業の計画(全体) 中学校体育科における陸上競技の実技能力と指導技術を高めることを目的としているが、このことを自ら主体的に達成していけるようにグループづくりから行う。グループができた段階で、取り組む短距離走、走り幅跳びについての授業の仕方について理解し、リーダーを中心としたグループ学習によりそれぞれの種目の技能・技術獲得に向けて活動していく。また、各グループの活動内容と気付きを共有していくために、全体で発表する時間を設ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
 内容 授業の進め方、グループづくり、役割決め、用具の説明 授業外指示 陸上競技場に集合すること
 運動着、運動シューズ 筆記用具必要
- 第2回 項目 短距離走1
50m走の測定 内容 50m走の予測・測定・記録
- 第3回 項目 短距離走2
スタートの仕方 内容 クラウチングスタートの有効性の理解と方法
- 第4回 項目 短距離走3
50m走の測定と分析I 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第5回 項目 短距離走4
50m走の測定と分析II 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第6回 項目 短距離走5
50m走の測定(歩幅) 内容 トップスピードの歩幅の測定
- 第7回 項目 短距離走6
50m走のトップスピードを維持する 内容 トップスピードを維持するためのリズム走の設定と練習
- 第8回 項目 短距離走7
50m走の走法の分析 内容 リズム走におけるタイムトライアルI

および田植え走
- 第9回 項目 短距離走8
各グループの走りの分析 内容 走りの分析と練習方法(気になる走法について追求する)

- 第10回 項目 短距離走9 < BR >まとめ(グループ発表) 内容 短距離走についての各グループの記録の推移と獲得技能・技術、課題の発表
- 第11回 項目 走り幅跳び1 < BR > < BR > 走り幅跳びの測定 内容 走り幅跳びの準備と測定方法
- 第12回 項目 走り幅跳び2 < BR > < BR > 踏み切り後の感覚づくり 内容 踏み切りと踏み切り語の
- 第13回 項目 走り幅跳び3 < BR > < BR > 5歩助走からの跳躍 内容 中助走からの跳躍 < BR > 5歩助走からの跳躍
- 第14回 項目 走り幅跳び4 < BR > < BR > 中助走からの跳躍 内容 出発点を決める(マーカーの付け方)
- 第15回 項目 走り幅跳び5 < BR > < BR > 全助走からの跳躍 内容 跳躍の記録会

成績評価方法(総合) 出席 40% 上記の目標の観点に向けた授業への取り組み 40% 最終的な評価対象レポート 20%

教科書・参考書 教科書: 各時間ごとに必要な資料を配布します。/ 参考書: 各時間ごとに必要な資料を配布します。

メッセージ 陸上競技は個人種目ですが、自分では気付にくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。"みんな"で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

開設科目	野外運動特習	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	保健体育全員				

授業の概要 冬期集中講義として、スキー・スケートなどの冬季種目を取りあげ、具体的な活動計画を作成し、実習をとおして指導法や指導理論の理解をはかる。そのための事前準備・学習として学校教育における野外教育の意義・方法、スキー・スケートなどの技術指導の理論を学習する。

備考 集中授業

開設科目	球技 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。

授業の一般目標 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 思考・判断の観点： ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫をしながら取り組むことができる。 態度の観点： チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。

授業の計画（全体） 前半は、他の球技系と種目と比較してハンドボ-の競技特性理解する。後半では、学校の体育授業で指導するための教材づくり、ルールづくりそして指導過程作りに関して教授する。

成績評価方法（総合） 技術や戦術またルールづくりや教材づくりに関する課題レポート、最終レポートおよび出席状況等で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： ハンドボ - ル指導教本, 日本ハンドボ - ル協会, 大修館書店, 1996 年

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクティヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。 / 検索キーワード 体育・スポーツ哲学 体育・スポーツ思想

授業の一般目標 次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかを考査する。1. 体育とスポーツの概念、2. 近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3. 身体とコミュニケーション 4. スポーツの文明化について、5. 身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6. オリンピズム、7. アマチュアリズム、8. スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代体育・スポーツの特性とその変遷について説明することができる。遊戯論(プレイ論)から、近代体育・スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。思考・判断の観点：スポーツ事象を多元的的角度から捉え、分析することができる。スポーツ思想について事象を指摘し、説明することができる。アマチュアリズム、アスレティズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。関心・意欲の観点：実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容にひきつけて考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 体育学・スポーツ科学体系
- 第 2 回 項目 2. 体育とスポーツ
- 第 3 回 項目 3. 近代体育・スポーツの概念とその定義
- 第 4 回 項目 4. 身体とコミュニケーション(1)
- 第 5 回 項目 5. 身体とコミュニケーション(2)
- 第 6 回 項目 6. 身体とコミュニケーション(3)
- 第 7 回 項目 7. スポーツの文明化(1)
- 第 8 回 項目 8. スポーツの文明化(2)
- 第 9 回 項目 9. 身体文化論のパースペクティヴ(1)
- 第 10 回 項目 10. 身体文化論のパースペクティヴ(2)
- 第 11 回 項目 11. オリンピズムと近代体育・スポーツ(1)
- 第 12 回 項目 12. オリンピズムと近代体育・スポーツ(2)
- 第 13 回 項目 13. プレイ理論(1)
- 第 14 回 項目 14. プレイ理論(2)
- 第 15 回 項目 15. まとめ及び試験

成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 授業態度や授業への参加度 = 20~40%

教科書・参考書 教科書：プリント配布。プリントの内容は、以下の参考書による。 / 参考書：スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム(ちくま新書; 047), 多木浩二著, 筑摩書房, 1995年; 黒い輪：権力・金・クスリ オリンピックの内幕, ヴィヴ・シムソン, アンドリュー・ジェニングズ著; 広瀬隆

監訳”, 光文社, 1992 年; ホモ・ルーデンス, J・ホイジンガ(高橋英夫訳), 中央公論社, 1983 年; 遊戯とスポーツ, H・レールス(長谷川守男監訳), 玉川大学出版部, 1987 年; 身体の零度 何が近代を成立させたか, 三浦雅士, 講談社選書メチエ, 1994 年; スポーツと現代アメリカ, アレン・グットマン(清水哲男訳), TBS ブリタニカ, 1981 年; スポーツを考える, 多木浩二, ちくま新書, 1995 年 黒い輪: 権力・金・クスリ, ヴィヴ・シムソン/アンドリュー・ジェニングズ(広瀬隆監訳), 光文社, 1992 年 上記の図書は主要なもののみ。ガイダンス時に、テキスト及び参考書の一覧表を配布する。

メッセージ 「体育・スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体育・スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	体育社会学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 この授業では、現代社会における体育やスポ - ツを一つの社会制度としてとらえ、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について概説する。また、社会構造の中で体育やスポ - ツがどういう位置を占め、どういう機能を果たすのかについても概説する。 / 検索キーワード 体育、スポ - ツ、社会学

授業の一般目標 (1) 現代社会における社会現象としての体育やスポ - ツの問題・事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。(2) 現代社会における体育やスポ - ツの問題について関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会現象としての体育やスポ - ツ問題の状況、背景について説明できる。 思考・判断の観点：社会現象としての体育やスポ - ツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：スポ - ツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常生活の中でスポ - ツ問題について主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテ - シ ョン
- 第 2 回 項目 現代スポ - ツの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 3 回 項目 人はどのようにしてスポ - ツを行うようになるのか。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 4 回 項目 日本におけるスポ - ツクラブの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 5 回 項目 スポ - ツ文化としての「みるスポ - ツ」。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 6 回 項目 スポ - ツと商業主義。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 7 回 項目 スポ - ツ・ド - ピングを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 8 回 項目 スポ - ツと暴力を考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 9 回 項目 スポ - ツとジェンダ - 。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 10 回 項目 スポ - ツ・ボランティアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 11 回 項目 スポ - ツとメディアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 12 回 項目 生涯スポ - ツを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第 13 回 項目 スポ - ツ社会学の必要性を考える。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。
- 第 14 回 項目 スポ - ツの文化システム。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。
- 第 15 回 項目 スポ - ツの社会システム。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施し評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書：今日からはじめるスポーツ社会学，”森川貞夫，依田充代編著”，共栄出版，2001年；スポーツの社会学(講座・スポーツの社会科学；1)，”池田勝，守能信次編”，杏林書院，1998年；「今日から始めるスポ - ツ社会学」森川貞夫，共栄出版，2001年「スポ - ツの社会学」池田 勝・守能信次，杏林書院，1999年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 162 番室 電話：933 - 5376 E-mail:ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	公衆衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の健康に影響を及ぼす各種要因(食・環境・社会等)と疾病との関連や各種疾病に対する予防・対策並びに健康の現状及びその指標について講義する。

授業の一般目標 健康の維持増進や病気の予防のためにはどうすればよいのか、病気を引き起こす要因は何であるかを学び、自らの健康は自ら守るという考え方を養う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公衆衛生学の概要 病気の予防
- 第 2 回 項目 健康レベル現状人口静態・動態統計
- 第 3 回 項目 疫学 病気の原因を探る
- 第 4 回 項目 感染症(1) 感染源・感染経路・感受性
- 第 5 回 項目 感染症(2) 各種の感染症
- 第 6 回 項目 精神保健 心の病気
- 第 7 回 項目 環境保健(1) 生活環境
- 第 8 回 項目 環境保健(2) 公害
- 第 9 回 項目 母子保健
- 第 10 回 項目 成人・老人保健(1) 生活習慣病と老人保健
- 第 11 回 項目 成人・老人保健(2) 生活習慣病と老人保健
- 第 12 回 項目 産業(職場)保健(1) 職業と病気
- 第 13 回 項目 産業(職場)保健(2) 職業の作業環境・健康管理
- 第 14 回 項目 社会保障のシステム(1) 医療・保健
- 第 15 回 項目 社会保障のシステム(2) 社会福祉

教科書・参考書 教科書: イラスト公衆衛生学, 石川哲也 ほか, 東京数学社, 2005年 / 参考書: プリントを配布する。

開設科目	情報処理論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点：1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点：1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点：1. 情報倫理を守った行動ができる。2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点：1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。2. データの集計や分析を行うことができる。3. 情報の発信を行うことができる。4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画(全体) 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1(ワープロ入門) 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2(図と表) 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1(ワープロの利用) 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2(アップロードと公開) 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3(HTML 入門) 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1(表計算入門) 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2(データ処理とグラフ作成) 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1(スライドとスライドショー) 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	製図	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 「ものづくり」を行う際に必要となる製図について、その基礎的な知識と作図法を習得する。
 授業は、講義とこれに続く演習を基本的な構成とし、授業計画に沿って出題する課題を通して実践的な力を身に付ける。 / 検索キーワード 製図, 加工

授業の一般目標 基本的な製図法について理解し、作図が行えること。製図用具を正しく使用できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 製図の意義を知る。 2. 基本的な製図方法について理解する。

思考・判断の観点： 1. 製図を正しく読み取ることができる。 関心・意欲の観点： 1. 進んで製図を描こうとする。 2. 様々な製図に関心を持つようとする。 態度の観点： 1. きれいな図面を描くよう心がけている。 2. 正しい図面を描くようにしている。 技能・表現の観点： 1. 製図用具が正しく扱える。 2. 製図用具が効率のよく利用できている。 3. 読みやすい、きれいな製図を描くことができる。

授業の計画(全体) 製図に対する一般的な意義や必要性を理解した後、実際に製図を行い必要な技能を身に付ける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 製図の歴史および意義 内容 1. 製図の歴史 2. 加工現場における製図の必要性 授業外指示 身の回りにある製図(カタログ等)を集め、比較する。
- 第 2 回 項目 製図用具およびその基本的な使い方 内容 1. 製図用具の名称および用途 2. 基本的な扱い方(練習) 授業外指示 1. 製図用具に慣れておくこと 2. 課題
- 第 3 回 項目 基礎となる図法(特に正投影画法)について 内容 1. 正投影画法 2. 製図を読み取る訓練
- 第 4 回 項目 第一角法および第三角法の基礎と簡単な作図 内容 1. 第一角法および第三角法の基礎 授業外指示 1. 課題
- 第 5 回 項目 第三角法による作図の基礎(Mブロック)その1 内容 1. Mブロックの採寸 2. Mブロックの作図
- 第 6 回 項目 第三角法による作図の基礎(Mブロック)その2 内容 1. Mブロックの作図完成 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 7 回 項目 第三角法による作図(スパナ)その1 内容 1. 曲面や角度をもった物体の採寸方法 2. 片口スパナの採寸 授業外指示 1. 採寸が終了しない場合、補習等を行う。
- 第 8 回 項目 第三角法による作図(スパナ)その2 内容 1. 前回採寸したものを基に、2倍のサイズでスパナを作図する。
- 第 9 回 項目 第三角法による作図(スパナ)その3 内容 1. 図面(スパナ)の完成 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 10 回 項目 キャビネット図および等角図の基礎 内容 1. 立体を1つの図面で表す方法。 2. キャビネット図について 3. 等角図について 授業外指示 1. 課題
- 第 11 回 項目 キャビネット図法の基礎(Mブロック) 内容 1. 先に三角法で描いたMブロックをキャビネット図にする。 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 12 回 項目 キャビネット図法による作図(椅子)その1 内容 1. 奥行きのある立体のキャビネット図について 2. 三角法で描かれた図面(課題)をキャビネット図にする。
- 第 13 回 項目 キャビネット図法による作図(椅子)その2 内容 1. キャビネット図の完成。 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 14 回 項目 展開図の基礎と作図(鉛筆立て) 内容 1. 展開図の描き方(基礎) 2. 課題 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 製図に関する学習のまとめ

成績評価方法 (総合) 主として、提出された課題および製図により評価する。特に図面については、正確さ、美しさ、読み取りやすさ、効率的に描かれているか、といったことを基準に評価する。

教科書・参考書 教科書：JISにもとづく標準製図法, 大西清著, 理工学社, 2000年; JISにもとづく標準製図法, 大西清, 理工学社

メッセージ 製図用具が必要です。初回の授業で、必要な用具を紹介します。

連絡先・オフィスアワー okasun@yamaguchi-u.ac.jp ・(金) 12:40 ~ 14:00

開設科目	情報基礎 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。 / 検索キーワード 情報の表現、演算方式、論理回路

授業の一般目標 2進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。
関心・意欲の観点：情報科学や計算機科学について関心を持つ。

授業の計画（全体） まず、情報の表現方法を学び、さらに演算方式、計算機構成法について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報量と 2 進数
- 第 2 回 項目 情報の表現と符号
- 第 3 回 項目 誤り検出符号
- 第 4 回 項目 補数
- 第 5 回 項目 絶対値表示を用いた加減算
- 第 6 回 項目 2 の補数を用いた加減算
- 第 7 回 項目 Booth の方法による乗算
- 第 8 回 項目 引き戻し法による除算
- 第 9 回 項目 中間試験
- 第 10 回 項目 論理演算回路とブール代数の基礎
- 第 11 回 項目 論理関数
- 第 12 回 項目 演算回路（その 1）
- 第 13 回 項目 演算回路（その 2）
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：電子計算機 I, 高浪、井上ほか, 朝倉書店, 1985 年；新版 情報処理の基礎, 水上孝一, 朝倉書店, 1998 年；現代電子計算機ハードウェア, 萩原宏、黒住祥祐, オーム社, 1991 年

メッセージ 受講生は共通教育の情報処理概論を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	家庭経営学(家庭経済学を含む。)	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小林 京子				

授業の概要 我が国の消費生活の変容、家計について理解するとともに現代の消費者問題の背景・要因について理解する。その上で、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。/検索キーワード 家計 消費生活 消費者問題 消費者契約 消費者権利 消費者基本法

授業の一般目標 高度経済成長後の我が国の消費生活の特徴、現代の消費者問題、消費者政策等を理解し、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することが出来たか。（家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者など） 思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることが出来るか。（消費者の権利・責任の観点から） 関心・意欲の観点：消費者問題に関心・意欲を持つことが出来たか。 態度の観点：授業の態度が真面目であったか。 技能・表現の観点：課題レポートが分かりやすく書かれていたか。 その他の観点：出席状況

授業の計画(全体) 前半は、我が国の消費生活の特徴と勤労世帯および高齢者世帯の家計について学習する。後半は、現代の消費者問題を取り上げ、その背景や要因について理解し、自立した消費者について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 変貌するわが国 < BR > の消費生活
- 第 2 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (1)
- 第 3 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (2)
- 第 4 回 項目 高齢者世帯の家 < BR > 計
- 第 5 回 項目 中間試験 < BR > - これまでのま < BR > とめ -
- 第 6 回 項目 消費者とは
- 第 7 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (1) < BR > 背景・要因
- 第 8 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (2) < BR > 権利と責任
- 第 9 回 項目 消費者契約法に < BR > ついて
- 第 10 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (1)
- 第 11 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (2)
- 第 12 回 項目 商品・サービス < BR > の安全をめぐる < BR > 問題
- 第 13 回 項目 商品・サービス < BR > の表示をめぐる < BR > 問題
- 第 14 回 項目 環境問題と消費 < BR > 生活
- 第 15 回 項目 期末試験 < BR > - 真に豊かな消 < BR > 費生活文化・様 < BR > 式に向けて -

成績評価方法(総合) 定期試験、出席状況を勘案して行う。 知識・理解(家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者について) 思考・判断(現代の消費者問題について、その要因・背景の明確化) 技術・表現(課題レポートの記述) 関心・意欲・態度(授業の態度、消費者問題への関心・意欲)

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

メッセージ 今日の消費者問題の情報を常に入手しておくこと。

備考 集中授業

開設科目	衣生活環境論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。 / 検索キーワード 衣生活、被服、洗濯

授業の一般目標 日常生活のなかで、普段なにげなく身に付けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。 2. 洗剤の種類と役割を説明できる。 3. 品質表示の意味を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 目的に合った衣類を選択できる。 2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。 関心・意欲の観点： 衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ 態度の観点： 授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

授業の計画(全体) 衣料に関して、歴史・文化(ファッション)から物理的視点、化学的視点へと多角的に解説する。特に日々の生活の中で失敗や惑いが多いと思われる洗浄については、時間を多く取る予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人と衣服との関わり
- 第 2 回 項目 被服気候
- 第 3 回 項目 衣料用素材の種類
- 第 4 回 項目 織物とは
- 第 5 回 項目 繊維製品の品質表示
- 第 6 回 項目 天然染料と合成染料
- 第 7 回 項目 汚れと洗浄
- 第 8 回 項目 家庭洗濯
- 第 9 回 項目 ドライクリーニング
- 第 10 回 項目 衣服の傷み
- 第 11 回 項目 洗浄剤と漂白剤
- 第 12 回 項目 よくある洗濯事故
- 第 13 回 項目 衣服に使用される化学物質
- 第 14 回 項目 環境汚染
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業の中で3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：自作テキストを配布する。 / 参考書：洗たくの科学, 花王生活科学研究所編, 裳華房, 1989年; 衣生活論, 中島利誠編著, 光生館, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 石けん屋さんが書いた石けんの本, 三木春逸・三木晴雄, 山水社, 1992年

メッセージ 1年生対象の概論科目である。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 教育学部 300号室

開設科目	食文化論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。 / 検索キーワード 食文化 食生活

授業の一般目標 (1) 食文化を学ぶ意義・目的を理解する。(2) 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。(3) 現代の食生活の問題点を理解する。(4) 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 食文化とは何かについて説明できる。2 世界および日本の食文化について理解する。3 食文化の研究の意義を理解する。 思考・判断の観点: 1 食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。2 現代の食生活の問題点を述べるができる。 関心・意欲の観点: 1 食文化に関する関心を広げ、食に対する問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1 日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 食文化を学ぶ目的を説明し、主食、肉食、乳利用の食文化について講義する。さらに現代の食生活について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 食文化を学ぶとは
- 第 2 回 項目 生活様式と食
- 第 3 回 項目 主食の条件
- 第 4 回 項目 肉食の文化
- 第 5 回 項目 乳利用の文化
- 第 6 回 項目 食品加工の知恵
- 第 7 回 項目 食事行動・宗教 と食のタブー
- 第 8 回 項目 ヨーロッパの食文化
- 第 9 回 項目 料理のお国柄
- 第 10 回 項目 現代の食生活 1 内容 子どもの食生活 1
- 第 11 回 項目 現代の食生活 2 内容 子どもの食生活 2
- 第 12 回 項目 現代の食生活 3 内容 高齢者の食生活
- 第 13 回 項目 食生活の問題点
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 最後に課題レポートを課す。出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書: なぜひとりで食べるの, 足立己幸・NHK「おはよう広場」, 日本放送出版協会, 1983年; 食文化入門, 石毛直道・鄭大聲編, 講談社, 1995年; 知っていますか子どもたちの食卓, 足立己幸・NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2000年; 変わる家族 変わる食卓, 岩村暢子, 勁草書房, 2003年; 65歳からの食卓, 足立己幸・松下佳代・NHK「65歳からの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2004年; 和食と日本文化, 原田信男, 小学館, 2005年; 食の文化を知る事典, 岡田 哲, 東京堂出版, 1998年

メッセージ ビデオ教材を使用します。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー: 金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	栄養学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。 / 検索キーワード 生命、栄養と栄養素、消化、吸収、排泄

授業の一般目標 生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。 2 . 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。 思考・判断の観点： 個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。 関心・意欲の観点： 自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生命と細胞（生命）
- 第 2 回 項目 生命と細胞（細胞のしくみ）
- 第 3 回 項目 生命とタンパク質（アミノ酸とタンパク質）
- 第 4 回 項目 生命とタンパク質（タンパク質の機能と役割）
- 第 5 回 項目 エネルギー代謝と糖質
- 第 6 回 項目 エネルギー代謝と脂質
- 第 7 回 項目 脂質の機能と役割
- 第 8 回 項目 ビタミンの生体内機能
- 第 9 回 項目 ビタミンの重要性
- 第 10 回 項目 ミネラル（無機質）の生体機能
- 第 11 回 項目 ミネラル（無機質）の重要性
- 第 12 回 項目 食物繊維の生体内での役割
- 第 13 回 項目 ビデオ鑑賞（消化と吸収）
- 第 14 回 項目 現代の食生活の諸問題（ダイエット）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書： 新版 新しい栄養学, 坂本 清 他, 三共出版, 2005 年 ; 教科書の他に、資料を十数枚配布する。

メッセージ 文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているため、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

開設科目	生活科学論	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 水環境、生活排水、河川の自然浄化に関して講義をする。授業の前半では山口市内に流れる川について、水性生物による水質分析を行うとともに後半で生活が及ぼす環境問題との関わりについて power point でまとめ、発表を行う。 / 検索キーワード 水汚染、水質調査、水性生物、環境問題

授業の一般目標 本授業では水性生物による水質調査によって山口市の河川の水質階級を判定し、汚れの原因を探っていく。後半で生活が及ぼす環境問題を調査し、発表する資料としてまとめていく。その結果をプレゼンテーションソフトを用いて発表することで、環境保全の意識を高めることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：水汚染の分析項目 COD, BOD, 硝酸性 & 亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素などについて理解できる。オゾン層破壊、地球温暖化、ごみ問題、環境ホルモンなどの環境問題を理解できる 思考・判断の観点：水質調査結果から、その水質階級が判断できる。種々の環境問題と生活との関わりから身の回りの生活態度をどのように改善したらよいか判断できる。 関心・意欲の観点：結果をまとめる過程で環境問題と生活との関わりに意識を高めることができる。 態度の観点：自分の生活を振り返り、環境負荷を少なくするための生活様式に気づき、実践できる。 技能・表現の観点：水生生物の同定と水質階級を見極めることができるとともに種々の環境問題を理解した結果を powerpoint で表現できる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 水分析と方法について 内容 ノートパソコン および必要なソフト power point
- 第 2 回 項目 山口市内の河川の水質調査 I 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 3 回 項目 山口市内の河川の水質調査 II 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 4 回 項目 山口市内の河川の水質調査 III 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 5 回 項目 家庭生活と水汚染 I
- 第 6 回 項目 家庭生活と水汚染 II
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 I
- 第 9 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 II
- 第 10 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 III
- 第 11 回 項目 環境問題の発表 I 内容 ノートパソコン および power point
- 第 12 回 項目 環境問題の発表 II 内容 ノートパソコン および power point
- 第 13 回 項目 環境問題の発表 III 内容 ノートパソコン
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 小テスト

成績評価方法 (総合) 評価は水汚染の水質検査項目の理解、水循環、水生生物と水質階級などについて小テストと演習時の小テストおよび調査結果をまとめた powerpoint によって評価する。

教科書・参考書 参考書：水の環境戦略 (岩波新書；新赤版 324), 中西準子著, 岩波書店, 1994年；中西準子著、岩波新書「水の環境戦略」

メッセージ 山口の自然を直接、確かめ、生活の視点から環境問題を理解する

開設科目	食品衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。/ 検索キーワード 食品の安全性、食中毒、食品添加物、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン

授業の一般目標 この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィット・リスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日の重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。 ・代表的な細菌性食中毒について説明できる。 ・食品添加物についてベネフィット・リスク論を構築できる。 ・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。 思考・判断の観点： 食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。 関心・意欲の観点： 日常の食生活との関わりの中、食の安全性を考えることができるようになる。 態度の観点： 個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。 技能・表現の観点： 食の安全性については、個人個人がどのような考え方をもちかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 1） 内容 ・授業のガイダンス・水俣病事件の検証 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 2） 内容 ・カネミ油症事件の検証・ヒ素粉ミルク事件の検証・イタイイタイ病事件の検証 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 3 回 項目 細菌性食中毒 1 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 4 回 項目 細菌性食中毒 2 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 5 回 項目 自然毒・化学性食中毒 内容 ・代表的な自然毒（フグ、キノコ等）や化学物質による食中毒について解説
- 第 6 回 項目 食品添加物について 内容 食品添加物についてその概要を説明 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 7 回 項目 食品添加物とその問題点 内容 食品添加物の問題点について考える
- 第 8 回 項目 ベネフィット・リスク論の構築（食品添加物） 内容 食品添加物についての自分なりの考えを構築する
- 第 9 回 項目 ディベート（食品添加物について） 内容 受講生全員で、食品添加物をテーマに、ディベート形式の討論を行う
- 第 10 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 主に環境ホルモンについてその現状と問題点を解説する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 11 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 第 10 週に同じ 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する

- 第12回 項目 食物と環境(遺伝子組換え食品とクローン技術) 内容 遺伝子組換え技術やクローン技術について解説し、その光と陰を考えながら、これからの食を考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第13回 項目 食物と環境(環境変異原物質等) 内容 身近な環境変異原物質を取り上げ、解説し、さらにそれらの作用を抑制してくれる物質についても紹介する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第14回 項目 輸入食品について・食品の安全の重要性 内容 食品輸入の実態と問題点を特に安全性の面から考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第15回 項目 まとめ 内容 食の安全性について、これまでのまとめを行う

メッセージ この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

開設科目	栄養学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかわりを学ぶ。ついで、幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。 / 検索キーワード ライフサイクルの栄養、食生活と栄養、生活習慣病

授業の一般目標 この授業では、乳幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解し、それぞれの時期における栄養学的重要性を知る。次に、それを土台に、おもな生活習慣病の病態を理解し、また、その予防について考えられるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。 2. 主な生活習慣病について理解し、説明できる。 **思考・判断の観点：** 1. 実際の生活状況と生活習慣病との関連を考察することができる。 2. マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。 **関心・意欲の観点：** 授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 栄養と病態 (栄養障害と疾患)
- 第 2 回 項目 エネルギー代謝の基本
- 第 3 回 項目 栄養必要量の考え方
- 第 4 回 項目 栄養欠乏および過剰の病理
- 第 5 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (胎児の栄養)
- 第 6 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (乳幼児の栄養)
- 第 7 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (学童期・青少年期の栄養)
- 第 8 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (成人の栄養)
- 第 9 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (老人の栄養)
- 第 10 回 項目 通風・肥満と食生活
- 第 11 回 項目 糖尿病と食生活
- 第 12 回 項目 骨粗鬆症・貧血と食生活
- 第 13 回 項目 高血圧・動脈硬化と食生活
- 第 14 回 項目 心臓病・脳卒中と食生活
- 第 15 回 項目 ビデオ鑑賞・まとめ

教科書・参考書 教科書：授業用のプリントを数十枚配布する

メッセージ 栄養学・で学んだ基礎を土台に、栄養と食生活と疾病との関連性を構築できるように学んでほしい。

開設科目	食品科学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 この授業では、食品素材の特徴および調理特性について習得する。また、嗜好性、調理操作についても講義する。 / 検索キーワード 食品科学、調理学

授業の一般目標 1) 調理と嗜好性について理解する。 2) 調理操作の種類と目的を理解する。 3) それぞれの食品について、種類、成分などの基本的性質を説明し、調理特性を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 それぞれの食品成分の特徴を理解する 2 それぞれの食品の調理特性を理解する。 3 調理と嗜好性を理解する。 4 調理操作について理解する。 思考・判断の観点： 1 食品成分の特徴を科学的な立場で説明できる。 2 食品の調理特性を科学的な立場で説明できる。 3 調理と嗜好性を説明できる。 4 調理操作の違いを説明できる。 関心・意欲の観点： 1 食品に対する科学的知識を高める 2 調理特性に対する科学的知識を高める。 3 調理と嗜好性について、科学的知識を高める。 態度の観点： 1 食品に関心をもつ。 2 調理に関心をもつ。 3 おいしさに関心を持つ。

授業の計画(全体) 調理と嗜好性、調理操作の目的と特徴について講義し、各論として、植物性食品(米、小麦粉、いも類、豆類、野菜類、果実類など)の特徴と調理性、動物性食品(食肉類、魚介類、鶏卵、牛乳・乳製品)の調理性などについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調理の目的
- 第 2 回 項目 調理操作(非加熱調理と加熱調理)
- 第 3 回 項目 米の調理
- 第 4 回 項目 小麦の調理
- 第 5 回 項目 芋類の調理
- 第 6 回 項目 豆類の調理
- 第 7 回 項目 野菜類・果実類の調理
- 第 8 回 項目 食肉類の調理
- 第 9 回 項目 魚介類の調理
- 第 10 回 項目 鶏卵の調理
- 第 11 回 項目 牛乳・乳製品の調理
- 第 12 回 項目 成分抽出素材の調理性
- 第 13 回 項目 嗜好飲料
- 第 14 回 項目 食べ物の味
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 講義した内容についての試験を行い、評価する。

教科書・参考書 教科書：食品・栄養科学シリーズ 調理学, 池田ひろ・木戸詔子編, 化学同人, 2000年 / 参考書：調理と理論, 山崎清子・島田キミエ他, 同文書院, 2003年

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16:10~17:40

開設科目	児童学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 乳幼児の心身の発達について講義する。保育記録とVTR記録をもとに、幼児の特性に応じた関わりの基本を学ぶ。絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児期の発達の特徴がわかったか 思考・判断の観点： 幼児の行動の見方が広がり、かかわり方について考えることができたか 関心・意欲の観点： 幼児や子どもに対する関心が深まったか 絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に意欲や関心を抱くようになったか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに オリエンテーション 絵本紹介 1
- 第 2 回 項目 絵本「ひとまねこざる」に見る子ども性」 さくらんぼ坊や 1
- 第 3 回 項目 エリックカールの作品に見る子どもの成長 さくらんぼ坊や 2
- 第 4 回 項目 幼児の成長について アリサのテーブル拭き 林明子の絵本
- 第 5 回 項目 動く紙おもちゃの製作 1 遊びレポートの作成
- 第 6 回 項目 ヤングアダルト絵本「セーターになりたかった毛糸玉」 さくらんぼ坊や 3
- 第 7 回 項目 動く紙おもちゃの製作 2 虹のトムボーイ
- 第 8 回 項目 遊びレポート 分析 幼児の遊びと発達
- 第 9 回 項目 昔話絵本を考える「さるかに話を知っていますか？」
- 第 10 回 項目 幼児の発信とその読み
- 第 11 回 項目 「サンタクロースはほんとうにいるの？」 クリスマスと子ども
- 第 12 回 項目 4 歳児の世界 論文「ベイブレード遊びにおける 4 歳児の自己充実と仲間関係」を読む
- 第 13 回 項目 5 歳児の世界 論文「子どもの立ち直りを支える保育行為」を読む
- 第 14 回 項目 さくらんぼ坊や 4 幼児期から学童期へ
- 第 15 回 項目 さくらんぼ坊や 5 まとめ

教科書・参考書 参考書： 育児日記からの子ども学, 友定啓子, 勁草書房, 1996 年 ; 子どもの心を支える, 村田陽子, 勁草書房, 1999 年 ; 幼児の笑いと言語, 友定啓子, 勁草書房, 1993 年

開設科目	実践英語音声学	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 The purpose of the course is to expand the students' basic repertoire of vocal sounds from those of Japanese to the much wider range of English.

授業の一般目標 The students will be made aware that there is much to learn which was not taught at school, and indeed much to unlearn which was. The reliance on katakana as a means of transcribing English and the tendency to say every sound as though English were phonetically written must be abandoned. New and untaught things such as the glottal stop and unstressed vowels, which make English immeasurably less "foreign", will be practised intensively.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The International Phonetic Alphabet
- 第 2 回 項目 The syllable
- 第 3 回 項目 Schwa, the commonest vowel in English
- 第 4 回 項目 Stress and 'unstress'
- 第 5 回 項目 Rhythm
- 第 6 回 項目 Vowels of stressed syllables
- 第 7 回 項目 English vowels not in Japanese
- 第 8 回 項目 English consonants not in Japanese
- 第 9 回 項目 Phonemic contrasts
- 第 10 回 項目 The glottal stop, a neglected sound
- 第 11 回 項目 Elision
- 第 12 回 項目 Assimilation
- 第 13 回 項目 Rhythm in verse
- 第 14 回 項目 The disappearing /h/
- 第 15 回 項目 Listening for weak syllables

成績評価方法 (総合) Full attendance is required: it is impossible to do this course by private study. The students' progress will be monitored throughout by their making recordings of a given text. A recording of this and of another, new text will form part of the exam. This will also contain an element of listening comprehension.

開設科目	日英対照言語学	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 この授業では、私たちにとっておそらく最も身近な言語である日本語と英語をとりあげ、「ことば」について考察しながら、積極的に探究してゆく（学問する）姿勢を養う。授業は講義形式で進めるが、学生には積極的な幅広い読書・情報収集・教員や友人と議論をすることを求める。

授業の一般目標 日本語と英語を比較しながら、両言語の実態を知る。言語一般についての基本的な考え方を修得する。言語使用の現象を分析し、説明する能力を身につけ、言語への理解を深める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化と言葉（1）
- 第 2 回 項目 文化と言葉（2）
- 第 3 回 項目 音韻体系
- 第 4 回 項目 日本語のカタカナ
- 第 5 回 項目 単語の意味のとらえ方（1）
- 第 6 回 項目 単語の意味のとらえ方（2）
- 第 7 回 項目 時制と相の概念（1）
- 第 8 回 項目 時制と相の概念（2）
- 第 9 回 項目 モダリティの表現（1）
- 第 10 回 項目 モダリティの表現（2）
- 第 11 回 項目 文の意味と発話の意味（1）
- 第 12 回 項目 文の意味と発話の意味（2）
- 第 13 回 項目 発想と表現法（1）
- 第 14 回 項目 発想と表現法（2）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） レポートと期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する / 参考書：授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	幼児教育基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	原 昭徳				

授業の概要 幼稚園教師になるための要件や幼児教育の基礎概念、保育思想の歴史や幼児教育を支える理論を紹介する

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「先生になるには」(幼稚園教諭、保育所保母)
- 第 2 回 項目 幼児教育施設の起源と発想（オーエンの保育園とフレーベルの幼稚園）
- 第 3 回 項目 幼児教育を拓いた人々（関信三、豊田英雄、倉橋惣三など）
- 第 4 回 項目 幼稚園と保育所
- 第 5 回 項目 幼稚園教育要領の変遷と幼稚園教育の実態
- 第 6 回 項目 幼稚園設置基準と幼稚園の施設設備
- 第 7 回 項目 幼稚園指導要録の意義と記入の実際
- 第 8 回 項目 幼児と接するということ
- 第 9 回 項目 戸外活動（散歩）の教育的意義
- 第 10 回 項目 幼稚園教諭、園長の役割と仕事内容
- 第 11 回 項目 幼稚園から小学校へ
- 第 12 回 項目 幼稚園の運営と研修
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： マー君の散歩道, 桑原昭徳, ミネルヴァ書房 / 参考書： 幼稚園教育要領解説, 文部科学省,

開設科目	保育内容基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村田 陽子				

授業の概要 子どもの発達を捉える窓口としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の理解と、5領域の保育内容を総合的に捉え、相互の関係性についても理解し、保育内容の基礎的知識を得る。また、実際の保育・教育現場で保育内容を生かす力を身につけ、更に教育課程の理解と指導計画などについても学ぶ。 / 検索キーワード 基礎 保育内容

授業の一般目標 幼稚園教育要領・保育所保育指針を基に保育者養成に必要な「保育内容」及び「保育方法論」の基礎的概念を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育の全体構造や保育内容の構造化と総合性の理解 思考・判断の観点： 事例を通して、「総合的な保育」そのもの、保育者の役割と専門性についての力を身につける。

関心・意欲の観点： 幼児の特性を理解し、特性に合った教育の在り方や方法に関心を寄せ、意欲的に学ぶ。 態度の観点： 意欲的な態度で授業に臨む。プリントやテキストなどに目を通し、自ら学ぶ。

技能・表現の観点： 指あそびや折り紙、あやとりなどの基礎的技能を身につける。

授業の計画（全体） 保育や保育の全体構造を理解する。また保育内容の5領域や構造化も理解した上で、事例を通すなどして発達の理解、保育内容の総合的な捉えを行い、保育内容についての理論と実践的理解を深めるなど、保育内容を総論的に捉える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション（音楽リズム表現）内容・授業概要・受講の心得・（指あそびをする）
- 第 2 回 項目 保育の捉え（音楽リズム表現）内容・幼稚園・保育所の全体構造の捉え・保育とは・（指あそびをする）
- 第 3 回 項目 保育内容（造形表現）内容・保育内容の意味・保育内容（5領域）の構造化の理解・（折り紙で作る）
- 第 4 回 項目 保育内容の総合的把握（造形表現）内容・実践事例を通して、保育が総合的であることを捉える・（折り紙で作る）
- 第 5 回 項目・成長発達の基本的な考え方（造形表現）内容・発達の捉え方・発達の過程・発達課題・（あやとりをする< BR >）
- 第 6 回 項目・子どもの発達と生活（造形表現）内容・子どもの生活と遊び・家庭における子どもの生活・地域社会における子どもの生活・園生活における子どもの生活・（折り紙で作る）
- 第 7 回 項目 保育内容の変遷（造形表現）内容・戦前・戦後の保育内容と現在の保育内容の理解< BR >・（折り紙で作る）
- 第 8 回 項目 保育の特質（音楽リズム表現）内容・生きる力の基礎を培う乳幼児期の保育・（指あそびをする）
- 第 9 回 項目 保育の特質（造形表現）内容・「幼稚園教育要領」より幼稚園教育の特質を学ぶ・「保育所保育指針」より保育所保育の特質を学ぶ・（折り紙で作る）
- 第 10 回 項目 保育者の役割（造形表現）内容・3歳児未満、3歳、4歳、5歳の生活の姿からの保育者の役割・（折り紙で作る）
- 第 11 回 項目 保育内容と保育計画（音楽リズム表現）内容・保育における計画・指導計画の考え方・（指あそびをする）
- 第 12 回 項目 保育内容と保育計画（造形表現）内容・具体的な指導計画・（折り紙で作る）
- 第 13 回 項目 保育内容の展開（音楽リズム表現）内容・保育の指導の方法と保育の展開・（指あそびをする）
- 第 14 回 項目 保育内容の展開（音楽リズム表現）内容・保育者のかかわりと援助・（指あそびをする）
- 第 15 回 項目 後期末定期試験 内容 保育実践の場に於ける基礎的な、保育者としての資質を問う

成績評価方法 (総合) 出席日数、授業態度、試験の総合評価で行う。

教科書・参考書 教科書：幼稚園教育要領(平成10年12月), 文部科学省, 大蔵省, 1998年; 保育所保育指針(平成11年度版), 厚生省, フレーベル館, 1999年; 子どもの心を支える 保育力とは何か, 村田陽子/友定啓子, 勁草書房, 1999年

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
 検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4
 F（404室）白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	運動障害心理・生理・病理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林 隆				

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 脳の発達
- 第 2 回 項目 脳性マヒ - 1
- 第 3 回 項目 脳性マヒ - 2
- 第 4 回 項目 筋ジストロフィー
- 第 5 回 項目 運動障害の保護者への支援
- 第 6 回 項目 知的障害
- 第 7 回 項目 染色体異常
- 第 8 回 項目 知的障害の保護者への支援
- 第 9 回 項目 学習障害
- 第 10 回 項目 注意欠陥／多動性障害
- 第 11 回 項目 広汎性発達障害
- 第 12 回 項目 アスペルガー症候群
- 第 13 回 項目 国際生活機能分類（ICF）
- 第 14 回 項目 特別支援教育と発達障害者支援法
- 第 15 回 項目 特殊教育から特別支援教育へ

教科書・参考書 参考書：医師のための発達障害児・者診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際，稲垣真澄・加我牧子編，診断と治療社，2006年；成育医療の視点にたった学校保健マニュアル，田原卓浩編，診断と治療社，2005年；てんかんQ&A，藤井正美、長谷川寿紀、林 隆，日本文化科学社，2001年；ナースとコメディカルのための小児科学，白木和夫、高田哲編，日本小児医事出版社，2006年；注意欠陥／多動性障害 AD/HD の診断・治療ガイドライン，齊藤万比古、渡辺京太，じほう，2006年

備考 集中授業

開設科目	病弱教育	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	齋藤 美麿				

授業の概要 結核に始まる慢性伝染病のために解説された病弱教育は、慢性疾患としての気管支喘息、腎臓疾患児の狂句に変わり、今では多様な慢性疾患の児童・生徒を対象としている。くわえて心身症に関わる障害の増加が見られる。これらの疾患を理解し、教育はどのようにすべきかを検討する。 / 検索キーワード 病弱、疾病

授業の一般目標 障害を理解し、児童・生徒と一緒に遊べるようになる。疾病、死に直面している児童・生徒に接する能力を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各種の疾病を理解する。 思考・判断の観点： 疾病を理解し、どのようにすべきかを考える。 関心・意欲の観点： 疾病を持つものへの関心を深める。

授業の計画(全体) 病弱教育に関わる疾病を理解し、いかに教育を行うかを検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 病弱教育の歴史 内容 結核の流行に始まる病弱の教育の歴史を知る。
- 第 2 回 項目 気管支喘息の児童・生徒 内容 気管支喘息の特徴と生活習慣の形成
- 第 3 回 項目 腎臓疾患の児童・生徒 内容 腎臓疾患の特徴と生活習慣の形成
- 第 4 回 項目 筋ジストロフィー児の児童・生徒 内容 筋ジストフィーの進行経過と対応
- 第 5 回 項目 心臓疾患児の児童・生徒 内容 疾病を理解し、生活習慣の形成
- 第 6 回 項目 結核について 内容 伝染病としての結核を理解し、いかに生活すべきかを考える
- 第 7 回 項目 てんかん 内容 てんかんの理解と生活
- 第 8 回 項目 脳性まひ 内容 脳性まひの理解と生活
- 第 9 回 項目 心身症 内容 心身症と対応
- 第 10 回 項目 身体虚弱とは 内容 身体虚弱とはどのようなことか
- 第 11 回 項目 肥満とるいそう 内容 身体を理解と食事。運動を理解する。
- 第 12 回 項目 アレルギー疾患 内容 アレルゲンの種類と生活
- 第 13 回 項目 その他の疾患 内容 その他の疾患と疾病についての考え方
- 第 14 回 項目 その他の疾患 内容 現在問題になりつつある疾患について
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 病弱教育について総合的に考える

成績評価方法(総合) 各自の関心のある疾病について以下に教育を行うかのレポートによって評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 病弱教育Q & A, 横田雅史ほか, ジアース教育新社, 2002年

連絡先・オフィスアワー 山口県立大学社会福祉学部

備考 集中授業

開設科目	障害児福祉総論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児・者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児・者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。/ 検索キーワード 障害児、福祉、地域生活

授業の一般目標 障害児・者福祉の基本原則についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児・者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児・者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。 2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児・者福祉における歴史と現状をふまえて、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 障害児・者福祉の歴史～古代から現代～ 内容 障害児・者福祉の歴史（古代～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 障害児と指導者（学校教師） 内容 初代近江学園長の糸賀一雄（1914～1968）の福祉観を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 児童福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 児童福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 児童福祉法（2）～児童相談所・福祉事務所・保健所の役割～ 内容 支援機関として重要な児童相談所、福祉事務所、保健所の役割について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 人間観と福祉思想 内容 サリドマイド薬禍事件（1962）について説明し、「生きる権利」についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 障害児を育てる親の心情の変容 内容 わが子（障害児）の出生時から学校教育終了時までの親の心情を説明し、その変容についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 知的障害者福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 知的障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 知的障害者福祉法（2）～更生施設・授産施設～ 内容 20世紀の障害者福祉において一定の役割を担ってきた更生施設、授産施設について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 障害者手帳（目的・対象・活用のしかた）・障害者基礎年金・各種福祉手当 内容 障害者福祉において重要な役割を担っている障害者手帳、障害者基礎年金、各種福祉手当等の役割や機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 身体障害者福祉法～目的・対象・施設の役割～ 内容 身体障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 地域生活を支える支援のあり方 内容 通勤寮、グループホーム等の機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 就労生活を支える支援のあり方 内容 就労の意義と、それを支える支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 21世紀の障害児・者福祉の方向性 内容 地域生活を望む声が高まっている事実と、今後の福祉施策の方向性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)パール・バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	知的障害生理・病理学	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野 均				

授業の概要 授業は4日間の集中講義形式で行い、午前と午後に各2コマを割り当てる。各講義の課題達成の目的で随時小グループによる相互討議を行い、授業内容の理解を深める。また学習効率を高めるために視聴覚教材を積極的に使用し、高校時代に生物学を選択していない学生にも理解できるように配慮する。小テスト・小論文を要所要所で実施し、受講学生の理解度・出席率の判定材料とする。また全講義終了後に、最終テストを実施する。成績はこれら小テスト・小論文・最終テストで判定する。/検索キーワード 障害児教育、精神遅滞(知的障害)、病理・生理、生殖、遺伝、発生

授業の一般目標 ヒトの発生と遺伝を分子レベルから学習し、障害の種類とその病理、また診断方法と治療、ならびに予防方法について習得することを目標とする。このような病理学的・生理学的観点から障害の発生を学習することにより、障害児教育に携わる教師に求められる知情意のバランスを培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1)精神遅滞の定義と用語の変遷:教育上、医学上の対応の余地 2)精神遅滞の分類:遺伝と環境の関与 3)精神遅滞の原因:生理群と病理群 4)遺伝の概要 5)遺伝病:メンデル遺伝病、多因子遺伝病、保因者診断 6)先天代謝障害:症状発症の機序 7)染色体異常症候群:種類と症状、出現機序 8)胎児病:生殖機構、発生段階と障害 9)出生前診断:種類と倫理思考・判断の観点: 1)障害者と健常人との異同は? 2)理想的な社会とは? 3)現実の社会状況は? 4)現実を理想に近づけるためには? 5)理想的な教育とは? 関心・意欲の観点: 1)出生前診断、遺伝子治療などにどの程度関心を持っているか? 2)上記に対する倫理面からの関心の程度は? 3)日常の障害児(者)との関わりの程度は? 態度の観点: 1)出席率 2)授業中の相互討議

授業の計画(全体) 授業概要に詳述

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総論1 < BR > (1)オリエンテーション < BR > (2)精神遅滞 < BR > の定義1 内容 (1)講義の目的・進め方について説明 < BR > (2)精神遅滞についての用語とその変遷について説明
- 第2回 項目 総論2 < BR > (1)精神遅滞の定義2 < BR > (2)小論文 内容 (1)アメリカ精神遅滞学会による定義 < BR > (2)障害児に関する関心の程度
- 第3回 項目 総論3 < BR > (1)精神遅滞分類と診断基準 < BR > (2)精神遅滞の原因1 内容 (1)生理群精神遅滞と病理群精神遅滞 < BR > (2)生理群精神遅滞における遺伝の関与
- 第4回 項目 総論4 < BR > (1)精神遅滞の原因 < BR > (2)小テスト 内容 (1)病理群精神遅滞における医学的原因 < BR > (2)理解度
- 第5回 項目 各論1 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎1 内容 (1)遺伝とは?、細胞分裂
- 第6回 項目 各論2 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎2 < BR > (2)小テスト 内容 (1)細胞分裂 < BR > (2)理解度
- 第7回 項目 各論3 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎3 内容 (1)染色体、遺伝子の実体
- 第8回 項目 各論4 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎4 < BR > 2)小テスト 内容 (1)遺伝子発現の変動要因1 < BR > (2)理解度
- 第9回 項目 各論5 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎 内容 (1)遺伝子発現の変動要因2
- 第10回 項目 各論6 < BR > (1)遺伝病と遺伝相談1 < BR > (2)小テスト 内容 (1)メンデル遺伝病、多因子遺伝 < BR > (2)理解度
- 第11回 項目 各論7 < BR > (1)遺伝病と遺伝相談 < BR > (2)先天性代謝異常 内容 (1)遺伝相談 < BR > (2)代謝過程の異常、臨床症状、症状の発現時期、診断と治療
- 第12回 項目 各論8 < BR > (1)染色体異常症候群1 < BR > (2)小テスト 内容 (1)数の異常 < BR > (2)理解度

- 第13回 項目 各論9 < BR > (1)先天性代謝異常2 < BR > (2)胎児病1 内容 (1)構造の異常 < BR > (2)胎児の発生段階と異常
- 第14回 項目 各論10 < BR > (1)胎児病 < BR > (2)出生前診断1 < BR > (3)小テスト 内容 (1)症例 < BR > (2)羊水検査と絨毛検査 < BR > (3)理解度
- 第15回 項目 各論11 < BR > (1)出生前診断 < BR > (2)障害予防 < BR > (3)最終テスト 内容 (1)遺伝子診断 < BR > (2)種類 < BR > (3)理解度 < BR > (受講生による講義評価も含む)

成績評価方法 (総合) 授業概要に詳述

教科書・参考書 教科書：平野均著「障害児の病理と生理」(私家版)を開講前に販売する / 参考書：臨床遺伝医学1・2, 古庄敏行、他編集, 診断と治療社, 1992年; 人類遺伝学：基礎と応用(改訂第2版), 柳瀬敏幸編集, 金原出版, 1995年; 発達障害の基礎, 熊谷公明, 栗田広、有馬正高編集, 日本文化科学社, 1999年; 発達障害の臨床, 熊谷公明, 栗田広、有馬正高編集, 日本文化科学社, 2000年; ラングマン人体発生学第8版, トマス・W・サドラー著, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004年; 代表的なものを以下に提示した。本館には置いてないが、全て医学部附属図書館で閲覧・貸出可能である。

メッセージ 教員免許取得学生では必修科目であるが、大学院生・研究生を含めて希望者は誰でも受講可能である。

連絡先・オフィスアワー 本部保健管理センターにおいて(水曜日午後5時以降)

備考 集中授業

開設科目	聴覚障害教育総論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	谷本忠明				

授業の概要 聞こえやことばの障害のある子どもに対しての関わりは、多くが聾学校や小・中学校の難聴・言語障害学級で行われている。そうした子どもたちの抱える聞こえやことばの問題は、人とのコミュニケーションや学習面での課題となって現れることも多い。本授業は、そうした子どもへの学校教育を中心とした関わりに求められる内容について、講義を中心に、集中講義形式で行う。/検索キーワード 聴覚障害、言語障害、コミュニケーション

授業の一般目標 聴覚障害は、広義には言語障害に含まれるが、聴覚障害と言語障害とは、その状態像やそれに対する対応はかなり異なっている。また、言語障害の中には、多様なことばの障害が含まれる。本講義では、そうした幅広い障害について取り扱うことと、受講生の多くが言語障害に関する学習が初めてであると考えられることから、特定の障害についての理解を深めるという形ではなく、そうした幅広い言葉の障害についての基礎的な理解をすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 聴覚障害、言語障害をことばの形態的な側面である「音声」とコミュニケーション手段としての側面である「言語」という視点から理解することができる。(2) 構音器官や聴覚器官の基礎的な構造について名称を含めて理解できる。(3) 個々の障害の状態像の基礎的な内容について理解し、説明することができる。(4) 言語習得の過程やその過程において習得される言語の機能について理解できる。(5) 言語習得を図るための手だてとして必要な事項についての基本的な視点を持つことができる。 思考・判断の観点：ことばの障害のある子どもに接する場合に必要な、言語の習得を支える子どもと周囲とのコミュニケーション関係の在り方について、問題の所在を見極めることができる。

授業の計画(全体) まず、基礎的な事項として、わが国における聴覚・言語障害児に対する教育の現状や制度の概要や、構音器官や聴覚器官の仕組み、ことばの機能、ことばの発達過程など、言語獲得に関連した基礎的事項について解説するとともに、ことばの障害を見る視点について述べる。そののち、聴覚障害や各言語障害についての概説を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育の対象となる聞こえやことばの障害・子どもの指導の場(わが国における聴覚・言語障害児教育の教育場面・制度について)(1) 内容 わが国におけることばの障害のある幼児・児童・生徒に対する教育場面や教育の制度についての概要を述べる。
- 第 2 回 項目 教育の対象となる聞こえやことばの障害・子どもの指導の場(わが国における聴覚・言語障害児教育の教育場面・制度について)(2) 内容 同上
- 第 3 回 項目 音と声の基礎 - 音の側面、音としてみたことば・声 内容 ことばを使ってコミュニケーションするというとはどのようなことであるのかについて、音声や音響、コミュニケーション関係といった側面から解説する。
- 第 4 回 項目 聴覚器官・構音器官のしくみ - 聞こえのしくみ、ことばを出すしくみ(1) 内容 ことばを発すること、聞いて理科いすrことを支えている構音器官や聴覚器官の仕組みや働きについて解説する。
- 第 5 回 項目 聴覚器官・構音器官のしくみ - 聞こえのしくみ、ことばを出すしくみ(2) 内容 同上
- 第 6 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの(1) 内容 子どものことばの発達の過程について解説する。
- 第 7 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの(2) 内容 ことばが獲得されるとはどのような事なのかについて、背後にある諸側面について解説する。

- 第 8 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの (3) 内容 ことばが通じること、通じないことの意味について、コミュニケーション関係という視点から解説する。
- 第 9 回 項目 聞こえとことばの障害の種類と内容 内容 聞こえとことばの障害の具体的な状態について述べる。
- 第 10 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (1) 内容 聴覚障害を中心として、聞こえの障害の持つ意味やそれに対する対応について、聴覚障害児教育の現状と併せて述べる。
- 第 11 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (2) 内容 同上
- 第 12 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (3) 内容 同上
- 第 13 回 項目 ことばの障害のある子どもに対する指導 内容 言語障害といわれる各障害の状態やそれへの対応について述べる。
- 第 14 回 項目 ことば指導に求められるもの - 教育場面を通して 内容 まとめとして、ことば指導という視点で、指導者に求められているものは何かについて提起する。
- 第 15 回 項目 筆記試験

成績評価方法 (総合) 授業最終日に筆記試験を行い、その成績によって評価する。なお、集中講義期間中の出席についても評価の一部とする。出席の確認方法については、メッセージ欄を参照のこと。なお、集中講義で実施するということから、原則として、全時間の出席をし、最終試験を受験した者について評価の対象とする。また、単位不要で、聴講のみを希望する学生の受講は認めないこととする。

教科書・参考書 教科書：資料を配布して資料に基づいて進めていく。 / 参考書：講義の中で随時紹介する。

メッセージ 受講生の多くにとっては初習の内容が多くなると思われるので、出席カードを使って受講生からの質問やコメントなどを出してもらおう予定にしている。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	障害児心理学研究法 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成・松田信夫・松岡勝彦				

授業の概要 障害のある人たちを対象とした事例研究を通して、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方の基礎について取得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 1）
- 第 3 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 2）
- 第 4 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 3）
- 第 5 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 4）
- 第 6 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 5）
- 第 7 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 6）
- 第 8 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 7）
- 第 9 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 8）
- 第 10 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 9）
- 第 11 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 10）
- 第 12 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 11）
- 第 13 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 12）
- 第 14 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 13）
- 第 15 回 項目 今後の課題と展望

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	英語コミュニケーション	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	シャルコフ・ロバート				

授業の概要 Through interaction with their classmates, teacher and learning materials used in class, students will work intensively on speaking and listening in English. They will be challenged to use English in a practical and more active way while reviewing the basic structures, tenses and sounds of English. The style of instruction used in class will help students begin to learn how to correct their own English. In addition to class work, students can expect to work approximately one hour on homework every week. / **検索キーワード** English, Communication, Foreign Language

授業の一般目標 Students will learn to USE basic English expressions accurately and with clear pronunciation to tell others what they see, feel, think or have experienced. They will also learn how to ask and respond to questions or statements appropriately and with a certain amount of speed and assertion.

授業の到達目標 / **思考・判断の観点** : To be able to make correct decisions regarding the use of singular/plural, articles, tenses, subject verb agreement, use of pronouns, relationship between speakers, etc. **関心・意欲の観点** : To learn how to use new expressions as well mastering ones already known. **態度の観点** : To actively and assertively use English in class with classmates and teacher. **技能・表現の観点** : To be able to use the expressions and sounds practiced in class correctly and to make timely and appropriate response to questions and statements in English

授業の計画(全体) Classes will meet once weekly. The first two or three classes will be used to help students start using natural English pronunciation and intonation. Following this, students will begin to explore the tense system of English. They will use their own experiences to learn how time relates to tense in English. Then, they will use that know-how to make questions and respond to others' statements. Throughout this time, students will constantly check their understanding of the basic structures of English. Finally, students will work on the timing of questions and responses to others' statements and questions.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Pronunciation 内容 Students will become more aware of the realities of English pronunciation through use of special Word Charts. **授業記録** Students will record any challenging patterns or passages in their notebooks.
- 第 2 回 項目 Pronunciation 内容 Students will have more opportunities to practice English sounds. **授業記録** Same as above.
- 第 3 回 項目 Time and tense 内容 Students will begin exploring present and past tenses using the Verb Chart. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher. These sentences must be true and about themselves. **授業記録** Students will record sentences spoken in class, noting new discoveries, etc.
- 第 4 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the simple past and present tenses. **授業外指示** Same as above. **授業記録** Same as above.
- 第 5 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore present and past progressive. **授業外指示** Same as above. **授業記録** Same as above.
- 第 6 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past progressive and present perfect. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher and 10 questions in the present perfect. **授業記録** Same as above.
- 第 7 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the present perfect progressive. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher. These sentences must be true and about themselves. **授業記録** Same as above.

- 第 8 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past perfect. 授業外指示 Same as above. 授業記録 Students will construct a detailed time line of their day.
- 第 9 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past perfect progressive. 授業外指示 Students will write a short self-introduction which incorporates all of the tenses and structures practiced in class. 授業記録 Students will construct a comparative time line focusing on their and their teacher 's life experiences.
- 第 10 回 項目 Questions 内容 Working in the tenses practiced in class, students will begin constructing yes/no and information questions in each of the eight tenses. These questions will be directed to the teacher. 授業外指示 Based on the answers to the yes/no questions asked in class, students will need to prepare 10 questions designed to get more information about the yes/no answers. 授業記録 Students will record questions and answers to their questions to the teacher.
- 第 11 回 項目 Questions 内容 Same as above 授業外指示 Same as above. 授業記録 Same as above.
- 第 12 回 項目 Questions 内容 Students will expand the activity to include questions to their classmates as well as teacher. 授業外指示 Students will work on anticipating answers to yes/no questions and constructing information questions. 授業記録 Students will record the questions to the their classmates as well as the answers from them.
- 第 13 回 項目 20 Questions 内容 Students will begin to integrate the skills in speaking and answering questions that they have gained in a modified version of 20 Questions. 授業外指示 Students will prepare 5 sentences about things that are interesting facts about themselves, e.g., things they do well, things no one knows about them, etc. 授業記録 Students will record any new or challenging patterns encountered in class.
- 第 14 回 項目 Who is lying? 内容 Students will continue to practice the timing of their questions and or responses in a game-like activity using their homework from the previous week. 授業外指示 Prepare portfolio for the final class. 授業記録 Same as above.
- 第 15 回 項目 Who is lying? 内容 Same as above. 授業記録 Same as above.

成績評価方法 (総合) Students grades will be based on four criteria, class participation, homework, a portfolio of all of their work from in and out of the classroom and attendance. The first criterion, class participation, will be the result of combined teacher and student evaluation done at the end of each class during the term.

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ Students are expected to actively participate in each class, finish each homework assignment and use English when interacting with their teacher and classmates during class.

連絡先・オフィスアワー rjs2@fis.ypu.jp

開設科目	異文化体験実習 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	シャルコフ・ロバート				

授業の概要 Students will use the skills developed in English Communication to study other cultures as well as their own. Specifically, they will participate in a series of guided discussions and question and answer sessions in English with their classmates and people of other cultures about their daily lives and lifestyles. Students will be expected to explain in writing and in speaking what they learn about how culture influences our thoughts as well as behaviors. / 検索キーワード Intercultural Understanding, Intercultural Communication

授業の一般目標 Students will develop their own definition of culture and become aware of a number of specific ways it effects their lives and thinking. They will become more aware of the differences and similarities between theirs and other cultures and through this process learn more about what it means to be Japanese.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : To understand that people of different cultures may view the same object or concept in quite different ways. **思考・判断の観点** : To begin looking at differences and similarities in an objective rather than subjective way **関心・意欲の観点** : To show interest in others ' as well as one 's own culture. **態度の観点** : To actively engage with classmates and guests in English. **技能・表現の観点** : To use skills developed in English Communication to interact with classmates and people from other countries in discussions, etc., in English about culture.

授業の計画 (全体) Classes will meet once a week. Guests from approximately three different countries will be invited to participate in three classes spaced throughout the semester. Students will reflect on the information gathered during those three classes in the class immediately following each. Other classes will be devoted to discussions on various aspects of daily life and how they relate to culture.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 What is culture? 内容 Three or four activities designed to help students make an initial definition of culture. 授業外指示 Short Essay 1- What is culture? 授業記録 Notes from class.
- 第 2 回 項目 How does culture effect the way we view things? 内容 Students will participate in a short experiment that will challenge them to view things in a different way than they are accustomed to. 授業外指示 Short Essay 2- Why are there differences in the way we view things? < BR > Research USA 授業記録 Notes from class.
- 第 3 回 項目 Guest 1- USA 内容 Question and answer session with a guest from the USA. 授業外指示 Short Essay 3- Impressions from class 授業記録 Notes from class.
- 第 4 回 項目 Reflections on Guest 1 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Short Essay 4- What 's in a name? 授業記録 Notes from class.
- 第 5 回 項目 What 's in a name? 内容 Students will present their homework to the class. 授業外指示 Short Essay 5- How does culture influence names? < BR > Research Asian country 授業記録 Notes from class.
- 第 6 回 項目 Guest 2- Asia (予定) 内容 Question and answer session with a guest from a country in Asia. 授業外指示 Short Essay 6- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 7 回 項目 Reflections on Guest 2 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Write a family flowchart in Japanese. 授業記録 Notes from class.

- 第 8 回 項目 Families 内容 A look at the way we talk about and organize our families as related to where we live. 授業外指示 Short Essay 7- Why are American families organized the way they are? 授業記録 Notes from class.
- 第 9 回 項目 Families 内容 A look at extended families and the relationships and obligations within them. 授業外指示 Short Essay 8- Why are Japanese families organized the way they are? < BR > Research African or European country. 授業記録 Notes from class.
- 第 10 回 項目 Guest 3- Africa or Europe (予定) 内容 Question and answer session with a guest from a country in Africa. 授業外指示 Short Essay 9- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 11 回 項目 Reflections on Guest 3 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Research Christmas and develop questions about it. 授業記録 Notes from class.
- 第 12 回 項目 Christmas in the US 内容 Students will use the teacher as a cultural informant to answer their questions about Christmas. 授業外指示 Short Essay 11- Christmas in the US- impressions. < BR > How does your family spend the New Year Holidays? (Shadow writing) 授業記録 Notes from class.
- 第 13 回 項目 New Year in Japan 内容 Students will share their essays in class. They will explain why they celebrate the New Year the ways they do. 授業外指示 Short Essay 12- Why do Japanese people celebrate the New Year Holidays the way they do? 授業記録 Notes from class.
- 第 14 回 項目 Houses in Japan 内容 Students will participate in an activity designed to explore living environments in Japan. 授業外指示 Short Essay 13- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 15 回 項目 Reflections on previous class and synthesis of the semester 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Final Report- Based on our class discussions, etc., what is culture and how does it effect our daily lives? 授業記録 Notes from class.

成績評価方法 (総合) Students will be graded on four criteria, class participation, short essays, a final report and attendance. The class participation criterion will be the result of joint evaluation by the teacher and the students.

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ Students will be expected to prepare for and actively participate in each class as well as complete all homework assignments.

連絡先・オフィスアワー rjs2@fis.ypu.jp

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	情報通信ネットワーク論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 通信ネットワークの仕組み、ネットワークシステムの構成、コミュニケーションおよびセキュリティについて講義し、また、ネットワークの構築およびクライアントの設定に関する実習も行う。

授業の一般目標 通信ネットワークの基本原則およびその利用に関する基本知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 情報通信ネットワークの概要から、インターネットの構成要素やインターネットの各種サービスやネットワーク通信の基本原則の原理などについて講義する。また関連の実習も行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目1.基礎的事項のまとめ
- 第2回 項目2.情報通信ネットワークの概要
- 第3回 項目3.ネットワークの接続方法
- 第4回 項目4.インターネットの構成要素
- 第5回 項目5.インターネットの各種サービス
- 第6回 項目6.ネットワーク通信の基本原則
- 第7回 項目7.通信プロトコルの構成および役割
- 第8回 項目8.IPアドレスとルーティング
- 第9回 項目9.通信のセキュリティ
- 第10回 項目10.暗号の役割とその利用法
- 第11回 項目11.ネットワークの基本構築法
- 第12回 項目12.サーバの構築とその設定
- 第13回 項目13.クライアントの設定項目
- 第14回 項目14.クライアントの設定方法
- 第15回 項目15.総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートなどによる総合評価 = 100%

メッセージ Linux インストール済みのノートパソコンを用意すること

開設科目	情報処理言語 I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 最も一般的なプログラミング言語である C 言語を学習する。文法、変数、関数等の基礎知識を学習した後、実際にプログラミングを行い、ソフトウェア作成の基本的技術を習得する。

授業の一般目標 プログラミングの基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら、新しい課題に取り組もうとしているか？ 態度の観点：出席し、レポートを提出しているか？

授業の計画（全体） 変数，配列，制御，関数，ポインタまで

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語の文法
- 第 2 回 項目 データ型と変数
- 第 3 回 項目 制御構文
- 第 4 回 項目 制御構文 II
- 第 5 回 項目 配列
- 第 6 回 項目 配列 II
- 第 7 回 項目 ポインタ
- 第 8 回 項目 ポインタ II
- 第 9 回 項目 関数
- 第 10 回 項目 関数 II
- 第 11 回 項目 関数 III
- 第 12 回 項目 総合演習
- 第 13 回 項目 総合演習
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ 追試，再試の類は行いません。

開設科目	情報電子回路	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	教育情報処理論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 情報処理技術者試験の基本情報(午前)問題を取り上げ、情報科学・計算機科学の基礎的事項について学ぶ。また、それにかかわる実習を行う。/検索キーワード 基本情報、情報処理技術者試験

授業の一般目標 情報処理技術者試験の基本情報(午前)問題が合格点に達するようになる。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 基本情報に関する知識を蓄える。

授業の計画(全体) 基本情報の午前の問題で要求される内容について説明します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 コンピュータとその利用
- 第3回 項目 ハードウェアの基礎(その1)
- 第4回 項目 ハードウェアの基礎(その2)
- 第5回 項目 ソフトウェアの基礎(その1)
- 第6回 項目 ソフトウェアの基礎(その2)
- 第7回 項目 データ構造(その1)
- 第8回 項目 データ構造(その2)
- 第9回 項目 アルゴリズム(その1)
- 第10回 項目 アルゴリズム(その1)
- 第11回 項目 システム開発と運用
- 第12回 項目 ファイルとデータベース技術
- 第13回 項目 ネットワーク技術
- 第14回 項目 セキュリティ
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験により評価する。なお、情報処理技術者試験合格者は加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書: 基本情報午前, 福嶋宏訓, 新星出版

メッセージ 実習のために、ノートパソコンが必要です。ノートパソコンが必要な時は、前の回に連絡します。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時~15時

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1)教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2)教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3)教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職に関する基礎知識の習得 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを習得

授業の計画(全体) 教職に関する知識を身につけ、意欲を育むために、大学教員による講義・演習、グループ・ディスカッション、現職教員との座談会など、さまざまな形態で授業を展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業計画の説明
- 第2回 項目 今、教師に求められていること 内容 教員の資質、教師になるための4年間(教育学部のカリキュラム)について
- 第3回 項目 現代の子どもと学校・家庭・地域社会 内容 子どもをめぐる現代の状況
- 第4回 項目 教師の実際(1)
- 第5回 項目 教師の実際(2)
- 第6回 項目 教師の実際(3)
- 第7回 項目 グループ・ディスカッション 内容 教師の仕事と私たちの課題
- 第8回 項目 座談会(1) 内容 学校教師と語る教職の魅力(1)
- 第9回 項目 座談会(2) 内容 学校教師と語る教職の魅力(2)
- 第10回 項目 座談会のまとめ 内容 グループ発表
- 第11回 項目 教育実習の仕組みと実際 内容 教育実習のあらまし
- 第12回 項目 教員になるための計画・準備 内容 教員採用試験等について
- 第13回 項目 教育学部における臨床的体験プログラム
- 第14回 項目 総括とまとめ1
- 第15回 項目 総括とまとめ2

成績評価方法(総合) 課題・レポートの提出、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 適宜、紹介する。

メッセージ 教職に関する意欲・知識を育む授業です。積極的かつ真摯にのぞんでください。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職の意義や基礎的知識について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを持つことが出来る。

授業の計画(全体) 学校教員を目指す学生に、教職とは何か、その魅力ややりがいなどを現職教員の体験などもまじえて理解し、教職への希望、意欲指向性などを育む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 今、教職に求められていること
- 第3回 項目 公教育と教員養成の歴史 1
- 第4回 項目 公教育と教員養成の歴史 2
- 第5回 項目 学校の運営および経営 1
- 第6回 項目 学校の運営および経営 2
- 第7回 項目 教育課程と教科指導
- 第8回 項目 教科外指導(道徳、生徒指導)
- 第9回 項目 教員採用への道
- 第10回 項目 教師の職務
- 第11回 項目 学校と家庭
- 第12回 項目 学校と地域社会
- 第13回 項目 総括とまとめ 1
- 第14回 項目 総括とまとめ 2
- 第15回 項目 総括とまとめ 3

成績評価方法(総合) 毎回の授業内のレポート等により評価する。

教科書・参考書 教科書: 適宜紹介する。 / 参考書: 適宜紹介する。

メッセージ 授業には遅刻・欠席をしないこと。意欲的に参加すること。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	幼児教育基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	原 昭徳				

授業の概要 幼稚園教師になるための要件や幼児教育の基礎概念、保育思想の歴史や幼児教育を支える理論を紹介する

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「先生になるには」(幼稚園教諭、保育所保母)
- 第 2 回 項目 幼児教育施設の起源と発想（オーエンの保育園とフレーベルの幼稚園）
- 第 3 回 項目 幼児教育を拓いた人々（関信三、豊田英雄、倉橋惣三など）
- 第 4 回 項目 幼稚園と保育所
- 第 5 回 項目 幼稚園教育要領の変遷と幼稚園教育の実態
- 第 6 回 項目 幼稚園設置基準と幼稚園の施設設備
- 第 7 回 項目 幼稚園指導要録の意義と記入の実際
- 第 8 回 項目 幼児と接するということ
- 第 9 回 項目 戸外活動（散歩）の教育的意義
- 第 10 回 項目 幼稚園教諭、園長の役割と仕事内容
- 第 11 回 項目 幼稚園から小学校へ
- 第 12 回 項目 幼稚園の運営と研修
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： マー君の散歩道, 桑原昭徳, ミネルヴァ書房 / 参考書： 幼稚園教育要領解説, 文部科学省,

開設科目	人間教育学研究法 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	教育学全員				

授業の概要 人間教育学の研究内容と方法に関して、概説する。 / 検索キーワード 研究内容、研究方法

授業の一般目標 人間教育学の研究分野および研究方法に関して理解し、今後の研究視点の基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学、社会教育学の基礎的な学問領域・方法を説明できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学、社会教育学の複数領域の視点から、日常的に教育や子どもの問題に関心をもつことができる。 態度の観点： 1 . 卒業論文を作成することを視野に入れて、教育や子どもの問題を主体的に考察することができる。

授業の計画（全体） 6ゼミの教官が、それぞれの基礎的な学術ターム、研究分野、研究対象などについて概説します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 教育哲学について 1
- 第 3 回 項目 教育哲学について 2
- 第 4 回 項目 教育史について 1
- 第 5 回 項目 教育史について 2
- 第 6 回 項目 教育社会学について 1
- 第 7 回 項目 教育社会学について 2
- 第 8 回 項目 教育方法学について 1
- 第 9 回 項目 教育方法学について 2
- 第 10 回 項目 教育制度学について 1
- 第 11 回 項目 教育制度学について 2
- 第 12 回 項目 社会教育学について 1
- 第 13 回 項目 社会教育学について 2
- 第 14 回 項目 まとめ 1
- 第 15 回 項目 まとめ 2

成績評価方法（総合） 各担当教官がそれぞれ課題を出します。最終評価は、各教官の出した評点をもとに総合的に判断されます。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

メッセージ 人間教育学コースの学生の必修科目であり、今後のゼミ選択の基礎となる講義・演習です。

連絡先・オフィスアワー 各教員に尋ねて下さい。

開設科目	教育哲学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。 / 検索キーワード 教育哲学、シュプランガー、シュタイナー、ドイツ、改革教育運動

授業の一般目標 (1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。(3) シュプランガーの生涯と教育哲学について理解する。(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。3. シュプランガーの生涯と教育哲学について説明できる。4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。 思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。 関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の学問的性格や明治以後の日本の教育哲学研究の変遷や課題について学んだ後、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について考察し、教育の本質的意味や現代的課題について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格 内容 1. 教育哲学を学ぶ意義 2. 教育哲学の学問的性格
- 第 2 回 項目 明治以後の日本の教育哲学研究の動向 内容 1. 明治初期～中期 2. 大正新教育運動 3. 戦前と戦中 4. 戦後
- 第 3 回 項目 日本の教育哲学研究の現状と課題 内容 1. 日本の教育哲学研究の現状 2. 日本の教育哲学研究の課題
- 第 4 回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 1. ドイツ公教育の現状 2. ドイツ公教育の課題
- 第 5 回 項目 ドイツの改革教育運動 内容 1. 改革教育運動の歴史 2. 改革教育運動の特色
- 第 6 回 項目 シュタイナー学校の教育 内容 1. シュタイナー学校の誕生と発展 2. シュタイナー学校の教育の特色
- 第 7 回 項目 シュタイナーの教育哲学(1) 内容 シュタイナーの教育目的論
- 第 8 回 項目 シュタイナーの教育哲学(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第 9 回 項目 シュタイナー学校の授業 内容 生活科、社会科、理科 数学、音楽、オイリュトミーの授業
- 第 10 回 項目 シュタイナー学校の評価 内容 公立学校とシュタイナー学校の評価の相違
- 第 11 回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～ライプツヒ時代
- 第 12 回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学教授期～チュービンゲン時代
- 第 13 回 項目 シュプランガーの教育哲学(1) 内容 教育の3つの概念
- 第 14 回 項目 シュプランガーの教育哲学(2) 内容 1. 6つの個性類型 2. 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 求められる教師像と教員養成, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年; 求められる教師像と教員養成 / 参考書: 使用しない。

メッセージ シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を、彼らが生きた時代背景や生涯を通して生き生きと把握するようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育哲学研究室：教育学部 A 棟 3 階

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上に立って、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画(全体) 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒的発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法(総合) 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された2回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書： 発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30~12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑓幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	障害児福祉総論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児・者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児・者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。/ 検索キーワード 障害児、福祉、地域生活

授業の一般目標 障害児・者福祉の基本原則についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児・者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児・者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。 2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児・者福祉における歴史と現状をふまえて、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 障害児・者福祉の歴史～古代から現代～ 内容 障害児・者福祉の歴史（古代～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 障害児と指導者（学校教師） 内容 初代近江学園長の糸賀一雄（1914～1968）の福祉観を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 児童福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 児童福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 児童福祉法（2）～児童相談所・福祉事務所・保健所の役割～ 内容 支援機関として重要な児童相談所、福祉事務所、保健所の役割について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 人間観と福祉思想 内容 サリドマイド薬禍事件（1962）について説明し、「生きる権利」についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 障害児を育てる親の心情の変容 内容 わが子（障害児）の出生時から学校教育終了時までの親の心情を説明し、その変容についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 知的障害者福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 知的障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 知的障害者福祉法（2）～更生施設・授産施設～ 内容 20世紀の障害者福祉において一定の役割を担ってきた更生施設、授産施設について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 障害者手帳（目的・対象・活用のしかた）・障害者基礎年金・各種福祉手当 内容 障害者福祉において重要な役割を担っている障害者手帳、障害者基礎年金、各種福祉手当等の役割や機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 身体障害者福祉法～目的・対象・施設の役割～ 内容 身体障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 地域生活を支える支援のあり方 内容 通勤寮、グループホーム等の機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 就労生活を支える支援のあり方 内容 就労の意義と、それを支える支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 21世紀の障害児・者福祉の方向性 内容 地域生活を望む声が高まっている事実と、今後の福祉施策の方向性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)パール・バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	心理学実験	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣・某				

授業の概要 心理学の研究に必要な基本概念やデータ収集技法を含む実験の実施と報告書の作成についての実習を行う

授業の一般目標 心理学とは「どのような学問か。」について体験的に理解を深めるとともに、心理学的研究論文作成の基礎的能力の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学の基礎的用語を理解する 思考・判断の観点：データに基づいて、適切に結論を導くことができる 関心・意欲の観点：関連する問題について文献を調べる態度の観点：授業に出席する

授業の計画（全体） 到達目標に向けて、毎週報告書を作成し、全レポートを総合的に評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション（実験のねらい）
- 第 2 回 項目 ミュラーリエル錯視（精神生物学的測定法）
- 第 3 回 項目 メンタルローテーション（視覚的イメージ，反応時間）
- 第 4 回 項目 自由再生（記憶の体制化，学習曲線）
- 第 5 回 項目 集中学習と分散学習（学習法，作業量）
- 第 6 回 項目 概念学習（情報収集の方略）
- 第 7 回 項目 問題解決（問題空間の探索，ヒューリスティック）
- 第 8 回 項目 作成提出された報告書についてのフィードバック
- 第 9 回 項目 感情の生理的变化（皮膚電気反応）
- 第 10 回 項目 イメージの測定（SD 法）
- 第 11 回 項目 テストの作成（項目分析，内的整合性）
- 第 12 回 項目 個人空間（対人距離）
- 第 13 回 項目 保存概念（保存，操作ルール）
- 第 14 回 項目 作成提出された報告書についてのフィードバック
- 第 15 回 項目 全体のまとめ，心理学実験 II に向けて

成績評価方法（総合） 毎回の課題についてのレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：心理学のための実験マニュアル：入門から基礎・発展へ，”利島保，生和秀敏編著”，北大路書房，1993 年；心理学のための実験マニュアル，利島・生和編，北大路書房，1993 年

メッセージ 材料，器具，の都合により教育心理学コースの学生に限定。毎週 1 テーマの実験実施のためのインストラクションを行うので，データ収集は空き時間で行い，その報告書は期限日までに提出することになる。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職に関する基礎知識の習得 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを習得

授業の計画(全体) 教職に関する知識を身につけ、意欲を育むために、大学教員による講義・演習、グループ・ディスカッション、現職教員との座談会など、さまざまな形態で授業を展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業計画の説明
- 第2回 項目 今、教師に求められていること 内容 教員の資質、教師になるための4年間(教育学部のカリキュラム)について
- 第3回 項目 現代の子どもと学校・家庭・地域社会 内容 子どもをめぐる現代の状況
- 第4回 項目 教師の実際(1)
- 第5回 項目 教師の実際(2)
- 第6回 項目 教師の実際(3)
- 第7回 項目 グループ・ディスカッション 内容 教師の仕事と私たちの課題
- 第8回 項目 座談会(1) 内容 学校教師と語る教職の魅力(1)
- 第9回 項目 座談会(2) 内容 学校教師と語る教職の魅力(2)
- 第10回 項目 座談会のまとめ 内容 グループ発表
- 第11回 項目 教育実習の仕組みと実際 内容 教育実習のあらまし
- 第12回 項目 教員になるための計画・準備 内容 教員採用試験等について
- 第13回 項目 教育学部における臨床的体験プログラム
- 第14回 項目 総括とまとめ1
- 第15回 項目 総括とまとめ2

成績評価方法(総合) 課題・レポートの提出、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 適宜、紹介する。

メッセージ 教職に関する意欲・知識を育む授業です。積極的かつ真摯にのぞんでください。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職の意義や基礎的知識について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。

授業の計画(全体) 学校教員を目指す学生に、教職とは何か、その魅力ややりがいなどを現職教員の体験などもまじえて理解し、教職への希望、意欲指向性などを育む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 今、教職に求められていること
- 第3回 項目 公教育と教員養成の歴史 1
- 第4回 項目 公教育と教員養成の歴史 2
- 第5回 項目 学校の運営および経営 1
- 第6回 項目 学校の運営および経営 2
- 第7回 項目 教育課程と教科指導
- 第8回 項目 教科外指導(道徳、生徒指導)
- 第9回 項目 教員採用への道
- 第10回 項目 教師の職務
- 第11回 項目 学校と家庭
- 第12回 項目 学校と地域社会
- 第13回 項目 総括とまとめ 1
- 第14回 項目 総括とまとめ 2
- 第15回 項目 総括とまとめ 3

成績評価方法(総合) 毎回の授業内のレポート等により評価する。

教科書・参考書 教科書: 適宜紹介する。 / 参考書: 適宜紹介する。

メッセージ 授業には遅刻・欠席をしないこと。意欲的に参加すること。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	心理学研究法	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

授業の概要 心理学の理解を深めるためには、その研究方法についての理解が肝要である。心理学の諸領域の各特性に関連が深い方法、領域間で共通する方法について、「測定すること」に焦点化する形で心理学研究法について論考する。

授業の一般目標 心理学の幾つかの領域の諸問題への共通アプローチ法及び個別的なアプローチ法の特徴を知り、実証的な研究のやり方についての枠組みを習得する。

授業の計画(全体) 心理学の研究パラダイムの理解と各領域に関連の深い研究法についての理解を深める。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心理学研究のパラダイム
- 第2回 項目 心理学研究における観察、実験の意義
- 第3回 項目 感覚・知覚領域における測定(1)
- 第4回 項目 感覚・知覚領域における測定(2)
- 第5回 項目 記憶領域における測定(1)
- 第6回 項目 記憶領域における測定(2)
- 第7回 項目 思考・問題解決における測定
- 第8回 項目 集団・対人領域における測定(1)
- 第9回 項目 集団・対人領域における測定(2)
- 第10回 項目 集団・対人領域における測定(3)
- 第11回 項目 発達・教育における測定(1)
- 第12回 項目 発達・教育における測定(2)
- 第13回 項目 発達・教育における測定(3)
- 第14回 項目 心理・臨床のアセスメント(1)
- 第15回 項目 心理・臨床のアセスメント(2)

成績評価方法(総合) 授業中における討論および期末試験の成績で評価する。

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上で、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画（全体） 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒的発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法（総合） 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された 2 回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書： 発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000 年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室 (5449)・水曜日 (10:30 ~ 12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑓幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
 検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	情報数学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 情報科学の基礎となる概念や数学的な考え方を中心に学習する。

授業の一般目標 情報科学の基礎となる集合および代数系の基礎知識を習得する。

授業の計画（全体） 情報科学分野の基礎である集合論やアルゴリズムや有限順序などについて講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 集合の概要
- 第 2 回 項目 集合演算
- 第 3 回 項目 論理と集合
- 第 4 回 項目 対応と集合の直積
- 第 5 回 項目 写像
- 第 6 回 項目 帰納法
- 第 7 回 項目 アルゴリズム
- 第 8 回 項目 四則演算
- 第 9 回 項目 演算と代数系
- 第 10 回 項目 半群と群
- 第 11 回 項目 環
- 第 12 回 項目 体
- 第 13 回 項目 順序集合
- 第 14 回 項目 順序集合と束
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験） = 80 ~ 100 % 未満 出席 = 20 % 未満

教科書・参考書 教科書：情報の基礎離散数学：演習を中心とした, 小倉久和著, 近代科学社, 1999 年; 情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	音楽通論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力を育成する。 / 検索キーワード 楽典、音楽の仕組、説明能力の獲得

授業の一般目標 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力の育成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音楽の概念の獲得、音楽の理論的な仕組みの理解、五線記譜法の基本的な仕組みの知識の獲得、及びその理解 思考・判断の観点：音楽を理論的に考察する能力の獲得 関心・意欲の観点：音楽に対する広い関心の獲得と、積極的に音楽と接する意欲の獲得 態度の観点：音楽、及び芸術全般に対しての畏敬の念、及び尊厳を認める態度の育成 技能・表現の観点：音楽の仕組みを解りやすく説明できる能力の獲得、それに必要な表現手段の獲得

授業の計画(全体) 音楽を理論的に説明する基本的な理由を理解することや、音楽は理論的な体系でもある、という観念を獲得するのは正直なかなかたいへんである。が、およそ一千年以上にも亘って続けられてきたこの営みを理解する事なしには21世紀の音楽を語る事はできないだろう。受講生各位がこの授業内容に多少なりともショックを受けてくれることを期待する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、音の様々な様相の理解
- 第2回 項目 音の物理的な性質と音楽的要素の関連
- 第3回 項目 音と時間との関係・拍、拍子、リズムについて
- 第4回 項目 音律論その1、三分損益とピタゴラス音律
- 第5回 項目 音律論その2、純正律と平均律
- 第6回 項目 五線記譜法と音程 五線記譜法と音程
- 第7回 項目 音階と調性
- 第8回 項目 和音とは何か
- 第9回 項目 和音の機能
- 第10回 項目 コードネームとその命名法のしくみ
- 第11回 項目 旋律と和音の関係
- 第12回 項目 非和声音について
- 第13回 項目 音楽における形式について
- 第14回 項目 音楽のスタイルについて
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験の結果を重視。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎, 芥川也寸志, 岩波書店, 1968年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 中学校までの音楽科の授業内容を完全に理解していること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定

開設科目	基礎デザイン	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 デザインにおける基本的な知識と共に、ノート PC とペイントツールなどを用いた課題制作を中心とした演習を行う。 / 検索キーワード デザイン 美術 グラフィック

授業の一般目標 本講義は上手に絵やイラストを描くことではなく、表現行為の意味やコンピュータ技術との関わりについて理解を深め、ビジュアルコミュニケーションデザインの基礎となる技術の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： ビジュアルコミュニケーションに関しての意味付けと動機について主観的に理解しているか 態度の観点： 携帯メール、私語をせずに講義に集中しているか 技能・表現の観点： 最低限の表現力と自主学習のための手法を修得できているか

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎デザインとは何か 内容 講義
- 第 2 回 項目 2D ペイントによる表現 (その 1) 内容 実習・講義
- 第 3 回 項目 2D ペイントによる表現 (その 2) 内容 実習
- 第 4 回 項目 デジカメによる表現 (その 1) 内容 実習・講評会
- 第 5 回 項目 デジカメによる表現 (その 2) 内容 実習・講義
- 第 6 回 項目 デジカメによる表現 (その 3) 内容 実習・講義
- 第 7 回 項目 3DCG による表現 (その 1) 内容 実習・講義
- 第 8 回 項目 3DCG による表現 (その 2) 内容 実習・講義
- 第 9 回 項目 3DCG による表現 (その 3) 内容 実習・講義
- 第 10 回 項目 作品の評価 内容 講評会
- 第 11 回 項目 作品鑑賞 (その 1) 内容 作品鑑賞
- 第 12 回 項目 作品鑑賞 (その 2) 内容 作品鑑賞
- 第 13 回 項目 CG を用いた応用表現について 内容 講義
- 第 14 回 項目 総評 内容 講義
- 第 15 回 項目 コンピュータを用いたアートワークについて

教科書・参考書 参考書： GIMP フォトレタッチスーパーテクニック, , 晋遊社, 2006 年

メッセージ 絵の完成度よりも、熱意や創意を重視する。

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報通信ネットワーク論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				
<p>授業の概要 通信ネットワークの仕組み、ネットワークシステムの構成、コミュニケーションおよびセキュリティについて講義し、また、ネットワークの構築およびクライアントの設定に関する実習も行う。</p> <p>授業の一般目標 通信ネットワークの基本原則およびその利用に関する基本知識を習得することを目標とする。</p> <p>授業の計画(全体) 情報通信ネットワークの概要から、インターネットの構成要素やインターネットの各種サービスやネットワーク通信の基本原則の原理などについて講義する。また関連の実習も行う。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目1.基礎的事項のまとめ</p> <p>第2回 項目2.情報通信ネットワークの概要</p> <p>第3回 項目3.ネットワークの接続方法</p> <p>第4回 項目4.インターネットの構成要素</p> <p>第5回 項目5.インターネットの各種サービス</p> <p>第6回 項目6.ネットワーク通信の基本原則</p> <p>第7回 項目7.通信プロトコルの構成および役割</p> <p>第8回 項目8.IPアドレスとルーティング</p> <p>第9回 項目9.通信のセキュリティ</p> <p>第10回 項目10.暗号の役割とその利用法</p> <p>第11回 項目11.ネットワークの基本構築法</p> <p>第12回 項目12.サーバの構築とその設定</p> <p>第13回 項目13.クライアントの設定項目</p> <p>第14回 項目14.クライアントの設定方法</p> <p>第15回 項目15.総括</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、レポートなどによる総合評価 = 100%</p> <p>メッセージ Linux インストール済みのノートパソコンを用意すること</p>					

開設科目	情報数学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 情報科学を学ぶための基礎知識のうち，特に線形代数の分野を学習する．

授業の一般目標 行列や行列式の計算法，線形空間の構造，正則行列の性質を理解する．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：線形代数に関する基礎的な知識理解 関心・意欲の観点：線形代数に対する関心意欲

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ベクトル空間
- 第 2 回 項目 1 次独立と 1 次従属
- 第 3 回 項目 計量ベクトル空間
- 第 4 回 項目 正規直交基底
- 第 5 回 項目 部分空間
- 第 6 回 項目 線形写像と行列
- 第 7 回 項目 線形写像と行列の積
- 第 8 回 項目 行列の階数と正方行列
- 第 9 回 項目 行列式
- 第 10 回 項目 正則行列と正方行列のベキ
- 第 11 回 項目 固有値と固有ベクトル
- 第 12 回 項目 エルミット行列と二次形式
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験） = 欠格条件 宿題 / 授業外レポート = 20 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 欠格条件 演習 = 欠格条件 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる．

開設科目	プログラミング言語 I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 最も一般的なプログラミング言語である C 言語を学習する。文法、変数、関数等の基礎知識を学習した後、実際にプログラミングを行い、ソフトウェア作成の基本的技術を習得する。

授業の一般目標 プログラミングの基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら、新しい課題に取り組もうとしているか？ 態度の観点：出席し、レポートを提出しているか？

授業の計画（全体） 変数，配列，制御，関数，ポインタまで

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語の文法
- 第 2 回 項目 データ型と変数
- 第 3 回 項目 制御構文
- 第 4 回 項目 制御構文 II
- 第 5 回 項目 配列
- 第 6 回 項目 配列 II
- 第 7 回 項目 ポインタ
- 第 8 回 項目 ポインタ II
- 第 9 回 項目 関数
- 第 10 回 項目 関数 II
- 第 11 回 項目 関数 III
- 第 12 回 項目 総合演習
- 第 13 回 項目 総合演習
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ 追試，再試の類は行いません。

開設科目	論理回路	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	作・編曲法 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を修得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作から始めて、少し規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などを学習する。

授業の一般目標 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を獲得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作が出来るようになること。多少規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などをマスターすることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実用的和声法の知識の獲得、和声に対する基本的な理解。 思考・判断の観点： 音楽的な思考、及び音楽的な優劣、という価値判断が自分で出来るようになること。 関心・意欲の観点： 様々な音楽作成方法への広汎な関心、様々な作曲手法獲得への意欲。 技能・表現の観点： 音楽的な思考を、楽曲作成という手段で表現できる技能の獲得

授業の計画（全体） 曲がりなりにも作曲という行為が可能になること。作曲は手順さえ踏めば、初歩的なものならば確実に出来るようになります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 和音、和声の復習
- 第 2 回 項目 コードネームの復習
- 第 3 回 項目 旋律の作り方その 1
- 第 4 回 項目 同上その 2
- 第 5 回 項目 伴奏音型とその役割
- 第 6 回 項目 基礎的な音楽形式の復習と理解
- 第 7 回 項目 複合三部形式による器楽曲の作曲その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 変奏曲形式による器楽曲の作曲 その 1
- 第 10 回 項目 同上その 2
- 第 11 回 項目 編曲を行う際に必要な各種楽器に対する基礎知識
- 第 12 回 項目 編曲実践その 1、合唱曲・声楽曲
- 第 13 回 項目 同上その 2、合奏曲・吹奏楽曲 など
- 第 14 回 項目 まとめと発表その 1
- 第 15 回 項目 同上その 2

成績評価方法（総合） 作曲能力の獲得具合、受講態度、興味関心等を総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎、芥川也寸志、岩波書店、1968 年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 音楽は感性のみで出来ている訳ではない。頭腦的、論理的な音楽の見方も身に付けて欲しい。音楽通論の単位取得者、及び相応の力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟 109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	立体造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原一明				

授業の概要 様々な立体造形の基礎として、量感、フォルム、テクスチャー、空間感、動きなどを基礎的材料経験と立体制作を通して、感覚的理論的に学ぶ。

授業の一般目標 (1) 立体の制作を通して、量感、テクスチャーなどの造形要素について体験を通して理解できる。(2) 幾何形体や有機的形態の対比のおもしろさに気づき美しい構成ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な造形要素について説明ができる。 関心・意欲の観点：身近にある造形物に興味や関心をもち鑑賞ができる。 技能・表現の観点：物と空間との関係を考え、立体的に表現することができる。 その他の観点：各課題ごとに作品のプレゼンテーションを行うことにより、自己表現を磨く。

授業の計画(全体) (1) 前半は木材(爪楊枝)を使って線の要素の幾何形体の分割、再構成を行う。(2) 後半はケント紙を使って面的要素の構成を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 スケッチ
- 第 3 回 項目 制作
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 作品仕上げ
- 第 8 回 項目 発表会
- 第 9 回 項目 スライド講義
- 第 10 回 項目 スケッチ
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 作品仕上げ
- 第 15 回 項目 発表会

成績評価方法(総合) (1) 課題作品 2 点の提出。

教科書・参考書 教科書：適時プリント配布 / 参考書：適時プリント配布

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	情報処理演習	区分	演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志・林川基治				

授業の概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。さらに、BASIC 言語を用いてプログラミングの基礎的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード ノートパソコン、WORD、Excel、E-mail、インターネット、BASIC

授業の一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。さらに、BASIC 言語を用いて簡単なプログラムを作成することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算ソフトの利用法：特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。さらに、BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解すること。 思考・判断の観点：表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。 関心・意欲の観点：コンピュータの利用法に興味を持って取り組むことができること。 技能・表現の観点：表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

授業の計画（全体） ノートパソコンを実際に用いて、基本操作を学び、ブラウザ、ワープロ、表計算ソフト、BASIC 言語の使い方を学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 ノートパソコンの基本操作
- 第 3 回 項目 WORD の使い方（基本編）
- 第 4 回 項目 WORD の使い方（応用編）
- 第 5 回 項目 Excel の使い方（基本編）
- 第 6 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 7 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 8 回 項目 BASIC 言語：基礎的事項
- 第 9 回 項目 BASIC 言語：プログラミングの基本
- 第 10 回 項目 BASIC 言語：for 文
- 第 11 回 項目 BASIC 言語：if 文
- 第 12 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 13 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席と課題、期末試験により行う。

教科書・参考書 教科書：WEB 上のテキストを用いる。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	離散数学 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 現代数学での基本概念である集合論・離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標 数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係・関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト・授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論理や集合についての基本的事項、写像、(同値)関係などの概念を正しく理解している。思考・判断の観点：論理や抽象的な概念を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画(全体) 授業は、論理や集合の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、小テストや授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論理
- 第 2 回 項目 集合と包含関係(その 1)
- 第 3 回 項目 集合と包含関係(その 2)
- 第 4 回 項目 和集合と共通部分(その 1)
- 第 5 回 項目 和集合と共通部分(その 2)
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 集合系
- 第 8 回 項目 対応と写像(その 1)
- 第 9 回 項目 対応と写像(その 2)
- 第 10 回 項目 対応と写像(その 3)
- 第 11 回 項目 直積集合と選出公理
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 同値関係と商集合(その 1)
- 第 14 回 項目 同値関係と商集合(その 2) 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：最初の授業のときに通知する。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	物理学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学の基本ともいえる力学分野を学ぶ。 / 検索キーワード 力学

授業の一般目標 簡単な力学現象(放物運動、円運動、振り子、単振動など)が運動方程式で取り扱えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 速度、力、エネルギーなど日常的に使われている言葉を物理学ではどのように定義するか学ぶ。運動方程式を理解する。 思考・判断の観点: 数式を使って自然を記述する方法があることを理解する。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。学期の前半は物理的な概念の形成を主題にして授業を行う。後半は数式を用いながら簡単な微分積分を使い質点系の力学の学習をする。復習を怠ると、後半の授業に困難を感じることもあるので十分注意すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 物理量と単位
- 第 2 回 項目 座標・位置・速度
- 第 3 回 項目 ベクトル
- 第 4 回 項目 力・力の釣り合い
- 第 5 回 項目 運動・加速度
- 第 6 回 項目 運動の法則
- 第 7 回 項目 微分積分
- 第 8 回 項目 運動方程式
- 第 9 回 項目 運動量と運動量 保存則
- 第 10 回 項目 仕事・位置エネルギー
- 第 11 回 項目 エネルギー保存則
- 第 12 回 項目 円運動
- 第 13 回 項目 単振動
- 第 14 回 項目 角運動量
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 毎回の小テストと期末テスト及びレポートによって判断する。小テストは出席も兼ねる。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 必要に応じて授業で指定。

連絡先・オフィスアワー 電話 5343 研究室 222 番

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとするができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとするができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育情報基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとしてUNIXが広く利用されている。この授業では、UNIXの基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：UNIXの利用法を理解すること。 思考・判断の観点：C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点：UNIXの利用法について興味を持つこと。

授業の計画(全体) UNIXの基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX上でのツールを紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに / UNIXの起動と停止
- 第2回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第3回 項目 UNIX C Shell
- 第4回 項目 ViとEmacsエディタ, UNIXの環境設定
- 第5回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第6回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(1)
- 第7回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(2)
- 第8回 項目 C Shellプログラミングの基礎
- 第9回 項目 C Shell変数の利用と演算
- 第10回 項目 C Shellプログラミング(1)
- 第11回 項目 C Shellプログラミング(2)
- 第12回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(1)
- 第13回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(2)
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987年; UNIXプログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985年; たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1990年; 続・たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1993年; プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンにUNIXがインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13時～15時

開設科目	教育情報基礎演習	区分	演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとしてUNIXが広く利用されている。この授業では、UNIXの基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：UNIXの利用法を理解すること。 思考・判断の観点：C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点：UNIXの利用法について興味を持つこと。

授業の計画(全体) UNIXの基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX上でのツールを紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに / UNIXの起動と停止
- 第2回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第3回 項目 UNIX C Shell
- 第4回 項目 ViとEmacsエディタ, UNIXの環境設定
- 第5回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第6回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(1)
- 第7回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(2)
- 第8回 項目 C Shellプログラミングの基礎
- 第9回 項目 C Shell変数の利用と演算
- 第10回 項目 C Shellプログラミング(1)
- 第11回 項目 C Shellプログラミング(2)
- 第12回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(1)
- 第13回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(2)
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987年; UNIXプログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985年; たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1990年; 続・たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1993年; プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンにUNIXがインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13時～15時

開設科目	情報処理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。 / 検索キーワード 情報の表現、演算方式、論理回路

授業の一般目標 2進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。
関心・意欲の観点：情報科学や計算機科学について関心を持つ。

授業の計画(全体) まず、情報の表現方法を学び、さらに演算方式、計算機構成法について学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報量と 2 進数
- 第 2 回 項目 情報の表現と符号
- 第 3 回 項目 誤り検出符号
- 第 4 回 項目 補数
- 第 5 回 項目 絶対値表示を用いた加減算
- 第 6 回 項目 2 の補数を用いた加減算
- 第 7 回 項目 Booth の方法による乗算
- 第 8 回 項目 引き戻し法による除算
- 第 9 回 項目 中間試験
- 第 10 回 項目 論理演算回路とブール代数の基礎
- 第 11 回 項目 論理関数
- 第 12 回 項目 演算回路(その 1)
- 第 13 回 項目 演算回路(その 2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：電子計算機 I, 高浪、井上ほか, 朝倉書店, 1985 年; 新版 情報処理の基礎, 水上孝一, 朝倉書店, 1998 年; 現代電子計算機ハードウェア, 萩原宏、黒住祥祐, オーム社, 1991 年

メッセージ 受講生は共通教育の情報処理概論を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	離散数学 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄 信保				

授業の概要 離散数学 I・集合論 I の履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標 離散数学 I・集合論 I で学んだことをもとに、離散数学のいくつかの話題を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：離散数学的思考法を学ぶ。

授業の計画（全体） 離散数学 I で学んだことをもとに、離散数学の中から話題を選び授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明、集合論 I、離散数学 I の理解度確認試験
- 第 2 回 項目 離散数学 I，集合論 I の復習
- 第 3 回 項目 基礎的事項（ 1 ）
- 第 4 回 項目 基礎的事項（ 2 ）
- 第 5 回 項目 基礎的事項（ 3 ）
- 第 6 回 項目 基礎的事項（ 4 ）
- 第 7 回 項目 基礎的事項（ 5 ）
- 第 8 回 項目 基礎的事項（ 6 ）
- 第 9 回 項目 発展的事項（ 1 ）
- 第 10 回 項目 発展的事項（ 2 ）
- 第 11 回 項目 発展的事項（ 3 ）
- 第 12 回 項目 発展的事項（ 4 ）
- 第 13 回 項目 発展的事項（ 5 ）
- 第 14 回 項目 発展的事項（ 6 ）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 授業中演習、レポート、出席状況、期末試験と合わせて総合的に成績を評価する。

メッセージ 数学を学ぶ上での基礎をやりますので、きちんと理解してください。

開設科目	数学論究 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学周辺のテキストを用いてセミナー形式で授業を行う。

授業の一般目標 代数学に関連するテキストを用いて、輪講形式で授業を行い、数学的な考え方を育成する。発表を担当する学生自らが、テキストの内容に対する考察を、他の学生なり教官の目にさらすことにより、またそれを受講者が批判することにより、理解や考えを深める。併せて、小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の到達目標 / 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。授業における意見発言等による参加。
技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体） 輪講による発表

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度、発表力、表現力。出席 = 欠格条件

メッセージ 受講希望者が多いときは、必修の者を優先し、残りは1年前期の数学の単位を取得した者を優先して その中から抽選で選びます。

開設科目	情報電子回路	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	人体構造機能論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 身体を構成している部分の構造と形態(解剖学)そして部分の働き(生理学)について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。 2. 生体の化学組成について説明できる。 3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。 4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。 思考・判断の観点: 授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。 関心・意欲の観点: 構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 解剖学と生理学の概観
- 第 2 回 項目 個体構成と解剖学用語 内容 個体を構成するレベル 解剖学用語 授業外指示 小テスト1の指示
- 第 3 回 項目 生体の化学組成 I 内容 小テスト1 人体を構成する主要元素 生体の化学組成 1
- 第 4 回 項目 生体の化学組成 II 内容 生体の化学組成 2 授業外指示 小テスト2の指示
- 第 5 回 項目 細胞と組織 内容 小テスト2 細胞概説 人体の組織
- 第 6 回 項目 骨学概論 内容 骨格系の機能 骨の化学組成 骨形成の経過 骨の一般構造
- 第 7 回 項目 体幹の骨格 内容 椎骨の一般構造 と各椎骨の特色
- 第 8 回 項目 体肢の骨格 内容 上肢・下肢の構成
- 第 9 回 項目 関節 内容 関節の一般構造 と各関節の可動性 授業外指示 小テスト3の指示
- 第 10 回 項目 骨格筋の概観 内容 小テスト3 骨格筋の構造 筋線維タイプ
- 第 11 回 項目 筋の機能 内容 筋収縮の諸系 ATPの再合成経路
- 第 12 回 項目 身体運動の諸型 内容 身体運動と骨格 筋の呼称
- 第 13 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 I 内容 体幹の筋群 授業外指示 小テスト4の指示
- 第 14 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 II 内容 小テスト4 体肢の筋群
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数4回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書: 人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999年

メッセージ 学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

開設科目	スポーツ体育情報処理論演習	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点：1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点：1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点：1. 情報倫理を守った行動ができる。2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点：1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。2. データの集計や分析を行うことができる。3. 情報の発信を行うことができる。4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画（全体） 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1（ワープロ入門） 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2（図と表） 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1（ワープロの利用） 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2（アップロードと公開） 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3（HTML 入門） 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1（表計算入門） 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2（データ処理とグラフ作成） 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1（スライドとスライドショー） 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	陸上運動	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目の中から1、2種目を選択し、実能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能・技術獲得の方法を追求する力を高めます。/検索キーワード 陸上競技、短距離走、走り幅跳び、グループ学習

授業の一般目標 中学校体育科における陸上競技の走・跳の実能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。また、それぞれの種目の自己の技術獲得を迫るうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能・技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。思考・判断の観点：運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。関心・意欲の観点：短距離走、走り幅跳びの技能・技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。技能・表現の観点：自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

授業の計画(全体) 中学校体育科における陸上競技の実能力と指導技術を高めることを目的としているが、このことを自ら主体的に達成していけるようにグループづくりから行う。グループができた段階で、取り組む短距離走、走り幅跳びについての授業の仕方について理解し、リーダーを中心としたグループ学習によりそれぞれの種目の技能・技術獲得に向けて活動していく。また、各グループの活動内容と気付きを共有していくために、全体で発表する時間を設ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
 内容 授業の進め方、グループづくり、役割決め、用具の説明 授業外指示 陸上競技場に集合すること
 運動着、運動シューズ 筆記用具必要
- 第2回 項目 短距離走1
50m走の測定 内容 50m走の予測・測定・記録
- 第3回 項目 短距離走2
スタートの仕方 内容 クラウチングスタートの有効性の理解と方法
- 第4回 項目 短距離走3
50m走の測定と分析I 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第5回 項目 短距離走4
50m走の測定と分析II 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第6回 項目 短距離走5
50m走の測定(歩幅) 内容 トップスピードの歩幅の測定
- 第7回 項目 短距離走6
50m走のトップスピードを維持する 内容 トップスピードを維持するためのリズム走の設定と練習
- 第8回 項目 短距離走7
50m走の走法の分析 内容 リズム走におけるタイムトライアルI

および田植え走
- 第9回 項目 短距離走8
各グループの走りの分析 内容 走りの分析と練習方法(気になる走法について追求する)

- 第 10 回 項目 短距離走 9 < BR >まとめ(グループ発表) 内容 短距離走についての各グループの記録の推移と獲得技能・技術、課題の発表
- 第 11 回 項目 走り幅跳び 1 < BR > < BR > 走り幅跳びの測定 内容 走り幅跳びの準備と測定方法
- 第 12 回 項目 走り幅跳び 2 < BR > < BR > 踏み切り後の感覚づくり 内容 踏み切りと踏み切り語の
- 第 13 回 項目 走り幅跳び 3 < BR > < BR > 5 歩助走からの跳躍 内容 中助走からの跳躍 < BR > 5 歩助走からの跳躍
- 第 14 回 項目 走り幅跳び 4 < BR > < BR > 中助走からの跳躍 内容 出発点を決める(マーカーの付け方)
- 第 15 回 項目 走り幅跳び 5 < BR > < BR > 全助走からの跳躍 内容 跳躍の記録会

成績評価方法(総合) 出席 40% 上記の目標の観点に向けた授業への取り組み 40% 最終的な評価対象レポート 20%

教科書・参考書 教科書：各時間ごとに必要な資料を配布します。/ 参考書：各時間ごとに必要な資料を配布します。

メッセージ 陸上競技は個人種目ですが、自分では気付にくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。"みんな"で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

開設科目	健康科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介・山本善積・五島淑子				

授業の概要 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する今日的な話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。 / 検索キーワード 健康、生活、運動、食生活、住生活

授業の一般目標 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する科学的な視点で捉え、その概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、運動、食生活、住生活の場で実践できる、問題や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 健康と運動のかかわりについて説明できる 2 健康と食生活のかかわりについて説明できる 3 健康的な住生活について説明できる 思考・判断の観点： 1 健康と運動のかかわりについて考察できる。 2 健康と食生活のかかわりについて考察できる。 3 健康と住生活のかかわりについて考察できる。 関心・意欲の観点： 1 運動に関心を広げ、実践できる。 2 食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。 3 住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。 態度の観点： 1 健康について主体的に改善をはかるうとする。

授業の計画（全体） 健康と運動のかかわり、健康と食生活のかかわり、および健康的な住生活について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 健康科学の視点
- 第 2 回 項目 現代社会と健康
- 第 3 回 項目 健康と運動
- 第 4 回 項目 健康づくりのための運動処方
- 第 5 回 項目 レポート演習（1）
- 第 6 回 項目 健康とは
- 第 7 回 項目 健康と食生活
- 第 8 回 項目 日本人の食生活の諸問題
- 第 9 回 項目 のぞましい食生活
- 第 10 回 項目 レポート演習（2）
- 第 11 回 項目 健康的な住まいの基本－日照、通風
- 第 12 回 項目 住まいの健康問題－シックハウス、換気
- 第 13 回 項目 住環境の安全問題－家庭内外の事故
- 第 14 回 項目 健康的な住生活－健康を守る取り組み
- 第 15 回 項目 レポート演習（3）

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポート及び出席状況とを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	人体構造機能論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊, 曾根涼子				

授業の概要 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経・感覚器官・呼吸循環器 官・泌尿器官・内分泌器官などについて概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経・感覚器官・呼吸循環器 官・泌尿器官・内分泌器官などについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各器官の構造と機能について理解し、説明することができる。
 思考・判断の観点： 運動による各器官の機能変化などについて推論することができる。 関心・意欲の
 観点： 各器官の構造と機能について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 血液成分と造血 機能
- 第 2 回 項目 血液成分と止血 機構
- 第 3 回 項目 内分泌器系の仕 組み
- 第 4 回 項目 生体とホルモン 調節
- 第 5 回 項目 生体防御機構
- 第 6 回 項目 泌尿器系
- 第 7 回 項目 血液・内分泌・生体防御・泌 尿器系のまとめ
- 第 8 回 項目 神経・感覚器系
- 第 9 回 項目 循環器系・
- 第 10 回 項目 循環器系・
- 第 11 回 項目 呼吸器系
- 第 12 回 項目 消化器系
- 第 13 回 項目 生殖器系
- 第 14 回 項目 神経・呼吸循環 器系・消化器 系・生殖器系の まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠 席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名のいずれもが以上の 評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書・参考書 教科書：人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著 ; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999 年 ; エレイン・N・マリーブ著：人体の構造と機能 (医学書院)

メッセージ 本授業科目は、上級学年で履修する専門科目の基礎科目であり、非常に大切 な科目の一つです。

開設科目	ボールゲーム I	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。

授業の一般目標 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 思考・判断の観点： ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫をしながら取り組むことができる。 態度の観点： チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。

授業の計画（全体） 前半は、他の球技系と種目と比較してハンドボ-の競技特性理解する。後半では、学校の体育授業で指導するための教材づくり、ルールづくりそして指導過程作りに関して教授する。

成績評価方法（総合） 技術や戦術またルールづくりや教材づくりに関する課題レポート、最終レポートおよび出席状況等で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： ハンドボ - ル指導教本, 日本ハンドボ - ル協会, 大修館書店, 1996 年

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	スポーツ原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクティヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。 / 検索キーワード 体育・スポーツ哲学 体育・スポーツ思想

授業の一般目標 次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかを考査する。1. 体育とスポーツの概念、2. 近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3. 身体とコミュニケーション 4. スポーツの文明化について、5. 身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6. オリンピズム、7. アマチュアリズム、8. スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代体育・スポーツの特性とその変遷について説明することができる。遊戯論(プレイ論)から、近代体育・スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。思考・判断の観点：スポーツ事象を多元的的角度から捉え、分析することができる。スポーツ思想について事象を指摘し、説明することができる。アマチュアリズム、アスレティズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。関心・意欲の観点：実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容にひきつけて考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 体育学・スポーツ科学体系
- 第 2 回 項目 2. 体育とスポーツ
- 第 3 回 項目 3. 近代体育・スポーツの概念とその定義
- 第 4 回 項目 4. 身体とコミュニケーション (1)
- 第 5 回 項目 5. 身体とコミュニケーション (2)
- 第 6 回 項目 6. 身体とコミュニケーション (3)
- 第 7 回 項目 7. スポーツの文明化 (1)
- 第 8 回 項目 8. スポーツの文明化 (2)
- 第 9 回 項目 9. 身体文化論のパースペクティヴ (1)
- 第 10 回 項目 10. 身体文化論のパースペクティヴ (2)
- 第 11 回 項目 11. オリンピズムと近代体育・スポーツ (1)
- 第 12 回 項目 12. オリンピズムと近代体育・スポーツ (2)
- 第 13 回 項目 13. プレイ理論 (1)
- 第 14 回 項目 14. プレイ理論 (2)
- 第 15 回 項目 15. まとめ及び試験

成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 授業態度や授業への参加度 = 20~40%

教科書・参考書 教科書：プリント配布。プリントの内容は、以下の参考書による。 / 参考書：スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム(ちくま新書；047), 多木浩二著, 筑摩書房, 1995年；黒い輪：権力・金・クスリ オリンピックの内幕, ヴィヴ・シムソン, アンドリュー・ジェニングズ著；広瀬隆

監訳”, 光文社, 1992 年; ホモ・ルーデンス, J・ホイジンガ(高橋英夫訳), 中央公論社, 1983 年; 遊戯とスポーツ, H・レールス(長谷川守男監訳), 玉川大学出版部, 1987 年; 身体の零度 何が近代を成立させたか, 三浦雅士, 講談社選書メチエ, 1994 年; スポーツと現代アメリカ, アレン・グットマン(清水哲男訳), TBS ブリタニカ, 1981 年; スポーツを考える, 多木浩二, ちくま新書, 1995 年 黒い輪: 権力・金・クスリ, ヴィヴ・シムソン/アンドリュー・ジェニングズ(広瀬隆監訳), 光文社, 1992 年 上記の図書は主要なもののみ。ガイダンス時に、テキスト及び参考書の一覧表を配布する。

メッセージ 「体育・スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体育・スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	衛生学公衆衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の健康に影響を及ぼす各種要因(食・環境・社会等)と疾病との関連や各種疾病に対する予防・対策並びに健康の現状及びその指標について講義する。

授業の一般目標 健康の維持増進や病気の予防のためにはどうすればよいのか、病気を引き起こす要因は何であるかを学び、自らの健康は自ら守るという考え方を養う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公衆衛生学の概要 病気の予防
- 第 2 回 項目 健康レベル現状人口静態・動態統計
- 第 3 回 項目 疫学 病気の原因を探る
- 第 4 回 項目 感染症(1) 感染源・感染経路・感受性
- 第 5 回 項目 感染症(2) 各種の感染症
- 第 6 回 項目 精神保健 心の病気
- 第 7 回 項目 環境保健(1) 生活環境
- 第 8 回 項目 環境保健(2) 公害
- 第 9 回 項目 母子保健
- 第 10 回 項目 成人・老人保健(1) 生活習慣病と老人保健
- 第 11 回 項目 成人・老人保健(2) 生活習慣病と老人保健
- 第 12 回 項目 産業(職場)保健(1) 職業と病気
- 第 13 回 項目 産業(職場)保健(2) 職業の作業環境・健康管理
- 第 14 回 項目 社会保障のシステム(1) 医療・保健
- 第 15 回 項目 社会保障のシステム(2) 社会福祉

教科書・参考書 教科書: イラスト公衆衛生学, 石川哲也 ほか, 東京数学社, 2005年 / 参考書: プリントを配布する。

開設科目	スポーツ社会学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 この授業では、現代社会における体育やスポーツを一つの社会制度としてとらえ、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について概説する。また、社会構造の中で体育やスポーツがどういう位置を占め、どういう機能を果たすのかについても概説する。 / 検索キーワード 体育、スポーツ、社会学

授業の一般目標 (1) 現代社会における社会現象としての体育やスポーツの問題・事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。(2) 現代社会における体育やスポーツの問題について関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会現象としての体育やスポーツ問題の状況、背景について説明できる。 思考・判断の観点：社会現象としての体育やスポーツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：スポーツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常生活の中でスポーツ問題について主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 現代スポーツの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第3回 項目 人はどのようにしてスポーツを行うようになるのか。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第4回 項目 日本におけるスポーツクラブの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第5回 項目 スポーツ文化としての「みるスポーツ」。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第6回 項目 スポーツと商業主義。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第7回 項目 スポーツ・ドピングを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第8回 項目 スポーツと暴力を考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第9回 項目 スポーツとジェンダー。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第10回 項目 スポーツ・ボランティアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第11回 項目 スポーツとメディアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第12回 項目 生涯スポーツを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第13回 項目 スポーツ社会学の必要性を考える。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。

第14回 項目 スポーツの文化システム。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。

第15回 項目 スポーツの社会システム。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施し評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書：今日からはじめるスポーツ社会学，”森川貞夫，依田充代編著”，共栄出版，2001年；スポーツの社会学(講座・スポーツの社会科学；1)，”池田勝，守能信次編”，杏林書院，1998年；「今日から始めるスポーツ社会学」森川貞夫，共栄出版，2001年「スポーツの社会学」池田勝・守能信次，杏林書院，1999年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部162番室 電話：933-5376 E-mail:y Miyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	人体構造機能論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 身体を構成している部分の構造と形態(解剖学)そして部分の働き(生理学)について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。 2. 生体の化学組成について説明できる。 3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。 4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。 思考・判断の観点: 授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。 関心・意欲の観点: 構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 解剖学と生理学の概観
- 第 2 回 項目 個体構成と解剖学用語 内容 個体を構成するレベル 解剖学用語 授業外指示 小テスト1の指示
- 第 3 回 項目 生体の化学組成 I 内容 小テスト1 人体を構成する主要元素 生体の化学組成 1
- 第 4 回 項目 生体の化学組成 II 内容 生体の化学組成 2 授業外指示 小テスト2の指示
- 第 5 回 項目 細胞と組織 内容 小テスト2 細胞概説 人体の組織
- 第 6 回 項目 骨学概論 内容 骨格系の機能 骨の化学組成 骨形成の経過 骨の一般構造
- 第 7 回 項目 体幹の骨格 内容 椎骨の一般構造 と各椎骨の特色
- 第 8 回 項目 体肢の骨格 内容 上肢・下肢の構成
- 第 9 回 項目 関節 内容 関節の一般構造 と各関節の可動性 授業外指示 小テスト3の指示
- 第 10 回 項目 骨格筋の概観 内容 小テスト3 骨格筋の構造 筋線維タイプ
- 第 11 回 項目 筋の機能 内容 筋収縮の諸系 ATPの再合成経路
- 第 12 回 項目 身体運動の諸型 内容 身体運動と骨格 筋の呼称
- 第 13 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 I 内容 体幹の筋群 授業外指示 小テスト4の指示
- 第 14 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 II 内容 小テスト4 体肢の筋群
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数4回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書: 人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999年

メッセージ 学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

開設科目	食生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。 / 検索キーワード 食文化 食生活

授業の一般目標 (1) 食文化を学ぶ意義・目的を理解する。(2) 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。(3) 現代の食生活の問題点を理解する。(4) 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 食文化とは何かについて説明できる。2 世界および日本の食文化について理解する。3 食文化の研究の意義を理解する。 思考・判断の観点: 1 食文化に関する自分の意見を論理的に述べるができる。2 現代の食生活の問題点を述べるができる。 関心・意欲の観点: 1 食文化に関する関心を広げ、食に対する問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1 日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 食文化を学ぶ目的を説明し、主食、肉食、乳利用の食文化について講義する。さらに現代の食生活について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 食文化を学ぶとは
- 第 2 回 項目 生活様式と食
- 第 3 回 項目 主食の条件
- 第 4 回 項目 肉食の文化
- 第 5 回 項目 乳利用の文化
- 第 6 回 項目 食品加工の知恵
- 第 7 回 項目 食事行動・宗教 と食のタブー
- 第 8 回 項目 ヨーロッパの食文化
- 第 9 回 項目 料理のお国柄
- 第 10 回 項目 現代の食生活 1 内容 子どもの食生活 1
- 第 11 回 項目 現代の食生活 2 内容 子どもの食生活 2
- 第 12 回 項目 現代の食生活 3 内容 高齢者の食生活
- 第 13 回 項目 食生活の問題点
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 最後に課題レポートを課す。出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書: なぜひとりで食べるの, 足立己幸・NHK「おはよう広場」, 日本放送出版協会, 1983年; 食文化入門, 石毛直道・鄭大聲編, 講談社, 1995年; 知っていますか子どもたちの食卓, 足立己幸・NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2000年; 変わる家族 変わる食卓, 岩村暢子, 勁草書房, 2003年; 65歳からの食卓, 足立己幸・松下佳代・NHK「65歳からの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2004年; 和食と日本文化, 原田信男, 小学館, 2005年; 食の文化を知る事典, 岡田 哲, 東京堂出版, 1998年

メッセージ ビデオ教材を使用します。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー: 金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	衣生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。 / 検索キーワード 衣生活、被服、洗濯

授業の一般目標 日常生活のなかで、普段なにげなく身に付けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。 2. 洗剤の種類と役割を説明できる。 3. 品質表示の意味を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 目的に合った衣類を選択できる。 2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。 関心・意欲の観点： 衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ 態度の観点： 授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

授業の計画(全体) 衣料に関して、歴史・文化(ファッション)から物理的視点、化学的視点へと多角的に解説する。特に日々の生活の中で失敗や惑いが多いと思われる洗浄については、時間を多く取る予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人と衣服との関わり
- 第 2 回 項目 被服気候
- 第 3 回 項目 衣料用素材の種類
- 第 4 回 項目 織物とは
- 第 5 回 項目 繊維製品の品質表示
- 第 6 回 項目 天然染料と合成染料
- 第 7 回 項目 汚れと洗浄
- 第 8 回 項目 家庭洗濯
- 第 9 回 項目 ドライクリーニング
- 第 10 回 項目 衣服の傷み
- 第 11 回 項目 洗浄剤と漂白剤
- 第 12 回 項目 よくある洗濯事故
- 第 13 回 項目 衣服に使用される化学物質
- 第 14 回 項目 環境汚染
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業の中で3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：自作テキストを配布する。 / 参考書：洗たくの科学, 花王生活科学研究所編, 裳華房, 1989年; 衣生活論, 中島利誠編著, 光生館, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 石けん屋さんが書いた石けんの本, 三木春逸・三木晴雄, 山水社, 1992年

メッセージ 1年生対象の概論科目である。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 教育学部 300号室

開設科目	消費生活概論(家庭経済学を含む。)	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小林 京子				

授業の概要 我が国の消費生活の変容、家計について理解するとともに現代の消費者問題の背景・要因について理解する。その上で、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。/検索キーワード 家計 消費生活 消費者問題 消費者契約 消費者権利 消費者基本法

授業の一般目標 高度経済成長後の我が国の消費生活の特徴、現代の消費者問題、消費者政策等を理解し、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することが出来たか。（家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者など）思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることが出来るか。（消費者の権利・責任の観点から）関心・意欲の観点：消費者問題に関心・意欲を持つことが出来たか。態度の観点：授業の態度が真面目であったか。技能・表現の観点：課題レポートが分かりやすく書かれていたか。その他の観点：出席状況

授業の計画(全体) 前半は、我が国の消費生活の特徴と勤労世帯および高齢者世帯の家計について学習する。後半は、現代の消費者問題を取り上げ、その背景や要因について理解し、自立した消費者について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 変貌するわが国 < BR > の消費生活
- 第 2 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (1)
- 第 3 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (2)
- 第 4 回 項目 高齢者世帯の家 < BR > 計
- 第 5 回 項目 中間試験 < BR > - これまでのま < BR > とめ -
- 第 6 回 項目 消費者とは
- 第 7 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (1) < BR > 背景・要因
- 第 8 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (2) < BR > 権利と責任
- 第 9 回 項目 消費者契約法に < BR > ついて
- 第 10 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (1)
- 第 11 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (2)
- 第 12 回 項目 商品・サービス < BR > の安全をめぐる < BR > 問題
- 第 13 回 項目 商品・サービス < BR > の表示をめぐる < BR > 問題
- 第 14 回 項目 環境問題と消費 < BR > 生活
- 第 15 回 項目 期末試験 < BR > - 真に豊かな消 < BR > 費生活文化・様 < BR > 式に向けて -

成績評価方法(総合) 定期試験、出席状況を勘案して行う。知識・理解(家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者について) 思考・判断(現代の消費者問題について、その要因・背景の明確化) 技術・表現(課題レポートの記述) 関心・意欲・態度(授業の態度、消費者問題への関心・意欲)

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

メッセージ 今日の消費者問題の情報を常に入手しておくこと。

備考 集中授業

開設科目	健康科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介・山本善積・五島淑子				

授業の概要 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する今日的な話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。 / 検索キーワード 健康、生活、運動、食生活、住生活

授業の一般目標 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する科学的な視点で捉え、その概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、運動、食生活、住生活の場で実践できる、問題や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 健康と運動のかかわりについて説明できる 2 健康と食生活のかかわりについて説明できる 3 健康的な住生活について説明できる 思考・判断の観点： 1 健康と運動のかかわりについて考察できる。 2 健康と食生活のかかわりについて考察できる。 3 健康と住生活のかかわりについて考察できる。 関心・意欲の観点： 1 運動に関心を広げ、実践できる。 2 食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。 3 住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。 態度の観点： 1 健康について主体的に改善をはかるうとする。

授業の計画（全体） 健康と運動のかかわり、健康と食生活のかかわり、および健康的な住生活について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 健康科学の視点
- 第 2 回 項目 現代社会と健康
- 第 3 回 項目 健康と運動
- 第 4 回 項目 健康づくりのための運動処方
- 第 5 回 項目 レポート演習（1）
- 第 6 回 項目 健康とは
- 第 7 回 項目 健康と食生活
- 第 8 回 項目 日本人の食生活の諸問題
- 第 9 回 項目 のぞましい食生活
- 第 10 回 項目 レポート演習（2）
- 第 11 回 項目 健康的な住まいの基本－日照、通風
- 第 12 回 項目 住まいの健康問題－シックハウス、換気
- 第 13 回 項目 住環境の安全問題－家庭内外の事故
- 第 14 回 項目 健康的な住生活－健康を守る取り組み
- 第 15 回 項目 レポート演習（3）

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポート及び出席状況とを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	生活化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村上清文・和泉研二・源田智子				

授業の概要 無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標 無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。 関心・意欲の観点： 化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

授業の計画（全体） 無機化学、有機化学および物理化学の各領域で5週づつ講義を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに - 化学の領域 -
- 第 2 回 項目 原子の構造と元素の周期表
- 第 3 回 項目 化学変化と原子・分子
- 第 4 回 項目 水溶液とその性質
- 第 5 回 項目 化学平衡
- 第 6 回 項目 無機物質の種類とその性質
- 第 7 回 項目 有機化合物の種類とその性質
- 第 8 回 項目 天然の化合物と合成品
- 第 9 回 項目 新素材の化学とその利用
- 第 10 回 項目 地球環境と化学
- 第 11 回 項目 物質の状態
- 第 12 回 項目 エネルギー、仕事、熱
- 第 13 回 項目 熱力学第一法則と状態関数
- 第 14 回 項目 化学現象を熱的・エネルギー的にとらえることの意義
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992年； 岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』, 桜井秀樹, 岩波書店, 2001年

開設科目	食品衛生学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。/検索キーワード 食品の安全性、食中毒、食品添加物、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン

授業の一般目標 この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィット・リスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日の重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。 ・代表的な細菌性食中毒について説明できる。 ・食品添加物についてベネフィット・リスク論を構築できる。 ・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。 思考・判断の観点： 食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。 関心・意欲の観点： 日常の食生活との関わりの中、食の安全性を考えることができるようになる。 態度の観点： 個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。 技能・表現の観点： 食の安全性については、個人個人がどのような考え方をもちかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 1） 内容 ・授業のガイダンス・水俣病事件の検証 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 2） 内容 ・カネミ油症事件の検証・ヒ素粉ミルク事件の検証・イタイイタイ病事件の検証 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 3 回 項目 細菌性食中毒 1 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 4 回 項目 細菌性食中毒 2 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 5 回 項目 自然毒・化学性食中毒 内容 ・代表的な自然毒（フグ、キノコ等）や化学物質による食中毒について解説
- 第 6 回 項目 食品添加物について 内容 食品添加物についてその概要を説明 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 7 回 項目 食品添加物とその問題点 内容 食品添加物の問題点について考える
- 第 8 回 項目 ベネフィット・リスク論の構築（食品添加物） 内容 食品添加物についての自分なりの考えを構築する
- 第 9 回 項目 ディベート（食品添加物について） 内容 受講生全員で、食品添加物をテーマに、ディベート形式の討論を行う
- 第 10 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 主に環境ホルモンについてその現状と問題点を解説する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 11 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 第 10 週に同じ 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する

- 第 12 回 項目 食物と環境（遺伝子組換え食品とクローン技術） 内容 遺伝子組換え技術やクローン技術について解説し、その光と陰を考えながら、これからの食を考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 13 回 項目 食物と環境（環境変異原物質等） 内容 身近な環境変異原物質を取り上げ、解説し、さらにそれらの作用を抑制してくれる物質についても紹介する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 14 回 項目 輸入食品について・食品の安全の重要性 内容 食品輸入の実態と問題点を特に安全性の面から考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 食の安全性について、これまでのまとめを行う

メッセージ この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

開設科目	住生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 今日の住生活には便利さや快適さとあわせて、地球環境への影響が少なく、持続できることが求められる。住生活の諸側面で生じる問題や課題をとらえ、それらに対処・実践する方法やよりよい住生活の仕方を学ぶ。住生活が生活財や住まい空間、住環境などと関わり、住生活の向上のためにそれらとの関係の改善が必要なことを理解する。そして、よりよい関係を住生活様式として築いていくための課題を考える。 / 検索キーワード 持続可能な生活様式を考える。

授業の一般目標 住生活の諸側面（生活財の利用面、経済的側面、空間的側面、時間的側面など）での課題を理解する。その上で、持続可能な住生活様式について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住生活の諸側面での一般的な課題について説明できる。 2. 生活財を購入、利用、廃棄する際に留意することがわかる。 思考・判断の観点： 1. 住生活に関する調査結果をもとに、改善すべきことを考察できる。 2. 生活様式がもたらす地球環境や持続性への影響を判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 住生活にとどまらず、食生活や衣生活を含んだ生活全般の改善に関心を広げ、実践できる。 態度の観点： 1. 自らの住生活に引き寄せて思考し、主体的に住生活の改善をはかろうとする。

授業の計画（全体） 授業全体は次の5つをテーマとしてすすめる。 1. 生活財の利用と生活、 2. 生活財の購入と家計、 3. 生活空間と住様式、 4. 生活財の廃棄とごみ問題、 5. 今後の住生活

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代の住生活の課題
- 第 2 回 項目 家族と住生活
- 第 3 回 項目 住生活の物的側面 生活財の増加
- 第 4 回 項目 生活財と生活様式
- 第 5 回 項目 住生活の経済的側面 家計
- 第 6 回 項目 家計からみた住生活の問題
- 第 7 回 項目 住生活の空間的側面 住まいの空間
- 第 8 回 項目 住様式
- 第 9 回 項目 住み方
- 第 10 回 項目 住生活の廃棄面 ごみ問題
- 第 11 回 項目 家庭ごみと環境問題
- 第 12 回 項目 持続可能な生活様式
- 第 13 回 項目 住生活の時間的側面 生活時間
- 第 14 回 項目 住生活の設計
- 第 15 回 項目 地域生活とのつながり

成績評価方法（総合） 出席状況、具体的な住生活の調査に基づく思考とさらに持続可能な住生活様式の考察を求めるレポート（2回）によって評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 1ヶ月間家計簿を付けたりして、自らの住生活を点検してみよう。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	児童学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 乳幼児の心身の発達について講義する。保育記録とVTR記録をもとに、幼児の特性に応じた関わりの基本を学ぶ。絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児期の発達の特徴がわかったか 思考・判断の観点： 幼児の行動の見方が広がり、かかわり方について考えることができたか 関心・意欲の観点： 幼児や子どもに対する関心が深まったか 絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に意欲や関心を抱くようになったか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに オリエンテーション 絵本紹介 1
- 第 2 回 項目 絵本「ひとまねこざる」に見る子ども性」 さくらんぼ坊や 1
- 第 3 回 項目 エリックカールの作品に見る子どもの成長 さくらんぼ坊や 2
- 第 4 回 項目 幼児の成長について アリサのテーブル拭き 林明子の絵本
- 第 5 回 項目 動く紙おもちゃの製作 1 遊びレポートの作成
- 第 6 回 項目 ヤングアダルト絵本「セーターになりたかった毛糸玉」 さくらんぼ坊や 3
- 第 7 回 項目 動く紙おもちゃの製作 2 虹のトムボーイ
- 第 8 回 項目 遊びレポート 分析 幼児の遊びと発達
- 第 9 回 項目 昔話絵本を考える「さるかに話を知っていますか？」
- 第 10 回 項目 幼児の発信とその読み
- 第 11 回 項目 「サンタクロースはほんとうにいるの？」 クリスマスと子ども
- 第 12 回 項目 4 歳児の世界 論文「ベイブレード遊びにおける 4 歳児の自己充実と仲間関係」を読む
- 第 13 回 項目 5 歳児の世界 論文「子どもの立ち直りを支える保育行為」を読む
- 第 14 回 項目 さくらんぼ坊や 4 幼児期から学童期へ
- 第 15 回 項目 さくらんぼ坊や 5 まとめ

教科書・参考書 参考書： 育児日記からの子ども学, 友定啓子, 勁草書房, 1996 年 ; 子どもの心を支える, 村田陽子, 勁草書房, 1999 年 ; 幼児の笑いと言語, 友定啓子, 勁草書房, 1993 年

開設科目	メディア情報教育	区分	その他	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点：1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点：1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点：1. 情報倫理を守った行動ができる。2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点：1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。2. データの集計や分析を行うことができる。3. 情報の発信を行うことができる。4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画（全体） 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1（ワープロ入門） 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2（図と表） 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1（ワープロの利用） 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2（アップロードと公開） 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3（HTML 入門） 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1（表計算入門） 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2（データ処理とグラフ作成） 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1（スライドとスライドショー） 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	アジア・アフリカ言語文化入門Ⅱ	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。その後、リンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。/
検索キーワード アフリカ、リンガラ語

授業の一般目標 リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。 関心・意欲の観点：アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。 技能・表現の観点：初歩的なリンガラ語を話すことができる。

授業の計画(全体) アフリカで話されている言語についての基礎的な知識をまず学ぶ。その後、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。次に、リンガラ語を話している人たちの文化について歌やことわざを通して学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アフリカで用いられている言語の分類
- 第 2 回 項目 アフリカの多民族国家における言語使用
- 第 3 回 項目 スワヒリ語とスワヒリ文化
- 第 4 回 項目 リンガラ語文法(1)発音、主辞と動詞
- 第 5 回 項目 リンガラ語文法(2)be動詞と挨拶
- 第 6 回 項目 リンガラ語文法(3)動詞の時制による変化
- 第 7 回 項目 リンガラ語文法(4)不規則活用の動詞
- 第 8 回 項目 リンガラ語文法(5)接頭辞と数字
- 第 9 回 項目 リンガラ語文法(6)疑問詞
- 第 10 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(1)
- 第 11 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(2)
- 第 12 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(3)
- 第 13 回 項目 リンガラ語のことわざ(1)
- 第 14 回 項目 リンガラ語のことわざ(2)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末試験と授業の内容に関する小レポートを数回課し、それらにより評価する。特別な理由なく5回以上欠席したものは失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業ではプリントを用いる。 / 参考書：アフリカをフィールドワークする, 梶茂樹, 大修館書店, 1993年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 266号室 オフィスアワー 随時

開設科目	欧米言語文化入門 III	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 現在経済のグローバル化が以前にも増して進行し、世界各国・地域の企業や人々と仕事(ビジネス)をせざるをえなくなっている。その際文化等の違いにより摩擦が生ずることもしばしばある。そこで日本と欧米のビジネスにおける慣行・慣習等の違いを知って、摩擦を最小限にする必要がある。本講義では、日本と欧米のビジネス慣行・慣習等の違いを学んで、ビジネスが円滑にできるようにする。

授業の一般目標 日本と欧米のビジネス慣行・慣習等(文化)の違いを学んで、ビジネスが円滑にできるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等について説明できる。 思考・判断の観点: 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等の違いやその摩擦の解決策について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点: 日常生活の中で国際ビジネスに関わる問題に関心を持つ。

授業の計画(全体) 日本と欧米のビジネス慣行・習慣等についての比較検討を行う。その際、講義と平行して受講者を数グループに分けて、欧米のビジネス慣行・習慣等を調べ報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 商取引の開始について
- 第 2 回 項目 名刺について
- 第 3 回 項目 挨拶について
- 第 4 回 項目 紹介について
- 第 5 回 項目 その他の文化的相違点について I(お辞儀、服装)
- 第 6 回 項目 その他の文化的相違点について II(社交、主婦の役割等)
- 第 7 回 項目 取引関係の維持と育成、継続について
- 第 8 回 項目 営業マンの機能について
- 第 9 回 項目 販売テクニックと人間関係について
- 第 10 回 項目 給料と動機付けについて
- 第 11 回 項目 賃金について(I)
- 第 12 回 項目 賃金について(II)
- 第 13 回 項目 グループ意識について
- 第 14 回 項目 意思決定のプロセスについて(I)
- 第 15 回 項目 意思決定のプロセスについて(II)

成績評価方法(総合) (1) 毎回 2 組(1 組 2 人)が各国のビジネス慣行・習慣等を調べて報告(1 組 2 回)する (評価 30%) (2) 最終報告をする(評価 70%)

開設科目	国際文化学基礎講義 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	国文全員				

授業の概要 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。 / 検索キーワード プレゼンテーション、PowerPoint、ディスカッション

授業の一般目標 PowerPoint を用いてわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。
 思考・判断の観点：各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。
 関心・意欲の観点：各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。 態度の観点：自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 技能・表現の観点：PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

授業の計画（全体） まず、PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法を概説する。次に、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 1 内容 PowerPoint の使い方を復習する。
- 第 2 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 2 内容 プレゼンテーションの構成や留意点を説明する。
- 第 3 回 項目 学生によるプレゼンテーション 1 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 4 回 項目 学生によるプレゼンテーション 2 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 5 回 項目 学生によるプレゼンテーション 3 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 6 回 項目 学生によるプレゼンテーション 4 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 7 回 項目 学生によるプレゼンテーション 5 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 8 回 項目 学生によるプレゼンテーション 6 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 9 回 項目 学生によるプレゼンテーション 7 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 10 回 項目 学生によるプレゼンテーション 8 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 11 回 項目 学生によるプレゼンテーション 9 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 12 回 項目 学生によるプレゼンテーション 10 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 13 回 項目 学生によるプレゼンテーション 11 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 学生によるプレゼンテーション 12 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国際文化学基礎講義 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	国文全員				

授業の概要 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。 / 検索キーワード プレゼンテーション、PowerPoint、ディスカッション

授業の一般目標 PowerPoint を用いてわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。
 思考・判断の観点：各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。
 関心・意欲の観点：各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。 態度の観点：自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 技能・表現の観点：PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

授業の計画（全体） まず、PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法を概説する。次に、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 1 内容 PowerPoint の使い方を復習する。
- 第 2 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 2 内容 プレゼンテーションの構成や留意点を説明する。
- 第 3 回 項目 学生によるプレゼンテーション 1 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 4 回 項目 学生によるプレゼンテーション 2 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 5 回 項目 学生によるプレゼンテーション 3 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 6 回 項目 学生によるプレゼンテーション 4 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 7 回 項目 学生によるプレゼンテーション 5 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 8 回 項目 学生によるプレゼンテーション 6 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 9 回 項目 学生によるプレゼンテーション 7 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 10 回 項目 学生によるプレゼンテーション 8 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 11 回 項目 学生によるプレゼンテーション 9 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 12 回 項目 学生によるプレゼンテーション 10 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 13 回 項目 学生によるプレゼンテーション 11 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 学生によるプレゼンテーション 12 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国文学 I I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代日本の主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解を深めようとするため、多くの小説を読んでレポートを提出することを要求するので、かなりハードな授業になる。

授業の一般目標 芸術作品を概念的に把握するための基本的契機である内容、素材、形式の相互関連を把握し、その歴史的 position と特性を理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 芸術作品を把握するための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点： 文学作品を、内容、素材、形式の相互関連において分析できる。 技能・表現の観点： 文学作品を分析的に把握し、レポートで表現することができる。

授業の計画（全体） 作品分析の前提となる基本的知識を説明し、その事例を具体的な作品分析を通じて例示、検証する。レポートを課し、理解状況を確認、評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小説読解の基礎
- 第 2 回 項目 本居宣長
- 第 3 回 項目 明治 20 年代 1
- 第 4 回 項目 明治 20 年代 2
- 第 5 回 項目 自然主義 1
- 第 6 回 項目 自然主義 2
- 第 7 回 項目 夏目漱石
- 第 8 回 項目 森 鷗外
- 第 9 回 項目 白樺派 1
- 第 10 回 項目 白樺派 2
- 第 11 回 項目 プロレタリア文学 1
- 第 12 回 項目 プロレタリア文学 2
- 第 13 回 項目 新感覚派 1
- 第 14 回 項目 新感覚派 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポート = 50 % 期末レポート = 50 %

開設科目	美術理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 とくに西洋における過去の美や芸術の理論を概観し、美術史学の成立までを概説することによって、作品を観ること、創ること、まねることを考察する。

授業の一般目標 (1) 美や芸術の思想の歴史的流れを理解する。(2) それぞれの時代における美や芸術の考え方の基本やその形成のされ方を把握する。(3) 現代における美や芸術の考え方を理解する上での基礎づくりをめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：過去の美や芸術に関する思想のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点：美や芸術という概念について、考察し、それらに対する自らの認識を形成していく。 関心・意欲の観点：美や芸術に対する基本的な考え方に関心をもつ。

授業の計画(全体) 古代の美や芸術に関する思想の紹介からはじまり、中世、ルネッサンス以降、19世紀までの美や芸術の思想を概観し、近代へとつなげながら、美学や美術史学の成立などについても言及する。最後はそれらの知識、考察をもとに実作品の分析を行なってみる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 アイデア論
- 第3回 項目 ミメーシスについて
- 第4回 項目 中世の美意識
- 第5回 項目 精神と自然
- 第6回 項目 大陸合理論とイギリス経験論
- 第7回 項目 主観主義と反主観主義
- 第8回 項目 カントの趣味判断
- 第9回 項目 追体験と追創造
- 第10回 項目 純粹可視性
- 第11回 項目 図像解釈学
- 第12回 項目 美術史学の成立
- 第13回 項目 芸術観照と大衆文化
- 第14回 項目 美術作品実地研修
- 第15回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 授業の最後に実作品の実地研修をし、これまでの授業内容をふまえた上で作品分析を行なってもらう。(1200字×3枚以上) 出席については、所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回レジュメを配布する。参考図書はその都度紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	書道 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書について学習する。(用筆法、基本点画、結体) 楷書を習うことによって技術の修得を計
る。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 楷書の技術を高める。書写の指導力を身につける。

授業の計画(全体) 用筆法、基本点画、結体について 実技指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楷書について
- 第 2 回 項目 姿勢、執筆、用筆法 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 3 回 項目 結体法、配字 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 4 回 項目 横画、縦画 内容 半紙に練習
- 第 5 回 項目 転折、はね 内容 半紙に練習
- 第 6 回 項目 点法、はらい 内容 半紙に練習
- 第 7 回 項目 「空雲」を書く 内容 半紙に練習
- 第 8 回 項目 「風光」を書く 内容 半紙に練習
- 第 9 回 項目 「遠近」を書く 内容 半紙に練習
- 第 10 回 項目 筆順について 内容 ミニテスト、半紙練習
- 第 11 回 項目 「天地和同」を書く 内容 半紙に練習
- 第 12 回 項目 「竹聲松影」を書く 内容 半紙に練習
- 第 13 回 項目 「登山臨水」を書く 内容 半紙に練習
- 第 14 回 項目 「玉雪開花」を書く 内容 半紙に練習
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 提出作品を評価する。

開設科目	哲学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。 / 検索キーワード
 アイデア界と現象界、エロース、畜群、神の死

授業の一般目標 ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得ること。 思考・判断の
 観点：ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：ヨーロッパ文化の
 基礎的的思想的理解への関心を喚起すること。 態度の観点：ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う
 こと。 技能・表現の観点：ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） ドゥルーズのニーチェを読み進めながら、ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点
 から明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキスト、評価の方法等
- 第 2 回 項目 ニーチェ
- 第 3 回 内容 ニーチェの生涯 1
- 第 4 回 内容 ニーチェの生涯 2
- 第 5 回 内容 ニーチェの哲学 1
- 第 6 回 内容 ニーチェの哲学 2
- 第 7 回 内容 ニーチェの哲学 3
- 第 8 回 内容 ニーチェの世界観
- 第 9 回 内容 哲学者とは
- 第 10 回 内容 哲人ディオニュソス
- 第 11 回 内容 力への意志
- 第 12 回 内容 価値転換
- 第 13 回 内容 永劫回帰
- 第 14 回 内容 狂気について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の理解度レポートと最終の試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：ニーチェ, ドゥルーズ, ちくま学芸文庫

開設科目	文芸風土実習	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育に関連した課題を設定して、実地調査を行う。調査計画立案・調査票作成など、調査に関するすべての必要事項を受講生全員の話し合いにより計画する。その後、実際に現地に調査に出かけ、報告書をまとめる。日程は、おおよそ2泊3日。11月下旬に実施されることが多いが、詳細は話し合いで決定する。 / 検索キーワード 実地調査

授業の一般目標 研究課題を設定し、実地調査を体験することによって、研究の仕方を身につけ、研究への関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題に関する基礎知識を得る。 思考・判断の観点：課題に関して得た基礎知識と実際に行った調査の比較検討をする。 関心・意欲の観点：調査を行おうとする関心・意欲を示す。 態度の観点：進んで調査地で資料収集や聞き取りをすることができる。 技能・表現の観点：調査結果を口頭や文章にまとめることができる。

授業の計画（全体） 受講者全員の話し合いにより具体的計画を立て、実地調査を実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 調査方法の解説
- 第3回 項目 課題設定
- 第4回 項目 調査内容の検討
- 第5回 項目 現地調査準備(1)
- 第6回 項目 現地調査準備(2)
- 第7回 項目 現地調査準備(3)
- 第8回 項目 現地調査準備(4)
- 第9回 項目 現地調査等(1)
- 第10回 項目 現地調査等(2)
- 第11回 項目 現地調査等(3)
- 第12回 項目 調査報告(1)
- 第13回 項目 調査報告(2)
- 第14回 項目 調査報告(3)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 報告書及び調査活動への参加状況により評価する。

メッセージ 事前に周到な計画を立て、主体的に実地調査を実施してください。

連絡先・オフィスアワー hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	漢文学講読	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史に関わる古典をいくつか選択して、漢文訓読法を講じつつ、出席者全員で丁寧に読解する。 / 検索キーワード 漢文訓読法、説話

授業の一般目標 (1) 精確な漢文訓読・現代日本語訳を行うための知識・技術を養う。そのために、まずは漢和辞典を何遍も引く習慣を身につけるようにする。(2) 中国古代の物の考え方や価値観についての関心・教養を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 適度な訓読の力を備え、文章を精確に理解しているか。 思考・判断の観点： 文章に説かれる内容を、その内容に即しつつ、自分なりの批判・評価ができるか。

授業の計画(全体) 1 ガイダンス 2～3 テキスト読解の仕方の解説 4～15 テキストの読解テキストの読解に当たっては、予習の段階で、書き下し文とその現代日本語訳とを用意してもらうが、レジメを提出してもらうか口頭発表によるかは、受講者の人数を勘案して決めたい。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキストの読解の 仕方の解説
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 テキストの読解・解説
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。

教科書・参考書 教科書： テキスト用のプリントを授業中に配布する。 / 参考書： 授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を有効に使えるよう、訓練する習慣をつけたい。

連絡先・オフィスアワー hidekiko@yamaguchi-u.ac.jp 4階・漢文学研究室 11:50 より 12:50 まで、及び課外の時間。

開設科目	映画史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 映画は、世界を大衆化した最初のマス・メディアである。それは、新聞など印刷技術を利用した先行のマス・メディアが文字という局所的に有効な構成要素によって成立していたのに対して、映画が映像という一種の普遍的な構成要素によって成立していたことによる。この講義では、世界に開かれた/世界を開いたマス・メディアとしての映画の特性をふまえて、日本における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標 この講義では、日本における映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクシ ョ ン
- 第 2 回 項目 日本映画第 1 次黄 金期（ 1 ）映画ス ター
- 第 3 回 項目 日本映画第 1 次黄 金期（ 2 ）映画作 家
- 第 4 回 項目 日本映画と戦争
- 第 5 回 項目 日本映画第 2 次黄 金期（ 1 ）松竹
- 第 6 回 項目 日本映画第 2 次黄 金期（ 2 ）東宝
- 第 7 回 項目 日本映画第 2 次黄 金期（ 3 ）大映
- 第 8 回 項目 日本映画第 2 次黄 金期（ 4 ）東映
- 第 9 回 項目 日本映画第 2 次黄 金期（ 5 ）日活
- 第 10 回 項目 撮影所以後の日本 映画（ 1 ）1970 年代
- 第 11 回 項目 撮影所以後の日本 映画（ 1 ）1980 年代
- 第 12 回 項目 撮影所以後の日本 映画（ 1 ）1990 年代
- 第 13 回 項目 新世紀の日本映画
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 参考書：日本映画史 100 年，四方田犬彦，集英社，2000 年；映画の文法 日本映画のショット分析，今泉容子，彩流社，2004 年；映画史を学ぶクリティカル・ワーズ，村山匡一郎，フィルムアート社，2003 年；シネマ 2・時間イメージ，ジル・ドゥルーズ，法政大学出版局，2006 年

開設科目	書道 II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書のいろいろな字を練習。字配り、大きさに気をつけて5～6字を一紙にまとめることに習熟する。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 正しく整った楷書が美しく書けることと、いろいろな字面の言葉を紙面に調和よく収めることができる力を身につける。

授業の計画(全体) 実技を主として毎回楷書5～字を手本によって半紙に練習する。清書一枚を提出。

学部共通科目「総合演習」

開設科目	人権教育総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	外山英昭 他				

授業の概要 各教官が各自の専門研究、人生経験を通して持った人権問題を取り上げ問題提起し、続いて学生相互で討論して深める。CAPプログラム(子どもへの暴力防止プログラム)を取り上げ、今日の子どもたちの有効な人権教育のあり方を探る。

授業の一般目標 さまざまな人権問題の検討を通して、人権問題に対する捕らえ方や人権教育のあり方について自分なりの考えを持つことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 身近な人権問題についての理解を深める。 思考・判断の観点: 身近な人権問題について自分なりの考えを持つことができる。 関心・意欲の観点: 身近な人権問題について関心を持つことができる。 態度の観点: 学生同士の討論に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点: 問題提起された人権問題について、自分の考えを適切にレポートにまとめることができる。

授業の計画(全体) オリエンテーションのあと、CAPプログラム(子どもへの暴力防止プログラム)を取り上げ、今日の子どもたちの有効な人権教育のあり方を探る。つづいて、各教官が各自の専門研究、人生経験を通して持った人権問題を取り上げ問題提起し、続いて学生相互で討論して深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 外山英昭 内容 自己表現について
- 第2回 項目 CAPプログラム 宮原久美子 内容 ワークショップの実施
- 第3回 項目 CAPプログラム 宮原久美子 内容 CAPプログラム の検討
- 第4回 項目 人権の歴史を考える森下徹 内容 人権の歴史
- 第5回 項目 人権の歴史を考える森下徹 内容 人権の歴史
- 第6回 項目 見えるものと見えないもの 笠井伸一 内容 見えるものと見えないもの
- 第7回 項目 いじめ不登校問題を考える 大石英史 内容 いじめ不登校問題
- 第8回 項目 いじめ不登校問題を考える 大石英史 内容 いじめ不登校問題
- 第9回 項目 日本の戦争の実態 吉田貴富 内容 日本の戦争の実態
- 第10回 項目 平和と人権 松原幸恵 内容 平和と人権
- 第11回 項目 平和と人権 松原幸恵 内容 平和と人権
- 第12回 項目 まとめ 内容 まとめ
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) CAPプログラムに関する講義の感想提出と授業の出欠などで 50点。 5人の教員が取り上げた講義内容より、2テーマ選びレポートをまとめる。50点

開設科目	国際理解総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑 他				

授業の概要 国際理解・異文化理解・自国文化理解・平和・人権、国際理解教育の教育理念・目標・政策や教育現場の実情等のテーマで、各講師の講義を受ける。

授業の一般目標 国際理解・異文化理解・自国文化理解・平和・人権、国際理解教育の教育理念・目標・政策や教育現場の実情についての理解を深める。

授業の計画(全体) 国際理解・異文化理解・自国文化理解・平和・人権、国際理解教育の教育理念・目標・政策や教育現場の実情等のテーマで、毎回、各講師の講義を受ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 導入(松谷 緑)
- 第2回 項目 国際理解教育の教育政策の変遷(石井由里)
- 第3回 項目 異文化と自国文化の理解(1)東南アジアを中心として(福田隆真)
- 第4回 項目 同上(2)欧米文化を中心として(小粥 良)
- 第5回 項目 異文化におけるプレゼンテーション技術(林 徳治)
- 第6回 項目 映像で見る異文化理解(武井暁子)
- 第7回 項目 留学生の適応と社会的支援(堂野 佐俊)
- 第8回 項目 言葉から見た異文化理解(前田 満)
- 第9回 項目 異文化理解とコミュニケーション(松谷 緑)
- 第10回 項目 人種/民族からみた学校(佐々木 司)
- 第11回 項目 異文化理解(某)
- 第12回 項目 異文化理解(某)
- 第13回 項目 異文化理解(某)
- 第14回 項目 異文化理解(某)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 毎回の授業における出席状況と授業で示される課題による総合評価

開設科目	情報教育総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 共通教育「情報処理」の受講を前提として、さらに高度なコンピュータの扱い方を学習する。ここでは世間に広く普及しているホームページの作り方を基礎から学習し、自分のホームページを作ることが出来るようにする。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Web のしくみ
- 第 2 回 項目 とりあえず作ってみる
- 第 3 回 項目 テキストのタグ < font … > 文字の大きさや色をいろいろと変える
- 第 4 回 項目 背景の色や模様を入れる
- 第 5 回 項目 写真や図を入れる
- 第 6 回 項目 表を作る
- 第 7 回 項目 リンクを張る
- 第 8 回 項目 ホームページに書き込む情報倫理や概念
- 第 9 回 項目 自分の好きなホームページを作る 1
- 第 10 回 項目 自分の好きなホームページを作る 2
- 第 11 回 項目 自分の好きなホームページを作る 3
- 第 12 回 項目 自分の好きなホームページを作る 4
- 第 13 回 項目 自分の好きなホームページを作る 5
- 第 14 回 項目 自分の好きなホームページを作る 6
- 第 15 回 項目 自分の好きなホームページを作る 7

開設科目	環境と生活総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤本章、村上清文、武田賢治、山本善積、福田 廣、阿濱 茂樹				

授業の概要 この授業は、前半と後半に分けて進める。前半は、6人の教員（澤本、武田、村上、福田、山本、阿濱）が自然環境、社会環境および生活環境などの具体的な問題を専門の立場から取り上げて講義する。後半は、各教員のテーマごとに希望に応じて学生が分かれ、少人数の演習形式の授業をする。

授業の一般目標 現代の環境と生活との関わりを総合的に理解し、認識を深めるとともに環境に対する意識を高めることを目標とした演習を行う。

授業の計画（全体） 各教員の授業テーマは以下の通りである。 第1週～第8週 澤本章「技術の発達と環境」、武田賢治「森林環境教育」、村上清文「環境としての科学」、福田廣「新しい環境への適応」、山本善積「ゴミの少ない住生活」 第9週 班分けおよび各演習の導入 第10週～第15週 班ごとの演習課題

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教員の講義
- 第2回 項目 教員の講義
- 第3回 項目 教員の講義
- 第4回 項目 教員の講義
- 第5回 項目 教員の講義
- 第6回 項目 教員の講義
- 第7回 項目 教員の講義
- 第8回 項目 教員の講義
- 第9回 項目 班分けおよび各演習の導入
- 第10回 項目 班ごとの演習課題
- 第11回 項目 班ごとの演習課題
- 第12回 項目 班ごとの演習課題
- 第13回 項目 班ごとの演習課題
- 第14回 項目 班ごとの演習課題
- 第15回 項目 班ごとの演習課題

成績評価方法（総合） 出席、授業への取り組みおよびレポート内容から判断する。

メッセージ 後半の演習課題については、前半部の授業で出席した教員・テーマの中から希望を出し、各班6名を限度とする。

開設科目	健康と生活総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎 他				

授業の概要 この授業は、教育学部共通科目および教職科目（総合演習）として、実施する。授業では、日常生活でおこなう様々な行為と健康ともかかわりを、「食と健康」「運動と健康」「こころと健康」「子どもと健康」などの観点から、その現状を把握し、そこに存在しているさまざまな課題の解決に向けての考察を行う。/ 検索キーワード 生活 健康 食 運動 こころ 子ども 児童虐待 身体活動 喫煙 酒 循環調節

授業の一般目標 日常中で行うさまざまな行為や遭遇することがらを、健康という観点から考えられようになり、その中に存在する種々の課題についてそれを解決するための努力をすることができるようになる。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 食の情報を読む
- 第 3 回 項目 健康と喫煙
- 第 4 回 項目 有酸素運動と健康—ウォーキングの効用
- 第 5 回 項目 身体活動と健康
- 第 6 回 項目 こころの健康—虐待児と発達性強調運動障害の事例を通して
- 第 7 回 項目 行動変容技法
- 第 8 回 項目 健康保持のための筋力トレーニングの必要性
- 第 9 回 項目 日常の身体活動の違いと運動時の循環調節
- 第 10 回 項目 子どもの生活現実と健康課題
- 第 11 回 項目 飲酒と健康
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）出席、課題へのレポート等で、それぞれの教官毎に評価し、それを合計して全体評価とする。

教科書・参考書 教科書：各教官毎に授業に必要なプリントを配布する。

メッセージ 日常生活の中で起こるさまざまな事柄を、健康という観点から考えられるようになって、それを残された大学生活の中でも生かして欲しい。

開設科目	国際文化総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞方 昇 他				

授業の概要 第一回目に貞方がオリエンテーションを行い、受講学生を「A班」「B班」「C班」の三つに分ける。それぞれの班では、様々な専門分野の3名の教員が連続で三週ずつ担当する。授業の形式は各教員によって異なるが、各教員ごとにテーマを決めて、学生による発表を伴う演習形式が主である。

授業の一般目標 世界各地の社会や文化、さらにグローバル化の問題やその日本との関わりについて、各教員が定めたテーマに従い、学生が調べ、発表をし、またそれをもとに教員や他の学生を含めてディスカッションをおこなうことによって、これらの問題について総合的に学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界各地の社会や文化、さらに、現在進行しつつあるグローバル化における問題について理解を深める。 思考・判断の観点：世界各地の社会や文化、さらに、現在進行しつつあるグローバル化における問題について、たくさんの情報から適切なものを選び出し、それに基づいて適切に判断できるようになる。 関心・意欲の観点：世界各地の社会や文化、もしくは出来事を自分の遠い世界で起きている他人事であると思うのではなく、自分自身にも関係のある事柄として関心を持つようになる。 技能・表現の観点：世界各地の社会や文化、さらに、現在進行しつつあるグローバル化における問題について、情報を集める能力を得るとともに、それを他人に理解できるように発表する技能を獲得する。

授業の計画（全体） 第一回目に貞方がオリエンテーションを行い、受講学生を「A班」「B班」「C班」の三つに分ける。それぞれの班では、様々な専門分野の3名の教員が連続で三週ずつ担当する。教員が設定するテーマは「エジンバラを見て、山口を考える」「グローバル化とスポーツ」「ドイツの思想と文化」「老子とハイデガーに見る自然」「アフリカを知る」「外国で日本はどのように教えられているか～イギリスの地理の教科書に見る日本」「日本の学校教育における「国際文化」の学習とカリキュラム」「Overview of World Cultural Geography」である。週別の計画において、班別の担当者および担当順番を変更する可能性がある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと班分け（貞方 昇）
- 第 2 回 項目 「A班」岡村康夫：「ドイツの思想と文化」 B班池田恵子：「グローバル化とスポーツ」 「C班」荒木一視：「外国で日本はどのように教えられているか」
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回 項目 「A班」貞方昇：「エジンバラを見て、山口を考える」 「B班」ミホバ・D.J.：「Overview of World Cultural Geography」 「C班」北西功一：「アフリカを知る」
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回 項目 A班吉川幸男：「日本の学校教育における「国際文化」の学習とカリキュラム」 「B班」岩本光悦：「老子とハイデガーに見る自然」 C班斎藤完：「音楽は世界の共通語なのか」
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 各担当教員が出席および発表に基づいて評価したものを足し合わせて、評価とする。

教科書・参考書 教科書：各教員が必要な場合に指示する。 / 参考書：各教員が必要な場合に指示する。

メッセージ 各班とも3名の先生の演習となるので、受講生は様々な分野と出会うことになるが、十分に咀嚼して欲しい。その意味でも、ゆえなく欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	表現と創造総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿 他				

授業の概要 自ら参加する場面も取り入れながら、広く表現活動・芸術活動について考えていく。

授業の一般目標 広く表現活動・芸術活動についての考えを深めるとともに、創造性・感性を育む。

授業の計画(全体) 言語表現・音楽表現など、いくつかの表現領域について、複数の担当者により、分担して授業を行う。

成績評価方法(総合) 出席や各担当者によって出される課題等により、総合して評価する。

開設科目	自然と社会総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫 他				

授業の概要 9月下旬に徳地町少年自然の家における2泊3日の合宿研修と、山口大学教育学部で1日、合計4日間の集中講義で実施する。授業は講義と体験実習によって行う。この授業の目標は、総合的な学習の指導方法の習得である。合宿中の授業は、午前中に講義、午後は体験実習を中心に行う。山口県林業指導センターと徳地町社会福祉協議会の協力によって授業を進める。 / 検索キーワード 総合演習

授業の一般目標 野外体験を通して自然と社会に関する現代的課題を見だし、総合的な学習の指導方法を修得して、指導力の向上をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：高齢化によって生まれている農山村の諸問題に関する理解 思考・判断の観点：課題を発見し分析する能力と思考力 関心・意欲の観点：与えられた課題について積極的に取り組む姿勢 態度の観点：積極的に授業に参加し、協力して課題に取り組む態度 技能・表現の観点：課題を分析して、分かりやすい図表やイラストを用いて文章に表現する力

授業の計画(全体) 夏休みの後半(9月)に4日間の集中講義で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総合的な学習とは1 内容 総合的な学習のねらいと概要
- 第2回 項目 農山村の社会問題 内容 日本の人口ピラミッドと人口構成の未来予測
- 第3回 項目 農山村の社会問題 内容 山口県内の農山村
- 第4回 項目 農山村の社会問題 内容 森林の荒廃
- 第5回 項目 森林体験1 内容 森林を体験するフィールド学習1
- 第6回 項目 森林体験2 内容 森林を体験するフィールド学習2
- 第7回 項目 森林体験3 内容 森林を利用したゲーム
- 第8回 項目 農山村を活性化する計画づくり1 内容 KJ法を用いて森林を生かした社会づくりを考える(班活動)
- 第9回 項目 農山村を活性化する計画づくり2 内容 KJ法を用いて森林を生かした社会づくりを考える(班活動)
- 第10回 項目 農山村を活性化する計画づくり3(発表) 内容 KJ法を用いて森林を生かした社会づくりを考える(班活動)
- 第11回 項目 高齢化した農山村の福祉活動1 内容 徳地町における福祉活動
- 第12回 項目 高齢化した農山村の福祉活動2 内容 徳地町における福祉活動
- 第13回 項目 単語連想法による授業評価 内容 単語連想法による授業評価方法を学ぶ
- 第14回 項目 単語連想法による授業評価 内容 単語連想法による授業評価方法を学ぶ
- 第15回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 授業での活動状況とレポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：森林・林業・木材産業「そこが知りたい」、林野庁、全国林業改良普及協会、2007年；定価600円

メッセージ 総合演習は「総合的な学習」の指導方法を学ぶ科目です。この授業では、高齢化が進んだ農山村をフィールドにして総合的な学習を行うノウハウを学びます。

備考 集中授業

教職（教科又は教職）に関する科目

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職に関する基礎知識の習得 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを習得

授業の計画(全体) 教職に関する知識を身につけ、意欲を育むために、大学教員による講義・演習、グループ・ディスカッション、現職教員との座談会など、さまざまな形態で授業を展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業計画の説明
- 第2回 項目 今、教師に求められていること 内容 教員の資質、教師になるための4年間(教育学部のカリキュラム)について
- 第3回 項目 現代の子どもと学校・家庭・地域社会 内容 子どもをめぐる現代の状況
- 第4回 項目 教師の実際(1)
- 第5回 項目 教師の実際(2)
- 第6回 項目 教師の実際(3)
- 第7回 項目 グループ・ディスカッション 内容 教師の仕事と私たちの課題
- 第8回 項目 座談会(1) 内容 学校教師と語る教職の魅力(1)
- 第9回 項目 座談会(2) 内容 学校教師と語る教職の魅力(2)
- 第10回 項目 座談会のまとめ 内容 グループ発表
- 第11回 項目 教育実習の仕組みと実際 内容 教育実習のあらまし
- 第12回 項目 教員になるための計画・準備 内容 教員採用試験等について
- 第13回 項目 教育学部における臨床的体験プログラム
- 第14回 項目 総括とまとめ1
- 第15回 項目 総括とまとめ2

成績評価方法(総合) 課題・レポートの提出、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 適宜、紹介する。

メッセージ 教職に関する意欲・知識を育む授業です。積極的かつ真摯にのぞんでください。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職の意義や基礎的知識について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを持つことが出来る。

授業の計画(全体) 学校教員を目指す学生に、教職とは何か、その魅力ややりがいなどを現職教員の体験などもまじえて理解し、教職への希望、意欲指向性などを育む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 今、教職に求められていること
- 第3回 項目 公教育と教員養成の歴史 1
- 第4回 項目 公教育と教員養成の歴史 2
- 第5回 項目 学校の運営および経営 1
- 第6回 項目 学校の運営および経営 2
- 第7回 項目 教育課程と教科指導
- 第8回 項目 教科外指導(道徳、生徒指導)
- 第9回 項目 教員採用への道
- 第10回 項目 教師の職務
- 第11回 項目 学校と家庭
- 第12回 項目 学校と地域社会
- 第13回 項目 総括とまとめ 1
- 第14回 項目 総括とまとめ 2
- 第15回 項目 総括とまとめ 3

成績評価方法(総合) 毎回の授業内のレポート等により評価する。

教科書・参考書 教科書: 適宜紹介する。 / 参考書: 適宜紹介する。

メッセージ 授業には遅刻・欠席をしないこと。意欲的に参加すること。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとするができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育哲学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。 / 検索キーワード 教育哲学、シュプランガー、シュタイナー、ドイツ、改革教育運動

授業の一般目標 (1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。(3) シュプランガーの生涯と教育哲学について理解する。(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。3. シュプランガーの生涯と教育哲学について説明できる。4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の学問的性格や明治以後の日本の教育哲学研究の変遷や課題について学んだ後、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について考察し、教育の本質的意味や現代的課題について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格 内容 1. 教育哲学を学ぶ意義 2. 教育哲学の学問的性格
- 第 2 回 項目 明治以後の日本の教育哲学研究の動向 内容 1. 明治初期～中期 2. 大正新教育運動 3. 戦前と戦中 4. 戦後
- 第 3 回 項目 日本の教育哲学研究の現状と課題 内容 1. 日本の教育哲学研究の現状 2. 日本の教育哲学研究の課題
- 第 4 回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 1. ドイツ公教育の現状 2. ドイツ公教育の課題
- 第 5 回 項目 ドイツの改革教育運動 内容 1. 改革教育運動の歴史 2. 改革教育運動の特色
- 第 6 回 項目 シュタイナー学校の教育 内容 1. シュタイナー学校の誕生と発展 2. シュタイナー学校の教育の特色
- 第 7 回 項目 シュタイナーの教育哲学(1) 内容 シュタイナーの教育目的論
- 第 8 回 項目 シュタイナーの教育哲学(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第 9 回 項目 シュタイナー学校の授業 内容 生活科、社会科、理科 数学、音楽、オイリュトミーの授業
- 第 10 回 項目 シュタイナー学校の評価 内容 公立学校とシュタイナー学校の評価の相違
- 第 11 回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～ライプツヒ時代
- 第 12 回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学教授期～チュービンゲン時代
- 第 13 回 項目 シュプランガーの教育哲学(1) 内容 教育の3つの概念
- 第 14 回 項目 シュプランガーの教育哲学(2) 内容 1. 6つの個性類型 2. 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 求められる教師像と教員養成, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年; 求められる教師像と教員養成 / 参考書: 使用しない。

メッセージ シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を、彼らが生きた時代背景や生涯を通して生き生きと把握するようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育哲学研究室：教育学部 A 棟 3 階

開設科目	教育史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について講じ、日本の教育の歴史的な性格について考える。 / 検索キーワード 教育, 理念, 思想, 歴史的展開, 歴史的な性格

授業の一般目標 日本の教育の理念・思想の歴史的展開についての基礎的知識を得る。日本の教育の歴史的な性格について主体的に考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。思考・判断の観点: 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。関心・意欲の観点: 日本の教育の歴史的な性格について主体的に考えることができる。態度の観点: 教育の展開について系統的に捉えようとするができる。

授業の計画(全体) 日本の教育の展開過程をたどりそこにあらわれた教育の理念・思想とその歴史的な性格を検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 武士の公的教育機関(1)
- 第 2 回 項目 武士の公的教育機関(2)
- 第 3 回 項目 武士の公的教育機関(3)
- 第 4 回 項目 庶民の教育機関(1)
- 第 5 回 項目 庶民の教育機関(2)
- 第 6 回 項目 庶民の教育機関(3)
- 第 7 回 項目 私塾(1)
- 第 8 回 項目 私塾(2)
- 第 9 回 項目 私塾(3)
- 第 10 回 項目 近世の教育観(1)
- 第 11 回 項目 近世の教育観(2)
- 第 12 回 項目 近世の教育観(3)
- 第 13 回 項目 日本教育の歴史的な性格(1)
- 第 14 回 項目 日本教育の歴史的な性格(2)
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 定期試験期間内に提出されたレポートの成績に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外にも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 3 階 364 オフィスアワー: 月曜日 9:30~10:30

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上で、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画(全体) 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒的発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法(総合) 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された2回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書：発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30~12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑓幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学校での教育活動において、まず子どもをどのようにとらえていけばよいか概観する。次に児童・生徒の発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業の一般目標 現代の教育が遭遇しているさまざまな問題に対して、教育心理学的な観点から、その解決に役立つ知識を与え、さらに教科指導だけでなく、生徒指導的な面からも教師としての資質を身につけることを目的とする。特に学力低下問題に対して教育心理学からどのような対策があるかを考えてみたい。さらに不登校、いじめといった問題に対し、社会の問題をふまえた上で、全人格を発展させる観点から追求していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特に子どもの記憶と理解がどのように行われているかについて、認知心理学からの知見を理解することが求められる。思考・判断の観点：学習の指導法にいろいろな方法があることに気づく。また個々の子どもに適するような指導法を自らが考えていけるような判断力を身につける。関心・意欲の観点：自分は教育心理学の指導法や心理療法の中で、どの指導法、あるいはどのような心理療法を採用するか、またどのようなタイプの子どもにはどのような指導法が適し、またどのような心のケアが適しているかなどの問題に答えられるような関心・意欲が求められる。態度の観点：教師になると仮定して、どのような指導法を用いて授業をするかがイメージできるような態度が求められる。

授業の計画（全体） 学校での教育活動を進めるにあたって、まず現代の子どもをどのようにとらえるべきかについて解説する。次に児童・生徒における発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学の内容
- 第 2 回 項目 教育活動における子ども理解
- 第 3 回 項目 教育における発達の要因
- 第 4 回 項目 学習における知識と理解の役割
- 第 5 回 項目 真のわかるとは何か
- 第 6 回 項目 学習における動機づけと意欲
- 第 7 回 項目 学習の指導法について
- 第 8 回 項目 学習の転移 - 基礎基本の徹底と応用について
- 第 9 回 項目 個に応じた学習個に応じた学習学力について
- 第 10 回 項目 子どもの個性の理解 1 - 人格の理論 -
- 第 11 回 項目 子どもの個性の理解 2 - 心理検査 -
- 第 12 回 項目 子どもの個性の理解 3 - 心理療法 -
- 第 13 回 項目 学校における軽度発達障害者の理解
- 第 14 回 項目 学校における障害者の理解
- 第 15 回 項目 教育評価

成績評価方法（総合） 定期試験を重視するが、途中で実施する小テストおよび課題、ならびに出席も評価に入れて、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界，藤土圭三（監修），北大路書房，1994年 / 参考書：教室でどう教えるかどう学ぶか - 認知心理学からの教育方法論，吉田 甫・栗山和広，北大路書房，1992年

メッセージ 期末試験が重視されるが、レポート課題を数回出すので、その提出も忘れないこと

連絡先・オフィスアワー ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372 , オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 学校、家庭、社会におけるさまざまな教育的営みを心理学的にとらえていたり、そうした類のデータを概観するとき、どのようなことに注意しなければならないのかについて論考する。

授業の一般目標 教育にかかわる諸現象を心理学的な視点で捉え、必要に応じて教育データを収集したりする際の留意事項や基礎的知識を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学とは
- 第 2 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(1)
- 第 3 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(2)
- 第 4 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(3)
- 第 5 回 項目 人間の発達の特質
- 第 6 回 項目 児童期の発達の理解
- 第 7 回 項目 青年期の発達の理解
- 第 8 回 項目 知識の獲得・理解
- 第 9 回 項目 学習の動機づけ
- 第 10 回 項目 指導方法
- 第 11 回 項目 他者との相互作用
- 第 12 回 項目 教師と子ども
- 第 13 回 項目 個性理解
- 第 14 回 項目 教育の測定
- 第 15 回 項目 教育の評価

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界, 藤土圭三(監修), 北大路書房, 1994年

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	教育制度	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。

授業の一般目標 学生が複眼的な思考方法で、クリティカルに教育の制度を捉え、それを論理的に表現できる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 3 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 4 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 5 回 項目 教育制度の原理
- 第 6 回 項目 中間試験
- 第 7 回 項目 教育課程の経営
- 第 8 回 項目 就学と在学管理
- 第 9 回 項目 教育改革の動向
- 第 10 回 項目 教育改革の動向
- 第 11 回 項目 教職員の身分と 職務
- 第 12 回 項目 公式組織と非公 式組織
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

メッセージ 第 1 回目の授業（オリエンテーション）で、詳細を説明する。教育実習等により、第 1 回目の授業に参加できない者は、以後、できるだけ速やかに教官から指示を得ること。

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。

授業の一般目標 現行教育法規の要点を理解している。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学校教育の推進と法規
- 第 3 回 項目 学校教育の推進と法規
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規
- 第 7 回 項目 児童生徒の懲戒と・体罰と生徒指導に関する法規
- 第 8 回 項目 児童生徒の懲戒と・体罰と生徒指導に関する法規
- 第 9 回 項目 教育職員の職務と法規
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規
- 第 11 回 項目 教育行政の推進と法規
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規
- 第 13 回 項目 社会教育の推進と法規
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規, 田代直人編, ミネルヴァ書房, 2003年

開設科目	社会教育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田代直人				

授業の概要 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。

授業の一般目標 社会教育の各分野の基本的事項と課題について理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーショ< BR >ン
- 第 2 回 項目 生涯学習とは< BR >(1)
- 第 3 回 項目 生涯学習とは< BR >(2)
- 第 4 回 項目 生涯学習における< BR >社会教育の重要性
- 第 5 回 項目 社会教育の概念
- 第 6 回 項目 少年教育および青< BR >年教育
- 第 7 回 項目 成人教育
- 第 8 回 項目 高齢者教育
- 第 9 回 項目 社会教育施設< BR >(1)
- 第 10 回 項目 社会教育施設< BR >(2)
- 第 11 回 項目 中間試験
- 第 12 回 項目 社会教育行政< BR >(1)
- 第 13 回 項目 社会教育行政< BR >(2)
- 第 14 回 項目 社会教育の今日的< BR >課題
- 第 15 回 項目 最終試験

成績評価方法(総合) 中間試験および期末試験の2回のテストの成績で評価する。

教科書・参考書 教科書：社会教育の理論と実践, 田代直人編著, 樹村房, 1994年

開設科目	国際理解教育概説	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育という用語ならびに概念を概観したうえで、現在の日本の学校教育における国際理解教育の位置づけを解説する。

授業の一般目標 国際理解教育の歴史、基本概念について理解する。現在の日本の学校教育と国際理解教育との関連性を、主として政策面から理解する。自分自身の専門性と国際理解教育の関連性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育の概念と歴史的展開について理解できる。日本の学校教育課程における国際理解教育の位置づけを理解できる。思考・判断の観点：国際理解教育を自分自身の専門性と関連付けて考察することができる。技能・表現の観点：国際理解教育という用語、概念及び国際理解教育と学校教育の関連性を説明することができる。

授業の計画(全体) 前半においては、主として国際理解教育という用語や概念、その歴史的展開など、国際理解教育そのものについて学ぶ。後半は日本の学校教育という特定の視点から、国際理解教育との接点を考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概要 国際理解教育の現状 内容 授業の進め方の説明 国際理解教育の現在の状況について
- 第 2 回 項目 国際理解教育の原理と歴史 内容 国際理解教委の原理
- 第 3 回 項目 国際理解教育の原理と歴史 内容 国際理解教育前史
- 第 4 回 項目 ユネスコの国際理解教育 内容 ユネスコ設立と国際理解教育のはじまり
- 第 5 回 項目 ユネスコの国際理解教育 内容 1974 年国際教育勧告
- 第 6 回 項目 ユネスコの国際理解教育 内容 1991 年ユネスコ専門家会議
- 第 7 回 項目 ユネスコの国際理解教育 内容 1990 年代平和・人権・民主主義のための教育
- 第 8 回 項目 ユネスコの国際理解教育 内容 2005 年持続可能な開発のための教育
- 第 9 回 項目 学校教育と国際理解教育 内容 戦後のユネスコ共同学校計画参加
- 第 10 回 項目 学校教育と国際理解教育 内容 1950 年代末の教育課程
- 第 11 回 項目 学校教育と国際理解教育 内容 1970 年代の教育政策
- 第 12 回 項目 学校教育と国際理解教育 内容 1980 年代の教育政策
- 第 13 回 項目 学校教育と国際理解教育 内容 現在の教育政策
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 3分の2以上の出席者について、学期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：国際理解教育, 永井滋郎, 第一学習者, 1989年; 国際理解教育, 永井滋郎, 第一学習社, 1989年 / 参考書：平和・人権・環境 教育国際資料集, 堀尾輝久・河内徳子, 青木書店, 1998年; 国際理解教育, 佐藤郡衛, 明石書店, 2001年; 国際理解と教育実践, 坂井俊樹, エムティ出版, 1992年

連絡先・オフィスアワー 教育学部 200-1 研究室、初回授業時に指示。

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				
<p>授業の概要 教育方法学の分野のうち、特に授業構成論の基礎について具体的事例を交えながら平易に概説する。なお、授業は講義形式である。/検索キーワード 主体的な学び、指導・支援・援助、学習意欲</p> <p>授業の一般目標 授業指導の基礎理論や内容・方法論に関する基礎的知識・認識を理解するとともに、実践的指針を習得する。</p> <p>授業の到達目標/知識・理解の観点：1. 授業論に関する基礎的知識・認識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 授業で取り上げた内容について論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 授業に関する関心を広げる。</p> <p>授業の計画(全体) 教育方法学の分野のうち、授業構成論について概説する。 まず、授業の基本的性格を押さえ、次に子どもの主体的な学びをどう捉えるかを考察する。 続いて、教科内容論・教材論について検討する。さらに、子どもの学びを支える指導技術・評価等について考察する。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業目標および 授業計画の説明 と履修上の注意、成績評価についての説明。 授業記録 オリエンテーション資料配付</p> <p>第2回 項目 授業の基本的性格 その1 内容 授業の過程的性格および総合作用的性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ1</p> <p>第3回 項目 授業の基本的性格 その2 内容 授業の訓育的性格と集団の性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第4回 項目 子どもの主体的 学びと教師の指導性 内容 主体性の概念、主体的学びに対する誤解および 教師の指導の本質について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第5回 項目 学びのメカニズムと認識発達 内容 主体的な学びの メカニズムとそこから導き出される指導上の観点について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ2</p> <p>第6回 項目 まちがい・つま ずきの授業論的 意義 内容 まちがい・つま ずきの授業論的 意義とその具体的生かし方について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ3</p> <p>第7回 項目 教育課程と教科 内容 内容 教育課程編成の 原則や観点および教科内容の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ4</p> <p>第8回 項目 教材・教具と教材研究 内容 1. 教科書、補助教材・教具について説明するとともに、教材研究・解釈の基本的視点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ5</p> <p>第9回 項目 学習活動案(指導案) 内容 授業指導のシナリオとしての学習活動案(指導案)の構成や作成上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ6</p> <p>第10回 項目 学習活動の指導 技術 その1 内容 発問・説明の特質およびその留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ7</p> <p>第11回 項目 学習活動の指導 技術 その2 内容 授業過程における評価言について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ8</p> <p>第12回 項目 教育メディアと 授業 内容 PCその他視聴 覚機器の活用に関する基礎知識 について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ9</p> <p>第13回 項目 教育評価論 内容 学習評価の理論 と方法について 説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ10</p>					

第 14 回 項目 授業論の現在 内容 現代の授業論の 流れと今日的課 題について説明 する。 授業外指示
授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジユメ1 1

第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の 確認は毎授業終
了時に書かせる「 授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：教育の方法, 山下
正俊・湯浅恭正編著, ミネルヴァ書房, 2001 年

メッセージ 大人数の授業となることが予想され、講義形式にならざるをえません。簡 単なレジユメ等は
配布しますが、ノートをしっかり取り、まとめをこまめに 行うことを心がけて下さい。 毎授業終了時に
「 授業コメント」を書いてもらいます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育メディア論(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」、「ためになる」、「役に立つ」授業づくりをめざした教材・教具(教育メディア)の意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より学習する。具体的な項目は以下の通りである。1.教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2.授業の分析(数量的、質的)ができる 3.プレゼンテーション技術(表現伝達)について改善できる

授業の一般目標 教授・学習過程(授業)において教育課程の意義や目的を習得する。「わかる」、「楽しい」、「役に立つ」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について習得し、効果的な教育方法について習得する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: コミュニケーション(教授・学習過程)の定義や基本的な要素が説明できる。メディアを介した効果的なコミュニケーションができる。教育メディアの特徴を説明できる。**思考・判断の観点:** 論理的、批判的な思考力と判断力がもてる。ディベートができる。人の意見を受容できる。**関心・意欲の観点:** 教育メディアの特徴について興味関心がもてる。**態度の観点:** 自発的、独創的に取り組むことができる。**技能・表現の観点:** パワーポイントなど情報機器メディアを利用した教材開発ができる。メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通じた実践ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育方法・技術の意義と役割 内容 教育方法の歴史と今日的課題
- 第 2 回 項目 教授学習過程(教育的コミュニケーション) 内容 3方向のコミュニケーション
- 第 3 回 項目 教育メディアの種類と特徴 内容 メディアコミュニケーション
- 第 4 回 項目 授業分析の方法と実際(1) 内容 質的分析と量的分析
- 第 5 回 項目 授業分析の方法と実際(2)
- 第 6 回 項目 授業の設計(行動主義と構成主義) 内容 基礎学力と個の伸長
- 第 7 回 項目 授業の実践(1)(マイクロティーチング)
- 第 8 回 項目 授業の実践(2)(マイクロプレゼンテーション)
- 第 9 回 項目 授業の評価(ポートフォリオを主として) 内容 総括評価と形成的評価
- 第 10 回 項目 小学校の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第 11 回 項目 中・高の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第 12 回 項目 教員研修の事例
- 第 13 回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(1) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第 14 回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(2) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第 15 回 項目 国際理解と国際協力

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート, 宿題 / 授業外レポート, 発表(プレゼン)や授業内での製作作業, 教員への発信(質問等), 出席による参加等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書: 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年 / 参考書: 必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学, 林徳治・沖裕貴, ぎょうせい, 2007年

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1F

開設科目	教科教育法国語	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 小学校の国語教科書ある教材を取り上げ、教材研究、学習指導の在り方について考察する。/
 検索キーワード 国語科の目標・内容、指導法

授業の一般目標 国語科教育の目標、内容について理解するとともに、授業を行う際に留意すべき点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の目標、授業を行う際に留意すべき事柄等について説明することができる。 思考・判断の観点：学習材の研究、授業の進め方について、的確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：国語科教育についての関心を高め、意欲的に学習指導の構築に向けて取り組むことができる。 態度の観点：様々な視点から国語科教育について考察を加えることができる。 技能・表現の観点：自分の見解を口答や文章で適切に表現できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 学習指導要領の解説 内容 シラバス説明、国語科の目標と内容について 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導 1 内容 主として「スピーチ」「プレゼンテーション」 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導 2 内容 主として「ディベート」「パネルディスカッション」 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「書くこと」の指導 1 内容 主として説明的文章 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「書くこと」の指導 2 内容 主として生活文 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「書くこと」の指導 3 内容 主として韻文（「読むこと」とも関連して） 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「読むこと」の指導 1 内容 主として文学的文章 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 「読むこと」の指導 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 「読むこと」の指導 3 内容 主として説明的文章 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 「読むこと」の指導 4 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 「読むこと」の指導 5 内容 読書指導 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 「読むこと」の指導 6 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 「言語事項」の指導 内容 主として漢字指導 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	教科教育法国語	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 小学校国語科学習指導の在り方について、先行の実践や研究を参照しつつ検討する。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 (1) 国語科教育の内容について理解する。(2) 国語科学習指導の在り方について考察する態度を養う。(3) 学習指導案を工夫する意欲と能力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の内容・目標について、あらましを説明できる。 思考・判断の観点：国語科教育の今日的課題について自分の見解をまとめ、適切に発表することができる。 関心・意欲の観点：国語科教育に対して高い関心を持ち、学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：多角的な視点から国語科教育の問題点を捉え、考察を加えることができる。 技能・表現の観点：自分の見解を口答や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 1回目に授業内容を解説し、次いで、現行の国語科学習指導の内容について概説する。以後は現行の小学校国語科教科書に採られることの多い教材を中心に、先行の研究や実践を参考に、学習指導の実際について検討を加えていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容の概説
- 第 2 回 項目 小学校国語科の学習内容概説 内容 現行の小学校国語科学習指導要領・解説
- 第 3 回 項目 国語科教育の新傾向 内容 新学習指導要領の改訂をめぐって
- 第 4 回 項目 学習指導案の書き方 内容 民話・昔話教材を基に
- 第 5 回 項目 同上 内容 学習指導案の作成
- 第 6 回 項目 音読・朗読の指導 内容 群読・朗読の指導方法
- 第 7 回 項目 読解指導の実際と理論の流れ 内容 叙景文「冬景色」をめぐって
- 第 8 回 項目 同上 内容 解釈学から法則化運動まで
- 第 9 回 項目 文学教材の読みの指導 内容 詩教材
- 第 10 回 項目 同上 内容 ファンタジー教材
- 第 11 回 項目 読みの指導と指導案作成 内容 学習指導案の作成
- 第 12 回 項目 読みの指導 内容 童話
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 書くことの指導 内容 作文指導の在り方
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期考査の結果、及び、授業の終わりに毎回提出する課題シートの状況、出席状況等を総合的に判断して評価する。出席が所定の回数に満たない場合は、単位は取得できない。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。毎時間、プリントを用意する。 / 参考書：授業中に、随時、紹介する。

メッセージ 主体的な問題意識をもって授業に参加してください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教科教育法社会	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 小学校社会科のすぐれた実践に学びつつ、集団で教材研究および地域調査を行い、子どもたちが楽しく学ぶ地域教材を作成し、社会科授業案を作成する。/ 検索キーワード 授業づくり 地域調査 教材研究

授業の一般目標 1. 関心のある題材を選び、地域調査や教材研究をすることができる。 2. その上で、たのしくわかる地域学習資料集および社会科学習指導案を作成し、CDにまとめる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域調査、教材研究を通じて、選択した教材の本質をつかむ 思考・判断の観点： 子どもが主体的に学ぶ社会科授業を構想できる 技能・表現の観点： 地域調査や教材研究の技法を学ぶ

授業の計画(全体) 小学校社会科3～6年の設定された題材から一つを選び、地域調査、教材研究を通して、子どもが主体的に学ぶ社会科授業用の地域学習資料集・社会科学習指導案をつくる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義計画の説明
- 第2回 項目 地域学習資料集の紹介 内容 地域学習と地域教材
- 第3回 項目 グループの結成と題材の選択 内容 グループの結成と題材の選択
- 第4回 項目 すぐれた実践の紹介 内容 実践事例の紹介と検討
- 第5回 項目 地域教材の検討 内容 平川の自然・歴史・暮らし
- 第6回 項目 小学校社会科授業の実際1 洲山喜久江 農業 内容 地域にねざした社会科学習
- 第7回 項目 小学校社会科授業の実際2 山田直明 内容 地域にねざした社会科学習
- 第8回 項目 地域調査の報告と検討 1 内容 各グループの発表
- 第9回 項目 地域調査の報告と検討 2 内容 各グループの発表
- 第10回 項目 地域教材について 内容 地域教材の意義と可能性
- 第11回 項目 地域教材の作成と報告 1 内容 各グループの発表
- 第12回 項目 地域教材の作成と報告 2 内容 各グループの発表
- 第13回 項目 地域学習資料集の作成に向けて 内容 各グループの地域教材の加筆修正
- 第14回 項目 地域学習資料集の完成 内容 編集とCDの作成
- 第15回 項目 まとめ 内容 感想

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート = 20～40% 宿題 / 授業外レポート = 40～60% 授業態度や授業への参加度 = 20%未満

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木56

開設科目	教科教育法社会	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 小学校社会科の授業分析と授業構成を通して、社会科授業の分析と創造の技量を身につけることを目的とする。受講学生による作業、資料作成、発表、相互批評を中心に演習形式を取り入れて行う。

授業の一般目標 1. 小学校社会科の教科観に関して、一定の見解をもつことができる。 2. 任意の題材から教材研究を経て、一定の学習内容を構想し、それに対応して一定の学習過程を構想することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している・社会科の意義と目標・小学校地域学習、産業学習、歴史学習における現行カリキュラムの論点・内容構成・単元構成 思考・判断の観点：小学校社会科の指導計画に関する資料に対し、社会科教育としての視点から考察することができる。態度の観点：毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点：小学校社会科の内容に適した教材研究を行うことができる。・教材研究の成果に基づき、小学校社会科の指導計画を立案することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小学校社会科の現状と課題 内容 小学校社会科をとりまく状況と諸問題
- 第 2 回 項目 小学校社会科の意義と目標 内容 社会科の教科原理
- 第 3 回 項目 小学校社会科地域学習の検討と分析（1） 内容 中学年の社会科地域学習の概念
- 第 4 回 項目 小学校社会科地域学習の検討と分析（2） 内容 社会科と公共性概念
- 第 5 回 項目 小学校社会科産業学習の検討と分析 内容 小学校産業学習・国土学習の考え方
- 第 6 回 項目 小学校社会科歴史学習の検討と分析 内容 小学校歴史学習の考え方
- 第 7 回 項目 小学校社会科の内容構想 内容 社会科内容構成論
- 第 8 回 項目 小学校社会科授業の学習過程構想 内容 社会科学学習の方法原理
- 第 9 回 項目 小学校社会科の単元構成 内容 単元構成の考え方
- 第 10 回 項目 小学校社会科の単元構成案検討（1） 内容 単元構成演習 1
- 第 11 回 項目 小学校社会科の単元構成案検討（2） 内容 単元構成演習 2
- 第 12 回 項目 小学校社会科の授業構成と資料作成 内容 教材構成と学習指導論
- 第 13 回 項目 小学校社会科の授業構成案検討（1） 内容 学習指導案演習 1
- 第 14 回 項目 小学校社会科の授業構成案検討（2） 内容 学習指導案演習 2
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法（総合） 出席点、小レポート、最終レポートを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない / 参考書：社会認識教育学会編『初等社会科教育学』学術図書出版

メッセージ グループによる活動がかなりの部分を占めるので、協力すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	教科教育法算数	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄について解説する。

授業の一般目標 小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄について理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄の理解 思考・判断の観点： 小学校算数の学習指導に関わる基本的な問題について基本的な判断ができる

授業の計画（全体） 小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄について講義する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学習指導要領と算 数科の目標
- 第 2 回 項目 算数科の指導内容 の外観
- 第 3 回 項目 数えること
- 第 4 回 項目 数の表記，10 進法
- 第 5 回 項目 整数の加法・減法
- 第 6 回 項目 式の指導
- 第 7 回 項目 乗法の指導
- 第 8 回 項目 除法の指導
- 第 9 回 項目 小数の指導
- 第 10 回 項目 分数の指導 1
- 第 11 回 項目 分数の指導 2
- 第 12 回 項目 量と測定の指導 1
- 第 13 回 項目 量と測定の指導 2
- 第 14 回 項目 図形の指導
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） テスト

教科書・参考書 教科書： 算数科教育研究会編「小学校算数科教育」学芸図書

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20 連絡は，ysekigch@yamaguchi-u.ac.jp へメールをお願いします。

開設科目	教科教育法理科	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	理科教育全員				

授業の概要 小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標 講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小学校理科で扱う化学的事象および物理的事象についての理解をしているか。 思考・判断の観点：小学校で扱う化学概念および物理概念を用いて、与えられた課題に答えることができるか。 関心・意欲の観点：身近な自然現象に興味関心をもつようになったのか。 態度の観点：与えられた課題に積極的に関わり、まじめに取り組んでいたか。 技能・表現の観点：学習した内容を要領よくレポートにまとめることができるか。 その他の観点：物理分野・化学分野によって、異なる。

授業の計画（全体） 授業は4グループに分けて行う。各グループ分けは授業を前半・後半に分けて、次の4分野の中から1 - 2、2 - 1、3 - 4、4 - 3の組合せで行う。 1. 物理分野（力の釣り合い、力と運動、熱と温度、電気回路） 2. 化学分野（物質の燃焼、ものの溶け方と拡散、溶解度、酸と塩基） 3. 生物分野（生物の種類、生物の形態、生理的な機能、環境と生物） 4. 地学分野（天球儀の使い方、気象観測、石と土、地質巡検）（但し、各分野の授業項目の順番は変わることがある。）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 化学分野：オリエンテーション、ガラス細工
- 第2回 項目 化学分野：物質の燃焼（気体の性質）
- 第3回 項目 化学分野：酸塩基中和滴定
- 第4回 項目 化学分野：溶解度
- 第5回 項目 化学分野：もののとけ方と拡散
- 第6回 項目 化学分野：拡散と均一性
- 第7回 項目 予備
- 第8回 項目 物理分野：力の釣り合い（1）
- 第9回 項目 物理分野：力の釣り合い（2）
- 第10回 項目 物理分野：力と運動
- 第11回 項目 物理分野：熱と温度
- 第12回 項目 物理分野：電気回路（1）
- 第13回 項目 物理分野：電気回路（2）
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

開設科目	教科教育法理科	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	理科教官全員				

授業の概要 小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標 講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小学校理科で扱う物理的事象および化学的事象についての理解をしているか。 思考・判断の観点：小学校で扱う物理概念および化学概念を用いて、与えられた課題に答えることができるか。 関心・意欲の観点：身近な自然現象に興味関心を持つようになったか。 態度の観点：与えられた課題に積極的に関わり、まじめに取り組んでいたか。 技能・表現の観点：学習した内容を要領よくレポートにまとめることができるか。 その他の観点：物理分野・化学分野によって異なる。

授業の計画（全体） 授業は4グループに分けて行う。各グループの分け方は授業を前半・後半に分けて次の4分野の中から1 - 2、2 - 1、3 - 4、4 - 3の組合せで行う。1. 物理分野（力の釣り合い、力と運動、熱と温度、電気回路）2. 化学分野（物質の燃焼、ものの溶け方と拡散、溶解度、酸と塩基）3. 生物分野（生物の種類、生物の形態、生理的な機能、環境と生物）4. 地学分野（天球儀の使い方、気象観測、石と土、地質巡検）（但し、各分野の授業項目の順番は変わることがある。）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 物理分野：力の釣り合い（1）
- 第2回 項目 物理分野：力の釣り合い（2）
- 第3回 項目 物理分野：力と運動
- 第4回 項目 物理分野：熱と温度
- 第5回 項目 物理分野：電気回路（1）
- 第6回 項目 物理分野：電気回路（2）
- 第7回 項目 予備
- 第8回 項目 化学分野：オリエンテーション、ガラス細工
- 第9回 項目 化学分野：物質の燃焼（気体の性質）
- 第10回 項目 化学分野：酸塩基中和滴定
- 第11回 項目 化学分野：溶解度
- 第12回 項目 化学分野：もののとけ方と拡散
- 第13回 項目 化学分野：拡散と均一性
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

開設科目	教科教育法理科	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	理科教育全員				

授業の概要 小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標 講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小学校理科で扱う生物的事象及び地学的事象について理解しているか。 思考・判断の観点：小学校で扱う生物概念および地学概念を用いて、与えられた課題に答えることができるか。 関心・意欲の観点：身近な自然現象に興味関心をもつようになったのか。 態度の観点：与えられた課題に積極的に関わり、まじめに取り組んでいたか。 技能・表現の観点：学習した内容を要領よくレポートにまとめることができるか。 その他の観点：生物分野・地学分野によって異なる。

授業の計画（全体） 授業は4グループに分けて行う。各グループ分けは、授業を前半・後半に分けて次の4分野の中から1 - 2、2 - 1、3 - 4、4 - 3の組合せで行う。1. 物理分野（力の釣り合い、力と運動、熱と温度、電気回路）2. 化学分野（物質の燃焼、ものの溶け方と拡散、溶解度、酸と塩基）3. 生物分野（生物の種類、生物の形態、生理的な機能、環境と生物）4. 地学分野（天球儀の使い方、気象観測、石と土、地質巡検）（但し、各分野の授業項目の順番は変わることがある。）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 生物分野：生物の分類（1）
- 第2回 項目 生物分野：生物の分類（2）
- 第3回 項目 生物分野：生物の形態
- 第4回 項目 生物分野：生理的な機能
- 第5回 項目 生物分野：環境と生物（1）
- 第6回 項目 生物分野：環境と生物（2）
- 第7回 項目 予備
- 第8回 項目 地学分野：砂と土
- 第9回 項目 地学分野：石ころ
- 第10回 項目 地学分野：気象要素
- 第11回 項目 地学分野：天文（月の満ち欠け、天球）
- 第12回 項目 地学分野：地質巡検 内容 地質巡検は1日かけて別途指定する日程で行う
- 第13回 項目 地学分野：地質巡検 内容 地質巡検は1日かけて別途指定する日程で行う
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

開設科目	教科教育法理科	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	理科教育全員				

授業の概要 小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標 講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小学校理科であつかう地学的現象および生物的現象についての理解をしているか。 思考・判断の観点：小学校であつかう地学概念および生物概念を用いて、与えられた課題に答えることができるか。 関心・意欲の観点：身近な自然現象に興味関心をもつようになったのか。 態度の観点：与えられた課題に積極的に関わり、まじめに取り組んでいたか。 技能・表現の観点：学習した内容を要領よくレポートにまとめることができるか。 その他の観点：地学分野・生物分野によって異なる。

授業の計画（全体） 授業は4グループに分けて行う。各グループ分けは、授業を前半・後半に分けて次の4分野の中から1 - 2、2 - 1、3 - 4、4 - 3の組合せで行う。1.物理分野（力の釣り合い、力と運動、熱と温度、電気回路）2.化学分野（物質の燃焼、ものの溶け方と拡散、溶解度、酸と塩基）3.生物分野（生物の種類、生物の形態、生理的な機能、環境と生物）4.地学分野（天球儀の使い方、気象観測、石と土、地質巡検）（但し、各分野における授業項目の順番は変わることがある。）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 地学分野：砂と土
- 第2回 項目 地学分野：石ころ
- 第3回 項目 地学分野：気象要素
- 第4回 項目 地学分野：天文（月の満ち欠け、天球）
- 第5回 項目 地学分野：地質巡検 内容 地質巡検は1日かけて別途指定する日程で行う
- 第6回 項目 地学分野：地質巡検 内容 地質巡検は1日かけて別途指定する日程で行う
- 第7回 項目 予備
- 第8回 項目 生物分野：生物の分類（1）
- 第9回 項目 生物分野：生物の分類（2）
- 第10回 項目 生物分野：生物の形態
- 第11回 項目 生物分野：生理的な機能
- 第12回 項目 生物分野：環境と生物（1）
- 第13回 項目 生物分野：環境と生物（2）
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

開設科目	教科教育法生活	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊他				

授業の概要 生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。/ 検索キーワード 生活科、小学校、低学年、自分、自然、社会

授業の一般目標 (1) 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について理解する。(2) 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について理解する。(3) 自然や社会と自分とのかかわりを実体験に即しながら学ぶ。(4) 生活科の授業計画や具体的な指導方法についてのノウハウを学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 1. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 1. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。

授業の計画(全体) 生活科新設の経緯と背景、生活科の目標・内容・方法・課題等について学び、低学年児童の発達特性を理解した上で、自然や社会と自分とのかかわりの重要性について考える。また、具体的な事例を通して、生活科の授業計画の立て方や実際の指導方法について学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活科設置の経緯と背景 内容 1. 生活科新設の経緯 2. 生活科新設の背景
- 第 2 回 項目 生活科の目標、内容及び指導上の留意点 内容 1. 生活科の目標 2. 生活科の内容 3. 生活科指導上の留意点
- 第 3 回 項目 生活科の指導内容及び課題 内容 1. 生活科の指導内容 2. 生活科の課題
- 第 4 回 項目 低学年児童の発達特性 内容 低学年児童の発達特性を生活科の指導内容と関連させながら解説する。
- 第 5 回 項目 自分自身にひきあてた学習 内容 自然や社会と自分とのかかわりを実体験に即しながら自分自身にひきあてて学んでいくことの重要性を事例を通して解説する。
- 第 6 回 項目 自分自身が主人公となる学習 内容 自然や社会と自分とのかかわりを実体験に即しながら自分自身を主人公にしながら学んでいくことの重要性を事例を通して解説する。
- 第 7 回 項目 生活と暦 内容 生活と暦のかかわりについて考える。
- 第 8 回 項目 自然現象 内容 生活科と理科の関連性を通して自然現象の捉え方について考える。
- 第 9 回 項目 人と自然のかかわり 内容 人と自然のかかわりについて科学的側面から考える。
- 第 10 回 項目 附属小学校教官による実地指導(1) 内容 小学校での生活科の指導方法を実際の体験を通して学ぶ。
- 第 11 回 項目 附属小学校教官による実地指導(2) 内容 小学校での生活科の指導方法を実際の体験を通して学ぶ。
- 第 12 回 項目 まとめ(1) 内容 教科教育法生活を通して学んだことについての感想文を書かせる。
- 第 13 回 項目 まとめ(2) 内容 前時に書かせた感想文をピックアップして読みながら授業全体のまとめをする。
- 第 14 回 項目 (予備)
- 第 15 回 項目 (予備)

成績評価方法(総合) 各担当教官ごとに評価し、それを総合計して 100 点満点に換算し、最終的な評価とする。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。各担当教員が必要に応じてプリント等の教材を作成し、準備する。 / 参考書：参考書は使用しない。各担当教員が必要に応じてプリント等の教材を作成し、準備する。

メッセージ 授業への出席を重視するので、休まないように出席すること

連絡先・オフィスアワー chijiwa @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 理科教育

開設科目	教科教育法生活	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊他				

授業の概要 生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。/ 検索キーワード 生活科、小学校、低学年、自分、自然、社会

授業の一般目標 (1)生活科の理念、目標、内容、方法、課題について理解する。(2)生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について理解する。(3)自然や社会と自分とのかかわりを実体験に即しながら学ぶ。(4)生活科の授業計画や具体的な指導方法についてのノウハウを学ぶ。

授業の到達目標/ 知識・理解の観点: 1.生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。2.生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。思考・判断の観点: 1.授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる。関心・意欲の観点: 1.生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。態度の観点: 1.日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。技能・表現の観点: 1.日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。

授業の計画(全体) 生活科新設の経緯と背景、生活科の目標・内容・方法・課題等について学び、低学年児童の発達特性を理解した上で、自然や社会と自分とのかかわりの重要性について考える。また、具体的な事例を通して、生活科の授業計画の立て方や実際の指導方法について学ぶ。

授業計画(授業単位)/ 内容・項目等/ 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 生活科設置の経緯と背景 内容 1.生活科設置の経緯 2.生活科設置の背景
- 第2回 項目 生活科の目標、内容及び指導上の留意点 内容 1.生活科の目標 2.生活科の内容 3.生活科指導上の留意点
- 第3回 項目 低学年児童の発達特性 内容 低学年児童の発達特性を生活科の指導内容と関連させながら解説する。
- 第4回 項目 生活科の指導内容及び課題 内容 1.生活科の指導内容 2.生活科の課題
- 第5回 項目 幼稚園教育と生活科教育 内容 幼稚園における「環境を通じた教育」と生活科の教育方法の類似点と相違点について述べる。
- 第6回 項目 「散歩」の教育的意義と指導 内容 散歩(戸外活動)の教育的意義と指導について述べる。
- 第7回 項目 生活と暦 内容 生活と暦のかかわりについて考える。
- 第8回 項目 自然現象 内容 生活科と理科の関連性を通して自然現象の捉え方について考える。
- 第9回 項目 人と自然のかかわり 内容 人と自然のかかわりについて科学的側面から考える。
- 第10回 項目 附属小学校教官による実地指導(1) 内容 小学校での生活科の指導方法を実際の体験を通して学ぶ。
- 第11回 項目 附属小学校教官による実地指導(2) 内容 小学校での生活科の指導方法を実際の体験を通して学ぶ。
- 第12回 項目 まとめ(1) 内容 教科教育法生活を通して学んだことについての感想文を書かせる。
- 第13回 項目 まとめ(2) 内容 前時に書かせた感想文をピックアップして読みながら授業全体のまとめをする。
- 第14回 項目 (予備)
- 第15回 項目 (予備)

成績評価方法(総合) 各担当教官ごとに評価し、それを総合計して100点満点に換算し、最終の評価とする。

教科書・参考書 教科書: 教科書は使用しない。各担当教官が必要に応じてプリント等を作成し、準備する。/ 参考書: 参考書は使用しない。各担当教官が必要に応じてプリント等を作成し、準備する。

メッセージ 授業への出席を重視するので、休まないように出席すること

連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 理科教室

開設科目	教科教育法音楽	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	朴 成泰				

授業の概要 本授業では、小学校における音楽科の実践に必要な内容と方法について体系的に講ずる。

授業の一般目標 小学校における音楽科の実践に必要な理論と実践力を習得する。

開設科目	教科教育法音楽	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 本授業では、小学校における音楽科の実践に必要な内容と方法について体系的に講ずる。短時間ではあるが、全員が音楽の模擬授業を行い、人の前に立って指導することを経験する。

授業の一般目標 小学校における音楽科の実践に必要な理論と実践力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：学習指導要領（音楽編）から、音楽の領域（表現及び鑑賞）の内容について理解する。 関心・意欲の観点：資料の準備や授業の流れを構築するなど、意欲的に模擬授業を行う。 態度の観点：遅刻・私語禁止。 技能・表現の観点：模擬授業において、分かりやすかつ的確に指示・説明ができる。正しい音程で歌唱したり、リコーダーを演奏したりできる。

授業の計画（全体）学習指導要領を含め、音楽の授業をどのように捉えたらよいか、説明する。授業を行うにあたって、知識・理解や指導力の他、音楽的技能の習得も必要であることを認識させる。

成績評価方法（総合）出席（欠格条件）模擬授業（30％）技能や態度（20％）レポート（50％）

教科書・参考書 教科書：小学校音楽のための教科教育法 音楽編，教育芸術社，2000年

メッセージ 音楽に意欲的に取り組む学校は、非常に落ち着いている。教員になったとき、自信を持って子どもとともに音楽を楽しめるように願っています。

開設科目	教科教育法図画工作	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学I～」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。

授業の一般目標 普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション。授業ルールやテキスト等の確認。
- 第2回 項目 教師の専門性。美術教育における専門性。
- 第3回 項目 美術教育の目的。美術教育の類型。
- 第4回 項目 美術教育の基礎としての美術史(1)様式の時代
- 第5回 項目 美術教育の基礎としての美術史(2)ismの時代
- 第6回 項目 美術教育の基礎としての美術史(3)後期印象派から20世紀へ
- 第7回 項目 描画能力の発達段階。人類の絵画史と個体の描画能力の発達。写実性について。
- 第8回 項目 表現のスタイル:ローウェンフェルドのタイプ論。リードのタイプ論。
- 第9回 項目 児童画コンクールと学校教育
- 第10回 項目 美術教育の革新:チゼック
- 第11回 項目 日本美術教育史(1)明治時代
- 第12回 項目 日本美術教育史(2)大正自由画教育、構成教育
- 第13回 項目 日本美術教育史(3)民間美術教育運動と学習指導要領
- 第14回 項目 DBAEと鑑賞教育
- 第15回 項目 実地指導講師による授業

教科書・参考書 教科書:『美術科教育の基礎知識』,宮脇理監修,建帛社,2000年

メッセージ Q1:学校教員の質が問われていますが、教員採用は「人物重視」で行うべきでしょうか、それとも「専門性重視」で行うべきでしょうか? Q2:「図工や美術は、好きな人や得意な人だけがやればいい」ってホントでしょうか? Q3:自分自身が図工や美術が苦手な教員に、図画工作科が教えられるのでしょうか? Q4:自分自身がサッカーが苦手な大人に、少年サッカーが教えられるのでしょうか? Q5:あなたのカバンの中に、テキストやマンガや雑誌以外の本がありますか?

連絡先・オフィスアワー 研究室:教育学部南棟2階 電話&FAX:083-933-5372
E-mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	教科教育法図画工作	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学I～」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。

授業の一般目標 普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション。授業ルールやテキスト等の確認。
- 第2回 項目 教師の専門性。美術教育における専門性。
- 第3回 項目 美術教育の目的。美術教育の類型。
- 第4回 項目 美術教育の基礎としての美術史(1)様式の時代
- 第5回 項目 美術教育の基礎としての美術史(2)ismの時代
- 第6回 項目 美術教育の基礎としての美術史(3)後期印象派から20世紀へ
- 第7回 項目 描画能力の発達段階。人類の絵画史と個体の描画能力の発達。写実性について。
- 第8回 項目 表現のスタイル:ローウェンフェルドのタイプ論。リードのタイプ論。
- 第9回 項目 児童画コンクールと学校教育
- 第10回 項目 美術教育の革新:チゼック
- 第11回 項目 日本美術教育史(1)明治時代
- 第12回 項目 日本美術教育史(2)大正自由画教育、構成教育
- 第13回 項目 日本美術教育史(3)民間美術教育運動と学習指導要領
- 第14回 項目 DBAEと鑑賞教育
- 第15回 項目 実地指導講師による授業

教科書・参考書 教科書:『美術科教育の基礎知識』,宮脇理監修,建帛社,2000年

メッセージ Q1:学校教員の質が問われていますが、教員採用は「人物重視」で行うべきでしょうか、それとも「専門性重視」で行うべきでしょうか? Q2:「図工や美術は、好きな人や得意な人だけがやればいい」ってホントでしょうか? Q3:自分自身が図工や美術が苦手な教員に、図画工作科が教えられるのでしょうか? Q4:自分自身がサッカーが苦手な大人に、少年サッカーが教えられるのでしょうか? Q5:あなたのカバンの中に、テキストやマンガや雑誌以外の本がありますか?

連絡先・オフィスアワー 研究室:教育学部南棟2階 電話&FAX:083-933-5372
E-mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	教科教育法体育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

授業の概要 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。授業は体育領域(海野)と保健領域(友定)に分け実施する。前半・後半で一人6～7回を担当し交代する。する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：・学習指導要領における保健領域の目標・内容について理解する
 思考・判断の観点：・子どもの実態にあわせた内容や方法を選択できる 関心・意欲の観点：・保健の教材づくりに興味・関心をもたせる

授業の計画(全体) 小学校3年からの保健学習について、学習指導要領ならびに保健教科書の内容を知り、教材づくりや授業づくりの視点や方法について学習する。楽しくわかる保健学習を自らが体験して学ぶため、具体的な実践事例をプリントで紹介しながら進める。

成績評価方法(総合) 毎時の感想を兼ねた出欠カードおよび最終レポート 欠格条件：出欠状況

連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教科教育法体育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 ここでは、小学校の体育授業について、その目的・目標 - 教科内容編成 - 教材づくり - 学習指導方法および学習評価のあり方を概説する。また実際の実践記録に触れながら、体育の授業づくりに関わるイメージを膨らませていく。 / 検索キーワード よい体育の授業とは？

授業の一般目標 小学校の体育授業づくりを進めていく上に必要な、目標設定、教科内容編成、教材づくりなどに関し、基礎的な理解を得るとともに「よい体育授業」へのイメージを膨らませる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 小学校体育授業の目標 - 内容・教材 - 指導方法 - 学習評価等に関する諸概念を理解している。 思考・判断の観点： 体育授業をめぐる自身のこれまでの学びの履歴を振り返りつつ、同時に最近の授業改革の動向に触れながら、「私の考えるよい体育授業の条件」について提示できる。 態度の観点： 講義内容に関し、ミニ・レポートの中で批判的・主体的な態度で自分の考えを展開できる。 技能・表現の観点： 課題テーマまたは学習指導計画立案に関して、筋道立てて論を展開することができ、より具体的に表現することができる。

授業の計画（全体） 今日の子どもの生活と発達の現状について概説する。その後、小学校体育の目的・目標、教科内容、教材づくり、指導法および学習評価のそれぞれに関し、実際の実践記録を素材にしながらから検討していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 体育の目的・目標論
- 第 3 回 項目 体育の教科内容論
- 第 4 回 項目 体育の教材づくり論 授業外指示 中間レポート
- 第 5 回 項目 体育の学習指導法
- 第 6 回 項目 体育の学習評価
- 第 7 回 項目 体育授業の計画立案 授業外指示 最終レポート
- 第 8 回 項目 予備日
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業への出席状況を踏まえて、中間レポートおよび課題レポートに基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書： 体育・健康教育の教育課程試案 - 2 - , 学校体育研究同志会, 創文企画, 2004 年 / 参考書： 体育・健康教育の教育課程試案 - 1 - , 校体育研究同志会, 創文企画, 2003 年

メッセージ 現場の小学校で実践された体育授業の実践記録を、できる限りたくさん読んで、体育授業づくりのイメージを膨らませてください。

連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教科教育法家庭	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的な変遷を説明する。さらに今回の小学校学習指導要領の目標、内容について具体的に解説する。 / 検索キーワード 小学校家庭科 教材

授業の一般目標 「家庭科」の学習指導要領の変遷から家庭科とは何かを理解する。次に家庭科の授業実践の観点から、家庭科の教材の具体的内容について取り上げ、説明を行う。さらに現場の小学校教師が実践している家庭科の授業について紹介する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 小学校学習指導要領の変遷で何が変わり、何が変わらなかった内容なのかについて説明できる。 2 家族をはじめ人と関わる意味やよさについて説明できる。 3 実習における安全、衛生を説明できる。 思考・判断の観点： 家庭科の教材は「よりよい家庭生活」形成に向けて関連していると考えられることができる。 関心・意欲の観点： 自分の生活を振り返り、生活技能と家族との関わりについて改善に関心をもつ。 態度の観点： 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。

授業の計画（全体） 授業は家庭科を学ぶ意義についてそれが見いだせるかである。公的な資料やビデオ、さらに調査によって家庭科の内容を考察していく。毎時間の授業内容について何がわかったか & 自分の考えを web に書き、他学生のものにコメントをつけ、自分のものと併せてノートにまとめる。さらに課題についてもノートにまとめ、定期的に提出する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家庭科って何？
- 第 2 回 項目 「家族」を考えるシナリオづくり & お芝居 I
- 第 3 回 項目 「家族」を考えるシナリオづくり & お芝居 II
- 第 4 回 項目 戦後の小学校家庭科学習指導要領の変遷 I
- 第 5 回 項目 戦後の小学校家庭科学習指導要領の変遷 II
- 第 6 回 項目 単元「生活時間」と家族問題 I
- 第 7 回 項目 単元「生活時間」と家族問題 II
- 第 8 回 項目 家族問題に関する総務庁の統計資料と教科書記述内容 I
- 第 9 回 項目 小学校学習指導要領家庭科「内容」の説明 & 構造化
- 第 10 回 項目 食育について
- 第 11 回 項目 お弁当づくり I
- 第 12 回 項目 お弁当づくり II
- 第 13 回 項目 現場教師による家庭科の取り組み、指導案 II
- 第 14 回 項目 現場教師による家庭科の取り組み、指導案 III
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 1 授業中の小テスト。 2 授業ごとにその内容理解についてのレポート（web）。 3 課題ノート

教科書・参考書 参考書： 図説家族問題の現在（NHK ブックス；742）、湯沢雅彦著、日本放送出版協会、1995年； 知っていますか子どもたちの食卓： 食生活からからだ心がみえる（NHK スペシャル）、足立己幸、NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト著、日本放送出版協会、2000年； 文部省「小学校学習指導要領解説」家庭編、湯沢雅彦「図説家族問題の現在」、足立己幸「知っていますか子どもたちの食卓」

開設科目	道徳教育	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 道徳の語源と意味について学習し、西欧における道徳観の変遷について哲学的歴史的な観点から理解する。また、シュプラランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら学習し、人間としての生き方について考察する。さらに、道徳教育の目的・内容・方法と「道徳の時間」の展開や指導方法を学び、実践的指導力を養う。 / 検索キーワード 道徳、道徳観、シュプラランガー、道徳教育、道徳の時間

授業の一般目標 1. 道徳の語源と意味について理解し、道徳の本質的な意味について考察する。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解する。 3. シュプラランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら理解し、人間としての生き方について考察する。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解する。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解し、実践的指導力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. シュプラランガーの教育の3つの概念と6つの価値類型について理解できる。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 道徳の本質的な意味やシュプラランガーの教育理論と関連させながら、人間としてのよりよい生き方について考えることができる。 2. 日常生活の中で、状況に応じて適正な判断をすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 道徳教育や心の教育への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 日常生活の中で、適正な思考や判断に基づいた態度や行動をとることができる。 技能・表現の観点： 1. 「道徳の時間」の指導方法や、そのための技能と技術を身につけることができる。

授業の計画(全体) 道徳についての本質的な意味を哲学的、歴史的な観点から考察した上で、道徳教育の目的・内容・方法について学び、「道徳の時間」の実践的な指導方法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 道徳の語源と意味 内容 ギリシア語、ラテン語、ドイツ語等から道徳の意味を探る。
- 第2回 項目 道徳律と道徳性 内容 外面的道徳と内面的道徳、モラルとエートス
- 第3回 項目 道徳観の変遷(1) 内容 ソクラテスとアリストテレス
- 第4回 項目 道徳観の変遷(2) 内容 1. アウグスチヌスとトマスアキナス 2. カント
- 第5回 項目 シュプラランガーの教育の3つの概念と道徳 内容 1. 発達の援助 2. 文化財の伝達 3. 良心の覚醒
- 第6回 項目 シュプラランガーの6つの価値類型と道徳 内容 理論的価値、経済的価値、審美的価値、権力的価値、社会的価値、宗教的価値
- 第7回 項目 道徳教育の目的(1) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第8回 項目 道徳教育の目的(2) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第9回 項目 道徳教育の内容(1) 内容 1. 主として自分とのかかわりに関すること 2. 主に他人とのかかわりに関すること
- 第10回 項目 道徳教育の内容(2) 内容 1. 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること 2. 主に集団や社会とのかかわりに関すること
- 第11回 項目 道徳教育の方法 内容 問答法、ディベート、役割演技、ドラマ化等による方法
- 第12回 項目 「道徳の時間」の展開(1) 内容 「気づく - 捉える - 深める - 見つめる - 生かす」という「道徳の時間」の展開について説明する。
- 第13回 項目 「道徳の時間」の展開(2) 内容 具体的な「道徳の時間」の指導案を提示して説明する。
- 第14回 項目 学習指導案の書き方 内容 実際に「道徳の時間」の指導案を書かせる。
- 第15回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 道徳と心の教育, 山 英則・西村正登編著, ミネルヴァ書房, 2001年； 道徳と心の教育, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 道徳の本質を哲学的歴史的な観点から理解すると同時に、道徳教育に関する実践的な指導力が身につくように努めて下さい。理論面と実践面の両面から道徳教育にアプローチしていきます、

連絡先・オフィスアワー masato @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	道徳教育	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 道徳の語源と意味について学習し、西欧における道徳観の変遷について哲学的歴史的な観点から理解する。また、シュプランガーの倫理教育思想を道徳教育と関連させながら学習し、人間としての生き方について考察する。さらに、道徳教育の目的・内容・方法と「道徳の時間」の展開の仕方を学び、実践的指導力を養う。/検索キーワード 道徳、道徳観、シュプランガー、道徳教育、道徳の時間

授業の一般目標 1.道徳の語源と意味について理解し、道徳の本質的な意味について考察する。2.西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解する。3.シュプランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら理解し、人間としての生き方について考察する。4.道徳教育の目的・内容・方法について理解する。5.「道徳の時間」の展開や指導方法を理解し、実践的指導力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1.道徳の語源と意味について理解できる。2.西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。3.シュプランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型について理解できる。4.道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。5.「道徳の時間」の展開や指導方法を理解できる。思考・判断の観点：1.道徳の本質的な意味やシュプランガーの教育理論と関連させながら、人間としてのよりよい生き方について考えることができる。2.日常生活の中で、状況に応じて適正な判断をすることができる。関心・意欲の観点：1.道徳教育や心の教育への関心や意欲を高めることができる。態度の観点：1.日常生活の中で、適正な思考や判断に基づいた態度や行動をとることができる。技能・表現の観点：1.「道徳の時間」の指導方法や、そのための技能と技術を身につけることができる。

授業の計画(全体) 道徳についての本質的な意味を哲学的、歴史的な観点から理解した上で、道徳教育の目的・内容・方法について学び、「道徳の時間」の展開や実践的な指導方法を理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 道徳の語源と意味 内容 ギリシア語、ラテン語、ドイツ語等から道徳の意味を探る。
- 第2回 項目 道徳律と道徳性 内容 外面的道徳と内面的道徳、モラルとエートス
- 第3回 項目 道徳観の変遷(1) 内容 ソクラテスとアリストテレス
- 第4回 項目 道徳観の変遷(2) 内容 1.アウグスティヌスとトマスアキナス2.カント
- 第5回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念と道徳 内容 1.発達の援助2.文化財の伝達3.良心の覚醒
- 第6回 項目 シュプランガーの6つの価値類型と道徳 内容 理論的価値、経済的価値、審美的価値、権力的価値、社会的価値、宗教的価値
- 第7回 項目 道徳教育の目的(1) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第8回 項目 道徳教育の目的(2) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第9回 項目 道徳教育の内容(1) 内容 1.主として自分とのかかわりに関すること2.主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 第10回 項目 道徳教育の内容(2) 内容 1.主として自然や崇高なもののかかわりに関すること2.主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 第11回 項目 道徳教育の方法 内容 問答法、ディベート、役割演技、ドラマ化等による方法
- 第12回 項目 「道徳の時間」の展開(1) 内容 「気づく-捉える-深める-見つめる-生かす」という「道徳の時間」の展開について説明する。
- 第13回 項目 「道徳の時間」の展開(2) 内容 具体的な「道徳の時間」の指導案を提示して説明する。
- 第14回 項目 学習指導案の書き方 内容 実際に「道徳の時間」の指導案を書かせる。
- 第15回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 道徳と心の教育 (MINERVA 教職講座 ; 7), ”山崎英則, 西村正登編著”, ミネルヴァ書房, 2001 年 ; 道徳と心の教育、山 英則・西村正登編著、ミネルヴァ書房、2001 年 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 道徳の本質を哲学的歴史的な観点から理解すると同時に、道徳教育に関する実践的な指導力が身につくように努めて下さい。理論面と実践面の両面から道徳教育にアプローチしていきます。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 学校教育の4大領域の1つである特別活動について、「学習指導要領」などを手がかりにその目標・内容および指導上の留意点などについて具体的事例も交えながら平易に概説する。/ 検索キーワード 主体的・自治的活動、学習指導要領、学級づくり

授業の一般目標 特別活動の基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 特別活動の目的、内容、方法について説明できる。 思考・判断の観点：1. 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 特別活動の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、学習指導要領をもとに特別活動の概略等について概説する。続いて、特別活動の中核的を一を占める学級活動を取り上げ、学級集団の性格やそこにおける子どもの関係性、具体的な指導指針等について考察する。最後に、特別活動の指導計画について事例等をもとに説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。 授業記録 オリエンテーション資料
- 第2回 項目 特別活動の意義と役割 内容 学習指導要領を手がかりにその目的・ねらい等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料1およびレジュメ1
- 第3回 項目 特別活動の変遷 内容 学習指導要領における特別活動の位置づけや内容の変遷について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料2
- 第4回 項目 特別活動の目標 内容 学習指導要領を手がかりにして特別活動の目標や内容構成について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料3
- 第5回 項目 特別活動の内容(1) 内容 児童会・生徒会活動およびクラブ活動の意義や内容、指導上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。
- 第6回 項目 特別活動の内容(2) 内容 学校行事の意義や内容、指導計画の作成と指導上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。
- 第7回 項目 学級活動の教育的意義 内容 学級活動の意義や内容について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。
- 第8回 項目 学級集団の特質と教師の役割 内容 学級集団が持つ2つ側面、その性格およびそこから導き出される教師の指導性の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 レジュメ2
- 第9回 項目 学級集団の抱える問題性 内容 今日の学級集団における人間関係の問題性について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料4およびレジュメ3
- 第10回 項目 学級活動の実際(1) 内容 学級活動における班(小集団)の意義とその指導上の留意点等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 レジュメ4
- 第11回 項目 学級活動の実際(2) 内容 学級活動におけるリーダーや話し合いの意義と指導上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 レジュメ5
- 第12回 項目 事例研究 内容 実践事例をもとにその分析と解説をする。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料5
- 第13回 項目 特別活動の指導体制と年間計画 内容 特別活動の指導体制や年間計画について事例を紹介・説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 配布資料6
- 第14回 項目 特別活動の今日的課題 内容 特別活動をめぐる今日の動向と課題について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをすること。 授業記録 レジュメ6

第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の確認は毎授業終了時に書かせる「授業コメント」により行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しないので、適宜プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジュメを配布します。日ごろからノートをこまめにまとめることを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 学校教育の4大領域の1つである特別活動について、「学習指導要領」などを手がかりに具体的事例も交えながら平易に概説する。/ 検索キーワード 主体的・自治的活動、学習指導要領、学級づくり

授業の一般目標 特別活動の基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 特別活動の目的、内容、方法について説明できる。 思考・判断の観点：1. 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 特別活動の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、学習指導要領をもとに特別活動の概略等について概説する。続いて、特別活動の中核的を一を占める学級活動を取り上げ、学級集団の性格やそこにおける子どもの関係性、具体的な指導指針等について考察する。最後に、特別活動の指導計画について事例等をもとに説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。 授業記録 オリエンテーション資料
- 第2回 項目 特別活動の意義と役割 内容 学習指導要領を手がかりにその目的・ねらい等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 配付資料1およびレジュメ1
- 第3回 項目 特別活動の変遷 内容 学習指導要領における特別活動の位置づけや内容の変遷について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 配布資料2
- 第4回 項目 特別活動の目標 内容 学習指導要領を手がかりにして特別活動の目標やその内容構成について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 配布資料3
- 第5回 項目 特別活動の内容(1) 内容 児童会・生徒会活動およびクラブ活動の意義や内容、指導上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。
- 第6回 項目 特別活動の内容(2) 内容 学校行事意義や内容、指導計画作成と指導上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。
- 第7回 項目 学級活動の教育的意義 内容 学級活動の意義や内容について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。
- 第8回 項目 学級集団の特質と教師の役割 内容 学級集団が持つ2つの側面、その性格およびそこから導き出される教師の指導性の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 レジュメ2
- 第9回 項目 学級集団の抱える問題性 内容 今日の学級集団における人間関係の問題性について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 レジュメ3
- 第10回 項目 学級活動の実際(1) 内容 学級活動における班(小集団)の意義とその指導上の留意点等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 レジュメ4
- 第11回 項目 学級活動の実際(2) 内容 学級活動におけるリーダーや話し合いの意義と指導上の留意点等について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 レジュメ5
- 第12回 項目 事例研究 内容 実践事例をもとにその分析と解説をする。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 配付資料5
- 第13回 項目 特別活動の指導体制と年間計画 内容 特別活動の指導体制や年間計画について事例を紹介・説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 配布資料6
- 第14回 項目 特別活動の今日的課題 内容 特別活動をめぐる今日の動向と課題について説明する。 授業外指示 授業ノートのみとめをする。 授業記録 レジュメ6
- 第15回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末試験(論述形式)によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。なお、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合には期末試験の受験しなく、核を失う。出欠の確認は毎授業終了時に書かせる「授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しないので、適宜プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジュメ等を配布します。日ごろからノートをこまめにまとめることを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日10:00~12:00

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 今日子どもが様々な問題傾向を抱える中、生徒指導の重要性がこれまで以上に指摘されている。本講義では、学校教育において生徒指導が果たす役割やそのあり方、今日的課題などについて平易に概説する。/ 検索キーワード 人格、個性、自己実現と社会化、指導と管理

授業の一般目標 生徒指導の理念や基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 生徒指導の理念や基礎的事項、指導上の留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 生徒指導の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、生徒指導の概念、その目的や意義について概説する。続いて、指導対象である児童・生徒の現状や彼らが抱える問題点について考察する。さらに、生徒理解や教育相談の基礎的事項について概説する。最後に生徒指導計画について説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 生徒指導の意義と目標 内容 生徒指導の手引き(文部省)等を手がかりにして生徒指導の意義・目標について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ1
- 第 3 回 項目 生徒指導の原則 内容 生徒指導の原則 およびその中心概念である自己実現や社会化等について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ2
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法の原則 内容 学校教育における生徒指導の位置づけやその内容、方法原則について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ3
- 第 5 回 項目 生徒指導と生徒管理 内容 生徒指導と生徒管理の関連と今日の実践上の問題点について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ4
- 第 6 回 項目 生徒指導と他の教育活動との関連 内容 生徒指導と教科指導、道徳指導 および特別活動等との関連について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ5
- 第 7 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(1) 内容 子どもが抱える問題(体、生活技術等)について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 配布資料1およびレジュメ6
- 第 8 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(2) 内容 感応・表現能力、コミュニケーション能力、交わり能力等の問題について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 配布資料2およびレジュメ7
- 第 9 回 項目 生徒指導における教育相談の意義と役割 内容 教育相談の意義、その位置づけ、特質等について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ8
- 第 10 回 項目 児童・生徒理解の重要性とその方法 内容 児童・生徒理解の意義、理解のための資料の収集方法と活用上の留意点等について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ9
- 第 11 回 項目 生徒指導体制と校内連携 内容 学校における指導体制と教員相互の連携の必要性、そのあり方等について説明する。授業外指示 授業ノートのとめをすること。授業記録 レジュメ10

- 第 12 回 項目 家庭、地域及び 関連諸機関との 連携 内容 家庭や地域、関 連諸機関の役割 や連携のあり 方について説明する。授業外指示 授業ノートのま とめをすること。授業記録 レジюме1 1
- 第 13 回 項目 指導計画の作成 と留意点 内容 事例をもとに指 導計画作成の方 法や留意点につ いて説明する。 授業外指示 授業ノートのま とめをすること。 授業記録 配布資料2 およびレジюме 1 2
- 第 14 回 項目 生徒指導の現状 と課題 内容 生徒指導の今日 的動向と課題に ついて説明する。 授業外 指示 授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジюме1 3
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末試験(論述形式)によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。な お、欠席が授業の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の確認は 毎授業終了時に 書かせる「授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜7プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジюмеを配布します。日ごろから ノートをこまめにま とめることを心 がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 今日子どもが様々な問題傾向を抱える中、生徒指導の重要性がこれまで以上に指摘されている。本講義では、学校教育における生徒指導が果たす役割やそのあり方、今日的課題などについて平易に概説する。/ 検索キーワード 人格、個性、自己実現と社会化、指導と管理

授業の一般目標 生徒指導の理念や基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 生徒指導の理念や基本的事項、指導上の留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 生徒指導の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、生徒指導の概念、その目的や意義について概説する。続いて、指導対象である児童・生徒の現状や彼らが抱える問題点について考察する。さらに、生徒理解や教育相談の基礎的事項について概説する。最後に生徒指導計画について説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 生徒指導の意義と目標 内容 生徒指導の手引き(文部省)等を手がかりにして生徒指導の意義・目標について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ1
- 第 3 回 項目 生徒指導の原則 内容 生徒指導の遺俗 およびその中心 概念である自己実現や社会化等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ2
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法の原則 内容 学校教育における生徒指導の位置づけやその内容、方法原則について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ3
- 第 5 回 項目 生徒指導と生徒管理 内容 生徒指導と生徒管理の関連と今日の実践上の問題点について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ4
- 第 6 回 項目 生徒指導と他の教育活動との関連 内容 世と指導と教科指導、道徳指導 および特別活動等との関連について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ5
- 第 7 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(1) 内容 子どもが抱える問題(体、生活技術等)について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 配付資料1 およびレジュメ6
- 第 8 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(2) 内容 感応・表現能力、コミュニケーション能力、交わり能力等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 配付資料2 およびレジュメ7
- 第 9 回 項目 生徒指導における教育相談の意義と役割 内容 教育相談の意義、その位置づけ、特質等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ8
- 第 10 回 項目 児童・生徒理解の重要性とその方法 内容 児童・生徒理解の意義、理解のための資料の収集法と活用上の留意点等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ9
- 第 11 回 項目 生徒指導体制と校内連携 内容 学校における指導体制と教員相互の連携の必要性、そのあり方等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ10
- 第 12 回 項目 家庭、地域及び関連諸機関との連携 内容 過程や地域、関連諸機関の役割や連携のあり方について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ11

- 第 13 回 項目 指導計画の作成 と留意点 内容 事例もとに指導 計画作成の方法 や留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのま とめをする。 授業記録 配布資料3 およびレジュメ1 2
- 第 14 回 項目 生徒指導の現状 と課題 内容 生徒指導の今日 的動向と課題に ついて説明す る。 授業外指示 授業ノートのま とめをする。 授業記録 レジュメ1 3
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
な お、欠席が授業回数 の 3 分 の 1 を 超 えた 場 合 に は 受 験 資 格 を 失 う。出 欠 は 毎 授 業 終 了 時 に 書 か せ る
「 授 業 コ メ ン ト 」 に よ っ て 行 う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジュメを配布します。日ごろからノートをこまめにま とめることを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 教育相談及び進路指導の基本理念について概説し、それを踏まえた学校現場への応用例についても学んでいく。

授業の一般目標 教育相談及び進路指導の基本的な考え方を理解するとともに、実際の学校現場でそれらを活かしていく方法についても習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談の理念
- 第 2 回 項目 教育援助の3つの次元
- 第 3 回 項目 児童生徒理解の方法
- 第 4 回 項目 不登校の理解と援助 1
- 第 5 回 項目 不登校の理解と援助 2
- 第 6 回 項目 いじめ問題の理解と対応
- 第 7 回 項目 学級崩壊への対応
- 第 8 回 項目 保健室からみた今の子どもたち
- 第 9 回 項目 スクールカウンセリングの現状と課題 1
- 第 10 回 項目 スクールカウンセリングの現状と課題 2
- 第 11 回 項目 進路指導の理念
- 第 12 回 項目 進路指導の方法
- 第 13 回 項目 進路指導の実際 1
- 第 14 回 項目 進路指導の実際 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 20% 宿題/授業外レポート = 40% 授業態度や授業への参加度 = 20% 出席 = 20%

教科書・参考書 参考書: 教育相談 基礎の基礎, 嶋崎政男著, 学事出版, 2001年; 教育現場に根ざした生徒指導, 宮下一博・濱口佳和編著, 北樹出版, 1998年

連絡先・オフィスアワー E-mail eohishi@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5454

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。／検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいらうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもたちの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	事前・事後指導	区分	その他	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	教育学部教員多数				

授業の概要 幼稚園・小学校・中学校・高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするために教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は次の通り。事前指導：授業の参観、附属養護学校における障害児教育への参加、教育実習の意義・概要・指導方法についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議 / 検索キーワード 教育実習、事前指導、事後指導

授業の一般目標 1 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の計画(全体) 事前指導として、2年次に授業の参観、附属養護学校における障害児教育への参加、3年次の教育実習の前に、教育実習の意義・概要・指導方法についての講義が行われる。(高等学校教員免許(情報)のための教育実習を行う場合は、4年次に教育実習が行われるので、授業の参観は3年次、教育実習の意義・概要・指導方法等につの講義は4年次になる)事後指導は教育実習後に各教室、教育実践総合センターで行う。(ただし、幼稚園で教育実習を行う場合は、教室と附属幼稚園において行う。)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 実施月日 4月14日(水) 実施時間 14:30~16:30 実施場所 小学校主免全員 教育学部 22番教室 実施月日 4月21日(水) 14:30~16:30 中学校主免全員 実施場所 小学校主免全員 教育学部 21番教室 内容 実習スケジュール、諸注意、調査書の記入 事前・事後指導オリエンテーション 教育実習の意義、教育実習ビデオ視聴・指導
- 第2回 項目 実施時間 14:30~17:00 実施場所 Aクラス 教育学部 24番教室 Bクラス 教育学部 47番教室 Cクラス 教育学部 23番教室 Dクラス 教育学部 22番教室 5月14日(金) 情報免許 実施時間 13:00~16:35 実施場所 経済学部第二大講義室 内容 前期基本実習の概要 授業構想の方法 教育実習意義、授業構想方法、学習の指導方法
- 第3回 項目 実施時間 14:30~16:30 実施場所 Aクラス 附属山口中学校 Bクラス 附属光中学校 Cクラス 附属山口小学校 Dクラス 附属光小学校 内容 学習の指導方法
- 第4回 項目 実施時間 14:30~17:00 実施場所 Eクラス 教育学部 24番教室 Fクラス 教育学部 47番教室 Gクラス 教育学部 23番教室 Hクラス 教育学部 22番教室 内容 後期基本実習の概要 授業構想の方法
- 第5回 項目 実施時間 14:30~16:30 Fクラス 附属光中学校 Hクラス 附属光小学校 内容 学習の指導方法
- 第6回 項目 実施時間 14:30~17:00 Eクラス 附属山口中学校 Gクラス 附属山口小学校 内容 学習の指導方法
- 第7回 項目 参加実習(A)(障害児教育除く2年生)5月~6月 場所 附属養護学校 参加実習(B)(障害児教育除く2年生) 場所 附属養護学校他
- 第8回 項目 参観実習(障害児教育コースを除く) 実施時間 10:00~15:00 実施場所 1班 附属山口中学校 附属山口小学校 2班 附属光中学校 附属光小学校
- 第9回 項目 参観実習(障害児教育コースを除く) 実施時間 10:00~15:00 実施場所 1班 附属光中学校 附属光小学校 2班 附属山口中学校 附属山口小学校
- 第10回 項目 事後指導 小学校主免 実施時間 15:00~17:00 実施場所 教育学部実践センター 2F 11月~各教室(コース・専修)毎に事後指導実施・評価(4時間) 内容 グループ毎に教育研究課題レポート作成・提出・質疑応答 事後指導レポート 実習生授業・課題の分析・指導等
- 第11回 項目 事後指導 中学校主免・高校 情報免 実施時間 15:00~17:00 実施場所 教育学部実践センター 2F 11月~各教室(コース・専修)毎に事後指導実施・評価(4時間) 内容 グループ

毎に教育 研究課題レポート 作成・提出・質疑 応答 事後指導レポート 実習生授業・課題 の分
析・指導等

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 主席状況及びレポート等によって評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 教育実習の手引き

備考 集中授業

開設科目	教育実習(初等)I	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	その他
担当教官	小粥 良				

授業の概要 幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための教育実習を幼稚園・小学校において行う。幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標 1 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2 教育活動全般にわたる認識を深める。 3 児童に対する理解を深める。 4 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 幼稚園・小学校において、実地保育・実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の保育・授業についての検討会等を、あわせて行い、初等教育に対する理解を深めていく。附属幼稚園、附属小学校・県内公立小学校で教育実習を行う。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

開設科目	教育実習(初等)II	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官	小粥 良				

授業の概要 幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための教育実習を幼稚園・小学校において行う。幼稚園教諭免許・小学校教諭免許以外の免許を主たる免許とする場合の教育実習、及び、幼稚園教諭免許を主たる免許とする場合の公立幼稚園における教育実習がこれに当たる。

授業の一般目標 1 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2 教育活動全般にわたる認識を深める。 3 児童に対する理解を深める。 4 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 幼稚園・小学校において、実地保育・実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業・保育についての検討会等を、あわせて行い、初等教育に対する理解を深めていく。幼稚園教諭免許・小学校教諭免許以外の免許を主たる免許とする場合は、附属幼稚園、附属小学校において、幼稚園教諭免許を主たる免許とする場合は、県内公立幼稚園において、教育実習を行う。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

開設科目	介護等体験実習	区分	その他	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官	上地広昭				

授業の概要 養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて7日間、介護等の体験を行う。

授業の一般目標 個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。

授業の計画(全体) 附属養護学校において2日間、社会福祉関係の諸施設において5日間、合わせて7日間、介護等の体験を行う。事前には、オリエンテーションを行い、介護等体験実習を行うことの意義、また、実習にあたっての心構えについて、徹底を図る。社会福祉施設での実習については、介護等体験実習を行うことの意義、実習にあたっての心構えが身についているか、テストを行い、テストに合格した者のみ、実習に参加させる。また、実習後には、実習についてのレポートを課す。(障害児教育コースの介護等体験実習については別途実施する。)

成績評価方法(総合) 優・良・可・不可による評価は行わず、所定の実習を完了した(レポートの提出も含む)ことをもって、単位の認定のみを行う。

開設科目	国際理解教育論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育を実践するにあたり、必要とされる国際的な課題に関する基礎的な知識や理論を学ぶとともに、それをわかりやすく人に教える方法について検討する。

授業の一般目標 国際理解教育とは何かを理解する。国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる 国際理解教育を学校で行う際の計画をたてる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育の理念と歴史を理解する。地球的な課題について理解し、自分の意見がもてる。思考・判断の観点：学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。批判的に考えることができる。関心・意欲の観点：学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。複雑な国際問題を理解しようとする。態度の観点：授業中に行われる討論や活動に主体的に参加できる。技能・表現の観点：自分の考えた授業について、わかりやすく記述し、発表することができる。

授業の計画（全体）いくつかの国際的な課題の事例をとりあげ、それらのもつ複雑な構造を資料の講読、討議、ビデオの視聴、ワークショップを通して整理し、理解をすすめていく。また、その際に用いられる方法などを参考にし、受講生が自分の関心のある問題についての授業を構成し、発表する。

成績評価方法（総合）授業中に発表する各自の授業の指導案とそれをまとめたレポートによる総合評価

教科書・参考書 教科書：事例に応じた資料をプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 200 - 1 研究室 初回授業時に指示。

開設科目	国語科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「読むこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。 / 検索キーワード 国語科教育、「読むこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「読むこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践に関わる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「読むこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等を説明することができる。 思考・判断の観点：「読むこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「読むこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議等に積極的に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体）（1）授業は毎回プリントを配布し、参考文献等についてはその都度紹介する。（2）毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「読むこと」内容 シラバスの説明 「読むこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある。
- 第 2 回 項目 「読むこと」の指導について（1）内容 読書指導について I 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「読むこと」の指導について（2）内容 読書指導について II 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「読むこと」の指導について（3）内容 韻文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「読むこと」の指導について（4）内容 韻文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「読むこと」の指導について（5）内容 小説の指導について I 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「読むこと」の指導について（6）内容 小説の指導について II 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「読むこと」の指導について（7）内容 論説文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 「読むこと」の指導について（8）内容 論説文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 「読むこと」の授業構想（1）内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 「読むこと」の授業構想（2）内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 学習指導案の検討 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業（1） 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業（2）
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。（1）学期末試験（2）毎時の課題シート（3）出席状況

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎回プリントを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

開設科目	国語科教育法 II	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 中等教育における国語科教育の歴史を概説し、国語科教育の今日的課題について、教育制度・教科書・教育理論等から検証してゆく。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 近代国語科教育の歩みを知り、現代の国語科教育が抱える課題解決の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代国語教育史についてあらましを説明できる。 思考・判断の観点：現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、指摘認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。。 関心・意欲の観点：近代国語科教育の歴史について関心を深め、今日の課題について考察する意欲をもつ。 態度の観点：国語科教育の諸問題について、多角的視点から検討を加えることができる。 技能・表現の観点：考察した結果を高等や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容の説明
- 第 2 回 項目 国語科教育の内容と目標 内容 国語科教育の内容と目標概説
- 第 3 回 項目 近代国語科教育の黎明期 (1) 内容 明治期の国語科教育 (1)
- 第 4 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 5 回 項目 児童中心主義と国語科教育 (1) 内容 大正期の国語科教育 (1)
- 第 6 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 7 回 項目 国家主義と国語科教育の充実 内容 昭和戦前期の国語科教育
- 第 8 回 項目 皇国思想と国語科教育 内容 戦時中の国語科教育
- 第 9 回 項目 戦後の国語科教育 (1) 内容 戦後の新生・国語科教育 (1)
- 第 10 回 項目 同 (2) 内容 学習指導要領の流れ (2)
- 第 11 回 項目 同 (3) 内容 同 (3)
- 第 12 回 項目 国語科教育の現状と問題点 (1) 内容 言語教育と文学教育
- 第 13 回 項目 同 (2) 内容 読解指導と作文指導
- 第 14 回 項目 同 (3) 内容 今日的課題について
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

メッセージ 主体的な問題意識をもって授業に参加してください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育法 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「書くこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身につける。 / 検索キーワード 国語科教育、「書くこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「書くこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「書くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点を説明することができる。 思考・判断の観点：「書くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「書くこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体） (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらうとともに、作成した指導案を提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「書くこと」 内容 シラバス説明、「書くこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「書くこと」の指導について 1 内容 歴史の変遷と様々な方法、今日的課題 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「書くこと」の指導について 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「書くこと」の指導について 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「書くこと」の授業構想 1 内容 指導に当たって留意すべきこと 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「書くこと」の授業構想 2 内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「書くこと」の授業構想 3 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「書くこと」の授業構想 4 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 学習指導案の検討 1 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 学習指導案の検討 2 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 模擬授業 1 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 模擬授業 2 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業 3 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業 4 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	国語科教育法 IV	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「話すこと・聞くこと」の指導を中心に、その歴史的変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身につける。 / 検索キーワード 国語科教育、「話すこと・聞くこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「話すこと・聞くこと」の指導における歴史的変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「話すこと・聞くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点を説明することができる。 思考・判断の観点：「話すこと・聞くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「話すこと・聞くこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体） (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらうとともに、作成した指導案を提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション国語科における「話すこと・聞くこと」内容 シラバス説明、「話すこと・聞くこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導について 1 内容 歴史的変遷と様々な方法、今日的課題 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導について 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「話すこと・聞くこと」の指導について 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「話すこと・聞くこと」の授業構想 1 内容 指導に当たって留意すべきこと 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「話すこと・聞くこと」の授業構想 2 内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「話すこと・聞くこと」の授業構想 3 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「話すこと・聞くこと」の授業構想 4 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 学習指導案の検討 1 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 学習指導案の検討 2 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 模擬授業 1 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 模擬授業 2 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業 3 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業 4 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	社会科教育学 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 生徒が主体的に学ぶ社会科授業実践に触れたのちに、生徒が関心を持つ題材を取り上げながら、中学生向けの読み物冊子を作り上げ、それを活用した授業案をまとめる。 / 検索キーワード 中学校社会科 カリキュラムの自主編成 授業づくり

授業の一般目標 1 . すぐれた実践に触れ、生徒が主体的に学ぶ社会科授業のポイントを学ぶことができる。 2 . 中学生が興味を持つテーマで、メッセージ性のある読み物冊子を創ることができる。 3 . 冊子に対応した授業案をまとめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中学校社会科の教材づくり、授業づくりのポイントを理解する
 思考・判断の観点：生徒が主体的に学ぶ社会科授業案を作成できる。 技能・表現の観点：小冊子、授業案を簡潔に紹介できる。

授業の計画（全体） 中学校社会科教育の現状を知り、その中で生徒が主体的に学ぶ授業をつくっているすぐれた実践に学ぶ。各学生は関心のあるテーマを選び、教材研究をした上で、中学生向けの読みもの冊子をつくる。授業案も提案する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 社会科教育の現状と問題点
- 第 3 回 項目 授業づくりのしくみ
- 第 4 回 項目 中学校地理の授業
- 第 5 回 項目 中学校歴史の授業
- 第 6 回 項目 中学校公民の授業
- 第 7 回 項目 中学校社会科授業の実際
- 第 8 回 項目 気になる題材・単元 中間発表 1
- 第 9 回 項目 期になる題材・単元 中間発表 2
- 第 10 回 項目 授業づくりの構造と授業案の書き方
- 第 11 回 項目 小冊子の発表と検討 1
- 第 12 回 項目 小冊子の発表と検討 2
- 第 13 回 項目 授業案の作成作業と検討
- 第 14 回 項目 授業案の完成と解説
- 第 15 回 項目 まとめ

連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	社会科教育学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、「新学習指導要領案を作成する」ことを通じて検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科 50 年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標 1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。 2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 以下の概念を理解している ・総合社会科 分化社会科 ・認識形成 態度形成 思考・判断の観点： 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる 態度の観点： 毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点： カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 いま社会科で何が問題か 内容 学校社会科教育 をとりまく状況
- 第 2 回 項目 社会科で教える 内容は誰が決めているか 内容 社会科における「内容」の概念
- 第 3 回 項目 社会科の「内容」をめぐって 何が問題になってきたか 内容 「総合的」な社会の学びか、「分科的」な社会の学びか
- 第 4 回 項目 社会科は子どもが「どう」なることをめざすのか 内容 社会科において「目標」とは何か
- 第 5 回 項目 社会科は子どもに、何をどのように「わからせて」いるか 内容 社会科の認識原理は何か
- 第 6 回 項目 社会科は「積み上げる」教科か、「ひっくり返す」教科か 内容 社会科のカリキュラム構成原理
- 第 7 回 項目 小学校の社会科はどのように構成されるべきか 内容 小学校児童にとって「社会」とはどのようなものなのか
- 第 8 回 項目 中学校「地理的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「地理的分野」の内容はこれでよいか
- 第 9 回 項目 中学校「歴史的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「社会科歴史」の存在とその意味
- 第 10 回 項目 中学校「公民的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「公民的分野」の成立根拠
- 第 11 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（1） 内容 現行学習指導要領をめぐる論点と課題の整理
- 第 12 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（2） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（1）
- 第 13 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（3） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（2）
- 第 14 回 項目 社会科で身につける「学力」とはどのようなものか 内容 社会科評価論の現状と課題
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

教科書・参考書 教科書： 特に定めない 随時資料配付 / 参考書： 社会科重要語 300 の基礎知識（重要語 300 の基礎知識；4）、森分孝治、片上宗二編集、明治図書出版、2000 年；社会科教育学ハンドブック：新しい視座への基礎知識、社会認識教育学会編、明治図書出版、1994 年；『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当
学生に連絡

開設科目	社会科教育学 III	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 社会科教育の当面する課題を押さえ、これからのあり方を実践的に検討する。 自動・生徒の実態に即した、一人一人の社会認識を育てる社会科授業づくりについて深める。

授業の一般目標 (1) 中学校を中心とした社会科の実践を「子どもの学び」の視点から分析する。(2) 社会科の学力とは何か検討し、これからの中学校社会科の授業づくりを深める。

授業の計画(全体) (1) すぐれた社会科実践に学ぶ (2) 社会科教育の課題 (3) 社会科の授業作りの実際 (4) これからの社会科教育を考える(社会科の教育課程を創る) (5) まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会科の現状 1
- 第 2 回 項目 社会科の現状 2
- 第 3 回 項目 社会科の現状 3
- 第 4 回 項目 社会科の課題 1
- 第 5 回 項目 社会科の課題 2
- 第 6 回 項目 新しい授業づくりの検討 1
- 第 7 回 項目 新しい授業づくりの検討 2
- 第 8 回 項目 新しい授業づくりの検討 3
- 第 9 回 項目 新しい授業づくりの提案 1
- 第 10 回 項目 新しい授業づくりの提案 2
- 第 11 回 項目 新しい授業づくりの提案 3
- 第 12 回 項目 これからの社会科を考える 1
- 第 13 回 項目 これからの社会科を考える 2
- 第 14 回 項目 これからの社会科を考える 3
- 第 15 回 項目 まとめ

メッセージ 新しい社会科をどう創るかについて熱い議論をしたい。

開設科目	中等地理歴史教育論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を 1 つ取り上げ、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表・検討する。

授業の一般目標 1 . 中等地理・歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。 2 . さまざまな地理・歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している。・社会科歴史 社会科地理・内容構成・単元構成・教材構成 思考・判断の観点：地理・歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：地理・歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史教育概論 (1) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (1) - 中学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 2 回 項目 地理・歴史教育概論 (2) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (2) - 高等学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 3 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (1) 内容 教育実習における地理・歴史授業の分析
- 第 4 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (2) 内容 地理・歴史授業のための教材研究と内容構成
- 第 5 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (3) 内容 教材研究と単元計画
- 第 6 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (1) 内容 単元計画の検討 (1)
- 第 7 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (2) 内容 単元計画の検討 (2)
- 第 8 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (3) 内容 単元計画の検討 (3)
- 第 9 回 項目 地理・歴史授業における学習指導 内容 学習指導案の書式と構成
- 第 10 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (1) 内容 学習指導案の検討 (1)
- 第 11 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (2) 内容 学習指導案の検討 (2)
- 第 12 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (3) 内容 学習指導案の検討 (3)
- 第 13 回 項目 地理・歴史教育における評価 (1) 内容 地理・歴史授業とテスト問題
- 第 14 回 項目 地理・歴史教育における評価 (2) 内容 地理・歴史のテスト問題の検討
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：社会認識教育学会『中学校社会科教育』学術図書出版社、1996 社会認識教育学会『地理歴史科教育』学術図書出版社、1996

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9.11以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。 / 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法9条 自衛隊

授業の一般目標 1. 9.11以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2. 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	中等地理歴史教育論 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 中等地理・歴史教育の実践的諸問題に関して、主に演習形式による検討を通して考察を深める。具体的なカリキュラム構想や授業実践の分析を通して、地理・歴史授業を教科の教授学的視点から論じる力を身につけることをめざす。

授業の一般目標 1. 地理歴史教育実践に対し、カリキュラム的な視点、認識形成的な視点からの分析・考察ができる。 2. 地理歴史教育実践の諸問題に対し、自らの提案・立論ができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：地理歴史教育、社会科教育に関するさまざまな「理論」や指導計画、授業実践に対し、カリキュラム的観点や授業構成論的観点から考察し、分析することができる。

関心・意欲の観点：地理歴史教育、社会科教育に関する自らの研究課題をあげることができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：演習用の資料を、議論可能な形態で作成し、発表することができる。

授業の計画(全体) 本科目は演習であり、以下に示す内容・項目は事例であって、受講生の興味・関心に応じて大きく内容が変わることもあり得る。 1. 中等地理・歴史授業構成の主要な論点 2. 地理学習論と社会科地理 3. 歴史学習論と社会科歴史 4. 環境論、立地論 5. 通史学習論、問題史学習論 6. 地域区分論、時代区分論 7. 地歴並行学習論、地歴相關論 8. 地域教材論 9. 調査・作業学習論 10. 討論学習論 11. 人物学習論 12. 地誌学習論 13. 近現代史学習論 14. 歴史的思考、地理的思考

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史学習をめぐる諸問題と研究領域
- 第 2 回 項目 地理・歴史学習に関する研究課題 内容 受講者各自の研究課題の仮決定
- 第 3 回 項目 地理・歴史学習に関する課題研究発表演示
- 第 4 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 1
- 第 5 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 2
- 第 6 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 3
- 第 7 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 4
- 第 8 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 5
- 第 9 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 6
- 第 10 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 7
- 第 11 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 8
- 第 12 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 9
- 第 13 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 10
- 第 14 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 11
- 第 15 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 12

成績評価方法(総合) 発表資料と議論の内容、及び出席点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：全体に関するものは、特に定めない。 / 参考書：発表者と内容に応じて、随時指示する。

メッセージ 本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法前文・第九条を取り上げ、現代日本社会に目を開く、高校公民科または中学校公民分野の授業案を創る。 / 検索キーワード 平和教育 平和と暴力 憲法第9条 公民教育

授業の一般目標 1．憲法改正問題について、専門家と対話できるほどに内容を理解する。 2．専門家への質問や現場の理解を通じてリアルな教材資料を作成し、生徒が身を乗り出して学ぶことができる授業案を構想する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法改正問題を把握する 思考・判断の観点：生徒の現状認識を深める公民科の授業をつくる

授業の計画（全体） 憲法改正問題で取り上げたいことを選び、内容理解をふかめるとともに、専門家に質問することで、新たな課題を探る。 その上で、単元構想をまとめ発表する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題で取り上げたいことは
- 第 3 回 項目 憲法改正問題について調べる
- 第 4 回 項目 憲法改正問題に関する質問と検討
- 第 5 回 項目 昨年のレポート紹介
- 第 6 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 教材研究 1
- 第 7 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 教材研究 2
- 第 8 回 項目 専門家との対話
- 第 9 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 私の授業構想 1
- 第 10 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 私の授業構想 2
- 第 11 回 項目 本時案の作成について
- 第 12 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 本時案の発表 1
- 第 13 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 本時案の発表 2
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 60 % 演習 = 40 %

連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	数学科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 中等教育数学科の基本的事項について解説して、今日の教育状況における数学教育の課題について検討する。

授業の一般目標 中等教育数学科の基本的事項について理解して、今日の教育状況における数学教育の課題を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の基本的枠組みと事項を理解し、今日の教育状況における数学教育の課題を知る。 思考・判断の観点：中等教育数学科の基本的枠組みと事項を踏まえて、今日の教育状況における数学教育の課題を論じることができる。

授業の計画（全体） 学習指導要領を中心にして、数と式、数量関係、図形の領域について、その数学的内容を概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育の目標（学習指導要領についての理解を含める）
- 第 2 回 項目 数と式の指導 1
- 第 3 回 項目 数と式の指導 2
- 第 4 回 項目 数と式の指導 3
- 第 5 回 項目 数と式の指導 4
- 第 6 回 項目 数量関係の指導 1
- 第 7 回 項目 数量関係の指導 2
- 第 8 回 項目 数量関係の指導 3
- 第 9 回 項目 数量関係の指導 4
- 第 10 回 項目 図形の指導 1
- 第 11 回 項目 図形の指導 2
- 第 12 回 項目 図形の指導 3
- 第 13 回 項目 図形の指導 4
- 第 14 回 項目 学習指導の方法
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 学期末テストによって評価する。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）解説 数学編、文部科学省、大阪書籍、1999 年

備考 集中授業

開設科目	数学科教育法 II	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中学校における指導の重点，指導内容，指導内容の背景にある数学や，数学的見方・考え方を検討し，事象を中学校の数学の教材として具体化する実際について話し合う。

授業の一般目標 中学校数学が扱う数学の内容を理解し，事象の中から数学の教材を開発することができること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中学校における数と式，図形，数量関係の領域にどのような数学的内容が含まれているか理解する 思考・判断の観点： 中学校における数と式，図形，数量関係の領域の内容の数学を指導対象として活用できる 関心・意欲の観点： 事象の中から数学の教材を開発することに関心をもつ

授業の計画（全体） 中学校の数学の数と式，図形，数量関係の各領域にそって，その数学的内容とその教材開発を議論していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校における教材開発
- 第 2 回 項目 オープンエンド課題とその作り方
- 第 3 回 項目 テクノロジー利用の紹介
- 第 4 回 項目 数と式の領域の内容
- 第 5 回 項目 数と式の領域の教材開発
- 第 6 回 項目 数と式の領域の教材開発
- 第 7 回 項目 数量関係の領域の内容
- 第 8 回 項目 数量関係領域の教材開発
- 第 9 回 項目 数量関係領域の教材開発
- 第 10 回 項目 図形領域の内容
- 第 11 回 項目 図形領域の教材開発
- 第 12 回 項目 図形領域の教材開発
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 レポート作成
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法（総合） 教材開発の実習が中心になるため，出席およびレポートが中心になります。

教科書・参考書 教科書： 中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）解説 数学編，文部科学省，大阪書籍，1999 年

開設科目	数学科教育法 III	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を考え、マイクロティーチングを通して、学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を養う

授業の一般目標 中等教育数学科の学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を理解する。

思考・判断の観点：中等教育数学科の学習指導を立案・実践・評価できる。 関心・意欲の観点：中等教育数学科の学習指導の立案・実践・評価に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：中等教育数学科の学習指導の立案・実践・評価を的確に実行できる。

授業の計画（全体） 中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成について概説したあと、マイクロティーチングを通して、学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を養う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校数学の指導法
- 第 2 回 項目 学習指導計画の構成
- 第 3 回 項目 指導計画作成実習 1
- 第 4 回 項目 指導計画作成実習 2
- 第 5 回 項目 授業研究の方法
- 第 6 回 項目 授業研究の方法：ビデオの分析 1
- 第 7 回 項目 授業研究の方法：ビデオの分析 2
- 第 8 回 項目 模擬授業とその検討 1
- 第 9 回 項目 模擬授業とその検討 2
- 第 10 回 項目 模擬授業とその検討 3
- 第 11 回 項目 模擬授業とその検討 4
- 第 12 回 項目 授業研究のまとめ
- 第 13 回 項目 指導法研究：テクノロジーの利用
- 第 14 回 項目 指導法研究：総合的学習
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） レポート 2 回、およびマイクロティーチングの参加で評価する。

メッセージ 学習指導案を作成して、模擬授業で教師役と生徒役を演じることが求められます。授業への積極的参加を求めます。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学科教育法 IV	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から検討を行なう。

授業の一般目標 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる． 思考・判断の観点：中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から議論することができる

授業の計画（全体） 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，歴史的な順序に沿って，理論的，社会的，国際的に広い視野から検討する．特に，学習理論の影響を中心に考察する．

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における学習理論について
- 第 2 回 項目 連合主義心理学
- 第 3 回 項目 連合主義心理学
- 第 4 回 項目 行動主義心理学
- 第 5 回 項目 ゲシュタルト心理学 1
- 第 6 回 項目 ゲシュタルト心理学 2
- 第 7 回 項目 情報処理心理学の発展 1
- 第 8 回 項目 情報処理心理学の発展 2
- 第 9 回 項目 情報処理心理学の発展 3
- 第 10 回 項目 構成主義 1
- 第 11 回 項目 構成主義 2
- 第 12 回 項目 ヴィゴツキーの理論 1
- 第 13 回 項目 ヴィゴツキーの理論 2
- 第 14 回 項目 まとめと質疑
- 第 15 回 項目 レポートについての質疑

成績評価方法（総合） レポートによって評価する．

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	理科指導法総論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 理科教育に関する概要について講義する。中学校・高校理科教諭免許を取得するためには必修である。

授業の一般目標 理科教師として授業づくりに必要な基礎的な知識や技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関する基礎的な知識理解 思考・判断の観点：科学的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：理科教育に対する興味関心 態度の観点：真面目に取り組む姿勢 技能・表現の観点：理科授業を構想して実践する技能と表現力

授業の計画(全体) 理科教育の歴史から入り、現在の理科学習指導要領の理念について考察する。その後、理科の学習論や指導案の作り方を実践を交えて解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要説明と受講確認
- 第 2 回 項目 現行の理科教育課程 内容 現在の大学生が受けてきた理科教育
- 第 3 回 項目 戦後の理科教育の変遷(1) 内容 戦後から平成元年までの学習指導要領の変遷
- 第 4 回 項目 戦後の理科教育(2) 内容 総合的な学習と理科教育
- 第 5 回 項目 理科の学習論(1) 内容 問題解決学習など
- 第 6 回 項目 理科の学習論(2) 内容 構成主義学習論ほか
- 第 7 回 項目 環境教育とSTS教育
- 第 8 回 項目 科学的思考 内容 帰納主義と相対主義科学論
- 第 9 回 項目 難しい科学概念の教授法 内容 高校理科「転向力」を例として
- 第 10 回 項目 思考実験を用いた理科授業 内容 フーコーの振り子と金星の見え方
- 第 11 回 項目 理科の評価 内容 単語聯想法と概念地図法について
- 第 12 回 項目 理科授業の学習指導案の書き方 I 内容 指導案の種類と書き方
- 第 13 回 項目 理科授業の学習指導案の書き方 II 内容 中学校理科の教科書を参考にして指導案を作成する
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験とレポート(指導案)で評価する。

教科書・参考書 教科書：未定、 / 参考書：授業の中で紹介する。

開設科目	理科実験指導法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫・和泉研二				

授業の概要 理科二分野の内容(物理・化学)について、実験方法を中心に具体的な授業方法を学ぶ。中学校理科の免許取得のために必修/検索キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科 1 分野について、実験観察を中心に授業作りの基礎的な知識と技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 物理教育と化学教育に関する基礎的な知識 思考・判断の観点: 科学的な思考力 関心・意欲の観点: 物理教育と化学教育に対する意欲を高める 態度の観点: 積極的に取り組む態度 技能・表現の観点: 基礎的な実験観察の技能と授業への応用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校の化学 内容 中学校の化学領域と授業への導入
- 第 2 回 項目 物質の状態変化 内容 状態変化に関する教材と授業展開
- 第 3 回 項目 物質の化学変化 内容 化学変化に関する教材と授業展開
- 第 4 回 項目 安全教育 内容 化学実験に関する安全管理について
- 第 5 回 項目 授業の実際(1) 内容 現職教員による授業
- 第 6 回 項目 授業の実際(2) 内容 現職教員による授業
- 第 7 回 項目 予備日
- 第 8 回 項目 物理のイメージと授業を活性化する方法 内容 KJ法による参加型協働学習の体験
- 第 9 回 項目 物理授業における実験と理論の関係 1 内容 振り子の実験を例とした理論追求型授業
- 第 10 回 項目 物理授業における実験と理論の関係 2 内容 理論追求型と理論依存型授業の比較
- 第 11 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理 1 内容 古代エジプトから古代ギリシャ時代の科学
- 第 12 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理 2 内容 ケプラーの法則を例として
- 第 13 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理 3 内容 運動の法則、特に慣性概念を例として
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) レポートと試験によって成績を評価する

教科書・参考書 教科書: 文化として学ぶ物理科学, 山下芳樹・池田幸夫, 丸善, 2003 年

開設科目	理科実験指導法 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊・某				

授業の概要 理科教育生物分野および地学分野の内容に沿いながら、講義を中心に、観察・実習をまじえながら、指導する。

授業の一般目標 理科教育生物分野および地学分野の内容について、背景となる理論、指導目標などを理解し、実践的な指導法などを修得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 1 ）自 然とは何か 内容 野外学習の基礎 となる文化的自 然観、科学的自 然観を理解し、 理科教育におけ る自然観を学ぶ
- 第 2 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 2 ）分 類学と図鑑の読 み方 内容 自然を理解し、 探求するための 基礎となる分類 学の概念、方 法、図鑑のみか たなどを学ぶ
- 第 3 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 3 ）身 近な生物の生態 調査 内容 1 . 2 回で学ん だ事を基礎 に、 大学構内の雑草 の生態的調査を 行う。
- 第 4 回 項目 第 3 回に同じ 内容 第 3 回に同じ
- 第 5 回 項目 環境教育 内容 環境問題と環境 問題解決、環境 教育の位置づけ 等について学ぶ
- 第 6 回 項目 環境教育 内容 環境問題解決へ の手段としての 環境教育の役 割、目標、学校 教育・理科 教育 との関連等について学ぶ
- 第 7 回 項目 予備日
- 第 8 回 項目 学習指導要領 内容 地学分野の学習内容とねらい
- 第 9 回 項目 天文分野（ I ） 内容 天球儀の使い方（ 天球概念、天球座標 ）
- 第 10 回 項目 天文分野（ II ） 内容 星座早見盤の使い方（ 太陽・星の日周・年周運動 ）
- 第 11 回 項目 地球分野 内容 岩石・化石の観察と見方（ 地球の構成、地球史 ）
- 第 12 回 項目 気象分野 内容 気象要素と天気図作成
- 第 13 回 項目 総合学習関連 内容 エネルギー問題の事例演習
- 第 14 回 項目 教材研究の事例 内容 実地指導講師による教材研究
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 従業時に行う実習レポ - ト、課題レポ - ト、出席状況を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	理科指導実践研究	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	理科教育全員				

授業の概要 受講学生を3班に分け、各班ごとに責任を持って小学校のサイエンスクラブのための教材を作成し、附属山口小学校のクラブ活動の時間にその授業を行う。附属小学校での授業は3回程度である。附属での実践に関わる教材研究の他に、具体的な授業の方法に関する実践的な指導を行う。 / 検索キーワード 理科教育 授業研究

授業の一般目標 理科に対する児童生徒の興味関心を高め、理解を深める実践的な方法を習得する。する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 科学実験・観察に関する基礎的な理解 思考・判断の観点： 児童生徒の立場に立って、教材を検討する思考力 関心・意欲の観点： 実験観察を授業に導入しようとする意欲 態度の観点： まじめに取り組む姿勢や態度 技能・表現の観点： 実験観察の教材を作る技能と児童生徒にわかりやすく説明する技術

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要説明 と受講の確認
- 第 2 回 項目 実験テーマ I
- 第 3 回 項目 実験テーマ I
- 第 4 回 項目 附属での授業実践 内容 附属学校で実験 テーマ I を実践 する 授業外指示 場所：附属山口 小学校
- 第 5 回 項目 実験テーマ II 内容 実験観察 I の反省会 実験テーマ II の 準備
- 第 6 回 項目 実験テーマ II 内容 実験テーマ II の 準備
- 第 7 回 項目 授業実践 内容 附属学校で実験 テーマ II を実践 する 授業外指示 場所：附属山口 小学校
- 第 8 回 項目 実験テーマ III 内容 実験テーマ II の 反省会 実験テーマ III の 準備
- 第 9 回 項目 実験テーマ III 内容 実験テーマ III の 準備
- 第 10 回 項目 授業実践 内容 附属学校で実験 テーマ III を実践 する 授業外指示 場所：附属山口 小学校
- 第 11 回 項目 授業検討会 内容 実験テーマ産 についての反省
- 第 12 回 項目 パソコンを用いたアニメーション教材の作成 1 内容 パワーポイント 2003 の機能を利用したアニメーション作成（講義と実習）
- 第 13 回 項目 パソコンを用いたアニメーション教材の作成 1 内容 パワーポイント 2003 の機能を利用したアニメーション作成（実習）
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

教科書・参考書 教科書： なし / 参考書： 適宜指示を与える。

開設科目	音楽科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 音楽科教育に必要な基底について学んだ後、音楽科の授業実践のための基礎技能を学ぶ。

授業の一般目標 本授業では、音楽科教育の理念・目的、歴史、研究の基礎的な知識を獲得した後、音楽科教育の実践に必要な技能を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音楽科教育の基礎理論を理解し、理解にもとずいて実践に結びつける事ができる。 技能・表現の観点：コードネームを理解し、歌唱教材 1 曲に対し 3 種類の伴奏形を創ることができる。更に、曲想の工夫と多彩な表現を目指す。

授業の計画（全体） 講義において音楽科教育の基礎理論を学ばせ、続いて教材の取り扱いについて実践授業を行う。更に模擬授業を行わせ、受講生全員による検討を行う。

教科書・参考書 教科書：音楽科重要用語 300 の基礎知識, 吉富巧修編集, 明治図書, 2001 年 / 参考書：小学校学習指導要領解説音楽編, 文部省, 教育芸術社, 1999 年

開設科目	音楽科教育法 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 本授業では、音楽科教育の内容と方法について先輩の行った実習授業のビデオ教材の視聴・分析を通して学び、実際に教材研究を行って指導案を作成し、それによる模擬授業、さらに教育実習を経験した後に更に実習中に行った授業を検討して音楽科の内容・方法について研究を深める。

授業の一般目標 先輩ビデオ教材による授業分析、教材研究、指導案作成、模擬授業、そして教育実習を経験した後、同僚実習指導案の検討を行って、音楽科の具体的な教育実践力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の分析（ 1 ）
- 第 2 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 3 回 項目 教材研究（歌唱分野）（ 1 ）
- 第 4 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 5 回 項目 教材研究（鑑賞分野）（ 1 ）
- 第 6 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 7 回 項目 指導案の作成（ 1 ）
- 第 8 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 9 回 項目 作成した指導案による模擬授業
- 第 10 回 項目 同僚教育実習生の音楽科の授業の検討（ 1 ）
- 第 11 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 12 回 項目 教材研究（器楽分野）（ 1 ）
- 第 13 回 項目 同上（ 2 ）
- 第 14 回 項目 教材研究（創作分野）（ 1 ）
- 第 15 回 項目 同上（ 2 ）

成績評価方法（総合） 期末試験をレポートに代える。

メッセージ 教科教育専攻生として自覚し、音楽科教育と研究に興味・関心をもって取り組んでほしい。

開設科目	音楽科教育法 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 音楽科教育法 1、2 での音楽科の実践の為の基本的な理論の獲得に続き、本授業では更に音楽科の実践に必要な理論を深める。

開設科目	音楽科教育法 IV	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 音楽科教育法 3 での音楽科の実践の為の理論の獲得に続き、本授業では更に音楽科の実践に必要な応用的な理論を深める。

開設科目	美術科教育学 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 「教科教育法図画工作」を基礎として、美術教育学をより深く学んでいく。中等教育段階の学習者の特性（発達段階等）を考慮しながら、美術教育を構想・実践する上での理念的基礎を学ぶ。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション。授業ルールやテキストの確認。
- 第 2 回 項目 中学生の発達段階。
- 第 3 回 項目 表現のタイプ論（1）：リードの説を具体的に検証。
- 第 4 回 項目 表現のタイプ論（2）：ローウェンフェルドの説を具体的に検証。
- 第 5 回 項目 心象表現：山田かまち等を例として。
- 第 6 回 項目 観察表現：(1) 岩下哲士、(2) 横尾忠則、(1) B・エドワーズの方法論
- 第 7 回 項目 創造主義再考（1）：チゼックの指導
- 第 8 回 項目 創造主義再考（2）：山本鼎の指導
- 第 9 回 項目 創造主義再考（3）：創造美術協会と新しい絵の会
- 第 10 回 項目 DBAEにおける中等教育
- 第 11 回 項目 機能・適応表現（1）：ウィリアム・モリス
- 第 12 回 項目 機能・適応表現（2）：スロイド・システム
- 第 13 回 項目 機能・適応表現（3）：パウハウスと構成教育
- 第 14 回 項目 現代の多様な美術・造形表現・ヴィジュアル・カルチャーと美術教育
- 第 15 回 項目 造形遊びと中学校の美術教育

教科書・参考書 教科書：『美術科教育の基礎知識』，宮脇理監修，建帛社，2000 年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372

E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	美術科教育学 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 「教科教育法図画工作」と「美術科教育学 I」で学んだことを生かして授業実践力を高める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN。授業ルール等の確認。
- 第 2 回 項目 教育実習の主要課題、問題点、留意点。
- 第 3 回 項目 鑑賞学習とは何か
- 第 4 回 項目 鑑賞指導（1）：一方的解説型の鑑賞指導、教材開発
- 第 5 回 項目 鑑賞指導（2）：一方的解説型鑑賞指導の模擬授業
- 第 6 回 項目 鑑賞指導（3）：発問活用型の鑑賞指導、教材開発
- 第 7 回 項目 鑑賞指導（4）：発問活用型鑑賞指導の模擬授業
- 第 8 回 項目 鑑賞指導（5）：対話型鑑賞教育、アメリカ・アレナスの方法論
- 第 9 回 項目 鑑賞指導（6）：対話型鑑賞指導の教材開発
- 第 10 回 項目 心象表現分野の教材開発（1）
- 第 11 回 項目 心象表現分野の教材開発（2）
- 第 12 回 項目 機能・適応表現分野の教材開発（1）
- 第 13 回 項目 機能・適応表現分野の教材開発（2）
- 第 14 回 項目 現代美術の教材化（1）
- 第 15 回 項目 現代美術の教材化（2）

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372

E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。

オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	美術科教育学 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 教育実習体験を踏まえ、美術教育のよりアクチュアルな問題について考察する。自己の実習体験の中から設定したテーマの下にレポートを作成する。この授業は、後期基本実習の事後指導を兼ねているので、そのつもりで受講すること。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN。教育実習を振り返って（ 1 ）: 体験報告会
- 第 2 回 項目 レポートを書くとはどういうことか（ 1 ）: テーマ
- 第 3 回 項目 教育実習を振り返って（ 2 ）: 問題点の整理
- 第 4 回 項目 レポートを書くとはどういうことか（ 2 ）: 調査
- 第 5 回 項目 レポートを書くとはどういうことか（ 3 ）: 構成
- 第 6 回 項目 日本語の作文技術（ 1 ）
- 第 7 回 項目 日本語の作文技術（ 2 ）
- 第 8 回 項目 日本語の作文技術（ 3 ）
- 第 9 回 項目 中間発表（ 1 ）
- 第 10 回 項目 コンクールを考える（ 1 ）: コンクールと学校教育
- 第 11 回 項目 コンクールを考える（ 2 ）: 山口県学校美術展より
- 第 12 回 項目 中学校の課外活動としての美術教育：クラブ活動、学校行事
- 第 13 回 項目 レポート第 1 次提出。相互添削。
- 第 14 回 項目 中学校の美術教育の行方
- 第 15 回 項目 レポート第二次提出。相互添削。

教科書・参考書 教科書：大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方, 吉田健正, ナカニシヤ出版, 1997 年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	美術科教育学 IV	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 中等教育の中でも高等学校段階に絞った内容とする。高等学校芸術科美術および高等学校芸術科工芸の、より具体的な授業内容について実地指導講師が担当する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 高等学校の美術教育の現状：各自の体験から
- 第 3 回 項目 高等学校における美術教育の特性（1）：高校生の発達段階、思春期の芸術表現
- 第 4 回 項目 高等学校における美術教育の特性（2）：普通教育と専門教育
- 第 5 回 項目 高等学校における美術教育の特性（3）：芸術家における美術と工芸
- 第 6 回 項目 高等学校における美術教育の特性（4）：授業とクラブ活動
- 第 7 回 項目 美術教育カリキュラム再考（1）：幼・小・中・高の系統性を考える
- 第 8 回 項目 美術教育のカリキュラム再考（2）：高校卒業後の進路と美術教育
- 第 9 回 項目 普通教育としての美術・工芸の授業を構想する（1）
- 第 10 回 項目 普通教育としての美術・工芸の授業を構想する（2）
- 第 11 回 項目 専門教育としての美術・工芸の授業を構想する（1）
- 第 12 回 項目 専門教育としての美術・工芸の授業を構想する（2）
- 第 13 回 項目 障害児教育における美術教育
- 第 14 回 項目 実地指導講師の授業（1）
- 第 15 回 項目 実地指導講師の授業（2）

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372

E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。

オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	保健体育科教育学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 戦後体育実践史について、各時期の典型的実践を集团的に検討することを通じて、その展開と特徴を理解する。また、今日の教育改革の動向の中で保健体育科がどのように変えられようとしているのか、学校体育全体（体育授業・体育行事・部活）のあるべき姿について、グループ研究・報告・討論・グループ研究・レポート作成という展開のもとに理解を深める。これらを通じて「よい体育の授業とは」の問いに関する自分なりのイメージを膨らませていく。／検索キーワード よい体育の授業とは？

授業の一般目標 よい体育の授業とは何か？をテーマに学習を深めていく。体育の授業が、時々々の政治・経済・社会状況の影響を受けながら展開され、変遷してきたことを理解するとともに、学校体育の領域と作用についてそれぞれの区別と関連を理解する。グループによる研究の進め方・レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦後の体育実践の展開過程に関し、その特徴を説明することができる。また学校体育の領域と作用について、その区別と関連を説明できる。思考・判断の観点：個人またはグループで、課題意識に沿った資料収集と考察を行い、結果を論理的に述べることができる。態度の観点：グループでの共同作業において、積極的に自己の分担テーマに取り組むと共に、討論や交流会の場で、疑問点や自己の意見を率直に表明できる。技能・表現の観点：テーマに沿ったレポートや発表をわかりやすく、まとめて報告することができる。

授業の計画（全体） 授業の前半は、体育実践に関する資料をもとに、その歴史的背景ならびに実践の特徴について学習する。後半では、課題別に小グループを組織して、学校体育の過去・現在・未来について集团的に資料収集・分析を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 戦後体育実践史 の概観（ 1 ）
- 第 2 回 項目 戦後体育実践史 の概観（ 2 ）
- 第 3 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 1 ） 授業外指示 レポート課題
- 第 4 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 2 ）
- 第 5 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 3 ）
- 第 6 回 項目 国民スポーツの 現状および子ども の生活・遊び・スポーツの 今
- 第 7 回 項目 わが国の教育改 革の動向と学校 体育の行方
- 第 8 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 1 ）
- 第 9 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 2 ） 授業外指示 自主研究
- 第 10 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 3 ）
- 第 11 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 4 ）
- 第 12 回 項目 各グループから の研究報告と討 論（ 1 ）
- 第 13 回 項目 各グループから の研究報告と討 論（ 2 ）
- 第 14 回 項目 レポート「学校 体育の改革への 僕らの提言」の 作成（ 1 ）
- 第 15 回 項目 レポート「学校 体育の改革への 僕らの提言」の 作成（ 2 ） 授業外指示 最終レポート

成績評価方法（総合） 授業内レポート、および授業外レポートを中心として、出席状況、授業への主体的な参加度等をもとに、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：体育・健康教育の教育課程試案 - 1 - , 学校体育研究同志会, 創文企画, 2003 年 / 参考書：体育・健康教育の教育課程試案 - 2 - , 学校体育研究同志会, 創文企画, 2004 年

メッセージ 後半はグループ研究を中心にすすめます。そこでは何より自分史を振り返り、受講生同士で交流し合うことを大切にしていきたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 この授業では、保健体育科教育の目的・内容・方法に関する諸説について概説し、それらを一貫性という観点から考察する。また、後半では、小グループで実際に授業づくりのプロセス(教材解釈 教科内容の設定 授業プランの作成 評価計画)を追体験することを通じて、目標設定・教材づくり・学習集団の組織化・形成的および総括的授業 評価等、体育実践の見方および構想の仕方について理解する。

授業の一般目標 体育の授業づくりに関わる基本用語についての理解を深めるとともに、授業計画の立案と学習指導案の作成に関する基本的な方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：体育の授業づくりに関わる基本用語について説明できる。 思考・判断の観点：先行実践に学びながらも、自分なりの独自の教材解釈や教材づくりに取り組む。 関心・意欲の観点：体育授業づくりに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：グループによる取り組みに共同的および主体的に参加し、自己の役割・分担を果たすことができる。 技能・表現の観点：学習指導案の形式にそって指導構想を叙述できる。

授業の計画(全体) 前半で、保健体育科教育の目的・内容・方法に関する諸説について概説し、それらを一貫性という観点から考察した後、小グループで実際に授業づくり(教材解釈 教科内容の設定 授業プランの作成 評価計画)を追体験する。そして模擬授業の実施と検討会を通じて、目標設定・教材づくり・学習集団の組織化・形成的および総括的授業評価等、体育実践の見方および構想の仕方について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (1)
- 第 3 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (2)
- 第 4 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (3)
- 第 5 回 項目 中学校体育実践の事例研究 (1) 内容 これよりグループ研究
- 第 6 回 項目 中学校体育実践の事例研究 (2)
- 第 7 回 項目 グループによる 授業づくり
- 第 8 回 項目 模擬授業 (1)
- 第 9 回 項目 授業批評会 (1)
- 第 10 回 項目 模擬授業 (2)
- 第 11 回 項目 授業批評会 (2)
- 第 12 回 項目 模擬授業 (3)
- 第 13 回 項目 授業批評会 (3)
- 第 14 回 項目 授業づくりに関するまとめ 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 出席状況を加味しながら、課題レポート(中間・最終)やグループ研究への参加状況当によって総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：体育関係雑誌ならびに文献から、体育の実践記録を検索して利用します。

メッセージ この授業を通じて、実際に中学校で実践された体育授業記録に多く触れ、自分の持つ「よい体育授業」像を再吟味する機会として欲しい。同時に、現場教師による創意あふれる授業づくりに学ぶことを期待したい。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 III	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 この授業では、保健体育科教育学 I および II の学習成果をもとに「授業づくり - 模擬授業 - 授業批評会」というプロセスを連続的に展開していく。この過程を通じて、各自のもつ「よい体育の授業」のイメージを実践の形に具体化するとともに、授業を観察・分析する方法を習得する。

授業の一般目標 体育授業を分析し、解釈するための方法について理解を深めるとともに、自らの描く「よい体育授業」のイメージにふさわしい授業観察の視点と方法を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業を観察する際の視点を挙げ、それらの方法について説明することができる。 思考・判断の観点： 自らの描く「よい体育授業」の条件を、独自の授業分析方法に具体化できる。 関心・意欲の観点： 授業分析・授業評価に関心を持って取り組み、集団的検討の場で積極的に意見を表明することができる。 態度の観点： 授業の分析批評に際して、批判的・主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 授業分析の結果をもとに、整合性のある授業の解釈ができ、またわかりやすく報告することができる。

授業の計画（全体） 前半は、教育実習の経験を交流し合い、そこから学び取った成果を共有する。後半は、あらためて、授業づくり - 模擬授業 - 批評会の流れでグループワークを実施し、集団による授業研究を追体験するなかから、授業の観察と分析の方法について学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 授業研究法の概説（1）
- 第 3 回 項目 授業研究法の概説（2）
- 第 4 回 項目 授業研究法の概説（3）
- 第 5 回 項目 授業研究法の概説（4） 授業外指示 中間レポート
- 第 6 回 項目 中間オリエンテーション
- 第 7 回 項目 授業観察（1）
- 第 8 回 項目 授業批評会（1）
- 第 9 回 項目 授業観察（2）
- 第 10 回 項目 授業批評会（2）
- 第 11 回 項目 授業観察（3）
- 第 12 回 項目 授業批評会（3）
- 第 13 回 項目 実践記録論の概説
- 第 14 回 項目 実践記録を綴る 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポートおよび課題レポートの完成度、授業への参加度等をもとに総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： 体育授業分析の方法論に関する文献・雑誌等をその都度使用します。

メッセージ この授業では、実践の事実をもとに相互批評することを基本としています。自分の実施した模擬授業に対し他者から批評を受け、また、他者の授業実践を批評することを通じて、授業の観察眼と実践的力量を獲得していくことを期待します。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 IV	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 体育科教育研究に関わる特殊テーマを設定し、先行研究を検討したり、調査を実施するなどして、テーマに関わる理解を深め、交流する。

授業の一般目標 グループ、または個人の設定したテーマについて、必要な調査・文献研究を行い、その結果をレポートにまとめることを通して、テーマについての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：グループまたは個人の設定したテーマについて、その学習成果をもとにわかりやすく説明できる。 思考・判断の観点：関連する先行研究をもとにして、多角的(因果関係や水平的・垂直的分析)に考察することができる。 態度の観点：さまざまな問題について、批判的、主体的に思考し取り組むことができる。 技能・表現の観点：自ら設定したテーマに沿って学習してきた成果を、わかりやすい発表資料にまとめて、報告することができる。

授業の計画(全体) グループまたは各自がテーマを設定した後、先行研究の検索や調査の方法について指導を行う。時々の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式により、レポートとしてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テーマ設定とグループピング
- 第 3 回 項目 グループ研究(1)
- 第 4 回 項目 グループ研究(2)
- 第 5 回 項目 グループ研究(3)
- 第 6 回 項目 中間報告会(1) 授業外指示 中間レポート
- 第 7 回 項目 グループ研究(4)
- 第 8 回 項目 グループ研究(5)
- 第 9 回 項目 グループ研究(6)
- 第 10 回 項目 中間報告会(2) 授業外指示 中間レポート
- 第 11 回 項目 中間報告会(3)
- 第 12 回 項目 グループ研究のまとめ(1)
- 第 13 回 項目 グループ研究のまとめ(2)
- 第 14 回 項目 最終報告会(1) 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 最終報告会(2)

成績評価方法(総合) テーマ設定 - 自主(グループ)研究 - ゼミ報告、さらに最終レポートの完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 教科教育学の最終仕上げとして、実践的な課題に対して真正面から向き合って、学習と成果の交流を深めてください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	技術科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 中学校技術・家庭科の技術分野の目的や意義についての理解を深めるとともに、教科の歴史などの基本的事項について講義する。また、学習指導の方法論や教科内容についても学び、模擬授業を行う。 / 検索キーワード 技術・家庭科, 教科教育, 学習指導, 教科の目的・意義, 技術教育の歴史

授業の一般目標 技術科教育の目的や意義についての理解を深め、技術科教師としての指導理念や心構えの確立と教科についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育の目的と意義が説明が出来る。また、技術科の学習指導に関する基本的事項について説明できる。 思考・判断の観点：技術科教育に関して自分なりの考えを述べる事が出来る。 関心・意欲の観点：技術科教育の目的と意義に関心をもち、技術科の学習指導に意欲をもつ。 技能・表現の観点：技術科の学習内容を理解し、学習指導の基本的な技術を身につける。

授業の計画(全体) 技術科教育の目的や意義、歴史について解説し、学習指導の実際についても講義する。あわせて、学習指導の技術の習得も行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ
- 第 3 回 項目 技術教育の意義
- 第 4 回 項目 学校教育における技術教育
- 第 5 回 項目 模擬授業
- 第 6 回 項目 模擬授業
- 第 7 回 項目 学習指導の理論
- 第 8 回 項目 学習指導の理論
- 第 9 回 項目 学習指導案作成
- 第 10 回 項目 教科内容(技術とものづくり)
- 第 11 回 項目 教科内容(情報とコンピュータ)
- 第 12 回 項目 技術教育の歴史
- 第 13 回 項目 技術教育の歴史
- 第 14 回 項目 実地指導講師
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：技術科教育総論, 技術教育分科会, 日本産業技術教育学会, 2005 年; 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編, 東京書籍, 1999 年; 新しい技術・家庭 技術分野(検定教科書), 東京書籍, 2006 年; 中学校技術・家庭 技術分野(検定教科書), 開隆堂, 2006 年 / 参考書：随時指示する。

メッセージ 資料を随時配付する

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け(研究室)

開設科目	技術科教育法 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 中学校技術・家庭科の技術分野の教育課程についての理解を深めるとともに、教材開発などの基本的事項について講義する。 / 検索キーワード 技術・家庭科, 教科教育, 学習指導, 技術教育, 教育課程, 教材開発

授業の一般目標 技術科教育の目的や意義についての理解を深め、技術科教師としての指導理念や心構えの確立と教科についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 技術科教育の教育課程の目的と意義が説明が出来る。また、技術科の教材開発に必要な事項を説明できる。 思考・判断の観点: 技術科教育の教育課程に対して自分の考えを述べる事が出来る 関心・意欲の観点: 技術科教育の教育課程に関心をもち、技術科の教材開発に意欲をもち。 技能・表現の観点: 技術科の学習内容を理解し、教材開発に必要な技術を身につける。

授業の計画(全体) 技術科教育の教育課程について解説し、教材開発の実際についても講義する。あわせて、学習指導の技術の習得も行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ
- 第 3 回 項目 教育課程の意義と編成
- 第 4 回 項目 技術科の領域と教育課程の展開
- 第 5 回 項目 教育課程の評価
- 第 6 回 項目 教育課程と行政および改革
- 第 7 回 項目 教材開発
- 第 8 回 項目 教材開発
- 第 9 回 項目 教材開発
- 第 10 回 項目 学習指導案作成
- 第 11 回 項目 模擬授業
- 第 12 回 項目 模擬授業
- 第 13 回 項目 知的財産
- 第 14 回 項目 実地指導講師
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 技術科教育総論, 技術教育分科会, 日本産業技術教育学会, 2005 年; 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編, 東京書籍, 1999 年; 新しい技術・家庭 技術分野(検定教科書), 東京書籍, 2006 年; 中学校技術・家庭 技術分野(検定教科書), 開隆堂, 2006 年

メッセージ 資料を随時配付する

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け(研究室)

開設科目	技術科教育法 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 中学校技術・家庭科の技術分野の学習指導方法について理解を深めるとともに、学習指導の実際について講義する。 / 検索キーワード 技術・家庭科、教科教育、学習指導、技術教育

授業の一般目標 技術科教育の学習指導についての理解を深め、技術科教師としての指導技術の確立と指導計画についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する学習指導について説明が出来る 思考・判断の観点：技術科教育に関する学習指導について自分なりの考えを述べる事が出来る 関心・意欲の観点：技術科教育の学習指導に対する関心を高め、学習指導に意欲を持つ事が出来る

授業の計画（全体） 技術科教育の学習指導について解説し、授業の実際についても講義する。あわせて、安全管理や安全指導についても学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ
- 第 3 回 項目 技術科の指導計画
- 第 4 回 項目 技術科の授業設計
- 第 5 回 項目 技術科の学習指導
- 第 6 回 項目 技術科の題材選定と教材・教具
- 第 7 回 項目 技術科のカリキュラム評価
- 第 8 回 項目 技術科の学習評価
- 第 9 回 項目 技術科の安全管理と指導
- 第 10 回 項目 教材開発
- 第 11 回 項目 学習指導案作成
- 第 12 回 項目 模擬授業
- 第 13 回 項目 模擬授業
- 第 14 回 項目 実地指導講師
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：技術科教育総論，技術教育分科会，日本産業技術教育学会，2005 年；中学校学習指導要領解説 技術・家庭編，東京書籍，1999 年

メッセージ 資料を随時配付する

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	技術科教育法 IV	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 中学校技術・家庭科の技術分野の教科運営についての理解を深めるとともに、学習評価などの基本的事項について講義する。あわせて、海外の技術教育についても解説する。/ 検索キーワード 技術・家庭科, 教科教育, 学習指導, 技術教育, 教科運営, 学習評価

授業の一般目標 中学校技術・家庭科の技術分野の学習計画についての理解を深め、教科運営に必要な知識と技術を習得する。また、技術科教育に関する学習評価についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する学習計画および学習評価について説明が出来る
 思考・判断の観点：技術科教育に関する学習計画および学習評価について自分なりの考えを述べる事が出来る
 関心・意欲の観点：技術科教育に関する学習計画および学習評価について関心を高め、問題意識を持つことが出来る

授業の計画(全体) 技術科教育に関する学習計画および学習評価, 海外の技術教育について講義する。あわせて、教科運営の実際について演習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ
- 第 3 回 項目 学校の運営
- 第 4 回 項目 指導計画の作成
- 第 5 回 項目 学習指導案作成
- 第 6 回 項目 模擬授業
- 第 7 回 項目 模擬授業
- 第 8 回 項目 テスト作成演習
- 第 9 回 項目 評価の実際
- 第 10 回 項目 海外の技術教育
- 第 11 回 項目 海外の技術教育
- 第 12 回 項目 キャリア教育
- 第 13 回 項目 キャリア教育
- 第 14 回 項目 実地指導講師
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：技術科教育総論, 技術教育分科会, 日本産業技術教育学会, 2005年; 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編, 東京書籍, 1999年; 新しい技術・家庭 技術分野(検定教科書), 東京書籍, 2006年; 中学校技術・家庭 技術分野(検定教科書), 開隆堂, 2006年

メッセージ 資料を随時配付する

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け(研究室)

開設科目	家庭科教育学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 中学校および高等学校家庭科の指導を行うにあたって、家庭科とは何か（家庭科の独自性）家庭科のカリキュラム（目標、内容、指導方法、評価）、中学校と高等学校の関連性など、基本的事項について学習する。その後、生徒の生活実態を踏まえた上で、先行授業実践例および現職教員の授業を参考にしながら指導案を作成する。 / 検索キーワード 中学校家庭科 高等学校家庭科

授業の一般目標 中学校および高等学校家庭科の学習目標、内容、方法、評価について理解し、授業を組み立てる際の基本的観点について学習し、指導案を作成することが出来ることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中・高等学校家庭科の基本的な事項について理解出来たか。 授業設計・指導案作成について理解出来たか。 思考・判断の観点：生徒の生活実態を踏まえた上で、授業設計・指導案が作成されているか。 関心・意欲の観点：中・高等学校家庭科の授業に対して関心・意欲をもって臨んでいたか。 態度の観点：授業態度が真面目であったか。 技能・表現の観点：授業設計・指導案が分かりやすく書かれているか。 その他の観点：出席状況

授業の計画（全体） 前半は、家庭科教育の理論について講義する。その後、現職教員による授業や先行授業実践例を紹介する。後半は、前半の授業内容を踏まえながら中・高校の関連性のある授業設計と指導案作成に取り組む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家庭科教育の理 < BR > 論（独自性）
- 第 2 回 項目 家庭科教育の理 < BR > 論（独自性）
- 第 3 回 項目 中学校と高等学 < BR > 校家庭科の関連性 < BR > 性
- 第 4 回 項目 中学校家庭科の < BR > 目標、内容
- 第 5 回 項目 中学校家庭科の < BR > 目標、内容
- 第 6 回 項目 中学校家庭科の < BR > 実践例
- 第 7 回 項目 高等学校家庭科 < BR > の目標、内容
- 第 8 回 項目 高等学校家庭科 < BR > の目標、内容
- 第 9 回 項目 高等学校家庭科 < BR > の実践例
- 第 10 回 項目 現職教員による < BR > 授業
- 第 11 回 項目 現職教員による < BR > 授業
- 第 12 回 項目 指導方法および < BR > 評価について
- 第 13 回 項目 授業設計と指導 < BR > 案作成の基本に < BR > ついて
- 第 14 回 項目 授業設計と指導 < BR > 案作成
- 第 15 回 項目 授業設計と指導 < BR > 案作成

成績評価方法（総合） 指導案、レポート、出席状況を勘案して行う。知識・理解（中・高校家庭科の目標・内容および指導案作成の基本的事項） 思考・判断（生徒の生活実態を把握し、生徒が興味・関心・意欲をもつ指導案の作成） 技術・表現（中・高校の関連性を踏まえた指導案作成） 関心・意欲・態度（授業態度や中・高校家庭科の授業に対する関心・意欲）

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。 / 参考書：21 世紀に生きる力を育む家庭科教育, 山口久子 [ほか] 著, 中部日本教育文化会, 2000 年; 山口久子、永原朗子、吉本敏子、東珠実、鈴木真由子、室雅子、柿野成美 「21 世紀に生きる力を育む家庭科教育」中部日本教育文化会 平成 12 年

メッセージ 指導案を作成するので、指導要領・解説を必携のこと。中・高等学校家庭科の先行授業実践例を読んでおくこと。

開設科目	家庭科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 中学校家庭科の学習指導要領を衣食住の技能的項目と家族関係の項目に分け、どのように変遷してきたかの講義を行うとともに、教育実習を想定し、全員が模擬授業を行うことで、板書、発問、教材提示などの基本的な技能を身につけることを目的とする。 / 検索キーワード 中・高校家庭科 模擬授業実践

授業の一般目標 中学校・高等学校家庭科の歴史の変遷を通して基本的な理念を理解するとともに模擬授業を通して板書や発問の仕方や指示など授業の基本的な技能を身につけることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中学校家庭科の技能的内容、家族関係的内容の変遷から、今回の学習指導要領改定のねらいを理解できる。 思考・判断の観点：模擬授業を通して、本時の目標をどのように効果的に生徒（学生）に学習させることができるか判断できる。 関心・意欲の観点：模擬授業を行うための指導案作成の過程を通して家庭科の題材の関心や意欲を高めることができる。 態度の観点：模擬授業を行うにあたり、主体的かつ創造的に実践できる。 技能・表現の観点：模擬授業で自分の指導案を表現できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 戦後の中・高等学校家庭科学習指導要領の変遷 I
- 第 2 回 項目 戦後の中・高等学校家庭科学習指導要領の変遷 II
- 第 3 回 項目 戦後の中・高等学校家庭科学習指導要領の変遷 III
- 第 4 回 項目 模擬授業 I と 討 論
- 第 5 回 項目 模擬授業 II と 討 論
- 第 6 回 項目 模擬授業 III と 討 論
- 第 7 回 項目 模擬授業 IV と 討 論
- 第 8 回 項目 模擬授業 V と 討 論
- 第 9 回 項目 模擬授業 VI と 討 論
- 第 10 回 項目 模擬授業 VII と 討 論
- 第 11 回 項目 模擬授業 VIII と 討 論
- 第 12 回 項目 中学校教師による 家庭科授業と生徒の対応 I
- 第 13 回 項目 高校教師による 家庭科授業と生徒の対応 II
- 第 14 回 項目 模擬授業 IX と 討 論
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 中・高等学校の学習指導要領の変遷に関して、小テストを行う。模擬授業ごとに何をどうすればもっとよい授業になるかの観点で web に書く、とともに一人の生徒（学生）を選んでコメントを書き、ノートにまとめ、提出する。なお出席が 70% 未満の場合、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：技術・家庭 家庭分野, 中間美砂子, 開隆堂, 2004 年；新しい技術・家庭 家庭分野, 石田晴久, 東京書籍, 2004 年；中学校家庭科教科書、学習指導要領が必要

開設科目	家庭科教育学 III	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	甲斐 純子				

授業の概要 新しい生活様式・文化・環境の創造に向けて、中学校および高等学校の模擬授業を実践する。その授業実践を通して、学生同士の相互評価を行う。その後、授業の問題・課題を発見・整理し、中・高等学校家庭科のよりよい授業づくりを目指す。 / 検索キーワード 模擬授業

授業の一般目標 家庭科教育学 I で作成した指導案を再検討し、新しい生活様式・文化・環境の創造に向けて、中学校および高等学校の模擬授業を実践し、相互に評価しながら授業の問題・課題を発見し、より良い授業づくりを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中・高校家庭科の授業目標と学習内容の関連性が理解出来ているか。 思考・判断の観点：模擬授業について、問題・課題を発見し、より良い授業に対する提言が出来たか。 関心・意欲の観点：模擬授業に関心・意欲を持って取り組んでいたか。 態度の観点：授業態度が真面目であったか。 技能・表現の観点：分かりやすい模擬授業であったか。 その他の観点：中・高校の関連性を踏まえた指導案作成、出席状況

授業の計画（全体）前半は、家庭科教育学 I で作成した指導案を再検討し修正する。 中学校および高等学校の現職教員による授業を参考にしながら、後半は、再検討した授業案の模擬授業を実践し、相互評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 新しい生活文 < BR > 化・様式・環境 < BR > の創造に向けた < BR > 授業設計の検討
- 第 2 回 項目 新しい生活文 < BR > 化・様式・環境 < BR > の創造に向けた < BR > 授業設計の検討
- 第 3 回 項目 新しい生活文 < BR > 化・様式・環境 < BR > の創造に向けた < BR > 授業設計の検討
- 第 4 回 項目 新しい生活文 < BR > 化・様式・環境 < BR > の創造に向けて < BR > 模擬授業の準備
- 第 5 回 項目 新しい生活文 < BR > 化・様式・環境 < BR > の創造に向けて < BR > 模擬授業の準備
- 第 6 回 項目 中学校現職教員 < BR > による授業
- 第 7 回 項目 高等学校現職教 < BR > 員による授業
- 第 8 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 9 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 10 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 11 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 12 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 13 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 14 回 項目 中、高等学校の < BR > 模擬授業
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）模擬授業、出席状況を勘案して行う。 知識・理解（中・高校家庭科の関連性） 思考・判断（模擬授業に対する問題・課題の発見と提言） 技術・表現（分かりやすい模擬授業） 関心・意欲・態度（模擬授業に対する取り組み方）

メッセージ 家庭科教育学 I を履修しておくこと。 模擬授業を実践するので、指導要領・解説および実践例を熟読しておくこと。

備考 集中授業

開設科目	家庭科教育学 IV	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 中学校・高等学校家庭科の教育目標を把握し、教材化の視点から内容を分析していく。具体的な教材にふれ、学習効果について考察するとともに作成し、各自が独特な新規教材の作成を行う。 / 検索キーワード 中・高等学校家庭科 教材づくり

授業の一般目標 授業は教材の善し悪しによって大きく影響を受ける。ここでは中学校・高校家庭科を対象に家族関係、安全健康、環境保全などを中心に教材を作成するとともに自ら考えた教材を作成することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教材を作成する過程で、家庭科教材の家族関係、安全健康、環境保全に関する基本的な知識や理解ができる。 思考・判断の観点：教材を作成する過程で学習内容を生徒にわかりやすくするにはどのようにしたらよいかなど判断できる。 関心・意欲の観点：教材を作成する過程で学習内容に関して関心・意欲を高めることができる。 態度の観点：わかりやすく、おもしろくの観点から教材を工夫することができる。 技能・表現の観点：powerpoint を活用し、自分の授業を表現できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校・高等学校家庭科の目標・内容と教材化について
- 第 2 回 項目 概念地図法による単元の構造化 I
- 第 3 回 項目 概念地図法による単元の構造化 II
- 第 4 回 項目 高等学校家庭科の指導案づくり I
- 第 5 回 項目 高等学校家庭科の指導案づくり II
- 第 6 回 項目 高等学校家庭科の指導案づくり III
- 第 7 回 項目 プレゼンテーションソフト活用方法実践 I 内容 ノートブック、カメラ
- 第 8 回 項目 プレゼンテーションソフト活用方法実践 II
- 第 9 回 項目 プレゼンテーションソフト活用方法実践 II
- 第 10 回 項目 現職教諭による高校家庭科と教材 I 内容 ノートパソコン、カメラ
- 第 11 回 項目 現職教諭による現職教諭による高校家庭科と教材 II 内容 ノートパソコンとパワーポイント
- 第 12 回 項目 現職教諭による「家庭科クラブ」の実践 内容 ノートパソコン とパワーポイント
- 第 13 回 項目 現職教諭による「ホームプロジェクト」の実践 内容 ノートパソコン とパワーポイント
- 第 14 回 項目 模擬授業発表 I 内容 ノートパソコン とパワーポイント
- 第 15 回 項目 模擬授業発表 II & まとめ

成績評価方法（総合） 指定した教材に関する小テストおよびレポート提出を行う。powerpoint で作成した教材を評価する。出席が 70%未満のものは単位を与えない。

教科書・参考書 参考書： 図説家族問題の現在（NHK ブックス；742），湯沢雅彦著，日本放送出版協会，1995 年；母と子のアタッチメント：心の安全基地，ポウルビィ[著]；庄司順一 [ほか] 訳，医歯薬出版，1993 年；テレビと子どもの発達，無藤隆編，東京大学出版会，1987 年；水の環境戦略（岩波新書；新赤版 324），中西準子著，岩波書店，1994 年；日本人の生活時間，日本放送協会放送世論調査所編，日本放送出版協会，1971 年；河野公子「新中学校教育課程講座」、文部省「高等学校学習指導要領解説」（家庭編）、湯沢雅彦「図説家族問題の現代」、ポウルビィ「母と子のアタッチメント」、無藤隆「テレビと子どもの発達」、中西潤子「水の環境戦略」、NHK「日本人の生活時間・2000」

メッセージ 魅力ある教材づくりを目指すように

開設科目	英語科教育学概論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、以後の発展科目への基盤となるような、英語科教育学の諸領域における 基礎的な事項や用語を概説する。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英語科教育学における基礎的な事項や用語について幅広い知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語科教育学における基礎的な事項や用語について簡単に説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業内で扱った内容を自分なりに整理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 自身の英語学習経験と照らし合わせながら、英語科教育学の扱う各領域への関心を高める。

授業の計画(全体) プリントと教科書の該当箇所を参照しながら授業をすすめる。詳しくは授業計画(授業単位)を参照。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論・英語科教育学の守備範囲 内容 英語科教育学の扱う諸領域について説明する。
- 第 2 回 項目 日本の英語教育史 内容 江戸末期、明治、大正、昭和期及び現在の英語教育について簡単に歴史を追う。特に戦後については学習指導要領の変遷を解説する。
- 第 3 回 項目 英語教育目的論 内容 主に実用論と教養論の系譜を追って説明する。
- 第 4 回 項目 カリキュラム・シラバス 内容 カリキュラム・シラバスの概念やシラバスの種類について説明する。
- 第 5 回 項目 言語習得理論 内容 言語習得観とそれに基づく仮説について解説する。
- 第 6 回 項目 コミュニケーションをめぐる考察 内容 コミュニケーションとコミュニケーション能力の捉え方について説明する。
- 第 7 回 項目 各種教授法 内容 様々な教授法の特徴について解説する。
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 筆記試験
- 第 9 回 項目 学習者論 内容 年齢、適性、動機づけなどの学習者要因を説明する。
- 第 10 回 項目 授業の構成と展開 内容 典型的な授業の流れと留意点について説明する。
- 第 11 回 項目 発音、語彙、文法の指導 内容 発音、語彙、文法の指導とその留意点について解説する。
- 第 12 回 項目 リスニングの指導、スピーキングの指導 内容 リスニングの指導、スピーキングの指導とその留意点について解説する。
- 第 13 回 項目 リーディングの指導、ライティングの指導 内容 リーディングの指導、ライティングの指導とその留意点について解説する。
- 第 14 回 項目 評価論 内容 評価やテストの捉え方について説明する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) (1) 定期試験の成績、(2) 授業内レポート、(3) 期末レポートで評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『新しい英語科教育法 - 理論と実践のインターフェイス - 』, 青木昭六(編著), 現代教育社, 2002年 / 参考書：授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	実践英語科教育学	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語の授業の構成（指導課程）や教材研究の方法について学習する。授業案の作成についても扱う予定である（実地指導講師担当）。模擬授業を実際に体験することにより、指導方法についても一定の知識と技能を得ることを目標とする。また、この授業を通し、教育実習の研究課題を得ることもねらいとしている。

授業の一般目標 英語の授業の構成（指導過程）を理解すること。教材研究の方法を習得すること。授業案の作成ができるようになること。模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を得ること。教育実習の研究課題を得ること。

授業の計画（全体） 新出単語や新出構文の導入（文法説明を含む）などのテーマを取り上げ、英語の授業の構成（指導過程）を理解する。また、教材研究の方法についても学習し、授業案の作成ができるようにする。さらに、模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を獲得する。教育実習の研究課題を得ることもこの授業を通して達成したいねらいである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単語の提示
- 第 2 回 項目 新出構文の導入
- 第 3 回 項目 場面や場面の重要性、発問の仕方
- 第 4 回 項目 模擬授業
- 第 5 回 項目 模擬授業
- 第 6 回 項目 中学校の指導例
- 第 7 回 項目 高等学校の指導例
- 第 8 回 項目 タスク
- 第 9 回 項目 発音の指導
- 第 10 回 項目 リーディングの指導
- 第 11 回 項目 ライティングの指導
- 第 12 回 項目 発音模擬指導
- 第 13 回 項目 オーラル インタラクション： 生徒から反応を引き出す
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

成績評価方法（総合） 発表、レポート、テストの成績によって評価する。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 実践英語科教育法と並行履修することにより、(また、模擬授業を体験することにより) 英語の教師としての留意点や教授法について学ぶ。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学ぶ。

授業の一般目標 発問やフィードバックについての知識を持つ。教授法に関する知識を持つ。4 技能の指導に関する基本的な知識と技能を持つ。教具や教育メディアの利用技術についての知識と技能を持つ。指導要領に関する知識を持つ。

授業の計画 (全体) 実践英語科教育法と並行履修することにより、英語の教師としての留意点や教授法について学習を行う。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学習する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教授案 (挨拶、REVIEW、導入、文法的説明)
- 第 2 回 項目 コミュニケーション活動
- 第 3 回 項目 発問及びリーディング
- 第 4 回 項目 中学校の指導例 1
- 第 5 回 項目 中学校の指導例 2
- 第 6 回 項目 リスニングの指導
- 第 7 回 項目 絵本の導入
- 第 8 回 項目 教授法 (1) 文法訳読法、直接教授法、オーラルメソッド、オーラルアプローチ
- 第 9 回 項目 教授法 (2) サイレント・ウェイ、全身反応学習、コミュニケーションアプローチ、タスクの考え方 内容 学生による模擬授業
- 第 10 回 項目 教授法 (3) : 第 2 言語習得理論と外国語指導 ナチュラル・アプローチ 内容 学生による模擬授業
- 第 11 回 項目 教育メディア、教具などについて
- 第 12 回 項目 クラスルーム・イングリッシュなど
- 第 13 回 項目 指導要領と求められるコミュニケーション能力
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

教科書・参考書 参考書 : 『英語科教育法の構築と展開』, 青木昭六 (編著), 現在教育社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー [http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ bld10/](http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/)

開設科目	英語科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語教育学概論、実践英語科教育法、英語科教育学 I の履修をベースに主として、各種指導法、指導技術、言語材料、言語技能、評価論の中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の一般目標 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、言語習得、スピーキングなどの評価方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の計画（全体） 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、語用論的視点からの指導、言語習得、スピーキングなどの評価・テスト方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文法の指導（ 1 ）
- 第 2 回 項目 文法の指導（ 2 ）
- 第 3 回 項目 文法の指導（ 3 ）
- 第 4 回 項目 スピーキングの評価
- 第 5 回 項目 言語テストと評価
- 第 6 回 項目 英語の語彙指導（コロケーションを含む）
- 第 7 回 項目 スローラーナーの指導
- 第 8 回 項目 動機付け（英語を楽しく学ぶには？）ゲーム、その他の工夫
- 第 9 回 項目 第二言語習得、対照分析、エラー分析、中間言語、化石化、エラー訂正
- 第 10 回 項目 テスティングと統計処理（エクセルを用いて）
- 第 11 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 12 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 発表とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 III	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、英語教育学概論、英語科教育学 I、II などの履修をベースに、教師論、学習者論、指導法、教材論などについて扱う。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英文の専門書を読むことを通して、英語学習指導についての知識を深めるとともに、教育実習での経験などを踏まえながら幅広い省察の視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語学習指導のあり方とその留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について考え、自分の意見を述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について関心を高める。 態度の観点： 1. 他者との率直な意見交換と省察を通して、理解を深めようとする。

授業の計画（全体） 授業は、教科書と補助プリントを用い、その内容に関するディスカッション・演習を含む形式で進行する。受講者には教科書の内容に関するプレゼンテーションを課す予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 優れた教師とは何か
- 第 2 回 項目 学習者の様々な特徴
- 第 3 回 項目 指導と学習の展開方法
- 第 4 回 項目 指導と学習の捉え方
- 第 5 回 項目 言語の指導法（一般）
- 第 6 回 項目 リスニングの指導法
- 第 7 回 項目 スピーキングの指導法
- 第 8 回 項目 リーディングの指導法
- 第 9 回 項目 ライティングの指導法
- 第 10 回 項目 教科書の使い方
- 第 11 回 項目 授業計画の立て方
- 第 12 回 項目 様々な場面への対処法
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験の成績、プレゼンテーションの内容、レポート（ないしは小テスト）、ディスカッション・演習への取り組みなどを総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： How to Teach English, Jeremy Harmer, Longman, 1998 年 / 参考書： 授業内で紹介する。

メッセージ この授業では専門書を英語で読む機会を提供します

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	情報科教育法 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 情報科教育法 I は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得した人が、教科「情報」の学習指導要領をもとに、その指導形態や方法等を学習する科目です。授業では、情報設置の経緯と趣旨、情報教育の中での位置づけ、科目編成と内容の取り扱いについて学びます。また、具体的な実践事例を通して効果的な指導内容・方法を理解してもらいます。 / 検索キーワード 教科「情報」、情報教育、情報活用能力、指導法

授業の一般目標 (1) 教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解することが出来ること (2) 教科「情報」の指導形態や指導方法を理解することができること (3) 教科「情報」における生徒の諸活動を体験し、指導内容・方法に活かすことができること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解できること 教科「情報」の指導形態や指導方法・内容を理解することができること 思考・判断の観点：教科「情報」において効果的な学習活動を思考・判断することができること 関心・意欲の観点：教科「情報」における生徒の諸活動に関心を持ち、積極的な意欲を持てること 態度の観点：授業内での演習や作業に積極的に参画する態度を持つこと 技能・表現の観点：教科「情報」において有効な指導方法を身につけることができること

授業の計画(全体) 情報科教育法 I では、教科「情報」で行われる学習活動や評価活動を生徒の立場で積極的に体験する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明・個人発表
- 第 2 回 項目 情報教育の経緯と教科「情報」の位置づけと理念 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 4 回 項目 専門教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 5 回 項目 外国における情報教育の動向 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 教科「情報」における学習形態と指導方法 内容 説明
- 第 7 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(1) 内容 個人発表・評価
- 第 8 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(2) 内容 個人発表・評価
- 第 9 回 項目 教科「情報」における評価 内容 説明・演習
- 第 10 回 項目 情報教育実践事例からの授業研究 内容 説明・演習
- 第 11 回 項目 担当内容に対するグループ作業 内容 グループ作業
- 第 12 回 項目 担当内容に対するグループ発表(1) 内容 グループ発表
- 第 13 回 項目 担当内容に対するグループ発表(2) 内容 グループ発表
- 第 14 回 項目 担当内容に対するグループ発表(3) 内容 グループ発表
- 第 15 回 項目 担当内容に対するグループ発表(4) 内容 グループ発表

教科書・参考書 教科書：情報科教育法, 岡本敏雄, 丸善, 2002 年; 高等学校学習指導要領解説 情報編, 文部省, 開隆堂出版, 2000 年

メッセージ 授業内では、情報機器を活用した個人やグループによる発表機会をつくります。また、授業の連絡等は、下記の授業HPを利用します。 <http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05MIT1>

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	情報科教育法 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 情報科教育法 II は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得したい人が、各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決技法などの学習を通して、教科「情報」の学習指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につけてもらうための授業です。情報科教育法 I の概論学習を受けて、情報科教育法 II では授業実践例の分析や問題把握、模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を養うことをねらいとします。/ 検索キーワード 教科「情報」、学習指導案立案、授業実践、教材開発

授業の一般目標 教科「情報」の学習内容に対して、学習指導計画がたてられ、学習指導案を作成することができるようになること。また、学習目標を達成するための学習教材を開発することができること。さらに、模擬授業実践を通して教授法の基礎と改善を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」の学習指導案を立案するための概念・知識を身につけること 思考・判断の観点：教科「情報」の学習指導計画・指導案を立案するために思考力・判断力を身につけること 関心・意欲の観点：教科「情報」の学習内容・指導方法について関心を持ち、意欲を持って取り組むことができること 態度の観点：授業に対して積極的な態度でのぞむことができること 技能・表現の観点：教科「情報」に必要な諸技能や表現力を身につけること

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 学習指導計画及び学習指導案作成の基本的観点 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 高等学校における教科「情報」の学習指導計画について 内容 説明・演習
- 第 4 回 項目 情報活用の実践力とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 5 回 項目 情報の科学的な理解とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 情報モラルとプライバシーに関する指導と教材開発 内容 説明・演習
- 第 7 回 項目 10分授業の指導案作成 内容 個人作業
- 第 8 回 項目 相手を説得させる伝え方 内容 外部講師による授業
- 第 9 回 項目 10分授業の実施 内容 個人授業・評価
- 第 10 回 項目 グループ授業の指導案作成 内容 グループ作業
- 第 11 回 項目 グループ授業の指導案発表会 内容 グループ発表・評価
- 第 12 回 項目 グループ授業の指導案修正 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 グループ授業の実施(1) 内容 グループ発表・評価
- 第 14 回 項目 グループ授業の実施(2) 内容 グループ発表・評価
- 第 15 回 項目 グループ授業のふり返り 内容 評価・グループ作業

教科書・参考書 教科書：授業内で教科書を指定する。/ 参考書：授業時間内や授業HPに適時紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表（授業実施含む）を行ってまいります。また、授業の連絡等は、授業HPの利用を考えています。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp（E-mail）オフィスアワーは金曜日 13:00～15:00 共通教育棟 3F

開設科目	教育実習(中)	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	その他
担当教官	小粥 良				

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標 1 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2 教育活動全般にわたる認識を深める。 3 生徒に対する理解を深める。 4 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校・県内公立中学校において、実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を、あわせて行い、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

開設科目	教育実習（高）	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	小粥 良				

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校・高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許・高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標 1 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2 教育活動全般にわたる認識を深める。 3 生徒に対する理解を深める。 4 教育技術を修得する。

授業の計画（全体） 附属中学校・県内公立中学校において、実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を、あわせて行い、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法（総合） 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教職に関する科目（教育学部以外）

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	竹本英代				

授業の概要 授業は、第1部の子ども観・教育観の変遷、第二部の生涯学習社会、第三部の教育の目的・内容・制度の変遷、第四部の教師論から構成される。教育の歴史的な展開を理解しながら、現代の子ども観、教育観などを学び、教育とは何か、教師とは如何にあるべきかについて考えていく。/ 検索キーワード 教育の目的。子ども観。教師論。

授業の一般目標 現代における子どもの特質を理解させ、幼児・児童・生徒を指導する教師の役割の今日的意味を考えることを通して、学校教育の目的を認識させるとともに、教職への見通しをさらに具体化させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育学に関する基礎的な知識を習得する。 思考・判断の観点：論理的な小レポートが書ける。 態度の観点：講義にはすべて出席する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 教育について
- 第 3 回 項目 子どもからの教育
- 第 4 回 項目 一斉教授について
- 第 5 回 項目 新教育運動について
- 第 6 回 項目 家庭・地域・学校 (1)
- 第 7 回 項目 家庭・地域・学校 (2)
- 第 8 回 項目 教育目的の変遷
- 第 9 回 項目 教育内容の変遷
- 第 10 回 項目 学習指導要領の変遷 (1)
- 第 11 回 項目 学習指導要領の変遷 (2)
- 第 12 回 項目 教育制度の変遷
- 第 13 回 項目 教師論 (1)
- 第 14 回 項目 教師論 (2)
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法 (総合) 出席点、授業態度、小レポート、最終テストにより総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。/ 参考書：教育原理, 柴田義松, 学文社, 2003 年; 人間と教育を考える, 田井康雄, 学術図書出版社, 2003 年; 新しい教育の基礎理論, 山崎英則・浜田栄夫, ミネルヴァ書房, 2002 年; 教育原理総説, 田原迫龍磨・仙波克也, コレール社, 1996 年; 教育原理, 秋山和夫・森川直, 北大路書房, 1995 年; プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 講義の後。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとするができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴 内容 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1） 内容 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2） 内容 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育（3） 内容 人間の発達と教育（3）
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1） 内容 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2） 内容 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1） 内容 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2） 内容 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1） 内容 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2） 内容 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育 内容 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1） 内容 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2） 内容（近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的 内容 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外にも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを作成させ、考察した内容（ノートレポート）を1週間後に提出することになる。このレポートは提出して1週間後に返却する。／検索キーワード 教育、心理学、発達、家庭教育、学習、人格、学級経営、教育評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指すものとして教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門としての立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握した上で、教師の立場から適切な判断ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文章表現できる。

授業の計画（全体） 教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、評価の種類と方法について、順に、各テーマを1～3回に分けて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学、＜ BR ＞ 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 教育心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者の発達 内容 発達段階
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係、学校教育
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理、条件づけ
- 第 6 回 項目 学習 内容 学習の原理 (VTR)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防御機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 スクールカウンセラー (VTR)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法（総合） (1) 所定以上の出席状況（欠格条件） (2) ノートレポート、(3) 定期テスト結果。これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学からみた教育の世界、藤土圭三（監）、北大路書房 / 参考書：心理学辞典、中島義明ほか、有斐閣、1999年；適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。 / 検索キーワード 教育, 心理学, 発達, 家庭教育, 学習, 人格, 学級経営, 教育評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。教育や心理学関連の分野での文書表現の契機となることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握し、教師の立場から適切な判断できる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文書表現できる。

授業の計画（全体）教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、教育評価の種類と方法、について、順に、各テーマを1～3回に分けて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学 < BR > 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者について 内容 発達段階 ほか
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係 ほか
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理
- 第 6 回 項目 学習 内容 VTR (学習の原理)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防衛機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 VTR (スクールカウンセラー)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法（総合）(1) 所定以上の出席状況（欠格条件）、(2) レポート課題（電子メールによる提出も可）、(3) 授業最後に実施するテスト結果。 これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界、藤土圭三（監修）、北大路書房、1994年 / 参考書：心理学辞典、中島義明ほか、有斐閣、1999年；適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

備考 集中授業

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを作成させ、考察した内容(ノートレポート)を1週間後に提出することになる。このレポートは提出して1週間後に返却する。/検索キーワード 教育、心理学、発達、家庭教育、学習、人格、学級経営、評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指すものとして教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握した上で、教師の立場から適切な判断できる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文章表現できる。

授業の計画(全体) 教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、教育評価の種類と方法、について、順に、各テーマを1~3回に分けて説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学 < BR > 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 教育心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者の発達 内容 発達段階
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係、学校教育
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理、条件付け
- 第 6 回 項目 学習 内容 学習の原理 (VTR)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防御機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 スクールカウンセラー (VTR)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法(総合) (1) 所定以上の出席状況(欠格条件) (2) ノートレポート、(3) 定期テスト結果。これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学からみた教育の世界, 藤土圭三(監), 北大路書房 / 参考書：心理学辞典, 中島義明ほか, 有斐閣, 1999年; 適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田 香奈				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後、学校教育の制度、教育を受ける権利の保障、教育課程の編成、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員の職務、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。 / 検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

授業の一般目標 教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育に関する基本的な法規を理解する 思考・判断の観点：教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 シラバス、教科書第 1 章
- 第 2 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 3 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 内容 教科書第 3 章
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 内容 教科書第 3 章
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 内容 教科書第 4 章
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 内容 教科書第 4 章
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 内容 教科書第 5 章
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 内容 教科書第 5 章
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規（1） 内容 教科書第 6 章
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 内容 教科書第 6 章
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 内容 教科書第 7 章
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 内容 教科書第 7 章
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 内容 教科書第 8 章
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003 年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

連絡先・オフィスアワー 大学教育センター吉田（共通教育棟 3 階） Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、
オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。

授業の一般目標 現行教育法規の要点を理解している。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学校教育の推進 と法規
- 第 3 回 項目 学校教育の推進 と法規
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 6 回 項目 教育課程の編成 と法規
- 第 7 回 項目 児童生徒の懲戒 と・体罰と生徒 指導に関する法規
- 第 8 回 項目 児童生徒の懲戒 と・体罰と生徒 指導に関する法規
- 第 9 回 項目 教育職員の職務 と法規
- 第 10 回 項目 教育職員の職務 と法規
- 第 11 回 項目 教育行政の推進 と法規
- 第 12 回 項目 教育行政の推進 と法規
- 第 13 回 項目 社会教育の推進 と法規
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規, 田代直人編, ミネルヴァ書房, 2003 年

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				
<p>授業の概要 高等学校及び中学校の「各教科」と「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて学校教育作用の全体構造を概観し、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 授業、教育課程、教育方法</p> <p>授業の一般目標 (1)高等学校及び中学校の教育課程編成の基本と授業の意義を理解する。(2)授業における指導方法の基本を実践事例を通じて学ぶ。(3)現代教育方法理論を理解する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味・関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目「教育」とは何か 内容 林 竹二「授業巡礼」の視聴 第2回 項目 学校教育作用の構造 内容「教授」と「教育」のバランスと協同 第3回 項目 高等学校・中学校教育課程編成の基本 第4回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」の基本と実例 第5回 項目 授業形態と指導方法1 内容 一斉授業 第6回 項目 授業形態と指導方法2 内容 小集団学習 第7回 項目 授業形態と指導方法3 内容 個別学習 第8回 項目 授業形態と指導方法4 内容 録画授業の視聴 第9回 項目 「総合的な学習の時間」の意義、実践事例 第10回 項目 教育機器の活用 第11回 項目 現代教育方法理論1 内容 デューイの問題解決的思考論 第12回 項目 現代教育方法理論2 内容 デューイの教育方法論 第13回 項目 現代教育方法理論3 内容 ブルーナーの教育方法論 第14回 項目 現代教育方法理論4 内容 ブルーナーの教育課程論、学習意欲論 第15回 項目 試験</p> <p>成績評価方法(総合) 1.毎回の出欠確認 2.授業内レポート(数回) 3.録画授業感想文 4.最終定期試験</p> <p>教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する。</p> <p>メッセージ 少なくとも受講中はまもなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で聞き、考えて欲しい。</p> <p>連絡先・オフィスアワー 電話 090-1189-8047</p>					

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				
<p>授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程</p> <p>授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点：本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点：学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点：将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目「教育」とはな < BR > にか 内容 林竹二「授業巡 < BR > 礼」の視聴</p> <p>第2回 項目 学校教育作用の < BR > 構造 内容「教授」と「教 < BR > 育」のバランス < BR > と協同</p> <p>第3回 項目 高等学校教育課 < BR > 程の基本</p> <p>第4回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」 < BR > の基本と実例</p> <p>第5回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 I 内容 一斉授業</p> <p>第6回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 II 内容 小集団指導</p> <p>第7回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 III 内容 個別指導</p> <p>第8回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 IV 内容 録画授業の視聴</p> <p>第9回 項目「総合的な学習 < BR > の時間」の意 < BR > 義、実践事例</p> <p>第10回 項目 教育機器の活用</p> <p>第11回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 I 内容 デューイの問題 < BR > 解決思考論</p> <p>第12回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 II 内容 デューイの教育 < BR > 方法論</p> <p>第13回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 III 内容 ブルーナーの教 < BR > 育方法論</p> <p>第14回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 IV 内容 ブルーナーの教 < BR > 育課程論、学習 < BR > 意欲論</p> <p>第15回 項目 試験</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験</p> <p>教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：随時紹介する</p> <p>メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。</p> <p>連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)</p>					

開設科目	教育メディア論(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」、「ためになる」、「役に立つ」授業づくりをめざした教材・教具(教育メディア)の意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より学習する。具体的な項目は以下の通りである。1.教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる2.授業の分析(数量的、質的)ができる3.プレゼンテーション技術(表現伝達)について改善できる

授業の一般目標 教授・学習過程(授業)において教育課程の意義や目的を習得する。「わかる」、「楽しい」、「役に立つ」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について習得し、効果的な教育方法について習得する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を習得する。

授業の到達目標/知識・理解の観点: コミュニケーション(教授・学習過程)の定義や基本的な要素が説明できる。メディアを介した効果的なコミュニケーションができる。教育メディアの特徴を説明できる。思考・判断の観点: 論理的、批判的な思考力と判断力がもてる。ディベートができる。人の意見を受容できる。関心・意欲の観点: 教育メディアの特徴について興味関心がもてる。態度の観点: 自発的、独創的に取り組むことができる。技能・表現の観点: パワーポイントなど情報機器メディアを利用した教材開発ができる。メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通じた実践ができる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教育方法・技術の意義と役割 内容 教育方法の歴史と今日的課題
- 第2回 項目 教授学習過程(教育的コミュニケーション) 内容 3方向のコミュニケーション
- 第3回 項目 教育メディアの種類と特徴 内容 メディアコミュニケーション
- 第4回 項目 授業分析の方法と実際(1) 内容 質的分析と量的分析
- 第5回 項目 授業分析の方法と実際(2) 内容 フランダースのカテゴリー分析
- 第6回 項目 授業の設計(行動主義と構成主義) 内容 基礎学力と個の伸長
- 第7回 項目 授業の実践(1)(マイクロティーチング)
- 第8回 項目 授業の実践(2)(マイクロプレゼンテーション)
- 第9回 項目 授業の評価(ポートフォリオを主として) 内容 総括評価と形成的評価
- 第10回 項目 小学校の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第11回 項目 中・高の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第12回 項目 教員研修の事例
- 第13回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(1) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第14回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(2) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第15回 項目 国際理解と国際協力

成績評価方法(総合) 授業におけるコミュニケーションについて学習し、コミュニケーションが成立するための要素について、言語、非言語、メディア活用に観点から学習する。これらの知識をもとに、グループ学習による演習(計画、実施、評価)を実施し全体の前でプレゼンテーションする。

教科書・参考書 教科書: 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2000年

連絡先・オフィスアワー 研究室(教育実戦総合センター1F) hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp、内線5461、オフィスアワー 木曜日 2:30~4:30

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	国語科教育法 I	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本 恵一良				

授業の概要 国語科の領域「読むこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。 / 検索キーワード 国語科教育、「読むこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「読むこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践に関わる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「読むこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等を説明することができる。 思考・判断の観点：「読むこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「読むこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議等に積極的に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体）（１）授業は毎回プリントを配布し、参考文献等についてはその都度紹介する。（２）毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「読むこと」内容 シラバスの説明 「読むこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある。
- 第 2 回 項目 「読むこと」の指導について（１）内容 読書指導について I 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「読むこと」の指導について（２）内容 読書指導について II 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「読むこと」の指導について（３）内容 韻文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「読むこと」の指導について（４）内容 韻文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「読むこと」の指導について（５）内容 小説の指導について I 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「読むこと」の指導について（６）内容 小説の指導について II 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「読むこと」の指導について（７）内容 論説文の指導について I 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 「読むこと」の指導について（８）内容 論説文の指導について II 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 「読むこと」の授業構想（１）内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 「読むこと」の授業構想（２）内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 学習指導案の検討 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業（１） 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業（２）
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。（１）学期末試験（２）毎時の課題シート（３）出席状況

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎回プリントを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

開設科目	国語科教育法 II	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 中等教育における国語科教育の歴史を概説し、国語科教育の今日的課題について、教育制度・教科書・教育理論等から検証してゆく。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 近代国語科教育の歩みを知り、現代の国語科教育が抱える課題解決の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代国語教育史についてあらましを説明できる。 思考・判断の観点：現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、指摘認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。。 関心・意欲の観点：近代国語科教育の歴史について関心を深め、今日の課題について考察する意欲をもつ。 態度の観点：国語科教育の諸問題について、多角的視点から検討を加えることができる。 技能・表現の観点：考察した結果を高等や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容の説明
- 第 2 回 項目 国語科教育の内容と目標 内容 国語科教育の内容と目標概説
- 第 3 回 項目 近代国語科教育の黎明期 (1) 内容 明治期の国語科教育 (1)
- 第 4 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 5 回 項目 児童中心主義と国語科教育 (1) 内容 大正期の国語科教育 (1)
- 第 6 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 7 回 項目 国家主義と国語科教育の充実 内容 昭和戦前期の国語科教育
- 第 8 回 項目 皇国思想と国語科教育 内容 戦時中の国語科教育
- 第 9 回 項目 戦後の国語科教育 (1) 内容 戦後の新生・国語科教育 (1)
- 第 10 回 項目 同 (2) 内容 学習指導要領の流れ (2)
- 第 11 回 項目 同 (3) 内容 同 (3)
- 第 12 回 項目 国語科教育の現状と問題点 (1) 内容 言語教育と文学教育
- 第 13 回 項目 同 (2) 内容 読解指導と作文指導
- 第 14 回 項目 同 (3) 内容 今日の課題について
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

メッセージ 主体的な問題意識をもって授業に参加してください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育法 III	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「書くこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身につける。 / 検索キーワード 国語科教育、「書くこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「書くこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「書くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点を説明することができる。 思考・判断の観点：「書くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「書くこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体） (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。 (2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらうとともに、作成した指導案を提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「書くこと」 内容 シラバス説明、「書くこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「書くこと」の指導について 1 内容 歴史の変遷と様々な方法、今日的課題 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「書くこと」の指導について 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「書くこと」の指導について 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「書くこと」の授業構想 1 内容 指導に当たって留意すべきこと 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「書くこと」の授業構想 2 内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「書くこと」の授業構想 3 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「書くこと」の授業構想 4 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 学習指導案の検討 1 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 学習指導案の検討 2 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 模擬授業 1 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 模擬授業 2 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業 3 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業 4 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	社会科教育学 II	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、「新学習指導要領案を作成する」ことを通じて検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科 50 年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標 1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。 2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 以下の概念を理解している ・総合社会科 分化社会科 ・認識形成 態度形成 思考・判断の観点： 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる 態度の観点： 毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点： カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 いま社会科で何が問題か 内容 学校社会科教育 をとりまく状況
- 第 2 回 項目 社会科で教える 内容は誰が決めているか 内容 社会科における「内容」の概念
- 第 3 回 項目 社会科の「内容」をめぐって 何が問題になってきたか 内容 「総合的」な社会の学びか、「分科的」な社会の学びか
- 第 4 回 項目 社会科は子どもが「どう」なることをめざすのか 内容 社会科において「目標」とは何か
- 第 5 回 項目 社会科は子どもに、何をどのように「わからせて」いるか 内容 社会科の認識原理は何か
- 第 6 回 項目 社会科は「積み上げる」教科か、「ひっくり返す」教科か 内容 社会科のカリキュラム構成原理
- 第 7 回 項目 小学校の社会科はどのように構成されるべきか 内容 小学校児童にとって「社会」とはどういうものなのか
- 第 8 回 項目 中学校「地理的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「地理的分野」の内容はこれでよいか
- 第 9 回 項目 中学校「歴史的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「社会科歴史」の存在とその意味
- 第 10 回 項目 中学校「公民的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「公民的分野」の成立根拠
- 第 11 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（1） 内容 現行学習指導要領をめぐる論点と課題の整理
- 第 12 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（2） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（1）
- 第 13 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（3） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（2）
- 第 14 回 項目 社会科で身につける「学力」とはどのようなものか 内容 社会科評価論の現状と課題
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

教科書・参考書 教科書： 特に定めない 随時資料配付 / 参考書： 社会科重要語 300 の基礎知識（重要語 300 の基礎知識；4）、森分孝治、片上宗二編集、明治図書出版、2000 年；社会科教育学ハンドブック：新しい視座への基礎知識、社会認識教育学会編、明治図書出版、1994 年；『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当
学生に連絡

開設科目	中等地理歴史教育論 I	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を1つ取り上げ、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表・検討する。

授業の一般目標 1. 中等地理・歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。 2. さまざまな地理・歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している。・社会科歴史 社会科地理・内容構成・単元構成・教材構成 思考・判断の観点：地理・歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：地理・歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史教育概論 (1) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (1) - 中学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 2 回 項目 地理・歴史教育概論 (2) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (2) - 高等学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 3 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (1) 内容 教育実習における地理・歴史授業の分析
- 第 4 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (2) 内容 地理・歴史授業のための教材研究と内容構成
- 第 5 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (3) 内容 教材研究と単元計画
- 第 6 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (1) 内容 単元計画の検討 (1)
- 第 7 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (2) 内容 単元計画の検討 (2)
- 第 8 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (3) 内容 単元計画の検討 (3)
- 第 9 回 項目 地理・歴史授業における学習指導 内容 学習指導案の書式と構成
- 第 10 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (1) 内容 学習指導案の検討 (1)
- 第 11 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (2) 内容 学習指導案の検討 (2)
- 第 12 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (3) 内容 学習指導案の検討 (3)
- 第 13 回 項目 地理・歴史教育における評価 (1) 内容 地理・歴史授業とテスト問題
- 第 14 回 項目 地理・歴史教育における評価 (2) 内容 地理・歴史のテスト問題の検討
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：社会認識教育学会『中学校社会科教育』学術図書出版社、1996 社会認識教育学会『地理歴史科教育』学術図書出版社、1996

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。 / 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法 9 条 自衛隊

授業の一般目標 1 . 9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2 . 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9 条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	数学科教育法 I	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 中等教育数学科の基本的事項について解説して、今日の教育状況における数学教育の課題について検討する。

授業の一般目標 中等教育数学科の基本的事項について理解して、今日の教育状況における数学教育の課題を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の基本的枠組みと事項を理解し、今日の教育状況における数学教育の課題を知る。 思考・判断の観点：中等教育数学科の基本的枠組みと事項を踏まえて、今日の教育状況における数学教育の課題を論じることができる。

授業の計画（全体） 学習指導要領を中心にして、数と式、数量関係、図形の領域について、その数学的内容を概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育の目標（学習指導要領についての理解を含める）
- 第 2 回 項目 数と式の指導 1
- 第 3 回 項目 数と式の指導 2
- 第 4 回 項目 数と式の指導 3
- 第 5 回 項目 数と式の指導 4
- 第 6 回 項目 数量関係の指導 1
- 第 7 回 項目 数量関係の指導 2
- 第 8 回 項目 数量関係の指導 3
- 第 9 回 項目 数量関係の指導 4
- 第 10 回 項目 図形の指導 1
- 第 11 回 項目 図形の指導 2
- 第 12 回 項目 図形の指導 3
- 第 13 回 項目 図形の指導 4
- 第 14 回 項目 学習指導の方法
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 学期末テストによって評価する。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）解説 数学編、文部科学省、大阪書籍、1999 年

備考 集中授業

開設科目	数学科教育法 III	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を考え、マイクロティーチングを通して、学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を養う

授業の一般目標 中等教育数学科の学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を理解する。

思考・判断の観点：中等教育数学科の学習指導を立案・実践・評価できる。 関心・意欲の観点：中等教育数学科の学習指導の立案・実践・評価に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：中等教育数学科の学習指導の立案・実践・評価を的確に実行できる。

授業の計画（全体） 中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成について概説したあと、マイクロティーチングを通して、学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を養う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校数学の指導法
- 第 2 回 項目 学習指導計画の構成
- 第 3 回 項目 指導計画作成実習 1
- 第 4 回 項目 指導計画作成実習 2
- 第 5 回 項目 授業研究の方法
- 第 6 回 項目 授業研究の方法：ビデオの分析 1
- 第 7 回 項目 授業研究の方法：ビデオの分析 2
- 第 8 回 項目 模擬授業とその検討 1
- 第 9 回 項目 模擬授業とその検討 2
- 第 10 回 項目 模擬授業とその検討 3
- 第 11 回 項目 模擬授業とその検討 4
- 第 12 回 項目 授業研究のまとめ
- 第 13 回 項目 指導法研究：テクノロジーの利用
- 第 14 回 項目 指導法研究：総合的学習
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） レポート 2 回、およびマイクロティーチングの参加で評価する。

メッセージ 学習指導案を作成して、模擬授業で教師役と生徒役を演じることが求められます。授業への積極的参加を求めます。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学科教育法 IV	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から検討を行なう。

授業の一般目標 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる． 思考・判断の観点：中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から議論することができる

授業の計画（全体） 中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，歴史的な順序に沿って，理論的，社会的，国際的に広い視野から検討する．特に，学習理論の影響を中心に考察する．

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における学習理論について
- 第 2 回 項目 連合主義心理学
- 第 3 回 項目 連合主義心理学
- 第 4 回 項目 行動主義心理学
- 第 5 回 項目 ゲシュタルト心理学 1
- 第 6 回 項目 ゲシュタルト心理学 2
- 第 7 回 項目 情報処理心理学の発展 1
- 第 8 回 項目 情報処理心理学の発展 2
- 第 9 回 項目 情報処理心理学の発展 3
- 第 10 回 項目 構成主義 1
- 第 11 回 項目 構成主義 2
- 第 12 回 項目 ヴィゴツキーの理論 1
- 第 13 回 項目 ヴィゴツキーの理論 2
- 第 14 回 項目 まとめと質疑
- 第 15 回 項目 レポートについての質疑

成績評価方法（総合） レポートによって評価する．

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	理科指導法総論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 理科教育に関する概要について講義する。中学校・高校理科教諭免許を取得するためには必修である。

授業の一般目標 理科教師として授業づくりに必要な基礎的な知識や技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関する基礎的な知識理解 思考・判断の観点：科学的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：理科教育に対する興味関心 態度の観点：真面目に取り組む姿勢 技能・表現の観点：理科授業を構想して実践する技能と表現力

授業の計画(全体) 理科教育の歴史から入り、現在の理科学習指導要領の理念について考察する。その後、理科の学習論や指導案の作り方を実践を交えて解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要説明と受講確認
- 第 2 回 項目 現行の理科教育課程 内容 現在の大学生が受けてきた理科教育
- 第 3 回 項目 戦後の理科教育の変遷(1) 内容 戦後から平成元年までの学習指導要領の変遷
- 第 4 回 項目 戦後の理科教育(2) 内容 総合的な学習と理科教育
- 第 5 回 項目 理科の学習論(1) 内容 問題解決学習など
- 第 6 回 項目 理科の学習論(2) 内容 構成主義学習論ほか
- 第 7 回 項目 環境教育とSTS教育
- 第 8 回 項目 科学的思考 内容 帰納主義と相対主義科学論
- 第 9 回 項目 難しい科学概念の教授法 内容 高校理科「転向力」を例として
- 第 10 回 項目 思考実験を用いた理科授業 内容 フーコーの振り子と金星の見え方
- 第 11 回 項目 理科の評価 内容 単語聯想法と概念地図法について
- 第 12 回 項目 理科授業の学習指導案の書き方 I 内容 指導案の種類と書き方
- 第 13 回 項目 理科授業の学習指導案の書き方 II 内容 中学校理科の教科書を参考にして指導案を作成する
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験とレポート(指導案)で評価する。

教科書・参考書 教科書：未定、 / 参考書：授業の中で紹介する。

開設科目	理科実験指導法 I	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫・和泉研二				

授業の概要 理科二分野の内容(物理・化学)について、実験方法を中心に具体的な授業方法を学ぶ。中学校理科の免許取得のために必修/検索キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科1分野について、実験観察を中心に授業作りの基礎的な知識と技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 物理教育と化学教育に関する基礎的な知識 思考・判断の観点: 科学的な思考力 関心・意欲の観点: 物理教育と化学教育に対する意欲を高める 態度の観点: 積極的に取り組む態度 技能・表現の観点: 基礎的な実験観察の技能と授業への応用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校の化学 内容 中学校の化学領域と授業への導入
- 第 2 回 項目 物質の状態変化 内容 状態変化に関する教材と授業展開
- 第 3 回 項目 物質の化学変化 内容 化学変化に関する教材と授業展開
- 第 4 回 項目 安全教育 内容 化学実験に関する安全管理について
- 第 5 回 項目 授業の実際(1) 内容 現職教員による授業
- 第 6 回 項目 授業の実際(2) 内容 現職教員による授業
- 第 7 回 項目 予備日
- 第 8 回 項目 物理のイメージと授業を活性化する方法 内容 KJ法による参加型協働学習の体験
- 第 9 回 項目 物理授業における実験と理論の関係1 内容 振り子の実験を例とした理論追求型授業
- 第 10 回 項目 物理授業における実験と理論の関係2 内容 理論追求型と理論依存型授業の比較
- 第 11 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理1 内容 古代エジプトから古代ギリシャ時代の科学
- 第 12 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理2 内容 ケプラーの法則を例として
- 第 13 回 項目 世界観・自然観として学ぶ物理3 内容 運動の法則、特に慣性概念を例として
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) レポートと試験によって成績を評価する

教科書・参考書 教科書: 文化として学ぶ物理科学, 山下芳樹・池田幸夫, 丸善, 2003年

開設科目	理科実験指導法 II	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊・某				

授業の概要 理科教育生物分野および地学分野の内容に沿いながら、講義を中心に、観察・実習をまじえながら、指導する。

授業の一般目標 理科教育生物分野および地学分野の内容について、背景となる理論、指導目標などを理解し、実践的な指導法などを修得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 1 ）自 然とは何か 内容 野外学習の基礎 となる文化的自 然観、科学的自 然観を理解し、 理科教育におけ る自然観を学ぶ
- 第 2 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 2 ）分 類学と図鑑の読 み方 内容 自然を理解し、 探求するための 基礎となる分類 学の概念、方 法、図鑑のみか たなどを学ぶ
- 第 3 回 項目 野外学習の方法 と実践（ 3 ）身 近な生物の生態 調査 内容 1 . 2 回で学ん だ事を基礎 に、 大学構内の雑草 の生態的調査を 行う。
- 第 4 回 項目 第 3 回に同じ 内容 第 3 回に同じ
- 第 5 回 項目 環境教育 内容 環境問題と環境 問題解決、環境 教育の位置づけ 等について学ぶ
- 第 6 回 項目 環境教育 内容 環境問題解決へ の手段としての 環境教育の役 割、目標、学校 教育・理科 教育 との関連等について学ぶ
- 第 7 回 項目 予備日
- 第 8 回 項目 学習指導要領 内容 地学分野の学習内容とねらい
- 第 9 回 項目 天文分野（ I ） 内容 天球儀の使い方（ 天球概念、天球座標 ）
- 第 10 回 項目 天文分野（ II ） 内容 星座早見盤の使い方（ 太陽・星の日周・年周運動 ）
- 第 11 回 項目 地球分野 内容 岩石・化石の観察と見方（ 地球の構成、地球史 ）
- 第 12 回 項目 気象分野 内容 気象要素と天気図作成
- 第 13 回 項目 総合学習関連 内容 エネルギー問題の事例演習
- 第 14 回 項目 教材研究の事例 内容 実地指導講師による教材研究
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 従業時に行う実習レポ - ト、課題レポ - ト、出席状況を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語科教育学概論	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、以後の発展科目への基盤となるような、英語科教育学の諸領域における 基礎的な事項や用語を概説する。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英語科教育学における基礎的な事項や用語について幅広い知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語科教育学における基礎的な事項や用語について簡単に説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業内で扱った内容を自分なりに整理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 自身の英語学習経験と照らし合わせながら、英語科教育学の扱う各領域への関心を高める。

授業の計画(全体) プリントと教科書の該当箇所を参照しながら授業をすすめる。詳しくは授業計画(授業単位)を参照。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論・英語科教育学の守備範囲 内容 英語科教育学の扱う諸領域について説明する。
- 第 2 回 項目 日本の英語教育史 内容 江戸末期、明治、大正、昭和期及び現在の英語教育について簡単に歴史を追う。特に戦後については学習指導要領の変遷を解説する。
- 第 3 回 項目 英語教育目的論 内容 主に実用論と教養論の系譜を追って説明する。
- 第 4 回 項目 カリキュラム・シラバス 内容 カリキュラム・シラバスの概念やシラバスの種類について説明する。
- 第 5 回 項目 言語習得理論 内容 言語習得観とそれに基づく仮説について解説する。
- 第 6 回 項目 コミュニケーションをめぐる考察 内容 コミュニケーションとコミュニケーション能力の捉え方について説明する。
- 第 7 回 項目 各種教授法 内容 様々な教授法の特徴について解説する。
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 筆記試験
- 第 9 回 項目 学習者論 内容 年齢、適性、動機づけなどの学習者要因を説明する。
- 第 10 回 項目 授業の構成と展開 内容 典型的な授業の流れと留意点について説明する。
- 第 11 回 項目 発音、語彙、文法の指導 内容 発音、語彙、文法の指導とその留意点について解説する。
- 第 12 回 項目 リスニングの指導、スピーキングの指導 内容 リスニングの指導、スピーキングの指導とその留意点について解説する。
- 第 13 回 項目 リーディングの指導、ライティングの指導 内容 リーディングの指導、ライティングの指導とその留意点について解説する。
- 第 14 回 項目 評価論 内容 評価やテストの捉え方について説明する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) (1) 定期試験の成績、(2) 授業内レポート、(3) 期末レポートで評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『新しい英語科教育法 - 理論と実践のインターフェイス - 』, 青木昭六(編著), 現代教育社, 2002 年 / 参考書：授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	実践英語科教育学	区分	演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語の授業の構成（指導課程）や教材研究の方法について学習する。授業案の作成についても扱う予定である（実地指導講師担当）。模擬授業を実際に体験することにより、指導方法についても一定の知識と技能を得ることを目標とする。また、この授業を通し、教育実習の研究課題を得ることもねらいとしている。

授業の一般目標 英語の授業の構成（指導過程）を理解すること。教材研究の方法を習得すること。授業案の作成ができるようになること。模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を得ること。教育実習の研究課題を得ること。

授業の計画（全体） 新出単語や新出構文の導入（文法説明を含む）などのテーマを取り上げ、英語の授業の構成（指導過程）を理解する。また、教材研究の方法についても学習し、授業案の作成ができるようにする。さらに、模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を獲得する。教育実習の研究課題を得ることもこの授業を通して達成したいねらいである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単語の提示
- 第 2 回 項目 新出構文の導入
- 第 3 回 項目 場面や場面の重要性、発問の仕方
- 第 4 回 項目 模擬授業
- 第 5 回 項目 模擬授業
- 第 6 回 項目 中学校の指導例
- 第 7 回 項目 高等学校の指導例
- 第 8 回 項目 タスク
- 第 9 回 項目 発音の指導
- 第 10 回 項目 リーディングの指導
- 第 11 回 項目 ライティングの指導
- 第 12 回 項目 発音模擬指導
- 第 13 回 項目 オーラル インタラクション： 生徒から反応を引き出す
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

成績評価方法（総合） 発表、レポート、テストの成績によって評価する。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 I	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 実践英語科教育法と並行履修することにより、(また、模擬授業を体験することにより) 英語の教師としての留意点や教授法について学ぶ。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学ぶ。

授業の一般目標 発問やフィードバックについての知識を持つ。教授法に関する知識を持つ。4 技能の指導に関する基本的な知識と技能を持つ。教具や教育メディアの利用技術についての知識と技能を持つ。指導要領に関する知識を持つ。

授業の計画 (全体) 実践英語科教育法と並行履修することにより、英語の教師としての留意点や教授法について学習を行う。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学習する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教授案 (挨拶、REVIEW、導入、文法的説明)
- 第 2 回 項目 コミュニケーション活動
- 第 3 回 項目 発問及びリーディング
- 第 4 回 項目 中学校の指導例 1
- 第 5 回 項目 中学校の指導例 2
- 第 6 回 項目 リスニングの指導
- 第 7 回 項目 絵本の導入
- 第 8 回 項目 教授法 (1) 文法訳読法、直接教授法、オーラルメソッド、オーラルアプローチ
- 第 9 回 項目 教授法 (2) サイレント・ウェイ、全身反応学習、コミュニケーションアプローチ、タスクの考え方 内容 学生による模擬授業
- 第 10 回 項目 教授法 (3) : 第 2 言語習得理論と外国語指導 ナチュラル・アプローチ 内容 学生による模擬授業
- 第 11 回 項目 教育メディア、教具などについて
- 第 12 回 項目 クラスルーム・イングリッシュなど
- 第 13 回 項目 指導要領と求められるコミュニケーション能力
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

教科書・参考書 参考書 : 『英語科教育法の構築と展開』, 青木昭六 (編著), 現在教育社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 II	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語教育学概論、実践英語科教育法、英語科教育学 I の履修をベースに主として、各種指導法、指導技術、言語材料、言語技能、評価論の中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の一般目標 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、言語習得、スピーキングなどの評価方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の計画（全体） 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、語用論的視点からの指導、言語習得、スピーキングなどの評価・テスト方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文法の指導（ 1 ）
- 第 2 回 項目 文法の指導（ 2 ）
- 第 3 回 項目 文法の指導（ 3 ）
- 第 4 回 項目 スピーキングの評価
- 第 5 回 項目 言語テストと評価
- 第 6 回 項目 英語の語彙指導（コロケーションを含む）
- 第 7 回 項目 スローラーナーの指導
- 第 8 回 項目 動機付け（英語を楽しく学ぶには？）ゲーム、その他の工夫
- 第 9 回 項目 第二言語習得、対照分析、エラー分析、中間言語、化石化、エラー訂正
- 第 10 回 項目 テスティングと統計処理（エクセルを用いて）
- 第 11 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 12 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 発表とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/>

開設科目	英語科教育学 III	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、英語教育学概論、英語科教育学 I、II などの履修をベースに、教師論、学習者論、指導法、教材論などについて扱う。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英文の専門書を読むことを通して、英語学習指導についての知識を深めるとともに、教育実習での経験などを踏まえながら幅広い省察の視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語学習指導のあり方とその留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について考え、自分の意見を述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について関心を高める。 態度の観点： 1. 他者との率直な意見交換と省察を通して、理解を深めようとする。

授業の計画（全体） 授業は、教科書と補助プリントを用い、その内容に関するディスカッション・演習を含む形式で進行する。受講者には教科書の内容に関するプレゼンテーションを課す予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 優れた教師とは何か
- 第 2 回 項目 学習者の様々な特徴
- 第 3 回 項目 指導と学習の展開方法
- 第 4 回 項目 指導と学習の捉え方
- 第 5 回 項目 言語の指導法（一般）
- 第 6 回 項目 リスニングの指導法
- 第 7 回 項目 スピーキングの指導法
- 第 8 回 項目 リーディングの指導法
- 第 9 回 項目 ライティングの指導法
- 第 10 回 項目 教科書の使い方
- 第 11 回 項目 授業計画の立て方
- 第 12 回 項目 様々な場面への対処法
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験の成績、プレゼンテーションの内容、レポート（ないしは小テスト）、ディスカッション・演習への取り組みなどを総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： How to Teach English, Jeremy Harmer, Longman, 1998 年 / 参考書： 授業内で紹介する。

メッセージ この授業では専門書を英語で読む機会を提供します

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	中国語科教育法 I	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 前半は、国内で利用可能な中国語教材について紹介しその研究をする。後半は、「外国人学漢語難点積疑」の中から、日本人にとってむずかしい表現について解説した叙述を選び、受講者とともに講読する。最後に、受講者一人一人が、学習上疑問が生じやすい現代中国語の文法トピックを選んで、研究結果を発表する。 / 検索キーワード 中国語、教材、文法、教育

授業の一般目標 中国語教育者として知っておくべき教材や文法に関する知識の概略を身につけ、疑問点を自分で解決する能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現行の中国語教材の特徴について理解する。 現代中国語文法の特徴のいくつかと使用上の注意点について理解する。 関心・意欲の観点： 中国語教育実践に関する問題意識を持ち、教育法を工夫することができる。 技能・表現の観点： 疑問・関心を持ったテーマについて、自主的に研究し、研究結果について効果的な口頭報告をすることができる。

授業の計画（全体） 前半は、担当者が、毎回テーマ別に中国語教材の紹介をし、受講者とともに実際に使ってみることにによって、その特徴を研究する。後半は、「外国人学漢語難点積疑」の No.121 以下からふさわしい節（主として各種の動詞表現や修飾語等に関する部分）を選んで講読する。受講者は、毎回講読部分（翻訳と練習問題）について予習をしていくことが不可欠である。最後に、受講者各人に、現代中国語の文法から自由にテーマを選んで、研究結果を順番に口頭発表してもらおうと共に、中国語教育に関し自由なテーマを選んでレポートを書いてもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教材について (1) 内容 発音教材 中国語発音のコツ
- 第 2 回 項目 教材について (2) 内容 ヒアリング教材
- 第 3 回 項目 教材について (3) 内容 単語教材・作文教材
- 第 4 回 項目 教材について (4) 内容 文法教材と参考書
- 第 5 回 項目 教材について (5) 内容 リーディング教材
- 第 6 回 項目 教材について (6) 内容 検定試験・入試センター試験
- 第 7 回 項目 文法について 講読 (1)
- 第 8 回 項目 文法について 講読 (2)
- 第 9 回 項目 文法について 講読 (3)
- 第 10 回 項目 文法について 講読 (4)
- 第 11 回 項目 文法について 講読 (5)
- 第 12 回 項目 文法について 講読 (6)
- 第 13 回 項目 研究発表 (1)
- 第 14 回 項目 研究発表 (2)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合） 毎回の授業における課題の達成度と、1 回の研究発表とにより知識・理解と技能・表現上の目標到達度を評価する。また、レポートにより、関心・意欲の観点について評価を行う。評価割合はそれぞれ 80%（理解 60%、技能 20%）、20%とする。なお出席が 3 分の 2 に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 外国人学漢語難点積疑, 葉はん云、呉中偉, 北京語言文化大学出版社, 1999 年 ; 授業中に講読部分を配布します。 / 参考書： 授業中に紹介します。

メッセージ 教育実習などにも役立つよう、発音や朗読、ヒアリングなど技能の向上もめざすつもりで参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 Tel.933-5250 オフィスアワー月曜日 12:50-16:00

開設科目	情報科教育法 I	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 情報科教育法 I は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得した人が、教科「情報」の学習指導要領をもとに、その指導形態や方法等を学習する科目です。授業では、情報設置の経緯と趣旨、情報教育の中での位置づけ、科目編成と内容の取り扱いについて学びます。また、具体的な実践事例を通して効果的な指導内容・方法を理解してもらいます。 / 検索キーワード 教科「情報」、情報教育、情報活用能力、指導法

授業の一般目標 (1) 教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解することが出来ること (2) 教科「情報」の指導形態や指導方法を理解することができること (3) 教科「情報」における生徒の諸活動を体験し、指導内容・方法に活かすことができること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解できること 教科「情報」の指導形態や指導方法・内容を理解することができること 思考・判断の観点：教科「情報」において効果的な学習活動を思考・判断することができること 関心・意欲の観点：教科「情報」における生徒の諸活動に関心を持ち、積極的な意欲を持てること 態度の観点：授業内での演習や作業に積極的に参画する態度を持つこと 技能・表現の観点：教科「情報」において有効な指導方法を身につけることができること

授業の計画(全体) 情報科教育法 I では、教科「情報」で行われる学習活動や評価活動を生徒の立場で積極的に体験する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明・個人発表
- 第 2 回 項目 情報教育の経緯と教科「情報」の位置づけと理念 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 4 回 項目 専門教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 5 回 項目 外国における情報教育の動向 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 教科「情報」における学習形態と指導方法 内容 説明
- 第 7 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(1) 内容 個人発表・評価
- 第 8 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(2) 内容 個人発表・評価
- 第 9 回 項目 教科「情報」における評価 内容 説明・演習
- 第 10 回 項目 情報教育実践事例からの授業研究 内容 説明・演習
- 第 11 回 項目 担当内容に対するグループ作業 内容 グループ作業
- 第 12 回 項目 担当内容に対するグループ発表(1) 内容 グループ発表
- 第 13 回 項目 担当内容に対するグループ発表(2) 内容 グループ発表
- 第 14 回 項目 担当内容に対するグループ発表(3) 内容 グループ発表
- 第 15 回 項目 担当内容に対するグループ発表(4) 内容 グループ発表

教科書・参考書 教科書：情報科教育法, 岡本敏雄, 丸善, 2002 年; 高等学校学習指導要領解説 情報編, 文部省, 開隆堂出版, 2000 年

メッセージ 授業内では、情報機器を活用した個人やグループによる発表機会をつくります。また、授業の連絡等は、下記の授業HPを利用します。 <http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05MIT1>

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	情報科教育法 II	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小川勤				

授業の概要 情報科教育法 II は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得したい人が、各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決技法などの学習を通して、教科「情報」の学習 指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につけてもらうための授業です。情報科教育法 I の概論学習を受けて、情報科教育法 II では授業実践例の分析や問題把握、模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を養うことをねらいとします。 / 検索キーワード 教科「情報」、学習指導案立案、授業実践、教材開発

授業の一般目標 教科「情報」の学習内容に対して、学習指導計画がたてられ、学習指導案を作成することができるようになること。また、学習目標を達成するための学習教材を開発することができること。さらに、模擬授業実践を通して教授法の基礎と改善を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」の学習指導案を立案するための概念・知識を身につけること 思考・判断の観点：教科「情報」の学習指導計画・指導案を立案するために思考力・判断力を身につけること 関心・意欲の観点：教科「情報」の学習内容・指導方法について関心を持ち、意欲を持って取り組むことができること 態度の観点：授業に対して積極的な態度でのぞむことができること 技能・表現の観点：教科「情報」に必要な諸技能や表現力を身につけること

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法 に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 学習指導計画及び学習指導案作成の基本的観点 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 高等学校における教科「情報」の学習指導計画 について 内容 説明・演習
- 第 4 回 項目 情報活用の実践力とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 5 回 項目 情報の科学的な理解とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 情報モラルとプライバシーに関する指導と教材開発 内容 説明・演習
- 第 7 回 項目 10分授業の指導案作成 内容 個人作業
- 第 8 回 項目 相手を説得させる伝え方 内容 外部講師による 授業
- 第 9 回 項目 10分授業の実施 内容 個人授業・評価
- 第 10 回 項目 グループ授業の指導案作成 内容 グループ作業
- 第 11 回 項目 グループ授業の指導案発表会 内容 グループ発表・評価
- 第 12 回 項目 グループ授業の指導案修正 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 グループ授業の実施(1) 内容 グループ発表・評価
- 第 14 回 項目 グループ授業の実施(2) 内容 グループ発表・評価
- 第 15 回 項目 グループ授業のふり返り 内容 評価・グループ 作業

教科書・参考書 教科書：授業内で教科書を指定する。 / 参考書：授業時間内や授業HPに適時紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表（授業実施含む）を行ってまいります。また、授業の連絡等は、授業HPの利用を考えています。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp（E-mail）オフィスアワーは金曜日 13:00～15:00 共通教育棟 3F

開設科目	情報科教育法 II	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田学				

授業の概要 教科「情報」の各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決法などの学習を通して、学習指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につける。また、授業実践例の分析や問題把握、マイクロティーチング、模擬授業の実施を通して実践的な指導力を養う。 / 検索キーワード 教科「情報」、学習指導案立案、模擬授業、授業実践、教材開発

授業の一般目標 (1) 教科「情報」の学習指導計画・学習指導案が立案できる。(2) 模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教科「情報」の特徴・内容を説明できる。 2. 自分および他人の模擬授業を観点に基づき、評価できる。 思考・判断の観点： 1. 教科「情報」のねらいと学習指導計画の関係について自分の意見を論理的に述べるができる。 関心・意欲の観点： 1. 教科「情報」に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 1. 社会における情報に関する諸問題と学習指導の関係について主体的に考えることができる。 2. 他人の意見を尊重し、協調的、建設的な討議が行える。 技能・表現の観点： 1. 模擬授業の内容を改善するために、効果的な指導方法を選択することができる。

授業の計画(全体) (1) 教科「情報」に関する指導内容の検討、基本的な教材化、学習指導計画・学習指導案の立案についての説明、演習 (2) マイクロティーチングによる教授方法の検討 (3) 具体的な指導計画の作成、模擬授業による教育効果の確認、改善点の検討

成績評価方法(総合) 演習、マイクロティーチング、模擬授業の結果について、問題点、改善された点、反省等のレポートの提出を適宜求める。特に模擬授業の評価については、担当教官の評価だけでなく、授業者の自己評価、他の受講者の相互評価を総合して行う。

教科書・参考書 教科書： 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002 年； 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002 年； 情報科教育法 I で使用した教科「情報」の教科用図書が有れば持参して下さい。 / 参考書： 授業内及び HP で適宜紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表(授業実施含む)を行ってまいります。受講に際しては、各自ノートパソコンを持参してください。なお、授業の連絡等は、下記の授業HPに掲示します。 <http://www.yokota-inet.jp/yama/>

連絡先・オフィスアワー yama@yokota-inet.jp

開設科目	道徳教育	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 道徳の語源と意味について学習し、西欧における道徳観の変遷について哲学的歴史的な観点から理解する。また、シュプランガーの倫理教育思想を道徳教育と関連させながら学習し、人間としての生き方について考察する。さらに、道徳教育の目的・内容・方法と「道徳の時間」の展開の仕方や指導方法を学び、実践的指導力を養う。 / 検索キーワード 道徳、道徳観、シュプランガー、道徳教育、道徳の時間

授業の一般目標 1. 道徳の語源と意味について理解し、道徳の本質的な意味について考察する。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的観点から理解する。 3. シュプランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら理解し、人間としての生き方について考察する。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解する。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解し、実践的指導力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. シュプランガーの教育の3つの概念と6つの価値類型について理解できる。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 道徳の本質的な意味やシュプランガーの教育理論と関連させながら、人間としてのよりよい生き方について考えることができる。 2. 日常生活の中で、状況に応じて適切な判断をすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 道徳教育や心の教育への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 日常生活の中で、適正な思考や判断に基づいた態度や行動をとることができる。 技能・表現の観点： 1. 「道徳の時間」の指導方法や、そのための技能と技術を身につけることができる。

授業の計画(全体) 道徳についての本質的な意味を哲学的、歴史的な観点から考察した上で、道徳教育の目的・内容・方法について学び、「道徳の時間」の展開方法や指導方法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 道徳の語源と意味 内容 ギリシア語、ラテン語、ドイツ語等から道徳の意味を探る。
- 第 2 回 項目 道徳律と道徳性 内容 外面的道徳と内面的道徳、モラルとエートス
- 第 3 回 項目 道徳観の変遷(1) 内容 ソクラテスとアリストテレス
- 第 4 回 項目 道徳観の変遷(2) 内容 1. アウグスティヌスとトマスアキナス 2. カント
- 第 5 回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念と道徳 内容 1. 発達の援助 2. 文化財の伝達 3. 良心の覚醒
- 第 6 回 項目 シュプランガーの6つの価値類型と道徳 内容 理論的価値、経済的価値、審美的価値、権力的価値、社会的価値、宗教的価値
- 第 7 回 項目 道徳教育の目的(1) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 8 回 項目 道徳教育の目的(2) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 9 回 項目 道徳教育の内容(1) 内容 1. 主として自分とのかかわりに関すること 2. 主として他人とのかかわりに関すること 2.
- 第 10 回 項目 道徳教育の内容(2) 内容 1. 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること 2. 主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 第 11 回 項目 道徳教育の方法 内容 問答法、ディベート、役割演技、ドラマ化等による方法
- 第 12 回 項目 「道徳の時間」の展開(1) 内容 「気づく - 捉える - 深める - 見つめる - 生かす」という「道徳の時間」の展開について説明する。
- 第 13 回 項目 「道徳の時間」の展開(2) 内容 具体的な「道徳の時間」の指導案を提示して説明する。
- 第 14 回 項目 学習指導案の書き方 内容 実際に「道徳の時間」の指導案を書かせる。
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 道徳と心の教育 (MINERVA 教職講座 ; 7), ”山崎英則, 西村正登編著”, ミネルヴァ書房, 2001 年 ; 道徳と心の教育、山 英則 . 西村正登編著、ミネルヴァ書房、2001 年 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 道徳の本質を哲学的歴史的な観点から理解すると同時に、道徳教育に関する実践的な指導力が身につくように努めて下さい。理論面と実践面の両面から道徳教育にアプローチしていきます。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	道徳教育	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 道徳性の発達理論，道徳教育の歴史および現在の位置づけ，実践について講義する。 / 検索キーワード 道徳性，社会規範，学校教育

授業の一般目標 道徳教育に関する基礎的な理論および歴史を理解し，道徳教育をめぐる諸課題について自覚し，実践する能力をつけることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：道徳性の発達理論，道徳教育の歴史および現在の位置づけ，実践の要点を説明できる。 思考・判断の観点：道徳教育のあり方について発達理論，歴史の変遷の観点から検討し，授業計画を作成できる。 関心・意欲の観点：道徳教育の諸問題について関心をもち，主体的に考えることができる。 態度の観点：道徳教育の諸問題について，論理的，協調的な議論ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 家庭と道徳
- 第 3 回 項目 社会と道徳
- 第 4 回 項目 道徳性の発達理論（1）
- 第 5 回 項目 道徳性の発達理論（2）
- 第 6 回 項目 道徳性の発達理論（3）
- 第 7 回 項目 道徳性の発達理論（4）
- 第 8 回 項目 日本の道徳教育史（1）
- 第 9 回 項目 日本の道徳教育史（2）
- 第 10 回 項目 道徳教育の実践（1）
- 第 11 回 項目 <小テスト>，道徳教育の実践（2） 内容 小テストを実施するので，前回までの内容を復習しておくこと。教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 12 回 項目 道徳教育の実践（3）
- 第 13 回 項目 道徳教育の実践（4）
- 第 14 回 項目 道徳の時間の指導案プレゼンテーション（1）
- 第 15 回 項目 道徳の時間の指導案プレゼンテーション（2）

成績評価方法（総合）（1）授業の中で小テストを行う。（2）道徳の時間の指導案を作成し，レポートとして提出する。

教科書・参考書 教科書：使用しない。必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：適宜指示する。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どものたちの環境を知る。
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第 6 回 項目 教育の構造 < BR > (1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第 7 回 項目 教育の構造 < BR > (2) 内容 陶冶と訓育
- 第 8 回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第 9 回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第 10 回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第 11 回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第 12 回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第 13 回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第 14 回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 子どもに関する教育の現代的問題や、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、訓育・教科外活動の意義を学ぶ。さらに、特別活動の目標・内容・方法を理解し、望ましい特別活動の実践のあり方の理解と方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育、教科外活動、学校行事、生徒会活動、学級活動、集団

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育・訓育の必要性、目的、方法を理解する。(2) 教育の機能と領域について理解し、特別活動の位置を理解する。(3) 学校教育における特別活動の意義・方法を理解し、望ましい指導のあり方を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育・その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観的に考察できる。2. 理論をもとに思考・判断できる。

関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育や子ども・社会に関心を持ち、問題意識をもつことができる。

態度の観点： 1. 講義に集中し、思考する態度がとることができる。2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分の関係を考察し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学習指導要領における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」における指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団活動のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について考える
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どものたちの環境を知る
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う 授業外指示 意見を言うための情報収集
- 第 6 回 項目 教育の構造
(1) 内容 教育の歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする
- 第 7 回 項目 教育の構造
(2) 内容 陶冶と訓育
- 第 8 回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す
- 第 9 回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第 10 回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考える
- 第 11 回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす
- 第 12 回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第 13 回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 特別活動の方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団での遊び、討議などについて思い起こす
- 第 14 回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導方法
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する。以上を下記の観点の割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記書物は、第2章で主に使用。第1章・第3章はプリント配布 / 参考書：資料としてプリント配布。その他、参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黒田 耕司				

授業の概要 今日、「学級経営」や「生徒指導」に関する学校教育のあり方が厳しく問われている。この授業では、学校教育の全領域における「生徒指導」の原則と指導方法を検討し、現代の学校教育における「生徒指導」のあり方を探求する。 / 検索キーワード 生徒指導、指導、教師、子ども

授業の一般目標 1 「生徒指導」および「指導」の概念を問いなおす。 2 学びを通して、コミュニケーションの実践的能力を培う。 3 子どもとともに拓く「生徒指導」とは何かを考えていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「生徒指導」の基本理念・基本概念・基本方略を理解すること。
 思考・判断の観点：「生徒指導」について思考・判断し、自らの言葉で発言・論述できること。 関心・意欲の観点：授業中に提示される様々な課題に積極的な関心と意欲をもつこと。 態度の観点：主体的に考え、発表すべく行動表現すること。 技能・表現の観点：発言や記述や討論に参加できること。
 その他の観点：（正当な理由なく）欠席や遅刻をしないこと。また、私語や居眠りをしないこと。

授業の計画（全体） 1 「学校教育」の現状と「生徒指導」の歴史と課題 2 「生徒指導」の「内容」と「方法」と「本質」 3 「特別活動」「道徳教育」と「生徒指導」 4 「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」「進路指導」と「生徒指導」 5 「問題行動」の指導と「体罰」「懲戒」 6 「生命の教育」とこれからの「生徒指導」

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 21 世紀の学校教育 内容 学校教育の現状と未来の教育 授業外指示 概要のまとめ
- 第 2 回 項目 生徒指導の伝統 内容 わが国の伝統としての生徒指導 授業外指示 概要のまとめ
- 第 3 回 項目 指導とは何か 内容 指導の本質 授業外指示 概要のまとめ
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法 内容 生徒指導の内容と方法の具体 授業外指示 概要のまとめ
- 第 5 回 項目 特別活動と生徒指導 内容 特別活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 6 回 項目 道徳教育と生徒指導 内容 道徳教育と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 7 回 項目 学級活動と生徒指導 内容 学級活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 8 回 項目 学校行事・生徒会活動と生徒指導 内容 学校行事・生徒会活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 9 回 項目 進路指導と生徒指導 内容 進路指導と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 10 回 項目 禁煙教育 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（1） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 11 回 項目 遅刻・私語・居眠りの指導 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（2） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 12 回 項目 「問題行動」の指導 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（3） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 13 回 項目 「体罰」と「懲戒」 内容 「体罰」と「懲戒」の正しい理解 授業外指示 概要のまとめ
- 第 14 回 項目 「生命の教育」 内容 「生」と「死」についての教育の検討 授業外指示 概要のまとめ
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ 授業外指示 概要のまとめ

成績評価方法（総合）(1) 講義中に小論課題の問題を課す。(2) 最後に試験を実施する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位は与えない。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：適宜プリントを配布する。

メッセージ 授業に「出席」することと「参加」することとは異なる。ただ授業に「出席」しているというのではなく、積極的な身体的応答と意志をもって授業に「参加」し、共同的に学んでいくことを強く期待している。

連絡先・オフィスアワー 授業の前後に相談を受け付ける。

備考 集中授業

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。／検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよのだろうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもたちの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 5 0 0 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教科指導の前に生徒との信頼関係構築が大切である。教育相談と進路指導の知識や具体的な方法を説明する。また、いくつかの事例(ケース)を紹介し、受講者自らも指導者の立場からどう対応すればよいのか考える機会とする。 / 検索キーワード カウンセリング・マインド、役割演技、インターンシップ、自己理解

授業の一般目標 (1) 教職を目指す者としてカウンセリング・マインドを身につける必要性や具体的方法への理解を深めることを目指す。(2) 進路指導を身近な問題として把握し、その具体的な活動内容・項目を概観する。また、具体的に考え対応できる態度を身に付けることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育相談・進路指導の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 進路に関する情報と生徒の立場を把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点： 1. 生徒を共感的に理解しながら目的として対応できる。 技能・表現の観点： 1. 簡単な受理面接ができる。

授業の計画(全体) 期の前半では「教育相談」を、後半では「進路指導」を説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 生徒指導と教育相談 < BR > 授業内レポート
- 第 2 回 項目 教育相談 内容 歴史、カウンセリング・マインド
- 第 3 回 項目 教育相談 内容 精神療法の種類
- 第 4 回 項目 教育相談 内容 精神療法の種類
- 第 5 回 項目 教育相談 内容 スクールカウンセリングの実際 (VTR)
- 第 6 回 項目 教育相談 内容 ロールプレイ
- 第 7 回 項目 教育相談 内容 症例別事例紹介
- 第 8 回 項目 教育相談 内容 症例別事例紹介 < BR > いじめ問題 (VTR)
- 第 9 回 項目 進路指導 内容 スーパーの職業的発達理論
- 第 10 回 項目 進路指導 内容 ライフサイクル
- 第 11 回 項目 進路指導 内容 進路についての生徒の悩み
- 第 12 回 項目 進路指導 内容 具体的活動項目
- 第 13 回 項目 進路指導 内容 具体的取組例、指導案
- 第 14 回 項目 進路指導 内容 具体的取組例、指導案
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法(総合) (1) 所定以上の出席状況(欠格条件) (2) 授業内レポート、(3) 期末定期テスト結果。
(追加的に、(4) 授業外レポートを課すことがあります) これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：「心理学からみた教育の世界」第 6 章, 藤土圭三(監修), 北大路書房; 「進路指導」に関しては適宜資料を配布する。 / 参考書：適宜、資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	深野清香				

備考 集中授業

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	林伸一				
<p>授業の概要 「総合演習」は教職免許に必要な科目である。本年度は、「言語教育を通して学ぶもの、言語と価値観」という包括的なテーマのもとに、7人の教員がオムニバス形式で講義あるいは演習形式の授業をする。/検索キーワード 言語教育、価値観、異文化、異言語、言語表現、漢字、詩</p> <p>授業の一般目標 異なる分野の教員が提示する様々な学問的・経験的アプローチに接する中で、問題を自ら見出し、自ら解決する能力の向上を目指す。</p> <p>授業の計画(全体) 本授業は、教員免許の取得を目指す学生のための授業で、今年度は「言語教育を通して学ぶもの、言語と価値観」というテーマで7名の教員が各自の授業内容を2回で講義する。言語と文化の観点で講義または演習をする。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 言語教育を通じて学ぶものは?(1) 内容 言語と価値観・異文化理解について 授業外指示 高橋俊章(教育学部) 授業記録 10月1日</p> <p>第2回 項目 言語教育を通じて学ぶものは?(2) 内容 教授内容と自分との関連性について 授業外指示 高橋俊章(教育学部) 授業記録 10月15日</p> <p>第3回 項目 中国における異言語学習とその歴史(1) 授業外指示 更科慎一(人文学部) 授業記録 10月22日</p> <p>第4回 項目 中国における異言語学習とその歴史(2) 授業外指示 更科慎一(人文学部) 授業記録 10月29日</p> <p>第5回 項目 価値観と異文化(1) 内容 今次大戦に敗れたわけ 授業外指示 添田建治郎(人文学部) 授業記録 11月5日</p> <p>第6回 項目 価値観と異文化(2) 内容 外来語 授業外指示 添田建治郎(人文学部) 授業記録 11月12日</p> <p>第7回 項目 日常の言語表現の分析(1) 授業外指示 武本雅嗣(人文学部) 授業記録 11月19日</p> <p>第8回 項目 日常の言語表現の分析(2) 授業外指示 武本雅嗣(人文学部) 授業記録 11月26日</p> <p>第9回 項目 漢字と私たち(1) 授業外指示 富平美波(人文学部) 授業記録 12月3日</p> <p>第10回 項目 漢字と私たち(2) 授業外指示 富平美波(人文学部) 授業記録 12月10日</p> <p>第11回 項目 「詩を読む」とはどういうことか(1) 授業外指示 根ヶ山徹(人文学部) 授業記録 12月17日</p> <p>第12回 項目 「詩を読む」とはどういうことか(2) 授業外指示 根ヶ山徹(人文学部) 授業記録 1月8日</p> <p>第13回 項目 言語と価値観(1) 内容 ほめる言語表現とほめられてうれしい価値観について 授業外指示 林伸一(人文学部) 授業記録 1月16日</p> <p>第14回 項目 言語と価値観(2) 内容 マインド・マップのつくりかた 授業外指示 林伸一(人文学部) 授業記録 1月21日</p> <p>第15回 項目 課題レポート提出</p> <p>第16回</p> <p>第17回</p> <p>第18回</p> <p>第19回</p> <p>第20回</p> <p>第21回</p> <p>第22回</p> <p>第23回</p>					

- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 各教員による評価を集計して総合的に評価する。全教員に共通しているのは、出席率の重視で、その他は各教員の裁量に任される。各教員の評価方法は(レポート、小テスト、授業への参加度など)について、それぞれの授業の中で説明する。

メッセージ オムニバスの授業の中から時代のニーズや教師として必要な観点を学んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー マネージャーは、人文学部林伸一(研究室 210-2 室)で、メールアドレスは hayashix@yamaguchi-u.ac.jp である。オフィスアワーは、木曜 10 時から 12 時

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	理学部担当教員				

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	上杉、立山、油納、中村、吉川、安里				

授業の概要 現代社会におけるさまざまな法律問題を取り上げ、講義を行うとともに参加者のディスカッションを行うことにより授業を進めていきます。

授業の一般目標 さまざまな法律問題について、特に生活と関連のある問題を諸法領域においてみていくことにより、理解し、議論する能力を身に着けること。

授業の計画(全体) 講義の概要(授業計画)は以下のとおりですが、場合により、一部変更されることがあることをお断りしておきます。また、講義の順序も都合により変更されることがあります。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 担当者 上杉
- 第 2 回 項目 行政法と生活 1 内容 担当者 上杉
- 第 3 回 項目 行政法と生活 2 内容 担当者 上杉
- 第 4 回 項目 憲法と生活 1 内容 担当者 立山
- 第 5 回 項目 憲法と生活 2 内容 担当者 立山
- 第 6 回 項目 民法と生活 1 内容 担当者 油納
- 第 7 回 項目 民法と生活 2 内容 担当者 油納
- 第 8 回 項目 商法と生活 1 内容 担当者 中村
- 第 9 回 項目 商法と生活 2 内容 担当者 中村
- 第 10 回 項目 商法、経済法と生活 1 内容 担当者 吉川
- 第 11 回 項目 商法、経済法と生活 2 内容 担当者 吉川
- 第 12 回 項目 刑法と生活 1 内容 担当者 安里
- 第 13 回 項目 刑法と生活 2 内容 担当者 安里
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 担当者 上杉
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 毎時間の小レポートにより評価します。ただし 4 回以上欠席した場合には不合格とします。

教科書・参考書 教科書：特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	工学部担当教員				

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	藤間充 ほか 8 名				

授業の概要 21 世紀において地球規模で解決すべき課題は、人口、食料、環境であると言われている。わずか 50 年前には食べることをそのままならぬ時代があったことを忘れ去り、飽食に なれきった日本人にとって 21 世紀ではどのような試練が待ち受けているのか？その 21 世紀を担う学生諸君に食料生産の科学と重要性を学習し、理解を深めてもらうと同時に、食料生産に関わる作業行程の一部を体験してもらう。 / 検索キーワード 食料生産

授業の一般目標 授業では、日本の最も重要かつ特徴的な作物である水稲を中心に、食料生産の理論と技術およびそれを取り巻く環境について講義を行う。体験実習では、手植えによる田植えのほか、野菜の収穫、果樹の管理を予定しており、実際に食料生産の一部を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 水稲栽培をはじめとする食料生産の基礎的な理論を理解し、土壌、作物の病気、害虫等の管理、収穫物の品質など、食料生産にかかわる分野を関係づける。 2. 体験実習を通じて、基礎理論と実際の技術を関係づける。 思考・判断の観点： 食料生産にかかわる基礎理論や技術を理解した上で、食料生産の重要性を指摘できる。 関心・意欲の観点： 自らの体験に基づく、食料生産とのかかわり、重要性について討議できる。 態度の観点： 田植え、果樹の管理作業などの体験実習に積極的に参加できる。

授業の計画（全体） 食料生産を取り巻く専門分野について、週替わりで講義を行うとともに、3 回の農作業を体験する実習を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、食料生産の概要 担当：藤間
- 第 2 回 項目 作物の栽培環境 担当：藤間
- 第 3 回 項目 農業と環境（農場見学）
- 第 4 回 項目 イネ、麦類の栽培整理と特徴 担当：高橋
- 第 5 回 項目 新しい品種の開発 担当：執行
- 第 6 回 項目 作物の栄養生理 担当：横山
- 第 7 回 項目 土と土づくり 担当：進藤
- 第 8 回 項目 田植え-体験実習- 担当：藤間・荒木
- 第 9 回 項目 作物の病害防除 担当：田中
- 第 10 回 項目 作物の害虫防除 担当：竹松
- 第 11 回 項目 野菜・果実の品質、保蔵 担当：山内
- 第 12 回 項目 作物あるいは果樹の管理-体験実習- 担当：藤間・荒木
- 第 13 回 項目 作物あるいは果樹の管理-体験実習- 担当：藤間・荒木
- 第 14 回 項目 作物の環境ストレスと対策技術 担当：荒木
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業毎の小テスト、レポートなどによる理解度の評価と、出席を総合して判定する。

メッセージ 本講義は、高等学校農業科の教員免許取得を目指す学生のみが受講対象です。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：農学部附属農場 オフィスアワー：火、木曜日 12：00-12：50 メールアドレス：< a href="mailto:mtoma@yamaguchi-u.ac.jp" > mtoma@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	事前・事後指導	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡他				

授業の概要 中学校・高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。事前指導：授業の参観、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議

授業の一般目標 1 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の計画(全体) 事前指導として、学習指導、生徒指導、授業参観等に関する中学校・高等学校教員による講義、教科に分かれての授業参観、教科別指導等を行う。事後指導は実習後に実習生によるレポート作成、体験発表等を行う。

成績評価方法(総合) 出席状況及びレポート等によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(中)	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校・県内公立中学校において、実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を、あわせて行い、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(高)	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校・高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許・高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校において実地授業を行う(ただし、情報の高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習は、出身校等、高等学校において行う)。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

小学校の教科に関する科目

開設科目	初等科国語	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	国語全員				

授業の概要 本授業ではまず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ちお方法について具体的な説明を試みる。 / 検索キーワード 教育、小学校、国語科、教材研究

授業の一般目標 (1) 言語の機能について認識を深めるとともに、国語学力の内実について基本的理解を得る。(2) 小学校国語科教材分析の視点と方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 言語の機能について説明できる。 2. 小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 思考・判断の観点: 1. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 関心・意欲の観点: 1. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。 2. 積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 態度の観点: 1. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) (1) 授業は毎回プリントを配布し、それに基づいて講義する。参考文献等はその都度紹介する。(2) 適宜、与えられた課題についてミニ・レポートを提出してもらおう。(3) 各自が開発した教材について分析した結果を「この教材でこんなことを学習させたい」と言うレポートにまとめ提出してもらおう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業目標と進め方、シラバスの説明
- 第 2 回 項目 国語教師への道 内容 教師の仕事、教師の力量
- 第 3 回 項目 人間と言語 内容 言語の機能、言語の発達
- 第 4 回 項目 国語の学力と評価 内容 学力観、国語学力の内実
- 第 5 回 項目 国語科の「内容」とその特質 内容 教材と教科内容、国語科の「内容」の特質
- 第 6 回 項目 国語科教材分析の視点と方法 内容 教材分析の視点、教材分析の実際 授業外指示 授業外レポート「この教材でこんなことを学習させたい」作成、提出
- 第 7 回 項目 言語事項の「内容」と教材分析(1) 内容 文字、語句、語彙
- 第 8 回 項目 言語事項の「内容」と教材分析(2) 内容 言語感覚、言語感覚の構成要素
- 第 9 回 項目 言語事項の「内容」と教材分析(3) 内容 文及び文章の構成、言葉遣いに関する事項
- 第 10 回 項目 読むことの内容と教材分析(1) 内容 文学的文章の特質、文学的文章分析の視点と方法 授業外指示 小学校国語教材を読んでおくこと
- 第 11 回 項目 読むことの内容と教材分析(2) 内容 説明的文章の特質、説明的文章分析の視点と方法
- 第 12 回 項目 書くことの内容と教材分析(1) 内容 表現力、文章表現過程
- 第 13 回 項目 書くことの内容と教材分析(2) 内容 表現教材の分析と指導事項の析出
- 第 14 回 項目 話すこと・聞くことの内容と教材分析 内容 音声言語教材の分析と指導事項の析出
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中でミニ・レポートを提出する。(2) 授業外レポート「この教材でこんなことを学習させたい」を提出する。(3) 試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: なし、毎回プリントを配布する。

開設科目	初等科数学	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 学校数学の範囲で扱える数学的問題をトピックとして取り上げ、その解決活動を通して数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。

授業の一般目標 初等的な数学的問題について、数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値を理解することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：初等数学の基本的な知識をもっている 思考・判断の観点：初等的な数学について、数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値を考察できる。 技能・表現の観点：初等的な数学について、数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値を説明できる。

授業の計画（全体）最初に数学的問題解決について概説する。その後は、演習を通して、数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値を議論していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方についての概説
- 第 2 回 項目 数学的問題解決のプロセスと数学的見方・考え方とその意義について
- 第 3 回 項目 数と式に関する問題解決 1
- 第 4 回 項目 数と式に関する問題解決 2
- 第 5 回 項目 数と式に関する問題解決 3
- 第 6 回 項目 数と式に関する問題解決 4
- 第 7 回 項目 論理に関する問題解決 1
- 第 8 回 項目 論理に関する問題解決 2
- 第 9 回 項目 空間に関する問題解決 1
- 第 10 回 項目 空間に関する問題解決 2
- 第 11 回 項目 数量関係に関する問題解決 1
- 第 12 回 項目 数量関係に関する問題解決 2
- 第 13 回 項目 数量関係に関する問題解決 3
- 第 14 回 項目 数量関係に関する問題解決 4
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合）レポートと学期末テスト

メッセージ 毎回、算数に関する問題に取り組んで、それについて話し合うことが中心となります。

連絡先・オフィスアワー 連絡は、ysekigch@yamaguchi-u.ac.jp でメールでお願いします。

開設科目	初等科社会	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇・岩崎好成・山本薫子				

授業の概要 初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会科各領域の基礎的な知識を修得し、理解する。 思考・判断の観点：社会科各領域の基礎的な内容について自ら考察を深める力を養う。 関心・意欲の観点：社会科各領域の内容の理解のもとに、自ら学習する意欲を持てるようにする。 技能・表現の観点：社会科各領域の基礎的内容を初等科教育の教案作成に応用できる力を養う。

授業の計画（全体） 各領域を担当する社会科教育教室7名の教員が2グループに分かれ、週2回の授業を開設する。受講者は、教室別割当に基づき、いずれかの授業を受ける。

成績評価方法（総合） 原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

開設科目	初等科社会	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岩本光悦・松原幸恵・森下徹・荒木一視				

授業の概要 初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会科各領域の基礎的な知識を修得し、理解する。 思考・判断の観点：社会科各領域の基礎的な内容について自ら考察を深める力を養う。 関心・意欲の観点：社会科各領域の内容の理解のもとに、自ら学習する意欲を持てるようにする。 技能・表現の観点：社会科各領域の基礎的内容を初等科教育の教案作成に応用できる力を養う。

授業の計画（全体） 各領域を担当する社会科教育教室7名の教員が2グループに分かれ、週2回の授業を開設する。受講者は、教室別割当に基づき、いずれかの授業を受ける。

成績評価方法（総合） 原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

メッセージ 講義初回に内容・評価法等をあらためて指示するので、出席すること。

開設科目	初等科理科	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫・某				

授業の概要 受講者を第一分野と第二分野の2グループに分ける。I班は前半に物理分野を、後半に化学分野について講義を行う。II班は前半に地学分野、後半に生物分野について講義を行う。

授業の一般目標 1 (前半)物理に関する基礎的な知識を習得し、小学校理科授業に必要な力をつける。
2 (後半)化学に関する基礎的な知識を習得し、小学校理科授業に必要な力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 小学校理科に関する物理内容と化学内容について、科学的な理解を深める。自然科学の基礎的な概念について理解する。思考・判断の観点: 科学的な思考力を修得する。関心・意欲の観点: 小学校理科で学習する内容と日常生活とのつながりについて、関心と意欲を高める。態度の観点: まじめに向上心を持って授業に取り組む。技能・表現の観点: 与えられた課題を分かりやすい文章や図によって表現する。

授業の計画(全体) 小学校で理科の授業を行うために必要な基礎的な知識や科学的な考え方・技能などについて講義する。(備考:3年次に学ぶ教科教育法理科では、原則として初等科理科で履修しなかった分野を履修することになる)

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義の概要と理科教育(特に物理)の実態
- 第2回 項目 物理に対する児童生徒のイメージ
- 第3回 項目 構成主義学習論と素朴概念
- 第4回 項目 小学校理科における物理実験 内容 水の加熱
- 第5回 項目 てこと天秤に関する授業の実際 内容 力のモーメント概念による理解
- 第6回 項目 日常生活見られる物理現象1 内容 エネルギー概念
- 第7回 項目 日常生活見られる物理現象2 内容 光と電波
- 第8回 項目 後半の化学分野の導入 内容 1.理科の目標と理科教育の役割 2.化学領域の概念と教科書での取り扱い 3.ロウソクの燃焼の観察
- 第9回 項目 観察・疑問・仮説・実験 内容 1.観察・疑問・仮説および概念形成
- 第10回 項目 燃焼教材・物質の三態 内容 1.酸素中での燃焼 2.空気のイメージ 3.大気組成とその性質 4.物質の三態
- 第11回 項目 水 内容 1.小学校における水教材 2.水の期限と分布・循環 3.水の性質 4.アメンボウの死
- 第12回 項目 水溶液とその性質 内容 1.溶解についての子どものイメージ 2.溶解・溶媒・溶質・濃度 3.溶解へ以降と溶解度 4.溶質の性質と溶解の仕方 5.水溶液の基本的性質
- 第13回 項目 酸・塩基と中和反応 内容 1.水の解離 2.酸・塩基・酸性・塩基性・酸性雨 3.酸塩基中和反応
- 第14回 項目 人間と環境 内容 1.生命と大気と水 2.現代文明と水 3.環境汚染(捨て場の問題) 4.環境教育
- 第15回 項目 補講日

成績評価方法(総合) 出席と課題に関するレポートによって評価する。全体の評価は、前半と後半を総合して評価する。前半・後半共に基準点を上回る必要がある。

教科書・参考書 教科書: プリント等を配布して講義する。

開設科目	初等科理科	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上清文・千々和一豊				

授業の概要 1 (前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。2 (後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物 地学分野に分けて講義する。

授業の一般目標 1 (前半)理科教育や自然科学について、小学校教員として必要な基礎的な知識を理解する。2 (後半)小学校理科における二つの分野に関する、学習指導要領及び学習内容を把握するとともに、学習内容の背景にある科学的基礎知識やその指導のあり方を身につける。

授業の計画(全体) 1 前半7週は、全受講生を対象に理科教育の総論的な講義を行う。2 後半7週は、第一分野と第二分野に分かれる。受講者は一方のコースを履修する。(備考:3年次に学ぶ教科教育法理科では、初等科理科で履修しなかったコースを履修することになる)

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義の概要
- 第2回 項目 戦後の理科教育の歴史Ⅰ 内容 理科学習指導要領の変遷(昭和22年~昭和40年代)
- 第3回 項目 戦後の理科教育の歴史Ⅱ 内容 理科学習指導要領の変遷(昭和50年代~平成10年代)
- 第4回 項目 理科授業の作り方 内容 仮説実験学習 構成主義学習論 理科教育とSTS教育
- 第5回 項目 理科授業における実験観察について 内容 小学校理科で行う実験を取り上げて、その方法と留意点について述べる
- 第6回 項目 理科の評価 内容 単語聯想法と概念地図法を主に取り上げて解説する
- 第7回 項目 課題研究
- 第8回 項目 理科の目標と学習内容
- 第9回 項目 大地のつくりと変化 - 物質循環
- 第10回 項目 気象(1)気象現象の背景
- 第11回 項目 気象(2)天気予報
- 第12回 項目 天文(1)天球概念、月の満ち欠け
- 第13回 項目 天文(2)惑星の動き、恒星の動き
- 第14回 項目 天文(3)恒星の明るさ、色
- 第15回 項目 補講日

成績評価方法(総合) 前半・後半ごとに、出席、小課題、レポートまたは試験により評価し、最終的にはそれらを総合して評価する。前半と後半それぞれで基準点を上回る必要がある。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐藤登、池上敏				

授業の概要 小学校低学年の生活科は栽培、飼育、表現等の領域を扱う事を求められている。この授業では栽培を主に、生活科授業を行うに際して必要な知識や技能を学習・習得する。

授業の一般目標 植物の栽培の方法、その意義などを理解すると共に、植物栽培の極めて大きな目的でもある食文化研究の実践を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：植物栽培、及び食文化に対する知識の獲得。 思考・判断の観点：植物栽培や料理等の際、失敗の原因を探り、判断する能力の獲得。 関心・意欲の観点：栽培や食文化への興味、関心を持つこと。 態度の観点：積極的な授業参加。 技能・表現の観点：学習内容、教師自らの体験などを的確に子供に伝達できる表現能力の獲得。

授業の計画(全体) 受講学生全員で行う「全体授業」と、内容を限定し、少人数で行うクラス(コース)授業を組み合わせで行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体授業、ガイダンス(予定)及びクラス分け
- 第2回 項目 クラス授業
- 第3回 項目 同上
- 第4回 項目 同上
- 第5回 項目 同上
- 第6回 項目 同上
- 第7回 項目 全体授業、田植えガイダンス、田植え実習
- 第8回 項目(教育実習のため休講)
- 第9回 項目 同上
- 第10回 項目 クラス別授業
- 第11回 項目 同上
- 第12回 項目 同上
- 第13回 項目 同上
- 第14回 項目 まとめ、発表
- 第15回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 一斉試験は行わず、提出物、受講態度、レポートなどにより総合的に判断、評価する。クラス別授業、一斉授業の点数を合算して評価を行うが、どちらか一方のみでの評価は行わないので、両方の評価を受けられる者のみ単位を認定する。尚、以下の観点別評価は厳密なものではないことを承知されたい。

教科書・参考書 参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。

メッセージ 生活科は体験を主とする科目です。体験の大切さ、重要さを感じて下さい。尚、初等科生活のクラス分けは公平を期して、最初の時間に全クラスの受講者の希望を考慮しつつ、抽選で割り振ります。

連絡先・オフィスアワー 初等科生活マネジメント担当教員・池上 敏(教育学部・音楽棟109研究室)まで、オフィスアワーは未定。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白水完治・池上敏				

授業の概要 小学校の生活科授業では飼育、栽培、表現などの領域を扱う事が求められている。このクラスでは動物の飼育を視野に入れつつ、生活科授業に必要な知識、技能を学習、習得することを目指す。同時に、発展的に総合的な学習の時間の授業運営に必要な広汎な知識、技能の獲得と共に、表現力などを育成することを目指す。

授業の一般目標 生活科授業に必要な知識、技能を学習、習得すると共に、総合的な学習の時間の授業運営に必要な広汎な知識を獲得し、表現力などを育成することを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生活科授業運営、及び総合的な学習の時間の授業の運営に必要な知識の獲得と、その理解。 思考・判断の観点：生活科授業、総合的な学習の時間の授業を構想する思考力、及び適切な教材や授業内容を判断する能力の獲得。 関心・意欲の観点：教育を行って行く上で不可欠な様々な事象への強い関心を持つと共に、積極的に未知の分野にチャレンジしていく意欲の獲得。 態度の観点：積極的な授業参加。 技能・表現の観点：教師自身の体験や、授業内容、あるいは児童への指示を的確に行うための表現力の育成。

授業の計画（全体） 同一時間に行われる初等科生活全クラス合同での授業と、クラス毎に別れての学習を適宜交代で行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体授業、ガイダンス（予定）及びクラス分け
- 第 2 回 項目 クラス授業
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 全体授業（田植えガイダンス、田植え実習）
- 第 8 回 項目（教育実習のため、休講）
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 クラス授業
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 まとめ、発表
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 一斉試験は行わず、提出物、受講態度、レポートなどにより総合的に判断、評価する。クラス別授業、一斉授業の点数を合算して評価を行うが、どちらか一方のみでの評価は行わないので、両方の評価を受けられる者のみ単位を認定する。尚、以下の観点別評価は厳密なものではなく、目安程度であることを承知されたい。

教科書・参考書 参考書：必要に応じ、授業時間内に適宜紹介する。

メッセージ 実習や野外活動を主とした授業になります。積極的に活動出来る人が好ましい。また、実習課題の完成までが授業と考えて行うので、授業時間の延長もあり得ることも承知されたい。クラス分けは公平を期すため、同一時間帯の初等科生活全体の受講者を各自の希望を考慮しつつ、抽選で分けて決定します。

連絡先・オフィスアワー 初等科生活科マネジメント担当教員・池上 敏（教育学部音楽棟109研究室）まで。オフィスアワーは未定。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森岡 弘・池上 敏				

授業の概要 小学校低学年の生活科では栽培、飼育、表現等の領域を扱う事が求められている。このクラスでは、工作的な技術の習得を主とし、生活科授業を行うのに必要な知識、技能を学習、獲得する事を目指す。

授業の一般目標 工作的な技術の獲得を通して、生活科授業を行うのに必要な知識、技能を習得し、表現力の育成を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刃物を主とする工作道具の扱い方の知識の獲得、使用原理の理解。
 思考・判断の観点：工作物作製の過程や完成時のイメージから工作手順を思考し、判断する能力の獲得。
 関心・意欲の観点：工作一般に対する関心、製作に対する意欲を持つ。 態度の観点：積極的な授業への参加
 技能・表現の観点：工作技能の獲得、工作を通しての表現力の育成。

授業の計画（全体） 同一授業の受講者全員に対して実施する全体授業と、各クラス（コース）別に行うクラス授業を適宜交替で行います。詳しくは週単位授業計画、及び学年始めに配付予定の授業計画を参照して下さい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体授業、ガイダンス、及びクラス分け
- 第 2 回 項目 クラス授業
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 全体授業、田植えガイダンス、田植え実習
- 第 8 回 項目（教育実習のため、休講）
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 クラス授業
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 まとめ、発表
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 一斉試験は行わず、提出物、受講態度、レポートなどにより総合的に判断、評価します。クラス別授業、一斉授業の点数を合算して評価を行いますが、どちらか一方のみでの評価は行わないので、両方の評価を受けられる者のみ単位を認定します。尚、以下の観点別評価は厳密なものではなく、目安程度であることを承知されたい。

教科書・参考書 参考書：必要に応じ、授業時間中に適宜紹介します。

メッセージ 作業を行えるような服装で参加して下さい。尚、授業スペースの関係で受講者数を制限します。（受講制限をします。）クラス分けは公平を期すために、受講学生各自の希望を考慮しつつ、同一時間帯受講者全体での抽選とします。尚、技術教育教育所属の学生はこのコースは受講出来ません。

連絡先・オフィスアワー 森岡 弘（クラス担当教員・技術教育教室）または池上 敏（初等科生活マネジメント担当教員・音楽棟109研究室）まで、オフィスアワーは学年始めに確認されたい。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石川正一・池上敏				

授業の概要 小学校の生活科では栽培、飼育、表現等の領域を扱う事が求められている。このクラスでは竹を題材に生活科運営のために必要な基礎的な知識、技能を学習する。

授業の一般目標 竹を題材とした生活科授業運営に必要な様々な能力の獲得、及び野外実習の体験。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：竹に対する広汎な知識の獲得、竹の様々な面の理解。 思考・判断の観点：竹をどう使うか、という思考力の養成、及び場面場面での最適な行動を判断して行く能力の獲得。 関心・意欲の観点：竹に関する様々な事象への強い関心を持つこと、積極的に今まで体験していない事を体験しようとする意欲を持つこと。 態度の観点：授業への積極的な参加。 技能・表現の観点：竹を用いる技能の獲得、それを他の人に伝達する表現力の育成。

授業の計画(全体) 初等科生活は同一時間帯の受講者全員を対象にした授業と、クラス別の授業の二つを適宜交代で行う。このクラスの授業は竹炭作りを主とした野外生活宿泊体験学習を予定しているので、このクラスのガイダンス、及び指定された日程の宿泊体験に必ず参加する事。週毎のクラス授業は指定された週を除き原則として行わない。(全体授業には参加する事。)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体授業、ガイダンス、及びクラス分け
- 第 2 回 項目 クラス授業
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 全体授業、田植えガイダンス、田植え実習
- 第 8 回 項目 (教育実習のため、休講)
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 クラス授業
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 全体授業、まとめと発表
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 一斉試験は行わず、提出物、受講態度、レポートなどにより総合的に判断、評価する。クラス別授業、一斉授業の点数を合算して評価を行うが、どちらか一方のみでの評価は行わないので、両方の評価を受けられる者のみ単位を認定する。尚、以下の観点別評価は厳密なものではなく、目安程度であることを承知されたい。

教科書・参考書 参考書：必要に応じ、授業時間中に適宜紹介する。

メッセージ 初等科生活は体験、実習を重視します。積極的に授業に参加しましょう。尚、クラス分けは、公平を期すため、同一時間帯の受講者を希望を考慮しつつ抽選で割り振ります。

連絡先・オフィスアワー クラス授業担当者・石川 正一(山口県立大学地域研究共同センター) または 初等科生活マネジメント担当教員・池上 敏(音楽棟109研究室)まで、オフィスアワーは学年始めに確認されたい。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫・池上敏				

授業の概要 生活科教育は主として栽培、飼育、表現などの領域から生きる力を養成している。このクラスでは主として水棲動物の飼育を通して命とは何か、環境とは何か、といった問題を通して生活科教育に必要な知識や技能を獲得する。

授業の一般目標 水棲小動物の飼育を通して、生活科教育に必要な知識、技能を獲得することを目指す。また、環境という観点から総合的な学習の時間へ発展させることも考えたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：川遊びについての知識、マナーなどの理解。川に生育する水棲小動物一般についての知識、理解。 思考・判断の観点：危険を伴う実習の際の適格な判断等。 関心・意欲の観点：飼育に対する関心の育成、未知の体験への強い意欲。 態度の観点：積極的な授業への参加。 技能・表現の観点：体験を適格に語れる（伝達できる）表現力の育成。

授業の計画（全体）初等科生活は、同一時間帯に開講している受講者全員を対象にした授業と、クラス毎の授業を適宜交代で行います。このクラスは川遊びをしながら、環境問題、生命への畏敬、といった根本的な教育に関わる領域に体験を交えながら迫って行きたい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体授業、ガイダンス、及びクラス分け
- 第 2 回 項目 クラス授業
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 全体授業、田植えガイダンス、田植え実習
- 第 8 回 項目（教育実習のため、休講）
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 クラス別授業
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 全体授業、まとめと発表
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合）一斉テストは行わず、受講態度、提出物、レポートなどを総合的に判断、評価します。全体授業、クラス授業の点数を合算して評価を行いますが、全体授業、またはクラス授業のみでの単位認定は行わないので、両方の評価が可能な受講者を評価対象とし、単位を認定します。尚、観点別評価は目安程度と理解されたい。

教科書・参考書 参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。

メッセージ 実習体験が中心の授業です、積極的に未知の領域に踏み込みましょう。尚、クラス分けは公平を期すため、受講者各位の希望を考慮しつつ、抽選で決定します。

連絡先・オフィスアワー 入江和夫（教育学部家政教育教室）または池上 敏（教育学部初等科生活科マネージメント担当教員・音楽棟109研究室）まで、オフィスアワーは学年始めに確認されたい。

開設科目	初等科生活	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岡村 吉永・池上 敏				

授業の概要 生活科は栽培、飼育、表現などの領域を行っているが、このクラスでは主に木材を使ったおもちゃ作りを中心に、生活科授業を運営して行く上で必要な知識や技能を習得する。

授業の一般目標 木材を主な素材とするおもちゃ作りを中心に、生活科授業を運営して行く上で必要な知識や技能を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：木材などの素材を扱うのに必要な素材、及び工具の扱いに対する知識、及びそれらの性質の理解。 思考・判断の観点：制作に必要な手順などを思考する能力の獲得、多少の危険を伴う作業も含むので、自分、及び周囲の人への安全を考慮した行動の判断。 関心・意欲の観点：おもちゃなどが動く仕組みへの関心、ものを作ってみよう、という意欲。 態度の観点：積極的な授業への参加。 技能・表現の観点：自分で廃材等を扱う技術的能力の獲得、制作等の体験を的確に児童等に伝えて行く表現能力の育成。

授業の計画（全体） 初等科生活は、同時に開講されているこの授業の受講生全部と一緒に扱う授業と、各クラスに別れて行う授業とを適宜交代で行う。詳細は週単位授業計画、及び学年始めに配付予定の授業計画を参照の事。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体授業、ガイダンス、及びクラス分け
- 第 2 回 項目 クラス授業
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 全体授業、田植えガイダンス、田植え実習
- 第 8 回 項目（教育実習のため、休講）
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 クラス授業
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 全体授業、まとめと発表
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 一斉テストは行わず、受講態度、提出物、レポートなどを総合的に判断、評価します。全体授業、クラス授業の点数を合算して評価を行いますが、全体授業、またはクラス授業のみでの単位認定は行わないので、両方の評価が可能な受講者を評価対象とし、単位を認定します。尚、観点別評価は目安程度と理解されたい。

教科書・参考書 参考書：必要があれば、授業時間中に適宜紹介します。

メッセージ 実習中心の授業なのでそのつもりで、必ず作業ができるような服装で参加して下さい。尚、受講者は公平を期すために同一時間帯に受講する学生全体を対象に、受講生の希望を考慮しつつ、抽選で決定します。このクラスは技術教育以外の学生を対象にします、また人数制限も行います（受講制限があります）。

連絡先・オフィスアワー 岡村 吉永（技術教育教室）または池上 敏（初等科生活科マネージメント担当教員・音楽棟109研究室）まで、オフィスアワーは学年始めに確認されたい。

開設科目	初等科音楽	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村順子 他				

授業の概要 本授業では、小学校音楽科の授業実践に必要な音楽の専門的な知識や技術を身に付ける。 / 検索キーワード 楽典・ソルフェージュ・創作、歌唱、ピアノ、リコーダー、和楽器

授業の一般目標 楽典・ソルフェージュ・創作、歌唱、ピアノ、リコーダー、和楽器の音楽的内容について学び、専門的な力量を獲得する。

授業の計画(全体) 音楽科の教育実践に必要な各種の音楽活動についての基本的な実技体験をする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(1)
- 第 2 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(2)
- 第 3 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(3)
- 第 4 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(4)
- 第 5 回 項目 歌唱(1)
- 第 6 回 項目 歌唱(2)
- 第 7 回 項目 ピアノ
- 第 8 回 項目 リコーダー(1)
- 第 9 回 項目 リコーダー(2)
- 第 10 回 項目 和楽器(1)
- 第 11 回 項目 和楽器(2)
- 第 12 回 項目 和楽器(3)
- 第 13 回 項目 鑑賞
- 第 14 回 項目 鑑賞
- 第 15 回 項目 実技テスト

成績評価方法(総合) 実技テスト及び期末テスト

メッセージ 授業計画は変更される場合があります。

開設科目	初等科音楽	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村順子 他				

授業の概要 本授業では、小学校音楽科の授業実践に必要な音楽の専門的な知識や技術を身に付ける。/
検索キーワード 楽典・ソルフェージュ・創作、歌唱、ピアノ、リコーダー、和楽器

授業の一般目標 楽典・ソルフェージュ・創作、歌唱、ピアノ、リコーダー、和楽器の音楽的内容について
学び、専門的な力量を獲得する。

授業の計画(全体) 音楽科の教育実践に必要な各種の音楽活動についての基本的な実技体験をする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(1)
- 第 2 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(2)
- 第 3 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(3)
- 第 4 回 項目 楽典・ソルフェージュ・創作(4)
- 第 5 回 項目 歌唱(1)
- 第 6 回 項目 歌唱(2)
- 第 7 回 項目 ピアノ
- 第 8 回 項目 リコーダー(1)
- 第 9 回 項目 リコーダー(2)
- 第 10 回 項目 和楽器(1)
- 第 11 回 項目 和楽器(2)
- 第 12 回 項目 和楽器(3)
- 第 13 回 項目 鑑賞
- 第 14 回 項目 鑑賞
- 第 15 回 項目 実技テスト

成績評価方法(総合) 実技テスト及び期末テスト

メッセージ 授業計画は変更される場合があります。

開設科目	小学校歌唱伴奏法	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業は、開設期が教員採用試験直前ということもあり、歌唱教材の伴奏と学生それぞれの力量に応じたピアノ曲の実技指導を行う。

授業の一般目標 ほぼ進度が同じと見られる学生を1グループ4～5名に分け、各進度に合わせて教材選択を行い、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、弾き歌いとピアノ演奏技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：小学校歌唱教材の歌詞をよく理解し、伴奏を弾きながら歌うことができる。 関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。 技能・表現の観点：歌の表現を中心に教材を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 伴奏譜のコードやフレーズを理解することから始まり、歌いながらピアノ伴奏を付ける実技の習得。

成績評価方法（総合）（1）実技試験により形成評価を行う。（2）出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：歌唱教材伴奏法, 久保信男 他, 教育芸術社, 1998年

連絡先・オフィスアワー jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線5363

開設科目	小学校歌唱伴奏法	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 教員採用試験の実技課題を目標に、ピアノの基礎技能と簡易伴奏法及び弾き歌いを演習する。

授業の一般目標 個々の受講生が目指す自治体の、教員採用試験の実技課題に取り組む。

教科書・参考書 教科書：歌唱教材伴奏法, 久保信男 他, 教育芸術社, 1998年

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	初等科図画工作	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	美術教育全員				

授業の概要 小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の3つの分野を学習する。 / 検索キーワード 図画工作 美術 教材 表現 鑑賞

授業の一般目標 小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。また、美的感覚を練磨する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 平面教材 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 同上 4
- 第 5 回 項目 同上 5
- 第 6 回 項目 同上 6
- 第 7 回 項目 立体教材 1
- 第 8 回 項目 同上 2
- 第 9 回 項目 同上 3
- 第 10 回 項目 同上 4
- 第 11 回 項目 同上 5
- 第 12 回 項目 同上 6
- 第 13 回 項目 鑑賞 1
- 第 14 回 項目 鑑賞 2
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	初等科体育	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通じた学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。なお、実技は2班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ7回ずつ行う。 / 検索キーワード 初等科体育, 体操・器械運動, タグフットボール

授業の一般目標 小学校体育における, 体操・器械運動とタグフットボールの実習および, それをふまえての指導法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 態度の観点: 講義に真摯に取り組む態度 技能・表現の観点: 体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 タグフットボールのルール説明 内容 タグフットボールの概要とルール説明を行う
- 第2回 項目 タグフットボールの基本動作1 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第3回 項目 タグフットボールの基本動作2 内容 基本動作の反復練習および簡単なゲーム形式
- 第4回 項目 タグフットボールの基本動作3 内容 基本動作の反復練習および簡単なゲーム形式
- 第5回 項目 タグフットボールのゲーム 内容 試合形式
- 第6回 項目 タグフットボールの指導法1 内容 指導法の説明
- 第7回 項目 タグフットボールの指導法2 内容 指導法の説明
- 第8回 項目 タグフットボールのルール説明 内容 タグフットボールの概要とルール説明を行う
- 第9回 項目 タグフットボールの基本動作1 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第10回 項目 タグフットボールの基本動作2 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第11回 項目 タグフットボールの基本動作3 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第12回 項目 タグフットボールのゲーム 内容 試合形式
- 第13回 項目 タグフットボールの指導法1 内容 指導法の説明
- 第14回 項目 タグフットボールの指導法2 内容 指導法の説明
- 第15回

成績評価方法(総合) 体操・器械運動とタグフットボールの実習と指導法について学習する。

開設科目	初等科体育	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳屋文雄				

授業の概要 授業は実技実習を中心におこなうが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行い、よき指導者の育成をめざす。

授業の一般目標 体操・器械運動の特性を理解し、技能の向上を図るとともに指導法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：キネシオロジーの観点から理解している。思考・判断の観点：系統性をもって考えている。関心・意欲の観点：グループ内で積極的に行動している。態度の観点：挑戦的な気持ちを育てたい。技能・表現の観点：美しい実技・演技・構成を考えて行っている。その他の観点：指導能力・指導意欲を大切にしたい。

授業の計画（全体）（１）器械運動の特性を理解し、実技力向上及び補助法を学習する。（２）体力づくり・動きづくり・健康づくりのための体操を学習する。（３）グループ学習・集団行動のポイントを学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 特性と授業のねらいを理解する 授業外指示 良き指導者とはどんな姿勢だろうか、考えてみよう。 授業記録 プリント配布
- 第 2 回 項目 ベーシクトレーニング 内容 体操・器械運動のためのベーシクトレーニング 授業外指示 メッセージを大切に。
- 第 3 回 項目 マット運動の基本 I 内容 基本技能の練習とグループ支援
- 第 4 回 項目 マット運動の基本 II 内容 初級から中級への系統性 授業記録 プリント配布
- 第 5 回 項目 マット運動の基本 III 内容 技の向上と補助のタイミング・ポイント
- 第 6 回 項目 マット運動・跳び箱運動 内容 グループ学習の楽しさを学ぶ 授業外指示 動きづくりを考えてみよう（レポート課題提示）
- 第 7 回 項目 体操・器械運動 内容 身体能力の向上、指導者の喜び、器械運動の系統性
- 第 8 回 項目 レポート提出 内容 体操・器械運動の特性と指導法のポイントについて述べよ。 授業外指示 授業感想を含めて作成する（A 4で3枚以上）
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）受講対象者の器械運動に対する身体能力、興味・関心・態度は決して高いものではなく、むしろ苦手意識の学生が多いのが実態である。そこで実技能力を技能力よりは指導能力の良さに重きを置いた評価とする。

教科書・参考書 参考書：必要に応じてプリントを配布する（2部予定）

メッセージ 技の向上より指導力の向上を期待しています。

開設科目	初等科家庭	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子・山田次郎・山本善積・星野裕之				

授業の概要 小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。その中の家族領域について専門的知識を学ぶ。

授業の一般目標 小学校現場で、家庭科を担当するために必要な専門的知識を獲得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 思考・判断の観点：各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる」 関心・意欲の観点：専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 受講確認 日程、内容、受講方法、評価について
- 第 2 回 項目 数字で見る現代家族
- 第 3 回 項目 性別分業と家族
- 第 4 回 項目 電話相談にみる 親子関係
- 第 5 回 項目 「親として育つ」－幼稚園における保護者の成長支援
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：教官の作成した授業資料を用いる

メッセージ 4 教官全員の授業を受け、評価を受けること。

国語教育選修

開設科目	国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 国語学(日本語学・言語学)の基礎的な項目(音声・文字・語彙・文法・方言など)を解説する。また、各項目に設定されている問題を解くことによって、方法論の習得を強化する。/検索キーワード 国語学、日本語学、言語学、文法

授業の一般目標 (1)国語学の基本的な事項を理解できる。(2)国語学の方法論を習得し、それを新たなデータに適用できる。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1.国語学の基本的な項目を理解し、説明できる。思考・判断の観点: 1.国語学の方法論を、新たなデータに適用できる。2.主体的な分析によって、法則性を導き出し、一般化できる。関心・意欲の観点: 1.普段使っていることばに関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 日本語学の定義、扱う分野等のイントロダクションから始め、音声・音韻・語彙・文法・表記法等、基本的な項目を解説していく。おおよそ1~2コマで1項目を扱う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 「日本語学」とは何か 内容 研究目的、研究分野、母語、言語の機能
- 第3回 項目 音声・音韻(1) 内容 音声と音韻、言語音
- 第4回 項目 音声・音韻(2) 内容 拍、音節
- 第5回 項目 音声・音韻(3) 内容 アクセント
- 第6回 項目 語彙(1) 内容 語彙と語彙体系、意味
- 第7回 項目 語彙(2) 内容 類義語、対義語、語種
- 第8回 項目 語彙(3) 内容 変化、位相語、造語、表現
- 第9回 項目 文法(1) 内容 文法論、文構造
- 第10回 項目 文法(2) 内容 活用、主語
- 第11回 項目 文法(3) 内容 修飾、文法範疇
- 第12回 項目 表記(1) 内容 文字、表記、規範性
- 第13回 項目 表記(2) 内容 多様性、ゆれ
- 第14回 項目 日本語の位置 内容 日本語と国語、類型論
- 第15回 項目 まとめ・展望 内容 問題点、次の段階へ

成績評価方法(総合) (1)毎回授業の最後に、小レポートを課す。(2)学期末にペーパーテストを行う。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 適宜プリント等を配布。/参考書: 授業中に適宜指示する。

メッセージ 常に自分のことばを意識しつつ、学んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部4階445室

開設科目	国語史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語の歴史の変遷について概説する。今年度は、音韻・音声に関する問題について講義する。 / 検索キーワード 日本語の歴史、文字、表記法

授業の一般目標 音韻・音声に関する日本語の歴史について、基礎的な事項を理解するとともに、日本語について歴史的な観点から見ていく考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史的变化について概観的に理解できる。 思考・判断の観点：日本語の歴史的变化について、自ら考えていくことができる。 関心・意欲の観点：日本語の歴史的变化について興味を持つことができる。

授業の計画（全体） 音韻・音声の変遷について、主な問題を取り上げて講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 母音の変遷（1） 内容 オ段長音の開合をめぐる問題について説明する。
- 第 3 回 項目 母音の変遷（2） 内容 上代特殊仮名遣いをめぐる問題について説明する。
- 第 4 回 項目 母音の変遷（3） 内容 前回は引き続き、上代特殊仮名遣いをめぐる問題について説明する。
- 第 5 回 項目 子音の変遷（1） 内容 サ行子音の発音の変遷について説明する。
- 第 6 回 項目 子音の変遷（2） 内容 前回は引き続き、サ行子音の発音の変遷について説明する。
- 第 7 回 項目 子音の変遷（3） 内容 八行子音の発音の変遷について説明する。
- 第 8 回 項目 子音の変遷（4） 内容 八行転呼音について説明する。
- 第 9 回 項目 子音の変遷（5） 内容 タ行子音の発音の変遷について説明する。
- 第 10 回 項目 子音の変遷（6） 内容 「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」の統合に関する問題について説明する。
- 第 11 回 項目 ア行・ヤ行・ワ行の統合（1） 内容 ア行の「え」、ヤ行の「え」、ワ行の「ゑ」の統合等、ア行・ヤ行・ワ行の統合に関する問題について説明する。
- 第 12 回 項目 ア行・ヤ行・ワ行の統合（2） 内容 前回は引き続き、ア行・ヤ行・ワ行の統合に関する問題について説明する。
- 第 13 回 項目 いろはうた・五十音図 内容 いろはうた・五十音図の成立に関わる問題について説明する。
- 第 14 回 項目 アクセントの変化 内容 アクセントの変化に関する問題について説明する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義内容のまとめを行う。

成績評価方法（総合） 期末のレポートによって評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特講 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本講義では、私達が日頃意識していない日本語の音声について、様々な身近な現象をデータを取り上げつつ解説する。 / 検索キーワード 音声・音声学

授業の一般目標 (1) 音声学の基本的な事項を理解できる。(2) 音声学の方法論を新たなデータに適用できる。(3) 普段使っていることばの音声現象を客観的に認識できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 音声学の基本的な事項を説明することができる。 思考・判断の観点： 1 . 音声学の方法論を新たなデータに適用できる。 2 . 法則性を一般化できる。 関心・意欲の観点： 1 . 普段意識していない自分のことばの音声現象を主体的に観察できる。

授業の計画(全体) まず、基本的な音声学の知識を修得する。 次に、日本語の様々な音声現象を、1 コマで1項目ずつ扱い、音声的な分析を施していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 音声研究とは何か?
- 第 3 回 項目 ツール (1) 内容 音声器官
- 第 4 回 項目 ツール (2) 内容 音声記号
- 第 5 回 項目 ツール (3) 内容 音声記号
- 第 6 回 項目 音声バリアー (1)
- 第 7 回 項目 音声バリアー (2)
- 第 8 回 項目 音声エラー (1)
- 第 9 回 項目 音声エラー (2)
- 第 10 回 項目 音声模倣 (1)
- 第 11 回 項目 音声模倣 (2)
- 第 12 回 項目 アクセント (1)
- 第 13 回 項目 アクセント (2)
- 第 14 回 項目 音声と文字
- 第 15 回 項目 まとめ・展望 内容 問題点、次の段階へ

成績評価方法(総合) (1) 毎回授業の終わりにミニツツペーパーを課す。(2) 学期末にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜指示する。

メッセージ 常に身近なことばの音声を意識しておいて欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特講 II	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく。本年度は、標準語の形成に関する問題について述べていく。

授業の一般目標 日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマについて、理解・思考を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史的变化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる。 思考・判断の観点：得た知識を基に、日本語の歴史的变化について自ら、考えていくことができる。 関心・意欲の観点：日本語の歴史的变化について興味を持つことができる。

授業の計画（全体） 明治期の口語文典や国定読本等を資料として、標準語の形成に関わる問題点について説明する。

成績評価方法（総合） 期末のレポートによって評価する。（授業で取り上げたテーマについて、各自で調査した結果をレポートにまとめる。レポートの課題は、授業中指示する。）

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 現代日本語の文法について概説する。学校文法とは異なる枠組みである記述文法の観点から、私たちが普段使っていることばの文法的側面を観察していく。 / 検索キーワード 日本語、現代語、学校文法、記述文法

授業の一般目標 (1) 現代日本語文法の基本的な事項を理解できる。(2) 様々な現象の法則性を一般化できる。(3) 常に日本語の文法現象を主体的に考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 現代日本語文法の基本的な事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 様々な現象からパターンを抽出し、法則性を定式化できる。 関心・意欲の観点： 1 . 文法現象に関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 日本語文法で扱われる様々な文法項目を 1 コマ 1 項目のペースで解説していく。具体的には、品詞・格助詞・活用・ボイス・人称・テンス等である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーシ ョン 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくように
- 第 2 回 項目 品詞 (1) 内容 名詞、動詞
- 第 3 回 項目 品詞 (2) 内容 形容詞
- 第 4 回 項目 品詞 (3) 内容 その他の品詞
- 第 5 回 項目 格助詞 (1) 内容 「を」, 「に」, 「と」, 「で」
- 第 6 回 項目 格助詞 (2) 内容 「と」, 「とき」
- 第 7 回 項目 活用 (1) 内容 「～ます」, 「～ば」, 「～ない」
- 第 8 回 項目 活用 (2) 内容 「～て」, 機能
- 第 9 回 項目 ボイス (1) 内容 受動文
- 第 10 回 項目 ボイス (2) 内容 使役文
- 第 11 回 項目 人称 (1) 内容 人称を表すことば、文の種類
- 第 12 回 項目 人称 (2) 内容 「あげる」, 「くれる」, 「もらう」
- 第 13 回 項目 テンス (1) 内容 主文、従属文
- 第 14 回 項目 テンス (2) 内容 特殊な用法
- 第 15 回 項目 まとめ・展望 内容 問題点

成績評価方法(総合) (1) 毎回授業の最後にミニッツペーパーを課す。(2) 学期末にレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリント等を配布する。 / 参考書： 授業中に適宜指示する。

メッセージ 学校文法との違いを絶えず意識して欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べた場合の現代の日本語のあり方について考えていく。 / 検索キーワード 日本語の歴史、資料についての調査

授業の一般目標 資料を基に、日本語について歴史的に考えていく方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる。 関心・意欲の観点：歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる。

授業の計画（全体） 割り当てられた箇所についてのグループごとの発表、及び、それに対する討議という形で授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要、発表のグループ分け
- 第 2 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 ）
- 第 3 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 2 ）
- 第 4 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 3 ）
- 第 5 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 4 ）
- 第 6 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 5 ）
- 第 7 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 6 ）
- 第 8 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 7 ）
- 第 9 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 8 ）
- 第 10 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 9 ）
- 第 11 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 0 ）
- 第 12 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 1 ）
- 第 13 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 2 ）
- 第 14 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 3 ）
- 第 15 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 4 ）

成績評価方法（総合） 授業時の発表や討論への参加状況による。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本 恵一良				

授業の概要 授業の形式は、概ね演習形式で、あるテーマをもとに受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業の一般目標 国語科教育に関する内容について研究を進める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究分野に関する内容を理解することができる。 思考・判断の観点： 諸氏の論にあたり、考察を加えることができる。 関心・意欲の観点： 研究分野に関する文献研究、調査研究等にあたることができる。 態度の観点： 積極的に授業に参加し、発表することができる。 技能・表現の観点： 自己の考察をレポート等にまとめ、発表することができる。

授業の計画（全体） 文献研究、調査研究等

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育の授業である。授業の形式は、概ね演習形式で、あるテーマをもとに受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業の一般目標 国語教育の基礎論的研究。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育についての基礎的な知識を身につける。 思考・判断の観点：国語科教育について、基礎的な事柄について考えることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：まじめに取り組む事ができる。

授業の計画（全体） 国語科教育の基礎的な事柄について、発表し討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。

授業の一般目標 討議の場を通しながら、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。 関心・意欲の観点：日本語についての様々な問題に興味を持つことができる。 技能・表現の観点：他の受講生に自己の考えを伝えることができる。

授業の計画（全体） 受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 国語科教育の諸問題について検討する。授業は演習形式で行う。各人が行った発表をもとに、全員で自由に討議を加えて問題への理解を深めてゆく。

授業の一般目標 (1) 国語科教育の諸問題についての認識を深める。(2) 調査・資料収集の方法や問題解決の方法、レポートのまとめ方等の、研究の基本的な技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の諸問題について理解し、説明することができる。

思考・判断の観点：課題の問題点について、広い視野から論理的に考察することができる。 関心・意欲の観点：国語科教育の課題について関心を広げ、高い問題意識を持つことができる。 態度の観点：積極的に調査・研究活動に当たることができる。 技能・表現の観点：自己の見解や調査結果を、口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 国語科教育の諸問題について、ゼミ形式で発表・討議を繰り返し、理解を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 各自が担当する演習発表の内容および授業への参加状況に基づき、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：授業の中で随時紹介する。

メッセージ 問題意識をもって主体的に研究活動にあたってください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 漢文学の授業。授業の形式は概ね演習形式。受講生が自分でテーマを定め、発表し、それを受講生全員で討議する。 / 検索キーワード 主体的学習

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の調査する事柄について、必要最小限より以上の知識と理解を得ることができる。 思考・判断の観点：しかるべき根拠に基づきながら、穏当な思考と判断をすることができる。

授業の計画（全体）各自が研究テーマを設定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合）基本的には、発表内容をもとにして、主体的なテーマ設定や綿密な資料の調査、適切な資料の読解に基づく意見の提示がなされているかを総合的に評価する。

開設科目	国語特演 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸本 憲一良				

授業の概要 各指導教官の専門分野である国語学、国文学、漢文学、国語科教育の授業である。授業の形式は、概ね演習形式で、あるテーマをもとに受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育の授業である。授業の形式は、概ね演習形式で、あるテーマをもとに受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業の一般目標 国語科教育の基礎論的研究。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育についての基礎的知識を身につける。 思考・判断の観点：国語科教育について、基礎的な事柄について考えることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：毎回、まじめに取り組む事ができる。

授業の計画（全体） 国語科教育の基礎的な事柄について、発表し討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。国語特演 I を受けて、より詳細な分析を目指す。

授業の一般目標 討議の場を通しながら、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を進展させることができる。 関心・意欲の観点：日本語をめぐる様々な問題について興味を持つことができる。 技能・表現の観点：他の受講生に自己の考えを伝えることができる。

授業の計画（全体） 受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 国語科教育の諸問題を取り上げる。授業は演習形式で行う。全員で分担して発表し、自由に討議を加えて、課題への理解を深めてゆく。

授業の一般目標 (1) 国語科教育の諸問題についての理解を深める。(2) 研究の基本的技能を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の諸問題について理解し、あらましを説明できる。

思考・判断の観点：課題について広い視野から考察を加えることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育の諸問題について強い関心をもち、高い問題意識をもつことができる。 態度の観点：課題について積極的に調査し考察を加えることができる。 技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) ゼミ形式で、発表・討議を繰り返すことにより、国語科教育の諸問題についての理解を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 発表内容および授業への参加状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 参考書：各自の課題に応じて、随時紹介する。

メッセージ 意欲的に研究活動に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 漢文学の授業で、授業の形式は、概ね演習形式。受講生が自分でテーマを定め、発し、それを受講生全員で討議するという形をとる。 / 検索キーワード 主体的学習

授業の一般目標 前期の国語特演 I と同様に、各自設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自分の関心のある事柄について、必要最小限より以上の知識・理解を得ることができる。 思考・判断の観点： しかるべき根拠に基づいて、穏当な思考・判断をすることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを設定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進 状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、十分なテーマ掘り下げを促す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 基本的には、発表内容をもとにして、主体的なテーマ設定や綿密な資料の調査、適切な資料の読解に基づく意見の提示がなされているかを総合的に評価する。 価する。

開設科目	国語特演 II	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸本憲一良				

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古典文学についての知識を深める

授業の一般目標 具体的な古典文学作品を読解する

授業の計画（全体） 受講者の進展に合わせる

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 卒業論文の作成に向けての基礎論的研究。

授業の一般目標 国語科教育の基礎論的な研究ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育についての基礎論的な知識を身につける。 思考・判断の観点：国語科教育の基礎論的な事柄について考えることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：卒業論文に向けて、まじめに取り組むことができる。

授業の計画（全体） 演習形式で行い、一人の発表をもとに、全員で討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 3 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 4 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 5 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 6 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 7 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 8 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 9 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 10 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 11 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 12 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 13 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 14 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 15 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。国語特演 I・II を受けて、よりテーマを絞っていきながら考察を行う。

授業の一般目標 討議の場を通して、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことが出来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を進展させることができる。 関心・意欲の観点：日本語をめぐる様々な問題に興味を持つことができる。 技能・表現の観点：他の受講生に自己の考えを伝えることができる。

授業の計画（全体） 受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれに対する討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 国語科教育の諸問題について、ゼミ形式により発表・自由討議を経て理解を深めてゆく。 / 検索キーワード 国語科教育 俳文学

授業の一般目標 (1) 各自の卒業論文のテーマへの理解を深める。(2) 調査方法や問題解決の方法、論文の書き方、発表の仕方等の、研究の基本的技能を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の課題について、先行研究の概要を説明できる。 思考・判断の観点：課題について、多角的観点から深く考えることができる。 関心・意欲の観点：問題意識をもって主体的に課題に取り組む事ができる。 態度の観点：課題に積極的関心をもって意欲的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した研究テーマに応じて、具体的な指導を行う。ゼミ形式、或いは個別の指導により、論文を完成させることができるように指導してゆく。

成績評価方法(総合) 発表内容および授業への参加状況に基づき評価する。

教科書・参考書 参考書：各自のテーマに応じて随時紹介する。

メッセージ 問題意識をもって意欲的に研究活動に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。 / 検索キーワード 主体的な学習

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自分の関心事項について、最低限の知識・理解を得ることができる。 思考・判断の観点： しかるべき根拠に基づいて、穏当に思考し判断することができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進 状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 2 回 項目 "
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 基本的には、発表内容をもとにして、主体的なテーマ設定や綿密な資料の調査、適切な資料の読解に基づく意見の提示がなされているかを総合的に評価する。

開設科目	国語特論 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科教育の内容に関して、自己の研究テーマに沿って研究を進める。

授業の一般目標 自己の研究テーマに沿って、文献研究、調査研究等にあたり、考察することができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 諸氏の論をそのまま受け止めるのではなく、自分なりに考察を加えることができる。

授業の計画（全体） 研究成果をその都度発表し、協議する。

成績評価方法（総合） 出席、発表、レポート等により、総合的に評価する。

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古典文学についての知識を深める

授業の一般目標 具体的な古典文学作品を読解する

授業の計画（全体） 受講者の進展に合わせる

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 卒業論文の作成に向けての研究。

授業の一般目標 国語科教育についての実践的な研究ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育についての知識を身につける。 思考・判断の観点：国語科教育の基礎論的な研究について考えることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：卒業論文に向けて、積極的に取り組むことができる。

授業の計画（全体） 演習形式で行い、一人の発表をもとに、全員で討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 3 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 4 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 5 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 6 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 7 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 8 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 9 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 10 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 11 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 12 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 13 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 14 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する
- 第 15 回 項目 一人の発表をもとに、全員で討議する

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 国語特論 I を受け、各自の選んだテーマについて、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。

授業の一般目標 討議の場を通して、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことが出来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。 関心・意欲の観点：日本語をめぐる様々な問題に興味を持つことができる。 技能・表現の観点：他の受講生に自己の考えを伝えることができる。

授業の計画（全体）受講生の一人が発表し、それを受講生全員で討議するという形をとる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれに対する討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合）授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 卒業論文の作成にむけて、各自の設定したテーマに応じて、文献調査の方法・論文の書き方について指導を行う。 / 検索キーワード 国語科教育 俳文学

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して課題への理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめかた・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の課題の先行研究の概要を説明できる。 思考・判断の観点：課題について多角的観点から考察を加えることができる。 関心・意欲の観点：課題に強い関心をもち、問題意識をもって研究活動を行うことができる。 態度の観点：主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画（全体）各自が設定した研究テーマに応じて具体的な指導を行う。ゼミ形式あるいは個別の指導により、論文を完成できるように支援してゆく。

成績評価方法（総合）主体的なテーマ設定及び綿密な資料の読解に基づいて、自分なりの見解が提示されているかを評価する。

教科書・参考書 参考書：各自のテーマに応じて随時紹介してゆく。

メッセージ 主体的かつ意欲的に研究活動に携わってもらいたい。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。 / 検索キーワード 主体的な学習

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自分の関心事項について、発展的な知識・理解を得ることができる。 思考・判断の観点： しかるべき根拠に基づいて、発展的な思考・判断をすることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 "

成績評価方法（総合） 基本的には、発表内容をもとにして、主体的なテーマ設定や綿密な資料の調査、適切な資料の読解に基づく意見の提示がなされているかを総合的に評価する。

開設科目	国語特論 II	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科教育の分野において、各自が調査研究したことに考察を加えて発表し、討議する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 調査、研究したことをそのまま受け止めるのではなく、自分なりに考察を加える。

開設科目	国文学基礎講読	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代日本の主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解を深めようとするため、多くの小説を読んでレポートを提出することを要求するので、かなりハードな授業になる。

授業の一般目標 芸術作品を概念的に把握するための基本的契機である内容、素材、形式の相互関連を把握し、その歴史的 position と特性を理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 芸術作品を把握するための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点： 文学作品を、内容、素材、形式の相互関連において分析できる。 技能・表現の観点： 文学作品を分析的に把握し、レポートで表現することができる。

授業の計画（全体） 作品分析の前提となる基本的知識を説明し、その事例を具体的な作品分析を通じて例示、検証する。レポートを課し、理解状況を確認、評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小説読解の基礎
- 第 2 回 項目 本居宣長
- 第 3 回 項目 明治 20 年代 1
- 第 4 回 項目 明治 20 年代 2
- 第 5 回 項目 自然主義 1
- 第 6 回 項目 自然主義 2
- 第 7 回 項目 夏目漱石
- 第 8 回 項目 森 鷗外
- 第 9 回 項目 白樺派 1
- 第 10 回 項目 白樺派 2
- 第 11 回 項目 プロレタリア文学 1
- 第 12 回 項目 プロレタリア文学 2
- 第 13 回 項目 新感覚派 1
- 第 14 回 項目 新感覚派 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポート = 50 % 期末レポート = 50 %

開設科目	国文学概論 (国文学史を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古事記神話を題材にして、叙事文学としての文学の発生を概説する。

授業の一般目標 古代における文学のあり方を認識する。

授業の計画(全体) 古事記神話のトピックを順番に解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 神話の見方 内容 古事記神話の形成について、原神話から古事記編纂までの過程を見る
- 第 2 回 項目 神話の構成 内容 三巻から成立している意味と祭祀の始原としての神話の意味を考える
- 第 3 回 項目 神話の始原 内容 神話の意味と成り立ちを考える
- 第 4 回 項目 イザナギの黄泉国訪問 内容 具体的な神話の第 1 番目としてイザナギの黄泉国訪問神話を取り上げ、その意味を考える
- 第 5 回 項目 天の岩戸 内容 アマテラスの岩戸隠れ神話について、その意味を考える
- 第 6 回 項目 八俣の大蛇退治 内容 スサノヲの八俣の大蛇退治の意味を考える
- 第 7 回 項目 イナバの白ウサギ 内容 有名なイナバの白ウサギの神話について、その意味を考える
- 第 8 回 項目 国作り 内容 オオクニヌシとスクナヒコナの国作り神話を取り上げ、出雲神話について考察する
- 第 9 回 項目 国譲り(アメワカヒコの失敗) 内容 国譲りのプロローグとして、アメワカヒコ神話を見て、その意味を考える
- 第 10 回 項目 国譲り 内容 建御雷による国譲り神話について、出雲神話と高天原神話の関係をとらえる
- 第 11 回 項目 天孫降臨(クライマックス) 内容 天孫降臨神話の意味と大和朝廷との関係を考える
- 第 12 回 項目 ホヲリ命の海宮訪問 内容 日向神話として山幸が海宮訪問譚の意味を考える
- 第 13 回 項目 イワレヒコの東征 内容 神倭イワレヒコが熊野経由で大和に入る意味を考え、初代神武天皇想定在意図をとらえる
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 高天原神話の意味と大和朝廷との関係をとらえなおし、神話の意味や古事記編纂の意図を考える
- 第 15 回

開設科目	国文学講読 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 国文学を理解していく上での基礎的な概念を習得する。今回は万葉集をテーマにする。 / 検索キーワード 源氏物語、若紫

授業の一般目標 日本文学の根幹である上代文学を取り上げ、基本的な古典の「読み」や理解を深める。

授業の計画(全体) 源氏物語の「若紫」巻を通読する。

メッセージ 源氏物語「若紫」巻を読みます。

開設科目	国文学講読 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 芭蕉や門人の談話を門人が筆録した、蕉風の俳論書『去来抄』を読んでいく。『去来抄』は、具体例に即したわかりやすい論の展開が、単なる俳論の域を超えて、文学論・芸術論としても普遍性を獲得しているすぐれた評論作品である。芭蕉と門人たちの、人間味あふれる交流の様相を伝える貴重な資料でもある。戦後の高等学校古典教科書に採録されることも多い代表的な古典の評論教材の一つ。/ 検索キーワード 去来抄、芭蕉、蕉風俳論

授業の一般目標 (1) 芭蕉の俳諧観および日本の伝統的な文学観を知る。(2) 評論としての特色や論理構造を理解する。(3) 古典文学研究の基礎的技法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 芭蕉の俳諧観・芸道観について、あらましを説明することができる。思考・判断の観点: 1 テキストを読み、考察を加え、自己の見解をまとめることができる。

関心・意欲の観点: 1 日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。

態度の観点: 1 日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。

技能・表現の観点: 1 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 最初に基本的事項を解説した後、全員で分担して演習形式で作品を読んでゆく。授業の終わりには、毎時自分で見出した問題点についてまとめた課題シートを提出する。質問や優れた見解については次回に紹介し、解説を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概要 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 「去来抄」概説 内容 概説
- 第 3 回 項目 基本的事項の解説 内容 概説
- 第 4 回 項目 「去来抄」を読む 内容 発表・解説
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験の成績 (2) 毎回、授業時に提出する課題シートの状況 (3) 出席状況 なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 『去来抄』(山下一海編・おうふう) / 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 主体的に問題意識をもって授業に参加することを望む。

連絡先・オフィスアワー mf26023@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国文学講読 III	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 日本の近代小説の中から、夏目漱石、森鷗外、谷崎潤一郎、井伏鱒二、太宰治等の作品を選び、受講生諸君の解釈や討議を踏まえて、作品と作家の特質を探求する。

授業の一般目標 小説の客観的分析と主体的把握を両立させ、小説を深く解釈鑑賞する態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小説分析のための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点：小説の意味を客観的に分析するとともに、主体的問題意識と重ねて把握する思考態度を身につける。

技能・表現の観点：自分の作品解釈や感動を口頭やレポートで表現する力を身につける。

授業の計画（全体）なるべく多様な作家と作品を取り上げて、各々の特質を理解できるよう、配慮したい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 作品 1
- 第 3 回 項目 作品 1
- 第 4 回 項目 作品 1
- 第 5 回 項目 作品 2
- 第 6 回 項目 作品 2
- 第 7 回 項目 作品 2
- 第 8 回 項目 作品 3
- 第 9 回 項目 作品 3
- 第 10 回 項目 作品 3
- 第 11 回 項目 作品 4
- 第 12 回 項目 作品 4
- 第 13 回 項目 作品 4
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）宿題 / レポートと授業態度や授業への参加を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：テキストは授業の中でそのつど指示する。

開設科目	国文学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 枕草子を丹念に読んでいく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 2 段
- 第 2 回 項目 第 2 段
- 第 3 回 項目 第 5 段
- 第 4 回 項目 第 5 段
- 第 5 回 項目 第 8 段
- 第 6 回 項目 第 8 段
- 第 7 回 項目 第 1 0 段
- 第 8 回 項目 第 1 0 段
- 第 9 回 項目 第 1 1 段
- 第 10 回 項目 第 1 1 段
- 第 11 回 項目 第 1 5 段
- 第 12 回 項目 第 1 5 段
- 第 13 回 項目 第 1 8 段
- 第 14 回 項目 第 1 8 段
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	国文学演習 II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 代表的古典文学作品の一つ『おくのほそ道』を読んでゆく。中学・高校の教科書に採録されることの多い章段を中心に、旅立ちから最終章までを見てゆく。はじめに芭蕉の人と作品や、数種類のテキスト(諸本)について概説し、次いで章段を分担して演習発表を行う。先行文献を比較参照し、問題点を洗い出して考察を加え、資料を作成して分かりやすく発表し、討議・批評を加える一連の学習を通じて、古典文学研究の基礎的技能の体得を図る。/ 検索キーワード 『おくのほそ道』、芭蕉、紀行文、俳文

授業の一般目標 (1) 『おくのほそ道』の作品・作者・時代背景などについて知るとともに、紀行文としてのユニークな特質と魅力を理解する。(2) 古典文学を研究する際の基礎的技法を習得する。(3) 生涯にわたって古典文学に親しむ態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 作品や作者について理解を深める。2 近世の俳諧や俳文について理解を深める。3 本文競合の重要性を理解する。思考・判断の観点: 1 作品の特質や問題点を指摘し、自分の見解を論理的に述べるができる。関心・意欲の観点: 1 古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。態度の観点: 1 問題意識をもって作品研究に取り組むことができる。技能・表現の観点: 1 考察した結果を口答や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) はじめに講義形式により解説を加えた後は、全員で章段を分担し、演習形式により発表を行う。主体的に授業に参加し、問題点を見出して考察を加え、適切に表現する技能を身につけるために、積極的に発言することを求める他、授業の終わりには毎回、自分で見出した問題点や疑問についてまとめたシートを提出してもらう。優れたものについては、次回の授業時に紹介し、適宜、寸評や解説を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概要 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 「おくのほそ道」概説 内容 基本事項の解説
- 第 3 回 項目 芭蕉概説 内容 基本事項の解説 授業外指示 発表担当者に具体的に指示する。
- 第 4 回 項目 演習発表 内容 発表・質疑応答・補足説明等 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験の成績 (2) 演習発表および授業への参加状況 (3) 授業中に毎回提出するシートの状況 なお、出席が所定の回数に満たない場合は、単位を取得できない。

教科書・参考書 教科書: おくのほそ道(岩波文庫), 芭蕉[著]; 萩原恭男校注, 岩波書店, 2002年 / 参考書: 授業中に文献リストを配布する。

メッセージ 作品全体を通読しておいてください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国文学演習 III	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 日本の近代小説から幾つか作品を選び、それについての討議を中心に授業を進める。学生諸君が自らの解釈をもとに、主体的積極的な姿勢で授業に参加してくれることを求める。

授業の一般目標 客観的な作品分析をもとにして、小説が表現していることを正確に把握する力を養うとともに、それが読者である自分自身にとってもつ意味を主体的に受け止める姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 小説分析のための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点： 小説の意味を客観的に分析するとともに、主体的問題意識と重ねて把握する思考態度を身につける。 技能・表現の観点： 自分の解釈や感動を口頭やレポートで表現する力を身につける。

授業の計画（全体） なるべく多様な作家と小説を取り上げて、その中で各々の特質を理解できるよう配慮したい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 作品 1
- 第 3 回 項目 作品 1
- 第 4 回 項目 作品 2
- 第 5 回 項目 作品 2
- 第 6 回 項目 作品 3
- 第 7 回 項目 作品 3
- 第 8 回 項目 作品 4
- 第 9 回 項目 作品 4
- 第 10 回 項目 作品 5
- 第 11 回 項目 作品 5
- 第 12 回 項目 作品 6
- 第 13 回 項目 作品 6
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 作品毎に提出するレポートの他、授業参加の意欲や積極性を評価する。

開設科目	国文学特講	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林恒徳				

授業の概要 600年余りにわたって、現代に至るまで受け継がれて来た中性演劇のひとつ「狂言」をとりあげる。出来る限り、具体的に作品を解説することに主眼を置き、その上で、時代による変化に注意し、狂言の現代的意義についても考えてゆく。 / 検索キーワード 笑劇 中世

授業の一般目標 1) 狂言台本に触れることによって、中世的言語表現に親しむ。 2) 狂言の魅力を知り、舞台表現一般への関心を深める。

授業の計画(全体) 初めに、狂言の成立、流動的から固定化する情況、流派などについて簡単に触れて、その後、「作品の分類」を解説し、それに基づいて、具体的に作品を考察する。適宜、映像を利用する予定。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 狂言の成立 内容 狂言成立の歴史を主として台本の問題を考察する。 授業記録 資料「各流派の主要台本」配布
- 第 2 回 項目 狂言の現在 内容 流派、新作狂言、鑑賞する人との広がりなどについて紹介する。
- 第 3 回 項目 狂言作品の分類 内容 作品を6つに分類しそれぞれについて概説する。 授業記録 資料「分類表」配布
- 第 4 回 項目 狂言作品の分類 内容 作品を6つに分類しそれぞれについて概説する。
- 第 5 回 項目 脇狂言 内容 「未広がり」「福の神」など、適宜、本文(台本)に触れつつ、展開する。
- 第 6 回 項目 大小名狂言 内容 「萩大名」「武悪」など 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 7 回 項目 大小名狂言 内容 「靉猿」「素袍楽」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 8 回 項目 髻女狂言 内容 「鏡男」「釣針」
- 第 9 回 項目 髻女狂言 内容 「二人袴」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 10 回 項目 鬼山伏狂言 内容 「神鳴」「朝比奈」 授業記録 資料配布 台本(「天正本」「虎實本」「狂言六義」など)
- 第 11 回 項目 鬼山伏狂言 内容 「蟹山伏」「蝸牛」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 12 回 項目 出家座頭狂言 内容 「宗論」「月見座頭」
- 第 13 回 項目 集狂言 新作狂言 内容 集狂言(上のどれにも属さない作品)について簡単に触れる。新作狂言は映像を鑑賞する。
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法(総合) 期末テストによって評価するが、時間がとれれば小テストをいちど行いたい。

教科書・参考書 参考書: 能・狂言(全八巻), , 岩波講座

開設科目	国語実習	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育に関連した課題を設定して、実地調査を行う。調査計画立案・調査票作成など、調査に関するすべての必要事項を受講生全員の話し合いにより計画する。その後、実際に現地に調査に出かけ、報告書をまとめる。日程は、おおよそ2泊3日。11月下旬に実施されることが多いが、詳細は話し合いで決定する。 / 検索キーワード 実地調査

授業の一般目標 研究課題を設定し、実地調査を体験することによって、研究の仕方を身につけ、研究への関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題に関する基礎知識を得る。 思考・判断の観点：課題に関して得た基礎知識と実際に行った調査の比較検討をする。 関心・意欲の観点：調査を行おうとする関心・意欲を示す。 態度の観点：進んで調査地で資料収集や聞き取りをすることができる。 技能・表現の観点：調査結果を口頭や文章にまとめることができる。

授業の計画(全体) 受講者全員の話し合いにより具体的計画を立て、実地調査を実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 調査方法の解説
- 第3回 項目 課題設定
- 第4回 項目 調査内容の検討
- 第5回 項目 現地調査準備(1)
- 第6回 項目 現地調査準備(2)
- 第7回 項目 現地調査準備(3)
- 第8回 項目 現地調査準備(4)
- 第9回 項目 現地調査等(1)
- 第10回 項目 現地調査等(2)
- 第11回 項目 現地調査等(3)
- 第12回 項目 調査報告(1)
- 第13回 項目 調査報告(2)
- 第14回 項目 調査報告(3)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 報告書及び調査活動への参加状況により評価する。

メッセージ 事前に周到な計画を立て、主体的に実地調査を実施してください。

連絡先・オフィスアワー hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	漢文学講読	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史に関わる古典をいくつか選択して、漢文訓読法を講じつつ、出席者全員で丁寧に読解する。 / 検索キーワード 漢文訓読法、説話

授業の一般目標 (1) 精確な漢文訓読・現代日本語訳を行うための知識・技術を養う。そのために、まずは漢和辞典を何遍も引く習慣を身につけるようにする。(2) 中国古代の物の考え方や価値観についての関心・教養を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 適度な訓読の力を備え、文章を精確に理解しているか。 思考・判断の観点： 文章に説かれる内容を、その内容に即しつつ、自分なりの批判・評価ができるか。

授業の計画(全体) 1 ガイダンス 2～3 テキスト読解の仕方の解説 4～15 テキストの読解テキストの読解に当たっては、予習の段階で、書き下し文とその現代日本語訳とを用意してもらうが、レジメを提出してもらうか口頭発表によるかは、受講者の人数を勘案して決めたい。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキストの読解の仕方の解説
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 テキストの読解・解説
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。

教科書・参考書 教科書： テキスト用のプリントを授業中に配布する。 / 参考書： 授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を有効に使えるよう、訓練する習慣をつけたい。

連絡先・オフィスアワー hidekiko@yamaguchi-u.ac.jp 4階・漢文学研究室 11:50 より 12:50 まで、及び課外の時間。

開設科目	漢文学概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史にわたる重要典籍を紹介・概説していく。/ 検索キーワード 中国の文学・思想・歴史

授業の一般目標 中国古代の物の考え方や価値観について、関心・教養を深めるとともに、それを自分なりに評価・批評できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：概説した事柄について、的確な知識・理解を得る。 思考・判断の観点：提示された文章ないし問題について、論理的に考えることができる。

授業の計画(全体) 初回は授業全体の概要を説明し、2回目以降は、漢文資料を適宜取り上げながら、文学・思想・歴史のいずれかに関わる事柄について、順を追って概説していく。できれば、その後、文章の理解や、提示した問題について、意見を求める機会を持ちたい。

成績評価方法(総合) 基本的には学期末に提出してもらったレポートの評価によるが、場合により、授業期間内に小レポートを書いてもらうことも考えている。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料(プリント)を配付する。/ 参考書：授業中に紹介する。

開設科目	漢文学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史の領域にわたる漢文資料のなかから、興味深いと思われる資料を取り上げ、これを担当制により読み進める。

授業の一般目標 漢文資料の読解力の向上をめざす。併せて、レジメを作成しそれを発表・討議することを通して、漢文資料を精読するための方法を得ることを目的とする。従って、受講生全員が事前に予習してくることが肝要なこととなる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発表に際して、資料読解に必要な情報を知識として得、それを十分に理解しているか。 思考・判断の観点：発表に際して、資料に対する自分なりの十分な思考が展開できているか。 態度の観点：発表に際して、十分な調査を行っているか。

授業の計画(全体) 1. ガイダンス 2回から15回 担当者によるレジメの発表 本授業での発表は、基本的に担当制による。ついでに、訓読・語注・試訳・考察を内容とするレジメを作成してもらうことにしたい。 演習に用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

成績評価方法(総合) 基本的には、授業期間内におけるレジメ発表及び他者の発表に対する討議・検討の姿勢を勘案して行う。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストをプリントして配布する。 / 参考書：授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を一冊用意し、漢文の読解においてこれを適切に活用できるよう訓練して欲しい。

開設科目	書道 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書について学習する。(用筆法、基本点画、結体) 楷書を習うことによって技術の修得を計
る。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 楷書の技術を高める。書写の指導力を身につける。

授業の計画(全体) 用筆法、基本点画、結体について 実技指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楷書について
- 第 2 回 項目 姿勢、執筆、用筆法 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 3 回 項目 結体法、配字 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 4 回 項目 横画、縦画 内容 半紙に練習
- 第 5 回 項目 転折、はね 内容 半紙に練習
- 第 6 回 項目 点法、はらい 内容 半紙に練習
- 第 7 回 項目 「空雲」を書く 内容 半紙に練習
- 第 8 回 項目 「風光」を書く 内容 半紙に練習
- 第 9 回 項目 「遠近」を書く 内容 半紙に練習
- 第 10 回 項目 筆順について 内容 ミニテスト、半紙練習
- 第 11 回 項目 「天地和同」を書く 内容 半紙に練習
- 第 12 回 項目 「竹聲松影」を書く 内容 半紙に練習
- 第 13 回 項目 「登山臨水」を書く 内容 半紙に練習
- 第 14 回 項目 「玉雪開花」を書く 内容 半紙に練習
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 提出作品を評価する。

開設科目	書道 II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書のいろいろな字を練習。字配り、大きさに気をつけて5～6字を一紙にまとめることに習熟する。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 正しく整った楷書が美しく書けることと、いろいろな字面の言葉を紙面に調和よく収めることができる力を身につける。

授業の計画(全体) 実技を主として毎回楷書5～字を手本によって半紙に練習する。清書一枚を提出。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古典文学についての卒業論文作成のための指導 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 コンテンツの調べ方、論文の書き方が出来るようにする

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：論理的な思考と説明

授業の計画(全体) 受講者の進展に合わせる

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	村上林造				

授業の概要 (1) 障害のある人たち(知的障害・LD・ADHD・自閉症・アスペルガー障害など)の保護者、教師等に対する支援プログラムを検討した先行研究についてレビューを行う。(2) 具体的支援計画(研究計画)の立案・実行及びデータ収集を行う。(3) データの整理と論文執筆を行う。/ 検索キーワード 障害児心理学 支援プログラム

授業の一般目標 (1) 障害児心理学における先行研究についてのレビューを行い、これまでの研究の流れをおさえる。(2) 障害児心理学の立場からの具体的支援(指導技法)について習得する。(3) 支援計画(研究計画)の立案・実行及びデータ収集などの際に障害児心理学における倫理・哲学などについてもあわせて学習する。

授業の計画(全体) 障害児心理学における研究動向を把握したうえで、主に発達障害のある人たちやその保護者等への支援を行い、その結果をまとめる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 先行研究のレビュー(1)
- 第2回 項目 先行研究のレビュー(2)
- 第3回 項目 先行研究のレビュー(3)
- 第4回 項目 先行研究のレビュー(4)
- 第5回 項目 先行研究のレビュー(5)
- 第6回 項目 研究計画の立案(1)
- 第7回 項目 研究計画の立案(2)
- 第8回 項目 研究計画の立案(3)
- 第9回 項目 研究計画の立案(4)
- 第10回 項目 研究計画の立案(5)
- 第11回 項目 計画実行・データ収集(1)
- 第12回 項目 計画実行・データ収集(2)
- 第13回 項目 計画実行・データ収集(3)
- 第14回 項目 計画実行・データ収集(4)
- 第15回 項目 計画実行・データ収集(5)
- 第16回 項目 計画実行・データ収集(6)
- 第17回 項目 計画実行・データ収集(7)
- 第18回 項目 計画実行・データ収集(8)
- 第19回 項目 計画実行・データ収集(9)
- 第20回 項目 計画実行・データ収集(10)
- 第21回 項目 計画実行・データ収集(11)
- 第22回 項目 計画実行・データ収集(12)
- 第23回 項目 計画実行・データ収集(13)
- 第24回 項目 計画実行・データ収集(14)
- 第25回 項目 計画実行・データ収集(15)
- 第26回 項目 データの整理・論文執筆(1)
- 第27回 項目 データの整理・論文執筆(2)
- 第28回 項目 データの整理・論文執筆(3)
- 第29回 項目 データの整理・論文執筆(4)
- 第30回 項目 データの整理・論文執筆(5)

成績評価方法(総合) 先行研究のレビュー、研究計画の立案・実行、結果のまとめなど一連の過程を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：応用行動分析入門, 山本淳一ほか, 学苑社, 1997年; ADHD・LD問題行動対応マニュアル, 長澤正樹ほか, 川島書店, 2005年; LD・ADHDひとりのできる力を育てる, 長澤正樹ほか, 川島書店, 2003年

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについての先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマに関する様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、資料収集・調査の方法、問題点の見出し方・検討・考察の仕方、論文のまとめ方等について指導する。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 卒業論文の作成を通じて、研究の基本的技能を修得し、問題解決の方法や発表・批評の仕方を体得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1, 各自の研究テーマに関して、先行研究の概要を説明できる。 2, 研究テーマに関して、現状における問題点を指摘できる。 思考・判断の観点： 1, 各自の研究テーマについて、調査結果に基づき、自らの見解をわかりやすく論理的に述べる事ができる。 関心・意欲の観点： 1, 各自のテーマに強い興味・関心をもって研究に携わることができる。 態度の観点： 1, 各自のテーマに強い興味・関心をもって積極的に研究に携わることができる。 技能・表現の観点： 1, 各自の調査・考察の結果を的確にまとめ、効果的に表現することができる。

授業の計画(全体) ゼミ形式により、卒業論文の完成に向け、支援を行ってゆく。研究の進捗状況に応じて随時、具体的な助言や指導を行う。

成績評価方法(総合) 提出された卒業論文により評価する。

教科書・参考書 参考書： 各自の研究テーマに応じて随時、紹介する。

メッセージ 主体的に研究に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	南部英彦				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。 / 検索キーワード 主体的な学習

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマにそれを考える材料を、主体的に読解・理解できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 主体的なテーマ設定及び綿密な資料の読解に基づいて、自分なりの見解が提示されているかを評価する。

社会科教育選修

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	荒木				

授業の概要 学生の関心事項を尊重しつつ、卒論指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文の作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した卒業論文のテーマに関する、先行研究を十分にふまえ、問題点を認識する。 思考・判断の観点： 卒業論文において、明確な論旨の展開ができているか。 技能・表現の観点： 適切な図表や文章表現を体得しているか。また、卒業論文のテーマに則した地理的な技法、調査法が身に付いているか。

授業の計画(全体) 個別に卒論作成計画を作成し、それに基づいて指導する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	岩崎				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	岩本				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	貞方				

授業の概要 卒業論文作成を指導する。 / 検索キーワード 卒業論文作成

授業の一般目標 卒業論文を作成するための文献収集方法、調査方法、論文作成作法を指導する。

授業の計画(全体) 各卒業論文の目的と内容に応じて、その都度、段階的に、論文作成に向けた指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文作成の経過と成果を総合的に判断し、評価する。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	外山				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 法学の基本的な問題について考察を発展させ、論文を完成させる。

授業の一般目標 法学的思考を身につけた上で、論理を展開させる。

授業の計画(全体) 学生の報告に基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 報告内容及び研究成果の出来によって評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	森下				

授業の概要 受講者の関心にしたがって演習形式で行う

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山本				

授業の概要 社会学の理論および分析枠組みを用いながら、学生各自が自分で決めたテーマに従って卒業制作に取り組む。参加者は毎回の授業で報告を行なう。

授業の一般目標 社会学の理論および分析枠組みを用いながら、学生各自が自分で決めたテーマに従って調査、データ収集・分析を行ない、卒業論文を作成する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	吉川				

授業の概要 卒業研究に関する指導を行う。

授業の一般目標 卒業研究として、問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 技能・表現の観点：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げる ことができる。

授業の計画(全体) 毎回到わり、卒業研究に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。

成績評価方法(総合) 完成した論文に対して評価を行う。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	教科教育法社会	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 小学校社会科のすぐれた実践に学びつつ、集団で教材研究および地域調査を行い、子どもたちが楽しく学ぶ地域教材を作成し、社会科授業案を作成する。 / 検索キーワード 授業づくり 地域調査 教材研究

授業の一般目標 1. 関心のある題材を選び、地域調査や教材研究をすることができる。 2. その上で、たのしくわかる地域学習資料集および社会科学習指導案を作成し、CDにまとめる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域調査、教材研究を通じて、選択した教材の本質をつかむ 思考・判断の観点： 子どもが主体的に学ぶ社会科授業を構想できる 技能・表現の観点： 地域調査や教材研究の技法を学ぶ

授業の計画(全体) 小学校社会科3～6年の設定された題材から一つを選び、地域調査、教材研究を通して、子どもが主体的に学ぶ社会科授業用の地域学習資料集・社会科学習指導案をつくる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義計画の説明
- 第2回 項目 地域学習資料集の紹介 内容 地域学習と地域教材
- 第3回 項目 グループの結成と題材の選択 内容 グループの結成と題材の選択
- 第4回 項目 すぐれた実践の紹介 内容 実践事例の紹介と検討
- 第5回 項目 地域教材の検討 内容 平川の自然・歴史・暮らし
- 第6回 項目 小学校社会科授業の実際1 洲山喜久江 農業 内容 地域にねざした社会科学習
- 第7回 項目 小学校社会科授業の実際2 山田直明 内容 地域にねざした社会科学習
- 第8回 項目 地域調査の報告と検討 1 内容 各グループの発表
- 第9回 項目 地域調査の報告と検討 2 内容 各グループの発表
- 第10回 項目 地域教材について 内容 地域教材の意義と可能性
- 第11回 項目 地域教材の作成と報告 1 内容 各グループの発表
- 第12回 項目 地域教材の作成と報告 2 内容 各グループの発表
- 第13回 項目 地域学習資料集の作成に向けて 内容 各グループの地域教材の加筆修正
- 第14回 項目 地域学習資料集の完成 内容 編集とCDの作成
- 第15回 項目 まとめ 内容 感想

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート = 20～40% 宿題 / 授業外レポート = 40～60% 授業態度や授業への参加度 = 20%未滿

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木5 6

開設科目	教科教育法社会	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 小学校社会科の授業分析と授業構成を通して、社会科授業の分析と創造の技量を身につけることを目的とする。受講学生による作業、資料作成、発表、相互批評を中心に演習形式を取り入れて行う。

授業の一般目標 1. 小学校社会科の教科観に関して、一定の見解をもつことができる。 2. 任意の題材から教材研究を経て、一定の学習内容を構想し、それに対応して一定の学習過程を構想することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している・社会科の意義と目標・小学校地域学習、産業学習、歴史学習における現行カリキュラムの論点・内容構成・単元構成 思考・判断の観点：小学校社会科の指導計画に関する資料に対し、社会科教育としての視点から考察することができる。態度の観点：毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点：小学校社会科の内容に適した教材研究を行うことができる。・教材研究の成果に基づき、小学校社会科の指導計画を立案することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小学校社会科の現状と課題 内容 小学校社会科をとりまく状況と諸問題
- 第 2 回 項目 小学校社会科の意義と目標 内容 社会科の教科原理
- 第 3 回 項目 小学校社会科地域学習の検討と分析（1） 内容 中学年の社会科地域学習の概念
- 第 4 回 項目 小学校社会科地域学習の検討と分析（2） 内容 社会科と公共性概念
- 第 5 回 項目 小学校社会科産業学習の検討と分析 内容 小学校産業学習・国土学習の考え方
- 第 6 回 項目 小学校社会科歴史学習の検討と分析 内容 小学校歴史学習の考え方
- 第 7 回 項目 小学校社会科の内容構想 内容 社会科内容構成論
- 第 8 回 項目 小学校社会科授業の学習過程構想 内容 社会科学学習の方法原理
- 第 9 回 項目 小学校社会科の単元構成 内容 単元構成の考え方
- 第 10 回 項目 小学校社会科の単元構成案検討（1） 内容 単元構成演習 1
- 第 11 回 項目 小学校社会科の単元構成案検討（2） 内容 単元構成演習 2
- 第 12 回 項目 小学校社会科の授業構成と資料作成 内容 教材構成と学習指導論
- 第 13 回 項目 小学校社会科の授業構成案検討（1） 内容 学習指導案演習 1
- 第 14 回 項目 小学校社会科の授業構成案検討（2） 内容 学習指導案演習 2
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法（総合） 出席点、小レポート、最終レポートを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない / 参考書：社会認識教育学会編『初等社会科教育学』学術図書出版

メッセージ グループによる活動がかなりの部分を占めるので、協力すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	社会科教育学 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 生徒が主体的に学ぶ社会科授業実践に触れたのちに、生徒が関心を持つ題材を取り上げながら、中学生向けの読み物冊子を作り上げ、それを活用した授業案をまとめる。 / 検索キーワード 中学校社会科 カリキュラムの自主編成 授業づくり

授業の一般目標 1 . すぐれた実践に触れ、生徒が主体的に学ぶ社会科授業のポイントを学ぶことができる。 2 . 中学生が興味を持つテーマで、メッセージ性のある読み物冊子を創ることができる。 3 . 冊子に対応した授業案をまとめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中学校社会科の教材づくり、授業づくりのポイントを理解する
思考・判断の観点：生徒が主体的に学ぶ社会科授業案を作成できる。 技能・表現の観点：小冊子、授業案を簡潔に紹介できる。

授業の計画（全体） 中学校社会科教育の現状を知り、その中で生徒が主体的に学ぶ授業をつくっているすぐれた実践に学ぶ。各学生は関心のあるテーマを選び、教材研究をした上で、中学生向けの読みもの冊子をつくる。授業案も提案する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 社会科教育の現状と問題点
- 第 3 回 項目 授業づくりのしくみ
- 第 4 回 項目 中学校地理の授業
- 第 5 回 項目 中学校歴史の授業
- 第 6 回 項目 中学校公民の授業
- 第 7 回 項目 中学校社会科授業の実際
- 第 8 回 項目 気になる題材・単元 中間発表 1
- 第 9 回 項目 期になる題材・単元 中間発表 2
- 第 10 回 項目 授業づくりの構造と授業案の書き方
- 第 11 回 項目 小冊子の発表と検討 1
- 第 12 回 項目 小冊子の発表と検討 2
- 第 13 回 項目 授業案の作成作業と検討
- 第 14 回 項目 授業案の完成と解説
- 第 15 回 項目 まとめ

連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	社会科教育学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、「新学習指導要領案を作成する」ことを通じて検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科 50 年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標 1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。 2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 以下の概念を理解している ・総合社会科 分化社会科 ・認識形成 態度形成 思考・判断の観点： 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる 態度の観点： 毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点： カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 いま社会科で何が問題か 内容 学校社会科教育 をとりまく状況
- 第 2 回 項目 社会科で教える 内容は誰が決めているか 内容 社会科における「内容」の概念
- 第 3 回 項目 社会科の「内容」をめぐって 何が問題になってきたか 内容 「総合的」な社会の学びか、「分科的」な社会の学びか
- 第 4 回 項目 社会科は子どもが「どう」なることをめざすのか 内容 社会科において「目標」とは何か
- 第 5 回 項目 社会科は子どもに、何をどのように「わからせて」いるか 内容 社会科の認識原理は何か
- 第 6 回 項目 社会科は「積み上げる」教科か、「ひっくり返す」教科か 内容 社会科のカリキュラム構成原理
- 第 7 回 項目 小学校の社会科はどのように構成されるべきか 内容 小学校児童にとって「社会」とはどういうものなのか
- 第 8 回 項目 中学校「地理的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「地理的分野」の内容はこれでよいか
- 第 9 回 項目 中学校「歴史的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「社会科歴史」の存在とその意味
- 第 10 回 項目 中学校「公民的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「公民的分野」の成立根拠
- 第 11 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（1） 内容 現行学習指導要領をめぐる論点と課題の整理
- 第 12 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（2） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（1）
- 第 13 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（3） 内容 「20XX 年版」学習指導要領の構想・発表・検討（2）
- 第 14 回 項目 社会科で身につける「学力」とはどのようなものか 内容 社会科評価論の現状と課題
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

教科書・参考書 教科書： 特に定めない 随時資料配付 / 参考書： 社会科重要語 300 の基礎知識（重要語 300 の基礎知識；4）、森分孝治、片上宗二編集、明治図書出版、2000 年；社会科教育学ハンドブック：新しい視座への基礎知識、社会認識教育学会編、明治図書出版、1994 年；『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当
学生に連絡

開設科目	社会科教育学 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 社会科教育の当面する課題を押さえ、これからのあり方を実践的に検討する。 自動・生徒の実態に即した、一人一人の社会認識を育てる社会科授業づくりについて深める。

授業の一般目標 (1) 中学校を中心とした社会科の実践を「子どもの学び」の視点から分析する。(2) 社会科の学力とは何か検討し、これからの中学校社会科の授業づくりを深める。

授業の計画(全体) (1) すぐれた社会科実践に学ぶ (2) 社会科教育の課題 (3) 社会科の授業作りの実際 (4) これからの社会科教育を考える(社会科の教育課程を創る) (5) まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会科の現状 1
- 第 2 回 項目 社会科の現状 2
- 第 3 回 項目 社会科の現状 3
- 第 4 回 項目 社会科の課題 1
- 第 5 回 項目 社会科の課題 2
- 第 6 回 項目 新しい授業づくりの検討 1
- 第 7 回 項目 新しい授業づくりの検討 2
- 第 8 回 項目 新しい授業づくりの検討 3
- 第 9 回 項目 新しい授業づくりの提案 1
- 第 10 回 項目 新しい授業づくりの提案 2
- 第 11 回 項目 新しい授業づくりの提案 3
- 第 12 回 項目 これからの社会科を考える 1
- 第 13 回 項目 これからの社会科を考える 2
- 第 14 回 項目 これからの社会科を考える 3
- 第 15 回 項目 まとめ

メッセージ 新しい社会科をどう創るかについて熱い議論をしたい。

開設科目	中等地理歴史教育論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を 1 つ取り上げ、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表・検討する。

授業の一般目標 1 . 中等地理・歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。 2 . さまざまな地理・歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している。・社会科歴史 社会科地理・内容構成・単元構成・教材構成 思考・判断の観点：地理・歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：地理・歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史教育概論 (1) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (1) - 中学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 2 回 項目 地理・歴史教育概論 (2) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (2) - 高等学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 3 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (1) 内容 教育実習における地理・歴史授業の分析
- 第 4 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (2) 内容 地理・歴史授業のための教材研究と内容構成
- 第 5 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (3) 内容 教材研究と単元計画
- 第 6 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (1) 内容 単元計画の検討 (1)
- 第 7 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (2) 内容 単元計画の検討 (2)
- 第 8 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (3) 内容 単元計画の検討 (3)
- 第 9 回 項目 地理・歴史授業における学習指導 内容 学習指導案の書式と構成
- 第 10 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (1) 内容 学習指導案の検討 (1)
- 第 11 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (2) 内容 学習指導案の検討 (2)
- 第 12 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (3) 内容 学習指導案の検討 (3)
- 第 13 回 項目 地理・歴史教育における評価 (1) 内容 地理・歴史授業とテスト問題
- 第 14 回 項目 地理・歴史教育における評価 (2) 内容 地理・歴史のテスト問題の検討
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：社会認識教育学会『中学校社会科教育』学術図書出版社、1996 社会認識教育学会『地理歴史科教育』学術図書出版社、1996

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。 / 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法 9 条 自衛隊

授業の一般目標 1 . 9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2 . 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9 条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	中等地理歴史教育論 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 中等地理・歴史教育の実践的諸問題に関して、主に演習形式による検討を通して考察を深める。具体的なカリキュラム構想や授業実践の分析を通して、地理・歴史授業を教科の教授学的視点から論じる力を身につけることをめざす。

授業の一般目標 1. 地理歴史教育実践に対し、カリキュラム的な視点、認識形成的な視点からの分析・考察ができる。 2. 地理歴史教育実践の諸問題に対し、自らの提案・立論ができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：地理歴史教育、社会科教育に関するさまざまな「理論」や指導計画、授業実践に対し、カリキュラム的観点や授業構成論的観点から考察し、分析することができる。

関心・意欲の観点：地理歴史教育、社会科教育に関する自らの研究課題をあげることができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：演習用の資料を、議論可能な形態で作成し、発表することができる。

授業の計画(全体) 本科目は演習であり、以下に示す内容・項目は事例であって、受講生の興味・関心に応じて大きく内容が変わることもあり得る。 1. 中等地理・歴史授業構成の主要な論点 2. 地理学習論と社会科地理 3. 歴史学習論と社会科歴史 4. 環境論、立地論 5. 通史学習論、問題史学習論 6. 地域区分論、時代区分論 7. 地歴並行学習論、地歴相関論 8. 地域教材論 9. 調査・作業学習論 10. 討論学習論 11. 人物学習論 12. 地誌学習論 13. 近現代史学習論 14. 歴史的思考、地理的思考

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史学習をめぐる諸問題と研究領域
- 第 2 回 項目 地理・歴史学習に関する研究課題 内容 受講者各自の研究課題の仮決定
- 第 3 回 項目 地理・歴史学習に関する課題研究発表演示
- 第 4 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 1
- 第 5 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 2
- 第 6 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 3
- 第 7 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 4
- 第 8 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 5
- 第 9 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 6
- 第 10 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 7
- 第 11 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 8
- 第 12 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 9
- 第 13 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 10
- 第 14 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 11
- 第 15 回 項目 受講者各自の研究課題発表と討議 12

成績評価方法(総合) 発表資料と議論の内容、及び出席点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：全体に関するものは、特に定めない。 / 参考書：発表者と内容に応じて、随時指示する。

メッセージ 本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法前文・第九条を取り上げ、現代日本社会に目を開く、高校公民科または中学校公民分野の授業案を創る。 / 検索キーワード 平和教育 平和と暴力 憲法第9条 公民教育

授業の一般目標 1．憲法改正問題について、専門家と対話できるほどに内容を理解する。 2．専門家への質問や現場の理解を通じてリアルな教材資料を作成し、生徒が身を乗り出して学ぶことができる授業案を構想する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法改正問題を把握する 思考・判断の観点：生徒の現状認識を深める公民科の授業をつくる

授業の計画（全体） 憲法改正問題で取り上げたいことを選び、内容理解をふかめるとともに、専門家に質問することで、新たな課題を探る。 その上で、単元構想をまとめ発表する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題で取り上げたいことは
- 第 3 回 項目 憲法改正問題について調べる
- 第 4 回 項目 憲法改正問題に関する質問と検討
- 第 5 回 項目 昨年のレポート紹介
- 第 6 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 教材研究 1
- 第 7 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 教材研究 2
- 第 8 回 項目 専門家との対話
- 第 9 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 私の授業構想 1
- 第 10 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 私の授業構想 2
- 第 11 回 項目 本時案の作成について
- 第 12 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 本時案の発表 1
- 第 13 回 項目 「憲法9条と日本の平和」 本時案の発表 2
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 60 % 演習 = 40 %

連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	日本史 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森下徹				

授業の概要 日本史を通史的に概観する。いわゆる「日本人」がどこからやってきたかを見ることから始め、古代、中世、近世にかけての時代史の展開を概観してゆく。そのさい、ふつうに働き、暮らす人々の視線から当該の時代の特徴を考えることに努めたい。また教科書 叙述にも注意し、そこでの説明の根拠を史料・データ類に即して検討することも、あわせて進める。

授業の一般目標 歴史を現代とのかかわりにおいて把握すること、そのさい資料に即して歴史的事実に関して考察するという視点・能力を身につけることをめざす。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義計画の説明
- 第 2 回 項目 「日本人」はどこから来たか 内容 日本列島に人類が生息し始めた様子から、単一で純粹な「日本民族」なるものが、そもそも存在しないことを学ぶ
- 第 3 回 項目 戦争はいつ始まったか 内容 戦争が歴史的に始まったものであり、したがって人類の理性によって克服できるものだとする視点を学ぶ
- 第 4 回 項目 古墳は何のために作られたのか 内容 古墳を生み出す社会の特質を学ぶ
- 第 5 回 項目 律令国家と社会の実態 内容 国際的な契機から、伝統社会を根強く残したまま、無理を押しつけて律令国家の建設が図られた過程を学ぶ
- 第 6 回 項目 「国風文化」の時代 内容 いわゆる「国風文化」なるものが、中国の制度・文化を吸収することで成り立っていたことを学ぶ
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 武士を生み出す社会 内容 暴力をこととする武士が、社会のなかに一定の精力として成長した中世という時代の特徴を考える
- 第 9 回 項目 領主はなぜ農民を支配できたか 内容 武士が農民を支配できた根拠を考える
- 第 10 回 項目 「倭寇」とは何か 内容 いわゆる「倭寇」なるものを広汎に生み出した、中世末の東アジア世界の特徴を考える
- 第 11 回 項目 再び戦争の時代へ 内容 弥生時代以来、再度民衆が武器をとって戦うことになった16世紀の社会の特質を考える
- 第 12 回 項目 いまにつながる「伝統社会」 1 内容 近世 = 江戸時代が今日の伝統社会の原型に他ならないことを、社会の仕組みから考える
- 第 13 回 項目 いまにつながる「伝統社会」 2 内容 近世の政治・外交のあり方から伝統社会としての意味を考える
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 中間・期末試験、および時間中の小テストによって判断する

開設科目	日本史 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森下徹				

授業の概要 日本史 I を享け、地域社会に即して通史の展開を見て取ることにする。そのため今日の地域社会が形成された近世まで遡り、近世から近代にかけての通史的な日本史の展開を把握することとあわせて考察してゆきたい。

授業の一般目標 教科書やものの本ではなく、身近な地域社会のなかにこそ歴史が深く刻まれていることを学ぶ

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義計画の説明
- 第 2 回 項目 近世日本の形成 1 内容 身分によって成り立つ社会の特質をかんがえる
- 第 3 回 項目 近世日本の形成 2 内容 幕府と藩による統治のあり方をかんがえる
- 第 4 回 項目 近世日本の形成 3 内容 「鎖国」制下の対外関係
- 第 5 回 項目 平野部の開発と 村落の成立 1 内容 主として地図を 使って、山大周 辺の開発の過程 を、歴史的に再 現する (2 回に 分けて検討)
- 第 6 回 項目 平野部の開発と 村落の成立 2
- 第 7 回 項目 「伝統社会」の 成立 内容 近世にできた 村・家こそが、 伝統的な日本社 会の原型となっ ていることを学 ぶ
- 第 8 回 項目 中間テスト
- 第 9 回 項目 行政村と伝統的 な村 内容 近代に入っ てからの地域の 再編 過程と、そこ に 残る伝統的な 地 域社会との関係 を考える
- 第 10 回 項目 戦争と地域社会 内容 平川周辺に残さ れた種々の記念 碑等から、平川 地区が戦争に巻 き 込まれていっ た様子を考える
- 第 11 回 項目 高度成長と地域 社会 内容 高度成長期の地 域の変容を考え る
- 第 12 回 項目 平川の集落と 「伝統社会」 内容 周辺の集落に近 世以来の伝統が いかなる形で残 されて いるか考える
- 第 13 回 項目 教科書のなかの 近世・近代 内容 講義で取り上げ た内容と教科書 叙述との関係を 考える
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 中間・期末テストおよび授業内の小テスト・レポートで判断する

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森下徹				

授業の概要 地域史学習の手段を学ぶ。具体的には山大周辺に残された歴史資料を素材とし、そこから過去の社会を再構成する。

授業の一般目標 歴史資料(古文書)の読解能力を身につけることを第一にめざす。そのうえで資料を使って地域の歴史を考える練習も行う

授業の計画(全体) 用意したテキスト(古文書)を輪読する。なお毎回小テストを行う

教科書・参考書 教科書: 入門近世文書字典, 林英夫, 中田易直編, 柏書房, 1975年; 『入門近世文書辞典』 柏書房

開設科目	外国史 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成				

授業の概要 キリスト教の浸透を経験したヨーロッパ社会とそうでない日本社会に、人間関係のあり方のレベルでどのような差異が形成されてきたのか、それが現在の我々の考え方・行動をどう特徴づけているのかを歴史学的に考察する。 / 検索キーワード キリスト教、個人、社会、共同体、世間、比較宗教社会史

授業の一般目標 宗教社会史的分析を通して、欧米におけるキリスト教信仰の歴史的意味を理解する。日欧比較史的分析を通して、「他人事、他所事の外国史」からの脱却と、我々をとりまく環境を相対的客観的に見る視点の獲得をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講義内容のおおよそを再現することができる。思考・判断の観点：講義内容に関し、自分なりに論評することができる。関心・意欲の観点：史料の読解、仮説の構築、概念の吟味等に意欲的に取り組むことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに（講義案内）
- 第 2 回 項目 宗教とは何か
- 第 3 回 項目 告解とは何か
- 第 4 回 項目 聖書を読む（罪とは何か）
- 第 5 回 項目 その 2
- 第 6 回 項目 中世の贖罪規定書を読み解く
- 第 7 回 項目 その 2
- 第 8 回 項目 その 3
- 第 9 回 項目 キリスト教信仰の浸透の史的意味
- 第 10 回 項目 その 2
- 第 11 回 項目 日本における絶対神信仰の弱さ
- 第 12 回 項目 社会と世間
- 第 13 回 項目 世間の共同体的 特質
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末レポートと授業内レポート（場合によっては宿題）の提出。それを下記の観点・割合で評価する。3回遅刻・欠席するとレポート提出資格を喪失する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：講義内にて指示する。

メッセージ 遅刻者の入室を禁ずることがある

開設科目	外国史 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩崎好成				

授業の概要 ナチスの台頭要因および支配体制の特徴を分析し、それを通して自由主義・民主主義を支える根底を再確認する。その上で、ファシズムをどう教えるか、社会科教員の役割は何かについて検討する。 / 検索キーワード ファシズム、ナチス、全体主義、共同体、自由民主主義、社会科、基礎教養

授業の一般目標 ファシズム(全体主義)ならびに自由民主主義を成り立たせている基本的構成要素への史的理解と、自由民主主義の担い手を育成する上での教育的視座の獲得をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ナチスの思想・運動・体制の特質について説明できる。「民主主義」「自由」「共同体」「公正」などの諸概念を解説できる。 思考・判断の観点：上述の諸概念を中学生にもわかる内容・言葉に解きほぐすことができる。 ファシズム教材の意義を指摘し、そこから社会科教員の役割について、自ら考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教科書を読む
- 第 2 回 項目 ナチスの思想
- 第 3 回 項目 ナチスの運動
- 第 4 回 項目 ナチスへの大衆の支持
- 第 5 回 項目 ナチスへの支配層の支持
- 第 6 回 項目 ヒトラー内閣の政策 1
- 第 7 回 項目 同 2
- 第 8 回 項目 同 3
- 第 9 回 項目 同 4
- 第 10 回 項目 ファシズム(全体主義)とは何か
- 第 11 回 項目 ファシズム(全体主義)を解きほぐす
- 第 12 回 項目 自由民主主義を解きほぐす
- 第 13 回 項目 社会科教員の役割
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 中間・期末レポートで評価する。3回遅刻・欠席するとレポート提出資格を喪失する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布。 / 参考書：授業内で指示。

メッセージ 授業計画は一定程度、変更するかも知れません。初回に提示します。

開設科目	外国史演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成				

授業の概要 諸文献の講読・批評、諸テーマに関する意見交換を通して、歴史教育という営みの意味やあり様を考察する。文献・テーマの具体的レベルでは、世界史・国際関係史分野を重視したい。/ 検索キーワード 歴史学習、教材研究

授業の一般目標 歴史学習における基礎的な教材研究能力・教授能力の獲得をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 諸文献の内容を理解できる 思考・判断の観点： 諸文献の内容を批評することができる 関心・意欲の観点： 諸課題について自らの見解を積極的に述べ、また討議することができる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 歴史学習の目標
- 第 3 回 項目 教材研究の手順
- 第 4 回 項目 小学校授業実践 例の検討
- 第 5 回 項目 同
- 第 6 回 項目 中学校授業実践 例の検討
- 第 7 回 項目 同
- 第 8 回 項目 授業の狙い策定 の視点を考える
- 第 9 回 項目 同
- 第 10 回 項目 授業の狙い達成 の手法を考える
- 第 11 回 項目 同
- 第 12 回 項目 「他人事・余所 事の歴史」からの脱却
- 第 13 回 項目 同
- 第 14 回 項目 歴史教育の今日的課題を考える
- 第 15 回 項目 同

教科書・参考書 教科書： なし。 / 参考書： 授業内にて指示。

開設科目	自然地理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	貞方昇				

授業の概要 日本列島の自然環境を特に地形学的な立場から、地球的な視野の中で考え、さらに人間の生活の舞台としての意義を考える。 / 検索キーワード 日本列島、地殻変動、火山活動、海面変化、環境変遷

授業の一般目標 日本列島の自然環境基盤としての地形特徴をその成り立ちからよく理解することにより、他の世界諸地域の地形環境をも類推できる応用力を養う。それとともに、そこに居住する人々の生活文化の特徴とどのような関係性をもつかを考えることができるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 第四紀、とくにその後半期における日本列島の地形的な発達を系統的に理解することをめざす。 思考・判断の観点： 日本列島の地形発達を理解することにより、地球上の諸地域の地形特徴や発達を類推できる応用力を持てるようにする。 関心・意欲の観点： 自分の身の回りの景観を、日本列島や地球的な規模のダイナミズムと関係づけることに関心や意欲をもてるようにする。また、今日の自然景観形成と人間生活との関わりについて考えることに関心、意欲をもてるようにする。 技能・表現の観点： 地図を作業し、また画像データを加工して、それらを利用して自分が説明したい内容を表現し、レポートを書くことができるようにする。

授業の計画(全体) 変動帯に位置して地殻運動が活発で、また第四紀の気候変化や海面変化の影響を強く受けて形成された日本列島の地形環境を系統的に理解するとともに、そこに居住する人々の生活基盤としてどのような役割を果たしているかを考える

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 世界の変動帯の地形と日本列島 内容 地球上における日本列島の位置を地殻(プレート)の動きの性格と合わせて理解する。
- 第 2 回 項目 島弧-海溝系と日本列島 内容 プレート間の衝突の場に位置する日本列島が大地形としてとる島弧-海溝のシステムを理解する。 授業外指示 Web上の日本列島の衛星画像を見て、その特徴を捉える。
- 第 3 回 項目 日本列島の変動 地形 I: 活断層と変位地形 内容 日本列島の山地・盆地・平野の起伏や配列を決める構造線を理解し、特に活断層の各事例を取り上げて、その性質を理解する。 授業外指示 身近な地域の活断層について調べてみる。
- 第 4 回 項目 日本列島の変動 地形 II: 巨大地震とその影響 内容 日本列島に称した巨大地震がどのように地形発達と関係するかを理解する。 授業外指示 身近な地域の過去の巨大地震による被害をWeb上で探してみる。
- 第 5 回 項目 日本列島の変動 地形 III: 第四紀の地殻変動 内容 活断層や活褶曲の運動の総和としてどのような日本列島の成長が推定できるかを考える。
- 第 6 回 項目 日本列島の火山 地形 I: 火山の分布と形状を決めるもの 内容 日本列島の火山活動の性質や配列の特徴を島弧-海溝のシステムの中で体系的に理解する
- 第 7 回 項目 日本列島の火山 地形 II: 活発な火山の活動と地形 内容 日本の各地の特徴的な火山を取り上げて、その成長過程の特徴をとらえ、他の火山の活動を類推できるようにする。 授業外指示 身近な地域の火山について調べてみる。
- 第 8 回 項目 日本列島の火山 地形 III: 巨大カルデラ火山 内容 幾つかの巨大カルデラの活動を紹介するとともに、噴出した広域火山灰が第四紀の地形発達研究に果たした役割を理解する。
- 第 9 回 項目 日本列島の気候 地形 I: 周氷河地形 内容 最終氷期最盛期以後の日本列島の地形環境変化を、とくに周氷河地形に焦点をあてて理解する。
- 第 10 回 項目 日本列島の気候 地形 II: 海岸段丘・河岸段丘と海面変動 内容 第四紀後半の日本列島をめぐる海面変化や気候変化、また地殻変動が、海岸段丘・河岸段丘形成とどう関係づけられるのかを理解する。 授業外指示 身近な地域の海岸段丘や河岸段丘の例を地図上で見出してみる。

- 第 11 回 項目 日本列島の気候 地形 III：さんご 礁地形と海面変動 内容 第四紀後半の日本列島をめぐる海面変化や気候変化、また地殻変動が、さんご 礁地形の形成とどう関係づけられるのかを理解する。
- 第 12 回 項目 第四紀日本列島の環境変貌のまとめ 内容 第四紀後半の日本列島の地形発達を地殻変動、火山活動、気候変化、海面変化の諸様式を組み合わせて系統的に理解する。
- 第 13 回 項目 山口をめぐる地形の見方 I：山地をどうみるか 内容 自分たちを取り巻く山口の山地を第四紀の日本列島の地形発達史に位置づけて理解できるようにする。授業外指示 山口県の山地高度分布特徴を見出す。また山口県内の火山はどこにどのような形態で存在するか 2.5 万分の 1 地図上で見出す。
- 第 14 回 項目 山口をめぐる地形の見方 II：平野をどうみるか 内容 自分たちを取り巻く山口の盆地、平野を第四紀の日本列島の地形発達史に位置づけて理解できるようにする。授業外指示 山口県の海岸を 2.5 万分の 1 地図上で辿り、平野分布とその特徴を見出す。
- 第 15 回 項目 試験 内容 身近な地形をも日本列島、地球各地の地形発達と関係づけられる力を試す。

成績評価方法 (総合) 授業中に配布するプリント・地図の作業結果や小テストと期末試験を合わせて評価する。

教科書・参考書 教科書：風景の中の自然地理, 杉谷 隆他著, 古今書院, 1993 年; 主な授業内容はプリント配布するが、人間生活との関わりを考える材料として、下記の教科書を使用する。/ 参考書：火山灰は語る-火山と平野の自然史, 町田 洋, 蒼樹書房, 1977 年; 日本の地形-特質と由来, 貝塚爽平, 岩波新書, 1977 年; 日本の山地形成論, 藤田和夫, 蒼樹書房, 1983 年; 発達史地形学, 貝塚爽平, 東京大学出版会, 1998 年; 日本の地形 1 総説, 米倉伸之他編, 東京大学出版会, 2001 年; 日本の地形 6 近畿・中国・四国, 太田陽子他編, 東京大学出版会, 2004 年

メッセージ 日本列島を、自然科学的な解釈により理解すると同時に、人間生活の舞台としての意義を考える。社会科教育の中で自然環境をどうとらえたらいいのか、考えて欲しい。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ~ 13:00

開設科目	人文地理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	荒木一視				

授業の概要 実際の地理教材を題材にして、地理学的な思考法について講義する。なお、講義には授業の前半を充て、後半は質疑の時間に当てる。 / 検索キーワード 人文地理, 地理教材, 地理学的なものの見方・考え方

授業の一般目標 地理教材の客観的な検討を通じて、地理学におけるの題材の取り上げ方についての理解を深める。また、その作業を通じて地理学的なセンスと題材を処理する技術の体得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書を含めた地理教材に関する問題点の認識を持つ。 思考・判断の観点：地理教材に対して客観的な評価を下す能力を養う。 技能・表現の観点：実際に地理学の題材を取り上げ、その処理能力を身につける。

授業の計画(全体) 前半では実際の教科書を使って地理的なものの見方考え方を検討する。後半では実際に 題材を選択し、加工することを試みる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の趣旨、内容紹介
- 第 2 回 項目 地理教育と世界観
- 第 3 回 項目 なにを伝えるのか
- 第 4 回 項目 どう伝えるのか
- 第 5 回 項目 地理教科書の検討・1 高校地理
- 第 6 回 項目 地理教科書の検討・2 高校地理
- 第 7 回 項目 地理教科書の検討・3 高校地理
- 第 8 回 項目 地理教科書の検討・4 高校地理
- 第 9 回 項目 地理教科書の検討・5 中学校社会科地理
- 第 10 回 項目 地理教科書の検討・6 中学校社会科地理
- 第 11 回 項目 地理教科書の検討・7 海外の地理教科書
- 第 12 回 項目 地理教科書の検討・8 海外の地理教科書
- 第 13 回 項目 地理教科書の検討・9 海外の地理教科書
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回 項目 期末試験もしくはレポート

成績評価方法(総合) 授業で取り上げた題材をもとにしたレポートか試験を行う。なお、毎回の授業時の討論の内容も評価に加える。

教科書・参考書 教科書：小学生に教える「地理」、荒木一視・川田力・西岡尚也, ナカニシヤ出版, 2006年

連絡先・オフィスアワー arakih@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地理学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	貞方昇・荒木一視				

授業の概要 論文購読を行う。関心のあるテーマについての論文収集、分析・整理、報告の方法を習得する。参加者は、毎週、関係論文のレジюмеを作成して紹介する。演習には自然地理学、人文地理学の担当教員が同席し、幅広い指導体制をとる。あわせて、学校教育における地理的な分野との関係付けを常に議論する。 / 検索キーワード 論文購読 演習 自然地理学 人文地理学

授業の一般目標 地理学関係論文の購読力を高める一連の作業を通して、自ら考察し、問題点を抽出して、論文批判ができるようになることを目指す。

開設科目	地理学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	貞方昇・荒木一視				

授業の概要 地理学を研究する際に欠かせない地図、統計類、アンケートや聞き取り調査などの方法について、実際に各種事前作業を行い、関係機関訪問等を行いながら、体験的に学習する。地理学関係開設授業科目中の「地理巡検」の授業内容と関係づけられている。社会科教員になったときの他の科目担当への応用をも視野に入れた指導を行う。 / 検索キーワード 地理実習 人文地理学 自然地理学

授業の一般目標 地理学の調査方法を具体的に学ぶことを通して、自ら調査を実施し、卒業論文を作成できる力を養うことを目的とする。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp arakih@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地理学巡検	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇・荒木一視				

授業の概要 調査地域を実際に、事前の準備をした上で訪れ、関係の人々、関係機関、諸計測、聞き取りなどを行い、調査報告を作る。社会科教員としての資質を高めるため、地理以外の問題 関心をも取り込みながら調査する。 / 検索キーワード 巡検 調査 自然地理学 人文地理学

授業の一般目標 地理学演習や地理学実習において学んだ事柄を、実際の場に即してどのように応用し、調査をまとめたらよいか、実践的学習活動を行う。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp arakih@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	地域人文地理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	荒木一視				

授業の概要 地誌学及び地理学(主として人文地理学)を概説する。その際、特になぜ学校で地理学が教えられているのか、また、将来諸君が地理の授業を通して子供達に何を伝えたいのかを考えてもらいたい。/検索キーワード 地誌 人文地理学 地理学史 地理教育

授業の一般目標 人文地理学及び地誌に関する一般的知識と、それらの地理学史を背景とした理解を身につけること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 人文地理学及び地誌に関する一般的知識と、それらの地理学史を背景とした理解を身につけること。 思考・判断の観点: 授業時間後半の質疑討論を通じて、地理を学校で教える差異の問題点についての考察を深める。 関心・意欲の観点: 地理教育に対する一般的関心を高める。

授業の計画(全体) 授業時間の半分~2/3を講義に、残りを質疑、討論にあてる。講義は基本的にプレゼンテーションソフトを用いて行う。簡単なメモを取るなど以外は常に顔を上げておいてもらいたい。必要なノートを取る時間は別に確保する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 地理学の枠組み(オーソドックスな学問体系として)
- 第2回 項目 地理学前史
- 第3回 項目 近代地理学
- 第4回 項目 メカニズムの解明を目指して・系統地理学
- 第5回 項目 立地論1・チューネン
- 第6回 項目 立地論2・クリスタラー
- 第7回 項目 計量革命
- 第8回 項目 計量革命の後にきたもの
- 第9回 項目 地域の最小単位は
- 第10回 項目 社会地理学
- 第11回 項目 景観論
- 第12回 項目 T Oマップ
- 第13回 項目 地誌と国民国家
- 第14回 項目 学校で地理学は何を教えてきたのか 君は何を教えるのか?
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業時の討論への参加と定期試験を原則とする。

連絡先・オフィスアワー arakih@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部4階

開設科目	地域自然地理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇				

授業の概要 日本列島の自然環境が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文、弥生期以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、今日見るような日本の土地景観が作り上げられてきたかを学ぶ。 / 検索キーワード 自然、景観、土地、人間、生活、文化

授業の一般目標 日本人が目にしてきた自然景観と呼ばれるものが、どのようにして歴史的に形成されてきたかを知り、その意義を捉え直す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人間の歴史的な自然への働きかけを、その時代の技術や制度の仕組みとともに整理して理解できるようにする。 思考・判断の観点：大縮尺地図に描出されている歴史的な人間活動の証拠を見出し、その意味を類推し、応用できるか。 関心・意欲の観点：「自然景観」に潜む歴史的な人間の営みに地図等を用いてアプローチすることに知的な関心を有するか。 技能・表現の観点：授業中での地図作業により、説明しようとする事柄を他の人に示せるように表現できるか。

授業の計画（全体） 予め配布するプリント、作業のための地図、プロジェクト使用などにより、自然への歴史的な人間の働きかけを視覚的に理解できるように授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境
- 第 2 回 項目 島弧としての日本列島の特徴
- 第 3 回 項目 地球環境変化の もとでの日本列 島
- 第 4 回 項目 縄文時代人と土 地環境
- 第 5 回 項目 弥生時代の水田 遺構とその意義
- 第 6 回 項目 古墳群・ため池 と土地環境変化
- 第 7 回 項目 条里地割と土地 環境変化
- 第 8 回 項目 中世辺境の開墾 と土地環境変化
- 第 9 回 項目 戦国大名の土地 開発と土地環境 変化
- 第 10 回 項目 大規模河川改修 と近世の土地環 境変化
- 第 11 回 項目 新田開発の推移 と土地環境変化
- 第 12 回 項目 砂鉄採取による 土地改変と土地 環境変化
- 第 13 回 項目 近・現代の大規 模土地改変
- 第 14 回 項目 日本列島の土地 環境特性とその 意義
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の地図作業や課題発表、期末試験等を複合して評価する。

教科書・参考書 教科書：授業中に配布するプリントをもってテキストとする。 / 参考書：土地に刻まれた歴史（岩波新書）、古島敏雄、岩波書店、1967年；歴史時代の地形環境、日下雅義編、古今書院、1980年；中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌、貞方 昇、溪水社、1996年；古代の環境と考古学、日下雅義編、古今書院、1995年；河道変遷の地理学、大矢雅彦、古今書院、2004年；平野の環境考古学、高橋 学、古今書院、2003年；遺跡の環境復原、外山秀一、古今書院、2006年

メッセージ 私たちが「自然」と思っている身の回りの景観が、人間による長い間の自然への働きかけの結果であることの意義を大縮尺地図を用いて、また大学周辺の土地景観を実際に見て回ることにより、具体的に考えてゆきたい。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00～13:00

開設科目	日本国憲法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 国の根本法である憲法の歴史的背景をおさえた上で、現在の日本における憲法状況を考察する。

授業の一般目標 憲法問題を身近な問題として考えられるようにすること。

授業の計画(全体) まず、憲法とは何かについて説明した上で、その根底にある立憲主義の歴史について考察する。さらに、日本国憲法の基本原理及び具体的内容について説明する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス/憲法とは何か
- 第 2 回 項目 立憲主義の歴史と思想
- 第 3 回 項目 日本国憲法成立史
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本構造と原理
- 第 5 回 項目 国民主権と天皇制
- 第 6 回 項目 平和主義
- 第 7 回 項目 基本的人権(1)
- 第 8 回 項目 基本的人権(2)
- 第 9 回 項目 基本的人権(3)
- 第 10 回 項目 基本的人権(4)
- 第 11 回 項目 権力分立制と統治機構
- 第 12 回 項目 国会
- 第 13 回 項目 内閣
- 第 14 回 項目 裁判所
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定せず、プリントを配布する。/ 参考書：各授業において紹介する。

開設科目	現代法(国際法を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。

授業の一般目標 今日の情報化社会におけるさまざまな問題を、法学的思考によって捉えられるようにすること。

授業の計画(全体) まず、情報化社会とは何かについて説明した上で、それが抱えるさまざまな法的問題を紹介する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 情報化社会とは何か
- 第 3 回 項目 情報化と表現の自由
- 第 4 回 項目 情報公開制度
- 第 5 回 項目 個人情報保護とプライバシー
- 第 6 回 項目 盗聴捜査と通信傍受法
- 第 7 回 項目 取材・報道の自由と報道被害
- 第 8 回 項目 差別表現
- 第 9 回 項目 インターネットと人権
- 第 10 回 項目 知的財産権/著作権(1)
- 第 11 回 項目 著作権(2)
- 第 12 回 項目 情報と人権に関する国際的動向
- 第 13 回 項目 情報のグローバル化に伴う問題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。プリントを配布する。/ 参考書: 授業において適宜紹介する。

開設科目	法律学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 法学の基本的文献の購読を行う。

授業の一般目標 さまざまな問題について法学的な考察ができるようにすること。

授業の計画(全体) 毎回、学生が報告を担当し、それに基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 担当した報告内容の出来及び出席状況によって評価する。

教科書・参考書 教科書：第1回目の授業時に相談して決める。 / 参考書：授業時に適宜紹介する。

開設科目	社会学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子				

授業の概要 社会学の代表的な理論の基礎を学ぶとともに、受講者にとって身近なテーマを事例として取り上げ、現代社会が直面しているさまざまな問題について理解を深める。特に、中学校社会科で取り上げられる各テーマについて社会学の視点からとらえ、知識を深める。/ 検索キーワード ジェンダー 男女共同参画 公害・環境問題 グローバリゼーション 外国人住民 多文化共生 人権

授業の一般目標 私たちが生きる現代社会が抱える問題・矛盾を改めてとらえなおし、そのうえで私たち一人一人が「社会」とどのようにつながっているのか、理解を深めることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会学の基礎的な概念について理解を深める。私たちの日常を取り巻くさまざまな事象、「常識」と思われている事柄について、社会学的視点からとらえなおすことによって、自身と社会との接点・つながりについて理解を深める。 思考・判断の観点：私たちが日常生活のなかで無意識のうちにこなしている行為、従っているルール・価値観などについて取り上げ、それらが社会のなかでどのような意味を持っているのか、考察する。現代社会が直面しているさまざまな社会現象、社会問題を取り上げ、それらの背景、要因について考察する。 関心・意欲の観点：自身の日常を取り巻く社会を含め現代日本社会、および国際社会においてどのような問題が起きているのか、なぜそのような問題が起きるのか、自ら探究心を持って考察・分析する意欲を養う。 技能・表現の観点：社会学の概念を用いて、現代社会のさまざまな事象、社会問題について読み解く能力を修得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 講義内容および 評価方法等に関する説明を行なう。
- 第 2 回 項目 社会と個人
- 第 3 回 項目 ジェンダーとはなにか（1）
- 第 4 回 項目 ジェンダーとはなにか（2）
- 第 5 回 項目 男女共同参画とはなにか
- 第 6 回 項目 水俣病問題とはなにか
- 第 7 回 項目 産業廃棄物問題とはなにか
- 第 8 回 項目 フリーター問題と現代消費社会
- 第 9 回 項目 同和問題と人権（1）
- 第 10 回 項目 同和問題と人権（2） 内容 ゲストスピーカー
- 第 11 回 項目 ハンセン病問題と人権
- 第 12 回 項目 日本社会と外国人（1）
- 第 13 回 項目 日本社会と外国人（2）
- 第 14 回 項目 日本社会と外国人（3）
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料等を配布する。/ 参考書：『社会学と過ごす一週間』、ソシオロジスト編集委員会、学文社、2003年；『社会学のあゆみ』、新睦人他、有斐閣、1979年；『社会学のあゆみ パート』、新睦人他、有斐閣、1984年

メッセージ 普段の生活を通じて見えてくる社会問題に敏感な目を養ってください。新聞や本を読み、TV ニュースを見て、考えることを日常的に行ないましょう。講義中の私語、携帯電話使用（含メール）は厳禁、遅刻も同様。期末試験のほかにレポート課題、出席状況などを総計して評価する。なお、レポート課題未提出者、講義への未出席者は期末試験受験の資格を持たない。

連絡先・オフィスアワー 教育学部棟 476

開設科目	社会調査論	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本薫子				

授業の概要 社会調査の基本的な考え方、技法を学ぶ。講義の前半(第2~6回)は標本(量的)調査について、後半(第7~11回)は事例(質的)調査についてそれぞれの調査法の長所・短所を理解しながら学ぶ。レポート課題では自分が実際に社会調査を実施すると仮定して調査計画、調査票を作成する。そのうえで、望ましい社会調査のありかたについて検討を行なう。/ 検索キーワード 標本調査 サンプルング 事例調査 フィールドワーク 参与観察法 インタビュー モノグラフ

授業の一般目標 社会調査の基本的な考え方、手法を理解・習得する。特に、標本調査の企画設計、サンプリング、調査票作成、基礎的な集計等が実施可能な技法の習得を目指す。また、事例調査についても、刊行されたモノグラフを講読することによってフィールドワーク、参与観察法の手法について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会調査の基本的な考え方、手法について理解を深める。また、標本調査、事例調査それぞれについて基礎的な知識・技法を習得する。 思考・判断の観点：社会調査に関する基礎的知識の習得を踏まえて、よりよい調査のあり方について思考をめぐらす。 関心・意欲の観点：社会調査の持つ意義を理解し、現代社会を分析する手段としての社会調査に関心を持つ。 技能・表現の観点：標本調査の企画からサンプリング、実施、分析にいたるまでの基礎的な技法を習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義内容、成績評価および注意点などについて説明を行なう。
- 第2回 項目 社会調査の種類と方法 内容 社会調査の歴史について学んだうえで、目的・状況に応じた社会調査の種類、方法の違いについて学ぶ。
- 第3回 項目 調査企画の設計と準備 内容 調査の企画について学ぶ。理論仮説、作業仮説の構成
- 第4回 項目 標本抽出(サンプリング) 内容 標本調査における標本抽出、特にランダムサンプリングの考え方、および手法について学ぶ。
- 第5回 項目 調査票の作成 内容 標本調査における調査票作成の方法、注意点などについて学ぶ。
- 第6回 項目 データ収集・分析の方法 内容 標本調査におけるデータの収集・分析の手法、注意点などについて学ぶ。
- 第7回 項目 フィールドワークの方法 内容 事例調査、特にフィールドワークおよび参与観察法の考え方および注意点等について学ぶ。 授業外指示 第1回レポート提出(調査企画書)
- 第8回 項目 聞き取り調査の手法(1) 内容 受講者が二人一組のペアをつくり、互いにインタビューを行なう。
- 第9回 項目 聞き取り調査の手法(2) 内容 前回と同様の作業を行なう。これらの作業を通じて、インタビュー、聞き取り調査に際しての注意点、問題点などについて考える。
- 第10回 項目 社会調査のモノグラフを読む(1) 内容 多くの社会調査の記録の中から、参与観察法に基づくモノグラフを読み、フィールドワークの考え方、注意点などについて考える。文献はホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を予定。
- 第11回 項目 社会調査のモノグラフを読む(2) 内容 多くの社会調査の記録の中から、参与観察法に基づくモノグラフを読み、フィールドワークの考え方、注意点などについて考える。文献はホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を予定。
- 第12回 項目 作業日 内容 プリテストとして、受講者が互いに作成した調査票(レポート)に回答し合う。その作業を通じて、それぞれの調査票の改善点を指摘する。 授業外指示 第2回レポート提出(調査票)
- 第13回 項目 社会調査における倫理性の問題(1) 内容 社会調査が直面する倫理性の問題について考える。また、どのようにすればよりよい調査が実施できるか検討する。 授業外指示 第12回で指摘された箇所について改善を加え、第3回レポート提出(調査票最終版)

第14回 項目 社会調査における倫理性の問題(2) 内容 社会調査が直面する倫理性の問題について考える。また、どのようにすればよりよい調査が実施できるか検討する。

第15回 項目 試験

教科書・参考書 参考書：ストリート・コーナー・ソサエティ, ”W・F・ホワイト著；奥田道大, 有里典三訳”, 有斐閣, 2000年；ミッドウルトウン(現代社会学大系 / 日高六郎 [ほか] 編；第9巻), ”R. S. リンド, H. M. リンド著；中村八朗訳”, 青木書店, 1990年；フィールドワーク：書を持って街へ出よう(ワードマップ), 佐藤郁哉著, 新曜社, 1992年；”フィールドワークの技法：問いを育てる, 仮説をきたえる”, 佐藤郁哉著, 新曜社, 2002年；暴走族のエスノグラフィー：モードの叛乱と文化の呪縛, 佐藤郁哉著, 新曜社, 1984年；大衆演劇への旅：南条まさきの一年二ヵ月, 鷓飼正樹著, 未来社, 1994年；ガイドブック社会調査, 森岡清志編著, 日本評論社, 1998年；社会統計学：社会調査のためのデータ分析入門(学生版), ボーンシュテット & ノーキ [著], ハーベスト社, 1992年；社会調査法(2冊 - 1 基礎と準備編; 2 実施と分析編), E. バビー著；[相田龍太郎ほか訳], 培風館, 2003年；ライフストーリー：エスノ社会学的パースペクティブ, ダニエル・ベルトー著；小林多寿子訳, ミネルヴァ書房, 2003年

メッセージ 受講に際しては、特別に統計学等の知識は必要としない。教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料等を配布する。レポートとして各自の決めたテーマにしたがって調査票の作成を行なう。なお、レポート未提出者や欠席数が一定程度を超える者は期末試験受験の資格を持たない。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子				

授業の概要 社会学の主要な概念、議論などについて文献の講読を通じて学ぶ。指定した文献について分
担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。

授業の一般目標 社会学の主要な概念、議論などについて学び、それらを応用して現代社会に見られる様々
な事象を読みとく力を養う。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	経済概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	来島浩				

授業の概要 一国の経済（GDP）は企業部門、政府部門、輸出部門と家計部門の4部門から成り立っているが、通常問題にされるのは、政府部門、企業部門と輸出部門で、家計部門はあまり問題にされていない。しかし GDP の3分の2は家計部門が占めているので、これを抜きにしては経済は語れない。したがって今年度は一国の経済、特に日本経済を家計視点より勉強していくことにする。

授業の一般目標 戦後、目覚ましい高度経済成長を遂げた日本。しかし「成長至上主義」は、一方でゆとりある人間らしい生活を常に犠牲にしてきた。そして、いま長期不況のもとで、その歪みが深刻化している。サービス残業は増え続け、所得格差は広がり、貧困家計も増える一方である。生活者の「家計」から日本経済を分析し、産業重視の政策からの転換を説くことにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：家計視点より一国の経済の仕組みとそれにかかわる経済理論を説明できる。思考・判断の観点：家計と一国経済の相互関係とその解決策について自分の意見を述べることができる。関心・意欲の観点：日常生活の中で経済に関わる問題に関心を持つ。

授業の計画（全体） まず最初に日本経済の現状を家計視点から分析する。次に家計からみた戦後の日本経済を検討する。さらに、一国の経済は発展しているのに豊かさを実感しない家計の存在や家計が危機的状況にあることを検討し、最後に社会保障制度改革と家計の対応策をみていくことにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 日本経済の現状 内容 経済成長至上主義の限界についてみる
- 第2回 項目 家計視点から日本経済をみる意義 内容 家計から経済をみる意義について述べる
- 第3回 項目 家計から見た戦後の日本経済 内容 戦後日本経済の軌跡—家計の貧困から経済大国へ
- 第4回 項目 同上 内容 消費の拡大と高い貯蓄率
- 第5回 項目 同上 内容 教育水準の飛躍的向上と働き手としての女性の変化
- 第6回 項目 豊かさを実感しない家計の存在 内容 経済成長を支えた長時間労働
- 第7回 項目 同上 内容 高すぎる物価水準と改善の遅れる住環境
- 第8回 項目 同上 内容 生産者優位と後回しにされる家庭経済
- 第9回 項目 家計の経済危機 内容 貧困家計の増加と所得格差の拡大
- 第10回 項目 同上 内容 長時間労働と失業不安という矛盾
- 第11回 項目 同上 内容 高まる将来への不安
- 第12回 項目 同上 内容 新しい抗争の出現—世代間格差・不公平
- 第13回 項目 社会保障制度改革と家計の対応策 内容 社会保障制度改革—年金・医療
- 第14回 項目 同上 内容 社会保障制度改革—社会福祉
- 第15回 項目 同上 内容 低成長下でも豊かに生きていくために

成績評価方法（総合）（1）新聞等の記事で、自分が関心をもつ経済問題について、毎回講義の初めに15分位レポート（2人位）をし、それを評価（30%）する。（2）期末に試験を実施し、評価（70%）する。

教科書・参考書 教科書：家計からみる日本経済、橘木俊詔、岩波書店、2004年

開設科目	経済政策 (国際経済を含む。)	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 言い古された言葉ですが、国際経済への興味が「国際人」への第一歩です。そこで国際人への第一歩を踏み出すことが出来るように、国際経済の基礎理論・知識を学ぶことにします。

授業の一般目標 我々は今、大きな不安と苦悩のなかにいる。それは、格差拡大、社会保障不安、失業問題、少子・高齢化といったさまざまな形で顕在化し、大きな社会問題となっている。これらの問題は、戦後日本が模範としてきたアメリカ型の経済効率至上主義が大きな要因である。日本は、このままアメリカ型の政策を続けていくべきなのだろうか。自由な経済活動を支持しながら、社会の公平性をより重視するヨーロッパ型の政策にも注意を払うべきである。そこで、今年度は、日本とアメリカ、ヨーロッパの経済(政策)を比較しながら勉強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本、アメリカ、ヨーロッパの経済の仕組みや考え方を知ることができる。 思考・判断の観点：各国の経済問題の相互関係やその解決策について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：日常生活の中で国際経済に関わる問題に関心を持つ。

授業の計画(全体) まず、戦後の日本経済を概観し、問題点や課題を洗い出す。次に、戦後手本としたアメリカ経済を勉強し、日本とアメリカの比較を行う。最後に、自由な経済活動を支持しながら、社会の公平性をより重視するヨーロッパ経済を概観し、日本・アメリカ経済との比較を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 経済、経済学、経済政策等について
- 第 2 回 項目 日本の経済(政策) 内容 戦後復興期の経済(政策)
- 第 3 回 項目 同上 内容 高度経済成長期の経済(政策)
- 第 4 回 項目 同上 内容 安定成長期の経済(政策)
- 第 5 回 項目 同上 内容 バブル期の経済(政策)
- 第 6 回 項目 同上 内容 長期不況期の経済(政策)
- 第 7 回 項目 同上 内容 戦後経済がもたらしたもの
- 第 8 回 項目 アメリカ経済(政策) 内容 アメリカ経済(政策)の概観
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 アメリカ経済と日本経済の関係
- 第 11 回 項目 ヨーロッパ経済(政策) 内容 ヨーロッパ経済(政策)の概観
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 ヨーロッパ経済と日本経済の関係
- 第 14 回 項目 経済(政策)の比較検討 内容 日・米・欧の経済(政策)関係の比較
- 第 15 回 項目 おわりに 内容 それぞれの国の経済がもたらしたもの

成績評価方法(総合) (1) 毎講義の始めの 20 分位で、問題となっている国際経済や経済政策に関するレポートを行い(毎回 2 人位)、それを評価(30%)する。(2) 期末に試験を実施し、評価(70%)する。

教科書・参考書 教科書：アメリカ型不安社会でいいのか、橋本俊詔、朝日新聞社、2006 年

メッセージ 毎日の新聞の政治・経済記事や雑誌等の経済記事を読むようにしましょう。

開設科目	哲学倫理学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

授業の概要 プラトンの名著『国家』を、魂の転換術としての哲学を中核とする教育論として読解する。/
 検索キーワード 魂の転換術

授業の一般目標 1. プラトンの哲学がどのようなものかを理解する。 2. 教育することに関心を持ち、また教育の本質を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 西洋の哲学とは何かを説明できる。 2. 教育の本質とは何であるかを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業で学んだことを自分で取り纏め、批判的に解説することができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育に関する関心を高め、問題意識を上げることができる。 態度の観点： 大学生活を通して教育の在り方を自主的に反省することができる。

授業の計画(全体) プラトンの『国家』における教育論の概要を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受胎としての教育
- 第 2 回 項目 エロ-ス論
- 第 3 回 項目 『国家』の主題
- 第 4 回 項目 正義論
- 第 5 回 項目 魂の三 魂の三分説
- 第 6 回 項目 階級の三分説
- 第 7 回 項目 教育プログラム
- 第 8 回 項目 魂の転換術
- 第 9 回 項目 初等教育
- 第 10 回 項目 高等教育 - 数学的諸学
- 第 11 回 項目 高等教育 - 哲学
- 第 12 回 項目 プラトンの教育学の特徴
- 第 13 回 項目 プラトンの教育学の長短
- 第 14 回 項目 プラトンの教育学の プラトンの教育学 プラトンとイソクラテス
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1. 授業中の何回かの小テスト、および最後の試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。 / 参考書：『プラトン入門』, R.S. ブラック, 岩波文庫, 1992 年; 『国家』, プラトン, 岩波文庫, 1979 年; プリントを配付する。

メッセージ 授業の出席を重視します。

開設科目	哲学倫理学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

授業の概要 現代ドイツ哲学における言語論を概観する。 / 検索キーワード 意識と言語

授業の一般目標 B. リ-ブルックスの『認識と弁証法』の中の「言葉と意識」の箇所をドイツ語で読み、その内容を議論する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 哲学のテキストを客観的に解釈することができる。 2. 哲学における言葉の役割を説明することができる。 思考・判断の観点： 1. 授業で学んだことを取り纏め、自分で批判的に検討することができる。 関心・意欲の観点： 1. 学生生活において言葉に関する関心を深め、議論することを技術として考え直すことができる。

授業の計画（全体） ドイツ言語哲学で言語がどのような仕方で行われているかを理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ドイツ言語哲学の射程 1
- 第 2 回 項目 ドイツ言語哲学の射程 2
- 第 3 回 項目 ヘルダ-の言語論 1
- 第 4 回 項目 ヘルダ-の言語論 2
- 第 5 回 項目 フンボルトの言語論 1
- 第 6 回 項目 フンボルトの言語論 2
- 第 7 回 項目 カントの言語論 1
- 第 8 回 項目 カントの言語論 2
- 第 9 回 項目 ヘーゲルの言語論 1
- 第 10 回 項目 ヘーゲルの言語論 2
- 第 11 回 項目 『言葉と意識』の意識 1
- 第 12 回 項目 『言葉と意識』の意識 2
- 第 13 回 項目 B. リ-ブルックスの言語論 1
- 第 14 回 項目 B. リ-ブルックスの言語論 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業中の何回かの小テストと最後の試験とで評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。 / 参考書：ドイツ言語哲学の諸相, 麻生建, 東京大学出版会, 1989年; プリントを配付する。

メッセージ ドイツ語のテキストを読めるようにしよう。

開設科目	宗教学概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 東西の宗教(主に仏教とイスラーム)を比較することによって、「宗教とは何か」ということを明らかにする。/検索キーワード 宗教、仏教、イスラーム、縁起、四聖諦、六信五行。

授業の一般目標 主に仏教とイスラームの基本的知識を習得し、それを通して宗教に対する姿勢を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 仏教とイスラームの教えについての基礎的知識を得ること。 思考・判断の観点: 宗教に対する正しい思考・判断力を得ること。 関心・意欲の観点: 宗教に対する関心を深めること。 態度の観点: 人生に対する真摯な態度を得ること。

授業の計画(全体) 仏教とイスラームに関する概論的テキストを使って、それぞれの教義の中核となるものを講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 テキストを紹介し、授業の目標、進め方、評価の仕方等について説明する。
- 第2回 項目 イスラームとは何か 内容 イスラーム世界と日本
- 第3回 内容 イスラームの歴史
- 第4回 内容 信仰
- 第5回 内容 実践
- 第6回 内容 分派
- 第7回 内容 神秘主義
- 第8回 内容 イスラームの近代
- 第9回 項目 仏教とは何か。 内容 ブッダの生涯
- 第10回 内容 ブッダと現代
- 第11回 内容 空について
- 第12回 内容 業について
- 第13回 内容 日本仏教について
- 第14回 内容 受容と変容
- 第15回 項目 総まとめ 内容 「宗教とは何か」について

成績評価方法(総合) 毎回のレポートと最終試験を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書: イスラム教入門, 中村広治郎, 岩波新書; 仏教とは何か, 山折哲雄, 中公新書

開設科目	社会科基礎演習 A	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森下・荒木・山本・外山・貞方				

授業の概要 山口大学周辺地域や山口市を対象としながら、フィールドワークに基づく地域学習の基本的方法を学ぶ。地理学・歴史学・社会学・教育学などを主たる方法とするグループに分かれ、グループ単位で地域調査を進めてゆく。 / 検索キーワード 地域調査 フィールドワーク

授業の一般目標 山口大学周辺や山口市で実際にフィールドワークを行い、その企画や手法についての実践的な能力を身につける。

授業の到達目標 / その他の観点： フィールドワークに対する実践的能力の体得

授業の計画（全体） グループに分かれて地域調査を進める。12月に中間報告会、1月に最終報告会を予定している。また調査の成果を文章化する作業も行う。

成績評価方法（総合） 地域調査の企画、実践、調査結果の口頭発表、報告書の作成など一連の作業を総合的に評価する。

開設科目	社会科基礎演習 B	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩崎・岩本・吉川・松原				

授業の概要 現代社会の諸問題を多角的に検討する。自らテーマを選び、文献等を読み、発表・討議する。
 / 検索キーワード 現代社会、研究方法、レポート作成、議論の技術

授業の一般目標 現代社会の具体的な問題を研究する場合の、デスクワーク的側面の技量を養う。自ら研究問題を選択し、レポートを作成し、発表・検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献選択の方法や講読の仕方を理解できる。 思考・判断の観点：社会の諸問題を考察する際の視角を吟味できる。 関心・意欲の観点：現代社会の諸問題に関心をもつ。
 態度の観点：積極的に討議に参加できる。 技能・表現の観点：レポートを作成し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 各自の研究テーマ、指導担当教員の確定、発表スケジュール作り
- 第 3 回 項目 発表準備
- 第 4 回 項目 発表と討議
- 第 5 回 項目 同
- 第 6 回 項目 同
- 第 7 回 項目 同
- 第 8 回 項目 同
- 第 9 回 項目 同
- 第 10 回 項目 同
- 第 11 回 項目 同
- 第 12 回 項目 同
- 第 13 回 項目 同
- 第 14 回 項目 レポート集約
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） テーマ選択から研究発表・討議、レポート作成提出に至る全過程を総合評価する。欠席・遅刻の多い者は評価対象としない。

メッセージ 遅刻者の入室を禁ずることがある

開設科目	社会科特別研究A I	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	荒木一視・吉川幸男・岩崎好成・森下徹・貞方昇・外山英昭・松原幸恵・山本薫子・岩本光悦				

授業の概要 全教員が担当するゼミ形式の授業で、社会科教育の各分野の専門的な内容のうち、とくに研究方法論について検討する。

授業の一般目標 卒業論文への準備を視野に入れ、社会科教育各分野の研究方法論を取り扱う。

授業の計画(全体) 各教員がそれぞれの受講生のテーマに応じて授業内容を計画する。

成績評価方法(総合) 各教員が実施する演習形式の授業であり、成績評価はそれぞれの方法で行う。

開設科目	社会科特別研究B I	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岩本光悦・松原幸恵・外山英昭・山本薫子・岩崎好成・荒木一視・貞方昇・森下徹・吉川幸男				

授業の概要 全教員が担当するゼミ形式の授業で、社会科教育における各分野の専門的な内容のうち、とくに文献調査法について検討する。

授業の一般目標 卒業論文作成を視野に入れ、社会科各分野の文献調査法を会得する。

授業の計画(全体) 各教員が受講生決定後に、それぞれのテーマに応じた授業計画を作成する。

成績評価方法(総合) 初回到教員それぞれが説明する

開設科目	社会科特別研究A II	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	荒木一視・吉川幸男・岩崎好成・森下徹・貞方昇				

授業の概要 卒業論文作成に直接つながる指導を演習形式で行う。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 卒業論文作成指導

授業の計画(全体) 受講生の卒論テーマに応じて、授業計画を立てる。

成績評価方法(総合) 成績評価法は各教員による(ので、初回にそれぞれで説明する)

開設科目	社会科特別研究 B II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦・松原幸恵・外山英昭・山本薫子				

授業の概要 卒業論文作成に直接つながる指導を個別に行う。 / 検索キーワード 卒業論文作成

授業の一般目標 卒業論文作成指導を行う。

授業の計画(全体) 受講生の卒論テーマに応じて、計画を立てる。

成績評価方法(総合) 成績評価法は各教員による(ので、初回にそれぞれ説明する)

数学教育選修

開設科目	代数学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 線代数学の基礎、とくに掃き出し法と行列式など計算中心の内容。 / 検索キーワード 連立一次方程式、行列式、ランク

授業の一般目標 専門的な数学に必要な基本知識である線形代数学の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：適切に計算が遂行できる知識能力。

授業の計画（全体） 線形代数の基礎を学ぶ。

成績評価方法（総合） テストの結果と出席状況、課題等をもとに、総合的に判断する。

メッセージ 積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。

連絡先・オフィスアワー kitamoto@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	代数学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学 I の単位を取得していることを前提にして、現代数学の基本である線形代数学について解説をする。 / 検索キーワード 線形代数

授業の一般目標 代数学 I で学んだ行列の計算法は理解していることを前提にして、ベクトル空間と線型写像に関する線形代数の基礎的内容を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：抽象的な概念を理解する能力。

授業の計画（全体） 線形代数の基礎的内容を学び、それが行列の理論と密接に関係していることを学ぶ。

成績評価方法（総合） テストの結果と出席状況をもとに、合格と不合格を決定する。

メッセージ 代数学 I の単位を取得していることを受講の条件とします。積極的な姿勢で学習することを希望します。

連絡先・オフィスアワー 水曜日午後

開設科目	代数学 III	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学の基本理論である初等整数論の入門を行う。 / 検索キーワード 初等整数論

授業の一般目標 代数学の基本理論である初等整数論の入門を行い、代数的な考え方を修得するための準備を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：代数的な考え方。

授業の計画（全体） 初等整数論の入門 概ね以下の内容を含む： 互除法、素因数分解、法演算、小定理、暗号

成績評価方法（総合） テスト 出席 = 欠格条件

備考 隔年開講

開設科目	数学講究 I	区分	その他	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学周辺のテキストを用いてセミナー形式で授業を行う。

授業の一般目標 代数学に関連するテキストを用いて、輪講形式で授業を行い、数学的な考え方を育成する。発表を担当する学生自らが、テキストの内容に対する考察を、他の学生なり教官の目にさらすことにより、またそれを受講者が批判することにより、理解や考えを深める。併せて、小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の到達目標 / 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。授業における意見発言等による参加。
技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体） 輪講による発表

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度、発表力、表現力。出席 = 欠格条件

メッセージ 受講希望者が多いときは、必修の者を優先し、残りは1年前期の数学の単位を取得した者を優先して その中から抽選で選びます。

開設科目	集合論 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 現代数学での基本概念である集合論・離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標 数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係・関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト・授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論理や集合についての基本的事項、写像、(同値)関係などの概念を正しく理解している。思考・判断の観点：論理や抽象的な概念を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画(全体) 授業は、論理や集合の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、小テストや授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論理
- 第 2 回 項目 集合と包含関係(その 1)
- 第 3 回 項目 集合と包含関係(その 2)
- 第 4 回 項目 和集合と共通部分(その 1)
- 第 5 回 項目 和集合と共通部分(その 2)
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 集合系
- 第 8 回 項目 対応と写像(その 1)
- 第 9 回 項目 対応と写像(その 2)
- 第 10 回 項目 対応と写像(その 3)
- 第 11 回 項目 直積集合と選出公理
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 同値関係と商集合(その 1)
- 第 14 回 項目 同値関係と商集合(その 2) 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：最初の授業のときに通知する。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	集合論 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 離散数学 I・集合論 I の履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標 離散数学 I・集合論 I で学んだことをもとに、離散数学のいくつかの話題を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：離散数学的思考法を学ぶ。

授業の計画（全体） 離散数学 I で学んだことをもとに、離散数学の中から話題を選び授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明、集合論 I、離散数学 I の理解度確認試験
- 第 2 回 項目 離散数学 I，集合論 I の復習
- 第 3 回 項目 基礎的事項（ 1 ）
- 第 4 回 項目 基礎的事項（ 2 ）
- 第 5 回 項目 基礎的事項（ 3 ）
- 第 6 回 項目 基礎的事項（ 4 ）
- 第 7 回 項目 基礎的事項（ 5 ）
- 第 8 回 項目 基礎的事項（ 6 ）
- 第 9 回 項目 発展的事項（ 1 ）
- 第 10 回 項目 発展的事項（ 2 ）
- 第 11 回 項目 発展的事項（ 3 ）
- 第 12 回 項目 発展的事項（ 4 ）
- 第 13 回 項目 発展的事項（ 5 ）
- 第 14 回 項目 発展的事項（ 6 ）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 授業中演習、レポート、出席状況、期末試験と合わせて総合的に成績を評価する。

メッセージ 数学を学ぶ上での基礎をやりますので、きちんと理解してください。

開設科目	幾何学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 幾何学体系の原点から、現代数学の根本的原理である、公理的論証を学習する。併せて、高等学校では学習しない幾何学があることを認識させる。

授業の一般目標 ユークリッド幾何学を中心とする初等幾何学を公理的に論証することができるようになり、それにより論証能力を身に付ける。また、複素数や線形代数学を幾何学の問題解決へ応用することができるようになり、さらに、定木やコンパスだけを使った作図をすることができるようになる。双曲幾何学などの非ユークリッド幾何学を取り扱うことで、公理の重要性を学ぶ。これにより、初等・中等教育における算数・数学の幾何の内容を習熟する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：幾何学的命題を公理系を用いて論理的に論証することができる。複素数や線形代数学を応用して幾何学的問題を解くことができる。双曲幾何学などの非ユークリッド幾何学との対比により、平行線公理を理解することができる。思考・判断の観点：幾何学的命題の証明の論理構造を説明することができる。1つの幾何学的問題を複素数や線形代数学などの多方面からも解くことができる。関心・意欲の観点：平行線の公理の重要性を認識している。日常生活の中に見られる幾何学的現象を説明することができる。技能・表現の観点：定木やコンパスだけを使った作図をすることができる。

授業の計画(全体) 授業は、ユークリッド幾何を中心とする初等幾何を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。論証能力を身に付けるためには、十分な予習と復習が必要である。そのため、授業中の演習の他に、授業外レポートを提出させる。また、最後の回では、作図問題を解説し、作図に必要な技能と知識を身に付ける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ユークリッド原論
- 第 2 回 項目 有限幾何の公理系
- 第 3 回 項目 公理的論証 1
- 第 4 回 項目 公理的論証 2
- 第 5 回 項目 公理的論証 3
- 第 6 回 項目 平行線の公理 1
- 第 7 回 項目 平行線の公理 2
- 第 8 回 項目 複素数と幾何学
- 第 9 回 項目 双曲幾何学 1
- 第 10 回 項目 双曲幾何学 2
- 第 11 回 項目 双曲幾何学 3
- 第 12 回 項目 作図 1
- 第 13 回 項目 作図 2
- 第 14 回 項目 作図 3
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

メッセージ 作図をしますので、定木とコンパスを用意してください。

開設科目	幾何学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 「距離」や「近さ」の概念は小学校、中学校の算数・数学の学習内容でもある。当講義では、現代数学での基礎概念である距離空間について講義する。さらに、距離空間を抽象化した位相空間についても講義し、位相空間としての幾何学の考え方を学習する。

授業の一般目標 ユークリッド的距離空間を中心に、距離空間の基本的概念を理解する。これにより、ユークリッド空間内の図形の位相的性質について論じることができるようになる。また、これらを一般化した距離空間や抽象化した位相空間について理解し、現代数学の立場から幾何学を考察できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：距離関数を用いて、開集合や閉集合、コンパクト性や連結性などの基本的な事柄を論じることができる。ユークリッド空間内の図形を位相幾何学的に調べることができる。思考・判断の観点：具体的な空間から抽象的な空間への高度な抽象化を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中にある幾何学的現象を位相幾何的立場から説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画（全体） 授業は、距離空間や位相空間の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 位相空間と位相幾何学について
- 第 2 回 項目 距離関数と距離空間
- 第 3 回 項目 内点と触点（その 1）
- 第 4 回 項目 内点と触点（その 2）
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 開集合と開集合系
- 第 7 回 項目 閉集合と閉集合系
- 第 8 回 項目 内部と閉包、および、演習
- 第 9 回 項目 連続写像
- 第 10 回 項目 コンパクト空間
- 第 11 回 項目 連結空間
- 第 12 回 項目 最大値・最小値の定理と中間値の定理
- 第 13 回 項目 位相空間（その 1）
- 第 14 回 項目 位相空間（その 2）と演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：位相入門, 内田伏一, 裳華房, 1997 年

メッセージ 高度な抽象化の理解を必要とするので、「集合論 I」、「集合論 II」を履修しておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー sato@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	幾何学 III	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 曲線・曲面といった身近な図形を対象にして、現代幾何学の考え方、特に、微分幾何学的な考え方や位相幾何学的な考え方、そして、これらの関連について指導する。

授業の一般目標 曲線・曲面の微分幾何学的、位相幾何学的な捉え方を学習し、それにより、現代幾何学における図形の「形」の考え方を学ぶことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 曲線や曲面を用いて、曲率などの微分幾何学的な量や基本群・オイラー標数などの位相幾何学的な量を計算することができ、「形」に対する微分幾何学的、位相幾何学的な考え方を論じることができる。 思考・判断の観点： 具体的な空間から抽象的な空間への高度な抽象化を理解することができる。 関心・意欲の観点： 日常生活の中にある幾何学的現象を微分幾何学的、位相幾何学的立場から説明することができる。 技能・表現の観点： 演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 曲線と曲面の入門
- 第 2 回 項目 曲線と曲線の曲率 (その 1)
- 第 3 回 項目 曲線と曲線の曲率 (その 2)
- 第 4 回 項目 曲面と曲面の曲率 (その 1)
- 第 5 回 項目 曲面と曲面の曲率 (その 2)
- 第 6 回 項目 曲面と曲面の曲率 (その 3)
- 第 7 回 項目 代数学的準備 (群について) (その 1)
- 第 8 回 項目 代数学的準備 (群について) (その 2)
- 第 9 回 項目 ホモトピー
- 第 10 回 項目 基本群 (その 1)
- 第 11 回 項目 基本群 (その 2)
- 第 12 回 項目 曲面の基本群
- 第 13 回 項目 曲面のオイラー標数
- 第 14 回 項目 ガウス・ボンネの定理
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 授業の際に知らせる。

メッセージ 解析学 I・II、幾何学 II を受講しておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー sato@yamaguchi-u.ac.jp

備考 隔年開講

開設科目	数学講究 II	区分	その他	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 幾何学の演習を行う。現行の高等学校数学のカリキュラムとして、線形変換が取り扱われるようになった。受講生は高等学校では十分に学習していない内容である。そこで、ベクトルや線形変換の幾何学に関連する演習問題を取り扱うことにする。これにより、幾何学の内容と考え方を理解させる。また、受講生各自に演習問題の解答を発表させ、これにより、数学の教員としての表現力と指導法を身に付けさせる。

授業の一般目標 演習問題を解答する。また、解答を発表し、その考え方を説明することで、論理的かつ効果的な表現、発表力、さらに、数学の教員としての指導法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 演習問題を解答し、自分の考え方を説明することができる。 関心・意欲の観点： 関連ある数学的話題にも注目し、自らの考えを述べることができる。 技能・表現の観点： 幾何学的内容を論理的に表現することができ、効果的に発表することができる。

授業の計画(全体) 毎週与えられた演習問題を解答し、その考え方を説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 演習と発表(第 1 回)
- 第 2 回 項目 演習と発表(第 2 回)
- 第 3 回 項目 演習と発表(第 3 回)
- 第 4 回 項目 演習と発表(第 4 回)
- 第 5 回 項目 演習と発表(第 5 回)
- 第 6 回 項目 演習と発表(第 6 回)
- 第 7 回 項目 演習と発表(第 7 回)
- 第 8 回 項目 演習と発表(第 8 回)
- 第 9 回 項目 演習と発表(第 9 回)
- 第 10 回 項目 演習と発表(第 10 回)
- 第 11 回 項目 演習と発表(第 11 回)
- 第 12 回 項目 演習と発表(第 12 回)
- 第 13 回 項目 演習と発表(第 13 回)
- 第 14 回 項目 演習と発表(第 14 回)
- 第 15 回 項目 演習と発表(第 15 回)

成績評価方法(総合) 作成されたレポート、発表の内容や授業への取り組み方などから総合的に判断し評価する。

連絡先・オフィスアワー sato@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	解析学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 小学校や中学校の算数・数学でも関数は重要な学習内容であり、解析学では主に関数の性質を調べる。数学の教員として必要な知識を習得するために、解析学の基礎について講義する。主に、解析学の土台である実数の連続性、1 変数関数の連続性と微分・積分について解説する。これにより、関数の基本的な理論背景の理解とともに、微分・積分の計算の修得をはかる。

授業の一般目標 実数の連続性の概念を理解し、数列や一変数関数の極限を説明することができる。一変数関数の微分・積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。1 変数関数の微分・積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：簡単なイプシロン・デルタ論法をすることができる。基本的性質に基づいた数列の極限の計算ができる。連続性や微分可能性を説明することができる。微分法の基本的性質に基づいた微分の計算ができる。テーラーの定理やロピタルの定理を理解し説明することができる。積分の概念を理解し、応用することが出来る。数値解析へ応用することができる。 思考・判断の観点：基本的性質を正しく使うことができる。基本的な定理を正しく使うことができる。 関心・意欲の観点：日常生活の中で微分法・積分法を応用する分野に関心を持つ。 技能・表現の観点：極限の計算や一変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

授業の計画（全体） 授業は、連続性の概念や微分の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は論理的な考証だけでなく正確な計算能力を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 連続関数
- 第 2 回 項目 初等関数
- 第 3 回 項目 論法 その 1
- 第 4 回 項目 論法 その 2
- 第 5 回 項目 関数の微分
- 第 6 回 項目 平均値の定理
- 第 7 回 項目 高次の導関数
- 第 8 回 項目 テーラーの定理
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 定積分と不定積分
- 第 11 回 項目 積分の計算
- 第 12 回 項目 広義積分
- 第 13 回 項目 区分求積法と定積分の応用
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習、小テストの成績、授業外のレポート、および、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年 / 参考書：三宅敏恒著, 微分と積分, 培風館, 2004 年

開設科目	解析学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 解析学 I を前提とし、数学の教員として必要な解析学の基礎を講義する。主に多変数関数の微分・積分について基本的な概念の解説と計算方法を指導する。

授業の一般目標 多変数関数の微分・積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。多変数関数の微分・積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：多変数関数の微分・積分の基本的概念を説明することができる。微分・積分の計算が正しくできる。多変数の関数の性質を微分積分を用いて調べることが出来る。思考・判断の観点：基本的な定理を正しく説明することができ、正しく使うことができる。技能・表現の観点：多変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

授業の計画（全体） 授業は、多変数の微分積分の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は論理的な考証だけでなく正確な計算能力を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 多変数の関数
- 第 2 回 項目 全微分可能性と合成関数の微分 その 1
- 第 3 回 項目 全微分可能性と合成関数の微分
- 第 4 回 項目 高次の偏導関数とテーラーの定理 その 2
- 第 5 回 項目 極値、最大値、最小値
- 第 6 回 項目 陰関数定理
- 第 7 回 項目 重積分 その 1
- 第 8 回 項目 重積分 その 2
- 第 9 回 項目 重積分の変数変換
- 第 10 回 項目 重積分の変数変換
- 第 11 回 項目 線積分とグリーンの定理
- 第 12 回 項目 重積分の応用 その 1
- 第 13 回 項目 重積分の応用 その 2
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習、小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	計算機数学 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 数式処理システムを実際に用いながら、数学の問題を解く。 / 検索キーワード 数式処理

授業の一般目標 数式処理システムを用いて、問題が解けるようになる。

授業の計画(全体) まず、数式処理システムの概要を説明し、その後、微積分学や線形代数の問題を解く。それからグラフィックスやプログラミングについて説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 始めの一步
- 第 3 回 項目 線形代数を扱う
- 第 4 回 項目 微積分への応用
- 第 5 回 項目 簡単なプログラミング(1)
- 第 6 回 項目 簡単なプログラミング(2)
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 グラフィックス(1)
- 第 9 回 項目 グラフィックス(2)
- 第 10 回 項目 方程式を解く(1)
- 第 11 回 項目 方程式を解く(2)
- 第 12 回 項目 方程式を解く(3)
- 第 13 回 項目 方程式を解く(4)
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 試験範囲は授業でやった内容とする
- 第 15 回 項目 予備日 1

成績評価方法(総合) 成績評価は出席、試験、課題を元に総合的に行う。

教科書・参考書 教科書: 適宜指定する。 / 参考書: はやわかり Mathematica, 榊原進, 共立出版, 2000 年

メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

備考 隔年開講

開設科目	数学講究 III	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久・笠井伸一				

授業の概要 代数学・幾何学・解析学周辺の本をテキストとして、輪読形式で受講生の発表学習を行う。
 毎回、発表力と表現力を涵養しながら、数学的素養を学ぶ。更に、数学教師としての基本を学ぶ。

授業の一般目標 テキストの輪読で発表学習を行う。発表力と表現力を涵養しながら、数学的素養を学ぶ。
 併せて、小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の到達目標 / 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。授業における意見発言等による参加。
 技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体）代数学・幾何学・解析学周辺の本をテキストとして、輪読形式で受講生の発表学習を行う。

成績評価方法（総合）授業態度や授業への参加度、発表力、表現力。出席。

開設科目	確率・統計学	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河津清				

授業の一般目標 数理統計学についての基本的知識を理解し、統計学の応用が出来ることを目指す。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数理統計学の考え方
- 第 2 回 項目 1 変量のデータの処理
- 第 3 回 項目 2 変量のデータの処理
- 第 4 回 項目 平均値、分散、相関係数、回帰直線の演習
- 第 5 回 項目 確率論の入門
- 第 6 回 項目 確率変数についての考え方
- 第 7 回 項目 標本分布の例
- 第 8 回 項目 正規分布
- 第 9 回 項目 正規分布から導かれる諸分布
- 第 10 回 項目 統計的推定の考え方
- 第 11 回 項目 平均値の区間推定
- 第 12 回 項目 分布の区間推定
- 第 13 回 項目 統計的検定の考え方
- 第 14 回 項目 母平均に関する仮説検定
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：数理統計入門, 猪野富秋・伊藤正義, 森北出版, 1998 年

備考 集中授業

開設科目	計算機概論 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志・林川基治				

授業の概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。さらに、BASIC 言語を用いてプログラミングの基礎的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード ノートパソコン、WORD、Excel、E-mail、インターネット、BASIC

授業の一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。さらに、BASIC 言語を用いて簡単なプログラムを作成することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算ソフトの利用法：特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。さらに、BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解すること。 思考・判断の観点：表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。 関心・意欲の観点：コンピュータの利用法に興味を持って取り組むことができること。 技能・表現の観点：表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

授業の計画（全体） ノートパソコンを実際に用いて、基本操作を学び、ブラウザ、ワープロ、表計算ソフト、BASIC 言語の使い方を学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 ノートパソコンの基本操作
- 第 3 回 項目 WORD の使い方（基本編）
- 第 4 回 項目 WORD の使い方（応用編）
- 第 5 回 項目 Excel の使い方（基本編）
- 第 6 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 7 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 8 回 項目 BASIC 言語：基礎的事項
- 第 9 回 項目 BASIC 言語：プログラミングの基本
- 第 10 回 項目 BASIC 言語：for 文
- 第 11 回 項目 BASIC 言語：if 文
- 第 12 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 13 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席と課題、期末試験により行う。

教科書・参考書 教科書：WEB 上のテキストを用いる。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	計算機概論 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： UNIX の利用法を理解すること。 思考・判断の観点： C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点： UNIX の利用法について興味を持つこと。

授業の計画（全体） UNIX の基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX 上でのツールを紹介します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに / UNIX の起動と停止
- 第 2 回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第 3 回 項目 UNIX C Shell
- 第 4 回 項目 Vi と Emacs エディタ, UNIX の環境設定
- 第 5 回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第 6 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (1)
- 第 7 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (2)
- 第 8 回 項目 C Shell プログラミングの基礎
- 第 9 回 項目 C Shell 変数の利用と演算
- 第 10 回 項目 C Shell プログラミング (1)
- 第 11 回 項目 C Shell プログラミング (2)
- 第 12 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (1)
- 第 13 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987 年； UNIX プログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985 年； たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1990 年； 続・たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1993 年； プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンに UNIX がインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13 時 ~ 15 時

開設科目	計算機概論 III	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： UNIX の利用法を理解すること。 思考・判断の観点： C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点： UNIX の利用法について興味を持つこと。

授業の計画（全体） UNIX の基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX 上でのツールを紹介します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに / UNIX の起動と停止
- 第 2 回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第 3 回 項目 UNIX C Shell
- 第 4 回 項目 Vi と Emacs エディタ, UNIX の環境設定
- 第 5 回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第 6 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (1)
- 第 7 回 項目 UNIX におけるネットワークの利用 (2)
- 第 8 回 項目 C Shell プログラミングの基礎
- 第 9 回 項目 C Shell 変数の利用と演算
- 第 10 回 項目 C Shell プログラミング (1)
- 第 11 回 項目 C Shell プログラミング (2)
- 第 12 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (1)
- 第 13 回 項目 UNIX における様々なツールの利用法 (2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987 年； UNIX プログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985 年； たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1990 年； 続・たのしい UNIX, 坂本文, ASCII, 1993 年； プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンに UNIX がインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13 時 ~ 15 時

開設科目	グラフ・ネットワーク理論	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。

授業の一般目標 グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) グラフの基本定義や性質を紹介し、関連の証明法やアルゴリズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 2 . グラフの基本 定義
- 第 3 回 項目 3 . 道、閉路、木 グラフなどの概念
- 第 4 回 項目 4 . 木グラフの性 質およびその証明
- 第 5 回 項目 5 . グラフの平面 性
- 第 6 回 項目 6 . グラフの彩色
- 第 7 回 項目 7 . 有向グラフの 基本定義と性質
- 第 8 回 項目 8 . 幅優先探索と 深さ優先探索
- 第 9 回 項目 9 . マッチング
- 第 10 回 項目 10 . ネットワーク フロー
- 第 11 回 項目 11 . 最大フロー計 算アルゴリズム
- 第 12 回 項目 12 . 最短、最長経 路問題のアルゴリ ズム
- 第 13 回 項目 13 . 通信ネットワ ークにおける経路 決定問題
- 第 14 回 項目 14 . 経路決定問題 のアルゴリズム
- 第 15 回 項目 15 . 総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートおよび試験で評価する

教科書・参考書 教科書： グラフ理論入門, R.J.Wilson, 訳者:西関, 近代科学社

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	関口靖広				

授業の概要 数学教育における研究の入門的経験を行なう。

授業の一般目標 数学教育における研究の内容や進め方について基本的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 数学教育における研究の内容や進め方について基本的な理解を得る。 思考・判断の観点： 数学教育における研究の内容や進め方について基本的な判断ができる。 態度の観点： 研究にたいする主体的で真剣な態度を養う。 技能・表現の観点： 研究のまとめ方と発表の仕方を習得する。

授業の計画(全体) 研究のテーマについては、教員と学生の話合いによって決定する。その後、研究テーマに関連した文献をセミナー形式で読んで話し合う。年度の終了時に研究成果をまとめ、他の学生の前で発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究課題の設定 内容 研究課題を設定する
- 第 2 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 3 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 4 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 5 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 6 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 7 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 8 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 9 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 10 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 11 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 12 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 13 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 14 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 15 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 16 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 17 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 18 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 19 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 20 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 21 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 22 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 23 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 24 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 25 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 26 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 27 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 28 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 29 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。
- 第 30 回 項目 セミナー 内容 受講生が各自調べてきたことを発表する。

成績評価方法(総合) セミナー形式なので、セミナーへの貢献度や態度を重視して評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学のセミナーである。セミナーの形式は、概ね輪講形式で、代数学周辺のテキストをもとに受講生が発表し、それを全員で討議するという形をとる。

授業の一般目標 発表を担当する学生自らが、諸問題に対する考察を、他の学生なり指導教官の目にさらすことにより、またそれを受講者が批判することにより、自分の問題に対する理解や考えを深めていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題に対する理解 態度の観点：問題を考察する態度

授業の計画(全体) セミナー形式

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 位相幾何学や代数幾何学のような幾何学の内容から、各自が選択したものについて研究し、幾何学の内容と考え方を理解させる。受講生各自に研究テーマを与え、その問題解決のために考察した内容を発表させる。これにより、幾何学の内容の理解を深めるとともに、数学の教員としての表現力と指導法を身に付けさせる。また、発表のためのレジュメなどの資料の作り方やプレゼンテーションの方法などについても指導する。

授業の一般目標 指定された教科書を熟読し、そこに書いてある内容を発表するセミナー形式で行う。これにより、論理的かつ効果的な表現、発表力、さらに、数学の教員としての指導法を習得する。発表のプレゼンテーションの仕方などについても学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門書に書いてある内容を理解し、論理的に説明することができる。 思考・判断の観点：関連ある数学的課題にも注目し、自らの考えを述べることができる。 関心・意欲の観点：幾何学的内容を論理的に表現することができ、効果的に発表することができる。 技能・表現の観点：数学的内容やその発表の仕方、プレゼンテーションの仕方などを効果的に行うことができる。

授業の計画(全体) 与えた幾何学的テーマについて、その内容を理解させ、論理的な表現・効果的な発表ができるように指導する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 2 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 3 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 4 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 5 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 6 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 7 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 8 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 9 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 10 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 11 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 12 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 13 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 14 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 15 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 16 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 17 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 18 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 19 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 20 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 21 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 22 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 23 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 24 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 25 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 26 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。
- 第 27 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。

第 28 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。

第 29 回 項目 セミナー 内容 研究テーマについて考察したことを発表する。

第 30 回 項目 卒業研究発表 内容 卒業研究内容を発表する。

成績評価方法 (総合) 授業態度、発表の仕方、および、卒業研究発表会における資料の作成、プレゼンテーションの内容などにより、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：研究テーマを受講生と相談して決定するので、そのテーマ内容に応じた教科書を選択する。

連絡先・オフィスアワー sato@yamaguchi-u.ac.jp

理科教育選修

開設科目	物理学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学の基本ともいえる力学分野を学ぶ。 / 検索キーワード 力学

授業の一般目標 簡単な力学現象(放物運動、円運動、振り子、単振動など)が運動方程式で取り扱えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 速度、力、エネルギーなど日常的に使われている言葉を物理学ではどのように定義するか学ぶ。運動方程式を理解する。 思考・判断の観点: 数式を使って自然を記述する方法があることを理解する。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。学期の前半は物理的な概念の形成を主題にして授業を行う。後半は数式を用いながら簡単な微分積分を使い質点系の力学の学習をする。復習を怠ると、後半の授業に困難を感じることもあるので十分注意すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 物理量と単位
- 第 2 回 項目 座標・位置・速度
- 第 3 回 項目 ベクトル
- 第 4 回 項目 力・力の釣り合い
- 第 5 回 項目 運動・加速度
- 第 6 回 項目 運動の法則
- 第 7 回 項目 微分積分
- 第 8 回 項目 運動方程式
- 第 9 回 項目 運動量と運動量 保存則
- 第 10 回 項目 仕事・位置エネルギー
- 第 11 回 項目 エネルギー保存則
- 第 12 回 項目 円運動
- 第 13 回 項目 単振動
- 第 14 回 項目 角運動量
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 毎回の小テストと期末テスト及びレポートによって判断する。小テストは出席も兼ねる。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 必要に応じて授業で指定。

連絡先・オフィスアワー 電話 5343 研究室 222 番

開設科目	物理学概論 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 電磁気学分野を学ぶ。電磁気では、電荷や電流から作り出される空間の性質の変化(場)という非常に抽象的なものを取り扱うため、具体的なイメージを浮かべることが難しい。しかし、我々は日常生活において電磁気による恩恵を受け、多くの現象を経験している。例えば、衣類を擦ったときや絨毯の上を歩いたときに、静電気が起こる。また、目で見える光の本質も、電磁波という電磁気現象の一つである。/ 検索キーワード 電荷、電場、電位、電流、磁場、電磁誘導、コンデンサー、コイル、電気回路、電磁場のエネルギー、電磁波、光

授業の一般目標 自然現象を通して、電磁気や光の基本的な法則を理解する。また、それらの基本的な法則が数学的に簡潔な形式で記述されることを学び、そのような記述が自然の理解に有効であることを認識する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：電磁気の基本法則を説明できる。 思考・判断の観点：自然現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。 関心・意欲の観点：理科の中の物理教育に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：知識のない問題にも粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点：物事を論理的に説明することができる。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。3 段階に分けて学習する。第 1 段階ではクーロンの法則など電磁気現象の基本概念を学ぶ。第 2 段階ではコンデンサーやコイルなどを基本法則の応用として学ぶ。第 3 段階では電気回路やモータ・発電機などの実用面での応用を学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 場と力 内容 力の媒介を空間の性質に帰着させることができる(場の導入)
- 第 2 回 項目 静電気 内容 クーロンの法則、電場、電位
- 第 3 回 項目 電流 内容 電荷の保存とキルヒホッフの法則
- 第 4 回 項目 電流の磁気作用 内容 磁石の磁気と同じ性質を持った場が電流によってもたらされる。
- 第 5 回 項目 電磁誘導 内容 磁場との相対運動が電気的作用を引き起こす。
- 第 6 回 項目 電束電流 内容 真電流の磁気作用は不完全なものであり、それを補うために電束電流を導入。これは後に電磁波の予言に導く。
- 第 7 回 項目 コンデンサー 内容 コンデンサーを基に電場の持つ(電場に蓄えられた)エネルギーを考える。
- 第 8 回 項目 ソレノイドコイル 内容 ソレノイドコイルは鉄心にコイルを巻いて電磁石を作るときのそれである。これを用いて磁場の持つ(磁場に蓄えられた)エネルギーを考える。
- 第 9 回 項目 電気抵抗、コンデンサー、コイルの合成 内容 複数の電気素子をもつ電気回路を念頭に電気抵抗、コンデンサー、コイルの合成を考える。
- 第 10 回 項目 相互誘導 内容 電磁誘導が複数のコイルにまたがって起きる場合の法則と応用。
- 第 11 回 項目 交流 内容 電流の向きが周期的に変化する交流は発電・変圧等を可能にし実用上有用である。
- 第 12 回 項目 LC 回路 内容 コンデンサーやコイルを含む簡単な電気回路を学ぶ。
- 第 13 回 項目 誘電体や磁性体 内容 すべての物質は電場や磁場に作用する。特にその作用が大きい物質は実用上有用である。
- 第 14 回 項目 電磁波 内容 光を含む電磁波の伝播は、電磁場の基本性質から推測される。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席, レポート, 期末試験で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：授業で適宜指定する

メッセージ 電気磁気は目に見えないものであるからなかなか実感することが難しい。そのため簡単なものに限るが数式を用いるのは避けられない。できるだけ「物理学概論Ⅰ」を履修しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 電話内線 5343 研究室 222 番

開設科目	物理学概論 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古川浩				

授業の概要 温度や熱の概念；理想気体の性質；熱量、仕事、エネルギーの関係（熱力学第一法則）やエントロピーの性質（熱力学第二法則）；熱現象と原子・分子の集団運動、を勉強したのち、分子・原子の統計的な性質も学ぶ。

授業の一般目標 熱現象を通して、多数の集団が持つ物理的性質について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 温度、圧力、体積など物体の状態を表す量の理解。熱量、仕事、内部エネルギーの間の関係や、エントロピーの概念を理解する。統計力学的概念の理解。 思考・判断の観点： 身の回りの物質は無数の分子・原子から構成されており、このことが温度圧力などの全体的性質を生み出していることなどを理解する。また無数の分子・原子から構成されたものに対して普遍的な見方が可能であることを理解する。

授業の計画（全体） 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。学期の前半身の回りの現象を取り上げて授業を行う。後半は熱力学第一法則、第二法則や統計力学の基礎を学ぶ。復習を怠ると、後半の授業に困難を感じることもあるので十分注意すること。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回 項目 温度・熱量

第 5 回 項目 固体・液体の熱膨張

第 6 回 項目 気体の熱膨張 理想気体

第 7 回 項目 熱容量・比熱

第 8 回 項目 熱伝導・熱伝達

第 9 回 項目 仕事・熱量・内部エネルギー・熱力学第一法則

第 10 回 項目 エントロピー 内容 エントロピーの導入

第 11 回 項目 熱力学第二法則 内容 エントロピーの性質から熱力学の法則を導く

第 12 回 項目 気体分子の速度分布則 内容 理想気体の速度分布則

第 13 回 項目 ボルツマン分布 内容 理想気体の確率分布則

第 14 回 項目 統計力学の原理 内容 一般的な確率分布則

第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 小テスト（出席）、期末試験、レポートで評価する。

教科書・参考書 参考書： 参考書は適宜連絡する。

連絡先・オフィスアワー 電話 5343 研究室 222 番

開設科目	現代物理学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 相対論、量子論を主体に、20世紀以降発展した現代物理学の基礎について学ぶ。それらが発展した歴史的背景についても学ぶ。それらと現代科学技術のかかわりについて学ぶ。 / 検索キーワード 相対論 量子論

授業の一般目標 感覚的理解が困難な相対論や量子論が生まれた背景と、それが正しく自然を記述していることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ニュートン力学と相対論や量子論的力学の違いを理解する。その他の観点：非日常的側面が強い現代の物理法則が現代科学技術の基礎をとなっていることを理解する。

授業の計画（全体） ニュートン力学以前の自然観とニュートン力学の誕生。ニュートン力学の破綻と相対論、量子論の誕生。現代科学技術の基礎としての現代物理学。これらを歴史的な背景を眺めながら学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 古典的物理学の発展と破綻
- 第2回 項目 同上
- 第3回 項目 同上
- 第4回 項目 同上
- 第5回 項目 主として相対論
- 第6回 項目 同上
- 第7回 項目 同上
- 第8回 項目 同上
- 第9回 項目 同上
- 第10回 項目 主として量子論
- 第11回 項目 同上
- 第12回 項目 同上
- 第13回 項目 同上
- 第14回 項目 同上
- 第15回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：適宜提示する。

開設科目	物理学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学の全分野の演習問題を解く。 / 検索キーワード 物理学演習

授業の一般目標 演習問題を集中的に解くことによって物理的な思考方法とスキルを身につける。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：物理的な思考方法とスキルを身につける。

授業の計画（全体）力学分野から始めて、熱、波動、電磁気分野の演習問題を解く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回 項目 演習問題

第 5 回 項目 演習問題

第 6 回 項目 演習問題

第 7 回 項目 演習問題

第 8 回 項目 演習問題

第 9 回 項目 演習問題

第 10 回 項目 演習問題

第 11 回 項目 演習問題

第 12 回 項目 演習問題

第 13 回 項目 演習問題

第 14 回 項目 演習問題

第 15 回 項目 レポート作成

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：授業で提示する。

開設科目	物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古川浩、源田 智子、糸長 雅弘、野村 厚志				
<p>授業の概要 物理学における基礎的な分野から物性、光、音、電磁気に関する 11 テーマの実験を行い、実験結果を解析しレポートで報告する。また、コンピュータを活用し物理学の原理を理解する。 / 検索キーワード 物理学、物理学実験、基礎物理学</p> <p>授業の一般目標 物理学実験によって、基礎的な物理分野における原理・概念を確認し、理解することができるようになる。得られた結果を検討考察し、報告することによって、原理・概念について説明することができるようになる。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実験の目的・原理を理解することができる。実験指針に基づき仮説をたて、実証することができる。原理と実験結果とを関連づけて、その実験の妥当性を考察することができる。 関心・意欲の観点： 本授業で行った内容と、小・中学校で扱われている項目・実験を比較検討し、小・中学校でできる実験を組み立てることができる。 態度の観点： 実験書だけでなく、既習事項や参考書により、実験をより理解し、同テーマに取り組んでいる者と相互に教示し、協力することができる。 技能・表現の観点： 実験書で扱われる実験機器を操作することができる。</p> <p>授業の計画 (全体) 実験は物性、光、音、電磁気に関するテーマとコンピュータ活用に関して1テーマを行う。第1回目にオリエンテーションを行い、測定方法やレポートの書き方など一般的な注意と各テーマの注意事項について説明し、統一テーマとして「オームの法則」の実験を行う。後は1テーマ2名ずつテーマ毎に実験を行い、レポートにより報告する。最終2回分でコンピュータを用いた全体講義・演習を行う。(以下は授業時間13時間の場合)</p> <p>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション オームの法則 内容 物理における測定方法、測定値の扱い方、レポートの書き方など。各テーマの注意点。全体テーマとしての「オームの法則」実験。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。授業記録 実験書を配布。</p> <p>第2回 項目 各実験テーマについて個々に実験を行う。(1テーマ2名ずつ) 内容 各テーマは以下の通り。・電流と磁界、・コンデンサー、・ダイオード、・トランジスタ、・オシロスコープ、・気柱の共鳴、・屈折率の測定、・ニュートンリング、・比重の測定、・剛性率測定、・地磁気の水平分力 etc。授業外指示 実験書をよく読んでおくこと。</p> <p>第3回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第4回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第5回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第6回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第7回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第8回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第9回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第10回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第11回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上</p> <p>第12回 項目 コンピュータ活用 内容 コンピュータを用いて身近な物理現象をシュミレーションする。授業外指示 各自ノートパソコンを持参。</p> <p>第13回 項目 コンピュータ活用 内容 コンピュータを用いて身近な物理現象をシュミレーションする。授業外指示 各自ノートパソコンを持参。</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>					

成績評価方法 (総合) 各テーマ毎にレポートを、期限 (2 週間) 内に提出すること。欠席の場合は適宜補講を行う。出席、実験への取り組み方、レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。第 1 回目の授業時に実験書を配布する。 / 参考書：高校物理の教科書、参考書および図書館にある初歩的な物理実験書を参考にするとよい。

開設科目	化学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村上清文・和泉研二・源田智子				

授業の概要 無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標 無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点：物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。 関心・意欲の観点：化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

授業の計画（全体）無機化学、有機化学および物理化学の各領域で5週づつ講義を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに - 化学の領域 -
- 第2回 項目 原子の構造と元素の周期表
- 第3回 項目 化学変化と原子・分子
- 第4回 項目 水溶液とその性質
- 第5回 項目 化学平衡
- 第6回 項目 無機物質の種類とその性質
- 第7回 項目 有機化合物の種類とその性質
- 第8回 項目 天然の化合物と合成品
- 第9回 項目 新素材の化学とその利用
- 第10回 項目 地球環境と化学
- 第11回 項目 物質の状態
- 第12回 項目 エネルギー、仕事、熱
- 第13回 項目 熱力学第一法則と状態関数
- 第14回 項目 化学現象を熱的・エネルギー的にとらえることの意義
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合）各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992年；岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』, 桜井秀樹, 岩波書店, 2001年

開設科目	無機化学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 酸塩基平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、錯イオン平衡を学習した後、溶液の構造を原子・分子レベルから学習する。 / 検索キーワード 溶液化学、溶液構造、酸塩基平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、錯イオン平衡

授業の一般目標 溶液内イオン平衡の理論と計算法を習得し、定量的な取り扱いができるようになる。溶液の構造、溶液内の化学反応を原子・分子レベルで理解し、化学的に説明できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：溶液構造を理解し、説明できる。溶液内イオン平衡の理論を理解し、適切な定量的取扱いができる。 思考・判断の観点：実験条件と理論のおよぶ範囲とを適切に判断できる。 関心・意欲の観点：溶液内の諸現象に関し、原子・分子レベルでの関心を持つ。

授業の計画(全体) 酸塩基平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、錯イオン平衡について、教科書の該当頁を解説する。適宜、レポートや小テストを行なう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 溶液内化学平衡の基礎・酸塩基平衡(I) 授業外指示 教科書で理解できないところは、さらに参考書や辞典によって調べること。

第 2 回 項目 酸塩基平衡(II)

第 3 回 項目 酸塩基平衡(III)

第 4 回 項目 沈殿平衡(I)

第 5 回 項目 沈殿平衡(II)

第 6 回 項目 酸化還元平衡(I)

第 7 回 項目 酸化還元平衡(II)

第 8 回 項目 錯生成平衡(I)

第 9 回 項目 錯生成平衡(II)

第 10 回 項目 溶液の構造(I)

第 11 回 項目 溶液の構造(II)

第 12 回 項目 錯体の構造と性質(II)

第 13 回 項目 錯体の構造と性質(II)

第 14 回 項目 まとめ

第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 各観点をもとに総合的に評価する。出席を重視する。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配付する。 / 参考書：溶液反応の化学(6刷), "大滝仁志, 田中元治, 舟橋重信著", 学会出版センター, 1994年; イオン平衡: 分析化学における, "H.Freiser, Q.Fernando 共著; 藤永太郎, 関戸栄一共訳", 化学同人, 1967年; 溶液内イオン平衡: 理論と計算, "Allen J.Bard 著; 松田好晴, 小倉興太郎共訳", 化学同人, 1975年; 溶液の化学(新化学ライブラリー / 日本化学会編), 大滝仁志著, 大日本図書, 1987年; "イオンの水和(化学 one point / 谷口雅男, 妹尾学編; 26)", 大瀧仁志著, 共立出版, 1990年; 「溶液反応の化学」大滝仁志, 田中元治, 舟橋重信著, 学会出版センター。「イオン平衡」H.Fernando, Q.Fernando 著, 藤永, 関戸訳, 化学同人。「溶液内イオン平衡」A.J.Bard 著, 松田, 小倉訳。「溶液の化学」大瀧仁志著, 裳華房。化学 One Point 「イオンの水和」大瀧仁志著, 共立出版。

メッセージ 化学反応の中でも溶液内の反応は極めて重要であり、ほとんどの化学教育の題材に関係します。溶液中での化学反応を理解し定量的に取り扱えなければ、学校現場で責任ある教育指導を行なうことはできません。自分の身に付くように理解しながら学習を進めて下さい。

連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 1 階

開設科目	物理化学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上清文				

授業の概要 本講義では、熱力学の法則をはじめとした化学熱力学の基本概念とその化学における応用について講義する。エネルギー、エントロピー、自由エネルギー、化学平衡などの概念の導入とその種々の化学現象理解への適用について述べる。

授業の一般目標 講義を通じて、化学熱力学の諸概念を学び、これらが、いかに多くの現象を統一的に理解可能にするかを理解する。さらに、地球規模の環境を深くとらえ考察する上での重要性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：化学熱力学の諸概念をに付いての基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点：化学熱力学の諸概念を問題に応用することができる。 関心・意欲の観点：化学熱力学の法則等が日常の生活に密接に関わっていることに、関心をもつ。

授業の計画(全体) 化学熱力学を学ぶ必要性の説明から始め、第1・第2・第3の三つの法則の意味とその化学現象への応用を述べる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 エネルギーと熱力学第一法則
- 第2回 項目 エントロピー概念と熱力学第二法則
- 第3回 項目 熱機関
- 第4回 項目 自由エネルギー概念と平衡
- 第5回 項目 化学平衡 I
- 第6回 項目 化学平衡 II
- 第7回 項目 中間試験
- 第8回 項目 熱力学関数 I
- 第9回 項目 熱力学関数 II
- 第10回 項目 理想溶液 I
- 第11回 項目 理想溶液 II
- 第12回 項目 束一的性質(凝固点降下、沸点上昇、浸透圧)
- 第13回 項目 非理想溶液と活量
- 第14回 項目 化学熱力学から見た現代文明と地球環境
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 出席、小課題、試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992年

メッセージ 化学概論を受講していることが望ましい。

開設科目	有機化学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	源田智子				

授業の概要 有機化学の基礎となる分子の性質や化学反応性について説明する。また日常の身近な事象を題材に、生活環境と科学の原理や概念との関連づけができるように解説する。

授業の一般目標 基本的な有機化合物の結合様式や反応を学び、物理的・化学的性質について理解する。また簡単な生体分子や代謝経路について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 基礎的な有機分子の命名法を理解し説明できる。 2. 有機分子の構造や反応性を説明できる。 3. 簡単な生体分子について理解し、その構造や代謝経路について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 有機化学物質の構造や反応を「電子の流れ」によって説明できる。 2. 身の回りの物質や日常生活の諸現象を化合物の物性と関連づけて理解できる。 関心・意欲の観点： 日常生活における現象や物質について科学的な見方ができるようになることで、理科教育における児童・生徒の生活経験に即した物質観の育成に寄与できる。

授業の計画（全体） 授業は高校までに習った事項を復習しながら、基本的な物質毎に毎時その命名法から構造、反応について説明していく。理解の程度を見極めるために適宜レポートを課す。レポートの解説は講義の中で行い、その内容と講義内での説明に応じて期末試験を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 有機化学とは、炭素原子の電子状態 内容 結合と電子軌道について
- 第 2 回 項目 有機化合物の性質-アルカン 内容 アルカンの命名法と構造、官能基について
- 第 3 回 項目 有機化合物の性質-アルケンとアルキン 内容 命名法と構造や性質について
- 第 4 回 項目 アルケンとアルキンの反応 内容 付加反応について
- 第 5 回 項目 芳香族化合物、ハロゲン化アルキル 内容 命名法と構造や性質について
- 第 6 回 項目 アルコール、フェノール、エーテル 内容 命名法と構造や性質について
- 第 7 回 項目 アルデヒドとケトン；求核付加反応 内容 命名法と構造や性質及び、付加反応について
- 第 8 回 項目 カルボン酸とその誘導体 内容 命名法と構造や性質について
- 第 9 回 項目 アミン、染料の化学 内容 ペ - パ - クロマト
- 第 10 回 項目 生体物質；炭水化物および糖 内容 構造および性質について
- 第 11 回 項目 生体物質；アミノ酸、タンパク質 内容 構造および性質について
- 第 12 回 項目 代謝経路
- 第 13 回 項目 身の回りの化学物質
- 第 14 回 項目 演習 内容 数題の課題を授業中に回答、レポートの提出
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 授業全体を通じての質問事項を回答する

成績評価方法（総合） 適宜課すレポートと出席、期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書： 配付プリントに従って行う。 / 参考書： なっとくする有機化学, 秋葉欣哉, 講談社, 2003年； 有機化学概説第5版, マクマリー, 東京化学同人, 2004年； 有機化学概説第5版, マクマリー, 東京化学同人, 2004年； 大学への橋渡し 有機化学, 宮本真敏、斉藤正治, 化学同人, 2006年； 有機化合物命名のてびき, 小川雅彌、村井真二監修, 化学同人, 2004年

開設科目	化学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村上清文, 和泉研二				

授業の概要 化学およびその関連分野を対象として、学生自身で興味ある課題を設定し（比較的短期間で解決可能なものを設定）、文献調査、企画、準備、実験・調査、報告書の作成および発表を行う。課題設定を始めとして、各段階における指導を行う。

授業の一般目標 課題の設定および実験目的設定のポイント、その後の準備・実施段階において種々の場面で必要になる判断の仕方、および、まとめと発表の仕方についての基本概要を理解・身につけ、問題解決の力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 設定課題に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 設定課題に関する実験・調査結果について、適切な分析や評価ができる。 関心・意欲の観点： 設定課題に関連する事象に関心を持つ。 態度の観点： 積極的に課題に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 設定課題遂行に必要な実験・調査技術を体得し実行することができる。 2. 結果を口頭発表およびレポートとして表現することができる。

授業の計画（全体） 課題設定、実験・調査、中間発表と課題の整理、補足実験・調査、最終発表の順に、演習授業を実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 課題設定 1
- 第 2 回 項目 課題設定 2
- 第 3 回 項目 課題設定 3 または実験・調査器具・試薬等の準備
- 第 4 回 項目 実験・調査器具・試薬等の準備
- 第 5 回 項目 実験・調査 1
- 第 6 回 項目 実験・調査 2
- 第 7 回 項目 実験・調査 3
- 第 8 回 項目 実験・調査 4
- 第 9 回 項目 実験・調査 5
- 第 10 回 項目 実験・調査 6 および中間発表準備
- 第 11 回 項目 中間発表
- 第 12 回 項目 補足実験・調査 1
- 第 13 回 項目 補足実験・調査 2
- 第 14 回 項目 補足実験・調査 3 および最終発表準備
- 第 15 回 項目 最終発表

成績評価方法（総合） 出席、課題への取り組み方、レポートおよび発表内容を基に、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 化学実験書, 山大教育、化学教室編, 2004 年

開設科目	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上清文、和泉研二、源田智子				
<p>授業の概要 無機分析化学・有機化学・物理化学の基礎的分野の実験を行い、これに基づいて、実験結果のデータ整理、解析、レポートの作成および発表を行う。</p> <p>授業の一般目標 講義・演習などで得た知識を実験によって実際に自分の手で確認できることが出来る。そしてこの化学実験を通して科学的な態度や問題解決能力を培う。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実験課題に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 実験課題の遂行における実験・調査結果について、適切な分析や評価ができる。 関心・意欲の観点： 実験課題に関連する教育事象を始めとした種々の事象に関心を持つ。 態度の観点： 積極的に実験課題取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 課題遂行に必要な実験技術を修得し実行することができる。 2. 実験結果をレポートとして表現することができる。</p> <p>授業の計画(全体) 授業全体を通して、無機・分析・有機・物理化学の全分野にわたる実験を行い、基礎的知識や技能を修得するとともにレポートとしてまとめる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 安全教育、器具工作 内容 オリエンテーション。器具・試薬の配布&ガラス細工</p> <p>第 2 回 項目 無機定性分析(I) 内容 第1族陽イオンの分離確認</p> <p>第 3 回 項目 無機定性分析(II) 内容 第2族陽イオンの分離確認</p> <p>第 4 回 項目 無機定性分析(III) 内容 第3族陽イオンの分離確認</p> <p>第 5 回 項目 容量分析(I) 内容 酸・塩基中和滴定</p> <p>第 6 回 項目 容量分析(II) 内容 酸化・還元滴定</p> <p>第 7 回 項目 データ解析 内容 パソコンによるデータ解析</p> <p>第 8 回 項目 有機定性反応 内容 たんぱく質の性質</p> <p>第 9 回 項目 有機合成(I) 内容 アゾ染料の合成、ペ-パ-クロマトグラム</p> <p>第 10 回 項目 有機合成(II) 内容 アセトアニリドの合成、精製と融点測定</p> <p>第 11 回 項目 分光光度測定(I) 内容 分光器の原理、測定法、色素の吸収スペクトル</p> <p>第 12 回 項目 分光光度測定(II) 内容 Beer の法則、色素の酸解離</p> <p>第 13 回 項目 物理化学(I) 内容 反応速度、凝固点降下、電導度</p> <p>第 14 回 項目 物理化学(II) 内容 反応速度、凝固点降下、電導度(続き)</p> <p>第 15 回 項目 まとめ・発表・片づけ 内容 まとめた結果の発表、器具返却、廃液処理等 実験ノ-トの提出</p> <p>成績評価方法(総合) 実験の準備状況、実験実施における態度・技能、レポート(毎回提出)内容、発表の仕方、および、出席について、総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書： 化学実験書, 山大教育・化学教室編, , 2004 年</p> <p>メッセージ 各実験は、レポートを提出し「合」の評価を得て終了となる。単位は、すべての課題の終了が前提となる。病気等により行えなかった課題は後日補講を行う。</p>					

開設科目	生物学基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標 生物を構成する物質(糖質,脂質,タンパク質,核酸)の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能,脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生物学の基礎知識を身につける。 思考・判断の観点: 生物の構造と機能の関係を理解する。

授業の計画(全体) 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第一章 序論-生物とは何か?- 内容 生物学の考え方、生物の定義。
- 第2回 項目 第一章 生物とは何か? 内容 生物学の歴史、生物の分類。
- 第3回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。
- 第4回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。酵素について。
- 第5回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞の研究法、細胞小器官について。
- 第6回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。遺伝子について。
- 第7回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。蛋白質合成について。
- 第8回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生体膜について。
- 第9回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生物のエネルギーについて。
- 第10回 項目 中間テスト
- 第11回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞骨格について。筋肉の収縮について。
- 第12回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 単細胞生物と多細胞生物について。
- 第13回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 細胞分裂について。
- 第14回 項目 第五章 動物の反応と調節 内容 興奮の伝導と伝達について。
- 第15回 項目 期末テスト

成績評価方法(総合) レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書・参考書 教科書: ダイナミックワイド図説生物総合版, 東京書籍, 2005年 / 参考書: 細胞の世界, ベッカー、クレインスミス、ハーディン, 西村書店, 2005年; 目で見える生物学, 石原勝敏ら, 培風館, 2004年; 随時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	分子と生命	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 生命活動は分子によって支えられている。この授業では生体を構成する分子が生体の形態と機能を決定し、それらの分子がDNA(遺伝子)によって産制される仕組み、DNAの構造と機能を学ぶ。

授業の一般目標 生命活動の化学的仕組み、それに関わる分子の構造や機能などに関する知識を習得し、DNAを中心とした生命観を理解する。

授業の計画(全体) 生命活動の化学的仕組み、それに関わる分子の構造や機能などに関する知識を習得し、DNAを中心とした生命観を理解するため、教科書また授業において配布する科学的データに基づき、15週に渡って歴史的観点を加えながら系統的に講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 分子と細胞の形態と機能 内容 分子によって細胞や個体の形態や機能(形質)が決定されることを、過去の実験成果を示しながら理解させる
- 第2回 項目 遺伝子の機能 内容 細胞や個体の形質が遺伝子の支配を受けて決定されていることを学ぶ。
- 第3回 項目 遺伝子の化学的構造 内容 遺伝子がDNAであること、また、その化学的構造を学ぶ
- 第4回 項目 遺伝情報の発現(1)転写の仕組みと調節 内容 転写の仕組み、調節機構を学ぶ
- 第5回 項目 第四回と同じ 内容 第四回と同じ
- 第6回 項目 遺伝情報の発現(2)rRNA, tRNAの構造と機能 内容 rRNA、tRNAの構造と機能、転写、その遺伝子について学ぶ
- 第7回 項目 遺伝情報の発現(3)遺伝子暗号 内容 コドン、コードについて学ぶ
- 第8回 項目 遺伝情報の発現(4)翻訳 内容 遺伝子の情報によってどのようにタンパク質が合成されるか学ぶ
- 第9回 項目 遺伝子の複製 内容 遺伝子がどのように複製されるか基本的な仕組み、また、校正、修復機構を学ぶ
- 第10回 項目 遺伝子の高次構造(1)真核生物のDNA 内容 真核生物のDNAの染色体上における実際の配列を学ぶ
- 第11回 項目 遺伝子の高次構造(2)微生物のDNA 内容 レトロウイルスなどの生活感や遺伝子の構造を学び、真核生物との関係を学ぶ
- 第12回 項目 第11回と同じ 内容 第11回と同じ
- 第13回 項目 病気と遺伝子 内容 ガン遺伝子の構造と機能を学ぶ
- 第14回 項目 生物の進化 内容 生物進化の仕組み、理論を学ぶ
- 第15回 項目 分子と進化 内容 分子の進化と個体の進化を、分子進化、中立的分子進化などを痛して学ぶ

成績評価方法(総合) 定期試験(期末試験、中間試験)、課題レポート、授業時における小テスト、出席状況などを通して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 図説生物 総合版, 東京書籍, 2004年

連絡先・オフィスアワー E-mail:habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜13:00~14:30

開設科目	細胞と生命	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 細胞の増殖、生殖、細胞の分化などに関する基礎的現象や理論を、細胞レベルで指導する。

授業の一般目標 細胞の増殖、生殖、細胞の分化などに関する基礎的事項や理論を修得する。

授業の計画(全体) 発生過程を示すビデオや胚の標本等を活用しながら、細胞や分子レベルを中心に、生命の連続性、個体発生・細胞分化の仕組みを、具体的に指導する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 個体発生(1) 両生類の発生 内容 両生類の初期発生において形態がどのように形成されるか学ぶ。
- 第2回 項目 個体発生(2) ヒト、ほ乳類の発生 内容 ホトやほ乳類の初期発生において形態がどのように形成されるか学ぶ。
- 第3回 項目 個体発生(3) さまざまな動物の発生 内容 鳥類、魚類などの初期発生を学ぶ。また、この3回の授業を通じ、初期胚の形態形成に共通する基本的メカニズムを学ぶ。
- 第4回 項目 性の分化 内容 雌雄がどのようにして決まるかを遺伝子、分子、細胞レベルで学ぶ。また、性教育の生物学的側面についても指導する。
- 第5回 項目 細胞分化のメカニズム:誘導 内容 細部分化のメカニズムとしての一次誘導、二次誘導、中胚葉誘導を、遺伝子、分子との関連にも触れながら学ぶ。
- 第6回 項目 第5回に同じ 内容 第5回に同じ
- 第7回 項目 細胞分化のメカニズム:勾配 内容 細部分化のメカニズムとしての勾配説を学ぶ
- 第8回 項目 第6回に同じ 内容 下等な生物に見られる再生、極性、位置情報の現象を通じて細胞分化の機構を学ぶ。
- 第9回 項目 肢の再生・誘導と細胞分化 内容 細胞分化の分子機構を再生や誘導現象をモデルシステムとして扱いながら学ぶ。
- 第10回 項目 遺伝子の機能と体づくり:クローン生物 内容 核移植やクローン生物に関して学習し、細胞分化と遺伝子の関係を学ぶ
- 第11回 項目 遺伝子の機能と体づくり:体作りと遺伝子の働きの変化 内容 体づくり、細胞分化を、赤血球の分化などの現象を通じて、発生と遺伝子活性の変化という観点から学ぶ。
- 第12回 項目 遺伝子の機能と体づくり:体作りと遺伝子の構造の変化 内容 体づくり、細胞分化を、免疫細胞の分化を通じて、発生と遺伝子構造の変化という観点から学ぶ。
- 第13回 項目 第12回に同じ 内容 第12回に同じ
- 第14回 項目 体作りの遺伝子:昆虫の体をつくる遺伝子 内容 ショウジョウバエのホメオボックス遺伝子の構造と機能を学習し、細胞分化、体づくりのメカニズムを学ぶ。
- 第15回 項目 第14回に同じ 内容 第14回に同じ

成績評価方法(総合) 定期試験(中間および期末試験)、小テスト、レポート、出席などを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 図説生物, 東京書籍, 2004年

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00~14:30

開設科目	環境と生物	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 私たちを取り巻く身近な環境を題材に、環境と生物の関係について学習する。

授業の一般目標 生物学の立場から環境問題について考え、生態学の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生物の様々な環境に対する適応法について学び、生態学の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：身近な生物現象のしくみについて考察できる。 関心・意欲の観点：生物と環境との関わりについて、環境問題等近年のトピックスについて考察することが出来る。

授業の計画（全体） 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第一章 序論-環境とは？生物とは？- 内容 生物を取り巻く環境について。
- 第 2 回 項目 第二章 生物進化について 内容 生物誕生の仕組みについて。
- 第 3 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係 内容 環境要因、食物連鎖、適応について。
- 第 4 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 光の要因について。
- 第 5 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 光の要因と生物リズムについて。温度に対する適応について。
- 第 6 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 恒温動物・変温動物の仕組みについて。塩類などに対する生物の適応について。
- 第 7 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 非生物的環境要因と環境問題について。
- 第 8 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 地理的要因について。
- 第 9 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 種内関係について。個体数について。
- 第 10 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 繁殖法について。
- 第 11 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 生殖法と性の進化について。
- 第 12 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 動物の行動範囲と配偶行動について。
- 第 13 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 種間関係について。擬態とカモフラージュについて。
- 第 14 回 項目 第四章 生態系の構造と機能 内容 生態系における物質循環について。
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法（総合） レポート、出席、期末試験を総合的に評価し、判断する。

教科書・参考書 参考書：生態学入門，日本生態学会編，東京化学同人，2004年；生態と環境，松本忠夫，岩波書店，2002年

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	生物学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和・北沢千里				

授業の概要 学校教育における理科教育生物分野の中から、生態学・環境教育・科学史などの分野に関連する論文や著作を輪読す。また、必要に応じて、実習、関連する施設の見学などを行う。

授業の一般目標 論文や著作の内容を理解し、自分自身で問題点を見つけ、それを探求する科学的態度を育成する。また、レポート作成、授業内における発表などを通じて、科学的なスキルやコミュニケーション能力を修得する。

授業の計画(全体) 著作や論文は配布する。内容を査読し、レポートにまとめ、発表する。発表にもとづき、受講者で論議し、理解を深め、また、課題や問題点を明確になるよう指導する。

成績評価方法(総合) レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：大江戸リサイクル事情, 石川英輔, 講談社；大江戸テクノロジー-事情, 石川英輔, 講談社

連絡先・オフィスアワー 阿部弘和 E-mail:habe@yamaguchi-u.ac.jp 933-5352 北沢千里
E-mail:chisak@yamaguchi-u.ac.jp 933-5347

開設科目	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和・北沢千里・某				

授業の概要 海産動物、原生動物、高等な動植物の機能や構造に関する基礎的な観察や実験をする。

授業の一般目標 学校教育において理科生物分野で取り扱われている内容を中心に実験・観察の方法、教材として生物の知識等を理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生物学実験のガイダンス 生物の観察, スケッチのやり方, レポートの書き方
- 第 2 回 項目 顕微鏡の使い方と顕微鏡標本の作り方
- 第 3 回 項目 植物の酵素
- 第 4 回 項目 動物の発生 1)(イモリ, メダカ, カエル)
- 第 5 回 項目 動物の発生 2)(イモリ, メダカ, カエル)
- 第 6 回 項目 植物細胞からの DNA の抽出
- 第 7 回 項目 ダンゴムシの行動学
- 第 8 回 項目 昆虫の体のつくり
- 第 9 回 項目 ミミズの解剖
- 第 10 回 項目 細胞の形と体細胞分裂
- 第 11 回 項目 臨海実習: 海産生物の分類と観察
- 第 12 回 項目 臨海実習: 海産生物の分類と観察
- 第 13 回 項目 生物の細胞膜の性質の観察: 浸透圧の測定
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

メッセージ 臨海実習は休日を利用して集中的に行う予定です。

連絡先・オフィスアワー 阿部弘和(933-5352) 北沢千里(933-5347)

開設科目	地学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武田賢治				

授業の概要 中学校理科天文分野の基礎的事項とともに、新しい宇宙観・惑星像、人間活動が及ぼす地球環境問題について解説する。

授業の一般目標 天文分野で必須の空間概念を修得する。宇宙、恒星、太陽系天体に関する基礎事項を理解する。地球温暖化・オゾン層破壊などの地球環境問題を理解し、主体的に考え、行動することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 天体の位置の表し方や運動を説明できる。 2. 宇宙、恒星、太陽系天体の形成過程や様子などを説明できる。 3. 地球温暖化・オゾン層破壊について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 天体の位置を予測できる。 2. 自然現象を分析的に考えることができる。

関心・意欲の観点： 日常生活の中で、天文現象や地球環境問題に関心をもつ。 態度の観点： 地球環境問題を主体的に考え、行動することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業内容と授業 目標の説明
- 第 2 回 項目 天球と座標 内容 天体の位置の表し方 授業外指示 小課題提示
- 第 3 回 項目 時と暦 内容 時と暦の定義
- 第 4 回 項目 惑星の運動 内容 地球自転による 見かけの惑星運 動、惑星現象、 会合周期、惑星 の運動 法則
- 第 5 回 項目 宇宙の誕生と進 化 内容 膨張する宇宙、 ビッグバン、元 素・銀河の形成
- 第 6 回 項目 恒星（1） 内容 星の距離、明る さ、分類 授業外指示 小課題提示
- 第 7 回 項目 恒星（2） 内容 星の誕生と一生 の過ごし方
- 第 8 回 項目 太陽系天体各論（1） 内容 惑星探査衛星等 による最新の惑 星像の紹介
- 第 9 回 項目 太陽系天体各論（2） 内容 惑星探査衛星等 による最新の惑 星像の紹介、太 陽系の果て
- 第 10 回 項目 太陽系の形成 内容 太陽系惑星の形 成過程 授業外指示 小課題提示
- 第 11 回 項目 地球 内容 地球の誕生過程 と原始地球の様 子
- 第 12 回 項目 太陽放射エネルギー 内容 太陽放射エネル ギーの流れ、そ れに由来する地 球表層現象
- 第 13 回 項目 人間活動と地球（1） 内容 地球温暖化・オ ゾン層破壊の説 明
- 第 14 回 項目 人間活動と地球（2） 内容 地球温暖化対策
- 第 15 回 項目 期末試験

教科書・参考書 参考書：宇宙の科学 天文学入門, 坪田幸政(訳), 丸善, 2003年; 図解雑学 宇宙 137 億年の謎, 二間瀬敏史, ナツメ社, 2003年

連絡先・オフィスアワー takeda@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー金曜日 16:00-17:00

開設科目	固体地球科学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

授業の概要 地震、火山活動、大地の変動は固体地球の内部エネルギーのあらわれである。本講では、この“変動する固体地球”の内部構造、物質科学、表層で生起している諸現象とそのメカニズムなどについて解説する。

授業の一般目標 中学校理科地学分野のうち、とくに「地震」と「火山活動と火成岩」に関わる基礎的事項の理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 地震の発生メカニズムについて説明できる。2. 火山活動の性質と成因について説明できる。3. 火成岩の種類とその多様性の原因を説明できる。 関心・意欲の観点：地球内部に由来するエネルギーによって生起する諸現象に関心をもつ。

授業の計画（全体） 前半は「地震」、後半は「火山活動と火成岩」を扱う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 地震と地震波
- 第 3 回 項目 マグニチュード・震度
- 第 4 回 項目 地震の発生メカニズム、断層
- 第 5 回 項目 地球の内部構造と構成物質
- 第 6 回 項目 プレートテクトニクスの基礎
- 第 7 回 項目 日本列島付近の地震
- 第 8 回 項目 マグマと火山活動
- 第 9 回 項目 火成岩の分類
- 第 10 回 項目 鉱物とは
- 第 11 回 項目 火成岩の多様性を引き起こす原因
- 第 12 回 項目 マグマの成因
- 第 13 回 項目 大地の変動
- 第 14 回 項目 秋吉台の成立過程
- 第 15 回 項目 期末試験

開設科目	地史学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	千々和一豊				

授業の概要 地史学の基本事項、日本列島の地史を理解するための基本事項について、平易に解説する。
 / 検索キーワード 地史、地層、化石、堆積作用、日本列島

授業の一般目標 地球誕生より地質時代を通して地球上に起こった出来事(地史)を理解するとともに、地史の編み方、及び新しい地球観の基づく地球の姿について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地球史における主要な出来事とその背景を説明できる。 関心・意欲の観点：地史の理解を通して、未来の地球像-地球環境について関心を持つようにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 序 (地史の編み方、地史学の自然史観)
- 第 2 回 項目 2 . 地球の年齢 (放射年代測定法)
- 第 3 回 項目 3 . 地球大気と海洋の起源
- 第 4 回 項目 4 . 生命の起源
- 第 5 回 項目 5 . 物質循環と堆積作用(風化・浸食・運搬・沈積・続成作用)
- 第 6 回 項目 6 . 地層を調べる
- 第 7 回 項目 7 . 堆積環境と堆積相
- 第 8 回 項目 8 . 化石の意義
- 第 9 回 項目 9 . 海洋底での出来事
- 第 10 回 項目 10 . 大陸の成長と造山運動- 変動帯の特徴
- 第 11 回 項目 11 . グローバルテクトニクス(プレートテクトニクスからブルームテクトニクスへ)
- 第 12 回 項目 12 . 地球の資源
- 第 13 回 項目 13 . 日本列島の成り立ち(1)
- 第 14 回 項目 14 . 日本列島の成り立ち(2)
- 第 15 回 項目 15 . 試験

開設科目	気象と宇宙	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 地球大気圏の現象と恒星の世界を中心とした天体現象について、中学校と高校の理科を教える場合に必要な科学概念と知識について講義する。 / 検索キーワード 気象 天気 天文 宇宙 星

授業の一般目標 中学校や高校で理科(地学分野)の授業を担当するために必要な気象学と天文学の基礎的な知識と教授方法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 気象学と天文学の基礎的な知識を理解する。 思考・判断の観点: 与えられた気象現象と天体現象を計算やモデルを用いて考察し、分かりやすく説明できる。 関心・意欲の観点: 授業内容以外の科学的事項について興味・関心をもつ。 態度の観点: まじめに積極的に授業に参加する。 技能・表現の観点: 与えられた課題をグラフや図表に表すことができる。

授業の計画(全体) 前半は天体間系、後半は気象関係のテーマを取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要説明と 受講の確認
- 第 2 回 項目 恒星の世界 内容 実視等級と絶対等級
- 第 3 回 項目 恒星の世界 内容 表面温度と恒星の大きさ
- 第 4 回 項目 恒星の世界 内容 HR図と恒星の種類
- 第 5 回 項目 恒星の世界 内容 進化する恒星
- 第 6 回 項目 銀河系宇宙 内容 宇宙の構造と宇宙の年齢
- 第 7 回 項目 大気の科学 内容 大気圏の構造
- 第 8 回 項目 大気の科学 内容 温室効果とオゾン層のはたらき
- 第 9 回 項目 大気の科学 内容 大気の大循環のメカニズム1
- 第 10 回 項目 大気の科学 内容 大気の大循環のメカニズム2
- 第 11 回 項目 日本の天気 内容 梅雨前線
- 第 12 回 項目 日本の天気 内容 夏型の天気と台風
- 第 13 回 項目 日本の天気 内容 冬型の天気
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 与えた課題について作成したレポートに基づいて評価する。

開設科目	地学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武田賢治・千々和一豊				

授業の概要 文献検索、文献講読、実験機器の操作、野外実験などの実践的演習を行う。

授業の一般目標 地学分野の基礎的な概念を学ぶとともに、問題解決のための研究手法を見に付ける。

授業の計画(全体) 1. 研究資料の収集(図書館の利用、文献検索、コンピュータの活用) 2. レポート・卒論の書き方とプレゼンテーション 3. 文献講読 4. 実験試料の作成方法 5. 実験機器の操作 6. 野外実習

開設科目	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治・千々和一豊				

授業の概要 地質、気象および天文に関する基礎的実験、およびコンピュータを活用した実験を行う。

授業の一般目標 地質、気象および天文に関する基礎的実験、およびコンピュータを活用した実験をとおして、地学分野全般にわたる基礎学力を見に付けるとともに、実験計画の立て方やレポートの書き方を習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学レポートの書き方
- 第 2 回 項目 地質図学
- 第 3 回 項目 鉱物の性質
- 第 4 回 項目 岩石の肉眼鑑定
- 第 5 回 項目 偏光顕微鏡観察
- 第 6 回 項目 粒度分析
- 第 7 回 項目 ルートマップ(野外地質調査法)
- 第 8 回 項目 ステレオ投影
- 第 9 回 項目 空中写真による地形判読
- 第 10 回 項目 天体望遠鏡
- 第 11 回 項目 気象要素の測定
- 第 12 回 項目 天気図の作成
- 第 13 回 項目 地学分野におけるコンピュータの活用(1)
- 第 14 回 項目 地学分野におけるコンピュータの活用(2)
- 第 15 回 項目 野外地質巡検 内容 休日実施

開設科目	自然科学特論	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	理科教育全員				

授業の概要 担当教官がそれぞれの専門に即したテーマを提示する。学生の興味・関心に応じて、教官と相談の上、主体的にテーマを設定することも可。

授業の一般目標 物理、化学、生物、地学のいずれかの分野を選択し、専門的テーマを掘り下げて研究し、理解を深める。

授業の計画（全体） それぞれの担当教官が授業計画を立てる。

成績評価方法（総合） それぞれの担当教官が総合的に評価する。

メッセージ その分野の専門科目を多く履修していることが望ましい。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古川浩				

授業の概要 文献講読を通して知識の集積をし、その過程で自分の興味あるテーマを見つける。もしテーマを自分で見つけることが出来ない場合はテーマを提示する。

授業の一般目標 自分で問題を発掘し、自ら計画し、解決する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：資料の収集、知識の修得を自分の計画に沿って行える。 思考・判断の観点：問題点と解決方法の発見が出来る。 関心・意欲の観点：自ら進んで創意工夫が出来る。

授業の計画(全体) 資料収集、文献講読。テーマ発見。テーマとして身近な物理現象を取り上げることが多い。実験を行い結果を数値化することによって現象の本質を明らかにし、出来れば理論的な考察も行う。場合によっては数値シミュレーションを行うこともあり、そのためプログラミングの勉強も行う。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 理科教育一般からテーマを選んで,教材研究・授業評価、授業づくりなどについて研究を行う。
/検索キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育に関するテーマについて、科学的思考を發揮して論文としてまとめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育についての知識理解 思考・判断の観点：論理的思考力
関心・意欲の観点：研究に対する意欲の高さ 態度の観点：積極的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：研究論文としての文章表現と口頭発表能力

授業の計画(全体) 4月から研究を始める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文購読 1 内容 卒論に関係した論文や図書を読んで発表する。
- 第 2 回 項目 論文購読 2 内容 卒論に関係した論文や図書を読んで発表する。
- 第 3 回 項目 論文購読 3 内容 卒論に関係した論文や図書を読んで発表する。
- 第 4 回 項目 論文購読 4 内容 卒論に関係した論文や図書を読んで発表する。
- 第 5 回 項目 統計的手法の実習 1 内容 調査データを統計的に分析する統計手法について学習する。
- 第 6 回 項目 統計的手法の実習 2 内容 調査データを統計的に分析する統計手法について学習する。
- 第 7 回 項目 アンケート調査の準備と実施
- 第 8 回 項目 アンケート調査の準備と実施
- 第 9 回 項目 データの解析 1
- 第 10 回 項目 データの解析 2
- 第 11 回 項目 中間発表
- 第 12 回 項目 データの解析 3
- 第 13 回 項目 卒論発表
- 第 14 回 項目 論文執筆
- 第 15 回 項目 論文執筆

メッセージ 通常の授業科目と違って、卒論研究は学生の主体性を發揮して進めることができます。自分の個性を生かして、積極的にアプローチしてほしいと思います。。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	武田賢治				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査・研究の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査・研究を行ない、その結果を論文をまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査・実験結果のまとめ方と発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについての先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、研究結果に基づいて、自らの考えを論理的に、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： さまざまな問題について、主体的に考えることができ、かつ粘り強く問題解決に立ち向かうことができる。

授業の計画(全体) 卒業論文のテーマが決定したのち、具体的な調査・研究の方法について指導を行う。各自の研究の進捗状況を適宜報告してもらいながら、個別指導により、論文としてまとめることができるように指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	村上清文				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定した課題に応じて、文献等の調査法、実験・研究方法、口頭発表法および論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定した課題について、必要な調査・実験を行い、その結果を論文にまとめることを通して、課題についての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究課題に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点：研究課題の遂行における実験・調査結果について、適切な分析や評価ができる。 関心・意欲の観点：研究課題に関連する教育事象を始めとした種々の事象に関心を持つ。 態度の観点：積極的に研究課題取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1．研究課題遂行に必要な実験・調査技術を体得し実行することができる。 2．研究結果を口頭発表および論文として表現することができる。

授業の計画(全体) 各自の研究課題の設定段階から始めて、具体的な調査・実験方法について指導を行う。各自の研究の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式および個別の指導により、口頭発表および論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 研究課題の解明に向けての、調査・実験への取り組み、および、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテ - マに応じ、背景となる理論・知識、研究の方法、論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテ - マについて、背景となるこれまで得られた研究成果を学びながら、必要な実験観察を行い、結果を論文にまとめる作業を通じて、科学の方法、科学の思考法、科学の理論、科学成果の発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テ - マについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テ - マについて、実験観察の結果に基づいて、自らの考えを論地的に、また、分かりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。 態度の観点： 様々な問題について、情報の収集などに積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 的確な実験観察の手法を身につけ、その結果を適切な図表に作成するなどができる。

授業の計画(全体) 各自のテ - マを決定したのち、具体的な観察実験の方法について指導を行う。各自の研究の進捗状況を把握し、個別に指導、また、共同で開催する、ゼミ、論文の講読会などを通じ、各自の研究についての理解を深めながら、論文としてまとめるよう指導する。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む過程、卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00 ~ 14:30

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	和泉研二				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、設定したテーマに応じて指導を行う。

授業の一般目標 設定されたテーマについて、必要な文献調査、問題点の把握、実験法の検討、実験の実施およびその結果の検討と考察、発表の仕方、論文の書き方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自のテーマに関する先行研究や自らの実験および結果について、適切に説明できる。 思考・判断の観点： 様々な現象に対して科学的な見方考え方ができる。 関心・意欲の観点： 実験を通しておこる様々な現象を、注意深く観察することができる。 観察・実験を通して生じる問題点を適格に把握し関心をもつ。 態度の観点： 様々な問題点について、主体的に解決策を考えていくことできる。 技能・表現の観点： 器具や装置を適切に使えることができる。

授業の計画(全体) 研究テーマ決定のための文献調査を行なった後、具体的なテーマを絞り込む。必要な追加調査や実験計画を立案して、必要な装置や器具の準備や調整を進める。実験法や実験結果の吟味について随時指導を行ない、科学的な研究として纏めていく。中間発表会を経て、最終発表会で研究成果の発表を行う。

成績評価方法(総合) 研究テーマを深く理解し、その研究を進める過程において、自らの力で問題を解決していこうとする日々の姿勢と努力に、評価の重点をおく。さらにセミナー、中間発表(12月下旬実施) 卒論発表会(2月中旬実施)等でのプレゼンテーションと卒業論文(2月中旬提出)の内容を総合的に評価し、最終評価とする。

教科書・参考書 教科書： なし。文献調査が主体となる。 / 参考書： 必要な参考書を適宜調査する。

連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部1階

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	千々和一豊				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行なう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行ない、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方、発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点：調査・研究の過程で新たにみつかった課題に関心をもって、積極的に関与していくようにする。 態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：調査方法、試料の処理方法、実験方法の工夫。わかりやすいプレゼンの工夫。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行なう。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行なう。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	源田智子				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方などについて指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解度を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 必要に応じてテキストを指定する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	北沢千里				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じ、背景となる理論・知識、研究の方法、論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、背景となるこれまで得られた研究成果を学びながら、必要な実験観察を行い、結果を論文にまとめる作業を通じて、科学の方法、科学の思考法、科学の理論、科学成果の発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、実験観察の結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、分りやすく述べることができる。 関心・意欲の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。 態度の観点： 様々な問題について、情報の収集などに積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 的確な実験観察の手法を身につけ、その結果を適切な図表に作成するなどができる。

授業の計画(全体) 各自のテーマを決定したのち、具体的な観察実験の方法について指導を行う。各自の研究の進捗状況を把握し、個別に指導、また、共同で開催するゼミ、論文の購読会などを通じ、各自の研究についての理解を深めながら、論文としてまとめるよう指導する。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む過程、卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

音樂教育選修

開設科目	ソルフェージュ	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 聴音、新曲視唱、リズム叩き、八音記号の読みとり、移調奏を演習する。

授業の一般目標 聴音：基本的な単旋律の書き取り、2声のメロディーの書き取り、和声的な課題の書き取りを習得する。新曲視唱及び八音記号の読みとり：歌唱教材程度の難易度の旋律を正しいリズムと音程で新曲視唱することを習得する。リズム叩き：基礎的なリズム譜を、片手及び両手を用いて、正しくリズム打ちをすることを習得する。移調奏：最終的には、歌唱教材の移調奏による弾き歌いを習得する。

授業の計画（全体） 基礎的な課題から応用力を求められる課題まで、順次演習を発展させる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 新曲視唱、移調奏、八音記号の歌唱、リズム叩き、（聴音） 内容 簡易伴奏による童謡曲の、全調移調、他。
- 第 2 回 項目（同上） 内容 簡易伴奏による童謡曲の、全調移調、他。
- 第 3 回 項目（同上） 内容 イタリア歌曲の移調、他。
- 第 4 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 5 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 6 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 7 回 項目（同上） 内容 ドイツ歌曲の移調、他。
- 第 8 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 9 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 10 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 11 回 項目（同上） 内容 歌唱教材の移調弾き歌い、他。
- 第 12 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 13 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 14 回 項目（同上） 内容（同上）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 各項目の技能が、一定レベルまで習得できている事を評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	独唱 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 発声・呼吸・姿勢など歌うための基本を学ぶ。歌うことに慣れ、自分の声を知る。

授業の一般目標 イタリア古典歌曲を歌うことができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： イタリア古典歌曲集, ,

開設科目	独唱 III	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 1年生に引き続き、発声の研究を深め、豊かな音楽表現を目指す。教材はイタリア古典歌曲に加え、トスティの歌曲を使用する。

授業の一般目標 レガート、スタッカートなどの歌唱表現ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	独唱 IV	区分	実験・実習	学年	4 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 これまでの学習を総合し、豊かな音楽表現を目指す。また、卒業試験に向けて多方面から作品の研究に取り組み、演奏に役立てる。

授業の一般目標 これまでの学習を総合し、豊かな表現ができる。多方面からの作品の研究に取り組むことができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	独唱 IV	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

開設科目	合唱 I(日本の伝統的な歌唱を含む。)	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 小、中、高等学校の合唱教材、コンクール課題曲、宗教曲、古典から現代の作品まで、さまざまなジャンルの作品に触れて合唱経験を積む。

授業の一般目標 様々な合唱曲を歌唱することができる。自らの歌唱力を合唱の形態の中で生かすことができる。

成績評価方法 (総合) 授業への参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	合唱 II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 合唱の指揮、指導を実際に体験することによって、効果的な指導法を研究する。

授業の一般目標 合唱の指揮ができる。総括的な合唱の指導ができる。

成績評価方法 (総合) 授業への参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	合唱 III	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 選曲から、指揮、指導、発表まで、合唱指導を総括する。

授業の一般目標 合唱の指揮ができる。総括的な合唱の指導ができる。

成績評価方法 (総合) 授業への参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	ピアノ I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノの基礎的な技能を習得させるために、練習曲や古典派のピアノ作品を教材として用いて個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された技術トレーニングの課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体）音階、分散和音の演奏等、ピアノの基本技法の習得。 J . S . バッハの作品を中心に多声部奏法の習得 古典派の作品を教材として形式や表現法の習得。

成績評価方法（総合）公開による実技試験を行う。 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5 3 6 3

開設科目	ピアノ I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 ピアノの基礎的な技能の習得の為に、練習曲、J.S. バッハの作品に代表されるバロック期のポリフォニックな作品、及び古典派のピアノ作品を教材として用いて、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週の、技術トレーニングの課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 1. 音階、分散和音等、ピアノの基本技能の習得。 2. 多声部音楽の奏法の習得。 3. 古典派の作品を教材として、主に形式感と基礎的な表現の習得。

成績評価方法（総合） 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	ピアノ II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノ I を履修後の学生を対象に行う授業である。ピアノ I に引き続き、練習曲とバッハのピアノ作品に加えて、ロマン派のピアノ作品を学習する。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

授業の計画（全体）ピアノの基本技法、多声部奏法に加えてロマン派のピアノ作品の演奏表現法の習得。

成績評価方法（総合）（1）公開による実技試験を行う。（2）出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun-n@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5363

開設科目	ピアノ II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 本授業は、ピアノ I からの展開としてロマン派のピアノ作品を教材に用い、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲の表現を探究することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された技術トレーニングの課題を実行し、表現の工夫に取り組む事が出来る。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 1. ピアノ I から引き続いて、基本技能の更なる習熟。 2. ロマン派ピアノ作品の演奏表現の習得。

成績評価方法（総合） 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	ピアノ III	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノ II を履修後の学生を対称に行う授業である。取り上げるピアノ作品はピアノ II に引き続き、練習曲とバッハ、加えて近代・現代までの作品を教材として個別の実技指導を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

授業の計画（全体）ピアノ II の基本技法、多声部奏法に加えて近代・現代のピアノ作品の演奏表現法の習得。

成績評価方法（総合） 1）公開による実技試験を行う。（2）出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun_n@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5363

開設科目	ピアノ III	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 ロマン派から近代・現代までの、幅広い作品に取り組む。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、作品に適したピアノ演奏表現を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲の表現を研究することができる 関心・意欲の観点：毎日の技術トレーニングを実行し、楽曲の表現を自ら工夫することができる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画(全体) ロマン派または近・現代のピアノ作品の演奏表現の習得。

成績評価方法(総合) 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	ピアノ IV	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 本授業はピアノ III を履修後の学生を対象に行う授業である。ピアノ I～III の学習を踏まえ、更にピアノ技能を伸ばしていくための実技指導である。また、この期は教員採用試験と卒業試験に向けての準備を進める。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。 関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。 技能・表現の観点：作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

授業の計画（全体） 不得手のところ、あるいは未習熟のところの演奏表現法の習得。

連絡先・オフィスアワー jun_n@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5363

開設科目	ピアノ IV	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 これまでのピアノ関連の授業で習得した技能の更なる展開を目指す。また、教員採用試験及び卒業研究への準備として、公開の場での演奏にふさわしい曲に取り組む。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技術を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲に適した表現を研究することができる。 関心・意欲の観点：毎日の基礎技術トレーニングを実行し、表現の工夫をすることができる。 技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

授業の計画（全体） 様々な時代のピアノ作品の演奏表現を習得し、公開演奏の機会にそなえる。

成績評価方法（総合） 1. 目的達成のための意識と努力。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	ピアノアンサンブル(伴奏法を含む。)	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 学校現場で最も必要とされる歌唱伴奏の演習を中心に、ピアノ演奏の応用力を習得する。

授業の一般目標 個々のピアノ演奏技能を、学校の授業指導を行う際のスキルとして生かす為に、簡易伴奏とその全調移調、即興演奏等の実践力を身につける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 キーボードハーモニーの演習計画 授業外指示 キーボードハーモニーとその全調移調の練習
- 第 2 回 項目 音楽と身体表現 授業外指示 (同 上)
- 第 3 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 4 回 項目 弾き歌いと簡易伴奏(1) 授業外指示 (同 上)
- 第 5 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 6 回 項目 模擬授業と簡易伴奏 授業外指示 (同 上)
- 第 7 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 8 回 項目 スコアリーディング 授業外指示 (同 上)
- 第 9 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 10 回 項目 弾き歌いと簡易伴奏(2) 授業外指示 (同 上)
- 第 11 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 12 回 項目 連弾によるキーボードハーモニー 授業外指示 (同 上)
- 第 13 回 項目 (同 上) 授業外指示 (同 上)
- 第 14 回 項目 まとめ 授業外指示 (同 上)
- 第 15 回 項目 まとめ 授業外指示 (同 上)

開設科目	管・弦楽器 I	区分	実験・実習	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	西村一				

授業の概要 管楽器の構造と音をつくり出す原理を知って、管楽器の基本的な奏法について学ぶ。

教科書・参考書 教科書：全音吹奏楽器教則本，，

開設科目	管・弦楽器 II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	西村一				

授業の概要 管楽器の取り扱いに慣れ基本的奏法を身につけた段階から一歩進んで、音階、リードの選び方と調整法、腹式呼吸法、アンブシュア、ロングトーン、タンギング、レガート奏法、スタッカート奏法、運指法について学ぶ。

教科書・参考書 教科書：全音吹奏楽器教則本,,

開設科目	管・弦楽器 III	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村一				

授業の概要 音階、腹式呼吸法、基本的奏法に習熟し、アーティキュレーション、フレージング、楽曲の分析・演奏解釈・表現法について学ぶ。

教科書・参考書 教科書：全音吹奏楽器教則本，

開設科目	管・弦楽器Ⅴ	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村一				

授業の概要 これまでに習得した演奏技術や表現力をより深め・養って、より高度な演奏を、特に卒業研究では完成度の高い演奏を追究する。

開設科目	合奏 I(和楽器を含む。)	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	齋藤完 他				

授業の概要 小・中学校の音楽科教育で取り上げられる和楽器の、基本的な演奏技術を習得するとともに音楽にふれ、将来生徒にこれらの楽器や演奏技術を教えたり、これらの楽器の音楽に興味・関心をもたせるための指導法を研究する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 尺八
- 第 2 回 項目 尺八
- 第 3 回 項目 尺八
- 第 4 回 項目 尺八
- 第 5 回 項目 尺八
- 第 6 回 項目 尺八
- 第 7 回 項目 尺八
- 第 8 回 項目 尺八
- 第 9 回 項目 尺八
- 第 10 回 項目 尺八
- 第 11 回 項目 箏
- 第 12 回 項目 箏
- 第 13 回 項目 箏
- 第 14 回 項目 箏
- 第 15 回 項目 箏

成績評価方法(総合) 授業中の実技テスト

メッセージ シラバスはあくまでも目安であり、状況に応じて変更する可能性がある。

開設科目	合奏 II	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	西村順子 他				

授業の概要 小・中学校の音楽科の合奏、課外クラブとしての合奏の指導に必要な基本的な知識や奏法を実際に楽器を持っての実践を通して習得し、さらに、実地指導講師による指導を受けて、指導法の研究を行って将来の教育現場での指導の基盤をつくる。

授業の一般目標 各楽器の特質を知り、合奏の楽しみを知る事ができ、編曲技能を身に付ける。

成績評価方法 (総合) 期末テスト (実技)

連絡先・オフィスアワー 内線 5 3 6 3 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	指揮法実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山田啓明				

授業の概要 音楽教育における合唱や合奏の指揮は、児童・生徒に演奏表現を指導する上で重要な技術である。指揮の意味と役割について考え、指揮の基本図形と運動について知った後、デュナーミクなどの基本的な表現技術、アウフタクトなどの指揮技術、編成に応じた指揮技術、と指揮の基本的な技術を学ぶ。授業はやさしい唱歌や器楽曲を教材に用いながら進める。/検索キーワード 指揮, 指揮法, アンサンブル指導

授業の一般目標 アンサンブルにおいて指揮者が果たす役割を理解し、その基本的な技術である各種の打法による2拍子, 3拍子, 4拍子, 6拍子の基本図形を習得する。さらにフェルマータの振り方, アゴーギクやデュナーミクの表現の仕方を様々な楽曲を実際に指揮することを通して学びながら, プロベ・テクニクと曲の分析や解釈についても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. アンサンブルにおける指揮者の役割と必要な知識, 能力について説明できる。 思考・判断の観点: 1. 分析や解釈をとおして個々の楽曲のテンポ・性格を判断し, それに相応しい指揮の技術を選択できる。 関心・意欲の観点: 1. 様々な音楽上の表現にふさわしい身体表現, 言語表現のありかたについて工夫できる。 態度の観点: 1. 他の受講生の指揮に応じてピアノ演奏や合唱に積極的に参加できる。 技能・表現の観点: 1. 正確な打法, 図形で指揮をすることができる。フェルマータをわかりやすく指揮することができる。またデュナーミク, アゴーギクの変化を的確に表現することができる。 2. その他アンサンブル指導に適切な姿勢, 視線の使い方ができる。

授業の計画(全体) 授業は集中講義で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 指揮の意味と指揮者の役割 内容 指揮とは何か, そして指揮者にとって必要な能力, 知識等についてお話しします。授業外指示 人間の, あるいは生命の同期(シンクロ)する能力について思いをめぐらせてみましょう。
- 第2回 項目 指揮の基本動作その1:「たたき」の1つ振り, 2つ振り 内容 指揮をする場合の姿勢や指揮棒の持ち方, それから「たたき」の1つ振り, 2つ振りの基本図形を『かたつむり』等やさしい唱歌を実際に指揮することを通して実習します。授業外指示 指揮棒を購入しておきましょう。握りがタマネギ型のものがオススメです。お金がない人は菜箸で構いません。
- 第3回 項目 指揮の基本動作その2:「たたき」の4つ振り 内容 「たたき」の4つ振りの基本図形を『手のひらを太陽に』等やさしい童謡・唱歌を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 指揮者にとって, また現場の教師にとってアイコンタクトは大変大事です。教材となる曲は予め暗譜して, 合唱団に対してきちんと視線を送れるようにして下さい。
- 第4回 項目 指揮の基本動作その3:「しゃくい」の2つ振り 内容 指揮の手の運動で「たたき」とともに重要な「しゃくい」の2つ振りの基本図形を『茶摘み』などのやさしい唱歌・童謡を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 教師にとって子どもに対する「言葉かけ」, 「語りかけ」は大変重要なコミュニケーション手段であり, 技術です。同様に指揮者にとって, 単に図形を振るだけではなく, 相手に「振りかける」技術が必要です。是非, 鏡の中の自分に向かって「振りかける」練習を行って下さい。
- 第5回 項目 指揮の基本動作その4:「しゃくい」の4つ振り 内容 「しゃくい」の4つ振りを『めだかのがっこう』等のやさしい童謡・唱歌を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 指揮は単に拍子やテンポを示すだけではありません。フレージングを表現し, どこでプレスをとり, 旋律がどこに向かっているかを示す事ができなければなりません。教材はやさしいですが, 指揮の授業の前に実際に歌って練習しておいてください。場合によっては皆さんの前で一人でアカペラで歌う, といったこともやってもらいます。

- 第 6 回 項目 指揮の基本動作その 5 : 「しゃくい」の 3 つ振り 内容 「しゃくい」の 3 つ振りとアウフタクトで始まる曲の振り方を『おぼろ月夜』等のやさしい童謡・唱歌を実際に指揮することを通して実習しましょう。授業外指示 ここらあたりから、教材もアゴーギクの表現を必要とする芸術性の高いものになってきます。歌詞と音楽が表現しようとしているものについて、さらに音楽の構造についても質問しますので、あらかじめ作品を分析しておきましょう。
- 第 7 回 項目 指揮の基本動作その 6 : フェルマータとリタルダンド 内容 フェルマータとリタルダンドの振り方を学習します。皆さんが大学で音楽を専攻したというだけで、将来避けて通る事が出来ない『Happy birthday to you』の指揮を今の内にマスターしておきましょう。授業外指示 この回では一番お誕生日が近い人を皆で歌ってお祝いします。授業の時に聞きますので教えてください。
- 第 8 回 項目 指揮の基本動作その 7 : 「しゃくい」の 6 つ振り 内容 「しゃくい」の 6 つ振り、前回に続いてフェルマータの振り方を卒業式のスタンダードナンバー『上げば尊し』を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 卒業式を感動あふれるものにできるかどうかは音楽教師の力量にかかっているといっても過言ではありません。リタルダンドのかけ方、フェルマータの延ばし方等、各自で予め工夫しておいて下さい。
- 第 9 回 項目 指揮の動作の応用その 1 : 「A 分割」と「B 分割」 内容 「A 分割」「B 分割」を用いたリタルダンドのかけかたを『ラジオ体操第 1』の前半部分を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 『ラジオ体操』を実際にピアノで弾く事ができたら、子ども達の尊敬を集められる事間違いなし、です。この機会に是非練習して下さい。実際の授業ではピアノ 2 台に 4 人で片手ずつの連弾という変則的な方法で実習を行います。
- 第 10 回 項目 指揮の動作の応用その 2 : デュナーミクとアゴーギク 内容 小節内の急激なデュナーミクを表現する方法やテンポ・レラツィオンを用いたアゴーギクの統一の方法について『ラジオ体操第 1』の後半部分を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 楽曲の指揮において、デュナーミクを表現するためには単に図形を大きくしたり小さくしたりするだけでは不十分です。左手の構え方、右手で振る時に手首、肘、肩のどの関節をメインに使うか、そして姿勢。今、自分の動作が他人にどのように見えているかを、鏡を見ながら研究しておいて下さい。ナルシストであることも指揮者に必須の条件です。
- 第 11 回 項目 指揮の動作の応用その 3 : ウィンナ・ワルツ 内容 曲の中で拍子やテンポを変える事、および「しゃくい」の 1 つ振り、即ちウィンナ・ワルツの振り方を『山のワルツ』を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 前回までで、基本的な動作は全て学び終わっています。指揮者にとって大切なのは曲想に相応しい動作を考える能力です。『山のワルツ』の前奏をどのように振るか、また続くワルツに如何につなげるか。授業で聞きますから予め考えておいて下さい。
- 第 12 回 項目 指揮の動作の応用その 4 : スロー・ワルツ 内容 スロー・ワルツの振り方とアゴーギクの変化の付け方を『エーデルワイス』を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 『エーデルワイス』は中学校の歌唱教材としてしばしば英語でも歌われます。日本語と英語、どちらでも歌えるように予め練習しておいて下さい。
- 第 13 回 項目 指揮の動作の応用その 5 : 2 つ振りによる 6 / 8 拍子 内容 指揮者にとって一番難しいといわれる 2 つ振りによる 6 / 8 拍子の指揮を『おもいでアルバム』や『きよしこの夜』等を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 この分野は実は定まった振り方がまだ確定しているとはいえません。むしろ指揮者ごとに自分がやりやすい図形、振り方で指揮しているのが実情です。いくつかの例や禁じ手等を教えますが、各自自分が一番やりやすい指揮法を模索して下さい。
- 第 14 回 項目 指揮の動作の応用その 6 : より高い芸術表現を目指して 内容 高度な芸術歌曲における表現をいかに指揮で相手に伝えるか、その方法を『夏の思い出』を実際に指揮する事を通して実習しましょう。授業外指示 『夏の思い出』途中でピアノの伴奏音形が変わったり、楽譜に様々な指示が書き込まれています。それらが何を意味するのか、鳴り響く音楽の中で何が実現され

なければならないのか。歌詞と音楽の関係を予め研究しておいて下さい。

第 15 回 項目 実技試験とまとめ 内容 2 日目に実習した『ラジオ体操』を最後に全員 1 人ずつ指揮することを通して実技試験とします。授業外指示 実技試験も大事ですが、一回ごとの授業での指揮も、いわば小テストだと理解して下さい。なお、採点の規準は図形や運動、それから相手とのコンタクト/コミュニケーションが取れているか、それらに加えて子ども達がのびのびと声を出す事が出来る、音楽を引き出せるリラックスした身体状態を実現できているかをも重視します。

成績評価方法 (総合) 授業は受講生全員を合唱団やアンサンブルにみたてて、1 人づつ前に立って指揮をするという形です。一回ごとの指揮を評価するとともに、授業全体の最後に指揮の実技テストを行う。

教科書・参考書 教科書：授業で用いるテキストは予めプリントで配付する。/ 参考書：指揮法教程, 斎藤秀雄, 音楽之友社, 1956 年; Preparatory Exercises in Score Reading, R.O.Morris and Howard Ferguson, Oxford University Press, 1931 年; 指揮法入門, 高階正光, 音楽之友社, 1979 年

メッセージ 教材には様々な唱歌や歌曲を用いるので、予め暗譜で歌えるようにしておくこと。また課題によってはピアノで演奏することも要求される。

連絡先・オフィスアワー 鳴門教育大学芸術系(音楽)教育講座 山田研究室 TEL: 088-687-6461(直通)
E-mail: hyamada@naruto-u.ac.jp

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	音楽通論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力を育成する。 / 検索キーワード 楽典、音楽の仕組、説明能力の獲得

授業の一般目標 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力の育成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音楽の概念の獲得、音楽の理論的な仕組みの理解、五線記譜法の基本的な仕組みの知識の獲得、及びその理解 思考・判断の観点：音楽を理論的に考察する能力の獲得 関心・意欲の観点：音楽に対する広い関心の獲得と、積極的に音楽と接する意欲の獲得 態度の観点：音楽、及び芸術全般に対しての畏敬の念、及び尊厳を認める態度の育成 技能・表現の観点：音楽の仕組みを解りやすく説明できる能力の獲得、それに必要な表現手段の獲得

授業の計画(全体) 音楽を理論的に説明する基本的な理由を理解することや、音楽は理論的な体系でもある、という観念を獲得するのは正直なかなかたいへんである。が、およそ一千年以上にも亘って続けられてきたこの営みを理解する事なしには21世紀の音楽を語る事はできないだろう。受講生各位がこの授業内容に多少なりともショックを受けてくれることを期待する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、音の様々な様相の理解
- 第2回 項目 音の物理的な性質と音楽的要素の関連
- 第3回 項目 音と時間との関係・拍、拍子、リズムについて
- 第4回 項目 音律論その1、三分損益とピタゴラス音律
- 第5回 項目 音律論その2、純正律と平均律
- 第6回 項目 五線記譜法と音程 五線記譜法と音程
- 第7回 項目 音階と調性
- 第8回 項目 和音とは何か
- 第9回 項目 和音の機能
- 第10回 項目 コードネームとその命名法のしくみ
- 第11回 項目 旋律と和音の関係
- 第12回 項目 非和声音について
- 第13回 項目 音楽における形式について
- 第14回 項目 音楽のスタイルについて
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験の結果を重視。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎, 芥川也寸志, 岩波書店, 1968年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 中学校までの音楽科の授業内容を完全に理解していること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定

開設科目	作・編曲法 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に 必要な作曲、及び編曲の基本的な力を修得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作から始めて、少し規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などを学習する。

授業の一般目標 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に 必要な作曲、及び編曲の基本的な力を獲得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作が出来るようになること。多少規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などをマスターすることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実用的和声法の知識の獲得、和声に対する基本的な理解。 思考・判断の観点： 音楽的な思考、及び音楽的な優劣、という価値判断が自分で出来るようになること。 関心・意欲の観点： 様々な音楽作成方法への広汎な関心、様々な作曲手法獲得への意欲。 技能・表現の観点： 音楽的な思考を、楽曲作成という手段で表現できる技能の獲得

授業の計画（全体） 曲がりなりにも作曲という行為が可能になること。作曲は手順さえ踏めば、初歩的なものならば確実に出来るようになります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 和音、和声の復習
- 第 2 回 項目 コードネームの復習
- 第 3 回 項目 旋律の作り方その 1
- 第 4 回 項目 同上その 2
- 第 5 回 項目 伴奏音型とその役割
- 第 6 回 項目 基礎的な音楽形式の復習と理解
- 第 7 回 項目 複合三部形式による器楽曲の作曲その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 変奏曲形式による器楽曲の作曲 その 1
- 第 10 回 項目 同上その 2
- 第 11 回 項目 編曲を行う際に必要な各種楽器に対する基礎知識
- 第 12 回 項目 編曲実践その 1、合唱曲・声楽曲
- 第 13 回 項目 同上その 2、合奏曲・吹奏楽曲 など
- 第 14 回 項目 まとめと発表その 1
- 第 15 回 項目 同上その 2

成績評価方法（総合） 作曲能力の獲得具合、受講態度、興味関心等を総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎、芥川也寸志、岩波書店、1968 年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 音楽は感性のみで出来ている訳ではない。頭腦的、論理的な音楽の見方も身に付けて欲しい。音楽通論の単位取得者、及び相応の力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟 109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	作・編曲法 II	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 線の作曲法、すなわちポリフォニーと呼ばれる複数の旋律どうしの絡み合による作曲法を扱う。内容は二声部の厳格対位法の解説と実習、模倣対位法としてのカノンの実作、フーガの解説などを扱う。 / 検索キーワード 厳格対位法、カノン、ポリフォニー

授業の一般目標 線の作曲法、すなわちポリフォニーと呼ばれる複数の旋律どうしの絡み合による作曲法を身に付けることを目標とする。二声部の厳格対位法の実習課題の実施、模倣対位法としてのカノンの実作が出来るようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ポリフォニー、及び対位法概念の獲得、線の作曲手法の基本的理解、自由度の相違による厳格対位法と自由対位法の違いの認識。 思考・判断の観点：線的な作曲法により自ら音楽的な思考が出来るようになること。ポリフォニックな作曲法とそれ以外の作曲法の違いが判断できる。 関心・意欲の観点：ポリフォニー音楽への積極的な関心、及び探究への態度 技能・表現の観点：対位法による作曲技能の獲得、ポリフォニーによる音楽表現技能の確立。

授業の計画(全体) 最終的には厳格対位法の課題のリアリゼーションと、自由対位法によるカノン位が自分で作れ、受講生が互いに添削できるようになることが好ましい。が…。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、ポリフォニーの基礎的な説明
- 第2回 項目 厳格対位法の諸規則の説明
- 第3回 項目 二声全音符対位法の説明
- 第4回 項目 同上実習、及び添削
- 第5回 項目 二声二分音符対位法の説明
- 第6回 項目 同上実習、及び添削
- 第7回 項目 二声四分音符対位法の解説
- 第8回 項目 同上実習、及び添削
- 第9回 項目 二声移勢対位法の説明
- 第10回 項目 同上実習、及び添削
- 第11回 項目 二声華麗対位法の解説
- 第12回 項目 同上実習、及び添削
- 第13回 項目 自由対位法について
- 第14回 項目 カノンについての説明と実習
- 第15回 項目 インヴェンションとフーガについて、まとめ

成績評価方法(総合) 期末テストの成績を主に、対位法的作曲法の理解度を中心に、興味・感心、受講態度等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じ、プリントを配付 / 参考書：必要に応じ授業時間中に適宜紹介する。

メッセージ 積み上げで理解するしかない科目なので、極力欠席しないように。休むと途端に解らなくなります。音楽通論の単位を取得しているか、担当教官が相応の音楽的な能力がある、と認めた人のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	音楽史 I(日本の伝統音楽・諸民族音楽を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要 (授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。) / 検索キーワード 音楽、西洋、東洋、近代

授業の一般目標 音楽とその歴史を多角的に概観することによって、その多様性を知ると同時に、「音楽=芸術」の自明性を批判的に考察できるようになることを目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 音楽の概念
- 第3回 項目 西洋の概念、西洋音楽史の範囲
- 第4回 項目 時代区分、様式の概略
- 第5回 項目 古代ギリシア
- 第6回 項目 初期キリスト教音楽
- 第7回 項目 中世の音楽1
- 第8回 項目 中世の音楽2
- 第9回 項目 バロック
- 第10回 項目 近代の音楽～古典
- 第11回 項目 近代の音楽～古典
- 第12回 項目 近代～19世紀というフィルター1
- 第13回 項目 近代～19世紀というフィルター2
- 第14回 項目 近代～19世紀というフィルター3
- 第15回 項目 現代の音楽

成績評価方法(総合) 実際に教室で授業中に鑑賞することが大事なので、出席は重視します。出席50%、期末テスト(またはレポート)50% (100-[欠席回数x20])x0.5+(レポート or 試験の得点x0.5)=総合得点

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。ガイダンスを受けない場合には原則として受講を認めない。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。また、シラバスはあくまでも目安であり、状況に応じて変更する可能性がある。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	音楽史 II	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第 1 回めに説明があります。）

授業の一般目標 日本における音楽文化を通時的に概観する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 近代以降の「日本音楽」
- 第 3 回 項目 日本音楽の「日本」
- 第 4 回 項目 日本音楽史の構造
- 第 5 回 項目 大陸音楽の受容
- 第 6 回 項目 大陸音楽の変容 1
- 第 7 回 項目 大陸音楽の変容 2
- 第 8 回 項目 三味線の到来
- 第 9 回 項目 江戸時代の劇場音楽 1
- 第 10 回 項目 江戸時代の劇場音楽 2
- 第 11 回 項目 西洋音楽の受容
- 第 12 回 項目 西洋音楽の影響 1
- 第 13 回 項目 西洋音楽の影響 2
- 第 14 回 項目 大衆娯楽音楽
- 第 15 回 項目 日本伝統音楽再考

教科書・参考書 参考書： はじめての音楽史, , 音楽之友社

メッセージ 音楽史 1 を受講していることが望ましい。音楽史 1 を受講した者はその受講時に使用した教科書（『はじめての音楽史』）を持参すること。

開設科目	音楽学概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	齋藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。）/ 検索キーワード 音楽、民族音楽学、日本、現代

授業の一般目標 音楽学のアプローチの一つとして、民族音楽学の研究課題（音楽とアイデンティティ、文化受容/変容、観光と音楽、民俗分類法など）ならびにその方法論を紹介しながら、私たちの身の回りにある音楽の再考を促す。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 音楽文化の多様性
- 第3回 項目 民俗分類法（フォーク・タクソノミー）1
- 第4回 項目 民俗分類法（フォーク・タクソノミー）2
- 第5回 項目 音楽とアイデンティティ1
- 第6回 項目 音楽とアイデンティティ2
- 第7回 項目 音楽とアイデンティティ3
- 第8回 項目 音楽の構造分析1
- 第9回 項目 音楽の構造分析2
- 第10回 項目 観光と音楽
- 第11回 項目 イスラームの音楽
- 第12回 項目 文化受容/変容1
- 第13回 項目 文化受容/変容2
- 第14回 項目 文化受容/変容3
- 第15回 項目 文化受容/変容4

成績評価方法（総合） 実際に教室で授業中に鑑賞することが大事なので、出席は重視します。出席50%、レポート（毎回の小レポート、宿題レポート2つ）50%（ $100 - [\text{欠席回数} \times 20] \times 0.5 + (\text{レポート or 試験の得点} \times 0.5) = \text{総合得点}$ ）

教科書・参考書 教科書：テキストは用いずに、必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書：人はなぜ歌うか??フィールドワーク, 小泉文夫, 学習研究社; アフリカの音の世界, 塚田健一, 新書館; 飲めや歌えやイスタンブール, 齋藤完, 音楽之友社; 路上日記, 野村誠, ペヨトル工房; 上記の参考図書によって音楽(ないし音)の文化の多様性への理解を深めつつ、身近な音楽文化を再考する一助として欲しい。

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	西村順子				

授業の概要 ピアノの演奏表現領域における4年間の集大成として、卒業試験は公開の場でピアノ演奏を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

成績評価方法(総合) (1)公開による実技試験を行う。(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー jun.n@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5363

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 ピアノの演奏表現領域における4年間の集大成として、卒業試験は公開の場でピアノ演奏を行う。

授業の一般目標 各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

成績評価方法(総合) (1)公開による実技試験を行う。(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@amaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	朴成泰				

授業の概要 音楽教育教室において卒業研究は、卒業論文と卒業演奏を行うが、これは学問と芸術を身に付ける過程であり、学部4年をまとめることである。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 各々のテーマに沿って研究計画を練り、文献研究やデータ分析などを経て卒業論文を作成する。

授業の一般目標 自ら求めたテーマについて研究を深めると共に、オリジナルな視点を生かした論述ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ベースになる基底論を正しく理解する。 思考・判断の観点：自分に必要な内容を判断し、論文に生かすことができる。 関心・意欲の観点：積極的に研究を進めることができる。 態度の観点：自ら考え、研究を深めようとする。

授業の計画(全体) 各々のテーマに沿った個人指導、お互いに磨きあう場としてのゼミ指導の2本立てで進める。

成績評価方法(総合) 論文の内容、中間発表及び最終審査会のプレゼンテーションを含め、総合的に評価する。

メッセージ オリジナルな視点から論じた、貴方らしい論文を期待します。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	林満理子				

授業の概要 声楽の演奏表現領域における4年間の集大成として、卒業試験は公開の場で歌唱を行う。

授業の一般目標 個々の力量に応じた声楽曲を途中で中断することなく最後まで演奏する事ができる。楽曲に適した表現をすることができる。

美術教育選修

開設科目	平面造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。石膏像の面取りから始め、形と明暗の初歩をまず体得し、個人の進度に応じて頭部、胸部、立像へと進む。

授業の一般目標 美術一般の基礎的な表現を学習し、各自のデッサン力の向上を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自のデッサン力を把握し、絵画史上に残る巨匠たちのデッサンの特徴を説明できる。 思考・判断の観点：各自のデッサン力を把握し、絵画史におけるデッサンの特徴を論理に、また、わかりやすく説明できる。 関心・意欲の観点：様々な問題について主体的に考え、好奇心をもって実技を行うことができる。 態度の観点：様々な問題について主体的に考え、実技を行うことができる。 技能・表現の観点：デッサンにおけるそれぞれの表現の仕方を理解し、それに見合う技術を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 描画（ 1 ）
- 第 2 回 項目 "
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 描画（ 2 ）
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 描画（ 3 ）
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 描画（ 4 ）
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法 (総合) デッサンの実技過程、および、デッサンの完成度により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：西洋美術史, 高階秀爾, 美術出版社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp tel: 090-9003-6944

開設科目	絵画 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。

授業の一般目標 平面に於ける造形を対象として描画における基礎的な技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代の西洋美術の概略を説明できる。デッサンおよび、油彩画における素材や用具の特性や、使用法を的確に説明できる。 関心・意欲の観点：西洋美術や、日本美術における美について感受し、生活の中に美を見出すことができる。 態度の観点：普段から自主的に身の回りのものをデッサンする習慣をつける。 技能・表現の観点：デッサンおよび、油彩画における技術の多様さを理解し習得しようとする。

授業の計画（全体）石膏像を中心とした木炭デッサンを行うことによりデッサン力を養う。静物をモチーフとした油画を描く。構図のとりかたや、キャンパス、油絵の具、描画油の使い方などの知識を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 木炭デッサン（ 1 ）

第 2 回 項目 "

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 油画基礎（ 1 ）

第 6 回 項目 "

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 油画基礎（ 2 ）

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 "

第 12 回 項目 油画基礎（ 3 ）

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 講評

成績評価方法（総合）(1) 出席による評価。(2) 授業態度。(3) 授業での作品制作。

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp 090-9003-6944

開設科目	絵画II(映像メディア表現を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、様々な素材を使った表現にとりくむ。(コラージュや、写真による表現を含む。)

授業の一般目標 映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、絵画以外のメディアと絵画との関係を理解し、様々な素材を使って表現する。(コラージュや、写真による表現を含む。)

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：映像メディアが絵画表現に与えた美術史上の概要を理解する。
 関心・意欲の観点：生活の中におけるメディア表現に意識的になり、絵画とメディア表現の関係について考察することができる。 技能・表現の観点：コンピューターや、機械を通した映像などの表現と、手技による表現の接点を模索する。

授業の計画(全体) 映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、様々な素材を使った表現にとりくむ。(コラージュや、写真による表現を含む。) ポップアートなど、美術史上におけるメディアと関連した表現について理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ポップアート考察-アイロニーについて-(課題 1)
- 第 2 回 項目 "
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 ドットを使った共同制作(課題 2)
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 作家研究(課題 3)
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 出席による評価。(2) 授業態度。(3) 授業での作品制作。

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp 090-9003-6944

開設科目	絵画 III	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 人体をモチーフに平面におけるデッサン力の向上と油彩表現の多様性を学習する。

授業の一般目標 人体の構造を理解し、平面において人物像を描きながらデッサン力を向上させ、油彩画の多様な表現に応用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人体の基本的なプロポーションや動きについての概略が説明できる。 関心・意欲の観点：普段見慣れた人物の構造や動き、質感などに関心が持てる。 技能・表現の観点：人物の構造や動き、量感、質感などを平面上にどのように表すかについての試行錯誤ができる。

授業の計画(全体) デッサンと油画において、人物の構造や動き、量感、質感などを平面上にどのように表すかについて、試行錯誤することによって、人物像の表現を習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 デッサン(1)
- 第 2 回 項目 "
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 油画(1)
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 油画(2)
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 油画(3)
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 出席による評価。(2) 授業態度。(3) 授業での作品制作。

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp 090-9003-6944

開設科目	絵画 IV	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿・吉田貴富				

授業の概要 (1) 平面に於ける造形を対象とし、絵画の具象性や抽象性について考察する。(2) 木版画制作

授業の一般目標 (1) ポロック以降の現代美術に属する絵画の多様性を理解し、絵画の具象性や抽象性について考察する。(2) 木版画の行程を理解して、表現力に富んだ木版画を制作できる。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点：(1) 抽象美術および、現代美術における絵画表現に関する課題に対応した表現を模索し、その表現に適した技法を選択することができる。(2) 木版画に関する技法を理解し、的確な表現ができる。

授業の計画(全体) (1) 具象性や抽象性を意識した絵画制作 (2) 木版画制作

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 具象表現と抽象表現との狭間で(課題1)

第 2 回 項目 "

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 "

第 6 回 項目 具象表現と抽象表現との狭間で(課題2)

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 "

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 木版画(課題1)

第 12 回 項目 "

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 出席による評価 (2) 受講者の制作作品 (3) 授業態度

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp

開設科目	絵画 V	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 近、現代の美術の動向の概要を解説する。個々の制作における興味に響く現代の美術作家を研究し、ゼミ形式で発表する。制作においては、ゼミでの発表を個別にそれぞれの表現のなかに取り込み、具体的な作品に仕上げる。

授業の一般目標 近、現代の美術の動向の概要を説明できる。それぞれの制作における興味に響く現代の美術作家を研究し、ゼミ形式で発表する。制作においては、ゼミでの発表を個別にそれぞれの表現のなかに取り込み、具体的な作品に仕上げるができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 近、現代の美術の動向の概要を説明できる。 関心・意欲の観点： 近、現代の美術の動向の概要を理解し，関連する美術展などを積極的に鑑賞する。 技能・表現の観点： 自分自身の得意とする素材選択、技法の確立とともに、同じ形式や、技法に終止するだけでなく、新しい技法や、素材を自分自身の感性で見つけることができる。

授業の計画（全体） (1) 近、現代の美術の動向の概要を解説。(2) 個々の制作における興味に響く現代の美術作家を研究し、ゼミ形式での発表。(3) 自主的に制作活動を行う。ゼミでの発表を個別に表現のなかに取り込み、具体的な作品に仕上げる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近、現代の美術の動向の概要を解説 1
- 第 2 回 項目 近、現代の美術の動向の概要を解説 2
- 第 3 回 項目 作家研究 1（ゼミ形式）
- 第 4 回 項目 作家研究 2（ゼミ形式）
- 第 5 回 項目 作家研究 3（ゼミ形式）
- 第 6 回 項目 作家研究 4（ゼミ形式）
- 第 7 回 項目 作家研究 5（ゼミ形式）
- 第 8 回 項目 作家研究 6（ゼミ形式）
- 第 9 回 項目 作家研究 7（ゼミ形式）
- 第 10 回 項目 自主制作 1
- 第 11 回 項目 自主制作 2
- 第 12 回 項目 自主制作 3
- 第 13 回 項目 自主制作 4
- 第 14 回 項目 自主制作 5
- 第 15 回 項目 講評

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp 090-9003-6944

開設科目	立体造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原一明				

授業の概要 様々な立体造形の基礎として、量感、フォルム、テクスチャー、空間感、動きなどを基礎的材料経験と立体制作を通して、感覚的理論的に学ぶ。

授業の一般目標 (1) 立体の制作を通して、量感、テクスチャーなどの造形要素について体験を通して理解できる。(2) 幾何形体や有機的形態の対比のおもしろさに気づき美しい構成ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な造形要素について説明ができる。 関心・意欲の観点：身近にある造形物に興味や関心をもち鑑賞ができる。 技能・表現の観点：物と空間との関係を考え、立体的に表現することができる。 その他の観点：各課題ごとに作品のプレゼンテーションを行うことにより、自己表現を磨く。

授業の計画(全体) (1) 前半は木材(爪楊枝)を使って線の要素の幾何形体の分割、再構成を行う。(2) 後半はケント紙を使って面的要素の構成を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 スケッチ
- 第 3 回 項目 制作
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 作品仕上げ
- 第 8 回 項目 発表会
- 第 9 回 項目 スライド講義
- 第 10 回 項目 スケッチ
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 作品仕上げ
- 第 15 回 項目 発表会

成績評価方法(総合) (1) 課題作品 2 点の提出。

教科書・参考書 教科書：適時プリント配布 / 参考書：適時プリント配布

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	彫刻 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上原一明				

授業の概要 彫刻の基礎として、塑像の基本的な理論・技法を制作を通して学ぶ。

授業の一般目標 (1) 自然物を観察し、全体のバランスを考え、量塊で表現することができる。(2) 固形物から形態を彫り出すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: モデリングとカービングが理解できる。 関心・意欲の観点: 抽象的な立体作品に興味や関心をもつ。 技能・表現の観点: 石膏取り技法、カービング方法が習得できる。

授業の計画(全体) (1) 野菜や果物をモチーフにして粘土で表現する。(2) (1)を石膏取りする。(3) (1)の形態をデフォルメした形を、石膏の塊から彫り出す。(4) 石膏レリーフを製作する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 課題(1) スケッチ
- 第 3 回 項目 モデリング
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 課題(2) 石膏取り
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 課題(3)(カービング)
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 同上
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 課題(4) レリーフ制作
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 石膏取り
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 課題作品を 3 点提出する。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	彫刻 II	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上原一明				

授業の概要 石彫によるカービングの制作法を学ぶ。

授業の一般目標 石という素材のもつ強固な印象を、暖かな作品へと変えていく過程を学ぶ。材料逆転換の体现。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：石彫制作を通して、豊かな石の世界を知る。 思考・判断の観点：石をいう素材を通して、人間との関わりを思考する。 関心・意欲の観点：石彫彫刻への関心が深まる。 技能・表現の観点：石彫の技法を学ぶ。

授業の計画（全体）制作を通して石彫道具の扱いや、彫り方、仕上げ等段階を追って進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 スライド説明、道具の説明。
- 第 2 回 項目 制作 内容 粗彫り
- 第 3 回 項目 制作 内容 粗彫り
- 第 4 回 項目 制作 内容 粗彫り
- 第 5 回 項目 制作 内容 粗彫り
- 第 6 回 項目 制作
- 第 7 回 項目 制作
- 第 8 回 項目 制作
- 第 9 回 項目 制作
- 第 10 回 項目 制作
- 第 11 回 項目 制作
- 第 12 回 項目 制作
- 第 13 回 項目 制作 内容 仕上げ
- 第 14 回 項目 制作 内容 仕上げ
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法（総合）作品提出。制作態度。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	彫刻 III	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	上原一明				

授業の概要 前半は、テラコッタの制作。後半は様々な材料(土、石、木、金属、ガラス等)による彫刻作品を制作する。

授業の一般目標 様々な素材を使った、イメージに近い作品を制作することにより、立体表現の可能性を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 様々な材料への知識を高める。 思考・判断の観点: ミクストメディアによる創作思考を高める。 関心・意欲の観点: 材料論への関心が高まる。 技能・表現の観点: 異なる材料同士の接合方や、その技法を学ぶ。

授業の計画(全体) 前半部分はテラコッタ制作を通して土の可能性を探り、後半は全ての素材を使用した作品を制作する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 粘土制作
- 第 3 回 項目 粘土制作
- 第 4 回 項目 焼成(素焼き)
- 第 5 回 項目 釉薬かけ、焼成(本焼き)
- 第 6 回 項目 作品考案
- 第 7 回 項目 制作
- 第 8 回 項目 制作
- 第 9 回 項目 制作
- 第 10 回 項目 制作
- 第 11 回 項目 制作
- 第 12 回 項目 制作
- 第 13 回 項目 制作
- 第 14 回 項目 制作
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) 作品提出。制作態度。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	デザイン I	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 デザイン・造形の基礎である造形要素と視覚言語について、講義と演習を行なう。造形要素では形、色、材質感について習得し、視覚言語を利用した作品制作を行なう。/検索キーワード デザイン、構成、造形要素、視覚言語

授業の一般目標 造形要素と視覚言語を習得し、作品制作ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：デザインについての理解。視覚言語の理解。 関心・意欲の観点：構成に関心をもつ。 技能・表現の観点：視覚言語に基づいて平面構成ができる。

授業の計画(全体) 造形要素と視覚言語を理解し、平面構成の作品を制作する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 概説 デザインとは何か
- 第 2 回 項目 デザインと構成について
- 第 3 回 項目 造形要素 形その 1
- 第 4 回 項目 造形要素 形その 2
- 第 5 回 項目 造形要素 色彩その 1
- 第 6 回 項目 造形要素 色彩その 2
- 第 7 回 項目 造形要素 色彩その 3
- 第 8 回 項目 視覚言語 対比
- 第 9 回 項目 視覚言語 バランス
- 第 10 回 項目 視覚言語 運動
- 第 11 回 項目 視覚言語 空間
- 第 12 回 項目 視覚言語 方向
- 第 13 回 項目 平面分割その 1
- 第 14 回 項目 平面分割その 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業態度、作品によって判断する。

開設科目	デザイン II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 造形のための基礎的な表現活動を通して、デザインについて考えるための学習をします。 / 検索キーワード デザイン、立体造形、運動、空間。

授業の一般目標 ・かたちへの豊かな発想を持ち、計画的に立体の造形ができる。 ・造形の要素を理解し、的確に制作に応用し、豊かな表現ができる。 ・デザインについて、持続的に考えるための基礎的な知識を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： デザインについて、持続的に考えるための基礎的な知識を理解する。 思考・判断の観点： 形態について運動、空間を含めた造形のための要素を理解する。 関心・意欲の観点： 課題意識を持ち制作する。 態度の観点： 客観的に制作過程を確かめ、着実に表現することができる。 技能・表現の観点： 豊かな発想を持ち、造形の要素を理解し、的確に制作、表現ができる。

授業の計画（全体） 発想法、立体造形、デザインの学習をします。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 デザインについて
- 第 2 回 項目 発想法について
- 第 3 回 項目 バランスの造形（ 1 ） 内容 課題について
- 第 4 回 項目 バランスの造形（ 2 ）
- 第 5 回 項目 バランスの造形（ 3 ）
- 第 6 回 項目 バランスの造形（ 4 ）
- 第 7 回 項目 バランスの造形（ 5 ）
- 第 8 回 項目 バランスの造形（ 6 ）
- 第 9 回 項目 作品の講評 ヘリオシネグラフの制作（ 1 ） 内容 アニメーションの原理と装置について
- 第 10 回 項目 ヘリオシネグラフの制作（ 2 ）
- 第 11 回 項目 ヘリオシネグラフの制作（ 3 ）
- 第 12 回 項目 ヘリオシネグラフの制作（ 4 ）
- 第 13 回 項目 ヘリオシネグラフの制作（ 5 ）
- 第 14 回 項目 ヘリオシネグラフの制作（ 6 ）
- 第 15 回 項目 作品の講評

成績評価方法（総合） デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出す作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み（出席等を含む）を見ます。

メッセージ 楽しく、制作に取り組んでください。 作品の提出日を厳守。講評会をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	デザイン III(映像メディア表現を含む。)	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田隆真				
<p>授業の概要 映像表現の中で写真技術を利用して視覚伝達デザインの学習を行なう。写真技術全般の解説とフィルム写真の技術習得として、現像、焼付けを行なう。伝達デザインのための造形要素と視覚言語を写真、映像を利用して表現する。また、テーマを設定して写真作品を制作する。</p> <p>授業の一般目標 映像表現を使用して、視覚言語の学習を行う。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点：造形要素と視覚言語の理解が具体的に出来たかどうか。 関心・意欲の観点：身の周りの対象物に関心を持ち、意欲的に映像化することが出来る。 技能・表現の観点：伝達表現としての技術を習得する。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 視覚伝達デザインの概説</p> <p>第 2 回 項目 映像表現について</p> <p>第 3 回 項目 カメラについて</p> <p>第 4 回 項目 フィルム現像その 撮影について 撮影について</p> <p>第 5 回 項目 フィルム現像その 1</p> <p>第 6 回 項目 フィルム現像その 2</p> <p>第 7 回 項目 印画紙現像その 1</p> <p>第 8 回 項目 印画紙現像その 2</p> <p>第 9 回 項目 印画紙現像その 3</p> <p>第 10 回 項目 視覚言語の撮影対象について</p> <p>第 11 回 項目 視覚言語の事例</p> <p>第 12 回 項目 レイアウトについてその 1</p> <p>第 13 回 項目 レイアウトについてその 2</p> <p>第 14 回 項目 製本</p> <p>第 15 回 項目 まとめと評価</p>					

開設科目	デザイン IV	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 デザインの目的を知り、社会的な問題に関心をもって視覚化する。 / 検索キーワード デザイン、問題解決、視覚化、表示

授業の一般目標 社会的な問題を抽出し、データを視覚化することによってデザインの学習を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： デザインの目的を知る。デザイン教育の内容を知る。 思考・判断の観点： 問題解決学習のための判断力を習得する。美的判断力を習得する。 関心・意欲の観点： 社会的な問題に関心をもつ。

授業の計画（全体） 社会的な問題を取り上げて問題解決によってデザインの学習を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 デザインの変遷 1
- 第 2 回 項目 デザインの変遷 2
- 第 3 回 項目 デザインの機能 1
- 第 4 回 項目 デザインの機能 2
- 第 5 回 項目 問題の所在 1
- 第 6 回 項目 問題の所在 2
- 第 7 回 項目 問題解決 1
- 第 8 回 項目 問題解決 2
- 第 9 回 項目 制作 1
- 第 10 回 項目 制作 2
- 第 11 回 項目 制作 3
- 第 12 回 項目 制作 4
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 講評 1
- 第 15 回 項目 講評 2

開設科目	総合造形	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河野令二・上原一明				

授業の概要 ・「箱を用いた記憶に関する表現」をテーマとして、絵画的色彩表現、彫刻的立体表現、音の出る装置を取り入れた音響表現等、総合的な表現方法による「メモリーボックス」の考案・制作をします。 ・造形の様々な表現方法を生かした本のデザイン、制作をします。 / 検索キーワード 表現、材料、技法

授業の一般目標 立体、平面の多様な表現技法を理解し、それらをもとに総合的な造形の力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 演習を通して、材料の特性や技法の関係を理解し、作品に生かし、表現することができる。 思考・判断の観点： 表現への意図を明確にし史ながら、創造的に制作ができる。

関心・意欲の観点： 課題意識を持って望み、意欲的に表現、制作ができる。 態度の観点： 客観的に制作過程を見つめ、表現への可能性を持って、確かめながら制作ができる。 技能・表現の観点： 表現のための技法を確実なものにし、作品を制作し、作品の自己評価ができる。

授業の計画(全体) 授業は、演習を主とし、二つの課題について制作をします。全体のオリエンテーションの後に各課題の学習に入ります。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総合造形について 内容 準備物棟
- 第 2 回 項目 メモリーボックスの制作案提出
- 第 3 回 項目 メモリーボックスの制作
- 第 4 回 項目 メモリーボックスの制作
- 第 5 回 項目 メモリーボックスの制作
- 第 6 回 項目 メモリーボックスの制作
- 第 7 回 項目 メモリーボックスの制作
- 第 8 回 項目 メモリーボックスの作品発表、講評
- 第 9 回 項目 本の制作 内容 課題の説明ほか
- 第 10 回 項目 本の制作
- 第 11 回 項目 本の制作
- 第 12 回 項目 本の制作
- 第 13 回 項目 本の制作
- 第 14 回 項目 本の制作
- 第 15 回 項目 本の制作 作品発表、講評

成績評価方法(総合) 各課題の制作物に関して、コンセプト、課題の理解度、制作態度等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 必要な資料を適宜配布する。

メッセージ 豊かな発想をもって、楽しく課題に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 A 棟 上原研究室 河野研究室

開設科目	工芸A I	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河野令二				

授業の概要 木によるもののデザインと制作を行う。/ 検索キーワード 工芸、木、技法、道具、デザイン。

授業の一般目標 ・木の材料特性を理解し、木によるもののデザインと制作ができる。 ・制作をとおして、木の加工の基礎的な技法について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・工芸について、材料、技術とのかかわりから考えることができる。 ・工芸について、道具、社会、環境等の広い視点からとらえることができる。 ・木の材料特性を理解する。 ・木の基礎的な技法と道具の関係を理解する。 思考・判断の観点： ・ものを道具の機能性として理解し、制作ができる。 ・道具と技法を的確に制作に生かすことができる。 関心・意欲の観点： 制作するものの在りかや形態に対して興味を持ってデザインができる。 態度の観点： 客観的に制作過程を確かめ、試行錯誤を恐れずに制作ができる。 技能・表現の観点： 技法を理解し、豊かな発想で的確に制作ができる。

授業の計画(全体) はじめの学習で、工芸について講義をします。制作課題として、木によるスプーン制作と小さなレリーフ制作をします。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 工芸について
- 第 2 回 項目 スプーン制作(1) 内容 木について 食具について
- 第 3 回 項目 スプーン制作(2)
- 第 4 回 項目 スプーン制作(3)
- 第 5 回 項目 スプーン制作(4)
- 第 6 回 項目 スプーン制作(5)
- 第 7 回 項目 スプーン制作(6)
- 第 8 回 項目 スプーン制作(7)
- 第 9 回 項目 スプーン制作の講評 額縁制作(1)
- 第 10 回 項目 額縁制作(2)
- 第 11 回 項目 額縁制作(3)
- 第 12 回 項目 額縁制作(3)
- 第 13 回 項目 額縁制作(5)
- 第 14 回 項目 額縁制作(6)
- 第 15 回 項目 額縁制作の講評

成績評価方法(総合) デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む)を見ます。

メッセージ 楽しくものづくりに取り組んでください。作品の提出日を厳守。講評会をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	工芸A II	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 木によるもののデザインと制作を行う。 / 検索キーワード 工芸、機能、寄木、器、額縁。

授業の一般目標 ・寄木の技法を理解し、木の可能性を考え、器のデザイン、制作をする。 ・木の特性を理解し、レリーフの制作をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・材料の特性、木の技法技法を理解し制作ができる。 思考・判断の観点： ・ものの機能性やその所在を考えデザイン制作ができる。 関心・意欲の観点： ・課題を持って望み、興味を持ってデザイン、制作ができる。 態度の観点： ・客観的に制作過程を見つめ、材料の可能性を確かめながら計画的に制作ができる。 技能・表現の観点： ・技法を理解し、豊かな発想を持ち、創造的に制作ができる。

授業の計画（全体）制作課題として、寄木による器の制作と木によるレリーフの制作を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 寄木による制作（1）内容 器について、寄木について
- 第 2 回 項目 寄木による制作（2）
- 第 3 回 項目 寄木による制作（3）
- 第 4 回 項目 寄木による制作（4）
- 第 5 回 項目 寄木による制作（5）
- 第 6 回 項目 寄木による制作（6）
- 第 7 回 項目 寄木による制作（7）
- 第 8 回 項目 寄木による制作（8）内容 塗装、完成
- 第 9 回 項目 寄木による制作の講評 額縁の制作（1）内容 レリーフについて
- 第 10 回 項目 レリーフの制作（1）
- 第 11 回 項目 レリーフの制作（2）
- 第 12 回 項目 レリーフの制作（3）
- 第 13 回 項目 レリーフの制作（4）
- 第 14 回 項目 レリーフの制作（5）内容 塗装、完成
- 第 15 回 項目 レリーフの制作の講評

成績評価方法（総合）デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み（出欠を含む）を見ます。

メッセージ 楽しくものづくりに取り組んでください。作品の提出日を厳守。講評会をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	工芸A III	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 木による椅子のデザインと製作を行う。 / 検索キーワード 椅子の歴史、椅子と姿勢、人間工学、機能と形態。

授業の一般目標 ・椅子の歴史、社会性について考える。 ・椅子をさまざまな要素からデザイン、制作ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：椅子の社会性、機能性について理解する。 思考・判断の観点：椅子の形態を、その所在、機能性から理解しデザインをする。 関心・意欲の観点：椅子のデザインを生活や社会的な関心から形態として構想し、創造的な作品へと高める。 態度の観点：客観的に制作過程を確かめ、計画的に制作する。 技能・表現の観点：豊かな発想を持ち、創造的に制作する。

授業の計画(全体) 制作課題として、木によるスツールの制作をします。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 椅子の制作(1) 内容 椅子について 人間工学について 制作過程について
- 第 2 回 項目 椅子の制作(2) 内容 アイデアスケッチ
- 第 3 回 項目 椅子の制作(3) 内容 製図であらわす(1) 製図について
- 第 4 回 項目 椅子の制作(4) 内容 製図であらわす(2)
- 第 5 回 項目 椅子の制作(5) 内容 模型であらわす
- 第 6 回 項目 椅子の制作(6) 内容 実寸の製図であらわす
- 第 7 回 項目 椅子の制作(7) 内容 制作
- 第 8 回 項目 椅子の制作(8)
- 第 9 回 項目 椅子の制作(9)
- 第 10 回 項目 椅子の制作(10)
- 第 11 回 項目 椅子の制作(11)
- 第 12 回 項目 椅子の制作(12)
- 第 13 回 項目 椅子の制作(13)
- 第 14 回 項目 椅子の制作(14) 内容 塗装、完成
- 第 15 回 項目 椅子の制作の講評

成績評価方法(総合) デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む)を見ます。

メッセージ 計画的な学習が大切です。作品の提出日を厳守。講評会をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	工芸 B I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野令二				

授業の概要 金属と竹によるもののデザインと制作を行う。 / 検索キーワード 工芸、金属、竹、技法、道具、デザイン。

授業の一般目標 ・金属の材料特性を理解し、金属によるもののデザインと制作ができる。 ・竹の材料特性を理解し、竹によるもののデザインと制作ができる。 ・それぞれの制作をとおして、基礎的な技法について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・金属、竹の材料特性を理解する。 ・金属、竹の加工の基礎的な技法と道具の関係を理解する。 思考・判断の観点： ・ものを道具の機能性として理解し、制作ができる。 ・道具と技法の関係を理解し、的確に制作に生かすことができる。 関心・意欲の観点： 制作するものありかや形態に対して興味を持ってデザインができる。 態度の観点： 客観的に制作過程を確かめ、実験的に制作をする。 技能・表現の観点： 技法を理解し、豊かな発想を持ち、的確に制作ができる。

授業の計画（全体）制作課題として、アルミ板と様々な金属を用いた時計の制作と竹トンボの制作をします。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション時計制作（ 1 ） 内容 金属について 時計について
- 第 2 回 項目 時計制作（ 2 ）
- 第 3 回 項目 時計制作（ 3 ）
- 第 4 回 項目 時計制作（ 4 ）
- 第 5 回 項目 時計制作（ 5 ）
- 第 6 回 項目 時計制作（ 6 ）
- 第 7 回 項目 時計制作（ 7 ）
- 第 8 回 項目 時計制作（ 8 ）講評
- 第 9 回 項目 竹とんぼ制作（ 1 ） 内容 竹について
- 第 10 回 項目 竹とんぼ制作（ 2 ）
- 第 11 回 項目 竹とんぼ制作（ 3 ）
- 第 12 回 項目 竹とんぼ制作（ 4 ）
- 第 13 回 項目 竹とんぼ制作（ 4 ）
- 第 14 回 項目 竹とんぼ制作（ 6 ） 内容 竹とんぼの飛行（ 1 ） 形の修正
- 第 15 回 項目 竹とんぼ制作（ 7 ） 講評 内容 竹とんぼの飛行（ 2 ）

成績評価方法（総合）デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み（出欠を含む）を見ます。

メッセージ 楽しくものづくりに取り組んでください。作品の提出日を厳守。講評会をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	工芸 B II	区分	実験・実習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉賀将夫				

授業の概要 陶芸の基礎的知識を踏まえて、より高度な陶芸作品を制作する。

授業の一般目標 陶芸の基礎的知識を踏まえて、より高度な陶芸作品を制作する。そのために伝統的な技法の習得や創作的な制作の研究も行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 制作論講義、 粘土制作
- 第 3 回 項目 " "
- 第 4 回 項目 " "
- 第 5 回 項目 " "
- 第 6 回 項目 " "
- 第 7 回 項目 " "
- 第 8 回 項目 " "
- 第 9 回 項目 " 粘土制作終了
- 第 10 回 項目 " 粘土作品仕上げ終了
- 第 11 回 項目 " 素焼きの窯詰め あぶり
- 第 12 回 項目 " 素焼き
- 第 13 回 項目 " 釉薬かけ
- 第 14 回 項目 " 本焼の窯詰め後本焼
- 第 15 回 項目 窯出し 講評

開設科目	工芸 B III	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	吉賀将夫				

授業の概要 陶芸での卒業研究を前提として、各自でテーマを決めて作品を制作したり材料研究をする。

授業の一般目標 陶芸での卒業研究が十分できる力を養う。

開設科目	美術理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 とくに西洋における過去の美や芸術の理論を概観し、美術史学の成立までを概説することによって、作品を観ること、創ること、まねることを考察する。

授業の一般目標 (1) 美や芸術の思想の歴史的流れを理解する。(2) それぞれの時代における美や芸術の考え方の基本やその形成のされ方を把握する。(3) 現代における美や芸術の考え方を理解する上での基礎づくりをめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：過去の美や芸術に関する思想のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点：美や芸術という概念について、考察し、それらに対する自らの認識を形成していく。 関心・意欲の観点：美や芸術に対する基本的な考え方に関心をもつ。

授業の計画(全体) 古代の美や芸術に関する思想の紹介からはじまり、中世、ルネッサンス以降、19世紀までの美や芸術の思想を概観し、近代へとつなげながら、美学や美術史学の成立などについても言及する。最後はそれらの知識、考察をもとに実作品の分析を行なってみる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 アイデア論
- 第3回 項目 ミメーシスについて
- 第4回 項目 中世の美意識
- 第5回 項目 精神と自然
- 第6回 項目 大陸合理論とイギリス経験論
- 第7回 項目 主観主義と反主観主義
- 第8回 項目 カントの趣味判断
- 第9回 項目 追体験と追創造
- 第10回 項目 純粹可視性
- 第11回 項目 図像解釈学
- 第12回 項目 美術史学の成立
- 第13回 項目 芸術観照と大衆文化
- 第14回 項目 美術作品実地研修
- 第15回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 授業の最後に実作品の実地研修をし、これまでの授業内容をふまえた上で作品分析を行なってもらう。(1200字×3枚以上) 出席については、所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回レジュメを配布する。参考図書はその都度紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術史 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて概説する。

授業の一般目標 (1) 西洋絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2) 各時代の西洋絵画の新しい流れが生まれるその社会的、文化的背景に関心を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。思考・判断の観点：各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。関心・意欲の観点：西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。

授業の計画(全体) 14世紀末の初期ルネッサンス絵画から話しをはじめ、バロック、ロココ、19世紀絵画と時代を下りながらヨーロッパ諸国におけるその展開の概要をスライド、ビデオなどのヴィジュアルな教材を使いながら解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 " (2) 初期ルネッサンス(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 盛期ルネッサンス(イタリア)
- 第 5 回 項目 " (フランドル)
- 第 6 回 項目 " (ドイツ)
- 第 7 回 項目 バロック(イタリア)
- 第 8 回 項目 " (スペイン)
- 第 9 回 項目 " (フランドル)
- 第 10 回 項目 " (フランス)
- 第 11 回 項目 ロココ(フランス)
- 第 12 回 項目 " (イギリス)
- 第 13 回 項目 " (イタリア)
- 第 14 回 項目 ロマン主義、新古典主義、写実主義
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 西洋美術史, 高階秀爾監修, 美術出版社, 1990 年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階

開設科目	美術史 II(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点から論述する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。

授業の一般目標 (1)日本美術史、とくに日本の近世絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2)日本の各時代(室町期～江戸期)における絵画の新しい流れが生まれる社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。
 思考・判断の観点：各時代に生まれた絵画作品の歴史的な位置付け、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。
 関心・意欲の観点：日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。

授業の計画(全体) とくに日本の各時代における絵画と流派の問題を軸として、室町期の初期水墨画の成立から話しをはじめ、桃山期、江戸期と時代を下りながら、当時の新しい絵画状況をスライドなどを使いながらヴィジュアルに解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 初期水墨画(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 室町水墨画(雪舟)
- 第 5 回 項目 桃山期の巨匠たち
- 第 6 回 項目 狩野派の流れ
- 第 7 回 項目 琳派(宗達、光琳)
- 第 8 回 項目 琳派(抱一、其一)
- 第 9 回 項目 写生派(円山派)
- 第 10 回 項目 異端の系譜(芦雪、若冲、蕭白)
- 第 11 回 項目 南画と文人画
- 第 12 回 項目 浮世絵(初期風俗画)
- 第 13 回 項目 " (錦絵以降)
- 第 14 回 項目 " (幕末期)
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 日本美術史, 辻惟雄監修, 美術出版社, 1991年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術史 III	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、体験する実地研修。研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

授業の一般目標 (1) 実際の美術作品、展覧会等を鑑賞し、生の作品から得られるものを通して、知識、理解を深める (2) 実作品、実物を見ることによって、その周辺をふくめたそのもの自体がもつ情報の把握をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。 思考・判断の観点：実地にその場を訪れることにより、その周辺、あるいは副次資料をもふくめた上で、作品の考察に役立てる。 関心・意欲の観点：実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。 態度の観点：鑑賞に対する積極的な態度を期待する。

授業の計画(全体) 現地で集合し、全体で移動しながら作品および展覧会を鑑賞していく。実習前において、鑑賞作品等に関する発表等も行なう場合がある。また実習終了後はレポートの提出を求める。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

備考 集中授業

開設科目	芸術教育論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田隆真他				

授業の概要 美術にかかわる教育の問題を講義する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美術と表現 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 同上 4
- 第 5 回 項目 同上 5
- 第 6 回 項目 美術と教育 1
- 第 7 回 項目 同上 2
- 第 8 回 項目 同上 3
- 第 9 回 項目 同上 4
- 第 10 回 項目 同上 5
- 第 11 回 項目 現代美術 1
- 第 12 回 項目 同上 2
- 第 13 回 項目 同上 3
- 第 14 回 項目 同上 4
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 卒業制作、論文に関わる指導を行う。 / 検索キーワード デザイン 美術教育 構成

授業の一般目標 各自のテーマに基づいて作品制作と論文作成を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：デザイン、構成についてこそ敵名知識を習得する。また、テーマに基づく専門的内容を習得する。 思考・判断の観点：制作を通して美的判断を習得する。論文作成において思考力を習得する。 技能・表現の観点：作品制作によって表現技術を習得する。

授業の計画(全体) テーマの決定、準備、調査、制作、論文作成を行う。

成績評価方法(総合) テーマと表現の適切性、新奇性、独創性、技術的側面の的確性などから判断する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 美術教育選修の学生全員が卒業研究として、教科専門科目分野の追究(「平面と立体」など2分野以上が原則)と並行して論文形式での研究を進める。レポート・論文の書き方については、3年次の「美術科教育学 III」において、実習体験中の課題意識等からテーマを設定し、それを調査レポート作成によって解決することを体験済みである。そこでの経験を生かして、美術の内容論・作家論・技法論・教材論等について調査・考察し論文としてまとめる。

授業の一般目標 卒業研究としての教科専門科目分野の追究と並行して、自分の制作等の追及内容に関連したテーマを設定して論文形式での追究ができる。

教科書・参考書 教科書：大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方, 吉田健正, ナカニシヤ出版, 1997年；第6 Semester開設科目「美術科教育学 III」のテキストでもある。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中野良寿				

授業の概要 作家研究および、各自の個性を生かした作品を制作する。

授業の一般目標 興味のある作家を研究することにより同時代の作品傾向を的確に捉えられる。各自の個性を生かした作品を制作することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典から現代にいたる絵画作品の変遷、応用的な表現の系譜についての知識がある。 思考・判断の観点：芸術表現における個人的な観点と客観的な観点の双方の見方をもつことができる。 関心・意欲の観点：多様な表現について興味をもつことができる。一つの表現を深く掘り下げることができる。 態度の観点：制作活動を持続的に行うことができる。 技能・表現の観点：柔軟性があり、完成度のある表現ができる技術をもっている。美的な色彩、形態感覚、コンポジションおよび空間把握能力、マチエールなど、総合的に優れた表現力をもっている。

授業の計画(全体) 作品制作に関するプレゼンテーション。作品に関する講評会。

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	河野令二				

授業の概要 各自のテーマにもとづいた制作、論文に関わる指導、支援をゼミを中心に行う。 / 検索キーワード 教材、工作・工芸、工作・工芸教育、美術教育

授業の一般目標 研究課題を明確にし、制作、論文のための、文献、資料を収集し、制作、論文作成で的確にその結論に述べるができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献、資料の読解をとおして、工作・工芸、工作工芸教育の領域のみならず広く美術教育にかかわる専門的な知識を習得、理解し、制作、論述ができる。 思考・判断の観点：研究課題に関わる制作、論述を通して、論理的思考力を養う。 関心・意欲の観点：課題意識と広い視野を持って、主体的に研究課題に取り組む。 態度の観点：研究課題に、計画的、主体的に取り組む。 技能・表現の観点：制作、論述をとおして、その技能を高め、自分の考えを豊かに表現し、的確に他者に伝えることができる。

授業の計画(全体) 定期的な授業の形態をとらない。自主的な学習の成果を報告し、意見交換、討議等の形で進めていく。

成績評価方法(総合) 研究課題に対する取り組みとその成果を総合的な観点から評価する。

メッセージ 研究課題を早めに決定し、計画的な学習を。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	上原一明				

授業の概要 彫刻による造形表現を通して、テーマ性を重視した作品制作に取り組む。各素材(木彫・石彫
テラコッタ等)ごとに専門性を深める。

授業の一般目標 作品制作を通して彫刻各素材の専門性を深め、表現の幅を広げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各材料取り扱いの知識がより広がり、表現方法の幅も深まる。

関心・意欲の観点: 作品制作に対する関心と意欲を高める。 技能・表現の観点: 各材料の技法習得が
深まる。

授業の計画(全体) それぞれの研究テーマに沿って、メッセージ性のある完成度の高い作品制作に取り
組む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テ - マに関わる先行研究の検討
- 第 2 回 項目 制作
- 第 3 回 項目 制作
- 第 4 回 項目 制作
- 第 5 回 項目 制作
- 第 6 回 項目 制作
- 第 7 回 項目 制作
- 第 8 回 項目 制作
- 第 9 回 項目 制作
- 第 10 回 項目 制作
- 第 11 回 項目 制作
- 第 12 回 項目 制作
- 第 13 回 項目 制作
- 第 14 回 項目 制作
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) 作品提出。制作態度(道具の管理、アトリエ清掃も含む)。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

保健体育選修

開設科目	陸上競技	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡壁史子				

授業の概要 中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目の中から1、2種目を選択し、実能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能・技術獲得の方法を追求する力を高めます。/検索キーワード 陸上競技、短距離走、走り幅跳び、グループ学習

授業の一般目標 中学校体育科における陸上競技の走・跳の実能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。また、それぞれの種目の自己の技術獲得を迫るうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能・技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。思考・判断の観点：運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。関心・意欲の観点：短距離走、走り幅跳びの技能・技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。技能・表現の観点：自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

授業の計画(全体) 中学校体育科における陸上競技の実能力と指導技術を高めることを目的としているが、このことを自ら主体的に達成していけるようにグループづくりから行う。グループができた段階で、取り組む短距離走、走り幅跳びについての授業の仕方について理解し、リーダーを中心としたグループ学習によりそれぞれの種目の技能・技術獲得に向けて活動していく。また、各グループの活動内容と気づきを共有していくために、全体で発表する時間を設ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
 内容 授業の進め方、グループづくり、役割決め、用具の説明 授業外指示 陸上競技場に集合すること
 運動着、運動シューズ 筆記用具必要
- 第2回 項目 短距離走1
50m走の測定 内容 50m走の予測・測定・記録
- 第3回 項目 短距離走2
スタートの仕方 内容 クラウチングスタートの有効性の理解と方法
- 第4回 項目 短距離走3
50m走の測定と分析I 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第5回 項目 短距離走4
50m走の測定と分析II 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第6回 項目 短距離走5
50m走の測定(歩幅) 内容 トップスピードの歩幅の測定
- 第7回 項目 短距離走6
50m走のトップスピードを維持する 内容 トップスピードを維持するためのリズム走の設定と練習
- 第8回 項目 短距離走7
50m走の走法の分析 内容 リズム走におけるタイムトライアルI

および田植え走
- 第9回 項目 短距離走8
各グループの走りの分析 内容 走りの分析と練習方法(気になる走法について追求する)

- 第 10 回 項目 短距離走 9 < BR >まとめ(グループ発表) 内容 短距離走についての各グループの記録の推移と獲得技能・技術、課題の発表
- 第 11 回 項目 走り幅跳び 1 < BR > < BR > 走り幅跳びの測定 内容 走り幅跳びの準備と測定方法
- 第 12 回 項目 走り幅跳び 2 < BR > < BR > 踏み切り後の感覚づくり 内容 踏み切りと踏み切り語の
- 第 13 回 項目 走り幅跳び 3 < BR > < BR > 5 歩助走からの跳躍 内容 中助走からの跳躍 < BR > 5 歩助走からの跳躍
- 第 14 回 項目 走り幅跳び 4 < BR > < BR > 中助走からの跳躍 内容 出発点を決める(マーカーの付け方)
- 第 15 回 項目 走り幅跳び 5 < BR > < BR > 全助走からの跳躍 内容 跳躍の記録会

成績評価方法(総合) 出席 40% 上記の目標の観点に向けた授業への取り組み 40% 最終的な評価対象レポート 20%

教科書・参考書 教科書：各時間ごとに必要な資料を配布します。/ 参考書：各時間ごとに必要な資料を配布します。

メッセージ 陸上競技は個人種目ですが、自分では気付にくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。"みんな"で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

開設科目	野外運動特習	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	保健体育全員				

授業の概要 冬期集中講義として、スキー・スケートなどの冬季種目を取りあげ、具体的な活動計画を作成し、実習をとおして指導法や指導理論の理解をはかる。そのための事前準備・学習として学校教育における野外教育の意義・方法、スキー・スケートなどの技術指導の理論を学習する。

備考 集中授業

開設科目	体操・器械運動	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	柳屋文雄				

授業の概要 授業は実技実習を中心に行うが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行い、良き指導者の育成を目指す。

授業の一般目標 (1) 生涯体育の基礎となる体力づくり、動きづくりの体操を学習する。(2) 器械運動の特性を理解し、技能の向上・修得に努め併せて指導法について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動力学の観点から理解しているか。思考・判断の観点：系統性を持って考えているか。関心・意欲の観点：グループ内で積極的に行動しているか。態度の観点：技の習得に積極で、アドバイスもできるか。技能・表現の観点：美しい実技、演技、厚生を考えておこなっているか。その他の観点：指導能力、指導意欲を大切にしたい。

授業の計画(全体) (1) 体力づくり、動きづくり、健康づくりのための体操を学習する。(2) 器械運動の特性を理解し、実技力向上及び補助法を学習する。(3) グループ学習・集団行動のポイントを学習する。(4) 演技発表会をおこなう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 特性と授業のねらいを理解する。授業外指示 トレーニング理論について考えよう。 < BR > 良き指導者とは何かについて考えてみよう。授業記録 プリント配布
- 第 2 回 項目 ベーシックトレーニング 内容 体操・器械運動のためのベーシックトレーニング
- 第 3 回 項目 器械運動の基本的姿勢・動きづくり 内容 実技
- 第 4 回 項目 マット運動基本 I 内容 動きの基本を理解する(実技)
- 第 5 回 項目 マット運動基本 II 内容 補助・支援のポイントを理解する(実技)
- 第 6 回 項目 マット運動 内容 発展的種目とさばき運動(実技)
- 第 7 回 項目 マット運動 内容 補助のあり方、補助器具、用具について理解を深める(実技) 授業外指示 体操好きの子どもを育てるポイント
- 第 8 回 項目 マット運動の連続種目づくり 内容 (グループ学習) 授業外指示 プリント配布
- 第 9 回 項目 マット運動の連続種目づくり 内容 (グループ学習) < BR > (デモ演技を見て考える)
- 第 10 回 項目 実技リハーサル 内容 作成した演技種目の通し練習(グループ学習) 授業外指示 評価法(採点法) < BR > プリント配布
- 第 11 回 項目 試技会 内容 実技発表(審判、採点)
- 第 12 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動の特性を理解する 内容 グループローテーションで実技
- 第 13 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動の学習のポイントを理解 内容 グループローテーションで実技
- 第 14 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動 内容 グループローテーションで実技 授業外指示 レポート課題を提示
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 メッセージを伝える 授業外指示 レポート提出期限

成績評価方法(総合) 実技・技能は個人差があるが、楽しい指導法の修得は努力しだいである。級友と助け合う中でマスターしてくれることを期待する。演技会で系統的合理的に構成された器械運動の発表を期待して評価したい。

教科書・参考書 教科書：用いない / 参考書：必要に応じて自作のプリントを配布する(3部予定)

メッセージ 体操・器械運動は楽しいものだよということを知ってもらい、体操好きの子どもを作る意欲を期待する。

連絡先・オフィスアワー 740-1224 玖珂郡美和町大字佐坂 392-1 (0827-96-0516)

開設科目	球技 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。

授業の一般目標 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 思考・判断の観点： ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫をしながら取り組むことができる。 態度の観点： チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。

授業の計画（全体） 前半は、他の球技系と種目と比較してハンドボ-の競技特性理解する。後半では、学校の体育授業で指導するための教材づくり、ルールづくりそして指導過程作りに関して教授する。

成績評価方法（総合） 技術や戦術またルールづくりや教材づくりに関する課題レポート、最終レポートおよび出席状況等で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： ハンドボ - ル指導教本, 日本ハンドボ - ル協会, 大修館書店, 1996 年

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	球技 II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	?				

授業の概要 本授業では、ネット系球技について学習する。＜以下はバレーボールの例＞ バレ - ボ - ルの個人的技能、集団的技能及びゲ - ムの戦術について概説する。また、それらの指導法についても解説する。 / 検索キーワード 球技、バレ - ボ - ル

授業の一般目標 1 . バレ - ボ - ルの基本となる個人的技能及び集団的技能を習得する。 2 . バレ - ボ - ルの基本となる個人的技術及び集団的技能を習得するための指導法を学 習する。 3 . ゲ - ムを通して、ゲ - ムの戦術を理解する。

成績評価方法 (総合) 出席状況、技能・戦術の理解度と上達度、グル - プ活動への参加度などで総合的に評価する。

開設科目	エアロビクス	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	矢野 道代				

授業の概要 エアロビク・ダンスは、ダンスの要素を取り入れた健康・体力づくりを目的とした有酸素運動である。健康・体力づくりを目標にプログラムは構成され芸術的な踊りとは異なる特性をもつ運動である。プログラムは初級レベルでウォーム・アップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む60分前後で構成される。音楽に合わせて全体学習、グル・プ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。

授業の一般目標 エアロビクダンスの特性を知ること。基本的な動きのテクニックを修得し、個人差に応じた運動強度の設定と運動の組み合わせ学習する。自分の身体を知り、全身持久性、柔軟性、調整力を高め、動きの楽しさを共有することが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：エアロビクダンスの特性について理解できる。 思考・判断の観点：エアロビクダンスの効果を実感できる。 関心・意欲の観点：動きの楽しさを共感できる。 態度の観点：積極的にグル・プ・クに参加できる。 技能・表現の観点：基礎プログラムを修得し、グル・プ発表ができる。

授業の計画（全体） エアロビクダンスの特性と運動の効果を知ることが授業計画の柱である。基礎ステップは、1.ウォームアップ 2.ステップ 3.メインダンス 4.コンディショニング 5.クーリングダウンで構成され lesson 9 で完成させる。他に体脂肪測定、心拍測定実験、メインダンスグル・プ発表を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 エアロビク・< BR >ダンスとは< BR >特性と運動の効< BR >果 内容 lesson1 授業記録 プリント配布< BR >グル・プ編成
- 第 2 回 項目 体重と体脂肪に< BR >ついて 内容 体脂肪、BMI< BR >測定< BR > lesson2 授業外指示 正しい食事の仕< BR >方< BR >日常生活の見直< BR >し 授業記録 記録カ・ド作成
- 第 3 回 項目 「痩せる」こと< BR >の意味 内容 スタイルとプロ< BR >ポ・ション< BR > lesson3 授業記録 ストレッチ、メ< BR >インダンス< BR >資料配付
- 第 4 回 項目 自然な身体づく< BR >り 内容 ストレッチの意< BR >味< BR > lesson4
- 第 5 回 項目 食事と運動 内容 メインダンス1< BR >完成< BR > lesson5 授業外指示 日常生活での運< BR >動プログラムの< BR >設定
- 第 6 回 項目 ローインパクト< BR >とハイインパク< BR >ト 内容 lesson6
- 第 7 回 項目 目標心拍数と運< BR >動強度 内容 lesson7
- 第 8 回 項目 音楽の効果< BR >心拍測定実験 内容 lesson8 授業外指示 グル・プ自主活< BR >動 授業記録 記録カ・ド作成
- 第 9 回 項目 基礎ステップ完< BR >成 内容 グル・プ発表1< BR > lesson9
- 第10回 項目 ダンスムーブメ< BR >ント 内容 lesson10 授業外指示 グル・プ自主活< BR >動
- 第11回 項目 グループ創作発< BR >表（体脂肪、< BR >BMI測定II） 内容 lesson11< BR >グル・プ発表 授業記録 記録カ・ドの作< BR >成
- 第12回 項目 まとめ< BR >心と身体 内容 lesson12< BR >楽しいダンス・< BR >ム・メント
- 第13回 項目 グループ創作発< BR >表 III
- 第14回 項目 心と身体
- 第15回 項目 まとめ

メッセージ 自分自身の基礎的な「身体づくり」をテーマにダンスの楽しさを実感してほしい。

開設科目	ダンス	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 そもそも人間は、演技的存在である。それゆえ本授業では、人間のしぐさや儀礼的な身体所作、情動とリズムを通して表出される豊かな身体表現の可能性を模索する。具体的には、1.モダンダンスの理念、2.ダンスの創作、3.その指導法等を通して、非言語的コミュニケーションとしての多様な身体表現の可能性を学習する。表現運動の楽しさや表現運動を通して得られる運動文化の新たな側面を発見する。以上のことを学習するために、本授業では、授業作品発表会の場を設け、授業作品を公開し、最終的な達成度を作品を通して評価する。/検索キーワード 創作 ダンス 舞台演出 身体表現

授業の一般目標 ダンスの意義を実践を通して理解する。特に創作ダンスの実践を通して、創作の基本、表現形式に関する理論、身体育成法、効果的な表現技術を習得する。作品のモチーフを理解し、その形式を工夫し、全体の構成・展開を組み立てていく。作品発表会は公開とし、舞踊の創作・演出・公演運営に至るまで、高度な技術を養うことを目標とする。グループ作品・全体作品の出来栄を評価の対象とするが、受講者全員による公演全体の達成度を高めることが重要である。舞台公演全体を通して、身体表現が放つ、生命力と個性の表出、そのメッセージ性、身体コミュニケーション能力の役割を理解する。また日常の自己と表現運動との関係についても考察し、授業発表会の後に、ビデオ視聴、批評会の場を設け、自己を見つめ直す。それにより、次作品への構想へと高められるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：モダンダンスの理念を歴史的に理解することができる。表現運動の基礎的運動、アクションフレーズの意味、専門用語を理解することができる。思考・判断の観点：基本動作を確認し、応用することができる。表現したい内容を適切な身体表現としてアクションフレーズを応用し、組み合わせ、全体を構成することができる。自主制作のダンス作品を通して、自己を見つめなおし、日常生活とダンスの関係について一定の関係を見出すことができる。関心・意欲の観点：グループのリーダーとなり、率先して、作品づくりを進めることができる。自主学习により、授業内容を反復、応用し、次回授業時までに高めておくことができる。態度の観点：心を込めた作品づくりができる。テーマについて真剣に考えることができる。出来上がった作品を他人に見せることができる。技能・表現の観点：基本のステップ、ターン、ジャンプが正確にできる。アクションフレーズの連続動作をリズムカルに再現することができる。表現内容に即した作品を構成することができる。表現内容に即した作品を演技することができる。コミュニケーション能力を備えた作品を舞台（人前）で披露することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1.ダンスの種類と特性、身体育成法
- 第 2 回 項目 2.ダンスの理念と実践 基本(1)
- 第 3 回 項目 ダンスの理念と実践 基本(2)
- 第 4 回 項目 ダンスの理念と実践 基本(3)
- 第 5 回 項目 3.モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(1)
- 第 6 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(2)
- 第 7 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(3)
- 第 8 回 項目 4.モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(1)
- 第 9 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(2)
- 第 10 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(3)
- 第 11 回 項目 5.舞台発表・空間・モルフォロギー(1)
- 第 12 回 項目 舞台発表・空間・モルフォロギー(2)
- 第 13 回 項目 6.リハーサル(音響・照明)
- 第 14 回 項目 7.創作ダンス作品発表会(グループ作品・全体作品)
- 第 15 回 項目 8.ビデオ鑑賞・批評会

成績評価方法 (総合) 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 80 ~ 100 %未満 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：「創作ダンス作成マニュアル」他 プリント教材を配布 / 参考書：舞踊創作と舞踊演出 (改装版), 邦正美著, 論創社, 1998 年 ; 舞踊創作と舞踊演出, 邦正美, 論創社, 1986 年 ; 舞踊創作と舞踊演出, 邦正美, 論創社, 1986 年

メッセージ ダンスの苦手意識の克服は、解放される自己存在を知るための扉です。日常生活は本来ダンスの本質を胚胎しており、あなたもすでに潜在的ダンサーです。保健体育選修、スポーツ健康科学コース以外の受講者も歓迎します。

連絡先・オフィスアワー E-mail kiked@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	武道	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 柔道の基礎的な技術の習得する。特に固技を重点的に行う。

授業の一般目標 柔道の基本動作，投げ技，および固技の理解・実践を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：柔道の基本技術の名称，動作を正確に理解する。 技能・表現の
 観点：柔道の基本技術を正確に習得し，乱取りに応用する。

授業の計画（全体） 柔道の基礎的な技術の習得を目指す。乱取りに関しては，安全面から寝技を中心に行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 柔道の沿革 内容 「柔道」の成り立ち，準備運動。
- 第 2 回 項目 柔道の基本動作 内容 基本動作の説明および練習
- 第 3 回 項目 投げ技 1 内容 出足払い，膝車
- 第 4 回 項目 投げ技 2 内容 大外刈，小外刈，大内刈，小内刈
- 第 5 回 項目 投げ技 3 内容 背負い投げ，一本背負い，内股
- 第 6 回 項目 押込み技 1 内容 袈裟固め，横四方固め，
- 第 7 回 項目 押込み技 2 内容 上四方固め，縦四方固め
- 第 8 回 項目 締技 1 内容 十字締め，送り襟締め，裸締め，袖車締め
- 第 9 回 項目 締技 2 内容 十字締め，送り襟締め，裸締め，袖車締め
- 第 10 回 項目 関節技 1 内容 腕挫十字固
- 第 11 回 項目 関節技 2 内容 腕緘
- 第 12 回 項目 寝技乱取り 1
- 第 13 回 項目 寝技乱取り 2
- 第 14 回 項目 寝技乱取り 3
- 第 15 回 項目 寝技乱取り 4

成績評価方法（総合） 出席率および授業態度により評価を行う。

連絡先・オフィスアワー 体育・スポーツ心理学研究室

開設科目	体育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクティヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。 / 検索キーワード 体育・スポーツ哲学 体育・スポーツ思想

授業の一般目標 次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかを考査する。1. 体育とスポーツの概念、2. 近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3. 身体とコミュニケーション 4. スポーツの文明化について、5. 身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6. オリンピズム、7. アマチュアリズム、8. スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代体育・スポーツの特性とその変遷について説明することができる。遊戯論（プレイ論）から、近代体育・スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。思考・判断の観点：スポーツ事象を多元的観点から捉え、分析することができる。スポーツ思想について事象を指摘し、説明することができる。アマチュアリズム、アスレティズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。関心・意欲の観点：実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容にひきつけて考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 体育学・スポーツ科学体系
- 第 2 回 項目 2. 体育とスポーツ
- 第 3 回 項目 3. 近代体育・スポーツの概念とその定義
- 第 4 回 項目 4. 身体とコミュニケーション（1）
- 第 5 回 項目 5. 身体とコミュニケーション（2）
- 第 6 回 項目 6. 身体とコミュニケーション（3）
- 第 7 回 項目 7. スポーツの文明化（1）
- 第 8 回 項目 8. スポーツの文明化（2）
- 第 9 回 項目 9. 身体文化論のパースペクティヴ（1）
- 第 10 回 項目 10. 身体文化論のパースペクティヴ（2）
- 第 11 回 項目 11. オリンピズムと近代体育・スポーツ（1）
- 第 12 回 項目 12. オリンピズムと近代体育・スポーツ（2）
- 第 13 回 項目 13. プレイ理論（1）
- 第 14 回 項目 14. プレイ理論（2）
- 第 15 回 項目 15. まとめ及び試験

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験） = 60 ~ 80 % 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 %

教科書・参考書 教科書：プリント配布。プリントの内容は、以下の参考書による。 / 参考書：スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム（ちくま新書；047）、多木浩二著、筑摩書房、1995年；黒い輪：権力・金・クスリ オリンピックの内幕、"ヴィヴ・シムソン、アンドリュウ・ジェニングズ著；広瀬隆

監訳”, 光文社, 1992 年; ホモ・ルーデンス, J・ホイジンガ(高橋英夫訳), 中央公論社, 1983 年; 遊戯とスポーツ, H・レールス(長谷川守男監訳), 玉川大学出版部, 1987 年; 身体の零度 何が近代を成立させたか, 三浦雅士, 講談社選書メチエ, 1994 年; スポーツと現代アメリカ, アレン・グットマン(清水哲男訳), TBS ブリタニカ, 1981 年; スポーツを考える, 多木浩二, ちくま新書, 1995 年 黒い輪: 権力・金・クスリ, ヴィヴ・シムソン/アンドリュー・ジェニングズ(広瀬隆監訳), 光文社, 1992 年 上記の図書は主要なもののみ。ガイダンス時に、テキスト及び参考書の一覧表を配布する。

メッセージ 「体育・スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体育・スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	体育社会学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 この授業では、現代社会における体育やスポ - ツを一つの社会制度としてとらえ、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について概説する。また、社会構造の中で体育やスポ - ツがどういう位置を占め、どういう機能を果たすのかについても概説する。 / 検索キーワード 体育、スポ - ツ、社会学

授業の一般目標 (1) 現代社会における社会現象としての体育やスポ - ツの問題・事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。(2) 現代社会における体育やスポ - ツの問題について関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会現象としての体育やスポ - ツ問題の状況、背景について説明できる。 思考・判断の観点：社会現象としての体育やスポ - ツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：スポ - ツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常生活の中でスポ - ツ問題について主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテ - ション

第2回 項目 現代スポ - ツの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第3回 項目 人はどのようにしてスポ - ツを行うようになるのか。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第4回 項目 日本におけるスポ - ツクラブの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第5回 項目 スポ - ツ文化としての「みるスポ - ツ」。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第6回 項目 スポ - ツと商業主義。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第7回 項目 スポ - ツ・ド - ピングを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第8回 項目 スポ - ツと暴力を考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第9回 項目 スポ - ツとジェンダ - 。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第10回 項目 スポ - ツ・ボランティアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第11回 項目 スポ - ツとメディアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第12回 項目 生涯スポ - ツを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。

第13回 項目 スポ - ツ社会学の必要性を考える。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。

第14回 項目 スポ - ツの文化システム。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。

第15回 項目 スポ - ツの社会システム。内容 レジメに基づいてレクチャ - を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施し評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書：今日からはじめるスポーツ社会学，”森川貞夫，依田充代編著”，共栄出版，2001年；スポーツの社会学(講座・スポーツの社会科学；1)，”池田勝，守能信次編”，杏林書院，1998年；「今日から始めるスポ - ツ社会学」森川貞夫，共栄出版，2001年「スポ - ツの社会学」池田 勝・守能信次，杏林書院，1999年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 162番室 電話：933 - 5376 E-mail:yamiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	体育心理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上地広昭				

授業の概要 本講では、体育心理学の沿革および基礎知識について説明し、運動・体育指導に役立つトピックを紹介する。また、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなど、運動・体育指導の現場で有用な技法を実践する。

授業の一般目標 体育心理学の基礎知識を理解する。メンタルトレーニングおよびスポーツカウンセリングの技法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：体育心理学の基礎知識の理解 思考・判断の観点：体育心理学の知識を応用しての問題解決力 態度の観点：真摯に授業に取り組む態度

授業の計画（全体） 体育心理学の分野における代表的な研究テーマをまとめて説明する。また、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングの実践に関しても重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 体育心理学の沿革 内容 体育心理学の成り立ち
- 第 2 回 項目 運動・スポーツとパーソナリティ1 内容 Y-G 性格検査による性格の自己診断 授業記録 資料配布
- 第 3 回 項目 運動・スポーツとパーソナリティ2 内容 「怒り」とスポーツの関係
- 第 4 回 項目 運動・スポーツにおける目標設定 内容 目標設定の利点，方法，および実践
- 第 5 回 項目 メンタルトレーニング 1 内容 心理的競技能力の測定。
- 第 6 回 項目 メンタルトレーニング 2 内容 リラクゼーション技法の解説と実践
- 第 7 回 項目 メンタルトレーニング 3 内容 パフォーマンスエンハンスメントの説明と実践
- 第 8 回 項目 スポーツカウンセリング 1 内容 臨床心理学（主に来談者中心療法）の概要説明
- 第 9 回 項目 スポーツカウンセリング 2 内容 スポーツカウンセリングの方法説明および実践
- 第 10 回 項目 スポーツカウンセリング 3 内容 スポーツカウンセリングの方法説明および実践
- 第 11 回 項目 運動・スポーツと性 内容 スポーツにおける性差および社会的性の説明
- 第 12 回 項目 運動・スポーツにおける集団力学 1 内容 チームワークおよびリーダーシップの説明
- 第 13 回 項目 運動・スポーツにおける集団力学 2 内容 コーチングの説明
- 第 14 回 項目 体育心理学の研究法 1 内容 研究計画の組み立て方
- 第 15 回 項目 体育心理学の研究法 2 内容 研究計画の実践

成績評価方法（総合） 出席状況および定期試験により評価する（ただし、欠席 3 回未満の学生のみを評価対象とする）。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 体育・スポーツ心理学研究室

備考 集中授業

開設科目	体育史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 本授業では、体育・スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的位置づけを学習する(1. 体育・スポーツの概念史 2. 近代スポーツの定義 3. 分析視角となる概念装置について)。とりわけ3. 分析視角となる概念装置については、体育・スポーツ史に関する種々の個別研究論文をとりあげ、微細な権力関係、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニー、民族スポーツとの関わりについて学習する。受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。/ 検索キーワード 文化帝国主義 文化ヘゲモニー スポーツの概念史 国民統合装置 スポーツの伝播

授業の一般目標 経験知に頼る体育・スポーツに関する認識を脱却し、体育・スポーツ事象を客観的に科学できる論理思考を養う。多様な脈絡で語られる体育・スポーツ評論を整理することを通して、体育・スポーツが含み持つ社会的脈絡を理解し、本質を捉える。最終レポートは、講義全体を通じて学習した成果の小論とする。体育・スポーツの今後を見据える上で、歴史的脈絡は無視できないことを理解する。種々の論文の主旨を正確に把握するための読解につとめ、学習の成果は、プレゼンテーション、小論文の提出の双方により表現する。この2つを評価の対象とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。日本における体育・スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。 思考・判断の観点：近代体育・スポーツ事象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。日本における体育・スポーツの成立契機についてその特徴を捉え、論じることができる。スポーツ特有の文化伝播について、文化帝国主義や文化ヘゲモニーの観点を考慮し、今後のスポーツの発展・推移について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 1. ガイダンス・授業計画の説明
- 第2回 項目 2. 体育・スポーツの概念史
- 第3回 項目 3. 近代スポーツの成立と伝播
- 第4回 項目 4. 近代オリンピックの展開と思(1)
- 第5回 項目 5. 近代オリンピックの展開と思想(2)
- 第6回 項目 6. 抵抗とトゥルネン
- 第7回 項目 7. 国民統合装置としてのスポーツ
- 第8回 項目 8. 伝統スポーツの諸相
- 第9回 項目 9. 日本近代体育・スポーツ史像の再検討
- 第10回 項目 10. アスレティズム(1)
- 第11回 項目 11. アスレティズム(2)
- 第12回 項目 12. 文化帝国主義とスポーツ(1)
- 第13回 項目 13. 文化帝国主義とスポーツ(2)
- 第14回 項目 14. 古代・中世・近世のスポーツ
- 第15回 項目 15. スポーツの社会史まとめ

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 40~60% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 40~60%

教科書・参考書 教科書：スポーツと帝国 近代スポーツと文化帝国主義，アレン・グットマン，昭和堂，1997年；日本体育史研究序説，木下秀明，不昧堂，1971年 / 参考書：現代社会とスポーツ，”ピーター・マッキントッシュ著；寺島善一，岡尾恵市，森川貞夫編訳”，大修館書店，1991年；日本近代スポーツ史の底流，高津 勝，創文企画，1994年；権力装置としてのスポーツ：帝国日本の国家戦略，坂上康博，講談社

選書メチエ, 1998年; スポーツの自由と現代 下巻, 伊藤高弘・出原泰明・上野卓郎編, 青木書店, 1986年; 現代社会とスポーツ, ピーター・マッキントッシュ, 大修館書店, 1991年 解説の対象とする論文については、授業ガイダンス時に一覧表を提示する。上記はその主だった論文を所収の図書例である。

連絡先・オフィスアワー 火曜 3.4 時限 E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	体育経営学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	野外運動論	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	?				

授業の概要 野外運動に関する講義と実技・実習を行う。 / 検索キーワード 野外運動、キャンプ

授業の一般目標 主に「キャンプ活動」に着目し、野外運動・野外教育の手法を理解し実践力を養う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 野外運動について < BR > て
- 第 2 回 項目 野外教育について < BR > て
- 第 3 回 項目 キャンプの特性
- 第 4 回 項目 キャンプの指導 < BR > 者
- 第 5 回 項目 キャンプの計 < BR > 画、運営、評価
- 第 6 回 項目 キャンプにおけ < BR > る健康と安全管 < BR > 理
- 第 7 回 項目 キャンプカウ < BR > セリングなど
- 第 8 回 項目 野外ゲ - ム
- 第 9 回 項目 野外炊事法
- 第 10 回 項目 ロ - プワ - ク
- 第 11 回 項目 キャンプクラフ < BR > ト
- 第 12 回 項目 読図法
- 第 13 回 項目 キャンプファイ < BR > ヤ -
- 第 14 回 項目 野外救急法
- 第 15 回 項目 テント設営法、 < BR > パッキングなど

メッセージ 保健体育教室行事としてのキャンプ実習を含む。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	スポーツ法学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	諏訪伸夫				

授業の概要 法の基本的目的は社会秩序を維持し、社会生活の円滑を期するとともに平均的ないし配分的正義の実現をめざすものであり、もしその構成員相互の生活利益に対立・争いがあれば平和裡に調整し解決に貢献すべきであるとされている。スポーツ関係法規も同様に考えられる。そのようなスポーツ関係法規は、内容的には、大まかにスポーツの振興、人権（保障）問題、及び事故責任と補償問題にかかわるものなどに区分できる。このようなスポーツ関係法規について、できるだけ事例に即して本講義において、その意義や役割・機能及び構造等について述べる。／検索キーワード スポーツ、法規、責任、事故、補償

授業の一般目標 スポーツ関係法規になじむことから始まって、スポーツ活動に伴って生じる様々な紛争や事故問題について、事例や判例の分析・考察を通して、自力でそれらの紛争や事故問題について取り組み、解決ないし解消できる力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. スポーツ法規とは何かについて説明できる。 2. スポーツ法規の役割・機能及び構造について説明できる。 思考・判断の観点： 1. スポーツ法規の役割・機能及び構造等について実際の具体的事例に即して説明できる。 関心・意欲の観点： 1. いわゆるリーガル・マインドを涵養し、スポーツ法規に関する関心を広げ、高めることができる。 態度の観点： 1. スポーツ（活動）に関連して生ずる法的問題について客観的に考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 スポーツ法規の意義と構造 内容 現代国家は福祉国家としてとらえられ、そのような国家は国民の福祉の増進を至上命題としており、スポーツ法規もそのような命題実現のためにあるものである。本講義では、スポーツ関係法規の全体構造について述べる。
- 第 2 回 項目 スポーツ法規の役割・機能 内容 スポーツ法規の役割・機能を理解するための法規に関する原則やスポーツ界特有のスポーツルールなどについて解説する。
- 第 3 回 項目 わが国及び諸外国のスポーツ振興と諸法規 内容 わが国及び諸外国のスポーツ振興のための関係諸法規について、具体的にはアメリカ合衆国、フランス、ドイツ、韓国などについて解説を加えていく。
- 第 4 回 項目 わが国のスポーツ振興にかかわる行財政と法規 内容 スポーツの普及・振興にあたる中央政府と地方政府の行財政にかかわる諸法規について説明する。
- 第 5 回 項目 スポーツ団体と法規・裁判等 内容 競技連盟やスポーツ団体の定める規則等に当該団体の会員（選手）が抵触した場合、しばしば紛糾し、訴訟に至る場合もある。そのような場合の裁判事例について具体的に検討を加える。
- 第 6 回 項目 学校・大学の体育・スポーツをめぐる法的問題 内容 授業や部活動さらには各種大会や競技会等において、教師や監督・コーチなどと児童・生徒・学生及び選手等との間でしばしば紛糾することがある。体罰やしごきの問題等代表的な裁判例を取り上げて、具体的に考察する。
- 第 7 回 項目 プロ・スポーツをめぐる法的問題 内容 プロ・スポーツにおいて、しばしば経営管理者・指導スタッフと選手等をめぐって紛糾する事例がある。ドラフト制度やフリーエージェント制度を解説し、憲法上保障されている職業選択の自由との関連についても検討を加える。
- 第 8 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（1） 内容 スポーツ法規は、万人が好きなきにどこでもスポーツが行えるといういわゆるスポーツの機会均等のために貢献するものでなければならない。本時においては、人種や民族等による差別の問題について法的な考察を加える。
- 第 9 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（2） 内容 スポーツは所得や性による差別があってはならない。本時は、アメリカ合衆国における性的差別をめぐっておきた裁判事例をとりあげ、あわせて税制度や所得問題等についても法的面からの解説を加える。
- 第 10 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（3） 内容 スポーツを行う際の宗教や信条による差別の問題について法的な考察を加える。

- 第 11 回 項目 スポーツ施設と環境及び隣人保護をめぐる法的問題 内容 野球場やテニスコート近くの隣人は、騒音等により心身に深刻な被害を蒙ることがある。これらに関連する内外の裁判事例を紹介し、考察を加える。
- 第 12 回 項目 スポーツ事故と責任について 内容 スポーツ活動中、不幸にして事故が起きたとき、通例、道義的責任に加えて法的責任が問われることがあるが、本時はこれらについて説明する。
- 第 13 回 項目 スポーツ事故と民事及び刑事責任 内容 スポーツ事故の損害賠償額は、近年ますます巨額化してきている。内外の代表的な民事及び刑事の事例を紹介し、検討を加える。
- 第 14 回 項目 スポーツにおけるリスクマネジメント 内容 スポーツ事故の未然防止や起きてしまったときの補償ないし賠償等いわゆるリスクマネジメントについて解説する。
- 第 15 回 項目 スポーツ仲裁制度 内容 裁判所による紛争解決は、多大な時間、費用及び労力が必要であり、スポーツ組織内の機関による場合は中立性に問題がある。中立機関による中立性が保障された第三者機関による有効な紛争解決策である仲裁裁定は有効な紛争解決策であり、解説を加える。

成績評価方法 (総合) レポート及び試験等で総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：「スポーツ六法」伊藤堯、山田良樹編、道和書院；受講に際して、法令集(例えば、「スポーツ六法」伊藤 堯、山田良樹編、道和書院、2001年)を準備しておくことが望ましい。

メッセージ スポーツ関係者の必須知識ともいえるスポーツ関係法規を現代的トピックスに即して解説している。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	運動学(運動方法学を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	皆川 孝志				

授業の概要 身体運動は骨格筋の収縮を骨に伝え、その力学量を環境に働きかけて遂行している。したがって、はじめに骨と関節及び筋肉についてのアウトラインを述べ、それを土台に柔軟性、筋力トレーニングについて概説する。つづいて、身体各部位の筋の構造や作用について理解し、身体運動との観点から筋の働きを考察する。さらに、身体運動を力学的側面から分析するための力学的基礎と応用について解説する。/ 検索キーワード 骨格と筋 構造と機能 身体運動 生体力学的分析

授業の一般目標 1. 身体各部位の骨格、筋の構造と機能について理解する。 2. 身体の柔軟性、筋力トレーニングの生体力学的概要について理解する。 3. 身体運動の力学的基礎を習得する。 4. 動きの生体力学的分析を通して運動技能のコーチングへの適用価値を認識する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 構造や機能を説明できる 2. 関連器官の機能を関係づけられる 思考・判断の観点: 1. 力学的分析にもとづき、動きの価値を評価できる 関心・意欲の観点: 1. よりよいヒトの動きの分析と考察に寄与できる

授業の計画(全体) 1. 骨・関節・筋の概略 1)骨 2)関節 3)筋 4)柔軟性トレーニング 5)筋力トレーニング 2. 力学的基礎 3. 下肢の構造と機能 1)骨盤と下肢帯 2)骨盤から起こる筋 3)膝関節 4)膝の運動と筋 4)下腿と足 4. 体幹の構造と機能 1)背部の筋 2)腹部の筋 5. 上肢の構造と機能 1)肩の運動と筋 2)肘関節 3)手関節 6. スポーツの力学 1)力 2)重心 3)慣性モーメント 4)応用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. オリエンテーション 2.1 章 骨・関節・筋の概略 内容 1. 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法 2. 骨 関節: 骨の連結、関節の概観と種類 授業外指示 「人体構造機能論」「運動生理学」の該当部分参照すること 資料を参照 授業記録 資料配付
- 第 2 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.1 章 骨・関節・筋の概略 内容 1. 筋 骨格筋の構造と機能、筋の働き方と運動、筋の活動を調節する神経系 授業外指示 「人体構造機能論」の該当部分参照すること 資料を参照
- 第 3 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.1 章 骨・関節・筋の概略 3. ストレッチングの方法 内容 1. 柔軟性トレーニング 7 章 ストレッチング の方法 2. 筋力トレーニング 授業外指示 資料を参照
- 第 4 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.2 章 力学的基礎 内容 1. 力 2. ベクトル 3. 力のモーメント
- 第 5 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 内容 1. 骨盤と下肢帯 2. 骨盤から起始する筋: 骨盤外筋、大腿内転筋群、骨盤内筋 授業外指示 「人体構造機能論」の該当部分参照すること
- 第 6 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 内容 1. 膝関節 2. 膝の運動と筋: 大腿伸筋群、膝関節に生ずるストレス、大腿屈筋群 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 3.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 下腿と足: 下腿の筋、足関節の働き、足の骨と筋 2. 脊柱の構造: 脊柱と椎骨 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 椎骨間にかかるストレス 2. 腰痛の原因とメカニズム 3. 椎骨にかかるストレスの力学的分析 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 背部の筋: 背筋の構造と機能、背筋を強化する運動 2. 腹筋の筋: 腹筋の機能と構造、腹筋の強化運動、呼吸と呼吸筋 授業外指示 "

- 第 10 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 肩の運動と筋: 肩甲骨と上腕を結ぶ筋、肩甲骨と体幹を結ぶ筋 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 体幹と上肢を結ぶ筋: 大胸筋、三角筋、広背筋などの構造と機能 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 肘関節: 肘関節の構造、肘関節の屈曲・伸展筋群 2. 手関節: 手首まわりの筋と運動 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.6 章 スポーツ力学 内容 1. 外力: 重力、作用力、摩擦力、抵抗力 2. 内力: 筋力、腱と靭帯の力 2.
- 第 14 回 項目 1.6 章 スポーツ力学 内容 1. 重心: 各種姿勢の違いによる重心位置、身体各部位の重心位置と各部の相対重量と運動の関係 2. 慣性モーメント 3. 応用
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 前週の授業範囲から小テストをほぼ毎週実施する。この小テストは平均5点以上をクリアーすることを目標とする 小テストの成績の評価割合は30%とする 2. 試験は期末試験を実施する 期末テストの評価割合は70%とする 3. 出席回数が所定の回数に満たない者には単位を与えない

教科書・参考書 教科書: 目で見える動きの解剖学, ロルフ・ヴィルヘッド, 大修館書店, 1999年 / 参考書: スポーツバイオメカニクス入門, 金子公宥, 杏林書院, 1994年; 人体の構造と機能, エレイン・N・マリープ, 医学書院; 基礎運動学, 中村隆一・斉藤 宏, 医歯薬出版, 1997年

メッセージ 毎週小テストを実施します。復習と予習を忘れずに!!

連絡先・オフィスアワー Eメール: takmina@c-able.ne.jp TEL:083-922-6155

開設科目	フィットネス論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。

授業の一般目標 運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解0する。 思考・判断の観点：トレーニングによる一部の器官の適応を他の器官と関連付けて思考することができる。 関心・意欲の観点：新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心がある。

授業の計画(全体) <第1週> 体力トレーニングの位置づけ(体力の定義、分類、トレーニングの意義) <第2週> トレーニングの一般的原則 <第3週> トレーニングによる形態系の適応 <第4週> トレーニングによる筋・骨格系の適応 <第5週> トレーニングによる呼吸・循環系の適応 <第6週> トレーニングによる代謝・内分泌系の適応 <第7週> レジスタンストレーニングの原理と方法(1) <第8週> レジスタンストレーニングの原理と方法(2) <第9週> アジリティ-トレーニングの原理と方法 <第10週> 局所および全身持久力のトレーニングの原理と方法 <第11週> 体力トレーニングと栄養 <第12週> 年齢・性を考慮した体力トレーニング <第13週> トレーニング計画の作り方の一般的原則 <第14週> アンチド-ピングの必要性 <第15週> まとめ 試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 体力トレーニングの位置づけ(体力の定義、分類、トレーニングの意義)
- 第2回 項目 トレーニングの一般的原則
- 第3回 項目 トレーニングによる形態系の適応
- 第4回 項目 トレーニングによる筋・骨格系の適応
- 第5回 項目 トレーニングによる呼吸・循環系の適応
- 第6回 項目 トレーニングによる代謝・内分泌系の適応
- 第7回 項目 レジスタンストレーニングの原理と方法(1)
- 第8回 項目 レジスタンストレーニングの原理と方法(2)
- 第9回 項目 アジリティ-トレーニングの原理と方法
- 第10回 項目 局所および全身持久力のトレーニングの原理と方法
- 第11回 項目 体力トレーニングと栄養
- 第12回 項目 年齢・性を考慮した体力トレーニング
- 第13回 項目 トレーニング計画の作り方の一般的原則
- 第14回 項目 アンチド-ピングの必要性
- 第15回 項目 まとめ 試験

教科書・参考書 参考書：スポ-ツ生理学, 森谷・根本編, 朝倉書店, 1995年; C級コ-チ教本(前期・後期), 日本体育協会, 日本体育協会, 1995年; 新訂 運動生理学概論, 宮下、石井編著, 大修館書店, 1996年; 骨格筋に対するトレーニング効果, 山田・福永編, NAP, 1997年; プリント配布

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	トレーニング処方演習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 トレーニングの指導法や体力測定及びそのデータ処理法に関する実習を行う。

授業の一般目標 トレーニングの指導法や体力測定方法を理解し、得られたデータの整理方法について実習を通して理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：体力測定の意義と方法を理解する。トレーニングの指導法を理解する。得られたデータの整理方法について実習を通して理解する。 思考・判断の観点：既成の体力測定法にとらわれずに新しい方法を考える。 関心・意欲の観点：体力測定結果のデータの利用法について関心を持つ。

授業の計画(全体) <第1週>ウォーミングアップとクールダウンの生理学的意義 <第2週>ストレッチの生理学的意義とストレッチの実際・指導上の留意点(1) <第3週>ストレッチの生理学的意義とストレッチの実際・指導上の留意点(2) <第4週>トレーニングマシンを使用しないレジスタンストレーニングの実際・指導上の留意点 <第5週>トレーニングマシンを使用するレジスタンストレーニングの実際・指導上の留意点 <第6週>体力測定の意義と実施上の留意点 <第7週>体力測定の実際(1) <第8週>体力測定の実際(2) <第9週>体力測定の実際(3) <第10週>体力測定結果のデータ処理、統計法(1) <第11週>体力測定結果のデータ処理、統計法(2) <第12週>体力測定結果のデータ処理、統計法(3) <第13週>心拍数から見た運動強度のモニタリング <第14週>血中乳酸値から見た運動強度のモニタリング <第15週>まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ウォーミングアップとクールダウンの生理学的意義
- 第2回 項目 ストレッチの生理学的意義とストレッチの実際・指導上の留意点(1)
- 第3回 項目 ストレッチの生理学的意義とストレッチの実際・指導上の留意点(2)
- 第4回 項目 トレーニングマシンを使用しないレジスタンストレーニングの実際・指導上の留意点
- 第5回 項目 トレーニングマシンを使用するレジスタンストレーニングの実際・指導上の留意点
- 第6回 項目 体力測定の意義と実施上の留意点
- 第7回 項目 体力測定の実際(1)
- 第8回 項目 体力測定の実際(2)
- 第9回 項目 体力測定の実際(3)
- 第10回 項目 体力測定結果のデータ処理、統計法(1)
- 第11回 項目 体力測定結果のデータ処理、統計法(2)
- 第12回 項目 体力測定結果のデータ処理、統計法(3)
- 第13回 項目 心拍数から見た運動強度のモニタリング
- 第14回 項目 血中乳酸値から見た運動強度のモニタリング
- 第15回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：C級コチ教本(前期・後期), 日本体育協会, 日本体育協会, 1995年; 健康・スポーツ科学のための統計学, 出村慎一, 大修館書店, 1996年; 健康運動実践指導者用テキスト, 宮下ら編, 健康・体力づくり事業団, 1998年; プリント配布

メッセージ 本実習は2コマ連続で行う。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育学研究法	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	保健体育全員				

授業の概要 この科目は、保健体育学分野における研究法の基礎・基本の理解をはかるための演習である。
〔授業内容〕 以下の4つの研究方法の入門講義を行う 1. 文献研究法…担当：池田 2. 調査法…担当：上地 3. 学校保健研究法…担当：友定 4. 授業研究法…担当：海野

授業の一般目標 保健体育学研究領域で用いられる研究方法について理解し、専門分野の演習を行う上での基礎的方法論を習得すること。

授業の計画(全体) 保健体育教室所属教員が、それぞれの専門領域に関する研究方法について授業を展開する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 体育学研究法(1)…担当：池田
- 第2回 項目 体育学研究法(2)…担当：池田
- 第3回 項目 体育学研究法(3)…担当：池田
- 第4回 項目 体育学研究法(4)…担当：池田
- 第5回 項目 調査法(1)…担当：上地
- 第6回 項目 調査法(2)…担当：上地
- 第7回 項目 統計法(1)…担当：上地
- 第8回 項目 統計法(2)…担当：上地
- 第9回 項目 授業研究法(1)…担当：海野
- 第10回 項目 授業研究法(2)…担当：海野
- 第11回 項目 授業研究法(3)…担当：海野
- 第12回 項目 授業研究法(4)…担当：海野
- 第13回 項目 学校保健研究法(1)…担当：友定
- 第14回 項目 学校保健研究法(2)…担当：友定
- 第15回 項目 学校保健研究法(3)…担当：友定

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 60~80% 演習 = 20~40% 出席 = 欠格条件

開設科目	保健体育学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 本授業は、 1 . 各専門領域の先行研究に学び、 2 . 自己の研究課題を決め、 3 . 研究方法を深めるための演習 である。 各教官の研究室に所属し、指導を受ける。専門的な研究論文の読解、専門的な研究方法 について、担当教官の指導のもと、自主的に研究・学習する態度を養う。

授業の一般目標 専門領域の先行研究の検討を行い、自己の研究課題を決定すると同時にそのための研究方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門領域の先行研究の概要について説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究課題について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点： スポ - ツ問題に興味を持つ。 態度の観点： スポ - ツ問題に関心をもつ。

授業の計画（全体） 各専門領域の先行研究に学び、自己の研究課題を決め、研究方法を深める。

成績評価方法（総合） レポ - トを提出する。

連絡先・オフィスアワー E-mail:yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育学演習 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 卒業研究を進めるための演習で、各自の研究課題に関わる先行研究の検討及び研究方法について理解を深めるとともに、論文作成の指導を行う。

授業の一般目標 各自が今日の研究動向を踏まえ、適切な研究課題を設定し、それに関わる先行研究について理解し、研究方法について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究課題の現代的意義について説明できる。先行研究について理解することができる。思考・判断の観点：先行研究と自らの研究課題の関係について説明できる。関心・意欲の観点：自らの研究課題について主体的に取り組むことができる。態度の観点：問題意識を持って自らの研究課題にねばり強く取り組むことができる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 各自の研究課題に関わる先行研究の検討及び研究方法について学習し、自らの研究課題についての今日的意義、研究方法について理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 レポート&集団討論
- 第 3 回 項目 レポート&集団討論
- 第 4 回 項目 レポート&集団討論
- 第 5 回 項目 レポート&集団討論
- 第 6 回 項目 中間報告会（1）授業外指示 中間レポート
- 第 7 回 項目 レポート&集団討論
- 第 8 回 項目 レポート&集団討論
- 第 9 回 項目 レポート&集団討論
- 第 10 回 項目 レポート&集団討論
- 第 11 回 項目 中間報告会（2）授業外指示 中間レポート
- 第 12 回 項目 レポート&集団討論
- 第 13 回 項目 レポート&集団討論
- 第 14 回 項目 レポート&集団討論
- 第 15 回 項目 最終報告会 授業外指示 最終レポート

成績評価方法（総合） 演習への取り組み状況及びレポートによって評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生理学（運動生理学を含む。）	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介、杉浦崇夫				

授業の概要 神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について講義する。

授業の一般目標 神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。 思考・判断の観点：運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 関心・意欲の観点：運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化に関心を示し、生体の合理性などに関する意識を高める。

授業の計画（全体） <第1週> 運動発現の最小単位としての運動単位（motor unit） <第2週> 筋収縮の機構（電気的活動と機械的活動） <第3週> 筋収縮のエネルギー代謝（有酸素機構と無酸素機構） <第4週> 筋線維と運動単位のタイプ <第5週> 運動ニューロンの性質と運動単位の動員 <第6週> 筋収縮の様式 <第7週> 筋力発揮と筋疲労 <第8週> トレーニングによる筋機能の変化 <第9週> 反射運動の機構Ⅰ <第10週> 反射運動の機構Ⅱ <第11週> 随意運動の機構Ⅰ <第12週> 随意運動の機構Ⅱ <第13週> 運動学習と神経系の可塑性Ⅰ <第14週> 運動学習と神経系の可塑性Ⅱ <第15週> 試験

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 運動発現の最小単位としての運動単位（motor unit）
- 第2回 項目 筋収縮の機構（電気的活動と機械的活動）
- 第3回 項目 筋収縮のエネルギー代謝（有酸素機構と無酸素機構）
- 第4回 項目 筋線維と運動単位のタイプ
- 第5回 項目 運動ニューロンの性質と運動単位の動員
- 第6回 項目 筋収縮の様式
- 第7回 項目 筋力発揮と筋疲労
- 第8回 項目 トレーニングによる筋機能の変化
- 第9回 項目 反射運動の機構Ⅰ
- 第10回 項目 反射運動の機構Ⅱ
- 第11回 項目 随意運動の機構Ⅰ
- 第12回 項目 随意運動の機構Ⅱ
- 第13回 項目 運動学習と神経系の可塑性Ⅰ
- 第14回 項目 運動学習と神経系の可塑性Ⅱ
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合）全出席を前提として、成績は試験70%、レポート20%、授業態度・授業への参加度10%の割合で評価する。

教科書・参考書 教科書：新訂 運動生理学概論, 宮下、石井編著, 大修館書店, 1996年 / 参考書：プリント配布

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385 shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生理学（運動生理学を含む。）	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。 / 検索キーワード 運動、運動トレーニング、呼吸循環調節

授業の一般目標 運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について説明できる。2. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。 思考・判断の観点：1. 運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。2. 運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。 関心・意欲の観点：1. 運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について関心を持つ。2. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、呼吸循環系の概略 内容 運動生理学とは、シラバス説明、血液の循環、血管 授業外指示 1. シラバスを読んでおく 2. 教科書を読んでおく
- 第2回 項目 末梢循環 I 内容 血流配分、毛細血管における物質交換の機序、組織への酸素の運搬（ヘモグロビン） 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第3回 項目 末梢循環 II 内容 ヘモグロビンの酸素解離曲線、ボア効果 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第4回 項目 末梢循環 III 内容 ミオグロビン、組織における二酸化炭素の運搬、ミトコンドリアにおける酸素摂取、動静脈酸素較差 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第5回 項目 末梢循環 IV 内容 静的筋持久力と動的筋持久力、筋持久力と血流量、筋持久力と神経系 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第6回 項目 中心循環 I 内容 心臓の構造と心容積、心拍数と心拍出量（心臓の調節機構） 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第7回 項目 中心循環 II 内容 心拍数と心拍出量（運動に対する反応）、心電図、血圧の基準と調節機構 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第8回 項目 中心循環 III、呼吸機能 I 内容 運動と血圧、呼吸器の構造と呼吸運動 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第9回 項目 呼吸機能 II 内容 呼吸の周期性形成、肺の大きさ と機能、肺換気量の調節 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第10回 項目 呼吸機能 III 内容 運動時の肺換気量、呼吸商および呼吸交換率 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第11回 項目 呼吸機能 IV 内容 肺拡散容量とは、肺拡散容量に影響する因子、運動と肺拡散容量 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第12回 項目 酸素摂取能力 I 内容 エネルギー発生の仕組み、運動と酸素摂取量、酸素負債と無酸素能力 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第13回 項目 酸素摂取能力 II 内容 最大酸素摂取量、酸素摂取水準維持能力、無酸素的作業閾値 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第14回 項目 運動機能からみた女性の身体的特徴 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合）小テストは2週に1回行う。欠席の場合（特別な理由がない）は0点扱いとする。小テストの結果が50点未満の場合はレポートを課す。2/3以上出席と小テスト平均50点以上が単位認定の最低必要条件である。

教科書・参考書 教科書：運動生理学概論（新訂），”宮下充正, 石井喜八編著”，大修館書店, 1983年；新訂 運動生理学概論、宮下、石井編著、大修館書店、1996年 / 参考書：プリントを配布する。

メッセージ 人体構造機能論 II を受講していること（スポーツ健康科学コース以外の学生については人体構造機能論 II を受講していることが望ましい）。運動生理学実習を受講するためにはこの授業を受講（2/3以上）しておかなければならない。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2（083-933-5389）、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9時～12時

開設科目	スポーツ生化学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫、塩田正俊				

授業の概要 運動によって生じる生体内の化学的变化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。

授業の一般目標 運動によって生じる生体内の化学的变化とその機序について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：身体運動時の生化学的变化を説明できる。 思考・判断の観点：運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学変化などについて推論することができる。 関心・意欲の観点：運動時の生化学変化について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 運動生化学に必要な基礎知識
- 第 2 回 項目 運動時のエネルギー産生
- 第 3 回 項目 運動時のエネルギー消費
- 第 4 回 項目 糖質の概観
- 第 5 回 項目 運動時の糖質代謝
- 第 6 回 項目 脂質の概観
- 第 7 回 項目 運動時の脂質代謝
- 第 8 回 項目 タンパク質の概観
- 第 9 回 項目 運動とタンパク質代謝
- 第 10 回 項目 運動と血清酵素 活性値変化
- 第 11 回 項目 運動時の血液性状
- 第 12 回 項目 運動による血液・尿 pH の変化
- 第 13 回 項目 運動時の電解質・水分代謝
- 第 14 回 項目 運動時の内分泌機能
- 第 15 回 項目 運動と生体防御

成績評価方法 (総合) 欠席 = 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名の教員のいずれもが以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために（第 3 版），”篠原力雄，饒村護編”，ヌーヴェルヒロカワ，2002 年；石黒伊三雄監修：わかりやすい生化学 NOUVELL HIROKAWA 必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：必要に応じて紹介する。

開設科目	環境適応学	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 自律神経系
- 第3回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 内分泌系
- 第4回 項目 体温調節の機能
- 第5回 項目 温度受容器について 内容 実習 I
- 第6回 項目 環境温度の生理学 寒冷 I
- 第7回 項目 環境温度の生理学 寒冷 II
- 第8回 項目 寒冷生体反応について 内容 実習 II
- 第9回 項目 環境温度の生理学 暑熱
- 第10回 項目 圧力の生理学 低圧 I
- 第11回 項目 圧力の生理学 低圧 II
- 第12回 項目 圧力の生理学 高圧
- 第13回 項目 高圧に対する生体反応について 内容 実習 III
- 第14回 項目 生体機能の周期性変化(日周・年周リズム)
- 第15回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：環境生理学, 黒島, 理工学社, 1993年

メッセージ 2/3以上出席が、単位認定のための最低必要条件です。

連絡先・オフィスアワー sone@yamaguchi-u.ac.jp

備考 隔年開講

開設科目	公衆衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	日野精二				

授業の概要 人間の健康に影響を及ぼす各種要因(食・環境・社会等)と疾病との関連や各種疾病に対する予防・対策並びに健康の現状及びその指標について講義する。

授業の一般目標 健康の維持増進や病気の予防のためにはどうすればよいのか、病気を引き起こす要因は何であるかを学び、自らの健康は自ら守るという考え方を養う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公衆衛生学の概要 病気の予防
- 第 2 回 項目 健康レベル現状人口静態・動態統計
- 第 3 回 項目 疫学 病気の原因を探る
- 第 4 回 項目 感染症(1) 感染源・感染経路・感受性
- 第 5 回 項目 感染症(2) 各種の感染症
- 第 6 回 項目 精神保健 心の病気
- 第 7 回 項目 環境保健(1) 生活環境
- 第 8 回 項目 環境保健(2) 公害
- 第 9 回 項目 母子保健
- 第 10 回 項目 成人・老人保健(1) 生活習慣病と老人保健
- 第 11 回 項目 成人・老人保健(2) 生活習慣病と老人保健
- 第 12 回 項目 産業(職場)保健(1) 職業と病気
- 第 13 回 項目 産業(職場)保健(2) 職業の作業環境・健康管理
- 第 14 回 項目 社会保障のシステム(1) 医療・保健
- 第 15 回 項目 社会保障のシステム(2) 社会福祉

教科書・参考書 教科書: イラスト公衆衛生学, 石川哲也 ほか, 東京数学社, 2005年 / 参考書: プリントを配布する。

開設科目	学校保健 I(小児保健, 精神保健を含む。)	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	友定保博				

授業の概要 学校保健は子どもの健康・発達を支援する教育活動です。Iでは学校における健康管理活動を対象に、自分自身の健康・発達状況をさぐり、あるいは、これまでの自分の経験・体験を相対化しながら、子どもの健康・発達につながる援助の理論と技術を学びます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：・学校における健康管理の活動について、その種類や方法を理解する 思考・判断の観点：・子ども理解のしかた、子どもの実態の把握にもとづいて必要な支援や働きかけを選択する 技能・表現の観点：・健康診断の項目、学校環境や安全の点検の点検項目について、学級担任として必要な技術や方法を身につける

授業の計画(全体) 学校における健康管理活動について知るとともに、子どもの健康・発達につながる援助の理論と技術を学びます。とくに主体管理を中心に、心とからだの問題への対処や健康診断・健康相談について、事例をもとに話し合います。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学校保健の変遷 - 教育における 位置づけと意義
- 第 2 回 項目 学校保健の構造 と機能健康論、 発達の考え方
- 第 3 回 項目 子どもの健康管 理(1) バイタルサイン
- 第 4 回 項目 子どもの健康管 理(2) 頭痛・ 腹痛と心の問題
- 第 5 回 項目 小児の健康問題 - 現代のリス ク・ パターン
- 第 6 回 項目 ライフステージ における健康・ 発達課題 - 生活 習慣病
- 第 7 回 項目 子どもの健康問 題調査(1) 個 人課題の設定
- 第 8 回 項目 学校健康診断を 考える(1)
- 第 9 回 項目 学校健康診断を 考える(2) デ ィベート
- 第 10 回 項目 思春期の精神保 健(1) からだ と心の一体性
- 第 11 回 項目 思春期の精神保 健(2) 問題事 例の検討
- 第 12 回 項目 思春期の精神保 健(3) 自分探 し
- 第 13 回 項目 子どもの健康問 題調査(2) レ ポート発表・相 互評価
- 第 14 回 項目 子どもの健康問 題調査(3) レ ポート発表・相 互評価
- 第 15 回 項目 子どもの健康問 題調査(4) レ ポート発表・相 互評価

メッセージ 子どもの健康や発達の問題を考えることは、皆さん自身のこと、つまり青年 期の「自分づくり」でもあります。

開設科目	学校保健 II(学校安全，救急処置を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

授業の概要 学校保健活動の教育的側面を扱う「健康教育論」を内容としています。とくに、保健学習・指導の目的・内容・方法について、受講者が参加する方法をとりいれ、具体的に教授します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・学習指導要領・教科書における保健教育内容について理解する。
 思考・判断の観点： ・子ども実態に基づく教材内容や教育方法を選択できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 保健の学習指導における教師の力量
- 第 2 回 項目 保健の学習指導で育てる「学力」と教材づくり
- 第 3 回 項目 保健教材づくりの視点と方法
- 第 4 回 項目 保健学習・指導プラン作成（1）題材選択
- 第 5 回 項目 保健学習・指導プラン作成（2）教材カード作成 内容 最終的に「学習指導プラン」作成
- 第 6 回 項目 「ドナーカードから脳死移植を考える」授業の検討（1）内容 授業例は変更することもある。
- 第 7 回 項目 「ドナーカードから脳死移植を考える」授業の検討（2）
- 第 8 回 項目 「性同一性障害を考える」授業の検討（1）
- 第 9 回 項目 「性同一性障害を考える」授業の検討（2）
- 第 10 回 項目 学校における安全管理と安全教育
- 第 11 回 項目 学校における防災教育
- 第 12 回 項目 安全の考え方、事故防止における危険予知
- 第 13 回 項目 「救急処置」模擬授業
- 第 14 回 項目 学校における救急処置法（実地指導）
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	池田恵子				

授業の概要 体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、歴史哲学的手法を用いてその探究に務める。卒業論文作成に向けて、各自設定したテーマに即し、資料収集、文献解読、方法論の検討、論文の書き方について指導を行う。成果は卒業論文中間報告会として保健体育選修校構成員全員の前で授業時間以外にも3度の中間発表を行う。最終報告会も開催する。

授業の一般目標 今日の研究動向を踏まえ、適切なテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究について正確に理解し、研究方法について学習する。資料収集、文献解読を通じて、新しい視野を開拓するとともに、緻密な演習力、論文構成力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマの今日的意味について説明できる。先行研究について正確に理解することができる。思考・判断の観点：先行研究と自らのテーマの関係について論理的に整理することができる。資料収集、文献解読の結果を、自らの研究テーマに即して、再構成し、集約することができる。関心・意欲の観点：演習結果の問題点を指摘し、論文構成について再検討することに、忍耐強く取り組み、努力することができる。態度の観点：主体的に調査旅行、文献収集につとめ、粘り強く、テーマと向き合うことができる。

連絡先・オフィスアワー kiked@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	上地広昭				

授業の概要 運動行動,食行動,ストレスマネジメント行動などの健康行動について,健康心理学的視点から実証的研究を行う。基礎的統計法の習得,学术论文の読解を行う。

授業の一般目標 先行研究を踏まえた上で,独自性のある研究を行う。学术论文の作成法および基礎的統計法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 先行研究を網羅する。基礎的統計法を理解・使用する。 思考・判断の観点: 先行研究から問題点を見つけ出し,独自性のある研究を行う。 関心・意欲の観点: 先行研究を自主的に読み進める。統計法の予習・復習を行う。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	海野勇三				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査・研究を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方、発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要(到達点・問題点)を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマに迫るための調査・研究の方法を適切にデザインすることができる。また、調査結果に基づいて自らの考えを論理的に、かつわかりやすく組み立てて述べることができる。 関心・意欲の観点：テーマの設定から始まり論文を作成していく過程を通じて、自身の関心を膨らましなが、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：さまざまな問題について、批判的および主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：自らが調査・研究してきた結果を、論文執筆の規定に従って筋道立てて叙述することができる。また、卒論発表会でわかりやすく抄録作成・口頭発表することができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を適宜報告してもらいながら、ゼミ形式あるいは個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 オリエンテーション
- 第3回 項目 レポートと集団討論
- 第4回 項目 レポートと集団討論
- 第5回 項目 レポートと集団討論
- 第6回 項目 レポートと集団討論
- 第7回 項目 中間報告会 I
- 第8回 項目 レポートと集団討論
- 第9回 項目 レポートと集団討論
- 第10回 項目 レポートと集団討論
- 第11回 項目 レポートと集団討論
- 第12回 項目 中間報告会 II
- 第13回 項目 レポートと集団討論
- 第14回 項目 レポートと集団討論
- 第15回 項目 最終報告会

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程での取り組み、および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 何より課題意識を鮮明にもって、主体的にテーマと格闘してください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	友定保博				

授業の概要 性の多様性への対応に関する研究テーマについて、卒論指導。

開設科目	初等科体育	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通じた学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。なお、実技は2班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ7回ずつ行う。 / 検索キーワード 初等科体育, 体操・器械運動, タグフットボール

授業の一般目標 小学校体育における, 体操・器械運動とタグフットボールの実習および, それをふまえての指導法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 態度の観点: 講義に真摯に取り組む態度 技能・表現の観点: 体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 タグフットボールのルール説明 内容 タグフットボールの概要とルール説明を行う
- 第 2 回 項目 タグフットボールの基本動作 1 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第 3 回 項目 タグフットボールの基本動作 2 内容 基本動作の反復練習および簡単なゲーム形式
- 第 4 回 項目 タグフットボールの基本動作 3 内容 基本動作の反復練習および簡単なゲーム形式
- 第 5 回 項目 タグフットボールのゲーム 内容 試合形式
- 第 6 回 項目 タグフットボールの指導法 1 内容 指導法の説明
- 第 7 回 項目 タグフットボールの指導法 2 内容 指導法の説明
- 第 8 回 項目 タグフットボールのルール説明 内容 タグフットボールの概要とルール説明を行う
- 第 9 回 項目 タグフットボールの基本動作 1 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第 10 回 項目 タグフットボールの基本動作 2 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第 11 回 項目 タグフットボールの基本動作 3 内容 基本動作の反復練習およびゲーム形式
- 第 12 回 項目 タグフットボールのゲーム 内容 試合形式
- 第 13 回 項目 タグフットボールの指導法 1 内容 指導法の説明
- 第 14 回 項目 タグフットボールの指導法 2 内容 指導法の説明
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 体操・器械運動とタグフットボールの実習と指導法について学習する。

開設科目	初等科体育	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳屋文雄				

授業の概要 授業は実技実習を中心におこなうが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行い、よき指導者の育成をめざす。

授業の一般目標 体操・器械運動の特性を理解し、技能の向上を図るとともに指導法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：キネシオロジーの観点から理解している。 思考・判断の観点：系統性をもって考えている。 関心・意欲の観点：グループ内で積極的に行動している。 態度の観点：挑戦的な気持ちを育てたい。 技能・表現の観点：美しい実技・演技・構成を考えて行っている。 その他の観点：指導能力・指導意欲を大切にしたい。

授業の計画(全体) (1) 器械運動の特性を理解し、実技力向上及び補助法を学習する。(2) 体力づくり・動きづくり・健康づくりのための体操を学習する。(3) グループ学習・集団行動のポイントを学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 特性と授業のねらいを理解する 授業外指示 良き指導者とはどんな姿勢だろうか、考えてみよう。 授業記録 プリント配布
- 第 2 回 項目 ベーシクトレーニング 内容 体操・器械運動のためのベーシクトレーニング 授業外指示 メッセージを大切に。
- 第 3 回 項目 マット運動の基本 I 内容 基本技能の練習とグループ支援
- 第 4 回 項目 マット運動の基本 II 内容 初級から中級への系統性 授業記録 プリント配布
- 第 5 回 項目 マット運動の基本 III 内容 技の向上と補助のタイミング・ポイント
- 第 6 回 項目 マット運動・跳び箱運動 内容 グループ学習の楽しさを学ぶ 授業外指示 動きづくりを考えてみよう(レポート課題提示)
- 第 7 回 項目 体操・器械運動 内容 身体能力の向上、指導者の喜び、器械運動の系統性
- 第 8 回 項目 レポート提出 内容 体操・器械運動の特性と指導法のポイントについて述べよ。 授業外指示 授業感想を含めて作成する(A 4で3枚以上)
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 受講対象者の器械運動に対する身体能力、興味・関心・態度は決して高いものではなく、むしろ苦手意識の学生が多いのが実態である。そこで実技能力を技能力よりは指導能力の良さに重きを置いた評価とする。

教科書・参考書 参考書：必要に応じてプリントを配布する(2部予定)

メッセージ 技の向上より指導力の向上を期待しています。

開設科目	教科教育法体育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

授業の概要 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。授業は体育領域(海野)と保健領域(友定)に分け実施する。前半・後半で一人6～7回を担当し交代する。する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：・学習指導要領における保健領域の目標・内容について理解する
 思考・判断の観点：・子どもの実態にあわせた内容や方法を選択できる 関心・意欲の観点：・保健の教材づくりに興味・関心をもたせる

授業の計画(全体) 小学校3年からの保健学習について、学習指導要領ならびに保健教科書の内容を知り、教材づくりや授業づくりの視点や方法について学習する。楽しくわかる保健学習を自らが体験して学ぶため、具体的な実践事例をプリントで紹介しながら進める。

成績評価方法(総合) 毎時の感想を兼ねた出欠カードおよび最終レポート 欠格条件：出欠状況

連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 戦後体育実践史について、各時期の典型的実践を集团的に検討することを通じて、その展開と特徴を理解する。また、今日の教育改革の動向の中で保健体育科がどのように変えられようとしているのか、学校体育全体（体育授業・体育行事・部活）のあるべき姿について、グループ研究・報告・討論・グループ研究・レポート作成という展開のもとに理解を深める。これらを通じて「よい体育の授業とは」の問いに関する自分なりのイメージを膨らませていく。／検索キーワード よい体育の授業とは？

授業の一般目標 よい体育の授業とは何か？をテーマに学習を深めていく。体育の授業が、時々の政治・経済・社会状況の影響を受けながら展開され、変遷してきたことを理解するとともに、学校体育の領域と作用についてそれぞれの区別と関連を理解する。グループによる研究の進め方・レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦後の体育実践の展開過程に関し、その特徴を説明することができる。また学校体育の領域と作用について、その区別と関連を説明できる。思考・判断の観点：個人またはグループで、課題意識に沿った資料収集と考察を行い、結果を論理的に述べることができる。態度の観点：グループでの共同作業において、積極的に自己の分担テーマに取り組むと共に、討論や交流会の場で、疑問点や自己の意見を率直に表明できる。技能・表現の観点：テーマに沿ったレポートや発表をわかりやすく、まとめて報告することができる。

授業の計画（全体） 授業の前半は、体育実践に関する資料をもとに、その歴史的背景ならびに実践の特徴について学習する。後半では、課題別に小グループを組織して、学校体育の過去・現在・未来について集团的に資料収集・分析を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 戦後体育実践史 の概観（ 1 ）
- 第 2 回 項目 戦後体育実践史 の概観（ 2 ）
- 第 3 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 1 ） 授業外指示 レポート課題
- 第 4 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 2 ）
- 第 5 回 項目 時期区分のもとでの典型的実践 の検討（ 3 ）
- 第 6 回 項目 国民スポーツの 現状および子ども の生活・遊び・スポーツの 今
- 第 7 回 項目 わが国の教育改 革の動向と学校 体育の行方
- 第 8 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 1 ）
- 第 9 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 2 ） 授業外指示 自主研究
- 第 10 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 3 ）
- 第 11 回 項目 グループ研究 - - 学校体育のこ れまでとこれから --（ 4 ）
- 第 12 回 項目 各グループから の研究報告と討 論（ 1 ）
- 第 13 回 項目 各グループから の研究報告と討 論（ 2 ）
- 第 14 回 項目 レポート「学校 体育の改革への 僕らの提言」の 作成（ 1 ）
- 第 15 回 項目 レポート「学校 体育の改革への 僕らの提言」の 作成（ 2 ） 授業外指示 最終レポート

成績評価方法（総合） 授業内レポート、および授業外レポートを中心として、出席状況、授業への主体的な参加度等をもとに、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：体育・健康教育の教育課程試案 - 1 - , 学校体育研究同志会, 創文企画, 2003 年 / 参考書：体育・健康教育の教育課程試案 - 2 - , 学校体育研究同志会, 創文企画, 2004 年

メッセージ 後半はグループ研究を中心にすすめます。そこでは何より自分史を振り返り、受講生同士で交流し合うことを大切にしていきたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 この授業では、保健体育科教育の目的・内容・方法に関する諸説について概説し、それらを一貫性という観点から考察する。また、後半では、小グループで実際に授業づくりのプロセス(教材解釈 教科内容の設定 授業プランの作成 評価計画)を追体験することを通じて、目標設定・教材づくり・学習集団の組織化・形成的および総括的授業 評価等、体育実践の見方および構想の仕方について理解する。

授業の一般目標 体育の授業づくりに関わる基本用語についての理解を深めるとともに、授業計画の立案と学習指導案の作成に関する基本的な方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 体育の授業づくりに関わる基本用語について説明できる。 思考・判断の観点： 先行実践に学びながらも、自分なりの独自の教材解釈や教材づくりに取り組む。 関心・意欲の観点： 体育授業づくりに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点： グループによる取り組みに共同のおよび主体的に参加し、自己の役割・分担を果たすことができる。 技能・表現の観点： 学習指導案の形式にそって指導構想を叙述できる。

授業の計画(全体) 前半で、保健体育科教育の目的・内容・方法に関する諸説について概説し、それらを一貫性という観点から考察した後、小グループで実際に授業づくり(教材解釈 教科内容の設定 授業プランの作成 評価計画)を追体験する。そして模擬授業の実施と検討会を通じて、目標設定・教材づくり・学習集団の組織化・形成的および総括的授業評価等、体育実践の見方および構想の仕方について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (1)
- 第 3 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (2)
- 第 4 回 項目 体育授業の目標 - 内容 - 方法に関する講義 (3)
- 第 5 回 項目 中学校体育実践の事例研究 (1) 内容 これよりグループ研究
- 第 6 回 項目 中学校体育実践の事例研究 (2)
- 第 7 回 項目 グループによる 授業づくり
- 第 8 回 項目 模擬授業 (1)
- 第 9 回 項目 授業批評会 (1)
- 第 10 回 項目 模擬授業 (2)
- 第 11 回 項目 授業批評会 (2)
- 第 12 回 項目 模擬授業 (3)
- 第 13 回 項目 授業批評会 (3)
- 第 14 回 項目 授業づくりに関するまとめ 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 出席状況を加味しながら、課題レポート(中間・最終)やグループ研究への参加状況当によって総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： 体育関係雑誌ならびに文献から、体育の実践記録を検索して利用します。

メッセージ この授業を通じて、実際に中学校で実践された体育授業記録に多く触れ、自分の持つ「よい体育授業」像を再吟味する機会として欲しい。同時に、現場教師による創意あふれる授業づくりに学ぶことを期待したい。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 III	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 この授業では、保健体育科教育学 I および II の学習成果をもとに「授業づくり - 模擬授業 - 授業批評会」というプロセスを連続的に展開していく。この過程を通じて、各自のもつ「よい体育の授業」のイメージを実践の形に具体化するとともに、授業を観察・分析する方法を習得する。

授業の一般目標 体育授業を分析し、解釈するための方法について理解を深めるとともに、自らの描く「よい体育授業」のイメージにふさわしい授業観察の視点と方法を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業を観察する際の視点を挙げ、それらの方法について説明することができる。 思考・判断の観点： 自らの描く「よい体育授業」の条件を、独自の授業分析方法に具体化できる。 関心・意欲の観点： 授業分析・授業評価に関心を持って取り組み、集团的検討の場で積極的に意見を表明することができる。 態度の観点： 授業の分析批評に際して、批判的・主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 授業分析の結果をもとに、整合性のある授業の解釈ができ、またわかりやすく報告することができる。

授業の計画（全体） 前半は、教育実習の経験を交流し合い、そこから学び取った成果を共有する。後半は、あらためて、授業づくり - 模擬授業 - 批評会の流れでグループワークを実施し、集団による授業研究を追体験するなかから、授業の観察と分析の方法について学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 授業研究法の概説（1）
- 第 3 回 項目 授業研究法の概説（2）
- 第 4 回 項目 授業研究法の概説（3）
- 第 5 回 項目 授業研究法の概説（4） 授業外指示 中間レポート
- 第 6 回 項目 中間オリエンテーション
- 第 7 回 項目 授業観察（1）
- 第 8 回 項目 授業批評会（1）
- 第 9 回 項目 授業観察（2）
- 第 10 回 項目 授業批評会（2）
- 第 11 回 項目 授業観察（3）
- 第 12 回 項目 授業批評会（3）
- 第 13 回 項目 実践記録論の概説
- 第 14 回 項目 実践記録を綴る 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポートおよび課題レポートの完成度、授業への参加度等をもとに総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： 体育授業分析の方法論に関する文献・雑誌等をその都度使用します。

メッセージ この授業では、実践の事実をもとに相互批評することを基本としています。自分の実施した模擬授業に対し他者から批評を受け、また、他者の授業実践を批評することを通じて、授業の観察眼と実践的力量を獲得していくことを期待します。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育科教育学 IV	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 体育科教育研究に関わる特殊テーマを設定し、先行研究を検討したり、調査を実施するなどして、テーマに関わる理解を深め、交流する。

授業の一般目標 グループ、または個人の設定したテーマについて、必要な調査・文献研究を行い、その結果をレポートにまとめることを通して、テーマについての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：グループまたは個人の設定したテーマについて、その学習成果をもとにわかりやすく説明できる。 思考・判断の観点：関連する先行研究をもとにして、多角的（因果関係や水平的・垂直的分析）に考察することができる。 態度の観点：さまざまな問題について、批判的、主体的に思考し取り組むことができる。 技能・表現の観点：自ら設定したテーマに沿って学習してきた成果を、わかりやすい発表資料にまとめて、報告することができる。

授業の計画（全体） グループまたは各自がテーマを設定した後、先行研究の検索や調査の方法について指導を行う。時々の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式により、レポートとしてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テーマ設定とグループピング
- 第 3 回 項目 グループ研究（ 1 ）
- 第 4 回 項目 グループ研究（ 2 ）
- 第 5 回 項目 グループ研究（ 3 ）
- 第 6 回 項目 中間報告会（ 1 ） 授業外指示 中間レポート
- 第 7 回 項目 グループ研究（ 4 ）
- 第 8 回 項目 グループ研究（ 5 ）
- 第 9 回 項目 グループ研究（ 6 ）
- 第 10 回 項目 中間報告会（ 2 ） 授業外指示 中間レポート
- 第 11 回 項目 中間報告会（ 3 ）
- 第 12 回 項目 グループ研究のまとめ（ 1 ）
- 第 13 回 項目 グループ研究のまとめ（ 2 ）
- 第 14 回 項目 最終報告会（ 1 ） 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 最終報告会（ 2 ）

成績評価方法（総合） テーマ設定 - 自主（グループ）研究 - ゼミ報告、さらに最終レポートの完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 教科教育学の最終仕上げとして、実践的な課題に対して真正面から向き合って、学習と成果の交流を深めてください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

技術教育選修

開設科目	製図	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 「ものづくり」を行う際に必要となる製図について、その基礎的な知識と作図法を習得する。
 授業は、講義とこれに続く演習を基本的な構成とし、授業計画に沿って出題する課題を通して実践的な力を身に付ける。 / 検索キーワード 製図, 加工

授業の一般目標 基本的な製図法について理解し、作図が行えること。製図用具を正しく使用できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 製図の意義を知る。 2. 基本的な製図方法について理解する。

思考・判断の観点： 1. 製図を正しく読み取ることができる。 関心・意欲の観点： 1. 進んで製図を描こうとする。 2. 様々な製図に関心を持つようとする。 態度の観点： 1. きれいな図面を描くよう心がけている。 2. 正しい図面を描くようにしている。 技能・表現の観点： 1. 製図用具が正しく扱える。 2. 製図用具が効率の利用できている。 3. 読みやすい、きれいな製図を描くことができる。

授業の計画（全体） 製図に対する一般的な意義や必要性を理解した後、実際に製図を行い必要な技能を身に付ける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 製図の歴史および意義 内容 1. 製図の歴史 2. 加工現場における製図の必要性 授業外指示 身の回りにある製図（カタログ等）を集め、比較する。
- 第 2 回 項目 製図用具およびその基本的な使い方 内容 1. 製図用具の名称および用途 2. 基本的な扱い方（練習） 授業外指示 1. 製図用具に慣れておくこと 2. 課題
- 第 3 回 項目 基礎となる図法（特に正投影画法）について 内容 1. 正投影画法 2. 製図を読み取る訓練
- 第 4 回 項目 第一角法および第三角法の基礎と簡単な作図 内容 1. 第一角法および第三角法の基礎 授業外指示 1. 課題
- 第 5 回 項目 第三角法による作図の基礎（Mブロック）その 1 内容 1. Mブロックの採寸 2. Mブロックの作図
- 第 6 回 項目 第三角法による作図の基礎（Mブロック）その 2 内容 1. Mブロックの作図完成 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 7 回 項目 第三角法による作図（スパナ）その 1 内容 1. 曲面や角度をもった物体の採寸方法 2. 片口スパナの採寸 授業外指示 1. 採寸が終了しない場合、補習等を行う。
- 第 8 回 項目 第三角法による作図（スパナ）その 2 内容 1. 前回採寸したものを基に、2倍のサイズでスパナを作図する。
- 第 9 回 項目 第三角法による作図（スパナ）その 3 内容 1. 図面（スパナ）の完成 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 10 回 項目 キャビネット図および等角図の基礎 内容 1. 立体を1つの図面で表す方法。 2. キャビネット図について 3. 等角図について 授業外指示 1. 課題
- 第 11 回 項目 キャビネット図法の基礎（Mブロック） 内容 1. 先に三角法で描いたMブロックをキャビネット図にする。 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 12 回 項目 キャビネット図法による作図（椅子）その 1 内容 1. 奥行きのある立体のキャビネット図について 2. 三角法で描かれた図面（課題）をキャビネット図にする。
- 第 13 回 項目 キャビネット図法による作図（椅子）その 2 内容 1. キャビネット図の完成。 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 14 回 項目 展開図の基礎と作図（鉛筆立て） 内容 1. 展開図の描き方（基礎） 2. 課題 授業外指示 1. 完成しない場合、補習等を行う。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 製図に関する学習のまとめ

成績評価方法 (総合) 主として、提出された課題および製図により評価する。特に図面については、正確さ、美しさ、読み取りやすさ、効率的に描かれているか、といったことを基準に評価する。

教科書・参考書 教科書：JISにもとづく標準製図法, 大西清著, 理工学社, 2000年; JISにもとづく標準製図法, 大西清, 理工学社

メッセージ 製図用具が必要です。初回の授業で、必要な用具を紹介します。

連絡先・オフィスアワー okasun@yamaguchi-u.ac.jp ・(金) 12:40 ~ 14:00

開設科目	木材加工法(実習を含む。)	区分	その他	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 木材およびその加工に関する基礎的な講義を行った後、実習を行い実践的にこれを理解する。
 実習では、中学校の技術・家庭科での指導を想定し、手加工を中心とした基本的な加工法を身に付ける。
 / 検索キーワード 技術・家庭科, 木材, 木材加工

授業の一般目標 木材や木質材料に関する基礎的な知識を身に付ける。木材の加工に使用する工具や機械についての、正しい知識と実践力を身に付ける。 木製品の製作工程について実地に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 木材および木質材料の特徴と加工方法に関する基礎的知識・理解 思考・判断の観点： 1. 目的等を勘案し、適切な材料や加工方法を選択できる。 2. 全体および場面ごとの段取りが行える。 関心・意欲の観点： 1. 進んで木について知ろうとする。 2. 進んで、加工方法等について知ろうとする。 態度の観点： 1. 加工方法や工程を検討し、工夫しようとする。 2. 工具等の手入れを行おうとする。 3. 実習室の整理・整頓ならびに美化を図ろうとする。 技能・表現の観点： 1. 工具や機械が安全かつ正しく扱える。 2. 製作品が寸法どおりに製作できている。

授業の計画(全体) 木材及び木質材料の加工に関する基礎的な知識を身に付けた後、実習を行って工具や機械の扱いを実践的に学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 木材および木質系材料の特徴・性質 内容 1. 木の特徴および性質 2. 木質材料の特徴および性質 授業外指示 1. 身近な木製品について調べる。
- 第 2 回 項目 木材および木質系材料の一般的加工方法について(概説) 内容 1. 切削加工のこぎり かな など 2. けがき・採寸
- 第 3 回 項目 木製品の考案・設計。作業行程立案。作業管理。安全管理 内容 1. 設計・考案の考え方 2. 設計・考案の立案 3. 作業工程・作業管理 4. 安全管理 授業外指示 1. 設計・考案に関する課題
- 第 4 回 項目 基準面作り<手押しかな盤>(実習を含む) 内容 1. 手押しかな盤について 2. 使い方と安全 授業外指示 1. 作業レポート
- 第 5 回 項目 材料の木取り<さしがね,のこぎり>(実習を含む) 内容 1. 木取りと採寸の基礎 2. さしがねの使い方 3. のこぎりの使い方 授業外指示 1. 作業レポート
- 第 6 回 項目 丸のこ盤の使用方法和安全管理(実習を含む) 内容 1. 丸のこ盤について 2. 丸のこ盤の使い方と安全 授業外指示 1. 作業レポート
- 第 7 回 項目 部品加工1<部品加工の方法(概説)>(実習を含む) 内容 1. 作業工程の見直し 2. 部品加工の意味 3. 正しい寸法計測の重要性
- 第 8 回 項目 部品加工2<かな,のみの使用方法>(実習を含む) 内容 1. かなの使い方と加工方法 順目と逆目 2. のみの使い方と加工方法・安全
- 第 9 回 項目 部品加工3<部品検査の方法>(実習を含む) 内容 1. 前回の続き
- 第 10 回 項目 部品加工4<各部品の仕上げ>(実習を含む) 内容 1. 各部品の完成 授業外指示 1. 作業レポート 2. 部品が完成しない場合、補習等を行う。
- 第 11 回 項目 仮組み立てと調整(実習を含む) 内容 1. 仮組みの仕方と注意点 2. 仮組み時における不具合の修正
- 第 12 回 項目 組み立て(実習を含む) 内容 1. 各種接合方法および接合材料の紹介 2. 接合の実際
- 第 13 回 項目 組み立て後の検査と調整法(実習を含む) 内容 1. 接合部の確認(直角,隙間等,スコヤの使い方) 授業外指示 1. 作業レポート
- 第 14 回 項目 仕上げ法<塗料および塗装> 内容 1. 木材塗装の意義および種類 2. 塗料および用具の使い方 3. 塗装の実際 授業外指示 1. 次回までに木地面の仕上げを行っておくこと。

第15回 項目 仕上げ法<塗料 および塗装> その2(実習を含む),まとめ 内容 1.塗装 下塗り 中塗り 仕上げ塗り 注)作業の進み 具合や天候により,実習の変更を行う場合がある。授業外指示 1.作業レポート 2.塗装が終了しない場合,補習等を行う

成績評価方法(総合) 授業レポートおよび学習態度,作品の完成度等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書:木材の性質と加工,山下晃功ほか,開隆堂,1993年

メッセージ 作業着(ジャージ等,繊維が引っかかりやすい素材は不可),上履き(スリッパ,サンダルは不可)が必要です。使用する工具等は,初回の授業で説明します。材料費を徴収します。

連絡先・オフィスアワー okasun@yamaguchi-u.ac.jp・(金)12:40~14:00)

開設科目	木材加工学	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 木材加工法で学習した内容をさら詳しく説明し、木材やその加工方法に関する知識や理解を深める。授業は講義が中心となるが、必要に応じて演習を含める場合がある。/ 検索キーワード 木材、木質材料、加工、木工機械、木工具

授業の一般目標 木材及び木質材料に関する理解を深める。また、これに使用する工具や加工機械について必要な知識を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 木材および木質材料について説明できる。 2. 木材加工に使用する工具や機械について説明できる。 3. 作業の安全や管理について説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 木材や木質材料について進んで知ろうとする。 2. 木材の加工について、進んで知ろうとする。 態度の観点： 1. 身の回りの木々や自然環境について感心を持っている。 2. 木材と人との関わりについて、正しく理解しようとしている。

授業の計画(全体) 木材加工法で学習した内容をさら詳しく説明し、毎回テーマを絞って、木材やその加工方法に関する知識や理解を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 木とは 内容 1. 木材の構造(生成、組織、木理、材の性質など)
- 第 2 回 項目 木材の物理的性質 内容 1. 比重、含水率など
- 第 3 回 項目 木材の機械的性質 内容 1. 強さ、含水率の影響など 授業外指示 課題
- 第 4 回 項目 木材加工の原理と加工の実際 内容 1. 定規類
- 第 5 回 項目 木材加工の原理と加工の実際 内容 2. かん
- 第 6 回 項目 木材加工の原理と加工の実際 内容 3. のこぎり
- 第 7 回 項目 木材加工の原理と加工の実際 内容 1. のみ
- 第 8 回 項目 木材加工の原理と加工の実際 内容 1. 組み立て用工具(げんのう、きり) 授業外指示 課題
- 第 9 回 項目 平削加工と切り屑の生成機構。 内容 1. 切削の原理 2. 切り屑から得られる情報
- 第 10 回 項目 回転切削。 内容 1. 加工機械の構造と加工原理 2. 丸のこ盤、プレーナー
- 第 11 回 項目 その他の加工機械 内容 1. 角のみ盤、ボール盤、糸のこ盤など 授業外指示 課題
- 第 12 回 項目 木材の接合方法 内容 1. 仕口加工、接着剤、緊結金具
- 第 13 回 項目 木材の仕上げ方法 内容 1. 仕上げの意味、管理、塗料
- 第 14 回 項目 安全および管理 最近の木材利用技術 内容 1. 木材加工に伴う事故とその防止 2. エンジニアリングウッド等
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 成績の評価は主として期末試験によって行い、これに出席状況および授業中に出題する課題の達成状況を加える。

教科書・参考書 教科書：木材の性質と加工, 山下晃功ほか, 開隆堂, 1993年

連絡先・オフィスアワー okasun@yamaguchi-u.ac.jp (金) 12:40~14:00

開設科目	木材加工演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 木工具および木工機械の整備をとおして、その加工原理や仕組み、安全対策を学びます。 / 検索キーワード 木材加工、整備、安全

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：木材加工用工具、機械の保守・整備について必要な知識を有し、安全管理についても十分に理解している。 思考・判断の観点：効率的かつ安全な作業環境の整備について、実践的に思考・判断することができる。 関心・意欲の観点：木材加工に関心があり、様々な加工方法や加工具・機械について意欲的に学ぼうとしている。 態度の観点：安全に留意し、作業に主体的に取り組もうとしている。 技能・表現の観点：木材加工を指導する上で求められる加工技能、工具や機械の整備等について、必要な技能を有している。

授業の計画（全体）木材加工に用いる工具や加工機械について、その整備や安全管理について系統的に学びます。また、木材加工法で触れなかったより高度な加工方法についても実習を行います。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 含水率による木材の諸性質の変化（含水率測定、比重及び空隙率、寸法変化、強度変化）
- 第 2 回 項目 切削条件と生成された切り屑の確認（切り屑タイプ、寸法変化、切削面粗さ）
- 第 3 回 項目 各種接合方法の評価（加工の容易さ、接合強度、外観）
- 第 4 回 項目 フラッシュ構造（その 1）
- 第 5 回 項目 フラッシュ構造（その 2）
- 第 6 回 項目 加工機械の調整、整備、使用方法（丸のこ盤）
- 第 7 回 項目 加工機械の調整、整備、使用方法（手押しかな盤）
- 第 8 回 項目 加工機械の調整、整備、使用方法（プレーナー）
- 第 9 回 項目 加工機械の調整、整備、使用方法（糸のこ盤、帯びのこ盤）
- 第 10 回 項目 加工機械の調整、整備、使用方法（角のみ盤、ボール盤）
- 第 11 回 項目 各種接合方法（特徴と実際の加工）その 1
- 第 12 回 項目 各種接合方法（特徴と実際の加工）その 2
- 第 13 回 項目 マイクロ波加熱による木材の圧密化、曲げ木
- 第 14 回 項目 かなの調整（台の調整）
- 第 15 回 項目 かなの調整（刃の調整）

成績評価方法（総合）木材加工に用いる工具や加工機械について、その整備や安全管理について系統的に理解し、実践することができる。

メッセージ 天候や気温に左右される内容が含まれるため、適宜、授業の順序を入れ替えることがあります。各回の授業終了時に、次回の指示を行いますので、やむをえず欠席等をする場合は、次回内容を確認しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 在室中であれば、いつでも可。

開設科目	総合技術 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永, 澤本章				

授業の概要 われわれの身の回りにある製品は、その多くが数種の材料を組み合わせられて作られている。製品に求められる機能やデザインが複雑化、高度化しつつある今日、材料が持つ 様々な性質や特徴を知り、適切に組み合わせることは、技術ならびにももの作り教育に携わる教員にとって、必須の知識であり能力といわざるをえない。主な学習内容は、各種材料の物理的、化学的、機械的性質の比較検討、製品の考案・設計と素材の選定、加工方法ならびに加工性の検討、各種材料を組み合わせることによる長所と短所の検討、安全指導および管理等が挙げられる。/ 検索キーワード ものづくり 加工 技術 木工 金工

授業の一般目標 製作品の構想・立案，素材の特徴に対する正しい理解，適切な加工方法や工具・機械の選択など，加工に関する総合的な技術力向上を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：加工に必要な，素材に対する知識・理解を有している。 思考・判断の観点：適切な素材や加工方法を選択できる。構想立案が行える。 関心・意欲の観点：積極的に加工について知ろうとしている。 態度の観点：問題解決的に取り組んでいる。 技能・表現の観点：加工に必要な技能を有している。 作品の完成度。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 製作品の設計と 考案 I-1
- 第 2 回 項目 製作品の設計と 考案 I-2
- 第 3 回 項目 使用材料および 加工法の検討 I
- 第 4 回 項目 総合製作 I-1
- 第 5 回 項目 総合製作 I-2
- 第 6 回 項目 作品プレゼンテーション（中間）I
- 第 7 回 項目 総合製作 I(仕上げ)
- 第 8 回 項目 製作品の設計と 考案 II-1
- 第 9 回 項目 製作品の設計と 考案 II-2
- 第 10 回 項目 使用材料および 加工法の検討 II
- 第 11 回 項目 総合製作 II-1
- 第 12 回 項目 総合製作 II-2
- 第 13 回 項目 作品プレゼンテーション（中間）II
- 第 14 回 項目 総合製作 II(仕上げ)
- 第 15 回 項目 反省, まとめ

成績評価方法 (総合) 授業への取り組みや加工に対する理解・技能を基礎的な評価項目とし，作品の構想から完成までの一連の流れを総合的に判断・評価する。作品の概観や使用感，完成度についても評価を行う。

開設科目	金属材料学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 私たちの生活で活用されている金属材料について、その結晶構造、製造方法、物理的性質、化学的性質、機械的性質、熱処理法、特徴、使用方法について解説する。主に、鉄系材料について概説する。 / 検索キーワード 金属、結晶構造、新素材、鉄鋼、熱処理、塑性加工、機械的性質、強さ、腐食、さび、ものづくり、技術教育、小学校総合的学習の時間及び中学校の金属加工分野の教材開発

授業の一般目標 金属材料について関心を持ち、その種類、性質に対して理解ができる。金属材料の効果的な使用方法について知識を得ることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 金属材料の種類を説明できる。 2. 金属材料の特性と活用法を関係づける。 思考・判断の観点： 1. 金属材料の種類の違いを類別できる。 2. 金属材料の性質の違いを指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 金属材料の性質を討議できる。 2. 金属材料の関心度の向上に寄与できる。 態度の観点： 1. 金属材料の性質評価に参加できる。 2. 金属材料の性能分析に協調できる 技能・表現の観点： 金属材料の性質を評価する知識が得られる。金属材料の材料設計法が展開できる。 その他の観点： とくになし

授業の計画(全体) 前半に、金属材料の科学的性質を説明し、その後、鉄系材料の性質、種類、使用法並びにアルミニウム、銅、ニッケル、その他の合金について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 金属の塑性変形
- 第 2 回 項目 加工硬化と再結晶 授業外指示 レポート
- 第 3 回 項目 鋼の製造法 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 炭素鋼の状態図と組織 授業外指示 レポート 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 鋼の引張試験、降伏点現象と標準組織の機械的性質
- 第 6 回 項目 鋼の熱処理(焼なまし、焼ならし) 授業外指示 レポート
- 第 7 回 項目 鋼の熱処理(焼入れ、焼もどし)
- 第 8 回 項目 炭素鋼の組成と用途 授業外指示 レポート
- 第 9 回 項目 粉末冶金法
- 第 10 回 項目 構造用合金鋼 授業外指示 レポート
- 第 11 回 項目 工具材料 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 セラミックス 授業外指示 レポート
- 第 13 回 項目 鉄鋼の腐食 I
- 第 14 回 項目 鉄鋼の腐食 II 授業外指示 レポート
- 第 15 回 項目 アルミニウム、銅、ニッケル、その他の合金 授業記録 配布資料

成績評価方法(総合) 定期試験：60%、レポート：20%、授業の態度：5%、出席：15%の割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：書名：「図解 機械材料 第3版」 著者名：打越二彌著、出版社名：東京電機大学出版局、西暦2004年 / 参考書：若い技術者のための機械・金属材料―増補版―、矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一、丸善、1986年；大学基礎「機械材料」-改訂版-、門間改三、実教出版、1987年；若い技術者のための機械・金属材料―増補版―、矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一、丸善、1986年

メッセージ 高校の化学、物理などで学んだことも学習内容に出てきます。化学、物理を履修していない学生でも、できるだけわかりやすく解説する予定です。金属材料とはどのようなものであるかを学習して、金属の世界を体験してください。また、金属加工分野の卒業研究(4年生)で必要不可欠な知識について学習します。小学校総合的学習の時間及び中学校の金属加工分野の教材開発に必要な知識の一部が修得できます。

連絡先・オフィスアワー 毎週、木曜日 10:20 ~ 11:50、教育学部技術教育 金属加工 264 号室、TEL/FAX:
083-933-5395、E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金属工作法（製図及び実習を含む。）	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				
<p>授業の概要 技術教育の金属加工領域で習得すべき金属加工用手工具、工作機械の機能、使用法について解説する。理解を深めるために演習・実習も併用して行なう。/検索キーワード 金属加工、金属加工用手工具、機械工作、製図、技術教育、ものづくり</p> <p>授業の一般目標 金属加工で使用する手工具及び代表的な工作機械の特徴と使用法について概説する。使用法を修得し、金属加工を行う技術を習得する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 金属加工用手工具及び代表的な工作機械を説明できる。2. 金属加工用手工具及び代表的な工作機械を関係づける。 思考・判断の観点：1. 金属加工用手工具及び代表的な工作機械を類別できる。2. 機械加工法を指摘できる。 関心・意欲の観点：1. 機械加工法を討議できる。2. ものづくり教育の推進に寄与できる。 態度の観点：1. 金属加工によるものづくりに参加できる。2. 金属加工法に慣れ、協調できる。 技能・表現の観点：1. 金属加工技術を修得できる。2. 金属加工により作品を自由に製作できる。</p> <p>授業の計画（全体） 金属加工用の手工具の使用法及び代表的な工作機械の特徴と使用法について概説する。授業中の前半は、教室で説明し、後半は金属実習室で工具を用いた演習・実習を行う。適宜、レポートの課題を出します。</p> <p>授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 旋盤の切削工具 授業記録 資料配布</p> <p>第2回 項目 旋盤による切削加工法</p> <p>第3回 項目 旋盤のバイト研ぎ（実習を含む） 授業外指示 レポート</p> <p>第4回 項目 金切りはさみ、弓のこ（実習を含む）</p> <p>第5回 項目 やすり、たがね（実習を含む）</p> <p>第6回 項目 タップ、ダイス（実習を含む） 授業外指示 レポート</p> <p>第7回 項目 ドリル研ぎ（実習を含む）</p> <p>第8回 項目 はんだづけ（実習を含む）</p> <p>第9回 項目 外パス、内パス、片パス、コンパス（実習を含む）</p> <p>第10回 項目 ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ（実習を含む） 授業外指示 レポート</p> <p>第11回 項目 各種ジグ</p> <p>第12回 項目 型削り盤、フライス盤（実習を含む）</p> <p>第13回 項目 ボルト、ナットの製図（実習を含む） 授業外指示 製図の課題</p> <p>第14回 項目 ボルト、ナットの製図（実習を含む）</p> <p>第15回 項目 まとめ</p> <p>成績評価方法（総合） 出席状況（10%）、授業中の態度（10%）、レポート（20%）、期末試験（60%）の成績により総合評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：機械工作法, 臼井太一郎, パワー社, 1985年; 教科書を使用する場合もあるが、プリントを配布する場合があります。/参考書：切削工具のカンドコロ、技能ブックス2, 技能士の友編集部, 大河出版, 1971年; 機械工作法, 臼井太一郎, パワー社, 1985年</p> <p>メッセージ 金属加工演習、総合技術I、卒業研究で役に立つことを学習します。新しい発見があり、有意義な知識と体験が得られます。</p> <p>連絡先・オフィスアワー 毎週木曜日、10:20～11:50、教育学部技術教育金属加工、264号室、TEL、FAX: 083-933-5395、E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	金属加工演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 黄銅と鋼を用いてドライバーの製作を行い、金属の加工法、金属の熱処理法を学習する。また、アルミニウム空き缶の溶解・鋳造によりアルミニウム鋳物(キーホルダー、家紋(置物))を製作する。ものづくり教育を推進する力を養う。/ 検索キーワード 黄銅、鋼、旋盤、ボール盤、機械加工、焼入れ、焼もどし、硬さ、アルミニウム、溶解、鋳造、ものづくり、技術教育

授業の一般目標 ものづくり技術教育の一環として、ドライバーの製作とアルミニウム鋳物の製作を行う。演習を通して、金属材料の種類、金属の機械加工法、金属の熱処理方法を学習する。アルミニウム空き缶を回収し、溶解・鋳造によりアルミニウム鋳物でキーホルダー、家紋(置物)を作製し、鋳造技術を学ぶ。リサイクル利用によってものを有効に利用できることを体得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 金属材料の加工法を説明できる。 2. 金属加工とものづくりを関係づける。 思考・判断の観点：1. 金属の機械加工法を類別できる。2. 金属の加工技術について指摘できる。3. ものづくり教育について考える態度を養う。 関心・意欲の観点：1. 金属の適切な加工法を討議できる。2. ものづくり推進教育に寄与できる。 態度の観点：1. 金属の特性を知り加工作業に参加できる。2. 金属材料の加工作業に協調できる。 技能・表現の観点：1. 金属加工用の手工具及び工作機械が使用できる。鋳造技術を体得できる。2. アルミニウム鋳物のものづくりにより自分の作りたいものを製作・表現できる。

授業の計画(全体) 前半に、ドライバーの製作を行う。後半にアルミニウム鋳物の製作を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明と材料の切り出し 授業記録 資料を配布する。
- 第2回 項目 旋盤などの工作機械によるドライバーの加工
- 第3回 項目 同上
- 第4回 項目 同上
- 第5回 項目 同上
- 第6回 項目 ドライバー本体の加熱と熱間鍛造
- 第7回 項目 ドライバー本体の刃先の熱処理による焼き入れ
- 第8回 項目 ドライバー本体のおねじきり
- 第9回 項目 現型の構想、設計・製図
- 第10回 項目 現型の製作・加工
- 第11回 項目 現型の製作・加工
- 第12回 項目 砂型の製作
- 第13回 項目 アルミニウム空き缶の溶解・鋳造
- 第14回 項目 仕上げ加工
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業への出席状況(40%)、授業中の態度(10%)、製作物の出来上がり状況(20%)、レポート(30%)をもとに評価する。

教科書・参考書 教科書：大学基礎「機械材料」-改訂版-、門間改三、実教出版、1987年 / 参考書：機械工作法、白井太郎、パワー社、1985年

メッセージ 金属材料学、金属工作法で学習したことを、実際に、応用演習を行なって確かめます。ものづくりを行います。

連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工、264号室、澤本章、木曜日、10:20~11:50、TEL / FAX : 083-933 - 5395、E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	機械工学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎について学習し理解を深める。 / 検索キーワード 機械工学、ものづくり

授業の一般目標 ものづくりの基礎となる機械工学全般について学習し、技術科教員になるための教養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 機械工学の中で、機械材料、材料力学、流体力学、計測工学、機械工作法の 基本的な知識の習得を目指す。 関心・意欲の観点： ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加 できるようになることを目標とする。 態度の観点： 実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用する ことを心がける。 技能・表現の観点： ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージを使用法を習得することを目標 とする。

授業の計画（全体） ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎（機械材料、材料力学、流体力学、計測工学、機械工作）について学習し理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 機械工学とは 内容 機械工学の概要と力学基礎。シラバスの説明、成績評価方法の説明を含む。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 機械材料 内容 金属組織、鉄鋼材料
- 第 3 回 項目 機械材料 内容 鉄鋼材料の種類と性質や日常生活での使用例。アルミニウム合金等
- 第 4 回 項目 材料力学 内容 機械材料分野の小テストを行う。応力とひずみ。単位の換算 授業外指示 小テストの準備をすること。
- 第 5 回 項目 材料力学 内容 はりに働く力。（身の回りの機械構造物を例にした説明）
- 第 6 回 項目 材料力学 内容 せん断力図と曲げモーメント図材料力学分野の小テストを行う。 授業外指示 小テストの準備をすること。
- 第 7 回 項目 流体力学 内容 流体の性質、圧力（水圧など体験的な例をあげた説明）
- 第 8 回 項目 流体力学 内容 パスカルの原理、アルキメデスの原理
- 第 9 回 項目 流体力学 内容 連続の式、ベルヌーイの定理等
- 第 10 回 項目 流体力学 内容 ベルヌーイの定理流体、トリチェリの定理流体力学分野の小テストを行う。 授業外指示 小テストの準備をすること。
- 第 11 回 項目 計測工学 内容 長さの計測、質量、力の計測
- 第 12 回 項目 計測工学 内容 ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージを使用した測長実習 授業外指示 実習を行うので作業のしやすい服装を準備すること。
- 第 13 回 項目 機械工作 内容 けがき作業、やすりがけ作業の実習 授業外指示 実習を行うので作業のしやすい服装を準備すること。
- 第 14 回 項目 機械工作 内容 工作機械の概要 授業外指示 実習を行うので作業のしやすい服装を準備すること。
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法（総合） 定期試験＝40％ 小テスト・授業内レポート 20％ 宿題・授業外レポート 20％ 授業態度・授業への参加度 10％ 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 10％

教科書・参考書 教科書： やさしい機械工学，門田和雄著，技術評論社，2001 年 / 参考書： ハンディブック機械，土屋喜一監修，オーム社，1997 年； 機械工学概論，草間秀俊，理工学社，1999 年

メッセージ レポートの採点を通してライティングの指導を行ないます。「コミュニケーション技術」、篠田義明著、中公新書、等の参考書を利用してしっかりとしたレポートを提出して下さい。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木1,2

開設科目	機械工学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎について学習し演習やコンピュータシミュレーションにより理解を深める。 / 検索キーワード 機械工学、ものづくり、MaTX

授業の一般目標 機械工学の中でも、その基礎となる材料力学、機械力学、流体力学および熱力学について、特に重要な項目について演習を通して学習し、技術科教員になるための教養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 機械工学の中で、材料力学、機械力学、流体力学および熱力学の基本的な知識の習得を目指す 関心・意欲の観点： 機械工学に関して関心を高め、機械工学に関するさまざまな現象に興味・関心を示すことができる。 態度の観点： 授業中はプログラムの作成演習を行う。毎週ノートパソコンを持参して、積極的にプログラムを作成することを心がける。 技能・表現の観点： 授業中またはレポートで作成したプログラムの動作を確認するとともに、そのプレゼンテーションを行う。

授業の計画（全体） ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎について学習する。授業は演習やコンピュータシミュレーションを中心とした実践的なものとする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学技術演算ソフト MaTX 内容 シラバスをよく読んでおくこと。フリーソフト MaTX のインストールと概略説明 授業外指示 MaTX の公式ホームページ <http://www.matx.org/> 参考のこと。
- 第 2 回 項目 材料力学および演習 内容 ねじり、座屈に関する演習
- 第 3 回 項目 材料力学および演習 内容 フープ応力に関する演習
- 第 4 回 項目 材料力学および演習 内容 トラスに関する演習及び材料力学分野の小テストを実施する。授業外指示 小テストの準備をしておくこと。
- 第 5 回 項目 機械力学および演習 内容 歯車、プーリベルト、チェーンを用いた動力の伝達と日常生活における使用例
- 第 6 回 項目 機械力学および演習 内容 リンク機構の MaTX による数値解析、リンク装置のモデル（レゴ模型）の提示。
- 第 7 回 項目 流体力学および演習 内容 運動量の保存、乱流、層流、レイノルズ数
- 第 8 回 項目 流体力学および演習 内容 圧力、流速の測定に関する演習
- 第 9 回 項目 流体力学および演習 内容 流体抵抗（飛行機はなぜ飛ぶか？）
- 第 10 回 項目 流体力学および演習 内容 機械力学および流体力学分野の小テストと解説 授業外指示 小テストの準備をしておくこと。
- 第 11 回 項目 熱力学（内燃機関を含む）および演習 内容 熱と仕事および気体の状態方程式についての演習
- 第 12 回 項目 熱力学（内燃機関を含む）および演習 内容 内部エネルギー、気体がする仕事、熱気球、熱力学の第 1 法則に関する演習
- 第 13 回 項目 熱力学（内燃機関を含む）および演習 内容 熱気球の原理（中学生向け）の説明会、理想気体の状態変化に関する演習
- 第 14 回 項目 熱力学（内燃機関を含む）および演習 内容 内燃機関、特に 4 サイクル・ガソリンエンジンについて演習
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法（総合） 定期試験=40% 小テスト・授業内レポート 20% 宿題・授業外レポート 20% 授業態度・授業への参加度 10% 受講者の発表 10%

教科書・参考書 教科書： やさしい機械工学, 門田和雄著, 技術評論社, 2001年 / 参考書： ハンディブック機械, 土屋喜一監修, オーム社, 1997年 ; 機械工学概論, 草間秀俊, 理工学社, 1999年

メッセージ レポートの採点を通してライティングの指導を行いません。「コミュニケーション技術」、篠田義明著、中公新書、等の参考書を利用してしっかりとしたレポートを提出して下さい。ノートパソコン必携です。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月1, 2

開設科目	応用機械 (実習を含む。)	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 本講義では、初めに、ロボコンの歴史とその教育的効果について考察する。次に、実際にミニロボットを製作し競技を行なう。簡単なミニロボットの設計製作能力を身に付けるとともにものづくりにおける創造力をやしなう。 / 検索キーワード ロボコン、ものづくり、機械加工

授業の一般目標 中学校の技術教育の代表的な教材の一つとして、ロボットの製作と製作したロボットによる競技(ロボットコンテスト、以下 ロボコン)が注目されている。ロボコンを実際に体験することにより実践的なものづくりの学習を行い、技術科教員になるための素養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロボットの設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられる機械工学と電気工学の基本的な知識の習得を目指す。 関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようにすることを目標とする。 態度の観点：実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用することを心がける。 技能・表現の観点：簡単な機械システムの設計製作能力と機械加工技術を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 中学校の技術教育の代表的な教材の一つとして、ロボットの製作と製作したロボットによる競技(ロボットコンテスト、以下 ロボコン)が注目されている。本授業では、ロボコンを実際に体験することにより実践的なものづくりの学習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロボコンの歴史 内容 ロボコンの歴史を振り返り、学習効果、導入方法について講義する。
- 第 2 回 項目 ロボット設計の概要 内容 ロボット設計の概要について、特に製作図面の書き方について講義する。
- 第 3 回 項目 ロボット設計の概要 内容 ロボット設計の概要について、特に製作図面の書き方について講義する。
- 第 4 回 項目 ロボットの設計 内容 課題のロボットの構想及び設計
- 第 5 回 項目 ロボットの設計 内容 課題のロボットの構想及び設計
- 第 6 回 項目 ロボットの設計 内容 課題のロボットの構想及び設計
- 第 7 回 項目 ロボットの設計と製作 内容 課題のロボットの設計及び製作 授業外指示 機械実験室の時間外用は事前に申し出て下さい。
- 第 8 回 項目 ロボットの製作 内容 課題のロボットの製作 授業外指示 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 9 回 項目 ロボットの製作 内容 課題のロボットの製作 授業外指示 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 10 回 項目 ロボットの製作 内容 課題のロボットの製作 授業外指示 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 11 回 項目 ロボットの製作 内容 課題のロボットの製作 授業外指示 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 12 回 項目 作品プレゼンテーション 内容 製作品の発表とディスカッションを受講者全員が行う。
- 第 13 回 項目 製作したロボットによる競技 内容 製作したロボットによる競技を行う。 授業外指示 教育フォーラム等にロボットを展示することもあります。
- 第 14 回 項目 製作したロボットの機能追加 内容 製作したロボットに機能を一つ追加する。 授業外指示 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 15 回 項目 作品プレゼンテーションとまとめ 内容 まとめ

成績評価方法(総合) 成績評価は出席状況と設計計画書、製作課題の完成度が 80 %、実習中の態度およびプレゼンテーションの結果を 20 %として総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：はじめてのロボット創造設計,
米田 完他著, 講談社, 2001 年

メッセージ 機械加工の実習を多く含むため作業服を着用すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	総合技術 II	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 機械分野における、機構学について基礎的な知識を身につけた後、実際に揺動スライダクランク機構の設計と製作を行う。 さらに機械要素を駆動するアクチュエータとそれをコンピュータを使用して制御する方法を学習する。 / 検索キーワード 機械工学、ものづくり、リンク装置

授業の一般目標 機械分野で学習した内容を基礎に情報分野で学習した内容を加えて、機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクスの基礎を体験的に修得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：揺動スライダクランク機構の設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられる機械工学と電気工学の基本的な知識の習得を目指す。 関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようになることを目標とする。 態度の観点：実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用することを心がける。 技能・表現の観点：比較的製作が困難な機械システムの設計製作能力と機械加工技術を習得することを目標とする。

授業の計画（全体） 機械分野における、機構学について基礎的な知識を身につけた後、実際に比較的製作が困難な機械システムの一部として揺動スライダクランク機構の設計と製作を行う。 さらに機械要素を駆動するアクチュエータとそれをコンピュータを使用して制御する方法を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 メカトロニクス 概要
- 第 2 回 項目 メカトロニクス 概要
- 第 3 回 項目 リンクおよびロボット運動学
- 第 4 回 項目 リンクおよびロボット運動学
- 第 5 回 項目 揺動スライダクランク機構の基礎
- 第 6 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計
- 第 7 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計内容 設計図を提出
- 第 8 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 9 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 10 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 11 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 12 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 13 回 項目 揺動スライダクランク機構の設計と製作 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 14 回 項目 揺動スライダクランク機構のマイコンを用いた制御 授業外指示 実習を伴う場合は作業服を着用すること。 機械実験室の時間外使用は事前に申し出て下さい。
- 第 15 回 項目 作品プレゼンテーションとまとめ

成績評価方法（総合） 成績評価は出席状況と設計計画書、製作課題の完成度が 80 %、実習中の態度およびプレゼンテーションの結果を 20 %として総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：はじめてのロボット創造設計，米田 完他著，講談社，2001 年； H8 マイコン完全マニュアル，藤沢幸穂，オーム社，2000 年； 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 機械加工の実習を多く含むため作業服を着用すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月1,2

開設科目	電子回路学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 電気回路で学んだ回路理論の基礎知識をもとに、身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理を理解する。また、電子回路の基本素子としてダイオードおよびトランジスタの動作原理を解説し、それを用いた基本的な電子回路について解説する。 / 検索キーワード ダイオード、トランジスタ、電磁誘導、ローレンツ力

授業の一般目標 基礎的な電子回路素子の動作原理とその利用法を習得することにより、身の回りの電子機器に対する興味と理解を深めることを目的とする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. ダイオード、トランジスタの動作を理解し説明ができる。 2. 全波整流回路半波整流回路の回路図が描け、動作を概説できる 3. 身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理を理解し説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 半導体と IC 内容 半導体の物性と IC の発達史
- 第 2 回 項目 ダイオード 内容 ダイオードの構造と動作を解説する
- 第 3 回 項目 トランジスタ 内容 トランジスタの構造と動作原理を解説する
- 第 4 回 項目 右手の法則 (1) 内容 電磁誘導とその原理を用いた電子機器について解説する
- 第 5 回 項目 右手の法則 (2) 内容 電磁誘導とその原理を用いた電子機器について解説する
- 第 6 回 項目 左手の法則 (1) 内容 ローレンツ力を利用した電子機器について解説する
- 第 7 回 項目 ブラウン管の構造と動作 内容 TV およびブラウン管のディスプレイについて解説する
- 第 8 回 項目 液晶およびプラズマディスプレイ 内容 最近の平面型ディスプレイについて解説する
- 第 9 回 項目 放送と電波 内容 ラジオおよびテレビの放送について解説する
- 第 10 回 項目 CD および DVD 内容 CD および DVD ディスクの構造と読み書きについて解説する
- 第 11 回 項目 D/A および A/D 変換 内容 インターフェースとしての D/A, A/D の原理を解説する
- 第 12 回 項目 整流回路 内容 半波整流、全波整流の原理と回路について解説する
- 第 13 回 項目 身の回りの機器 (1) 内容 身近な電子機器を希望を聞いて解説する
- 第 14 回 項目 身の回りの機器 (2) 内容 身近な電子機器を希望を聞いて解説する
- 第 15 回 項目 試験 内容 全体のまとめとして記述式試験を行う

成績評価方法 (総合) 出席点は 20 点で、欠席 5 回以上で失格とする。残り 80 点は定期試験による

開設科目	電気回路学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 直流回路および交流回路で利用される素子の性質、オームの法則、キルヒホッフの法則などを説明し電気回路の電圧や電流の計算法を解説する。また、交流回路の計算に必要な複素数や行列の計算法も必要に応じて説明する。

授業の一般目標 直流回路、交流回路の基礎理論を理解するとともに、身近な電化製品の消費電力や室内配線についての理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 直流回路でのオームの法則、キルヒホッフの法則を理解する 2. 交流回路計算の基礎である振幅や位相と複素数との対応を理解する 3. コイルやコンデンサを含む交流回路の複素計算を理解する 思考・判断の観点： 1. 与えられた直流回路の電圧電流をオームの法則、キルヒホッフの法則を用いて計算できる 2. コイルやコンデンサを含む交流回路の電圧電流をキルヒホッフの法則を用いて計算できる

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 直流回路とオームの法則 内容 直流電源と電圧電流の関係を解説する
- 第 2 回 項目 直並列回路 内容 合成抵抗の求め方について解説する
- 第 3 回 項目 重ね合わせの理 内容 重ね合わせの理を用いた直流回路計算法を解説する
- 第 4 回 項目 キルヒホッフの法則 内容 キルヒホッフの法則を用いた直流回路計算法を解説する
- 第 5 回 項目 直流回路演習 内容 問題を与えて計算演習を行う
- 第 6 回 項目 正弦波交流と実効値 内容 正弦波の時間関数表示とその波形について解説する
- 第 7 回 項目 交流回路素子 内容 抵抗、コイル、コンデンサの性質を説明する
- 第 8 回 項目 ベクトルと複素数 内容 ベクトルと複素数の基礎知識を復習する
- 第 9 回 項目 交流の複素表示 内容 正弦波と複素数の対応関係について説明する
- 第 10 回 項目 複素電力 内容 複素電圧・電流と電力、力率について説明する
- 第 11 回 項目 交流回路演習その 1 内容 問題を与えて交流回路計算の演習を行う
- 第 12 回 項目 交流回路演習その 2 内容 //
- 第 13 回 項目 トランス 内容 トランスの原理について説明する
- 第 14 回 項目 共振回路と周波数特性 内容 コイル、コンデンサによる共振と周波数の関係について説明する
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体での質問とまとめを行う

成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 教科書：電気回路基礎入門, 山口静夫, コロナ社

開設科目	デジタル回路学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	応用電子(実習を含む。)	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利, 林川基治				

授業の概要 電子回路の講義で習得した知識をもとに、整流回路、トランジスタ増幅器、オペアンプによる増幅回路を実際に作成する。また、テスターやオシロスコープなどの計測器の使い方も合わせて解説する。

授業の一般目標 電子回路で学んだ回路を実際に作成することにより、回路に関する理解を深め、あわせて電子回路製作の基礎技術を習得することを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 作成する電子回路の動作を理解する 2. 計測器に関する知識を獲得する 関心・意欲の観点： 1. 電子回路作成の意欲と面白さ体験する 技能・表現の観点： 1. 測定した結果を製作や実験内容を含めてレポートに的確にまとめる能力を養う

授業の計画(全体) 計測に必要な機器の解説から初め、遂次、実習、実験を進め、機器の使い方、電子回路の作成法などを一つ一つ着実に理解、習得させる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 電圧計、電流計の原理と使い方
- 第 2 回 項目 抵抗値の測定
- 第 3 回 項目 オシロスコープの原理
- 第 4 回 項目 オシロスコープの使い方
- 第 5 回 項目 発振器の使い方
- 第 6 回 項目 ダイオード特性の測定
- 第 7 回 項目 整流回路の作成
- 第 8 回 項目 整流特性の測定
- 第 9 回 項目 整流回路のまとめ
- 第 10 回 項目 トランジスタ増幅器の製作
- 第 11 回 項目 トランジスタ増幅器の周波数特性の測定
- 第 12 回 項目 トランジスタ増幅器のまとめ
- 第 13 回 項目 オペアンプによる反転増幅器の作成
- 第 14 回 項目 反転増幅器の周波数特性の測定
- 第 15 回 項目 オペアンプ回路のまとめ

成績評価方法(総合) 出席点 50 点、5 回以上欠席は欠格。残りはテーマごとまとめて提出するレポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

開設科目	栽培汎論(実習を含む)	区分	その他	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐藤登				

授業の概要 人間の歴史の中で主要な位置を占めてきた食べ物について、その生産の仕組みを説明する。

授業の一般目標 (1) 食べ物の生産にかかわる要因を理解する。(2) 身近な食べ物を、日常生活の中から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：主要農産物の生産について説明できる。 思考・判断の観点：自然環境と農環境の関係を説明できる。 関心・意欲の観点：日常の食生活について関心を持つ。

授業の計画(全体) 食物の成長に必要な要因(光、水、空気、土など)について検討し、自然環境とのかねあいを考える。日常生活の中で取り扱う食べ物について総合的な理解を深めてみる。 田植えや野菜栽培を具体的に行って栽培技術の一般的内容を知る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方 < BR > 成績評価の方法 授業記録 配布資料 1

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回 項目 農業体験 内容 田植え

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) (1) 授業中に数回行う小実験と栽培実習についてレポートを提出。(2) 個人課題でのレポート提出。 なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。

開設科目	農業環境論	区分	その他	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐藤登				

授業の概要 世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。 / 検索キーワード 農業地帯、農法、文化、暮らし

授業の一般目標 世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界の農業地帯を説明できる。 思考・判断の観点：農業文化の多様性を説明できる。 関心・意欲の観点：身近な農業文化に関心を持つ。

授業の計画（全体） 和辻哲郎の『風土』を読む。地理学の授業で得た世界の農業地帯の資料を利用し、ブルガリアと日本の農業の比較をする。身近に存在する農業文化に関心を持つ。

成績評価方法（総合） 授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

開設科目	情報処理論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点：1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点：1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点：1. 情報倫理を守った行動ができる。2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点：1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。2. データの集計や分析を行うことができる。3. 情報の発信を行うことができる。4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画(全体) 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1(ワープロ入門) 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2(図と表) 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1(ワープロの利用) 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2(アップロードと公開) 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3(HTML 入門) 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1(表計算入門) 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2(データ処理とグラフ作成) 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1(スライドとスライドショー) 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	情報基礎 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。 / 検索キーワード 情報の表現、演算方式、論理回路

授業の一般目標 2進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。
関心・意欲の観点：情報科学や計算機科学について関心を持つ。

授業の計画（全体） まず、情報の表現方法を学び、さらに演算方式、計算機構成法について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報量と 2 進数
- 第 2 回 項目 情報の表現と符号
- 第 3 回 項目 誤り検出符号
- 第 4 回 項目 補数
- 第 5 回 項目 絶対値表示を用いた加減算
- 第 6 回 項目 2 の補数を用いた加減算
- 第 7 回 項目 Booth の方法による乗算
- 第 8 回 項目 引き戻し法による除算
- 第 9 回 項目 中間試験
- 第 10 回 項目 論理演算回路とブール代数の基礎
- 第 11 回 項目 論理関数
- 第 12 回 項目 演算回路（その 1）
- 第 13 回 項目 演算回路（その 2）
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。
また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：電子計算機 I, 高浪、井上ほか, 朝倉書店, 1985 年；新版 情報処理の基礎, 水上孝一, 朝倉書店, 1998 年；現代電子計算機ハードウェア, 萩原宏、黒住祥祐, オーム社, 1991 年

メッセージ 受講生は共通教育の情報処理概論を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	情報基礎 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステム：OS について、現代の OS が備えている機能の基礎とその仕組みについて理解を深める。 / 検索キーワード UNIX, OS, セマフォ, 並行処理, ファイルシステム

授業の一般目標 現在一般に利用されている OS の機能とその仕組みについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代の OS について理解する。 関心・意欲の観点：OS への関心が高まること。

授業の計画（全体） まず OS のおおまかな仕組みと機能を説明する。その後、並行処理を行うためのセマフォについて説明する。さらに、様々な OS の機能の実際について説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 OS の構成要素と構成法
- 第 3 回 項目 プロセス
- 第 4 回 項目 スケジューリング
- 第 5 回 項目 プロセスの同期と通信（1）
- 第 6 回 項目 プロセスの同期と通信（2）
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 実記憶の管理
- 第 9 回 項目 仮想記憶（その 1）
- 第 10 回 項目 仮想記憶（その 2）
- 第 11 回 項目 ファイルシステム
- 第 12 回 項目 割り込み処理
- 第 13 回 項目 入出力制御
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間・期末試験と毎回の授業で課す課題を総合計して評価する。なお、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：オペレーティングシステムの基礎, 大久保英嗣, サイエンス社, 1997 年；プリントも配布します。 / 参考書：オペレーティングシステムの概念, ピーターソン、シルバーシャッツ, 培風館, 2000 年

メッセージ 普段利用している MS-Windows や UNIX の利用法と照らし合わせて理解するよう努めてください。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤本章				

授業の概要 金属加工(鋳造、摩耗、破壊じん性、凝固、熱処理) ものづくり技術教育に関わる、卒業論文の作成を行う。設定したテーマに応じて、資料・文献の購読の方法、実験の方法、調査の方法、発表の方法、論文の書き方等について指導を行う。 / 検索キーワード 金属加工、機械加工、鋳造、金属摩耗、金属疲労、金属のねばり強さ、セラミックス、耐摩耗材料、工学、技術教育、ものづくり、アルミニウム空き缶の溶解鋳造によるものづくり、小学校総合的な学習での金属加工分野の教材開発、環境、英語、情報機器を用いたプレゼンテーション、Excel による画像の作成、パソコン

授業の一般目標 設定したテーマについて、必要な実験及び文献調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点： テーマについて関心をもち、探求および研究意欲が湧く。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 1. 金属加工の技能を修得できる。パソコンの操作及びソフトの使用法に関する技能を修得できる。文章を読み書く技量を高められる。 2. 情報機器(OHC、パソコン、液晶プロジェクター、ビデオなど) を用いて、研究内容を発表し、表現できる。 その他の観点： 1. 技術分野に関する探究心、研究心を高めることができる。 2. 金属の摩耗、疲労、鋳造、熱処理、ものづくりに関する知識を高める。 4. 情報機器の取り扱い法を修得する。 3. 国際化に向けて必要な言語である、英語の習得を高めることができる。

授業の計画(全体) 研究テーマを決定したのち、具体的な実験及び調査の方法について指導を行う。各自の実験、調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるように指導を行う。 前半は、研究に関する資料及び文献の購読を行うとともに、卒業研究の計画を立てる。必要であれば、実験も行なう。 後半は、実験及び調査等を行なう。12月くらいから論文の作成に取りかかる。実験を主体に研究を行う。可能ならば、研究内容を国内学会や国際学会で発表を行なうとともに、国内学会誌及び国際学会誌に研究論文として発表することを目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマにしたがって研究 授業外指示 教員の指示並びに各自の自覚により研究を実施する。
授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。
- 第 2 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。
- 第 6 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。
- 第 11 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 同上 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 同上 授業外指示 同上

- 第 15 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。
第 16 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 17 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 18 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 19 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 20 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 21 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。同上
第 22 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 23 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 24 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 25 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。
第 26 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 27 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 28 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 29 回 項目 同上 授業外指示 同上
第 30 回 項目 同上 授業外指示 同上 授業記録 教員及び学生各自のノートに記録する。

成績評価方法 (総合) 卒業研究に参加・出席した日数 (実験を実施した日数、ゼミに参加した日数)、研究態度、製作作品 (卒業論文も含む)、レポート、などを参考にして総合的に評価を行う。

教科書・参考書 教科書：大学基礎「機械材料」- 改訂版 -，門間改三，実教出版，1987 年 / 参考書：若い技術者のための機械・金属材料-増補版 -，矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一，丸善，1986 年；機械工作法，臼井太郎，パワー社，1985 年

メッセージ 金属加工に関する卒業研究を担当しています。とくに、耐摩耗材料の開発研究を行なっています。工作機械を用いて金属を試験片に加工したり、疲労試験機や摩耗試験機を用いて実験したり、顕微鏡で金属の内部を観察したりします。アルミニウム空き缶の溶解鑄造によるものづくり教育も行っています。国際化を迎え英語の力を養うことにも力を入れています。熱意のある学生を希望します。

連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工研究室、TEL/FAX 083-933-5395 E - mail sawamoto @ yamaguchi - u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 研究テーマを決定し、これについての研究計画の立案と研究実施を行う。最終的に、論文としてとりまとめ、発表を行う。 / 検索キーワード 卒業研究、卒業論文

授業の一般目標 自らの課題を整理し、研究テーマを設定することができる。設定したテーマに沿って研究計画を立案し、効果的な研究の実施と検証・整理が行える。最終的に論文として整理し、必要なプレゼンテーションが行える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 研究テーマを十分理解している。 2. 研究に必要な基礎的な知識や理解が身についている。 思考・判断の観点： 1. テーマに沿った研究計画が立案できる。 2. 得られた結果等を論理的に判断し、評価することができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究に必要な資料を集めようとする。 2. 進んで研究を深めようとする。 3. 実験装置や実験方法の工夫・改善を行おうとする。 態度の観点： 1. 現象を客観的に捉えようとしている。 2. 真摯に研究に取り組む姿勢。 技能・表現の観点： 1. 工作機械や工具等が正しく扱える。 2. 実験装置が正しく扱える。 その他の観点： 1. テーマ設定や研究アプローチのユニークさ。

授業の計画(全体) 各自の課題を整理し、研究テーマを設定する。テーマに沿った研究計画や方法を検討し、実行に移す。得られた結果や問題点等を整理しつつ、最終的に論文として完成させる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テーマ設定
- 第 3 回 項目 研究計画作成
- 第 4 回 項目 研究実施
- 第 5 回 項目 研究実施
- 第 6 回 項目 研究実施
- 第 7 回 項目 研究実施
- 第 8 回 項目 研究実施
- 第 9 回 項目 中間まとめ 1
- 第 10 回 項目 研究実施
- 第 11 回 項目 研究実施
- 第 12 回 項目 研究実施
- 第 13 回 項目 研究実施
- 第 14 回 項目 研究実施
- 第 15 回 項目 中間まとめ 2
- 第 16 回 項目 研究実施
- 第 17 回 項目 研究実施
- 第 18 回 項目 研究実施
- 第 19 回 項目 研究実施
- 第 20 回 項目 研究実施
- 第 21 回 項目 中間まとめ 3
- 第 22 回 項目 研究実施
- 第 23 回 項目 研究実施
- 第 24 回 項目 研究実施
- 第 25 回 項目 研究実施
- 第 26 回 項目 研究のまとめ
- 第 27 回 項目 研究のまとめ

- 第 28 回 項目 研究のまとめ
- 第 29 回 項目 研究のまとめ
- 第 30 回 項目 研究の総まとめ

成績評価方法 (総合) 研究に取り組む姿勢, 研究で得られた成果, 論文の仕上がり程度, 内容や方法のユニークさを総合的に判断する。

メッセージ 各自が抱く, 技術教育や木材加工, ものづくり学習に対する課題意識を尊重します。

連絡先・オフィスアワー okasun@yamaguchi-u.ac.jp ・ 金 12:40 ~ 14:00

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	森岡弘				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導にり、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・前期木1,2,後期月1,2

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 卒業論文の作成にあたり，研究テーマに関する先行研究の内容を理解し，適切な方法で研究に取り組む。

授業の一般目標 技術科教育に関する課題について取り組むための知識や方法の習得を目指す。さらに，研究結果を文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する課題について理解できる。思考・判断の観点：技術科教育に関する調査や実験について適切な方法を考えることができる。関心・意欲の観点：技術科教育に関する課題について主体的に取り組むことができる。技能・表現の観点：技術科教育に関する調査や実験について適切な方法によって実践できる。また，得られた結果を文章・口頭で表現することができる。

授業の計画(全体) 卒業論文の作成にあたり，研究テーマに関する先行研究の内容について精読する。また，先行研究をもとに，適切な方法で調査や実験の計画を立案する。さらに，得られた結果について考察し，文章および口頭で発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 先行研究の講読
- 第 3 回 項目 先行研究の講読
- 第 4 回 項目 先行研究の講読
- 第 5 回 項目 先行研究の講読
- 第 6 回 項目 先行研究の講読
- 第 7 回 項目 卒業研究の計画
- 第 8 回 項目 卒業研究の計画
- 第 9 回 項目 卒業研究の計画
- 第 10 回 項目 卒業研究の準備
- 第 11 回 項目 卒業研究の準備
- 第 12 回 項目 卒業研究の準備
- 第 13 回 項目 卒業研究の準備
- 第 14 回 項目 卒業研究の実施
- 第 15 回 項目 卒業研究の実施
- 第 16 回 項目 卒業研究の実施
- 第 17 回 項目 卒業研究の実施
- 第 18 回 項目 卒業研究の実施
- 第 19 回 項目 卒業研究の実施
- 第 20 回 項目 卒業研究の結果の整理・考察
- 第 21 回 項目 卒業研究の結果の整理・考察
- 第 22 回 項目 卒業研究の結果の整理・考察
- 第 23 回 項目 卒業研究の結果の整理・考察
- 第 24 回 項目 卒業論文の執筆
- 第 25 回 項目 卒業論文の執筆
- 第 26 回 項目 卒業論文の執筆
- 第 27 回 項目 卒業論文の執筆
- 第 28 回 項目 発表の準備
- 第 29 回 項目 発表の準備

第 30 回 項目 卒業論文についての発表

成績評価方法 (総合) 課題に対するレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：研究テーマによって指示する / 参考書：研究テーマによって指示する

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け (研究室)

家政教育選修

開設科目	家庭経営学(家庭経済学を含む。)	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小林 京子				

授業の概要 我が国の消費生活の変容、家計について理解するとともに現代の消費者問題の背景・要因について理解する。その上で、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。/検索キーワード 家計 消費生活 消費者問題 消費者契約 消費者権利 消費者基本法

授業の一般目標 高度経済成長後の我が国の消費生活の特徴、現代の消費者問題、消費者政策等を理解し、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することが出来たか。（家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者など）思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることが出来るか。（消費者の権利・責任の観点から）関心・意欲の観点：消費者問題に関心・意欲を持つことが出来たか。態度の観点：授業の態度が真面目であったか。技能・表現の観点：課題レポートが分かりやすく書かれていたか。その他の観点：出席状況

授業の計画(全体) 前半は、我が国の消費生活の特徴と勤労世帯および高齢者世帯の家計について学習する。後半は、現代の消費者問題を取り上げ、その背景や要因について理解し、自立した消費者について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 変貌するわが国 < BR > の消費生活
- 第 2 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (1)
- 第 3 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (2)
- 第 4 回 項目 高齢者世帯の家 < BR > 計
- 第 5 回 項目 中間試験 < BR > - これまでのま < BR > とめ -
- 第 6 回 項目 消費者とは
- 第 7 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (1) < BR > 背景・要因
- 第 8 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (2) < BR > 権利と責任
- 第 9 回 項目 消費者契約法に < BR > ついて
- 第 10 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (1)
- 第 11 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (2)
- 第 12 回 項目 商品・サービス < BR > の安全をめぐる < BR > 問題
- 第 13 回 項目 商品・サービス < BR > の表示をめぐる < BR > 問題
- 第 14 回 項目 環境問題と消費 < BR > 生活
- 第 15 回 項目 期末試験 < BR > - 真に豊かな消 < BR > 費生活文化・様 < BR > 式に向けて -

成績評価方法(総合) 定期試験、出席状況を勘案して行う。知識・理解(家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者について) 思考・判断(現代の消費者問題について、その要因・背景の明確化) 技術・表現(課題レポートの記述) 関心・意欲・態度(授業の態度、消費者問題への関心・意欲)

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

メッセージ 今日の消費者問題の情報を常に入手しておくこと。

備考 集中授業

開設科目	衣生活環境論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。 / 検索キーワード 衣生活、被服、洗濯

授業の一般目標 日常生活のなかで、普段なにげなく身に付けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。 2. 洗剤の種類と役割を説明できる。 3. 品質表示の意味を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 目的に合った衣類を選択できる。 2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。 関心・意欲の観点： 衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ 態度の観点： 授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

授業の計画(全体) 衣料に関して、歴史・文化(ファッション)から物理的視点、化学的視点へと多角的に解説する。特に日々の生活の中で失敗や惑いが多いと思われる洗浄については、時間を多く取る予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人と衣服との関わり
- 第 2 回 項目 被服気候
- 第 3 回 項目 衣料用素材の種類
- 第 4 回 項目 織物とは
- 第 5 回 項目 繊維製品の品質表示
- 第 6 回 項目 天然染料と合成染料
- 第 7 回 項目 汚れと洗浄
- 第 8 回 項目 家庭洗濯
- 第 9 回 項目 ドライクリーニング
- 第 10 回 項目 衣服の傷み
- 第 11 回 項目 洗浄剤と漂白剤
- 第 12 回 項目 よくある洗濯事故
- 第 13 回 項目 衣服に使用される化学物質
- 第 14 回 項目 環境汚染
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業の中で3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：自作テキストを配布する。 / 参考書：洗たくの科学, 花王生活科学研究所編, 裳華房, 1989年; 衣生活論, 中島利誠編著, 光生館, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 石けん屋さんが書いた石けんの本, 三木春逸・三木晴雄, 山水社, 1992年

メッセージ 1年生対象の概論科目である。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 教育学部 300号室

開設科目	食文化論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。/ 検索キーワード 食文化 食生活

授業の一般目標 (1) 食文化を学ぶ意義・目的を理解する。(2) 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。(3) 現代の食生活の問題点を理解する。(4) 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 食文化とは何かについて説明できる。2 世界および日本の食文化について理解する。3 食文化の研究の意義を理解する。 思考・判断の観点: 1 食文化に関する自分の意見を論理的に述べるができる。2 現代の食生活の問題点を述べるができる。 関心・意欲の観点: 1 食文化に関する関心を広げ、食に対する問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1 日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 食文化を学ぶ目的を説明し、主食、肉食、乳利用の食文化について講義する。さらに現代の食生活について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 食文化を学ぶとは
- 第 2 回 項目 生活様式と食
- 第 3 回 項目 主食の条件
- 第 4 回 項目 肉食の文化
- 第 5 回 項目 乳利用の文化
- 第 6 回 項目 食品加工の知恵
- 第 7 回 項目 食事行動・宗教 と食のタブー
- 第 8 回 項目 ヨーロッパの食文化
- 第 9 回 項目 料理のお国柄
- 第 10 回 項目 現代の食生活 1 内容 子どもの食生活 1
- 第 11 回 項目 現代の食生活 2 内容 子どもの食生活 2
- 第 12 回 項目 現代の食生活 3 内容 高齢者の食生活
- 第 13 回 項目 食生活の問題点
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 最後に課題レポートを課す。出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書: なぜひとりで食べるの, 足立己幸・NHK「おはよう広場」, 日本放送出版協会, 1983年; 食文化入門, 石毛直道・鄭大聲編, 講談社, 1995年; 知っていますか子どもたちの食卓, 足立己幸・NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2000年; 変わる家族 変わる食卓, 岩村暢子, 勁草書房, 2003年; 65歳からの食卓, 足立己幸・松下佳代・NHK「65歳からの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2004年; 和食と日本文化, 原田信男, 小学館, 2005年; 食の文化を知る事典, 岡田 哲, 東京堂出版, 1998年

メッセージ ビデオ教材を使用します。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー: 金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	栄養学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。 / 検索キーワード 生命、栄養と栄養素、消化、吸収、排泄

授業の一般目標 生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。 2 . 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。 思考・判断の観点： 個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。 関心・意欲の観点： 自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生命と細胞（生命）
- 第 2 回 項目 生命と細胞（細胞のしくみ）
- 第 3 回 項目 生命とタンパク質（アミノ酸とタンパク質）
- 第 4 回 項目 生命とタンパク質（タンパク質の機能と役割）
- 第 5 回 項目 エネルギー代謝と糖質
- 第 6 回 項目 エネルギー代謝と脂質
- 第 7 回 項目 脂質の機能と役割
- 第 8 回 項目 ビタミンの生体内機能
- 第 9 回 項目 ビタミンの重要性
- 第 10 回 項目 ミネラル（無機質）の生体機能
- 第 11 回 項目 ミネラル（無機質）の重要性
- 第 12 回 項目 食物繊維の生体内での役割
- 第 13 回 項目 ビデオ鑑賞（消化と吸収）
- 第 14 回 項目 現代の食生活の諸問題（ダイエット）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：新版 新しい栄養学, 坂本 清 他, 三共出版, 2005 年；教科書の他に、資料を十数枚配布する。

メッセージ 文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているので、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

開設科目	生活科学論	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 水環境、生活排水、河川の自然浄化に関して講義をする。授業の前半では山口市内に流れる川について、水性生物による水質分析を行うとともに後半で生活が及ぼす環境問題との関わりについて power point でまとめ、発表を行う。 / 検索キーワード 水汚染、水質調査、水性生物、環境問題

授業の一般目標 本授業では水性生物による水質調査によって山口市の河川の水質階級を判定し、汚れの原因を探っていく。後半で生活が及ぼす環境問題を調査し、発表する資料としてまとめていく。その結果をプレゼンテーションソフトを用いて発表することで、環境保全の意識を高めることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：水汚染の分析項目 COD, BOD, 硝酸性 & 亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素などについて理解できる。オゾン層破壊、地球温暖化、ごみ問題、環境ホルモンなどの環境問題を理解できる 思考・判断の観点：水質調査結果から、その水質階級が判断できる。種々の環境問題と生活との関わりから身の回りの生活態度をどのように改善したらよいか判断できる。 関心・意欲の観点：結果をまとめる過程で環境問題と生活との関わりに意識を高めることができる。 態度の観点：自分の生活を振り返り、環境負荷を少なくするための生活様式に気づき、実践できる。 技能・表現の観点：水生生物の同定と水質階級を見極めることができるとともに種々の環境問題を理解した結果を powerpoint で表現できる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 水分析と方法について 内容 ノートパソコン および必要なソフト power point
- 第 2 回 項目 山口市内の河川の水質調査 I 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 3 回 項目 山口市内の河川の水質調査 II 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 4 回 項目 山口市内の河川の水質調査 III 内容 生物を捕獲する 網および長靴、カメラ
- 第 5 回 項目 家庭生活と水汚染 I
- 第 6 回 項目 家庭生活と水汚染 II
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 I
- 第 9 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 II
- 第 10 回 項目 環境問題理解と発表資料作成 III
- 第 11 回 項目 環境問題の発表 I 内容 ノートパソコン および power point
- 第 12 回 項目 環境問題の発表 II 内容 ノートパソコン および power point
- 第 13 回 項目 環境問題の発表 III 内容 ノートパソコン
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 小テスト

成績評価方法 (総合) 評価は水汚染の水質検査項目の理解、水循環、水生生物と水質階級などについて小テストと演習時の小テストおよび調査結果をまとめた powerpoint によって評価する。

教科書・参考書 参考書：水の環境戦略 (岩波新書；新赤版 324), 中西準子著, 岩波書店, 1994年；中西準子著、岩波新書「水の環境戦略」

メッセージ 山口の自然を直接、確かめ、生活の視点から環境問題を理解する

開設科目	食品衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。/ 検索キーワード 食品の安全性、食中毒、食品添加物、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン

授業の一般目標 この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィット・リスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日の重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。 ・代表的な細菌性食中毒について説明できる。 ・食品添加物についてベネフィット・リスク論を構築できる。 ・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。 思考・判断の観点： 食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。 関心・意欲の観点： 日常の食生活との関わりの中で、食の安全性を考えることができるようになる。 態度の観点： 個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。 技能・表現の観点： 食の安全性については、個人個人がどのような考え方をもちかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 1） 内容 ・授業のガイダンス・水俣病事件の検証 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 2） 内容 ・カネミ油症事件の検証・ヒ素粉ミルク事件の検証・イタイイタイ病事件の検証 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 3 回 項目 細菌性食中毒 1 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 4 回 項目 細菌性食中毒 2 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 5 回 項目 自然毒・化学性食中毒 内容 ・代表的な自然毒（フグ、キノコ等）や化学物質による食中毒について解説
- 第 6 回 項目 食品添加物について 内容 食品添加物についてその概要を説明 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 7 回 項目 食品添加物とその問題点 内容 食品添加物の問題点について考える
- 第 8 回 項目 ベネフィット・リスク論の構築（食品添加物） 内容 食品添加物についての自分なりの考えを構築する
- 第 9 回 項目 ディベート（食品添加物について） 内容 受講生全員で、食品添加物をテーマに、ディベート形式の討論を行う
- 第 10 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 主に環境ホルモンについてその現状と問題点を解説する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 11 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 第 10 週に同じ 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する

- 第 12 回 項目 食物と環境（遺伝子組換え食品とクローン技術） 内容 遺伝子組換え技術やクローン技術について解説し、その光と陰を考えながら、これからの食を考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 13 回 項目 食物と環境（環境変異原物質等） 内容 身近な環境変異原物質を取り上げ、解説し、さらにそれらの作用を抑制してくれる物質についても紹介する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 14 回 項目 輸入食品について・食品の安全の重要性 内容 食品輸入の実態と問題点を特に安全性の面から考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 食の安全性について、これまでのまとめを行う

メッセージ この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

開設科目	栄養学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかわりを学ぶ。ついで、幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。/ 検索キーワード ライフサイクルの栄養、食生活と栄養、生活習慣病

授業の一般目標 この授業では、乳幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解し、それぞれの時期における栄養学的重要性を知る。次に、それを土台に、おもな生活習慣病の病態を理解し、また、その予防について考えられるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。 2. 主な生活習慣病について理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 1. 実際の生活状況と生活習慣病との関連を考えることができる。 2. マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。 関心・意欲の観点： 授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 栄養と病態 (栄養障害と疾患)
- 第 2 回 項目 エネルギー代謝の基本
- 第 3 回 項目 栄養必要量の考え方
- 第 4 回 項目 栄養欠乏および過剰の病理
- 第 5 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (胎児の栄養)
- 第 6 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (乳幼児の栄養)
- 第 7 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (学童期・青少年期の栄養)
- 第 8 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (成人の栄養)
- 第 9 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (老人の栄養)
- 第 10 回 項目 通風・肥満と食生活
- 第 11 回 項目 糖尿病と食生活
- 第 12 回 項目 骨粗鬆症・貧血と食生活
- 第 13 回 項目 高血圧・動脈硬化と食生活
- 第 14 回 項目 心臓病・脳卒中と食生活
- 第 15 回 項目 ビデオ鑑賞・まとめ

教科書・参考書 教科書： 授業用のプリントを数十枚配布する

メッセージ 栄養学・で学んだ基礎を土台に、栄養と食生活と疾病との関連性を構築できるように学んでほしい。

開設科目	食品科学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 この授業では、食品素材の特徴および調理特性について習得する。また、嗜好性、調理操作についても講義する。 / 検索キーワード 食品科学、調理学

授業の一般目標 1) 調理と嗜好性について理解する。 2) 調理操作の種類と目的を理解する。 3) それぞれの食品について、種類、成分などの基本的性質を説明し、調理特性を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 それぞれの食品成分の特徴を理解する 2 それぞれの食品の調理特性を理解する。 3 調理と嗜好性を理解する。 4 調理操作について理解する。 思考・判断の観点： 1 食品成分の特徴を科学的な立場で説明できる。 2 食品の調理特性を科学的な立場で説明できる。 3 調理と嗜好性を説明できる。 4 調理操作の違いを説明できる。 関心・意欲の観点： 1 食品に対する科学的知識を高める 2 調理特性に対する科学的知識を高める。 3 調理と嗜好性について、科学的知識を高める。 態度の観点： 1 食品に関心をもつ。 2 調理に関心をもつ。 3 おいしさに関心を持つ。

授業の計画(全体) 調理と嗜好性、調理操作の目的と特徴について講義し、各論として、植物性食品(米、小麦粉、いも類、豆類、野菜類、果実類など)の特徴と調理性、動物性食品(食肉類、魚介類、鶏卵、牛乳・乳製品)の調理性などについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調理の目的
- 第 2 回 項目 調理操作(非加熱調理と加熱調理)
- 第 3 回 項目 米の調理
- 第 4 回 項目 小麦の調理
- 第 5 回 項目 芋類の調理
- 第 6 回 項目 豆類の調理
- 第 7 回 項目 野菜類・果実類の調理
- 第 8 回 項目 食肉類の調理
- 第 9 回 項目 魚介類の調理
- 第 10 回 項目 鶏卵の調理
- 第 11 回 項目 牛乳・乳製品の調理
- 第 12 回 項目 成分抽出素材の調理性
- 第 13 回 項目 嗜好飲料
- 第 14 回 項目 食べ物の味
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 講義した内容についての試験を行い、評価する。

教科書・参考書 教科書：食品・栄養科学シリーズ 調理学, 池田ひろ・木戸詔子編, 化学同人, 2000年 / 参考書：調理と理論, 山崎清子・島田キミエ他, 同文書院, 2003年

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16:10~17:40

開設科目	児童学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 乳幼児の心身の発達について講義する。保育記録とVTR記録をもとに、幼児の特性に応じた関わりの基本を学ぶ。絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児期の発達の特徴がわかったか 思考・判断の観点： 幼児の行動の見方が広がり、かかわり方について考えることができたか 関心・意欲の観点： 幼児や子どもに対する関心が深まったか 絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に意欲や関心を抱くようになったか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに オリエンテーション 絵本紹介 1
- 第 2 回 項目 絵本「ひとまねこざる」に見る子ども性」 さくらんぼ坊や 1
- 第 3 回 項目 エリックカールの作品に見る子どもの成長 さくらんぼ坊や 2
- 第 4 回 項目 幼児の成長について アリサのテーブル拭き 林明子の絵本
- 第 5 回 項目 動く紙おもちゃの製作 1 遊びレポートの作成
- 第 6 回 項目 ヤングアダルト絵本「セーターになりたかった毛糸玉」 さくらんぼ坊や 3
- 第 7 回 項目 動く紙おもちゃの製作 2 虹のトムボーイ
- 第 8 回 項目 遊びレポート 分析 幼児の遊びと発達
- 第 9 回 項目 昔話絵本を考える「さるかに話を知っていますか？」
- 第 10 回 項目 幼児の発信とその読み
- 第 11 回 項目 「サンタクロースはほんとうにいるの？」 クリスマスと子ども
- 第 12 回 項目 4 歳児の世界 論文「ベイブレード遊びにおける 4 歳児の自己充実と仲間関係」を読む
- 第 13 回 項目 5 歳児の世界 論文「子どもの立ち直りを支える保育行為」を読む
- 第 14 回 項目 さくらんぼ坊や 4 幼児期から学童期へ
- 第 15 回 項目 さくらんぼ坊や 5 まとめ

教科書・参考書 参考書： 育児日記からの子ども学, 友定啓子, 勁草書房, 1996 年 ; 子どもの心を支える, 村田陽子, 勁草書房, 1999 年 ; 幼児の笑いと言語, 友定啓子, 勁草書房, 1993 年

開設科目	家族関係論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 現代家族の理論と実態について取り上げる。家族と社会の関係、家族内部の人間関係（夫婦関係・親子関係）およびその病理（DV・児童虐待など）について講義する。/ 検索キーワード 家族関係

授業の一般目標 現代家族の置かれた状況を理解し、家族関係に関する一般的な知識と自分なりの家族観を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代家族の置かれた状況、課題について理解する 思考・判断の観点：家族問題についての自分なりの見解を持ち表現できる 関心・意欲の観点：家族関係に関する関心を持つ 態度の観点：出席状況

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代家族の動向 1
- 第 2 回 項目 現代家族の動向 2
- 第 3 回 項目 1カ月の生計費 計算
- 第 4 回 項目 離婚 家族とは何か
- 第 5 回 項目 性別役割分業を 考える
- 第 6 回 項目 電話相談に見る 親子関係
- 第 7 回 項目 パラサイトシングルの時台
- 第 8 回 項目 親業エッセンス 1
- 第 9 回 項目 親業エッセンス 2
- 第 10 回 項目 親業エッセンス 3
- 第 11 回 項目 現代家族の病理 1
- 第 12 回 項目 現代家族の病理 2
- 第 13 回 項目 演習
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：市販の教科書は使わない 教官が資料を準備する

開設科目	衣料素材論 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 まず、物理、化学の基礎知識を復習した上で、衣料用のさまざまな繊維について、構造、比重、吸湿性、保温性、強伸度、帯電性等の基本的な性質、特徴を解説する。 / 検索キーワード 繊維

授業の一般目標 衣料用繊維を科学的な目で捉え、種々の繊維素材の基本的な性質、特徴を理解し、それらの性質が帛布の性質にどのように関わるかを考察しながら、ライフスタイルや T P O に合わせた素材選び、着用、取り扱いができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 繊維素材の性質、特徴を科学的に説明できる。 思考・判断の観点： 繊維素材の性質と布地の性質を関連づけられる。 関心・意欲の観点： 日頃、意識せず着用している衣料を科学の目で捉えることに関心を持つ。 態度の観点： 日常生活のなかの事象を科学的な目で捉え、考えることができ、日常に応用されている物理や化学を実感することができる。

授業の計画 (全体) 授業では、原料から製品までの過程、つまり、(1) 原料、(2) 繊維、(3) 糸、(4) 織物・編物の順に進めていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 繊維材料のミクロ構造と性質
- 第 2 回 項目 繊維の分類、天然繊維
- 第 3 回 項目 セルロース系繊維 (綿、麻)
- 第 4 回 項目 タンパク質系繊維 (毛、絹)
- 第 5 回 項目 化学繊維、再生繊維 (レーヨン、キュプラ)
- 第 6 回 項目 半合成繊維 (アセテート)
- 第 7 回 項目 合成繊維 (ナイロン、ポリエステル)
- 第 8 回 項目 合成繊維 (アクリル、ポリウレタン)
- 第 9 回 項目 糸 (分類、製造、太さ、撚り、加工系)
- 第 10 回 項目 織物 (製造、組織、分類)
- 第 11 回 項目 原組織織物 (平織、綾織、朱子織)
- 第 12 回 項目 編物 (よこ編、たて編)
- 第 13 回 項目 含気性、保温性、水分率
- 第 14 回 項目 強度、伸度、剛軟性
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 学期末に行う定期試験および授業内レポートで評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリントを配布する。 / 参考書： 衣服科学, 山崎和彦著, 朝倉書店, 1997 年 ; アパレル科学, 丹羽雅子編著, 朝倉書店, 1997 年 ; 被服学辞典, 阿部幸子ほか 7 名編集, 朝倉書店, 1999 年 ; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998 年 ; 被服材料学, 中島利誠編著, 光生館, 1986 年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室 : 教育学部 300 号室

開設科目	被服造形論(被服製作実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	水谷由美子				
<p>授業の概要 被服分野の教材の基礎となる被服の立体構成を取り扱う。基本パターンからさまざまなデザインへの展開方法およびデザインの基礎となる発想力をも磨くようなトレーニングを行う。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 学校教育における被服構成の経緯と今後 I</p> <p>第2回 項目 学校教育における被服構成の経緯と今後 II</p> <p>第3回 項目 ファッションデザインと現代生活</p> <p>第4回 項目 アパレル産業の実状、現場の理解と現代衣生活</p> <p>第5回 項目 人体の形態理解、既制服のサイズ、各自寸法の採寸</p> <p>第6回 項目 立体裁断法一下半身</p> <p>第7回 項目 平面裁断法一下半身</p> <p>第8回 項目 立体裁断法一上半身</p> <p>第9回 項目 平面裁断法一上半身</p> <p>第10回 項目 服装に関する発想法を磨くトレーニング</p> <p>第11回 項目 実物製作の試み I</p> <p>第12回 項目 実物製作の試み II</p> <p>第13回 項目 実物製作の試み III</p> <p>第14回 項目 実物製作の試み</p> <p>第15回 項目 合評会</p>					

開設科目	調理学実習 I	区分	実験・実習	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 この授業では、まず調理実習を行ううえでの基本的注意事項を学習し、ついで、基本的な食品の取り扱いと調理特性を踏まえた調理学実習を行う。基礎的調理の技術・知識の習得を目標とする。この調理学実習は、小・中学校の家庭科食物領域の指導の際に必要な内容にしている。 / 検索キーワード 調理実習、食物学、調理学

授業の一般目標 1) 調理実習を行ううえでの基本的な注意点をを知る。 2) 基本的な食品の取り扱いと調理特性を踏まえた調理実習を行う。 3) 基礎的な調理技術・知識を習得する。 4) 小・中学校の家庭科の食物領域の指導に必要な技術・知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 調理実習を行ううえでの留意点を理解する。 2 食品の調理特性を理解する 思考・判断の観点： 1 調理の目的に応じた食材の取り扱いができるようにする。 関心・意欲の観点： 1 調理実習を通して、食品・調理への関心を高める。 態度の観点： 1 実習に積極的に参加する 2 グループで協力して、活動する。 技能・表現の観点： 1 基礎的調理技術を身につける。 2 基本的な食品の取り扱いができる。 その他の観点： 1 安全に留意して実習を行う

授業の計画(全体) 最初に調理実習を行ううえでの諸注意を行う。その後、テーマに応じて調理実習を行う。最後にまとめを行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 調理実習を行ううえでの注意
- 第 2 回 項目 基礎的調理実習(和風:基礎の操作)
- 第 3 回 項目 " (和風の献立 1)
- 第 4 回 項目 " (和風の献立 2)
- 第 5 回 項目 " (和風の献立 3)
- 第 6 回 項目 基礎的調理実習(洋風:基礎の操作)
- 第 7 回 項目 " (洋風の献立 1)
- 第 8 回 項目 " (洋風の献立 2)
- 第 9 回 項目 " (洋風の献立 3)
- 第 10 回 項目 基礎的調理実習(中国料理:基礎の操作)
- 第 11 回 項目 " (中国料理の献立 1)
- 第 12 回 項目 " (中国料理の献立 2)
- 第 13 回 項目 " (中国料理の献立 3)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 実習レポート、課題レポート、実習中の態度および出席状況によって評価する。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する / 参考書：調理と理論, 山崎清子・島田キミエ他, 同文書院, 2003 年

メッセージ 実習は実費負担です。受講生は最大 20 名までです。家政教育選修、副免許で家庭科を取得する人が優先されます。実習の内容や順番は変更することがあります。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー 金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	住居学（製図を含む。）	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住生活の向上のために、住空間の構成や住環境の制御方法の理解を深めることを目的とする。住まいの発展や多様な住まい方を通して、現代の住まいと住生活の課題を学ぶ。あわせて、健康や安全面から住まいの環境を点検し、子どもや高齢者に配慮した住居の計画、地域環境へと理解を深めていく。/検索キーワード 住生活、住空間、住環境

授業の一般目標 住まいの発展経過や現代の多様な住まい方から住まいと住生活の課題を理解する。次に、健康や安全の視点から住まい環境の問題を具体的に点検し、認識する。これらの知識を生かし、子どもや高齢者など家族員の特性も踏まえて住居の計画をできるようにする。さらに、住まいと地域や社会との関わりに関心を広げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住まいの歴史と住まい方の発展から、住まいと住まい方の基本事項を理解する。 2. 健康や安全の面から現代の課題を理解する。 思考・判断の観点： 1. 住まいの健康や安全性の判断ができる。 2. 子どもや高齢者の特性から、その必要な空間条件を考えられる。 関心・意欲の観点： 1. 住まいと地域環境との関係や、消費者問題・住宅政策など社会との関係にも関心を広げる。 2. バリアフリーなど社会の動きを主体的につかむ。 態度の観点： 1. 知識や思考力を自らの住まいと住まい方に生かし、よりよい住まい方を積極的に追求する。 技能・表現の観点： 1. 子どもや高齢者を含んだ家族のニーズを理解し、それを間取りに表現できる。

授業の計画（全体） 2～3回ごとに住まいの発展などテーマを変えて講義する。製図などの演習も含む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 住まいの見方と役割
- 第2回 項目 住まいの変遷(1) 古代、中世の住まい
- 第3回 項目 住まいの変遷(2) 近世の住まい
- 第4回 項目 家族と住まいの変化
- 第5回 項目 住様式の形成
- 第6回 項目 住生活と住空間
- 第7回 項目 自然環境と快適さ
- 第8回 項目 健康な住まい
- 第9回 項目 住まいの安全
- 第10回 項目 住居設計の方法
- 第11回 項目 間取りの計画
- 第12回 項目 家族生活の計画
- 第13回 項目 設計演習
- 第14回 項目 住宅問題と住宅政策
- 第15回 項目 住環境とまちづくり

成績評価方法（総合） 思考・判断を問うレポート、技能・表現の観点を見る住居設計の演習レポート、知識・理解や関心・意欲を見る試験、及び出席状況を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 住居分野の基本授業なので内容が多いのですが、積極的に取り組んで下さい。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	衣料素材論 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 化学繊維の発展の歴史を述べ、その上で、最近のいわゆる機能性繊維や高感性繊維について紹介し、その特徴および機能発現の機構を論述する。 / 検索キーワード シルクライク、機能性繊維、高感性繊維

授業の一般目標 日常生活において、知らず知らずのうちに着用している機能性繊維や高感性繊維について科学的な目で理解し、正しい知識を修得するとともに、技術の進歩、その恩恵を身近に受けている事を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 化学繊維の起こりを説明できる。 2 . 機能性繊維、高感性繊維の機能発現の機構を説明できる。 思考・判断の観点： 機能性繊維、高感性繊維の機能を効率よく発揮させる方法を自分で考えることができる。 関心・意欲の観点： 世界の最先端をいく日本の繊維技術について関心をもつ。

授業の計画(全体) 化学繊維の起こりから、人類のもっと良いものを求める欲求から、次々に開発された技術を解説する。この分野の技術力は世界トップレベルである。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 化学繊維のシルクライク化
- 第 2 回 項目 異形断面繊維
- 第 3 回 項目 超極細繊維
- 第 4 回 項目 超ソフト素材
- 第 5 回 項目 レザーライク素材
- 第 6 回 項目 ストレッチ素材
- 第 7 回 項目 バイオミメティック繊維
- 第 8 回 項目 吸水・吸湿性繊維
- 第 9 回 項目 透湿・防水性繊維
- 第 10 回 項目 カメレオン繊維
- 第 11 回 項目 制電性・導電性繊維
- 第 12 回 項目 耐熱・防融繊維
- 第 13 回 項目 セラミック加工繊維
- 第 14 回 項目 抗菌・防臭・消臭繊維
- 第 15 回 項目 芳香繊維

成績評価方法(総合) 学期末試験で評価する。ただし、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 自作テキストを配布する。 / 参考書： 被服学辞典, 阿部幸子ほか7名編集, 朝倉書店, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 新繊維材料入門, 宮本武明・本宮達也著, 日刊工業新聞社, 1992年; よくわかる新繊維のはなし, 林田隆夫著, 日本実業, 1998年

メッセージ できれば衣料素材論 I を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室: 教育学部 300 号室

開設科目	被服学実験	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 被服の材料となる繊維、紡績糸、フィラメント糸、帛布の基本的な性質について科学的実験を行い、実験結果の整理・解析とレポート作成を行う。 / 検索キーワード 衣服学実験、物理実験、化学実験

授業の一般目標 前年度までに知識として得た繊維素材について、実際に実験実習を行うことにより、各繊維の性質を体感するとともに、その現象、原因、理由について物理現象・化学現象の現れであることを理解する。それと同時に初歩的な実験レポートの書き方を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各繊維素材の性質を物理現象・化学現象として説明できる。 思考・判断の観点：身近なものでも、物理現象・化学現象に基づいていることを実感する。 関心・意欲の観点：身の回りに起こる現象について、「なぜ？」という疑問を抱くようにする。 技能・表現の観点：実験指導書で説明している実験器具、測定機器を扱える。 その他の観点：チームワークの方法と技術について、創意工夫を行う。

授業の計画（全体） 繊維の性質を多角的に知るための物理実験および化学実験を毎回1テーマずつ行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 顕微鏡による形態（側面）観察
- 第2回 項目 顕微鏡による形態（断面）観察
- 第3回 項目 繊維の色素に対する反応性試験
- 第4回 項目 繊維の化学薬品に対する反応性試験
- 第5回 項目 繊維の比重測定
- 第6回 項目 糸の番手測定
- 第7回 項目 糸の引張強さと伸びの試験
- 第8回 項目 布の引張強さと伸びの試験
- 第9回 項目 織物組織の観察
- 第10回 項目 糸密度の測定
- 第11回 項目 布の厚さの測定と見かけの比重、含気率
- 第12回 項目 布の剛軟度測定
- 第13回 項目 漂白剤の漂白試験
- 第14回 項目 汚染布の洗浄力試験と洗浄効率
- 第15回 項目 防水剤の加工と防水効果

成績評価方法（総合） 毎回の出席と実験への参加度（積極性）および実験レポートで評価する。レポートの提出期限は毎回翌週の授業開始時刻までとする。

教科書・参考書 教科書：自作テキスト、実験書を配布する。 / 参考書：衣服科学、山崎和彦著、朝倉書店、1997年；被服学辞典、阿部幸子ほか7名編集、朝倉書店、1999年；生活のための衣服簡易実験法、日下部信幸著、家政教育社、1996年；生活のための被服材料学、日下部信幸著、家政教育社、1998年

メッセージ 衣料素材論Ⅰを履修済みであること。衣生活環境論も履修済みであることが望ましい。実験スペースの関係上受講希望者多数の場合、人数制限をすることがあるので初回に必ず出席すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	食品栄養学実験	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、簡単な実験器具や薬品等の取り扱い方など基本的な実験の基礎技術について学習し、ついで各栄養素を題材に、それぞれの生物学的、科学的特性を、実験を通して体得する。さらに、食品衛生的な立場から、微生物に関する実験や食品添加物の検出実験等を行う。 / 検索キーワード 試薬、ガラス器具、栄養素、微生物、顕微鏡、食品添加物

授業の一般目標 1. 基礎的な化学実験・生物学実験の技術を習得する。 2. 各種栄養素の化学的特性や生物学的特性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各実験について、原理までしっかりと理解し、説明できる。 思考・判断の観点：各実験に使われている器具、試薬などについてその役割や意味を説明できる。 関心・意欲の観点：実験を通して栄養学的、食品学的、食品衛生学的興味関心を高める。 態度の観点：それぞれの実験に対して、技術の習得だけでなく、その原理的内容についても把握する。また、他人に対して協調的、建設的態度がとれる。 技能・表現の観点：基礎的な化学実験、生物学実験の技術をマスターし、使用できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業のガイダンス・各種実験器具の取り扱いについて（1）
- 第 2 回 項目 各種実験器具の取り扱いについて（2）
- 第 3 回 項目 糖質について（1）
- 第 4 回 項目 糖質について（2）
- 第 5 回 項目 糖質について（3）
- 第 6 回 項目 タンパク質について（1）
- 第 7 回 項目 タンパク質について（2）
- 第 8 回 項目 脂肪について（1）
- 第 9 回 項目 脂肪について（2）
- 第 10 回 項目 ミネラル・ビタミンについて（1）
- 第 11 回 項目 ミネラル・ビタミンについて（2）
- 第 12 回 項目 微生物（細菌・酵母・カビ）に関する実験（1）
- 第 13 回 項目 微生物（細菌・酵母・カビ）に関する実験（2）
- 第 14 回 項目 食品添加物に関する実験
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：授業用のプリントをまとめた冊子（50ページ）を配布する

メッセージ 実験の科目が少ないので、興味のある者は、積極的に履修して欲しい。特に、卒論で、実験テーマ（食物）を希望する場合は、履修しておくことが望ましい。

開設科目	住居学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住まい、地域空間における住み手の生活や空間の問題について、仮説をたてて調査し、その問題の解決策や生活の仕方、空間のあり方を考察する。

授業の一般目標 まず、生活や空間の問題意識を仮説化する。その仮説を検証するための調査方法を考える。調査結果を整理・分析し、仮説を検証する。その結果についての考察をする。こうした住居調査の手順を理解し、実践できるように指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．各自の演習テーマに関する既習の基本事項や問題について明
 できる。 思考・判断の観点： 1．演習テーマに関する適切な調査方法を指摘できる。 2．調査結果を
 類型化するなどにより分析し、仮説の検証として示すことができる。 関心・意欲の観点： 1．他人
 の調査等についても意見を述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 演習のすすめ方について
- 第 2 回 項目 住生活、地域生活の基本問題とその見方
- 第 3 回 項目 地域空間の特性と基本問題
- 第 4 回 項目 演習例 問題と解決策の考察
- 第 5 回 項目 演習計画の作成と検討
- 第 6 回 項目 基礎調査 資料、情報等の収集（1）
- 第 7 回 項目 基礎調査 資料、情報等の収集（2）
- 第 8 回 項目 基礎調査のまとめ
- 第 9 回 項目 調査票等の作成
- 第 10 回 項目 調査実施（1）
- 第 11 回 項目 調査実施（2）
- 第 12 回 項目 調査結果の分析
- 第 13 回 項目 解決策の考察
- 第 14 回 項目 演習成果の発表
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法（総合） 演習の途中段階での発表と最終のレポートの内容（仮説、分析、考察の適切さ）により評価する。

開設科目	児童文化演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 児童文化財の中から、絵本を中心に取り上げ、絵本の読み聞かせや子どもとのかかわりを考える。 保育および学校現場で使える紙を使った教材の製作を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 児童文化に関する基本的な知識を獲得したか 思考・判断の観点： 幼児にふさわしい文化財を選ぶことができるか 関心・意欲の観点： 児童文化に関する関心・意欲が高まったか 技能・表現の観点： おもちゃの製作ができるか 絵本の読み聞かせができるか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに オリエンテーション 切り紙製作
- 第 2 回 項目 ブーメラン・紙トンボ・ピコピコカプセルの製作
- 第 3 回 項目 折り染め 1
- 第 4 回 項目 折り染め 2
- 第 5 回 項目 絵本クラシック 50
- 第 6 回 項目 林明子の絵本
- 第 7 回 項目 「すてきな 3 にんぐみ」深読みタイム
- 第 8 回 項目 絵本マイセレクト
- 第 9 回 項目 人形劇ステージ鑑賞 1
- 第 10 回 項目 人形劇ステージ鑑賞 2
- 第 11 回 項目 絵本ブックトーク 1
- 第 12 回 項目 絵本ブックトーク 2
- 第 13 回 項目 絵本ブックトーク 3
- 第 14 回 項目 絵本ブックトーク 4
- 第 15 回 項目 まとめ 児童文化の現在

開設科目	調理学実習 II	区分	実験・実習	学年	3 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 調理学実習 I で修得した知識・技術を応用した調理学実習を行う。食品科学で修得した知識を生かして、食品素材の調理性を中心とした調理実習および、家庭でできる加工食品を製造することを目標とする。この調理学実習は、おもに中学校、高等学校の食物の指導をする際に、役立つような内容にしている。 / 検索キーワード 調理学、食物学、調理実習、食品加工

授業の一般目標 1) 調理学実習 I で修得した知識・技術を踏まえた調理技術と知識を習得する。 2) 食品科学で修得した知識を生かして、食品素材の調理性を理解する。 3) 家庭でできる加工食品の技術・知識を習得する。 4) おもに中学校、高等学校の食物の指導に必要な技術・知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 食品の調理特性を理解する 2 身近な加工食品の製造原理を理解する 思考・判断の観点： 1 調理の目的に応じた食材の取り扱いができるようにする。 2 身近な加工食品の製造工程がわかる。 関心・意欲の観点： 1 調理実習を通じて、食品・調理・加工食品への関心を高める。 態度の観点： 1 グループで協力して実習に取り組む 2 実習に積極的に参加する 技能・表現の観点： 1 調理技術を身につける 2 加工食品の技術を身につける その他の観点： 1 安全に留意して実習を行う

授業の計画(全体) 食品素材の調理性を中心とした調理実習および、家庭でできる加工食品の技術・知識を習得することを目的とした調理実習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 調理実習室の使い方、班分け、次回の説明
- 第 2 回 項目 乳・乳製品の加工
- 第 3 回 項目 果実類の加工 (乳製品の加工)
- 第 4 回 項目 献立実習 1 (和風の献立)
- 第 5 回 項目 穀類の加工 1
- 第 6 回 項目 穀類の加工 2
- 第 7 回 項目 献立実習 2 (中国風料理の献立)
- 第 8 回 項目 豆類の加工
- 第 9 回 項目 いも類の加工
- 第 10 回 項目 野菜類の加工
- 第 11 回 項目 肉類の加工、でんぷんの利用
- 第 12 回 項目 調理学実習 3 (洋風料理の献立)
- 第 13 回 項目 調理学実習 4 (油脂の加工)
- 第 14 回 項目 魚介類の加工、大豆製品の加工
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 実習レポート、課題レポート、実習中の態度、出席で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：調理と理論, 山崎清子・島田キミエ他, 同文書院, 2003 年; 手づくり食品大百科, 家の光協会編, 家の光協会, 2002 年; 適宜プリントを配布する

メッセージ 実習費は実費負担です。受講生は最大 20 名まで。家政教育選修、副免許で家庭科を取得する人が優先します。実習の内容や順番は変更します。調理学実習 1 を受講していることが望ましい。授業時間が延長することもあります。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	設計製図	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 家族生活のためのよりよい空間創造の力を養おうとする授業である。住居設計の手順や方法を習得し、想定した家族生活のための住居を構想する。その設計図を作成するとともに、さらに模型で表現する。

授業の一般目標 住居設計の手順や方法を習得し、設定された条件の中で、実際に家族の住居を構想し設計する。さらに模型に表現する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住居設計の手順、方法を実際に使って製図することができる。
2. 各住居空間に求められる条件や必要な広さを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 想定した家族のニーズを必要な空間に置きかえることができる。 技能・表現の観点： 1. 空間や家具などを模型に表現することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 住居設計の課題
- 第 2 回 項目 設計の手順と方法
- 第 3 回 項目 設計図の読み方
- 第 4 回 項目 家族生活の想定
- 第 5 回 項目 配置計画の検討
- 第 6 回 項目 構想図の作成（1）
- 第 7 回 項目 構想図の作成（2）
- 第 8 回 項目 構想図の検討
- 第 9 回 項目 設計図の描き方
- 第 10 回 項目 間取りの設計
- 第 11 回 項目 エクステリアの検討
- 第 12 回 項目 模型の制作について
- 第 13 回 項目 フレームの制作
- 第 14 回 項目 内部の制作
- 第 15 回 項目 インテリアの表現

成績評価方法（総合） 住居の構想が条件に合致しているか、また、どのような家族生活を実現しようとする構想か、を第1の評価点とする。第2には設計図への表現を評価する。そして、模型での表現力をもう一つの評価点とする。

メッセージ 住居の構想を重視する。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保育学 (実習及び家庭看護を含む。)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 幼稚園における幼児の行動理解と保育のあり方について、保育記録に基づいて学ぶ。家庭看護及び小児の救急看護について実習を行う。幼稚園にて、幼児の行動観察・保育実習を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育に関するテキストを読んで、内容を理解したか 思考・判断の観点： 保育参加実習において適切な判断がなされ、行動できたかどうか 関心・意欲の観点： 幼児教育について、意欲や関心が高まったか

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 基本テキストの紹介
- 第 2 回 項目 テキスト演習 1 幼稚園というところ
- 第 3 回 項目 テキスト演習 2 養護教諭の役割
- 第 4 回 項目 テキスト演習 3 3歳児の保育 1
- 第 5 回 項目 テキスト演習 4 3歳児の保育 2
- 第 6 回 項目 テキスト演習 5 4歳児の保育 1
- 第 7 回 項目 テキスト演習 6 5歳児の保育 1
- 第 8 回 項目 家庭看護実習 1
- 第 9 回 項目 家庭看護実習 2
- 第 10 回 項目 幼稚園保育参観 1
- 第 11 回 項目 幼稚園保育参観 2
- 第 12 回 項目 幼稚園保育参加 1
- 第 13 回 項目 幼稚園保育参加 2
- 第 14 回 項目 テキスト演習 7 5歳児の保育
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書： 幼稚園で育つ, 友定啓子他, ミネルヴァ, 2002年

開設科目	生活情報論	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫 友定啓子				

授業の概要 この授業では、家庭科において情報がいかに生活に関わっているかについて理解するとともに専門領域に必要なビジネスソフトの習得および生活における情報の役割と課題について学習する。/
 検索キーワード 生活情報活用 コンピュータ操作

授業の一般目標 インターネットから生活情報を収集し、教材として活用できるとともに word,excel を用いて種々の情報処理ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生活にどのような情報が有用でどこから取得できるかについて web サイトから探し出す。 思考・判断の観点： word,excel を用いて学校現場で効果的な情報処理を考えることができる 技能・表現の観点： word,excel を用いた情報処理の課題を操作できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活と情報
- 第 2 回 項目 家庭生活と情報
- 第 3 回 項目 地域社会と情報
- 第 4 回 項目 生活環境と情報
- 第 5 回 項目 消費生活と情報
- 第 6 回 項目 データベースの 基礎 I
- 第 7 回 項目 データベースの 基礎 II
- 第 8 回 項目 データベースの 基礎 III
- 第 9 回 項目 データベースの 基礎 IV
- 第 10 回 項目 データベースの 基礎 V
- 第 11 回 項目 表計算の基礎
- 第 12 回 項目 グラフ化と Power Point
- 第 13 回 項目 静止画 と Power Point
- 第 14 回 項目 動画と Power Point
- 第 15 回 項目 ネットワーク

成績評価方法（総合） 授業で行う講義に関するレポートや word,excel を用いた課題演習で評価する。出席が 7 割を満たない場合は単位を与えない。

メッセージ コンピュータを活用しよう

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	友定啓子				

授業の概要 毎週1 - 2回のゼミを行い、各自の関心にそって決定したテーマに沿って、研究を行う。

授業の一般目標 各自の関心に基づいて、研究テーマを設定し、それにふさわしい方法を用いて、研究を行う。自分のことばで考え、表現することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに沿った事項について、知識理解が深まる 思考・判断の観点：テーマについて、自分なりの見解を持つ 関心・意欲の観点：テーマについて、関心を持って意欲的に取り組む 技能・表現の観点：研究結果をわかりやすく表現する

授業の計画(全体) 幼児教育、児童文化、家族関係などの分野から、各自のテーマに即して、毎週1 - 2度のゼミを中心に研究を進める。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	入江和夫				

授業の概要 家庭科教育に活用できる研究を行う。 / 検索キーワード 家庭科内容 統計分析 水質分析

授業の一般目標 家族関係に関する調査、分析を行い、その結果を活用した授業構想が組み立てられる。
室内空気汚染、水質汚染に注目し、化学的分析の技能を身につけるとともに家庭科の教材として適用をはかることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：家庭科教育の諸問題を把握できる 思考・判断の観点：どのような研究プロセスによって課題が追求できるか判断できる。

英語教育選修

開設科目	実践英語音声学	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 The purpose of the course is to expand the students' basic repertoire of vocal sounds from those of Japanese to the much wider range of English.

授業の一般目標 The students will be made aware that there is much to learn which was not taught at school, and indeed much to unlearn which was. The reliance on katakana as a means of transcribing English and the tendency to say every sound as though English were phonetically written must be abandoned. New and untaught things such as the glottal stop and unstressed vowels, which make English immeasurably less "foreign", will be practised intensively.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The International Phonetic Alphabet
- 第 2 回 項目 The syllable
- 第 3 回 項目 Schwa, the commonest vowel in English
- 第 4 回 項目 Stress and 'unstress'
- 第 5 回 項目 Rhythm
- 第 6 回 項目 Vowels of stressed syllables
- 第 7 回 項目 English vowels not in Japanese
- 第 8 回 項目 English consonants not in Japanese
- 第 9 回 項目 Phonemic contrasts
- 第 10 回 項目 The glottal stop, a neglected sound
- 第 11 回 項目 Elision
- 第 12 回 項目 Assimilation
- 第 13 回 項目 Rhythm in verse
- 第 14 回 項目 The disappearing /h/
- 第 15 回 項目 Listening for weak syllables

成績評価方法 (総合) Full attendance is required: it is impossible to do this course by private study. The students' progress will be monitored throughout by their making recordings of a given text. A recording of this and of another, new text will form part of the exam. This will also contain an element of listening comprehension.

開設科目	日英対照言語学	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 この授業では、私たちにとっておそらく最も身近な言語である日本語と英語をとりあげ、「ことば」について考察しながら、積極的に探究してゆく（学問する）姿勢を養う。授業は講義形式で進めるが、学生には積極的な幅広い読書・情報収集・教員や友人と議論をすることを求める。

授業の一般目標 日本語と英語を比較しながら、両言語の実態を知る。言語一般についての基本的な考え方を修得する。言語使用の現象を分析し、説明する能力を身につけ、言語への理解を深める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化と言葉（1）
- 第 2 回 項目 文化と言葉（2）
- 第 3 回 項目 音韻体系
- 第 4 回 項目 日本語のカタカナ
- 第 5 回 項目 単語の意味のとらえ方（1）
- 第 6 回 項目 単語の意味のとらえ方（2）
- 第 7 回 項目 時制と相の概念（1）
- 第 8 回 項目 時制と相の概念（2）
- 第 9 回 項目 モダリティの表現（1）
- 第 10 回 項目 モダリティの表現（2）
- 第 11 回 項目 文の意味と発話の意味（1）
- 第 12 回 項目 文の意味と発話の意味（2）
- 第 13 回 項目 発想と表現法（1）
- 第 14 回 項目 発想と表現法（2）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） レポートと期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する / 参考書：授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	?				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	?				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	言語学概論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松谷 緑				

授業の概要 言語を客観的に眺め、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 言語学上の基本概念を理解する。

授業の計画(全体) 言語学の基礎的な諸領域(音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論・認知論など)について概説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語とは何か
- 第 2 回 項目 文法とは何か
- 第 3 回 項目 言語と脳の働き
- 第 4 回 項目 単語(1)
- 第 5 回 項目 単語(2)
- 第 6 回 項目 文の型(1)
- 第 7 回 項目 文の型(2)
- 第 8 回 項目 言語と意味(1)
- 第 9 回 項目 言語と意味(2)
- 第 10 回 項目 言語と音(1)
- 第 11 回 項目 言語と音(2)
- 第 12 回 項目 言語の習得(1)
- 第 13 回 項目 言語の習得(2)
- 第 14 回 項目 言語と人とコンピューター
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートと期末の定期試験の総合評価

教科書・参考書 参考書: An Introduction to Language 7th edition, Fromkin, Rodman, Hyams, Thomson, 2003 年

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学概論 I	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	増田勉				

授業の概要 文学の年代的展開を横軸にとるなら、ジャンル別、作品の内容研究は縦軸にとれよう。この授業では横軸と共に縦軸の展開を重視していく。文学と言語の関係、英米演劇とは何か等、作品研究を重視しつつ、考察していく。 / 検索キーワード 英国史、英文学史、文学ジャンル、文学用語

授業の一般目標 誰が何年に何を書いた、というレベルに止まらず、英米文学についての基礎的知識を得るばかりでなく、実際に作品を鑑賞する力を身につけるばかりでなく、作品の根底にある英米文化の理解に努める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 各時代の歴史的背景と文学的特徴の関連性を理解する 2 . 多様な文学に対する理解を深める。 思考・判断の観点： 思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 関心・意欲の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読めるようにする。 態度の観点： 多くの人名や作品名が登場するので、自ら継続的に学ぶ態度が必要である。 技能・表現の観点： 各時代・文人・作品・文学用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。

授業の計画（全体） 英文が読めないことには作品の理解も鑑賞もできない。講義と同時に演習も行い、指名により、読解、要約を求める。作品で例証しつつ、文学と言語の関係を考察する。その後演劇のテキストによって、演劇の本質等を考察する。 必要に応じてレポート等の宿題を課す。 定期試験を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Literature and Language 歴史的な流れに沿って 授業外指示 文学とは何か、言語との関係はどうか、等考えておく。
- 第 2 回 項目 Literature and Language
- 第 3 回 項目 Literature and Language
- 第 4 回 項目 Literature and Language
- 第 5 回 項目 Literature and Language
- 第 6 回 項目 Literature and Language
- 第 7 回 項目 Drama:Shakespeare 授業外指示 演劇とは何か、を各自考えておく。
- 第 8 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 9 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 10 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 11 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 12 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 13 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 14 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 15 回 項目 前期試験に備えて & 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 出席回数は 2 / 3 以上を求める (1 / 3 を越えた回数欠席した場合は単位を認定しないこともあり得る)。 成績評価は、出席率、授業への貢献度、(レポ - トと) 期末試験の成績等を総合して行なう。

教科書・参考書 教科書： English Literature, L.D.Lerner, Eihosha, 1981 年 / 参考書： 授業中に紹介して行く。

メッセージ 教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。そこからも試験に出題する。また、授業中に教科書の具体ページを参照することがあるので、教科書は毎回持参すること。

開設科目	英米の人と文学 I	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

教科書・参考書 教科書：Bridget Jones's Diary, Helen Fielding, Picador, 2001年

開設科目	オーラル II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted. This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の計画 (全体) See Spoken English I

成績評価方法 (総合) See Spoken English I

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted. This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の計画 (全体) See Spoken English I

成績評価方法 (総合) See Spoken English I

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	ライティング I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 The keynote of this course is grammatical accuracy. Awareness of the contrastive grammar of English and Japanese can do much to alleviate problems of native-language interference in composition. So many areas of English grammar provide these contrasts - articles, plurals, countability, parts of speech and so on - and the students will be continually practised in handling these difficult features. Each week a grammatical topic will be dealt with and students will be expected to submit a short essay (not less than 200 words) demonstrating their grasp of the problem. A lively range of topics will be decided by this continuous assessment and on the basis of a 500-word essay to be submitted at the end of the course.

成績評価方法 (総合) Continuous assessment, レポート

教科書・参考書 教科書：プリント配布, ,

開設科目	異文化学習論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 異文化および異文化理解に関する理論や事象についての講義を行う。適宜受講生による討議・エクササイズを取り入れ、受講生による各事項に関する理解を深める。 / 検索キーワード 国際理解教育、異文化

授業の一般目標 文化および異文化理解に関する基礎的な事項を理解する。理解した事項を実際の社会問題と結びつけて考えることができる。自分自身を客観的に見つめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化理解に関する語句、概念、理論を説明できる 思考・判断の観点：学んだ概念や理論を実際の社会問題に当てはめて考え、自分の意見を述べる ことができる。 関心・意欲の観点：学んだことを自分の日常生活に当てはめて考えることができる。 態度の観点：討議、エクササイズに参加できる 技能・表現の観点：自分の意見をはっきりと論理的に伝えることができる メディアの持つメッセージの意図を見出すことができる

授業の計画(全体) 異文化理解にかかわる様々な用語や概念、理論について、文献や新聞記事、ビデオを用いて解説する。適宜学生によるエクササイズや討議を取り入れ、学生が学んだ内容の理解を深め、自分自身を客観的に見つめることができるように、手がかりを与える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 なぜ異文化学習か 内容 授業全体のオリエンテーションと、文化をめぐる具体的な問題の事例
- 第 2 回 項目 文化とは 内容 前週の事例から、文化とは何かについての理解を深める。
- 第 3 回 項目 文化とは 内容 文化の定義を通して理解を深める。
- 第 4 回 項目 アイデンティティー 内容 民族的なアイデンティティーを中心に、アイデンティティーとは何かを考える
- 第 5 回 項目 クレオル文化 内容 クレオル文化を通して、文化的アイデンティティーの多層性を考える
- 第 6 回 項目 文化相対主義 内容 文化に関する文献を読む。ビデオを使って討論を行う。
- 第 7 回 項目 文化相対主義 内容 前週の続き。
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 文化多元主義 内容 文化多元主義に関する文献を読む
- 第 10 回 項目 エスノセントリズム 内容 エスノセントリズムに関する文献を読む
- 第 11 回 項目 ステレオタイプ 内容 音楽、映画を通してステレオタイプを考える
- 第 12 回 項目 偏見 内容 偏見に関する文献を読む
- 第 13 回 項目 エスニシティー 内容 エスニシティーとは何かを事例を通して考える
- 第 14 回 項目 マイノリティー 内容 マイノリティーの視点から書かれた文献を読む
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 講義の内容についての中間試験および期末のレポートによる

教科書・参考書 教科書：プリント等を用いる / 参考書：多文化・多言語主義の現在, 西川長夫, 他, 人文書院, 2000年; 異文化コミュニケーション教育, 青木順子, 溪水社, 1999年; マルチカルチュラル・オーストラリア, 関根政美, 成文堂, 1996年

メッセージ 参考文献を自主的に読みすすめること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 2階 200 - (1) オフィスアワーは初回授業に伝達

開設科目	比較文化学概論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 文化人類学における異文化理解に対する考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。/ 検索キーワード 文化相対主義

授業の一般目標 異文化理解において、文化相対主義という考え方の重要性を理解し、実践することが目標である。それには、単に異文化を理解するだけではなく、異文化を通して、日本人が当たり前であると考えている自文化の慣習的行為、制度、価値観を相対化するということも含まれている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化人類学の基本的概念、特に文化相対主義を理解する。 思考・判断の観点：自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。 関心・意欲の観点：異文化に関心を持つ。 態度の観点：異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。

授業の計画（全体）最初に文化相対主義を説明し、アフリカのいくつかの民族や現代フランス、近現代の日本の家族、結婚、愛情、性などについて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化人類学入門 文化相対主義 と自民族中心主義 内容 文化相対主義について説明する。
- 第 2 回 項目 文化相対主義の問題点 内容 文化相対主義の問題点、限界について説明する。
- 第 3 回 項目 「血」のつながりとは何か - 親子関係再考 内容 いくつかの民族における親子関係の規定のされ方をとりあげ、親子関係とは何なのかを考えてみる。
- 第 4 回 項目 アカ・ピグミーにおける結婚と家族(1)アカの一生 内容 アフリカ・熱帯雨林に居住する狩猟採集民アカのライフステージを概観する。
- 第 5 回 項目 アカ・ピグミーにおける結婚と家族(2)アカにおける結婚 内容 アカの結婚について説明する。
- 第 6 回 項目 ムプティ・ピグミーにおける結婚 内容 アフリカ・熱帯雨林に居住する狩猟採集民ムプティの結婚、特に姉妹交換婚と婚資婚について説明する。
- 第 7 回 項目 サンにおける結婚と性 内容 アフリカ南部に住む狩猟採集民サンの結婚と愛人関係について説明する。
- 第 8 回 項目 半農半牧民チャムスにおける結婚と性 内容 ケニアに住む半農半牧民チャムスの結婚と愛人関係について説明する。
- 第 9 回 項目 焼畑農耕民ベンバにおける結婚と家族 内容 ザンビアに居住する焼畑農耕民ベンバにおける結婚と家族、およびそれらに対する近代化の影響について説明する。
- 第 10 回 項目 現代フランスにおける結婚と家族(1)男女関係 内容 現代フランスにおける男女関係と結婚について説明する。
- 第 11 回 項目 現代フランスにおける結婚と家族(2)親子関係 内容 現代フランスにおける親子関係、特に複合家族について説明する。
- 第 12 回 項目 日本における家族、結婚、恋愛、性の近現代史1 内容 日本の近現代における結婚の制度的側面について説明する。
- 第 13 回 項目 日本における家族、結婚、恋愛、性の近現代史2 内容 日本の近現代における男女関係、恋愛、性について説明する。
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末レポートと授業中もしくは授業後に毎回課す小レポートに基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5回以上欠席した学生は失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業時には毎回プリントを配布する。 / 参考書：フランス家族事情, 浅野素女, 岩波書店, 1995年; アフリカ女性の民族誌, 和田正平編, 明石書店, 1996年; ヒトの自然誌, 田中二郎・掛谷誠編, 平凡社, 1991年; 性の人類学, 高畑由起夫編, 世界思想社, 1994年; ニサ カラハリの女の物語り, マージョリー・ショスタック, リプロポート, 1994年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 オフィスアワー 随時

開設科目	言語学概論 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 言語を客観的に観察し、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 言語学上の基本概念を確認し、社会における言語の在り方についても理解を深める。

授業の計画(全体) 言語学概論 I で扱われた知識を基礎として、言語習得、社会言語学、言語変化、言語と文体等のテーマについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語を分析する
- 第 2 回 項目 言語の習得(1)
- 第 3 回 項目 言語の習得(2)
- 第 4 回 項目 言語と人とコンピュータ(1)
- 第 5 回 項目 言語と人とコンピュータ(1)
- 第 6 回 項目 言語と社会(1)
- 第 7 回 項目 言語と社会(2)
- 第 8 回 項目 言語と社会(3)
- 第 9 回 項目 言語の変化(1)
- 第 10 回 項目 言語の変化(2)
- 第 11 回 項目 言語の変化(3)
- 第 12 回 項目 言語と表現法(1)
- 第 13 回 項目 言語と表現法(2)
- 第 14 回 項目 言語と表現法(3)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートと期末の定期試験の総合評価

教科書・参考書 参考書: An Introduction to Language, 7th edition, Fromkin, Rodman, Hyams, Thomson, 2003 年

メッセージ 言語学概論 I を履修していることが好ましい。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英文法演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 この授業では、英文法の個別の問題ではなく、基礎的かつ全体的な演習を行う。

授業の一般目標 現代英語における基本的な言語事実を観察し、英語文法の構造全体を体系的に考察し、正用法を確実に習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英文法の基礎を確実にする。 思考・判断の観点：基礎をてこに応用力を身につける。 関心・意欲の観点：英文法の基礎について理解を深め、より高度な英文法への関心を涵養する。 態度の観点：積極的に授業に参加する。 技能・表現の観点：英語のコミュニケーション能力を育成する。

授業の計画（全体） 授業ごとに英文法の各単元について学び、自習に小テストを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概説/第 1 回演習 内容 名詞：複数と単数 授業外指示 授業中に指示。
- 第 2 回 項目 第 2 回演習 内容 冠詞 授業外指示 授業中に指示。
- 第 3 回 項目 第 3 回演習 内容 代名詞 授業外指示 授業中に指示。
- 第 4 回 項目 第 4 回演習 内容 否定と疑問 授業外指示 授業中に指示。
- 第 5 回 項目 第 5 回演習 内容 時制 授業外指示 授業中に指示。
- 第 6 回 項目 第 6 回演習 内容 進行形と完了形 授業外指示 授業中に指示。
- 第 7 回 項目 第 7 回演習 内容 小試験 授業外指示 授業中に指示。
- 第 8 回 項目 第 8 回演習 内容 未来の表現 授業外指示 授業中に指示。
- 第 9 回 項目 第 9 回演習 内容 不定詞・動名詞 授業外指示 授業中に指示。
- 第 10 回 項目 第 1 0 回演習 内容 形容詞と分詞 授業外指示 授業中に指示。
- 第 11 回 項目 第 1 1 回演習 内容 比較 授業外指示 授業中に指示。
- 第 12 回 項目 第 1 2 回演習 内容 受動態 授業外指示 授業中に指示。
- 第 13 回 項目 第 1 3 回演習 内容 前置詞 授業外指示 授業中に指示。
- 第 14 回 項目 第 1 4 回演習 内容 その他 授業外指示 授業中に指示。
- 第 15 回 項目 第 1 5 回演習 内容 小試験 授業外指示 授業中に指示。

成績評価方法（総合） 授業への取り組みと、小テストにより評価を行う。詳しくは最初の授業で説明する。

教科書・参考書 教科書：最初の授業で指示する。

開設科目	英米文学概論 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	増田勉				

授業の概要 英米文学概論 I に続き、英米小説とは何か、文学と社会の関係、英米詩とは何か、等作品に触れつつ、考察していく。 / 検索キーワード 英米文学史、文学ジャンル、文学用語

授業の一般目標 英米小説等についての基礎的知識を得るばかりでなく、作品を鑑賞する力を養うばかりでなく、作品の根底にある英米文化の理解に努める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 文学の背景と文学的特徴の関連性を理解する 2 . 多様な文学に対する理解を深める。 思考・判断の観点： 思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 関心・意欲の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読み、関心を深めるようにする。 態度の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読めるようにする。 技能・表現の観点： 各時代・文人・作品・文学用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。

授業の計画（全体） 英文が読めないことには作品の理解も鑑賞も出来ない。講義と同時に演習も行い、指名により読解、要約を求める。作品で例証しつつ、英米小説の本質等を考察し、その後文学と社会の関係、時間的に可能なら、英米詩について考察していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The Novel 内容 英米小説とは何か。以下同じ。
- 第 2 回 項目 The Novel
- 第 3 回 項目 The Novel
- 第 4 回 項目 The Novel
- 第 5 回 項目 The Novel
- 第 6 回 項目 The Novel
- 第 7 回 項目 The Novel
- 第 8 回 項目 The Novel
- 第 9 回 項目 The Novel
- 第 10 回 項目 The Novel
- 第 11 回 項目 Literature and Society 内容 文学と社会の関係を考察 以下同じ。
- 第 12 回 項目 Literature and Society
- 第 13 回 項目 Literature and Society
- 第 14 回 項目 Literature and Society
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 出席回数は 2 / 3 以上を求める (1 / 3 を越えた回数欠席した場合は単位を認定しないこともあり得る)。 成績評価は、出席率、授業への貢献度、レポートと期末試験の成績等を総合して行なう。

教科書・参考書 教科書 : English Literature, L.D.Lerner, Eihosha, 1981 年 / 参考書 : 授業中に紹介して行く。

開設科目	英米の人と文学 II	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

教科書・参考書 教科書：Pygmalion, George Bernard Shaw, Penguin Classics, 2003年

開設科目	オーラル III	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 The process continues and concludes. In this last stage, departures will sometimes be made from the text, and students will be required to talk to the class in ones and twos. They will now be encouraged to be freer and less passive in their mode of expression, generating dialogue independently. The emphasis, as before, will be on class-participation, grammatical accuracy, the honing of pronunciation-skills, and of course communication. Note: Oral I, II, and III form a unit, and must be taken and passed one after the other and in that order. This is especially germane to 4th-year students, who will not be permitted to pick up any missed credit-units here, unless they already have the appropriate credit(s) from within the series. Thus, Oral II cannot be taken unless Oral I has been passed; Oral III cannot be taken unless Oral I and Oral II have both previously been passed.

教科書・参考書 教科書： to be announced, ,

開設科目	オーラル III	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	LESAGEDAVID				

授業の概要 The process continues and concludes. In this last stage, departures will sometimes be made from the text, and students will be required to talk to the class in ones and twos. They will now be encouraged to be freer and less passive in their mode of expression, generating dialogue independently. The emphasis, as before, will be on class-participation, grammatical accuracy, the honing of pronunciation-skills, and of course communication. Note: Oral I, II, and III form a unit, and must be taken and passed one after the other and in that order. This is especially germane to 4th-year students, who will not be permitted to pick up any missed credit-units here, unless they already have the appropriate credit(s) from within the series. Thus, Oral II cannot be taken unless Oral I has been passed; Oral III cannot be taken unless Oral I and Oral II have both previously been passed.

教科書・参考書 教科書： to be announced, ,

開設科目	ライティング II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 Preliminary requirement: the successful completion of **ライティング I**. This course builds upon **ライティング I** and may only be taken after the latter course has been completed and passed. Here again, grammatical accuracy will not be lost sight of, and several additional contrastive topics will be introduced. However, students at this stage will also be expected to develop stylistic skills and to try their hand at various different types of writing designed to expand their repertoire - letter-writing, precis, reports, instructions, narrative and so on. AS with **ライティング I**, students will be expected to produce weekly essays which will provide the basis for their continuous assessment, plus a 500-word final essay both of which will serve to determine their examination-grade.

成績評価方法 (総合) Continuous assessment, レポート

教科書・参考書 教科書：プリント配布, ,

開設科目	英語史 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 English is not an isolated phenomenon: it arises from the context of the Indo-European past, Germanic Europe of the Dark Ages, a fusion of tongues in the Early and High Middle Ages, and the emergence of figures of genius from that time onwards. The spread of English round the world arises first and foremost from English colonial ambitions. These and many other things will be examined.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 English in its world context.
- 第 2 回 項目 The migration of the peoples.
- 第 3 回 項目 English as a Germanic language.
- 第 4 回 項目 What is an inflected language?
- 第 5 回 項目 How inflexions are lost.
- 第 6 回 項目 English in its earliest attested forms.
- 第 7 回 項目 Politics, economics and language in the AS/Norman world.
- 第 8 回 項目 English becomes a 'mixed' language.
- 第 9 回 項目 Loan words versus foreign words.
- 第 10 回 項目 Later English.
- 第 11 回 項目 True 国際化.
- 第 12 回 項目 Modern English vocabulary.
- 第 13 回 項目 Native speaker attitudes.
- 第 14 回 項目 Global English.
- 第 15 回 項目 Where to now?

開設科目	英米文学講義 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 ヴィクトリア朝中流階級の女性に唯一開かれていた職業ガバネス (女家庭教師) について学ぶ
 / 検索キーワード ヴィクトリア朝イギリス

授業の一般目標 ヴィクトリア朝の文化と社会についての知識を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ヴィクトリア朝の女性の社会的立場について理解する 関心・意欲の観点: ヴィクトリア朝のガバネスを扱った作品を読む 技能・表現の観点: 理解した内容をレポートする

授業の計画 (全体) 毎回分担を決めて精読し、担当者作成のハンドアウトに基づいて授業をすすめる

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Chapter 1 内容 授業のやり方の説明
- 第 2 回 項目 Chapter 1 内容 発表
- 第 3 回 項目 Chapter 1 内容 発表
- 第 4 回 項目 Chapter 2 内容 発表
- 第 5 回 項目 Chapter 2 内容 発表
- 第 6 回 項目 Chapter 2 内容 発表
- 第 7 回 項目 Chapter 3 内容 発表
- 第 8 回 項目 Chapter 3 内容 発表
- 第 9 回 項目 Chapter 3 内容 発表
- 第 10 回 項目 Chapter 3 内容 発表
- 第 11 回 項目 Chapter 4 内容 発表
- 第 12 回 項目 Chapter 4 内容 発表
- 第 13 回 項目 Chapter 4 内容 発表
- 第 14 回 項目 Chapter 4 内容 発表
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 発表

成績評価方法 (総合) 試験による

教科書・参考書 教科書: The Victorian Governess, Kyathryn Hughes, Hambledon, 2002 年

メッセージ 英語は難しいが、読み応えがある。意欲のある受講者歓迎

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英語文化と言語	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 This is a course about things that are not found in school textbooks, things that arise from that close bond between language and society, language and geography, language and nationality - in short language and culture which informs the way we speak and think. That bond exists in all linguistic communities, but for English it exists in differing forms throughout several enormously diverse societies. Because of this vast diversity, the course has to be highly selective. Specifically, the topics covered include the contrast between American and British English, Cockney and its offshoot in Australia, class and language in Britain, slang, taboo-language, euphemism, dysphemism and the relatively recent phenomenon of politically correct language. Geography, history, society, humour are all explored in their relation to the language.

成績評価方法 (総合) レポート

教科書・参考書 教科書：プリント配布

開設科目	英文法演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷 緑				

授業の概要 文レベルの英文法の基本的事項と用語の知識を確認しながら、更に、談話や社会言語学的視点を踏まえた上での文法の機能についても考察する。授業は参加者の発表による演習形式で進める。

授業の一般目標 文レベルの英文法の基本的事項と用語の知識を確認する。談話や社会言語学的視点を踏まえた上での英文法の機能を理解し、実践に添った英文法の活用ができるようになる。談話や社会言語学的視点を踏まえた上での英文法の機能を理解し、それを実践に添った英文法の指導に活かすことができるようになる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 演習 (14)

成績評価方法 (総合) 授業の出席状況、レポート、期末の定期試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学講義 II	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ 技能・表現の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Chapter 5 内容 発表
- 第 2 回 項目 Chapter 5 内容 発表
- 第 3 回 項目 Chapter 5 内容 発表
- 第 4 回 項目 Chapter 6 内容 発表
- 第 5 回 項目 Chapter 6 内容 発表
- 第 6 回 項目 Chapter 6 内容 発表
- 第 7 回 項目 Chapter 7 内容 発表
- 第 8 回 項目 Chapter 7 内容 発表
- 第 9 回 項目 Chapter 7 内容 発表
- 第 10 回 項目 Chapter 7 内容 発表
- 第 11 回 項目 Chapter 8 内容 発表
- 第 12 回 項目 Chapter 8 内容 発表
- 第 13 回 項目 Chapter 9 内容 発表
- 第 14 回 項目 1つ作品を選び発表 内容 発表
- 第 15 回 項目 1つ作品を選び発表 内容 発表

成績評価方法（総合）試験による

教科書・参考書 教科書：前期と同じ，，

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英語史 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 英語を通時的に考察する。音韻、形態、語彙、統語法、意味の各々について、英語がどのように変化して今日の状態になったのかを通覧する。諸々の規則の説明は、できるだけ原典テキストの読解を通して行う。 / 検索キーワード 言語変化、言語接触、文字と音声、屈折変化、語順、意味推移

授業の一般目標 本授業を通して、英語を通時的な観点から調査し、分析し、説明することができるようになり、現代英語の知識を深化・拡充する、一つの学習方略にすることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の変異がなぜまたどのように起こったかを、言語外面史と内面史を関連付けて、説明・叙述することだできる。 思考・判断の観点：英語の変異を体系的に分類し、音、形態、語彙、統語等に応じて、それぞれがどのような要因から推移したか、その原理・原則を把握することができる。 関心・意欲の観点：英語がなぜ国際語といえる状況になったかを、ビデオなどの視覚教材を通して、その成立の背景が知りたいとおもうようになる。 態度の観点：英語の変異に関するプロジェクトを、班毎に情報収集し、協議し、まとめる。 技能・表現の観点：班毎のプロジェクトを、論理的にかつわかりやすく口頭発表し、質問に対して適切に答えることができるようになる。

授業の計画（全体） まず英語の変異の外面史と内面史を概観し、大きな流れを掴んだところで、時代（OE, ME, ModE）ごとまた言語体系（音声、形態、語彙、統語など）ごとに、変異の実態を講義・演習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 内容 目的と方法 < BR > プリテスト 授業外指示 プリテストの解答
- 第 2 回 項目 外面史 内容 社会事変と言語変化
- 第 3 回 項目 音声変化 内容 母音・子音変化
- 第 4 回 項目 文字と発音 内容 文字と発音のギャップの拡大 授業外指示 現代英語の文字と発音のギャップを調査する。
- 第 5 回 項目 語形変化：名詞、冠詞、形容詞 内容 屈折語尾の縮小
- 第 6 回 項目 語形変化：動詞 内容 屈折語尾の縮小
- 第 7 回 項目 語彙の拡充：ゲルマン語・古スカンジナビア語 内容 本来語系の語彙の特徴
- 第 8 回 項目 語彙：ロマンス語 内容 語彙の拡大 授業外指示 Chaucer テキスト (GP) の本来語とロマンス語の頻度を調査する。
- 第 9 回 項目 統語法の変化：語順 内容 屈折語尾の消失と語順の確立
- 第 10 回 項目 統語法の変化：時制・相・法 内容 文法形式の整備
- 第 11 回 項目 意味変化 内容 語の多義性のメカニズム 授業外指示 メタファーとメトニミーの推論方法を明らかにする。
- 第 12 回 項目 言語の標準化と史的語用論 内容 標準語の確立と方言の分化
- 第 13 回 項目 作品講読：OE, ME 内容 時代別のテキスト分析
- 第 14 回 項目 作品講読：Early ModE 内容 時代別のテキスト分析 授業外指示 Shakespeare と聖書の言語の分析
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 英語の変異に関する知識の評価

成績評価方法（総合） 期末試験（60%）知識・理解、思考・判断 レポート（20%）知識・理解、思考・判断、技能・表現 出席状況（20%）関心・意欲

教科書・参考書 教科書：The English Language, David Crystal, Pnguin Books, 1988 年 / 参考書：From Etymology to Pragmatics, Eve Sweetser, Cambridge University Press, 1990 年；英語発達史, 中尾俊夫, 篠崎書林, 1979 年；A History of the English Language, A.C. Baugh and T. Cable, Routledge, 1993 年

メッセージ 英語史の授業は、現実のコミュニケーションの要請からは大きく離れていると感じるかもしれませんが。しかし言語理解を豊かにするためには、この観点は不可欠なものです。一度は「かじって」おくべきものです。

備考 集中授業

開設科目	英米文学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 Virginia woolf の評論を読む / 検索キーワード Virginia Woolf

授業の一般目標 批評的エッセイを読むことに慣れる 女性作家が男性作家と同等に評価されるまでの困難を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 女性作家に与えられてきた差別と女性作家たちが男性作家と同等の地位、評価を獲得するまでの過程を理解する 技能・表現の観点： 理解した内容をレポートする

授業の計画（全体） 毎回担当者を決めて精読し、担当者作成のハンドアウトに基づいて授業をすすめる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction 内容 授業のすすめ方の説明
- 第 2 回 項目 Chapter 1 内容 発表 ディスカッション
- 第 3 回 項目 Chapter 1 内容 発表 ディスカッション
- 第 4 回 項目 Chapter 2 内容 発表 ディスカッション
- 第 5 回 項目 Chapter 2 内容 発表 ディスカッション
- 第 6 回 項目 Chapter 3 内容 発表 ディスカッション
- 第 7 回 項目 Chapter 3 内容 発表 ディスカッション
- 第 8 回 項目 Chapter 4 内容 発表 ディスカッション
- 第 9 回 項目 Chapter 4 内容 発表 ディスカッション
- 第 10 回 項目 Chapter 5 内容 発表 ディスカッション
- 第 11 回 項目 Chapter 5 内容 発表 ディスカッション
- 第 12 回 項目 Chapter 6 内容 発表 ディスカッション
- 第 13 回 項目 Chapter 6 内容 発表 ディスカッション
- 第 14 回 項目 予備日 内容 発表 ディスカッション
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 発表 ディスカッション

成績評価方法（総合） 授業中の発表+ディスカッション+試験

教科書・参考書 教科書： A Room of One's Own, Virginia Woolf, Penguin, 1993 年 / 参考書： 授業中に指示

メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をハンドアウトにして出席者に配る ディスカッションでは積極的に発言すること。

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英語学演習 I	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松谷 緑				

授業の概要 この授業では、英語学の諸分野のうち意味論と語用論に関わる現象、とくに意味変化の現象を扱う。意味変化というと古い時代のテキストの研究と受け取られがちだが、現代英語の中にも意味変化について学ぶところは大きい。したがって、この授業では、英語史と現代英語というふたつの視点から、意味変化とはどのようなパタンで、またどのような理由で起こるかを文献の講読をつうじて考えていきたい。

授業の一般目標 (1) 英語学上の諸概念について学習する。(2) 英語学に関する文献を英語で読解することによって、英語力をも涵養することを目標としている。(3) 英語という言語についても理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 意味論と語用論の諸概念について十分な知識と理解ができること。

思考・判断の観点： この授業で学習した事柄をもとに言語現象の分析ができること。 関心・意欲の

観点： 積極的に授業や課題に取り組み、英語学や英語に関心をもてること。 態度の観点： 課された課題をきちんとクリアすること。 技能・表現の観点： 演習におけるプレゼンテーションができ、適切な

レポートを書くことができること。

授業の計画(全体) 授業は基本的にテキストにそって行うが、必要であれば、他の資料などを用いて内容を補足する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 演習 (14)

成績評価方法(総合) 期末レポート、授業時に行う発表および出席状況による総合評価

教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー m-maeda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学演習 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 Louisa May Alcott, Little Women を読む / 検索キーワード アメリカ家庭小説

授業の一般目標 語彙習得 読解力向上

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 4 姉妹 (メグ、ジョー、ベス、エミリー) の性格の違いと家庭環境を理解する 思考・判断の観点： アメリカのピューリタニズムを知る 技能・表現の観点： 理解した内容をレポートする

授業の計画 (全体) 1 回の授業で 1 章を読む、担当者は分担箇所の人物関係とストーリーの概略、面白いと思った点などを発表し、それに基づきディスカッションする

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Chapter 1 内容 授業のやり方の説明
- 第 2 回 項目 Chapter 2 内容 発表
- 第 3 回 項目 Chapter 3 内容 発表
- 第 4 回 項目 Chapter 4 内容 発表
- 第 5 回 項目 Chapter 5 内容 発表
- 第 6 回 項目 Chapter 6 内容 発表
- 第 7 回 項目 Chapter 7 内容 発表
- 第 8 回 項目 Chapter 8 内容 発表
- 第 9 回 項目 Chapter 9 内容 発表
- 第 10 回 項目 Chapter 10 内容 発表
- 第 11 回 項目 Chapter 11 内容 発表
- 第 12 回 項目 Chapter 12 内容 発表
- 第 13 回 項目 Chapter 13 内容 発表
- 第 14 回 項目 Chapter 14 内容 発表
- 第 15 回 項目 Chapter 15 内容 発表 授業外指示 残りの箇所は自分で読む

成績評価方法 (総合) 授業中の発表+ディスカッション+試験

教科書・参考書 教科書： Little Women, Louisa May Alcott, Norton, 2003 年

メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をレジュメにして出席者に配る ディスカッションでは積極的に発言すること。

連絡先・オフィスアワー akitagei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英語学演習 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷 緑				

授業の概要 英語学上のトピックをとりあげ、理論・実践の両面から考察を行う。音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論、さらに社会言語学等の視点から、英文を組み立てる諸規則について学習する。演習形式で授業を行う。

授業の一般目標 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえた演習を通して、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

授業の計画(全体) 言語学・英語学上のトピックについて、文献を読む。演習形式で授業を進める。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 演習
- 第 3 回 項目 演習
- 第 4 回 項目 演習
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 演習
- 第 8 回 項目 演習
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 演習
- 第 11 回 項目 演習
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 演習
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 授業における演習と期末のレポートで総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 ・個別テーマに関する文献を読む ・個別テーマに関する討議、 ・卒論の構成や(実験等を行う場合)調査の実施方法等に関するアドバイス等

授業の一般目標 英語教育のテーマに関する文献調査能力、調査や実験の企画・実施及び分析能力を身につける。また、論理的な論文執筆能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文で取り上げる英語教育の研究テーマに関係する基本的な知識を身につけている。 思考・判断の観点：論理的で、分かりやすい論文を書くことが出来る。 関心・意欲の観点：先行研究や調査等において意欲的に取り組む。 態度の観点：これまで、明らかになっていなかった点を探求しようとし、得られた知見を今後の英語教育に応用しようとする態度を持つ。 技能・表現の観点：論理的で、分かりやすい論文を書くことが出来る。また、必要な調査や実験を実施するために必要な技能を持つ。

授業の計画(全体) 英語教育のテーマに関する文献調査を行う。また、調査や実験の結果に基づいて、論理的で分かりやすい論文の執筆を行う。

成績評価方法(総合) 論文の内容によって評価を行う。出席は、欠格条件である。

メッセージ 卒論で扱うテーマ：*当然ながら、「英語教育」に関係する領域であること *具体的には、リーディング指導、リスニング指導、ライティング指導、文法指導、評価(テスト)、児童英語教育、その他周辺領域(談話分析、コーパス研究、心理言語学、言語心理学に関係する領域) <これ以外の領域に関しては、事前に相談して下さい。>

連絡先・オフィスアワー 933-5421(研究室) bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松谷緑				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、先行研究の検討・調査の仕方・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、論文を完成させる。言語学一般、英語の歴史や構造、意味と文体などについての基礎知識を確認するとともに、さまざまな言語現象について、詳細に観察し、正しく分析する力を養う。英語教師として必要な英語の実力を培うことを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 態度の観点：研究のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 言語学・英語学に関わるテーマ、文法 / 文体に関するもの、社会言語学、認知言語学などの分野のテーマを取り上げる予定である。日本語と英語を対照させつつ両者の相違についても考察する。前期は毎回何かひとつテーマを定め、それに関する文献を読み、レポートしてもらおう。それをもとに考察・意見交換を行う。テーマによっては数回にわたって取り上げ、理解を深めたい。資料についてはその都度指示する。後期には卒業研究を論文の形にまとめていく具体的な作業を行う。

成績評価方法(総合) 研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視する。研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。得られた研究成果が卒業論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としてのまとめ方、ゼミや発表会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて卒業論文を書くために必要な指導を行う。(受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。)/検索キーワード 英語教育研究

授業の一般目標 論文の書き方についての初歩的な事項を理解した上で、各自のテーマとなる分野の文献購読を進め、卒業論文を書くための活動を行う。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1.論文の書き方についての初歩的な事項を理解している。 2.テーマに沿った基本的な知識を身につけている。 思考・判断の観点: 1.自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点: 1.問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2.自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点: 1.他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点: 1.発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

授業の計画(全体) 前期は各自興味のある分野の文献の内容についてまとめたものを発表し、メンバー全員で討議する。後期は個別指導を基本とし、各自のテーマに沿って執筆をすすめ、論文を完成させる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 卒業研究の心得 内容 卒業研究の基本的な心構えを確認し、利用できるツールなどを紹介する。
- 第2回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第3回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第4回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第5回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第6回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第7回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第8回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第9回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第10回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第11回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第12回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第13回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第14回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第15回 項目 研究テーマのしぼりこみに向けた勉強会 内容 各自興味のあるテーマに沿った発表と討議
- 第16回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第17回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第18回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第19回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第20回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第21回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第22回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第23回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第24回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第25回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第26回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第27回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。
- 第28回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。

第 29 回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。

第 30 回 項目 個別指導 内容 テーマに応じた相談・執筆活動を支援する。

成績評価方法 (総合) ゼミへの参加状況、仕上がった論文について評価する。

メッセージ 一度、研究室のはり紙を見て相談に来てください。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	武井暁子				

授業の概要 卒論作成に必要な指導をする

授業の一般目標 卒論完了と学士号取得

授業の計画(全体) アポイントによる指導を行う 原則として1回60分

メッセージ イギリス小説で論文を書く学生は特に歓迎する

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp アポイントメントを必ず取る

幼児教育コース

開設科目	幼児教育基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	原昭徳				

授業の概要 幼稚園教師になるための要件や幼児教育の基礎概念、保育思想の歴史や幼児教育を支える理論を紹介する

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「先生になるには」(幼稚園教諭、保育所保母)
- 第 2 回 項目 幼児教育施設の起源と発想（オーエンの保育園とフレーベルの幼稚園）
- 第 3 回 項目 幼児教育を拓いた人々（関信三、豊田英雄、倉橋惣三など）
- 第 4 回 項目 幼稚園と保育所
- 第 5 回 項目 幼稚園教育要領の変遷と幼稚園教育の実態
- 第 6 回 項目 幼稚園設置基準と幼稚園の施設設備
- 第 7 回 項目 幼稚園指導要録の意義と記入の実際
- 第 8 回 項目 幼児と接するということ
- 第 9 回 項目 戸外活動（散歩）の教育的意義
- 第 10 回 項目 幼稚園教諭、園長の役割と仕事内容
- 第 11 回 項目 幼稚園から小学校へ
- 第 12 回 項目 幼稚園の運営と研修
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： マー君の散歩道, 桑原昭徳, ミネルヴァ書房 / 参考書： 幼稚園教育要領解説, 文部科学省,

開設科目	保育内容基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村田陽子				

授業の概要 子どもの発達を捉える窓口としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の理解と、5領域の保育内容を総合的に捉え、相互の関係性についても理解し、保育内容の基礎的知識を得る。また、実際の保育・教育現場で保育内容を生かす力を身につけ、更に教育課程の理解と指導計画などについても学ぶ。 / 検索キーワード 基礎 保育内容

授業の一般目標 幼稚園教育要領・保育所保育指針を基に保育者養成に必要な「保育内容」及び「保育方法論」の基礎的概念を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育の全体構造や保育内容の構造化と総合性の理解 思考・判断の観点： 事例を通して、「総合的な保育」そのもの、保育者の役割と専門性についての力を身につける。

関心・意欲の観点： 幼児の特性を理解し、特性に合った教育の在り方や方法に関心を寄せ、意欲的に学ぶ。 態度の観点： 意欲的な態度で授業に臨む。プリントやテキストなどに目を通し、自ら学ぶ。

技能・表現の観点： 指あそびや折り紙、あやとりなどの基礎的技能を身につける。

授業の計画（全体） 保育や保育の全体構造を理解する。また保育内容の5領域や構造化も理解した上で、事例を通すなどして発達の理解、保育内容の総合的な捉えを行い、保育内容についての理論と実践的理解を深めるなど、保育内容を総論的に捉える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション（音楽リズム表現）内容・授業概要・受講の心得・（指あそびをする）
- 第 2 回 項目 保育の捉え（音楽リズム表現）内容・幼稚園・保育所の全体構造の捉え・保育とは・（指あそびをする）
- 第 3 回 項目 保育内容（造形表現）内容・保育内容の意味・保育内容（5領域）の構造化の理解・（折り紙で作る）
- 第 4 回 項目 保育内容の総合的把握（造形表現）内容・実践事例を通して、保育が総合的であることを捉える・（折り紙で作る）
- 第 5 回 項目・成長発達の基本的な考え方（造形表現）内容・発達の捉え方・発達の過程・発達課題・（あやとりをする< BR >）
- 第 6 回 項目・子どもの発達と生活（造形表現）内容・子どもの生活と遊び・家庭における子どもの生活・地域社会における子どもの生活・園生活における子どもの生活・（折り紙で作る）
- 第 7 回 項目 保育内容の変遷（造形表現）内容・戦前・戦後の保育内容と現在の保育内容の理解< BR >・（折り紙で作る）
- 第 8 回 項目 保育の特質（音楽リズム表現）内容・生きる力の基礎を培う乳幼児期の保育・（指あそびをする）
- 第 9 回 項目 保育の特質（造形表現）内容・「幼稚園教育要領」より幼稚園教育の特質を学ぶ・「保育所保育指針」より保育所保育の特質を学ぶ・（折り紙で作る）
- 第 10 回 項目 保育者の役割（造形表現）内容・3歳児未満、3歳、4歳、5歳の生活の姿からの保育者の役割・（折り紙で作る）
- 第 11 回 項目 保育内容と保育計画（音楽リズム表現）内容・保育における計画・指導計画の考え方・（指あそびをする）
- 第 12 回 項目 保育内容と保育計画（造形表現）内容・具体的な指導計画・（折り紙で作る）
- 第 13 回 項目 保育内容の展開（音楽リズム表現）内容・保育の指導の方法と保育の展開・（指あそびをする）
- 第 14 回 項目 保育内容の展開（音楽リズム表現）内容・保育者のかかわりと援助・（指あそびをする）
- 第 15 回 項目 後期末定期試験 内容 保育実践の場に於ける基礎的な、保育者としての資質を問う

成績評価方法 (総合) 出席日数、授業態度、試験の総合評価で行う。

教科書・参考書 教科書：幼稚園教育要領(平成10年12月), 文部科学省, 大蔵省, 1998年; 保育所保育指針(平成11年度版), 厚生省, フレーベル館, 1999年; 子どもの心を支える 保育力とは何か, 村田陽子/友定啓子, 勁草書房, 1999年

開設科目	保育内容人間関係	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 保育内容として領域「人間関係」が位置づけられている今日的意味・意義を理解し、保育活動における「人間関係」の内容と方法について概説する。 / 検索キーワード 幼児、保育内容、人間関係

授業の一般目標 保育内容「人間関係」の内容について理解する。 幼児教育における今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育内容「人間関係」に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点： 集団での議論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 レジュメ
- 第 2 回 項目 領域「人間関係」のねらい・内容について（1） 授業記録 レジュメ
- 第 3 回 項目 領域「人間関係」のねらい・内容について（2） 授業記録 レジュメ
- 第 4 回 項目 領域「人間関係」のねらい・内容について（3） 授業記録 レジュメ
- 第 5 回 項目 乳幼児期における母子関係の重要性（1） 授業記録 レジュメ
- 第 6 回 項目 乳幼児期における母子関係の重要性（2） 授業記録 レジュメ
- 第 7 回 項目 幼稚園における子ども同士の関係（1） 授業記録 レジュメ
- 第 8 回 項目 幼稚園における子ども同士の関係（2） 授業記録 レジュメ
- 第 9 回 項目 幼稚園における保育者との関係（1） 授業記録 レジュメ
- 第 10 回 項目 幼稚園における保育者との関係（2） 授業記録 レジュメ
- 第 11 回 項目 乳幼児における地域との関係（1） 授業記録 レジュメ
- 第 12 回 項目 乳幼児における地域との関係（2） 授業記録 レジュメ
- 第 13 回 項目 領域「人間関係」と他領域との関係（1） 授業記録 レジュメ
- 第 14 回 項目 領域「人間関係」と他領域との関係（2） 授業記録 レジュメ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 乳幼児期の人間関係を学習することを通して、自分自身の人間関係の再確認するとともにその大切さを実感してほしい。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4F(404室)白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	保育内容環境	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村田 陽子				

授業の概要 保育内容「環境」は、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を育てる、という観点からその内容や方法を学ぶ。 / 検索キーワード 保育内容、環境

授業の一般目標 現場で実践できる保育者としての知識や能力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育内容「環境」についての知識と理解を得る。 思考・判断の観点： 実践事例から子どもの興味関心などを引き出す方法について思考し、実践に於ける判断能力を培う。 関心・意欲の観点： 子どもの身近な環境について関心を寄せ、意欲的に取り組み学ぶ。 態度の観点： 1. 意欲的な態度で授業に臨む。 2. プリントに目を通し、自ら学ぶ。

授業の計画(全体) 幼稚園教育要領に於ける領域「環境」・保育内容としての「環境」について理解し、子どもが成長発達していくために「環境」を如何に取り入れ、指導していけばよいのかを具体的な実践事例を通して学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要 受講の心得
- 第 2 回 項目 保育内容「環境」の捉えや幼児理解、幼児の育ち 内容 保育内容「環境」領域の意義や環境を通しての保育について
- 第 3 回 項目 保育内容「環境」の捉えや幼児理解、幼児の育ち 内容 身近な環境へのかかわりの中で何が育つのか。そこでの保育者の役割は何か。
- 第 4 回 項目 好奇心・探究心を育てる保育 内容 好奇心・探究心の意味や内発的動機づけについて
好奇心・探究心を育てる要因について 数量・図形・文字・標識の認識について
- 第 5 回 項目 好奇心・探究心を育てる保育 内容 好奇心・探究心について保育実践事例を通して学ぶ。
- 第 6 回 項目 人的環境としての友だちや保育者とのかかわり 内容 人的環境の保育的な特性について学ぶ 実践事例を通して、友だちや保育者とのかかわりや保育者の援助について学ぶ
- 第 7 回 項目 物的環境として園具・遊具・素材 内容 園具・遊具・素材の基本的な考え方や意味、役割について学ぶ
- 第 8 回 項目 物的環境としての園具・遊具・素材 内容 幼児が園具・遊具・素材にかかわる中で、育つものは何かについて学ぶ。
- 第 9 回 項目 身近な自然環境、特に動植物について 内容 動植物との触れ合いの大切さや生命の尊重、自然環境との共生の在り方について実践事例を通して学ぶ。
- 第 10 回 項目 日常生活の中での興味・関心 内容 日常生活の中で、子どもの興味・関心を如何に育てていけばよいのか実践事例をもとに学ぶ。
- 第 11 回 項目 日常生活の中での興味・関心 内容 子どもの数量・図形・文字・標識との出会いや国旗に触れたり親しむことの意味について学ぶ。
- 第 12 回 項目 子どもの生活の変化と潤いを与える地域や行事とのかかわり 内容 「地域の中にある幼稚園」「地域に開かれた幼稚園」の大切さや「地域」「行事」にかかわることの教育的意義を実践事例から学ぶ。
- 第 13 回 項目 保育内容「環境」から道徳性の芽生えを培う 内容 感情を伴った体験を通して芽生える道徳性の発達や道徳性を育む保育環境、保育者の援助など実践事例を通して学ぶ。
- 第 14 回 項目 保育内容「環境」から見た実践的課題 内容 自然体験で得られる直観的・具体的生活体験の大切さと身近な環境に触れる中で、幼児の知的発達が促されることなどから、実際の保育実践に対する課題について学ぶ。
- 第 15 回 項目 前期末定期試験 内容 保育者として、幼児にとって好ましい環境を取り入れたたり、創出していくために必要な考え方や能力を問う。

成績評価方法(総合) 出席日数、授業態度、試験の総合評価で行う。

教科書・参考書 教科書：幼稚園教育要領(平成10年度版), 文部科学省(旧文部省), 財務省(旧大蔵省), 1998年; 保育所保育指針(平成11年度版), 厚生労働省(旧厚生省), 財務省(旧大蔵省), 1999年; プリントを用意。

開設科目	保育内容健康	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などであり、内容はねらいを達成するために指導する事項である5領域のうち、幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」について概説する。 / 検索キーワード 保育内容、健康

授業の一般目標 領域「健康」の内容およびねらいについて理解するとともに、他の4領域との関連や相違についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：領域「健康」の内容およびねらいについて理解する。 思考・判断の観点：得られた知識を実際の保育参加のなかに活かすことができる。 関心・意欲の観点：日常生活における「健康」に関する事項について興味をもつ。 わからないことは自分で調べる。

授業の計画(全体) 領域「健康」の意義・役割、実際の保育場面における領域「健康」、子どもの発達における領域「健康」の役割等について講義する。

成績評価方法(総合) 出席、授業への参加態度、レポートまたは期末試験をもとに総合的に評価する。

メッセージ 保育内容基礎を履修していることが望ましい。

開設科目	保育内容言葉	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	原昭徳				

授業の概要 附属幼稚園の保育に参加し、保育場面において絵本を読んだり、おはなしを語る方法を指導する

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「聴く」ことについて
- 第 2 回 項目 言葉の基本概念
- 第 3 回 項目 韓国で出会った子どもたち
- 第 4 回 項目 絵本について
- 第 5 回 項目 絵本の種類について
- 第 6 回 項目 グリム童話
- 第 7 回 項目 紙芝居と演じ方
- 第 8 回 項目 ペープサート
- 第 9 回 項目 話し言葉と書き言葉
- 第 10 回 項目 言葉の発達
- 第 11 回 項目 幼児の言葉、その事例
- 第 12 回 項目 「白雪姫」の文芸学
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

開設科目	保育内容表現	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 保育における表現では、知識・技術の能力ではなく意欲や興味、主体性に関わる創造力・判断力・思考力が重要である。子供が自由に自己の内面の創造性を発揮するための自発的な表現活動として「遊び」に注目する。この授業では、遊びの重要な要素である「造形表現」を重視し、その基礎とも言える「色」と「形」について理解を深める。/ 検索キーワード 保育、幼児、表現、色

授業の一般目標 「遊び」の中でのものを作ったり描いたりという創造的な造形表現は幼児期の発達にとって大変重要な要素を占めている。まず、幼児に接する保育者自身が様々な画材に触れることでその違いを体感する。また、「色彩とは何か」「美しい色とは何か」「美しい形とは何か」を知るために、表現の基礎ともいえる「色と形」の基本的な構造を理論と実習を通して徹底的に理解し、幼児の表現を引き出す方法を探る。また、色と形は一体であり、理論を理解するために構成表現の実習を多数取り入れ、同時に自らの色彩感覚を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児における「遊び」「表現」の重要性を説明できる。「色彩」の構造、理論を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 幼児期の「遊び」に興味を持つ。2. 「色彩」に関心を持つ。 技能・表現の観点： 指導者となる自らの表現能力、及び感性を高める。

授業の計画（全体） 保育内容表現の重要性を踏まえた上で、視覚的な表現の基礎とも言える「色」と「形」について理解を深め、自らの感性を養うことに特化して、理論を中心に授業を展開します。更に、その理解を深めるために適時、演習課題をこなします。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 保育内容表現の < BR > 概要 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラ < BR > バス説明、成績 < BR > 評価の方法 授業外指示 シラバスをよく読んでおくこと
- 第 2 回 項目 色とは何か 内容 「見る」「見える」
- 第 3 回 項目 混色 内容 加法混色、減法混色他
- 第 4 回 項目 カラーシステム 内容 「オストワルト・マンセル」 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 5 回 項目 演習 内容 「カラーシステム」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 6 回 項目 演習 内容 「カラーシステム」(2)
- 第 7 回 項目 配色 内容 色名・トーン
- 第 8 回 項目 演習 内容 「トーンによる色面構成」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 9 回 項目 演習 内容 「トーンによる色面構成」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 10 回 項目 色彩対比 内容 色相、明度、彩度、補色、寒暖の各対比
- 第 11 回 項目 演習 内容 「対比による色面構成」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 12 回 項目 演習 内容 「対比による色面構成」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 13 回 項目 色の作用
- 第 14 回 項目 グラデーション < BR > による色面構成 < BR > 「幼稚園の壁画 < BR > をイメージし < BR > て」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第 15 回 項目 グラデーション < BR > による色面構成 < BR > 「幼稚園の壁画 < BR > をイメージし < BR > て」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと

成績評価方法（総合）（1）小テスト（2）授業での演習課題（作品）が一つでも未提出の者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：デザインの色彩（部分改訂2版）、”中田満雄、北畠耀、細野尚志著；監修：日本色彩研究所”，日本色研事業，2003年；デザインの色彩，中田満雄/北畠耀/細野尚志，財団法人日本色彩研究所

メッセージ 絵の具を使った課題を多くこなします。画材等必要なものは前の週に伝えま すので忘れないようにしてください。所定のスケッチブックを購入してもら います。

連絡先・オフィスアワー takeda@yamaguchi-jca.ac.jp (山口芸術短期大学 芸術文化学科)

開設科目	身体表現(指導法)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 <身体 - かかわり - 表現>をキーワードにリラクゼーション、ストレッチング、ダンスの基本の動きを実践し、子どもの自然な身体からの発信を受容し、幼児の身体表現活動の指導法を学ぶ。表現学習の計画・立案・実践トレーニングを実施する。/検索キーワード 身体からの発信 柔らかでしなやかな心と身体

授業の一般目標 からだほぐしから表現の身体表現活動(ムーブメント指導のあり方)の実践トレーニングを通して、身近な日常生活の中から題材を選び、楽しく、自由に表現できる身体をつくる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：身体表現の指導法について解説できる。 思考・判断の観点：対象に応じたムーブメントができる。 関心・意欲の観点：表現することの楽しさを共感できる。 態度の観点：積極的に創作活動ができる。 技能・表現の観点：対象に応じた表現創作の発表ができる。

授業の計画(全体) <からだほぐしから表現へ>が全体の授業計画の柱である。リラクゼーション、ストレッチング、ダンスの基本の動きを学び、しなやかな表現できる身体をつくること。イメージを自由にふくらませ対象に応じたダンスムーブメントの創作発表へつなげる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 関わりあうから < BR > だ 内容 からだほぐし
- 第 2 回 項目 からだで自由に < BR > 語る 内容 ストレッチング < BR > とダンスの基本 < BR > I
- 第 3 回 項目 リズムに合わせ < BR > て 内容 ストレッチング < BR > とダンスの基本 < BR > II
- 第 4 回 項目 みんなちがうか < BR > らだ I 内容 親子体操と表現 < BR > 子どもの動き
- 第 5 回 項目 踊るからだ I 内容 自由即興 < BR > テーマ選択
- 第 6 回 項目 踊るからだ II 内容 イメージと選曲
- 第 7 回 項目 踊るからだ III 内容 構成と動き
- 第 8 回 項目 対象に応じた表 < BR > 現 I 内容 親子 - 高齢者の < BR > 楽しいムーブメ < BR > ント
- 第 9 回 項目 対象に応じた表 < BR > 現 II 内容 グループ作品発 < BR > 表
- 第 10 回 項目 創作 1 内容 テーマの選択と < BR > イメージ作り 授業外指示 グループワーク < BR > 作品創作
- 第 11 回 項目 創作 2 内容 構成・指導案作 < BR > 成
- 第 12 回 項目 創作 3 内容 いつのまにか表 < BR > 現 < BR > 気がつけばダン < BR > サー
- 第 13 回 項目 創作発表 内容 グループ作品発 < BR > 表
- 第 14 回 項目 まとめ < BR > 創る・観る・踊 < BR > る 内容 楽しいムーブメ < BR > ント
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 出席状況(2/3以上)60%、創作作品の発表20%、参加意欲20%で総合的に評価する。

メッセージ 「共に動く」ことの楽しさを見つけてほしい。心と身体を解放してしなやかな表現できる身体をつくりましょう。

開設科目	造形表現(指導法)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 この授業では、視覚的な造形表現として、特に創造性とイメージの広がり重点を置いた演習を行う。形のない「味覚」「音」「季節」等の抽象的なものをテーマに選び、色彩・形態・感性をトレーニングしながら創造力および表現の可能性を探り、自らの表現体験を通して造形表現の指導法を考える。
/ 検索キーワード 保育、幼児、造形、表現、色、形

授業の一般目標 色彩の理論を踏まえ、観察することと同時に自由な発想による表現方法を習得する。また、同時にそれを可能にするための技術も身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「色彩」の構造・理論を演習を通じ理解する。 関心・意欲の観点：「色彩」に関心を持つ。自由に発想することに意欲を持つ。 技能・表現の観点：指導者となる自らの表現、技術及び感性を高める。

授業の計画(全体) 徹底して「色」と「形」にこだわり、2週から3週毎に創造性を喚起させるような抽象的なテーマを設定し、決められた条件の中でイメージ表現を試みる。透明水彩、不透明水彩の画材を使用し、コラージュ等の技法も併用しながら色面構成を中心とした作品を制作する。また、テクニックの巧みさだけではなく、心のこもった温かみのある絵画表現として「絵てがみ」なども取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 色面構成「味覚」(1) 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスをよく読んでおくこと
- 第2回 項目 演習 内容 色面構成「味覚」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと 課題完成・提出
- 第3回 項目 演習 内容 色面構成「音のイメージ」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第4回 項目 演習 内容 色面構成「音のイメージ」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと 課題完成・提出
- 第5回 項目 演習 内容 絵手紙(1) 授業外指示 画材を忘れないこと(印鑑制作)
- 第6回 項目 演習 内容 絵手紙(2) 授業外指示 画材を忘れないこと
- 第7回 項目 演習 内容 絵手紙(3) 授業外指示 画材を忘れないこと 課題完成・提出
- 第8回 項目 演習 内容 色面構成「顔のイメージ」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第9回 項目 演習 内容 色面構成「顔のイメージ」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと 課題完成・提出
- 第10回 項目 演習 内容 色面構成 テーマ「正月」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第11回 項目 演習 内容 色面構成 テーマ「正月」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第12回 項目 演習 内容 コラージュ「季節-春」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材・雑誌を忘れないこと
- 第13回 項目 演習 内容 コラージュ「季節-冬」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材・雑誌を忘れないこと 課題完成・提出
- 第14回 項目 演習 内容 グラデーションによる色面構成「幼稚園の壁画をイメージして」(1) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと
- 第15回 項目 演習 内容 グラデーションによる色面構成「幼稚園の壁画をイメージして」(2) 授業外指示 スケッチブック・画材を忘れないこと

成績評価方法(総合) (1)課題の条件を満たし、期限内に提出すること(2)授業での演習課題(作品)が一つでも未提出の者には単位を与えない。(3)できるだけ授業時間の中で課題を完成させること

教科書・参考書 参考書: デザインの色彩(部分改訂2版),”中田満雄, 北畠耀, 細野尚志著; 監修: 日本色彩研究所”, 日本色研事業, 2003年; デザインの色彩, 中田満雄/北畠 耀/細野尚志, 財団法人日本色彩研究所

メッセージ 絵の具を使った課題をつぎつぎとこなしていきます。画材等必要なものは前の週に伝えますので忘れないようにしてください。所定のスケッチブックを 購入してもらいます。

連絡先・オフィスアワー takeda@yamaguchi-jca.ac.jp (山口芸術短期大学 芸術文化学科)

開設科目	音楽表現（指導法）	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 幼児の音に関わる表現や音楽に繋がる表現についての基本的なことから学び、いろいろな場面における幼児の多様な表現活動を支援するための実践力を身につける。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 音楽表現とは
- 第 2 回 項目 表現と音楽教育
- 第 3 回 項目 幼稚園教育要領における表現活動
- 第 4 回 項目 感性と表現活動
- 第 5 回 項目 表現活動と保育者の役割
- 第 6 回 項目 音楽表現トレーニング（わらべうた（1））
- 第 7 回 項目 同上（わらべうた（2））
- 第 8 回 項目 同上（歌遊び・手遊び（1））
- 第 9 回 項目 同上（歌遊び・手遊び（2））
- 第 10 回 項目 同上（音遊び・手作り楽器（1））
- 第 11 回 項目 同上（音遊び・手作り楽器（2））
- 第 12 回 項目 同上（楽器遊び・音楽会ごっこ（1））
- 第 13 回 項目 同上（楽器遊び・音楽会ごっこ（2））
- 第 14 回 項目 同上（総合的な表現活動（1））
- 第 15 回 項目 同上（総合的な表現活動（2））

教科書・参考書 教科書：新しい教育課程と保育の展開，小田豊他編著，東洋館出版社，1999年；幼稚園教育要領，文部省，フレーベル館，1999年

メッセージ 毎回受講して音楽表現の感覚と実践力を養おう。

開設科目	幼児教育方法技術	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	原昭徳				

授業の概要 明治以降の我が国の幼児教育方法を外観し考察する

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 江戸末期、明治初年の幼児教育と教育方法
- 第 2 回 項目 東京女子師範学校附属幼稚園の幼児教育技術
- 第 3 回 項目 大正期幼稚園の教育方法と技術
- 第 4 回 項目 倉橋惣三「間接教育論」の端緒と歩み
- 第 5 回 項目 幼児との接し方、直接の触れ合いと間接教育
- 第 6 回 項目 幼児教育の諸原理、間接教育の原理について
- 第 7 回 項目 幼稚園教育要領にみる幼児教育方法の変遷
- 第 8 回 項目 環境を通じた教育の構造
- 第 9 回 項目 園外保育の実践と方法
- 第 10 回 項目 紙芝居の歴史、紙芝居の演じ方と指導技術
- 第 11 回 項目 童話・絵本、ペープサート、視聴覚機器と指導技術
- 第 12 回 項目 幼稚園の教育方法と生活科の教育方法
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

開設科目	幼児教育メディア	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 情報機器を用いた教材製作として、ノートパソコンを用いて WEB 絵本を製作する。 / 検索
キーワード メディア 教材 絵本

授業の一般目標 1.CGで絵が描ける。 2.BGM や語りかけを WEB 絵本につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 描画ツールや音声入力ツールを使いこなすことができる。 思
考・判断の観点： 1. 幼児が好む絵や音を追求する力を培う。 関心・意欲の観点： 1. コンピュータメ
ディアへの関心を高め、メディアを楽しむ。 態度の観点： 1. こだわりを持って積極的に作品制作に取り
組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 様々なソフトに対応できる柔軟な基礎力を身につける。

授業の計画(全体) 授業は、基本的には各自のノートパソコンで CG ファイルを作るという形式で進行
する。 ノートパソコンを所持していない学生には授業時のみ貸与する。 WEB 絵本を作るため、プロ
ットを作り、プロットに従って CG を描く。各 CG ファイルに声や音を貼り付ける。全てのデータを提出
し、WEB 上で確認する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各自の PC ソフトの確認 内容 ディスクに「絵本」のフォルダを作り、各自のノートパ
ソコンに内蔵している描画ソフトの確認をする。ディスクのクリーンアップの方法と最適
化の仕方を説明する。
- 第 2 回 項目 WEB 絵本を見る 内容 インターネットで WEB 絵本を検索し、様々な WEB 絵本を見
て、自分がどのような WEB 絵本を作るかのイメージをふくらませる。
- 第 3 回 項目 プロットの製作 内容 各自のノートパソコンに内蔵しているワープロソフトを用い、プロ
ットを書く。時間経過とせりふや動きの構成をする。
- 第 4 回 項目 プロットの調整 内容 ワープロソフトを用いて、時間経過とせりふを子どもの時間感
と言語感覚の観点から精選する。
- 第 5 回 項目 CG の制作 内容 プロットに沿って CG をおおまかに描き、プロットに貼り付ける。
- 第 6 回 項目 CG の調整 (1) 内容 原色を避ける理由を説明し、柔らかい色彩に調整する。
- 第 7 回 項目 CG の調整 (2) 内容 各シーンの CG をより子どもの感覚に訴えかける配色に仕上げる。
絵本フォルダに CG を JPG 形式で書き込む。
- 第 8 回 項目 CG の精選 内容 ブラッシングやマスキングの技法を使用してこだわりを持って CG を
仕上げる。
- 第 9 回 項目 音声入力の準備 内容 各自のノートパソコンに内蔵しているメディアプレーヤーの使い
方を解説し、著作権の説明をする。
- 第 10 回 項目 音や声の入力 内容 プロットに従って、音や声を入力し、音声ファイルにして絵本フォル
ダに記録する。
- 第 11 回 項目 音や声のデータの精選 内容 プロットに完成した CG を貼り付け、音声ファイルを実行
して確認し、調整する。
- 第 12 回 項目 WEB 化する 内容 WEB に乗せるためのプログラムを入力し、各自のノートパソコン
で実際に動かしてみる。
- 第 13 回 項目 WEB に載せて確認する 内容 絵本フォルダにある全データを CD に記録し、提出する。
- 第 14 回 項目 WEB 教材の可能性とネチケット 内容 WEB 絵本を公開する場合のセキュリティやネチ
ケットについて講義する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 自分の作品と他者との作品を比較し、自己評価する。

成績評価方法(総合) 1. 授業の最初に毎回、出席状況調査票を配布し、出席を確認する。 2. ワープロソフト
、描画ソフト、音声入力ソフトについて作品を提出し、評価を行う。 3. 最終授業の際に自己評価を課
し、評価に加味する。

メッセージ 情報処理基礎を受講していること。授業時間外の作業が多くなります。

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
 検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	幼児カウンセリング	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 保育におけるカウンセリングマインドの意義等について概説する。 / 検索キーワード 幼児、保育、カウンセリング

授業の一般目標 保育における心理臨床の今日的課題に関心をもつ。保育におけるカウンセリングの実際について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育におけるカウンセリングの役割について説明することができる。 関心・意欲の観点： ロールプレイ等の活動に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 保育における心理臨床の今日的課題（ 1 ） 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 保育における心理臨床の今日的課題（ 2 ） 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育における心理臨床の今日的課題（ 3 ） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 カウンセリングの理論と方法（ 1 ） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 カウンセリングの理論と方法（ 2 ） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 カウンセリングの理論と方法（ 3 ） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育におけるカウンセリングの実際（ 1 ） 内容 登園拒否について 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育におけるカウンセリングの実際（ 2 ） 内容 友だちの少ない子どもについて 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育におけるカウンセリングの実際（ 3 ） 内容 集団に入れない子どもについて 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ（ 1 ） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ（ 2 ） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育とカウンセリングマインド（ 1 ） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育とカウンセリングマインド（ 2 ） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き 3 回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 3 年次までに幼児教育に関する授業を履修していること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F(404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	幼児教育基礎実習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行・原昭徳				

授業の概要 幼稚園教育実習に連絡する授業である。幼稚園教育実習につながる事前指導の場としても位置づけられている。 / 検索キーワード 教育実習、保育参加、事前指導

授業の一般目標 幼児期の子どもの実態を把握し、教育実習に活かせるように努める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児期の子どもの実態を説明することができる。 思考・判断の観点： 子ども実態に応じた行動ができるようになる。 関心・意欲の観点： 子どもの立場に立ったものごとを見たり、考えたりすることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、クラス分け
- 第 2 回 項目 学内講義、子どもの見方
- 第 3 回 項目 学内講義、保育参加の仕方
- 第 4 回 項目 附属幼稚園保育参加 1回目
- 第 5 回 項目 学内講義、保育参加レポートによる協議
- 第 6 回 項目 学内講義、子どもの接し方
- 第 7 回 項目 附属幼稚園保育参加 2回目
- 第 8 回 項目 学内講義、保育参加レポートによる協議
- 第 9 回 項目 学内講義、環境構成
- 第 10 回 項目 附属幼稚園保育参加 3回目
- 第 11 回 項目 学内講義、保育参加レポートによる協議
- 第 12 回 項目 学内講義、保育案
- 第 13 回 項目 学内講義 保育案の検討（1）
- 第 14 回 項目 学内講義 保育案の検討（2）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加（保育参加を含む）、およびレポートをもとに総合的に評価する。

メッセージ 教育実習につながる授業であるため、出席を重視する

連絡先・オフィスアワー 白石敏行 研究室 404 室 研究室電話・ファックス：083-933-5330

t-shira@yamaguchi-u.ac.jp OH:随時 原昭徳 研究室 402 室 研究室電話・ファックス：083-933-5441

kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp OH:随時

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	原昭徳				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子ども、保育者、保護者等を対象に、自分の興味・関心のある領域を追究する。/
 検索キーワード 幼児心理、乳幼児、保育者、保護者

授業の一般目標 自分の興味・関心のある領域を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の興味・関心のある領域の基礎的な事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者との議論に積極的に参加することができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献講読
- 第 3 回 項目 文献講読
- 第 4 回 項目 文献講読
- 第 5 回 項目 文献講読
- 第 6 回 項目 文献講読
- 第 7 回 項目 文献講読
- 第 8 回 項目 実験・調査方法の検討
- 第 9 回 項目 実験・調査方法の検討
- 第 10 回 項目 実験・調査の実施
- 第 11 回 項目 実験・調査の実施
- 第 12 回 項目 実験・調査の実施
- 第 13 回 項目 実験・調査の分析
- 第 14 回 項目 実験・調査の分析
- 第 15 回 項目 まとめ
- 第 16 回 項目 文献講読
- 第 17 回 項目 文献講読
- 第 18 回 項目 文献講読
- 第 19 回 項目 実験・調査の再検討
- 第 20 回 項目 実験・調査の再検討
- 第 21 回 項目 実験・調査の実施
- 第 22 回 項目 実験・調査の実施
- 第 23 回 項目 実験・調査の実施
- 第 24 回 項目 実験・調査の分析
- 第 25 回 項目 実験・調査の分析
- 第 26 回 項目 論文の構成・執筆
- 第 27 回 項目 論文の執筆
- 第 28 回 項目 論文の執筆
- 第 29 回 項目 論文の執筆
- 第 30 回 項目 論文の仕上げ

成績評価方法(総合) 他者との討議への参加、論文講読での発表、および論文の執筆をもとに総合的に評価する。

メッセージ 自分の興味・関心のある領域を最後まであきらめずに追究してほしい。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

障害児教育コース

開設科目	障害児福祉総論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児・者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児・者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。 / 検索キーワード 障害児、福祉、地域生活

授業の一般目標 障害児・者福祉の基本原則についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児・者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児・者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。 2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児・者福祉における歴史と現状をふまえて、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 障害児・者福祉の歴史～古代から現代～ 内容 障害児・者福祉の歴史（古代～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 障害児と指導者（学校教師） 内容 初代近江学園長の糸賀一雄（1914～1968）の福祉観を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 児童福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 児童福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 児童福祉法（2）～児童相談所・福祉事務所・保健所の役割～ 内容 支援機関として重要な児童相談所、福祉事務所、保健所の役割について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 人間観と福祉思想 内容 サリドマイド薬禍事件（1962）について説明し、「生きる権利」についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 障害児を育てる親の心情の変容 内容 わが子（障害児）の出生時から学校教育終了時までの親の心情を説明し、その変容についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 知的障害者福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 知的障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 知的障害者福祉法（2）～更生施設・授産施設～ 内容 20世紀の障害者福祉において一定の役割を担ってきた更生施設、授産施設について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 障害者手帳（目的・対象・活用のしかた）・障害者基礎年金・各種福祉手当 内容 障害者福祉において重要な役割を担っている障害者手帳、障害者基礎年金、各種福祉手当等の役割や機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 身体障害者福祉法～目的・対象・施設の役割～ 内容 身体障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 地域生活を支える支援のあり方 内容 通勤寮、グループホーム等の機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 就労生活を支える支援のあり方 内容 就労の意義と、それを支える支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 21世紀の障害児・者福祉の方向性 内容 地域生活を望む声が高まっている事実と、今後の福祉施策の方向性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)パール・バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	運動障害心理・生理・病理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林 隆				

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 脳の発達
- 第 2 回 項目 脳性マヒ - 1
- 第 3 回 項目 脳性マヒ - 2
- 第 4 回 項目 筋ジストロフィー
- 第 5 回 項目 運動障害の保護者への支援
- 第 6 回 項目 知的障害
- 第 7 回 項目 染色体異常
- 第 8 回 項目 知的障害の保護者への支援
- 第 9 回 項目 学習障害
- 第 10 回 項目 注意欠陥／多動性障害
- 第 11 回 項目 広汎性発達障害
- 第 12 回 項目 アスペルガー症候群
- 第 13 回 項目 国際生活機能分類（ICF）
- 第 14 回 項目 特別支援教育と発達障害者支援法
- 第 15 回 項目 特殊教育から特別支援教育へ

教科書・参考書 参考書：医師のための発達障害児・者診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際，稲垣真澄・加我牧子編，診断と治療社，2006年；成育医療の視点にたった学校保健マニュアル，田原卓浩編，診断と治療社，2005年；てんかんQ&A，藤井正美、長谷川寿紀、林 隆，日本文化科学社，2001年；ナースとコメディカルのための小児科学，白木和夫、高田哲編，日本小児医事出版社，2006年；注意欠陥／多動性障害 AD/HD の診断・治療ガイドライン，齊藤万比古、渡辺京太，じほう，2006年

備考 集中授業

開設科目	病弱教育	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	齋藤 美麿				

授業の概要 結核に始まる慢性伝染病のために解説された病弱教育は、慢性疾患としての気管支喘息、腎臓疾患児の狂句に変わり、今では多様な慢性疾患の児童・生徒を対象としている。くわえて心身症に関わる障害の増加が見られる。これらの疾患を理解し、教育はどのようにすべきかを検討する。 / 検索キーワード 病弱、疾病

授業の一般目標 障害を理解し、児童・生徒と一緒に遊べるようになる。疾病、死に直面している児童・生徒に接する能力を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各種の疾病を理解する。 思考・判断の観点： 疾病を理解し、どのようにすべきかを考える。 関心・意欲の観点： 疾病を持つものへの関心を深める。

授業の計画（全体） 病弱教育に関わる疾病を理解し、いかに教育を行うかを検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 病弱教育の歴史 内容 結核の流行に始まる病弱の教育の歴史を知る。
- 第 2 回 項目 気管支喘息の児童・生徒 内容 気管支喘息の特徴と生活習慣の形成
- 第 3 回 項目 腎臓疾患の児童・生徒 内容 腎臓疾患の特徴と生活習慣の形成
- 第 4 回 項目 筋ジストロフィー児の児童・生徒 内容 筋ジストロフィーの進行経過と対応
- 第 5 回 項目 心臓疾患児の児童・生徒 内容 疾病を理解し、生活習慣の形成
- 第 6 回 項目 結核について 内容 伝染病としての結核を理解し、いかに生活すべきかを考える
- 第 7 回 項目 てんかん 内容 てんかんの理解と生活
- 第 8 回 項目 脳性まひ 内容 脳性まひの理解と生活
- 第 9 回 項目 心身症 内容 心身症と対応
- 第 10 回 項目 身体虚弱とは 内容 身体虚弱とはどのようなことか
- 第 11 回 項目 肥満とといそう 内容 身体を理解と食事。運動を理解する。
- 第 12 回 項目 アレルギー疾患 内容 アレルゲンの種類と生活
- 第 13 回 項目 その他の疾患 内容 その他の疾患と疾病についての考え方
- 第 14 回 項目 その他の疾患 内容 現在問題になりつつある疾患について
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 病弱教育について総合的に考える

成績評価方法（総合） 各自の関心のある疾病について以下に教育を行うかのレポートによって評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 病弱教育 Q & A, 横田雅史ほか, ジアース教育新社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー 山口県立大学社会福祉学部

備考 集中授業

開設科目	障害児心理学研究法 I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成・松田信夫・松岡勝彦				

授業の概要 障害のある人たちを対象とした事例研究を通して、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方の基礎について取得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 1）
- 第 3 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 2）
- 第 4 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 3）
- 第 5 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 4）
- 第 6 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 5）
- 第 7 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 6）
- 第 8 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 7）
- 第 9 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 8）
- 第 10 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 9）
- 第 11 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 10）
- 第 12 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 11）
- 第 13 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 12）
- 第 14 回 項目 障害のある人たちへの具体的支援（事例 13）
- 第 15 回 項目 今後の課題と展望

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	知的障害生理・病理学	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	平野 均				

授業の概要 授業は4日間の集中講義形式で行い、午前と午後に各2コマを割り当てる。各講義の課題達成の目的で随時小グループによる相互討議を行い、授業内容の理解を深める。また学習効率を高めるために視聴覚教材を積極的に使用し、高校時代に生物学を選択していない学生にも理解できるように配慮する。小テスト・小論文を要所所で実施し、受講学生の理解度・出席率の判定材料とする。また全講義終了後に、最終テストを実施する。成績はこれら小テスト・小論文・最終テストで判定する。/検索キーワード 障害児教育、精神遅滞(知的障害)、病理・生理、生殖、遺伝、発生

授業の一般目標 ヒトの発生と遺伝を分子レベルから学習し、障害の種類とその病理、また診断方法と治療、ならびに予防方法について習得することを目標とする。このような病理学的・生理学的観点から障害の発生を学習することにより、障害児教育に携わる教師に求められる知情意のバランスを培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1)精神遅滞の定義と用語の変遷:教育上、医学上の対応の余地 2)精神遅滞の分類:遺伝と環境の関与 3)精神遅滞の原因:生理群と病理群 4)遺伝の概要 5)遺伝病:メンデル遺伝病、多因子遺伝病、保因者診断 6)先天代謝障害:症状発症の機序 7)染色体異常症候群:種類と症状、出現機序 8)胎児病:生殖機構、発生段階と障害 9)出生前診断:種類と倫理思考・判断の観点: 1)障害者と健常人との異同は? 2)理想的な社会とは? 3)現実の社会状況は? 4)現実を理想に近づけるためには? 5)理想的な教育とは? 関心・意欲の観点: 1)出生前診断、遺伝子治療などにどの程度関心を持っているか? 2)上記に対する倫理面からの関心の程度は? 3)日常の障害児(者)との関わり方は? 態度の観点: 1)出席率 2)授業中の相互討議

授業の計画(全体) 授業概要に詳述

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総論1 < BR > (1)オリエンテーション < BR > (2)精神遅滞 < BR > の定義1 内容 (1)講義の目的・進め方について説明 < BR > (2)精神遅滞についての用語とその変遷について説明
- 第2回 項目 総論2 < BR > (1)精神遅滞の定義2 < BR > (2)小論文 内容 (1)アメリカ精神遅滞学会による定義 < BR > (2)障害児に関する関心の程度
- 第3回 項目 総論3 < BR > (1)精神遅滞分類と診断基準 < BR > (2)精神遅滞の原因1 内容 (1)生理群精神遅滞と病理群精神遅滞 < BR > (2)生理群精神遅滞における遺伝の関与
- 第4回 項目 総論4 < BR > (1)精神遅滞の原因 < BR > (2)小テスト 内容 (1)病理群精神遅滞における医学的原因 < BR > (2)理解度
- 第5回 項目 各論1 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎1 内容 (1)遺伝とは?、細胞分裂
- 第6回 項目 各論2 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎2 < BR > (2)小テスト 内容 (1)細胞分裂 < BR > (2)理解度
- 第7回 項目 各論3 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎3 内容 (1)染色体、遺伝子の実体
- 第8回 項目 各論4 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎4 < BR > 2)小テスト 内容 (1)遺伝子発現の変動要因1 < BR > (2)理解度
- 第9回 項目 各論5 < BR > (1)遺伝現象の生物学的基礎 内容 (1)遺伝子発現の変動要因2
- 第10回 項目 各論6 < BR > (1)遺伝病と遺伝相談1 < BR > (2)小テスト 内容 (1)メンデル遺伝病、多因子遺伝 < BR > (2)理解度
- 第11回 項目 各論7 < BR > (1)遺伝病と遺伝相談 < BR > (2)先天性代謝異常 内容 (1)遺伝相談 < BR > (2)代謝過程の異常、臨床症状、症状の発現時期、診断と治療
- 第12回 項目 各論8 < BR > (1)染色体異常症候群1 < BR > (2)小テスト 内容 (1)数の異常 < BR > (2)理解度

- 第13回 項目 各論9 < BR > (1)先天性代謝異常2 < BR > (2)胎児病1 内容 (1)構造の異常
< BR > (2)胎児の発生段階と異常
- 第14回 項目 各論10 < BR > (1)胎児病< BR > (2)出生前診断1 < BR > (3)小テスト 内
容 (1)症例< BR > (2)羊水検査と絨毛検査< BR > (3)理解度
- 第15回 項目 各論11 < BR > (1)出生前診断< BR > (2)障害予防< BR > (3)最終テスト 内
容 (1)遺伝子診断< BR > (2)種類< BR > (3)理解度< BR > (受講生による講義評
価も含む)

成績評価方法 (総合) 授業概要に詳述

教科書・参考書 教科書：平野均著「障害児の病理と生理」(私家版)を開講前に販売する / 参考書：臨床遺伝医学1・2, 古庄敏行、他編集, 診断と治療社, 1992年; 人類遺伝学：基礎と応用(改訂第2版), 柳瀬敏幸編集, 金原出版, 1995年; 発達障害の基礎, 熊谷公明, 栗田広、有馬正高編集, 日本文化科学社, 1999年; 発達障害の臨床, 熊谷公明, 栗田広、有馬正高編集, 日本文化科学社, 2000年; ラングマン人体発生学第8版, トマス・W・サドラー著, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004年; 代表的なものを以下に提示した。本館には置いてないが、全て医学部附属図書館で閲覧・貸出可能である。

メッセージ 教員免許取得学生では必修科目であるが、大学院生・研究生を含めて希望者は誰でも受講可能である。

連絡先・オフィスアワー 本部保健管理センターにおいて(水曜日午後5時以降)

備考 集中授業

開設科目	聴覚・言語障害児の指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	谷本忠明				

授業の概要 聞こえやことばの障害のある子どもに対しての関わりは、多くが聾学校や小・中学校の難聴・言語障害学級で行われている。そうした子どもたちの抱える聞こえやことばの問題は、人とのコミュニケーションや学習面での課題となって現れることも多い。本授業は、そうした子どもへの学校教育を中心とした関わりに求められる内容について、講義を中心に、集中講義形式で行う。/検索キーワード 聴覚障害、言語障害、コミュニケーション

授業の一般目標 聴覚障害は、広義には言語障害に含まれるが、聴覚障害と言語障害とは、その状態像やそれに対する対応はかなり異なっている。また、言語障害の中には、多様なことばの障害が含まれる。本講義では、そうした幅広い障害について取り扱うことと、受講生の多くが言語障害に関する学習が初めてであると考えられることから、特定の障害についての理解を深めるという形ではなく、そうした幅広い言葉の障害についての基礎的な理解をすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 聴覚障害、言語障害をことばの形態的な側面である「音声」とコミュニケーション手段としての側面である「言語」という視点から理解することができる。(2) 構音器官や聴覚器官の基礎的な構造について名称を含めて理解できる。(3) 個々の障害の状態像の基礎的な内容について理解し、説明することができる。(4) 言語習得の過程やその過程において習得される言語の機能について理解できる。(5) 言語習得を図るための手だてとして必要な事項についての基本的な視点を持つことができる。 思考・判断の観点：ことばの障害のある子どもに接する場合に必要な、言語の習得を支える子どもと周囲とのコミュニケーション関係の在り方について、問題の所在を見極めることができる。

授業の計画(全体) まず、基礎的な事項として、わが国における聴覚・言語障害児に対する教育の現状や制度の概要や、構音器官や聴覚器官の仕組み、ことばの機能、ことばの発達過程など、言語獲得に関連した基礎的事項について解説するとともに、ことばの障害を見る視点について述べる。そののち、聴覚障害や各言語障害についての概説を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育の対象となる聞こえやことばの障害・子どもの指導の場(わが国における聴覚・言語障害児教育の教育場面・制度について)(1) 内容 わが国におけることばの障害のある幼児・児童・生徒に対する教育場面や教育の制度についての概要を述べる。
- 第 2 回 項目 教育の対象となる聞こえやことばの障害・子どもの指導の場(わが国における聴覚・言語障害児教育の教育場面・制度について)(2) 内容 同上
- 第 3 回 項目 音と声の基礎 - 音の側面、音としてみたことば・声 内容 ことばを使ってコミュニケーションするというとはどのようなことであるのかについて、音声や音響、コミュニケーション関係といった側面から解説する。
- 第 4 回 項目 聴覚器官・構音器官のしくみ - 聞こえのしくみ、ことばを出すしくみ(1) 内容 ことばを発すること、聞いて理科いすrことを支えている構音器官や聴覚器官の仕組みや働きについて解説する。
- 第 5 回 項目 聴覚器官・構音器官のしくみ - 聞こえのしくみ、ことばを出すしくみ(2) 内容 同上
- 第 6 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの(1) 内容 子どものことばの発達の過程について解説する。
- 第 7 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの(2) 内容 ことばが獲得されるとはどのような事なのかについて、背後にある諸側面について解説する。

- 第 8 回 項目 子どものことばの発達過程 - 外からみたことば、内からみたことば / ことばの獲得を支えるもの (3) 内容 ことばが通じること、通じないことの意味について、コミュニケーション関係という視点から解説する。
- 第 9 回 項目 聞こえとことばの障害の種類と内容 内容 聞こえとことばの障害の具体的な状態について述べる。
- 第 10 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (1) 内容 聴覚障害を中心として、聞こえの障害の持つ意味やそれに対する対応について、聴覚障害児教育の現状と併せて述べる。
- 第 11 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (2) 内容 同上
- 第 12 回 項目 聞こえの障害による教育上の課題と指導 (3) 内容 同上
- 第 13 回 項目 ことばの障害のある子どもに対する指導 内容 言語障害といわれる各障害の状態やそれへの対応について述べる。
- 第 14 回 項目 ことば指導に求められるもの - 教育場面を通して 内容 まとめとして、ことば指導という視点で、指導者に求められているものは何かについて提起する。
- 第 15 回 項目 筆記試験

成績評価方法 (総合) 授業最終日に筆記試験を行い、その成績によって評価する。なお、集中講義期間中の出席についても評価の一部とする。出席の確認方法については、メッセージ欄を参照のこと。なお、集中講義で実施するということから、原則として、全時間の出席をし、最終試験を受験した者について評価の対象とする。また、単位不要で、聴講のみを希望する学生の受講は認めないこととする。

教科書・参考書 教科書：資料を配布して資料に基づいて進めていく。 / 参考書：講義の中で随時紹介する。

メッセージ 受講生の多くにとっては初習の内容が多くなると思われるので、出席カードを使って受講生からの質問やコメントなどを出してもらおう予定にしている。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	障害児教育原理	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する児童生徒（知的障害児、肢体不自由児、病弱児、視覚障害児、聴覚障害児、重複障害児、LD等の障害児）への教育の意義、教育史、発達過程、教育課程、法制度を中心としつつ、特別支援教育の現状、今日的課題及び今後の展望について講義する。なお、学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介し、模擬体験活動等も導入することで、特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」の理論と実践の融合をはかる。 / 検索キーワード 障害児、教育の意義、特別支援教育

授業の一般目標 特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．特別支援教育の概念、歴史、教育課程等を説明できる。 2．特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」の具体を説明できる。 思考・判断の観点： 1．特別支援教育における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1．障害児の生涯を見通した教育への関心を高め、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを讀んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 特別支援教育の意義・歴史（1） 内容 特別支援教育の意義並びに歴史（古代～中世）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 特別支援教育の意義・歴史（2） 内容 特別支援教育の歴史（近世～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 障害児の成長・発達 内容 ピアジェ（J.Piajet）の発達理論に基づきつつ、知的障害児の成長・発達を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 知的障害児への指導事例 内容 成長・発達の緩やかな児童生徒に対する指導のあり方を具体事例を通して説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 成長・発達に及ぼす環境の影響 内容 人の成長・発達に及ぼす環境の影響について、3つの立場と論争を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 個に応じた指導の必要性 内容 図画工作科的活動を通して、個に応じた指導（支援）の必要性を体感させ、支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 生活にねざした指導の必要性 内容 昭和20年代から発展した生活主義教育と現在の生活単元学習等との関連性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 生活にねざした指導の事例（「生活単元学習」等） 内容 教科・領域を合わせた指導形態の代表としての生活単元学習の具体について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 特別支援教育諸学校（盲学校・聾学校・養護学校）の教育課程 内容 教科・領域を合わせた指導と教科別・領域別の指導をミックスさせた教育課程について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 特別支援教育諸学校の学習指導要領（その歴史の変遷） 内容 現在まで4回の改訂を経るに至った理由を児童生徒の障害の実態から説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 学校教育終了後の進路 内容 学校教育終了後の進路の実態（入所施設・通所施設・福祉作業所・事業所等）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 学校教育終了後の人生を見通した指導 内容 学校教育終了後の生活実態を背景に、学校教育段階における望ましい指導のあり方を説明する。 授業記録 配布資料

第 14 回 項目 教師の資質 内容 学校教育にあたる指導者に求められる資質について説明する。授業記録 配布資料

第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児臨床心理	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児神経生理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林 隆				

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 脳の発達
- 第 2 回 項目 脳性マヒ - 1
- 第 3 回 項目 脳性マヒ - 2
- 第 4 回 項目 筋ジストロフィー
- 第 5 回 項目 運動障害の保護者への支援
- 第 6 回 項目 知的障害
- 第 7 回 項目 染色体異常
- 第 8 回 項目 知的障害の保護者への支援
- 第 9 回 項目 学習障害
- 第 10 回 項目 注意欠陥／多動性障害
- 第 11 回 項目 広汎性発達障害
- 第 12 回 項目 アスペルガー症候群
- 第 13 回 項目 国際生活機能分類（ICF）
- 第 14 回 項目 特別支援教育と発達障害者支援法
- 第 15 回 項目 特殊教育から特別支援教育へ

教科書・参考書 参考書：医師のための発達障害児・者診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際，稲垣真澄・加我牧子編，診断と治療社，2006年；成育医療の視点にたった学校保健マニュアル，田原卓浩編，診断と治療社，2005年；てんかんQ&A，藤井正美、長谷川寿紀、林 隆，日本文化科学社，2001年；ナースとコメディカルのための小児科学，白木和夫、高田哲編，日本小児医事出版社，2006年；注意欠陥／多動性障害 AD/HD の診断・治療ガイドライン，齊藤万比古、渡辺京太，じほう，2006年

備考 集中授業

開設科目	障害児の心理アセスメント I	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児の心理アセスメント II	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児教育方法	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒に対する指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の必要性とその望ましいあり方について講義する。なお、事例については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との融合をはかる。/検索キーワード 障害児、教育方法、個に応じた指導

授業の一般目標 特別支援教育の基本原則について、知的障害児を中心とした児童生徒に対する実践事例に基づきつつその基礎的知識と技能を獲得させ、特別支援教育に関する現状と課題を総合的に理解させる。なお、当科目は、3年生前期より開始される教育実習を念頭に置いた講義であり、特別支援学校の教育現場における指導に必要とされる知識・技能・態度を総合的に獲得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 障害児指導法の基本原則である「個に応じた指導」の具体を説明できる。 2 ! 「個に応じた指導」に基づいた学習計画案を作成できる。 思考・判断の観点： 1 . 障害児指導法の歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1 . 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 教師の本職について 内容 大村はま氏の教育 (指導) 観について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 知的障害児への数量指導 (1) 内容 知的障害児への加法指導の具体について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 知的障害児への数量指導 (2) 内容 実態の異なる児童生徒が数名在籍する学級を想定し、指導の具体について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 「個に応じた指導」と学習指導案 内容 図画工作科的活動を通し、個の実態に応じた指導の手立てを学習指導案に記載させ、支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 知的障害児への言語指導 (文字・文指導) 内容 知的障害を伴うダウン症児への言語指導 (文字指導) の事例を中心に説明する。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 自閉症児への言語指導 (コミュニケーション指導) 内容 ホットケーキ作りを通じた自閉症児への言語指導 (コミュニケーション指導) の事例を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 特殊教育諸学校 (盲学校・聾学校・養護学校) の教育課程 内容 昭和 20 年代から発展した生活主義教育と現在の教育課程との関連性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 教科・領域を合わせた指導～遊びの指導～ 内容 教科・領域を合わせた指導形態としての「遊びの指導」の指導事例と指導上の留意点について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 教科・領域を合わせた指導～生活単元学習・作業学習～ 内容 教科・領域を合わせた指導形態としての「生活単元学習」「作業学習」の指導事例と指導上の留意点について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 教科・領域を合わせた指導～日常生活の指導等～ 内容 教科・領域を合わせた指導形態としての「日常生活の指導」の指導事例と指導上の留意点について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 自立活動の指導 内容 自立活動の指導事例と指導上の留意点について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 学習障害児等への指導 内容 学習障害児 (LD) 注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等の児童生徒への指導事例と指導上の留意点について説明する。 授業記録 配布資料

第 14 回 項目 学校教育終了後の人生を見通した指導 内容 学校教育終了後の人生を見通した指導の必要性と、学校教育段階で必要とされる指導内容と指導上の留意点について説明する。授業記録 配布資料

第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) 指導案に関する講義では、指導のシュミレーション場面をもとに指導案を作成する。(4) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	重複障害児の指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 さまざまな重複障害(重度・重複障害)について概観した後、主として知的障害と行動障害(自閉症)が重複している事例について詳細に取り上げ、問題行動、コミュニケーション、食事、睡眠、排泄等に関する臨床指導の方法論について検討する。/ 検索キーワード 重複障害 応用行動分析

授業の一般目標 (1) 重度・重複障害の特徴について知る。(2) さまざまな事例を通して、障害特性や具体的臨床指導のあり方について学習する。

授業の計画(全体) 重複障害(重度・重複障害)について概観し、さまざまな事例を通して指導のあり方を検討する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 重度・重複障害とは (1)
- 第 3 回 項目 重度・重複障害とは (2)
- 第 4 回 項目 重度・重複障害児の行動特徴 (1)
- 第 5 回 項目 重度・重複障害児の行動特徴 (2)
- 第 6 回 項目 重度・重複障害児の教育方法 (1)
- 第 7 回 項目 重度・重複障害児の教育方法 (2)
- 第 8 回 項目 応用行動分析の基礎 (1)
- 第 9 回 項目 応用行動分析の基礎 (2)
- 第 10 回 項目 重度・重複障害児の示す問題行動の理解と対応 (1)
- 第 11 回 項目 重度・重複障害児の示す問題行動の理解と対応 (2)
- 第 12 回 項目 重度・重複障害児の示す問題行動の理解と対応 (3)
- 第 13 回 項目 日常生活スキルの指導 (1)
- 第 14 回 項目 日常生活スキルの指導 (2)
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

メッセージ ビデオを用いた具体的な臨床指導の方法(臨床技術)について検討する。グループ討論を行う。

開設科目	障害児心理学研究法 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成, 松田信夫, 松岡勝彦				

授業の概要 障害のある人たちを対象とした、実験的または事例的研究を通して、障害のとらえ方、行動の理解、具体的支援のあり方、データの取り方、論文の書き方等について習得する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 担当論文の概要説明
- 第 3 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 1
- 第 4 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 2
- 第 5 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 3
- 第 6 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 4
- 第 7 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 5
- 第 8 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 6
- 第 9 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 7
- 第 10 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 8
- 第 11 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 9
- 第 12 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 10
- 第 13 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 11
- 第 14 回 項目 研究論文のプレゼンテーション 12
- 第 15 回 項目 総まとめと今後の課題

開設科目	障害児教育演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 山口大学教育学部附属養護学校(知的障害養護学校)での教育実習期間中に興味をもち、取り組んだ実践事例、あるいは実習終了後に文献などをもとに調べた内容等について、1コマにつき原則として2名が発表し(発表者1名につき15分)続いてその内容について全員で討論(10分)する。この学習活動を通し、特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒への指導の具体的なあり方について検討する。発表については、受講生が興味を持つテーマを自主的に選択させる。過去、下記のようなテーマが選択されてきた。(1)知的障害児への指導:知的障害児への数量指導、金銭指導、言語指導(書く・読む指導)、言語指導(話す・聞く指導)、体育指導、造形指導、領域・教科を合わせた指導～生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、遊びの指導等。(2)肢体不自由児への指導:肢体不自由児への歩行指導、摂食指導、言語指導、自立活動の指導(手指の巧緻性、環境の把握、言語の受容と表出)等。/検索キーワード 障害児、教育実習、教育方法

授業の一般目標 教育実習生自らが実践した指導事例に基づきつつ、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした障害の実態とニーズに応じた教材・教具の開発と指導のあり方等を反省の上で検討し、より望ましい指導に発展させていくための視点を習得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 障害児指導の基本原則である「個に応じた指導」の具体を説明できる。 思考・判断の観点: 1. 自身による障害児指導の課題を指摘し、改善策を講じることができる。 関心・意欲の観点: 1. 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。 技能・表現の観点: 1. 指導のために作成し使用した教具類を効果的に使用し、指導経過や今後の課題を具体的に表現できる。

授業の計画(全体) 発表については、受講生が興味を持つテーマを自主的に選択する。毎時間、基本的に二つの事例をもとに、発表、質疑応答、協議する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法、発表者の決定 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (2)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (3)各発表に関する松田信夫からのコメント(口頭)と各発表者への課題の提示 (4)各発表に関する学生からのコメント(プリントへの記載) 授業記録 配布資料
- 第3回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (2)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (3)各発表に関する松田信夫からのコメント(口頭)と各発表者への課題の提示 (4)各発表に関する学生からのコメント(プリントへの記載) 授業記録 配布資料
- 第4回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (2)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (3)各発表に関する松田信夫からのコメント(口頭)と各発表者への課題の提示 (4)各発表に関する学生からのコメント(プリントへの記載) 授業記録 配布資料
- 第5回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (2)(1)受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2)質疑応答 (3)各発表に関する松

第 15 回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) (1) 受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2) 質疑応答 (2) (1) 受講生による知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした指導に関する発表 (2) 質疑応答 (3) 各発表に関する松田信夫からのコメント(口頭)と各発表者への課題の提示 (4) 各発表に関する学生からのコメント(プリントへの記載) 授業記録 配布資料

成績評価方法(総合) (1) レジユメをもとに発表する。(2) 質疑応答をする。(3) 発表者は発表後に示された課題についてのレポートを提出する。(4) 発表者に対して紙面にてアドバイスする。(5) 全員共通テーマのレポートを提出する。(6) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児教育行政及び管理	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援教育諸学校（盲学校・聾学校・養護学校）並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する障害児への教育に関する法令を中心としつつ、今日の特別支援教育行政の現状、今日的課題及び今後への展望について講義する。また、養護学校、特別支援学級、通常学校（学級）における具体的な指導事例等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。／検索キーワード 障害児、教育行政、法令

授業の一般目標 障害児教育行政の基本原則について、法令の解釈に基づきつつその基礎的知識を獲得し、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児教育行政をめぐる現状と課題を総合的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 特別支援教育行政の施策を法令に基づき説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特別支援教育行政における歴史と現状をふまえて、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 特別支援教育行政に関する法令への関心を高め、学校教育における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法を説明する。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 法と国家 内容 法令の必要性を生活との関連で説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 わが国の教育行政（法と教育の関係） 内容 法令と教育行政との関連を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 わが国の特別支援教育行政（定義と課題） 内容 法令と特別支援教育行政との関連を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 わが国の特別支援教育行政（歴史と法令） 内容 明治、大正、昭和、平成に渡る特別支援教育行政の歴史と法令について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 特別支援教育諸学校の学習指導要領 内容 教科・領域を合わせた指導と教科別・領域別の指導をミックスさせた教育課程について説明する。また現在まで4回の改訂を経るに至った理由を児童生徒の障害の実態から説明する。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 障害児の就学に関わる法令 内容 就学指導に関わる法令について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 障害児の就学に関わる事例と課題（1） 内容 就学指導の事例を法令と関連させつつ、課題を含めて説明する。（1回目） 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 障害児の就学に関わる事例と課題（2） 内容 就学指導の事例を法令と関連させつつ、課題を含めて説明する。（2回目） 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 校則と法令 内容 校則にまつわる判例について、課題を含めつつ説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 体罰と法令 内容 体罰にまつわる判例について、課題を含めつつ説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 学習障害児とその周辺の児童・生徒への支援 内容 「学習障害児に対する指導について（報告）」（平成11年7月）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 特別支援教育の推進 内容 「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成15年3月）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 教師の資質 内容 今後の諸制度の変化に対応できる教師の資質について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：「教育六法」(出版社は問わない)を持参のこと。/ 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児の職業指導	区分	演習と講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害児の就労に関する近年の現状について概観した後、主として発達障害のある人を対象とした就労支援のあり方について心理学の観点から検討する。 / 検索キーワード 障害児(発達障害) 就労支援 ジョブコーチ

授業の一般目標 (1) 障害児の就労状況について知る。(2) 障害児の就労支援のために必要な条件を知る。

授業の計画(全体) 障害児の就労状況について概観した後、彼らの就労を実現するための方法論(直接支援, 間接支援を含む)について、特に心理学の観点から検討する。その際、この分野で先進的な取り組みを行っているアメリカでの実践についてビデオで紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 障害児の就職状況：概要(1)
- 第 3 回 項目 障害児の就職状況：概要(2)
- 第 4 回 項目 障害児の就労支援：事例(1)
- 第 5 回 項目 障害児の就労支援：事例(2)
- 第 6 回 項目 障害児の就労支援：事例(3)
- 第 7 回 項目 障害児の就労支援：事例(4)
- 第 8 回 項目 障害児の就労支援：事例(5)
- 第 9 回 項目 障害児の就労支援：事例(6)
- 第 10 回 項目 障害児の就労支援：事例(7)
- 第 11 回 項目 障害児の就労支援：事例(8)
- 第 12 回 項目 障害児の就労支援：事例(9)
- 第 13 回 項目 障害児の就労支援：事例(10)
- 第 14 回 項目 障害児の就労を実現するために(1)
- 第 15 回 項目 障害児の就労を実現するために(2)

成績評価方法(総合) 授業への参加態度などを中心に評価する。

開設科目	障害児教育実習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	4 単位	開設期	その他
担当教官	吉田一成・松田信夫・松岡勝彦				

授業の概要 特別支援学校教員普通免許状（養護学校教員普通免許状）取得のための教育実習を、養護学校において行う。教育実習についての事前・事後指導も含む。

授業の一般目標 正しい教育観と障害観に立ち、児童生徒の障害の実態（行動特徴や心理特性など）に応じた教育の実践ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：正しい教育観、障害観に立ち、特別支援教育に関する専門用語や指導法を理解し、学習計画案を立案できる。 思考・判断の観点：児童生徒の実態を正しく把握した上で、個に応じた適切な指導のあり方を検討・判断し、実践できる。 関心・意欲の観点：学習意欲を喚起させ、生活力を培う指導に関心を持つことができる。 態度の観点：望ましい指導のあり方を検討・実践し続けようとする態度を持続できる。 技能・表現の観点：児童生徒に対する説明、指示等について、適切な方法（具体性、わかりやすさ等）をとることができる。

授業の計画（全体） 養護学校において、実地授業を行う。また、事前指導として、授業参観や実習校の先生・大学の教員による講義、事後指導として、指定授業をめぐる検討会等が行われる。

成績評価方法（総合） 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績、及び事前・事後指導の出席状況・レポートの成績を合わせて評価を行う。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	吉田一成				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松田信夫				

授業の概要 知的障害児、肢体不自由児、病弱児、LA・ADHDのある児童生徒に対する教育に関する受講生の研究課題について、国内の研究論文を中心に購読しつつ、近年の研究動向を踏まえながら検討する。そして、研究課題を特定し、調査方法を検討し、得られた結果の整理を通して、論文形式にまとめる。口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 受講生の研究課題に関する近年の研究動向をおさえ、知的障害児、肢体不自由児、病弱児、LA・ADHDのある児童生徒に対する教育に関する研究課題の焦点化と研究方法の明確化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：主に国内の論文を購読し、その研究方法や調査内容を理解できる。

思考・判断の観点：研究課題やその調査方法について検討し、得られた結果を適切に整理し、論文形式にまとめることができる。関心・意欲の観点：研究課題、調査方法、得られた結果について主体的・意欲的に検討することができる。技能・表現の観点：得られた結果を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画(全体) 4～5月：研究論文の購読、6月：研究課題の特定、7～9月：調査方法の検討、10～11月：調査の実施、12月～1月：調査結果の分析・考察・執筆、2月：研究抄録の執筆・卒業研究発表会での発表・質疑応答

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- | | | | | |
|------|----|------------------|----|------------------------|
| 第1回 | 項目 | オリエンテーション | 内容 | 1年間の講義の目標と進め方 |
| 第2回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(1) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第3回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(2) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第4回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(3) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第5回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(4) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第6回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(5) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第7回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(6) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第8回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(7) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第9回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(8) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第10回 | 項目 | 研究論文の購読・発表・検討(9) | 内容 | 研究課題・調査方法の特定に向けた検討 |
| 第11回 | 項目 | 研究課題の検討(1) | 内容 | 研究課題の検討 |
| 第12回 | 項目 | 研究課題の検討(2) | 内容 | 研究課題の検討 |
| 第13回 | 項目 | 研究課題の検討(3) | 内容 | 研究課題の検討 |
| 第14回 | 項目 | 研究課題の検討(4) | 内容 | 研究課題の検討 |
| 第15回 | 項目 | 研究課題の検討(5) | 内容 | 研究課題の検討 |
| 第16回 | 項目 | 調査方法の検討(1) | 内容 | 調査方法の検討 |
| 第17回 | 項目 | 調査方法の検討(2) | 内容 | 調査方法の検討 |
| 第18回 | 項目 | 調査方法の検討(3) | 内容 | 調査方法の検討 |
| 第19回 | 項目 | 調査方法の検討(4) | 内容 | 調査方法の検討 |
| 第20回 | 項目 | 調査の実施(1) | 内容 | 調査(文献研究、アンケート、インタビュー等) |
| 第21回 | 項目 | 調査の実施(2) | 内容 | 調査(文献研究、アンケート、インタビュー等) |
| 第22回 | 項目 | 調査の実施(3) | 内容 | 調査(文献研究、アンケート、インタビュー等) |
| 第23回 | 項目 | 調査の実施(4) | 内容 | 調査(文献研究、アンケート、インタビュー等) |
| 第24回 | 項目 | 調査の実施(5) | 内容 | 調査(文献研究、アンケート、インタビュー等) |
| 第25回 | 項目 | 結果の整理・執筆(1) | 内容 | 卒業研究論文の執筆 |
| 第26回 | 項目 | 結果の整理・執筆(2) | 内容 | 卒業研究論文の執筆 |
| 第27回 | 項目 | 結果の整理・執筆(3) | 内容 | 卒業研究論文の執筆 |

第 28 回 項目 卒業研究抄録の執筆 内容 卒業研究抄録の執筆

第 29 回 項目 卒業研究発表会の練習 内容 発表練習

第 30 回 項目 卒業研究のまとめ 内容 1 年間のまとめ

成績評価方法 (総合) 研究課題に関する知識・理解や思考・判断力に加え、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 卒業論文指導

授業の一般目標 卒業論文を書く

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒論制作に必要な知識を身につける。 思考・判断の観点：卒論制作に必要な思考力判断力を身につける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 2 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 3 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 4 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 5 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 6 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 7 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 8 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 9 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 10 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 11 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 12 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 13 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 14 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する
- 第 15 回 項目 卒論テーマに従い、発表討議する

国際理解教育コース

開設科目	語学教授法	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 小学校における英語の指導は、現行の学習指導要領の位置づけでは「総合的な学習の時間」における国際理解教育の一環として位置づけられているが、小学生を計画的に英語に触れさせることにおいては、FLES（小学校における外国語）と大いに関連する。小学校英語活動について、国際理解教育との関係、学習者特性、教材、指導方法等について、基本的な概念を解説する。／検索キーワード 早期英語教育、小学校英語教育、小学校英語活動、総合的学習

授業の一般目標 小学校における英語指導のあり方と国際理解教育との関係について理解し、小学校英語活動の実践の基礎となる知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 小学校における英語活動の特徴を理解し、小学校における英語指導にあたって留意すべき点を説明できる。 思考・判断の観点：1. 小学校における英語活動の捉え方、活動のあり方について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：1. 様々な小学校英語活動に関心をもつ。

授業の計画（全体） 授業は、プリントを用いて教科書の内容を参照しながら進め、小学校における英語活動に関わる基礎的な事項を解説する。講義に加えて、授業実践や各活動についてのビデオ視聴も行う。（内容については授業計画を参照。）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小学校英語活動の位置づけ 内容 小学校における英語活動の位置づけについて説明する。
- 第 2 回 項目 年齢と第二言語習得 内容 年齢と第二言語習得の関係について説明する。
- 第 3 回 項目 発達段階に応じた指導 内容 小学生の発達段階に適した活動の特徴を説明する。
- 第 4 回 項目 英語活動づくりの内容と方法（1） 内容 小学生が楽しむ様々な活動と活動設定の留意点を説明する。
- 第 5 回 項目 英語活動づくりの内容と方法（2） 内容 小学生が楽しむ様々な活動と活動設定の留意点を説明する。
- 第 6 回 項目 国際理解を重視した英語活動 内容 特に国際理解を重視した英語活動について検討する。
- 第 7 回 項目 年間の活動計画と1時間の授業の組み立て 内容 年間活動計画と1時間の授業の組み立てについての留意点を説明する。
- 第 8 回 項目 教師論、チームティーチング 内容 HRT、ALT、JTEの役割や求められる資質について説明する。
- 第 9 回 項目 評価論 内容 小学校英語活動における評価のあり方について説明する。
- 第 10 回 項目 中学校との連携 内容 中学校との連携のあり方について考察する。
- 第 11 回 項目 諸外国との比較、小学校英語活動の将来 内容 諸外国の現状と比較しながら、これからの小学校英語活動の方向性とその意味について説明する。
- 第 12 回 項目 英語活動の検討（1） 内容 受講者による発表・討議
- 第 13 回 項目 英語活動の検討（2） 内容 受講者による発表・討議
- 第 14 回 項目 英語活動の検討（3） 内容 受講者による発表・討議
- 第 15 回 項目 英語活動の検討（4） 内容 受講者による発表・討議

成績評価方法（総合） 授業内での小レポート（ないしは小テスト）及び期末に課せられるプレゼンテーションの内容で評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：小学校英語教育の進め方、岡秀夫・金森強（編著）、成美堂、2006年 / 参考書：これからの小学校英語教育、樋口忠彦（編主）、研究社、2005年；この他にも授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	語学教授法演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 小学校における英語の指導は、現行の学習指導要領の位置づけでは「総合的な学習の時間」における国際理解教育の一環として位置づけられているが、小学生を計画的に英語に触れさせることにおいては、FLES（小学校における外国語）と大いに関連する。本授業は語学教授法（前期）の内容を踏まえ、実際の指導場面の検討や受講生の模擬授業を通して小学校における英語の指導のあり方について議論をし、理解を深める。／検索キーワード 早期英語教育、小学校英語学習、小学校英語活動、総合的な学習

授業の一般目標 小学校における英語指導のあり方について理解を深め、小学校英語活動の実践的な技能を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 小学校における英語活動の特徴を理解し、その留意点を説明できる。 思考・判断の観点：1. 小学校における英語活動の捉え方、活動のあり方について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：1. 様々な小学校英語活動に関心をもつ。 態度の観点：1. 他人の意見を尊重し、協調的かつ建設的な議論が行える。 技能・表現の観点：1. 模擬授業に際して、実践に必要な技術・方法を選択・適用できる。

授業の計画（全体） 授業の前半期では、小学生の英語活動に関わる指導場面を取り上げ、それについて受講者全員で討議をして検討する。後半期では、受講者は模擬授業を行い、全員で英語活動を体験し、お互いに批評し合うことを通してよりよい実践のための知識と技能を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 子どもに英語を教える 内容 授業の始め方・終わり方、教室の準備・配置
- 第 2 回 項目 英語を聞いて行動する 内容 TPR、マイムなど、体を動かす活動を中心に
- 第 3 回 項目 英語を聞いてものをつくる 内容 塗り絵、お絵かき、工作などの製作活動を中心に
- 第 4 回 項目 手助けを受けながらのスピーキング 内容 ライムや歌を用いた発音、ストレス、イントネーションの練習
- 第 5 回 項目 より自由なスピーキング 内容 子ども自身の話を引き出す活動、スピーキングゲームなど
- 第 6 回 項目 英語のリーディング 内容 音と単語の認識、フレーズごとの意味理解
- 第 7 回 項目 英語のライティング 内容 アルファベットの練習、ライティングゲーム
- 第 8 回 項目 リーディングとお話の読み聞かせ 内容 物語の読み聞かせの仕方
- 第 9 回 項目 物語を使った活動 内容 物語を用いた様々な発展的活動
- 第 10 回 項目 教室英語を効果的に使うために 内容 英語の使用、誤りへの対処
- 第 11 回 項目 模擬授業のための準備 内容 受講者による模擬授業の準備
- 第 12 回 項目 模擬授業（1） 内容 受講者による模擬授業と討議
- 第 13 回 項目 模擬授業（2） 内容 受講者による模擬授業と討議
- 第 14 回 項目 模擬授業（3） 内容 受講者による模擬授業と討議
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 これまでの内容を総括する

成績評価方法（総合） 授業内における討議への参加度、模擬授業の内容によって評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者及び模擬授業を担当しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：English for Primary Teachers, Slattery, M. & Willis, J., Oxford University Press, 2001年 / 参考書：授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamagichi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	異文化体験実習 I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	シャルコフ・ロバート				

授業の概要 Students will use the skills developed in English Communication to study other cultures as well as their own. Specifically, they will participate in a series of guided discussions and question and answer sessions in English with their classmates and people of other cultures about their daily lives and lifestyles. Students will be expected to explain in writing and in speaking what they learn about how culture influences our thoughts as well as behaviors. / 検索キーワード Intercultural Understanding, Intercultural Communication

授業の一般目標 Students will develop their own definition of culture and become aware of a number of specific ways it effects their lives and thinking. They will become more aware of the differences and similarities between theirs and other cultures and through this process learn more about what it means to be Japanese.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand that people of different cultures may view the same object or concept in quite different ways. **思考・判断の観点:** To begin looking at differences and similarities in an objective rather than subjective way **関心・意欲の観点:** To show interest in others ' as well as one 's own culture. **態度の観点:** To actively engage with classmates and guests in English. **技能・表現の観点:** To use skills developed in English Communication to interact with classmates and people from other countries in discussions, etc., in English about culture.

授業の計画 (全体) Classes will meet once a week. Guests from approximately three different countries will be invited to participate in three classes spaced throughout the semester. Students will reflect on the information gathered during those three classes in the class immediately following each. Other classes will be devoted to discussions on various aspects of daily life and how they relate to culture.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 What is culture? 内容 Three or four activities designed to help students make an initial definition of culture. 授業外指示 Short Essay 1- What is culture? 授業記録 Notes from class.
- 第 2 回 項目 How does culture effect the way we view things? 内容 Students will participate in a short experiment that will challenge them to view things in a different way than they are accustomed to. 授業外指示 Short Essay 2- Why are there differences in the way we view things? < BR > Research USA 授業記録 Notes from class.
- 第 3 回 項目 Guest 1- USA 内容 Question and answer session with a guest from the USA. 授業外指示 Short Essay 3- Impressions from class 授業記録 Notes from class.
- 第 4 回 項目 Reflections on Guest 1 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Short Essay 4- What 's in a name? 授業記録 Notes from class.
- 第 5 回 項目 What 's in a name? 内容 Students will present their homework to the class. 授業外指示 Short Essay 5- How does culture influence names? < BR > Research Asian country 授業記録 Notes from class.
- 第 6 回 項目 Guest 2- Asia (予定) 内容 Question and answer session with a guest from a country in Asia. 授業外指示 Short Essay 6- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 7 回 項目 Reflections on Guest 2 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Write a family flowchart in Japanese. 授業記録 Notes from class.

- 第 8 回 項目 Families 内容 A look at the way we talk about and organize our families as related to where we live. 授業外指示 Short Essay 7- Why are American families organized the way they are? 授業記録 Notes from class.
- 第 9 回 項目 Families 内容 A look at extended families and the relationships and obligations within them. 授業外指示 Short Essay 8- Why are Japanese families organized the way they are? < BR > Research African or European country. 授業記録 Notes from class.
- 第 10 回 項目 Guest 3- Africa or Europe (予定) 内容 Question and answer session with a guest from a country in Africa. 授業外指示 Short Essay 9- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 11 回 項目 Reflections on Guest 3 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Research Christmas and develop questions about it. 授業記録 Notes from class.
- 第 12 回 項目 Christmas in the US 内容 Students will use the teacher as a cultural informant to answer their questions about Christmas. 授業外指示 Short Essay 11- Christmas in the US- impressions. < BR > How does your family spend the New Year Holidays? (Shadow writing) 授業記録 Notes from class.
- 第 13 回 項目 New Year in Japan 内容 Students will share their essays in class. They will explain why they celebrate the New Year the ways they do. 授業外指示 Short Essay 12- Why do Japanese people celebrate the New Year Holidays the way they do? 授業記録 Notes from class.
- 第 14 回 項目 Houses in Japan 内容 Students will participate in an activity designed to explore living environments in Japan. 授業外指示 Short Essay 13- Impressions from class. 授業記録 Notes from class.
- 第 15 回 項目 Reflections on previous class and synthesis of the semester 内容 Students will share their essays in class. Discussion on the topics presented will follow. 授業外指示 Final Report- Based on our class discussions, etc., what is culture and how does it effect our daily lives? 授業記録 Notes from class.

成績評価方法 (総合) Students will be graded on four criteria, class participation, short essays, a final report and attendance. The class participation criterion will be the result of joint evaluation by the teacher and the students.

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ Students will be expected to prepare for and actively participate in each class as well as complete all homework assignments.

連絡先・オフィスアワー rjs2@fis.ypu.jp

開設科目	異文化体験実習 II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	石井由理, 小粥 良				

授業の概要 海外への異文化体験海外研修を実施し、多民族が共生する多民族複合社会の実態、生活様式や文化の相異等を体験的に学習し、自国文化や自己自身に対する認識を高め、異文化理解や国際理解の基礎的素養を養成する。事前に準備のための授業を行い、訪問国について様々な側面から調査し、現地言語の基礎的日常生活会話を学習する。事後に、海外研修の報告会を実施し、グループ研究・個人研究等を含む報告書を作成する。

授業の一般目標 異文化について体験的な知識を得る。事前研修をしてから行くことによって、準備・調査の大切さを知る。世界の地理・歴史、また国際社会についての見聞を広める。言葉が通じにくい状況での現地の人々との交流を通して、コミュニケーション能力を磨く。団体行動の規律を学ぶ。様々な予定を遂行していく課程で、自主性と協力の大切さを学ぶ。異文化との触れ合いとは詰まるところ人間との触れ合いであることを知り、他者に対する配慮と礼儀の大切さを学ぶ。長い研修旅行中、自己管理の大切さを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：訪問国の社会、歴史、文化について一定の知識を得る。大使館、国際機関等の見学を通して、国際機関の役割について一定の知識と理解を得る。思考・判断の観点：その国の人々から見た場合、世界の情勢はどのように見えるかということを探察することができる。歴史的文脈の中で、その国の文化的事象を論理的に考えられるようになる。その国の人々の生活感情が理解でき、それに配慮した行動が取れる。関心・意欲の観点：事前研修から積極的に訪問国について調査する。現地の人々との交流の機会には、積極的にコミュニケーションを図る。態度の観点：事前研修も既に研修旅行の一部と心得て、欠かさず出席する。海外研修旅行中は、団長の指示に従って、規律ある行動を取れる。技能・表現の観点：事後の報告書を作成するにあたって、事前研修および海外研修旅行を通して得た知識と体験を、論理的かつ興味深い文章にまとめあげることができる。また、帰国報告会で印象的でわかりやすい発表を行うことができる。

授業の計画（全体） 海外研修旅行に行く前の事前研修、海外研修旅行本番（2～3週間）、研修旅行後の事後活動から成る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 概要説明 内容 海外研修の趣旨、事前・事後の研修内容、旅行手続き日程等
- 第 2 回 項目 事前研修（1） 内容 現地言語の簡単な会話練習現地事情についての説明グループ分けとグループでの調査課題の割り振り（歴史、社会・経済、宗教、教育制度など）
- 第 3 回 項目 事前研修（2） 内容 会話練習グループ発表 1
- 第 4 回 項目 事前研修（3） 内容 会話練習グループ発表 2
- 第 5 回 項目 事前研修（4） 内容 会話練習グループ発表 3
- 第 6 回 項目 事前研修（5） 内容 渡航についての説明と注意事項
- 第 7 回 項目 海外研修旅行 内容 夏休みまたは春休み中に 2～3 週間程度実施
- 第 8 回 項目 事後活動 内容 報告書作成
- 第 9 回 項目 事後活動 内容 報告書作成
- 第 10 回 項目 事後活動 内容 報告書作成
- 第 11 回 項目 事後活動 内容 報告書作成
- 第 12 回 項目 事後活動 内容 報告書作成
- 第 13 回 項目 事後活動 内容 研修旅行報告会（
- 第 14 回 項目 事後活動 内容 研修旅行特別授業
- 第 15 回 項目 事後活動 内容 報告書の提出

成績評価方法（総合） 成績は、事前研修での課題に対する積極的な取り組みとその出来栄え、海外研修旅行本番での参加態度、事後活動（研修旅行報告書、報告会、特別授業）の出来栄えによって評価する。

メッセージ 海外研修は観光旅行ではないことをよくわきまえて、秩序ある行動を取ってください。現地でのホームステイは、きっと生涯忘れることのない貴重な経験になるでしょう。

連絡先・オフィスアワー 小粥 良 (内線)5434 石井由理 (内線)5423

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	国際理解教育論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育を実践するにあたり、必要とされる国際的な課題に関する基礎的な知識や理論を学ぶとともに、それをわかりやすく人に教える方法について検討する。

授業の一般目標 国際理解教育とは何かを理解する。国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる 国際理解教育を学校で行う際の計画をたてる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育の理念と歴史を理解する。地球的な課題について理解し、自分の意見がもてる。 思考・判断の観点：学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。批判的に考えることができる。 関心・意欲の観点：学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。複雑な国際問題を理解しようとする。 態度の観点：授業中に行われる討論や活動に主体的に参加できる。 技能・表現の観点：自分の考えた授業について、わかりやすく記述し、発表することができる。

授業の計画（全体）いくつかの国際的な課題の事例をとりあげ、それらのもつ複雑な構造を資料の講読、討議、ビデオの視聴、ワークショップを通して整理し、理解をすすめていく。また、その際に用いられる方法などを参考にし、受講生が自分の関心のある問題についての授業を構成し、発表する。

成績評価方法（総合）授業中に発表する各自の授業の指導案とそれをまとめたレポートによる総合評価

教科書・参考書 教科書：事例に応じた資料をプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部200-1研究室 初回授業時に指示。

開設科目	国際理解教育演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育を実践するにあたって必要な社会発展に関する知識を、文献講読を通して身につける。受講者は各自分担の箇所を発表するとともに、討議に参加する。

授業の一般目標 社会の発展に関する理論の変遷を理解する。開発と環境にかかわる問題の複雑さを理解する。上記の問題に関し、自分なりの意見を持ち、述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会の発展、開発と環境に関する基本的な知識を得る 思考・判断の観点：社会の発展、開発と環境について、自分なりの考えをもつことができる。 関心・意欲の観点：社会の発展、開発と環境について、さらに学ぼうという関心、意欲をもつ。 技能・表現の観点：自分の学んだ内容や考えたことについて、わかりやすく人に伝えることができる。

授業の計画(全体) 毎回、指定された文献を講読していく。各週の担当を決め、内容をまとめたレジュメを作って発表をし、参加者全体で内容について討議する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 3 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 4 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 5 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 6 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 7 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 8 回 項目 教育実習 内容 教育実習
- 第 9 回 項目 教育実習 内容 教育実習
- 第 10 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 11 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 12 回 項目 発表、討議 内容 文献の内容発表と討議
- 第 13 回 項目 文献から学んだことをどのように授業に反映させるかの討議 内容 討議
- 第 14 回 項目 文献から学んだことをどのように授業に反映させるかの討議 内容 討議
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中の発表と学期末のレポートによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：開発学を学ぶ人のために、菊池京子、思想社

連絡先・オフィスアワー 初回授業時に指示。教育学部 200 - 1 研究室。

開設科目	教育環境形成論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 アジアの国から、特に、シンガポール、マレーシア、中国、台湾を取り上げ、美術と美術教育について解説する。さらにマレー語の初歩の学習を行う。

授業の一般目標 アジアの文化の特質を知る。初歩マレー語を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アジアの文化の特質を理解する。 関心・意欲の観点：アジア地域への関心を高める。 技能・表現の観点：初歩マレー語を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 シンガポール美術教育 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 マレーシア美術教育 1
- 第 4 回 項目 同上 2
- 第 5 回 項目 中国美術教育 1
- 第 6 回 項目 同上 その 2
- 第 7 回 項目 マレー文化とマレー語その 1
- 第 8 回 項目 同上 その 2
- 第 9 回 項目 同上 その 3
- 第 10 回 項目 同上 その 4
- 第 11 回 項目 同上 その 5
- 第 12 回 項目 同上 その 6
- 第 13 回 項目 同上 その 7
- 第 14 回 項目 同上 その 8
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業態度、レポート、発言によって評価する。

開設科目	異文化学習論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 異文化および異文化理解に関する理論や事象についての講義を行う。適宜受講生による討議・エクササイズを取り入れ、受講生による各事項に関する理解を深める。 / 検索キーワード 国際理解教育、異文化

授業の一般目標 文化および異文化理解に関する基礎的な事項を理解する。理解した事項を実際の社会問題と結びつけて考えることができる。自分自身を客観的に見つめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化理解に関する語句、概念、理論を説明できる 思考・判断の観点：学んだ概念や理論を実際の社会問題に当てはめて考え、自分の意見を述べる ことができる。 関心・意欲の観点：学んだことを自分の日常生活に当てはめて考えることができる。 態度の観点：討議、エクササイズに参加できる 技能・表現の観点：自分の意見をはっきりと論理的に伝えることができる メディアの持つメッセージの意図を見出すことができる

授業の計画(全体) 異文化理解にかかわる様々な用語や概念、理論について、文献や新聞記事、ビデオを用いて解説する。適宜学生によるエクササイズや討議を取り入れ、学生が学んだ内容の理解を深め、自分自身を客観的に見つめることができるように、手がかりを与える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 なぜ異文化学習か 内容 授業全体のオリエンテーションと、文化をめぐる具体的な問題の事例
- 第 2 回 項目 文化とは 内容 前週の事例から、文化とは何かについての理解を深める。
- 第 3 回 項目 文化とは 内容 文化の定義を通して理解を深める。
- 第 4 回 項目 アイデンティティー 内容 民族的なアイデンティティーを中心に、アイデンティティーとは何かを考える
- 第 5 回 項目 クレオル文化 内容 クレオル文化を通して、文化的アイデンティティーの多層性を考える
- 第 6 回 項目 文化相対主義 内容 文化に関する文献を読む。ビデオを使って討論を行う。
- 第 7 回 項目 文化相対主義 内容 前週の続き。
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 文化多元主義 内容 文化多元主義に関する文献を読む
- 第 10 回 項目 エスノセントリズム 内容 エスノセントリズムに関する文献を読む
- 第 11 回 項目 ステレオタイプ 内容 音楽、映画を通してステレオタイプを考える
- 第 12 回 項目 偏見 内容 偏見に関する文献を読む
- 第 13 回 項目 エスニシティー 内容 エスニシティーとは何かを事例を通して考える
- 第 14 回 項目 マイノリティー 内容 マイノリティーの視点から書かれた文献を読む
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 講義の内容についての中間試験および期末のレポートによる

教科書・参考書 教科書：プリント等を用いる / 参考書：多文化・多言語主義の現在, 西川長夫, 他, 人文書院, 2000年; 異文化コミュニケーション教育, 青木順子, 溪水社, 1999年; マルチカルチュラル・オーストラリア, 関根政美, 成文堂, 1996年

メッセージ 参考文献を自主的に読みすすめること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 2階 200 - (1) オフィスアワーは初回授業に伝達

開設科目	欧米文化論 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

授業の概要 本年度の欧米文化論 I では、主としてアメリカ合衆国を取り上げる。配布するテキストや授業内に見るビデオなどを通して、アメリカの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。植民地時代、独立革命、西部開拓、フロンティアの消滅と外部への拡張、移民、20 年代の繁栄、大恐慌時代、人種問題、公民権運動、女性の権利拡張、ベトナム戦争と若者の反抗、アジア系移民などのテーマを取り上げる。

授業の一般目標 文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、アメリカ合衆国という国がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。多くのエスニシティを抱えるアメリカ社会の歴史の変遷を知ること、多民族共生の道への洞察を得る。人種差別撤廃、女性差別撤廃が、人権の拡張という観点から類似した問題であることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカの歴史的形成についての知識を得る。 思考・判断の観点：歴史的な事象が今日のアメリカ社会の形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 関心・意欲の観点：参考文献、インターネットなどを調査し、アメリカについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 態度の観点：与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

授業の計画 (全体) 教科書は笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』(ミネルヴァ書房、2002 年)であるが、必ずしも教科書全体を扱わない。テーマに沿って適宜、関連するビデオ、他の出典から取った配布資料を用いる。しかし、教科書はアメリカについての様々な言説を理解するための良い入門書なので、各自どんどん自分で読んでいき、学期中に読了することをお薦めする。授業で取り上げる話題は計画では以下の通りであるが、授業の流れによって、多少の変更がありうる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英領植民地時代 初期 ピルグリム・ファーザーズとプリマス植民地 内容 教科書 pp.24-43 授業外指示 図書館やインターネットでピルグリム・ファーザーズやピューリタンについて調べてみよう。
- 第 2 回 項目 ピューリタニズム ホーソン『緋文字』の世界 (1) 内容 ビデオ 授業外指示 ナサニエル・ホーソンと『緋文字』について 百科事典、文学辞典等で調べてみよう。
- 第 3 回 項目 ピューリタニズム ホーソン『緋文字』の世界 (2) 内容 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.2-22 を読んでおこう。
- 第 4 回 項目 独立革命 内容 教科書 pp.2-22 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.46-68 を読んでおこう
- 第 5 回 項目 西部開拓 「明白なる天命」先住民の排除 内容 教科書 pp.46-68 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.94-113 を読んでおこう
- 第 6 回 項目 奴隷制と南北戦争 ジャズの歴史 内容 教科書 pp.94-113 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.70-91 を読んでおこう
- 第 7 回 項目 移民 多民族社会アメリカ 内容 教科書 pp.70-91 ビデオ
- 第 8 回 項目 20 年代の繁栄 30 年代の大恐慌 内容 ビデオ 配布資料
- 第 9 回 項目 公民権運動 (1) 内容 配布資料 ビデオ 授業外指示 マーティン・ルーサー・キング 牧師についてインターネットで調べてみよう
- 第 10 回 項目 公民権運動 (2) 内容 配布資料 ビデオ 授業外指示 マルコム・X についてインターネットで調べてみよう
- 第 11 回 項目 女性解放運動 内容 教科書 pp.204-223 授業外指示 イブセンの『人形の家』が日本に与えた影響について調べてみよう
- 第 12 回 項目 ベトナム戦争と若者の反抗 内容 教科書 pp.158-179 授業外指示 ミュージカル映画『ヘア』をレンタル・ビデオで借りて見てみよう。

- 第13回 項目 アジア系移民 内容 配布資料 授業外指示 ロサンジェルス のリトル・トー キョーと国立日
系人博物館についてインターネ ットで調べてみ よう。
- 第14回 項目 エスニシティー と文化的多元性 内容 教科書 pp.226- 246
- 第15回 項目 レポート提出

成績評価方法 (総合) 期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：概説アメリカ文化史，”笹田直人，堀真理子，外岡尚美編著”，ミネルヴァ書房，2002
年； 笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002 / 参考書： 物語アメリカの歴史：
超大国の行方 (中公新書；1042)，猿谷要著，中央公論社，1991年； 猿谷 要『物語アメリカの歴史』中央
公論新社、1991

メッセージ アメリカについて授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室(国際理解教育資料室向かい) 木曜日 16:00 - 17:00

開設科目	欧米文化論 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

授業の概要 欧米文化論 II では、ヨーロッパを取り上げる。教科書、配布するテキスト、授業内に見るビデオなどを通して、ヨーロッパの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。

授業の一般目標 文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、ヨーロッパという地域がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。 思考・判断の観点：歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 関心・意欲の観点：参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 態度の観点：与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

授業の計画（全体）ヨーロッパの文化や社会を構成する要素としての宗教、言語、歴史的背景、現在の時事問題などについての洞察を深めるために、いくつかのテーマを採り上げ、それぞれのテーマについてプリント、パワーポイント、ビデオなどを用いて解説する。テーマについてより深く調べるために、様々な課題を与え、調べてきたことを授業中に発表してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ヨーロッパの国々(1) 内容 教科書 pp.3-46 発表についての指示
- 第 2 回 項目 ヨーロッパの国々(2) 内容 ビデオ
- 第 3 回 項目 ヨーロッパの国々(3) 内容 発表
- 第 4 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (1) 内容 教科書 pp.49-74
- 第 5 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (2) 内容 ビデオ
- 第 6 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (3) 内容 発表
- 第 7 回 項目 非ヨーロッパ圏から考えるヨーロッパ 内容 教科書 pp.75-93
- 第 8 回 項目 EU の歴史と現在 内容 教科書 pp.94-121
- 第 9 回 項目 ヨーロッパの言語 内容 教科書 pp.122-144
- 第 10 回 項目 ヨーロッパ多言語主義の可能性 内容 教科書 pp.145-175
- 第 11 回 項目 ヨーロッパの神話と民話 内容 教科書 pp.176-222
- 第 12 回 項目 ヨーロッパの思想 内容 教科書 pp.240-274
- 第 13 回 項目 ヨーロッパとキリスト教 内容 教科書 pp.275-345
- 第 14 回 項目 東アジアとヨーロッパ 内容 教科書 400-437
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） 授業内の発表、授業や課題に対する熱意ある取り組み、期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：ヨーロッパ学入門，武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編，朝日出版，2005年；教科書については、初回の授業時に書店に来てもらい、教室で販売します。

メッセージ 授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。図書館やインターネットを活用しましょう。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室（国際理解教育資料室向かい） 木曜日 16：00 - 17：00

開設科目	アジア・アフリカ言語文化入門	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。その後、リンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。/
検索キーワード アフリカ、リンガラ語

授業の一般目標 リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。 関心・意欲の観点：アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。 技能・表現の観点：初歩的なリンガラ語を話すことができる。

授業の計画(全体) アフリカで話されている言語についての基礎的な知識をまず学ぶ。その後、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。次に、リンガラ語を話している人たちの文化について歌やことわざを通して学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アフリカで用いられている言語の分類
- 第 2 回 項目 アフリカの多民族国家における言語使用
- 第 3 回 項目 スワヒリ語とスワヒリ文化
- 第 4 回 項目 リンガラ語文法(1)発音、主辞と動詞
- 第 5 回 項目 リンガラ語文法(2)be動詞と挨拶
- 第 6 回 項目 リンガラ語文法(3)動詞の時制による変化
- 第 7 回 項目 リンガラ語文法(4)不規則活用の動詞
- 第 8 回 項目 リンガラ語文法(5)接頭辞と数字
- 第 9 回 項目 リンガラ語文法(6)疑問詞
- 第 10 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(1)
- 第 11 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(2)
- 第 12 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む(3)
- 第 13 回 項目 リンガラ語のことわざ(1)
- 第 14 回 項目 リンガラ語のことわざ(2)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末試験と授業の内容に関する小レポートを数回課し、それらにより評価する。特別な理由なく5回以上欠席したものは失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業ではプリントを用いる。 / 参考書：アフリカをフィールドワークする, 梶茂樹, 大修館書店, 1993年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 266号室 オフィスアワー 随時

開設科目	異文化学習演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

授業の概要 文化の違いに対する意識が歴史的にどのように形成されてきたのか、ヨーロッパを事例に考察する。普遍的「文明」と個別・特殊的「文化」の相克について考察する。個を支えるものとしての帰属意識(アイデンティティー)が、同時に個を集団に縛るものともなりうることを理解する。個別的な民族・集団の独自文化に対する権利と、世界全体のための「平和の文化」という考えが、いかに両立し得るかを考察する。 / 検索キーワード 異文化、統合、民族、アイデンティティー・ポリティクス、他者、対話

授業の一般目標 ヨーロッパにおいて、統合への動きと分離独立の要求という矛盾が、なぜ並行的に生じているのか理解する。また、世界のさまざまな民族紛争について理解する。自分の生きている社会と学んだ事例との関連に気づく。授業で得た知識をもとに、自分で関心のあることを調査し、発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民族問題の歴史的背景についての知識と理解を深める。世界の民族間問題についての知識を得る。個人個人に「平和の文化」を育てることの大切さを理解する。思考・判断の観点：民族問題・宗教紛争の原因や現状について考え、自分の意見をもつことができる。問題の理解のために適切な資料かどうかを判断することができる。関心・意欲の観点：関心をもって調査できる。他の問題についても関心を持つ。態度の観点：個人として「平和の文化」に貢献しようとする態度をもつ。技能・表現の観点：調べたことを論理的にわかりやすく伝えることができる。様々な方法で情報収集ができる。

授業の計画(全体) 受講生が自分たちで学んでいく姿勢を重視する。テーマごとにビデオや文献を用いて基本的な解説をしたのちに、学生による調査、発表を行う。学期末には、授業を通して得た知識、考えたことを生かして、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 多神教と一神教—ローマを事例として
- 第 2 回 項目 中心はどこか—キリスト教の東西分裂
- 第 3 回 項目 宗教による対立・迫害の歴史
- 第 4 回 項目 発表 1
- 第 5 回 項目 発表 1
- 第 6 回 項目 EU 統合と民族
- 第 7 回 項目 東欧地域での民族主義の高まり
- 第 8 回 項目 発表 2
- 第 9 回 項目 発表 2
- 第 10 回 項目 EU 内でのイスラム教徒
- 第 11 回 項目 旧ユーゴスラビア
- 第 12 回 項目 ロシアとウクライナ
- 第 13 回 項目 発表 3
- 第 14 回 項目 発表 3
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 演習および学期末レポートによる

教科書・参考書 教科書：プリント等を用いる / 参考書：『新しい民族問題』梶田孝道、中央公論新社、1993年。『文化とは』レイモンド・ウィリアムズ、晶文社、1985年。『統合ヨーロッパの民族問題』羽場久美子、講談社、1994年。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 2階 200 - (4) 室 オフィスアワー：木曜 16:00-17:00

開設科目	英語コミュニケーション	区分	演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	シャルコフ・ロバート				

授業の概要 Through interaction with their classmates, teacher and learning materials used in class, students will work intensively on speaking and listening in English. They will be challenged to use English in a practical and more active way while reviewing the basic structures, tenses and sounds of English. The style of instruction used in class will help students begin to learn how to correct their own English. In addition to class work, students can expect to work approximately one hour on homework every week. / **検索キーワード** English, Communication, Foreign Language

授業の一般目標 Students will learn to USE basic English expressions accurately and with clear pronunciation to tell others what they see, feel, think or have experienced. They will also learn how to ask and respond to questions or statements appropriately and with a certain amount of speed and assertion.

授業の到達目標 / **思考・判断の観点** : To be able to make correct decisions regarding the use of singular/plural, articles, tenses, subject verb agreement, use of pronouns, relationship between speakers, etc. **関心・意欲の観点** : To learn how to use new expressions as well mastering ones already known. **態度の観点** : To actively and assertively use English in class with classmates and teacher. **技能・表現の観点** : To be able to use the expressions and sounds practiced in class correctly and to make timely and appropriate response to questions and statements in English

授業の計画(全体) Classes will meet once weekly. The first two or three classes will be used to help students start using natural English pronunciation and intonation. Following this, students will begin to explore the tense system of English. They will use their own experiences to learn how time relates to tense in English. Then, they will use that know-how to make questions and respond to others' statements. Throughout this time, students will constantly check their understanding of the basic structures of English. Finally, students will work on the timing of questions and responses to others' statements and questions.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Pronunciation 内容 Students will become more aware of the realities of English pronunciation through use of special Word Charts. **授業記録** Students will record any challenging patterns or passages in their notebooks.
- 第 2 回 項目 Pronunciation 内容 Students will have more opportunities to practice English sounds. **授業記録** Same as above.
- 第 3 回 項目 Time and tense 内容 Students will begin exploring present and past tenses using the Verb Chart. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher. These sentences must be true and about themselves. **授業記録** Students will record sentences spoken in class, noting new discoveries, etc.
- 第 4 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the simple past and present tenses. **授業外指示** Same as above. **授業記録** Same as above.
- 第 5 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore present and past progressive. **授業外指示** Same as above. **授業記録** Same as above.
- 第 6 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past progressive and present perfect. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher and 10 questions in the present perfect. **授業記録** Same as above.
- 第 7 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the present perfect progressive. **授業外指示** Students will prepare 10 sentences in the tense indicated by the teacher. These sentences must be true and about themselves. **授業記録** Same as above.

- 第 8 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past perfect. 授業外指示 Same as above. 授業記録 Students will construct a detailed time line of their day.
- 第 9 回 項目 Time and tense 内容 Students will explore the past perfect progressive. 授業外指示 Students will write a short self-introduction which incorporates all of the tenses and structures practiced in class. 授業記録 Students will construct a comparative time line focusing on their and their teacher 's life experiences.
- 第 10 回 項目 Questions 内容 Working in the tenses practiced in class, students will begin constructing yes/no and information questions in each of the eight tenses. These questions will be directed to the teacher. 授業外指示 Based on the answers to the yes/no questions asked in class, students will need to prepare 10 questions designed to get more information about the yes/no answers. 授業記録 Students will record questions and answers to their questions to the teacher.
- 第 11 回 項目 Questions 内容 Same as above 授業外指示 Same as above. 授業記録 Same as above.
- 第 12 回 項目 Questions 内容 Students will expand the activity to include questions to their classmates as well as teacher. 授業外指示 Students will work on anticipating answers to yes/no questions and constructing information questions. 授業記録 Students will record the questions to the their classmates as well as the answers from them.
- 第 13 回 項目 20 Questions 内容 Students will begin to integrate the skills in speaking and answering questions that they have gained in a modified version of 20 Quesitons. 授業外指示 Students will prepare 5 sentences about things that are interesting facts about themselves, e.g., things they do well, things no one knows about them, etc. 授業記録 Students will record any new or challenging patterns encountered in class.
- 第 14 回 項目 Who is lying? 内容 Students will continue to practice the timing of their questions and or responses in a game-like activity using their homework from the previous week. 授業外指示 Prepare portfolio for the final class. 授業記録 Same as above.
- 第 15 回 項目 Who is lying? 内容 Same as above. 授業記録 Same as above.

成績評価方法 (総合) Students grades will be based on four criteria, class participation, homework, a portfolio of all of their work from in and out of the classroom and attendance. The first criterion, class participation, will be the result of combined teacher and student evaluation done at the end of each class during the term.

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ Students are expected to actively participate in each class, finish each homework assignment and use English when interacting with their teacher and classmates during class.

連絡先・オフィスアワー rjs2@fis.ypu.jp

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 [See also the note under Oral III] All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on pronunciation will be expected. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.

授業の一般目標 Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The student should take as much advantage of that as they can.

授業の計画 (全体) The course book presents in each chapter a different grammatical/converational feature. These will be studied in order.

成績評価方法 (総合) Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted. This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の計画 (全体) See Spoken English I

成績評価方法 (総合) See Spoken English I

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	オーラル II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 [See also the note under Oral III] As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted. This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の計画 (全体) See Spoken English I

成績評価方法 (総合) See Spoken English I

教科書・参考書 教科書 : to be announced, ,

開設科目	ライティング I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	LESAGE DAVID				

授業の概要 The keynote of this course is grammatical accuracy. Awareness of the contrastive grammar of English and Japanese can do much to alleviate problems of native-language interference in composition. So many areas of English grammar provide these contrasts - articles, plurals, countability, parts of speech and so on - and the students will be continually practised in handling these difficult features. Each week a grammatical topic will be dealt with and students will be expected to submit a short essay (not less than 200 words) demonstrating their grasp of the problem. A lively range of topics will be decided by this continuous assessment and on the basis of a 500-word essay to be submitted at the end of the course.

成績評価方法 (総合) Continuous assessment, レポート

教科書・参考書 教科書：プリント配布, ,

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	小粥 良				

授業の概要 卒業論文の作成のため、通年で週一度、指導を行う。

授業の一般目標 大学生活でこれまで学んできた知識と技能を総動員して、一つのテーマの下に調査と研究を行い、独自の視点から論理的・客観的な論述にまとめあげる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査した資料、文献をよく理解する。テーマに関わる事柄をよく調べ、把握しする。 思考・判断の観点：調べた事柄を、自身の観点から論理的に分析し整理する。論理的で説得力のある主張を行う。 関心・意欲の観点：テーマに関連する文献、資料を積極的に調査する。 態度の観点：決められた期日までに与えられた課題を完成する。テーマに真剣に取り組む。 技能・表現の観点：論理的・客観的な方法でテーマにアプローチできる。事柄を論理的に整理できる。結論にいたるまでの論証を明晰に行える。

授業の計画(全体) 週一度、研究室で指導を行う。まず論文のテーマを絞り込んでいくことから始める。テーマの決定、テーマへのアプローチ方法、文献調査法、アウトラインの作成を経て、具体的な調査と論究へと段階的に進む。具体的な進行は、テーマにより、またそれに取り組む学生本人次第で異なってくるので、何日に何を行うとは明記できない。学生の研究の進捗状況を見ながら、次になすべき課題を与える。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 指導と討議
- 第2回 項目 指導と討議
- 第3回 項目 指導と討議
- 第4回 項目 指導と討議
- 第5回 項目 指導と討議
- 第6回 項目 指導と討議
- 第7回 項目 指導と討議
- 第8回 項目 指導と討議
- 第9回 項目 指導と討議
- 第10回 項目 指導と討議
- 第11回 項目 指導と討議
- 第12回 項目 指導と討議
- 第13回 項目 指導と討議
- 第14回 項目 指導と討議
- 第15回 項目 指導と討議
- 第16回 項目 指導と討議
- 第17回 項目 指導と討議
- 第18回 項目 指導と討議
- 第19回 項目 指導と討議
- 第20回 項目 指導と討議
- 第21回 項目 指導と討議
- 第22回 項目 指導と討議
- 第23回 項目 指導と討議
- 第24回 項目 指導と討議
- 第25回 項目 rough draft の提出
- 第26回 項目 校正と書き直し
- 第27回 項目 校正と書き直し

第 28 回 項目 校正と書き直し

第 29 回 項目 校正と書き直し

第 30 回 項目 最終稿の提出

成績評価方法 (総合) 最終的な生産物としての卒業論文の完成に至るまでのプロセスを重視する。正しいアプローチで、調査を計画し実行することができるか、またそのために文献・資料をしっかりと調査することができるかというような点も評価の対象である。決められた期日までに課題を提出することも重要である。しかし、一番重要なのは、最終的に完成した論文の完成度である。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室 木曜日 16:00-17:00

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	石井由理				

授業の概要 担当学生の発表および発表に対する全員による討議と、学生個々の個別指導で進める。 / 検索キーワード 国際理解教育

授業の一般目標 卒業研究のテーマ、目的、研究方法、研究計画を各自で明確にし、説明できるようにする 文献や他の資料の入手方法を修得する 批判的な読み方や考え方を修得する 自身の論文にとって適切な調査方法を修得する 論文の構成を考え論理的な展開と表現方法を身につける 論文発表を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の論文テーマについての知識をもち、その内容を理解できる。

思考・判断の観点：卒業研究として適切な論文テーマを選び、批判的な思考に基づいた議論を展開できる。 態度の観点：論文作成に真摯な態度で取り組むことができる。 技能・表現の観点：自分の主張を根拠に基づいて記述、発表できる。

授業の計画(全体) 前半は主として学生の発表と討議によって進め、論文のテーマを絞り、研究方法を決めていく。後半は個々の学生の論文の内容を個人指導と全体での討議で進める。

成績評価方法(総合) 論文および発表による総合評価

連絡先・オフィスアワー アポイントメントにより適宜

学校教育教員養成課程（高一種免情報）

開設科目	情報通信ネットワーク論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 通信ネットワークの仕組み、ネットワークシステムの構成、コミュニケーションおよびセキュリティについて講義し、また、ネットワークの構築およびクライアントの設定に関する実習も行う。

授業の一般目標 通信ネットワークの基本原則およびその利用に関する基本知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 情報通信ネットワークの概要から、インターネットの構成要素やインターネットの各種サービスやネットワーク通信の基本原則の原理などについて講義する。また関連の実習も行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目1.基礎的事項のまとめ
- 第2回 項目2.情報通信ネットワークの概要
- 第3回 項目3.ネットワークの接続方法
- 第4回 項目4.インターネットの構成要素
- 第5回 項目5.インターネットの各種サービス
- 第6回 項目6.ネットワーク通信の基本原則
- 第7回 項目7.通信プロトコルの構成および役割
- 第8回 項目8.IPアドレスとルーティング
- 第9回 項目9.通信のセキュリティ
- 第10回 項目10.暗号の役割とその利用法
- 第11回 項目11.ネットワークの基本構築法
- 第12回 項目12.サーバの構築とその設定
- 第13回 項目13.クライアントの設定項目
- 第14回 項目14.クライアントの設定方法
- 第15回 項目15.総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートなどによる総合評価 = 100%

メッセージ Linux インストール済みのノートパソコンを用意すること

開設科目	情報処理言語 I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 最も一般的なプログラミング言語である C 言語を学習する。文法、変数、関数等の基礎知識を学習した後、実際にプログラミングを行い、ソフトウェア作成の基本的技術を習得する。

授業の一般目標 プログラミングの基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら、新しい課題に取り組もうとしているか？ 態度の観点：出席し、レポートを提出しているか？

授業の計画（全体） 変数，配列，制御，関数，ポインタまで

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語の文法
- 第 2 回 項目 データ型と変数
- 第 3 回 項目 制御構文
- 第 4 回 項目 制御構文 II
- 第 5 回 項目 配列
- 第 6 回 項目 配列 II
- 第 7 回 項目 ポインタ
- 第 8 回 項目 ポインタ II
- 第 9 回 項目 関数
- 第 10 回 項目 関数 II
- 第 11 回 項目 関数 III
- 第 12 回 項目 総合演習
- 第 13 回 項目 総合演習
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ 追試，再試の類は行いません。

開設科目	情報電子回路	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	教育情報処理論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 情報処理技術者試験の基本情報(午前)問題を取り上げ、情報科学・計算機科学の基礎的事項について学ぶ。また、それにかかわる実習を行う。/検索キーワード 基本情報、情報処理技術者試験

授業の一般目標 情報処理技術者試験の基本情報(午前)問題が合格点に達するようになる。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 基本情報に関する知識を蓄える。

授業の計画(全体) 基本情報の午前の問題で要求される内容について説明します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 コンピュータとその利用
- 第3回 項目 ハードウェアの基礎(その1)
- 第4回 項目 ハードウェアの基礎(その2)
- 第5回 項目 ソフトウェアの基礎(その1)
- 第6回 項目 ソフトウェアの基礎(その2)
- 第7回 項目 データ構造(その1)
- 第8回 項目 データ構造(その2)
- 第9回 項目 アルゴリズム(その1)
- 第10回 項目 アルゴリズム(その1)
- 第11回 項目 システム開発と運用
- 第12回 項目 ファイルとデータベース技術
- 第13回 項目 ネットワーク技術
- 第14回 項目 セキュリティ
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験により評価する。なお、情報処理技術者試験合格者は加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書: 基本情報午前, 福嶋宏訓, 新星出版

メッセージ 実習のために、ノートパソコンが必要です。ノートパソコンが必要な時は、前の回に連絡します。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時~15時

開設科目	コンピュータ概論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 コンピュータの仕組みと情報処理及びプログラミングについて概説する。一部、実習も行う。
 / 検索キーワード コンピュータ, ソフトウェア, ハードウェア, 情報処理, プログラミング

授業の一般目標 データの表現とコンピュータの基本的な仕組みを理解し, プログラミングの基本を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. コンピュータにおけるデータの表現を説明できる。 2. コンピュータの基本的な仕組みを説明できる。 思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。 関心・意欲の観点: 1. コンピュータの応用に関心を持つことができる。 態度の観点: 1. 知識のない問題にも粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点: 1. 明快かつ論理的な説明ができる。 2. 簡単なプログラムを作成できる。

授業の計画(全体) 前半は基本的な事項の解説を中心とするが, 理解の定着を図るため, 一人一人指名して, 受講者への質問も頻繁に行う。また, 後半は, プログラミングの実習を多く取り入れる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報科学とコンピュータ
- 第 2 回 項目 数の表現
- 第 3 回 項目 文字, 音声, 画像データの表現
- 第 4 回 項目 誤りの訂正と検出 授業外指示 課題を課す。
- 第 5 回 項目 論理代数
- 第 6 回 項目 論理回路
- 第 7 回 項目 ハードウェア
- 第 8 回 項目 ソフトウェア
- 第 9 回 項目 コンピュータの仕組み 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 プログラミング言語
- 第 11 回 項目 プログラミング技法
- 第 12 回 項目 アルゴリズム
- 第 13 回 項目 プログラミング実習 1
- 第 14 回 項目 プログラミング実習 2
- 第 15 回 項目 課題実習

成績評価方法(総合) 出席率 80%未満を欠格条件とし, 課題と試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 新版 明解 C 言語 入門編, 柴田 望洋, ソフトバンクパブリッシング, 2004 年

メッセージ 表現情報処理コース以外の学生が高等学校教諭一種免許状(情報)を取得するための必修科目である。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	情報処理言語 II(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 まず、高度なC言語のプログラミングについて学習する。その後、グラフィックス・プログラムの基本知識を学習した後、図形、グラフなどを表示する簡単なコンピュータグラフィックスのプログラムを作成する。

授業の一般目標 高度なプログラミング知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 高度な知識が身についているか？ 構造体，関数，描画などについて理解できているか？ 関心・意欲の観点： 自ら新しい課題に取り組もうとしているか？

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C言語の復習
- 第 2 回 項目 C言語の復習
- 第 3 回 項目 ファイル入出力 I
- 第 4 回 項目 ファイル入出力 II
- 第 5 回 項目 コマンドの引数 I
- 第 6 回 項目 構造体 I
- 第 7 回 項目 構造体 II
- 第 8 回 項目 メモリ管理 I
- 第 9 回 項目 メモリ管理 II
- 第 10 回 項目 メモリ管理 III
- 第 11 回 項目 Xウィンドウプログラム I
- 第 12 回 項目 Xウィンドウプログラム II
- 第 13 回 項目 Xウィンドウプログラム III
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書： 追って指示する / 参考書： 追って指示する

メッセージ プログラミング言語 I を履修していることを前提に授業を進める。

開設科目	情報法学概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。

授業の一般目標 今日の情報化社会におけるさまざまな問題を、法学的思考によって捉えられるようにすること。

授業の計画(全体) まず、情報化社会とは何かについて説明した上で、それが抱えるさまざまな法的問題を紹介する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 情報化社会とは何か
- 第 3 回 項目 情報化と表現の自由
- 第 4 回 項目 情報公開制度
- 第 5 回 項目 個人情報保護とプライバシー
- 第 6 回 項目 盗聴捜査と通信傍受法
- 第 7 回 項目 取材・報道の自由と報道被害
- 第 8 回 項目 差別表現
- 第 9 回 項目 インターネットと人権
- 第 10 回 項目 知的財産権/著作権(1)
- 第 11 回 項目 著作権(2)
- 第 12 回 項目 情報と人権に関する国際的動向
- 第 13 回 項目 情報のグローバル化に伴う問題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。プリントを配布する。/ 参考書: 授業において適宜紹介する。

開設科目	計算機アルゴリズム（実習を含む。）	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 探索やソートリングなどの実例を取り上げ、そのアルゴリズムとソフトウェアの設計について講義し、また計算量およびプログラムの実測時間によるアルゴリズムの能率確認の実習も行う。

授業の一般目標 計算機処理に必要なアルゴリズム、データ構造、計算量についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画（全体） アルゴリズムの基礎概念から、基本データ構造やグラフの基本探索法やアルゴリズムの設計法などについて講義する。また関連の実習も行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 2 . アルゴリズムの基礎概念
- 第 3 回 項目 3 . 基本データ構造
- 第 4 回 項目 4 . ソートリング問題
- 第 5 回 項目 5 . 2分探索法
- 第 6 回 項目 6 . グラフの基本探索法
- 第 7 回 項目 7 . アルゴリズムの設計法
- 第 8 回 項目 8 . アルゴリズム計算量の算出法
- 第 9 回 項目 9 . ソートリングアルゴリズムの設計
- 第 10 回 項目 10 . ソートリングプログラムの作成
- 第 11 回 項目 11 . グラフ探索アルゴリズムの設計
- 第 12 回 項目 12 . グラフ探索プログラムの作成
- 第 13 回 項目 13 . プログラムの実行時間の測定
- 第 14 回 項目 14 . 実測時間と計算量によるアルゴリズム評価
- 第 15 回 項目 15 . 総括

成績評価方法（総合） 出席、レポート、試験などによる総合評価 = 100 %

教科書・参考書 教科書：アルゴリズム論, 浅野, 和田, 増澤, オーム社

開設科目	教育情報システム論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 本講義では、教育工学の授業設計 (Instructional Design) の概念と方法論を学びます。そして、その方法論を利用して「IT講習会」の講習プログラムを設計し、実施します。その際、教育情報工学的な手法を利用して、IT講習会を実施するときに利用する教材を開発します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の学習目標、実践活動、評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 Instructional Design の概要 について 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 Instructional Design の分析 と設計について 内容 説明・演習
- 第 4 回 項目 Instructional Design の開発 と評価について 内容 説明・演習
- 第 5 回 項目 本授業における 実践活動に関する説明と担当決め 内容 説明・グループ 作業
- 第 6 回 項目 受講者動機付け、講習時チェックリスト作成 内容 グループ作業
- 第 7 回 項目 受講者分析、講習会タスクと役割分担 内容 グループ作業
- 第 8 回 項目 講習会プログラム設計 内容 グループ作業
- 第 9 回 項目 講習会中間発表会 (講習会プログラム、講習会タスク等) 内容 グループ発表
- 第 10 回 項目 講習会プログラム再設計 内容 グループ作業
- 第 11 回 項目 講習会評価リストの作成 内容 グループ作業
- 第 12 回 項目 講習会資料・教材開発 (1) 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 講習会資料・教材開発 (2) 内容 グループ作業
- 第 14 回 項目 講習会の実施 内容 グループ発表
- 第 15 回 項目 講習会の反省会 内容 評価

教科書・参考書 教科書：インターネット時代の教育情報工学 II, 岡本敏雄, 森北出版, 2001 年；教材作成マニュアル, 鈴木克明, 北大路書房, 2002 年 / 参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業し、頭を働かし、行動しなければならない授業です。また、授業の連絡等は、下記の授業HPに提示します。 <http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05ET2>

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	デ - タ検索・処理法	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握した上で、その入力の方を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った統計分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて演習する。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。 / 検索キーワード CSV ファイル、Excel, SPSS

授業の一般目標 パソコンの使い方に慣れ、そしてエクセルを使ったデータの扱い方、特に csv ファイルの扱い方に慣れること、そしてそれを基に SPSS の多変量解析や Web 上での ANOVA4 による分散分析の仕方を修得していく。後は、その結果の扱いを柔軟にこなせるまでになりたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： パソコンに対する基本的な知識、イメージを獲得し、ファイルの扱い方に慣れること。特にデータの種類、中でもテキストファイル (csv ファイル) の扱いになれるようにしたい。また統計ソフトを使いこなせるために、データ入力から統計解析、そして結果の考察という一連の流れをつかみたい。 **思考・判断の観点：** データを生かすためにどのような工夫が必要かを自ら判断していく。 **関心・意欲の観点：** パソコンを自ら触ることによって、新たな使い方を修得したい。

態度の観点： パソコンにたくさん触ることが基本であり、授業外でもどのくらいパソコンに向かうかを評価したい。 **技能・表現の観点：** 統計解析だけでなく、プレゼンテーションまで含めた総合的な評価をしたい。

授業の計画 (全体) まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握し、その入力の方を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて学んでいく。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピュータの日常生活への生かし方 コンピュータ基本操作 1
- 第 2 回 項目 コンピュータの基本操作 1 画面の説明
- 第 3 回 項目 コンピュータの基本操作 2 インターネットと LINUX から UNIX への入り方
- 第 4 回 項目 データ入力の方法 csv ファイルについて
- 第 5 回 項目 表計算ソフト (Excel) の使い方
- 第 6 回 項目 表計算ソフトを用いた基礎統計とデータベース
- 第 7 回 項目 タレント評定における統計ソフトを使った処理
- 第 8 回 項目 表計算ソフトを用いた統計計算とグラフ作成
- 第 9 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた基礎統計 t 検定と 2 検定
- 第 10 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた多変量解析 1 因子分析
- 第 11 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた多変量解析 2 クラスタ分析と一要因分散分析
- 第 12 回 項目 Web 版 ANOVA 4 を用いた分散分析
- 第 13 回 項目 PowerPoint を用いた研究成果のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 研究成果の公表の方法 1 - ホームページの作成の基礎 -
- 第 15 回 項目 研究成果の公表の方法 2 - ホームページの実際の作成 -

成績評価方法 (総合) データを処理した結果は、提出を義務づける。その他、統計計算による結果の解釈、さらに研究成果のプレゼンテーション作成の課題がある。(結果はフロッピーで提出するか、メールの添付機能で送付する) さらに授業態度や出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作の小冊子を配布する予定である（一部500円程度）。

メッセージ 現在あるいは将来、心理的なデータを処理する必要のある学生を対象とします。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00
～ 19:00

開設科目	音響構成概論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 古典的な作曲をコンピュータの音楽ソフトウェア上で行う技術を学習する。 / 検索キーワード 音楽ソフト

授業の一般目標 古典的な作曲が出来る基本的な能力と、コンピュータの音楽ソフトウェアの基本的な扱い方を学習し、身に付けることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典的な音楽の作曲法の理解、作曲について基本的な知識の獲得。コンピュータの操作に関する基本的な知識の獲得。 思考・判断の観点：作曲されたものの価値付け、価値判断ができる能力の獲得。 関心・意欲の観点：コンピュータへの基本的な関心と共に、使いこなそうという意欲を持つこと。コンピュータ、及びソフトウェアの可能性について意欲的に学習しようという態度を持つこと。 態度の観点：授業への積極的な参加態度を重視。 技能・表現の観点：実際に獲得された音楽的な、あるいはコンピュータ・音楽ソフトの扱いに関わる技能を、作曲された作品という形で提示、表現できる能力の獲得。

授業の計画(全体) 基本的な説明の後、それぞれの時間内で指示された課題を仕上げる、という形式で進行させる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 コンピュータの基本的な操作の復習、音楽ソフトの基本的性能の解説
- 第2回 項目 五線楽譜による入力実習、データ保存の実習
- 第3回 項目 五線楽譜入力に際しての各種機能の学習
- 第4回 項目 演奏機能の実習、音色設定
- 第5回 項目 旋律創作と和音伴奏の実習
- 第6回 項目 打楽器による作品の作成、その1
- 第7回 項目 同上、その2
- 第8回 項目 作品発表、その1
- 第9回 項目 スコアの作製法、その1、基礎的実習
- 第10回 項目 同上、その2、応用実習
- 第11回 項目 MIDI規格の思想と実際
- 第12回 項目 課題制作、その1
- 第13回 項目 同上、その2
- 第14回 項目 同上、その3
- 第15回 項目 作品発表その2、まとめ

成績評価方法(総合) コンピュータ上での作曲能力の獲得の度合い、授業内容への興味・感心、意欲、受講態度等を総合的に評価する。尚、試験は行わず、作品提出をもってレポートとする。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない、必要に応じプリント等を配付。 / 参考書：音楽ソフトのマニュアル、及び必要に応じ授業時間中に適宜紹介する。

メッセージ パソコンの基本的な操作法をマスターしておくこと。音楽通論の単位取得者、及び相応の能力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	データベース概論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の一般目標 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：データベースシステムについて理解できているか？データモデルを理解しているか？SQLが理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組んでいるか？ 態度の観点：出席しレポートを提出しているか？

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データベースの基礎概念 I
- 第 2 回 項目 データベースの基礎概念 II
- 第 3 回 項目 データモデル I
- 第 4 回 項目 データモデル II
- 第 5 回 項目 関係データベース I
- 第 6 回 項目 関係データベース II
- 第 7 回 項目 関係型データベースの操作方法
- 第 8 回 項目 SQLの基礎 I
- 第 9 回 項目 SQLの基礎 II
- 第 10 回 項目 SQLの基礎 III
- 第 11 回 項目 SQLを用いたデータベースの操作の演習 II
- 第 12 回 項目 SQLを用いたデータベースの操作の演習 II
- 第 13 回 項目 SQLを用いたデータベースの操作の演習 II
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ プログラミング言語 I,II、アルゴリズム論の内容を理解していることを前提に授業を進める。

連絡先・オフィスアワー 質問は随時可。授業中に教えるメールアドレスに質問メール等を送ってください。

開設科目	数理計画概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 問題の合理的解決を科学的に提供する学問がオペレーションズ・リサーチである。問題解決の手順は、先ず現象の観察に始まり、モデル化、定式化を実行し、解析する。その後最適な解決方法を求め、意志決定で終わる。その中の最適化の代表的な数学的手法を勉強していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： オペレーションズ・リサーチにかんする知識と理解 関心・意欲の観点： 最適化問題を解くこと

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単体法
- 第 2 回 項目 単体法の性質と 2 段階法
- 第 3 回 項目 行列形式でのシンプレックス法と摂動法
- 第 4 回 項目 ダイナミック・プログラミング
- 第 5 回 項目 最適性の原理とその応用
- 第 6 回 項目 最短経路問題
- 第 7 回 項目 無制約の非線形計画法
- 第 8 回 項目 等式制約付きの非線形計画法
- 第 9 回 項目 等式制約非線形計画問題と Lagrange の未定乗数法等式
- 第 10 回 項目 縮小勾配法
- 第 11 回 項目 不等式制約付非線形計画と 2 次計画法
- 第 12 回 項目 2 次計画問題の計算法
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

教科書・参考書 教科書： プリントで講義をする

開設科目	情報化社会概論(情報倫理を含む。)	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林 泰子				

授業の概要 これからの高度情報通新社会を生き抜く人間として求められる資質や能力について、情報・社会・コミュニケーションの観点より様々な社会事例を通して考える。そこでは情報社会人として身につけておくべき「情報科学の知識」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション(表現伝達)能力」、「IT社会」、「情報倫理」、「企業が求める人間」、「国際協力と国際理解」など、各界からの専門家を講師として招き実践的な講義をしていただく。

授業の一般目標 これからの情報社会人として必要な知識を習得する。具体的な内容は以下の通りである。

1. 情報とデータの意味を説明できる
2. 情報活用能力の意義を学び実践できる
3. コミュニケーション能力について学び改善できる
4. IT社会の光と影を学び生活に応用できる
5. 情報倫理について学び生活に応用できる
6. 企業で求められる人間について学び学修を見直すことができる
7. 国際協力と国際理解教育を学び国際人としての意識を持つことができる

授業の計画(全体) 本科目は、前述したように学外から分野ごとの専門家を講師として招き授業を行います。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：新・情報社会人のすすめ、情報教養研究会、ぎょうせい、1997年

メッセージ 本科目は、集中講義で実施する。学外講師からの実践的な講話や演習により毎回配付資料がある。自発的な学習態度で臨む学生諸君を歓迎する。

備考 集中授業

開設科目	グラフ・ネットワーク論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。

授業の一般目標 グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) グラフの基本定義や性質を紹介し、関連の証明法やアルゴリズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 2 . グラフの基本 定義
- 第 3 回 項目 3 . 道、閉路、木 グラフなどの概念
- 第 4 回 項目 4 . 木グラフの性 質およびその証明
- 第 5 回 項目 5 . グラフの平面 性
- 第 6 回 項目 6 . グラフの彩色
- 第 7 回 項目 7 . 有向グラフの 基本定義と性質
- 第 8 回 項目 8 . 幅優先探索と 深さ優先探索
- 第 9 回 項目 9 . マッチング
- 第 10 回 項目 10 . ネットワーク フロー
- 第 11 回 項目 11 . 最大フロー計 算アルゴリズム
- 第 12 回 項目 12 . 最短、最長経 路問題のアルゴリ ズム
- 第 13 回 項目 13 . 通信ネットワ ークにおける経路 決定問題
- 第 14 回 項目 14 . 経路決定問題 のアルゴリズム
- 第 15 回 項目 15 . 総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートおよび試験で評価する

教科書・参考書 教科書： グラフ理論入門, R.J.Wilson, 訳者:西関, 近代科学社

開設科目	視覚伝達デザイン	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 映像表現の中で写真技術を利用して視覚伝達デザインの学習を行なう。写真技術全般の解説とフィルム写真の技術習得として、現像、焼付けを行なう。伝達デザインのための造形要素と視覚言語を写真、映像を利用して表現する。また、テーマを設定して写真作品を制作する。

授業の一般目標 映像表現を使用して、視覚言語の学習を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：造形要素と視覚言語の理解が具体的に出来たかどうか。 関心・意欲の観点：身の周りの対象物に関心を持ち、意欲的に映像化することが出来る。 技能・表現の観点：伝達表現としての技術を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 視覚伝達デザインの概説
- 第 2 回 項目 映像表現について
- 第 3 回 項目 カメラについて
- 第 4 回 項目 フィルム現像その 撮影について 撮影について
- 第 5 回 項目 フィルム現像その 1
- 第 6 回 項目 フィルム現像その 2
- 第 7 回 項目 印画紙現像その 1
- 第 8 回 項目 印画紙現像その 2
- 第 9 回 項目 印画紙現像その 3
- 第 10 回 項目 視覚言語の撮影対象について
- 第 11 回 項目 視覚言語の事例
- 第 12 回 項目 レイアウトについてその 1
- 第 13 回 項目 レイアウトについてその 2
- 第 14 回 項目 製本
- 第 15 回 項目 まとめと評価

開設科目	マルチメディア概論（実習を含む。）	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官					

備考 集中授業

開設科目	情報職業論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	井上史子				

授業の概要 これからの情報社会に生きる社会人として必要な知識と技能を習得します。 / 検索キーワード 情報活用能力、コミュニケーション、プレゼンテーション、情報倫理、個人情報保護、問題解決能力、アサーション、デジタル・アーキビスト

授業の一般目標 1. 情報活用能力の意義について知り、実践できる。 2. コミュニケーション能力について学び、改善できる。 3. 情報倫理(マナー・個人情報保護)について学び、生活に応用できる。 4. 情報を巡る問題について、論理的・多角的に分析し解決するスキルを身につける。 5. 自己の考えを的確な方法を用いてプレゼンテーションできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ・個人情報保護や著作権に関する基本的な法律について説明できる。 ・情報活用能力の意義について説明できる。 ・コミュニケーション能力について説明できる。 ・基本的なプレゼンテーション技術について説明できる。 思考・判断の観点: ・社会における適切な情報活用のあり方について指摘できる。 ・情報をめぐる問題点について多角的・論理的に分析し、解決策を考えることができる。 ・情報倫理のあり方について自分なりに考え、判断できる。 関心・意欲の観点: ・社会における情報をめぐる問題に関心をもち、討議できる。 ・情報に関する法やきまりを生活に応用できる。 ・授業の理解に必要な知識や情報について、積極的に情報収集を行う。 態度の観点: ・積極的に他者とコミュニケーションを図り、授業に参加できる。 ・自己の考えや意見を進んで発表することができる。 ・他者の意見や考えに耳を傾け、自己の考えに取り入れることができる。 ・積極的に自己のプレゼンテーション技術を改善する。 技能・表現の観点: ・自己の考えや意見を的確に他者に伝えることができる。 ・適切な手段・方法を用いて、情報を他者に伝えることができる。 ・コンピュータを操作し、基本的なプレゼンテーション教材を作成できる。

授業の計画(全体) <第1日目> オリエンテーション 情報活用能力 コミュニケーション能力 問題解決演習(1) ・課題解決訓練用手法について ・グループ編成等 <第2日目> 問題解決演習(2) ・グループ討議等 問題解決演習(3) ・教材作成等 <第3日目> プレゼンテーション演習 ・グループ発表および相互評価 デジタル・アーキビストの資格と養成 <第4日目> 小テスト 課題作成 課題については当日連絡します。

成績評価方法(総合) ・課題レポート(2件) 30% ・小テスト 20% ・授業参加 20% ・プレゼンテーション 20% ・授業での教材作成 10%

教科書・参考書 教科書: 未定, , 2006年 / 参考書: 情報教育の理論と実践, 林徳治・宮田仁編著, 実教出版, 2002年; 情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治編著, ぎょうせい, 2000年; デジタルアーキビスト概論, 後藤忠彦監修, 日本文教出版, 2006年; 新・情報社会人のすすめ, 情報教養研究会, ぎょうせい, 1997年

メッセージ ・グループ演習を理由なく欠席した場合は、単位を認めない場合がありますので気をつけてください。 ・教科書は講義初日に販売しますので必ず購入して下さい。

備考 集中授業

人間教育学コース

開設科目	人間教育学研究法 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	教育学全員				

授業の概要 人間教育学の研究内容と方法に関して、概説する。 / 検索キーワード 研究内容、研究方法

授業の一般目標 人間教育学の研究分野および研究方法に関して理解し、今後の研究視点の基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学、社会教育学の基礎的な学問領域・方法を説明できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学、社会教育学の複数領域の視点から、日常的に教育や子どもの問題に関心をもつことができる。 態度の観点： 1 . 卒業論文を作成することを視野に入れて、教育や子どもの問題を主体的に考察することができる。

授業の計画（全体） 6ゼミの教官が、それぞれの基礎的な学術ターム、研究分野、研究対象などについて概説します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 教育哲学について 1
- 第 3 回 項目 教育哲学について 2
- 第 4 回 項目 教育史について 1
- 第 5 回 項目 教育史について 2
- 第 6 回 項目 教育社会学について 1
- 第 7 回 項目 教育社会学について 2
- 第 8 回 項目 教育方法学について 1
- 第 9 回 項目 教育方法学について 2
- 第 10 回 項目 教育制度学について 1
- 第 11 回 項目 教育制度学について 2
- 第 12 回 項目 社会教育学について 1
- 第 13 回 項目 社会教育学について 2
- 第 14 回 項目 まとめ 1
- 第 15 回 項目 まとめ 2

成績評価方法（総合） 各担当教官がそれぞれ課題を出します。最終評価は、各教官の出した評点をもとに総合的に判断されます。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

メッセージ 人間教育学コースの学生の必修科目であり、今後のゼミ選択の基礎となる講義・演習です。

連絡先・オフィスアワー 各教員に尋ねて下さい。

開設科目	人間教育学研究法 II	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	教育学全員				

授業の概要 卒業論文作成に向けて各自のテーマに従って研究を深める。 / 検索キーワード 研究内容、研究方法

授業の一般目標 (1) 卒業研究論文を作成するための学術的知識・方法を習得できる。(2) 適切な学術ターム・方法等を理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 各学問領域における学術タームを正確に把握できる。 2 . 各学問領域における研究方法を正確に習得できる。 思考・判断の観点： 1 . 各自のテーマに沿ったイシューに対して系統的かつ論理的に指摘できる。 関心・意欲の観点： 1 . 各自の研究テーマに対して日常的に関心を持ち続け、その問題解明に意欲を表示できる。 態度の観点： 1 . 主体的かつ積極的に研究に取り組むことができる。

授業の計画(全体) 各自の研究を系統的かつ論理的に構成・作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 研究テーマの設定の仕方、研究方法等について概説
- 第 2 回 項目 研究テーマの設定準備 内容 各受講生の関心等に即したテーマの設定 授業外指示 テーマに関する文献・資料等の収集
- 第 3 回 項目 研究テーマの絞込み 内容 各テーマの絞込みと研究計画の作成
- 第 4 回 項目 学生発表 内容 受講生による研究発表
- 第 5 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 6 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 7 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 8 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 9 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 10 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 11 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 12 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 13 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 14 回 項目 学生発表 内容 同上
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 研究論文作成過程の意欲・態度、課題の提出、成果の発表を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 研究発表の内容に応じて、発表者が必要な参考書とプリントを準備する。

メッセージ 各学問領域固有の研究方法が把握できるように努めて下さい。

連絡先・オフィスアワー 各教官にそれぞれ尋ねて下さい。

開設科目	教育哲学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。 / 検索キーワード 教育哲学、シュプランガー、シュタイナー、ドイツ、改革教育運動

授業の一般目標 (1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。(3) シュプランガーの生涯と教育哲学について理解する。(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。3. シュプランガーの生涯と教育哲学について説明できる。4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。 思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。 関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の学問的性格や明治以後の日本の教育哲学研究の変遷や課題について学んだ後、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について考察し、教育の本質的意味や現代的課題について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格 内容 1. 教育哲学を学ぶ意義 2. 教育哲学の学問的性格
- 第2回 項目 明治以後の日本の教育哲学研究の動向 内容 1. 明治初期～中期 2. 大正新教育運動 3. 戦前と戦中 4. 戦後
- 第3回 項目 日本の教育哲学研究の現状と課題 内容 1. 日本の教育哲学研究の現状 2. 日本の教育哲学研究の課題
- 第4回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 1. ドイツ公教育の現状 2. ドイツ公教育の課題
- 第5回 項目 ドイツの改革教育運動 内容 1. 改革教育運動の歴史 2. 改革教育運動の特色
- 第6回 項目 シュタイナー学校の教育 内容 1. シュタイナー学校の誕生と発展 2. シュタイナー学校の教育の特色
- 第7回 項目 シュタイナーの教育哲学(1) 内容 シュタイナーの教育目的論
- 第8回 項目 シュタイナーの教育哲学(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第9回 項目 シュタイナー学校の授業 内容 生活科、社会科、理科 数学、音楽、オイリュトミーの授業
- 第10回 項目 シュタイナー学校の評価 内容 公立学校とシュタイナー学校の評価の相違
- 第11回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～ライプツヒ時代
- 第12回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学教授期～チュービンゲン時代
- 第13回 項目 シュプランガーの教育哲学(1) 内容 教育の3つの概念
- 第14回 項目 シュプランガーの教育哲学(2) 内容 1. 6つの個性類型 2. 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第15回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 求められる教師像と教員養成, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年; 求められる教師像と教員養成 / 参考書: 使用しない。

メッセージ シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を、彼らが生きた時代背景や生涯を通して生き生きと把握するようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育哲学研究室：教育学部 A 棟 3 階

開設科目	教育哲学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育について学び、それと対比しながら今日の公教育の現状と課題について考察し、教育に対する問題意識を高める。 / 検索キーワード シュタイナー、シュタイナー学校、授業、評価、ドイツ公教育

授業の一般目標 1. シュタイナーの教育哲学と発達段階論について理解する。 2. シュタイナー学校の教育の特色を理解する。 3. シュタイナー学校の授業方法について理解する。 4. シュタイナー学校の評価観と教育観について理解する。 5. シュタイナー学校の教育と対比しながら、今日の公教育の現状と課題について考察し、教育に対する問題意識を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. シュタイナーの教育哲学や発達段階論について理解できる。 2. シュタイナー学校の教育の特色や授業方法について理解できる。 3. シュタイナー学校の評価観と教育観について理解できる。 思考・判断の観点： 1. 今日の公教育の現状と課題を把握し、教育改革への視点をつかむことができる。 関心・意欲の観点： 1. シュタイナー学校の教育を通して、教育や教育改革への関心や意欲を高めることができる。

授業の計画(全体) ドイツ公教育の現状と課題を把握した上で、シュタイナーの教育哲学について学び、シュタイナー学校の授業の実践例や評価の仕方を参考にしながら、今後の教育の在り方や進むべき方向性について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本の公教育の現状と課題 内容 受験体制下の教育
- 第 2 回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 高度経済成長と公教育の矛盾
- 第 3 回 項目 ドイツの学校制度とシュタイナー学校 内容 ドイツの伝統的な 3 分系の学校制度
- 第 4 回 項目 シュタイナーの教育哲学と人間観(1) 内容 シュタイナー教育の目的
- 第 5 回 項目 シュタイナーの教育哲学と人間観(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第 6 回 項目 シュタイナーの教育哲学と人間観(3) 内容 シュタイナー教育とテレビ
- 第 7 回 項目 シュタイナー学校の授業(1) 内容 エポック授業
- 第 8 回 項目 シュタイナー学校の授業(2) 内容 生活科の授業
- 第 9 回 項目 シュタイナー学校の授業(3) 内容 芸術的な授業
- 第 10 回 項目 シュタイナー学校の授業(4) 内容 オイリュトミーの授業
- 第 11 回 項目 シュタイナー学校の授業(5) 内容 歴史と音楽の授業
- 第 12 回 項目 シュタイナー学校の評価観(1) 内容 ドイツ公教育の評価とシュタイナー学校の評価の相違
- 第 13 回 項目 シュタイナー学校の評価観(2) 内容 シュタイナー学校の通信簿
- 第 14 回 項目 シュタイナー学校の 8 年間担任制とカリキュラム 内容 12 年間一貫教育と 8 年間担任制、カリキュラムに対する考え方
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 毎時間学生によるレポートと発表を行い、討論形式によって授業を進めていく。したがって、レポートのまとめ方と表現力、授業への積極的な参加度によって評価する。

教科書・参考書 教科書：シュタイナー教育を考える, 子安美知子, 学陽書房, 1987 年 / 参考書：使用しない。

メッセージ シュタイナーの教育哲学やシュタイナー学校の教育を通して、今日の学校教育の諸問題について考察し、教育への問題意識を高めてほしい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育哲学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 学生が教育哲学に関する研究を発表し、討議しながら授業を進める。また、教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方についても説明する。 / 検索キーワード 教育哲学研究、研究方法、文献調査、論文構成

授業の一般目標 教育哲学に関する研究をまとめたものを発表したり、討議することによって、レポートや論文をまとめたり、それを発表し表現する力を養う。また、教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方が理解できる。 思考・判断の観点：レポートや論文をテーマに沿ってまとめることができる。 関心・意欲の観点：教育哲学研究への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点：発表や討議をする時、適正な態度で自分の考えを表現したり、相手の言うことを聞くことができる。 技能・表現の観点：発表や討議を通して、自分の考えをうまく相手に伝え、表現することができる。

授業の計画（全体） 教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方を説明し、研究発表や討議をしながら授業を進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育哲学研究の方法（ 1 ）
- 第 2 回 項目 教育哲学研究の方法（ 2 ）
- 第 3 回 項目 教育哲学論文の構成の立て方
- 第 4 回 項目 教育哲学論文の書き方
- 第 5 回 項目 研究発表と討議（ 1 ）
- 第 6 回 項目 研究発表と討議（ 2 ）
- 第 7 回 項目 研究発表と討議（ 3 ）
- 第 8 回 項目 研究発表と討議（ 4 ）
- 第 9 回 項目 研究発表と討議（ 5 ）
- 第 10 回 項目 研究発表と討議（ 6 ）
- 第 11 回 項目 研究発表と討議（ 7 ）
- 第 12 回 項目 研究発表と討議（ 8 ）
- 第 13 回 項目 研究発表と討議（ 9 ）
- 第 14 回 項目 研究発表と討議（ 10 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 研究発表のまとめ方や内容、表現力、授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 研究発表の内容に応じて必要な文献を使用する。

メッセージ 授業でのレポートの積み重ねが、卒業論文の作成につながっていくよう真剣に取り組んで下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について講じ、日本の教育の歴史的な性格について考える。 / 検索キーワード 教育, 理念, 思想, 歴史的展開, 歴史的な性格

授業の一般目標 日本の教育の理念・思想の歴史的展開についての基礎的知識を得る。日本の教育の歴史的な性格について主体的に考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。思考・判断の観点: 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。関心・意欲の観点: 日本の教育の歴史的な性格について主体的に考えることができる。態度の観点: 教育の展開について系統的に捉えようとするができる。

授業の計画(全体) 日本の教育の展開過程をたどりそこにあらわれた教育の理念・思想とその歴史的な性格を検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 武士の公的教育機関(1)
- 第 2 回 項目 武士の公的教育機関(2)
- 第 3 回 項目 武士の公的教育機関(3)
- 第 4 回 項目 庶民の教育機関(1)
- 第 5 回 項目 庶民の教育機関(2)
- 第 6 回 項目 庶民の教育機関(3)
- 第 7 回 項目 私塾(1)
- 第 8 回 項目 私塾(2)
- 第 9 回 項目 私塾(3)
- 第 10 回 項目 近世の教育観(1)
- 第 11 回 項目 近世の教育観(2)
- 第 12 回 項目 近世の教育観(3)
- 第 13 回 項目 日本教育の歴史的な性格(1)
- 第 14 回 項目 日本教育の歴史的な性格(2)
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 定期試験期間内に提出されたレポートの成績に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外にも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 3 階 364 オフィスアワー: 月曜日 9:30~10:30

開設科目	教育史演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 現代日本の教育の現実や問題点を歴史的に考察した著作物を講読する。 / 検索キーワード 日本, 教育の問題点, 歴史的考察, 文献講読

授業の一般目標 日本の教育問題の歴史的起源・構造についての基礎的理解を得る。教育について歴史的に考察しようとする事ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本の教育問題の歴史的起源・構造について説明できる。思考・判断の観点: 授業で取り上げた問題について自分の考えを論理的に述べる事ができる。関心・意欲の観点: 教育を歴史的に考察しようとする事ができる。態度の観点: ひとつの文献を継続的かつ精密に読み進む事ができる。技能・表現の観点: 文献の概要と問題点をわかりやすく説明・提示し, 討論が生産的に進むように進行できる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方, テキストの提示と分担. 成績評価の方法. 授業外指示 しらばすを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 学生の発表と討論 授業外指示 テキストの該当箇所を読み, 疑問点・問題点を考えておくこと. 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) 授業での発表内容, 討論, 最終的なまとめのレポートの内容を総合的に審査して評価する。欠席回数が授業実施回数数の 3 分の 1 以上に及んだ場合には単位は認められない。

教科書・参考書 教科書：教科書は第1回目の授業で指定する。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部3階364 オフィスアワー：月
曜日 9：30～10：30

開設科目	教育史演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 学生各自研究テーマを設定し，研究資料の収集と分析を行う． / 検索キーワード テーマ設定，資料収集，資料分析

授業の一般目標 教育史の基礎的研究方法を身につける． 教育問題を歴史的に考察することができる．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育史の研究方法が説明できる． 思考・判断の観点：資料を多面的に検討できる． 関心・意欲の観点：教育に関する関心をひろげ，問題意識を深めることができる． 態度の観点：課題を計画的・継続的に追求することができる．

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 おりえんてーしょん 内容 授業の目標と進め方．成績評価の方法．授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 テーマ設定 内容 テーマ設定 授業外指示 追求したい教育上の問題を考え ておくこと．授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 テーマ設定 内容 テーマ設定 授業外指示 追求したい教育上の問題を考え ておくこと．授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 テーマ設定 内容 テーマ設定 授業外指示 追求したい教育上の問題を考え ておくこと．授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 資料の収集方法 内容 資料の収集方法 授業外指示 復習 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 先行研究 内容 先行研究 授業外指示 図書館，パソコン等で調べ，先行研究の一覧表を作っておくこと．授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 先行研究の検討 内容 先行研究の検討 と課題の整理 授業外指示 先行研究を入手し，読んで検討しておくこと．授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 先行研究の検討 内容 先行研究の検討 と課題の整理 授業外指示 先行研究を入手し，読んで検討しておくこと．授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 テーマ設定 内容 テーマの焦点化 授業外指示 自分なりの仮説 を立てておくこと．授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 資料収集 内容 資料収集 授業外指示 図書館・パソコン等で資料を調査し，一覧表を作っておくこと．授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 資料収集 内容 資料収集 授業外指示 資料を入手し読んで整理すること．授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 資料分析 内容 資料分析 授業外指示 資料を入手し読んで整理すること．授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 資料分析 内容 資料分析 授業外指示 資料で仮説を検証してみること．授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 まとめ 授業外指示 成果をまとめておくこと 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 毎回の発表内容で評価する．欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 に及んだ場合には単位は認められない．

教科書・参考書 教科書：なし

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとするができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育社会学演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 現代の子どもに関わる教育/社会問題領域を取り上げ、それに関する教育社会学的研究のテキストを受講者で分担講読し、担当者が報告した後に受講者全員で質疑討論に入る演習形態をとる。/ 検索キーワード 教育現象、教育問題

授業の一般目標 (1) 現代的な教育問題について把握する。(2) 問題発現のメカニズムを的確に指摘できる。(3) 問題解決志向的な意識の展開。(4) 教育社会学的研究を展開する能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 現代の教育問題に関する基礎的な知識・理論・実態を説明できる。 2 . 問題発現メカニズムについての的確に指摘できる。 思考・判断の観点： 1 . 演習中に取り上げた各領域に関して論理的に展開できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育や子どもの発達に対して日頃から問題関心をもつ。 態度の観点： 1 . 問題解決志向的な態度を身に付けることができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員紹介，講義の進め方，分担 決めなど
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) (1) 演習中の発表、質疑応答の評価、(2) レポートによる評価を総合的に判断。

教科書・参考書 教科書：いくつかのテキストを初回の演習で提示するので、受講者でどのテキストを使用するかを決める。/ 参考書：適宜紹介する。

メッセージ 自分たちの興味関心に応じてテーマを設定するわけですから、問題解明および問題解決に対する主体的な探究意欲を欲します。発表担当者は、レジュメを発表の前の週には配布すること。また、全受講者が論文・レジュメを精読してくること。

連絡先・オフィスアワー ta-na@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室: 教育学部 3 階 , オフィスアワー: 水曜日 10:30-12:30

開設科目	教育社会学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 受講者の研究課題に基づく領域を取り上げ、それに関する教育社会学的研究のテキストを受講者で分担し、担当者がレジュメを作成して報告した後に全員で質疑討論に入る演習形態をとる。 / 検索キーワード 教育問題、教育事象

授業の一般目標 (1) 現代的な教育問題について把握する。(2) 問題発現のメカニズムを的確に指摘できる。(3) 問題解決志向的な意識の展開。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査・研究をすすめる上で必要な基礎的知識、学術用語を理解して積極的に利用すること。思考・判断の観点：対象とする問題領域について、多角的・重層的な味方が出来ること。関心・意欲の観点：当該問題の解明に対して積極的・意欲的に取り組むこと。態度の観点：受講・研究に対して真摯な態度で臨むこと。

成績評価方法 (総合) 演習中の発表および質疑応答等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：主として、教育社会学会紀要論文を講読する。ただし、問題領域によっては他学会紀要を用いる場合もある。 / 参考書：適宜紹介する。

メッセージ 自分の興味関心でテーマを設定するわけですから、問題解明および問題解決に対する主体的な探究意欲を欲します。

連絡先・オフィスアワー ta-na@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室:教育学部 3 階, オフィスアワー:水曜日 10:30-12:30

開設科目	教育調査法	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 最初に教育調査法の基礎を学び、それに基づいて実際に調査を実施し、調査の企画から分析・考察まで一連の作業を理解する。 / 検索キーワード 教育調査、子ども

授業の一般目標 (1) 適切な問題関心に対し、適切な調査方法を選択できるようになる。(2) 適切な調査手順を一人で企画・実施できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . さまざまな調査方法について、その長所・短所を含めてそれぞれ理解できる。 思考・判断の観点： 1 . 問題関心に適した調査方法を選択できる。 関心・意欲の観点： 1 . 疑問に感じたことを実際に自分で調査しようと企画できる。 態度の観点： 1 . 自主的かつ倫理的に調査を実施できる。

授業の計画(全体) 前半はいくつかの調査方法について学び、後半はグループで実際に調査を企画・実施し、その結果を分析・考察してレポートしてもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業担当者紹介、授業計画、評価方法の説明
- 第 2 回 項目 調査方法概説(1) 内容 質問紙調査：統計法について
- 第 3 回 項目 調査方法概説(2) 内容 統計法(1)
- 第 4 回 項目 調査方法概説(3) 内容 統計法(2)
- 第 5 回 項目 調査方法概説(4) 内容 統計法(3)
- 第 6 回 項目 調査方法概説(5) 内容 統計法(4)
- 第 7 回 項目 調査方法概説(6) 内容 統計法を用いた論文講読(1)
- 第 8 回 項目 調査方法概説(7) 内容 統計法を用いた論文講読(2)
- 第 9 回 項目 調査方法概説(8) 内容 質的観察法(1)
- 第 10 回 項目 調査方法概説(9) 内容 質的観察法(2)
- 第 11 回 項目 調査方法概説(10) 内容 質的観察法(3)
- 第 12 回 項目 調査方法概説(11) 内容 質的観察法(4)
- 第 13 回 項目 調査方法概説(12) 内容 質的観察法を用いた論文講読(1)
- 第 14 回 項目 調査方法概説(13) 内容 質的観察法を用いた論文講読(2)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) (1) 平素の受講態度、(2) 調査結果の分析報告レポートで総合的に評価。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

メッセージ 様々な調査手法・処理方法を習得する上で、常識や社会性が備わっていることが要件となります。

連絡先・オフィスアワー ta-na@yamaguchi-u.ac.jp , phone & fax : 933-5442 , 研究室 : 教育社会学研究室 (教育学部 3 階) , オフィスアワー : 水曜日 10:30-12:30

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				
<p>授業の概要 教育方法学の分野のうち、特に授業構成論の基礎について具体的事例を交えながら平易に概説する。なお、授業は講義形式である。/検索キーワード 主体的な学び、指導・支援・援助、学習意欲</p> <p>授業の一般目標 授業指導の基礎理論や内容・方法論に関する基礎的知識・認識を理解するとともに、実践的指針を習得する。</p> <p>授業の到達目標/知識・理解の観点：1. 授業論に関する基礎的知識・認識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 授業で取り上げた内容について論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 授業に関する関心を広げる。</p> <p>授業の計画(全体) 教育方法学の分野のうち、授業構成論について概説する。 まず、授業の基本的性格を押さえ、次に子どもの主体的な学びをどう捉えるかを考察する。 続いて、教科内容論・教材論について検討する。さらに、子どもの学びを支える指導技術・評価等について考察する。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業目標および 授業計画の説明 と履修上の注意、成績評価についての説明。 授業記録 オリエンテーション資料配付</p> <p>第2回 項目 授業の基本的性格 その1 内容 授業の過程的性格および総合作用的性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ1</p> <p>第3回 項目 授業の基本的性格 その2 内容 授業の訓育的性格と集団の性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第4回 項目 子どもの主体的 学びと教師の指導性 内容 主体性の概念、主体的学びに対する誤解および 教師の指導の本質について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第5回 項目 学びのメカニズムと認識発達 内容 主体的な学びの メカニズムとそこから導き出される指導上の観点について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ2</p> <p>第6回 項目 まちがい・つま ずきの授業論的 意義 内容 まちがい・つま ずきの授業論的 意義とその具体的生かし方について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ3</p> <p>第7回 項目 教育課程と教科 内容 内容 教育課程編成の 原則や観点および教科内容の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ4</p> <p>第8回 項目 教材・教具と教材研究 内容 1. 教科書、補助教材・教具について説明するとともに、教材研究・解釈の基本的視点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ5</p> <p>第9回 項目 学習活動案(指導案) 内容 授業指導のシナリオとしての学習活動案(指導案)の構成や作成上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ6</p> <p>第10回 項目 学習活動の指導 技術 その1 内容 発問・説明の特質およびその留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ7</p> <p>第11回 項目 学習活動の指導 技術 その2 内容 授業過程における評価言について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ8</p> <p>第12回 項目 教育メディアと 授業 内容 PCその他視聴 覚機器の活用に関する基礎知識 について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ9</p> <p>第13回 項目 教育評価論 内容 学習評価の理論 と方法について 説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ10</p>					

第 14 回 項目 授業論の現在 内容 現代の授業論の 流れと今日的課 題について説明 する。 授業外指示
授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジユメ1 1

第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の 確認は毎授業終
了時に書かせる「 授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：教育の方法, 山下
正俊・湯浅恭正編著, ミネルヴァ書房, 2001 年

メッセージ 大人数の授業となることが予想され、講義形式にならざるをえません。簡 単なレジユメ等は
配布しますが、ノートをしっかり取り、まとめをこまめに 行うことを心がけて下さい。 毎授業終了時に
「 授業コメント」を書いてもらいます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育方法学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 教育方法学の諸分野に関する文献を講読する。受講生が分担してレポートし、全員でディスカッションを行う。

授業の一般目標 今日の教育方法学の諸分野における動向と課題について理解する。最後に各自のレポートをまとめた報告集を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 学習した内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育方法学の諸分野に関する関心を広げる。 態度の観点： 1 . 提示された課題に対して意欲的に発言できる。

授業の計画 (全体) 最初に今日の教育方法学分野における動向について概説する。続いて、基本テキストをもとに受講者が分担してレポートを行い、ディスカッションを行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、計画、評価方法、テキストについて説明する。
授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 今日の教育方法学研究の動向 内容 学習指導論、評価論、子ども観、その他
- 第 3 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 1
- 第 4 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 2
- 第 5 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 3
- 第 6 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 4
- 第 7 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 5 授業外指示 中間まとめのための資料の準備
- 第 8 回 項目 中間まとめ
- 第 9 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 6
- 第 10 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 7
- 第 11 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 8
- 第 12 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 9
- 第 13 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 1 0
- 第 14 回 項目 受講生によるレポートおよび討論 1 1 授業外指示 最終まとめのための資料の準備
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 レポート集の作成

成績評価方法 (総合) レポート内容、発表意欲・態度等を総合的に評価する。欠席が 3 分の 1 を超えた場合には単位認定を行わない。

教科書・参考書 教科書：未定、

メッセージ 本演習の受講に際しては、基本的に教育方法学を受講済みであることが条件です。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開設科目	教育方法学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山 緑				

授業の概要 教育方法学の諸課題の中から学生各自が設定したテーマに基づいて資料収集・精読・報告し、受講者による質疑、ディスカッションを行う。

授業の一般目標 教育方法学の諸課題について理解を深めるとともに、方法学的研究方法を習熟する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 自ら設定したテーマに関する知識・認識について説明できる。

思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育方法学の諸課題についての関心を深める。 態度の観点： 1 . 提示された課題について意欲的に発言できる。

授業の計画 (全体) 受講者が自ら設定したテーマに関して資料を収集し、レポートする。最後に学習成果をまとめ報告集を作成する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法とうについて説明する。 授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 課題設定 内容 受講者の関心にしたがって課題を設定し、計画を立てる。
- 第 3 回 項目 資料収集と発表 1
- 第 4 回 項目 資料収集と発表 2
- 第 5 回 項目 資料収集と発表 3
- 第 6 回 項目 資料収集と発表 4
- 第 7 回 項目 資料収集と発表 5
- 第 8 回 項目 資料収集と発表 6
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 これもあでの発表内容を整理し、後半の計画を立てる。
- 第 10 回 項目 資料集と発表 7
- 第 11 回 項目 資料収集と発表 8
- 第 12 回 項目 資料収集と発表 9
- 第 13 回 項目 資料収集と発表 10
- 第 14 回 項目 最終まとめ 内容 これまでの報告をまとめる。
- 第 15 回 項目 報告集の作成

成績評価方法 (総合) 何よりも受講生の主体的な学習が大切なので、内容はもとより発表への取り組みや授業時の発表態度、ディスカッションへの参加への意欲や態度を重視して総合的に評価する。なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には

教科書・参考書 教科書：なし、 / 参考書：なし、

メッセージ 何よりも受講生自身の主体的・積極的な活動が大切です。やむを得ず欠席する場合には早めに連絡して下さい。なお、本演習の受講に関しては、教育方法学及び教育方法学演習 II を受講済みであることが条件です。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：083 - 933 - 5452 メール：ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 10 : 00 ~ 12 : 00

開設科目	教育制度	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。

授業の一般目標 学生が複眼的な思考方法で、クリティカルに教育の制度を捉え、それを論理的に表現できる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 3 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 4 回 項目 現代社会と学校 制度
- 第 5 回 項目 教育制度の原理
- 第 6 回 項目 中間試験
- 第 7 回 項目 教育課程の経営
- 第 8 回 項目 就学と在学管理
- 第 9 回 項目 教育改革の動向
- 第 10 回 項目 教育改革の動向
- 第 11 回 項目 教職員の身分と 職務
- 第 12 回 項目 公式組織と非公 式組織
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

メッセージ 第 1 回目の授業（オリエンテーション）で、詳細を説明する。教育実習等により、第 1 回目の授業に参加できない者は、以後、できるだけ速やかに教官から指示を得ること。

開設科目	教育制度演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 各受講者が資料(和文・英文文献など)に基づきながら教育制度を検討し、自分なりの制度改革案を作成・発表する。

授業の一般目標 現行の制度、自分の改革案双方の利点、問題点を踏まえながら、自分の教育制度改革案を作り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 3 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 4 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 5 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 6 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 7 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 8 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 9 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 10 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 11 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 12 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 13 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 14 回 項目 学生によるレポート・討議
- 第 15 回 項目 まとめ、反省

メッセージ 「教育制度」をすでに履修した人間教育学教室所属の学生を主な対象者とする。第 1 回目の授業(オリエンテーション)で授業の概要を説明する。

開設科目	教育制度演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育制度演習 I を踏まえ、各自、興味関心に応じテーマを設定する。その後、資料収集、調査研究を行い、随時進捗状況を報告する。最後に、そのテーマについての発表会を行う。

授業の一般目標 教育の制度（仕組み、メカニズム）に関する研究をやり遂げ、その成果を発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択したテーマ及びそれに関連する基本的な知識を理解している。また、そのテーマについて、これまで研究上何が明らかにされ、何が明らかにされていないのか、研究上の課題は何かについて理解している。 思考・判断の観点： 選択したテーマ及び自ら行った研究について建設的かつクリティカルな見方ができる。今後、自分にとっての課題が何であるのかを明確に認識できている。 関心・意欲の観点： 選択したテーマについて旺盛な関心を持ち、自分から意欲的に研究を行っている。 態度の観点： 授業への出席状況が良好であり、自他の発表において積極的な態度を示している。 技能・表現の観点： 発表を行う際、分かりやすく発表するように努めている。

授業の計画（全体） オリエンテーション（授業 1 回） 各自、興味関心に応じテーマを設定する（2 回）その後、資料収集、調査研究を行い、随時進捗状況を報告する（7 回）発表会用のレジュメ、資料の作成と発表の練習（3 回）研究成果を発表会の場で発表する（1 回）発表についての反省を行う（1 回）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の概要を説明する。学生は興味・関心に基づいて、研究テーマの候補をあげる。授業外指示 本シラバスに目を通し、自分にとってこの授業は有益である、継続して参加する意欲があることを確認しておくこと。
- 第 2 回 項目 研究テーマ検討 1 内容 研究テーマを可能性、意義などの観点から検討する。授業外指示 研究テーマ（案）を、理由を付して提示できるように準備してくる。関連の先行研究を調べてくる。
- 第 3 回 項目 研究テーマ検討 2 内容 研究テーマを可能性、意義などの観点から検討し、最終的なテーマを決定する。最終の発表に至るおおよそのスケジュールを立てる。授業外指示 関連の先行研究を調べてくる。
- 第 4 回 項目 学生によるレポート・討議 1 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第 5 回 項目 学生によるレポート・討議 2 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第 6 回 項目 学生によるレポート・討議 3 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第 7 回 項目 学生によるレポート・討議 4 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第 8 回 項目 学生によるレポート・討議 5 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第 9 回 項目 学生によるレポート・討議 6 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。

- 第10回 項目 学生によるレポート・討議 7 内容 各自のスケジュールに従って、研究の進捗状況、問題点などを発表するとともに、他者はそれについて支持的な意見を出す。授業外指示 発表用資料を準備してくる。
- 第11回 項目 発表会用資料の準備と発表の予行練習1 内容 発表会で使う資料について検討する。発表の練習をする。授業外指示 資料を準備してくる。
- 第12回 項目 発表会用資料の準備と発表の予行練習2 内容 発表会で使う資料について検討する。発表の練習をする。授業外指示 資料を準備してくる。
- 第13回 項目 発表会用資料の準備と発表の予行練習3 内容 発表会で使う資料について検討する。発表の練習をする。授業外指示 資料を準備してくる。
- 第14回 項目 発表会 内容 主に人間教育学教室の学生・教官に参加を呼びかけ、発表会を開催する。分かりやすい発表、質問等に対する誠実な応答を行う。授業外指示 発表会における発表の練習を十分にやってくる。
- 第15回 項目 反省会 内容 今後の研究活動のために、発表会および授業全般について、反省点や改善点、あるいは継続すべき好ましかった点などを明らかにする。授業外指示 反省点、課題などを簡単にメモしてくる。

成績評価方法(総合) 「授業外レポート」と「発表」から、授業の到達目標に達しているか、また達するように努めているかを評価する。「授業外レポート」は、授業で何を学び、また何が課題として明らかになったかなどを、毎回の授業終了後に完結に報告してもらうものである。

教科書・参考書 教科書：使用しない / 参考書：適宜紹介する

メッセージ 第1回目の授業でオリエンテーションを行い、授業について詳しく説明する。「教育制度」「教育制度演習Ⅰ」を履修した人間教育学教室所属の学生を主な対象として想定している。

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。

授業の一般目標 現行教育法規の要点を理解している。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学校教育の推進と法規
- 第 3 回 項目 学校教育の推進と法規
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規
- 第 7 回 項目 児童生徒の懲戒と・体罰と生徒指導に関する法規
- 第 8 回 項目 児童生徒の懲戒と・体罰と生徒指導に関する法規
- 第 9 回 項目 教育職員の職務と法規
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規
- 第 11 回 項目 教育行政の推進と法規
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規
- 第 13 回 項目 社会教育の推進と法規
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003年

開設科目	社会教育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田代直人				

授業の概要 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。

授業の一般目標 社会教育の各分野の基本的事項と課題について理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーショ< BR >ン
- 第 2 回 項目 生涯学習とは< BR >(1)
- 第 3 回 項目 生涯学習とは< BR >(2)
- 第 4 回 項目 生涯学習における< BR >社会教育の重要性
- 第 5 回 項目 社会教育の概念
- 第 6 回 項目 少年教育および青< BR >年教育
- 第 7 回 項目 成人教育
- 第 8 回 項目 高齢者教育
- 第 9 回 項目 社会教育施設< BR >(1)
- 第 10 回 項目 社会教育施設< BR >(2)
- 第 11 回 項目 中間試験
- 第 12 回 項目 社会教育行政< BR >(1)
- 第 13 回 項目 社会教育行政< BR >(2)
- 第 14 回 項目 社会教育の今日的< BR >課題
- 第 15 回 項目 最終試験

成績評価方法(総合) 中間試験および期末試験の2回のテストの成績で評価する。

教科書・参考書 教科書：社会教育の理論と実践, 田代直人編著, 樹村房, 1994年

開設科目	カウンセリング論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 「カウンセリング」という言葉は、日常生活の中で、さまざまな分野で使われています。学校場面に限らず企業のメンタルヘルス領域においてもますます重要な役割を担うようになってきました。しかし、誤解も多く、その実際については十分に理解されていません。そこで、講義では、カウンセリングの基本的な枠組みについて講義します。 / 検索キーワード カウンセリング、面接構造（枠）、臨床心理学的理解

授業の一般目標 カウンセリングの基礎的な概念や枠組みを理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： カウンセリングの基本的な概念や理論・技法について説明できる。

その他の観点： 私語など講義の進行を妨げる行為があり3回注意した場合、以後の講義の受講は認めない。

授業の計画（全体） カウンセリングの基礎的な理論や技法について理解を深める。「面接」の枠組みやその意義、面接のプロセス、さまざまな援助技法や理論的枠組みについて講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 こころの理解 内容 講義のオリエンテーションも行う。
- 第2回 項目 カウンセリングの領域と枠組み
- 第3回 項目 さまざまな理論と立場(1) 内容 精神分析学の立場(1)
- 第4回 項目 さまざまな理論と立場(2) 内容 精神分析学の立場(2)
- 第5回 項目 さまざまな理論と立場(3) 内容 来談者中心の立場・行動論の立場
- 第6回 項目 さまざまな理論と立場(4) 内容 短期療法・森田療法・内観療法など
- 第7回 項目 さまざまな理論と立場(5) 内容 遊戯療法・箱庭療法など
- 第8回 項目 さまざまな理論と立場(6) 内容 自律訓練法・心理劇など
- 第9回 項目 さまざまな理論と立場(7) 内容 夫婦カウンセリングなど
- 第10回 項目 カウンセリングの過程(1) 内容 インテイク面接と心理アセスメント
- 第11回 項目 カウンセリングの過程(2) 内容 面接過程と技法(1)
- 第12回 項目 カウンセリングの過程(3) 内容 面接の過程と技法(2)
- 第13回 項目 カウンセリングの過程(4) 内容 心理学的問題のレベルと対応
- 第14回 項目 保護者へのカウンセリング
- 第15回 項目 講義のまとめ

成績評価方法（総合） 受験資格は、講義の3分の2以上に出席していることである。期末試験は筆記試験によりおこなう。カウンセリングに関する基礎的知識や理論、技法などカウンセリングについての基礎的な理解力を問う問題を出題する予定である。

教科書・参考書 教科書：スライドおよび配布資料による。 / 参考書：必要に応じて示す。

メッセージ 心を理解するための学問です。単なる知識としてだけでなく、自らの心に浮かんでくるさまざまな体験や事象についても考えながら、講義に参加してください。

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上に立って、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画（全体） 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒的発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法（総合） 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された 2 回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書： 発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000 年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室 (5449)・水曜日 (10:30 ~ 12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑓幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学校での教育活動において、まず子どもをどのようにとらえていけばよいか概観する。次に児童・生徒の発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業の一般目標 現代の教育が遭遇しているさまざまな問題に対して、教育心理学的な観点から、その解決に役立つ知識を与え、さらに教科指導だけでなく、生徒指導的な面からも教師としての資質を身につけることを目的とする。特に学力低下問題に対して教育心理学からどのような対策があるかを考えてみたい。さらに不登校、いじめといった問題に対し、社会の問題をふまえた上で、全人格を発展させる観点から追求していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特に子どもの記憶と理解がどのように行われているかについて、認知心理学からの知見を理解することが求められる。思考・判断の観点：学習の指導法にいろいろな方法があることに気づく。また個々の子どもに適するような指導法を自らが考えていけるような判断力を身につける。関心・意欲の観点：自分は教育心理学の指導法や心理療法の中で、どの指導法、あるいはどのような心理療法を採用するか、またどのようなタイプの子どもにはどのような指導法が適し、またどのような心のケアが適しているかなどの問題に答えられるような関心・意欲が求められる。態度の観点：教師になると仮定して、どのような指導法を用いて授業をするかがイメージできるような態度が求められる。

授業の計画（全体） 学校での教育活動を進めるにあたって、まず現代の子どもをどのようにとらえるべきかについて解説する。次に児童・生徒における発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学の内容
- 第 2 回 項目 教育活動における子ども理解
- 第 3 回 項目 教育における発達の要因
- 第 4 回 項目 学習における知識と理解の役割
- 第 5 回 項目 真のわかるとは何か
- 第 6 回 項目 学習における動機づけと意欲
- 第 7 回 項目 学習の指導法について
- 第 8 回 項目 学習の転移 - 基礎基本の徹底と応用について
- 第 9 回 項目 個に応じた学習個に応じた学習学力について
- 第 10 回 項目 子どもの個性の理解 1 - 人格の理論 -
- 第 11 回 項目 子どもの個性の理解 2 - 心理検査 -
- 第 12 回 項目 子どもの個性の理解 3 - 心理療法 -
- 第 13 回 項目 学校における軽度発達障害者の理解
- 第 14 回 項目 学校における障害者の理解
- 第 15 回 項目 教育評価

成績評価方法（総合） 定期試験を重視するが、途中で実施する小テストおよび課題、ならびに出席も評価に入れて、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界，藤土圭三（監修），北大路書房，1994年 / 参考書：教室でどう教えるかどう学ぶか - 認知心理学からの教育方法論，吉田 甫・栗山和広，北大路書房，1992年

メッセージ 期末試験が重視されるが、レポート課題を数回出すので、その提出も忘れないこと

連絡先・オフィスアワー ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372 , オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 学校、家庭、社会におけるさまざまな教育的営みを心理学的にとらえていたり、そうした類のデータを概観するとき、どのようなことに注意しなければならないのかについて論考する。

授業の一般目標 教育にかかわる諸現象を心理学的な視点で捉え、必要に応じて教育データを収集したりする際の留意事項や基礎的知識を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学とは
- 第 2 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(1)
- 第 3 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(2)
- 第 4 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(3)
- 第 5 回 項目 人間の発達の特質
- 第 6 回 項目 児童期の発達の理解
- 第 7 回 項目 青年期の発達の理解
- 第 8 回 項目 知識の獲得・理解
- 第 9 回 項目 学習の動機づけ
- 第 10 回 項目 指導方法
- 第 11 回 項目 他者との相互作用
- 第 12 回 項目 教師と子ども
- 第 13 回 項目 個性理解
- 第 14 回 項目 教育の測定
- 第 15 回 項目 教育の評価

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界, 藤土圭三(監修), 北大路書房, 1994年

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	幼児教育基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	原 昭徳				

授業の概要 幼稚園教師になるための要件や幼児教育の基礎概念、保育思想の歴史や幼児教育を支える理論を紹介する

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「先生になるには」(幼稚園教諭、保育所保母)
- 第 2 回 項目 幼児教育施設の起源と発想（オーエンの保育園とフレーベルの幼稚園）
- 第 3 回 項目 幼児教育を拓いた人々（関信三、豊田英雄、倉橋惣三など）
- 第 4 回 項目 幼稚園と保育所
- 第 5 回 項目 幼稚園教育要領の変遷と幼稚園教育の実態
- 第 6 回 項目 幼稚園設置基準と幼稚園の施設設備
- 第 7 回 項目 幼稚園指導要録の意義と記入の実際
- 第 8 回 項目 幼児と接するということ
- 第 9 回 項目 戸外活動（散歩）の教育的意義
- 第 10 回 項目 幼稚園教諭、園長の役割と仕事内容
- 第 11 回 項目 幼稚園から小学校へ
- 第 12 回 項目 幼稚園の運営と研修
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： マー君の散歩道, 桑原昭徳, ミネルヴァ書房 / 参考書： 幼稚園教育要領解説, 文部科学省,

開設科目	幼児教育メディア	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 情報機器を用いた教材製作として、ノートパソコンを用いて WEB 絵本を製作する。 / 検索
キーワード メディア 教材 絵本

授業の一般目標 1.CGで絵が描ける。 2.BGMや語りかけをWEB絵本につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 描画ツールや音声入力ツールを使いこなすことができる。 思
考・判断の観点： 1. 幼児が好む絵や音を追求する力を培う。 関心・意欲の観点： 1. コンピュータメ
ディアへの関心を高め、メディアを楽しむ。 態度の観点： 1. こだわりを持って積極的に作品制作に取り
組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 様々なソフトに対応できる柔軟な基礎力を身につける。

授業の計画(全体) 授業は、基本的には各自のノートパソコンでCGファイルを作るという形式で進行
する。ノートパソコンを所持していない学生には授業時のみ貸与する。WEB絵本を作るため、プロ
ットを作り、プロットに従ってCGを描く。各CGファイルに声や音を貼り付ける。全てのデータを提出
し、WEB上で確認する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各自のPCソフトの確認 内容 ディスクに「絵本」のフォルダを作り、各自のノートパ
ソコンに内蔵している描画ソフトの確認をする。ディスクのクリーンアップの方法と最適
化の仕方を説明する。
- 第 2 回 項目 WEB絵本を見る 内容 インターネットでWEB絵本を検索し、様々なWEB絵本を見
て、自分がどのようなWEB絵本を作るかのイメージをふくらませる。
- 第 3 回 項目 プロットの製作 内容 各自のノートパソコンに内蔵しているワープロソフトを用い、プ
ロットを書く。時間経過とせりふや動きの構成をする。
- 第 4 回 項目 プロットの調整 内容 ワープロソフトを用いて、時間経過とせりふを子どもの時間感
と言語感覚の観点から精選する。
- 第 5 回 項目 CGの制作 内容 プロットに沿ってCGをおおまかに描き、プロットに貼り付ける。
- 第 6 回 項目 CGの調整(1) 内容 原色を避ける理由を説明し、柔らかい色彩に調整する。
- 第 7 回 項目 CGの調整(2) 内容 各シーンのCGをより子どもの感覚に訴えかける配色に仕上げる。
絵本フォルダにCGをJPG形式で書き込む。
- 第 8 回 項目 CGの精選 内容 ブラッシングやマスキングの技法を使用してこだわりを持ってCGを
仕上げる。
- 第 9 回 項目 音声入力の準備 内容 各自のノートパソコンに内蔵しているメディアプレーヤーの使い
方を解説し、著作権の説明をする。
- 第 10 回 項目 音や声の入力 内容 プロットに従って、音や声を入力し、音声ファイルにして絵本フォ
ルダに記録する。
- 第 11 回 項目 音や声のデータの精選 内容 プロットに完成したCGを貼り付け、音声ファイルを実行
して確認し、調整する。
- 第 12 回 項目 WEB化する 内容 WEBに乗せるためのプログラムを入力し、各自のノートパソコン
で実際に動かしてみる。
- 第 13 回 項目 WEBに載せて確認する 内容 絵本フォルダにある全データをCDに記録し、提出する。
- 第 14 回 項目 WEB教材の可能性とネット 内容 WEB絵本を公開する場合のセキュリティやネチ
ケットについて講義する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 自分の作品と他者との作品を比較し、自己評価する。

成績評価方法(総合) 1. 授業の最初に毎回、出席状況調査票を配布し、出席を確認する。 2. ワープロソフト
、描画ソフト、音声入力ソフトについて作品を提出し、評価を行う。 3. 最終授業の際に自己評価を課
し、評価に加味する。

メッセージ 情報処理基礎を受講していること。授業時間外の作業が多くなります。

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児福祉総論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児・者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児・者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。 / 検索キーワード 障害児、福祉、地域生活

授業の一般目標 障害児・者福祉の基本原則についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児・者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児・者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。 2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児・者福祉における歴史と現状をふまえて、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 障害児・者福祉の歴史～古代から現代～ 内容 障害児・者福祉の歴史（古代～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 障害児と指導者（学校教師） 内容 初代近江学園長の糸賀一雄（1914～1968）の福祉観を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 児童福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 児童福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 児童福祉法（2）～児童相談所・福祉事務所・保健所の役割～ 内容 支援機関として重要な児童相談所、福祉事務所、保健所の役割について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 人間観と福祉思想 内容 サリドマイド薬禍事件（1962）について説明し、「生きる権利」についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 障害児を育てる親の心情の変容 内容 わが子（障害児）の出生時から学校教育終了時までの親の心情を説明し、その変容についてとらえる。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 知的障害者福祉法（1）～目的・対象・施設の役割～ 内容 知的障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 知的障害者福祉法（2）～更生施設・授産施設～ 内容 20世紀の障害者福祉において一定の役割を担ってきた更生施設、授産施設について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 障害者手帳（目的・対象・活用のしかた）・障害者基礎年金・各種福祉手当 内容 障害者福祉において重要な役割を担っている障害者手帳、障害者基礎年金、各種福祉手当等の役割や機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 身体障害者福祉法～目的・対象・施設の役割～ 内容 身体障害者福祉法制定の経緯をふまえ、その理念、目的、支援対象、施設の役割等を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 地域生活を支える支援のあり方 内容 通勤寮、グループホーム等の機能について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 就労生活を支える支援のあり方 内容 就労の意義と、それを支える支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 21世紀の障害児・者福祉の方向性 内容 地域生活を望む声が高まっている事実と、今後の福祉施策の方向性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) (1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)パール・バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児教育原理	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する児童生徒（知的障害児、肢体不自由児、病弱児、視覚障害児、聴覚障害児、重複障害児、LD等の障害児）への教育の意義、教育史、発達過程、教育課程、法制度を中心としつつ、特別支援教育の現状、今日的課題及び今後の展望について講義する。なお、学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介し、模擬体験活動等も導入することで、特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」の理論と実践の融合をはかる。 / 検索キーワード 障害児、教育の意義、特別支援教育

授業の一般目標 特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．特別支援教育の概念、歴史、教育課程等を説明できる。 2．特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」の具体を説明できる。 思考・判断の観点： 1．特別支援教育における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1．障害児の生涯を見通した教育への関心を高め、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを讀んでおくこと 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 特別支援教育の意義・歴史（1） 内容 特別支援教育の意義並びに歴史（古代～中世）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 特別支援教育の意義・歴史（2） 内容 特別支援教育の歴史（近世～現代）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 障害児の成長・発達 内容 ピアジェ（J.Piajet）の発達理論に基づきつつ、知的障害児の成長・発達を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 知的障害児への指導事例 内容 成長・発達の緩やかな児童生徒に対する指導のあり方を具体事例を通して説明する。 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 成長・発達に及ぼす環境の影響 内容 人の成長・発達に及ぼす環境の影響について、3つの立場と論争を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 個に応じた指導の必要性 内容 図画工作科的活動を通して、個に応じた指導（支援）の必要性を体感させ、支援のあり方について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 8 回 項目 生活にねざした指導の必要性 内容 昭和20年代から発展した生活主義教育と現在の生活単元学習等との関連性について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 生活にねざした指導の事例（「生活単元学習」等） 内容 教科・領域を合わせた指導形態の代表としての生活単元学習の具体について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 特別支援教育諸学校（盲学校・聾学校・養護学校）の教育課程 内容 教科・領域を合わせた指導と教科別・領域別の指導をミックスさせた教育課程について説明する。 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 特別支援教育諸学校の学習指導要領（その歴史の変遷） 内容 現在まで4回の改訂を経るに至った理由を児童生徒の障害の実態から説明する。 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 学校教育終了後の進路 内容 学校教育終了後の進路の実態（入所施設・通所施設・福祉作業所・事業所等）を説明する。 授業記録 配布資料
- 第 13 回 項目 学校教育終了後の人生を見通した指導 内容 学校教育終了後の生活実態を背景に、学校教育段階における望ましい指導のあり方を説明する。 授業記録 配布資料

第 14 回 項目 教師の資質 内容 学校教育にあたる指導者に求められる資質について説明する。授業記録 配布資料

第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) 特別な理由なく、出席が所定の回数に 満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：受講生には資料プリントを配布する。 / 参考書：参考書は随時提示する。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	西村正登				

授業の概要 卒業論文を書くための研究方法、論文構成の立て方、論文の書き方等について説明し、研究をまとめたものを学生に発表させ、討議させながら授業を進めていく。/ 検索キーワード 研究テーマ、研究方法、文献調査、論文構成

授業の一般目標 卒業論文を書くための研究方法、論文構成の立て方、論文の書き方等について理解し、自分の研究したことをまとめて発表し、修正しながら論文を書き上げていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 卒業論文を書くための研究方法、論文構成の立て方、論文の書き方等が理解できる。 思考・判断の観点： 1. 文献調査を行い、必要な文献を選択して卒業論文を構成していくことができる。 関心・意欲の観点： 1. 卒業論文の作成を通して、研究テーマへの関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 自分で文献を調べ、資料を活用しながら論文を書き上げていくことができる。 技能・表現の観点： 1. 発表したり、論文を書くための技能や表現力を身につけることができる。

授業の計画(全体) 研究の進め方や論文の書き方についての指導を行った上で、学生が研究したものをまとめて発表させ、討議させながら授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマについての話し合い
- 第 2 回 項目 文献調査の仕方
- 第 3 回 項目 論文構成の立て方
- 第 4 回 項目 実際に論文構成を立てる。
- 第 5 回 項目 論文構成の検討と修正
- 第 6 回 項目 研究発表と討議(1)
- 第 7 回 項目 研究発表と討議(2)
- 第 8 回 項目 研究発表と討議(3)
- 第 9 回 項目 研究発表と討議(4)
- 第 10 回 項目 研究発表と討議(5)
- 第 11 回 項目 研究発表と討議(6)
- 第 12 回 項目 研究発表と討議(7)
- 第 13 回 項目 研究発表と討議(8)
- 第 14 回 項目 研究発表と討議(9)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 完成された卒業論文と卒業論文への取り組みの姿勢、授業への出席状況によって総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 必要に応じて研究内容に関連した文献を使用する。

メッセージ 卒業論文の作成を通して、自分で研究テーマを発見し、文献を読みながら問題を探究し、論文にまとめ上げていく力を養って行って下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	杉山 緑				

授業の概要 受講生が自ら設定したテーマにしたがって研究を行い、卒業研究を完成させる。

授業の一般目標 自ら設定したテーマについて、文献・資料等を収集し分析・検討したり、調査を行うなどして、研究論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献・資料等の内容を正しく理解できる。 思考・判断の観点：理解したことを基に、自分なりの考えを深め、整理できる。 関心・意欲の観点：テーマに関連する諸問題について感心を広げる。 態度の観点：意欲的に作業を行い、研究としてまとめる。 技能・表現の観点：自分の考えを的確に表現できる。

授業の計画(全体) まず、受講生各自のテーマ設定を行う。続いて、各受講生が自ら設定したテーマにしたがって学習・研究を深め、適宜レポートを行う。最後に、学習・研究の成果をまとめて卒業研究として完成させる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学生発表
- 第 3 回 項目 学生発表
- 第 4 回 項目 学生発表
- 第 5 回 項目 学生発表
- 第 6 回 項目 学生発表
- 第 7 回 項目 学生発表
- 第 8 回 項目 学生発表
- 第 9 回 項目 学生発表
- 第 10 回 項目 学生発表
- 第 11 回 項目 学生発表
- 第 12 回 項目 学生発表
- 第 13 回 項目 学生発表
- 第 14 回 項目 学生発表
- 第 15 回 項目 中間発表会
- 第 16 回 項目 学生発表
- 第 17 回 項目 学生発表
- 第 18 回 項目 学生発表
- 第 19 回 項目 学生発表
- 第 20 回 項目 学生発表
- 第 21 回 項目 学生発表
- 第 22 回 項目 学生発表
- 第 23 回 項目 学生発表
- 第 24 回 項目 学生発表
- 第 25 回 項目 学生発表
- 第 26 回 項目 学生発表
- 第 27 回 項目 学生発表
- 第 28 回 項目 学生発表
- 第 29 回 項目 学生発表
- 第 30 回 項目 最終発表会

成績評価方法 (総合) レポート内容、研究に対する意欲や態度、および完成した卒業研究の内容を勘案して総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	福田 修				

授業の概要 各自教育史にかかわるテーマを設定し,資料を収集・分析し仮説を検証して論文にまとめる.
/ 検索キーワード 教育史, 資料収集, 分析, 仮説, 検証, 論文

授業の一般目標 教育に関する課題意識をみがき,資料を収集する方法とそれを分析して論文にまとめる
基礎的な力を身につける.

授業の到達目標 / 思考・判断の観点: 資料を多面的に検討することができる. 技能・表現の観点:
必要な資料をなるべく多く収集することができる. 思考の結果を適切な文章にまとめることができる.

授業の計画(全体) 曜日・時間を限定せず,必要に応じて指導を行う.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマ設定 1 内容 テーマを選択する 1 授業外指示 テーマを考える
- 第 2 回 項目 テーマ設定 2 内容 テーマを選択する 2 授業外指示 テーマを考える
- 第 3 回 項目 テーマ設定 3 内容 テーマを選択する 3 授業外指示 先行研究を調査・収集する
- 第 4 回 項目 テーマ設定 4 内容 テーマを選択する 4 授業外指示 先行研究を調査・収集する
- 第 5 回 項目 課題の絞込み 1 内容 課題を絞り込む 1 授業外指示 先行研究を検討する
- 第 6 回 項目 課題の絞込み 2 内容 課題を絞り込む 2 授業外指示 先行研究を検討する
- 第 7 回 項目 資料収集 1 内容 収集した資料を発表する 1 授業外指示 資料を収集する
- 第 8 回 項目 資料収集 2 内容 収集した資料を発表する 2 授業外指示 資料を収集する
- 第 9 回 項目 資料収集 3 内容 収集した資料を発表する 3 授業外指示 資料を収集する
- 第 10 回 項目 論文構成 1 内容 資料を基に構成を考える 1 授業外指示 構成を考える
- 第 11 回 項目 論文構成 2 内容 資料を基に構成を考える 2 授業外指示 構成を考える
- 第 12 回 項目 論文執筆 1 内容 論文を検討する 1 授業外指示 論文を執筆しておく
- 第 13 回 項目 論文執筆 2 内容 論文を検討する 2 授業外指示 論文を執筆しておく
- 第 14 回 項目 論文執筆 3 内容 論文を検討する 3 授業外指示 論文を執筆しておく
- 第 15 回 項目 成果発表 内容 研究成果を発表し検討する 授業外指示 発表原稿を用意する

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部 3階 364 オフィスアワー:月
曜日 9:30~10:30

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	佐々木司				

授業の概要 卒業研究を指導する学部生に対して、研究テーマの設定、研究方法の選択、関係先行研究のフォロー方法、論文執筆方法などを教える。

授業の一般目標 卒業研究を指導する学部生が、研究テーマを設定し、研究方法を選択し、関係先行研究をフォローした上で、卒業研究論文を執筆し終え、発表会においてそれを発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業研究に関連する基本的な知識を獲得し、それを自身の研究に活かせるほどに理解している。 思考・判断の観点：卒業研究において科学的、学術的な思考・判断ができています。 関心・意欲の観点：卒業研究テーマについて関心・意欲を持続している。 態度の観点：卒業研究を行う際、真摯な態度を持続している。 技能・表現の観点：卒業研究を論文としてまとめる上で必要な技能、表現を身につけている。

メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	田中理絵				

授業の概要 大学における研究の総まとめとして、卒業論文を書くことを目的とする。そのため、各自の設定したテーマに従って、実証的・科学的な仮説・検証を経た結論を導き出し、社会へ還元可能なレベルの論文を仕上げるように演習を行う。/ 検索キーワード 仮説検証、精査、実証性・科学性

授業の一般目標 社会へ還元可能なレベルの実証性の高い論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：設定したテーマにかかわる重要な学術用語・先行研究へ精通していることはもちろんだが、教育学・社会学・心理学・文化人類学など周辺学問領域をまたいだ、学際的知見も習得してほしい。 思考・判断の観点：正しい論理性を何よりも重視する。その上で、独創性を発揮してほしい。 関心・意欲の観点：年間を通して追究するテーマを情熱をもって探求してほしい。 態度の観点：日頃から、論文作成に向かう態度で日常生活を過ごしてほしい。 技能・表現の観点：優れた論文を読み込むことで、水準の高い論文を書くことを目標にしてほしい。

授業の計画(全体) 前期は、主として、先行研究を読み込みながら、テーマ設定・仮説だて・研究方法の決定、データの収集を行う。その後、後期において、データ収集、分析・考察、章立て、論文執筆へと移行する。

成績評価方法(総合) 日頃の態度、データの収集力、分析力、卒業研究中間発表会でのプレゼン力、論文の水準を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。/ 参考書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

メッセージ 大学生活における研究の集大成です。研究は各自の自己満足ではなく、社会全体の利益にならねばなりません。ですから、社会へ還元可能なレベルの論文を作成して下さい。

連絡先・オフィスアワー ゼミ生は随時可能なのでアポを取るように。

教育心理学コース

開設科目	心理学実験	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣・某				

授業の概要 心理学の研究に必要な基本概念やデータ収集技法を含む実験の実施と報告書の作成についての実習を行う

授業の一般目標 心理学とは「どのような学問か。」について体験的に理解を深めるとともに、心理学的研究論文作成の基礎的能力の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学の基礎的用語を理解する 思考・判断の観点：データに基づいて、適切に結論を導くことができる 関心・意欲の観点：関連する問題について文献を調べる態度の観点：授業に出席する

授業の計画（全体） 到達目標に向けて、毎週報告書を作成し、全レポートを総合的に評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション（実験のねらい）
- 第 2 回 項目 ミュラーリエル錯視（精神生物学的測定法）
- 第 3 回 項目 メンタルローテーション（視覚的イメージ，反応時間）
- 第 4 回 項目 自由再生（記憶の体制化，学習曲線）
- 第 5 回 項目 集中学習と分散学習（学習法，作業量）
- 第 6 回 項目 概念学習（情報収集の方略）
- 第 7 回 項目 問題解決（問題空間の探索，ヒューリスティック）
- 第 8 回 項目 作成提出された報告書についてのフィードバック
- 第 9 回 項目 感情の生理的变化（皮膚電気反応）
- 第 10 回 項目 イメージの測定（SD 法）
- 第 11 回 項目 テストの作成（項目分析，内的整合性）
- 第 12 回 項目 個人空間（対人距離）
- 第 13 回 項目 保存概念（保存，操作ルール）
- 第 14 回 項目 作成提出された報告書についてのフィードバック
- 第 15 回 項目 全体のまとめ，心理学実験 II に向けて

成績評価方法（総合） 毎回の課題についてのレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：心理学のための実験マニュアル：入門から基礎・発展へ，”利島保，生和秀敏編著”，北大路書房，1993 年；心理学のための実験マニュアル，利島・生和編，北大路書房，1993 年

メッセージ 材料，器具，の都合により教育心理学コースの学生に限定。毎週 1 テーマの実験実施のためのインストラクションを行うので，データ収集は空き時間で行い，その報告書は期限日までに提出することになる。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1)教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2)教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3)教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職に関する基礎知識の習得 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを習得

授業の計画(全体) 教職に関する知識を身につけ、意欲を育むために、大学教員による講義・演習、グループ・ディスカッション、現職教員との座談会など、さまざまな形態で授業を展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業計画の説明
- 第2回 項目 今、教師に求められていること 内容 教員の資質、教師になるための4年間(教育学部のカリキュラム)について
- 第3回 項目 現代の子どもと学校・家庭・地域社会 内容 子どもをめぐる現代の状況
- 第4回 項目 教師の実際(1)
- 第5回 項目 教師の実際(2)
- 第6回 項目 教師の実際(3)
- 第7回 項目 グループ・ディスカッション 内容 教師の仕事と私たちの課題
- 第8回 項目 座談会(1) 内容 学校教師と語る教職の魅力(1)
- 第9回 項目 座談会(2) 内容 学校教師と語る教職の魅力(2)
- 第10回 項目 座談会のまとめ 内容 グループ発表
- 第11回 項目 教育実習の仕組みと実際 内容 教育実習のあらまし
- 第12回 項目 教員になるための計画・準備 内容 教員採用試験等について
- 第13回 項目 教育学部における臨床的体験プログラム
- 第14回 項目 総括とまとめ1
- 第15回 項目 総括とまとめ2

成績評価方法(総合) 課題・レポートの提出、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 適宜、紹介する。

メッセージ 教職に関する意欲・知識を育む授業です。積極的かつ真摯にのぞんでください。

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	教育学部教員(複数)				

授業の概要 教員免許状を取得希望の者に対して、教職の意義、魅力などについて説明する。

授業の一般目標 1) 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2) 教職への意欲や積極的な構えをもつことができる。 3) 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教職の意義や基礎的知識について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 教職への意欲や積極的な構えを持つことが出来る。

授業の計画(全体) 学校教員を目指す学生に、教職とは何か、その魅力ややりがいなどを現職教員の体験などもまじえて理解し、教職への希望、意欲指向性などを育む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 今、教職に求められていること
- 第3回 項目 公教育と教員養成の歴史 1
- 第4回 項目 公教育と教員養成の歴史 2
- 第5回 項目 学校の運営および経営 1
- 第6回 項目 学校の運営および経営 2
- 第7回 項目 教育課程と教科指導
- 第8回 項目 教科外指導(道徳、生徒指導)
- 第9回 項目 教員採用への道
- 第10回 項目 教師の職務
- 第11回 項目 学校と家庭
- 第12回 項目 学校と地域社会
- 第13回 項目 総括とまとめ 1
- 第14回 項目 総括とまとめ 2
- 第15回 項目 総括とまとめ 3

成績評価方法(総合) 毎回の授業内のレポート等により評価する。

教科書・参考書 教科書: 適宜紹介する。 / 参考書: 適宜紹介する。

メッセージ 授業には遅刻・欠席をしないこと。意欲的に参加すること。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	心理学研究法	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

授業の概要 心理学の理解を深めるためには、その研究方法についての理解が肝要である。心理学の諸領域の各特性に関連が深い方法、領域間で共通する方法について、「測定すること」に焦点化する形で心理学研究法について論考する。

授業の一般目標 心理学の幾つかの領域の諸問題への共通アプローチ法及び個別的なアプローチ法の特徴を知り、実証的な研究のやり方についての枠組みを習得する。

授業の計画(全体) 心理学の研究パラダイムの理解と各領域に関連の深い研究法についての理解を深める。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心理学研究のパラダイム
- 第2回 項目 心理学研究における観察、実験の意義
- 第3回 項目 感覚・知覚領域における測定(1)
- 第4回 項目 感覚・知覚領域における測定(2)
- 第5回 項目 記憶領域における測定(1)
- 第6回 項目 記憶領域における測定(2)
- 第7回 項目 思考・問題解決における測定
- 第8回 項目 集団・対人領域における測定(1)
- 第9回 項目 集団・対人領域における測定(2)
- 第10回 項目 集団・対人領域における測定(3)
- 第11回 項目 発達・教育における測定(1)
- 第12回 項目 発達・教育における測定(2)
- 第13回 項目 発達・教育における測定(3)
- 第14回 項目 心理・臨床のアセスメント(1)
- 第15回 項目 心理・臨床のアセスメント(2)

成績評価方法(総合) 授業中における討論および期末試験の成績で評価する。

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、障害者の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。 / 検索キーワード 人間の発達、学習、思考、パーソナリティ、情緒、個性化と社会化

授業の一般目標 人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自己の深い理解の上に立って、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。 思考・判断の観点： 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。 関心・意欲の観点： 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 態度の観点： 展開される授業を単に受動的に参加するのではなく、積極的な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。 その他の観点： 科学としての「心理学」として位置づける。

授業の計画(全体) 今日の発達心理学が包含する広範囲の領域について概観する。人間発達の諸側面から理解を深めることになるが、教育的観点を考慮に入れて展開する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学における発達の概念 内容 発達の意味、発達曲線、発達の可能性
- 第 2 回 項目 発達の要因と原理 内容 発達の要因、成熟と学習、発達の原理
- 第 3 回 項目 発達段階と発達課題 内容 発達段階、発達課題
- 第 4 回 項目 人間発達のパースペクティブ 内容 発達の過程、発達加速現象 授業外指示 レポート課題
- 第 5 回 項目 子ども研究から児童心理学へ 内容 子ども研究、児童心理学 授業外指示 レポート提出
- 第 6 回 項目 青年理解と青年心理学 内容 青年期、価値観、ユースカルチャー
- 第 7 回 項目 現代社会と生涯発達心理学 内容 高齢化社会と生涯発達、高齢者理解
- 第 8 回 項目 知的発達と知能・思考 内容 知能の構造、知能測定、思考の側面
- 第 9 回 項目 記憶と言語の発達 内容 記憶と忘却、記憶の条件、人間と言語
- 第 10 回 項目 パーソナリティの発達と理解 内容 パーソナリティ理論、パーソナリティ形成 授業外指示 レポート課題
- 第 11 回 項目 適応と適応への方向づけ 内容 適応と適応機制、不適応と適応指導 授業外指示 レポート提出
- 第 12 回 項目 情緒的発達と動機づけ 内容 感情と情緒、情緒の発達、動機づけ
- 第 13 回 項目 人間における社会性の発達 内容 社会的発達と社会化、
- 第 14 回 項目 社会生活と対人関係 内容 集団の中の個人、集団生活と人間関係
- 第 15 回 項目 まとめと試験 内容 期末試験 < 60 分 > を含む

成績評価方法(総合) 主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された2回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書・参考書 教科書： 発達理解の心理学, 堂野佐俊・他, , 2000年

メッセージ 十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30~12:00)

開設科目	発達心理学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 人が生まれてから死に至るまでの間には、さまざまな出来事が起きています。この生涯にわたる発達心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には、不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。/ 検索キーワード 生涯発達, 自分

授業の一般目標 自らの体験も振り返りながら、日常的な出来事も含めた発達について理解することが目標です。ふだんは、気づかないでいることを発達視点からとらえなおし、これからの時代を担う子どもたちや、これまでの時代を担ってきて高齢者の方々、それに今を生活している自分自身について理解するための視点を身につけることを大きな目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。 関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。 その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり3回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) 発達についての基本的な視点やこれまでの知見について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 発達からみた自分 内容 履修に関する留意事項の説明・講義の概要
- 第2回 項目 こころの発達 内容 発生/成長・発達段階
- 第3回 項目 発達の研究方法(1) 内容 インフォームドコンセント
- 第4回 項目 発達の研究方法(2) 内容 コーホート分析、観察法・実験法・調査法・事例研究法など
- 第5回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(1) 内容 アタッチメント
- 第6回 項目 乳児と母親のコミュニケーション(2) 内容 ジョイント・アテンション
- 第7回 項目 言葉の獲得過程 内容 一語文と言語的制約
- 第8回 項目 知能 内容 知能
- 第9回 項目 他者の心の理解 内容 心の理論
- 第10回 項目 青年期までの発達課題 内容 同一性の危機(1)
- 第11回 項目 青年期の発達課題 内容 同一性の危機(2)
- 第12回 項目 成人期以降の発達：より親密な関係の形成と世代性 内容 親になること・中年
- 第13回 項目 発達の間をつなぐもの：移行対象 内容 移行対象・ファンタジー
- 第14回 項目 「不登校」について 内容 非社会性
- 第15回 項目 年老いていくこと 内容 加齢

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：キーワードコレクション発達心理学[改訂版]、子安増生・二宮克美編、新曜社、2004年 / 参考書：対象喪失 悲しむということ、小此木啓吾、中公新書、1979年；0歳児がことばを獲得するとき、正高信男、中公新書、1993年；ケータイを持ったサル、正高信男、中公新書、2003年；アイデンティティの心理学、鑪幹八郎、講談社現代新書、1990年

メッセージ 家族や友達など他者との関係、学校教育の中での自分、将来の自分像など、さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。

開設科目	障害児の心理	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 (1) 障害のある人たちを支援する際に有効な心理学(応用行動分析学)の基礎について学ぶ。(2) さまざまな障害特性(視覚障害,聴覚障害,肢体不自由,重度・重複障害,自閉症,学習障害,注意欠陥多動性障害)のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。(3) 上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。/ 検索キーワード 障害児 問題行動 分析・支援方法

授業の一般目標 (1) 障害のある子どもたちの支援に有効な心理学(応用行動分析学)の特徴について理解する。(2) さまざまな障害特性について理解する。(3) 障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する(4) 障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法、指導方法を習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 応用行動分析学の基礎(1)
- 第 3 回 項目 応用行動分析学の基礎(2)
- 第 4 回 項目 応用行動分析学の基礎(3)
- 第 5 回 項目 応用行動分析学の基礎(4)
- 第 6 回 項目 視覚障害,聴覚障害の心理
- 第 7 回 項目 肢体不自由,重度・重複障害の心理
- 第 8 回 項目 広汎性発達障害の理解と対応
- 第 9 回 項目 高機能自閉症の理解と対応
- 第 10 回 項目 学習障害の理解と対応(1)
- 第 11 回 項目 学習障害の理解と対応(2)
- 第 12 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(1)
- 第 13 回 項目 注意欠陥多動性障害の理解と対応(2)
- 第 14 回 項目 障害児の示す問題行動の理解と対応
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: 応用行動分析で特別支援教育が変わる, 山本淳一ほか, 図書文化, 2005年

メッセージ グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。予定以外の内容を取りあげることもある。

開設科目	幼児心理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。/
検索キーワード 幼児心理、発達、保育

授業の一般目標 乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：集団での討論に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 幼児理解のための理論と方法（1） 内容 観察法 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 幼児理解のための理論と方法（2） 内容 実験法 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（1） 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 保育実践研究の基盤を考える（2） 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（1） 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 発達を見る目をどのように養うか（2） 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（1） 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（2） 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 保育の記録とエピソードの取りだし方（3） 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（1） 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 保育における子どもの育ちのとらえ方（2） 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（1） 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 保育観察と保育記録の活用のしかた（2） 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。特別な事情を除き3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

メッセージ 子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：Phone & Fax (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 F (404 室) 白石研究室 オフィスアワー：随時

開設科目	心理学統計法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 教育や心理学研究で利用される統計処理法の基礎を学ぶ。あくまでも統計処理の利用者として、それぞれの手法の目的、考え方、結果の読みとり方や意味づけ方をまなぶ。できるだけ具体的な分析事例を材料にする。適宜簡単な課題を課す。 / 検索キーワード 統計法

授業の一般目標 (1)なぜ統計法が必要なのかを理解する。(2)どのような目的でどのような統計法を適用するかを理解する。(3)統計処理結果から、どのように結論を導くかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1)どのようなデータに対してどのような統計法を適用できるかを説明できる。(2)なぜ統計処理が必要なのかを説明できる。 思考・判断の観点：統計処理結果にもとづいて、妥当な結論を導くことができる。

授業の計画(全体) プリント教材によって進める。随時課題を課す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 なぜ統計処理が必要なのか 内容 統計法の必要性を述べる
- 第 2 回 項目 測定と尺度、数が意味するもの 内容 尺度水準の意味について述べる
- 第 3 回 項目 代表値、散布度、標準得点 内容 代表的な代表値と散布度の考え方について述べる
- 第 4 回 項目 統計的検定の考え方 内容 検定の考え方について述べる
- 第 5 回 項目 二つの平均値の差の検定 - t 検定 内容 t 検定について学ぶ 授業外指示 課題 1
- 第 6 回 項目 度数の検定 - 度数の検定 - カイ 2 乗検定 内容 カイ 2 乗検定について学ぶ 授業外指示 課題 2
- 第 7 回 項目 $n \times m$ の場合の度数の検定 内容 度数のクロス検定について学ぶ 授業外指示 課題 3
- 第 8 回 項目 二つの変量の関連 - 相関係数 内容 相関係数の考え方について学ぶ 授業外指示 課題 4
- 第 9 回 項目 3 つ以上の変量の 相関 - 偏相関係数、重相関係数 内容 偏相関係数および重相関係数について学ぶ
- 第 10 回 項目 要因の効果の検定 - 分散分析 内容 分散分析の考え方について学ぶ
- 第 11 回 項目 分散分析における 交互作用 内容 分散分析の交互作用の意味について学ぶ
- 第 12 回 項目 多変量の分析 1 - 因子分析 内容 因子分析の考え方と結果の読みとりについて学ぶ
- 第 13 回 項目 多変量の分析 2 - クラスタ分析 内容 クラスタ分析の考え方と適用の意義について学ぶ
- 第 14 回 項目 多変量の分析 3 - 重回帰分析 内容 重回帰分析の考え方と結果の読みとり方について学ぶ
- 第 15 回 項目 統計処理とデータ収集における注意 内容 統計法適用のための前提として、データ収集の注意事項について学ぶ

成績評価方法(総合) 期間中に課した課題及び期末試験の成績によって評価する

教科書・参考書 教科書：プリント教材を使用する。 / 参考書：本当にわかりやすい、すごく大切なことが書いてある、ごく初歩の統計の本、吉田寿夫、北大路書房、1998年；心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭、吉田寿夫、北大路書房、1990年；数学が苦手な人のための多変量解析ガイド、古谷野巨、川島書店、1988年；Q & A で知る統計データ解析、繁枅算男、柳井晴夫、森敏昭、サイエンス社、1999年；プリント教材に示してある。

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学校での教育活動において、まず子どもをどのようにとらえていけばよいか概観する。次に児童・生徒の発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業の一般目標 現代の教育が遭遇しているさまざまな問題に対して、教育心理学的な観点から、その解決に役立つ知識を与え、さらに教科指導だけでなく、生徒指導的な面からも教師としての資質を身につけることを目的とする。特に学力低下問題に対して教育心理学からどのような対策があるかを考えてみたい。さらに不登校、いじめといった問題に対し、社会の問題をふまえた上で、全人格を発展させる観点から追求していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特に子どもの記憶と理解がどのように行われているかについて、認知心理学からの知見を理解することが求められる。思考・判断の観点：学習の指導法にいろいろな方法があることに気づく。また個々の子どもに適するような指導法を自らが考えていけるような判断力を身につける。関心・意欲の観点：自分は教育心理学の指導法や心理療法の中で、どの指導法、あるいはどのような心理療法を採用するか、またどのようなタイプの子どもにはどのような指導法が適し、またどのような心のケアが適しているかなどの問題に答えられるような関心・意欲が求められる。態度の観点：教師になると仮定して、どのような指導法を用いて授業をするかがイメージできるような態度が求められる。

授業の計画（全体） 学校での教育活動を進めるにあたって、まず現代の子どもをどのようにとらえるべきかについて解説する。次に児童・生徒における発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学の内容
- 第 2 回 項目 教育活動における子ども理解
- 第 3 回 項目 教育における発達の要因
- 第 4 回 項目 学習における知識と理解の役割
- 第 5 回 項目 真のわかるとは何か
- 第 6 回 項目 学習における動機づけと意欲
- 第 7 回 項目 学習の指導法について
- 第 8 回 項目 学習の転移 - 基礎基本の徹底と応用について
- 第 9 回 項目 個に応じた学習個に応じた学習学力について
- 第 10 回 項目 子どもの個性の理解 1 - 人格の理論 -
- 第 11 回 項目 子どもの個性の理解 2 - 心理検査 -
- 第 12 回 項目 子どもの個性の理解 3 - 心理療法 -
- 第 13 回 項目 学校における軽度発達障害者の理解
- 第 14 回 項目 学校における障害者の理解
- 第 15 回 項目 教育評価

成績評価方法（総合） 定期試験を重視するが、途中で実施する小テストおよび課題、ならびに出席も評価に入れて、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界，藤土圭三（監修），北大路書房，1994年 / 参考書：教室でどう教えるかどう学ぶか - 認知心理学からの教育方法論，吉田 甫・栗山和広，北大路書房，1992年

メッセージ 期末試験が重視されるが、レポート課題を数回出すので、その提出も忘れないこと

連絡先・オフィスアワー ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372 , オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 学校、家庭、社会におけるさまざまな教育的営みを心理学的にとらえていたり、そうした類のデータを概観するとき、どのようなことに注意しなければならないのかについて論考する。

授業の一般目標 教育にかかわる諸現象を心理学的な視点で捉え、必要に応じて教育データを収集したりする際の留意事項や基礎的知識を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学とは
- 第 2 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(1)
- 第 3 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(2)
- 第 4 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明(3)
- 第 5 回 項目 人間の発達の特質
- 第 6 回 項目 児童期の発達の理解
- 第 7 回 項目 青年期の発達の理解
- 第 8 回 項目 知識の獲得・理解
- 第 9 回 項目 学習の動機づけ
- 第 10 回 項目 指導方法
- 第 11 回 項目 他者との相互作用
- 第 12 回 項目 教師と子ども
- 第 13 回 項目 個性理解
- 第 14 回 項目 教育の測定
- 第 15 回 項目 教育の評価

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界, 藤土圭三(監修), 北大路書房, 1994年

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	認知心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 集中講義で実施する。内容等は、担当者（学外教官）が決定した後に。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	人格心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 この講義では、「人格；パーソナリティー」に関して、その基礎理論から最近の理論までの概説を行う。特に、精神分析と乳幼児精神医学の視点を取り入れながら、「人格」と心の問題について、さまざまな社会現象と関連させながら講義を進める。／検索キーワード 人格心理学 パーソナリティー 人格と臨床

授業の一般目標 人格心理学を通して、自分自身、他者、広く社会のさまざまな現象への理解を深めることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：今回の講義では、自分自身の人格の形成・現在の特徴・今後の方向性について必要な知識や理解を深めることを第一とする。 思考・判断の観点：講義を通して、人格を多面的に判断できる視点を形成してもらいたい。 関心・意欲の観点：自己を知るには、自己理解への能動的姿勢が必要である。 態度の観点：自己理解へのヒントを得ることができることが重要である。

授業の計画（全体） 授業全体は、人格心理学の理論的な理解だけでなく、できるだけ現代社会がもつさまざまな問題も背景に考慮しながら、進めていきたい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと「人格」の定義 内容 講義全体のオリエンテーションと合わせて、人格心理学の基本としての「人格」について定義する。
- 第 2 回 項目 基礎理論；類型論 内容 人格心理学の基本的な視点である類型論について概説して、その考え方の利点と問題点を整理する。
- 第 3 回 項目 基礎理論；特性論 内容 人格心理学の基本的な視点である特性論につちえ概説して、その考え方の利点と心理検査との関連性について整理する。
- 第 4 回 項目 基礎理論；力動論 内容 人格心理学の臨床的な視点である力動論について概説して、人格と心のバランスとの関連性について整理する
- 第 5 回 項目 「人格」の誕生；乳幼児精神医学との関連から 内容 最近の乳幼児精神医学の視点から、「人格」の誕生と母子関係の重要性について述べる
- 第 6 回 項目 「人格」の発達；自立がもつ意味 内容 マーラーの発達理論を援用しながら、自立がもつ心理学的意味について考える
- 第 7 回 項目 「人格」の発達；反抗することの重要性 内容 思春期の発達を通して、心理的に反抗することの重要性について述べる
- 第 8 回 項目 「人格」の発達；ライフサイクル論 内容 老年期までの発達において、人格がいかに変化・伸長するかについて整理する。
- 第 9 回 項目 「人格」の病理；虐待について 内容 最近社会問題となっている虐待の問題とそこに関係する人格の関連性について、事例を踏まえて理解する。
- 第 10 回 項目 「人格」の病理；児童期、思春期の心の問題 内容 児童期・思春期に現れやすい人格の病理について、事例を踏まえて理解する。
- 第 11 回 項目 「人格」の病理；人格障害 内容 人格そのものの病理現象である人格障害について概説して、これまでの講義で述べた人格の形成について、さらに深く理解する。
- 第 12 回 項目 自分自身を知る；人格テスト 1 内容 講義をまとめるために、実際の人格検査を体験してもらい、自己理解を深めることとする。
- 第 13 回 項目 自分自身を知る；人格テスト 2 内容 講義をまとめるために、実際の人格検査を体験してもらい、自己理解を深めることとする。
- 第 14 回 項目 自分自身を知る；人格テスト 3 内容 講義をまとめるために、実際の人格検査を体験してもらい、自己理解を深めることとする。

第 15 回 項目 人格心理学からみた健康とは何か 内容 講義全体を総括して、改めて、「心の健康」について理解をまとめる。

成績評価方法 (総合) 評価としては、4 回のレポートと平素の授業態度を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない / 参考書：参考資料は適宜配布する

メッセージ この講義を通して、自分自身や他者の「心」を今よりも理解できることを期待します。

開設科目	心理アセスメント	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈・恒吉徹三				

授業の概要 心理アセスメントは面接と心理テストから成っているが、この授業ではもっぱら心理テストを扱う。ひとくちに心理テストと言っても、知能テスト、パーソナリティテスト、発達テストなどさまざまなものがあるが、この授業では主として、心理テストのなかのパーソナリティテストに焦点を合わせる。/ 検索キーワード アセスメント。心理テスト。投映法。

授業の一般目標 さまざまなパーソナリティテストのやり方や解釈の仕方を具体的に習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：パーソナリティテストがどういうものかについてよく理解できる。

関心・意欲の観点：さまざまなパーソナリティテストの習得に意欲的に取り組む。 態度の観点：真面目に授業に出席する。

授業の計画(全体) さまざまなパーソナリティテストを実際にやってみることによってパーソナリティテストの意義や解釈の仕方を会得していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理アセスメント概論
- 第 2 回 項目 質問紙法と投映法
- 第 3 回 項目 CMI, BDI その他
- 第 4 回 項目 自画像
- 第 5 回 項目 夢の自己分析
- 第 6 回 項目 バウムテスト (1) 内容 施行方法
- 第 7 回 項目 バウムテスト (2) 内容 解釈
- 第 8 回 項目 ロールシャッハテスト (1) 内容 概説
- 第 9 回 項目 ロールシャッハテスト (2) 内容 施行方法
- 第 10 回 項目 ロールシャッハテスト (3) 内容 スコアリング
- 第 11 回 項目 ロールシャッハテスト (4) 内容 スコアリングの整理
- 第 12 回 項目 ロールシャッハテスト (5) 内容 解釈
- 第 13 回 項目 その他のパーソナリティテスト
- 第 14 回 項目 精神作業検査法
- 第 15 回 項目 臨床場面での心理テスト

成績評価方法(総合) レポート、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：配布プリント。/ 参考書：バウムテスト、コッホ, C., 日本文化科学社, 1970年; 改訂 新・心理診断法, 片口安史, 金子書房, 1987年; 心理アセスメントハンドブック 第2版, 上里一郎編, 川島書店, 2001年

メッセージ レポートがたくさんありますので、がんばってください。

連絡先・オフィスアワー Email: najima@yamaguchi-u.ac.jp Tel: 083-933-5465 Email: whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp Tel: 083-933-5446

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 今日子どもが様々な問題傾向を抱える中、生徒指導の重要性がこれまで以上に指摘されている。本講義では、学校教育において生徒指導が果たす役割やそのあり方、今日的課題などについて平易に概説する。/ 検索キーワード 人格、個性、自己実現と社会化、指導と管理

授業の一般目標 生徒指導の理念や基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 生徒指導の理念や基礎的事項、指導上の留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 生徒指導の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、生徒指導の概念、その目的や意義について概説する。続いて、指導対象である児童・生徒の現状や彼らが抱える問題点について考察する。さらに、生徒理解や教育相談の基礎的事項について概説する。最後に生徒指導計画について説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 生徒指導の意義と目標 内容 生徒指導の手引き(文部省)等を手がかりにして生徒指導の意義・目標について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ1
- 第 3 回 項目 生徒指導の原則 内容 生徒指導の原則 およびその中心概念である自己実現や社会化等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ2
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法の原則 内容 学校教育における生徒指導の位置づけやその内容、方法原則について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ3
- 第 5 回 項目 生徒指導と生徒管理 内容 生徒指導と生徒管理の関連と今日の実践上の問題点について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ4
- 第 6 回 項目 生徒指導と他の教育活動との関連 内容 生徒指導と教科指導、道徳指導 および特別活動等との関連について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ5
- 第 7 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(1) 内容 子どもが抱える問題(体、生活技術等)について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 配布資料1およびレジュメ6
- 第 8 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(2) 内容 感応・表現能力、コミュニケーション能力、交わり能力等の問題について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 配布資料2およびレジュメ7
- 第 9 回 項目 生徒指導における教育相談の意義と役割 内容 教育相談の意義、その位置づけ、特質等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ8
- 第 10 回 項目 児童・生徒理解の重要性とその方法 内容 児童・生徒理解の意義、理解のための資料の収集方法と活用上の留意点等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ9
- 第 11 回 項目 生徒指導体制と校内連携 内容 学校における指導体制と教員相互の連携の必要性、そのあり方等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをすること。授業記録 レジュメ10

- 第 12 回 項目 家庭、地域及び 関連諸機関との 連携 内容 家庭や地域、関 連諸機関の役割 や連携のあり 方について説明する。授業外指示 授業ノートのま とめをすること。授業記録 レジюме1 1
- 第 13 回 項目 指導計画の作成 と留意点 内容 事例をもとに指 導計画作成の方 法や留意点につ いて説明する。 授業外指示 授業ノートのま とめをすること。 授業記録 配布資料2 およびレジюме 1 2
- 第 14 回 項目 生徒指導の現状 と課題 内容 生徒指導の今日 的動向と課題に ついて説明する。 授業外 指示 授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジюме1 3
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末試験(論述形式)によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。な お、欠席が授業の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の確認は 毎授業終了時に 書かせる「授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜7プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジюмеを配布します。日ごろから ノートをこまめにま とめることを心 がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 今日子どもが様々な問題傾向を抱える中、生徒指導の重要性がこれまで以上に指摘されている。本講義では、学校教育における生徒指導が果たす役割やそのあり方、今日的課題などについて平易に概説する。/ 検索キーワード 人格、個性、自己実現と社会化、指導と管理

授業の一般目標 生徒指導の理念や基本的事項について理解するとともに、指導上の留意点や今日的課題についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 生徒指導の理念や基本的事項、指導上の留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 生徒指導の実際や今日的課題について関心を広げる。

授業の計画(全体) まず、生徒指導の概念、その目的や意義について概説する。続いて、指導対象である児童・生徒の現状や彼らが抱える問題点について考察する。さらに、生徒理解や教育相談の基礎的事項について概説する。最後に生徒指導計画について説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、授業計画、評価方法等について説明する。授業記録 オリエンテーション資料
- 第 2 回 項目 生徒指導の意義と目標 内容 生徒指導の手引き(文部省)等を手がかりにして生徒指導の意義・目標について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ1
- 第 3 回 項目 生徒指導の原則 内容 生徒指導の遺俗 およびその中心 概念である自己実現や社会化等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ2
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法の原則 内容 学校教育における生徒指導の位置づけやその内容、方法原則について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ3
- 第 5 回 項目 生徒指導と生徒管理 内容 生徒指導と生徒管理の関連と今日の実践上の問題点について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ4
- 第 6 回 項目 生徒指導と他の教育活動との関連 内容 世と指導と教科指導、道徳指導 および特別活動等との関連について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ5
- 第 7 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(1) 内容 子どもが抱える問題(体、生活技術等)について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 配付資料1 およびレジュメ6
- 第 8 回 項目 現代の子どもの諸相と生徒指導の実践課題(2) 内容 感応・表現能力、コミュニケーション能力、交わり能力等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 配付資料2 およびレジュメ7
- 第 9 回 項目 生徒指導における教育相談の意義と役割 内容 教育相談の意義、その位置づけ、特質等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ8
- 第 10 回 項目 児童・生徒理解の重要性とその方法 内容 児童・生徒理解の意義、理解のための資料の収集法と活用上の留意点等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ9
- 第 11 回 項目 生徒指導体制と校内連携 内容 学校における指導体制と教員相互の連携の必要性、そのあり方等について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ10
- 第 12 回 項目 家庭、地域及び関連諸機関との連携 内容 過程や地域、関連諸機関の役割や連携のあり方について説明する。授業外指示 授業ノートのまとめをする。授業記録 レジュメ11

- 第 13 回 項目 指導計画の作成 と留意点 内容 事例もとに指導 計画作成の方法 や留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのま とめをする。 授業記録 配布資料3 およびレジュメ1 2
- 第 14 回 項目 生徒指導の現状 と課題 内容 生徒指導の今日 的動向と課題に ついて説明す る。 授業外指示 授業ノートのま とめをする。 授業記録 レジュメ1 3
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
な お、欠席が授業回数 の 3 分 の 1 を 超 えた 場 合 に は 受 験 資 格 を 失 う。出 欠 は 毎 授 業 終 了 時 に 書 か せ る 「 授 業 コ メ ン ト 」 に よ っ て 行 う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

メッセージ 必要に応じて資料・レジュメを配布します。日ごろからノートをこまめにま とめることを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	カウンセリング論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 「カウンセリング」という言葉は、日常生活の中で、さまざまな分野で使われています。学校場面に限らず企業のメンタルヘルス領域においてもますます重要な役割を担うようになってきました。しかし、誤解も多く、その実際については十分に理解されていません。そこで、講義では、カウンセリングの基本的な枠組みについて講義します。 / 検索キーワード カウンセリング、面接構造(枠)、臨床心理学的理解

授業の一般目標 カウンセリングの基礎的な概念や枠組みを理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： カウンセリングの基本的な概念や理論・技法について説明できる。

その他の観点： 私語など講義の進行を妨げる行為があり3回注意した場合、以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) カウンセリングの基礎的な理論や技法について理解を深める。「面接」の枠組みやその意義、面接のプロセス、さまざまな援助技法や理論的枠組みについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 こころの理解 内容 講義のオリエンテーションも行う。
- 第2回 項目 カウンセリングの領域と枠組み
- 第3回 項目 さまざまな理論と立場(1) 内容 精神分析学の立場(1)
- 第4回 項目 さまざまな理論と立場(2) 内容 精神分析学の立場(2)
- 第5回 項目 さまざまな理論と立場(3) 内容 来談者中心の立場・行動論の立場
- 第6回 項目 さまざまな理論と立場(4) 内容 短期療法・森田療法・内観療法など
- 第7回 項目 さまざまな理論と立場(5) 内容 遊戯療法・箱庭療法など
- 第8回 項目 さまざまな理論と立場(6) 内容 自律訓練法・心理劇など
- 第9回 項目 さまざまな理論と立場(7) 内容 夫婦カウンセリングなど
- 第10回 項目 カウンセリングの過程(1) 内容 インテイク面接と心理アセスメント
- 第11回 項目 カウンセリングの過程(2) 内容 面接過程と技法(1)
- 第12回 項目 カウンセリングの過程(3) 内容 面接の過程と技法(2)
- 第13回 項目 カウンセリングの過程(4) 内容 心理学的問題のレベルと対応
- 第14回 項目 保護者へのカウンセリング
- 第15回 項目 講義のまとめ

成績評価方法(総合) 受験資格は、講義の3分の2以上に出席していることである。期末試験は筆記試験によりおこなう。カウンセリングに関する基礎的知識や理論、技法などカウンセリングについての基礎的な理解力を問う問題を出題する予定である。

教科書・参考書 教科書：スライドおよび配布資料による。 / 参考書：必要に応じて示す。

メッセージ 心を理解するための学問です。単なる知識としてだけでなく、自らの心に浮かんでくるさまざまな体験や事象についても考えながら、講義に参加してください。

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。

授業の一般目標 現行教育法規の要点を理解している。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 学校教育の推進 と法規
- 第 3 回 項目 学校教育の推進 と法規
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系
- 第 6 回 項目 教育課程の編成 と法規
- 第 7 回 項目 児童生徒の懲戒 と・体罰と生徒 指導に関する法規
- 第 8 回 項目 児童生徒の懲戒 と・体罰と生徒 指導に関する法規
- 第 9 回 項目 教育職員の職務 と法規
- 第 10 回 項目 教育職員の職務 と法規
- 第 11 回 項目 教育行政の推進 と法規
- 第 12 回 項目 教育行政の推進 と法規
- 第 13 回 項目 社会教育の推進 と法規
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規, 田代直人編, ミネルヴァ書房, 2003年

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				
<p>授業の概要 教育方法学の分野のうち、特に授業構成論の基礎について具体的事例を交えながら平易に概説する。なお、授業は講義形式である。/検索キーワード 主体的な学び、指導・支援・援助、学習意欲</p> <p>授業の一般目標 授業指導の基礎理論や内容・方法論に関する基礎的知識・認識を理解するとともに、実践的指針を習得する。</p> <p>授業の到達目標/知識・理解の観点：1. 授業論に関する基礎的知識・認識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 授業で取り上げた内容について論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 授業に関する関心を広げる。</p> <p>授業の計画(全体) 教育方法学の分野のうち、授業構成論について概説する。 まず、授業の基本的性格を押さえ、次に子どもの主体的な学びをどう捉えるかを考察する。 続いて、教科内容論・教材論について検討する。さらに、子どもの学びを支える指導技術・評価等について考察する。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業目標および 授業計画の説明 と履修上の注意、成績評価についての説明。 授業記録 オリエンテーション資料配付</p> <p>第2回 項目 授業の基本的性格 その1 内容 授業の過程的性格および総合作用的性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ1</p> <p>第3回 項目 授業の基本的性格 その2 内容 授業の訓育的性格と集団の性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第4回 項目 子どもの主体的 学びと教師の指導性 内容 主体性の概念、主体的学びに対する誤解および 教師の指導の本質について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第5回 項目 学びのメカニズムと認識発達 内容 主体的な学びの メカニズムとそこから導き出される指導上の観点について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ2</p> <p>第6回 項目 まちがい・つま ずきの授業論的 意義 内容 まちがい・つま ずきの授業論的 意義とその具体的生かし方について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ3</p> <p>第7回 項目 教育課程と教科 内容 内容 教育課程編成の 原則や観点および教科内容の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ4</p> <p>第8回 項目 教材・教具と教材研究 内容 1. 教科書、補助教材・教具について説明するとともに、教材研究・解釈の基本的視点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ5</p> <p>第9回 項目 学習活動案(指導案) 内容 授業指導のシナリオとしての学習活動案(指導案)の構成や作成上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ6</p> <p>第10回 項目 学習活動の指導 技術 その1 内容 発問・説明の特質およびその留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ7</p> <p>第11回 項目 学習活動の指導 技術 その2 内容 授業過程における評価言について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ8</p> <p>第12回 項目 教育メディアと 授業 内容 PCその他視聴 覚機器の活用に関する基礎知識 について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ9</p> <p>第13回 項目 教育評価論 内容 学習評価の理論 と方法について 説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ10</p>					

第 14 回 項目 授業論の現在 内容 現代の授業論の 流れと今日的課 題について説明 する。 授業外指示
授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジюме 1 1

第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の 確認は毎授業終
了時に書かせる「 授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：教育の方法, 山下
正俊・湯浅恭正編著, ミネルヴァ書房, 2001 年

メッセージ 大人数の授業となることが予想され、講義形式にならざるをえません。簡 単なレジюме等は
配布しますが、ノートをしっかり取り、まとめをこまめに 行うことを心がけて下さい。 毎授業終了時に
「 授業コメント」を書いてもらいます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	心理デ - タ処理法	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握した上で、その入力の方法を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った統計分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて演習する。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。 / 検索キーワード CSV ファイル、Excel, SPSS

授業の一般目標 パソコンの使い方に慣れ、そしてエクセルを使ったデータの扱い方、特に csv ファイルの扱い方に慣れること、そしてそれを基に SPSS の多変量解析や Web 上での ANOVA4 による分散分析の仕方を修得していく。後は、その結果の扱いを柔軟にこなせるまでになりたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： パソコンに対する基本的な知識、イメージを獲得し、ファイルの扱い方に慣れること。特にデータの種類、中でもテキストファイル (csv ファイル) の扱いになれるようにしたい。また統計ソフトを使いこなせるために、データ入力から統計解析、そして結果の考察という一連の流れをつかみたい。 思考・判断の観点： データを生かすためにどのような工夫が必要かを自ら判断していく。 関心・意欲の観点： パソコンを自ら触ることによって、新たな使い方を修得したい。

態度の観点： パソコンにたくさん触ることが基本であり、授業外でもどのくらいパソコンに向かうかを評価したい。 技能・表現の観点： 統計解析だけでなく、プレゼンテーションまで含めた総合的な評価をしたい。

授業の計画 (全体) まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握し、その入力の方法を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて学んでいく。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピュータの日常生活への生かし方 コンピュータ基本操作 1
- 第 2 回 項目 コンピュータの基本操作 1 画面の説明
- 第 3 回 項目 コンピュータの基本操作 2 インターネットと LINUX から UNIX への入り方
- 第 4 回 項目 データ入力の方法 csv ファイルについて
- 第 5 回 項目 表計算ソフト (Excel) の使い方
- 第 6 回 項目 表計算ソフトを用いた基礎統計とデータベース
- 第 7 回 項目 タレント評定における統計ソフトを使った処理
- 第 8 回 項目 表計算ソフトを用いた統計計算とグラフ作成
- 第 9 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた基礎統計 t 検定と 2 検定
- 第 10 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた多変量解析 1 因子分析
- 第 11 回 項目 統計ソフト (Windows 版 SPSS) を用いた多変量解析 2 クラスタ分析と一要因分散分析
- 第 12 回 項目 Web 版 ANOVA 4 を用いた分散分析
- 第 13 回 項目 PowerPoint を用いた研究成果のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 研究成果の公表の方法 1 - ホームページの作成の基礎 -
- 第 15 回 項目 研究成果の公表の方法 2 - ホームページの実際の作成 -

成績評価方法 (総合) データを処理した結果は、提出を義務づける。その他、統計計算による結果の解釈、さらに研究成果のプレゼンテーション作成の課題がある。(結果はフロッピーで提出するか、メールの添付機能で送付する) さらに授業態度や出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作の小冊子を配布する予定である（一部500円程度）。

メッセージ 現在あるいは将来、心理的なデータを処理する必要のある学生を対象とします。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00
～ 19:00

開設科目	社会心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 社会的存在としての人間が、他者との相互関係においてどのような行動傾向や特徴を持つかを、講義によって明らかにする。テキストは用いない。

授業の一般目標 社会心理学的視点から人間行動を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 基礎的な社会心理学概念を理解する。 2 基礎的な社会心理学の理論を理解する。 思考・判断の観点： 基礎的な社会心理学概念取り柄オンを用いて、人間行動を説明できる。

授業の計画(全体) 1 社会心理学とは何か 2 対人認知 人はどのように他者の印象を形成するか 3 対人認知の帰属過程 4 対人コミュニケーション 5 説得的コミュニケーション 6 非言語的コミュニケーション 7 社会的行動空間 8 社会的促進と社会的手抜き 9 援助行動 10 援助行動の規程要因 11 自己の姿の社会的表出 12 さまざまな自己呈示 13 自己開示 14 社会的比較 15 社会的規範

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学はどのような内容を扱うか
- 第 2 回 項目 対人認知の特徴
- 第 3 回 項目 対人認知における帰属過程
- 第 4 回 項目 対人コミュニケーション
- 第 5 回 項目 説得的コミュニケーション
- 第 6 回 項目 非言語的コミュニケーション
- 第 7 回 項目 社会的空間行動
- 第 8 回 項目 対人行動 - 社会的促進と社会的手抜き
- 第 9 回 項目 援助行動
- 第 10 回 項目 援助行動の規程要因
- 第 11 回 項目 自己意識と自己概念
- 第 12 回 項目 自己の表出と自己提示
- 第 13 回 項目 自己開示
- 第 14 回 項目 社会的比較と自尊感情の維持
- 第 15 回 項目 社会的規範

成績評価方法(総合) 期末の試験によって評価する。知識・理解の観点 50パーセント 志向・判断の観点 50パーセント

教科書・参考書 教科書： 使用しない

備考 隔年開講

開設科目	生理心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊				

授業の概要 人間の「心」と「身体」の関係 (Mind-Body Question) についてのメカニズムや原理などに関して、日常生活場面における生活体の示す諸変化を取り上げながら、生理心理学的手法による研究のデータに基づいて明らかにする。 / 検索キーワード Mind-Body Question、Information Processing、Perception、Stress、EEG、Sleep、Biofeedback

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Orientation: Introducing Physiological Psychology
- 第 2 回 項目 Mind-Body Question: Area and Approaches
- 第 3 回 項目 Cognition and Sensation: Information Processing
- 第 4 回 項目 Perception I: Sensory systems; Visual Mechanisms
- 第 5 回 項目 Perception II: Auditory, Gustatory, Olfactory Mechanisms
- 第 6 回 項目 Perception III: Tactual, Bodily, Temporal Mechanisms
- 第 7 回 項目 Nervous System and Behavior
- 第 8 回 項目 Endocrine System: Psychology and the Heart
- 第 9 回 項目 Motivation and Emotion
- 第 10 回 項目 Psychological Stress and Anxiety
- 第 11 回 項目 Awakeness and Sleep I: Levels of Consciousness
- 第 12 回 項目 Awakeness and Sleep II: Rhythms of Sleep
- 第 13 回 項目 EEG and Bodily Rhythms
- 第 14 回 項目 Biofeedback Processes
- 第 15 回 項目 Conclusion and Examination

メッセージ 積極的な参加を期待しています。

備考 集中授業

開設科目	カウンセリング実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 この実習では、将来臨床心理士やカウンセリング関連の領域を希望する学生に対して、カウンセリングの基本的な技法について実習を行う。特に、参加メンバーとの体験学習を通して、自己表現と他者の気持ちの理解の向上を中心に行う。 / 検索キーワード カウンセリング実習 カウンセリング 体験学習

授業の一般目標 カウンセリング実習を通して、講義では体験できないカウンセリングの世界を体験しながら、心の世界の複雑さ・微妙さ等について体得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：実際の体験学習を通して、講義だけでは理解できない心の世界に関して理解を深める。 思考・判断の観点：カウンセリングに必要な「今、ここで」の体験過程を体得する。 関心・意欲の観点：自分自身、あるいは広く人間の心の世界への関心を深める。 態度の観点：自らの自己や他者への能動的に関わる態度を養成する。

授業の計画（全体） カウンセリングの基本となる体験学習を多面的に体験できるように配慮する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 全体のオリエンテーションとグループ分けを行う。
- 第 2 回 項目 グループワーク；自分自身の学習スタイル 内容 他者を理解する前提として、自分自身の認知の特性について理解する。
- 第 3 回 項目 グループワーク；自己表現 内容 グループワークを通して、集団内で自分自身を表現することの難しさを体得する。
- 第 4 回 項目 グループワーク；他者理解 内容 グループワークを通して、他者の意見や考えを傾聴することを体験する。
- 第 5 回 項目 グループワーク；臨床描画 1 内容 臨床描画法を体験しながら、非言語的なコミュニケーションを体験する。
- 第 6 回 項目 グループワーク；臨床描画 2 内容 臨床描画法を体験しながら、非言語的なコミュニケーションを体験する。
- 第 7 回 項目 グループワーク；ロールプレイ 1 内容 ロールプレイを通して、自分以外の人物の役割を演じながら、広く他者理解について体得する。
- 第 8 回 項目 グループワーク；ロールプレイ 2 内容 ロールプレイを通して、自分以外の人物（特に家族）の役割を演じながら、広く他者理解について体得する。
- 第 9 回 項目 グループワーク；ロールプレイ 3 内容 ロールプレイを通して、自分以外の人物（特に学校）の役割を演じながら、広く他者理解について体得する。
- 第 10 回 項目 グループワーク；非言語的コミュニケーション 1 内容 非言語的コミュニケーションの重要性を体験する。
- 第 11 回 項目 グループワーク；非言語的コミュニケーション 2 内容 非言語的コミュニケーションの重要性を体験する。
- 第 12 回 項目 試行カウンセリング 1 内容 これまでのグループワークを活かして、試行カウンセリングを体験する。
- 第 13 回 項目 試行カウンセリング 2 内容 試行カウンセリング体験を深める。
- 第 14 回 項目 試行カウンセリング 3 内容 講義担当者の試行カウンセリングを観察して、それまでの体験との比較を論議する。
- 第 15 回 項目 クライエントの体験を聞く 内容 クライエントの体験を直接聞き、実際のカウンセリングと自己体験との比較を行う。

成績評価方法（総合） 評価は、第一に出席をすること。第二に、実習中の態度。第三に、毎回のレポートで評価する。

メッセージ 積極的な参加を期待する

開設科目	社会教育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田代直人				

授業の概要 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。

授業の一般目標 社会教育の各分野の基本的事項と課題について理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーショ< BR >ン
- 第 2 回 項目 生涯学習とは< BR >(1)
- 第 3 回 項目 生涯学習とは< BR >(2)
- 第 4 回 項目 生涯学習における< BR >社会教育の重要性
- 第 5 回 項目 社会教育の概念
- 第 6 回 項目 少年教育および青< BR >年教育
- 第 7 回 項目 成人教育
- 第 8 回 項目 高齢者教育
- 第 9 回 項目 社会教育施設< BR >(1)
- 第 10 回 項目 社会教育施設< BR >(2)
- 第 11 回 項目 中間試験
- 第 12 回 項目 社会教育行政< BR >(1)
- 第 13 回 項目 社会教育行政< BR >(2)
- 第 14 回 項目 社会教育の今日的< BR >課題
- 第 15 回 項目 最終試験

成績評価方法(総合) 中間試験および期末試験の2回のテストの成績で評価する。

教科書・参考書 教科書：社会教育の理論と実践, 田代直人編著, 樹村房, 1994年

開設科目	心理学実験 II	区分	実験・実習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 受講生自らが設定した心理学的課題について研究計画を立て、データ収集、分析、報告書へのまとめ、研究発表を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テーマ設定
- 第 3 回 項目 テーマの検討・関連文献検討
- 第 4 回 項目 テーマの検討・関連文献検討
- 第 5 回 項目 テーマ決定
- 第 6 回 項目 データ収集（ 1 ）
- 第 7 回 項目 データ収集（ 2 ）
- 第 8 回 項目 データ収集（ 3 ）
- 第 9 回 項目 データ処理（ 1 ）
- 第 10 回 項目 データ処理（ 2 ）
- 第 11 回 項目 データ処理（ 3 ）
- 第 12 回 項目 データの吟味検討・意味付け
- 第 13 回 項目 報告書作成準備
- 第 14 回 項目 報告発表準備
- 第 15 回 項目 研究発表会

メッセージ データ収集は空き時間に行い、その報告書を期限日までに提出し、発表を行うので解説時間帯以外での時間と労力を必要とする。

開設科目	心理学実験 II	区分	実験・実習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 受講生自身が参考文献を検索し、それらを概括し、心理学の研究を立案、実行するもので、卒業研究のリハーサルの意味を持つものである。

授業の一般目標 受講生自らが設定した心理学的課題について研究計画を立て、データ収集、分析、報告書へのまとめ、研究発表を行う。

授業の計画（全体） 基本的に、個人研究であるのでその進捗状況の具合により毎週なすべきことに違いが生じる可能性がある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テーマ設定
- 第 3 回 項目 テーマの検討・関連文献検討
- 第 4 回 項目 テーマの検討・関連文献検討
- 第 5 回 項目 テーマ決定
- 第 6 回 項目 データ収集（ 1 ）
- 第 7 回 項目 データ収集（ 2 ）
- 第 8 回 項目 データ収集（ 3 ）
- 第 9 回 項目 データ処理（ 1 ）
- 第 10 回 項目 データ処理（ 2 ）
- 第 11 回 項目 データ処理（ 3 ）
- 第 12 回 項目 データの吟味検討・意味付け
- 第 13 回 項目 報告書作成準備
- 第 14 回 項目 報告発表準備
- 第 15 回 項目 研究発表会

成績評価方法（総合） 研究への取り組む姿勢、研究計画、データ処理、考察等の点から総合的に評価する。

メッセージ データ収集は空き時間に行い、その報告書を期限日までに提出し、発表を行うので解説時間帯以外での時間と労力を必要とする。

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 教育相談及び進路指導の基本理念について概説し、それを踏まえた学校現場への応用例についても学んでいく。

授業の一般目標 教育相談及び進路指導の基本的な考え方を理解するとともに、実際の学校現場でそれらを活かしていく方法についても習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談の理念
- 第 2 回 項目 教育援助の3つの次元
- 第 3 回 項目 児童生徒理解の方法
- 第 4 回 項目 不登校の理解と援助 1
- 第 5 回 項目 不登校の理解と援助 2
- 第 6 回 項目 いじめ問題の理解と対応
- 第 7 回 項目 学級崩壊への対応
- 第 8 回 項目 保健室からみた今の子どもたち
- 第 9 回 項目 スクールカウンセリングの現状と課題 1
- 第 10 回 項目 スクールカウンセリングの現状と課題 2
- 第 11 回 項目 進路指導の理念
- 第 12 回 項目 進路指導の方法
- 第 13 回 項目 進路指導の実際 1
- 第 14 回 項目 進路指導の実際 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 20% 宿題/授業外レポート = 40% 授業態度や授業への参加度 = 20% 出席 = 20%

教科書・参考書 参考書: 教育相談 基礎の基礎, 嶋崎政男著, 学事出版, 2001年; 教育現場に根ざした生徒指導, 宮下一博・濱口佳和編著, 北樹出版, 1998年

連絡先・オフィスアワー E-mail eohishi@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5454

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。/ 検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよのだろうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもたちの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレる」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	臨床心理学	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 臨床心理学の領域・対象、問題行動の理解の仕方、心理療法、社会資源の活用の仕方などについて講義する。また、リラクゼーションやカウンセリングに関する基礎的技法の練習も行う。 / 検索キーワード 心理療法。心理テスト。投映法。

授業の一般目標 臨床心理学の基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床心理学に関する基礎的な知識を持つ。 思考・判断の観点：人間に関するさまざまな出来事（やっかいごと）を援助的な視点から考えることができる。 関心・意欲の観点：臨床心理学に関する基礎知識の習得に積極的に取り組む。 態度の観点：真面目に授業に出席する。積極的に発言する。

授業の計画（全体） 臨床心理学の基礎が習得できるよう、講義や実技練習、ロールプレイングなどを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学とは何か 内容 臨床心理学の諸領域と対象
- 第 2 回 項目 心理査定について (1) 内容 査定のための心理面接
- 第 3 回 項目 心理査定について (2) 内容 心理テストの活用
- 第 4 回 項目 発達段階別の不適応行動の見方。
- 第 5 回 項目 心理療法概論
- 第 6 回 項目 日本独自の心理療法 内容 内観療法と森田療法
- 第 7 回 項目 種々のリラクゼーション技法
- 第 8 回 項目 精神分析的な心理療法 内容 言語的介入技法
- 第 9 回 項目 種々の芸術療法 内容 絵画療法・音楽療法・箱庭療法など
- 第 10 回 項目 イメージを用いた心理療法
- 第 11 回 項目 薬物療法と心理療法について
- 第 12 回 項目 自殺に関する危機介入技法
- 第 13 回 項目 他の専門職との連携について
- 第 14 回 項目 地域内の社会資源の活用 (1) 内容 不登校・いじめ・非行関係
- 第 15 回 項目 地域内の社会資源の活用 (2) 内容 精神障害関係

成績評価方法（総合） 定期試験、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：新版 心理臨床家の手引、鑪幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2000年

メッセージ 講義だけでなく、リラクゼーションの技法やカウンセリングの技法についての実技練習、社会資源の活用の仕方についての練習も行います。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な概説を演習形式で行う。

授業の一般目標 臨床心理学的方法に基づいて、個々の事例を理解できるようになること。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学とは何か？
- 第 2 回 項目 児童虐待の臨床援助
- 第 3 回 項目 不登校（小学校）の臨床援助
- 第 4 回 項目 不登校（思春期）の臨床援助
- 第 5 回 項目 摂食障害（拒食症）の心理と援助
- 第 6 回 項目 摂食障害（過食症）の心理と援助
- 第 7 回 項目 リストカットの心理と援助
- 第 8 回 項目 ひきこもりの心理と援助
- 第 9 回 項目 スクールカウンセリングの現状と課題
- 第 10 回 項目 発達障害の臨床援助
- 第 11 回 項目 学校臨床におけるいじめ問題への対応
- 第 12 回 項目 自殺の心理と危機介入
- 第 13 回 項目 フォーカシング実習 1
- 第 14 回 項目 フォーカシング実習 2
- 第 15 回 項目 フォーカシング実習 3

開設科目	心理職業論	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 心理学を生かせる職業の一つひとつについて、それらが社会にどのように貢献しているか、さらにその職業に必要とされる知識や資質とは何なのかを明らかにしていく。また社会で実際に心理職に就いて活躍されている方を実地講師として招き、その内容を報告していただくことにより、心理職として生きていくための感覚を養いたい。 / 検索キーワード 自己分析、調整役としての心理職

授業の一般目標 心理学を生かす職業にはどのようなものがあるか、その職業がいかに社会に貢献しているか、さらにその職務における倫理とは何かについて学んでいき、将来の職業選択のよき道案内となる授業にしたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学が社会で求められているのはどういう点か、さらにはどのような人材を求めているのかを理解する。 思考・判断の観点：心理職の違いによって、求められる役割がどのように違うのかを判断していく。 関心・意欲の観点：自己分析を行うことにより、自分がどの職種に生かせそうか、シュミレートしていく。 態度の観点：自分が生かせる職種について決定するために、ロールプレイを体験する。

授業の計画（全体） 授業当初に自己分析を行い、職業選択への関心を深める。そしていろいろな心理職を紹介して、それらの業務内容だけでなく、職種ごとにどのような資質が求められているかを知る。さらに心理職に就くにはどのような知識が必要かを知り、その基本的知識も身につけていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 心理学が生かせる分野の紹介
- 第 2 回 項目 臨床心理士の役割と活動
- 第 3 回 項目 心理学職種紹介 1 病院臨床
- 第 4 回 項目 心理学職種紹介 2 学校阿臨床心理士（スクールカウンセラー）の役割
- 第 5 回 項目 心理学職種紹介 3 学生相談室の仕事について
- 第 6 回 項目 心理学職種紹介 3 大学教員および研究職
- 第 7 回 項目 心理臨床家としての基本技術と倫理
- 第 8 回 項目 心理学職種に求められる資質
- 第 9 回 項目 心理臨床に必要とされる心理アセスメントと心理テスト
- 第 10 回 項目 心理臨床に用いられる心理療法の種類と変遷
- 第 11 回 項目 心理臨床に用いられる心理療法の実際
- 第 12 回 項目 自己分析による職種選択について
- 第 13 回 項目 自己分析のための個人面接
- 第 14 回 項目 自己分析のためのロールプレイ
- 第 15 回 項目 まとめ - 心理学職種で求められること

成績評価方法（総合） 宿題のレポート提出を義務づける。また授業中の態度や授業への参加度も評価の対象となる。それらを総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：心理の仕事，三木善彦・瀧上凱令・橘英彌・南徹弘，朱鷺書房，1994年

メッセージ 心理職への就職を希望する学生を希望します

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	心理学研究演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 心理学に関する諸外国の文献を講読する中で、心理学的理論、研究の手続きや方法、指摘・示唆している内容について理解を深め、科学としての心理学の視野を広げる。テーマは "Awareness: Biorhythms, Sleep and Dreaming" < By Bentley, E. > となる。 / 検索キーワード Biorhythm, Awareness, Sleep

授業の一般目標 英語による文献を講読する中で、基本的な心理学についての理解を深める。特に、覚醒と睡眠の心理学とそのメカニズムについて学習する。

授業の計画(全体) セメスターを通して一冊の英文の書を読むことになる。その中で、心理学についての見識を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Orientation
- 第 2 回 項目 States of Awareness and Consciousness
- 第 3 回 項目 Levels of Consciousness
- 第 4 回 項目 Bodily Rhythms
- 第 5 回 項目 Infradian Rhythms
- 第 6 回 項目 Control of Biorhythms
- 第 7 回 項目 Resetting the Clocks
- 第 8 回 項目 Investigating Sleep
- 第 9 回 項目 Sleep-deprivation Studies
- 第 10 回 項目 Theories of Sleep
- 第 11 回 項目 REM Sleep & NREM Sleep
- 第 12 回 項目 Theories of Dreaming
- 第 13 回 項目 Psychodynamic Theory
- 第 14 回 項目 Cognitive Theory
- 第 15 回 項目 Lucid Dreaming

成績評価方法(総合) 各担当箇所の資料の作成と発表の態度に重点を置くが、毎回の出席状況及び授業中の態度も評価の観点に加える。

教科書・参考書 教科書: "Awareness: Biorhythms, Sleep, Dreaming", Evie Bentley, Routledge, 2000年; 適時、資料を配布します。 / 参考書: その都度、指示します。

メッセージ 積極的に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 堂野研究室(5449)・水曜日<10:30~12:00>

開設科目	心理学特別研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

開設科目	心理学特別研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 研究発表やディスカッションを通して、卒業論文の作成に結びつくような授業を行う。 / 検索キーワード 心理学。臨床心理学。

授業の一般目標 学生が自ら関心を抱けるような研究テーマについて、関連文献を調査したり具体的な研究計画を立てたり発表したりする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマの内容についてよく理解している。 思考・判断の観点：研究テーマを深めていくさいに遭遇するさまざまな問題に対して論理的に思考して対処することができる。 関心・意欲の観点：研究テーマを深めることに対して意欲的に取り組む。 態度の観点：真面目に授業に出席し、積極的に発言する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことをきちんと表現できる。

授業の計画（全体） 研究テーマに関する研究発表や討論を行う。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

メッセージ これは卒業論文の作成に向けた授業です。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	心理学特別研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学生各自が、興味をもっているテーマに関連する文献を発表し、それについて討論する。そしてテーマについての幅広い知識を身につけるとともに、先行研究においてまだ明らかにされていない点を発見し、後の卒業研究へと発展させる。 / 検索キーワード 創造的な意欲

授業の一般目標 興味をもったテーマについて、卒業論文につながるような知識を深め、具体的なテーマが浮かぶようになるまで考えを深めていくことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： そのテーマについての先行研究を理解する。 思考・判断の観点： 先行研究でまだ明らかにされていない点を見つけ、それを明らかにする方法を思いつく。 関心・意欲の観点： 先行研究で明らかにされていない点に積極的にチャレンジできるアイデアを探す。 態度の観点： そのテーマについて日々考えを巡らせている。

授業の計画（全体） 学生各自が、興味をもっているテーマに関連する文献を発表し、それについて批評したり討論を重ねる。そしてテーマについての幅広い知識を身につけ、後の卒業研究に発展するようなオリジナルなアイデアを見いだす。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマについて発案 1
- 第 2 回 項目 テーマについて発案 2
- 第 3 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 1
- 第 4 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 2
- 第 5 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 3
- 第 6 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 4
- 第 7 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 5
- 第 8 回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見 1
- 第 9 回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見 2
- 第 10 回 項目 研究実施計画 1
- 第 11 回 項目 研究実施計画 2
- 第 12 回 項目 研究実施計画 3
- 第 13 回 項目 研究実施のシミュレーション 1
- 第 14 回 項目 研究実施のシミュレーション 2
- 第 15 回 項目 研究実施計画のまとめ

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度が重要な評価対象となる。授業へ参加するためには、事前に発表資料を作成しておくことが求められる。

教科書・参考書 参考書： 心理学のための実験マニュアル, 利島・生和編, 北大路書房, 1993 年

メッセージ 困難なテーマの解明に果敢に挑む勇気を求める。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	心理学特別研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 卒業論文作成に向けての文献研究を中心に学習を進める。

授業の一般目標 卒業研究作成のための構想を練り上げる。

授業の計画(全体) 毎回ごとに卒業研究に関する文献を発表していく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 2 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 3 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 4 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 5 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 6 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 7 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 8 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 9 回 項目 卒論テーマ確定のための文献講読
- 第 10 回 項目 卒論テーマの確定
- 第 11 回 項目 卒論テーマの確定
- 第 12 回 項目 卒論テーマの確定
- 第 13 回 項目 卒論テーマの確定
- 第 14 回 項目 卒論テーマの確定
- 第 15 回 項目 卒論テーマの確定

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 20~40% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20~40% 出席 = 20%未満

開設科目	心理学特別研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 心理学の領域から、自らの関心によって課題を設定し、研究計画をたて、実際にデータを収集します。これを集計し、分析して、卒業論文につなげるよう研究をまとめていきます。

授業の一般目標 心理学の基礎的な研究方法とデータ収集、および結果の分析について理解することを目標とします。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 心理学的な観点から事象をとらえることができる。 関心・意欲の観点： 心理学的な観点から問題意識をもってさまざまな事象をとらえることができる。 技能・表現の観点： 心理学的な研究の進め方について基礎的な理解ができ、心理学の研究スタイルにのって自らの関心を記述できる。

授業の計画（全体） まず、各自の問題意識に基づいて課題を設定します。そのために、当該分野での研究について展望し、実際の研究計画を立案します。その後実際にデータ収集を行い、分析します。さらに、受講者との間で議論を深め、データを考察します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマ（ 1 ）: 関心の明確化
- 第 2 回 項目 研究テーマの設定（ 2 ）: 関連領域のレビュー
- 第 3 回 項目 研究テーマの設定（ 3 ）: 仮題目の決定
- 第 4 回 項目 研究テーマの設定（ 4 ）: 仮題目の検討
- 第 5 回 項目 研究テーマの設定（ 5 ）: 問題設定と文献レビュー
- 第 6 回 項目 研究テーマの設定（ 6 ）: 問題設定と文献レビュー
- 第 7 回 項目 問題の明確化（ 1 ）
- 第 8 回 項目 問題の明確化（ 2 ）
- 第 9 回 項目 問題の明確化（ 3 ）
- 第 10 回 項目 研究目的と研究方法（ 1 ）
- 第 11 回 項目 研究目的と研究方法（ 2 ）
- 第 12 回 項目 研究目的と研究方法（ 3 ）
- 第 13 回 項目 研究の実際（ 1 ）
- 第 14 回 項目 研究の実際（ 2 ）
- 第 15 回 項目 試験（プレゼンテーションによる）

成績評価方法（総合） 評価は、毎回のプレゼンテーションにより行います。

教科書・参考書 教科書：テキストは用いない / 参考書：必要に応じて指定する

メッセージ 心理学的な関心を広げてください。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	福田廣				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 学生が卒業論文を作成していくための指導を行う。そのさい、学生自身にとって本当に大切なテーマを見つけることができるよう援助する。 / 検索キーワード 心理学。

授業の一般目標 心理学に対する学生の興味と関心を引き起こすと共に、討論を通して具体的な研究方法を学生に示唆する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分が行おうとしている卒業論文のテーマについて、過去にどのような研究がなされているのかを理解している。 思考・判断の観点：卒業論文のテーマに関する問題点を把握し、問題点を論理的に解決できる。 関心・意欲の観点：積極的に研究を行う。 態度の観点：手を緩めないで努力する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことを的確に表現できる。

授業の計画(全体) 研究テーマの設定、先行研究の調査と文献収集、研究計画の設定、調査、結果の分析と考察などを行う。

成績評価方法(総合) 発表態度、発表内容、出席などから総合的に評価する。

メッセージ 卒業論文の作成は大学4年間の総仕上げです。気をゆるめずに取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 各自の関心や問題意識に基づいてテーマを設定し、さらにデータを収集分析し、卒業論文を完成させる。 / 検索キーワード 創造する意欲

授業の一般目標 自分が関心のあるテーマについて研究計画を練り上げ、実際に調査あるいは実験を行い、卒業論文を仕上げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分のテーマについての先行研究ではどの程度行われているかが理解されている。 思考・判断の観点：先行研究でどの点がまだ明らかにされていないかを理解している。また自分の研究によってどのような点が明らかになったかを理解する。 関心・意欲の観点：明らかにされていない点を明らかにするために、研究に積極的に取り組む。 態度の観点：卒業論文の完成に向けて誠心誠意努力する。

授業の計画(全体) 先行研究の流れについて把握し、まだ明らかにされていない点を見つけだして、それを解明するような研究方法を考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマについての発案 1
- 第 2 回 項目 研究テーマについての発案 2
- 第 3 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 1
- 第 4 回 項目 先行研究の発表とディスカッション 2
- 第 5 回 項目 研究計画の練り上げ 1
- 第 6 回 項目 研究計画の練り上げ 2
- 第 7 回 項目 研究計画の練り上げ 3
- 第 8 回 項目 研究実施 1
- 第 9 回 項目 研究実施 2
- 第 10 回 項目 データの分析 1
- 第 11 回 項目 データの分析 2
- 第 12 回 項目 データの分析 3
- 第 13 回 項目 結果の考察
- 第 14 回 項目 結果の考察
- 第 15 回 項目 研究についてのまとめ

成績評価方法(総合) 卒業論文の完成に向けて積極的に努力するかどうか。先行研究で明らかにされていない点の解明に積極的に取り組むかどうかを評価する。

教科書・参考書 参考書：心理学のための実験マニュアル, 利島・生和編, 北大路書房, 1993年

メッセージ まだ明らかにされていない点に積極果敢に挑む勇気を求めます。

連絡先・オフィスアワー Email: ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	大石英史				

授業の一般目標 学部において修得した心理学に関する知識と方法に基づき、各自のテーマを立ち上げ、論文にまとめる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒業研究のテーマ確定
- 第 2 回 項目 卒業研究のテーマ確定
- 第 3 回 項目 卒業研究のための論文講読
- 第 4 回 項目 卒業研究のための論文講読
- 第 5 回 項目 卒業研究のための論文講読
- 第 6 回 項目 卒業研究のための論文講読
- 第 7 回 項目 卒業研究のための論文講読
- 第 8 回 項目 卒業研究の方法論
- 第 9 回 項目 卒業研究の方法論
- 第 10 回 項目 卒業研究の調査実施
- 第 11 回 項目 卒業研究の調査実施
- 第 12 回 項目 卒業論文の作成
- 第 13 回 項目 卒業論文の作成
- 第 14 回 項目 卒業論文の作成
- 第 15 回 項目 卒業論文の作成

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 卒業論文作成のための授業である。各自の研究テーマの明確化，研究領域の先行研究の検討，研究方法の検討，データ収集上の留意点，データの整理と検討，データの考察とまとめなど，卒業論文作成過程にそって受講者のプレゼンテーションによって講義をすすめる。 / 検索キーワード 卒業論文，臨床心理学

授業の一般目標 卒業論文を作成する。そのための基礎的な事項について理解する。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： 自らの研究に積極的に取り組むこと。毎回の個人プレゼンテーションのための準備（文献収集，自らの思考を整理してレジメを作成することなど）をすること。 技能・表現の観点： 心理学的な研究のすすめかたを理解し，実行できること。

授業の計画（全体） 研究テーマの明確化と決定，研究方法の検討，データの収集と整理・検討，結果の考察およびまとめ，など研究の進行にそって受講者のプレゼンテーションにより講義をすすめる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒業研究に取り組むために 内容 講義のオリエンテーションと各自の関心領域の表明
- 第 2 回 項目 研究テーマの設定（ 1 ）
- 第 3 回 項目 研究テーマの設定（ 2 ）
- 第 4 回 項目 研究テーマの設定（ 3 ）
- 第 5 回 項目 研究領域の文献検討（ 1 ）
- 第 6 回 項目 研究領域の文献検討（ 2 ）
- 第 7 回 項目 研究領域の文献検討（ 3 ）
- 第 8 回 項目 研究領域の文献検討（ 4 ）
- 第 9 回 項目 研究領域の文献検討（ 5 ）
- 第 10 回 項目 研究方法の検討（ 1 ）
- 第 11 回 項目 研究方法の検討（ 2 ）
- 第 12 回 項目 研究方法の検討（ 3 ）
- 第 13 回 項目 研究方法の検討（ 4 ）
- 第 14 回 項目 研究方法の検討（ 5 ）
- 第 15 回 項目 データの収集と整理（ 1 ）
- 第 16 回 項目 データの収集と整理（ 2 ）
- 第 17 回 項目 データの収集と整理（ 3 ）
- 第 18 回 項目 データの収集と整理（ 4 ）
- 第 19 回 項目 データの収集と整理（ 5 ）
- 第 20 回 項目 結果の検討（ 1 ）
- 第 21 回 項目 結果の検討（ 2 ）
- 第 22 回 項目 結果の検討（ 3 ）
- 第 23 回 項目 結果の検討（ 4 ）
- 第 24 回 項目 結果の検討（ 5 ）
- 第 25 回 項目 研究の考察とまとめ（ 1 ）
- 第 26 回 項目 研究の考察とまとめ（ 2 ）
- 第 27 回 項目 研究の考察とまとめ（ 3 ）
- 第 28 回 項目 研究の考察とまとめ（ 4 ）
- 第 29 回 項目 研究の考察とまとめ（ 5 ）
- 第 30 回 項目 試験（卒業論文発表会）

成績評価方法(総合) 研究に対する取り組み, 研究内容などを総合的に評価する。最終的には, 卒業論文発表会において審査を行う。

教科書・参考書 教科書: 指定しない。/ 参考書: 必要に応じて示す。

メッセージ 4年間の総まとめとなる研究です。積極的な姿勢で取り組んでください。

表現情報処理コース

開設科目	情報数学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 情報科学の基礎となる概念や数学的な考え方を中心に学習する。

授業の一般目標 情報科学の基礎となる集合および代数系の基礎知識を習得する。

授業の計画（全体） 情報科学分野の基礎である集合論やアルゴリズムや有限順序などについて講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 集合の概要
- 第 2 回 項目 集合演算
- 第 3 回 項目 論理と集合
- 第 4 回 項目 対応と集合の直積
- 第 5 回 項目 写像
- 第 6 回 項目 帰納法
- 第 7 回 項目 アルゴリズム
- 第 8 回 項目 四則演算
- 第 9 回 項目 演算と代数系
- 第 10 回 項目 半群と群
- 第 11 回 項目 環
- 第 12 回 項目 体
- 第 13 回 項目 順序集合
- 第 14 回 項目 順序集合と束
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験） = 80 ~ 100 % 未満 出席 = 20 % 未満

教科書・参考書 教科書：情報の基礎離散数学：演習を中心とした, 小倉久和著, 近代科学社, 1999 年; 情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	音楽通論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力を育成する。 / 検索キーワード 楽典、音楽の仕組、説明能力の獲得

授業の一般目標 作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解すると共に、それらを説明出来る能力の育成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音楽の概念の獲得、音楽の理論的な仕組みの理解、五線記譜法の基本的な仕組みの知識の獲得、及びその理解 思考・判断の観点：音楽を理論的に考察する能力の獲得 関心・意欲の観点：音楽に対する広い関心の獲得と、積極的に音楽と接する意欲の獲得 態度の観点：音楽、及び芸術全般に対しての畏敬の念、及び尊厳を認める態度の育成 技能・表現の観点：音楽の仕組みを解りやすく説明できる能力の獲得、それに必要な表現手段の獲得

授業の計画(全体) 音楽を理論的に説明する基本的な理由を理解することや、音楽は理論的な体系でもある、という観念を獲得するのは正直なかなかたいへんである。が、およそ一千年以上にも亘って続けられてきたこの営みを理解する事なしには21世紀の音楽を語る事はできないだろう。受講生各位がこの授業内容に多少なりともショックを受けてくれることを期待する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、音の様々な様相の理解
- 第2回 項目 音の物理的な性質と音楽的要素の関連
- 第3回 項目 音と時間との関係・拍、拍子、リズムについて
- 第4回 項目 音律論その1、三分損益とピタゴラス音律
- 第5回 項目 音律論その2、純正律と平均律
- 第6回 項目 五線記譜法と音程 五線記譜法と音程
- 第7回 項目 音階と調性
- 第8回 項目 和音とは何か
- 第9回 項目 和音の機能
- 第10回 項目 コードネームとその命名法のしくみ
- 第11回 項目 旋律と和音の関係
- 第12回 項目 非和声音について
- 第13回 項目 音楽における形式について
- 第14回 項目 音楽のスタイルについて
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験の結果を重視。

教科書・参考書 教科書：音楽の基礎, 芥川也寸志, 岩波書店, 1968年 / 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 中学校までの音楽科の授業内容を完全に理解していること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定

開設科目	基礎デザイン	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 デザインにおける基本的な知識と共に、ノート PC とペイントツールなどを用いた課題制作を中心とした演習を行う。 / 検索キーワード デザイン 美術 グラフィック

授業の一般目標 本講義は上手に絵やイラストを描くことではなく、表現行為の意味やコンピュータ技術との関わりについて理解を深め、ビジュアルコミュニケーションデザインの基礎となる技術の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： ビジュアルコミュニケーションに関しての意味付けと動機について主観的に理解しているか 態度の観点： 携帯メール、私語をせずに講義に集中しているか 技能・表現の観点： 最低限の表現力と自主学習のための手法を修得できているか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎デザインとは何か 内容 講義
- 第 2 回 項目 2D ペイントによる表現（その 1） 内容 実習・講義
- 第 3 回 項目 2D ペイントによる表現（その 2） 内容 実習
- 第 4 回 項目 デジカメによる表現（その 1） 内容 実習・講評会
- 第 5 回 項目 デジカメによる表現（その 2） 内容 実習・講義
- 第 6 回 項目 デジカメによる表現（その 3） 内容 実習・講義
- 第 7 回 項目 3DCG による表現（その 1） 内容 実習・講義
- 第 8 回 項目 3DCG による表現（その 2） 内容 実習・講義
- 第 9 回 項目 3DCG による表現（その 3） 内容 実習・講義
- 第 10 回 項目 作品の評価 内容 講評会
- 第 11 回 項目 作品鑑賞（その 1） 内容 作品鑑賞
- 第 12 回 項目 作品鑑賞（その 2） 内容 作品鑑賞
- 第 13 回 項目 CG を用いた応用表現について 内容 講義
- 第 14 回 項目 総評 内容 講義
- 第 15 回 項目 コンピュータを用いたアートワークについて

教科書・参考書 参考書： GIMP フォトレタッチスーパーテクニック, , 晋遊社, 2006 年

メッセージ 絵の完成度よりも、熱意や創意を重視する。

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報通信ネットワーク論(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 通信ネットワークの仕組み、ネットワークシステムの構成、コミュニケーションおよびセキュリティについて講義し、また、ネットワークの構築およびクライアントの設定に関する実習も行う。

授業の一般目標 通信ネットワークの基本原則およびその利用に関する基本知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 情報通信ネットワークの概要から、インターネットの構成要素やインターネットの各種サービスやネットワーク通信の基本原則の原理などについて講義する。また関連の実習も行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目1.基礎的事項のまとめ
- 第2回 項目2.情報通信ネットワークの概要
- 第3回 項目3.ネットワークの接続方法
- 第4回 項目4.インターネットの構成要素
- 第5回 項目5.インターネットの各種サービス
- 第6回 項目6.ネットワーク通信の基本原則
- 第7回 項目7.通信プロトコルの構成および役割
- 第8回 項目8.IPアドレスとルーティング
- 第9回 項目9.通信のセキュリティ
- 第10回 項目10.暗号の役割とその利用法
- 第11回 項目11.ネットワークの基本構築法
- 第12回 項目12.サーバの構築とその設定
- 第13回 項目13.クライアントの設定項目
- 第14回 項目14.クライアントの設定方法
- 第15回 項目15.総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートなどによる総合評価 = 100%

メッセージ Linux インストール済みのノートパソコンを用意すること

開設科目	情報数学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 情報科学を学ぶための基礎知識のうち，特に線形代数の分野を学習する．

授業の一般目標 行列や行列式の計算法，線形空間の構造，正則行列の性質を理解する．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：線形代数に関する基礎的な知識理解 関心・意欲の観点：線形代数に対する関心意欲

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ベクトル空間
- 第 2 回 項目 1 次独立と 1 次従属
- 第 3 回 項目 計量ベクトル空間
- 第 4 回 項目 正規直交基底
- 第 5 回 項目 部分空間
- 第 6 回 項目 線形写像と行列
- 第 7 回 項目 線形写像と行列の積
- 第 8 回 項目 行列の階数と正方行列
- 第 9 回 項目 行列式
- 第 10 回 項目 正則行列と正方行列のベキ
- 第 11 回 項目 固有値と固有ベクトル
- 第 12 回 項目 エルミット行列と二次形式
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）＝ 欠格条件 宿題 / 授業外レポート ＝ 20 % 未満 授業態度や授業への参加度 ＝ 欠格条件 演習 ＝ 欠格条件 出席 ＝ 欠格条件

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる．

開設科目	プログラミング言語 I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 最も一般的なプログラミング言語である C 言語を学習する。文法、変数、関数等の基礎知識を学習した後、実際にプログラミングを行い、ソフトウェア作成の基本的技術を習得する。

授業の一般目標 プログラミングの基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら、新しい課題に取り組もうとしているか？ 態度の観点：出席し、レポートを提出しているか？

授業の計画（全体） 変数，配列，制御，関数，ポインタまで

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語の文法
- 第 2 回 項目 データ型と変数
- 第 3 回 項目 制御構文
- 第 4 回 項目 制御構文 II
- 第 5 回 項目 配列
- 第 6 回 項目 配列 II
- 第 7 回 項目 ポインタ
- 第 8 回 項目 ポインタ II
- 第 9 回 項目 関数
- 第 10 回 項目 関数 II
- 第 11 回 項目 関数 III
- 第 12 回 項目 総合演習
- 第 13 回 項目 総合演習
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ 追試，再試の類は行いません。

開設科目	作・編曲法 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を修得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作から始めて、少し規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などを学習する。

授業の一般目標 音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を獲得する。和声法を主とするホモフォニックな作曲法を中心に、簡単な旋律の創作が出来るようになること。多少規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などをマスターすることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 実用的和声法の知識の獲得、和声に対する基本的な理解。 思考・判断の観点： 音楽的な思考、及び音楽的な優劣、という価値判断が自分で出来るようになること。 関心・意欲の観点： 様々な音楽作成方法への広汎な関心、様々な作曲手法獲得への意欲。 技能・表現の観点： 音楽的な思考を、楽曲作成という手段で表現できる技能の獲得

授業の計画（全体） 曲がりなりにも作曲という行為が可能になること。作曲は手順さえ踏めば、初歩的なものならば確実に出来るようになります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 和音、和声の復習
- 第 2 回 項目 コードネームの復習
- 第 3 回 項目 旋律の作り方その 1
- 第 4 回 項目 同上その 2
- 第 5 回 項目 伴奏音型とその役割
- 第 6 回 項目 基礎的な音楽形式の復習と理解
- 第 7 回 項目 複合三部形式による器楽曲の作曲その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 変奏曲形式による器楽曲の作曲 その 1
- 第 10 回 項目 同上その 2
- 第 11 回 項目 編曲を行う際に必要な各種楽器に対する基礎知識
- 第 12 回 項目 編曲実践その 1、合唱曲・声楽曲
- 第 13 回 項目 同上その 2、合奏曲・吹奏楽曲 など
- 第 14 回 項目 まとめと発表その 1
- 第 15 回 項目 同上その 2

成績評価方法（総合） 作曲能力の獲得具合、受講態度、興味関心等を総合的に評価。

教科書・参考書 教科書： 音楽の基礎, 芥川也寸志, 岩波書店, 1968 年 / 参考書： 必要に応じ、適宜紹介する。

メッセージ 音楽は感性のみで出来ている訳ではない。頭腦的、論理的な音楽の見方も身に付けて欲しい。音楽通論の単位取得者、及び相応の力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟 109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	立体造形基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原一明				

授業の概要 様々な立体造形の基礎として、量感、フォルム、テクスチャー、空間感、動きなどを基礎的材料経験と立体制作を通して、感覚的理論的に学ぶ。

授業の一般目標 (1) 立体の制作を通して、量感、テクスチャーなどの造形要素について体験を通して理解できる。(2) 幾何形体や有機的形態の対比のおもしろさに気づき美しい構成ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な造形要素について説明ができる。 関心・意欲の観点：身近にある造形物に興味や関心をもち鑑賞ができる。 技能・表現の観点：物と空間との関係を考え、立体的に表現することができる。 その他の観点：各課題ごとに作品のプレゼンテーションを行うことにより、自己表現を磨く。

授業の計画(全体) (1) 前半は木材(爪楊枝)を使って線の要素の幾何形体の分割、再構成を行う。(2) 後半はケント紙を使って面的要素の構成を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 スケッチ
- 第 3 回 項目 制作
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 作品仕上げ
- 第 8 回 項目 発表会
- 第 9 回 項目 スライド講義
- 第 10 回 項目 スケッチ
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 作品仕上げ
- 第 15 回 項目 発表会

成績評価方法(総合) (1) 課題作品 2 点の提出。

教科書・参考書 教科書：適時プリント配布 / 参考書：適時プリント配布

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	情報数学 III	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 情報科学の基礎のうち、微分学について学習する。

授業の一般目標 簡単な関数の微分ができることを最低の目標にする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：微分学に関する基礎的な知識と応用する力量 思考・判断の観点：
解析学的な思考と判断 関心・意欲の観点：微分学に対する関心意欲

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 収束
- 第 2 回 項目 実数
- 第 3 回 項目 関数の極限
- 第 4 回 項目 連続関数
- 第 5 回 項目 微分係数と導関数
- 第 6 回 項目 導関数の計算法
- 第 7 回 項目 高次導関数
- 第 8 回 項目 導関数の応用
- 第 9 回 項目 微分法の応用
- 第 10 回 項目 偏微分係数と偏導関数
- 第 11 回 項目 偏導関数の性質
- 第 12 回 項目 偏微分法の応用
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

教科書・参考書 教科書：プリントを用いて講義を行う

備考 隔年開講

開設科目	電子計算機	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 電子計算機の基本原則、システム構成、中央処理装置の動作を中心に、オペレーティングシステムの役割とプログラム実行の基本原則について講義する。

授業の一般目標 現在のコンピューター内部の動作原理をハードウェアを通して理解する。また、その上で動くオペレーティングシステムやユーザーの開発したプログラムの動作についても理解を深め、プログラミング能力の向上に寄与する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. CPU の内部構造を理解する 2. CPU と主メモリの関係を理解する 3. コンピューターの基本動作、命令のフェッチ、解読、実行を理解する 4. コンピューター起動の流れを理解する 5. ハードウェアとオペレーティングシステムの関係を知る

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピューターの構成
- 第 2 回 項目 CPU と内部レジスタ
- 第 3 回 項目 機械語命令
- 第 4 回 項目 コンピューターの基本サイクル
- 第 5 回 項目 内部データ表現
- 第 6 回 項目 音声データ
- 第 7 回 項目 画像データ
- 第 8 回 項目 オペレーティングシステムその 1
- 第 9 回 項目 オペレーティングシステムその 2
- 第 10 回 項目 OS とユーザプログラム
- 第 11 回 項目 ディスプレイの構造と動作
- 第 12 回 項目 プリンタ構造と動作
- 第 13 回 項目 キーボードとマウス
- 第 14 回 項目 補助記憶装置
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点はレポートにより評価する。

教科書・参考書 参考書：プリントを配布する。

メッセージ 論理回路を履修していること

開設科目	電気理論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 直流回路および交流回路で利用される素子の性質、オームの法則、キルヒホッフの法則などを説明し電気回路の電圧や電流の計算法を解説する。また、交流回路の計算に必要な複素数や行列の計算法も必要に応じて説明する。

授業の一般目標 直流回路、交流回路の基礎理論を理解するとともに、身近な電化製品の消費電力や室内配線についての理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 直流回路でのオームの法則、キルヒホッフの法則を理解する 2. 交流回路計算の基礎である振幅や位相と複素数との対応を理解する 3. コイルやコンデンサを含む交流回路の複素計算を理解する 思考・判断の観点： 1. 与えられた直流回路の電圧電流をオームの法則、キルヒホッフの法則を用いて計算できる 2. コイルやコンデンサを含む交流回路の電圧電流をキルヒホッフの法則を用いて計算できる

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 直流回路とオームの法則 内容 直流電源と電圧電流の関係を解説する
- 第 2 回 項目 直並列回路 内容 合成抵抗の求め方について解説する
- 第 3 回 項目 重ね合わせの理 内容 重ね合わせの理を用いた直流回路計算法を解説する
- 第 4 回 項目 キルヒホッフの法則 内容 キルヒホッフの法則を用いた直流回路計算法を解説する
- 第 5 回 項目 直流回路演習 内容 問題を与えて計算演習を行う
- 第 6 回 項目 正弦波交流と実効値 内容 正弦波の時間関数表示とその波形について解説する
- 第 7 回 項目 交流回路素子 内容 抵抗、コイル、コンデンサの性質を説明する
- 第 8 回 項目 ベクトルと複素数 内容 ベクトルと複素数の基礎知識を復習する
- 第 9 回 項目 交流の複素表示 内容 正弦波と複素数の対応関係について説明する
- 第 10 回 項目 複素電力 内容 複素電圧・電流と電力、力率について説明する
- 第 11 回 項目 交流回路演習その 1 内容 問題を与えて交流回路計算の演習を行う
- 第 12 回 項目 交流回路演習その 2 内容 //
- 第 13 回 項目 トランス 内容 トランスの原理について説明する
- 第 14 回 項目 共振回路と周波数特性 内容 コイル、コンデンサによる共振と周波数の関係について説明する
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体での質問とまとめを行う

成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 教科書：電気回路基礎入門, 山口静夫, コロナ社

開設科目	プログラミング言語 II(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 まず、高度な C 言語のプログラミングについて学習する。その後、グラフィックス・プログラムの基本知識を学習した後、図形、グラフなどを表示する簡単なコンピュータグラフィックスのプログラムを作成する。

授業の一般目標 高度なプログラミング知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 高度な知識が身についているか？ 構造体，関数，描画などについて理解できているか？ 関心・意欲の観点： 自ら新しい課題に取り組もうとしているか？

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語の復習
- 第 2 回 項目 C 言語の復習
- 第 3 回 項目 ファイル入出力 I
- 第 4 回 項目 ファイル入出力 II
- 第 5 回 項目 コマンドの引数 I
- 第 6 回 項目 構造体 I
- 第 7 回 項目 構造体 II
- 第 8 回 項目 メモリ管理 I
- 第 9 回 項目 メモリ管理 II
- 第 10 回 項目 メモリ管理 III
- 第 11 回 項目 X ウィンドウプログラム I
- 第 12 回 項目 X ウィンドウプログラム II
- 第 13 回 項目 X ウィンドウプログラム III
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書： 追って指示する / 参考書： 追って指示する

メッセージ プログラミング言語 I を履修していることを前提に授業を進める。

開設科目	視覚情報処理論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 画像を計算機上で扱うための理論や技術に関する基本知識を学習する。加えて、実際の応用事例や作品などを観賞する。 / 検索キーワード ビジュアル コンピュータ 画像処理

授業の一般目標 画像情報処理に関わる技術解説および最新の技術を映像資料を見ながら概観し、視覚情報に関する幅広い知識と理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：当該分野における基本技術や概念を自分の言葉で表現できるか
関心・意欲の観点：当該分野における表現技術に関する知識欲があるか 態度の観点：積極的に自主学習を行っているか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計算機による画像処理の基礎概念
- 第 2 回 項目 2次元画像のデータ表現・階調・色彩
- 第 3 回 項目 2次元画像の描画・合成・変換
- 第 4 回 項目 2次元画像処理の応用事例解説
- 第 5 回 項目 3次元画像の立体表現・立体表示
- 第 6 回 項目 3次元画像の動作表現・処理装置
- 第 7 回 項目 3次元画像の計算機言語
- 第 8 回 項目 3次元画像処理の応用事例解説 内容 課題提出
- 第 9 回 項目 色彩学・視覚心理学概説
- 第 10 回 項目 デザイン論概説
- 第 11 回 項目 検定試験過去問題 解説その1
- 第 12 回 項目 検定試験過去問題 解説その2
- 第 13 回 項目 作品観賞（学術・映画）
- 第 14 回 項目 作品観賞（CM・ゲーム）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：CG & 映像しくみ事典, , ワークスコーポレーション, 2003年

メッセージ 復習を積極的に行うこと

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	音楽史 I(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要 (授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。)/ 検索キーワード 音楽、西洋、東洋、近代

授業の一般目標 音楽とその歴史を多角的に概観することによって、その多様性を知ると同時に、「音楽=芸術」の自明性を批判的に考察できるようになることを目標とする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 音楽の概念
- 第3回 項目 西洋の概念、西洋音楽史の範囲
- 第4回 項目 時代区分、様式の概略
- 第5回 項目 古代ギリシア
- 第6回 項目 初期キリスト教音楽
- 第7回 項目 中世の音楽1
- 第8回 項目 中世の音楽2
- 第9回 項目 バロック
- 第10回 項目 近代の音楽~古典
- 第11回 項目 近代の音楽~古典
- 第12回 項目 近代~19世紀というフィルター1
- 第13回 項目 近代~19世紀というフィルター2
- 第14回 項目 近代~19世紀というフィルター3
- 第15回 項目 現代の音楽

成績評価方法(総合) 実際に教室で授業中に鑑賞することが大事なので、出席は重視します。出席50%、期末テスト(またはレポート)50% (100-[欠席回数x20])x0.5+(レポート or 試験の得点x0.5)=総合得点

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。ガイダンスを受けない場合には原則として受講を認めない。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。また、シラバスはあくまでも目安であり、状況に応じて変更する可能性がある。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	彫刻 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上原一明				

授業の概要 彫刻の基礎として、塑像の基本的な理論・技法を制作を通して学ぶ。

授業の一般目標 (1) 自然物を観察し、全体のバランスを考え、量塊で表現することができる。(2) 固形物から形態を彫り出すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：モデリングとカービングが理解できる。 関心・意欲の観点：抽象的な立体作品に興味や関心をもつ。 技能・表現の観点：石膏取り技法、カービング方法が習得できる。

授業の計画(全体) (1) 野菜や果物をモチーフにして粘土で表現する。(2) (1)を石膏取りする。(3) (1)の形態をデフォルメした形を、石膏の塊から彫り出す。(4) 石膏レリーフを製作する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 課題(1) スケッチ
- 第 3 回 項目 モデリング
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 課題(2) 石膏取り
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 課題(3)(カービング)
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 同上
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 課題(4) レリーフ制作
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 石膏取り
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 課題作品を 3 点提出する。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	美術史 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて概説する。

授業の一般目標 (1) 西洋絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2) 各時代の西洋絵画の新しい流れが生まれるその社会的、文化的背景に関心を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。思考・判断の観点：各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。関心・意欲の観点：西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。

授業の計画(全体) 14世紀末の初期ルネッサンス絵画から話しをはじめ、バロック、ロココ、19世紀絵画と時代を下りながらヨーロッパ諸国におけるその展開の概要をスライド、ビデオなどのヴィジュアルな教材を使いながら解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 " (2) 初期ルネッサンス(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 盛期ルネッサンス(イタリア)
- 第 5 回 項目 " (フランドル)
- 第 6 回 項目 " (ドイツ)
- 第 7 回 項目 バロック(イタリア)
- 第 8 回 項目 " (スペイン)
- 第 9 回 項目 " (フランドル)
- 第 10 回 項目 " (フランス)
- 第 11 回 項目 ロココ(フランス)
- 第 12 回 項目 " (イギリス)
- 第 13 回 項目 " (イタリア)
- 第 14 回 項目 ロマン主義、新古典主義、写実主義
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 西洋美術史, 高階秀爾監修, 美術出版社, 1990 年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階

開設科目	情報数学 IV	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 情報科学の基礎のうち，積分学を学習する．

授業の一般目標 簡単な関数の積分ができることを最低の目標にする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：積分学に関する基本的な知識と理解 関心・意欲の観点：積分学に関する関心と意欲

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 定積分の定義と性質
- 第 2 回 項目 微分積分法の基本公式
- 第 3 回 項目 置換積分法と部分積分法
- 第 4 回 項目 不定積分の計算法
- 第 5 回 項目 定積分の計算法
- 第 6 回 項目 重積分の定義
- 第 7 回 項目 重積分の計算法
- 第 8 回 項目 面積と体積
- 第 9 回 項目 線形微分方程式
- 第 10 回 項目 線形微分方程式（続き）
- 第 11 回 項目 変数変換と正規分布
- 第 12 回 項目 数値計算
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

教科書・参考書 教科書：プリントで講義する

開設科目	アルゴリズム論 (実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 探索やソートリングなどの実例を取り上げ、そのアルゴリズムとソフトウェアの設計について講義し、また計算量およびプログラムの実測時間によるアルゴリズムの能率確認の実習も行う。

授業の一般目標 計算機処理に必要なアルゴリズム、データ構造、計算量についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) アルゴリズムの基礎概念から、基本データ構造やグラフの基本探索法やアルゴリズムの設計法などについて講義する。また関連の実習も行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 2 . アルゴリズムの基礎概念
- 第 3 回 項目 3 . 基本データ構造
- 第 4 回 項目 4 . ソートリング問題
- 第 5 回 項目 5 . 2分探索法
- 第 6 回 項目 6 . グラフの基本探索法
- 第 7 回 項目 7 . アルゴリズムの設計法
- 第 8 回 項目 8 . アルゴリズム計算量の算出法
- 第 9 回 項目 9 . ソートリングアルゴリズムの設計
- 第 10 回 項目 10 . ソートリングプログラムの作成
- 第 11 回 項目 11 . グラフ探索アルゴリズムの設計
- 第 12 回 項目 12 . グラフ探索プログラムの作成
- 第 13 回 項目 13 . プログラムの実行時間の測定
- 第 14 回 項目 14 . 実測時間と計算量によるアルゴリズム評価
- 第 15 回 項目 15 . 総括

成績評価方法(総合) 出席、レポート、試験などによる総合評価 = 100 %

教科書・参考書 教科書: アルゴリズム論, 浅野, 和田, 増澤, オーム社

開設科目	音響構成デザイン I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 古典的な作曲をコンピュータの音楽ソフトウェア上で行う技術を学習する。 / 検索キーワード 音楽ソフト

授業の一般目標 古典的な作曲が出来る基本的な能力と、コンピュータの音楽ソフトウェアの基本的な扱い方を学習し、身に付けることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典的な音楽の作曲法の理解、作曲について基本的な知識の獲得。コンピュータの操作に関する基本的な知識の獲得。 思考・判断の観点：作曲されたものの価値付け、価値判断ができる能力の獲得。 関心・意欲の観点：コンピュータへの基本的な関心と共に、使いこなそうという意欲を持つこと。コンピュータ、及びソフトウェアの可能性について意欲的に学習しようという態度を持つこと。 態度の観点：授業への積極的な参加態度を重視。 技能・表現の観点：実際に獲得された音楽的な、あるいはコンピュータ・音楽ソフトの扱いに関わる技能を、作曲された作品という形で提示、表現できる能力の獲得。

授業の計画(全体) 基本的な説明の後、それぞれの時間内で指示された課題を仕上げる、という形式で進行させる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 コンピュータの基本的な操作の復習、音楽ソフトの基本的性能の解説
- 第2回 項目 五線楽譜による入力実習、データ保存の実習
- 第3回 項目 五線楽譜入力に際しての各種機能の学習
- 第4回 項目 演奏機能の実習、音色設定
- 第5回 項目 旋律創作と和音伴奏の実習
- 第6回 項目 打楽器による作品の作成、その1
- 第7回 項目 同上、その2
- 第8回 項目 作品発表、その1
- 第9回 項目 スコアの作製法、その1、基礎的実習
- 第10回 項目 同上、その2、応用実習
- 第11回 項目 MIDI規格の思想と実際
- 第12回 項目 課題制作、その1
- 第13回 項目 同上、その2
- 第14回 項目 同上、その3
- 第15回 項目 作品発表その2、まとめ

成績評価方法(総合) コンピュータ上での作曲能力の獲得の度合い、授業内容への興味・感心、意欲、受講態度等を総合的に評価する。尚、試験は行わず、作品提出をもってレポートとする。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない、必要に応じプリント等を配付。 / 参考書：音楽ソフトのマニュアル、及び必要に応じ授業時間中に適宜紹介する。

メッセージ パソコンの基本的な操作法をマスターしておくこと。音楽通論の単位取得者、及び相応の能力がある、と担当教官が認めた者のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	デザイン情報処理 I(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 CG 表現の基礎技術の理解と習得のため、2次元画像処理アプリケーションおよびビジュアルプログラミング環境である PureData を用いて課題の制作を中心とした演習を行う。 / 検索キーワード 画像処理 コンピュータ デザイン CG

授業の一般目標 本講義は2次元画像処理による視覚表現および概念を理解する。具体的には GIMP (画像処理ソフト) を用いたポスターやジャケット制作、PureData による画像処理プログラミングを行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 画像情報処理の論理的な処理プロセスを理解しているか 思考・判断の観点: 与えられた素材、情報から自己学習を通し、表現行為を行えるか 関心・意欲の観点: 講義や課題に積極的に取り組んでいるか 技能・表現の観点: セオリーに基づいて意識的にデザインを行っているか

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピュータの基本操作および CG アプリケーション (GIMP) の概説
- 第 2 回 項目 コンピュータの基本操作および JAVA の概説
- 第 3 回 項目 デザインセオリー 概説
- 第 4 回 項目 PD チュートリアル 1 (基本)
- 第 5 回 項目 PD チュートリアル 2 (音声)
- 第 6 回 項目 PD チュートリアル 3 (描画) 定)
- 第 7 回 項目 PD 応用 (その 1)
- 第 8 回 項目 PD 応用 (その 2)
- 第 9 回 項目 課題制作
- 第 10 回 項目 画像処理技術概説
- 第 11 回 項目 応用事例鑑賞
- 第 12 回 項目 応用事例鑑賞
- 第 13 回 項目 課題講評
- 第 14 回 項目 画像制作 (課外制作)
- 第 15 回 項目 まとめ・総論

メッセージ 予習・復習を積極的に行うこと

開設科目	作・編曲法 II	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 線の作曲法、すなわちポリフォニーと呼ばれる複数の旋律どうしの絡み合による作曲法を扱う。内容は二声部の厳格対位法の解説と実習、模倣対位法としてのカノンの実作、フーガの解説などを扱う。 / 検索キーワード 厳格対位法、カノン、ポリフォニー

授業の一般目標 線の作曲法、すなわちポリフォニーと呼ばれる複数の旋律どうしの絡み合による作曲法を身に付けることを目標とする。二声部の厳格対位法の実習課題の実施、模倣対位法としてのカノンの実作が出来るようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ポリフォニー、及び対位法概念の獲得、線の作曲手法の基本的理解、自由度の相違による厳格対位法と自由対位法の違いの認識。 思考・判断の観点：線的な作曲法により自ら音楽的な思考が出来るようになること。ポリフォニック作曲法とそれ以外の作曲法の違いが判断できる。 関心・意欲の観点：ポリフォニー音楽への積極的な関心、及び探究への態度 技能・表現の観点：対位法による作曲技能の獲得、ポリフォニーによる音楽表現技能の確立。

授業の計画(全体) 最終的には厳格対位法の課題のリアリゼーションと、自由対位法によるカノン位が自分で作れ、受講生が互いに添削できるようになることが好ましい。が…。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、ポリフォニーの基礎的な説明
- 第2回 項目 厳格対位法の諸規則の説明
- 第3回 項目 二声全音符対位法の説明
- 第4回 項目 同上実習、及び添削
- 第5回 項目 二声二分音符対位法の説明
- 第6回 項目 同上実習、及び添削
- 第7回 項目 二声四分音符対位法の解説
- 第8回 項目 同上実習、及び添削
- 第9回 項目 二声移勢対位法の説明
- 第10回 項目 同上実習、及び添削
- 第11回 項目 二声華麗対位法の解説
- 第12回 項目 同上実習、及び添削
- 第13回 項目 自由対位法について
- 第14回 項目 カノンについての説明と実習
- 第15回 項目 インヴェンションとフーガについて、まとめ

成績評価方法(総合) 期末テストの成績を主に、対位法的作曲法の理解度を中心に、興味・感心、受講態度等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じ、プリントを配付 / 参考書：必要に応じ授業時間中に適宜紹介する。

メッセージ 積み上げで理解するしかない科目なので、極力欠席しないように。休むと途端に解らなくなります。音楽通論の単位を取得しているか、担当教官が相応の音楽的な能力がある、と認めた人のみ受講可。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109(池上)研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	美術史 II(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点から論述する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。

授業の一般目標 (1)日本美術史、とくに日本の近世絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2)日本の各時代(室町期～江戸期)における絵画の新しい流れが生まれる社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。

思考・判断の観点：各時代に生まれた絵画作品の歴史的な位置付け、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 関心・意欲の観点：日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。

授業の計画(全体) とくに日本の各時代における絵画と流派の問題を軸として、室町期の初期水墨画の成立から話しをはじめ、桃山期、江戸期と時代を下りながら、当時の新しい絵画状況をスライドなどを使いながらヴィジュアルに解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 初期水墨画(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 室町水墨画(雪舟)
- 第 5 回 項目 桃山期の巨匠たち
- 第 6 回 項目 狩野派の流れ
- 第 7 回 項目 琳派(宗達、光琳)
- 第 8 回 項目 琳派(抱一、其一)
- 第 9 回 項目 写生派(円山派)
- 第 10 回 項目 異端の系譜(芦雪、若冲、蕭白)
- 第 11 回 項目 南画と文人画
- 第 12 回 項目 浮世絵(初期風俗画)
- 第 13 回 項目 " (錦絵以降)
- 第 14 回 項目 " (幕末期)
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 日本美術史, 辻惟雄監修, 美術出版社, 1991年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	電子回路	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 電気回路で学んだ回路理論の基礎知識をもとに、身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理を理解する。また、電子回路の基本素子としてダイオードおよびトランジスタの動作原理を解説し、それを用いた基本的な電子回路について解説する。 / 検索キーワード ダイオード、トランジスタ、電磁誘導、ローレンツ力

授業の一般目標 基礎的な電子回路素子の動作原理とその利用法を習得することにより、身の回りの電子機器に対する興味と理解を深めることを目的とする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. ダイオード、トランジスタの動作を理解し説明ができる。 2. 全波整流回路半波整流回路の回路図が描け、動作を概説できる 3. 身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理を理解し説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 身の回りの電気・電子機器の構造や動作原理

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 半導体と IC 内容 半導体の物性と IC の発達史
- 第 2 回 項目 ダイオード 内容 ダイオードの構造と動作を解説する
- 第 3 回 項目 トランジスタ 内容 トランジスタの構造と動作原理を解説する
- 第 4 回 項目 右手の法則 (1) 内容 電磁誘導とその原理を用いた電子機器について解説する
- 第 5 回 項目 右手の法則 (2) 内容 電磁誘導とその原理を用いた電子機器について解説する
- 第 6 回 項目 左手の法則 (1) 内容 ローレンツ力を利用した電子機器について解説する
- 第 7 回 項目 ブラウン管の構造と動作 内容 TV およびブラウン管のディスプレイについて解説する
- 第 8 回 項目 液晶およびプラズマディスプレイ 内容 最近の平面型ディスプレイについて解説する
- 第 9 回 項目 放送と電波 内容 ラジオおよびテレビの放送について解説する
- 第 10 回 項目 CD および DVD 内容 CD および DVD ディスクの構造と読み書きについて解説する
- 第 11 回 項目 D/A および A/D 変換 内容 インターフェースとしての D/A, A/D の原理を解説する
- 第 12 回 項目 整流回路 内容 半波整流、全波整流の原理と回路について解説する
- 第 13 回 項目 身の回りの機器 (1) 内容 身近な電子機器を希望を聞いて解説する
- 第 14 回 項目 身の回りの機器 (2) 内容 身近な電子機器を希望を聞いて解説する
- 第 15 回 項目 試験 内容 全体のまとめとして記述式試験を行う

成績評価方法 (総合) 出席点は 20 点で、欠席 5 回以上で失格とする。残り 80 点は定期試験による

開設科目	論理回路	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	情報科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 情報科教育法 I は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得した人が、教科「情報」の学習指導要領をもとに、その指導形態や方法等を学習する科目です。授業では、情報設置の経緯と趣旨、情報教育の中での位置づけ、科目編成と内容の取り扱いについて学びます。また、具体的な実践事例を通して効果的な指導内容・方法を理解してもらいます。 / 検索キーワード 教科「情報」、情報教育、情報活用能力、指導法

授業の一般目標 (1) 教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解することが出来ること (2) 教科「情報」の指導形態や指導方法を理解することができること (3) 教科「情報」における生徒の諸活動を体験し、指導内容・方法に活かすことができること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」設置の経緯と趣旨を理解できること 教科「情報」の指導形態や指導方法・内容を理解することができること 思考・判断の観点：教科「情報」において効果的な学習活動を思考・判断することができること 関心・意欲の観点：教科「情報」における生徒の諸活動に関心を持ち、積極的な意欲を持てること 態度の観点：授業内での演習や作業に積極的に参画する態度を持つこと 技能・表現の観点：教科「情報」において有効な指導方法を身につけることができること

授業の計画(全体) 情報科教育法 I では、教科「情報」で行われる学習活動や評価活動を生徒の立場で積極的に体験する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明・個人発表
- 第 2 回 項目 情報教育の経緯と教科「情報」の位置づけと理念 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 4 回 項目 専門教科「情報」の科目編成と各科目の内容と意義 内容 説明
- 第 5 回 項目 外国における情報教育の動向 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 教科「情報」における学習形態と指導方法 内容 説明
- 第 7 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(1) 内容 個人発表・評価
- 第 8 回 項目 担当項目に対する個人プレゼンテーション(2) 内容 個人発表・評価
- 第 9 回 項目 教科「情報」における評価 内容 説明・演習
- 第 10 回 項目 情報教育実践事例からの授業研究 内容 説明・演習
- 第 11 回 項目 担当内容に対するグループ作業 内容 グループ作業
- 第 12 回 項目 担当内容に対するグループ発表(1) 内容 グループ発表
- 第 13 回 項目 担当内容に対するグループ発表(2) 内容 グループ発表
- 第 14 回 項目 担当内容に対するグループ発表(3) 内容 グループ発表
- 第 15 回 項目 担当内容に対するグループ発表(4) 内容 グループ発表

教科書・参考書 教科書：情報科教育法, 岡本敏雄, 丸善, 2002 年; 高等学校学習指導要領解説 情報編, 文部省, 開隆堂出版, 2000 年

メッセージ 授業内では、情報機器を活用した個人やグループによる発表機会をつくります。また、授業の連絡等は、下記の授業HPを利用します。 <http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05MIT1>

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	オペレーションズ・リサーチ	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 問題の合理的解決を科学的に提供する学問がオペレーションズ・リサーチである。問題解決の手順は、先ず現象の観察に始まり、モデル化、定式化を実行し、解析する。その後最適な解決方法を求め、意志決定で終わる。その中の最適化の代表的な数学的手法を勉強していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： オペレーションズ・リサーチにかんする知識と理解 関心・意欲の観点： 最適化問題を解くこと

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単体法
- 第 2 回 項目 単体法の性質と 2 段階法
- 第 3 回 項目 行列形式でのシンプレックス法と摂動法
- 第 4 回 項目 ダイナミック・プログラミング
- 第 5 回 項目 最適性の原理とその応用
- 第 6 回 項目 最短経路問題
- 第 7 回 項目 無制約の非線形計画法
- 第 8 回 項目 等式制約付きの非線形計画法
- 第 9 回 項目 等式制約非線形計画問題と Lagrange の未定乗数法等式
- 第 10 回 項目 縮小勾配法
- 第 11 回 項目 不等式制約付非線形計画と 2 次計画法
- 第 12 回 項目 2 次計画問題の計算法
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

教科書・参考書 教科書： プリントで講義をする

開設科目	データベースシステム(実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の一般目標 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：データベースシステムについて理解できているか？データモデルを理解しているか？SQLが理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組んでいるか？ 態度の観点：出席しレポートを提出しているか？

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データベースの 基礎概念 I
- 第 2 回 項目 データベースの 基礎概念 II
- 第 3 回 項目 データモデル I
- 第 4 回 項目 データモデル II
- 第 5 回 項目 関係データモデル I
- 第 6 回 項目 関係データモデル II
- 第 7 回 項目 関係型データベースの操作方法
- 第 8 回 項目 SQLの基礎 I
- 第 9 回 項目 SQLの基礎 II
- 第 10 回 項目 SQLの基礎 III
- 第 11 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 12 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 13 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ プログラミング言語 I,II、アルゴリズム論の内容を理解していることを前提に授業を進める。

連絡先・オフィスアワー 質問は随時可。授業中に教えるメールアドレスに質問メール等を送ってください。

開設科目	デザイン情報処理 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 CG 表現の基礎技術の理解と習得のため、動画像編集アプリケーションを用いて課題の制作を中心とした演習を行う。なお本講義の課題制作は二人ないしは三人のグループ制によって行う。 / 検索キーワード 画像処理 コンピュータ デザイン デジタル画像

授業の一般目標 本講義はコンピュータを活用して動画像技術の理解と実制作のための手法を修得することを目標としている。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 CG・デジタル映像 制作概説
- 第 2 回 項目 コンピュータの基本操作および動画像編集系アプリケーションの概説
- 第 3 回 項目 3次元系チュートリアル1 (モデリング)
- 第 4 回 項目 3次元系チュートリアル2 (レンダリング)
- 第 5 回 項目 3次元系チュートリアル3 (アニメート)
- 第 6 回 項目 3次元系チュートリアル4 (特殊機能)
- 第 7 回 項目 3次元系課題制作
- 第 8 回 項目 動画像系チュートリアル1 (画像取り込み)
- 第 9 回 項目 動画像系チュートリアル2 (デジタル編集)
- 第 10 回 項目 動画像系チュートリアル3 (特殊効果)
- 第 11 回 項目 動画像系チュートリアル4 (レンダリング)
- 第 12 回 項目 課題制作 内容 グループ制作による
- 第 13 回 項目 課題制作
- 第 14 回 項目 課題制作
- 第 15 回 項目 発表・まとめ

メッセージ グループ制による共同作業を行うのでお互い協力し合う姿勢が大切です。成果よりもその過程を重視します。

開設科目	音楽史 II	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齋藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第 1 回めに説明があります。）

授業の一般目標 日本における音楽文化を通時的に概観する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 近代以降の「日本音楽」
- 第 3 回 項目 日本音楽の「日本」
- 第 4 回 項目 日本音楽史の構造
- 第 5 回 項目 大陸音楽の受容
- 第 6 回 項目 大陸音楽の変容 1
- 第 7 回 項目 大陸音楽の変容 2
- 第 8 回 項目 三味線の到来
- 第 9 回 項目 江戸時代の劇場音楽 1
- 第 10 回 項目 江戸時代の劇場音楽 2
- 第 11 回 項目 西洋音楽の受容
- 第 12 回 項目 西洋音楽の影響 1
- 第 13 回 項目 西洋音楽の影響 2
- 第 14 回 項目 大衆娯楽音楽
- 第 15 回 項目 日本伝統音楽再考

教科書・参考書 参考書： はじめての音楽史, , 音楽之友社

メッセージ 音楽史 1 を受講していることが望ましい。音楽史 1 を受講した者はその受講時に使用した教科書（『はじめての音楽史』）を持参すること。

開設科目	OS 概論	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステム：OS について、現代の OS が備えている機能の基礎とその仕組みについて理解を深める。 / 検索キーワード UNIX, OS, セマフォ, 並行処理, ファイルシステム

授業の一般目標 現在一般に利用されている OS の機能とその仕組みについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代の OS について理解する。 関心・意欲の観点：OS への関心が高まること。

授業の計画（全体） まず OS のおおまかな仕組みと機能を説明する。その後、並行処理を行うためのセマフォについて説明する。さらに、様々な OS の機能の実際について説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 OS の構成要素と構成法
- 第 3 回 項目 プロセス
- 第 4 回 項目 スケジューリング
- 第 5 回 項目 プロセスの同期と通信（1）
- 第 6 回 項目 プロセスの同期と通信（2）
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 実記憶の管理
- 第 9 回 項目 仮想記憶（その 1）
- 第 10 回 項目 仮想記憶（その 2）
- 第 11 回 項目 ファイルシステム
- 第 12 回 項目 割り込み処理
- 第 13 回 項目 入出力制御
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間・期末試験と毎回の授業で課す課題を総合計して評価する。なお、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：オペレーティングシステムの基礎, 大久保英嗣, サイエンス社, 1997 年；プリントも配布します。 / 参考書：オペレーティングシステムの概念, ピーターソン、シルバーシャッツ, 培風館, 2000 年

メッセージ 普段利用している MS-Windows や UNIX の利用法と照らし合わせて理解するよう努めてください。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	音響構成デザイン II	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	寺井 尚行				

授業の概要 音響構成デザイン 1 を踏まえ、より高度な音響表現の可能性を追求し、音楽作品の作成を目指す。音響構成デザイン 1 の単位履修者が担当教官が同等以上の力量がある、と認められた者に受講を限定するので、十分に注意すること。(集中講義)

授業の一般目標 音響構成デザイン 1 で学んだ知識を基礎にして、コンピューターを駆使してより高度な美しい音響表現の可能性を追求し、個性的な音楽作品の作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 音の性質を理解する 2. 和声の理論を理解する 3. 音響効果を知る 思考・判断の観点： 1. 作成した作品を的確に評価し、論理的に説明できる力を養う 関心・意欲の観点： 1. オリジナルな作品作りの意欲を示す 技能・表現の観点： 1. 他人を納得させるに十分な表現力を持つ 2. アルゴリズム作曲法的アイデアを創出する

授業の計画(全体) 音響表現に関する知識を解説し、コンピューターを用いて一人一人に作品作りを行わせる。部分的にできた作品を批評し合いながら、それぞれの個性に応じた作品作りを進める。

成績評価方法(総合) 出席点 50 点、5 回以上欠席は欠格。残り 50 点は出来上がった作品により評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

備考 集中授業

開設科目	情報科教育法 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小川勤				

授業の概要 情報科教育法 II は、将来、高等学校教科「情報」免許を取得したい人が、各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決技法などの学習を通して、教科「情報」の学習 指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につけてもらうための授業です。情報科教育法 I の概論学習を受けて、情報科教育法 II では授業実践例の分析や問題把握、模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を養うことをねらいとします。/ 検索キーワード 教科「情報」、学習指導案立案、授業実践、教材開発

授業の一般目標 教科「情報」の学習内容に対して、学習指導計画がたてられ、学習指導案を作成することができるようになること。また、学習目標を達成するための学習教材を開発することができること。さらに、模擬授業実践を通して教授法の基礎と改善を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科「情報」の学習指導案を立案するための概念・知識を身につけること 思考・判断の観点：教科「情報」の学習指導計画・指導案を立案するために思考力・判断力を身につけること 関心・意欲の観点：教科「情報」の学習内容・指導方法について関心を持ち、意欲を持って取り組むことができること 態度の観点：授業に対して積極的な態度でのぞむことができること 技能・表現の観点：教科「情報」に必要な諸技能や表現力を身につけること

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法 に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 学習指導計画及び学習指導案作成の基本的観点 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 高等学校における教科「情報」の学習指導計画 について 内容 説明・演習
- 第 4 回 項目 情報活用の実践力とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 5 回 項目 情報の科学的な理解とその学習指導 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 情報モラルとプライバシーに関する指導と教材開発 内容 説明・演習
- 第 7 回 項目 10分授業の指導案作成 内容 個人作業
- 第 8 回 項目 相手を説得させる伝え方 内容 外部講師による 授業
- 第 9 回 項目 10分授業の実施 内容 個人授業・評価
- 第 10 回 項目 グループ授業の指導案作成 内容 グループ作業
- 第 11 回 項目 グループ授業の指導案発表会 内容 グループ発表・評価
- 第 12 回 項目 グループ授業の指導案修正 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 グループ授業の実施(1) 内容 グループ発表・評価
- 第 14 回 項目 グループ授業の実施(2) 内容 グループ発表・評価
- 第 15 回 項目 グループ授業のふり返し 内容 評価・グループ 作業

教科書・参考書 教科書：授業内で教科書を指定する。/ 参考書：授業時間内や授業HPに適時紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表（授業実施含む）を行ってまいります。また、授業の連絡等は、授業HPの利用を考えています。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp（E-mail）オフィスアワーは金曜日 13:00～15:00 共通教育棟 3F

開設科目	情報数学 V	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

授業の概要 情報分野で必要な知識のうち，統計と情報理論の基礎を学習する．

授業の一般目標 統計分野では推定と検定，情報分野では情報量，符号化，通信路について理解すること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統計と情報理論の規範的な知識と理解 関心・意欲の観点：問題を解決することに対する関心や意欲

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 確率
- 第 2 回 項目 確率分布
- 第 3 回 項目 標本分布
- 第 4 回 項目 点推定
- 第 5 回 項目 区間推定
- 第 6 回 項目 仮説検定
- 第 7 回 項目 いろいろな検定
- 第 8 回 項目 情報源符号化理論
- 第 9 回 項目 情報源符号化理論（続き）
- 第 10 回 項目 情報量とエントロピー
- 第 11 回 項目 通信路符号化理論
- 第 12 回 項目 通信路符号化理論（続き）
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 試験週間
- 第 15 回 項目 試験週間

教科書・参考書 教科書：プリントで講義する

開設科目	グラフ・ネットワーク論	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。

授業の一般目標 グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) グラフの基本定義や性質を紹介し、関連の証明法やアルゴリズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 2 . グラフの基本 定義
- 第 3 回 項目 3 . 道、閉路、木 グラフなどの概念
- 第 4 回 項目 4 . 木グラフの性 質およびその証明
- 第 5 回 項目 5 . グラフの平面 性
- 第 6 回 項目 6 . グラフの彩色
- 第 7 回 項目 7 . 有向グラフの 基本定義と性質
- 第 8 回 項目 8 . 幅優先探索と 深さ優先探索
- 第 9 回 項目 9 . マッチング
- 第 10 回 項目 10 . ネットワーク フロー
- 第 11 回 項目 11 . 最大フロー計 算アルゴリズム
- 第 12 回 項目 12 . 最短、最長経 路問題のアルゴリ ズム
- 第 13 回 項目 13 . 通信ネットワ ークにおける経路 決定問題
- 第 14 回 項目 14 . 経路決定問題 のアルゴリズム
- 第 15 回 項目 15 . 総括

成績評価方法(総合) 出席、レポートおよび試験で評価する

教科書・参考書 教科書： グラフ理論入門, R.J.Wilson, 訳者:西関, 近代科学社

開設科目	情報社会概論 (情報倫理を含む。)	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林 泰子				

授業の概要 これからの高度情報通新社会を生き抜く人間として求められる資質や能力について、情報・社会・コミュニケーションの観点より様々な社会事例を通して考える。そこでは情報社会人として身につけておくべき「情報科学の知識」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション（表現伝達）能力」、「IT社会」、「情報倫理」、「企業が求める人間」、「国際協力と国際理解」など、各界からの専門家を講師として招き実践的な講義をしていただく。

授業の一般目標 これからの情報社会人として必要な知識を習得する。具体的な内容は以下の通りである。

1. 情報とデータの意味を説明できる
2. 情報活用能力の意義を学び実践できる
3. コミュニケーション能力について学び改善できる
4. IT社会の光と影を学び生活に応用できる
5. 情報倫理について学び生活に応用できる
6. 企業で求められる人間について学び学修を見直すことができる
7. 国際協力と国際理解教育を学び国際人としての意識を持つことができる

授業の計画（全体） 本科目は、前述したように学外から分野ごとの専門家を講師として招き授業を行います。

成績評価方法（総合） 小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：新・情報社会人のすすめ、情報教養研究会、ぎょうせい、1997年

メッセージ 本科目は、集中講義で実施する。学外講師からの実践的な講話や演習により毎回配付資料がある。自発的な学習態度で臨む学生諸君を歓迎する。

備考 集中授業

開設科目	画像形成デザイン	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 画像情報処理技術を応用して、CG・デジタル映像を中心とした映像コンテンツを制作する。
本講ではコンテンツ制作において不可欠な計画の基礎から学習する。なおなお本講義においては筆記試験は課さず、制作のみで評価を行う。/ 検索キーワード 画像処理 デジタル編集 コンテンツ メディア

授業の一般目標 本講義はデザイン情報処理 1,2 において修得した内容を基礎としてさらに内容を発展させたコンテンツ制作を制作することを目標としている。具体的には各種アプリケーションを用いてデジタル編集による大学 CM やオリジナルの映像作品を制作する。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点：これまで修得した各種技術を自分が策定した計画どおりに応用し、具体化できているかどうか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 メディアと表現
- 第 2 回 項目 映像計画概論
- 第 3 回 項目 シナリオ・絵コンテ概論
- 第 4 回 項目 基本計画書作成
- 第 5 回 項目 シノプシス作成
- 第 6 回 項目 企画案プレゼンテーション
- 第 7 回 項目 実制作（素材選定・加工）
- 第 8 回 項目 実制作（素材作成）
- 第 9 回 項目 実制作（デジタル編集）
- 第 10 回 項目 実制作（デジタル合成）
- 第 11 回 項目 実制作（オーサリングその 1）
- 第 12 回 項目 実制作（オーサリングその 2）
- 第 13 回 項目 実制作（オーサリングその 3）
- 第 14 回 項目 講評会
- 第 15 回 項目 まとめ

メッセージ 選択科目なのでメディアリテラシを学びたい人も受講できます

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報職業論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	井上史子				

授業の概要 これからの情報社会に生きる社会人として必要な知識と技能を習得します。 / 検索キーワード 情報活用能力、コミュニケーション、プレゼンテーション、情報倫理、個人情報保護、問題解決能力、アサーション、デジタル・アーキビスト

授業の一般目標 1. 情報活用能力の意義について知り、実践できる。 2. コミュニケーション能力について学び、改善できる。 3. 情報倫理(マナー・個人情報保護)について学び、生活に応用できる。 4. 情報を巡る問題について、論理的・多角的に分析し解決するスキルを身につける。 5. 自己の考えを的確な方法を用いてプレゼンテーションできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ・個人情報保護や著作権に関する基本的な法律について説明できる。 ・情報活用能力の意義について説明できる。 ・コミュニケーション能力について説明できる。 ・基本的なプレゼンテーション技術について説明できる。 思考・判断の観点: ・社会における適切な情報活用のあり方について指摘できる。 ・情報をめぐる問題点について多角的・論理的に分析し、解決策を考えることができる。 ・情報倫理のあり方について自分なりに考え、判断できる。 関心・意欲の観点: ・社会における情報をめぐる問題に関心をもち、討議できる。 ・情報に関する法やきまりを生活に応用できる。 ・授業の理解に必要な知識や情報について、積極的に情報収集を行う。 態度の観点: ・積極的に他者とコミュニケーションを図り、授業に参加できる。 ・自己の考えや意見を進んで発表することができる。 ・他者の意見や考えに耳を傾け、自己の考えに取り入れることができる。 ・積極的に自己のプレゼンテーション技術を改善する。 技能・表現の観点: ・自己の考えや意見を的確に他者に伝えることができる。 ・適切な手段・方法を用いて、情報を他者に伝えることができる。 ・コンピュータを操作し、基本的なプレゼンテーション教材を作成できる。

授業の計画(全体) <第1日目> オリエンテーション 情報活用能力 コミュニケーション能力
問題解決演習(1) ・課題解決訓練用手法について ・グループ編成等 <第2日目> 問題解決演習(2) ・グループ討議等 問題解決演習(3) ・教材作成等 <第3日目> プレゼンテーション演習 ・グループ発表および相互評価 デジタル・アーキビストの資格と養成 <第4日目> 小テスト 課題作成 課題については当日連絡します。

成績評価方法(総合) ・課題レポート(2件) 30% ・小テスト 20% ・授業参加 20% ・プレゼンテーション 20% ・授業での教材作成 10%

教科書・参考書 教科書: 未定, , 2006年 / 参考書: 情報教育の理論と実践, 林徳治・宮田仁編著, 実教出版, 2002年; 情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治編著, ぎょうせい, 2000年; デジタルアーキビスト概論, 後藤忠彦監修, 日本文教出版, 2006年; 新・情報社会人のすすめ, 情報教養研究会, ぎょうせい, 1997年

メッセージ ・グループ演習を理由なく欠席した場合は、単位を認めない場合がありますので気をつけてください。 ・教科書は講義初日に販売しますので必ず購入して下さい。

備考 集中授業

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	池上敏				

授業の概要 卒業研究生各自の研究課題に従って、購読、作品制作、論文執筆、発表等を行う。

授業の一般目標 卒業研究生各自の研究課題を達成すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究課題に必要な知識の習得、研究課題を達成するために必要な事項への理解 思考・判断の観点：研究課題を達成するために必要な思考法・判断力の獲得 関心・意欲の観点：研究課題に対する強い関心 態度の観点：望ましい研究態度の獲得 技能・表現の観点：研究課題を達成するために必要な技能、表現力の養成

授業の計画(全体) 各自の研究課題により、制作、論文執筆等を行う。

成績評価方法(総合) 各自の研究課題をどの程度達成したかを中心に、態度、熱意、意欲、関心等の度合いも含めて総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古賀和利				

授業の概要 主として、音と映像表現に関連した研究およびプログラム作成を行う。マルチメディア表現に知識を習得し独自のプログラム開発を行う。

授業の一般目標 これまでのプログラミングの知識をもとに、ある程度大規模なプログラムを自力で開発する能力を身に付けるとともに、音や映像表現に関する知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1.与えられた文献をもとに自ら学び理解する 2.理解した知識をまとめ他の人に説明することができる 思考・判断の観点： 1.卒業論文を完成させる

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	葛 崎偉				

授業の概要 卒業研究テーマを決定し、その研究を遂行していく。

授業の一般目標 研究の仕方、能力を養うことを目標とする。

授業の計画(全体) 1. 研究に必要な基礎知識を、ゼミを通して、身につける 2. 研究テーマを決定する 3. 関連の文献を読み、研究課題に必要な解決技法を身につける 4. 研究課題を解決し、卒業論文を作成する。

成績評価方法(総合) 研究過程および研究結果で評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中田充				

授業の概要 卒業研究を行う

授業の一般目標 卒業研究を行う

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：総合的に判断する 思考・判断の観点：総合的に判断する 関心・意欲の観点：総合的に判断する 態度の観点：総合的に判断する 技能・表現の観点：総合的に判断する その他の観点：総合的に判断する

授業の計画(全体) 個別に面接して決定する

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 各自の研究主題について、その専門性を深めつつ具体的な成果として、作品制作および論文作成を行う。/ 検索キーワード メディア コンテンツ コンピュータ

授業の一般目標 一定水準の作品を制作する

授業の計画(全体) 4月: 基本研究制作計画書作成 6月: 研究制作計画書作成 11月: 中間発表 来年2月: 作品発表 ゼミは随時行う

成績評価方法(総合) 作品および受講態度

教科書・参考書 教科書: 特に定めない/ 参考書: 特に定めない

メッセージ 集大成的な作品作りを心がけること

数理情報コース

開設科目	情報処理演習	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志・林川基治				

授業の概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。さらに、BASIC 言語を用いてプログラミングの基礎的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード ノートパソコン、WORD、Excel、E-mail、インターネット、BASIC

授業の一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。さらに、BASIC 言語を用いて簡単なプログラムを作成することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算ソフトの利用法：特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。さらに、BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解すること。 思考・判断の観点：表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。 関心・意欲の観点：コンピュータの利用法に興味を持って取り組むことができること。 技能・表現の観点：表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

授業の計画（全体） ノートパソコンを実際に用いて、基本操作を学び、ブラウザ、ワープロ、表計算ソフト、BASIC 言語の使い方を学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 ノートパソコンの基本操作
- 第 3 回 項目 WORD の使い方（基本編）
- 第 4 回 項目 WORD の使い方（応用編）
- 第 5 回 項目 Excel の使い方（基本編）
- 第 6 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 7 回 項目 Excel の使い方（応用編）
- 第 8 回 項目 BASIC 言語：基礎的事項
- 第 9 回 項目 BASIC 言語：プログラミングの基本
- 第 10 回 項目 BASIC 言語：for 文
- 第 11 回 項目 BASIC 言語：if 文
- 第 12 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 13 回 項目 BASIC 言語：プログラムの作成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席と課題、期末試験により行う。

教科書・参考書 教科書：WEB 上のテキストを用いる。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	教育情報基礎	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとしてUNIXが広く利用されている。この授業では、UNIXの基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：UNIXの利用法を理解すること。 思考・判断の観点：C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点：UNIXの利用法について興味を持つこと。

授業の計画(全体) UNIXの基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX上でのツールを紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに / UNIXの起動と停止
- 第2回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第3回 項目 UNIX C Shell
- 第4回 項目 ViとEmacsエディタ, UNIXの環境設定
- 第5回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第6回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(1)
- 第7回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(2)
- 第8回 項目 C Shellプログラミングの基礎
- 第9回 項目 C Shell変数の利用と演算
- 第10回 項目 C Shellプログラミング(1)
- 第11回 項目 C Shellプログラミング(2)
- 第12回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(1)
- 第13回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(2)
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987年; UNIXプログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985年; たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1990年; 続・たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1993年; プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンにUNIXがインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13時～15時

開設科目	教育情報基礎演習	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトとしてUNIXが広く利用されている。この授業では、UNIXの基礎的な利用法を習得する。 / 検索キーワード UNIX, OS

授業の一般目標 UNIX上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること。さらに、簡単なシェルプログラムが作成できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：UNIXの利用法を理解すること。 思考・判断の観点：C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。 関心・意欲の観点：UNIXの利用法について興味を持つこと。

授業の計画(全体) UNIXの基礎的な利用法と、シェルプログラミングについて学びます。さらに、UNIX上でのツールを紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに / UNIXの起動と停止
- 第2回 項目 ファイル処理の基本、ファイルとディレクトリ
- 第3回 項目 UNIX C Shell
- 第4回 項目 ViとEmacsエディタ, UNIXの環境設定
- 第5回 項目 ファイルのアクセス制御, プロセス制御
- 第6回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(1)
- 第7回 項目 UNIXにおけるネットワークの利用(2)
- 第8回 項目 C Shellプログラミングの基礎
- 第9回 項目 C Shell変数の利用と演算
- 第10回 項目 C Shellプログラミング(1)
- 第11回 項目 C Shellプログラミング(2)
- 第12回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(1)
- 第13回 項目 UNIXにおける様々なツールの利用法(2)
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：UNIX C Shell フィールドガイド, Anderson & Anderson, パーソナルメディア, 1987年; UNIXプログラミング環境, Kernighan & Pike, ASCII, 1985年; たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1990年; 続・たのしいUNIX, 坂本文, ASCII, 1993年; プロフェッショナルシェルプログラミング, 砂原他, ASCII

メッセージ 計算機概論 III(教育情報基礎演習)と同時に履修のこと。またノートパソコンにUNIXがインストールされていること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/オフィスアワー：水曜日 13時～15時

開設科目	教育工学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 教育工学は、人間の学習過程を対象にして、ネットワークやメディアなどの情報手段を用いて、授業や教育改善に貢献することを目的として、その教育設計や研究方法を提案する学問です。この授業では、「教育工学とは何か」からはじめ、教育工学の歴史、研究方法論、各分野の研究内容について学んでいきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 教育工学の歴史, 研究分野についての概観 内容 説明・個人による発表
- 第 3 回 項目 目的に応じたプレゼンテーション技術 内容 前回の考察・説明
- 第 4 回 項目 情報技術関連製品に対する個人プレゼンテーション 内容 個人による発表
- 第 5 回 項目 授業研究の動向 (授業実践研究の方法論) 内容 説明・演習
- 第 6 回 項目 授業実践の分析 内容 説明・演習
- 第 7 回 項目 認知研究の動向 (行動主義, 認知主義, 構成主義) 内容 説明・演習
- 第 8 回 項目 教育システムの動向 内容 説明・演習
- 第 9 回 項目 ネットワークを利用した遠隔教育研究の動向 内容 説明・演習
- 第 10 回 項目 情報教育 (情報活用能力の育成) について 内容 説明・演習
- 第 11 回 項目 教育情報の処理と評価について 内容 説明・演習
- 第 12 回 項目 担当内容に対するグループ作業 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 担当内容に対するグループプレゼンテーション (1) 内容 グループによる発表・評価
- 第 14 回 項目 担当内容に対するグループプレゼンテーション (2) 内容 グループによる発表・評価
- 第 15 回 項目 担当内容に対するグループプレゼンテーション (3) 内容 グループによる発表・評価

教科書・参考書 教科書：教科書は授業内で指示する。 / 参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。

メッセージ 授業内では、情報機器を利活用した個人やグループによる発表機会を多くつくります。また、授業の連絡等は研究室内のHPで連絡します。 [授業 HP]<http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05ET1>

開設科目	教育工学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 本講義では、教育工学の授業設計 (Instructional Design) の概念と方法論を学びます。そして、その方法論を利用して「IT 講習会」の講習プログラムを設計し、実施します。その際、教育情報工学的な手法を利用して、IT 講習会を実施するときに利用する教材を開発します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の学習目標、実践活動、評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 Instructional Design の概要 について 内容 説明・演習
- 第 3 回 項目 Instructional Design の分析 と設計について 内容 説明・演習
- 第 4 回 項目 Instructional Design の開発 と評価について 内容 説明・演習
- 第 5 回 項目 本授業における 実践活動に関する説明と担当決め 内容 説明・グループ 作業
- 第 6 回 項目 受講者動機付け、講習時チェックリスト作成 内容 グループ作業
- 第 7 回 項目 受講者分析、講習会タスクと役割分担 内容 グループ作業
- 第 8 回 項目 講習会プログラム設計 内容 グループ作業
- 第 9 回 項目 講習会中間発表会 (講習会プログラム、講習会タスク等) 内容 グループ発表
- 第 10 回 項目 講習会プログラム再設計 内容 グループ作業
- 第 11 回 項目 講習会評価リストの作成 内容 グループ作業
- 第 12 回 項目 講習会資料・教材開発 (1) 内容 グループ作業
- 第 13 回 項目 講習会資料・教材開発 (2) 内容 グループ作業
- 第 14 回 項目 講習会の実施 内容 グループ発表
- 第 15 回 項目 講習会の反省会 内容 評価

教科書・参考書 教科書：インターネット時代の教育情報工学 II, 岡本敏雄, 森北出版, 2001 年；教材作成マニュアル, 鈴木克明, 北大路書房, 2002 年 / 参考書：参考書は、授業時間内や授業 HP で適時紹介する。

メッセージ 基本的に、皆さんが主体的に作業し、頭を働かし、行動しなければならない授業です。また、授業の連絡等は、下記の授業 HP に提示します。 <http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/05ET2>

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	教育情報科学	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岡本敏雄				

授業の概要 教育における情報通信技術の応用について講義する。具体的には、教育情報データベースシステム、e-Learning と Web 教材の構成法、協調学習、モデル化とシミュレーション を取り扱う。 / 検索キーワード データベースシステム、e-Learning、Web 教材の構成法、協調学習、モデル化とシミュレーション

授業の一般目標 教育に果たす情報通信技術の意義を認識し、e-Learning 教材作成とモデル化の技術を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育に果たす情報通信技術の意義を説明できる。 2. 「教育情報データベースシステム」、「e-Learning と Web 教材の構成法」、「協調学習」、「モデル化とシミュレーション」の概要を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 論理的な思考ができる。 2. 教育内容に応じて、情報通信技術活用の是非を判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 情報通信技術の教育への応用に関心を持つことができる。 2. 教育における情報通信技術の活用に意欲をもやすことができる。 態度の観点： 1. 知識のない問題にも粘り強く取り組むことができる。 2. 教育という視点で情報通信技術を考えることができる。 技能・表現の観点： 1. e-Learning 教材を作成できる。 2. 明快かつ論理的に物事を説明できる。

授業の計画（全体） 集中講義の形で授業を行い、一部に、演習を取り入れる。

成績評価方法（総合） 課題、授業態度、演習、出席を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： インターネット時代の教育情報工学 I, 岡本敏雄, 森北出版, 2000 年 / 参考書： インターネット時代の教育情報工学 II, 岡本敏雄, 森北出版, 2001 年

メッセージ 講義の中で演習を行うので、出席を重視する。教育工学、教育情報システム、情報教育等に関心があり、インターネット、Web 技術に関する知識のある学生を歓迎する。なお、「教育工学 I」、「教育工学 II」を履修していること。また、ノートパソコンを持参すること。

備考 集中授業

開設科目	情報処理基礎	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。 / 検索キーワード 情報の表現、演算方式、論理回路

授業の一般目標 2進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。
関心・意欲の観点：情報科学や計算機科学について関心を持つ。

授業の計画(全体) まず、情報の表現方法を学び、さらに演算方式、計算機構成法について学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報量と 2 進数
- 第 2 回 項目 情報の表現と符号
- 第 3 回 項目 誤り検出符号
- 第 4 回 項目 補数
- 第 5 回 項目 絶対値表示を用いた加減算
- 第 6 回 項目 2 の補数を用いた加減算
- 第 7 回 項目 Booth の方法による乗算
- 第 8 回 項目 引き戻し法による除算
- 第 9 回 項目 中間試験
- 第 10 回 項目 論理演算回路とブール代数の基礎
- 第 11 回 項目 論理関数
- 第 12 回 項目 演算回路(その 1)
- 第 13 回 項目 演算回路(その 2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。
また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：電子計算機 I, 高浪、井上ほか, 朝倉書店, 1985 年; 新版 情報処理の基礎, 水上孝一, 朝倉書店, 1998 年; 現代電子計算機ハードウェア, 萩原宏、黒住祥祐, オーム社, 1991 年

メッセージ 受講生は共通教育の情報処理概論を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	コンピュータアーキテクチャ	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 電子計算機の基本原理、システム構成、中央処理装置の動作を中心に、オペレーティングシステムの役割とプログラム実行の基本原理について講義する。

授業の一般目標 現在のコンピューター内部の動作原理をハードウェアを通して理解する。また、その上で動くオペレーティングシステムやユーザーの開発したプログラムの動作についても理解を深め、プログラミング能力の向上に寄与する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. CPU の内部構造を理解する 2. CPU と主メモリの関係を理解する 3. コンピューターの基本動作、命令のフェッチ、解読、実行を理解する 4. コンピューター起動の流れを理解する 5. ハードウェアとオペレーティングシステムの関係を知る

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピューターの構成
- 第 2 回 項目 CPU と内部レジスタ
- 第 3 回 項目 機械語命令
- 第 4 回 項目 コンピューターの基本サイクル
- 第 5 回 項目 内部データ表現
- 第 6 回 項目 音声データ
- 第 7 回 項目 画像データ
- 第 8 回 項目 オペレーティングシステムその 1
- 第 9 回 項目 オペレーティングシステムその 2
- 第 10 回 項目 OS とユーザプログラム
- 第 11 回 項目 ディスプレイの構造と動作
- 第 12 回 項目 プリンタ構造と動作
- 第 13 回 項目 キーボードとマウス
- 第 14 回 項目 補助記憶装置
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点はレポートにより評価する。

教科書・参考書 参考書：プリントを配布する。

メッセージ 論理回路を履修していること

開設科目	計算機言語 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 計算機言語とは、コンピュータに仕事をさせるために作業手順を指示する人工言語である。この言語で書かれた作業手順書をプログラムといい、プログラムを作ることをプログラミングという。本講義では、世界中で広く使われている計算機言語である C 言語の基礎的事項(変数、定数、型、演算、式、分岐、繰返し、配列、関数)について解説する。C 言語は UNIX を記述するための言語として作られたが、現在では、事務処理や科学技術計算だけでなく、アプリケーションソフトを開発するのにも使われている。/ 検索キーワード C 言語、プログラム、プログラミング、変数、定数、型、演算、式、分岐、繰返し、配列、関数

授業の一般目標 C 言語の基本(変数、定数、型、演算子、式、分岐、繰返し、配列、関数)を理解し、基本的なアルゴリズムを修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. C 言語の基本的な要素(変数、定数、型、演算子、式、配列、関数など)を説明できる。2. C 言語の基本的な構文(分岐、繰返しなど)を説明できる。3. 簡単なアルゴリズムのプログラムを作成できる。 思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。2. エラーメッセージを判断して、バグの所在を特定できる。 関心・意欲の観点: 1. 何らかの答えが必要な問題を、プログラミングで解決することに関心を持つことができる。2. プログラミングという行為自体に、意欲を持つことができる。 態度の観点: 1. 他人に頼らずに、独力で問題の解決に取り組むことができる。2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点: 1. プログラムの簡潔な記述ができる。2. 読みやすいプログラムを記述できる。

授業の計画(全体) C 言語の基本的な要素(変数、定数、型、演算子、式、配列、関数など)や構文(分岐、繰返しなど)の解説を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も頻繁に行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語入門(変数と定数)
- 第 2 回 項目 演算、式と型
- 第 3 回 項目 プログラムの流れの分岐(if 文と switch 文) 授業外指示 課題を課す。
- 第 4 回 項目 プログラムの流れの繰返し 1(do 文, while 文, for 文)
- 第 5 回 項目 プログラムの流れの繰返し 2(多重ループ) 授業外指示 課題を課す。
- 第 6 回 項目 配列 1(1 次元配列)
- 第 7 回 項目 配列 2(多次元配列) 授業外指示 課題を課す。
- 第 8 回 項目 関数 1(関数定義と関数呼出し)
- 第 9 回 項目 関数 2(関数の設計) 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 基本型 1(整数型と文字型)
- 第 11 回 項目 基本型 2(浮動小数点型) 授業外指示 課題を課す。
- 第 12 回 項目 いろいろなプログラム 1(関数形式マクロ, 列挙体)
- 第 13 回 項目 いろいろなプログラム 2(再帰)
- 第 14 回 項目 いろいろなプログラム 3(整列) 授業外指示 課題を課す。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし、課題と期末試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 新版 明解 C 言語 入門編, 柴田 望洋, ソフトバンクパブリッシング, 2004 年

メッセージ 計算機言語を学ぶには、英語などの外国語を学ぶのと同じで、手本となる文章(プログラム)を読み、理解し、そして、自分で書くことが重要である。計算機言語は非常に明解な構文規則(文法)を

もつので、自然言語に比べると、短期間で修得できるはずである。「計算機言語演習 I」と併せて受講し、ノートパソコンを持参すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	計算機言語演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 授業科目「計算機言語 I」の講義内容に従って、実際にプログラムを書き、コンパイルし、実行する作業を行う。/ 検索キーワード C 言語, プログラム, プログラミング, 変数, 定数, 型, 演算, 式, 分岐, 繰返し, 配列, 関数

授業の一般目標 簡単なプログラムを数多く書くことを通じて、プログラミングの基礎的な能力を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. C 言語の基本的な要素(変数, 定数, 型, 演算子, 式, 配列, 関数など)を説明できる。2. C 言語の基本的な構文(分岐, 繰返しなど)を説明できる。3. 簡単なアルゴリズムのプログラムを作成できる。 思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。2. エラーメッセージを判断して、バグの所在を特定できる。 関心・意欲の観点: 1. 何らかの答えが必要な問題を、プログラミングで解決することに関心を持つことができる。2. プログラミングという行為自体に、意欲を持つことができる。 態度の観点: 1. 他人に頼らずに、独力で問題の解決に取り組むことができる。2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点: 1. プログラムの簡潔な記述ができる。2. 読みやすいプログラムを記述できる。

授業の計画(全体) プログラミングの演習を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も頻繁に行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 C 言語入門(変数と定数)
- 第 2 回 項目 演算, 式と型
- 第 3 回 項目 プログラムの流れの分岐(if 文と switch 文) 授業外指示 課題を課す。
- 第 4 回 項目 プログラムの流れの繰返し 1(do 文, while 文, for 文)
- 第 5 回 項目 プログラムの流れの繰返し 2(多重ループ) 授業外指示 課題を課す。
- 第 6 回 項目 配列 1(1 次元配列)
- 第 7 回 項目 配列 2(多次元配列) 授業外指示 課題を課す。
- 第 8 回 項目 関数 1(関数定義と関数呼出し)
- 第 9 回 項目 関数 2(関数の設計) 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 基本型 1(整数型と文字型)
- 第 11 回 項目 基本型 2(浮動小数点型) 授業外指示 課題を課す。
- 第 12 回 項目 いろいろなプログラム 1(関数形式マクロ, 列挙体)
- 第 13 回 項目 いろいろなプログラム 2(再帰)
- 第 14 回 項目 いろいろなプログラム 3(整列) 授業外指示 課題を課す。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席率 80% 未満を欠格条件とし、課題と期末試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 新版 明解 C 言語 入門編, 柴田 望洋, ソフトバンクパブリッシング, 2004 年

メッセージ 自分がいま何を書いているのかを常に意識し、とにかくプログラムを数多く書くことが重要である。そして、良い手本は、その書き方のスタイルまで、真似をすること。「計算機言語 I」と併せて受講し、ノートパソコンを持参すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	計算機言語 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 「計算機言語 II」に引き続いて、C 言語のより深い内容(文字列, ポインタ, 構造体, ファイル処理など)について解説する。ポインタと構造体は C 言語の要であり, これを理解し, 使いこなせるかどうか, C 言語を修得したかどうかの分かれ目である。/ 検索キーワード C 言語, プログラム, プログラミング, 文字列, ポインタ, 構造体, ナル, ファイル

授業の一般目標 ポインタと構造体を完全に理解し, 複雑なデータ構造や文字列処理のアルゴリズムを修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. ポインタと構造体を説明できる。2. 目的に応じたデータ構造(構造体)を定義できる。3. 文字列処理のプログラムを作成できる。思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。2. エラーメッセージを判断して, バグの所在を特定できる。関心・意欲の観点: 1. 何らかの答えが必要な問題を, プログラミングで解決することに関心を持つことができる。2. プログラミングという行為自体に, 意欲を持つことができる。態度の観点: 1. 協調して, 問題の解決に取り組むことができる。2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。技能・表現の観点: 1. プログラムを適切な部品(関数)に分割できる。2. 読みやすいプログラムを記述できる。

授業の計画(全体) ポインタや構造体の解説を中心とするが, 理解の定着を図るため, 一人一人指名して, 受講者への質問も頻繁に行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文字列の基本
- 第 2 回 項目 ポインタ 授業外指示 課題を課す。
- 第 3 回 項目 ポインタと関数
- 第 4 回 項目 ポインタと配列
- 第 5 回 項目 ポインタと多次元配列 授業外指示 課題を課す。
- 第 6 回 項目 ポインタと文字列
- 第 7 回 項目 ポインタによる文字列の操作 授業外指示 課題を課す。
- 第 8 回 項目 構造体
- 第 9 回 項目 構造体と境界調整 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 動的なオブジェクトの生成
- 第 11 回 項目 ナル
- 第 12 回 項目 ファイル処理 授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 13 回 項目 ファイルの活用
- 第 14 回 項目 グループ課題発表
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席率 80% 未満を欠格条件とし, 課題と発表及び期末試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 新版 明解 C 言語 実践編, 柴田望洋, ソフトバンクパブリッシング, 2004 年
メッセージ 内容が高度になるので「計算機言語 I」, 「計算機言語演習 I」で基礎をしっかりと身に付けておくことが重要である。「計算機言語演習 II」と併せて受講し, ノートパソコンを持参すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	計算機言語演習 II	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 授業科目「計算機言語 II」の講義内容に従って、実際にプログラムを書き、コンパイルし、実行する作業を行う。 / 検索キーワード C 言語, プログラム, プログラミング, 文字列, ポインタ, 構造体, ナル, ファイル

授業の一般目標 ポインタや構造体を用いたプログラムを数多く書くことを通じて、プログラミングの高度な能力を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. ポインタと構造体を説明できる。 2. 目的に応じたデータ構造 (構造体) を定義できる。 3. 文字列処理のプログラムを作成できる。 思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。 2. エラーメッセージを判断して、バグの所在を特定できる。 関心・意欲の観点: 1. 何らかの答えが必要な問題を、プログラミングで解決することに関心を持つことができる。 2. プログラミングという行為自体に、意欲を持つことができる。 態度の観点: 1. 協調して、問題の解決に取り組むことができる。 2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点: 1. プログラムを適切な部品 (関数) に分割できる。 2. 読みやすいプログラムを記述できる。

授業の計画 (全体) プログラミングの演習を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も頻繁に行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文字列の基本
- 第 2 回 項目 ポインタ 授業外指示 課題を課す。
- 第 3 回 項目 ポインタと関数
- 第 4 回 項目 ポインタと配列
- 第 5 回 項目 ポインタと多次元配列 授業外指示 課題を課す。
- 第 6 回 項目 ポインタと文字列
- 第 7 回 項目 ポインタによる文字列の操作 授業外指示 課題を課す。
- 第 8 回 項目 構造体
- 第 9 回 項目 構造体と境界調整 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 動的なオブジェクトの生成
- 第 11 回 項目 ナル
- 第 12 回 項目 ファイル処理 授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 13 回 項目 ファイルの活用
- 第 14 回 項目 グループ課題発表
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし、課題と発表及び期末試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 新版 明解 C 言語 実践編, 柴田望洋, ソフトバンクパブリッシング, 2004 年
メッセージ 自分の頭で考え、プログラミングに取り組むこと。「計算機言語 II」と併せて受講し、ノートパソコンを持参すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	OS 概論	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 計算機を利用するための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステム：OS について、現代の OS が備えている機能の基礎とその仕組みについて理解を深める。 / 検索キーワード UNIX, OS, セマフォ, 並行処理, ファイルシステム

授業の一般目標 現在一般に利用されている OS の機能とその仕組みについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代の OS について理解する。 関心・意欲の観点：OS への関心が高まること。

授業の計画（全体） まず OS のおおまかな仕組みと機能を説明する。その後、並行処理を行うためのセマフォについて説明する。さらに、様々な OS の機能の実際について説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 OS の構成要素と構成法
- 第 3 回 項目 プロセス
- 第 4 回 項目 スケジューリング
- 第 5 回 項目 プロセスの同期と通信（1）
- 第 6 回 項目 プロセスの同期と通信（2）
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 実記憶の管理
- 第 9 回 項目 仮想記憶（その 1）
- 第 10 回 項目 仮想記憶（その 2）
- 第 11 回 項目 ファイルシステム
- 第 12 回 項目 割り込み処理
- 第 13 回 項目 入出力制御
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間・期末試験と毎回の授業で課す課題を総合計して評価する。なお、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書・参考書 教科書：オペレーティングシステムの基礎, 大久保英嗣, サイエンス社, 1997 年；プリントも配布します。 / 参考書：オペレーティングシステムの概念, ピーターソン、シルバーシャッツ, 培風館, 2000 年

メッセージ 普段利用している MS-Windows や UNIX の利用法と照らし合わせて理解するよう努めてください。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～15 時

開設科目	離散数学 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 現代数学での基本概念である集合論・離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標 数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係・関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト・授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論理や集合についての基本的事項、写像、(同値)関係などの概念を正しく理解している。思考・判断の観点：論理や抽象的な概念を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画(全体) 授業は、論理や集合の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、小テストや授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論理
- 第 2 回 項目 集合と包含関係(その 1)
- 第 3 回 項目 集合と包含関係(その 2)
- 第 4 回 項目 和集合と共通部分(その 1)
- 第 5 回 項目 和集合と共通部分(その 2)
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 集合系
- 第 8 回 項目 対応と写像(その 1)
- 第 9 回 項目 対応と写像(その 2)
- 第 10 回 項目 対応と写像(その 3)
- 第 11 回 項目 直積集合と選出公理
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 同値関係と商集合(その 1)
- 第 14 回 項目 同値関係と商集合(その 2) 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：最初の授業のときに通知する。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	離散数学 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 離散数学 I・集合論 I の履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標 離散数学 I・集合論 I で学んだことをもとに、離散数学のいくつかの話題を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：離散数学的思考法を学ぶ。

授業の計画（全体） 離散数学 I で学んだことをもとに、離散数学の中から話題を選び授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明、集合論 I、離散数学 I の理解度確認試験
- 第 2 回 項目 離散数学 I , 集合論 I の復習
- 第 3 回 項目 基礎的事項 (1)
- 第 4 回 項目 基礎的事項 (2)
- 第 5 回 項目 基礎的事項 (3)
- 第 6 回 項目 基礎的事項 (4)
- 第 7 回 項目 基礎的事項 (5)
- 第 8 回 項目 基礎的事項 (6)
- 第 9 回 項目 発展的事項 (1)
- 第 10 回 項目 発展的事項 (2)
- 第 11 回 項目 発展的事項 (3)
- 第 12 回 項目 発展的事項 (4)
- 第 13 回 項目 発展的事項 (5)
- 第 14 回 項目 発展的事項 (6)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 授業中演習、レポート、出席状況、期末試験と合わせて総合的に成績を評価する。

メッセージ 数学を学ぶ上での基礎をやりますので、きちんと理解してください。

開設科目	線形代数学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 線代数学の基礎、とくに掃き出し法と行列式など計算中心の内容。 / 検索キーワード 連立一次方程式、行列式、ランク

授業の一般目標 専門的な数学に必要な基本知識である線形代数学の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：適切に計算が遂行できる知識能力。

授業の計画（全体） 線形代数の基礎を学ぶ。

成績評価方法（総合） テストの結果と出席状況、課題等をもとに、総合的に判断する。

メッセージ 積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。

連絡先・オフィスアワー kitamoto@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	線形代数学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学 I の単位を取得していることを前提にして、現代数学の基本である線形代数学について解説をする。 / 検索キーワード 線形代数

授業の一般目標 代数学 I で学んだ行列の計算法は理解していることを前提にして、ベクトル空間と線型写像に関する線形代数の基礎的内容を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：抽象的な概念を理解する能力。

授業の計画（全体） 線形代数の基礎的内容を学び、それが行列の理論と密接に関係していることを学ぶ。

成績評価方法（総合） テストの結果と出席状況をもとに、合格と不合格を決定する。

メッセージ 代数学 I の単位を取得していることを受講の条件とします。積極的な姿勢で学習することを希望します。

連絡先・オフィスアワー 水曜日午後

開設科目	微分積分学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 小学校や中学校の算数・数学でも関数は重要な学習内容であり、解析学では主に関数の性質を調べる。数学の教員として必要な知識を習得するために、解析学の基礎について講義する。主に、解析学の土台である実数の連続性、1 変数関数の連続性と微分・積分について解説する。これにより、関数の基本的な理論背景の理解とともに、微分・積分の計算の修得をはかる。

授業の一般目標 実数の連続性の概念を理解し、数列や一変数関数の極限を説明することができる。一変数関数の微分・積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。1 変数関数の微分・積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：簡単なイプシロン・デルタ論法をすることができる。基本的性質に基づいた数列の極限の計算ができる。連続性や微分可能性を説明することができる。微分法の基本的性質に基づいた微分の計算ができる。テーラーの定理やロピタルの定理を理解し説明することができる。積分の概念を理解し、応用することが出来る。数値解析へ応用することができる。思考・判断の観点：基本的性質を正しく使うことができる。基本的な定理を正しく使うことができる。関心・意欲の観点：日常生活の中で微分法・積分法を応用する分野に関心を持つ。技能・表現の観点：極限の計算や一変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

授業の計画（全体） 授業は、連続性の概念や微分の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は論理的な考証だけでなく正確な計算能力を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 連続関数
- 第 2 回 項目 初等関数
- 第 3 回 項目 論法 その 1
- 第 4 回 項目 論法 その 2
- 第 5 回 項目 関数の微分
- 第 6 回 項目 平均値の定理
- 第 7 回 項目 高次の導関数
- 第 8 回 項目 テーラーの定理
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 定積分と不定積分
- 第 11 回 項目 積分の計算
- 第 12 回 項目 広義積分
- 第 13 回 項目 区分求積法と定積分の応用
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習、小テストの成績、授業外のレポート、および、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年 / 参考書：三宅敏恒著, 微分と積分, 培風館, 2004 年

開設科目	微分積分学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 解析学 I を前提とし、数学の教員として必要な解析学の基礎を講義する。主に多変数関数の微分・積分について基本的な概念の解説と計算方法を指導する。

授業の一般目標 多変数関数の微分・積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。多変数関数の微分・積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：多変数関数の微分・積分の基本的概念を説明することができる。微分・積分の計算が正しくできる。多変数の関数の性質を微分積分を用いて調べることが出来る。思考・判断の観点：基本的な定理を正しく説明することができ、正しく使うことができる。技能・表現の観点：多変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

授業の計画（全体） 授業は、多変数の微分積分の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は論理的な考証だけでなく正確な計算能力を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 多変数の関数
- 第 2 回 項目 全微分可能性と合成関数の微分 その 1
- 第 3 回 項目 全微分可能性と合成関数の微分
- 第 4 回 項目 高次の偏導関数とテーラーの定理 その 2
- 第 5 回 項目 極値、最大値、最小値
- 第 6 回 項目 陰関数定理
- 第 7 回 項目 重積分 その 1
- 第 8 回 項目 重積分 その 2
- 第 9 回 項目 重積分の変数変換
- 第 10 回 項目 重積分の変数変換
- 第 11 回 項目 線積分とグリーンの定理
- 第 12 回 項目 重積分の応用 その 1
- 第 13 回 項目 重積分の応用 その 2
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習、小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	幾何学 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 幾何学体系の原点から、現代数学の根本的原理である、公理的論証を学習する。併せて、高等学校では学習しない幾何学があることを認識させる。

授業の一般目標 ユークリッド幾何学を中心とする初等幾何学を公理的に論証することができるようになり、それにより論証能力を身に付ける。また、複素数や線形代数学を幾何学の問題解決へ応用することができるようになり、さらに、定木やコンパスだけを使った作図をすることができるようになる。双曲幾何学などの非ユークリッド幾何学を取り扱うことで、公理の重要性を学ぶ。これにより、初等・中等教育における算数・数学の幾何の内容を習熟する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：幾何学的命題を公理系を用いて論理的に論証することができる。複素数や線形代数学を応用して幾何学的問題を解くことができる。双曲幾何学などの非ユークリッド幾何学との対比により、平行線公理を理解することができる。思考・判断の観点：幾何学的命題の証明の論理構造を説明することができる。1つの幾何学的問題を複素数や線形代数学などの多方面からも解くことができる。関心・意欲の観点：平行線の公理の重要性を認識している。日常生活の中に見られる幾何学的現象を説明することができる。技能・表現の観点：定木やコンパスだけを使った作図をすることができる。

授業の計画(全体) 授業は、ユークリッド幾何を中心とする初等幾何を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。論証能力を身に付けるためには、十分な予習と復習が必要である。そのため、授業中の演習の他に、授業外レポートを提出させる。また、最後の回では、作図問題を解説し、作図に必要な技能と知識を身に付ける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ユークリッド原論
- 第 2 回 項目 有限幾何の公理系
- 第 3 回 項目 公理的論証 1
- 第 4 回 項目 公理的論証 2
- 第 5 回 項目 公理的論証 3
- 第 6 回 項目 平行線の公理 1
- 第 7 回 項目 平行線の公理 2
- 第 8 回 項目 複素数と幾何学
- 第 9 回 項目 双曲幾何学 1
- 第 10 回 項目 双曲幾何学 2
- 第 11 回 項目 双曲幾何学 3
- 第 12 回 項目 作図 1
- 第 13 回 項目 作図 2
- 第 14 回 項目 作図 3
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業中の演習と、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

メッセージ 作図をしますので、定木とコンパスを用意してください。

開設科目	幾何学 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 「距離」や「近さ」の概念は小学校、中学校の算数・数学の学習内容でもある。当講義では、現代数学での基礎概念である距離空間について講義する。さらに、距離空間を抽象化した位相空間についても講義し、位相空間としての幾何学の考え方を学習する。

授業の一般目標 ユークリッド的距離空間を中心に、距離空間の基本的概念を理解する。これにより、ユークリッド空間内の図形の位相的性質について論じることができるようになる。また、これらを一般化した距離空間や抽象化した位相空間について理解し、現代数学の立場から幾何学を考察できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：距離関数を用いて、開集合や閉集合、コンパクト性や連結性などの基本的な事柄を論じることができる。ユークリッド空間内の図形を位相幾何学的に調べることができる。思考・判断の観点：具体的な空間から抽象的な空間への高度な抽象化を理解することができる。関心・意欲の観点：日常生活の中にある幾何学的現象を位相幾何的立場から説明することができる。技能・表現の観点：演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

授業の計画（全体） 授業は、距離空間や位相空間の基本的概念を解説しながら、適宜必要と思われる演習を行う形で進行する。この科目は高度な抽象化を要求する思考を必要とするため、十分な予習と復習が必要である。そのため、演習以外にも、授業外レポートを提出させることで理解定着をはかる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 位相空間と位相幾何学について
- 第 2 回 項目 距離関数と距離空間
- 第 3 回 項目 内点と触点（その 1）
- 第 4 回 項目 内点と触点（その 2）
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 開集合と開集合系
- 第 7 回 項目 閉集合と閉集合系
- 第 8 回 項目 内部と閉包、および、演習
- 第 9 回 項目 連続写像
- 第 10 回 項目 コンパクト空間
- 第 11 回 項目 連結空間
- 第 12 回 項目 最大値・最小値の定理と中間値の定理
- 第 13 回 項目 位相空間（その 1）
- 第 14 回 項目 位相空間（その 2）と演習
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：位相入門, 内田伏一, 裳華房, 1997 年

メッセージ 高度な抽象化の理解を必要とするので、「集合論 I」、「集合論 II」を履修しておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー sato@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	確率・統計学	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河津清				

授業の一般目標 数理統計学についての基本的知識を理解し、統計学の応用が出来ることを目指す。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数理統計学の考え方
- 第 2 回 項目 1 変量のデータの処理
- 第 3 回 項目 2 変量のデータの処理
- 第 4 回 項目 平均値、分散、相関係数、回帰直線の演習
- 第 5 回 項目 確率論の入門
- 第 6 回 項目 確率変数についての考え方
- 第 7 回 項目 標本分布の例
- 第 8 回 項目 正規分布
- 第 9 回 項目 正規分布から導かれる諸分布
- 第 10 回 項目 統計的推定の考え方
- 第 11 回 項目 平均値の区間推定
- 第 12 回 項目 分布の区間推定
- 第 13 回 項目 統計的検定の考え方
- 第 14 回 項目 母平均に関する仮説検定
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：数理統計入門, 猪野富秋・伊藤正義, 森北出版, 1998 年

備考 集中授業

開設科目	情報数学 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 数式処理システムを実際に用いながら、数学の問題を解く。 / 検索キーワード 数式処理

授業の一般目標 数式処理システムを用いて、問題が解けるようになる。

授業の計画(全体) まず、数式処理システムの概要を説明し、その後、微積分学や線形代数の問題を解く。それからグラフィックスやプログラミングについて説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要の説明
- 第 2 回 項目 始めの一步
- 第 3 回 項目 線形代数を扱う
- 第 4 回 項目 微積分への応用
- 第 5 回 項目 簡単なプログラミング(1)
- 第 6 回 項目 簡単なプログラミング(2)
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 グラフィックス(1)
- 第 9 回 項目 グラフィックス(2)
- 第 10 回 項目 方程式を解く(1)
- 第 11 回 項目 方程式を解く(2)
- 第 12 回 項目 方程式を解く(3)
- 第 13 回 項目 方程式を解く(4)
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 試験範囲は授業でやった内容とする
- 第 15 回 項目 予備日 1

成績評価方法(総合) 成績評価は出席、試験、課題を元に総合的に行う。

教科書・参考書 教科書: 適宜指定する。 / 参考書: はやわかり Mathematica, 榊原進, 共立出版, 2000 年

メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

備考 隔年開講

開設科目	物理学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学の基本ともいえる力学分野を学ぶ。 / 検索キーワード 力学

授業の一般目標 簡単な力学現象(放物運動、円運動、振り子、単振動など)が運動方程式で取り扱えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 速度、力、エネルギーなど日常的に使われている言葉を物理学ではどのように定義するか学ぶ。運動方程式を理解する。 思考・判断の観点: 数式を使って自然を記述する方法があることを理解する。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。学期の前半は物理的な概念の形成を主題にして授業を行う。後半は数式を用いながら簡単な微分積分を使い質点系の力学の学習をする。復習を怠ると、後半の授業に困難を感じることもあるので十分注意すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 物理量と単位
- 第 2 回 項目 座標・位置・速度
- 第 3 回 項目 ベクトル
- 第 4 回 項目 力・力の釣り合い
- 第 5 回 項目 運動・加速度
- 第 6 回 項目 運動の法則
- 第 7 回 項目 微分積分
- 第 8 回 項目 運動方程式
- 第 9 回 項目 運動量と運動量 保存則
- 第 10 回 項目 仕事・位置エネルギー
- 第 11 回 項目 エネルギー保存則
- 第 12 回 項目 円運動
- 第 13 回 項目 単振動
- 第 14 回 項目 角運動量
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 毎回の小テストと期末テスト及びレポートによって判断する。小テストは出席も兼ねる。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 必要に応じて授業で指定。

連絡先・オフィスアワー 電話 5343 研究室 222 番

開設科目	物理学概論 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 電磁気学分野を学ぶ。電磁気では、電荷や電流から作り出される空間の性質の変化(場)という非常に抽象的なものを取り扱うため、具体的なイメージを浮かべることが難しい。しかし、我々は日常生活において電磁気による恩恵を受け、多くの現象を経験している。例えば、衣類を擦ったときや絨毯の上を歩いたときに、静電気が起こる。また、目で見える光の本質も、電磁波という電磁気現象の一つである。/ 検索キーワード 電荷、電場、電位、電流、磁場、電磁誘導、コンデンサー、コイル、電気回路、電磁場のエネルギー、電磁波、光

授業の一般目標 自然現象を通して、電磁気や光の基本的な法則を理解する。また、それらの基本的な法則が数学的に簡潔な形式で記述されることを学び、そのような記述が自然の理解に有効であることを認識する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：電磁気の基本法則を説明できる。 思考・判断の観点：自然現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。 関心・意欲の観点：理科の中の物理教育に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：知識のない問題にも粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点：物事を論理的に説明することができる。

授業の計画(全体) 毎週授業はじめに 10 分間程度の小テストを行い、授業の導入とする。この小テストは出席確認も兼ねる。3 段階に分けて学習する。第 1 段階ではクーロンの法則など電磁気現象の基本概念を学ぶ。第 2 段階ではコンデンサーやコイルなどを基本法則の応用として学ぶ。第 3 段階では電気回路やモータ・発電機などの実用面での応用を学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 場と力 内容 力の媒介を空間の性質に帰着させることができる(場の導入)
- 第 2 回 項目 静電気 内容 クーロンの法則、電場、電位
- 第 3 回 項目 電流 内容 電荷の保存とキルヒホッフの法則
- 第 4 回 項目 電流の磁気作用 内容 磁石の磁気と同じ性質を持った場が電流によってもたらされる。
- 第 5 回 項目 電磁誘導 内容 磁場との相対運動が電気的作用を引き起こす。
- 第 6 回 項目 電束電流 内容 真電流の磁気作用は不完全なものであり、それを補うために電束電流を導入。これは後に電磁波の予言に導く。
- 第 7 回 項目 コンデンサー 内容 コンデンサーを基に電場の持つ(電場に蓄えられた)エネルギーを考える。
- 第 8 回 項目 ソレノイドコイル 内容 ソレノイドコイルは鉄心にコイルを巻いて電磁石を作るときのそれである。これを用いて磁場の持つ(磁場に蓄えられた)エネルギーを考える。
- 第 9 回 項目 電気抵抗、コンデンサー、コイルの合成 内容 複数の電気素子をもつ電気回路を念頭に電気抵抗、コンデンサー、コイルの合成を考える。
- 第 10 回 項目 相互誘導 内容 電磁誘導が複数のコイルにまたがって起きる場合の法則と応用。
- 第 11 回 項目 交流 内容 電流の向きが周期的に変化する交流は発電・変圧等を可能にし実用上有用である。
- 第 12 回 項目 LC 回路 内容 コンデンサーやコイルを含む簡単な電気回路を学ぶ。
- 第 13 回 項目 誘電体や磁性体 内容 すべての物質は電場や磁場に作用する。特にその作用が大きい物質は実用上有用である。
- 第 14 回 項目 電磁波 内容 光を含む電磁波の伝播は、電磁場の基本性質から推測される。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席, レポート, 期末試験で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：授業で適宜指定する

メッセージ 電気磁気は目に見えないものであるからなかなか実感することが難しい。そのため簡単なものに限るが数式を用いるのは避けられない。できるだけ「物理学概論 I」を履修しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 電話内線 5343 研究室 222 番

開設科目	生物学基礎	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標 生物を構成する物質(糖質,脂質,タンパク質,核酸)の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能,脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生物学の基礎知識を身につける。 思考・判断の観点: 生物の構造と機能の関係を理解する。

授業の計画(全体) 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第一章 序論-生物とは何か?- 内容 生物学の考え方、生物の定義。
- 第 2 回 項目 第一章 生物とは何か? 内容 生物学の歴史、生物の分類。
- 第 3 回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。
- 第 4 回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。酵素について。
- 第 5 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞の研究法、細胞小器官について。
- 第 6 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。遺伝子について。
- 第 7 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。蛋白質合成について。
- 第 8 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生体膜について。
- 第 9 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生物のエネルギーについて。
- 第 10 回 項目 中間テスト
- 第 11 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞骨格について。筋肉の収縮について。
- 第 12 回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 単細胞生物と多細胞生物について。
- 第 13 回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 細胞分裂について。
- 第 14 回 項目 第五章 動物の反応と調節 内容 興奮の伝導と伝達について。
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法(総合) レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書・参考書 教科書: ダイナミックワイド図説生物総合版, 東京書籍, 2005年 / 参考書: 細胞の世界, ベッカー、クレインスミス、ハーディン, 西村書店, 2005年; 目で見える生物学, 石原勝敏ら, 培風館, 2004年; 随時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	分子と生命	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 生命活動は分子によって支えられている。この授業では生体を構成する分子が生体の形態と機能を決定し、それらの分子がDNA(遺伝子)によって産制される仕組み、DNAの構造と機能を学ぶ。

授業の一般目標 生命活動の化学的仕組み、それに関わる分子の構造や機能などに関する知識を習得し、DNAを中心とした生命観を理解する。

授業の計画(全体) 生命活動の化学的仕組み、それに関わる分子の構造や機能などに関する知識を習得し、DNAを中心とした生命観を理解するため、教科書また授業において配布する科学的データに基づき、15週に渡って歴史的観点を加えながら系統的に講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 分子と細胞の形態と機能 内容 分子によって細胞や個体の形態や機能(形質)が決定されることを、過去の実験成果を示しながら理解させる
- 第2回 項目 遺伝子の機能 内容 細胞や個体の形質が遺伝子の支配を受けて決定されていることを学ぶ。
- 第3回 項目 遺伝子の化学的構造 内容 遺伝子がDNAであること、また、その化学的構造を学ぶ
- 第4回 項目 遺伝情報の発現(1)転写の仕組みと調節 内容 転写の仕組み、調節機構を学ぶ
- 第5回 項目 第四回に同じ 内容 第四回に同じ
- 第6回 項目 遺伝情報の発現(2)rRNA, tRNAの構造と機能 内容 rRNA、tRNAの構造と機能、転写、その遺伝子について学ぶ
- 第7回 項目 遺伝情報の発現(3)遺伝子暗号 内容 コドン、コードについて学ぶ
- 第8回 項目 遺伝情報の発現(4)翻訳 内容 遺伝子の情報によってどのようにタンパク質が合成されるか学ぶ
- 第9回 項目 遺伝子の複製 内容 遺伝子がどのように複製されるか基本的な仕組み、また、校正、修復機構を学ぶ
- 第10回 項目 遺伝子の高次構造(1)真核生物のDNA 内容 真核生物のDNAの染色体上における実際の配列を学ぶ
- 第11回 項目 遺伝子の高次構造(2)微生物のDNA 内容 レトロウイルスなどの生活感や遺伝子の構造を学び、真核生物との関係を学ぶ
- 第12回 項目 第11回に同じ 内容 第11回に同じ
- 第13回 項目 病気と遺伝子 内容 ガン遺伝子の構造と機能を学ぶ
- 第14回 項目 生物の進化 内容 生物進化の仕組み、理論を学ぶ
- 第15回 項目 分子と進化 内容 分子の進化と個体の進化を、分子進化、中立的分子進化などを痛して学ぶ

成績評価方法(総合) 定期試験(期末試験、中間試験)、課題レポート、授業時における小テスト、出席状況などを通して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 図説生物 総合版, 東京書籍, 2004年

連絡先・オフィスアワー E-mail:habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜13:00~14:30

開設科目	情報電子回路	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標 組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウェアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 2値のブール代数演算を習得する 2. ブール関数と真理値表の関係を理解する 3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する 4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する 思考・判断の観点：1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する 2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブール代数の公理・定理
- 第 2 回 項目 論理変数と論理関数
- 第 3 回 項目 真理値表
- 第 4 回 項目 論理関数の標準形
- 第 5 回 項目 カルノー図による簡略化その 1
- 第 6 回 項目 カルノー図による簡略化その 2
- 第 7 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 1
- 第 8 回 項目 クワインマ・クラスキー法による簡略化その 2
- 第 9 回 項目 具体例による論理関数の簡略化演習
- 第 10 回 項目 論理ゲートと動作
- 第 11 回 項目 論理回路設計演習その 1
- 第 12 回 項目 論理回路設計演習その 2
- 第 13 回 項目 半加算器・全加算器
- 第 14 回 項目 各種演算回路と順序回路への導入
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席点は 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は定期試験により評価する

教科書・参考書 参考書：情報の基礎離散数学, 小倉久和, 近代科学社, 1999 年

開設科目	数理情報講究	区分	その他	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	系長雅弘, 渡邊正, 野村厚志, 飯寄信保, 北本卓也				

授業の概要 数理情報教室の各教員がテキストを指定し、セミナー形式の授業を行う。 / 検索キーワード
セミナー, 数学, 数理科学, 情報科学, グレード試験

授業の一般目標 「卒業研究」に取り掛かるための基礎力を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 数学の基礎的な問題を解くことができる。 2. 情報科学の基礎的な問題を解くことができる。 思考・判断の観点： 1. 論理的な思考ができる。 関心・意欲の観点：
1. 卒業研究のテーマに関心を持つことができる。 2. 卒業研究のテーマに意欲をもやすことができる。
態度の観点： 1. 高度なテーマや難問にも粘り強く取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 明快かつ論理的に物事を説明できる。

授業の計画(全体) 受講者がテキストを読んで、その内容を説明する。また、3回のグレード試験(数学と情報科学)を行う。グレード試験については、数学と情報科学の両方で、得点が100点満点中60点以上に達すると、それ以降の受験は要しない。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 グレード試験(その1)
- 第2回 項目 テキスト講読(その1)
- 第3回 項目 テキスト講読(その2)
- 第4回 項目 テキスト講読(その3)
- 第5回 項目 テキスト講読(その4)
- 第6回 項目 テキスト講読(その5)
- 第7回 項目 テキスト講読(その6)
- 第8回 項目 グレード試験(その2)
- 第9回 項目 テキスト講読(その7)
- 第10回 項目 テキスト講読(その8)
- 第11回 項目 テキスト講読(その9)
- 第12回 項目 テキスト講読(その10)
- 第13回 項目 テキスト講読(その11)
- 第14回 項目 テキスト講読(その12)
- 第15回 項目 グレード試験(その3)

成績評価方法(総合) 出席率80%未満を欠格条件とし、グレード試験と講読を総合的に評価する。なお、グレード試験は数学と情報科学を課すが、3回の試験のいずれかで、両方とも100点満点中60点以上の得点にならなければ、不合格になる。

メッセージ テキストを精読し、理解した内容を他者にわかりやすく伝える努力をすること。テキストは、授業開始前に指定する。

連絡先・オフィスアワー 系長雅弘 (E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50) 渡邊正 (E-mail: tadashi@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5334, 研究室: 教育学部 288号室) 野村厚志 (E-mail: anomura@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5348, 研究室: 教育学部 226号室, オフィスアワー: 水曜 12:50 - 14:20) 飯寄信保 (E-mail: iiyori@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5338, 研究室: 教育学部 286号室, オフィスアワー: 月曜 12:50-14:20) 北本卓也 (E-mail: kitamoto@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5336, 研究室: 教育学部 284号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50)

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学校での教育活動において、まず子どもをどのようにとらえていけばよいか概観する。次に児童・生徒の発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業の一般目標 現代の教育が遭遇しているさまざまな問題に対して、教育心理学的な観点から、その解決に役立つ知識を与え、さらに教科指導だけでなく、生徒指導的な面からも教師としての資質を身につけることを目的とする。特に学力低下問題に対して教育心理学からどのような対策があるかを考えてみたい。さらに不登校、いじめといった問題に対し、社会の問題をふまえた上で、全人格を発展させる観点から追求していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特に子どもの記憶と理解がどのように行われているかについて、認知心理学からの知見を理解することが求められる。思考・判断の観点：学習の指導法にいろいろな方法があることに気づく。また個々の子どもに適するような指導法を自らが考えていけるような判断力を身につける。関心・意欲の観点：自分は教育心理学の指導法や心理療法の中で、どの指導法、あるいはどのような心理療法を採用するか、またどのようなタイプの子どもにはどのような指導法が適し、またどのような心のケアが適しているかなどの問題に答えられるような関心・意欲が求められる。態度の観点：教師になると仮定して、どのような指導法を用いて授業をするかがイメージできるような態度が求められる。

授業の計画（全体） 学校での教育活動を進めるにあたって、まず現代の子どもをどのようにとらえるべきかについて解説する。次に児童・生徒における発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学の内容
- 第 2 回 項目 教育活動における子ども理解
- 第 3 回 項目 教育における発達の要因
- 第 4 回 項目 学習における知識と理解の役割
- 第 5 回 項目 真のわかるとは何か
- 第 6 回 項目 学習における動機づけと意欲
- 第 7 回 項目 学習の指導法について
- 第 8 回 項目 学習の転移 - 基礎基本の徹底と応用について
- 第 9 回 項目 個に応じた学習個に応じた学習学力について
- 第 10 回 項目 子どもの個性の理解 1 - 人格の理論 -
- 第 11 回 項目 子どもの個性の理解 2 - 心理検査 -
- 第 12 回 項目 子どもの個性の理解 3 - 心理療法 -
- 第 13 回 項目 学校における軽度発達障害者の理解
- 第 14 回 項目 学校における障害者の理解
- 第 15 回 項目 教育評価

成績評価方法（総合） 定期試験を重視するが、途中で実施する小テストおよび課題、ならびに出席も評価に入れて、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界，藤土圭三（監修），北大路書房，1994年 / 参考書：教室でどう教えるかどう学ぶか - 認知心理学からの教育方法論，吉田 甫・栗山和広，北大路書房，1992年

メッセージ 期末試験が重視されるが、レポート課題を数回出すので、その提出も忘れないこと

連絡先・オフィスアワー ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372 , オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の概要 学校、家庭、社会におけるさまざまな教育的営みを心理学的にとらえていたり、そうした類のデータを概観するとき、どのようなことに注意しなければならないのかについて論考する。

授業の一般目標 教育にかかわる諸現象を心理学的な視点で捉え、必要に応じて教育データを収集したりする際の留意事項や基礎的知識を修得する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育心理学とは
- 第 2 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明（1）
- 第 3 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明（2）
- 第 4 回 項目 教育に関する事象・現象の心理学的究明（3）
- 第 5 回 項目 人間の発達の特質
- 第 6 回 項目 児童期の発達の理解
- 第 7 回 項目 青年期の発達の理解
- 第 8 回 項目 知識の獲得・理解
- 第 9 回 項目 学習の動機づけ
- 第 10 回 項目 指導方法
- 第 11 回 項目 他者との相互作用
- 第 12 回 項目 教師と子ども
- 第 13 回 項目 個性理解
- 第 14 回 項目 教育の測定
- 第 15 回 項目 教育の評価

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界，藤土圭三（監修），北大路書房，1994年

メッセージ 講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

開設科目	教育哲学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。 / 検索キーワード 教育哲学、シュプランガー、シュタイナー、ドイツ、改革教育運動

授業の一般目標 (1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。(3) シュプランガーの生涯と教育哲学について理解する。(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。3. シュプランガーの生涯と教育哲学について説明できる。4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。 思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。 関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の学問的性格や明治以後の日本の教育哲学研究の変遷や課題について学んだ後、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について考察し、教育の本質的意味や現代的課題について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格 内容 1. 教育哲学を学ぶ意義 2. 教育哲学の学問的性格
- 第 2 回 項目 明治以後の日本の教育哲学研究の動向 内容 1. 明治初期～中期 2. 大正新教育運動 3. 戦前と戦中 4. 戦後
- 第 3 回 項目 日本の教育哲学研究の現状と課題 内容 1. 日本の教育哲学研究の現状 2. 日本の教育哲学研究の課題
- 第 4 回 項目 ドイツ公教育の現状と課題 内容 1. ドイツ公教育の現状 2. ドイツ公教育の課題
- 第 5 回 項目 ドイツの改革教育運動 内容 1. 改革教育運動の歴史 2. 改革教育運動の特色
- 第 6 回 項目 シュタイナー学校の教育 内容 1. シュタイナー学校の誕生と発展 2. シュタイナー学校の教育の特色
- 第 7 回 項目 シュタイナーの教育哲学(1) 内容 シュタイナーの教育目的論
- 第 8 回 項目 シュタイナーの教育哲学(2) 内容 シュタイナーの発達段階論
- 第 9 回 項目 シュタイナー学校の授業 内容 生活科、社会科、理科 数学、音楽、オイリュトミーの授業
- 第 10 回 項目 シュタイナー学校の評価 内容 公立学校とシュタイナー学校の評価の相違
- 第 11 回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～ライプツヒ時代
- 第 12 回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学教授期～チュービンゲン時代
- 第 13 回 項目 シュプランガーの教育哲学(1) 内容 教育の3つの概念
- 第 14 回 項目 シュプランガーの教育哲学(2) 内容 1. 6つの個性類型 2. 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 求められる教師像と教員養成, 山 英則・西村正登, ミネルヴァ書房, 2001年; 求められる教師像と教員養成 / 参考書: 使用しない。

メッセージ シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を、彼らが生きた時代背景や生涯を通して生き生きと把握するようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育哲学研究室：教育学部 A 棟 3 階

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的（3）
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことも積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 教育を成り立たせる原則について考え、教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる。 / 検索キーワード 原則、理念、目標、思想、歴史

授業の一般目標 教育の理念、目標、思想、歴史についての基礎的な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について自分の意見を述べるができる。 態度の観点：教育について系統的に考えようとする事ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人間の能力的特徴
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育（1）
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育（2）
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育の思想
- 第 5 回 項目 教育の文化的・社会的機能（1）
- 第 6 回 項目 教育の文化的・社会的機能（2）
- 第 7 回 項目 家庭と教育（1）
- 第 8 回 項目 家庭と教育（2）
- 第 9 回 項目 社会と教育（1）
- 第 10 回 項目 社会と教育（2）
- 第 11 回 項目 学校と教育
- 第 12 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（1）
- 第 13 回 項目 近代日本の教育 理念・目的の歴史的変遷（2）
- 第 14 回 項目 現代日本の教育 理念・目的
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業には無断欠席および遅刻をしないこと。ノートは板書事項以外のことを積極的にとること。

連絡先・オフィスアワー fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 364 オフィスアワー：月曜日 9：30～10：30

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				
<p>授業の概要 教育方法学の分野のうち、特に授業構成論の基礎について具体的事例を交えながら平易に概説する。なお、授業は講義形式である。/検索キーワード 主体的な学び、指導・支援・援助、学習意欲</p> <p>授業の一般目標 授業指導の基礎理論や内容・方法論に関する基礎的知識・認識を理解するとともに、実践的指針を習得する。</p> <p>授業の到達目標/知識・理解の観点：1. 授業論に関する基礎的知識・認識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 授業で取り上げた内容について論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 授業に関する関心を広げる。</p> <p>授業の計画(全体) 教育方法学の分野のうち、授業構成論について概説する。 まず、授業の基本的性格を押さえ、次に子どもの主体的な学びをどう捉えるかを考察する。 続いて、教科内容論・教材論について検討する。さらに、子どもの学びを支える指導技術・評価等について考察する。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業目標および 授業計画の説明 と履修上の注意、成績評価についての説明。 授業記録 オリエンテーション資料配付</p> <p>第2回 項目 授業の基本的性格 その1 内容 授業の過程的性格および総合作用的性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ1</p> <p>第3回 項目 授業の基本的性格 その2 内容 授業の訓育的性格と集団の性格について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第4回 項目 子どもの主体的 学びと教師の指導性 内容 主体性の概念、主体的学びに対する誤解および 教師の指導の本質について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。</p> <p>第5回 項目 学びのメカニズムと認識発達 内容 主体的な学びの メカニズムとそこから導き出される指導上の観点について説明 する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ2</p> <p>第6回 項目 まちがい・つま ずきの授業論的 意義 内容 まちがい・つま ずきの授業論的 意義とその具体的生かし方について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ3</p> <p>第7回 項目 教育課程と教科 内容 内容 教育課程編成の 原則や観点および教科内容の特質等について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ4</p> <p>第8回 項目 教材・教具と教材研究 内容 1. 教科書、補助教材・教具について説明するとともに、教材研究・解釈の基本的視点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ5</p> <p>第9回 項目 学習活動案(指導案) 内容 授業指導のシナリオとしての学習活動案(指導案)の構成や作成上の留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ6</p> <p>第10回 項目 学習活動の指導 技術 その1 内容 発問・説明の特質およびその留意点について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ7</p> <p>第11回 項目 学習活動の指導 技術 その2 内容 授業過程における評価言について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ8</p> <p>第12回 項目 教育メディアと 授業 内容 PCその他視聴 覚機器の活用に関する基礎知識 について説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ9</p> <p>第13回 項目 教育評価論 内容 学習評価の理論 と方法について 説明する。 授業外指示 授業ノートのまとめをすること。 授業記録 レジュメ10</p>					

第 14 回 項目 授業論の現在 内容 現代の授業論の 流れと今日的課 題について説明 する。 授業外指示
授業ノートのま とめをすること。 授業記録 レジюме 1 1

第 15 回 項目 まとめ 内容 試験

成績評価方法 (総合) 学期末の試験 (論述形式) によって行う。試験の際にはノート、その他持ち込み可。
なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合には期末試験の受験資格を失う。出欠の 確認は毎授業終
了時に書かせる「 授業コメント」によって行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：教育の方法, 山下
正俊・湯浅恭正編著, ミネルヴァ書房, 2001 年

メッセージ 大人数の授業となることが予想され、講義形式にならざるをえません。簡 単なレジюме等は
配布しますが、ノートをしっかり取り、まとめをこまめに 行うことを心がけて下さい。 毎授業終了時に
「 授業コメント」を書いてもらいます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会教育	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田代直人				

授業の概要 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。

授業の一般目標 社会教育の各分野の基本的事項と課題について理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーショ< BR >ン
- 第 2 回 項目 生涯学習とは< BR >(1)
- 第 3 回 項目 生涯学習とは< BR >(2)
- 第 4 回 項目 生涯学習における< BR >社会教育の重要性
- 第 5 回 項目 社会教育の概念
- 第 6 回 項目 少年教育および青< BR >年教育
- 第 7 回 項目 成人教育
- 第 8 回 項目 高齢者教育
- 第 9 回 項目 社会教育施設< BR >(1)
- 第 10 回 項目 社会教育施設< BR >(2)
- 第 11 回 項目 中間試験
- 第 12 回 項目 社会教育行政< BR >(1)
- 第 13 回 項目 社会教育行政< BR >(2)
- 第 14 回 項目 社会教育の今日的< BR >課題
- 第 15 回 項目 最終試験

成績評価方法(総合) 中間試験および期末試験の2回のテストの成績で評価する。

教科書・参考書 教科書：社会教育の理論と実践, 田代直人編著, 樹村房, 1994年

開設科目	教育メディア論(教育課程, 情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」、「ためになる」、「役に立つ」授業づくりをめざした教材・教具(教育メディア)の意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より学習する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析(数量的、質的)ができる 3. プレゼンテーション技術(表現伝達)について改善できる

授業の一般目標 教授・学習過程(授業)において教育課程の意義や目的を習得する。「わかる」、「楽しい」、「役に立つ」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について習得し、効果的な教育方法について習得する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: コミュニケーション(教授・学習過程)の定義や基本的な要素が説明できる。メディアを介した効果的なコミュニケーションができる。教育メディアの特徴を説明できる。思考・判断の観点: 論理的、批判的な思考力と判断力がもてる。ディベートができる。人の意見を受容できる。関心・意欲の観点: 教育メディアの特徴について興味関心がもてる。態度の観点: 自発的、独創的に取り組むことができる。技能・表現の観点: パワーポイントなど情報機器メディアを利用した教材開発ができる。メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通じた実践ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育方法・技術の意義と役割 内容 教育方法の歴史と今日的課題
- 第 2 回 項目 教授学習過程(教育的コミュニケーション) 内容 3方向のコミュニケーション
- 第 3 回 項目 教育メディアの種類と特徴 内容 メディアコミュニケーション
- 第 4 回 項目 授業分析の方法と実際(1) 内容 質的分析と量的分析
- 第 5 回 項目 授業分析の方法と実際(2)
- 第 6 回 項目 授業の設計(行動主義と構成主義) 内容 基礎学力と個の伸長
- 第 7 回 項目 授業の実践(1)(マイクロティーチング)
- 第 8 回 項目 授業の実践(2)(マイクロプレゼンテーション)
- 第 9 回 項目 授業の評価(ポートフォリオを主として) 内容 総括評価と形成的評価
- 第 10 回 項目 小学校の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第 11 回 項目 中・高の授業事例 内容 総合的な学習を主として
- 第 12 回 項目 教員研修の事例
- 第 13 回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(1) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第 14 回 項目 マイクロプレゼンテーションの計画・実施・評価(2) 内容 パワーポイントなどを利用した演習
- 第 15 回 項目 国際理解と国際協力

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート, 宿題 / 授業外レポート, 発表(プレゼン)や授業内での製作作業, 教員への発信(質問等), 出席による参加等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書: 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年 / 参考書: 必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学, 林徳治・沖裕貴, ぎょうせい, 2007年

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1F

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	渡邊正				

授業の概要 幾何学のトピックを深く学ぶ。

授業の一般目標 トピックに対する課題探求能力を育成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時間をかけてじっくり課題を理解する。 思考・判断の観点：論理的な思考能力を育成する。 関心・意欲の観点：トピックに興味を持つ。

授業の計画(全体) 学生の興味関心にあわせてトピックを選択する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 輪読
- 第 2 回 項目 輪読
- 第 3 回 項目 輪読
- 第 4 回 項目 輪読
- 第 5 回 項目 輪読
- 第 6 回 項目 輪読
- 第 7 回 項目 輪読
- 第 8 回 項目 輪読
- 第 9 回 項目 輪読
- 第 10 回 項目 輪読
- 第 11 回 項目 輪読
- 第 12 回 項目 輪読
- 第 13 回 項目 輪読
- 第 14 回 項目 輪読
- 第 15 回 項目 輪読

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 情報セキュリティ教育のための Web 教材を作成する。 / 検索キーワード 情報セキュリティ, セキュリティ文化, Web 教材

授業の一般目標 Web 教材の作成を通じて情報セキュリティの基本概念を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 情報セキュリティの基本概念を説明することができる。 2. 情報セキュリティ教育における Web 教材の意義を説明することができる。 思考・判断の観点: 1. 論理的に思考することができる。 2. Web 教材の妥当性について判断することができる。 関心・意欲の観点: 1. いろいろな情報セキュリティ対策に関心を持つことができる。 2. いろいろな Web 教材の開発に意欲をもやすことができる。 態度の観点: 1. Web 教材を作成する作業に粘り強く取り組むことができる。 2. セキュリティ文化の普及という視点で情報セキュリティ教育を考えることができる。 技能・表現の観点: 1. いろいろな Web コンテンツを作成することができる。 2. 明快かつ論理的に物事を説明できる。

授業の計画(全体) 前期は情報セキュリティの基本概念を学び, 後期は Web 教材の題材を吟味して, 有用な Web 教材を作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (1)
- 第 2 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (2)
- 第 3 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (3)
- 第 4 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (4)
- 第 5 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (5)
- 第 6 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (6)
- 第 7 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (7)
- 第 8 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (8)
- 第 9 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (9)
- 第 10 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (10)
- 第 11 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (11)
- 第 12 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (12)
- 第 13 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (13)
- 第 14 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (14)
- 第 15 回 項目 情報セキュリティの基本概念 (15)
- 第 16 回 項目 Web 教材の企画 (1)
- 第 17 回 項目 Web 教材の企画 (2)
- 第 18 回 項目 Web 教材の企画 (3)
- 第 19 回 項目 Web 教材の企画 (4)
- 第 20 回 項目 Web 教材の作成 (1)
- 第 21 回 項目 Web 教材の作成 (2)
- 第 22 回 項目 Web 教材の作成 (3)
- 第 23 回 項目 Web 教材の作成 (4)
- 第 24 回 項目 Web 教材の作成 (5)
- 第 25 回 項目 Web 教材の作成 (6)
- 第 26 回 項目 Web 教材の作成 (7)
- 第 27 回 項目 Web 教材の作成 (8)
- 第 28 回 項目 Web 教材の作成 (9)
- 第 29 回 項目 Web 教材の作成 (10)

第 30 回 項目 Web 教材のプレゼンテーション

成績評価方法 (総合) 卒業研究に取り組む態度, 卒業論文及びその発表を総合的に評価する。

メッセージ 何事にも粘り強く取り組む気力が重要です。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部
224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	野村厚志				

授業の概要 各自が興味を持つ事柄についてテキストを読む。その過程において、関連する文献を調べ、また、実際にプログラミング言語を用いて計算機で実現する。これらの結果をまとめ、発表する。 / 検索キーワード 卒業論文、研究発表

授業の一般目標 自らが課題を設定し、そのためのテキストを選択し、それを読み解き理解することができるようになる。また、自分の学んだことや行ったことをまとめて、発表することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らが興味を持った事柄についてテキストや関連文献を読み、知識・理解が深まること。 思考・判断の観点： 自らが設定した課題について、論理的な思考ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自らが興味を持った事柄について、さらに興味や関心が拡がり深まること。

授業の計画(全体) テキストを選択し、毎回そのテキストを読んで発表する。また、プログラミング言語を用いて課題を実現する。最後に、内容をまとめて卒業研究発表会において発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマの選択について話し合う。 授業外指示 テーマを検討しておくこと。
- 第 2 回 項目 テーマの選択について話し合う。 授業外指示 テキストを選択しておくこと。
- 第 3 回 項目 テーマの選択について話し合い。
- 第 4 回 項目 テキストを読む。
- 第 5 回 項目 テキストを読む。
- 第 6 回 項目 テキストを読む。
- 第 7 回 項目 テキストを読む。
- 第 8 回 項目 テキストを読む。
- 第 9 回 項目 テキストを読む。
- 第 10 回 項目 テキストを読む。
- 第 11 回 項目 テキストを読む。
- 第 12 回 項目 テキストを読む。
- 第 13 回 項目 テキストを読む。
- 第 14 回 項目 テキストを読む。
- 第 15 回 項目 これまでのまとめ。 授業外指示 ここまでの内容をまとめて、レポートを作成すること。
- 第 16 回 項目 後期の予定について話し合う。
- 第 17 回 項目 テキストを読む。
- 第 18 回 項目 テキストを読む。
- 第 19 回 項目 テキストを読む。
- 第 20 回 項目 テキストを読む。
- 第 21 回 項目 テキストを読む。
- 第 22 回 項目 テキストを読む。
- 第 23 回 項目 テキストを読む。
- 第 24 回 項目 テキストを読む。
- 第 25 回 項目 テキストを読む。
- 第 26 回 項目 卒業論文のチェック。
- 第 27 回 項目 卒業論文のチェック。
- 第 28 回 項目 卒業論文のチェック。
- 第 29 回 項目 卒業研究発表会のための準備・練習。
- 第 30 回 項目 卒業研究の発表。

成績評価方法 (総合) 受講生は毎週発表を行い、さらに卒業論文を執筆し、卒業研究発表会において発表を行う。これらの内容について総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自らが設定するので、4月までに検討しておくこと。 / 参考書：関連文献について、自らが調べること。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時から 15時まで

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 これまで、学習してきた数学・情報・教育についての知識・理解を深めるために、これらに関するより専門的な課題について学習し、研究を行う。授業形態は、前半においては、セミナー形式で参考文献を読み、後半においては、各自の研究成果の発表に基づくセミナーを行う。 / 検索キーワード
代数学 暗号理論 符号理論

授業の一般目標 数学・情報・教育についての専門的な課題を研究することによって、これまで学んできた内容をより深く理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：セミナー運営等を通して、自分から学習する態度を身につける。また、高度な理論的な思考が行える能力を身につける。 思考・判断の観点：考察に必要な適切な資料を自分の判断で収集できる能力を養う。 態度の観点：研究・学習を通して、能率的に思考活動が出来るような力を身につける。

メッセージ 積極的な姿勢で研究に臨んでもらいたい。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	北本卓也				

授業の概要 卒論論文制作に向けての指導を行う。

授業の一般目標 研究方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

授業の計画(全体) 卒業論文制作に向けての研究を行う。

成績評価方法(総合) 研究をする方法、それを発表する技術が身についたかを評価して、成績をつける。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	鷹岡亮				

開設科目	データベース論 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の一般目標 まずデータベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：データベースシステムについて理解できているか？データモデルを理解しているか？SQLが理解できているか？ 関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組んでいるか？ 態度の観点：出席しレポートを提出しているか？

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データベースの 基礎概念 I
- 第 2 回 項目 データベースの 基礎概念 II
- 第 3 回 項目 データモデル I
- 第 4 回 項目 データモデル II
- 第 5 回 項目 関係データモデル I
- 第 6 回 項目 関係データモデル II
- 第 7 回 項目 関係型データベースの操作方法
- 第 8 回 項目 SQLの基礎 I
- 第 9 回 項目 SQLの基礎 II
- 第 10 回 項目 SQLの基礎 III
- 第 11 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 12 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 13 回 項目 SQLを用いたデータベースの 操作の演習 II
- 第 14 回 項目 試験
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。

メッセージ プログラミング言語 I,II、アルゴリズム論の内容を理解していることを前提に授業を進める。

連絡先・オフィスアワー 質問は随時可。授業中に教えるメールアドレスに質問メール等を送ってください。

スポーツ健康科学コース

開設科目	人体構造機能論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 身体を構成している部分の構造と形態(解剖学)そして部分の働き(生理学)について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。 2. 生体の化学組成について説明できる。 3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。 4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。 思考・判断の観点: 授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。 関心・意欲の観点: 構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 解剖学と生理学の概観
- 第 2 回 項目 個体構成と解剖学用語 内容 個体を構成するレベル 解剖学用語 授業外指示 小テスト1の指示
- 第 3 回 項目 生体の化学組成 I 内容 小テスト1 人体を構成する主要元素 生体の化学組成 1
- 第 4 回 項目 生体の化学組成 II 内容 生体の化学組成 2 授業外指示 小テスト2の指示
- 第 5 回 項目 細胞と組織 内容 小テスト2 細胞概説 人体の組織
- 第 6 回 項目 骨学概論 内容 骨格系の機能 骨の化学組成 骨形成の経過 骨の一般構造
- 第 7 回 項目 体幹の骨格 内容 椎骨の一般構造 と各椎骨の特色
- 第 8 回 項目 体肢の骨格 内容 上肢・下肢の構成
- 第 9 回 項目 関節 内容 関節の一般構造 と各関節の可動性 授業外指示 小テスト3の指示
- 第 10 回 項目 骨格筋の概観 内容 小テスト3 骨格筋の構造 筋線維タイプ
- 第 11 回 項目 筋の機能 内容 筋収縮の諸系 ATPの再合成経路
- 第 12 回 項目 身体運動の諸型 内容 身体運動と骨格 筋の呼称
- 第 13 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 I 内容 体幹の筋群 授業外指示 小テスト4の指示
- 第 14 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 II 内容 小テスト4 体肢の筋群
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数4回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書: 人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999年

メッセージ 学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

開設科目	スポーツ体育情報処理演習	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。 2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点： 1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点： 1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。 2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点： 1. 情報倫理を守った行動ができる。 2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点： 1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。 2. データの集計や分析を行うことができる。 3. 情報の発信を行うことができる。 4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画（全体） 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1（ワープロ入門） 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2（図と表） 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1（ワープロの利用） 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2（アップロードと公開） 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3（HTML 入門） 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1（表計算入門） 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2（データ処理とグラフ作成） 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1（スライドとスライドショー） 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	陸上運動	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡壁史子				

授業の概要 中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目の中から1、2種目を選択し、実能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能・技術獲得の方法を追求する力を高めます。/検索キーワード 陸上競技、短距離走、走り幅跳び、グループ学習

授業の一般目標 中学校体育科における陸上競技の走・跳の実能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。また、それぞれの種目の自己の技術獲得を迫るうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能・技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。思考・判断の観点：運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。関心・意欲の観点：短距離走、走り幅跳びの技能・技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。技能・表現の観点：自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

授業の計画(全体) 中学校体育科における陸上競技の実能力と指導技術を高めることを目的としているが、このことを自ら主体的に達成していけるようにグループづくりから行う。グループができた段階で、取り組む短距離走、走り幅跳びについての授業の仕方について理解し、リーダーを中心としたグループ学習によりそれぞれの種目の技能・技術獲得に向けて活動していく。また、各グループの活動内容と気付きを共有していくために、全体で発表する時間を設ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
 内容 授業の進め方、グループづくり、役割決め、用具の説明 授業外指示 陸上競技場に集合すること
 運動着、運動シューズ 筆記用具必要
- 第2回 項目 短距離走1
50m走の測定 内容 50m走の予測・測定・記録
- 第3回 項目 短距離走2
スタートの仕方 内容 クラウチングスタートの有効性の理解と方法
- 第4回 項目 短距離走3
50m走の測定と分析I 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第5回 項目 短距離走4
50m走の測定と分析II 内容 50mの測定とスピード曲線の作成・分析
- 第6回 項目 短距離走5
50m走の測定(歩幅) 内容 トップスピードの歩幅の測定
- 第7回 項目 短距離走6
50m走のトップスピードを維持する 内容 トップスピードを維持するためのリズム走の設定と練習
- 第8回 項目 短距離走7
50m走の走法の分析 内容 リズム走におけるタイムトライアルI

および田植え走
- 第9回 項目 短距離走8
各グループの走りの分析 内容 走りの分析と練習方法(気になる走法について追求する)

- 第 10 回 項目 短距離走 9 < BR >まとめ(グループ発表) 内容 短距離走についての各グループの記録の推移と獲得技能・技術、課題の発表
- 第 11 回 項目 走り幅跳び 1 < BR > < BR > 走り幅跳びの測定 内容 走り幅跳びの準備と測定方法
- 第 12 回 項目 走り幅跳び 2 < BR > < BR > 踏み切り後の感覚づくり 内容 踏み切りと踏み切り語の
- 第 13 回 項目 走り幅跳び 3 < BR > < BR > 5 歩助走からの跳躍 内容 中助走からの跳躍 < BR > 5 歩助走からの跳躍
- 第 14 回 項目 走り幅跳び 4 < BR > < BR > 中助走からの跳躍 内容 出発点を決める(マーカーの付け方)
- 第 15 回 項目 走り幅跳び 5 < BR > < BR > 全助走からの跳躍 内容 跳躍の記録会

成績評価方法(総合) 出席 40% 上記の目標の観点に向けた授業への取り組み 40% 最終的な評価対象レポート 20%

教科書・参考書 教科書：各時間ごとに必要な資料を配布します。/ 参考書：各時間ごとに必要な資料を配布します。

メッセージ 陸上競技は個人種目ですが、自分では気づきにくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。"みんな"で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

開設科目	健康科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介・山本善積・五島淑子				

授業の概要 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する今日的な話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。 / 検索キーワード 健康、生活、運動、食生活、住生活

授業の一般目標 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する科学的な視点で捉え、その概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、運動、食生活、住生活の場で実践できる、問題や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 健康と運動のかかわりについて説明できる 2 健康と食生活のかかわりについて説明できる 3 健康的な住生活について説明できる 思考・判断の観点： 1 健康と運動のかかわりについて考察できる。 2 健康と食生活のかかわりについて考察できる。 3 健康と住生活のかかわりについて考察できる。 関心・意欲の観点： 1 運動に関心を広げ、実践できる。 2 食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。 3 住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。 態度の観点： 1 健康について主体的に改善をはかるうとする。

授業の計画（全体） 健康と運動のかかわり、健康と食生活のかかわり、および健康的な住生活について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 健康科学の視点
- 第 2 回 項目 現代社会と健康
- 第 3 回 項目 健康と運動
- 第 4 回 項目 健康づくりのための運動処方
- 第 5 回 項目 レポート演習（1）
- 第 6 回 項目 健康とは
- 第 7 回 項目 健康と食生活
- 第 8 回 項目 日本人の食生活の諸問題
- 第 9 回 項目 のぞましい食生活
- 第 10 回 項目 レポート演習（2）
- 第 11 回 項目 健康的な住まいの基本－日照、通風
- 第 12 回 項目 住まいの健康問題－シックハウス、換気
- 第 13 回 項目 住環境の安全問題－家庭内外の事故
- 第 14 回 項目 健康的な住生活－健康を守る取り組み
- 第 15 回 項目 レポート演習（3）

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポート及び出席状況とを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	人体構造機能論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊, 曾根涼子				

授業の概要 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経・感覚器官・呼吸循環器 官・泌尿器官・内分泌器官などについて概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経・感覚器官・呼吸循環器 官・泌尿器官・内分泌器官などについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各器官の構造と機能について理解し、説明することができる。

思考・判断の観点： 運動による各器官の機能変化などについて推論することができる。 関心・意欲の

観点： 各器官の構造と機能について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 血液成分と造血 機能
- 第 2 回 項目 血液成分と止血 機構
- 第 3 回 項目 内分泌器系の仕 組み
- 第 4 回 項目 生体とホルモン 調節
- 第 5 回 項目 生体防御機構
- 第 6 回 項目 泌尿器系
- 第 7 回 項目 血液・内分泌・生体防御・泌 尿器系のまとめ
- 第 8 回 項目 神経・感覚器系
- 第 9 回 項目 循環器系・
- 第 10 回 項目 循環器系・
- 第 11 回 項目 呼吸器系
- 第 12 回 項目 消化器系
- 第 13 回 項目 生殖器系
- 第 14 回 項目 神経・呼吸循環 器系・消化器 系・生殖器系の まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠 席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名のいずれもが以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書・参考書 教科書：人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著 ; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999 年 ; エレイン・N・マリーブ著 : 人体の構造と機能 (医学書院)

メッセージ 本授業科目は、上級学年で履修する専門科目の基礎科目であり、非常に大切な科目の一つです。

開設科目	ボールゲーム I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。

授業の一般目標 ゲ - ムをとおしてハンドボ-ルの基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 思考・判断の観点： ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫をしながら取り組むことができる。 態度の観点： チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。

授業の計画（全体） 前半は、他の球技系と種目と比較してハンドボ-の競技特性理解する。後半では、学校の体育授業で指導するための教材づくり、ルールづくりそして指導過程作りに関して教授する。

成績評価方法（総合） 技術や戦術またルールづくりや教材づくりに関する課題レポート、最終レポートおよび出席状況等で総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： ハンドボ - ル指導教本, 日本ハンドボ - ル協会, 大修館書店, 1996 年

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	スポーツ原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクティヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。 / 検索キーワード 体育・スポーツ哲学 体育・スポーツ思想

授業の一般目標 次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかを考査する。1. 体育とスポーツの概念、2. 近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3. 身体とコミュニケーション 4. スポーツの文明化について、5. 身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6. オリンピズム、7. アマチュアリズム、8. スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代体育・スポーツの特性とその変遷について説明することができる。遊戯論(プレイ論)から、近代体育・スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。思考・判断の観点：スポーツ事象を多元的的角度から捉え、分析することができる。スポーツ思想について事象を指摘し、説明することができる。アマチュアリズム、アスレティズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。関心・意欲の観点：実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容にひきつけて考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 体育学・スポーツ科学体系
- 第 2 回 項目 2. 体育とスポーツ
- 第 3 回 項目 3. 近代体育・スポーツの概念とその定義
- 第 4 回 項目 4. 身体とコミュニケーション (1)
- 第 5 回 項目 5. 身体とコミュニケーション (2)
- 第 6 回 項目 6. 身体とコミュニケーション (3)
- 第 7 回 項目 7. スポーツの文明化 (1)
- 第 8 回 項目 8. スポーツの文明化 (2)
- 第 9 回 項目 9. 身体文化論のパースペクティヴ (1)
- 第 10 回 項目 10. 身体文化論のパースペクティヴ (2)
- 第 11 回 項目 11. オリンピズムと近代体育・スポーツ (1)
- 第 12 回 項目 12. オリンピズムと近代体育・スポーツ (2)
- 第 13 回 項目 13. プレイ理論 (1)
- 第 14 回 項目 14. プレイ理論 (2)
- 第 15 回 項目 15. まとめ及び試験

成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 授業態度や授業への参加度 = 20~40%

教科書・参考書 教科書：プリント配布。プリントの内容は、以下の参考書による。 / 参考書：スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム(ちくま新書；047), 多木浩二著, 筑摩書房, 1995年；黒い輪：権力・金・クスリ オリンピックの内幕, ヴィヴ・シムソン, アンドリュー・ジェニングズ著；広瀬隆

監訳”, 光文社, 1992 年; ホモ・ルーデンス, J・ホイジンガ(高橋英夫訳), 中央公論社, 1983 年; 遊戯とスポーツ, H・レールス(長谷川守男監訳), 玉川大学出版部, 1987 年; 身体の零度 何が近代を成立させたか, 三浦雅士, 講談社選書メチエ, 1994 年; スポーツと現代アメリカ, アレン・グットマン(清水哲男訳), TBS ブリタニカ, 1981 年; スポーツを考える, 多木浩二, ちくま新書, 1995 年 黒い輪: 権力・金・クスリ, ヴィヴ・シムソン/アンドリュー・ジェニングズ(広瀬隆監訳), 光文社, 1992 年 上記の図書は主要なもののみ。ガイダンス時に、テキスト及び参考書の一覧表を配布する。

メッセージ 「体育・スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体育・スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	衛生学公衆衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	日野精二				

授業の概要 人間の健康に影響を及ぼす各種要因(食・環境・社会等)と疾病との関連や各種疾病に対する予防・対策並びに健康の現状及びその指標について講義する。

授業の一般目標 健康の維持増進や病気の予防のためにはどうすればよいのか、病気を引き起こす要因は何であるかを学び、自らの健康は自ら守るという考え方を養う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公衆衛生学の概要 病気の予防
- 第 2 回 項目 健康レベル現状人口静態・動態統計
- 第 3 回 項目 疫学 病気の原因を探る
- 第 4 回 項目 感染症(1) 感染源・感染経路・感受性
- 第 5 回 項目 感染症(2) 各種の感染症
- 第 6 回 項目 精神保健 心の病気
- 第 7 回 項目 環境保健(1) 生活環境
- 第 8 回 項目 環境保健(2) 公害
- 第 9 回 項目 母子保健
- 第 10 回 項目 成人・老人保健(1) 生活習慣病と老人保健
- 第 11 回 項目 成人・老人保健(2) 生活習慣病と老人保健
- 第 12 回 項目 産業(職場)保健(1) 職業と病気
- 第 13 回 項目 産業(職場)保健(2) 職業の作業環境・健康管理
- 第 14 回 項目 社会保障のシステム(1) 医療・保健
- 第 15 回 項目 社会保障のシステム(2) 社会福祉

教科書・参考書 教科書: イラスト公衆衛生学, 石川哲也 ほか, 東京数学社, 2005年 / 参考書: プリントを配布する。

開設科目	スポーツ社会学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	三好洋二				

授業の概要 この授業では、現代社会における体育やスポーツを一つの社会制度としてとらえ、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について概説する。また、社会構造の中で体育やスポーツがどういう位置を占め、どういう機能を果たすのかについても概説する。 / 検索キーワード 体育、スポーツ、社会学

授業の一般目標 (1) 現代社会における社会現象としての体育やスポーツの問題・事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。(2) 現代社会における体育やスポーツの問題について関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 社会現象としての体育やスポーツ問題の状況、背景について説明できる。 思考・判断の観点: 社会現象としての体育やスポーツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点: スポーツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点: 日常生活の中でスポーツ問題について主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 現代スポーツの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第3回 項目 人はどのようにしてスポーツを行うようになるのか。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第4回 項目 日本におけるスポーツクラブの特徴について考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第5回 項目 スポーツ文化としての「みるスポーツ」。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第6回 項目 スポーツと商業主義。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第7回 項目 スポーツ・ドピングを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第8回 項目 スポーツと暴力を考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第9回 項目 スポーツとジェンダー。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第10回 項目 スポーツ・ボランティアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第11回 項目 スポーツとメディアを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第12回 項目 生涯スポーツを考える。内容 班ごとに討論を行い、意見を発表する。
- 第13回 項目 スポーツ社会学の必要性を考える。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。
- 第14回 項目 スポーツの文化システム。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。
- 第15回 項目 スポーツの社会システム。内容 レジメに基づいてレクチャーを行う。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施し評価する。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: 今日からはじめるスポーツ社会学, 森川貞夫, 依田充代編著, 共栄出版, 2001年; スポーツの社会学(講座・スポーツの社会科学; 1), 池田勝, 守能信次編, 杏林書院, 1998年; 「今日から始めるスポーツ社会学」森川貞夫, 共栄出版, 2001年 「スポーツの社会学」池田勝・守能信次, 杏林書院, 1999年

連絡先・オフィスアワー 研究室: 教育学部 162番室 電話: 933-5376 E-mail: ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	運動生理学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介、杉浦崇夫				

授業の概要 神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について講義する。

授業の一般目標 神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。 思考・判断の観点：運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 関心・意欲の観点：運動制御機構における神経 - 筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化に関心を示し、生体の合理性などに関する意識を高める。

授業の計画 (全体) <第 1 週> 運動発現の最小単位としての運動単位 (motor unit) <第 2 週> 筋収縮の機構 (電気的活動と機械的活動) <第 3 週> 筋収縮のエネルギー代謝 (有酸素機構と無酸素機構) <第 4 週> 筋線維と運動単位のタイプ <第 5 週> 運動ニューロンの性質と運動単位の動員 <第 6 週> 筋収縮の様式 <第 7 週> 筋力発揮と筋疲労 <第 8 週> トレーニングによる筋機能の変化 <第 9 週> 反射運動の機構 I <第 10 週> 反射運動の機構 II <第 11 週> 随意運動の機構 I <第 12 週> 随意運動の機構 II <第 13 週> 運動学習と神経系の可塑性 I <第 14 週> 運動学習と神経系の可塑性 II <第 15 週> 試験

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 運動発現の最小単位としての運動単位 (motor unit)
- 第 2 回 項目 筋収縮の機構 (電気的活動と機械的活動)
- 第 3 回 項目 筋収縮のエネルギー代謝 (有酸素機構と無酸素機構)
- 第 4 回 項目 筋線維と運動単位のタイプ
- 第 5 回 項目 運動ニューロンの性質と運動単位の動員
- 第 6 回 項目 筋収縮の様式
- 第 7 回 項目 筋力発揮と筋疲労
- 第 8 回 項目 トレーニングによる筋機能の変化
- 第 9 回 項目 反射運動の機構 I
- 第 10 回 項目 反射運動の機構 II
- 第 11 回 項目 随意運動の機構 I
- 第 12 回 項目 随意運動の機構 II
- 第 13 回 項目 運動学習と神経系の可塑性 I
- 第 14 回 項目 運動学習と神経系の可塑性 II
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 全出席を前提として、成績は試験 70 %、レポート 20 %、授業態度・授業への参加度 10 % の割合で評価する。

教科書・参考書 教科書：新訂 運動生理学概論, 宮下、石井編著, 大修館書店, 1996 年 / 参考書：プリント配布

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385 shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	運動生理学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。 / 検索キーワード 運動、運動トレーニング、呼吸循環調節

授業の一般目標 運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について説明できる。 2. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。 2. 運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について関心を持つ。 2. 運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心を持つ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、呼吸循環系の概略 内容 運動生理学とは、シラバス説明、血液の循環、血管 授業外指示 1. シラバスを読んでおく 2. 教科書を読んでおく
- 第 2 回 項目 末梢循環 I 内容 血流配分、毛細血管における物質交換の機序、組織への酸素の運搬 (ヘモグロビン) 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 3 回 項目 末梢循環 II 内容 ヘモグロビンの酸素解離曲線、ボア効果 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 4 回 項目 末梢循環 III 内容 ミオグロビン、組織における二酸化炭素の運搬、ミトコンドリアにおける酸素摂取、動静脈酸素較差 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 5 回 項目 末梢循環 IV 内容 静的筋持久力と動的筋持久力、筋持久力と血流量、筋持久力と神経系 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 6 回 項目 中心循環 I 内容 心臓の構造と心容積、心拍数と心拍出量 (心臓の調節機構) 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 7 回 項目 中心循環 II 内容 心拍数と心拍出量 (運動に対する反応)、心電図、血圧の基準と調節機構 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 8 回 項目 中心循環 III、呼吸機能 I 内容 運動と血圧、呼吸器の構造と呼吸運動 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 9 回 項目 呼吸機能 II 内容 呼吸の周期性形成、肺の大きさ と機能、肺換気量の調節 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 10 回 項目 呼吸機能 III 内容 運動時の肺換気量、呼吸商および呼吸交換率 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 11 回 項目 呼吸機能 IV 内容 肺拡散容量とは、肺拡散容量に影響する因子、運動と肺拡散容量 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 12 回 項目 酸素摂取能力 I 内容 エネルギー発生の仕組み、運動と酸素摂取量、酸素負債と無酸素能力 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 13 回 項目 酸素摂取能力 II 内容 最大酸素摂取量、酸素摂取水準維持能力、無酸素的作業閾値 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 14 回 項目 運動機能からみた女性の身体的特徴 授業外指示 1. 復習をしておく 2. 教科書を読んでおく
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 小テストは 2 週に 1 回行う。欠席の場合 (特別な理由がない) は 0 点扱いとする。小テストの結果が 50 点未満の場合はレポートを課す。2/3 以上出席と小テスト平均 50 点以上が単位認定の最低必要条件である。

教科書・参考書 教科書：運動生理学概論（新訂），”宮下充正, 石井喜八編著”，大修館書店, 1983 年；新訂 運動生理学概論、宮下、石井編著、大修館書店、1996 年 / 参考書：プリントを配布する。

メッセージ 人体構造機能論 II を受講していること（スポーツ健康科学コース以外の学生については人体構造機能論 II を受講していることが望ましい）。運動生理学実習を受講するためにはこの授業を受講（2/3 以上）しておかなければならない。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2（083-933-5389）、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時～12 時

開設科目	運動生化学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫、塩田正俊				

授業の概要 運動によって生じる生体内の化学的变化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。

授業の一般目標 運動によって生じる生体内の化学的变化とその機序について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：身体運動時の生化学的变化を説明できる。 思考・判断の観点：運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学変化などについて推論することができる。 関心・意欲の観点：運動時の生化学変化について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 運動生化学に必要な基礎知識
- 第 2 回 項目 運動時のエネルギー産生
- 第 3 回 項目 運動時のエネルギー消費
- 第 4 回 項目 糖質の概観
- 第 5 回 項目 運動時の糖質代謝
- 第 6 回 項目 脂質の概観
- 第 7 回 項目 運動時の脂質代謝
- 第 8 回 項目 タンパク質の概観
- 第 9 回 項目 運動とタンパク質代謝
- 第 10 回 項目 運動と血清酵素 活性値変化
- 第 11 回 項目 運動時の血液性状
- 第 12 回 項目 運動による血液・尿 pH の変化
- 第 13 回 項目 運動時の電解質・水分代謝
- 第 14 回 項目 運動時の内分泌機能
- 第 15 回 項目 運動と生体防御

成績評価方法 (総合) 欠席 = 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名の教員のいずれもが以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために（第 3 版），”篠原力雄，饒村護編”，ヌーヴェルヒロカワ，2002 年；石黒伊三雄監修：わかりやすい生化学 NOUVELL HIROKAWA 必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：必要に応じて紹介する。

開設科目	環境生体適応学	区分	講義と演習	学年	2・3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 自律神経系
- 第3回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 内分泌系
- 第4回 項目 体温調節の機能
- 第5回 項目 温度受容器について 内容 実習 I
- 第6回 項目 環境温度の生理学 寒冷 I
- 第7回 項目 環境温度の生理学 寒冷 II
- 第8回 項目 寒冷生体反応について 内容 実習 II
- 第9回 項目 環境温度の生理学 暑熱
- 第10回 項目 圧力の生理学 低圧 I
- 第11回 項目 圧力の生理学 低圧 II
- 第12回 項目 圧力の生理学 高圧
- 第13回 項目 高圧に対する生体反応について 内容 実習 III
- 第14回 項目 生体機能の周期性変化(日周・年周リズム)
- 第15回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：環境生理学, 黒島, 理工学社, 1993年

メッセージ 2/3以上出席が、単位認定のための最低必要条件です。

連絡先・オフィスアワー sone@yamaguchi-u.ac.jp

備考 隔年開講

開設科目	スイミング	区分	実験・実習	学年	2・3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫 他4名				

授業の概要 プール実習(集中3日間)を通し、4泳法や水中運動の技術を理解すると共に、各泳力の向上を図る。さらに、指導法についても習得する。

授業の一般目標 泳力の向上を図るとともに、指導法について習得する。

授業の計画(全体) プレゼンテーションにより4泳法ならびに水中運動の技術を理解し、プール実習(集中3日間)を通し、各泳力の向上を図る。さらに、指導法についても習得する。

成績評価方法(総合) プレゼンテーション能力および指導能力25%、筆記試験結果25%、泳力テスト結果50%。

教科書・参考書 教科書：授業時に紹介する。 / 参考書：授業時に紹介する。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	体操	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	柳屋文雄				

授業の概要 授業は実技実習を中心に行うが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行い、良き指導者の育成を目指す。

授業の一般目標 (1) 生涯体育の基礎となる体力づくり、動きづくりの体操を学習する。(2) 器械運動の特性を理解し、技能の向上・修得に努め併せて指導法について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動力学の観点から理解しているか。思考・判断の観点：系統性を持って考えているか。関心・意欲の観点：グループ内で積極的に行動しているか。態度の観点：技の習得に積極で、アドバイスもできるか。技能・表現の観点：美しい実技、演技、厚生を考えておこなっているか。その他の観点：指導能力、指導意欲を大切にしたい。

授業の計画(全体) (1) 体力づくり、動きづくり、健康づくりのための体操を学習する。(2) 器械運動の特性を理解し、実技力向上及び補助法を学習する。(3) グループ学習・集団行動のポイントを学習する。(4) 演技発表会をおこなう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 特性と授業のねらいを理解する。授業外指示 トレーニング理論について考えよう。 < BR > 良き指導者とは何かについて考えてみよう。授業記録 プリント配布
- 第 2 回 項目 ベーシックトレーニング 内容 体操・器械運動のためのベーシックトレーニング
- 第 3 回 項目 器械運動の基本的姿勢・動きづくり 内容 実技
- 第 4 回 項目 マット運動基本 I 内容 動きの基本を理解する(実技)
- 第 5 回 項目 マット運動基本 II 内容 補助・支援のポイントを理解する(実技)
- 第 6 回 項目 マット運動 内容 発展的種目とさばき運動(実技)
- 第 7 回 項目 マット運動 内容 補助のあり方、補助器具、用具について理解を深める(実技) 授業外指示 体操好きの子どもを育てるポイント
- 第 8 回 項目 マット運動の連続種目づくり 内容 (グループ学習) 授業外指示 プリント配布
- 第 9 回 項目 マット運動の連続種目づくり 内容 (グループ学習) < BR > (デモ演技を見て考える)
- 第 10 回 項目 実技リハーサル 内容 作成した演技種目の通し練習(グループ学習) 授業外指示 評価法(採点法) < BR > プリント配布
- 第 11 回 項目 試技会 内容 実技発表(審判、採点)
- 第 12 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動の特性を理解する 内容 グループローテーションで実技
- 第 13 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動の学習のポイントを理解 内容 グループローテーションで実技
- 第 14 回 項目 跳箱・平均台・鉄棒運動 内容 グループローテーションで実技 授業外指示 レポート課題を提示
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 メッセージを伝える 授業外指示 レポート提出期限

成績評価方法(総合) 実技・技能は個人差があるが、楽しい指導法の修得は努力しだいである。級友と助け合う中でマスターしてくれることを期待する。演技会で系統的合理的に構成された器械運動の発表を期待して評価したい。

教科書・参考書 教科書：用いない / 参考書：必要に応じて自作のプリントを配布する(3部予定)

メッセージ 体操・器械運動は楽しいものだよということを知ってもらい、体操好きの子どもを作る意欲を期待する。

連絡先・オフィスアワー 740-1224 玖珂郡美和町大字佐坂 392-1 (0827-96-0516)

開設科目	スポーツ経営学	区分	講義	学年	2・3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	カウンセリング論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 「カウンセリング」という言葉は、日常生活の中で、さまざまな分野で使われています。学校場面に限らず企業のメンタルヘルス領域においてもますます重要な役割を担うようになってきました。しかし、誤解も多く、その実際については十分に理解されていません。そこで、講義では、カウンセリングの基本的な枠組みについて講義します。 / 検索キーワード カウンセリング、面接構造(枠)、臨床心理学的理解

授業の一般目標 カウンセリングの基礎的な概念や枠組みを理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： カウンセリングの基本的な概念や理論・技法について説明できる。

その他の観点： 私語など講義の進行を妨げる行為があり3回注意した場合、以後の講義の受講は認めない。

授業の計画(全体) カウンセリングの基礎的な理論や技法について理解を深める。「面接」の枠組みやその意義、面接のプロセス、さまざまな援助技法や理論的枠組みについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 こころの理解 内容 講義のオリエンテーションも行う。
- 第2回 項目 カウンセリングの領域と枠組み
- 第3回 項目 さまざまな理論と立場(1) 内容 精神分析学の立場(1)
- 第4回 項目 さまざまな理論と立場(2) 内容 精神分析学の立場(2)
- 第5回 項目 さまざまな理論と立場(3) 内容 来談者中心の立場・行動論の立場
- 第6回 項目 さまざまな理論と立場(4) 内容 短期療法・森田療法・内観療法など
- 第7回 項目 さまざまな理論と立場(5) 内容 遊戯療法・箱庭療法など
- 第8回 項目 さまざまな理論と立場(6) 内容 自律訓練法・心理劇など
- 第9回 項目 さまざまな理論と立場(7) 内容 夫婦カウンセリングなど
- 第10回 項目 カウンセリングの過程(1) 内容 インテイク面接と心理アセスメント
- 第11回 項目 カウンセリングの過程(2) 内容 面接過程と技法(1)
- 第12回 項目 カウンセリングの過程(3) 内容 面接の過程と技法(2)
- 第13回 項目 カウンセリングの過程(4) 内容 心理学的問題のレベルと対応
- 第14回 項目 保護者へのカウンセリング
- 第15回 項目 講義のまとめ

成績評価方法(総合) 受験資格は、講義の3分の2以上に出席していることである。期末試験は筆記試験によりおこなう。カウンセリングに関する基礎的知識や理論、技法などカウンセリングについての基礎的な理解力を問う問題を出題する予定である。

教科書・参考書 教科書：スライドおよび配布資料による。 / 参考書：必要に応じて示す。

メッセージ 心を理解するための学問です。単なる知識としてだけでなく、自らの心に浮かんでくるさまざまな体験や事象についても考えながら、講義に参加してください。

開設科目	発育発達老化論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 「小児は、大人の縮図ではない。」ということを目にする。これは、健康問題について考える場合、加齢の過程を正しく認識することが重要であることを示唆するものである。同様に、教育の領域においても然りである。本講義では、乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化について概説する。/検索キーワード 発育、発達、成熟

授業の一般目標 乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての理解する。また、各ライフステージにおける健康保持や運動指導などの留意点について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての概略を説明できる。思考・判断の観点：授業で取り上げた項目について、運動指導などの関わり合いからの見方・考え方ができる。関心・意欲の観点：構造的・機能的発育発達経過の観点から人体に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 ・身体発達の概観 ・身体発達の一般経過 ・発育発達に影響する諸因子
- 第 2 回 項目 身体発達研究の方法論 I 内容 ・歴年齢と生理学的年齢 ・資料収集法
- 第 3 回 項目 身体発達研究の方法論 II 内容 資料の分析方法
- 第 4 回 項目 骨の成長とリモデリング 内容 ・骨の機能 ・骨の一般的発育経過 授業外指示 レポート 1 作成 指示
- 第 5 回 項目 形態発育の経過（長育・副育） 内容 ・身長発育 ・座高発育 ・下肢長発育 ・肩幅・腰幅発育 ・頭長・頭幅発育 授業外指示 レポート 1 作成 指示
- 第 6 回 項目 形態発育の経過（周育・量育） 内容 ・頭囲・胸囲・上腕囲発育 ・体重・皮下脂肪発育
- 第 7 回 項目 形態発育の経過（身体組成） 内容 ・身体組成とは ・肥満と体脂肪
- 第 8 回 項目 骨格筋の構造と機能 I 内容 ・筋の構造 ・筋の発生分化 ・筋線維タイプ
- 第 9 回 項目 骨格筋の構造と機能 II 内容 ・筋収縮 ・筋収縮のエネルギー源
- 第 10 回 項目 機能発達の経過（筋力・パワー） 内容 ・静的筋力の発達 ・筋力の相対発達
- 第 11 回 項目 呼吸循環系の概略 内容 呼吸循環系と酸素摂取量
- 第 12 回 項目 機能発達の経過（全身持久力） 内容 最大酸素摂取量の発達と健康との関わり
- 第 13 回 項目 身体発達に及ぼすホルモンの影響 内容 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、性ホルモンと発育発達
- 第 14 回 項目 発育期・中高齢期における運動の意義と留意点 内容 ・発育期におけるトレーニング実施上の留意点 ・中高齢期における筋力トレーニングの重要性
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験とレポートで評価する。欠席回数 4 回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書：からだの発達, 高石昌弘、樋口満、小島武次, 大修館書店, 1998 年

開設科目	病態生理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 疾病構造の変遷を概観し、生活習慣病の要因構造について述べる。その上で各生活習慣病がどのような原因で発症するか、生理・生化学および栄養学的な観点から概説する。

授業の一般目標 生活習慣病(成人病)を中心に各種疾患の病態生理(発症、原因、症状等)について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各生活習慣病の原因について理解し、説明することができる。

思考・判断の観点: 生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。 関

心・意欲の観点: 生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。 技能・表現

の観点: 生活習慣と疾病の関連について解説し、その改善と効果について表現できる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活習慣病(成人病)の概観
- 第 2 回 項目 肥満
- 第 3 回 項目 肥満の判定法
- 第 4 回 項目 糖尿病
- 第 5 回 項目 高脂血症
- 第 6 回 項目 動脈硬化
- 第 7 回 項目 高血圧症
- 第 8 回 項目 血圧測定法の実 際
- 第 9 回 項目 心臓病
- 第 10 回 項目 脳血管障害(脳 卒中)
- 第 11 回 項目 悪性新生物(ガ ン)
- 第 12 回 項目 アレルギー疾患(気 管支喘息)
- 第 13 回 項目 骨粗鬆症
- 第 14 回 項目 高尿酸血症
- 第 15 回 項目 高齢者の健康

成績評価方法(総合) 欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠 席として扱います。

教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書: 必要に応じて紹介する。

メッセージ 人体構造機能論、運動生理学、運動生化学を履修していることが望ましい。

開設科目	運動生理学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	丹 信介				

授業の概要 安静時や運動時の呼吸循環機能の測定に関する実習を行う。 / 検索キーワード 運動生理学
実験 実習

授業の一般目標 運動に関わる生理的機能の測定方法ならびに、安静時や運動時の呼吸循環系の反応について実習を通して理解を深める。また実習した測定法を卒業研究に活用できるようになることもこの授業の目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、レポート作成方法
- 第 2 回 項目 心電図の測定と解析(安静時)
- 第 3 回 項目 血圧の測定(安静時、運動時)
- 第 4 回 項目 呼吸機能の測定
- 第 5 回 項目 換気パラメータ、酸素摂取量の測定(安静時)
- 第 6 回 項目 固定負荷運動時の呼吸、循環応答
- 第 7 回 項目 最大酸素摂取量、換気閾値の測定
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 80~100%未満 授業態度や授業への参加度 = 20%未満
出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書: 授業時にプリントを配布する。

メッセージ 履修上の注意 運動生理学Ⅰ・Ⅱを受講しておくこと この実習は受講生をいくつかのグループに分け、グループ毎に2名の担当教官をロテーションしながら受講する。実習は2~3コマ連続して行う。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	運動生理学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 安静時や運動時の呼吸循環機能の測定に関する実習を行う。 / 検索キーワード 安静、運動、呼吸循環機能

授業の一般目標 運動にかかわる生理的機能の測定方法ならびに、安静時や運動時の呼吸循環系の反応について実習を通して理解を深める。また実習した測定法を卒業研究に活用できるようになることもこの授業の目標とする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 心電図の測定と解析 (安静時)
- 第 3 回 項目 血圧の測定と解析 (安静時および運動時)
- 第 4 回 項目 スパイログラム (安静時)
- 第 5 回 項目 換気パラメータ、酸素摂取量の測定 (安静時)
- 第 6 回 項目 固定負荷運動時の呼吸、循環応答
- 第 7 回 項目 最大酸素摂取量、換気閾値の測定
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 宿題/授業外レポート=80~100%未満 授業態度や授業への参加度=20%未満 出席=欠格条件 (全出席が単位認定のための必要最低条件である)

教科書・参考書 教科書：資料を配付する。 / 参考書：資料を配付する。

メッセージ 運動生理学 II を受講しておくこと (2/3 以上出席)。運動生理学 II の成績が不可の場合はレポートを課す。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時 ~ 12 時

開設科目	運動生化学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 身体運動によって生じる生体内の変化をとらえる際、生化学的手法は今や分野を問わず強力な手法の一つとして行われている。本授業では、身体運動に関わり深い体液成分や骨格筋の酵素活性などの測定を通して、生化学測定法について理解修得する。さらに、各課題についてのレポートのまとめ方についても修得する。 / 検索キーワード 生化学的測定法、分光光度計、血中乳酸濃度、ヘモグロビン、酵素活性

授業の一般目標 顕微鏡や分光光度計などの使い方、試料の取り扱い方、血球数の算定、ヘモグロビン、血中乳酸濃度、酵素活性等の測定原理等を実習を通して修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各測定法の原理について説明ができる。 思考・判断の観点：測定結果について、妥当な解釈ができる。 関心・意欲の観点：研究方法の一つの手法として、関心を持つことができる。 態度の観点：実験実習にふさわしい態度を持つことができる。 技能・表現の観点：測定手技、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

授業の計画(全体) 本実習は、運動生理学実習と行うため10名単位で行う。さらに10名を5名に分け、それぞれを塩田と杉浦が担当し、ローテーションによって全項目を実習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 グループ分け、日程、レポートの書き方について説明 授業記録 プリントを配布
- 第2回 項目 ・顕微鏡・分光光度計を用いた血球数およびヘモグロビン濃度の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 1班：赤血球数およびヘモグロビン濃度測定 A - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定 授業記録 プリントを配布
- 第3回 項目 ・腎機能と酸-塩基調節 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 1班：尿比重、pH、滴定酸度の測定 A - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第4回 項目 ・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 1班：血中乳酸濃度と尿中酸排泄測定 A - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第5回 項目 ・顕微鏡・分光光度計を用いた血球数およびヘモグロビン濃度の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 2班：赤血球数およびヘモグロビン濃度測定 A - 1班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定 授業記録 プリントを配布
- 第6回 項目 ・腎機能と酸-塩基調節 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 2班：尿比重、pH、滴定酸度の測定 A - 1班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第7回 項目 ・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 2班：血中乳酸濃度と尿中酸排泄測定 A - 1班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第8回 項目 ・顕微鏡・分光光度計を用いた血球数およびヘモグロビン濃度の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 B - 1班：赤血球数およびヘモグロビン濃度測定 B - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定 授業記録 プリントを配布

- 第 9 回 項目・腎機能と酸-塩基調節・骨格筋中の酸化酵素活性の測定・血清タンパク質濃度の測定
内容 B - 1 班：尿比重、pH、滴定酸度の測定 B - 2 班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第 10 回 項目・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定・骨格筋中の酸化酵素活性の測定・血清タンパク質濃度の測定
内容 B - 1 班：血中乳酸濃度と尿中酸排泄測定 B - 2 班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第 11 回 項目・顕微鏡・分光光度計を用いた血球数およびヘモグロビン濃度の測定・骨格筋中の酸化酵素活性の測定・血清タンパク質濃度の測定
内容 B - 2 班：赤血球数およびヘモグロビン濃度測定 B - 1 班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定 授業記録プリントを配布
- 第 12 回 項目・腎機能と酸-塩基調節・骨格筋中の酸化酵素活性の測定・血清タンパク質濃度の測定
内容 B - 2 班：尿比重、pH、滴定酸度の測定 B - 1 班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第 13 回 項目・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定・骨格筋中の酸化酵素活性の測定・血清タンパク質濃度の測定
内容 B - 2 班：血中乳酸濃度と尿中酸排泄測定 B - 1 班：骨格筋中の酸化酵素活性測定、血清タンパク質濃度測定
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席、レポートを基に評価する。各担当者について 1 回の欠席は認めるが、補講を行う。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：授業内に紹介する。

メッセージ 日程については、変更もあるので掲示などに注意すること。

開設科目	運動生化学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 身体運動によって生じる生体内の変化をとらえる際、生化学的手法は今や分野を問わず強力な手法の一つとして行われている。本授業では、身体運動に関わり深い体液成分や骨格筋の酵素活性などの測定を通して、生化学測定法について理解修得する。さらに、各課題についてのレポートのまとめ方についても修得する。 / 検索キーワード 生化学的測定法、分光光度計、血中乳酸濃度、ヘモグロビン、酵素活性

授業の一般目標 顕微鏡や分光光度計などの使い方、試料の取り扱い方、血球数の算定、ヘモグロビン、血中乳酸濃度、酵素活性等の測定原理等を実習を通して修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各測定法の原理について説明ができる。 思考・判断の観点：測定結果について、妥当な解釈ができる。 関心・意欲の観点：研究方法の一つの手法として、関心を持つことができる。 態度の観点：実験実習にふさわしい態度を持つことができる。 技能・表現の観点：測定手技、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

授業の計画(全体) 本実習は、運動生理学実習と行うため10名単位で行う。さらに10名を5名に分け、それぞれを塩田と杉浦が担当し、ローテーションによって全項目を実習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 グループ分け、日程、レポートの書き方について説明 授業記録 プリントを配布
- 第2回 項目 ・顕微鏡を用いた血球数の測定 ・ピペッティング操作 内容 A - 1班：血球数測定 A - 2班：ピペッティング操作と天秤の使い方 授業記録 プリントを配布
- 第3回 項目 ・分光光度計によるヘモグロビンの測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 1班：ヘモグロビン測定 A - 2班：血清タンパク質濃度測定
- 第4回 項目 ・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 内容 A - 1班：血中乳酸濃度と尿中生化学成分測定 A - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定
- 第5回 項目 ・顕微鏡を用いた血球数の測定 ・ピペッティング操作 内容 A - 2班：血球数測定 A - 1班：ピペッティング操作と天秤の使い方 授業記録 プリントを配布
- 第6回 項目 ・分光光度計によるヘモグロビンの測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 A - 2班：ヘモグロビン測定 A - 1班：血清タンパク質濃度測定
- 第7回 項目 ・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 内容 A - 2班：血中乳酸濃度と尿中生化学成分測定 A - 1班：骨格筋中の酸化酵素活性測定
- 第8回 項目 ・顕微鏡を用いた血球数の測定 ・ピペッティング操作 内容 B - 1班：血球数測定 B - 2班：ピペッティング操作と天秤の使い方 授業記録 プリントを配布
- 第9回 項目 ・分光光度計によるヘモグロビンの測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 B - 1班：ヘモグロビン測定 B - 2班：血清タンパク質濃度測定
- 第10回 項目 ・運動負荷時の血中乳酸濃度と尿中生化学成分の測定 ・骨格筋中の酸化酵素活性の測定 内容 B - 1班：血中乳酸濃度と尿中生化学成分測定 B - 2班：骨格筋中の酸化酵素活性測定
- 第11回 項目 ・顕微鏡を用いた血球数の測定 ・ピペッティング操作 内容 B - 2班：血球数測定 B - 1班：ピペッティング操作と天秤の使い方 授業記録 プリントを配布
- 第12回 項目 ・分光光度計によるヘモグロビンの測定 ・血清タンパク質濃度の測定 内容 B - 2班：ヘモグロビン測定 B - 1班：血清タンパク質濃度測定

第 13 回 項目・運動負荷時の 血中乳酸濃度と 尿中生化学成分 の測定 ・骨格筋中の酸 化酵素活性の測定 内容 B - 2 班：血中 乳酸濃度と尿中 生化学成分測定 B - 1 班：骨格 筋中の酸化酵素 活性測定

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席、レポートを基に評価する。各担当者について 1 回の欠席は認めるが、補講を行う。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：授業内に紹介する。

メッセージ 日程については、変更もあるので掲示などに注意すること。

開設科目	バイオメカニクス	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	皆川 孝志				

授業の概要 身体運動は骨格筋の収縮を骨に伝え、その力学量を環境に働きかけて遂行している。したがって、はじめに骨と関節及び筋肉についてのアウトラインを述べ、それを土台に柔軟性、筋力トレーニングについて概説する。つづいて、身体各部位の筋の構造や作用について理解し、身体運動との観点から筋の働きを考察する。さらに、身体運動を力学的側面から分析するための力学的基礎と応用について解説する。 / 検索キーワード 骨格と筋 構造と機能 身体運動 生体力学的分析

授業の一般目標 1. 身体各部位の骨格、筋の構造と機能について理解する。 2. 身体の柔軟性、筋力トレーニングの生体力学的概要について理解する。 3. 身体運動の力学的基礎を習得する。 4. 動きの生体力学的分析を通して運動技能のコーチングへの適用価値を認識する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 構造や機能を説明できる 2. 関連器官の機能を関係づけられる 思考・判断の観点: 1. 力学的分析にもとづき、動きの価値を評価できる 関心・意欲の観点: 1. よりよいヒトの動きの分析と考察に寄与できる

授業の計画(全体) 1. 骨・関節・筋の概略 1)骨 2)関節 3)筋 4)柔軟性トレーニング 5)筋力トレーニング 2. 力学的基礎 3. 下肢の構造と機能 1)骨盤と下肢帯 2)骨盤から起こる筋 3)膝関節 4)膝の運動と筋 4)下腿と足 4. 体幹の構造と機能 1)背部の筋 2)腹部の筋 5. 上肢の構造と機能 1)肩の運動と筋 2)肘関節 3)手関節 6. スポーツの力学 1)力 2)重心 3)慣性モーメント 4)応用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. オリエンテーション 2.1 章 骨・関節・筋の概略 内容 1. 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法 2. 骨 関節: 骨の連結、関節の概観と種類 授業外指示 「人体構造機能論」「運動生理学」の該当部分参照すること 資料を参照 授業記録 資料配付
- 第 2 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.1 章 骨・関節・筋の概略 内容 1. 筋 骨格筋の構造と機能、筋の働き方と運動、筋の活動を調節する神経系 授業外指示 「人体構造機能論」の該当部分参照すること 資料を参照
- 第 3 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.1 章 骨・関節・筋の概略 3. ストレッチングの方法 内容 1. 柔軟性トレーニング 7 章 ストレッチング の方法 2. 筋力トレーニング 授業外指示 資料を参照
- 第 4 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.2 章 力学的基礎 内容 1. 力 2. ベクトル 3. 力のモーメント
- 第 5 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 内容 1. 骨盤と下肢帯 2. 骨盤から起始する筋: 骨盤外筋、大腿内転筋群、骨盤内筋 授業外指示 「人体構造機能論」の該当部分参照すること
- 第 6 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 内容 1. 膝関節 2. 膝の運動と筋: 大腿伸筋群、膝関節に生ずるストレス、大腿屈筋群 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2. 3 章 下肢の構造と機能 3.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 下腿と足: 下腿の筋、足関節の働き、足の骨と筋 2. 脊柱の構造: 脊柱と椎骨 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 椎骨間にかかるストレス 2. 腰痛の原因とメカニズム 3. 椎骨にかかるストレスの力学的分析 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 1. 小テスト(前週の学習内容より出題) 2.4 章 体幹の構造と機能 内容 1. 背部の筋: 背筋の構造と機能、背筋を強化する運動 2. 腹筋の筋: 腹筋の機能と構造、腹筋の強化運動、呼吸と呼吸筋 授業外指示 "

- 第 10 回 項目 1. 小テスト (前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 肩の運動と筋: 肩甲骨と上腕を結ぶ筋、肩甲骨と体幹を結ぶ筋 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 1. 小テスト (前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 体幹と上肢を結ぶ筋: 大胸筋、三角筋、広背筋などの構造と機能 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 1. 小テスト (前週の学習内容より出題) 2.5 章 上肢の構造と機能 内容 1. 肘関節: 肘関節の構造、肘関節の屈曲・伸展筋群 2. 手関節: 手首まわりの筋と運動 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 1. 小テスト (前週の学習内容より出題) 2.6 章 スポーツ力学 内容 1. 外力: 重力、作用力、摩擦力、抵抗力 2. 内力: 筋力、腱と靭帯の力 2.
- 第 14 回 項目 1.6 章 スポーツ力学 内容 1. 重心: 各種姿勢の違いによる重心位置、身体各部位の重心位置と各部の相対重量と運動の関係 2. 慣性モーメント 3. 応用
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 1. 前週の授業範囲から小テストをほぼ毎週実施する。この小テストは平均 5 点以上をクリアーすることを目標とする 小テストの成績の評価割合は 30 %とする 2. 試験は期末試験を実施する 期末テストの評価割合は 70 %とする 3. 出席回数が所定の回数に満たない者には単位を与えない

教科書・参考書 教科書: 目で見る動きの解剖学, ロルフ・ヴィルヘッド, 大修館書店, 1999 年 / 参考書: スポーツバイオメカニクス入門, 金子公宥, 杏林書院, 1994 年; 人体の構造と機能, エレイン・N・マリープ, 医学書院; 基礎運動学, 中村隆一・斉藤 宏, 医歯薬出版, 1997 年

メッセージ 毎週小テストを実施します。復習と予習を忘れずに!!

連絡先・オフィスアワー E メール: takmina@c-able.ne.jp TEL:083-922-6155

開設科目	テーピング・マッサージ演習	区分	講義と演習	学年	2・3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	米沢				

授業の概要 スポーツ選手をサポートするアスレチックトレーナーの職務を理解し、必要となる基礎知識を学ぶこととします。スポーツ選手の活動をサポートするために現在多くの人が関わっています。その中で身体を管理し、良いパフォーマンスをするためアスレチックトレーナーがいます。その仕事の中で特にストレッチング、スポーツマッサージとテーピングは現場で使用する必要な技術であり、現場での仕事の様子も一緒に学びます。/検索キーワード アスレチックトレーナー テーピング スポーツマッサージ スポーツ外傷障害

授業の一般目標 スポーツ外傷の原因、機序、処置、リハビリテーション、予防といった基礎医学を学び、アスレチックトレーナーの職務を理解する。この授業では、特にテーピングとマッサージの理論的背景を学習し、実習を通してそれらの正しい技術の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：スポーツ外傷の原因、発生機序、処置、リハビリテーション、予防を理解し、今後のスポーツ活動に役立てる。 思考・判断の観点：スポーツ外傷をどうすれば予防できるのか、また自己のスポーツ活動にて実践できることは何か、それぞれ違う活動現場の中で考慮する。 態度の観点：積極的に実技に参加し、技術の習得意欲があるかを見る。

授業の計画（全体） スポーツ医学の基礎を学び、特に実践となるストレッチング、スポーツマッサージ、テーピングを技術のみならず、理論として学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アスレティック < BR > トレーナーの仕 < BR > 事 (I)
- 第 2 回 項目 スポーツ外傷概 < BR > 論 I
- 第 3 回 項目 スポーツ外傷概 < BR > 論 II
- 第 4 回 項目 機能解剖学 I < BR > (各論：腰， < BR > 膝，足首，肩)
- 第 5 回 項目 機能解剖学 II
- 第 6 回 項目 応急処置 (アイ < BR > シングなど)
- 第 7 回 項目 心理と栄養
- 第 8 回 項目 コンディショニ < BR > ング I (テーピ < BR > ング)
- 第 9 回 項目 コンディショニ < BR > ング II (スト < BR > レッチング)
- 第 10 回 項目 コンディショニ < BR > ング III (スポー < BR > ツマッサージ)
- 第 11 回 項目 アスレティックリ < BR > ハビリテーショ < BR > ン実習 (予防と < BR > 強化)
- 第 12 回 項目 ストレングス & < BR > コンディショニ < BR > ング実習
- 第 13 回 項目 まとめ I
- 第 14 回 項目 まとめ II (テー < BR > ピング実技試 < BR > 験)
- 第 15 回 項目 まとめ III (スト < BR > レッチング実技 < BR > 試験)

成績評価方法（総合） 筆記試験（アスレチックトレーナーの職務とスポーツ外傷のついて）30点 解剖学実技試験 20点 テーピング実技試験 30点 ストレッチング実技試験 20点 合計100点

教科書・参考書 教科書：日本体育協会公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト（日本体育協会）アスレチックトレーナー（Book House HD）ESSENTIAL of STRENGTH TRAINING and CONDITIONING (NSCA) / 参考書：アスレチックトレーニング，，Book House HD；測定と評価，，Book House HD；日本体育協会公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト，，日本体育協会；ESSENTIAL of SPORTS TRAINING and CONDITIONING, NSCA, NSCA；卓球レポート，，（株）タマス

メッセージ アスレチックトレーナーの仕事を理解しスポーツにおける外傷の処置と復帰，さらには予防と強化に関して学習しましょう。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	ダンス	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 そもそも人間は、演技的存在である。それゆえ本授業では、人間のしぐさや儀礼的な身体所作、情動とリズムを通して表出される豊かな身体表現の可能性を模索する。具体的には、1.モダンダンスの理念、2.ダンスの創作、3.その指導法等を通して、非言語的コミュニケーションとしての多様な身体表現の可能性を学習する。表現運動の楽しさや表現運動を通して得られる運動文化の新たな側面を発見する。以上のことを学習するために、本授業では、授業作品発表会の場を設け、授業作品を公開し、最終的な達成度を作品を通して評価する。/検索キーワード 創作 ダンス 舞台演出 身体表現

授業の一般目標 ダンスの意義を実践を通して理解する。特に創作ダンスの実践を通して、創作の基本、表現形式に関する理論、身体育成法、効果的な表現技術を習得する。作品のモチーフを理解し、その形式を工夫し、全体の構成・展開を組み立てていく。作品発表会は公開とし、舞踊の創作・演出・公演運営に至るまで、高度な技術を養うことを目標とする。グループ作品・全体作品の出来栄を評価の対象とするが、受講者全員による公演全体の達成度を高めることが重要である。舞台公演全体を通して、身体表現が放つ、生命力と個性の表出、そのメッセージ性、身体コミュニケーション能力の役割を理解する。また日常の自己と表現運動との関係についても考察し、授業発表会の後に、ビデオ視聴、批評会の場を設け、自己を見つめ直す。それにより、次作品への構想へと高められるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：モダンダンスの理念を歴史的に理解することができる。表現運動の基礎的運動、アクションフレーズの意味、専門用語を理解することができる。思考・判断の観点：基本動作を確認し、応用することができる。表現したい内容を適切な身体表現としてアクションフレーズを応用し、組み合わせ、全体を構成することができる。自主制作のダンス作品を通して、自己を見つめなおし、日常生活とダンスの関係について一定の関係を見出すことができる。関心・意欲の観点：グループのリーダーとなり、率先して、作品づくりを進めることができる。自主学习により、授業内容を反復、応用し、次回授業時まで高めておくことができる。態度の観点：心を込めた作品づくりができる。テーマについて真剣に考えることができる。出来上がった作品を他人に見せることができる。技能・表現の観点：基本のステップ、ターン、ジャンプが正確にできる。アクションフレーズの連続動作をリズムカルに再現することができる。表現内容に即した作品を構成することができる。表現内容に即した作品を演技することができる。コミュニケーション能力を備えた作品を舞台(人前)で披露することができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1.ダンスの種類と特性、身体育成法
- 第 2 回 項目 2.ダンスの理念と実践 基本(1)
- 第 3 回 項目 ダンスの理念と実践 基本(2)
- 第 4 回 項目 ダンスの理念と実践 基本(3)
- 第 5 回 項目 3.モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(1)
- 第 6 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(2)
- 第 7 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - グループ実践(3)
- 第 8 回 項目 4.モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(1)
- 第 9 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(2)
- 第 10 回 項目 モダンダンスの理念と実践 - 個別実践(3)
- 第 11 回 項目 5.舞台発表・空間・モルフォロギー(1)
- 第 12 回 項目 舞台発表・空間・モルフォロギー(2)
- 第 13 回 項目 6.リハーサル(音響・照明)
- 第 14 回 項目 7.創作ダンス作品発表会(グループ作品・全体作品)
- 第 15 回 項目 8.ビデオ鑑賞・批評会

成績評価方法 (総合) 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 80 ~ 100 %未満 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：「創作ダンス作成マニュアル」他 プリント教材を配布 / 参考書：舞踊創作と舞踊演出 (改装版), 邦正美著, 論創社, 1998 年 ; 舞踊創作と舞踊演出, 邦正美, 論創社, 1986 年 ; 舞踊創作と舞踊演出, 邦正美, 論創社, 1986 年

メッセージ ダンスの苦手意識の克服は、解放される自己存在を知るための扉です。日常生活は本来ダンスの本質を胚胎しており、あなたもすでに潜在的ダンサーです。保健体育選修、スポーツ健康科学コース以外の受講者も歓迎します。

連絡先・オフィスアワー E-mail kikedata@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	エアロビクス	区分	実験・実習	学年	2・3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	矢野 道代				

授業の概要 エアロビク・ダンスは、ダンスの要素を取り入れた健康・体力づくりを目的とした有酸素運動である。健康・体力づくりを目標にプログラムは構成され芸術的な踊りとは異なる特性をもつ運動である。プログラムは初級レベルでウォーム・アップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む60分前後で構成される。音楽に合わせて全体学習、グル・プ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。

授業の一般目標 エアロビクダンスの特性を知ること。基本的な動きのテクニックを修得し、個人差に応じた運動強度の設定と運動の組み合わせ学習する。自分の身体を知り、全身持久性、柔軟性、調整力を高め、動きの楽しさを共有することが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：エアロビクダンスの特性について理解できる。 思考・判断の観点：エアロビクダンスの効果を実感できる。 関心・意欲の観点：動きの楽しさを共感できる。 態度の観点：積極的にグル・プ・クに参加できる。 技能・表現の観点：基礎プログラムを修得し、グル・プ発表ができる。

授業の計画（全体）エアロビクダンスの特性と運動の効果を知ることが授業計画の柱である。基礎ステップは、1.ウォームアップ 2.ステップ 3.メインダンス 4.コンディショニング 5.クーリングダウンで構成され lesson 9 で完成させる。他に体脂肪測定、心拍測定実験、メインダンスグル・プ発表を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 エアロビク・< BR >ダンスとは< BR >特性と運動の効< BR >果 内容 lesson1 授業記録 プリント配布< BR >グル・プ編成
- 第 2 回 項目 体重と体脂肪に< BR >ついて 内容 体脂肪、BMI< BR >測定< BR > lesson2 授業外指示 正しい食事の仕< BR >方< BR >日常生活の見直< BR >し 授業記録 記録カ・ド作成
- 第 3 回 項目 「痩せる」こと< BR >の意味 内容 スタイルとプロ< BR >ポ・ション< BR > lesson3 授業記録 ストレッチ、メ< BR >インダンス< BR >資料配付
- 第 4 回 項目 自然な身体づく< BR >り 内容 ストレッチの意< BR >味< BR > lesson4
- 第 5 回 項目 食事と運動 内容 メインダンス1< BR >完成< BR > lesson5 授業外指示 日常生活での運< BR >動プログラムの< BR >設定
- 第 6 回 項目 ローインパクト< BR >とハイインパク< BR >ト 内容 lesson6
- 第 7 回 項目 目標心拍数と運< BR >動強度 内容 lesson7
- 第 8 回 項目 音楽の効果< BR >心拍測定実験 内容 lesson8 授業外指示 グル・プ自主活< BR >動 授業記録 記録カ・ド作成
- 第 9 回 項目 基礎ステップ完< BR >成 内容 グル・プ発表1< BR > lesson9
- 第10回 項目 ダンスムーブメ< BR >ント 内容 lesson10 授業外指示 グル・プ自主活< BR >動
- 第11回 項目 グループ創作発< BR >表（体脂肪、< BR >BMI測定II） 内容 lesson11< BR >グル・プ発表 授業記録 記録カ・ドの作< BR >成
- 第12回 項目 まとめ< BR >心と身体 内容 lesson12< BR >楽しいダンス・< BR >ム・メント
- 第13回 項目 グループ創作発< BR >表 III
- 第14回 項目 心と身体
- 第15回 項目 まとめ

メッセージ 自分自身の基礎的な「身体づくり」をテーマにダンスの楽しさを実感してほしい。

開設科目	ボールゲーム II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 本授業では、ネット系球技について学習する。＜以下はバレーボールの例＞ バレ - ボ - ルの個人的技能、集団的技能及びゲ - ムの戦術について概説する。また、それらの指導法についても解説する。 / 検索キーワード 球技、バレ - ボ - ル

授業の一般目標 1 . バレ - ボ - ルの基本となる個人的技能及び集団的技能を習得する。 2 . バレ - ボ - ルの基本となる個人的技術及び集団的技能を習得するための指導法を学 習する。 3 . ゲ - ムを通して、ゲ - ムの戦術を理解する。

成績評価方法 (総合) 出席状況、技能・戦術の理解度と上達度、グル - プ活動への参加度などで総合的に評価する。

開設科目	スポーツ史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 本授業では、体育・スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的位置づけを学習する(1. 体育・スポーツの概念史 2. 近代スポーツの定義 3. 分析視角となる概念装置について)。とりわけ3. 分析視角となる概念装置については、体育・スポーツ史に関する種々の個別研究論文をとりあげ、微細な権力関係、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニー、民族スポーツとの関わりについて学習する。受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。/ 検索キーワード 文化帝国主義 文化ヘゲモニー スポーツの概念史 国民統合装置 スポーツの伝播

授業の一般目標 経験知に頼る体育・スポーツに関する認識を脱却し、体育・スポーツ事象を客観的に科学できる論理思考を養う。多様な脈絡で語られる体育・スポーツ評論を整理することを通して、体育・スポーツが含み持つ社会的脈絡を理解し、本質を捉える。最終レポートは、講義全体を通じて学習した成果の小論とする。体育・スポーツの今後を見据える上で、歴史的脈絡は無視できないことを理解する。種々の論文の主旨を正確に把握するための読解につとめ、学習の成果は、プレゼンテーション、小論文の提出の双方により表現する。この2つを評価の対象とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。日本における体育・スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。 思考・判断の観点：近代体育・スポーツ事象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。日本における体育・スポーツの成立契機についてその特徴を捉え、論じることができる。スポーツ特有の文化伝播について、文化帝国主義や文化ヘゲモニーの観点を考慮し、今後のスポーツの発展・推移について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 1. ガイダンス・授業計画の説明
- 第2回 項目 2. 体育・スポーツの概念史
- 第3回 項目 3. 近代スポーツの成立と伝播
- 第4回 項目 4. 近代オリンピックの展開と思(1)
- 第5回 項目 5. 近代オリンピックの展開と思想(2)
- 第6回 項目 6. 抵抗とトゥルネン
- 第7回 項目 7. 国民統合装置としてのスポーツ
- 第8回 項目 8. 伝統スポーツの諸相
- 第9回 項目 9. 日本近代体育・スポーツ史像の再検討
- 第10回 項目 10. アスレティズム(1)
- 第11回 項目 11. アスレティズム(2)
- 第12回 項目 12. 文化帝国主義とスポーツ(1)
- 第13回 項目 13. 文化帝国主義とスポーツ(2)
- 第14回 項目 14. 古代・中世・近世のスポーツ
- 第15回 項目 15. スポーツの社会史まとめ

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 40~60% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 40~60%

教科書・参考書 教科書：スポーツと帝国 近代スポーツと文化帝国主義，アレン・グットマン，昭和堂，1997年；日本体育史研究序説，木下秀明，不昧堂，1971年 / 参考書：現代社会とスポーツ，”ピーター・マッキントッシュ著；寺島善一，岡尾恵市，森川貞夫編訳”，大修館書店，1991年；日本近代スポーツ史の底流，高津 勝，創文企画，1994年；権力装置としてのスポーツ：帝国日本の国家戦略，坂上康博，講談社

選書メチエ, 1998年; スポーツの自由と現代 下巻, 伊藤高弘・出原泰明・上野卓郎編, 青木書店, 1986年; 現代社会とスポーツ, ピーター・マッキントッシュ, 大修館書店, 1991年 解説の対象とする論文については、授業ガイダンス時に一覧表を提示する。上記はその主だった論文を所収の図書例である。

連絡先・オフィスアワー 火曜 3.4 時限 E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	運動栄養学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、基礎的栄養学を土台に、先ず、骨格の構築と栄養素との関係を学習し、次に、スタミナと栄養（エネルギー代謝を含む）との関係、ウェイトコントロールと栄養との関係、疲労回復と栄養との関係等について学び、運動と栄養の関係を考える。/ 検索キーワード 骨格、筋肉、スタミナ、グリコーゲン、熱産生、疲労と回復

授業の一般目標 栄養と運動の関係を理解し、より具体的に説明できる。（スタミナと栄養の関係、疲労回復と栄養関係など）

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業のガイダンス・骨格
- 第 2 回 項目 筋肉筋肉
- 第 3 回 項目 まとめ（身体作りの栄養学）
- 第 4 回 項目 スタミナのメカニズム
- 第 5 回 項目 エネルギー代謝とエネルギー源
- 第 6 回 項目 グリコーゲンとスタミナ
- 第 7 回 項目 脂肪とスタミナ
- 第 8 回 項目 貧血とスタミナ
- 第 9 回 項目 まとめ（スタミナの栄養学）
- 第 10 回 項目 体脂肪の貯蔵と放出のメカニズム
- 第 11 回 項目 体熱産生と基礎代謝
- 第 12 回 項目 まとめ（ウェイト管理の栄養学）
- 第 13 回 項目 疲労のメカニズムと疲労の回復
- 第 14 回 項目 まとめ（疲労と回復の栄養学）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：授業用のプリントを 30 数枚配布する。

メッセージ 「ポパイのほうれん草」のような話はない。「栄養を考える」ことだけで、100%以上の競技力、運動能力を引き出すことは無理だが、持てる力を 100%発揮するためには「栄養を考える」ことは必須である。

開設科目	バイオメカニクス実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して学習する。

授業の一般目標 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変化と自転車が行った仕事量の関係が説明できる。思考・判断の観点：測定の結果について説明できる。関心・意欲の観点：研究の一の手法として、関心を持つことができる。技能・表現の観点：測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

授業の計画(全体) この授業は受講生を3グループに分けて、グループごとに各担当教官(5コマ分)を口頭セッションで受講する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション(2班)
- 第2回 項目 筋力計の試作とキャリブレーション
- 第3回 項目 フォースプレートによる跳動作の解析
- 第4回 項目 重心の求め方と運動中の重心軌跡
- 第5回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第6回 項目 オリエンテーション(3班)
- 第7回 項目 自転車運動時の発生エネルギーおよび機械的エネルギーの測定
- 第8回 項目 高齢者疑似体験用具装着時の発生エネルギーおよび機械的エネルギーの測定
- 第9回 項目 運動の効率の求め方
- 第10回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第11回 項目 オリエンテーション(1班)
- 第12回 項目 動作解析に必要な映像の録画の撮影および録画機材の使用方法
- 第13回 項目 動作の撮影と2次元動作解析システムの操作方法
- 第14回 項目 動作の撮影と3次元動作解析システムの操作方法
- 第15回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成

成績評価方法(総合) 出席率100%を前提とし、レポート成績(3回分、80%)と実習意欲(20%)で評価する。

教科書・参考書 参考書：プリント配布

メッセージ バイオメカニクスを受講しておくこと

開設科目	バイオメカニクス実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河合洋祐				

授業の概要 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して学習する。 / 検索キーワード エネルギー - 代謝、キャリブレ - ション、 動作解析、スティックピクチャー、

授業の一般目標 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー - 変化と自転車が行った仕事量の関係が説明できる。 思考・判断の観点： 測定の結果について説明できる。 関心・意欲の観点： 研究を進める上での1つの手法として、測定法そのものに関心を持つことができる。 技能・表現の観点： 測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

授業の計画(全体) この実習は受講生を3グループに分け、グループ毎に各担当教官(5コマ分)をロ - テ - ションで受講する。 <第1週> オリエンテ - ション(2班) <第2週> 筋力計の試作とキャリブレ - ション <第3週> フォ - スプレ - トによる跳動作の解析 <第4週> 重心の求め方と運動中の重心軌跡 <第5週> 解析結果のまとめとレポートの作成 <第6週> オリエンテ - ション(3班) <第7週> 自転車運動時の発生エネルギー - および機械的エネルギー - の測定 <第8週> 高齢者疑似体験用具装着時の発生エネルギー - および機械的エネルギー - の測定 <第9週> 運動の効率の求め方 <第10週> 解析結果のまとめとレポートの作成 <第11週> オリエンテ - ション(1班) <第12週> 動作解析に必要な映像の録画の撮影および録画機材の使用法 <第13週> 動作の撮影と2次元動作解析システムの操作方法 <第14週> 動作の撮影と3次元動作解析システムの操作方法 <第15週> 解析結果のまとめとレポートの作成

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテ - ション(1班)
- 第2回 項目 動作解析に必要な映像の撮影および録画機材の使用法
- 第3回 項目 動作の撮影と2次元動作解析システム操作方法
- 第4回 項目 動作の撮影と3次元動作解析システム操作方法
- 第5回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第6回 項目 オリエンテ - ション(2班)
- 第7回 項目 筋力計の試作とキャリブレ - ション
- 第8回 項目 フォ - スプレ - トによる跳動作の解析
- 第9回 項目 重心の求め方と運動中の重心軌跡
- 第10回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第11回 項目 オリエンテ - ション(3班)
- 第12回 項目 自転車運動時の発生エネルギー および機械的エネルギーの測定
- 第13回 項目 高齢者疑似体験用具装着時の発生エネルギー および機械的エネルギーの測定
- 第14回 項目 運動の効率の求め方
- 第15回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：実習の中で紹介する。

連絡先・オフィスアワー 代表 森田 933-5385

開設科目	バイオメカニクス実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常生活の動作を分析する方法と身体運動の効率などを実習する。

授業の一般目標 この授業では、映像・フォースプレート・自転車エルゴメータ・トレッドミルなどを用いて身体運動や日常生活の動作を分析する方法と身体運動の効率などを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変化と自転車が行った仕事量の関係を説明できる。思考・判断の観点：測定の結果について、適切な説明ができる。関心・意欲の観点：研究方法の一つの手法として、関心を持つことができる。技能・表現の観点：測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

授業の計画(全体) この実習は受講生を3グループに分け、グループ毎に各担当教員(5コマ分)をローテーションで受講する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション(1班)
- 第2回 項目 動作解析に必要な映像の撮影および録画機材の使用法
- 第3回 項目 動作の撮影と2次元動作解析システム操作方法
- 第4回 項目 動作の撮影と3次元動作解析システム操作方法
- 第5回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第6回 項目 オリエンテーション(2班)
- 第7回 項目 筋力計の試作とキャリブレーション
- 第8回 項目 フォースプレートによる跳動作の解析
- 第9回 項目 重心の求め方と運動中の重心軌跡
- 第10回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成
- 第11回 項目 オリエンテーション(3班)
- 第12回 項目 自転車運動時の発生エネルギーおよび機械的エネルギーの測定
- 第13回 項目 高齢者疑似体験用具装着時の発生エネルギーおよび機械的エネルギーの測定
- 第14回 項目 運動の効率の求め方
- 第15回 項目 解析結果のまとめとレポートの作成

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：必要に応じて紹介する。

開設科目	健康運動処方論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	丹信介				

授業の概要 健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ(プロセス)について概説した上で、それぞれのプロセス、すなわち医学検査、運動負荷検査、体力測定などの考え方と進め方、それらの結果を基にした具体的運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)の考え方や対象者に応じた具体的運動プログラムの考え方などについて解説する。 / 検索キーワード 健康 運動処方

授業の一般目標 健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ(プロセス)について理解し、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした具体的運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)作成のための基礎的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ(プロセス)について説明できる。運動処方のための医学検査、運動負荷検査、体力測定に関して説明できる。健康の維持増進のための具体的運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)作成のためのポイントを説明できる。 思考・判断の観点: 医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基に、具体的運動プログラム(運動の種類、強度、時間、頻度)が適切かどうか判断できる。 関心・意欲の観点: 健康の維持増進のための運動処方に関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 身体活動・運動と健康
- 第 2 回 項目 運動処方の基本的考え方と流れ(プロセス)、運動指導者の役割
- 第 3 回 項目 メディカルチェック(内科系、整形外科系)の必要性和基礎知識 1(スポーツ選手を含む)
- 第 4 回 項目 メディカルチェック(内科系、整形外科系)の必要性和基礎知識 2(運動負荷テストを含む)
- 第 5 回 項目 生活習慣、生活・健康状態調査の位置づけと把握の仕方
- 第 6 回 項目 健康との関連からみた体力要素の測定と評価
- 第 7 回 項目 運動処方のための運動の具体的条件 1
- 第 8 回 項目 運動処方のための運動の具体的条件 2
- 第 9 回 項目 運動実施上の注意点(安全対策)(ウォーミングアップ、クーリングダウンを含む)
- 第 10 回 項目 各年代(各ライフステージ)における運動処方 1
- 第 11 回 項目 各年代(各ライフステージ)における運動処方 2
- 第 12 回 項目 女性に対する運動処方
- 第 13 回 項目 生活習慣病予防・改善のための運動処方 1
- 第 14 回 項目 生活習慣病予防・改善のための運動処方 2
- 第 15 回 項目 障害者と運動、まとめ

成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 80~100%未満 授業態度や授業への参加度 = 20%未満 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書: スポーツプログラマー養成講習会テキスト(専門科目), 日本体育施設協会, 日本体育施設協会, 2000年; 運動生理学, 池上晴夫, 朝倉書店, 1995年 / 参考書: 授業時にプリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	体力トレーニング論	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。

授業の一般目標 運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解 0 する。 思考・判断の観点： トレーニングによる一部の器官の適応を他の器官と関連付けて思考することができる。 関心・意欲の観点： 新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心がある。

授業の計画(全体) <第1週> 体力トレーニングの位置づけ(体力の定義、分類、トレーニングの意義) <第2週> トレーニングの一般的原則 <第3週> トレーニングによる形態系の適応 <第4週> トレーニングによる筋・骨格系の適応 <第5週> トレーニングによる呼吸・循環系の適応 <第6週> トレーニングによる代謝・内分泌系の適応 <第7週> レジスタンストレーニングの原理と方法(1) <第8週> レジスタンストレーニングの原理と方法(2) <第9週> アジリティ・トレーニングの原理と方法 <第10週> 局所および全身持久力のトレーニングの原理と方法 <第11週> 体力トレーニングと栄養 <第12週> 年齢・性を考慮した体力トレーニング <第13週> トレーニング計画の作り方の一般的原則 <第14週> アンチド-ピングの必要性 <第15週> まとめ 試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 体力トレーニングの位置づけ(体力の定義、分類、 トレーニングの意義)
- 第 2 回 項目 トレーニングの一般的原則
- 第 3 回 項目 トレーニングによる形態系の適応
- 第 4 回 項目 トレーニングによる筋・骨格系の適応
- 第 5 回 項目 トレーニングによる呼吸・循環系の適応
- 第 6 回 項目 トレーニングによる代謝・内分泌系の適応
- 第 7 回 項目 レジスタンストレーニングの原理と方法(1)
- 第 8 回 項目 レジスタンストレーニングの原理と方法(2)
- 第 9 回 項目 アジリティ・トレーニングの原理と方法
- 第 10 回 項目 局所および全身持久力のトレーニングの原理と方法
- 第 11 回 項目 体力トレーニングと栄養
- 第 12 回 項目 年齢・性を考慮した体力トレーニング
- 第 13 回 項目 トレーニング計画の作り方の一般的原則
- 第 14 回 項目 アンチド-ピングの必要性
- 第 15 回 項目 まとめ 試験

教科書・参考書 参考書： スポ - ツ生理学, 森谷・根本編, 朝倉書店, 1995 年； C 級コ - チ教本(前期・後期), 日本体育協会, 日本体育協会, 1995 年； 新訂 運動生理学概論, 宮下、石井編著, 大修館書店, 1996 年； 骨格筋に対するトレーニング効果, 山田・福永編, NAP, 1997 年； プリント配布

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	メンタルヘルス概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上地広昭				

授業の概要 健康心理学に基づき、メンタルヘルスに関するこれまでの知見をまとめて説明する。特に「ストレス」に関しては、現在行われている最新の研究を織り交ぜながら紹介する。

授業の一般目標 メンタルヘルスに関する基礎知識の習得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：メンタルヘルスに関する基礎知識の正確な理解 思考・判断の観点：メンタルヘルスに関する知識を応用しての問題解決力 態度の観点：授業に対する真摯な姿勢

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 メンタルヘルスの概要 内容 メンタルヘルスに関わる用語説明 授業記録 資料配布
- 第 2 回 項目 健康とパーソナリティ 内容 健康と性格の関係を説明、Y-G 性格検査の実施。 授業記録 資料配布
- 第 3 回 項目 ストレス 1 内容 ストレスに関する理論の説明 授業記録 資料配布
- 第 4 回 項目 ストレス 2 内容 ストレス反応の測定、自己診断。 授業記録 資料配布
- 第 5 回 項目 ストレス 3 内容 ストレスマネジメントの概要 授業記録 資料配布
- 第 6 回 項目 ストレス 4 内容 自立訓練法の説明および実践 授業記録 資料配布
- 第 7 回 項目 ストレス 5 内容 漸進的筋弛緩法の説明および実践 授業記録 資料配布
- 第 8 回 項目 ストレス 6 内容 ストレスに関する従来の研究紹介 授業記録 資料配布
- 第 9 回 項目 健康行動とストレス 内容 健康行動とストレスの関係 授業記録 資料配布
- 第 10 回 項目 学校におけるストレス 内容 学校ストレスとその対策 授業記録 資料配布
- 第 11 回 項目 健康カウンセリング 1 内容 臨床心理学の沿革説明 授業記録 資料配布
- 第 12 回 項目 健康カウンセリング 2 内容 カウンセリングの基礎技法の説明および実践 授業記録 資料配布
- 第 13 回 項目 メンタルヘルス研究法 1 内容 研究計画の組み立て方
- 第 14 回 項目 メンタルヘルス研究法 2 内容 メンタルヘルスに関する研究計画作り
- 第 15 回 項目 メンタルヘルス研究法 3 内容 メンタルヘルスに関する研究発表

備考 隔年開講

開設科目	スポーツ心理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上地広昭				

授業の概要 本講では、体育心理学の沿革および基礎知識について説明し、運動・体育指導に役立つトピックを紹介する。また、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなど、運動・体育指導の現場で有用な技法を実践する。

授業の一般目標 体育心理学の基礎知識を理解する。メンタルトレーニングおよびスポーツカウンセリングの技法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：体育心理学の基礎知識の理解 思考・判断の観点：体育心理学の知識を応用しての問題解決力 態度の観点：真摯に授業に取り組む態度

授業の計画（全体） 体育心理学の分野における代表的な研究テーマをまとめて説明する。また、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングの実践に関しても重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 体育心理学の沿革 内容 体育心理学の成り立ち
- 第 2 回 項目 運動・スポーツとパーソナリティ1 内容 Y-G 性格検査による性格の自己診断 授業記録 資料配布
- 第 3 回 項目 運動・スポーツとパーソナリティ2 内容 「怒り」とスポーツの関係
- 第 4 回 項目 運動・スポーツにおける目標設定 内容 目標設定の利点，方法，および実践
- 第 5 回 項目 メンタルトレーニング 1 内容 心理的競技能力の測定。
- 第 6 回 項目 メンタルトレーニング 2 内容 リラクゼーション技法の解説と実践
- 第 7 回 項目 メンタルトレーニング 3 内容 パフォーマンスエンハンスメントの説明と実践
- 第 8 回 項目 スポーツカウンセリング 1 内容 臨床心理学（主に来談者中心療法）の概要説明
- 第 9 回 項目 スポーツカウンセリング 2 内容 スポーツカウンセリングの方法説明および実践
- 第 10 回 項目 スポーツカウンセリング 3 内容 スポーツカウンセリングの方法説明および実践
- 第 11 回 項目 運動・スポーツと性 内容 スポーツにおける性差および社会的性の説明
- 第 12 回 項目 運動・スポーツにおける集団力学 1 内容 チームワークおよびリーダーシップの説明
- 第 13 回 項目 運動・スポーツにおける集団力学 2 内容 コーチングの説明
- 第 14 回 項目 体育心理学の研究法 1 内容 研究計画の組み立て方
- 第 15 回 項目 体育心理学の研究法 2 内容 研究計画の実践

成績評価方法（総合） 出席状況および定期試験により評価する（ただし、欠席 3 回未満の学生のみを評価対象とする）。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 体育・スポーツ心理学研究室

備考 集中授業

開設科目	スポーツ法学概論	区分	講義	学年	3・4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	諏訪伸夫				

授業の概要 法の基本的目的は社会秩序を維持し、社会生活の円滑を期するとともに平均的ないし配分的正義の実現をめざすものであり、もしその構成員相互の生活利益に対立・争いがあれば平和裡に調整し解決に貢献すべきであるとされている。スポーツ関係法規も同様に考えられる。そのようなスポーツ関係法規は、内容的には、大まかにスポーツの振興、人権（保障）問題、及び事故責任と補償問題にかかわるものなどに区分できる。このようなスポーツ関係法規について、できるだけ事例に即して本講義において、その意義や役割・機能及び構造等について述べる。／検索キーワード スポーツ、法規、責任、事故、補償

授業の一般目標 スポーツ関係法規になじむことから始まって、スポーツ活動に伴って生じる様々な紛争や事故問題について、事例や判例の分析・考察を通して、自力でそれらの紛争や事故問題について取り組み、解決ないし解消でき得る力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．スポーツ法規とは何かについて説明できる。 2．スポーツ法規の役割・機能及び構造について説明できる。 思考・判断の観点： 1．スポーツ法規の役割・機能及び構造等について実際の具体的事例に即して説明できる。 関心・意欲の観点： 1．いわゆるリーガル・マインドを涵養し、スポーツ法規に関する関心を広げ、高めることができる。 態度の観点： 1．スポーツ（活動）に関連して生ずる法的問題について客観的に考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 スポーツ法規の意義と構造 内容 現代国家は福祉国家としてとらえられ、そのような国家は国民の福祉の増進を至上命題としており、スポーツ法規もそのような命題実現のためにあるものである。本講義では、スポーツ関係法規の全体構造について述べる。
- 第 2 回 項目 スポーツ法規の役割・機能 内容 スポーツ法規の役割・機能を理解するための法規に関する原則やスポーツ界特有のスポーツルールなどについて解説する。
- 第 3 回 項目 わが国及び諸外国のスポーツ振興と諸法規 内容 わが国及び諸外国のスポーツ振興のための関係諸法規について、具体的にはアメリカ合衆国、フランス、ドイツ、韓国などについて解説を加えていく。
- 第 4 回 項目 わが国のスポーツ振興にかかわる行財政と法規 内容 スポーツの普及・振興にあたる中央政府と地方政府の行財政にかかわる諸法規について説明する。
- 第 5 回 項目 スポーツ団体と法規・裁判等 内容 競技連盟やスポーツ団体の定める規則等に当該団体の会員（選手）が抵触した場合、しばしば紛糾し、訴訟に至る場合もある。そのような場合の裁判事例について具体的に検討を加える。
- 第 6 回 項目 学校・大学の体育・スポーツをめぐる法的問題 内容 授業や部活動さらには各種大会や競技会等において、教師や監督・コーチなどと児童・生徒・学生及び選手等との間でしばしば紛糾することがある。体罰やしごきの問題等代表的な裁判例を取り上げて、具体的に考察する。
- 第 7 回 項目 プロ・スポーツをめぐる法的問題 内容 プロ・スポーツにおいて、しばしば経営管理者・指導スタッフと選手等をめぐって紛糾する事例がある。ドラフト制度やフリーエージェント制度を解説し、憲法上保障されている職業選択の自由との関連についても検討を加える。
- 第 8 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（1） 内容 スポーツ法規は、万人が好きなきにどこでもスポーツが行えるといういわゆるスポーツの機会均等のために貢献するものでなければならない。本時においては、人種や民族等による差別の問題について法的な考察を加える。
- 第 9 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（2） 内容 スポーツは所得や性による差別があってはならない。本時は、アメリカ合衆国における性的差別をめぐるおきた裁判事例をとりあげ、あわせて税制度や所得問題等についても法的面からの解説を加える。
- 第 10 回 項目 スポーツと機会均等をめぐる法的問題（3） 内容 スポーツを行う際の宗教や信条による差別の問題について法的な考察を加える。

- 第 11 回 項目 スポーツ施設と環境及び隣人保護をめぐる法的問題 内容 野球場やテニスコート近くの隣人は、騒音等により心身に深刻な被害を蒙ることがある。これらに関連する内外の裁判事例を紹介し、考察を加える。
- 第 12 回 項目 スポーツ事故と責任について 内容 スポーツ活動中、不幸にして事故が起きたとき、通例、道義的責任に加えて法的責任が問われることがあるが、本時はこれらについて説明する。
- 第 13 回 項目 スポーツ事故と民事及び刑事責任 内容 スポーツ事故の損害賠償額は、近年ますます巨額化してきている。内外の代表的な民事及び刑事の事例を紹介し、検討を加える。
- 第 14 回 項目 スポーツにおけるリスクマネジメント 内容 スポーツ事故の未然防止や起きてしまったときの補償ないし賠償等いわゆるリスクマネジメントについて解説する。
- 第 15 回 項目 スポーツ仲裁制度 内容 裁判所による紛争解決は、多大な時間、費用及び労力が必要であり、スポーツ組織内の機関による場合は中立性に問題がある。中立機関による中立性が保障された第三者機関による有効な紛争解決策である仲裁裁定は有効な紛争解決策であり、解説を加える。

成績評価方法 (総合) レポート及び試験等で総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：「スポーツ六法」伊藤堯、山田良樹編、道和書院；受講に際して、法令集(例えば、「スポーツ六法」伊藤 堯、山田良樹編、道和書院、2001 年)を準備しておくことが望ましい。

メッセージ スポーツ関係者の必須知識ともいえるスポーツ関係法規を現代的トピックスに即して解説している。

備考 集中授業 隔年開講

開設科目	社会体育実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介、丹信介				

授業の概要 公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を実習する。

授業の一般目標 運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解し指導技術などを習得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導に必要な専門知識を理解する。 思考・判断の観点：対象者にふさわしい運動内容と指導方法を思考・判断する 関心・意欲の観点：公的施設や民間運動施設において運動の指導やプログラムづくりに関心がある。 態度の観点：実習先においては良好な人間関係を持つ。 技能・表現の観点：対象者にふさわしい指導技術がある。

授業の計画（全体） 実習先では、以下の内容を体験実習する。 1．公的施設及び民間運動施設の管理・運営の概要 2．レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案 3．公的施設におけるレクリエーションプログラムの作成と指導 4．公的施設及び民間運動施設における健康・体力づくりのための運動プログラムの作成と指導

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 公的施設や民間運動施設への就職を熱望する学生が望ましい。実習期間は1週間以上になることがある。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, オフィスアワー 月・昼休み

開設科目	文献講読演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	スポ健全員				

授業の概要 スポ - ツ健康科学に関する理論的・実験的研究手法を理解するために国内・外の文献を講読する。

授業の一般目標 スポ - ツ健康科学に関する理論的・実験的研究手法を理解するために国内・外の文献を講読する。その中で、スポ - ツ健康科学の今日的課題を明らかにし、課題解決のための研究方法などが構築できることを目標とする。そして、プレゼンテーション能力を高めることも目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国内・外の文献を講読して、スポ - ツ健康科学に関する理論的・実験的研究手法を理解する。 思考・判断の観点：国内・外の文献を講読して、スポ - ツ健康科学の今日的課題を明らかにし、課題解決のための研究方法を思考する。 関心・意欲の観点：スポ - ツ健康科学の今日的課題に関心を持ち、課題解決に意欲を持つ。 技能・表現の観点：口頭および文章で適切な表現による説明ができる。

授業の計画（全体） 時間配分は、ゼミによって異なる。 1．実験的研究方法 2．課題文献検索の方法1（国内） 3．課題文献検索の方法2（国外） 4．実験的研究で用いる統計処理法1 5．実験的研究で用いる統計処理法2 6．文献講読 7．まとめ

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 備考 15コマ分の演習は、受講生の所属ゼミで行う。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, オフィスアワー 月・昼

開設科目	健康運動処方演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	丹信介、曾根涼子				

授業の概要 医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個々人に応じた運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）の具体的なたて方について解説し、演習や実習を通して、実際に運動プログラムを作成する。 / 検索キーワード 健康 運動処方 運動プログラム作成

授業の一般目標 演習や実習を通して、健康運動処方論で講義した内容に関する理解をより深めるとともに、いろいろな対象に応じた運動処方を、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にして具体的にを行うことができる基礎的な実践能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個々人に応じた運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）の具体的なたて方について説明できる。

思考・判断の観点：いろいろな対象に応じた運動処方を、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にして具体的にを行うことができる。 関心・意欲の観点：いろいろな対象に応じた運動処方を実際に行うことに、関心を持つ。 技能・表現の観点：運動負荷検査、体力測定の結果を基に、運動処方を実際に行うための計算等が出来る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 運動負荷テスト の実際 1
- 第 2 回 項目 運動負荷テスト の実際 2
- 第 3 回 項目 健康との関連からみた体力要素 の測定と評価の 実際
- 第 4 回 項目 運動プログラム 作成の仕方 1 内容 表計算ソフト・エクセルを用いて作成
- 第 5 回 項目 運動プログラム 作成の仕方 2 内容 表計算ソフト・エクセルを用いて作成
- 第 6 回 項目 運動プログラム 作成の仕方 3 内容 表計算ソフト・エクセルを用いて作成
- 第 7 回 項目 運動プログラム 作成の仕方 4 内容 表計算ソフト・エクセルを用いて作成
- 第 8 回 項目 運動プログラム 作成の仕方 5 内容 表計算ソフト・エクセルを用いて作成
- 第 9 回 項目 生活習慣病予 防・改善のための運動プログラム
- 第 10 回 項目 肥満予防・改善 のための運動プログラム
- 第 11 回 項目 健康との関連からみた体力の維持向上のための 運動プログラム
- 第 12 回 項目 ケーススタディ 1
- 第 13 回 項目 ケーススタディ 2
- 第 14 回 項目 ケーススタディ 3
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）定期試験（中間試験と期末試験）＝ 60～80 % 授業態度や授業への参加度＝ 20 % 未満 演習＝ 20 % 未満 出席＝ 欠格条件

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。 / 参考書：スポーツプログラマー養成講習会テキスト（専門科目）、日本体育施設協会、日本体育施設協会、2000年；運動生理学、池上晴夫、朝倉書店、1995年

メッセージ 履修上の注意 健康運動処方論を受講していること 一部、実習を行います。また、ノートパソコンを用意して下さい。健康運動処方論で使用した教科書、プリント、ノートを持ってきて下さい。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12: 50～14: 20

開設科目	体力トレーニング処方演習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 トレ - ニングの指導法や体力測定及びそのデ - タ - 処理法に関する実習を行う。

授業の一般目標 トレ - ニングの指導法や体力測定方法を理解し、得られたデ - タ - の整理方法について実習を通して理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 体力測定の意義と方法を理解する。トレ - ニングの指導法理解する。得られたデ - タ - の整理方法について実習を通して理解する。 思考・判断の観点： 既成の体力測定法にとらわれずに新しい方法を思考する。 関心・意欲の観点： 体力測定結果のデ - タ - の利用法について関心を持つ。

授業の計画(全体) <第1週> ウォ - ミングアップとク - リングダウンの生理学的意義 <第2週> ストレッチングの生理学的意義とストレッチングの実際・指導上の留意点(1) <第3週> ストレッチングの生理学的意義とストレッチングの実際・指導上の留意点(2) <第4週> トレ - ニングマシン-を使用しないレジスタンストレ - ニングの実際・指導上の留意点 <第5週> トレ - ニングマシン-を使用するレジスタンストレ - ニングの実際・指導上の留意点 <第6週> 体力測定の意義と実施上の留意点 <第7週> 体力測定の実際(1) <第8週> 体力測定の実際(2) <第9週> 体力測定の実際(3) <第10週> 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(1) <第11週> 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(2) <第12週> 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(3) <第13週> 心拍数から見た運動強度のモニタリング <第14週> 血中乳酸値から見た運動強度のモニタリング <第15週> まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ウォ - ミングアップとク - リングダウンの生理学的意義
- 第2回 項目 ストレッチングの生理学的意義とストレッチングの実際・指導上の留意点(1)
- 第3回 項目 ストレッチングの生理学的意義とストレッチングの実際・指導上の留意点(2)
- 第4回 項目 トレ - ニングマシン-を使用しないレジスタンストレ - ニングの実際・指導上の留意点
- 第5回 項目 トレ - ニングマシン-を使用するレジスタンストレ - ニングの実際・指導上の留意点
- 第6回 項目 体力測定の意義と実施上の留意点
- 第7回 項目 体力測定の実際(1)
- 第8回 項目 体力測定の実際(2)
- 第9回 項目 体力測定の実際(3)
- 第10回 項目 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(1)
- 第11回 項目 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(2)
- 第12回 項目 体力測定結果のデ - タ - 処理、統計法(3)
- 第13回 項目 心拍数から見た運動強度のモニタリング
- 第14回 項目 血中乳酸値から見た運動強度のモニタリング
- 第15回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書： C級コ - チ教本(前期・後期), 日本体育協会, 日本体育協会, 1995年; 健康・スポーツ科学のための統計学, 出村慎一, 大修館書店, 1996年; 健康運動実践指導者用テキスト, 宮下ら編, 健康・体力づくり事業団, 1998年; プリント配布

メッセージ 本実習は2コマ連続で行う。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	武道	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 柔道の基礎的な技術の習得する。特に固技を重点的に行う。

授業の一般目標 柔道の基本動作，投げ技，および固技の理解・実践を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：柔道の基本技術の名称，動作を正確に理解する。 技能・表現の
 観点：柔道の基本技術を正確に習得し，乱取りに応用する。

授業の計画（全体） 柔道の基礎的な技術の習得を目指す。乱取りに関しては，安全面から寝技を中心に行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 柔道の沿革 内容 「柔道」の成り立ち，準備運動。
- 第 2 回 項目 柔道の基本動作 内容 基本動作の説明および練習
- 第 3 回 項目 投げ技 1 内容 出足払い，膝車
- 第 4 回 項目 投げ技 2 内容 大外刈，小外刈，大内刈，小内刈
- 第 5 回 項目 投げ技 3 内容 背負い投げ，一本背負い，内股
- 第 6 回 項目 押込み技 1 内容 袈裟固め，横四方固め，
- 第 7 回 項目 押込み技 2 内容 上四方固め，縦四方固め
- 第 8 回 項目 締技 1 内容 十字締め，送り襟締め，裸締め，袖車締め
- 第 9 回 項目 締技 2 内容 十字締め，送り襟締め，裸締め，袖車締め
- 第 10 回 項目 関節技 1 内容 腕挫十字固
- 第 11 回 項目 関節技 2 内容 腕緘
- 第 12 回 項目 寝技乱取り 1
- 第 13 回 項目 寝技乱取り 2
- 第 14 回 項目 寝技乱取り 3
- 第 15 回 項目 寝技乱取り 4

成績評価方法（総合） 出席率および授業態度により評価を行う。

連絡先・オフィスアワー 体育・スポーツ心理学研究室

開設科目	運動指導論(運動方法学を含む。)	区分	講義と演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	丹信介、塩田正俊				

授業の概要 一般成人のみならず青少年や高齢者も含めた対象に、健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する基礎知識、指導の考え方、指導の具体的方法などについて解説するとともに、適宜それに関する演習や実習を行う。 / 検索キーワード 運動 運動指導

授業の一般目標 一般成人のみならず青少年や高齢者も含めた対象に、健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する基礎知識、指導の考え方、指導の具体的方法などについて理解する。また、適宜行われる演習や実習を通じて、授業内容の理解をより深めるとともに、具体的に各種運動を指導することができる実践能力の基礎を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する特徴、指導の基本的考え方、指導の具体的方法について説明できる。 思考・判断の観点：一般成人のみならず青少年や高齢者も含め、対象に応じた健康づくりのための各種運動内容、その方法を適切に選択できる。 関心・意欲の観点：健康づくりのための各種運動指導に関心を持つ。 技能・表現の観点：健康づくりのための各種運動を、対象に応じて具体的に指導することができる(基礎的な部分について)。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 対象に応じたスポーツ指導(コミュニケーション・スキルを含む)のための基礎知識 1 (特に青少年、高齢者)
- 第 2 回 項目 対象に応じたスポーツ指導(スポーツ指導とスポーツ医科学に関する基礎知識を含む)のための基礎知識 2
- 第 3 回 項目 各種体操(ストレッチングを含む)指導に関する基礎知識
- 第 4 回 項目 各種体操(ストレッチングを含む)指導の実際
- 第 5 回 項目 ウォーキング・ジョギング指導に関する基礎知識
- 第 6 回 項目 ウォーキング・ジョギング指導の実際 1
- 第 7 回 項目 ウォーキング・ジョギング指導の実際 2
- 第 8 回 項目 エアロビックダンスに関する基礎知識
- 第 9 回 項目 エアロビックダンス指導の実際
- 第 10 回 項目 水中運動に関する基礎知識
- 第 11 回 項目 水中運動指導の実際
- 第 12 回 項目 軽スポーツ指導に関する基礎知識
- 第 13 回 項目 軽スポーツ指導の実際 1 2
- 第 14 回 項目 軽スポーツ)指導の実際 2
- 第 15 回 項目 軽スポーツ指導の実際 3・まとめ

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 60~80% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。 / 参考書：スポーツプログラマー養成講習会テキスト(専門科目), 日本体育施設協会, 日本体育施設協会, 2000年

メッセージ 履修上の注意 運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、健康運動処方論、体カトレーニング論を受講していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	森田俊介				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、実験の方法・論文の書き方について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な実験を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、実験結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、実験結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる 関心・意欲の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 授業計画【概要・授業の目標(予定)】 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な実験の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 4年間の総決算のつもりで取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385 shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、実験の方法・論文の書き方について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な実験を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、実験結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、実験結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：人間の体に関心を持ち、運動時の身体機能の変化や心の変化の意味を積極的に明らかにする意欲を持つことができる。 態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：運動時の体と心の変化について、明らかにするための技術や調査を積極的に身につけ、明らかにすることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な実験の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 原則、毎日出席すること〔研究成果等について討議する〕=欠格条件 卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、研究の方法・論文の書き方などについて指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、仮説を明らかにするための実験を行い、得られた結果をまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 研究テーマについて、実験結果に基づいて、自らの考えを論理的かつ簡潔に述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 研究テーマを決定した後、具体的な実験方法について、指導を行う。進行状況の報告に基づき、ゼミ形式や個別指導により、論文としてまとめることができるよう指導する。

成績評価方法(総合) 作成過程、完成度により総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	丹信介				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、実験・調査の方法、論文の書き方等について指導を行う。 / 検索キーワード 卒業論文 卒業研究

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な実験・調査を行い、その結果を論文にまとめることを通じて、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、実験・調査結果のまとめ方、発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、実験・調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマについて、関心・意欲を持ち続ける。 態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、具体的な実験・調査の方法について指導を行う。各自の実験・調査の進行状況を適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、研究の方法・論文の書き方などについて指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な実験を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、実験結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、実験結果に基づいて、自らの考えを理論的に、また、分かりやすく述べることができる。 態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、具体的な研究の方法について指導を行う。各自の調 研究の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

生活健康科学コース

開設科目	健康科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介・山本善積・五島淑子				

授業の概要 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する今日的な話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。 / 検索キーワード 健康、生活、運動、食生活、住生活

授業の一般目標 健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関する科学的な視点で捉え、その概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、運動、食生活、住生活の場で実践できる、問題や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 健康と運動のかかわりについて説明できる 2 健康と食生活のかかわりについて説明できる 3 健康的な住生活について説明できる 思考・判断の観点： 1 健康と運動のかかわりについて考察できる。 2 健康と食生活のかかわりについて考察できる。 3 健康と住生活のかかわりについて考察できる。 関心・意欲の観点： 1 運動に関心を広げ、実践できる。 2 食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。 3 住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。 態度の観点： 1 健康について主体的に改善をはかるうとする。

授業の計画（全体） 健康と運動のかかわり、健康と食生活のかかわり、および健康的な住生活について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 健康科学の視点
- 第 2 回 項目 現代社会と健康
- 第 3 回 項目 健康と運動
- 第 4 回 項目 健康づくりのための運動処方
- 第 5 回 項目 レポート演習（1）
- 第 6 回 項目 健康とは
- 第 7 回 項目 健康と食生活
- 第 8 回 項目 日本人の食生活の諸問題
- 第 9 回 項目 のぞましい食生活
- 第 10 回 項目 レポート演習（2）
- 第 11 回 項目 健康的な住まいの基本－日照、通風
- 第 12 回 項目 住まいの健康問題－シックハウス、換気
- 第 13 回 項目 住環境の安全問題－家庭内外の事故
- 第 14 回 項目 健康的な住生活－健康を守る取り組み
- 第 15 回 項目 レポート演習（3）

成績評価方法（総合） 各テーマごとのレポート及び出席状況とを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	発育発達老化論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 「小児は、大人の縮図ではない。」ということを目にする。これは、健康問題について考える場合、加齢の過程を正しく認識することが重要であることを示唆するものである。同様に、教育の領域においても然りである。本講義では、乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化について概説する。/検索キーワード 発育、発達、成熟

授業の一般目標 乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての理解する。また、各ライフステージにおける健康保持や運動指導などの留意点について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての概略を説明できる。思考・判断の観点：授業で取り上げた項目について、運動指導などの関わり合いからの見方・考え方ができる。関心・意欲の観点：構造的・機能的発育発達経過の観点から人体に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 ・身体発達の概観 ・身体発達の一般経過 ・発育発達に影響する諸因子
- 第 2 回 項目 身体発達研究の方法論 I 内容 ・歴年齢と生理学的年齢 ・資料収集法
- 第 3 回 項目 身体発達研究の方法論 II 内容 資料の分析方法
- 第 4 回 項目 骨の成長とリモデリング 内容 ・骨の機能 ・骨の一般的発育経過 授業外指示 レポート 1 作成 指示
- 第 5 回 項目 形態発育の経過（長育・副育） 内容 ・身長発育 ・座高発育 ・下肢長発育 ・肩幅・腰幅発育 ・頭長・頭幅発育 授業外指示 レポート 1 作成 指示
- 第 6 回 項目 形態発育の経過（周育・量育） 内容 ・頭囲・胸囲・上腕囲発育 ・体重・皮下脂肪発育
- 第 7 回 項目 形態発育の経過（身体組成） 内容 ・身体組成とは ・肥満と体脂肪
- 第 8 回 項目 骨格筋の構造と機能 I 内容 ・筋の構造 ・筋の発生分化 ・筋線維タイプ
- 第 9 回 項目 骨格筋の構造と機能 II 内容 ・筋収縮 ・筋収縮のエネルギー源
- 第 10 回 項目 機能発達の経過（筋力・パワー） 内容 ・静的筋力の発達 ・筋力の相対発達
- 第 11 回 項目 呼吸循環系の概略 内容 呼吸循環系と酸素摂取量
- 第 12 回 項目 機能発達の経過（全身持久力） 内容 最大酸素摂取量の発達と健康との関わり
- 第 13 回 項目 身体発達に及ぼすホルモンの影響 内容 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、性ホルモンと発育発達
- 第 14 回 項目 発育期・中高年齢期における運動の意義と留意点 内容 ・発育期におけるトレーニング実施上の留意点 ・中高年齢期における筋力トレーニングの重要性
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験とレポートで評価する。欠席回数 4 回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書：からだの発達, 高石昌弘、樋口満、小島武次, 大修館書店, 1998 年

開設科目	人体構造機能論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 身体を構成している部分の構造と形態(解剖学)そして部分の働き(生理学)について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標 運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。 2. 生体の化学組成について説明できる。 3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。 4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。 思考・判断の観点: 授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。 関心・意欲の観点: 構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 解剖学と生理学の概観
- 第 2 回 項目 個体構成と解剖学用語 内容 個体を構成するレベル 解剖学用語 授業外指示 小テスト1の指示
- 第 3 回 項目 生体の化学組成 I 内容 小テスト1 人体を構成する主要元素 生体の化学組成 1
- 第 4 回 項目 生体の化学組成 II 内容 生体の化学組成 2 授業外指示 小テスト2の指示
- 第 5 回 項目 細胞と組織 内容 小テスト2 細胞概説 人体の組織
- 第 6 回 項目 骨学概論 内容 骨格系の機能 骨の化学組成 骨形成の経過 骨の一般構造
- 第 7 回 項目 体幹の骨格 内容 椎骨の一般構造 と各椎骨の特色
- 第 8 回 項目 体肢の骨格 内容 上肢・下肢の構成
- 第 9 回 項目 関節 内容 関節の一般構造 と各関節の可動性 授業外指示 小テスト3の指示
- 第 10 回 項目 骨格筋の概観 内容 小テスト3 骨格筋の構造 筋線維タイプ
- 第 11 回 項目 筋の機能 内容 筋収縮の諸系 ATPの再合成経路
- 第 12 回 項目 身体運動の諸型 内容 身体運動と骨格 筋の呼称
- 第 13 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 I 内容 体幹の筋群 授業外指示 小テスト4の指示
- 第 14 回 項目 骨格筋の肉眼解剖学 II 内容 小テスト4 体肢の筋群
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数4回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書: 人体の構造と機能, エレイン N. マリーブ著; 林正健二 [ほか] 訳, 医学書院, 1999年

メッセージ 学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

開設科目	環境生体適応学	区分	講義と演習	学年	2, 3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 自律神経系
- 第 3 回 項目 環境生体適応学(生理学)総論 内分泌系
- 第 4 回 項目 体温調節の機能
- 第 5 回 項目 温度受容器について 内容 実習 I
- 第 6 回 項目 環境温度の生理学 寒冷 I
- 第 7 回 項目 環境温度の生理学 寒冷 II
- 第 8 回 項目 寒冷生体反応について 内容 実習 II
- 第 9 回 項目 環境温度の生理学 暑熱
- 第 10 回 項目 圧力の生理学 低圧 I
- 第 11 回 項目 圧力の生理学 低圧 II
- 第 12 回 項目 圧力の生理学 高圧
- 第 13 回 項目 高圧に対する生体反応について 内容 実習 III
- 第 14 回 項目 生体機能の周期性変化(日周・年周リズム)
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：環境生理学, 黒島, 理工学社, 1993 年

メッセージ 2/3 以上出席が、単位認定のための最低必要条件です。

連絡先・オフィスアワー sone@yamaguchi-u.ac.jp

備考 隔年開講

開設科目	生活化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村上清文・和泉研二・源田智子				

授業の概要 無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標 無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。 関心・意欲の観点： 化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

授業の計画（全体） 無機化学、有機化学および物理化学の各領域で5週づつ講義を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに - 化学の領域 -
- 第2回 項目 原子の構造と元素の周期表
- 第3回 項目 化学変化と原子・分子
- 第4回 項目 水溶液とその性質
- 第5回 項目 化学平衡
- 第6回 項目 無機物質の種類とその性質
- 第7回 項目 有機化合物の種類とその性質
- 第8回 項目 天然の化合物と合成品
- 第9回 項目 新素材の化学とその利用
- 第10回 項目 地球環境と化学
- 第11回 項目 物質の状態
- 第12回 項目 エネルギー、仕事、熱
- 第13回 項目 熱力学第一法則と状態関数
- 第14回 項目 化学現象を熱的・エネルギー的にとらえることの意義
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992年；岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』, 桜井秀樹, 岩波書店, 2001年

開設科目	生活の有機化学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	源田智子				

授業の概要 有機化学の基礎となる分子の性質や化学反応性について説明する。また日常の身近な事象を題材に、生活環境と科学の原理や概念との関連づけができるように解説する。

授業の一般目標 基本的な有機化合物の結合様式や反応を学び、物理的・化学的性質について理解する。また簡単な生体分子や代謝経路について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 基礎的な有機分子の命名法を理解し説明できる。 2. 有機分子の構造や反応性を説明できる。 3. 簡単な生体分子について理解し、その構造や代謝経路について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 有機化学物質の構造や反応を「電子の流れ」によって説明できる。 2. 身の回りの物質や日常生活の諸現象を化合物の物性と関連づけて理解できる。 関心・意欲の観点： 日常生活における現象や物質について科学的な見方ができるようになることで、理科教育における児童・生徒の生活経験に即した物質観の育成に寄与できる。

授業の計画(全体) 授業は高校までに習った事項を復習しながら、基本的な物質毎に毎時その命名法から構造、反応について説明していく。理解の程度を見極めるために適宜レポートを課す。レポートの解説は講義の中で行い、その内容と講義内での説明に応じて期末試験を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 有機化学とは、炭素原子の電子状態 内容 結合と電子軌道について
- 第 2 回 項目 有機化合物の性質-アルカン 内容 アルカンの命名法と構造、官能基について
- 第 3 回 項目 有機化合物の性質-アルケンとアルキン 内容 命名法と構造や性質について
- 第 4 回 項目 アルケンとアルキンの反応 内容 付加反応について
- 第 5 回 項目 芳香族化合物、ハロゲン化アルキル 内容 命名法と構造や性質について
- 第 6 回 項目 アルコール、フェノール、エーテル 内容 命名法と構造や性質について
- 第 7 回 項目 アルデヒドとケトン；求核付加反応 内容 命名法と構造や性質及び、付加反応について
- 第 8 回 項目 カルボン酸とその誘導体 内容 命名法と構造や性質について
- 第 9 回 項目 アミン、染料の化学 内容 ペ - パ - クロマト
- 第 10 回 項目 生体物質；炭水化物および糖 内容 構造および性質について
- 第 11 回 項目 生体物質；アミノ酸、タンパク質 内容 構造および性質について
- 第 12 回 項目 代謝経路
- 第 13 回 項目 身の回りの化学物質
- 第 14 回 項目 演習 内容 数題の課題を授業中に回答、レポートの提出
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 授業全体を通じての質問事項を回答する

成績評価方法(総合) 適宜課すレポートと出席、期末試験により評価する。

教科書・参考書 教科書： 配付プリントに従って行う。 / 参考書： なっとくする有機化学, 秋葉欣哉, 講談社, 2003年； 有機化学概説第5版, マクマリー, 東京化学同人, 2004年； 有機化学概説第5版, マクマリー, 東京化学同人, 2004年； 大学への橋渡し 有機化学, 宮本真敏、斉藤正治, 化学同人, 2006年； 有機化合物命名のてびき, 小川雅彌、村井真二監修, 化学同人, 2004年

開設科目	栄養科学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。 / 検索キーワード 生命、栄養と栄養素、消化、吸収、排泄

授業の一般目標 生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。 2 . 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。 思考・判断の観点： 個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。 関心・意欲の観点： 自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生命と細胞（生命）
- 第 2 回 項目 生命と細胞（細胞のしくみ）
- 第 3 回 項目 生命とタンパク質（アミノ酸とタンパク質）
- 第 4 回 項目 生命とタンパク質（タンパク質の機能と役割）
- 第 5 回 項目 エネルギー代謝と糖質
- 第 6 回 項目 エネルギー代謝と脂質
- 第 7 回 項目 脂質の機能と役割
- 第 8 回 項目 ビタミンの生体内機能
- 第 9 回 項目 ビタミンの重要性
- 第 10 回 項目 ミネラル（無機質）の生体機能
- 第 11 回 項目 ミネラル（無機質）の重要性
- 第 12 回 項目 食物繊維の生体内での役割
- 第 13 回 項目 ビデオ鑑賞（消化と吸収）
- 第 14 回 項目 現代の食生活の諸問題（ダイエット）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：新版 新しい栄養学, 坂本 清 他, 三共出版, 2005 年；教科書の他に、資料を十数枚配布する。

メッセージ 文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているので、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

開設科目	栄養科学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかわりを学ぶ。ついで、幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。/ 検索キーワード ライフサイクルの栄養、食生活と栄養、生活習慣病

授業の一般目標 この授業では、乳幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解し、それぞれの時期における栄養学的重要性を知る。次に、それを土台に、おもな生活習慣病の病態を理解し、また、その予防について考えられるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。 2. 主な生活習慣病について理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 1. 実際の生活状況と生活習慣病との関連を考えることができる。 2. マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。 関心・意欲の観点： 授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 栄養と病態 (栄養障害と疾患)
- 第 2 回 項目 エネルギー代謝の基本
- 第 3 回 項目 栄養必要量の考え方
- 第 4 回 項目 栄養欠乏および過剰の病理
- 第 5 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (胎児の栄養)
- 第 6 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (乳幼児の栄養)
- 第 7 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (学童期・青少年期の栄養)
- 第 8 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (成人の栄養)
- 第 9 回 項目 ライフサイクルの栄養学 (老人の栄養)
- 第 10 回 項目 通風・肥満と食生活
- 第 11 回 項目 糖尿病と食生活
- 第 12 回 項目 骨粗鬆症・貧血と食生活
- 第 13 回 項目 高血圧・動脈硬化と食生活
- 第 14 回 項目 心臓病・脳卒中と食生活
- 第 15 回 項目 ビデオ鑑賞・まとめ

教科書・参考書 教科書： 授業用のプリントを数十枚配布する

メッセージ 栄養学・で学んだ基礎を土台に、栄養と食生活と疾病との関連性を構築できるように学んでほしい。

開設科目	運動栄養学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、基礎的栄養学を土台に、先ず、骨格の構築と栄養素との関係を学習し、次に、スタミナと栄養（エネルギー代謝を含む）との関係、ウェイトコントロールと栄養との関係、疲労回復と栄養との関係等について学び、運動と栄養の関係を考える。/ 検索キーワード 骨格、筋肉、スタミナ、グリコーゲン、熱産生、疲労と回復

授業の一般目標 栄養と運動の関係を理解し、より具体的に説明できる。（スタミナと栄養の関係、疲労回復と栄養関係など）

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業のガイダンス・骨格
- 第 2 回 項目 筋肉筋肉
- 第 3 回 項目 まとめ（身体作りの栄養学）
- 第 4 回 項目 スタミナのメカニズム
- 第 5 回 項目 エネルギー代謝とエネルギー源
- 第 6 回 項目 グリコーゲンとスタミナ
- 第 7 回 項目 脂肪とスタミナ
- 第 8 回 項目 貧血とスタミナ
- 第 9 回 項目 まとめ（スタミナの栄養学）
- 第 10 回 項目 体脂肪の貯蔵と放出のメカニズム
- 第 11 回 項目 体熱産生と基礎代謝
- 第 12 回 項目 まとめ（ウェイト管理の栄養学）
- 第 13 回 項目 疲労のメカニズムと疲労の回復
- 第 14 回 項目 まとめ（疲労と回復の栄養学）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：授業用のプリントを 30 数枚配布する。

メッセージ 「ポパイのほうれん草」のような話はない。「栄養を考える」ことだけで、100%以上の競技力、運動能力を引き出すことは無理だが、持てる力を 100%発揮するためには「栄養を考える」ことは必須である。

開設科目	病態栄養学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 疾病構造の変遷を概観し、生活習慣病の要因構造について述べる。その上で各生活習慣病がどのような原因で発症するか、生理・生化学および栄養学的な観点から概説する。

授業の一般目標 生活習慣病(成人病)を中心に各種疾患の病態生理(発症、原因、症状等)について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各生活習慣病の原因について理解し、説明することができる。

思考・判断の観点: 生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。 関

心・意欲の観点: 生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。 技能・表現

の観点: 生活習慣と疾病の関連について解説し、その改善と効果について表現できる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活習慣病(成人病)の概観
- 第 2 回 項目 肥満
- 第 3 回 項目 肥満の判定法
- 第 4 回 項目 糖尿病
- 第 5 回 項目 高脂血症
- 第 6 回 項目 動脈硬化
- 第 7 回 項目 高血圧症
- 第 8 回 項目 血圧測定法の実 際
- 第 9 回 項目 心臓病
- 第 10 回 項目 脳血管障害(脳 卒中)
- 第 11 回 項目 悪性新生物(ガ ン)
- 第 12 回 項目 アレルギー疾患(気 管支喘息)
- 第 13 回 項目 骨粗鬆症
- 第 14 回 項目 高尿酸血症
- 第 15 回 項目 高齢者の健康

成績評価方法(総合) 欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠 席として扱います。

教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書: 必要に応じて紹介する。

メッセージ 人体構造機能論、運動生理学、運動生化学を履修していることが望ましい。

開設科目	栄養科学実験	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、簡単な実験器具や薬品等の取り扱い方など基本的な実験の基礎技術について学習し、ついで各栄養素を題材に、それぞれの生物学的、科学的特性を、実験を通して体得する。さらに、食品衛生的な立場から、微生物に関する実験や食品添加物の検出実験等を行う。 / 検索キーワード 試薬、ガラス器具、栄養素、微生物、顕微鏡、食品添加物

授業の一般目標 1. 基礎的な化学実験・生物学実験の技術を習得する。 2. 各種栄養素の化学的特性や生物学的特性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各実験について、原理までしっかりと理解し、説明できる。 思考・判断の観点：各実験に使われている器具、試薬などについてその役割や意味を説明できる。 関心・意欲の観点：実験を通して栄養学的、食品学的、食品衛生学的興味関心を高める。 態度の観点：それぞれの実験に対して、技術の習得だけでなく、その原理的内容についても把握する。また、他人に対して協調的、建設的態度がとれる。 技能・表現の観点：基礎的な化学実験、生物学実験の技術をマスターし、使用できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業のガイダンス・各種実験器具の取り扱いについて（1）
- 第 2 回 項目 各種実験器具の取り扱いについて（2）
- 第 3 回 項目 糖質について（1）
- 第 4 回 項目 糖質について（2）
- 第 5 回 項目 糖質について（3）
- 第 6 回 項目 タンパク質について（1）
- 第 7 回 項目 タンパク質について（2）
- 第 8 回 項目 脂肪について（1）
- 第 9 回 項目 脂肪について（2）
- 第 10 回 項目 ミネラル・ビタミンについて（1）
- 第 11 回 項目 ミネラル・ビタミンについて（2）
- 第 12 回 項目 微生物（細菌・酵母・カビ）に関する実験（1）
- 第 13 回 項目 微生物（細菌・酵母・カビ）に関する実験（2）
- 第 14 回 項目 食品添加物に関する実験
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：授業用のプリントをまとめた冊子（50ページ）を配布する

メッセージ 実験の科目が少ないので、興味のある者は、積極的に履修して欲しい。特に、卒論で、実験テーマ（食物）を希望する場合は、履修しておくことが望ましい。

開設科目	食生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。 / 検索キーワード 食文化 食生活

授業の一般目標 (1) 食文化を学ぶ意義・目的を理解する。(2) 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。(3) 現代の食生活の問題点を理解する。(4) 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 食文化とは何かについて説明できる。2 世界および日本の食文化について理解する。3 食文化の研究の意義を理解する。 思考・判断の観点: 1 食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。2 現代の食生活の問題点を述べるができる。 関心・意欲の観点: 1 食文化に関する関心を広げ、食に対する問題意識を高めることができる。 態度の観点: 1 日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 食文化を学ぶ目的を説明し、主食、肉食、乳利用の食文化について講義する。さらに現代の食生活について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 食文化を学ぶとは
- 第 2 回 項目 生活様式と食
- 第 3 回 項目 主食の条件
- 第 4 回 項目 肉食の文化
- 第 5 回 項目 乳利用の文化
- 第 6 回 項目 食品加工の知恵
- 第 7 回 項目 食事行動・宗教 と食のタブー
- 第 8 回 項目 ヨーロッパの食文化
- 第 9 回 項目 料理のお国柄
- 第 10 回 項目 現代の食生活 1 内容 子どもの食生活 1
- 第 11 回 項目 現代の食生活 2 内容 子どもの食生活 2
- 第 12 回 項目 現代の食生活 3 内容 高齢者の食生活
- 第 13 回 項目 食生活の問題点
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 最後に課題レポートを課す。出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書: なぜひとりで食べるの, 足立己幸・NHK「おはよう広場」, 日本放送出版協会, 1983年; 食文化入門, 石毛直道・鄭大聲編, 講談社, 1995年; 知っていますか子どもたちの食卓, 足立己幸・NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2000年; 変わる家族 変わる食卓, 岩村暢子, 勁草書房, 2003年; 65歳からの食卓, 足立己幸・松下佳代・NHK「65歳からの食卓」プロジェクト, NHK出版, 2004年; 和食と日本文化, 原田信男, 小学館, 2005年; 食の文化を知る事典, 岡田 哲, 東京堂出版, 1998年

メッセージ ビデオ教材を使用します。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー: 金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設科目	食品科学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 この授業では、食品素材の特徴および調理特性について習得する。また、嗜好性、調理操作についても講義する。 / 検索キーワード 食品科学、調理学

授業の一般目標 1) 調理と嗜好性について理解する。 2) 調理操作の種類と目的を理解する。 3) それぞれの食品について、種類、成分などの基本的性質を説明し、調理特性を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 それぞれの食品成分の特徴を理解する 2 それぞれの食品の調理特性を理解する。 3 調理と嗜好性を理解する。 4 調理操作について理解する。 思考・判断の観点： 1 食品成分の特徴を科学的な立場で説明できる。 2 食品の調理特性を科学的な立場で説明できる。 3 調理と嗜好性を説明できる。 4 調理操作の違いを説明できる。 関心・意欲の観点： 1 食品に対する科学的知識を高める 2 調理特性に対する科学的知識を高める。 3 調理と嗜好性について、科学的知識を高める。 態度の観点： 1 食品に関心をもつ。 2 調理に関心をもつ。 3 おいしさに関心を持つ。

授業の計画(全体) 調理と嗜好性、調理操作の目的と特徴について講義し、各論として、植物性食品(米、小麦粉、いも類、豆類、野菜類、果実類など)の特徴と調理性、動物性食品(食肉類、魚介類、鶏卵、牛乳・乳製品)の調理性などについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調理の目的
- 第 2 回 項目 調理操作(非加熱調理と加熱調理)
- 第 3 回 項目 米の調理
- 第 4 回 項目 小麦の調理
- 第 5 回 項目 芋類の調理
- 第 6 回 項目 豆類の調理
- 第 7 回 項目 野菜類・果実類の調理
- 第 8 回 項目 食肉類の調理
- 第 9 回 項目 魚介類の調理
- 第 10 回 項目 鶏卵の調理
- 第 11 回 項目 牛乳・乳製品の調理
- 第 12 回 項目 成分抽出素材の調理性
- 第 13 回 項目 嗜好飲料
- 第 14 回 項目 食べ物の味
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 講義した内容についての試験を行い、評価する。

教科書・参考書 教科書：食品・栄養科学シリーズ 調理学, 池田ひろ・木戸詔子編, 化学同人, 2000年 / 参考書：調理と理論, 山崎清子・島田キミエ他, 同文書院, 2003年

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16:10~17:40

開設科目	食品加工学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 私たちの身のまわりには、多くの種類の加工食品があふれている。食品加工・貯蔵の原理と、各論として農産加工食品や畜産加工食品などの製法や市販品、伝統的な加工食品について説明する。/
検索キーワード 食品加工

授業の一般目標 1)食品の加工方法の原理と加工食品の種類を理解する。2)伝統的な加工食品について理解を深める。3)市販の加工食品について、主体的な判断をもって購入することができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1食品の加工の原理を理解する 2伝統的な加工食品を理解する。3加工食品の種類がわかる。思考・判断の観点: 1加工食品に対して、自分の意見を述べることができる 関心・意欲の観点: 1伝統的な加工食品に関心を持つ。2新しい加工技術に関心をもつ。態度の観点: 1加工食品について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 食品を加工する目的、方法について説明し、各論で加工食品について概説する。また伝統的な加工食品の作り方について、ビデオで紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 食品加工の意義
- 第2回 項目 穀類の加工
- 第3回 項目 いもおよびでんぷん類 油脂類の加工
- 第4回 項目 豆類の加工
- 第5回 項目 野菜および果実類の加工
- 第6回 項目 牛乳と乳製品の加工
- 第7回 項目 卵の加工
- 第8回 項目 食肉と食肉加工品
- 第9回 項目 水産加工品
- 第10回 項目 嗜好飲料
- 第11回 項目 アルコール飲料
- 第12回 項目 調味料
- 第13回 項目 インスタント食品
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 試験またはレポート

成績評価方法(総合) 試験またはレポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書: 食品加工学, 森 孝夫, 化学同人, 2003年

メッセージ 受講条件: 食品科学を受講しておくことが望ましい。ビデオを使用します。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 C棟4階422号室 オフィスアワー 金曜日 16:10~17:40

開設科目	食品加工学(調理実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 食品加工・貯蔵の原理を講義するとともに、農産加工食品や畜産加工食品などの食品加工実習および、調理実習を行う。/検索キーワード 食品加工、調理学実習

授業の一般目標 1)食品の加工方法の原理と加工食品の種類を理解する。2)伝統的な加工食品について理解を深める。3)家庭でできる加工食品について、知識・理解を深める。4)一般的な調理実習を行うことができる。

授業の到達目標/知識・理解の観点:1食品の加工の原理を理解する2食品の調理特性を理解する。3食材に適した調理方法、加工方法を理解する。思考・判断の観点:1調理および加工食品の方法を理解する。関心・意欲の観点:1講義および実習を通じて、食品・調理について関心を高める。態度の観点:1実習に積極的に参加する。2グループで協力して実習に取り組む 技能・表現の観点:1基礎的な調理技術を見に津エル。2家庭でできる食品加工の方法を身につける。その他の観点:1安全に留意して実習を行う。

授業の計画(全体)食品を加工する目的、方法について説明し、加工食品について概説する。また調理実習および食品加工実習を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに 食品加工の意義・目的
- 第2回 項目 植物性食品の加工1
- 第3回 項目 植物性食品の加工2
- 第4回 項目 穀類の調理
- 第5回 項目 豆・豆製品の調理
- 第6回 項目 野菜・果実の調理
- 第7回 項目 動物性食品の加工1
- 第8回 項目 動物性食品の加工2
- 第9回 項目 魚介類の調理
- 第10回 項目 肉類の調理
- 第11回 項目 寒天・ゼラチンの調理
- 第12回 項目 牛乳の加工品
- 第13回 項目 食品加工実習1
- 第14回 項目 食品加工実習2
- 第15回 項目 レポート

成績評価方法(総合)試験またはレポートおよび、実習のさいの課題レポートにより評価する。

メッセージ 生活健康科学コースの学生が対象です。実習費は実費負担。受講生は20名まで。受講条件:食品科学を受講しておくことが望ましい。講義・実習の順番は変わります。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部C棟4階422号室 オフィスアワー 金曜日16:10~17:40

開設科目	食品衛生学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。/ 検索キーワード 食品の安全性、食中毒、食品添加物、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン

授業の一般目標 この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィット・リスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日の重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。・代表的な細菌性食中毒について説明できる。・食品添加物についてベネフィット・リスク論を構築できる。・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。 思考・判断の観点：食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。 関心・意欲の観点：日常の食生活との関わりの中、食の安全性を考えることができるようになる。 態度の観点：個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。 技能・表現の観点：食の安全性については、個人個人がどのような考え方をもちかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 1） 内容 ・授業のガイダンス・水俣病事件の検証 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 食品の安全性（食品公害事件の検証 2） 内容 ・カネミ油症事件の検証・ヒ素粉ミルク事件の検証・イタイイタイ病事件の検証 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 3 回 項目 細菌性食中毒 1 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 4 回 項目 細菌性食中毒 2 内容 ・代表的な細菌性食中毒について解説
- 第 5 回 項目 自然毒・化学性食中毒 内容 ・代表的な自然毒（フグ、キノコ等）や化学物質による食中毒について解説
- 第 6 回 項目 食品添加物について 内容 食品添加物についてその概要を説明 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 7 回 項目 食品添加物とその問題点 内容 食品添加物の問題点について考える
- 第 8 回 項目 ベネフィット・リスク論の構築（食品添加物） 内容 食品添加物についての自分なりの考えを構築する
- 第 9 回 項目 ディベート（食品添加物について） 内容 受講生全員で、食品添加物をテーマに、ディベート形式の討論を行う
- 第 10 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 主に環境ホルモンについてその現状と問題点を解説する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 11 回 項目 食物と環境（環境ホルモン等） 内容 第 10 週に同じ 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する

- 第 12 回 項目 食物と環境（遺伝子組換え食品とクローン技術） 内容 遺伝子組換え技術やクローン技術について解説し、その光と陰を考えながら、これからの食を考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 13 回 項目 食物と環境（環境変異原物質等） 内容 身近な環境変異原物質を取り上げ、解説し、さらにそれらの作用を抑制してくれる物質についても紹介する 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 14 回 項目 輸入食品について・食品の安全の重要性 内容 食品輸入の実態と問題点を特に安全性の面から考える 授業外指示 図書館、インターネット等で自分でも情報を収集する
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 食の安全性について、これまでのまとめを行う

メッセージ この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

開設科目	衣生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。 / 検索キーワード 衣生活、被服、洗濯

授業の一般目標 日常生活のなかで、普段なにげなく身に付けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。 2. 洗剤の種類と役割を説明できる。 3. 品質表示の意味を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 目的に合った衣類を選択できる。 2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。 関心・意欲の観点： 衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ 態度の観点： 授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

授業の計画(全体) 衣料に関して、歴史・文化(ファッション)から物理的視点、化学的視点へと多角的に解説する。特に日々の生活の中で失敗や惑いが多いと思われる洗浄については、時間を多く取る予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人と衣服との関わり
- 第 2 回 項目 被服気候
- 第 3 回 項目 衣料用素材の種類
- 第 4 回 項目 織物とは
- 第 5 回 項目 繊維製品の品質表示
- 第 6 回 項目 天然染料と合成染料
- 第 7 回 項目 汚れと洗浄
- 第 8 回 項目 家庭洗濯
- 第 9 回 項目 ドライクリーニング
- 第 10 回 項目 衣服の傷み
- 第 11 回 項目 洗浄剤と漂白剤
- 第 12 回 項目 よくある洗濯事故
- 第 13 回 項目 衣服に使用される化学物質
- 第 14 回 項目 環境汚染
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業の中で3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：自作テキストを配布する。 / 参考書：洗たくの科学, 花王生活科学研究所編, 裳華房, 1989年; 衣生活論, 中島利誠編著, 光生館, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 石けん屋さんが書いた石けんの本, 三木春逸・三木晴雄, 山水社, 1992年

メッセージ 1年生対象の概論科目である。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 教育学部 300号室

開設科目	衣料素材論 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 まず、物理、化学の基礎知識を復習した上で、衣料用のさまざまな繊維について、構造、比重、吸湿性、保温性、強伸度、帯電性等の基本的な性質、特徴を解説する。 / 検索キーワード 繊維

授業の一般目標 衣料用繊維を科学的な目で捉え、種々の繊維素材の基本的な性質、特徴を理解し、それらの性質が帛布の性質にどのように関わるかを考察しながら、ライフスタイルや T P O に合わせた素材選び、着用、取り扱いができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 繊維素材の性質、特徴を科学的に説明できる。 思考・判断の観点： 繊維素材の性質と布地の性質を関連づけられる。 関心・意欲の観点： 日頃、意識せず着用している衣料を科学の目で捉えることに関心を持つ。 態度の観点： 日常生活のなかの事象を科学的な目で捉え、考えることができ、日常に応用されている物理や化学を実感することができる。

授業の計画 (全体) 授業では、原料から製品までの過程、つまり、(1) 原料、(2) 繊維、(3) 糸、(4) 織物・編物の順に進めていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 繊維材料のミクロ構造と性質
- 第 2 回 項目 繊維の分類、天然繊維
- 第 3 回 項目 セルロース系繊維 (綿、麻)
- 第 4 回 項目 タンパク質系繊維 (毛、絹)
- 第 5 回 項目 化学繊維、再生繊維 (レーヨン、キュプラ)
- 第 6 回 項目 半合成繊維 (アセテート)
- 第 7 回 項目 合成繊維 (ナイロン、ポリエステル)
- 第 8 回 項目 合成繊維 (アクリル、ポリウレタン)
- 第 9 回 項目 糸 (分類、製造、太さ、撚り、加工系)
- 第 10 回 項目 織物 (製造、組織、分類)
- 第 11 回 項目 原組織織物 (平織、綾織、朱子織)
- 第 12 回 項目 編物 (よこ編、たて編)
- 第 13 回 項目 含気性、保温性、水分率
- 第 14 回 項目 強度、伸度、剛軟性
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 学期末に行う定期試験および授業内レポートで評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリントを配布する。 / 参考書： 衣服科学, 山崎和彦著, 朝倉書店, 1997 年 ; アパレル科学, 丹羽雅子編著, 朝倉書店, 1997 年 ; 被服学辞典, 阿部幸子ほか 7 名編集, 朝倉書店, 1999 年 ; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998 年 ; 被服材料学, 中島利誠編著, 光生館, 1986 年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室 : 教育学部 300 号室

開設科目	衣料素材論 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 化学繊維の発展の歴史を述べ、その上で、最近のいわゆる機能性繊維や高感性繊維について紹介し、その特徴および機能発現の機構を論述する。 / 検索キーワード シルクライク、機能性繊維、高感性繊維

授業の一般目標 日常生活において、知らず知らずのうちに着用している機能性繊維や高感性繊維について科学的な目で理解し、正しい知識を修得するとともに、技術の進歩、その恩恵を身近に受けている事を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 化学繊維の起こりを説明できる。 2 . 機能性繊維、高感性繊維の機能発現の機構を説明できる。 思考・判断の観点： 機能性繊維、高感性繊維の機能を効率よく発揮させる方法を自分で考えることができる。 関心・意欲の観点： 世界の最先端をいく日本の繊維技術について関心をもつ。

授業の計画(全体) 化学繊維の起こりから、人類のもっと良いものを求める欲求から、次々に開発された技術を解説する。この分野の技術力は世界トップレベルである。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 化学繊維のシルクライク化
- 第 2 回 項目 異形断面繊維
- 第 3 回 項目 超極細繊維
- 第 4 回 項目 超ソフト素材
- 第 5 回 項目 レザーライク素材
- 第 6 回 項目 ストレッチ素材
- 第 7 回 項目 バイオミメティック繊維
- 第 8 回 項目 吸水・吸湿性繊維
- 第 9 回 項目 透湿・防水性繊維
- 第 10 回 項目 カメレオン繊維
- 第 11 回 項目 制電性・導電性繊維
- 第 12 回 項目 耐熱・防融繊維
- 第 13 回 項目 セラミック加工繊維
- 第 14 回 項目 抗菌・防臭・消臭繊維
- 第 15 回 項目 芳香繊維

成績評価方法(総合) 学期末試験で評価する。ただし、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 自作テキストを配布する。 / 参考書： 被服学辞典, 阿部幸子ほか7名編集, 朝倉書店, 1999年; 生活のための被服材料学, 日下部信幸著, 家政教育社, 1998年; 新繊維材料入門, 宮本武明・本宮達也著, 日刊工業新聞社, 1992年; よくわかる新繊維のはなし, 林田隆夫著, 日本実業, 1998年

メッセージ できれば衣料素材論 I を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室: 教育学部 300 号室

開設科目	表現被服論(被服製作実習を含む。)	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	水谷由美子				
<p>授業の概要 被服分野の教材の基礎となる被服の立体構成を取り扱う。基本パターンからさまざまなデザインへの展開方法およびデザインの基礎となる発想力をも磨くようなトレーニングを行う。</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 学校教育における被服構成の経緯と今後 I</p> <p>第2回 項目 学校教育における被服構成の経緯と今後 II</p> <p>第3回 項目 ファッションデザインと現代生活</p> <p>第4回 項目 アパレル産業の実状、現場の理解と現代衣生活</p> <p>第5回 項目 人体の形態理解、既制服のサイズ、各自寸法の採寸</p> <p>第6回 項目 立体裁断法一下半身</p> <p>第7回 項目 平面裁断法一下半身</p> <p>第8回 項目 立体裁断法一上半身</p> <p>第9回 項目 平面裁断法一上半身</p> <p>第10回 項目 服装に関する発想法を磨くトレーニング</p> <p>第11回 項目 実物製作の試み I</p> <p>第12回 項目 実物製作の試み II</p> <p>第13回 項目 実物製作の試み III</p> <p>第14回 項目 実物製作の試み</p> <p>第15回 項目 合評会</p>					

開設科目	色彩科学概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 色彩は、ファッションにとどまらず、住居設計、室内インテリア、家電製品、小物、さらには案内標識にいたるまで、すべての物に関わるものである。この講義では、まず基本となる、光と色の物理的性質およびその測定方法と表示法を解説し、色覚、色知覚、色彩感情および色の心理的効果について口述する。 / 検索キーワード 色彩、配色、コーディネート

授業の一般目標 光と色について科学的に理解し、その上で、カラーコーディネーションの基礎的な方法を身に付け、日常生活に生かしていくことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 光の物理を説明できる。 2. 表色系を体系的に説明できる。 3. 配色の基本を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 配色の方法を分類できる。 2. 色彩から受ける感情効果を指摘できる。 関心・意欲の観点： 日常生活にあるものを色彩配色の観点から配慮する。 態度の観点： 自分の色彩感覚を磨くとともに、日常生活に生かしていく。

授業の計画(全体) 授業はプロジェクトを用いて行い、配色例や実際例を提示し、適宜補足プリントを配布しながら進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 光と色
- 第 2 回 項目 光源と色の見え方
- 第 3 回 項目 目の働きと色覚
- 第 4 回 項目 色の記録と伝達 - 表色系 I (マンセル、PCCS)
- 第 5 回 項目 色の記録と伝達 - 表色系 II (オストワルト、XYZ)
- 第 6 回 項目 色の差 - Lab 表色系
- 第 7 回 項目 色の混合 - 加法混色・減法混色
- 第 8 回 項目 色の心理 - 色の見えの効果
- 第 9 回 項目 色覚の生理学
- 第 10 回 項目 色彩調和 - 自然の色
- 第 11 回 項目 配色技法 1
- 第 12 回 項目 配色技法 2
- 第 13 回 項目 色彩調和論
- 第 14 回 項目 色彩計画
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中に行う小テストあるいは課題演習と学期末試験で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：カラーコーディネーター入門 色彩 改訂版, 大井義雄・川崎秀昭共著, 日本色研事業, 1999年 / 参考書：色彩科学事典, 日本色彩学会編, 朝倉書店, 1998年; 色彩の事典, 川上・児玉・富家・大田編集, 朝倉書店, 1997年; カラーコーディネーターのための色彩科学入門, 日本色彩研究所編, 日本色研事業, 2000年; カラーイメージスケール, 小林重順著, 講談社, 1992年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 教育学部 300号室

開設科目	住生活科学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 今日の住生活には便利さや快適さとあわせて、地球環境への影響が少なく、持続できることが求められる。住生活の諸側面で生じる問題や課題をとらえ、それらに対処・実践する方法やよりよい住生活の仕方を学ぶ。住生活が生活財や住まい空間、住環境などと関わり、住生活の向上のためにそれらとの関係の改善が必要なことを理解する。そして、よりよい関係を住生活様式として築いていくための課題を考える。 / 検索キーワード 持続可能な生活様式を考える。

授業の一般目標 住生活の諸側面（生活財の利用面、経済的側面、空間的側面、時間的側面など）での課題を理解する。その上で、持続可能な住生活様式について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住生活の諸側面での一般的な課題について説明できる。 2. 生活財を購入、利用、廃棄する際に留意することがわかる。 思考・判断の観点： 1. 住生活に関する調査結果をもとに、改善すべきことを考察できる。 2. 生活様式がもたらす地球環境や持続性への影響を判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 住生活にとどまらず、食生活や衣生活を含んだ生活全般の改善に関心を広げ、実践できる。 態度の観点： 1. 自らの住生活に引き寄せて思考し、主体的に住生活の改善をはかろうとする。

授業の計画（全体） 授業全体は次の5つをテーマとしてすすめる。 1. 生活財の利用と生活、 2. 生活財の購入と家計、 3. 生活空間と住様式、 4. 生活財の廃棄とごみ問題、 5. 今後の住生活

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代の住生活の課題
- 第 2 回 項目 家族と住生活
- 第 3 回 項目 住生活の物的側面 生活財の増加
- 第 4 回 項目 生活財と生活様式
- 第 5 回 項目 住生活の経済的側面 家計
- 第 6 回 項目 家計からみた住生活の問題
- 第 7 回 項目 住生活の空間的側面 住まいの空間
- 第 8 回 項目 住様式
- 第 9 回 項目 住み方
- 第 10 回 項目 住生活の廃棄面 ごみ問題
- 第 11 回 項目 家庭ごみと環境問題
- 第 12 回 項目 持続可能な生活様式
- 第 13 回 項目 住生活の時間的側面 生活時間
- 第 14 回 項目 住生活の設計
- 第 15 回 項目 地域生活とのつながり

成績評価方法（総合） 出席状況、具体的な住生活の調査に基づく思考とさらに持続可能な住生活様式の考察を求めるレポート（2回）によって評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 1ヶ月間家計簿を付けたりして、自らの住生活を点検してみよう。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	住居科学(製図を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住生活の向上のために、住空間の構成や住環境の制御方法の理解を深めることを目的とする。住まいの発展や多様な住まい方を通して、現代の住まいと住生活の課題を学ぶ。あわせて、健康や安全面から住まいの環境を点検し、子どもや高齢者に配慮した住居の計画、地域環境へと理解を深めていく。/検索キーワード 住生活、住空間、住環境

授業の一般目標 住まいの発展経過や現代の多様な住まい方から住まいと住生活の課題を理解する。次に、健康や安全の視点から住まい環境の問題を具体的に点検し、認識する。これらの知識を生かし、子どもや高齢者など家族員の特性も踏まえて住居の計画をできるようにする。さらに、住まいと地域や社会との関わりに関心を広げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住まいの歴史と住まい方の発展から、住まいと住まい方の基本事項を理解する。 2. 健康や安全の面から現代の課題を理解する。 思考・判断の観点： 1. 住まいの健康や安全性の判断ができる。 2. 子どもや高齢者の特性から、その必要な空間条件を考えられる。 関心・意欲の観点： 1. 住まいと地域環境との関係や、消費者問題・住宅政策など社会との関係にも関心を広げる。 2. バリアフリーなど社会の動きを主体的につかむ。 態度の観点： 1. 知識や思考力を自らの住まいと住まい方に生かし、よりよい住まい方を積極的に追求する。 技能・表現の観点： 1. 子どもや高齢者を含んだ家族のニーズを理解し、それを間取りに表現できる。

授業の計画(全体) 2～3回ごとに住まいの発展などテーマを変えて講義する。製図などの演習も含む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 住まいの見方と役割
- 第2回 項目 住まいの変遷(1) 古代、中世の住まい
- 第3回 項目 住まいの変遷(2) 近世の住まい
- 第4回 項目 家族と住まいの変化
- 第5回 項目 住様式の形成
- 第6回 項目 住生活と住空間
- 第7回 項目 自然環境と快適さ
- 第8回 項目 健康な住まい
- 第9回 項目 住まいの安全
- 第10回 項目 住居設計の方法
- 第11回 項目 間取りの計画
- 第12回 項目 家族生活の計画
- 第13回 項目 設計演習
- 第14回 項目 住宅問題と住宅政策
- 第15回 項目 住環境とまちづくり

成績評価方法(総合) 思考・判断を問うレポート、技能・表現の観点を見る住居設計の演習レポート、知識・理解や関心・意欲を見る試験、及び出席状況を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 住居分野の基本授業なので内容が多いのですが、積極的に取り組んで下さい。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	居住環境論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住まい、地域環境における健康や福祉の課題と対策について学ぶ。まず、住まいや地域の環境と健康との関わりを学び、健康な生活のための居住環境のあり方を考える。次に、高齢者や障害者に必要な空間・環境条件を考え、これからの福祉に求められる住まいや地域の環境について理解を深める。
/ 検索キーワード 快適性、バリアフリー、環境共生

授業の一般目標 住まいや地域環境と健康との関わりやさらに広い環境との関わりが理解できる。もう1つは、高齢者・障害者の福祉を進める観点から、住まい・地域環境に必要なことが説明でき、さらに具体的な問題への対策を考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 居住環境が健康に関わること、広い環境との相互関係も有することやその関係を説明できる。 2. 福祉の観点から、居住環境に求められることが説明できる。 思考・判断の観点： 1. 健康のため、広域環境への影響を少なくするための居住環境の条件を指摘できる。 2. 住まいや地域でのバリアフリー・高齢者配慮の進め方を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 身近な居住環境での問題を認識し、社会的な取り組みも参考にして、改善方法を提案できる。

授業の計画(全体) 3つのテーマの授業で構成する。最初は健康と居住環境について講義する。次いで高齢者・障害者の住まいについて講義する。さらに、高齢社会における居住環境のあり方を演習も交えて考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 健康と居住環境
- 第2回 項目 室内環境の快適性
- 第3回 項目 空気汚染
- 第4回 項目 敷地環境
- 第5回 項目 都市・地域の環境
- 第6回 項目 高齢者・障害者の住生活
- 第7回 項目 同居世帯の住まい 二世帯住宅
- 第8回 項目 バリアフリーの住まい
- 第9回 項目 住まいの改善と その方法
- 第10回 項目 これからの住まい ケア付住宅等
- 第11回 項目 地域のバリア
- 第12回 項目 地域環境の点検
- 第13回 項目 権利保障の環境づくり
- 第14回 項目 これからの地域環境
- 第15回 項目 環境共生のすまい、まちづくり

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 高齢者・障害者の住まいや地域環境のあり方を中心に講義する。

開設科目	住居設計	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 家族生活のためのよりよい空間創造の力を養おうとする授業である。住居設計の手順や方法を習得し、想定した家族生活のための住居を構想する。その設計図を作成するとともに、さらに模型で表現する。

授業の一般目標 住居設計の手順や方法を習得し、設定された条件の中で、実際に家族の住居を構想し設計する。さらに模型に表現する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住居設計の手順、方法を実際に使って製図することができる。
2. 各住居空間に求められる条件や必要な広さを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 想定した家族のニーズを必要な空間に置きかえることができる。 技能・表現の観点： 1. 空間や家具などを模型に表現することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 住居設計の課題
- 第 2 回 項目 設計の手順と方法
- 第 3 回 項目 設計図の読み方
- 第 4 回 項目 家族生活の想定
- 第 5 回 項目 配置計画の検討
- 第 6 回 項目 構想図の作成（1）
- 第 7 回 項目 構想図の作成（2）
- 第 8 回 項目 構想図の検討
- 第 9 回 項目 設計図の描き方
- 第 10 回 項目 間取りの設計
- 第 11 回 項目 エクステリアの検討
- 第 12 回 項目 模型の制作について
- 第 13 回 項目 フレームの制作
- 第 14 回 項目 内部の制作
- 第 15 回 項目 インテリアの表現

成績評価方法（総合） 住居の構想が条件に合致しているか、また、どのような家族生活を実現しようとする構想か、を第1の評価点とする。第2には設計図への表現を評価する。そして、模型での表現力をもう一つの評価点とする。

メッセージ 住居の構想を重視する。

連絡先・オフィスアワー yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生活論総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	生活健康全員				

授業の概要 この授業では、これまでの知識を基に衣・食に関する理化学実験、食品加工実習、さらに住生活・地域生活の問題点や工夫をさぐるための基礎的調査方法を概説する。一方、専門的な研究室ゼミ、卒業研究の選択の手助けとなるように配慮した内容としている。

授業の一般目標 理化学実験、調査・解析を通して、衣食住に関する現象・事象を科学的な視点で捉え、その原理や概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、その改善策等を自ら考えることができるようにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生活上の現象・事象について、科学的・統計的に理解、説明できる。 思考・判断の観点：生活上の問題点を自ら抽出し、改善、改良、向上するためにはどうすればよいかを考えることができる。 関心・意欲の観点：生活上の身の回りに起こっていることを単に受け入れるのではなく、「どうして？」という疑問を抱くようにする。 態度の観点： 1. 言われたからするのではなく、自ら積極的に演習・実験に参加する。 2. 他人に対して協調的・建設的態度がとれる。 技能・表現の観点： 1. 基本的な実験器具・機器を扱える。 2. 実験内容、実習内容、調査内容や自分で考察した内容をレポートとしてまとめる。

授業の計画（全体） この授業は、講義・演習、実習形式と理化学実験形式の2形態で行う。講義・演習では、衣生活・食生活・住生活における調査解析方法、解析結果からの問題点の抽出や改善策等を講じる。身近な加工食品の原理を理解するための、食品加工学実習を行う。理化学実験では、染料の素材に対する染色性や酵素反応・食品中の化学物質検出などを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業ガイダンス
- 第2回 項目 唾液アミラーゼによるデンプンの加水分解
- 第3回 項目 食品添加物の検出等に関する実験（その1）
- 第4回 項目 食品添加物の検出等に関する実験（その2）
- 第5回 項目 各種繊維の色素に対する親和性
- 第6回 項目 媒染染色および酸性媒染染色による絹の染色
- 第7回 項目 色彩イメージに関する実験
- 第8回 項目 食品の加工の原理
- 第9回 項目 小麦粉の加工（バターロール）
- 第10回 項目 野菜の加工（トマトケチャップ）
- 第11回 項目 住み方調査
- 第12回 項目 住み方の改善計画（その1）
- 第13回 項目 住み方の改善計画（その2）
- 第14回 項目 卒業研究の概要
- 第15回 項目 討論

成績評価方法（総合） 毎回の出席、授業中の態度・意欲（積極性）および各教員から出題されるレポート課題および実験報告書（実験レポート）により評価する。なお、レポートの提出期限は厳守すること。

教科書・参考書 教科書：適宜プリント等を配布する。 / 参考書：レポート・論文の書き方入門（第3版）、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2002年；その他、本コースの他の授業に挙げてある参考書など。

メッセージ 対象：生活健康科学コースのみ

開設科目	生活メディア論	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 パソコンによる情報収集、数値データのグラフ化、統計処理、プレゼンテーション（発表）を行う。 / 検索キーワード 表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 情報機器の操作法を修得し、ブラウザ、ワープロ、表計算、プレゼンの各ソフトを有機的に活用できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．基本統計量を説明できる。 2．表計算ソフトの関数を利用できる。 思考・判断の観点： 1．ブラウザで必要な情報を探し出すことができる。 2．表計算ソフトを使ってデータを解析できる。 関心・意欲の観点： 1．適切なプレゼンテーションを心がける。 態度の観点： 1．他人のプレゼンテーションに対して適切な評価ができる。 技能・表現の観点： 1．表作成・グラフ作成ができる。 2．プレゼンソフトを使って自分の考えを伝えることができる。

授業の計画（全体） 授業では大学施設（情報処理演習室）を利用するが、ノート PC 所持学生が自習できるように、汎用性ソフトを用いて行い、受講生の学習の進捗状況を見ながら進行する。したがって、受講生の理解度を見るために毎回課題を与え、メール添付で提出してもらうことにしている。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 OS 基本操作の復習
- 第 2 回 項目 ワープロ基本操作の復習
- 第 3 回 項目 表計算ソフト基本操作の復習
- 第 4 回 項目 電子メールの送受信
- 第 5 回 項目 インターネットブラウザによる情報収集
- 第 6 回 項目 画像処理
- 第 7 回 項目 基礎統計処理
- 第 8 回 項目 リスト処理
- 第 9 回 項目 集計処理
- 第 10 回 項目 グラフ作成
- 第 11 回 項目 表計算ソフトのマクロの基本操作
- 第 12 回 項目 プレゼンテーションソフトの基本操作
- 第 13 回 項目 課題演習（1）
- 第 14 回 項目 課題演習（2）
- 第 15 回 項目 プレゼンテーション演習

成績評価方法（総合） ワープロ、表計算については個別にファイルを提出し、それらについて評価を行う。課題発表はプレゼンソフトで行うが、その内容や技法について評価する。学生間での評価も加味する。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：Excel, Word, PowerPoint に関して、わかりやすい操作本が売られているので、1冊ずつくらいは自分にあった本を購入してほしい。

メッセージ 共通教育「情報処理」を履修済みであること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室：教育学部 300 号室

開設科目	消費生活概論(家庭経済学を含む。)	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小林 京子				

授業の概要 我が国の消費生活の変容、家計について理解するとともに現代の消費者問題の背景・要因について理解する。その上で、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。/検索キーワード 家計 消費生活 消費者問題 消費者契約 消費者権利 消費者基本法

授業の一般目標 高度経済成長後の我が国の消費生活の特徴、現代の消費者問題、消費者政策等を理解し、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することが出来たか。（家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者など） 思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることが出来るか。（消費者の権利・責任の観点から） 関心・意欲の観点：消費者問題に関心・意欲を持つことが出来たか。 態度の観点：授業の態度が真面目であったか。 技能・表現の観点：課題レポートが分かりやすく書かれていたか。 その他の観点：出席状況

授業の計画(全体) 前半は、我が国の消費生活の特徴と勤労世帯および高齢者世帯の家計について学習する。後半は、現代の消費者問題を取り上げ、その背景や要因について理解し、自立した消費者について学習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 変貌するわが国 < BR > の消費生活
- 第 2 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (1)
- 第 3 回 項目 勤労者世帯の家 < BR > 計 (2)
- 第 4 回 項目 高齢者世帯の家 < BR > 計
- 第 5 回 項目 中間試験 < BR > - これまでのま < BR > とめ -
- 第 6 回 項目 消費者とは
- 第 7 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (1) < BR > 背景・要因
- 第 8 回 項目 消費者問題につ < BR > いて (2) < BR > 権利と責任
- 第 9 回 項目 消費者契約法に < BR > ついて
- 第 10 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (1)
- 第 11 回 項目 商品・サービス < BR > の取引をめぐる < BR > 問題 (2)
- 第 12 回 項目 商品・サービス < BR > の安全をめぐる < BR > 問題
- 第 13 回 項目 商品・サービス < BR > の表示をめぐる < BR > 問題
- 第 14 回 項目 環境問題と消費 < BR > 生活
- 第 15 回 項目 期末試験 < BR > - 真に豊かな消 < BR > 費生活文化・様 < BR > 式に向けて -

成績評価方法(総合) 定期試験、出席状況を勘案して行う。 知識・理解(家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者について) 思考・判断(現代の消費者問題について、その要因・背景の明確化) 技術・表現(課題レポートの記述) 関心・意欲・態度(授業の態度、消費者問題への関心・意欲)

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

メッセージ 今日の消費者問題の情報を常に入手しておくこと。

備考 集中授業

開設科目	児童学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 乳幼児の心身の発達について講義する。保育記録とVTR記録をもとに、幼児の特性に応じた関わりの基本を学ぶ。絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児期の発達の特徴がわかったか 思考・判断の観点： 幼児の行動の見方が広がり、かかわり方について考えることができたか 関心・意欲の観点： 幼児や子どもに対する関心が深まったか 絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に意欲や関心を抱くようになったか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに オリエンテーション 絵本紹介 1
- 第 2 回 項目 絵本「ひとまねこざる」に見る子ども性」 さくらんぼ坊や 1
- 第 3 回 項目 エリックカールの作品に見る子どもの成長 さくらんぼ坊や 2
- 第 4 回 項目 幼児の成長について アリサのテーブル拭き 林明子の絵本
- 第 5 回 項目 動く紙おもちゃの製作 1 遊びレポートの作成
- 第 6 回 項目 ヤングアダルト絵本「セーターになりたかった毛糸玉」 さくらんぼ坊や 3
- 第 7 回 項目 動く紙おもちゃの製作 2 虹のトムボーイ
- 第 8 回 項目 遊びレポート 分析 幼児の遊びと発達
- 第 9 回 項目 昔話絵本を考える「さるかに話を知っていますか？」
- 第 10 回 項目 幼児の発信とその読み
- 第 11 回 項目 「サンタクロースはほんとうにいるの？」 クリスマスと子ども
- 第 12 回 項目 4 歳児の世界 論文「ベイブレード遊びにおける 4 歳児の自己充実と仲間関係」を読む
- 第 13 回 項目 5 歳児の世界 論文「子どもの立ち直りを支える保育行為」を読む
- 第 14 回 項目 さくらんぼ坊や 4 幼児期から学童期へ
- 第 15 回 項目 さくらんぼ坊や 5 まとめ

教科書・参考書 参考書： 育児日記からの子ども学, 友定啓子, 勁草書房, 1996 年 ; 子どもの心を支える, 村田陽子, 勁草書房, 1999 年 ; 幼児の笑い発達, 友定啓子, 勁草書房, 1993 年

開設科目	保育学 (実習及び家庭看護を含む。)	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				
<p>授業の概要 幼稚園における幼児の行動理解と保育のあり方について、保育記録に基づいて学ぶ。家庭看護及び小児の救急看護について実習を行う。幼稚園にて、幼児の行動観察・保育実習を行う。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保育に関するテキストを読んで、内容を理解したか 思考・判断の観点： 保育参加実習において適切な判断がなされ、行動できたかどうか 関心・意欲の観点： 幼児教育について、意欲や関心が高まったか</p> <p>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 オリエンテーション 基本テキストの紹介</p> <p>第 2 回 項目 テキスト演習 1 幼稚園というところ</p> <p>第 3 回 項目 テキスト演習 2 養護教諭の役割</p> <p>第 4 回 項目 テキスト演習 3 3歳児の保育 1</p> <p>第 5 回 項目 テキスト演習 4 3歳児の保育 2</p> <p>第 6 回 項目 テキスト演習 5 4歳児の保育 1</p> <p>第 7 回 項目 テキスト演習 6 5歳児の保育 1</p> <p>第 8 回 項目 家庭看護実習 1</p> <p>第 9 回 項目 家庭看護実習 2</p> <p>第 10 回 項目 幼稚園保育参観 1</p> <p>第 11 回 項目 幼稚園保育参観 2</p> <p>第 12 回 項目 幼稚園保育参加 1</p> <p>第 13 回 項目 幼稚園保育参加 2</p> <p>第 14 回 項目 テキスト演習 7 5歳児の保育</p> <p>第 15 回 項目 まとめ</p> <p>教科書・参考書 教科書： 幼稚園で育つ, 友定啓子他, ミネルヴァ, 2002年</p>					

開設科目	家族生活論(家族関係学を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				
<p>授業の概要 現代家族の理論と実態について取り上げる。家族と社会の関係、家族内部の人間関係(夫婦関係・親子関係)およびその病理(DV・児童虐待など)について講義する。/検索キーワード 家族関係</p> <p>授業の一般目標 現代家族の置かれた状況を理解し、家族関係に関する一般的な知識と自分なりの家族観を持つ。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 現代家族の置かれた状況、課題について理解する 思考・判断の観点: 家族問題についての自分なりの見解を持ち表現できる 関心・意欲の観点: 家族関係に関する関心を持つ 態度の観点: 出席状況</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 現代家族の動向 1 第2回 項目 現代家族の動向 2 第3回 項目 1カ月の生計費 計算 第4回 項目 離婚 家族とは何か 第5回 項目 性別役割分業を 考える 第6回 項目 電話相談に見る 親子関係 第7回 項目 パラサイトシングルの時台 第8回 項目 親業エッセンス 1 第9回 項目 親業エッセンス 2 第10回 項目 親業エッセンス 3 第11回 項目 現代家族の病理 1 第12回 項目 現代家族の病理 2 第13回 項目 演習 第14回 項目 まとめ 第15回</p> <p>教科書・参考書 教科書: 市販の教科書は使わない 教官が資料を準備する</p>					

開設科目	国際文化学 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐藤登				

授業の概要 世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。 / 検索キーワード 農業地帯、農法、文化、暮らし

授業の一般目標 世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界の農業地帯を説明できる。 思考・判断の観点：農業文化の多様性を説明できる。 関心・意欲の観点：身近な農業文化に関心を持つ。

授業の計画（全体）和辻哲郎の『風土』を読む。地理学の授業で得た世界の農業地帯の資料を利用し、ブルガリアと日本の農業の比較をする。身近に存在する農業文化に関心を持つ。

成績評価方法（総合）授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

開設科目	国際文化学 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。 / 検索キーワード
 アイデア界と現象界、エロース、畜群、神の死

授業の一般目標 ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得ること。 思考・判断の
 観点：ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：ヨーロッパ文化の
 基礎的的思想的理解への関心を喚起すること。 態度の観点：ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う
 こと。 技能・表現の観点：ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） ドゥルーズのニーチェを読み進めながら、ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点
 から明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキスト、評価の方法等
- 第 2 回 項目 ニーチェ
- 第 3 回 内容 ニーチェの生涯 1
- 第 4 回 内容 ニーチェの生涯 2
- 第 5 回 内容 ニーチェの哲学 1
- 第 6 回 内容 ニーチェの哲学 2
- 第 7 回 内容 ニーチェの哲学 3
- 第 8 回 内容 ニーチェの世界観
- 第 9 回 内容 哲学者とは
- 第 10 回 内容 哲人ディオニュソス
- 第 11 回 内容 力への意志
- 第 12 回 内容 価値転換
- 第 13 回 内容 永劫回帰
- 第 14 回 内容 狂気について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の理解度レポートと最終の試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：ニーチェ, ドゥルーズ, ちくま学芸文庫

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山田次郎				

授業の概要 卒業研究は、4年生になってからだが、その前段階として3年後期から各研究室(指導教員)に所属し、その準備を始める。山田研究室では、4年生との合同の文献購読ゼミに参加し、卒業研究の心構えを構築する。具体的な卒業研究は、4年前期に開始し、翌年、1月末日の卒業論文の提出、2月中旬の発表会での発表をもって終了する。研究内容は個々人で異なるが、「食」に関連する内容に限定している。研究手段もテーマによってことなるが、おもに実験(食物変異原および抗変異原に関するものが多い)で、社会調査は希である。

授業の一般目標 卒業研究では、テーマの設定から実際の研究、卒業論文としてのまとめ、発表のすべてを、可能な限り自主的な取り組みとして行うことを目標としている。1.興味をもった内容を具体的な研究テーマとして設定できる。2.具体的な研究手段を構築し、それを実施できる。3.研究結果をより客観的に、論文という形でまとめることができる。4.研究内容を他の人へ適切に伝える(発表する)ことができる。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山本善積				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査・分析の方法、論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題の発見から問題解決にいたる思考方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関わる諸問題について、広く関心をもち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自またはグループで先行研究などを踏まえて研究テーマを決定した後、具体的な調査方法について指導を行う。そして、調査の進行状況をゼミの場で報告させ、論文としてまとめることができるよう指導する。これを流れとして示せば、次のようになる。(1)研究テーマの決定、(2)調査法の決定、(3)具体的な調査、(4)調査結果の整理、分析、(5)論文へのまとめ

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程及び論文としての完成度を総合的に評価する。

メッセージ 自ら研究テーマをもち、問題意識を深めること。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	五島淑子				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、テーマを設定し、調査・分析の方法、論文の書き方等について、指導を行う。3年の後期に所属が決定するので、3年後期は卒業研究のための準備を行う。/ 検索キーワード 食文化研究、食生活調査

授業の一般目標 各自の研究テーマについて、予備調査、先行論文の検討を行い、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題の発見から問題解決にいたる思考方法、調査結果のまとめ方を習得する。さらに、発表の方法を習得する。 1) テーマを設定する 2) 先行研究の検討する 3) 調査を実施する 4) 結果のまとめ方を習得する 5) 発表する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要・問題点を指摘できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、またわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関わる諸問題について、広く関心をもち、主体的に考えることができる。 態度の観点： 毎週行うゼミに参加し、積極的に質問を行うことができる。 技能・表現の観点： 論理的文章を書くこと、わかりやすい発表をすることができる。

授業の計画(全体) 個人またはグループで先行研究を踏まえて、研究テーマを決定したのち、具体的な調査方法や資料の取り扱いについて指導を行う。調査の進行状況をゼミで報告させ、論文として、まとめることができるように指導する。(1) 研究テーマの決定(2) 先行研究の検討(3) 調査方法の決定(4) 本調査(5) 結果の分析(6) 結果を考察する(7) 論文にまとめる(8) 口頭発表

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程および論文としての完成度を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： 日本家政学会誌、日本調理科学会誌、日本生活学会誌ほか

メッセージ 積極的、主体的に取り組んでほしいと思います。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 金曜日 16:10~17:30

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	星野裕之				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、実験・調査・分析の方法、論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な実験・調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題の発見から問題解決にいたる思考方法、実験・調査結果のまとめ方・発表の仕方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、実験・調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関わる諸問題について、広く関心をもち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 先行研究などを踏まえて、各個人またはグループで研究テーマを決定した後、具体的な実験・調査方法について指導を行う。そして、実験・調査の進行状況をゼミで報告させ、論文としてまとめることができるように指導する。これを流れとして示せば、次のようになる。(1)研究テーマの決定(2)実験・調査方法の決定(3)具体的な実験・調査(4)実験・調査結果の整理、分析(5)論文へのまとめ

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程及び論文としての完成度を総合的に評価する。

メッセージ 自ら研究テーマをもち、問題意識を深めること。

国際文化コース

開設科目	メディア情報教育	区分	講義と演習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘, 林川基治				

授業の概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。/ 検索キーワード 電子メール、インターネット、情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ、表計算、プレゼンテーション

授業の一般目標 専門分野を学ぶ上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。 2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 思考・判断の観点： 1. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 関心・意欲の観点： 1. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。 2. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 態度の観点： 1. 情報倫理を守った行動ができる。 2. グループ作業を協調して行うことができる。 技能・表現の観点： 1. マルチメディアを活用した文書を作成できる。 2. データの集計や分析を行うことができる。 3. 情報の発信を行うことができる。 4. 明快で論理的な説明を行うことができる。

授業の計画（全体） 毎回、授業項目について、簡単な説明と演習を繰り返す。最後に、授業の一般目標の総仕上げとして、グループ課題を課し、その成果のプレゼンテーションを実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 パソコンの基本操作とタッチタイピング 内容 最初に授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法などの説明を行い、引き続いて、基本操作とタッチタイピングの解説・実習を行う。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 日本語入力 内容 日本語入力に関する設定と技法について解説し、実習を行う。
- 第 3 回 項目 電子メール 内容 電子メールの仕組み、ルール、使用方法を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業内レポートを課す。
- 第 4 回 項目 インターネットの活用と情報倫理 内容 インターネットの仕組みと活用方法を解説し、実習を行う。また、情報倫理についても解説する。
- 第 5 回 項目 文書作成 1（ワープロ入門） 内容 Word による文書作成の基本を解説し、実習を行う。
- 第 6 回 項目 文書作成 2（図と表） 内容 図と表を用いた高度な文書作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 7 回 項目 ホームページ作成 1（ワープロの利用） 内容 Word を用いたホームページの作成方法を解説し、実習を行う。
- 第 8 回 項目 ホームページ作成 2（アップロードと公開） 内容 作成したホームページのアップロードと公開の方法を解説し、実習を行う。
- 第 9 回 項目 ホームページ作成 3（HTML 入門） 内容 ホームページの記述言語である HTML について解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、自分のホームページの公開と授業外レポートを課す。
- 第 10 回 項目 表計算 1（表計算入門） 内容 Excel による表計算の基本を解説し、実習を行う。
- 第 11 回 項目 表計算 2（データ処理とグラフ作成） 内容 Excel によるデータ処理とグラフ作成を解説し、実習を行う。 授業外指示 課題として、授業外レポートを課す。
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 1（スライドとスライドショー） 内容 PowerPoint によるスライドとスライドショーの作成方法を解説し、実習を行う。

- 第 13 回 項目 プレゼンテーション 2(スライド効果) 内容 いろいろなスライド効果について解説し，実習を行う。授業外指示 グループ課題を課す。
- 第 14 回 項目 グループ作業 内容 課されたグループ課題に取り組む。
- 第 15 回 項目 グループ課題の発表 内容 グループ課題の発表会を行う。

成績評価方法 (総合) 出席率 80 % 未満を欠格条件とし，授業内レポート，授業外レポート，公開されたホームページ，グループ課題の発表内容を総合的に評価する。

メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず，初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを携帯すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	欧米言語文化入門 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

授業の概要 本年度の欧米文化論 I では、主としてアメリカ合衆国を取り上げる。配布するテキストや授業内に見るビデオなどを通して、アメリカの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。植民地時代、独立革命、西部開拓、フロンティアの消滅と外部への拡張、移民、20 年代の繁栄、大恐慌時代、人種問題、公民権運動、女性の権利拡張、ベトナム戦争と若者の反抗、アジア系移民などのテーマを取り上げる。

授業の一般目標 文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、アメリカ合衆国という国がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。多くのエスニシティを抱えるアメリカ社会の歴史の変遷を知ることで、多民族共生の道への洞察を得る。人種差別撤廃、女性差別撤廃が、人権の拡張という観点から類似した問題であることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカの歴史的形成についての知識を得る。 思考・判断の観点：歴史的な事象が今日のアメリカ社会の形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 関心・意欲の観点：参考文献、インターネットなどを調査し、アメリカについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 態度の観点：与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

授業の計画（全体） 教科書は笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2002 年）であるが、必ずしも教科書全体を扱わない。テーマに沿って適宜、関連するビデオ、他の出典から取った配布資料を用いる。しかし、教科書はアメリカについての様々な言説を理解するための良い入門書なので、各自どんどん自分で読んでいき、学期中に読了することをお薦めする。授業で取り上げる話題は計画では以下の通りであるが、授業の流れによって、多少の変更がありうる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英領植民地時代 初期 ピルグリム・ファーザーズとプリマス植民地 内容 教科書 pp.24-43 授業外指示 図書館やインターネットでピルグリム・ファーザーズやピューリタンについて調べてみよう。
- 第 2 回 項目 ピューリタニズム ホーソン『緋文字』の世界（1） 内容 ビデオ 授業外指示 ナサニエル・ホーソンと『緋文字』について 百科事典、文学辞典等で調べてみよう。
- 第 3 回 項目 ピューリタニズム ホーソン『緋文字』の世界（2） 内容 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.2-22 を読んでおこう。
- 第 4 回 項目 独立革命 内容 教科書 pp.2-22 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.46-68 を読んでおこう
- 第 5 回 項目 西部開拓 「明白なる天命」先住民の排除 内容 教科書 pp.46-68 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.94-113 を読んでおこう
- 第 6 回 項目 奴隷制と南北戦争 ジャズの歴史 内容 教科書 pp.94-113 ビデオ 授業外指示 教科書 pp.70-91 を読んでおこう
- 第 7 回 項目 移民 多民族社会アメリカ 内容 教科書 pp.70-91 ビデオ
- 第 8 回 項目 20 年代の繁栄 30 年代の大恐慌 内容 ビデオ 配布資料
- 第 9 回 項目 公民権運動（1） 内容 配布資料 ビデオ 授業外指示 マーティン・ルーサー・キング 牧師についてインターネットで調べてみよう
- 第 10 回 項目 公民権運動（2） 内容 配布資料 ビデオ 授業外指示 マルコム・X についてインターネットで調べてみよう
- 第 11 回 項目 女性解放運動 内容 教科書 pp.204-223 授業外指示 イブセンの『人形の家』が日本に与えた影響について調べてみよう
- 第 12 回 項目 ベトナム戦争と若者の反抗 内容 教科書 pp.158-179 授業外指示 ミュージカル映画『ヘア』をレンタル・ビデオで借りて見てみよう。

- 第13回 項目 アジア系移民 内容 配布資料 授業外指示 ロサンジェルス のリトル・トー キョーと国立日
系人博物館についてインターネ ットで調べてみ よう。
- 第14回 項目 エスニシティー と文化的多元性 内容 教科書 pp.226- 246
- 第15回 項目 レポート提出

成績評価方法 (総合) 期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：概説アメリカ文化史，”笹田直人，堀真理子，外岡尚美編著”，ミネルヴァ書房，2002
年； 笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002 / 参考書： 物語アメリカの歴史：
超大国の行方 (中公新書；1042)，猿谷要著，中央公論社，1991年； 猿谷 要『物語アメリカの歴史』中央
公論新社、1991

メッセージ アメリカについて授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室(国際理解教育資料室向かい) 木曜日 16:00 - 17:00

開設科目	欧米言語文化入門Ⅱ	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 欧米、特にドイツの言語と文化について、ドイツ語の原典を通して学ぶ。初歩的なドイツ語の文法指導と読解を指導する。 / 検索キーワード ドイツ語、言語、思想、文化。

授業の一般目標 ドイツ語の初歩的理解を前提に、原典を読解を通して、ドイツの思想と文化について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初歩的読解ができるようになる。 思考・判断の観点：原典を通して、ドイツの思想を理解できるようになる。 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツの思想・文化への関心を高める。 態度の観点：原典読解を通して、思想・文化理解への真摯な態度を学ぶ。 技能・表現の観点：ドイツ語読解の力をつける。

授業の計画（全体） 前半はドイツ語文法の復習に当て、後半は原典読解を通じて、ドイツの思想や文化について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 テキスト紹介と授業の進め方等についての説明。
- 第 2 回 項目 ドイツ語文法の復習（1） 名詞、冠詞、動詞等の変化について復習する。内容 前の時間の復習・小テストを行う。
- 第 3 回 項目 ドイツ語文法の復習（2） 完了、受動態等の復習をする。内容 前の時間の復習・小テストを行う。
- 第 4 回 項目 ドイツ語文法の復習（3） 語順、接続法等の復習をする。内容 ドイツ語テキストを理解するための初歩的内容の説明をする。
- 第 5 回 項目 ドイツ語文法の復習（4） 最低限知っておくべき文法事項の復習・確認をする。内容 文法の総復習と読解テキストの紹介。
- 第 6 回 項目 Einfuehrung 内容 導入。
- 第 7 回 項目 Bekenntnisse aus Jacob Boehmes Schriften 内容 ヤーコブ・ベーム自身の言葉による思想紹介。
- 第 8 回 項目 Lebensdaten 1 内容 1575～1600 まで
- 第 9 回 項目 Lebensdaten 2 内容 1600～1607 まで
- 第 10 回 項目 Lebensdaten 3 内容 1607～1612 まで
- 第 11 回 項目 Lebensdaten 4 内容 1612～1616 まで
- 第 12 回 項目 Lebensdaten 5 内容 1616～1620 まで
- 第 13 回 項目 Lebensdaten 6 内容 1620～1623 まで
- 第 14 回 項目 Lebensdaten 7 内容 1624
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の復習・予習と授業への参加等によって総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：文献は初回にコピーを渡す。

開設科目	欧米言語文化入門 III	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 現在経済のグローバル化が以前にも増して進行し、世界各国・地域の企業や人々と仕事(ビジネス)をせざるをえなくなっている。その際文化等の違いにより摩擦が生ずることもしばしばある。そこで日本と欧米のビジネスにおける慣行・慣習等の違いを知って、摩擦を最小限にする必要がある。本講義では、日本と欧米のビジネス慣行・慣習等の違いを学んで、ビジネスが円滑にできるようにする。

授業の一般目標 日本と欧米のビジネス慣行・慣習等(文化)の違いを学んで、ビジネスが円滑にできるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等について説明できる。 思考・判断の観点: 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等の違いやその摩擦の解決策について自分の意見を述べることができる。 関心・意欲の観点: 日常生活の中で国際ビジネスに関わる問題に関心を持つ。

授業の計画(全体) 日本と欧米のビジネス慣行・習慣等についての比較検討を行う。その際、講義と平行して受講者を数グループに分けて、欧米のビジネス慣行・習慣等を調べ報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 商取引の開始について
- 第 2 回 項目 名刺について
- 第 3 回 項目 挨拶について
- 第 4 回 項目 紹介について
- 第 5 回 項目 その他の文化的相違点について I(お辞儀、服装)
- 第 6 回 項目 その他の文化的相違点について II(社交、主婦の役割等)
- 第 7 回 項目 取引関係の維持と育成、継続について
- 第 8 回 項目 営業マンの機能について
- 第 9 回 項目 販売テクニックと人間関係について
- 第 10 回 項目 給料と動機付けについて
- 第 11 回 項目 賃金について(I)
- 第 12 回 項目 賃金について(II)
- 第 13 回 項目 グループ意識について
- 第 14 回 項目 意思決定のプロセスについて(I)
- 第 15 回 項目 意思決定のプロセスについて(II)

成績評価方法(総合) (1) 毎回 2 組(1 組 2 人)が各国のビジネス慣行・習慣等を調べて報告(1 組 2 回)する (評価 30%) (2) 最終報告をする(評価 70%)

開設科目	欧米言語文化入門 IV	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

授業の概要 欧米文化論 II では、ヨーロッパを取り上げる。教科書、配布するテキスト、授業内に見るビデオなどを通して、ヨーロッパの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。

授業の一般目標 文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、ヨーロッパという地域がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。 思考・判断の観点：歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 関心・意欲の観点：参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 態度の観点：与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

授業の計画（全体）ヨーロッパの文化や社会を構成する要素としての宗教、言語、歴史的背景、現在の時事問題などについての洞察を深めるために、いくつかのテーマを採り上げ、それぞれのテーマについてプリント、パワーポイント、ビデオなどを用いて解説する。テーマについてより深く調べるために、様々な課題を与え、調べてきたことを授業中に発表してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ヨーロッパの国々(1) 内容 教科書 pp.3-46 発表についての指示
- 第 2 回 項目 ヨーロッパの国々(2) 内容 ビデオ
- 第 3 回 項目 ヨーロッパの国々(3) 内容 発表
- 第 4 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (1) 内容 教科書 pp.49-74
- 第 5 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (2) 内容 ビデオ
- 第 6 回 項目 ヨーロッパ世界の形成と変容 (3) 内容 発表
- 第 7 回 項目 非ヨーロッパ圏から考えるヨーロッパ 内容 教科書 pp.75-93
- 第 8 回 項目 EU の歴史と現在 内容 教科書 pp.94-121
- 第 9 回 項目 ヨーロッパの言語 内容 教科書 pp.122-144
- 第 10 回 項目 ヨーロッパ多言語主義の可能性 内容 教科書 pp.145-175
- 第 11 回 項目 ヨーロッパの神話と民話 内容 教科書 pp.176-222
- 第 12 回 項目 ヨーロッパの思想 内容 教科書 pp.240-274
- 第 13 回 項目 ヨーロッパとキリスト教 内容 教科書 pp.275-345
- 第 14 回 項目 東アジアとヨーロッパ 内容 教科書 400-437
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） 授業内の発表、授業や課題に対する熱意ある取り組み、期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：ヨーロッパ学入門，武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編，朝日出版，2005年；教科書については、初回の授業時に書店に来てもらい、教室で販売します。

メッセージ 授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。図書館やインターネットを活用しましょう。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室（国際理解教育資料室向かい） 木曜日 16：00 - 17：00

開設科目	アジア・アフリカ言語文化入門Ⅱ	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。その後、リンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。/
検索キーワード アフリカ、リンガラ語

授業の一般目標 リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。 関心・意欲の観点：アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。 技能・表現の観点：初歩的なリンガラ語を話すことができる。

授業の計画（全体） アフリカで話されている言語についての基礎的な知識をまず学ぶ。その後、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。次に、リンガラ語を話している人たちの文化について歌やことわざを通して学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アフリカで用いられている言語の分類
- 第 2 回 項目 アフリカの多民族国家における言語使用
- 第 3 回 項目 スワヒリ語とスワヒリ文化
- 第 4 回 項目 リンガラ語文法（1）発音、主辞と動詞
- 第 5 回 項目 リンガラ語文法（2）be 動詞と挨拶
- 第 6 回 項目 リンガラ語文法（3）動詞の時制による変化
- 第 7 回 項目 リンガラ語文法（4）不規則活用の動詞
- 第 8 回 項目 リンガラ語文法（5）接頭辞と数字
- 第 9 回 項目 リンガラ語文法（6）疑問詞
- 第 10 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む（1）
- 第 11 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む（2）
- 第 12 回 項目 リンガラミュージックの歌詞を読む（3）
- 第 13 回 項目 リンガラ語のことわざ（1）
- 第 14 回 項目 リンガラ語のことわざ（2）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験と授業の内容に関する小レポートを数回課し、それらにより評価する。特別な理由なく 5 回以上欠席したものは失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業ではプリントを用いる。 / 参考書：アフリカをフィールドワークする, 梶茂樹, 大修館書店, 1993 年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部 2 階 266 号室 オフィスアワー 随時

開設科目	異文化間交流演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	来島浩				

授業の概要 世界の文明を、サムエル・ハンチントンの『文明の衝突』を手掛かりにして、勉強する。

授業の一般目標 世界の文明・文化を理解する。

授業の計画(全体) 『文明の衝突』を読みながら(各人が毎週報告)文明というものを勉強する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

第 1 回 項目 『文明の衝突』を読む 内容 毎週報告をし、議論をする。

第 2 回 項目 以下 15 週まで、同上 内容 以下 15 週まで、同上

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 毎回の報告と授業終了後に提出のレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書: 文明の衝突と 21 世紀の日本, S. ハンチントン, 集英社, 2000 年

開設科目	異文化間交流演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマによってレポート報告をし、それについての助言・指導を行う。

授業の一般目標 資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：選んだテーマについての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点：選んだテーマについて考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：選んだテーマに積極的に取り組むこと。 態度の観点：資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。 技能・表現の観点：収集した資料をもとに自己表現すること。

授業の計画（全体）各自の選んだテーマに沿って、毎回レポートをし、最終的にはそれを論文へまとめる。

成績評価方法（総合）毎回のレポートの仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

開設科目	異文化間交流演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標 異文化間交流を実践し、それを他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教員のもとで異文化間交流について英語で発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	異文化間交流演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 学生が異文化間交流について、発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。 / 検索キーワード 異文化間交流

授業の一般目標 異文化間交流について、他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教員のもとで異文化理解、異文化間交流について発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	異文化間交流演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	今田淳				

授業の概要 学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標 異文化間交流について他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教員のもとで異文化理解、異文化間交流について発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

開設科目	異文化間交流演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 異文化間交流演習 I を継続して行う。

授業の一般目標 異文化間交流演習 I と同じ。

授業の計画（全体） 異文化間交流演習 I と同じ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 異文化間交流演習 I と同じ 内容 異文化間交流演習 I と同じ。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 異文化間交流演習 I と同じ。

教科書・参考書 教科書：『文明の衝突と 21 世紀の日本』, S. ハンチントン, 集英社, 2000 年

開設科目	異文化間交流演習 II	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマを中心に、毎回のレポート報告によって授業を進める。

授業の一般目標 レポートの仕方、討論、そして最終的には論文の書き方等を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：選んだ資料について基本的知識・理解。 思考・判断の観点：選んだ資料についての独自の視点からの思考・判断。 関心・意欲の観点：自分のテーマに対する関心・意欲の持続。 態度の観点：誠実な資料収集、発表への取り組み。 技能・表現の観点：報告・発表の確かな方法。

授業の計画（全体） 毎回の授業を通じて、一つのテーマを究める方法を学ぶ。

成績評価方法（総合） 毎回のレポートの仕方および最終のまとめに拠る。

開設科目	異文化間交流演習 II	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標 異文化間交流を実践し、それを他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教員のもとで異文化理解、異文化間交流について発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	異文化間交流演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 異文化間交流演習 I に引き続き、学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。 / 検索キーワード 異文化間交流

授業の一般目標 異文化間交流について、他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教官のもとで異文化理解、異文化間交流について発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	異文化間交流演習 II	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	今田淳				

授業の概要 学生が異文化間交流について、発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標 異文化間交流について他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。 思考・判断の観点：エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。 関心・意欲の観点：異文化に対する関心を持つ。 態度の観点：積極的に異文化を理解しようとする。 技能・表現の観点：異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

授業の計画（全体）各学生が指導教員のもとで異文化理解、異文化間交流について発表をおこない、議論する。

成績評価方法（総合）演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。 / 参考書：指導教員の指導のもと、必要な文献をそろえる。

開設科目	国際文化学基礎講義 II	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	国文全員				

授業の概要 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。 / 検索キーワード プレゼンテーション、PowerPoint、ディスカッション

授業の一般目標 PowerPoint を用いてわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。
 思考・判断の観点：各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。
 関心・意欲の観点：各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。 態度の観点：自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 技能・表現の観点：PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

授業の計画(全体) まず、PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法を概説する。次に、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 1 内容 PowerPoint の使い方を復習する。
- 第 2 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 2 内容 プレゼンテーションの構成や留意点を説明する。
- 第 3 回 項目 学生によるプレゼンテーション 1 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 4 回 項目 学生によるプレゼンテーション 2 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 5 回 項目 学生によるプレゼンテーション 3 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 6 回 項目 学生によるプレゼンテーション 4 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 7 回 項目 学生によるプレゼンテーション 5 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 8 回 項目 学生によるプレゼンテーション 6 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 9 回 項目 学生によるプレゼンテーション 7 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 10 回 項目 学生によるプレゼンテーション 8 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 11 回 項目 学生によるプレゼンテーション 9 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 12 回 項目 学生によるプレゼンテーション 10 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 13 回 項目 学生によるプレゼンテーション 11 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 学生によるプレゼンテーション 12 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	生物の世界	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標 生物を構成する物質(糖質,脂質,タンパク質,核酸)の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能,脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生物学の基礎知識を身につける。 思考・判断の観点: 生物の構造と機能の関係を理解する。

授業の計画(全体) 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第一章 序論-生物とは何か?- 内容 生物学の考え方、生物の定義。
- 第 2 回 項目 第一章 生物とは何か? 内容 生物学の歴史、生物の分類。
- 第 3 回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。
- 第 4 回 項目 第二章 生物の構成物質 内容 生物の構成物質について。酵素について。
- 第 5 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞の研究法、細胞小器官について。
- 第 6 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。遺伝子について。
- 第 7 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞小器官について。蛋白質合成について。
- 第 8 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生体膜について。
- 第 9 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 生物のエネルギーについて。
- 第 10 回 項目 中間テスト
- 第 11 回 項目 第三章 細胞のつくり 内容 細胞骨格について。筋肉の収縮について。
- 第 12 回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 単細胞生物と多細胞生物について。
- 第 13 回 項目 第四章 細胞の増殖 内容 細胞分裂について。
- 第 14 回 項目 第五章 動物の反応と調節 内容 興奮の伝導と伝達について。
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法(総合) レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書・参考書 教科書: ダイナミックワイド図説生物総合版, 東京書籍, 2005年 / 参考書: 細胞の世界, ベッカー、クレインスミス、ハーディン, 西村書店, 2005年; 目で見える生物学, 石原勝敏ら, 培風館, 2004年; 随時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	生態学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 私たちを取り巻く身近な環境を題材に、環境と生物の関係について学習する。

授業の一般目標 生物学の立場から環境問題について考え、生態学の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生物の様々な環境に対する適応法について学び、生態学の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：身近な生物現象のしくみについて考察できる。 関心・意欲の観点：生物と環境との関わりについて、環境問題等近年のトピックスについて考察することが出来る。

授業の計画（全体） 講義は、指定教科書と配布プリントを参照にしながら進める。毎回、出欠確認も踏まえた、内容確認の小テストを行う予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第一章 序論-環境とは？生物とは？- 内容 生物を取り巻く環境について。
- 第 2 回 項目 第二章 生物進化について 内容 生物誕生の仕組みについて。
- 第 3 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係 内容 環境要因、食物連鎖、適応について。
- 第 4 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 光の要因について。
- 第 5 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 光の要因と生物リズムについて。温度に対する適応について。
- 第 6 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 恒温動物・変温動物の仕組みについて。塩類などに対する生物の適応について。
- 第 7 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 非生物的環境要因と環境問題について。
- 第 8 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（非生物的環境） 内容 地理的要因について。
- 第 9 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 種内関係について。個体数について。
- 第 10 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 繁殖法について。
- 第 11 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 生殖法と性の進化について。
- 第 12 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 動物の行動範囲と配偶行動について。
- 第 13 回 項目 第三章 環境要因と生物の関係（生物的環境） 内容 種間関係について。擬態とカモフラージュについて。
- 第 14 回 項目 第四章 生態系の構造と機能 内容 生態系における物質循環について。
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法（総合） レポート、出席、期末試験を総合的に評価し、判断する。

教科書・参考書 参考書：生態学入門，日本生態学会編，東京化学同人，2004年；生態と環境，松本忠夫，岩波書店，2002年

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	生態学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和・北沢千里				

授業の概要 学校教育における理科教育生物分野の中から、生態学・環境教育・科学史などの分野に関連する論文や著作を輪読す。また、必要に応じて、実習、関連する施設の見学などを行う。

授業の一般目標 論文や著作の内容を理解し、自分自身で問題点を見つけ、それを探求する科学的態度を育成する。また、レポート作成、授業内における発表などを通じて、科学的なスキルやコミュニケーション能力を修得する。

授業の計画(全体) 著作や論文は配布する。内容を査読し、レポートにまとめ、発表する。発表にもとづき、受講者で論議し、理解を深め、また、課題や問題点を明確になるよう指導する。

成績評価方法(総合) レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：大江戸リサイクル事情, 石川英輔, 講談社；大江戸テクノロジー - 事情, 石川英輔, 講談社

連絡先・オフィスアワー 阿部弘和 E-mail:habe@yamaguchi-u.ac.jp 933-5352 北沢千里
E-mail:chisak@yamaguchi-u.ac.jp 933-5347

開設科目	生物学野外実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和・北沢千里				

授業の概要 山口湾において野外実習(臨海実習)を行う。磯採集及び室内での動植物の観察。また、山口市春日町の森林において樹木の分類観察などもあわせて行う。

授業の一般目標 どのような生物がどのような環境に生息するかなど環境と生物の関係を理解する。また、生物分類の基礎・自然観察の方法・考え方を学び、科学的自然観を理解する。

成績評価方法(総合) レポ-ト、受講態度意欲、出席状況を総合的などを総合的に判断し評価する

メッセージ 開設時期は未定ですが、夏期休暇前および夏期休暇中を予定しています

連絡先・オフィスアワー 阿部弘和 北沢千里 (理科教育教室 生物)

備考 集中授業

開設科目	人類学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 本講義では、人間と自然の関係を考えるにあたって、その根源となる自然観をいくつかの民族、社会について取り上げ、比較する。また、実際に野生動植物の利用法として、狩猟採集、農耕、牧畜を取り上げ、その起源や特徴について考える。 / 検索キーワード 文化相対主義、自然観、バナナ

授業の一般目標 環境問題を考える上でその基盤となる自然観及び自然の利用についての理解を深めつつ、文化相対主義的な考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自然観および自然の利用の仕方の普遍性と多様性を理解する。
 思考・判断の観点：文化相対主義に基づいた思考、判断ができる。 関心・意欲の観点：異文化に関心を持つ。

授業の計画(全体) まず、いくつかの民族、社会における自然観を取り上げ、比較する。また、狩猟採集、農耕、牧畜について具体的な事例からその特徴を考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 自然と人間の関係 1 内容 この授業の紹介 とアフリカの植 民地支配および 自然保護区の問 題のビデオを見る。
- 第 2 回 項目 多様な自然観、その分類と特徴 内容 自然観を大きく 4 つに分けて分 析する。
- 第 3 回 項目 キリスト教世界 における自然観 内容 キリスト教世界 における自然観 を、教会の立地 条件や聖書、聖 書が作られたと ころの自然環境 から考える。
- 第 4 回 項目 アイヌにおける 自然観 1 内容 アイヌにおける 自然観を概説す る。
- 第 5 回 項目 アイヌにおける 自然観 2 内容 アイヌにおける 自然観を概説す る。
- 第 6 回 項目 狩猟採集民アカ における自然観 内容 狩猟採集民赤の自然観を概説する。
- 第 7 回 項目 「もののけ姫」 自然観 1 内容 映画「もののけ 姫」を登場人物 の自然観の留意 しながら見る。
- 第 8 回 項目 アフリカ熱帯雨 「もののけ姫」 自然観 2 内容 映画「もののけ 姫」の登場人物 の自然観を説 明する。
- 第 9 回 項目 狩猟採集活動 1 内容 世界の狩猟採集 民を概説する。
- 第 10 回 項目 狩猟採集活動 2 内容 アフリカ熱帯雨 林に居住するア カの狩猟採集活 動について概説 する。
- 第 11 回 項目 農耕活動 1 内容 農耕の起源、世 界で栽培されて いる農作物の種 類について概説 する。
- 第 12 回 項目 農耕活動 2 内容 アフリカ熱帯雨 林における焼畑 農耕について概 説する。
- 第 13 回 項目 世界のバナナ栽 培 内容 世界各地でおこ なわれている伝 統的なバナナ栽 培について概説 する。
- 第 14 回 項目 多国籍企業によ るバナナ栽培 内容 多国籍企業によ るバナナ栽培と 環境問題について 考 える。
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末レポート、授業中に課す小テスト、宿題の小レポートに基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業ではプリントを用いる。 / 参考書：自然の文化人類学, 松井健, 東京大学出版会, 1997 年; 岩波講座開発と文化 3 反開発の思想, 川田順造編, 岩波書店, 1997 年; アイヌ文化の基礎知識, アイヌ民族博物館, 草風館, 1993 年; カトリックの文化誌, 谷泰, 日本放送出版協会, 1997 年; 文献ではないが映画「もののけ姫」を題材として取り上げる。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 随時

開設科目	世界の食料生産構造	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐藤登				

授業の概要 人間の歴史の中で主要な位置を占めてきた食べ物について、その生産の仕組みを説明する。

授業の一般目標 (1) 食べ物の生産にかかわる要因を理解する。(2) 身近な食べ物を、日常生活の中から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：主要農産物の生産について説明できる。 思考・判断の観点：自然環境と農環境の関係を説明できる。 関心・意欲の観点：日常の食生活について関心を持つ。

授業の計画(全体) 食物の成長に必要な要因(光、水、空気、土など)について検討し、自然環境とのかねあいを考える。日常生活の中で取り扱う食べ物について総合的な理解を深めてみる。 田植えや野菜栽培を具体的に行って栽培技術の一般的内容を知る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方 < BR > 成績評価の方法 授業記録 配布資料 1

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回 項目 農業体験 内容 田植え

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) (1) 授業中に数回行う小実験と栽培実習についてレポートを提出。(2) 個人課題でのレポート提出。 なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。

開設科目	農業文化論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐藤登				

授業の概要 世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。 / 検索キーワード 農業地帯、農法、文化、暮らし

授業の一般目標 世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界の農業地帯を説明できる。 思考・判断の観点：農業文化の多様性を説明できる。 関心・意欲の観点：身近な農業文化に関心を持つ。

授業の計画（全体） 和辻哲郎の『風土』を読む。地理学の授業で得た世界の農業地帯の資料を利用し、ブルガリアと日本の農業の比較をする。身近に存在する農業文化に関心を持つ。

成績評価方法（総合） 授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

開設科目	国際文化学基礎講義 I	区分	講義と演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	国文全員				

授業の概要 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。 / 検索キーワード プレゼンテーション、PowerPoint、ディスカッション

授業の一般目標 PowerPoint を用いてわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。
 思考・判断の観点：各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。
 関心・意欲の観点：各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。 態度の観点：自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 技能・表現の観点：PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

授業の計画(全体) まず、PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法を概説する。次に、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを 3 回おこなう。そのうち 1 回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 1 内容 PowerPoint の使い方を復習する。
- 第 2 回 項目 PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法 2 内容 プレゼンテーションの構成や留意点を説明する。
- 第 3 回 項目 学生によるプレゼンテーション 1 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 4 回 項目 学生によるプレゼンテーション 2 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 5 回 項目 学生によるプレゼンテーション 3 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 6 回 項目 学生によるプレゼンテーション 4 内容 学生による日本語のプレゼンテーション
- 第 7 回 項目 学生によるプレゼンテーション 5 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 8 回 項目 学生によるプレゼンテーション 6 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 9 回 項目 学生によるプレゼンテーション 7 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 10 回 項目 学生によるプレゼンテーション 8 内容 学生による英語のプレゼンテーション
- 第 11 回 項目 学生によるプレゼンテーション 9 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 12 回 項目 学生によるプレゼンテーション 10 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 13 回 項目 学生によるプレゼンテーション 11 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 学生によるプレゼンテーション 12 内容 学生による最終のプレゼンテーション
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	アジア文化論 II	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 インドネシア(とりわけバリ、ジャワ、現代都市)と現代日本の文化について比較しながら学ぶ。 / 検索キーワード 異文化、自文化、インドネシア、ジャワ、バリ、日本、文化、宗教

授業の一般目標 異文化と自文化という枠組みと、それを見る視点について、一定の図式を身につけ、個々の文化現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：異文化と自文化の主要な課題について、一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の社会・文化・宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な社会・文化・宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：文化論の理論・学説および異文化に関する記述力を養うこと。 その他の観点：異文化と自文化を捉える感性を磨くこと。

授業の計画(全体) 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。異文化と自文化を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、レジュメと映像資料に沿って進める。

成績評価方法(総合) 1.出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。2.小テストは13回(ほぼ毎回)行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。3.最終レポートを学期末の試験期間中に課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジュメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、異文化/インドネシアに関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413号室

開設科目	ヨーロッパ文化論 II	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。 / 検索キーワード
 アイデア界と現象界、エロース、畜群、神の死

授業の一般目標 ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得ること。 思考・判断の
 観点：ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：ヨーロッパ文化の
 基礎的的思想的理解への関心を喚起すること。 態度の観点：ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う
 こと。 技能・表現の観点：ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） ドゥルーズのニーチェを読み進めながら、ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点
 から明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキスト、評価の方法等
- 第 2 回 項目 ニーチェ
- 第 3 回 内容 ニーチェの生涯 1
- 第 4 回 内容 ニーチェの生涯 2
- 第 5 回 内容 ニーチェの哲学 1
- 第 6 回 内容 ニーチェの哲学 2
- 第 7 回 内容 ニーチェの哲学 3
- 第 8 回 内容 ニーチェの世界観
- 第 9 回 内容 哲学者とは
- 第 10 回 内容 哲人ディオニュソス
- 第 11 回 内容 力への意志
- 第 12 回 内容 価値転換
- 第 13 回 内容 永劫回帰
- 第 14 回 内容 狂気について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の理解度レポートと最終の試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：ニーチェ, ドゥルーズ, ちくま学芸文庫

開設科目	地理学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 The focus of this course is on the ways cultures and society vary and function spatially. Students describe and interpret spatial variations in culture, recognize cultural similarities and differences resulting from a complex of factors. The lecture mater / 検索キーワード Culture, Geography

授業の一般目標 To learn to understand cultures around the world, how culture regions are formed, the factors of cultural diffusion and cultural integration, the ways different cultures relate to the natural environment and form specific cultural landscapes.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand and compare cultures around the world. **思考・判断の観点:** To learn how to explain factors that create or influence cultures. To discuss cultural differences. **関心・意欲の観点:** To discuss the processes of cultural change and disappearance of cultural traits. **態度の観点:** To develop an understanding and tolerance to cultural differences. **技能・表現の観点:** To learn to communicate with people from other cultures and discuss problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English. **その他の観点:** To do research on a specific problem concerning Cultural Geography.

授業の計画 (全体) Elements of cultures and their geographic distribution from the point of view of cultural regions, cultural diffusion, cultural integration, cultural ecology, cultural landscapes.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The nature of cultural geography 内容 1. What is Cultural Geography 2. Themes in Cultural Geography: culutre regions, diffusion, integration, ecology, landscapes
- 第 2 回 項目 People on the land - 1 内容 1.Demographic regions 2.Diffusion in Population Geography 3.Population ecology
- 第 3 回 項目 People on the land - 2 内容 1.Cultural integration and population patterns 2.The settlement landscape
- 第 4 回 項目 The agricultural world 内容 1.Agricultural regions 2.Agricultural diffusion 3.Agricultural ecology
- 第 5 回 項目 The appearance of civilizations 内容 1.Cultural integration in agriculture 2.Agricultural landscapes 3.Apperance of cities 4.The birth of civilizatioins 5.Features and geography of the first civilizatioins
- 第 6 回 項目 Political patterns 内容 1.Political culture regions 2.Political diffusion 3.Political ecology 4.Politico- cultural integration 5.Political landscapes
- 第 7 回 項目 The mosaic of languages 内容 1.Linguistic culture regions 2.Linguistic diffusion 3.Linguistic ecology 4.Culture- linguistic integration 5.Linguistic landscapes
- 第 8 回 項目 Religious realms 内容 1.Religious culture regions 2.Religious diffusion 3.Religious ecology 4.Cultural integration in religion 5.Religious landscapes
- 第 9 回 項目 Folk geography 内容 1.Folk culture regions 2.Folk cultural diffusion 3.Folk ecology 4.Cultural integration in folk geography
- 第 10 回 項目 Folk culture and environment 内容 1.Folk landscapes 2.The relationship between folk cultures and the natural environment.
- 第 11 回 項目 Popular culture 内容 1.Popular culture regions 2.Popular culture regions 3.The ecology of popular culture 4.Cultural integration in popular culture 5.Pop culture landscapes
- 第 12 回 項目 The future of folk and popular cultures. 内容 1.Relationship folk-pop culture 2.Disappearing cultures 3.Our cultural future: discussion

第 13 回 項目 The urban mosaic 内容 1.Cities in time and space 2.Origin and diffusion of cities 3.Evolution of urban landscapes 4.Ecology and urban locatioin 5.Cultural integration in urban geography

第 14 回 項目 Industrial geography and culture 内容 1.Industrial regions, folk and pop culture 2.Industrial diffusion: past and current trends; influence on culture. 3.Industrial landscapes and cultures.

第 15 回 項目 Culture, tourism and international relations 内容 1.Culture and tourist destinations 2.Culture and tourist development 3.Geography of tourism

成績評価方法 (総合) Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % Final test: 60 %

教科書・参考書 教科書 : Study materials will be deposited online, accessible with the respective password. <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/>

開設科目	地理学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 This course offers the students a geographic perspective of the environment and its problems. It is shaped around the idea of the Earth as home of humankind. Global environments are discussed, the focus being on how environments influence the creation, development and disappearance of cultures.
/ 検索キーワード Environment, Geography, Culture

授業の一般目標 To understand the relationships between cultures and natural environment.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand the role of nature for the formation of cultures
思考・判断の観点: To learn how to explain the environmental impact in the formation of culture traits.
関心・意欲の観点: To discuss and explain the processes of culture-environment interaction
態度の観点: To develop understanding to environmental problems from cultural perspective. **技能・表現の観点:** To learn to communicate with people from other cultures on environmental problems and convey opinions in English. **その他の観点:** To do research on cultural/environmental problems.

授業の計画 (全体) Environmental regions around the world with their specific features and how they influence the formation, development and disappearance of cultures.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The critical challenge 内容 The Global Context and Setting. Population and Earth's carrying capacity. The human values factor. The geographical factor. Human use of the Earth. Prospects for sustainable land use. Limits to growth.
- 第 2 回 項目 Humans and Earth - the great experiment 内容 Human Dispersal and Adaptation. The Rise of Human Populations. Frontier Environments and the modern threat. The wet Tropics. The dry lands. The cold lands. The mountain lands. The continental shelf. Frontier environments.
- 第 3 回 項目 Environmental framework of global systems 内容 The General Organization of the Earth's Environments. The source of energy and the Earth's environments. The major energy systems of Earth. The cycle of matter and ecosystems. The Gaia concept.
- 第 4 回 項目 Human population and the environment 内容 A historical perspective of population trends. Population patterns. Changing perceptions of population trends (cultural perspective). Natural population changes. The demographic transition. Worldwide programs to stabilize world population. Population and the natural environment.
- 第 5 回 項目 Agriculture, food production and hunger 内容 Cultural Evolution and the Development of Global Agriculture. Industrialization and the Changing Nature of Agriculture. Food Choices: The Plants and Animals that Feed the World. Systems of Agricultural Production. Perspectives on Food Production, Population and Hunger. Expanding Food Production: Some Pros and Cons of the Green Revolution. Outside the Green Revolution: New strategies for traditional agriculture. Beyond the Green revolution: biotechnology. Agriculture and the environment. Moving towards sustainable agricultural production.
- 第 6 回 項目 Energy and environment 内容 Energy Resources and Technology. The global energy economy: energy sources and uses. Fossil fuels. Nuclear power. Renewable and perpetual energy resources. Using energy more efficiently. The relationship between folk and popular culture and the natural environment. World international politics and energy resources.
- 第 7 回 項目 Atmospheric environment and land use 内容 The global atmosphere. General atmospheric circulation, radiation in the atmosphere. The earth's heat balance, the Greenhouse effect and global warming. Urban climate and human life. Air Pollution: sources, processes,

patterns, and scales. Air pollution impacts on people and environment. Air pollution control: cultural and international involvements.

第 8 回 項目 Hydrologic environment and landuse 内容 The hydrologic cycle. Precipitation, storms and environment. Floods, flood hazard and land use. Groundwater, lakes, ponds and wetlands. Human use of water. Managing water resources and sustained use. Types of water pollution. Water pollution sources, distribution and processes. Groundwater pollution. Pathways of the hydrologic cycle. Pollution of the oceans. Pollution control. Culture, development and water resources.

第 9 回 項目 Hazardous waste production and disposal 内容 Types and sources of waste Disposal. Consequences of improper waste management. Hazardous waste regulation in different countries. Modern hazardous Waste disposal methods. Hazardous waste treatment. Waste reduction and recycling. Countries, cultures, economies and waste management.

第 10 回 項目 Soil, land and landuse 内容 Geographic Organization of the Land. Topography of Land Use. The Soil Mantle: Sources of Parent Material. Soil Properties: Key soil traits and components. Soil forming Processes. Integrated models of soil, land use and environment. Soil loss by Erosion. Cultures and land use.

第 11 回 項目 Biological diversity and landuse 内容 The Significance of biodiversity. Geographical biodiversity. Land use, habitat loss, and biodiversity. Endangered, threatened, and protected species. Ways of cutting biodiversity losses. Cultures and biodiversity. International concern.

第 12 回 項目 Open land resources- forests, parks, preserves 内容 Development and exploitation of open land resources. Conservation and preservation of open land resources. Forests, woodlands, and land use. Range lands, herding, and ranching. The Parks movement.

第 13 回 項目 Managing the environment 内容 The growing environmental impact of human activity. Sustainable development: the key to environmental management. Necessary changes in national and international resource policies. Institutions to manage the environment.

第 14 回 項目 Monitoring the environmental change 内容 Monitoring environmental change with remote sensing. Geographic Information Systems. The role of GIS in local and regional environmental Management. Global change, research, and global information systems.

第 15 回 項目 Environments, economy, cultures and international relations 内容 Discussion

成績評価方法 (総合) Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % Final test: 60 %

教科書・参考書 教科書 : Study materials will be deposited online, accessible with the respective password: <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/>

開設科目	地誌学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 This course examines issues of global importance such as development, demographic change, urbanization and migration, and international conflict. Offers knowledge on population, environment, economies and cultures of major world regions. / **検索キーワード** Regions, Regional Geography, Culture

授業の一般目標 To understand the global setting of world regions and their interrelations through global environmental, economic, cultural and political processes.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : To understand the global regional differentiation **思考・判断の観点** : To learn how to explain factors that create global regions and discuss environmental, economic, political, cultural issues concerning these regions. **関心・意欲の観点** : To discuss processes of development in the world regions. **態度の観点** : To develop understanding and tolerance to problems and differences between and within regions. **技能・表現の観点** : To learn to communicate with people from different parts of the world and discuss international problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English. **その他の観点** : To do research on a specific problem concerning Regional Geography.

授業の計画 (全体) Development, demographic change, urbanization, international conflict around the world. World regions and their features.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 How does regional geography study the world 内容 Historical review. What do geographers do? Geography and development. Two types of Countries.
- 第 2 回 項目 People and resources 内容 Population. Distribution and density of population. Models and theories of population change. People and resources.
- 第 3 回 項目 Physical and cultural components of the human environment 内容 Elements of the physical environment. Humanity and culture. Social and political organisation. Economic activity. Trade.
- 第 4 回 項目 More developed and less developed countries 内容 Measurement of wealth. Characteristics of the different types of countries. Theories of development.
- 第 5 回 項目 Major problems of world regions 内容 The map of world regions. Major environmental, economic, political, cultural problems in the different world regions.
- 第 6 回 項目 North America 内容 The Bases for Development. Physical geography. Resources and industrial growth. Early settlement. Demographic features. Transportation and development. Agriculture. Manufacturing. Industrialization and urbanization. Problems in a developed Realm. Income disparity and Regional problems. African americans. Hispanic americans. Canadian identity and unity.
- 第 7 回 項目 Central America and South America 内容 The Bases for Development. Physical geography. Demographic features. Agriculture, industry, urbanization. Problems.
- 第 8 回 項目 Western Europe 内容 Landscapes and development. European culture. The trend toward unity. Population patterns. Patterns of industrialization and agriculture. Urbanization and regions. European culture. The European Union. The core countries. Eastern flank countries. Southern europe. Nordic countries. Island countries.
- 第 9 回 項目 Eastern Europe 内容 The land between. Political evolution. Cultural Diversity. Population. Levels of economic development. Agriculture. Industry. Strategies of development. Russia.

- 第 10 回 項目 Africa 内容 Regions and resources. Environment. Population. Political and economic problems.
- 第 11 回 項目 Middle East 内容 Regions, environment, resources and cultures. Development. Environmental, economic, cultural and political problems.
- 第 12 回 項目 Central Asia 内容 Geography. Regions. Resources. Development. Cultures. Problems.
- 第 13 回 項目 Eastern Asia 内容 Geography. Regions. Resources. Development. Cultures. Problems.
- 第 14 回 項目 Southern Asia 内容 Geography. Regions. Resources. Development. Cultures. Problems.
- 第 15 回 項目 Australia and Oceania 内容 Isolation in space. Australia - resources and problems, Settlements, population, urbanization, economy. New Zealand - a pastoral economy.

成績評価方法 (総合) Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % Final test: 60 %

教科書・参考書 教科書 : Study materials will be deposited online, accessible with the respective password: <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/>

開設科目	経済学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	来島浩				

授業の概要 一国の経済（GDP）は企業部門、政府部門、輸出部門と家計部門の4部門から成り立っているが、通常問題にされるのは、政府部門、企業部門と輸出部門で、家計部門はあまり問題にされていない。しかし GDP の3分の2は家計部門が占めているので、これを抜きにしては経済は語れない。したがって今年度は一国の経済、特に日本経済を家計視点より勉強していくことにする。

授業の一般目標 戦後、目覚ましい高度経済成長を遂げた日本。しかし「成長至上主義」は、一方でゆとりある人間らしい生活を常に犠牲にしてきた。そして、いま長期不況のもとで、その歪みが深刻化している。サービス残業は増え続け、所得格差は広がり、貧困家計も増える一方である。生活者の「家計」から日本経済を分析し、産業重視の政策からの転換を説くことにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：家計視点より一国の経済の仕組みとそれにかかわる経済理論を説明できる。 思考・判断の観点：家計と一国経済の相互関係とその解決策について自分の意見を述べることができる。 関心・意欲の観点：日常生活の中で経済に関わる問題に関心を持つ。

授業の計画（全体） まず最初に日本経済の現状を家計視点から分析する。次に家計からみた戦後の日本経済を検討する。さらに、一国の経済は発展しているのに豊かさを実感しない家計の存在や家計が危機的状況にあることを検討し、最後に社会保障制度改革と家計の対応策をみていくことにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 日本経済の現状 内容 経済成長至上主義の限界についてみる
- 第2回 項目 家計視点から日本経済をみる意義 内容 家計から経済をみる意義について述べる
- 第3回 項目 家計から見た戦後の日本経済 内容 戦後日本経済の軌跡—家計の貧困から経済大国へ
- 第4回 項目 同上 内容 消費の拡大と高い貯蓄率
- 第5回 項目 同上 内容 教育水準の飛躍的向上と働き手としての女性の変化
- 第6回 項目 豊かさを実感しない家計の存在 内容 経済成長を支えた長時間労働
- 第7回 項目 同上 内容 高すぎる物価水準と改善の遅れる住環境
- 第8回 項目 同上 内容 生産者優位と後回しにされる家庭経済
- 第9回 項目 家計の経済危機 内容 貧困家計の増加と所得格差の拡大
- 第10回 項目 同上 内容 長時間労働と失業不安という矛盾
- 第11回 項目 同上 内容 高まる将来への不安
- 第12回 項目 同上 内容 新しい抗争の出現—世代間格差・不公平
- 第13回 項目 社会保障制度改革と家計の対応策 内容 社会保障制度改革—年金・医療
- 第14回 項目 同上 内容 社会保障制度改革—社会福祉
- 第15回 項目 同上 内容 低成長下でも豊かに生きていくために

成績評価方法（総合）（1）新聞等の記事で、自分が関心をもつ経済問題について、毎回講義の初めに15分位レポート（2人位）をし、それを評価（30%）する。（2）期末に試験を実施し、評価（70%）する。

教科書・参考書 教科書：家計からみる日本経済、橘木俊詔、岩波書店、2004年

開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 言い古された言葉ですが、国際経済への興味が「国際人」への第一歩です。そこで国際人への第一歩を踏み出すことが出来るように、国際経済の基礎理論・知識を学ぶことにします。

授業の一般目標 我々は今、大きな不安と苦悩のなかにいる。それは、格差拡大、社会保障不安、失業問題、少子・高齢化といったさまざまな形で顕在化し、大きな社会問題となっている。これらの問題は、戦後日本が模範としてきたアメリカ型の経済効率至上主義が大きな要因である。日本は、このままアメリカ型の政策を続けていくべきなのだろうか。自由な経済活動を支持しながら、社会の公平性をより重視するヨーロッパ型の政策にも注意を払うべきである。そこで、今年度は、日本とアメリカ、ヨーロッパの経済（政策）を比較しながら勉強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本、アメリカ、ヨーロッパの経済の仕組みや考え方を知らることができる。思考・判断の観点：各国の経済問題の相互関係やその解決策について自分の意見を述べる事ができる。関心・意欲の観点：日常生活の中で国際経済に関わる問題に関心を持つ。

授業の計画（全体） まず、戦後の日本経済を概観し、問題点や課題を洗い出す。次に、戦後手本としたアメリカ経済を勉強し、日本とアメリカの比較を行う。最後に、自由な経済活動を支持しながら、社会の公平性をより重視するヨーロッパ経済を概観し、日本・アメリカ経済との比較を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 経済、経済学、経済政策等について
- 第 2 回 項目 日本の経済（政策） 内容 戦後復興期の経済（政策）
- 第 3 回 項目 同上 内容 高度経済成長期の経済（政策）
- 第 4 回 項目 同上 内容 安定成長期の経済（政策）
- 第 5 回 項目 同上 内容 バブル期の経済（政策）
- 第 6 回 項目 同上 内容 長期不況期の経済（政策）
- 第 7 回 項目 同上 内容 戦後経済がもたらしたもの
- 第 8 回 項目 アメリカ経済（政策） 内容 アメリカ経済（政策）の概観
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 アメリカ経済と日本経済の関係
- 第 11 回 項目 ヨーロッパ経済（政策） 内容 ヨーロッパ経済（政策）の概観
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 ヨーロッパ経済と日本経済の関係
- 第 14 回 項目 経済（政策）の比較検討 内容 日・米・欧の経済（政策）関係の比較
- 第 15 回 項目 おわりに 内容 それぞれの国の経済がもたらしたもの

成績評価方法（総合）（1）毎講義の始めの 20 分位で、問題となっている国際経済や経済政策に関するレポートを行い（毎回 2 人位）、それを評価（30%）する。（2）期末に試験を実施し、評価（70%）する。

教科書・参考書 教科書：アメリカ型不安社会でいいのか、橋本俊詔、朝日新聞社、2006 年

メッセージ 毎日の新聞の政治・経済記事や雑誌等の経済記事を読むようにしましょう。

開設科目	比較宗教学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 東西の宗教(主に仏教とイスラーム)を比較することによって、「宗教とは何か」ということを明らかにする。/検索キーワード 宗教、仏教、イスラーム、縁起、四聖諦、六信五行。

授業の一般目標 主に仏教とイスラームの基本的知識を習得し、それを通して宗教に対する姿勢を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 仏教とイスラームの教えについての基礎的知識を得ること。 思考・判断の観点: 宗教に対する正しい思考・判断力を得ること。 関心・意欲の観点: 宗教に対する関心を深めること。 態度の観点: 人生に対する真摯な態度を得ること。

授業の計画(全体) 仏教とイスラームに関する概論的テキストを使って、それぞれの教義の中核となるものを講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 テキストを紹介し、授業の目標、進め方、評価の仕方等について説明する。
- 第2回 項目 イスラームとは何か 内容 イスラーム世界と日本
- 第3回 内容 イスラームの歴史
- 第4回 内容 信仰
- 第5回 内容 実践
- 第6回 内容 分派
- 第7回 内容 神秘主義
- 第8回 内容 イスラームの近代
- 第9回 項目 仏教とは何か。 内容 ブッダの生涯
- 第10回 内容 ブッダと現代
- 第11回 内容 空について
- 第12回 内容 業について
- 第13回 内容 日本仏教について
- 第14回 内容 受容と変容
- 第15回 項目 総まとめ 内容 「宗教とは何か」について

成績評価方法(総合) 毎回のレポートと最終試験を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書: イスラム教入門, 中村広治郎, 岩波新書; 仏教とは何か, 山折哲雄, 中公新書

開設科目	人類学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 文化人類学における異文化理解に対する考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。 / 検索キーワード 文化相対主義

授業の一般目標 異文化理解において、文化相対主義という考え方の重要性を理解し、実践することが目標である。それには、単に異文化を理解するだけではなく、異文化を通して、日本人が当たり前であると考えている自文化の慣習的行為、制度、価値観を相対化するということも含まれている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化人類学の基本的概念、特に文化相対主義を理解する。 思考・判断の観点：自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。 関心・意欲の観点：異文化に関心を持つ。 態度の観点：異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。

授業の計画（全体）最初に文化相対主義を説明し、アフリカのいくつかの民族や現代フランス、近現代の日本の家族、結婚、愛情、性などについて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化人類学入門 文化相対主義 と自民族中心主義 内容 文化相対主義について説明する。
- 第 2 回 項目 文化相対主義の 問題点 内容 文化相対主義の 問題点、限界について説明する。
- 第 3 回 項目 「血」のつながりとは何か - 親子関係再考 内容 いくつかの民族 における親子関係の規定のされ方を取りあげ、親子関係とは何なのかを考えてみる。
- 第 4 回 項目 アカ・ピグミー における結婚と 家族(1)アカ の一生 内容 アフリカ・熱帯 雨林に居住する 狩猟採集民アカ のライフステージを概観する。
- 第 5 回 項目 アカ・ピグミー における結婚と 家族(2)アカ における結婚 内容 アカの結婚について説明する。
- 第 6 回 項目 ムプティ・ピグミー における結婚 内容 アフリカ・熱帯 雨林に居住する 狩猟採集民ムプティの結婚、特に姉妹交換婚と 婚資婚について 説明する。
- 第 7 回 項目 サン における結婚と性 内容 アフリカ南部に 住む狩猟採集民 サン の結婚と愛人関係について 説明する。
- 第 8 回 項目 半農半牧民チャムス における結婚と性 内容 ケニアに住む半 農半牧民チャムス の結婚と愛人 関係について説明する。
- 第 9 回 項目 焼畑農耕民ベンバ における結婚 と家族 内容 ザンビアに居住 する焼畑農耕民 ベンバ における 結婚と家族、およびそれらに対する近代化の影 響について説明する。
- 第 10 回 項目 現代フランスに における結婚と家 族(1)男女関係 内容 現代フランスに における男女関係 と結婚について 説明する。
- 第 11 回 項目 現代フランスに における結婚と家 族(2)親子関係 内容 現代フランスに における親子関係、特に複合家 族について説明 する。
- 第 12 回 項目 日本における家 族、結婚、恋愛、性の近現代 史 1 内容 日本の近現代に における結婚の制 度的側面について 説明する。
- 第 13 回 項目 日本における家 族、結婚、恋愛、性の近現代 史 2 内容 日本の近現代に における男女関係、恋愛、性について 説明する。
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末レポートと授業中もしくは授業後に毎回課す小レポートに基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書・参考書 教科書：授業時には毎回プリントを配布する。 / 参考書：フランス家族事情, 浅野素女, 岩波書店, 1995年; アフリカ女性の民族誌, 和田正平編, 明石書店, 1996年; ヒトの自然誌, 田中二郎・掛谷誠編, 平凡社, 1991年; 性の人類学, 高畑由起夫編, 世界思想社, 1994年; ニサ カラハリの女の物語り, マージョリー・ショスタック, リプロポート, 1994年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 オフィスアワー 随時

開設科目	アフリカ研究演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 この授業は二つの部分から成り立っている。第一は、アフリカに関する統計データを Excel で分析し、アフリカにおけるさまざまな問題（教育、人口、衛生、保健、ジェンダー）について考える。第二に、各々の学生がアフリカの国もしくは地域、またはアフリカを取り巻く問題（エイズ、環境問題、内戦、教育問題など）を選んで、それについて調べ PowerPoint を用いて発表をおこなう。 / 検索キーワード アフリカ、エクセル、統計データ、パワーポイント

授業の一般目標 日本から見ると最も遠い存在であるアフリカについての興味や関心を持ち、アフリカが抱えるさまざまな問題について考えることと、Excel を用いて統計資料を分析するテクニックを学ぶことが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アフリカの統計的な資料の分析によって、アフリカの現状、特にアフリカが抱えているさまざまな問題を理解する。 思考・判断の観点：アフリカの現状について統計的資料に基づき客観的に判断できる。 関心・意欲の観点：アフリカに関心を持つ。 技能・表現の観点：エクセルによる統計資料の分析とパワーポイントによるプレゼンテーションができるようになる。

授業の計画（全体） アフリカの衛生、保健、教育、ジェンダーに関する統計データを Excel で分析する。次に、各々の学生がアフリカの国もしくは地域、またはアフリカを取り巻く問題（エイズ、環境問題、内戦、教育問題など）を選んで、それについて調べ PowerPoint を用いて発表をおこなう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要 内容 まず、授業の概要を説明する。次に、インターネットでアフリカに関する情報を手にいれる方法を説明する。
- 第 2 回 項目 アフリカに関する統計データの分析の初歩 内容 アフリカに関する統計データの分析の初歩を説明する。
- 第 3 回 項目 アフリカの人口、保健衛生についての分析 1 内容 アフリカの人口、保健衛生について統計資料の分析をおこなう。
- 第 4 回 項目 アフリカの人口、保健衛生についての分析 2 内容 アフリカの人口、保健衛生について統計資料の分析をおこなう。
- 第 5 回 項目 アフリカの人口、保健衛生についての分析 3 内容 アフリカの人口、保健衛生について統計資料の分析をおこなう。
- 第 6 回 項目 アフリカの教育についての分析 1 内容 アフリカの教育について統計資料の分析をおこなう。
- 第 7 回 項目 アフリカの教育についての分析 2 内容 アフリカの教育について統計資料の分析をおこなう。
- 第 8 回 項目 アフリカにおけるジェンダー問題についての分析 1 内容 アフリカにおけるジェンダー問題について統計資料の分析をおこなう。
- 第 9 回 項目 アフリカにおけるジェンダー問題についての分析 2 内容 アフリカにおけるジェンダー問題について統計資料の分析をおこなう。
- 第 10 回 項目 アフリカにおけるジェンダー問題についての分析 3 内容 アフリカにおけるジェンダー問題について統計資料の分析をおこなう。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーションの準備
- 第 12 回 項目 学生によるプレゼンテーション 1 内容 学生によるプレゼンテーション
- 第 13 回 項目 学生によるプレゼンテーション 2 内容 学生によるプレゼンテーション
- 第 14 回 項目 学生によるプレゼンテーション 3 内容 学生によるプレゼンテーション
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) アフリカの統計資料を分析したエクセルのファイルの提出 (毎回) と、アフリカの国もしくはある問題についてのプレゼンテーションの内容で評価する。理由もなく 5 回以上欠席したものは失格とする。

教科書・参考書 参考書： UNDP 人間開発報告書 2005, 横田洋三, 国際協力出版会, 2006 年

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 随時

開設科目	東欧・ロシア地域研究	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 Eastern Europe: environment, history, economic and political development. Special focus on the cultural differences. More attention is devoted to Russia as a big and influential country, with its historical and current influence in this region. Current economic and political problems. / **検索キーワード** Eastern Europe, Russia, Geography, History, Economy, Politics, Culture

授業の一般目標 To learn to understand the specific of Eastern Europe and processes taking place in this part of the world. To understand East European culture.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand East Europa as a specific economic and cultural region and compare it with other regions in the world. **思考・判断の観点:** To learn how to explain factors that create this specific region. To learn the differences between two major political-economic systems: socialism and capitalism. **関心・意欲の観点:** To discuss processes of political and economic change of societies, using the knowledge about Eastern Europe. **態度の観点:** To develop an understanding to the cultural differences in this region. **技能・表現の観点:** To learn to express their ideas and attitudes upon facts and problems relating to this part of the world. To practice public speaking and presentation skills in English. **その他の観点:** To do reaserch on a specific problem relating to this part of the world.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The map of Eastern Europe and its changes 内容 Geography of Eastern Europe. The map of Eastern Europe and its historic/geographic formation.
- 第 2 回 項目 Natural environments of countries in Eastern Europe 内容 Environmental features of Eastern Europe. Natural resources.
- 第 3 回 項目 Some historic data about Eastern Europe 内容 History of Eastern Europe. Some data about the individual East European countries. Historical and economic differences among East European countries.
- 第 4 回 項目 Cultural similarities and differences in Eastern Europe 内容 Introduction to East European languages, religions, and traditions.
- 第 5 回 項目 Folk cultures of East European countries 内容 Features of folk cultures in different East European countries: cultural regions, diffusions, landscapes.
- 第 6 回 項目 Specific societies under the communist regimes - political- economic aspects 内容 The nature of the socialist society. Life in a socialist country: ideological aspects.
- 第 7 回 項目 Specific societies under communist regimes - social- economic aspects 内容 Social and economic aspects of the socialist system.
- 第 8 回 項目 Eastern Europe - a region in transition 内容 Current economic, social and political problems in Eastern Europe.
- 第 9 回 項目 Russia - history 内容 Historical facts about Russia. Major points of the Russian history.
- 第 10 回 項目 Russia - current political, economic and social conditions 内容 Current political, economic and social conditions in Russia today.
- 第 11 回 項目 Russia and its international relations 内容 The international role of Russia: historically and currently.
- 第 12 回 項目 Russia - culture - 1 内容 Cultural features of Russia: religion, language, literature.
- 第 13 回 項目 Russia - culture - 2 (music, dance, drama, cinema) 内容 Cultural features of Russia: music, dance, drama, cinema.
- 第 14 回 項目 Russia - culture - 3 (other arts) 内容 Features of Russian culture: arts, science, education, sports.

第 15 回 項目 Tourism in Eastern European countries 内容 Tourist resources in Eastern Europe. Sites of interest and tourist destinations. Current trend in development of tourism in Eastern Europe.

成績評価方法 (総合) Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % Final test: 60 %

教科書・参考書 教科書 : Study materials will be deposited online, accessible with the respective password: <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi>

開設科目	日本史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森下徹				

授業の概要 日本史を通史的に概観する。いわゆる「日本人」がどこからやってきたかを見ることから始め、古代、中世、近世にかけての時代史の展開を概観してゆく。そのさい、ふつうに働き、暮らす人々の視線から当該時代の特徴を考えることに努めたい。また教科書 叙述にも注意し、そこでの説明の根拠を史料・データ類に即して検討することも、あわせて進める。

授業の一般目標 歴史を現代とのかかわりにおいて把握すること、そのさい資料に即して歴史的事実に即って考察するという視点・能力を身につけることをめざす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義計画の説明
- 第 2 回 項目 「日本人」はどこから来たか 内容 日本列島に人類が生息し始めた様子から、単一で純粹な「日本民族」なるものが、そもそも存在しないことを学ぶ
- 第 3 回 項目 戦争はいつ始まったか 内容 戦争が歴史的に始まったものであり、したがって人類の理性によって克服できるものだとする視点を学ぶ
- 第 4 回 項目 古墳は何のために作られたのか 内容 古墳を生み出す社会の特質を学ぶ
- 第 5 回 項目 律令国家と社会の実態 内容 国際的な契機から、伝統社会を根強く残したまま、無理を押しつけて律令国家の建設が図られた過程を学ぶ
- 第 6 回 項目 「国風文化」の時代 内容 いわゆる「国風文化」なるものが、中国の制度・文化を吸収することで成り立っていたことを学ぶ
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 武士を生み出す社会 内容 暴力をこととする武士が、社会のなかに一定の精力として成長した中世という時代の特徴を考える
- 第 9 回 項目 領主はなぜ農民を支配できたか 内容 武士が農民を支配できた根拠を考える
- 第 10 回 項目 「倭寇」とは何か 内容 いわゆる「倭寇」なるものを広汎に生み出した、中世末の東アジア世界の特徴を考える
- 第 11 回 項目 再び戦争の時代へ 内容 弥生時代以来、再度民衆が武器をとって戦うことになった16世紀の社会の特質を考える
- 第 12 回 項目 いまにつながる「伝統社会」 1 内容 近世=江戸時代が今日の伝統社会の原型に他ならないことを、社会の仕組みから考える
- 第 13 回 項目 いまにつながる「伝統社会」 2 内容 近世の政治・外交のあり方から伝統社会としての意味を考える
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 中間・期末試験、および時間中の小テストによって判断する

開設科目	外国史	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成				

授業の概要 キリスト教の浸透を経験したヨーロッパ社会とそうでない日本社会に、人間関係のあり方のレベルでどのような差異が形成されてきたのか、それが現在の我々の考え方・行動をどう特徴づけているのかを歴史学的に考察する。 / 検索キーワード キリスト教、個人、社会、共同体、世間、比較宗教社会史

授業の一般目標 宗教社会史的分析を通して、欧米におけるキリスト教信仰の歴史的意味を理解する。日欧比較史的分析を通して、「他人事、他所事の外国史」からの脱却と、我々をとりまく環境を相対的客観的に見る視点の獲得をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講義内容のおおよそを再現することができる。 思考・判断の観点：講義内容に関し、自分なりに論評することができる。 関心・意欲の観点：史料の読解、仮説の構築、概念の吟味等に意欲的に取り組むことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに（講義案内）
- 第 2 回 項目 宗教とは何か
- 第 3 回 項目 告解とは何か
- 第 4 回 項目 聖書を読む（罪とは何か）
- 第 5 回 項目 その 2
- 第 6 回 項目 中世の贖罪規定書を読み解く
- 第 7 回 項目 その 2
- 第 8 回 項目 その 3
- 第 9 回 項目 キリスト教信仰の浸透の史的意味
- 第 10 回 項目 その 2
- 第 11 回 項目 日本における絶対神信仰の弱さ
- 第 12 回 項目 社会と世間
- 第 13 回 項目 世間の共同体的 特質
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末レポートと授業内レポート（場合によっては宿題）の提出。それを下記の観点・割合で評価する。3回遅刻・欠席するとレポート提出資格を喪失する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：講義内にて指示する。

メッセージ 遅刻者の入室を禁ずることがある

開設科目	日本国憲法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 国の根本法である憲法の歴史的背景をおさえた上で、現在の日本における憲法状況を考察する。

授業の一般目標 憲法問題を身近な問題として考えられるようにすること。

授業の計画(全体) まず、憲法とは何かについて説明した上で、その根底にある立憲主義の歴史について考察する。さらに、日本国憲法の基本原理及び具体的内容について説明する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス/憲法とは何か
- 第 2 回 項目 立憲主義の歴史と思想
- 第 3 回 項目 日本国憲法成立史
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本構造と原理
- 第 5 回 項目 国民主権と天皇制
- 第 6 回 項目 平和主義
- 第 7 回 項目 基本的人権(1)
- 第 8 回 項目 基本的人権(2)
- 第 9 回 項目 基本的人権(3)
- 第 10 回 項目 基本的人権(4)
- 第 11 回 項目 権力分立制と統治機構
- 第 12 回 項目 国会
- 第 13 回 項目 内閣
- 第 14 回 項目 裁判所
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: テキストは特に指定せず、プリントを配布する。/ 参考書: 各授業において紹介する。

開設科目	現代法(国際法を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松原幸恵				

授業の概要 現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。

授業の一般目標 今日の情報化社会におけるさまざまな問題を、法学的思考によって捉えられるようにすること。

授業の計画(全体) まず、情報化社会とは何かについて説明した上で、それが抱えるさまざまな法的問題を紹介する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 情報化社会とは何か
- 第 3 回 項目 情報化と表現の自由
- 第 4 回 項目 情報公開制度
- 第 5 回 項目 個人情報保護とプライバシー
- 第 6 回 項目 盗聴捜査と通信傍受法
- 第 7 回 項目 取材・報道の自由と報道被害
- 第 8 回 項目 差別表現
- 第 9 回 項目 インターネットと人権
- 第 10 回 項目 知的財産権/著作権(1)
- 第 11 回 項目 著作権(2)
- 第 12 回 項目 情報と人権に関する国際的動向
- 第 13 回 項目 情報のグローバル化に伴う問題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。プリントを配布する。/ 参考書: 授業において適宜紹介する。

開設科目	国際文化学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	来島浩				

授業の概要 経済学の基礎的知識を学ぶ。

授業の一般目標 経済学を学び、日本経済や国際経済が理解できるようにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済学とは何か 内容 経済と経済学
- 第 2 回 項目 同上 内容 経済学における二つの流れ
- 第 3 回 項目 同上 内容 経済学の効用
- 第 4 回 項目 市場経済 内容 商品とは何か
- 第 5 回 項目 同上 内容 貨幣とは何か
- 第 6 回 項目 同上 内容 貨幣の働き
- 第 7 回 項目 同上 内容 価値
- 第 8 回 項目 同上 内容 貨幣に関わるさまざまな問題
- 第 9 回 項目 資本主義的生産 内容 資本とは何か
- 第 10 回 項目 同上 内容 資本による資本のための生産
- 第 11 回 項目 同上 内容 賃金（1）
- 第 12 回 項目 同上 内容 賃金（2）
- 第 13 回 項目 経済成長 内容 資本の蓄積（1）
- 第 14 回 項目 同上 内容 資本の蓄積（2）
- 第 15 回 項目 同上 内容 資本の再生産と経済成長

教科書・参考書 教科書：入門経済学（新版），鶴田満彦編，有斐閣，2002 年

開設科目	国際文化学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマによって、毎回レポート報告をし、その内容、報告の仕方等についての助言・指導を行う。

授業の一般目標 レポート報告の仕方、またその資料収集の仕方、さらにはそれらを使つての論文作成の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選んだテーマについての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点： 選んだテーマについての的確な思考・判断をなすこと。 関心・意欲の観点： 選んだテーマに積極的に取り組むこと。 態度の観点： 選んだテーマについて着実に資料収集を行うこと。

技能・表現の観点： 収集した資料をもとに、選んだテーマをめぐって自己表現をすること。

授業の計画（全体） 毎回のレポート報告を積み重ね、最終的には論文作成の方法を学ぶ。

成績評価方法（総合） 毎回のレポート報告およびそれに基づいた最終のまとめによって評価する。

開設科目	国際文化学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際文化学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国際文化学演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	今田淳				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。 / 検索キーワード 卒業論文 国際文化

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教官により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

開設科目	国際文化学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 経済学の基礎的知識を学ぶ(国際文化学演習 I の続き)。

授業の一般目標 経済学を学び、日本経済や世界経済を理解できるようにする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 価格 内容 価格とは何か
- 第 2 回 項目 同上 内容 生産価格
- 第 3 回 項目 同上 内容 市場価値
- 第 4 回 項目 同上 内容 現代の価格問題
- 第 5 回 項目 商業と銀行 内容 商業資本と商業利潤
- 第 6 回 項目 同上 内容 利子と利子生み資本
- 第 7 回 項目 同上 内容 銀行制度
- 第 8 回 項目 同上 内容 株式会社
- 第 9 回 項目 資本主義と農業 内容 資本主義と土地所有
- 第 10 回 項目 同上 内容 地代と地価
- 第 11 回 項目 同上 内容 農業問題とその解決方策
- 第 12 回 項目 国民所得 内容 国民所得とは—近代経済学のとらえ方
- 第 13 回 項目 同上 内容 国民所得とは—マルクス経済学のとらえ方
- 第 14 回 項目 同上 内容 国民所得統計と現実分析(1)
- 第 15 回 項目 同上 内容 国民所得統計と現実分析(2)

教科書・参考書 教科書: 入門経済学(新版), 鶴田満彦編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	国際文化学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマによってレポート報告をし、その内容および方法についての助言・指導を行う。

授業の一般目標 レポートの仕方およびそれに基づいた論文の書き方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選んだテーマについての正確かつ基本的な知識・理解を得ること。

思考・判断の観点： 選んだテーマについて考え、判断する力を得ること。 関心・意欲の観点： 選んだテーマに積極的に取り組む姿勢を涵養すること。 態度の観点： 資料収集などに着実かつ積極的に取り組む態度を養うこと。 技能・表現の観点： 収集した資料を基に選んだテーマをめぐって自己表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） 各自の選んだテーマに基づき毎回レポート報告をし、最終的にはそれを論文にまとめる。

成績評価方法（総合） 毎回のレポート報告の仕方およびその内容、さらには最終の論文によって評価する。

開設科目	国際文化学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際文化学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国際文化学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	今田淳				

授業の概要 国際文化学演習 I に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や 論文の書き方の指導をおこなう。 / 検索キーワード 卒業論文 国際文化

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力 を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題 点を理解する。 思考・判断の観点： 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的 にまたわかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点： 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点： 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。 技能・表現の観点： 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教官により、演習 形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合） 各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績 を評価する。

教科書・参考書 教科書： 指導教官の指示による / 参考書： 指導教官の指示による

開設科目	国際文化学演習 III	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	来島浩				

授業の概要 経済学の基礎知識を学ぶ(国際文化学演習 I と II の続き)

授業の一般目標 経済学を学び、日本経済・世界経済を理解し、卒業論文が書けるようにする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家財政 内容 国家財政とは何か
- 第 2 回 項目 同上 内容 市場経済における国家の役割
- 第 3 回 項目 同上 内容 経費膨張のメカニズム
- 第 4 回 項目 同上 内容 財政危機とインフレ
- 第 5 回 項目 同上 内容 財政改革と財政民主主義
- 第 6 回 項目 世界経済 内容 貿易と世界市場
- 第 7 回 項目 同上 内容 国際通貨体制
- 第 8 回 項目 同上 内容 資本輸出
- 第 9 回 項目 同上 内容 現代の世界経済
- 第 10 回 項目 日本経済 内容 戦後復興期の経済
- 第 11 回 項目 同上 内容 高度経済成長期の経済(1)
- 第 12 回 項目 同上 内容 高度経済成長期の経済(2)
- 第 13 回 項目 同上 内容 低成長期の経済
- 第 14 回 項目 同上 内容 バブル期の経済
- 第 15 回 項目 同上 内容 長期不況期の経済

開設科目	国際文化学演習 III	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマによってレポート報告をし、その内容および方法について助言・指導を行う。

授業の一般目標 資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選んだテーマについての正確かつ基本的な知識・理解を得ること。

思考・判断の観点： 選んだテーマについて考え、かつ正確に判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点： 自ら選んだテーマについて積極的に取り組むこと。 態度の観点： 資料収集を着実にを行い、レポート報告に真面目に取り組むこと。 技能・表現の観点： 収集した資料を基に豊かな自己表現をすること。

授業の計画（全体） 各自の選んだテーマをめぐって毎回レポート報告をし、最終的にはそれを論文へまとめる。

成績評価方法（総合） 毎回のレポート報告の内容、方法およびその最終のまとめによって評価する。

開設科目	国際文化学演習 III	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際文化学演習 III	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国際文化学演習 III	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	今田淳				

授業の概要 国際文化学演習 I, II に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。 / 検索キーワード 卒業論文、国際文化

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教官により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：指導教官の指示による / 参考書：指導教官の指示による

開設科目	国際文化学演習 IV	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 卒業論文作成指導。毎回 2 人ずつ研究成果を報告する。

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 卒業研究の報告（以下第 15 週まで同じ）

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

開設科目	国際文化学演習 IV	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 各自の選んだテーマにしたがって毎回レポート報告をし、それについての助言・指導を行う。

授業の一般目標 資料収集やレポート報告の仕方および論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選んだテーマについての正確かつ基本的な知識・理解を得ること。

思考・判断の観点： 選んだテーマについて考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点： 選んだテーマに積極的に取り組むこと。 態度の観点： 選んだテーマについて着実かつ真面目に資料収集する態度を養うこと。 技能・表現の観点： 収集した資料に基づき、豊かな自己表現力を養うこと。

授業の計画（全体） 各自の選んだテーマに基づき毎回レポート報告をし、最終的にはそれを論文にまとめる。

成績評価方法（総合） 毎回のレポート報告の内容および方法、そして最終のまとめによって評価する。

開設科目	国際文化学演習 IV	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際文化学演習 IV	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教員により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：学生の研究テーマに合わせて指示する。 / 参考書：学生の研究テーマに合わせて指示する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	国際文化学演習 IV	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	今田淳				

授業の概要 国際文化学演習 I, II, III に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。 / 検索キーワード 卒業論文 国際文化

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。 関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。 態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。 技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに基づいて、具体的な調査研究方法について、指導教官により、演習形式で指導をおこなう。

成績評価方法（総合）各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：指導教官の指示による。 / 参考書：指導教官の指示による。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	来島浩				

授業の概要 各自がテーマを決め、その報告を毎回2人ずつ行う。

授業の一般目標 卒業研究作成の指導を行う。

授業の計画(全体) 毎回2人が各自のテーマに沿って報告を行う。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 卒業論文の作成指導。各学生のテーマに応じて、資料収集の方法や具体的な論文の書き方などを指導する。

授業の一般目標 各学生のテーマに応じて必要な資料収集や調査を行い、その結果を論文にまとめる。各テーマの追究を目標とし、その過程で出てくる問題解決の方法や、論文としてのまとめ方などを修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマの調査結果に基づき、自らの考えを論理的に、また分かり易く述べることができる。 関心・意欲の観点： 各自の研究テーマに関する関心・意欲を深めるのみならず、それに関連する事柄へのそれも持つことができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な文献収集や研究調査の方法について指導する。毎回各自の研究テーマについての内容報告をゼミ形式で行い、さらに具体的・個別的指導により、それを論文としてまとめる指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程およびその完成度により総合的に評価する。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、及び、卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー didi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	北西功一				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査・研究の方法や論文の書き方について指導をおこなう。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査・研究をおこない、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、研究結果のまとめからを修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについての先行研究の概要や問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、研究結果に基づいて自分の考えを論理的に、またわかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマについて意欲を持って調査・研究することができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、具体的な研究・調査の方法について指導をおこなう。各自の研究の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは個別の指導により、論文としてまとめることができるように指導をおこなう。

成績評価方法(総合) 卒業論文の作成過程、および卒業論文の完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 自分で選んだテーマを意欲を持って取り込むことが重要である。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2階 266号室

文芸・芸能コース

開設科目	国文学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代日本の主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解を深めようとするため、多くの小説を読んでレポートを提出することを要求するので、かなりハードな授業になる。

授業の一般目標 芸術作品を概念的に把握するための基本的契機である内容、素材、形式の相互関連を把握し、その歴史的 position と特性を理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 芸術作品を把握するための基本的知識を身につける。 思考・判断の観点： 文学作品を、内容、素材、形式の相互関連において分析できる。 技能・表現の観点： 文学作品を分析的に把握し、レポートで表現することができる。

授業の計画（全体） 作品分析の前提となる基本的知識を説明し、その事例を具体的な作品分析を通じて例示、検証する。レポートを課し、理解状況を確認、評価する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小説読解の基礎
- 第 2 回 項目 本居宣長
- 第 3 回 項目 明治 20 年代 1
- 第 4 回 項目 明治 20 年代 2
- 第 5 回 項目 自然主義 1
- 第 6 回 項目 自然主義 2
- 第 7 回 項目 夏目漱石
- 第 8 回 項目 森 鷗外
- 第 9 回 項目 白樺派 1
- 第 10 回 項目 白樺派 2
- 第 11 回 項目 プロレタリア文学 1
- 第 12 回 項目 プロレタリア文学 2
- 第 13 回 項目 新感覚派 1
- 第 14 回 項目 新感覚派 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業内レポート = 50 % 期末レポート = 50 %

開設科目	美術理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 とくに西洋における過去の美や芸術の理論を概観し、美術史学の成立までを概説することによって、作品を観ること、創ること、まねることを考察する。

授業の一般目標 (1) 美や芸術の思想の歴史的流れを理解する。(2) それぞれの時代における美や芸術の考え方の基本やその形成のされ方を把握する。(3) 現代における美や芸術の考え方を理解する上での基礎づくりをめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：過去の美や芸術に関する思想のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点：美や芸術という概念について、考察し、それらに対する自らの認識を形成していく。 関心・意欲の観点：美や芸術に対する基本的な考え方に関心をもつ。

授業の計画(全体) 古代の美や芸術に関する思想の紹介からはじまり、中世、ルネッサンス以降、19世紀までの美や芸術の思想を概観し、近代へとつなげながら、美学や美術史学の成立などについても言及する。最後はそれらの知識、考察をもとに実作品の分析を行なってみる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 アイデア論
- 第3回 項目 ミメーシスについて
- 第4回 項目 中世の美意識
- 第5回 項目 精神と自然
- 第6回 項目 大陸合理論とイギリス経験論
- 第7回 項目 主観主義と反主観主義
- 第8回 項目 カントの趣味判断
- 第9回 項目 追体験と追創造
- 第10回 項目 純粹可視性
- 第11回 項目 図像解釈学
- 第12回 項目 美術史学の成立
- 第13回 項目 芸術観照と大衆文化
- 第14回 項目 美術作品実地研修
- 第15回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 授業の最後に実作品の実地研修をし、これまでの授業内容をふまえた上で作品分析を行なってもらう。(1200字×3枚以上) 出席については、所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回レジュメを配布する。参考図書はその都度紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	書道 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書について学習する。(用筆法、基本点画、結体) 楷書を習うことによって技術の修得を計
る。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 楷書の技術を高める。書写の指導力を身につける。

授業の計画(全体) 用筆法、基本点画、結体について 実技指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 楷書について
- 第 2 回 項目 姿勢、執筆、用筆法 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 3 回 項目 結体法、配字 内容 実技指導、半紙に練習
- 第 4 回 項目 横画、縦画 内容 半紙に練習
- 第 5 回 項目 転折、はね 内容 半紙に練習
- 第 6 回 項目 点法、はらい 内容 半紙に練習
- 第 7 回 項目 「空雲」を書く 内容 半紙に練習
- 第 8 回 項目 「風光」を書く 内容 半紙に練習
- 第 9 回 項目 「遠近」を書く 内容 半紙に練習
- 第 10 回 項目 筆順について 内容 ミニテスト、半紙練習
- 第 11 回 項目 「天地和同」を書く 内容 半紙に練習
- 第 12 回 項目 「竹聲松影」を書く 内容 半紙に練習
- 第 13 回 項目 「登山臨水」を書く 内容 半紙に練習
- 第 14 回 項目 「玉雪開花」を書く 内容 半紙に練習
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 提出作品を評価する。

開設科目	哲学概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。 / 検索キーワード
 アイデア界と現象界、エロース、畜群、神の死

授業の一般目標 ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得ること。 思考・判断の
 観点：ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：ヨーロッパ文化の
 基礎的的思想的理解への関心を喚起すること。 態度の観点：ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う
 こと。 技能・表現の観点：ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） ドゥルーズのニーチェを読み進めながら、ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点
 から明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキスト、評価の方法等
- 第 2 回 項目 ニーチェ
- 第 3 回 内容 ニーチェの生涯 1
- 第 4 回 内容 ニーチェの生涯 2
- 第 5 回 内容 ニーチェの哲学 1
- 第 6 回 内容 ニーチェの哲学 2
- 第 7 回 内容 ニーチェの哲学 3
- 第 8 回 内容 ニーチェの世界観
- 第 9 回 内容 哲学者とは
- 第 10 回 内容 哲人ディオニュソス
- 第 11 回 内容 力への意志
- 第 12 回 内容 価値転換
- 第 13 回 内容 永劫回帰
- 第 14 回 内容 狂気について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の理解度レポートと最終の試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：ニーチェ, ドゥルーズ, ちくま学芸文庫

開設科目	文芸風土実習	区分	集中講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 国語科教育に関連した課題を設定して、実地調査を行う。調査計画立案・調査票作成など、調査に関するすべての必要事項を受講生全員の話し合いにより計画する。その後、実際に現地に調査に出かけ、報告書をまとめる。日程は、おおよそ2泊3日。11月下旬に実施されることが多いが、詳細は話し合いで決定する。 / 検索キーワード 実地調査

授業の一般目標 研究課題を設定し、実地調査を体験することによって、研究の仕方を身につけ、研究への関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題に関する基礎知識を得る。 思考・判断の観点：課題に関して得た基礎知識と実際に行った調査の比較検討をする。 関心・意欲の観点：調査を行おうとする関心・意欲を示す。 態度の観点：進んで調査地で資料収集や聞き取りをすることができる。 技能・表現の観点：調査結果を口頭や文章にまとめることができる。

授業の計画（全体） 受講者全員の話し合いにより具体的計画を立て、実地調査を実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 調査方法の解説
- 第3回 項目 課題設定
- 第4回 項目 調査内容の検討
- 第5回 項目 現地調査準備(1)
- 第6回 項目 現地調査準備(2)
- 第7回 項目 現地調査準備(3)
- 第8回 項目 現地調査準備(4)
- 第9回 項目 現地調査等(1)
- 第10回 項目 現地調査等(2)
- 第11回 項目 現地調査等(3)
- 第12回 項目 調査報告(1)
- 第13回 項目 調査報告(2)
- 第14回 項目 調査報告(3)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 報告書及び調査活動への参加状況により評価する。

メッセージ 事前に周到な計画を立て、主体的に実地調査を実施してください。

連絡先・オフィスアワー hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	漢文学講読	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史に関わる古典をいくつか選択して、漢文訓読法を講じつつ、出席者全員で丁寧に読解する。 / 検索キーワード 漢文訓読法、説話

授業の一般目標 (1) 精確な漢文訓読・現代日本語訳を行うための知識・技術を養う。そのために、まずは漢和辞典を何遍も引く習慣を身につけるようにする。(2) 中国古代の物の考え方や価値観についての関心・教養を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 適度な訓読の力を備え、文章を精確に理解しているか。 思考・判断の観点： 文章に説かれる内容を、その内容に即しつつ、自分なりの批判・評価ができるか。

授業の計画(全体) 1 ガイダンス 2～3 テキスト読解の仕方の解説 4～15 テキストの読解テキストの読解に当たっては、予習の段階で、書き下し文とその現代日本語訳とを用意してもらうが、レジメを提出してもらうか口頭発表によるかは、受講者の人数を勘案して決めたい。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキストの読解の仕方の解説
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 テキストの読解・解説
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。

教科書・参考書 教科書： テキスト用のプリントを授業中に配布する。 / 参考書： 授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を有効に使えるよう、訓練する習慣をつけたい。

連絡先・オフィスアワー hidekiko@yamaguchi-u.ac.jp 4階・漢文学研究室 11:50 より 12:50 まで、及び課外の時間。

開設科目	書道 II	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	小倉菊太郎				

授業の概要 楷書のいろいろな字を練習。字配り、大きさに気をつけて5～6字を一紙にまとめることに習熟する。 / 検索キーワード 書道

授業の一般目標 正しく整った楷書が美しく書けることと、いろいろな字面の言葉を紙面に調和よく収めることができる力を身につける。

授業の計画(全体) 実技を主として毎回楷書5～字を手本によって半紙に練習する。清書一枚を提出。

開設科目	映画史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 映画は、世界を大衆化した最初のマス・メディアである。それは、新聞など印刷技術を利用した先行のマス・メディアが文字という局所的に有効な構成要素によって成立していたのに対して、映画が映像という一種の普遍的な構成要素によって成立していたことによる。この講義では、世界に開かれた/世界を開いたマス・メディアとしての映画の特性をふまえて、日本における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標 この講義では、日本における映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 日本映画第 1 次黄金期（1）映画スター
- 第 3 回 項目 日本映画第 1 次黄金期（2）映画作家
- 第 4 回 項目 日本映画と戦争
- 第 5 回 項目 日本映画第 2 次黄金期（1）松竹
- 第 6 回 項目 日本映画第 2 次黄金期（2）東宝
- 第 7 回 項目 日本映画第 2 次黄金期（3）大映
- 第 8 回 項目 日本映画第 2 次黄金期（4）東映
- 第 9 回 項目 日本映画第 2 次黄金期（5）日活
- 第 10 回 項目 撮影所以後の日本映画（1）1970 年代
- 第 11 回 項目 撮影所以後の日本映画（1）1980 年代
- 第 12 回 項目 撮影所以後の日本映画（1）1990 年代
- 第 13 回 項目 新世紀の日本映画
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 参考書：日本映画史 100 年，四方田犬彦，集英社，2000 年；映画の文法 日本映画のショット分析，今泉容子，彩流社，2004 年；映画史を学ぶクリティカル・ワーズ，村山匡一郎，フィルムアート社，2003 年；シネマ 2・時間イメージ，ジル・ドゥルーズ，法政大学出版局，2006 年

開設科目	言語学概論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 言語を客観的に眺め、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 言語学上の基本概念を理解する。

授業の計画(全体) 言語学の基礎的な諸領域(音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論・認知論など)について概説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語とは何か
- 第 2 回 項目 文法とは何か
- 第 3 回 項目 言語と脳の働き
- 第 4 回 項目 単語(1)
- 第 5 回 項目 単語(2)
- 第 6 回 項目 文の型(1)
- 第 7 回 項目 文の型(2)
- 第 8 回 項目 言語と意味(1)
- 第 9 回 項目 言語と意味(2)
- 第 10 回 項目 言語と音(1)
- 第 11 回 項目 言語と音(2)
- 第 12 回 項目 言語の習得(1)
- 第 13 回 項目 言語の習得(2)
- 第 14 回 項目 言語と人とコンピューター
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートと期末の定期試験の総合評価

教科書・参考書 参考書: An Introduction to Language 7th edition, Fromkin, Rodman, Hyams, Thomson, 2003 年

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語学概説 (音声言語及び文章表現を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 国語学(日本語学・言語学)の基礎的な項目(音声・文字・語彙・文法・方言など)を解説する。また、各項目に設定されている問題を解くことによって、方法論の習得を強化する。/検索キーワード 国語学、日本語学、言語学、文法

授業の一般目標 (1)国語学の基本的な事項を理解できる。(2)国語学の方法論を習得し、それを新たなデータに適用できる。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1.国語学の基本的な項目を理解し、説明できる。思考・判断の観点: 1.国語学の方法論を、新たなデータに適用できる。2.主体的な分析によって、法則性を導き出し、一般化できる。関心・意欲の観点: 1.普段使っていることばに関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 日本語学の定義、扱う分野等のイントロダクションから始め、音声・音韻・語彙・文法・表記法等、基本的な項目を解説していく。おおよそ1~2コマで1項目を扱う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 「日本語学」とは何か 内容 研究目的、研究分野、母語、言語の機能
- 第3回 項目 音声・音韻(1) 内容 音声と音韻、言語音
- 第4回 項目 音声・音韻(2) 内容 拍、音節
- 第5回 項目 音声・音韻(3) 内容 アクセント
- 第6回 項目 語彙(1) 内容 語彙と語彙体系、意味
- 第7回 項目 語彙(2) 内容 類義語、対義語、語種
- 第8回 項目 語彙(3) 内容 変化、位相語、造語、表現
- 第9回 項目 文法(1) 内容 文法論、文構造
- 第10回 項目 文法(2) 内容 活用、主語
- 第11回 項目 文法(3) 内容 修飾、文法範疇
- 第12回 項目 表記(1) 内容 文字、表記、規範性
- 第13回 項目 表記(2) 内容 多様性、ゆれ
- 第14回 項目 日本語の位置 内容 日本語と国語、類型論
- 第15回 項目 まとめ・展望 内容 問題点、次の段階へ

成績評価方法(総合) (1)毎回授業の最後に、小レポートを課す。(2)学期末にペーパーテストを行う。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 適宜プリント等を配布。/参考書: 授業中に適宜指示する。

メッセージ 常に自分のことばを意識しつつ、学んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部4階445室

開設科目	国文学概説(国文学史を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古事記神話を題材にして、叙事文学としての文学の発生を概説する。

授業の一般目標 古代における文学のあり方を認識する。

授業の計画(全体) 古事記神話のトピックを順番に解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 神話の見方 内容 古事記神話の形成について、原神話から古事記編纂までの過程を見る
- 第 2 回 項目 神話の構成 内容 三巻から成立している意味と祭祀の始原としての神話の意味を考える
- 第 3 回 項目 神話の始原 内容 神話の意味と成り立ちを考える
- 第 4 回 項目 イザナギの黄泉国訪問 内容 具体的な神話の第 1 番目としてイザナギの黄泉国訪問神話を取り上げ、その意味を考える
- 第 5 回 項目 天の岩戸 内容 アマテラスの岩戸隠れ神話について、その意味を考える
- 第 6 回 項目 八俣の大蛇退治 内容 スサノヲの八俣の大蛇退治の意味を考える
- 第 7 回 項目 イナバの白ウサギ 内容 有名なイナバの白ウサギの神話について、その意味を考える
- 第 8 回 項目 国作り 内容 オオクニヌシとスクナヒコナの国作り神話を取り上げ、出雲神話について考察する
- 第 9 回 項目 国譲り(アメワカヒコの失敗) 内容 国譲りのプロローグとして、アメワカヒコ神話を見て、その意味を考える
- 第 10 回 項目 国譲り 内容 建御雷による国譲り神話について、出雲神話と高天原神話の関係をとらえる
- 第 11 回 項目 天孫降臨(クライマックス) 内容 天孫降臨神話の意味と大和朝廷との関係を考える
- 第 12 回 項目 ホヲリ命の海宮訪問 内容 日向神話として山幸が海宮訪問譚の意味を考える
- 第 13 回 項目 イワレヒコの東征 内容 神倭イワレヒコが熊野経由で大和に入る意味を考え、初代神武天皇想定の意図をとらえる
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 高天原神話の意味と大和朝廷との関係をとらえなおし、神話の意味や古事記編纂の意図を考える
- 第 15 回

開設科目	漢文学概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史にわたる重要典籍を紹介・概説していく。/ 検索キーワード 中国の文学・思想・歴史

授業の一般目標 中国古代の物の考え方や価値観について、関心・教養を深めるとともに、それを自分なりに評価・批評できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：概説した事柄について、的確な知識・理解を得る。 思考・判断の観点：提示された文章ないし問題について、論理的に考えることができる。

授業の計画(全体) 初回は授業全体の概要を説明し、2回目以降は、漢文資料を適宜取り上げながら、文学・思想・歴史のいずれかに関わる事柄について、順を追って概説していく。できれば、その後、文章の理解や、提示した問題について、意見を求める機会を持ちたい。

成績評価方法(総合) 基本的には学期末に提出してもらったレポートの評価によるが、場合により、授業期間内に小レポートを書いてもらうことも考えている。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料(プリント)を配付する。/ 参考書：授業中に紹介する。

開設科目	英米文学史 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	増田勉				

授業の概要 文学の年代的展開を横軸にとるなら、ジャンル別、作品の内容研究は縦軸にとれよう。この授業では横軸と共に縦軸の展開を重視していく。文学と言語の関係、英米演劇とは何か等、作品研究を重視しつつ、考察していく。 / 検索キーワード 英国史、英文学史、文学ジャンル、文学用語

授業の一般目標 誰が何年に何を書いた、というレベルに止まらず、英米文学についての基礎的知識を得るばかりでなく、実際に作品を鑑賞する力を身につけるばかりでなく、作品の根底にある英米文化の理解に努める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 各時代の歴史的背景と文学的特徴の関連性を理解する 2 . 多様な文学に対する理解を深める。 思考・判断の観点： 思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 関心・意欲の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読めるようにする。 態度の観点： 多くの人名や作品名が登場するので、自ら継続的に学ぶ態度が必要である。 技能・表現の観点： 各時代・文人・作品・文学用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。

授業の計画（全体） 英文が読めないことには作品の理解も鑑賞もできない。講義と同時に演習も行い、指名により、読解、要約を求める。作品で例証しつつ、文学と言語の関係を考察する。その後演劇のテキストによって、演劇の本質等を考察する。 必要に応じてレポート等の宿題を課す。 定期試験を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Literature and Language 歴史的な流れに沿って 授業外指示 文学とは何か、言語との関係はどうか、等考えておく。
- 第 2 回 項目 Literature and Language
- 第 3 回 項目 Literature and Language
- 第 4 回 項目 Literature and Language
- 第 5 回 項目 Literature and Language
- 第 6 回 項目 Literature and Language
- 第 7 回 項目 Drama:Shakespeare 授業外指示 演劇とは何か、を各自考えておく。
- 第 8 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 9 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 10 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 11 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 12 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 13 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 14 回 項目 Drama:Shakespeare
- 第 15 回 項目 前期試験に備えて & 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 出席回数は 2 / 3 以上を求める (1 / 3 を越えた回数欠席した場合は単位を認定しないこともあり得る)。 成績評価は、出席率、授業への貢献度、(レポ - トと) 期末試験の成績等を総合して行なう。

教科書・参考書 教科書： English Literature, L.D.Lerner, Eihosha, 1981 年 / 参考書： 授業中に紹介して行く。

メッセージ 教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。そこからも試験に出題する。また、授業中に教科書の具体ページを参照することがあるので、教科書は毎回持参すること。

開設科目	美術史 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて概説する。

授業の一般目標 (1) 西洋絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2) 各時代の西洋絵画の新しい流れが生まれるその社会的、文化的背景に関心を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。思考・判断の観点：各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。関心・意欲の観点：西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。

授業の計画(全体) 14世紀末の初期ルネッサンス絵画から話しをはじめ、バロック、ロココ、19世紀絵画と時代を下りながらヨーロッパ諸国におけるその展開の概要をスライド、ビデオなどのヴィジュアルな教材を使いながら解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 " (2) 初期ルネッサンス(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 盛期ルネッサンス(イタリア)
- 第 5 回 項目 " (フランドル)
- 第 6 回 項目 " (ドイツ)
- 第 7 回 項目 バロック(イタリア)
- 第 8 回 項目 " (スペイン)
- 第 9 回 項目 " (フランドル)
- 第 10 回 項目 " (フランス)
- 第 11 回 項目 ロココ(フランス)
- 第 12 回 項目 " (イギリス)
- 第 13 回 項目 " (イタリア)
- 第 14 回 項目 ロマン主義、新古典主義、写実主義
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 西洋美術史, 高階秀爾監修, 美術出版社, 1990 年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階

開設科目	美術史概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて概説する。

授業の一般目標 (1) 西洋絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2) 各時代の西洋絵画の新しい流れが生まれるその社会的、文化的背景に関心を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。思考・判断の観点：各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。関心・意欲の観点：西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。

授業の計画(全体) 14世紀末の初期ルネッサンス絵画から話しをはじめ、バロック、ロココ、19世紀絵画と時代を下りながらヨーロッパ諸国におけるその展開の概要をスライド、ビデオなどのヴィジュアルな教材を使いながら解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 " (2) 初期ルネッサンス(1)
- 第3回 項目 " (2)
- 第4回 項目 盛期ルネッサンス(イタリア)
- 第5回 項目 " (フランドル)
- 第6回 項目 " (ドイツ)
- 第7回 項目 バロック(イタリア)
- 第8回 項目 " (スペイン)
- 第9回 項目 " (フランドル)
- 第10回 項目 " (フランス)
- 第11回 項目 ロココ(フランス)
- 第12回 項目 " (イギリス)
- 第13回 項目 " (イタリア)
- 第14回 項目 ロマン主義、新古典主義、写実主義
- 第15回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：カラー版 西洋美術史, 高階秀爾監修, 美術出版社, 1990年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	音楽史 I(日本の伝統音楽・諸民族音楽を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要 (授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。) / 検索キーワード 音楽、西洋、東洋、近代

授業の一般目標 音楽とその歴史を多角的に概観することによって、その多様性を知ると同時に、「音楽=芸術」の自明性を批判的に考察できるようになることを目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 音楽の概念
- 第3回 項目 西洋の概念、西洋音楽史の範囲
- 第4回 項目 時代区分、様式の概略
- 第5回 項目 古代ギリシア
- 第6回 項目 初期キリスト教音楽
- 第7回 項目 中世の音楽1
- 第8回 項目 中世の音楽2
- 第9回 項目 バロック
- 第10回 項目 近代の音楽～古典
- 第11回 項目 近代の音楽～古典
- 第12回 項目 近代～19世紀というフィルター1
- 第13回 項目 近代～19世紀というフィルター2
- 第14回 項目 近代～19世紀というフィルター3
- 第15回 項目 現代の音楽

成績評価方法(総合) 実際に教室で授業中に鑑賞することが大事なので、出席は重視します。出席50%、期末テスト(またはレポート)50% ($100 - [\text{欠席回数} \times 20] \times 0.5 + (\text{レポート or 試験の得点} \times 0.5) = \text{総合得点}$)

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。ガイダンスを受けない場合には原則として受講を認めない。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。また、シラバスはあくまでも目安であり、状況に応じて変更する可能性がある。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	映画史 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 当初は見世物として誕生した映画は、ほどなく演劇の一変種として概念形成される一方で、やがて固有の表現様式を獲得するにいたり、以後一世紀におよぶ歴史を今日まで生きながらえてきた。この講義では、20 世紀の世界を席卷した演劇の新しい存在形態としての特徴をふまえつつ、世界における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標 この講義では、世界の映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 映画の誕生
- 第 3 回 項目 アメリカ映画とカットティング
- 第 4 回 項目 ソビエト映画とモンタージュ
- 第 5 回 項目 ドイツ表現主義
- 第 6 回 項目 戦前のフランス映画
- 第 7 回 項目 映画と戦争
- 第 8 回 項目 ネオ=レアリズム
- 第 9 回 項目 ハリウッド映画の黄金期
- 第 10 回 項目 ヌーヴェル・ヴァーグ
- 第 11 回 項目 ハリウッドの崩壊
- 第 12 回 項目 ニュー・ジャーマン・シネマ
- 第 13 回 項目 新しい映画作家たち(1)
- 第 14 回 項目 新しい映画作家たち(2)
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 参考書：アメリカ映画の文化史(上)(下), ロバート・スクラー, 講談社(学術文庫), 1995 年; ハリウッド 100 年史講義, 北野圭介, 平凡社, 2001 年; フランス映画史の誘惑, 中条省平, 集英社, 2003 年; フィルム・スタディーズ事典, スティーブ・ブランドフォード, フィルムアート社, 2004 年; シネマ 2・時間イメージ, ジル・ドゥルーズ, 法政大学出版局, 2006 年

開設科目	言語学概論 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 言語を客観的に観察し、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 言語学上の基本概念を確認し、社会における言語の在り方についても理解を深める。

授業の計画(全体) 言語学概論 I で扱われた知識を基礎として、言語習得、社会言語学、言語変化、言語と文体等のテーマについて講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語を分析する
- 第 2 回 項目 言語の習得(1)
- 第 3 回 項目 言語の習得(2)
- 第 4 回 項目 言語と人とコンピュータ(1)
- 第 5 回 項目 言語と人とコンピュータ(1)
- 第 6 回 項目 言語と社会(1)
- 第 7 回 項目 言語と社会(2)
- 第 8 回 項目 言語と社会(3)
- 第 9 回 項目 言語の変化(1)
- 第 10 回 項目 言語の変化(2)
- 第 11 回 項目 言語の変化(3)
- 第 12 回 項目 言語と表現法(1)
- 第 13 回 項目 言語と表現法(2)
- 第 14 回 項目 言語と表現法(3)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートと期末の定期試験の総合評価

教科書・参考書 参考書: An Introduction to Language, 7th edition, Fromkin, Rodman, Hyams, Thomson, 2003 年

メッセージ 言語学概論 I を履修していることが好ましい。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会の中の言語	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 この授業では、言語が日常生活の中でどのような役割を果たしているかという問題について、記号論、意味論、語用論、そして社会言語学など多角的な視点から考えたい。言語には、いうまでもなく情報交換のためのメッセージという側面があるが、現実の社会ではそのような言語の用法ばかりでなく、それを超越し、主観的判断や苛立ち、驚きといった感情を伝達したり、社会における人間関係・社会構造・民族アイデンティティなどを表明するなど、多彩な役割を演じている。この授業では、このような言語の社会的役割を記号という言語の基本的単位から議論を始め、次第に大きな単位へと推移しながら、最後には言語の社会的意味といった大きな言語学的トピックについても論ずる。これにより、とりわけ人間が社会において言語を用いる背景や動機、そしてそれらが言語の構造に与える影響といった問題を念頭において講義を行う。

授業の一般目標 この授業では、毎日の生活の中で半ば無意識のうちに用いている言語が果たす社会的役割の多彩さについて理解を深めることを目標としている。言語学の諸概念を学習するとともに、様々な事実にふれ、学生諸君にも言語の社会的役割について考え、確固としたヴィジョンをもっていただきたい。このため、この授業では、グループ・ディスカッションを行うなど、学生諸君の積極的参加が必須である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の諸概念を学び、それらについて理解を深め、それとらんで、近年の言語学の問題意識といくつかの重要なトピックについて知り、言語学の分析方法、いくつかの言語観について理解すること。 思考・判断の観点：ただ概念や事実をやみくもに頭に詰め込むだけでなく、事実をもとに自分の論を組み立てるといところまでを念頭においている。 関心・意欲の観点：言語学は、高校までの学校教育では導入されておらず、日常生活の中でもあまり接することのない学問分野なので、まず言語学の魅力を示し、学生諸君の関心を高めていきたい。 態度の観点：ただ授業を傍観的な態度で受講するだけでなく、グループ・ディスカッションの機会を通じて、積極的に授業に参加するように指導したい。 技能・表現の観点：自分の考えを明確に言語化することをレポートやプレゼンを通じて学んでいただく。 その他の観点：卒業論文の研究の糸口をつかんでもらうことも視野に置いている。

授業の計画（全体） この授業の全体では、言語の社会的役割を記号という言語の基本的単位から議論を始め、文やテキスト、談話構造など、次第に大きな言語の単位へと推移しながら話を進める。後半では、前半での議論を念頭において、語用論的な意味、言語の社会的意味といった大きな言語学的トピックについて、言語の社会的役割という観点から論ずる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要/言語学の紹介 内容 この授業のあらましをシラバスなどを通じて紹介し、言語学という学問分野の簡単な紹介を行う。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 2 回 項目 文法の単位/記号とは何か 内容 文法の単位について概説し、ソシユールの言語観などを通じて、近年の記号論の主張や私見もまじえながら、記号とは何か、またその中で言語記号の占める位置づけについて論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 3 回 項目 言語記号の働き 内容 言語記号の社会における働きについて論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 4 回 項目 言語の曖昧性 内容 1つの言語記号が社会的コンテクストにおいて、さまざまな意味を帯びることを通じて、ことばの働きの多様さについて考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 5 回 項目 協調の原理と行動指針 内容 人間コミュニケーションの基本原則であるグライスの「協調の原理」と行動指針について説明する。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 6 回 項目 会話の含意と発話の含み 内容 日常表現に注目しながら、会話の含意と発話の含みについて概説し、それらが協調の原理・行動指針とどのように関連しているかを論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。

- 第 7 回 項目 会話のレトリックと発話行為 内容 会話の含意や発話行為の事例を通じて、われわれ人間が日常会話においてどのようなレトリックを駆使しているかを考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 8 回 項目 発話行為と誠実性条件 内容 発話行為の誠実性条件についてまず概説し、日常生活において人間がどの場面で誠実性条件を破るかを考え、われわれ人間が日常的に用いている談話の方策について考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 9 回 項目 ポライトネスと発話行為 内容 人間の言語行動を大きく左右していると考えられているポライトネスについて概説し、それが前週の授業で学んだ発話行為の方策とどのような関連をもつかを考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 10 回 項目 言語の対人的・表現的働き 内容 言語の対人的・表現的働きについて考え、語用論の話を締めくくる。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 11 回 項目 社会と言語 (1) 内容 この週から社会言語学の講義に入り、まず社会言語学とは何か、言語の社会的意味とは何か、そして語用論との異同について考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 12 回 項目 社会と言語 (2) 内容 この講義では、地理的方言と社会的方言の異同について概説し、とくに後者が日常生活にどのように現れるかを考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 13 回 項目 社会と言語 (3) 内容 1 人の人間は日常生活のなかで通常複数の方言・スタイルを使い分けられているが、その使い分けがどのような言語学的な意味をもつかを考える。また言語と民族性の問題にも言及する。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 14 回 項目 社会と言語 (4) 内容 言語と性差の関連について考える。授業外指示 授業中に指示する。
- 第 15 回 項目 言語と社会について 内容 この授業の結論と展望について述べる。また、タームレポートについて指導する。授業外指示 タームレポートの主題を考えてくる。

成績評価方法 (総合) この授業では、出席と授業内で行ったレポート、およびタームレポートによって評価を行う。タームレポートは主題の選択、問題のほりさげぐあい、および完成度によって評価する。

教科書・参考書 教科書：自作の教科書代わりのプリント、および研究書からのコピーなどを用いる。 / 参考書：研究書からのコピーなどを用いる。

開設科目	国語学 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本講義では、私達が日頃意識していない日本語の音声について、様々な身近な現象をデータを取り上げつつ解説する。 / 検索キーワード 音声・音声学

授業の一般目標 (1) 音声学の基本的な事項を理解できる。(2) 音声学の方法論を新たなデータに適用できる。(3) 普段使っていることばの音声現象を客観的に認識できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 音声学の基本的な事項を説明することができる。 思考・判断の観点： 1 . 音声学の方法論を新たなデータに適用できる。 2 . 法則性を一般化できる。 関心・意欲の観点： 1 . 普段意識していない自分のことばの音声現象を主体的に観察できる。

授業の計画(全体) まず、基本的な音声学の知識を修得する。 次に、日本語の様々な音声現象を、1 コマで1項目ずつ扱い、音声的な分析を施していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 音声研究とは何か?
- 第 3 回 項目 ツール (1) 内容 音声器官
- 第 4 回 項目 ツール (2) 内容 音声記号
- 第 5 回 項目 ツール (3) 内容 音声記号
- 第 6 回 項目 音声バリアー (1)
- 第 7 回 項目 音声バリアー (2)
- 第 8 回 項目 音声エラー (1)
- 第 9 回 項目 音声エラー (2)
- 第 10 回 項目 音声模倣 (1)
- 第 11 回 項目 音声模倣 (2)
- 第 12 回 項目 アクセント (1)
- 第 13 回 項目 アクセント (2)
- 第 14 回 項目 音声と文字
- 第 15 回 項目 まとめ・展望 内容 問題点、次の段階へ

成績評価方法(総合) (1) 毎回授業の終わりにミニツツペーパーを課す。(2) 学期末にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜指示する。

メッセージ 常に身近なことばの音声を意識しておいて欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国文学 II 演習	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 代表的古典文学作品の一つ『おくのほそ道』を読んでゆく。中学・高校の教科書に採録されることの多い章段を中心に、旅立ちから最終章までを見てゆく。はじめに芭蕉の人と作品や、数種類のテキスト(諸本)について概説し、次いで章段を分担して演習発表を行う。先行文献を比較参照し、問題点を洗い出して考察を加え、資料を作成して分かりやすく発表し、討議・批評を加える一連の学習を通じて、古典文学研究の基礎的技能の体得を図る。/ 検索キーワード 『おくのほそ道』、芭蕉、紀行文、俳文

授業の一般目標 (1)『おくのほそ道』の作品・作者・時代背景などについて知るとともに、紀行文としてのユニークな特質と魅力を理解する。(2)古典文学を研究する際の基礎的技法を習得する。(3)生涯にわたって古典文学に親しむ態度を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 作品や作者について理解を深める。2 近世の俳諧や俳文について理解を深める。3 本文競合の重要性を理解する。思考・判断の観点: 1 作品の特質や問題点を指摘し、自分の見解を論理的に述べるができる。関心・意欲の観点: 1 古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。態度の観点: 1 問題意識をもって作品研究に取り組むことができる。技能・表現の観点: 1 考察した結果を口答や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) はじめに講義形式により解説を加えた後は、全員で章段を分担し、演習形式により発表を行う。主体的に授業に参加し、問題点を見出して考察を加え、適切に表現する技能を身につけるために、積極的に発言することを求める他、授業の終わりには毎回、自分で見出した問題点や疑問についてまとめたシートを提出してもらう。優れたものについては、次回の授業時に紹介し、適宜、寸評や解説を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概要 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 「おくのほそ道」概説 内容 基本事項の解説
- 第 3 回 項目 芭蕉概説 内容 基本事項の解説 授業外指示 発表担当者に具体的に指示する。
- 第 4 回 項目 演習発表 内容 発表・質疑応答・補足説明等 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1)学期末試験の成績(2)演習発表および授業への参加状況(3)授業中に毎回提出するシートの状況 なお、出席が所定の回数に満たない場合は、単位を取得できない。

教科書・参考書 教科書: おくのほそ道(岩波文庫), 芭蕉[著]; 萩原恭男校注, 岩波書店, 2002年 / 参考書: 授業中に文献リストを配布する。

メッセージ 作品全体を通読しておいてください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学史 II	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	増田勉				

授業の概要 英米文学概論 I に続き、英米小説とは何か、文学と社会の関係、英米詩とは何か、等作品に触れつつ、考察していく。 / 検索キーワード 英米文学史、文学ジャンル、文学用語

授業の一般目標 英米小説等についての基礎的知識を得るばかりでなく、作品を鑑賞する力を養うばかりでなく、作品の根底にある英米文化の理解に努める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 文学の背景と文学的特徴の関連性を理解する 2 . 多様な文学に対する理解を深める。 思考・判断の観点： 思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 関心・意欲の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読み、関心を深めるようにする。 態度の観点： テキストに出てくる古典的な作品を一つでも多く手にとって読めるようにする。 技能・表現の観点： 各時代・文人・作品・文学用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。

授業の計画（全体） 英文が読めないことには作品の理解も鑑賞も出来ない。講義と同時に演習も行い、指名により読解、要約を求める。作品で例証しつつ、英米小説の本質等を考察し、その後文学と社会の関係、時間的に可能なら、英米詩について考察していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 The Novel 内容 英米小説とは何か。以下同じ。
- 第 2 回 項目 The Novel
- 第 3 回 項目 The Novel
- 第 4 回 項目 The Novel
- 第 5 回 項目 The Novel
- 第 6 回 項目 The Novel
- 第 7 回 項目 The Novel
- 第 8 回 項目 The Novel
- 第 9 回 項目 The Novel
- 第 10 回 項目 The Novel
- 第 11 回 項目 Literature and Society 内容 文学と社会の関係を考察 以下同じ。
- 第 12 回 項目 Literature and Society
- 第 13 回 項目 Literature and Society
- 第 14 回 項目 Literature and Society
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 出席回数は 2 / 3 以上を求める (1 / 3 を越えた回数欠席した場合は単位を認定しないこともあり得る)。 成績評価は、出席率、授業への貢献度、レポートと期末試験の成績等を総合して行なう。

教科書・参考書 教科書 : English Literature, L.D.Lerner, Eihosha, 1981 年 / 参考書 : 授業中に紹介して行く。

開設科目	美術史 II(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点から論述する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。

授業の一般目標 (1)日本美術史、とくに日本の近世絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2)日本の各時代(室町期～江戸期)における絵画の新しい流れが生まれる社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。

思考・判断の観点: 各時代に生まれた絵画作品の歴史的 position 付け、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 関心・意欲の観点: 日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。

授業の計画(全体) とくに日本の各時代における絵画と流派の問題を軸として、室町期の初期水墨画の成立から話しをはじめ、桃山期、江戸期と時代を下りながら、当時の新しい絵画状況をスライドなどを使いながらヴィジュアルに解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 初期水墨画(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 室町水墨画(雪舟)
- 第 5 回 項目 桃山期の巨匠たち
- 第 6 回 項目 狩野派の流れ
- 第 7 回 項目 琳派(宗達、光琳)
- 第 8 回 項目 琳派(抱一、其一)
- 第 9 回 項目 写生派(円山派)
- 第 10 回 項目 異端の系譜(芦雪、若冲、蕭白)
- 第 11 回 項目 南画と文人画
- 第 12 回 項目 浮世絵(初期風俗画)
- 第 13 回 項目 " (錦絵以降)
- 第 14 回 項目 " (幕末期)
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書: カラー版 日本美術史, 辻惟雄監修, 美術出版社, 1991年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部2階

開設科目	美術史特論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点から論述する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。

授業の一般目標 (1)日本美術史、とくに日本の近世絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。(2)日本の各時代(室町期～江戸期)における絵画の新しい流れが生まれる社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。

思考・判断の観点: 各時代に生まれた絵画作品の歴史的 position、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 関心・意欲の観点: 日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。

授業の計画(全体) とくに日本の各時代における絵画と流派の問題を軸として、室町期の初期水墨画の成立から話しをはじめ、桃山期、江戸期と時代を下りながら、当時の新しい絵画状況をスライドなどを使いながらヴィジュアルに解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 初期水墨画(1)
- 第 3 回 項目 " (2)
- 第 4 回 項目 室町水墨画(雪舟)
- 第 5 回 項目 桃山期の巨匠たち
- 第 6 回 項目 狩野派の流れ
- 第 7 回 項目 琳派(宗達、光琳)
- 第 8 回 項目 琳派(抱一、其一)
- 第 9 回 項目 写生派(円山派)
- 第 10 回 項目 異端の系譜(芦雪、若冲、蕭白)
- 第 11 回 項目 南画と文人画
- 第 12 回 項目 浮世絵(初期風俗画)
- 第 13 回 項目 " (錦絵以降)
- 第 14 回 項目 " (幕末期)
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書: カラー版 日本美術史, 辻惟雄監修, 美術出版社, 1991 年

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 2 階

開設科目	哲学基礎演習	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。 / 検索キーワード
 アイデア界と現象界、エロース、畜群、神の死

授業の一般目標 ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得ること。 思考・判断の
 観点：ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養うこと。 関心・意欲の観点：ヨーロッパ文化の
 基礎的的思想的理解への関心を喚起すること。 態度の観点：ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う
 こと。 技能・表現の観点：ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。

授業の計画（全体） ドゥルーズのニーチェを読み進めながら、ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点
 から明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキスト、評価の方法等
- 第 2 回 項目 ニーチェ
- 第 3 回 内容 ニーチェの生涯 1
- 第 4 回 内容 ニーチェの生涯 2
- 第 5 回 内容 ニーチェの哲学 1
- 第 6 回 内容 ニーチェの哲学 2
- 第 7 回 内容 ニーチェの哲学 3
- 第 8 回 内容 ニーチェの世界観
- 第 9 回 内容 哲学者とは
- 第 10 回 内容 哲人ディオニュソス
- 第 11 回 内容 力への意志
- 第 12 回 内容 価値転換
- 第 13 回 内容 永劫回帰
- 第 14 回 内容 狂気について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回の理解度レポートと最終の試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：ニーチェ, ドゥルーズ, ちくま学芸文庫

開設科目	国語学 I 演習	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 現代日本語の文法について概説する。学校文法とは異なる枠組みである記述文法の観点から、私たちが普段使っていることばの文法的側面を観察していく。 / 検索キーワード 日本語、現代語、学校文法、記述文法

授業の一般目標 (1) 現代日本語文法の基本的な事項を理解できる。(2) 様々な現象の法則性を一般化できる。(3) 常に日本語の文法現象を主体的に考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 現代日本語文法の基本的な事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 様々な現象からパターンを抽出し、法則性を定式化できる。 関心・意欲の観点： 1 . 文法現象に関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 日本語文法で扱われる様々な文法項目を 1 コマ 1 項目のペースで解説していく。具体的には、品詞・格助詞・活用・ボイス・人称・テンス等である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーシ ョン 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくように
- 第 2 回 項目 品詞 (1) 内容 名詞、動詞
- 第 3 回 項目 品詞 (2) 内容 形容詞
- 第 4 回 項目 品詞 (3) 内容 その他の品詞
- 第 5 回 項目 格助詞 (1) 内容 「を」, 「に」, 「と」, 「で」
- 第 6 回 項目 格助詞 (2) 内容 「と」, 「とき」
- 第 7 回 項目 活用 (1) 内容 「～ます」, 「～ば」, 「～ない」
- 第 8 回 項目 活用 (2) 内容 「～て」, 機能
- 第 9 回 項目 ボイス (1) 内容 受動文
- 第 10 回 項目 ボイス (2) 内容 使役文
- 第 11 回 項目 人称 (1) 内容 人称を表すことば、文の種類
- 第 12 回 項目 人称 (2) 内容 「あげる」, 「くれる」, 「もらう」
- 第 13 回 項目 テンス (1) 内容 主文、従属文
- 第 14 回 項目 テンス (2) 内容 特殊な用法
- 第 15 回 項目 まとめ・展望 内容 問題点

成績評価方法(総合) (1) 毎回授業の最後にミニツツペーパーを課す。(2) 学期末にレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリント等を配布する。 / 参考書： 授業中に適宜指示する。

メッセージ 学校文法との違いを絶えず意識して欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特別演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 社会言語学の基本的な事項を概説する。対象は主に日本語である。様々な事例を観察することによって、ことばのバリエーションを認識する。 / 検索キーワード 社会言語学・バリエーション

授業の一般目標 (1) 社会言語学の基本的な事項を理解できる。(2) ことばのバリエーションに関心を持ち、主体的に考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 社会言語学の基本的な事項を説明できる。 関心・意欲の観点： 1 . ことばのバリエーションに関心を持ち、自ら調査・分析できる。

授業の計画(全体) 社会言語学で扱われる基本的な項目を、1~2 コマごとに 1 項目ずつ扱い、基礎的な知識を修得した後、全員で検討・議論していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 女のことば・男のことば
- 第 3 回 項目 幼児のことば・育児のことば
- 第 4 回 項目 専門のことば・仲間のことば
- 第 5 回 項目 若者ことば・キャンパスことば
- 第 6 回 項目 ことばのデフォルメ
- 第 7 回 項目 方言のイメージ
- 第 8 回 項目 東の方言・西の方言
- 第 9 回 項目 気づかれにくい方言
- 第 10 回 項目 新しい方言・古い方言
- 第 11 回 項目 方言と共通語
- 第 12 回 項目 ことばの切りかえ
- 第 13 回 項目 話しことばと書きことば (1)
- 第 14 回 項目 話しことばと書きことば (2)
- 第 15 回 項目 まとめ・展望 内容 問題点、課題

成績評価方法(総合) (1) 毎回授業での議論を重視する。(2) 学期末にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：日本語のバラエティ, 上野智子ほか編, おうふう, 2005 年; 適宜プリント等を配布する。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 日本語の様々な姿を意識して欲しい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国文学講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 芭蕉や門人の談話を門人が筆録した、蕉風の俳論書『去来抄』を読んでいく。『去来抄』は、具体例に即したわかりやすい論の展開が、単なる俳論の域を超えて、文学論・芸術論としても普遍性を獲得しているすぐれた評論作品である。芭蕉と門人たちの、人間味あふれる交流の様相を伝える貴重な資料でもある。戦後の高等学校古典教科書に採録されることも多い代表的な古典の評論教材の一つ。/ 検索キーワード 去来抄、芭蕉、蕉風俳論

授業の一般目標 (1) 芭蕉の俳諧観および日本の伝統的な文学観を知る。(2) 評論としての特色や論理構造を理解する。(3) 古典文学研究の基礎的技法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 芭蕉の俳諧観・芸道観について、あらましを説明することができる。思考・判断の観点: 1 テキストを読み、考察を加え、自己の見解をまとめることができる。

関心・意欲の観点: 1 日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。

態度の観点: 1 日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典を楽しむ態度を身につける。

技能・表現の観点: 1 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 最初に基本的事項を解説した後、全員で分担して演習形式で作品を読んでゆく。授業の終わりには、毎時自分で見出した問題点についてまとめた課題シートを提出する。質問や優れた見解については次回に紹介し、解説を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業概要 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 「去来抄」概説 内容 概説
- 第 3 回 項目 基本的事項の解説 内容 概説
- 第 4 回 項目 「去来抄」を読む 内容 発表・解説
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験の成績 (2) 毎回、授業時に提出する課題シートの状況 (3) 出席状況 なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 『去来抄』(山下一海編・おうふう) / 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 主体的に問題意識をもって授業に参加することを望む。

連絡先・オフィスアワー mf26023@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国文学特別演習 I	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林恒徳				

授業の概要 中世の演劇である能と狂言を取りあげる。能は能楽とも言われ、観阿弥、世阿弥父子によって大成された、わが国を代表する古典演劇・歌舞劇である。狂言もほぼ同時代に成立した科白劇で、能が多く悲劇的な世界を紡ぎ出すのに対して、狂言は笑いの劇・喜劇ということが出来る。本授業では、この能と狂言について、台本の読解と時に映像を用いることをとおして、理解と関心を深めることを主眼とする。 / 検索キーワード 中世演劇、歌舞と物真似

授業の一般目標 1) 能と狂言の演劇への造詣を深め、これを楽しむことが出来る。 2) 台本の読解を通して、古典文学(中世文学を中心に)の読解力を深める。特に能は「源氏物語」「平家物語」等、先行する作品を出展とすることが多く、それ等先行作品に触れることにもなる。

授業の計画(全体) 期の前半は能狂言に対する基本的事項の解説、私見の提示など、講義形式によって進め、後半は、受講生によるレポートを求め、後期の「国文学特別演習 II」につなげてゆきたい。途中、1回の小テストを予定している。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 能(能楽)とは 内容 能を構成する主要三要素の解説
- 第 2 回 項目 主要三要素の解説(続き) 内容 身体表現、音楽表現、文学表現
- 第 3 回 項目 主要三要素の映像による確認 内容 具体的な作品をとりあげて、ビデオ映像によって見届ける
- 第 4 回 項目 狂言の表現(1) 内容 狂言の身体表現の方法(能との違いを確認する)
- 第 5 回 項目 狂言の表現(2) 内容 科白劇たることの確認(ビデオ映像を用いる)
- 第 6 回 項目 能の流派と現行作品 内容 観世流以下五流の解説と現行作品の解説
- 第 7 回 項目 狂言の流派と現行作品 内容 狂言の流派(現在、大蔵、和泉の二流)と現行作品の解説
- 第 8 回 項目 能の台本(謡い)の読解と映像による確認 内容 具体的な作品をひとつとりあげて、読解を試みた上で、映像によって能の世界に触れる。
- 第 9 回 項目 狂言の台本の読解と映像による確認 内容 具体的に作品をとりあげて読解を試みた上で、映像によって狂言の世界に触れる。
- 第 10 回 項目 小テスト < BR > 受講生のレポート準備 内容 第 9 回までのまとめということで出題する。 < BR > 受講生のレポートのテーマなどを確認する。
- 第 11 回 項目 レポート 内容 一回で二人のレポートを予定
- 第 12 回 項目 レポート 内容 レポート
- 第 13 回 項目 レポート 内容 レポート
- 第 14 回 項目 レポート 内容 レポート
- 第 15 回 項目 レポート 内容 レポート

成績評価方法(総合) 1回の小テストとレポートによって評価する。

教科書・参考書 参考書：岩波講座「能・狂言」(全8巻), , 岩波書店, 1988年; 謡曲を読む, 田代慶一郎, 朝日新聞社, 1987年

開設科目	漢文学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の文学・思想・歴史の領域にわたる漢文資料のなかから、興味深いと思われる資料を取り上げ、これを担当制により読み進める。

授業の一般目標 漢文資料の読解力の向上をめざす。併せて、レジメを作成しそれを発表・討議することを通して、漢文資料を精読するための方法を得ることを目的とする。従って、受講生全員が事前に予習してくることが肝要なこととなる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発表に際して、資料読解に必要な情報を知識として得、それを十分に理解しているか。 思考・判断の観点：発表に際して、資料に対する自分なりの十分な思考が展開できているか。 態度の観点：発表に際して、十分な調査を行っているか。

授業の計画(全体) 1. ガイダンス 2回から15回 担当者によるレジメの発表 本授業での発表は、基本的に担当制による。については、訓読・語注・試訳・考察を内容とするレジメを作成してもらうことにしたい。 演習に用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

成績評価方法(総合) 基本的には、授業期間内におけるレジメ発表及び他者の発表に対する討議・検討の姿勢を勘案して行う。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストをプリントして配布する。 / 参考書：授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を一冊用意し、漢文の読解においてこれを適切に活用できるよう訓練して欲しい。

開設科目	欧米文学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

授業の概要 ヨーロッパまたはアメリカの文学作品を読む。その際、漫然と読むのではなく、分析的・批評的に読むことを学ぶ。講義ではなく演習なので、学生が自分で調べたり、考察したことを発表することは、この授業の重要な要素と考えている。毎回指定されたテキストの箇所についてテーマが与えられるので、それについて考察したことを文章にまとめてきて、発表し、それについて話し合う。文章は毎回提出。最終的には、授業で扱った作品または同一の作者による他の作品について、レポートを提出する。

授業の一般目標 文学のテキストを批評的・分析的に読み、味わい、評価する力を養う。

授業の到達目標
知識・理解の観点： 文学テキストの解釈に際して、書かれている記述内容と言語表現を吟味し、的確に理解することができる。テキストを理解するために必要と考えられる歴史的背景等の事実を調査することができる。
思考・判断の観点： テキストの特異性を見出し、その固有の価値を説明することができる。また、テキストについて自己との関わりにおいて考察を巡らし、その考えを整理して、論理的な文章にまとめることができる。
関心・意欲の観点： 文学的テキストを読み、味わい、思索することに喜びを見出す。
態度の観点： テキスト解釈の前提となる知識（言葉の意味、歴史的事実、関連する文献など）を丹念に調べる。
技能・表現の観点： 内容の解釈を踏まえた翻訳ができる。自分の考えと、他人から借りてきた考えをはっきり区別して論述ができる。独自の観点から、かつ客観的に、テキストを解釈・分析することができる。

授業の計画（全体） 初回の授業に配布する文学テキストを読んでいく。翻訳の担当を指定された学生は、言葉を調べるだけでなく、教師の質問に答えられるよう、内容をよく考え、背景となっている事実等をよく調べておく。教師とのやりとりの中で、テキストについて考察を深めていく。作品に基づく映画作品等があれば、参考にその一部もビデオで見てみる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 作品・作者についての一般的説明
- 第 2 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 3 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 4 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 5 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 6 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 7 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 8 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 9 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 10 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 11 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 12 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 13 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 14 回 項目 テキストの読解と討議
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） 期末レポートによる。出席は欠格条件としてのみ扱い、全体の3分の2以上の出席がなければ、成績評価は出さないこととする。

教科書・参考書 教科書：教科書は未定。最初の授業でお知らせします。

メッセージ 作品全体は自分で読んでいくので、時間を見つけてどんどん読んでください。作品を讀んでいなければ、つまらない授業になってしまいます。作品の解釈をするのは自分なので、主体的に読みこんでいくこと。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室(国際理解教育資料室向かい) 木曜日16:00 - 17:00

開設科目	音楽史 II	区分	その他	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第 1 回めに説明があります。）

授業の一般目標 日本における音楽文化を通時的に概観する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 近代以降の「日本音楽」
- 第 3 回 項目 日本音楽の「日本」
- 第 4 回 項目 日本音楽史の構造
- 第 5 回 項目 大陸音楽の受容
- 第 6 回 項目 大陸音楽の変容 1
- 第 7 回 項目 大陸音楽の変容 2
- 第 8 回 項目 三味線の到来
- 第 9 回 項目 江戸時代の劇場音楽 1
- 第 10 回 項目 江戸時代の劇場音楽 2
- 第 11 回 項目 西洋音楽の受容
- 第 12 回 項目 西洋音楽の影響 1
- 第 13 回 項目 西洋音楽の影響 2
- 第 14 回 項目 大衆娯楽音楽
- 第 15 回 項目 日本伝統音楽再考

教科書・参考書 参考書： はじめての音楽史, , 音楽之友社

メッセージ 音楽史 1 を受講していることが望ましい。音楽史 1 を受講した者はその受講時に使用した教科書（『はじめての音楽史』）を持参すること。

開設科目	演劇特論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 当初は見世物として誕生した映画は、ほどなく演劇の一変種として概念形成される一方で、やがて固有の表現様式を獲得するにいたり、以後一世紀におよぶ歴史を今日まで生きながらえてきた。この講義では、20世紀の世界を席卷した演劇の新しい存在形態としての特徴をふまえつつ、世界における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標 この講義では、世界の映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 映画の誕生
- 第3回 項目 アメリカ映画とカットティング
- 第4回 項目 ソビエト映画とモンタージュ
- 第5回 項目 ドイツ表現主義
- 第6回 項目 戦前のフランス映画
- 第7回 項目 映画と戦争
- 第8回 項目 ネオ=レアリズモ
- 第9回 項目 ハリウッド映画の黄金期
- 第10回 項目 ヌーヴェル・ヴァーグ
- 第11回 項目 ハリウッドの崩壊
- 第12回 項目 ニュー・ジャーマン・シネマ
- 第13回 項目 新しい映画作家たち(1)
- 第14回 項目 新しい映画作家たち(2)
- 第15回 項目 予備日

教科書・参考書 参考書：アメリカ映画の文化史(上)(下)、ロバート・スクラー、講談社(学術文庫)、1995年；ハリウッド100年史講義、北野圭介、平凡社、2001年；フランス映画史の誘惑、中条省平、集英社、2003年；フィルム・スタディーズ事典、スティーブ・ブランドフォード、フィルムアート社、2004年；シネマ2・時間イメージ、ジル・ドゥルーズ、法政大学出版局、2006年

開設科目	言語と人間	区分	講義	学年	3?
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 この授業では、言語が日常生活の中でどのような役割を果たしているかという問題について、記号論、意味論、語用論、そして社会言語学など多角的な視点から考えたい。言語には、いうまでもなく情報交換のためのメッセージという側面があるが、現実の社会ではそのような言語の用法ばかりでなく、それを超越し、主観的判断や苛立ち、驚きといった感情を伝達したり、社会における人間関係・社会構造・民族アイデンティティなどを表明するなど、多彩な役割を演じている。この授業では、このような言語の社会的役割を記号という言語の基本的単位から議論を始め、次第に大きな単位へと推移しながら、最後には言語の社会的意味といった大きな言語学的トピックについても論ずる。これにより、とりわけ人間が社会において言語を用いる背景や動機、そしてそれらが言語の構造に与える影響といった問題を念頭において講義を行う。

授業の一般目標 この授業では、毎日の生活の中で半ば無意識のうちに用いている言語が果たす社会的役割の多彩さについて理解を深めることを目標としている。言語学の諸概念を学習するとともに、様々な事実にふれ、学生諸君にも言語の社会的役割について考え、確固としたヴィジョンをもっていただきたい。このため、この授業では、グループ・ディスカッションを行うなど、学生諸君の積極的参加が必須である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の諸概念を学び、それらについて理解を深め、それとらんで、近年の言語学の問題意識といくつかの重要なトピックについて知り、言語学の分析方法、いくつかの言語観について理解すること。 思考・判断の観点：ただ概念や事実をやみくもに頭に詰め込むだけでなく、事実をもとに自分の論を組み立てるといところまでを念頭においている。 関心・意欲の観点：言語学は、高校までの学校教育では導入されておらず、日常生活の中でもあまり接することのない学問分野なので、まず言語学の魅力を示し、学生諸君の関心を高めていきたい。 態度の観点：ただ授業を傍観的な態度で受講するだけでなく、グループ・ディスカッションの機会を通じて、積極的に授業に参加するように指導したい。 技能・表現の観点：自分の考えを明確に言語化することをレポートやプレゼンを通じて学んでいただく。 その他の観点：卒業論文の研究の糸口をつかんでもらうことも視野に置いている。

授業の計画（全体） この授業の全体では、言語の社会的役割を記号という言語の基本的単位から議論を始め、文やテキスト、談話構造など、次第に大きな言語の単位へと推移しながら話を進める。後半では、前半での議論を念頭において、語用論的な意味、言語の社会的意味といった大きな言語学的トピックについて、言語の社会的役割という観点から論ずる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要/言語学の紹介 内容 この授業のあらましをシラバスなどを通じて紹介し、言語学という学問分野の簡単な紹介を行う。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 2 回 項目 文法の単位/記号とは何か 内容 文法の単位について概説し、ソシユールの言語観などを通じて、近年の記号論の主張や私見もまじえながら、記号とは何か、またその中で言語記号の占める位置づけについて論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 3 回 項目 言語記号の働き 内容 言語記号の社会における働きについて論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 4 回 項目 言語の曖昧性 内容 1つの言語記号が社会的コンテクストにおいて、さまざまな意味を帯びることを通じて、ことばの働きの多様さについて考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 5 回 項目 協調の原理と行動指針 内容 人間コミュニケーションの基本原則であるグライスの「協調の原理」と行動指針について説明する。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 6 回 項目 会話の含意と発話の含み 内容 日常表現に注目しながら、会話の含意と発話の含みについて概説し、それらが協調の原理・行動指針とどのように関連しているかを論ずる。 授業外指示 授業中に指示する。

- 第 7 回 項目 会話のレトリックと発話行為 内容 会話の含意や発話行為の事例を通じて、われわれ人間が日常会話においてどのようなレトリックを駆使しているかを考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 8 回 項目 発話行為と誠実性条件 内容 発話行為の誠実性条件についてまず概説し、日常生活において人間がどの場面で誠実性条件を破るかを考え、われわれ人間が日常的に用いている談話の方策について考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 9 回 項目 ポライトネスと発話行為 内容 人間の言語行動を大きく左右していると考えられているポライトネスについて概説し、それが前週の授業で学んだ発話行為の方策とどのような関連をもつかを考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 10 回 項目 言語の対人的・表現的働き 内容 言語の対人的・表現的働きについて考え、語用論の話を締めくくる。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 11 回 項目 社会と言語 (1) 内容 この週から社会言語学の講義に入り、まず社会言語学とは何か、言語の社会的意味とは何か、そして語用論との異同について考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 12 回 項目 社会と言語 (2) 内容 この講義では、地理的方言と社会的方言の異同について概説し、とくに後者が日常生活にどのように現れるかを考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 13 回 項目 社会と言語 (3) 内容 1 人の人間は日常生活のなかで通常複数の方言・スタイルを使い分けられているが、その使い分けがどのような言語学的な意味をもつかを考える。また言語と民族性の問題にも言及する。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 14 回 項目 社会と言語 (4) 内容 言語と性差の関連について考える。 授業外指示 授業中に指示する。
- 第 15 回 項目 言語と社会について 内容 この授業の結論と展望について述べる。また、タームレポートについて指導する。 授業外指示 タームレポートの主題を考えてくる。

成績評価方法 (総合) この授業では、出席と授業内で行ったレポート、およびタームレポートによって評価を行う。タームレポートは主題の選択、問題のほりさげぐあい、および完成度によって評価する。

教科書・参考書 教科書：自作の教科書代わりのプリント、および研究書からのコピーなどを用いる。 / 参考書：研究書からのコピーなどを用いる。

開設科目	言語と文化	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 人間の日常生活において文化は、社会行動や施行のパターンをなしているが、ここにおいて言語の与える影響の大きさは以前より指摘されてきたとおりであるが、この授業では、言語が社会行動や思考において果たす役割を通じて文化の本質に迫りたい。ここでは、文化という現象を単に被造物や習慣という目に見える現象からでなく、心という観点から探求することを主眼としている。この授業で、もっとも中心となるのは、様々な日常的な言語事実を通じて「サピア・ウォーフの仮説」(人間の思考は言語に縛られているという言語決定論と言語には言語共同体の文化が結晶化されるという言語相対論)の是非を問うことである。この作業においてもっとも有用と思われる証拠は言語から得られるが、とりわけ近年認知言語学の分野で注目されているメタファーという現象がかぎとなる。

授業の一般目標 まず、文化を心という観点から眺めるとどのような図式が得られるかを把握し、異文化理解など国際的なコミュニケーションにはどのような観点が必要か、次に、文化というものの本質を理解するには、言語という観点が必要であることを理解すること。さらに、人間の文化が我々が無意識にいだいている「世界観」とどのような関係にあるか、また「世界観」の構築においてメタファーが果たす役割を理解すること。「世界観」が人間の見方・考え方を規定しているということを理解することが国際的なコミュニケーションを行う上でいかに大切かを理解することにつながるからである。最後に、言語資料を用いてそれぞれの文化に固有の「世界観」を明らかにする手法をマスターしていただく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の諸概念を学び、それらについて理解を深め、それとらんで、近年の言語学の問題意識といくつかの重要なトピックについて知り、言語学の分析方法、いくつかの言語観について理解すること。思考・判断の観点：ただ概念や事実をやみくもに頭に詰め込むだけでなく、事実をもとに自分の論を組み立てるところまでを念頭においている。関心・意欲の観点：言語学は、高校までの学校教育では導入されておらず、日常生活の中でもあまり接することのない学問分野なので、まず言語学の魅力を示し、学生諸君の関心を高めていきたい。態度の観点：ただ授業を傍観的な態度で受講するだけでなく、グループ・ディスカッションの機会を通じて、積極的に授業に参加するように指導したい。技能・表現の観点：自分の考えを明確に言語化することをレポートやプレゼンを通じて学んでいただく。その他の観点：卒業論文の研究の糸口をつかんでもらうことも視野に置いている。

授業の計画(全体) まず、文化とはなにかという問いから授業を始め、通常文化観に対するものとして、心という観点から見た文化という考え方について、主にエドワード・ホールを考えを通じて説明する。次に、「サピア・ウォーフの仮説」の概説に移り、この仮説の中心テーマである言語決定論と言語相対論について順次言語資料を示しながら概説する。概説をひととおり終えたところで、適宜グループディスカッションを行いながらこれらの是非について考察し、文献で挙げられている「サピア・ウォーフの仮説」の問題点について概説する。これに続いて、「サピア・ウォーフの仮説」の強力な証拠となるメタファーの問題に移り、それが文化を考えるうえで大きなカギとなることを示す。最後に、言語資料を用いてそれぞれの文化に固有の「世界観」を明らかにする手法を用いて日本の文化について考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要/文化とはなにか。内容 シラバスなどを用いて授業の概要を説明し、文化という概念について学生諸君の意見を参考にしながら考える。心から見た文化という展望を示す。
- 第 2 回 項目 言語と文化の関わり 内容 心から見た文化という展望を示しながら、言語学の研究分野でぶんかがどのように論じられてきたかを説明する。「サピア・ウォーフの仮説」を導入する。
- 第 3 回 項目 「サピア・ウォーフの仮説」 内容 「サピア・ウォーフの仮説」について、当時の時代背景やサピアやウォーフの人物像などをまじえて概説する。

- 第 4 回 項目 言語決定論 (1) 内容 「サピア・ウォーフの仮説」のひとつの主張である「言語決定論」について、サピアやウォーフの著作などを通じて概説した後、それによって説明できると思われる言語事実を提示する。
- 第 5 回 項目 言語決定論 (2) 内容 言語決定論の是非について、グループディスカッションを行う。
- 第 6 回 項目 言語相対論 (1) 内容 サピア・ウォーフの仮説」のひとつの主張である「言語相対論」について、サピアやウォーフの著作などを通じて概説した後、それによって説明できると思われる言語事実を提示する。
- 第 7 回 項目 言語相対論 (2) 内容 言語相対論の是非について、グループディスカッションを行う。
- 第 8 回 項目 「サピア・ウォーフの仮説」の問題点 内容 文献で指摘されてきた「サピア・ウォーフの仮説」の問題点について概説・批評を行う
- 第 9 回 項目 「サピア・ウォーフの仮説」の展開/文化相対論 内容 「サピア・ウォーフの仮説」の帰結やそれが文化や心の理論に対してどのような問題を投げかけるかを考える。「サピア・ウォーフの仮説」を発展させたエドワード・ホールの「文化相対論」について論ずる。
- 第 10 回 項目 世界観とモデル把握 内容 人間が現実世界を構築された「モデル」として把握するという考えについて概説し、その是非について考える。
- 第 11 回 項目 メタファー (1) 内容 年認知言語学の分野で注目されているメタファーという現象について紹介する。
- 第 12 回 項目 メタファー (2) 内容 メタファーがどのようなかたちで「サピア・ウォーフの仮説」に関わってくるかを説明する。メタファーが人間の「世界観」を構築する上で重要な役割を果たすことを示す。
- 第 13 回 項目 メタファー (3) 内容 メタファーの探し方の練習を行う。
- 第 14 回 項目 メタファー (3) 内容 じっさいに前週で説明した方法論で、いくつかのモデルを探す練習を行う。
- 第 15 回 項目 結論/レポート指導 内容 この授業の結論と展望について述べる。また、タームレポートについて指導する。

成績評価方法 (総合) この授業では、出席と授業内で行ったレポート、およびタームレポートによって評価を行う。タームレポートは主題の選択、問題のほりさげぐあい、および完成度によって評価する。

教科書・参考書 教科書：自作の教科書代わりにプリント、および研究書からのコピーなどを用いる。 / 参考書：研究書からのコピーなどを用いる。

開設科目	国語学 II 演習	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べた場合の現代の日本語のあり方について考えていく。 / 検索キーワード 日本語の歴史、資料についての調査

授業の一般目標 資料を基に、日本語について歴史的に考えていく方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる。 関心・意欲の観点：歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる。

授業の計画（全体） 割り当てられた箇所についてのグループごとの発表、及び、それに対する討議という形で授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要、発表のグループ分け
- 第 2 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 ）
- 第 3 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 2 ）
- 第 4 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 3 ）
- 第 5 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 4 ）
- 第 6 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 5 ）
- 第 7 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 6 ）
- 第 8 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 7 ）
- 第 9 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 8 ）
- 第 10 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 9 ）
- 第 11 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 0 ）
- 第 12 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 1 ）
- 第 13 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 2 ）
- 第 14 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 3 ）
- 第 15 回 項目 グループごとの発表とそれについての討議（ 1 4 ）

成績評価方法（総合） 授業時の発表や討論への参加状況による。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特別演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業は、日本語学(国語学)の諸相を多角的に分析し、議論するものである。 / 検索キーワード 言語学・日本語

授業の一般目標 (1) 日本語学(国語学)の基本的な事項について総合的に理解できる。(2) 日本語の諸相に関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 日本語学(国語学)の基本的な事項について説明できる。2. テキスト・論文等の内容を要約できる。 思考・判断の観点: 1. 日本語の諸相について、精密な調査分析をすることができる。 関心・意欲の観点: 1. 日本語学の諸問題の解明に高い関心を持つ。

授業の計画(全体) 毎回、対象となる日本語学のトピックを決め、それに関する調査を行い、分析結果を発表する。さらに、その内容に関する議論を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明、担当箇所の決定
- 第 2 回 項目 日本語学研究法(1)
- 第 3 回 項目 日本語学研究法(2)
- 第 4 回 項目 ケーススタディ(1)
- 第 5 回 項目 ケーススタディ(2)
- 第 6 回 項目 ケーススタディ(3)
- 第 7 回 項目 ケーススタディ(4)
- 第 8 回 項目 ケーススタディ(5)
- 第 9 回 項目 ケーススタディ(6)
- 第 10 回 項目 ケーススタディ(7)
- 第 11 回 項目 ケーススタディ(8)
- 第 12 回 項目 ケーススタディ(9)
- 第 13 回 項目 ケーススタディ(10)
- 第 14 回 項目 まとめ・展望(1) 内容 まとめ、問題点
- 第 15 回 項目 まとめ・展望(2) 内容 次の段階へ

成績評価方法(総合) (1) 出席を最重要視する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。(2) 学期末にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書: 適宜プリント等を配布する。 / 参考書: 授業中に適宜指示する。

メッセージ ゼミを希望する者は必ず選択すること。大いなる議論を期待する。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 4 階 445 室

開設科目	国文学 I 演習	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 枕草子を丹念に読んでいく

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 2 段
- 第 2 回 項目 第 2 段
- 第 3 回 項目 第 5 段
- 第 4 回 項目 第 5 段
- 第 5 回 項目 第 8 段
- 第 6 回 項目 第 8 段
- 第 7 回 項目 第 1 0 段
- 第 8 回 項目 第 1 0 段
- 第 9 回 項目 第 1 1 段
- 第 10 回 項目 第 1 1 段
- 第 11 回 項目 第 1 5 段
- 第 12 回 項目 第 1 5 段
- 第 13 回 項目 第 1 8 段
- 第 14 回 項目 第 1 8 段
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	国文学特別演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林恒徳				

授業の概要 基本的には前期「国文学特別演習 I」を踏まえて授業を進める。受講生の選んだテーマ(作品とか事項)に沿って、レポートをしていただき、質疑応答という形で進めたい。(可能な限り映像資料を提供したい。) / 検索キーワード 中世演劇、本説、喜劇(笑劇)

授業の一般目標 1) 中世演劇に対する関心と理解を深めつつ伝統継承の意味を考えることができる。2) 作品(台本)を読み解く能力を養う。3) 研究の成果を整理して、分かり易く発表する(語る)ことができる。

授業の計画(全体) 初めの二回は、前期「国文学特別演習 I」を踏まえて、授業者によるまとめと解説をする。三回目以降は受講者の選んだテーマによるレポートにあてる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 能とは 内容 前期「演習 I」の内容の確認。(ビデオ映像を利用する)
- 第 2 回 項目 狂言とは 内容 前期「演習 I」の内容の確認。(ビデオ映像を利用する)
- 第 3 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 4 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 5 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 6 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 7 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 8 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 9 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 10 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 11 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 12 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 13 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 14 回 項目 受講生による発表(レポート)
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 授業者による講評

成績評価方法(総合) 基本的には授業内レポートの内容によって評価するが、場合によっては、別に書面によるレポートの提出を求められることがある。

教科書・参考書 参考書：岩波講座「能・狂言」(全 8 巻), , 岩波書店, 1988 年; 能への誘い, 金春国雄, 淡交社, 1980 年

開設科目	英国演劇演習	区分	演習	学年	3?
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 英国演劇に関する授業であるが非常勤講師の授業となり、未定のため内容は不詳。

授業の一般目標 講師未定のため、内容は不詳。

授業の計画（全体） 講師未定のため、内容は不詳。

成績評価方法（総合） 講師未定のため、内容は不詳。

メッセージ 講師未定のため、不詳。

備考 集中授業

開設科目	音楽学概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	齋藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。）/ 検索キーワード 音楽、民族音楽学、日本、現代

授業の一般目標 音楽学のアプローチの一つとして、民族音楽学の研究課題（音楽とアイデンティティ、文化受容/変容、観光と音楽、民俗分類法など）ならびにその方法論を紹介しながら、私たちの身の回りにある音楽の再考を促す。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 音楽文化の多様性
- 第3回 項目 民俗分類法（フォーク・タクソノミー）1
- 第4回 項目 民俗分類法（フォーク・タクソノミー）2
- 第5回 項目 音楽とアイデンティティ1
- 第6回 項目 音楽とアイデンティティ2
- 第7回 項目 音楽とアイデンティティ3
- 第8回 項目 音楽の構造分析1
- 第9回 項目 音楽の構造分析2
- 第10回 項目 観光と音楽
- 第11回 項目 イスラームの音楽
- 第12回 項目 文化受容/変容1
- 第13回 項目 文化受容/変容2
- 第14回 項目 文化受容/変容3
- 第15回 項目 文化受容/変容4

成績評価方法（総合） 実際に教室で授業中に鑑賞することが大事なので、出席は重視します。出席50%、レポート（毎回の小レポート、宿題レポート2つ）50%（ $100 - [\text{欠席回数} \times 20] \times 0.5 + (\text{レポート or 試験の得点} \times 0.5) = \text{総合得点}$ ）

教科書・参考書 教科書：テキストは用いずに、必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書：人はなぜ歌うか??フィールドワーク, 小泉文夫, 学習研究社; アフリカの音の世界, 塚田健一, 新書館; 飲めや歌えやイスタンブール, 齋藤完, 音楽之友社; 路上日記, 野村誠, ペヨトル工房; 上記の参考図書によって音楽(ないし音)の文化の多様性への理解を深めつつ、身近な音楽文化を再考する一助として欲しい。

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	映像表現論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 1895年に誕生した映画という映像メディアは、以来、今日にいたるまでの一世紀のあいだに、固有の表現様式を獲得すべく独自の理論と技法を洗練させてきた。この講義では、できる限り多様な映画作品を具体的に参照しつつ、その理論と技法の分析を演習形式でおこなう。

授業の一般目標 この講義では、映画に代表される映像メディアにおける表現を研究の対象として扱うにあたって、最低限必要なリテラシーを獲得することを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 映画の機構と運動 = イメージ
- 第 3 回 項目 映画の形式（1）空間について a
- 第 4 回 項目 映画の形式（1）空間について b
- 第 5 回 項目 映画の形式（1）空間について c
- 第 6 回 項目 映画の形式（1）空間について d
- 第 7 回 項目 映画の形式（2）時間について a
- 第 8 回 項目 映画の形式（2）時間について b
- 第 9 回 項目 映画の形式（2）時間について c
- 第 10 回 項目 映画の形式（2）時間について d
- 第 11 回 項目 映画の主題（1）
- 第 12 回 項目 映画の主題（2）
- 第 13 回 項目 映画の主題（3）
- 第 14 回 項目 映画の主題（4）
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 参考書：映画の教科書，ジェームズ・モナコ，フィルムアート社，1983年；映画理論集成，岩本憲児・他，フィルムアート社，1982年；映画理論講義，ジャック・オーモン，勁草書房，2000年；映画技法のリテラシー I. 映像の法則，ルイス・ジアネッティ，フィルムアート社，2003年；映画技法のリテラシー II. 物語とクリティック，ルイス・ジアネッティ，フィルムアート社，2004年；シネマ 2・時間イメージ，ジル・ドゥルーズ，法政大学出版局，2006年

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	前田満				

授業の概要 この授業では、卒論研究など高レベルの研究活動をにらんで、言語学の研究・調査の理論および方法論を実際の体験を通じて行う。それぞれの授業では、各人が自ら研究テーマを選択し、授業ごとに数名ずつそのテーマについての調査・研究のプレゼンを行い、調査の適切さやそれからえられる展望の妥当性などについて、全員できめ細かなディスカッションを行う。このプロセスを通じて、各人が水から選んだテーマについてのレポートを作成する。そのレポート作成についても、教官が個別に指導を行い、完成度を高めていきたい。

授業の一般目標 この授業の目標は大別して三つある。まず、言語現象の詳細な研究・調査を通じて、言語学という学問分野の考え方、方法論についての知識を深め、言語研究の面白さを知ること。次に、授業ごとのプレゼンを通じて、プレゼンテーション能力を向上させること。これには、プレゼンに対する準備の周到さ、聞き手の理解を容易にするための工夫、そして論の一貫性・論理性などが含まれる。最後に、レポート作成を通じて、論文の書き方についても学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らが研究・調査の対象として選んだ言語現象と、それに関連する言語学の理論・方法論に関する知識を深めること。 思考・判断の観点：調査方法やデータの分析には十分な思慮を行う。 関心・意欲の観点：授業において出される課題に対して、無難にこなすという受動的な態度ではなく、自らが主体的に何かを作り上げようとの意欲が求められる。 態度の観点：欠席を必要最小限にし、授業には能動的に参加することが求められる。 技能・表現の観点：授業ごとのプレゼンを通じて、プレゼンに対する準備の周到さ、聞き手の理解を容易にするための工夫、そして論の一貫性・論理性などに留意し、プレゼンテーション能力を向上させること。また、レポート作成を通じて、十分なデータに裏打ちされた一貫した論理的な論の展開を目指したい。 その他の観点：この授業は卒業研究の準備というねらいもある。

授業の計画（全体） この授業では、まず各人が言語学分野から自ら研究テーマを選択し、そのテーマについて授業時間内に教官とディスカッションを行う。テーマが決まれば、そのテーマの調査に必要な文献や資料の収集にとりかかる。そしてまず、読んだ文献について、授業ごとに数名ずつプレゼンを行い、全員でディスカッションを行い、その理解度を深める。さらに、言語資料の収集に移り、これもまたプレゼンおよびディスカッションを行い、調査の適切さやそれからえられる展望の妥当性などについて、全員できめ細かなディスカッションを行い、次第に自らの論を洗練化させていく。これと並行して、各人が水から選んだテーマについてのレポートを書き進み、適宜教官に提出する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマの選択 内容 自らが調査・研究をおこなう言語現象を見つける。 授業外指示 次回の授業までに研究・調査のテーマを決定すること。
- 第 2 回 項目 テーマの選択およびディスカッション 内容 自らが調査・研究をおこなう言語現象を見つける。 授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。
- 第 3 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。 授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 4 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。 授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 5 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。 授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。

- 第 6 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 7 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 8 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 9 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 10 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 11 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 12 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 13 回 項目 プレゼンおよびディスカッション 内容 各人が自ら選んだテーマに沿った文献または調査結果のプレゼンと、それに関連したディスカッション。授業外指示 自分のテーマに関連したプレゼンの準備を行う。行ったプレゼンについてレポートを提出すること。
- 第 14 回 項目 レポートの完成 内容 レポートに研究・調査の結論を加えて、レポートを完成する。授業外指示 レポートの完成。
- 第 15 回 項目 レポートのプレゼン 内容 完成したレポートを 15 分程度でプレゼンし、レポートを提出する。

成績評価方法 (総合) おもにそれぞれの授業でのプレゼン作業や提出されたレポートによって評価を行うが、作業中心の授業構成なので、出席、作業への取りくみぐあいおよびディスカッションへの参加の積極性など、授業態度ももちろん評価の対象となる。なお、プレゼンやレポートの評価に関しては、読破した参考文献の量や理解度、調査の綿密さ、論理性などに評価の主眼が置かれる。

教科書・参考書 教科書：授業の内容上、とくに決まったテキストは用いない。 / 参考書：授業の内容上、とくに決まった参考書等は用いない。

開設科目	国語学 II	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく。本年度は、標準語の形成に関する問題について述べていく。

授業の一般目標 日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマについて、理解・思考を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史的变化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる。 思考・判断の観点：得た知識を基に、日本語の歴史的变化について自ら、考えていくことができる。 関心・意欲の観点：日本語の歴史的变化について興味を持つことができる。

授業の計画（全体） 明治期の口語文典や国定読本等を資料として、標準語の形成に関わる問題点について説明する。

成績評価方法（総合） 期末のレポートによって評価する。（授業で取り上げたテーマについて、各自で調査した結果をレポートにまとめる。レポートの課題は、授業中指示する。）

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特別講義 I	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業では、現代日本語の諸相を研究する。具体的には、卒業論文に向けて受講生自身の研究の進捗状況を報告していく。また、それに対し全員で議論していく。 本授業はゼミである。 / 検索キーワード 国語学、現代語、日本語

授業の一般目標 (1) 日本語研究の方法論を修得する。(2) 国語学の観点から論理的に議論できる力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 日本語研究 (国語学) の方法論を修得する。 思考・判断の観点： 1 . 日本語研究の方法論を新たなデータに適用できる。 2 . 国語学の観点から主体的に討議できる。 関心・意欲の観点： 1 . 日本語研究に高い関心を持ち、主体的に取り組むことができる。

授業の計画 (全体) 研究テーマの設定・研究の進め方・卒業論文の書き方等のテクニカルな面を修得した後、各自の研究テーマに沿ったトピックについて議論していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 卒業論文とは何か (1) 内容 方法論、研究計画、発表順序の決定
- 第 3 回 項目 卒業論文とは何か (2) 内容 研究テーマ、書式
- 第 4 回 項目 ケーススタディ (1) 内容 発表
- 第 5 回 項目 ケーススタディ (2) 内容 発表
- 第 6 回 項目 ケーススタディ (3) 内容 発表
- 第 7 回 項目 ケーススタディ (4) 内容 発表
- 第 8 回 項目 ケーススタディ (5) 内容 発表
- 第 9 回 項目 ケーススタディ (6) 内容 発表
- 第 10 回 項目 ケーススタディ (7) 内容 発表
- 第 11 回 項目 ケーススタディ (8) 内容 発表
- 第 12 回 項目 ケーススタディ (9) 内容 発表
- 第 13 回 項目 ケーススタディ (10) 内容 発表
- 第 14 回 項目 ケーススタディ (11) 内容 発表
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) (1) 発表の仕方、レジュメの作成の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 原則として、ゼミ生を対象とする。ゼミ生は毎回の出席が義務付けられる。他の授業とは質の異なる授業であることを認識しておくこと。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国文学 I	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林恒徳				

授業の概要 600 年余りにわたって、現代に至るまで受け継がれて来た中性演劇のひとつ「狂言」をとりあげる。出来る限り、具体的に作品を解説することに主眼を置き、その上で、時代による変化に注意し、狂言の現代的意義についても考えてゆく。 / 検索キーワード 笑劇 中世

授業の一般目標 1) 狂言台本に触れることによって、中世的言語表現に親しむ。 2) 狂言の魅力を知り、舞台表現一般への関心を深める。

授業の計画(全体) 初めに、狂言の成立、流動的から固定化する情況、流派などについて簡単に触れて、その後、「作品の分類」を解説し、それに基づいて、具体的に作品を考察する。適宜、映像を利用する予定。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 狂言の成立 内容 狂言成立の歴史を主として台本の問題を考察する。 授業記録 資料「各流派の主要台本」配布
- 第 2 回 項目 狂言の現在 内容 流派、新作狂言、鑑賞する人との広がりなどについて紹介する。
- 第 3 回 項目 狂言作品の分類 内容 作品を 6 つに分類しそれぞれについて概説する。 授業記録 資料「分類表」配布
- 第 4 回 項目 狂言作品の分類 内容 作品を 6 つに分類しそれぞれについて概説する。
- 第 5 回 項目 脇狂言 内容 「未広がり」「福の神」など、適宜、本文(台本)に触れつつ、展開する。
- 第 6 回 項目 大小名狂言 内容 「萩大名」「武悪」など 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 7 回 項目 大小名狂言 内容 「靱猿」「素袍楽」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 8 回 項目 髻女狂言 内容 「鏡男」「釣針」
- 第 9 回 項目 髻女狂言 内容 「二人袴」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 10 回 項目 鬼山伏狂言 内容 「神鳴」「朝比奈」 授業記録 資料配布 台本(「天正本」「虎實本」「狂言六義」など)
- 第 11 回 項目 鬼山伏狂言 内容 「蟹山伏」「蝸牛」 授業記録 ビデオ映像を利用する
- 第 12 回 項目 出家座頭狂言 内容 「宗論」「月見座頭」
- 第 13 回 項目 集狂言 新作狂言 内容 集狂言(上のどれにも属さない作品)について簡単に触れる。新作狂言は映像を鑑賞する。
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法(総合) 期末テストによって評価するが、時間がとれれば小テストをいちど行いたい。

教科書・参考書 参考書：能・狂言(全八巻), , 岩波講座

開設科目	国文学特別講義 I	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 説話文学を講ずる。特に作品をひとつに固定せず、中世に成立した説話文学作品と、院政期に成立した「今昔物語集」とをとりあげて、いくつかのテーマを元に、説話文学への理解と併せて、古典文学読解力を養うことを主眼とする。適宜資料を配付する。/ 検索キーワード 説話文学 中世とは 伝承文学

授業の一般目標 説話文学の特製とその説話世界への理解を深め、関心を喚起する。 伝承文学(たとえば、昔話)との関係についても言及する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 説話文学の読み方を学ぶ。古典文学の読解力を養う。 関心・意欲の観点: 古典文学への関心を深める。

授業の計画(全体) 適宜、資料を配付し、それに基づいて講義を進める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 説話文学とは(概説)
- 第 2 回 項目 同上 内容 説話文学作品の紹介・解説
- 第 3 回 項目 「今昔物語集」 内容 説話作品の読解と評論
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 「宇治拾遺物語」 内容 作品の読解と評論
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 佛教説話と世俗説話 内容 作品を読み、両者のちがい・関係を論ずる。
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 「沙石集」「帰反」 内容 作品の読解と評論
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 その他の説話集中の説話 内容 テーマを持って解説する
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 伝承の問題 内容 書承と口承について
- 第 14 回 項目 説話文学研究の現在 内容 論文を紹介しつつ
- 第 15 回 項目 同上(ないしは予備にあてる)

成績評価方法(総合) 二回ほど簡単な筆記テストを実施する。 期末テストを実施し、評価の中心にする

開設科目	英米文学特演	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 本年度は開講せず

授業の一般目標 本年度は開講せず

授業の計画(全体) 本年度は開講せず

成績評価方法(総合) 本年度は開講せず

開設科目	美術史実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、体験する実地研修。研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

授業の一般目標 (1) 実際の美術作品、展覧会等を鑑賞し、生の作品から得られるものを通して、知識、理解を深める (2) 実作品、実物を見ることによって、その周辺をふくめたそのもの自体がもつ情報の把握をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。 思考・判断の観点：実地にその場を訪れることにより、その周辺、あるいは副次資料をもふくめた上で、作品の考察に役立てる。 関心・意欲の観点：実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。 態度の観点：鑑賞に対する積極的な態度を期待する。

授業の計画(全体) 現地で集合し、全体で移動しながら作品および展覧会を鑑賞していく。実習前において、鑑賞作品等に関する発表等も行なう場合がある。また実習終了後はレポートの提出を求める。

メッセージ 研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

備考 集中授業

開設科目	美術史演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 美術史に関する個々のテーマを設定し、その自主研究内容を発表形式で行い、全体で討議する。また卒業論文の指導も行う。

授業の一般目標 (1) 各自の研究テーマを発表することによって、プレゼンテーション能力を高め、全体討議を通して自らの研究の論点を整理、確認する。(2) 卒業論文作成のための基礎固めとステップアップを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：他のゼミ生の発表を吟味することによって、美術史全体に対する自らの知識と理解を深める。 思考・判断の観点：自らの研究テーマを練った上で発表を行い、他のゼミ生との討論を通して、自らの思考、判断の妥当性を考察する。 関心・意欲の観点：自らの関心の分野に対する認識をさらに深めるとともに、美術史全体に対する興味も喚起する。 態度の観点：研究テーマについては、常に既存の論理の妥当性、信憑性を自らの眼と頭で再検討してみる。

授業の計画(全体) まず全体で表現と技法に関して、考察検討する機会をもち、さらに各自の研究発表へと移り、最後に全体のまとめとして総括を試みたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 素材と表現
- 第 3 回 項目 素材と表現
- 第 4 回 項目 美術史の研究方法
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 研究発表
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階

開設科目	音楽学演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	齋藤完				

授業の概要（授業の内容等については、授業の第1回めに説明があります。）授業の概要 各人が音楽文化に関するテーマを設定しその研究内容を発表する。同時に卒業論文の指導も行う。

授業の一般目標 授業の一般目標（1）プレゼンテーション能力を向上させる。（2）全体討議を通して自らの研究を客観的に考察できるようにする。（3）卒業論文作成のための基礎固め、ならびにステップアップを目的とする。

授業の計画（全体）受講生による発表を中心としたゼミ形式の授業となる。（授業計画が変更される場合もある。）

授業計画（授業単位）/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 資料収集・整理
- 第3回 項目 論旨の構成法
- 第4回 項目 受講生による発表
- 第5回 項目 受講生による発表
- 第6回 項目 受講生による発表
- 第7回 項目 受講生による発表
- 第8回 項目 受講生による発表
- 第9回 項目 受講生による発表
- 第10回 項目 受講生による発表
- 第11回 項目 受講生による発表
- 第12回 項目 受講生による発表
- 第13回 項目 受講生による発表
- 第14回 項目 受講生による発表
- 第15回 項目 受講生による発表

成績評価方法（総合）出席、発表、レポート、授業への参加などを総合的に判断して成績評価をおこないます。

教科書・参考書 教科書：その都度、指示する。/参考書：その都度、指示する。

メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと

開設科目	哲学演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代思想史の展開過程を追跡する。

授業の一般目標 近代思想史の概略を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代思想の展開過程の概略とその基本的な問題点を理解する。

技能・表現の観点：自分の思考や関心をレポートや口頭で表すことができる。

授業の計画（全体） 授業は、受講生の報告と質疑応答を中心に行う。

成績評価方法（総合） 評価は、レポートと授業での発表、質疑への参加によって行う。

開設科目	マスメディア特論	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、受講者それぞれの関心と問題意識に応じて 参考文献を講読したうえで、受講者各自における課題を展開するかたちで授業をすすめる。したがって、この授業は基本的にはゼミ形式をとり、受講者による発表と、それにもとづく検討 および議論が中心となる。

授業の一般目標 映画を含む映像を研究の対象に定めた学生が、それぞれの関心と問題意識に応じて各自の課題を 展開することを目標とする。

授業の計画(全体) 1) イントロダクション 2) ~14) 文献購読・発表・検討・議論 15) 予備日

教科書・参考書 教科書：教科書 すべての映画 / 参考書：シネマ2・時間イメージ, ジル・ドゥルーズ, 法政大学出版局, 2006年

開設科目	国語学特別講義 II	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業では、現代日本語の諸相を研究する。具体的には、前期開講の「国語学特別講義 I」に引き続き、卒業論文に向けて受講生自身の研究の進捗状況を報告していく。また、それに対し議論していく。本授業はゼミである。/ 検索キーワード 国語学、現代語、日本語

授業の一般目標 (1) 日本語研究の方法論を修得する。(2) 国語学の観点から論理的に議論できる力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 日本語研究 (国語学) の方法論を修得する。 思考・判断の観点： 1 . 日本語研究の方法論を新たなデータに適用できる。 2 . 国語学の観点から主体的に討議できる。 関心・意欲の観点： 1 . 日本語研究に高い関心を持ち、主体的に取り組むことができる。

授業の計画 (全体) 各自の研究テーマに沿った内容を発表し、議論を重ねていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明、発表順序の決定
- 第 2 回 項目 ケーススタディ (1) 内容 発表
- 第 3 回 項目 ケーススタディ (2) 内容 発表
- 第 4 回 項目 ケーススタディ (3) 内容 発表
- 第 5 回 項目 ケーススタディ (4) 内容 発表
- 第 6 回 項目 ケーススタディ (5) 内容 発表
- 第 7 回 項目 ケーススタディ (6) 内容 発表
- 第 8 回 項目 ケーススタディ (7) 内容 発表
- 第 9 回 項目 ケーススタディ (8) 内容 発表
- 第 10 回 項目 ケーススタディ (9) 内容 発表
- 第 11 回 項目 ケーススタディ (10) 内容 発表
- 第 12 回 項目 ケーススタディ (11) 内容 発表
- 第 13 回 項目 ケーススタディ (12) 内容 発表
- 第 14 回 項目 総括 (1) 内容 卒論最終チェック
- 第 15 回 項目 総括 (2) 内容 卒論最終チェック

成績評価方法 (総合) (1) 発表の仕方、レジユメの作成の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。/ 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 原則として、ゼミ生を対象とする。ゼミ生には毎回の出席が義務付けられる。他の授業とは質の異なる授業であることを認識しておくこと。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国文学特別講義 II	区分	講義	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 国文学特別講義(Ⅱ前期)を踏まえて、受講生の関心に基いて、演習形式で進めてゆく。
その対象は、説話文学が中心だが、伝承文学(昔話のほか、平家物語など)を含めることとする。/ 検索キーワード 説話文学 中世 伝承文学

授業の一般目標 説話文学の読解と知見を深める。 読解を深めるための手続き(調べ方、資料の使い方など)を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 説話文学への知見を深める 思考・判断の観点: 自らの読みの視点をもつ 関心・意欲の観点: 説話文学を読む愉しみを知る

授業の計画(全体) 受講生の関心に基づいて、調査・研究の成果をレポートすることを中心にする。
受講生の選んだテーマ・領域に関して、授業者から、その知見を補うべく講ずる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期の確認 内容 前期の内容をふりかえる
- 第 2 回 項目 レポートへの案内 内容 テーマ(研究対象)を選ぶ 授業外指示 資料する資料等を探査する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 レポート 内容 受講生による発表と講義
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 発表(レポート)の論評 内容 総括的なまとめのために
- 第 15 回 項目 同上(ないしは予備にあてる)

成績評価方法(総合) 授業中のレポートの評価を中心にする。 授業中の質問などによる関わり方を加味する。 レポートが評価に及ばない場合、期末のレポート提出を求め、それによって評価を決める。

教科書・参考書 参考書: 日本の説話, 東京美術; 「日本の説話(全8巻)」(東京美術)

開設科目	映像表現論 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、この授業は基本的にはゼミ形式をとり、受講者自身による問題提起と、それにもとづく検討および議論、さらにはこれを学术论文にふさわしい体裁に整えるための、題材に応じた受講者各自の文章力の鍛錬が中心となる。

授業の一般目標 映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、とりわけ卒業論文作成を視野に入れつつ、映像を分析し、記述する能力と技術の習得をめざす。

授業の計画(全体) 1) イントロダクション 2)~14) 受講者各自の課題展開 15) 予備日

教科書・参考書 参考書：シネマ2・時間イメージ, ジル・ドゥルーズ, 法政大学出版局, 2006 年

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 卒論作成をめざした指導を行なう。

授業の一般目標 (1) 卒論の作成

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体計画
- 第 2 回 項目 研究討議と指導
- 第 3 回 項目 研究討議と指導
- 第 4 回 項目 研究討議と指導
- 第 5 回 項目 研究討議と指導
- 第 6 回 項目 研究討議と指導
- 第 7 回 項目 研究討議と指導
- 第 8 回 項目 研究討議と指導
- 第 9 回 項目 研究討議と指導
- 第 10 回 項目 研究討議と指導
- 第 11 回 項目 研究討議と指導
- 第 12 回 項目 研究討議と指導
- 第 13 回 項目 研究討議と指導
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	前田満				

授業の概要 私のゼミでは、言語学の諸問題をテーマにした卒業研究を行っていただく。言語と社会、言語と文化、構文分析などの分野からテーマを選んでいただく。

授業の一般目標 論理性と専門性にとんだ卒業論文の製作を目指す。

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	有元光彦				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	堀家敬嗣				

開設科目	卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	5単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	斎藤完				

授業の概要 論文の書き方、情報の収集/整理の仕方などの講義と、受講生による卒業論文に関する発表。

授業の一般目標 関心分野において一定の専門知識と洞察力をもてるようになり、最終的には各自が納得のいく卒業論文を作成すること。

メッセージ 時間厳守。報告/連絡/相談を欠かさないように。